独立行政法人国立文化財機構年報

平成２５年度

平成25年度 年報 目次

Ⅰ　25 年度自己点検評価報告書　総括表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　25年度自己点検評価報告書　個別表

ⅰ．　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために

とるべき措置・・67

１．歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承・・・・・67

２．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93

３．我が国における博物館の中核としての機能の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・177

４．文化財に関する調査及び研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・198

５．文化財保護に関する国際協力の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・564

６．情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・586

７．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・640

（受託事業）・・・671

ⅱ．　業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置・・・・・・・・・・・・・・・・738

ⅲ．　予算、収支計画及び資金計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　－

ⅳ．　その他主務省令で定める業務運営に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・754

Ⅲ　施設概要・・760

Ⅳ　財務諸表・・764

Ⅴ　評価

１．文部科学省独立行政法人評価委員会評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・807

２．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・881

Ⅵ　日誌・・943

Ⅶ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・962

附属資料　：25 年度自己点検評価報告書 統計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・975

平成 25 年度

新収品図版　〔東京国立博物館〕

寄　　贈



天王立像



尾長鳥水滴



グレーの原　黒田清輝筆



源氏物語図屏風　6曲1双のうち左隻

購　　入



如意輪観音菩薩坐像



重要美術品　線刻千手観音鏡像

平成 25 年度

新収品図版　〔京都国立博物館〕

寄　贈



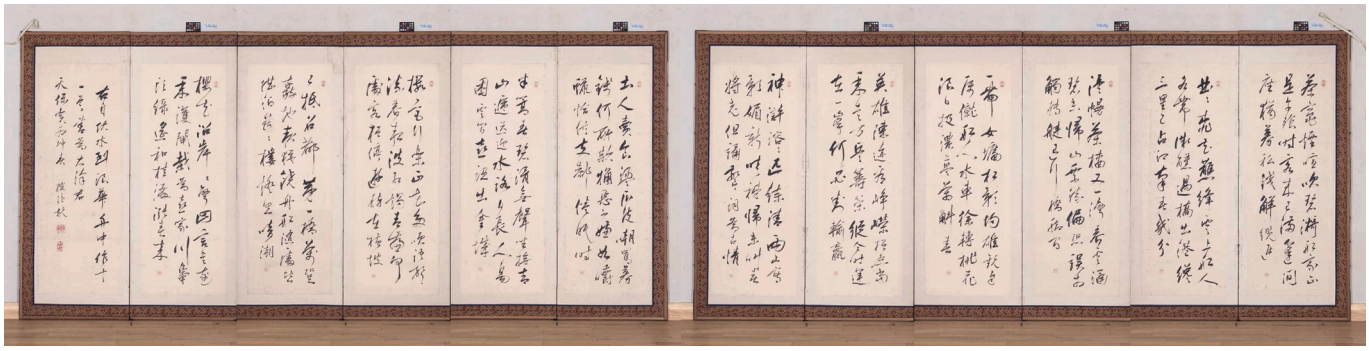
厳島・近江八景図屏風　6曲1双　左隻



厳島・近江八景図屏風　6曲1双　右隻



帯瓢拾句図　田能村竹田自画賛



咏淀川十一景詩屏風　中島淙陰筆



刀　無名（名物島津正宗）

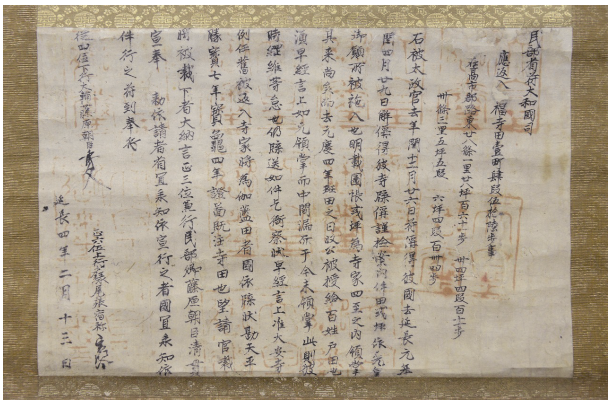
平成 25 年度

新収品図版　〔奈良国立博物館〕

購　　入



絹本著色弥勒菩薩来迎図



延長四年二月十三日民部省符



鉄製柄香炉

寄　　贈



菊桐文象嵌硯箱



萩象嵌雲板



瓜文手箱

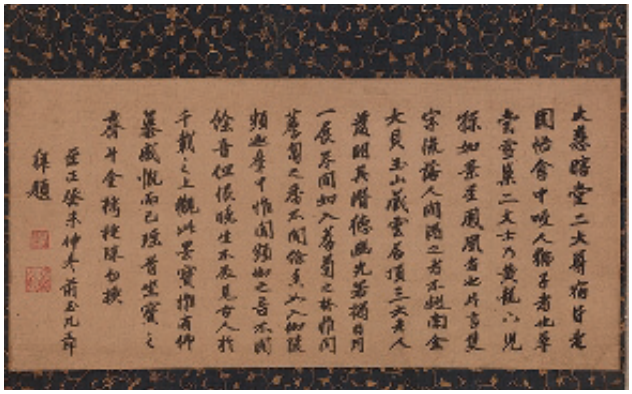
平成 25 年度

新収品図版　〔九州国立博物館〕

購　　入



紙本著色病草紙断簡〈痣のある女〉



紙本墨書月江正印墨蹟　識語



女神坐像



色絵花鳥文六角壺(柿右衛門様式)



茜地花丸花唐草文更紗



春字彫彩漆合子



(1表)



(2表)

重要美術品　伝三上山下古墳出土　獣帯鏡

寄　　贈



藁灰釉沓形茶碗



福島県寺脇貝塚出土　石冠

Ⅰ　25年度自己点検評価報告書　総括表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1)　収蔵品の収集

【中期目標】国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(1)－1　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (1)－2　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。	○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。 【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（１）－１　適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。	（１）－１　適時適切な収集		
1111	（東京国立博物館） 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。	【東京国立博物館】 ・購入件数 5件。内訳：絵画1件、彫刻1件、金工1件、東洋染織2件。 ・決算額　123,950,000円 25年度は、絵画1件(伝霊彩筆文殊菩薩像)、彫刻1件(如意輪観音菩薩坐像)、金工1件(重要美術品 線刻千手観音鏡像)、染織2件(帯 銀地花弁段文様モール錦、帯 銀地花弁鱗文様モール錦)の計5件を購入した。	A	順調
1112	（京都国立博物館） 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。	【京都国立博物館】 ・購入件数０件 今年度は、購入がなかった。	F	要注意
1113	（奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。	【奈良国立博物館】 ・購入件数　3件　内訳：絵画1件、書跡1件、金工1件 ・決算額　40,350,000円 購入により3件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画　絹本著色弥勒菩薩来迎図　1幅　南北朝時代(14世紀) ・書跡　延長四年二月十三日民部省符　1幅　平安時代延長4年(926) ・金工　柄香炉　１柄　平安時代(9～12 世紀)	A	順調
1114	（九州国立博物館） 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。	【九州国立博物館】 ・購入件数15件　内訳：絵画4件、書跡1件、彫刻1件、陶磁1件、漆工1件、染織3件、考古1件、歴史資料3件 ・決算額 724,756,100円 当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を15件購入した。	A	順調
	（１）－２　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用	（１）－２　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用		
1121	（４館共通） １）寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。	【東京国立博物館】 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数　471件　内訳：絵画5件、書跡11件、彫刻1件、金工414件、刀剣2件、染織4件、歴史資料1件、東洋金工29件、東洋彫刻1件、東洋染織1件、黒田記念館収蔵品2件。 ○寄託 ・新規寄託品件数　20件　内訳：絵画2件、書跡2件、彫刻10件、漆工3件、東洋絵画3件。 ・寄託品は新規に20件を受け入れ、64件を返却した。 ・寄贈者については、平成館の寄贈者顕彰版コーナーをリニューアルし、多くの来館者の方々にこれまでの寄贈者の方々のお名前をご覧いただけるようにした。	A	順調
1122		【京都国立博物館】 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数　13件　内訳：絵画5件、書跡1件、金工3件、漆工3件、染織1件 ・今年度寄贈品13件のうち、書跡1件は寄託品からの寄贈である。金工3件のうち、「刀　無銘（名物島津正宗)」は近代以降に所在が不明であった名物刀剣であり、当館の刀剣コレクションが質・量ともに充実した。絵画では、海北友松、谷文晁、田能村竹田をはじめとする著名な近世の画家たちの優品を相次いで受贈した。 ○寄託 ・新規寄託品件数　70件　内訳：絵画25件、書跡2件、彫刻2件、金工12件、陶磁20件、染織8件、考古1件	A	順調

		・件数では昨年度より若干減少したが、来年度からの平常展示の再開に向けて、京都周辺の寺院から展示の目玉となる国宝・重文クラスの寄託を受けることができた。また、「狩野山楽・山雪展」や「魅惑の清朝陶磁展」など特別展開催を契機に、数多くの展示作品を寄託いただいた。		
1123		**【奈良国立博物館】** 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数　25件 ○寄託 ・新規寄託品件数　49件　内訳：絵画7件、彫刻24件、書跡11件、工芸7件 ・寄託については、新規に20人の所蔵者から49件の作品の文化財を受け入れた。 絵画7件（絹本着色行基菩薩像　1幅／絹本着色春日若宮祭礼図･鷹狩図屏風　6曲1双／絹本着色春日社寺曼荼羅　1幅／絹本着色春日宮曼荼羅　1幅／重要文化財旧慈門院障壁画　41面／絹本着色當麻曼荼羅　1幅／奈良市指定文化財 當麻練供養図　1幅） 彫刻24件（重要文化財 木造天神坐像　1躯／銅造阿弥陀如来坐像　1躯／銅造光背　1面／木造阿弥陀如来立像　1躯／木造毘沙門天立像　1躯／木造蔵王権現立像　1躯／木造南無仏太子立像　1躯／木造善導大師坐像　1躯／三重県指定文化財 木造薬師如来坐像　1躯／桜井市指定文化財 木造天神坐像　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その一）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その二）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その三）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その四）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その五）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その六）　1躯／木造狛犬　1躯／銅造如来坐像　1躯／銅造力士立像　1躯／銅造菩薩立像　1躯／銅造菩薩立像　1躯／銅造十一面観音菩薩立像　1躯／銅造天部坐像　1躯／銅造獅子　1躯） 書跡 11 件（紙本墨書大中臣親泰和歌懐紙　1 幅／紙本墨書公慶上人書状　1 幅／紙本墨書柳里恭日記　2 帖／彩箋墨書詠歌大概　1 帖／紙本着色大乗院殿境内図　1 鋪／称讃浄土仏摂受経　1 巻／称讃浄土仏摂受経　1 巻／紺紙金字大般若経巻第五百五十二　1 巻／紺紙金字華厳経巻第三十七・巻第三十八　2 帖／重要文化財紙本墨書法華経（久能寺経）　4 巻／写経断簡（五月一日経願文）　1 幅	A	順調
1124		**【九州国立博物館】** 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数　4件　内訳：絵画1件、陶磁1件、漆工1件、考古1件 ○寄託 ・新規寄託品件数 15 件　内訳：絵画 11 件、金工 1 件、刀剣 1 件、陶磁 2 件	A	順調

(2)　適切な管理保存

【中期目標】収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(2)-1　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (2)-2　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。	○収蔵品を適切に保存・管理するための、写真・管理データを蓄積すること。 ○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施すること。 **【24 年度評価における主な指摘事項】** ○Ｘ線ＣＴスキャナ・3D デジタイザなどの三次元データの取得による保存状況や構造の把握は、収蔵品の保存・管理にとって有効と思慮され、機器類の一層の充実と、それらを扱う専門人材の確保も検討していく必要がある。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（２）－１　収蔵品の管理・保存 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 （４館共通） １）収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。	**（２）－１　収蔵品の管理・保存**		
1211		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として1,492件の保存カルテを作成し、蓄積した。 (東京国立博物館) 1)平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。 2)旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。	A	順調
	（東京国立博物館） １）列品存在確認作業（棚卸）を継続して計画的に実施する。 ２）歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板･館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進める。			
1212		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行い、253件作成した。 ・収蔵品の貸与記録及び館内の展示記録を継続して行った。 （京都国立博物館） 1)年に2回定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。 ・24年度に作成した寄託者向けリーフレットを新規寄託受け入れ時に寄託者に手渡	A	順調
	（京都国立博物館） １）定期的に寄託品の所在確認作業を行う。			

		しし、引き続き制度への理解を深めてもらうように努めた。 ・新規寄贈品・寄託品を中心に、収蔵庫搬入前に燻蒸作業を積極的に実施した。		
1213		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)保存カルテの作成 ・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成･保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、120件を順調に作成した。 ・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたＡ～Ｅの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。	A	順調
	(奈良国立博物館) 1）文化財保存修理所を円滑に運用して､文化財の積極的保存を図る。	(奈良国立博物館) 1)文化財保存修理所の運用 ・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との懇談会である今年度第1回目の文化財保存修理所協議会を25年9月24日及び26年2月20日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、4回実施した。		
1214		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを94件作成した。	A	順調
	(九州国立博物館) 1）博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存・活用を図る。	(九州国立博物館) 1)収蔵品・展示品を中心にＸ線ＣＴスキャナ・３Ｄデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果をデータ化するとともに、３Ｄプリンタで出力した。このデジタルデータは文化財の保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。		
	（２）－２　施設の環境整備 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 （４館共通） 1）収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。	**（２）－２　施設の環境整備**		
1221		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵庫など551地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。	A	順調
	(東京国立博物館) 1）本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 2）収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 3）展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 4）収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 5）輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。	(東京国立博物館) 1)本館収蔵庫に使用する整理箱を設計し、殺虫処理を行い、収蔵環境を総合的に整備した。 2)収蔵庫及び展示室など302地点の温湿度を計測し､環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては､収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。 3)本館1階展示室改修工事に伴い、展示資料の展示支持具を設計し、地震対策を強化した。 4)収蔵庫、展示室など232ヵ所の温湿度に関し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成25年次報告書を作成した。 5)クリーブランド美術館への国際輸送中に梱包箱内で発生する振動･衝撃の計測を実施した。また、特別展「キトラ古墳壁画」出品作品について梱包・輸送及び陳列方法についての事前調査を行い、輸送を含めた環境管理の精度を高めた。		
1222		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫類生息調査を行った。また、温湿度モニタリングを拡大した。日常清掃のための備品を拡充した。	A	順調
	(京都国立博物館) 1）新平常展示館の建物引渡後に必要な各種整備を実施し、開館準備を進める。 2）新平常展示館の開館までに、空調による調整開始前の空気環境、粉塵等の環境調査を行い､開館後の効率的な展示収蔵環境の維持管理に役立てる。 3）特別展示館（重要文化財 旧帝国京都博物館本館）の免震補強他の改修計画を具体的に検討する。 4）特別展示館の温湿度など、展示・保存環境に関わる調査研究を行う。	(京都国立博物館) 1)24年度に本体工事が完了した平成知新館（新平常展示館）において25年8月に展示ケース工事などが完了、引渡を受けた。 2)平成知新館（新平常展示館）では、空気環境を調査し、東文研基準の展示収蔵環境を整えるための枯らし運転を行った。 3)明治古都館(特別展示館)免震補強ほかの準備として、委託業者を決定し、詳細な建物調査を実施した。また、保存活用計画報告書の原案を作成した。 4)明治古都館（特別展示館）、東収蔵庫等では、展示ケース内の温湿度モニタリングや昆虫類生息調査等、環境監視体制を強化し、状況に応じて、環境の維持・改善を図った。		
1223		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを2ヵ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。	A	順調

		・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。		
	（奈良国立博物館） 1）展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。 2）展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3）収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。	（奈良国立博物館） 1)展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線ＬＡＮによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。 2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線ＬＡＮ温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 ・正倉院展終了直後の25年11月12日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。 3)展示室内の温湿度については無線ＬＡＮ温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5ヵ所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。		
1224		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭの徹底を図った。文化財搬入に際し、ＩＰＭメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。	A	順調
	（九州国立博物館） 1）館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。 2）全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。	(九州国立博物館) 1)常設展示室70、特別展示室約40、収蔵庫30ヵ所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、トラップ、ダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 2)・新たな温湿度モニタリング装置を導入し、早期対策に努めた。 ・環境データを解析することで、安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。		

(3) 計画的な修理

【中期目標】収蔵品の保存技術の向上に努めること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(3)-1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。 (3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 (3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。	○緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施すること。 ○文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行うこと。 ○計画的な収蔵スペースの確保及び調査研究のための基本設備充実に向けた取り組みを行うこと。 **【24 年度評価における主な指摘事項】**

処理	年度計画	主な実績	自己評価	
番号			年度	中期
	（３）－１　収蔵品の修理 ①　計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 （４館共通） 1）文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。	（３）－１　収蔵品の修理		
1311-1		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために408件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから93件の本格修理を実施した。うち国宝2件、重要文化財3件、未指定品2件は寄附金による本格修理である。	A	順調
	（東京国立博物館） 1）引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2）保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（70件程度）	(東京国立博物館) 1)修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む298件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めた。 2)データベース構築のために24年度に本格修理を実施した95件の内、修理が完了した84件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書ＸⅣを刊行した。		
1312-1		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)・館費による修理に加えて、外部資金として財団の修理助成による修理を2件、昨年度より継続して実施した。 ・修理中に修理請負候補者選定委員による工程検査を行い、修理が適正に実施されているかを現場確認した。 ・本格修理実績　15件　内訳は絵画3件、彫刻1件、金工5件、漆工1件、染織4件、考古1件	A	順調
	（京都国立博物館） 1）中長期的修理計画の策定を検討する。 2）収蔵品修理資料のデータベース化に向けた調査を開始する。	(京都国立博物館) 1)中長期的修理計画の策定に向けて、各分野の作品担当との調整に入った。 2)収蔵品データベースの更新計画において、修理情報の集積を盛り込むことを念頭に、必要項目の洗い出しとデータ状況の確認を開始した。		
1313-1		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)・館蔵品修理8件のうち、新規4件、前年度からの継続事業4件を実施した。 内訳　絵画4件　（※うち重要文化財 絹本著色十王図1件は3ヵ年継続事業の最	A	順調

		終年度。 重要文化財 絹本著色普賢延命像1件は2ヵ年継続事業の最終年度。絹本著色六字経曼荼羅1件は2ヵ年継続事業の1年目。） 書跡1件 工芸1件　（※国宝 刺繍釈迦説法図1件は4ヵ年継続事業の2年目） 考古資料2件　（※うち陶棺（奈良市西大寺出土）1件は2ヵ年事業の最終年度。鉄製品（二塚古墳出土）1件は2ヵ年事業の1年目。） ・年度内に5件が完了した。		
1314-1	（奈良国立博物館） 1）引き続き修理の中長期的計画に基づき修理を実施する。 2）修理資料のデータベース化を図る。 3）寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。 （九州国立博物館） 1）博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 2）修理資料のデータベース化の調査を実施する。	（奈良国立博物館） 1)平成22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。 2)前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧の掲載作業を進めるとともに、併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。 3)寄託品２件について当館の推薦による財団助成を受けて修理を実施した。 **【九州国立博物館】** (4館共通) 1)館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財36件（本格修理17件、応急修理19件）を修理した。 (九州国立博物館) 1)九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理29件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて65件の修理を実施した（施設内修理62件、施設外修理3件　合計65件)。 2)修理報告書及び修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。	A	順調
1311-2	**②　科学的な技術を取り入れた修理** 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （４館共通） 1）紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2）修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	**②　科学的な技術を取り入れた修理** **【東京国立博物館】** (4館共通) 1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を34件（A-1069 檜図屏風 など)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析66件(J-16231黒曜石など)、Ｘ線透過撮影	A	順調

		19件(TJ-2209鉄鉞戟など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影3件(A-9972　鷹見泉石像など)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。		
1312-2	（東京国立博物館） 1）Ｘ線ＣＴスキャナーの導入に向けて取り組む。	(東京国立博物館) 1) 大型垂直式Ｘ線ＣＴスキャナー、大型水平式Ｘ線ＣＴスキャナー、微小部Ｘ線ＣＴスキャナーなど３機種を導入し、試験運用を開始した。 **【京都国立博物館】** (4館共通) 1)・2)「病草子」（紙本着色/平安時代後期/国宝)の修理に伴って、各種の光学調査と紙質分析を実施し、修理指針の検討に役立てた。(詳細は処理番号4562-2を参照)	A	順調
1313-2	（京都国立博物館） 1）文化財材質分析システム等を整備する。	(京都国立博物館) 1)・平成知新館(新平常展示館)に科学調査室及びＸ線撮影室を設けた。 ・文化財用マイクロフォーカスＸ線ＣＴシステム、非接触３次元デジタイザ等の機器を調達した。 **【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)館蔵紙本墨書立川流儀軌残巻の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。(実施計1回) 2)・館蔵絹本著色普賢延命像の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光Ｘ線分析を実施した。(実施計1回) ・館蔵刺繍釈迦如来説法図及び海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、これに基づいて詳細な損傷図を作成した。(実施各1回、計2回) ・館蔵絹本著色六字経曼荼羅及び館蔵絹本著色安東円恵像の修理に際し、当館写真室において高精細デジタルカメラによる近赤外線撮影を実施し、補絹・補彩・損傷状態の観察を行った。(実施各1回、計2回) ・寄託品黒漆厨子（温泉寺蔵）の修理に際して当館研究員が透過Ｘ線画像を撮影し、木工の構造把握につとめた。(実施計1回)	A	順調
1314-2	（奈良国立博物館） 1）木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2）古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのＸ線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	(奈良国立博物館) 1)当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品3件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載した。 2)古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料１件の修理に際し、Ｘ線撮影及び蛍光Ｘ線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。(実施計２回) **【九州国立博物館】** (4館共通) 1)当館所蔵国宝栄花物語及び重要文化財対馬宗家関係資料等の紙本作品7件につい	A	順調

		て繊維同定を行った。 2)・東京国立博物館所蔵唐人物図屏風のオゼ部分に隠れていたオリジナルに近い彩色について、高精細画像で記録した。 ・当館所蔵仏涅槃図命尊筆の裏彩色について顕微鏡による観察と写真撮影を行った後、ポータブル蛍光X線分析装置を用いて絵の具の材質分析も行い、使用されていた絵の具の調査を行った。		
1320	（３）－２　国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 （京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館） 1）文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 （京都国立博物館） 1）文化財保存修理所の修理を行う。	**（３）－２　国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。** **【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】** 1)・京都国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、空調機内の中性能フィルターを一部の空調機で交換した。 ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の消火設備を現状のスプリンクラー設備に換えて、火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を設置した。 ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の防犯センサーを更新するとともに監視カメラを新たに設置した。 ・九州国立博物館の保存修復施設について、室内温湿度環境の改善の検討を行った。 （京都国立博物館） 1)文化財保存修理所改修工事（一期工事）に着手した。	A	順調
1330	（３）－３　収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。	**（３）－３　収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。** **【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** （東京国立博物館） ・東洋館の各収蔵庫について適切な配置を検討し、より効率的に収納が可能となるように収蔵品を移動した。 ・東洋館3階の収蔵庫の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。 ・資料館3階の収蔵庫に棚を追加し、収納の効率化を図った。 ・平成館地下考古収蔵庫の扉を修理し、より円滑に作品を搬出入できるようにした。 （京都国立博物館） ・温湿度などの計測情報を常時監視でき、同時にサーバーにて一元的に管理・蓄積できる「環境モニタリングシステム」の、平成知新館（新平常展示館）での運用について精査し、設計変更や運用方法に反映させ、導入した。 ・平常展示館内のフィルム保管室の温湿度環境について、設定温湿度、空調時間、運用方法等の検討を行った。 ・デジタルカメラ等撮影機材の導入、及びサーバーの構築を行い、デジタル撮影への移行を進めている。 （奈良国立博物館）	A	順調

		・火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を収蔵庫・一時保管庫に設置した。 ・既存の収蔵棚を改造し、より効率的な収納を図った。 ・収蔵庫内壁の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。 （九州国立博物館） ・図書閲覧室に書棚（40台程度）を設置し、寄贈書受け入れスペースを増やした。		

定量評価項目	25年度	24年度	目標値	評価
文化財の本格修理(件)				
東京国立博物館	93	95	40	S
京都国立博物館	15	13	10	S
奈良国立博物館	8	9	9	B
九州国立博物館	17	20	15	A
文化財修理のデータベース化(件)				
東京国立博物館	84	83	70	A
京都国立博物館	101	93	－	－
奈良国立博物館	73	70	－	－

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　展示の充実

【中期目標】　文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。

①展覧事業の中核である平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、より多くの方々に我が国の歴史・文化財の理解を深めてもらうため、来館者の増加に努めること。さらに海外からの来訪者が必ず訪れる博物館を目指し、魅力ある展示と展示に関する説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。また、展示内容・展覧環境を踏まえた適切な来館者数の確保に努めること。

③海外に向けても機構の各博物館の収蔵する日本の優れた文化財と優れた人材を活用して、我が国の歴史と伝統文化を紹介する機会の拡充に努めること。

【中期計画】

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①－１平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成 26 年度までに開催する。

①－２　展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネルを８０％以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

（東京国立博物館）　　年３～４回程度
（京都国立博物館）　　年２～３回程度
（奈良国立博物館）　　年２～３回程度
（九州国立博物館）　　年２～３回程度

【主な計画上の評価指標】

○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとすること。
○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。
(平常展)
○平展覧事業の中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示とすること。
○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付すこと。
○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を80%以上設置すること。
(特別展)
○我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。
○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること。
東京国立博物館　3～4 回
京都国立博物館　奈良国立博物館　九州国立博物館　2～3 回
○個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成すること。
○展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ること。
○海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

○外国語（特に英語）での情報発信についてもさらなる充実が望まれる。

③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
2111-1	**（１）展覧事業の充実** 東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。 **①－１　平常展** 展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 （４館共通） 平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 （東京国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年5,800件程度） イ　陳列総件数　約7,500件 ウ　本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。 エ　特集陳列 特別展「和様の書」の開催に合わせた特集陳列「和様の書−近現代編−」を開催する。東洋館の開館を記念した特集陳列「上海博物館所蔵中国絵画精品展（仮称）」を開催する。また、館史に関連する特集を年間を通じて開催する。すでに恒例となった「博物館に初詣」関連企画、上野動物園・科学博物館との動物を取り上げた連携企画、台東区立書道博物館との連携企画などを実施する。 ・「花生」（3月19日～6月2日） ・「うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の	**【東京国立博物館】** (4館共通) 総合文化展（平常展）は、平成25年度においては、本館1階は26年4月のリニューアルオープンに向け、26年1月～26年3月まで本館15～19室を工事のため閉室したが、平常展来館者数の目標値である全中期計画期間の年度平均を上回った。 （東京国立博物館） ア　定期的な陳列替を実施し、5,708件の展示替を行った。 イ　陳列総件数　8,824件 ウ　展示ケースの修理点検、低反射フィルムの貼替、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。本館2階の展示ケースの補修を行った。また、26年1月より本館1階15～19室を閉室し、展示環境の改善のための工事を開始した（26年４月15日公開予定）。 エ　33件の特集陳列を実施した。	A	順調

	記録－」（9月10日～10月20日） ・「江戸時代が見た中国絵画（仮称）」（5月13日～6月19日）等 オ　文化庁関係企画 ・「平成25年 新指定 国宝・重要文化財」（仮称）（4月16日～5月6日） 平成25年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。	オ　「平成25年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(25年4月16日～5月6日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。		
2112-1	（京都国立博物館） 平成25年度末の新平常展示館開館までの間、平常展は休止する。これに替えて、香川県立ミュージアムにて「いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展」を開催する。（特別協力、4月20日～5月26日）」　また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。	**【京都国立博物館】** （京都国立博物館） 平成知新館（新平常展示館）建替工事に伴い、平常展示を休止した。そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をウェブサイトで公開した。 ・特別展「いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展」（香川県立ミュージアム、4月20日～5月26日）」へ企画協力をした。（特別協力） ・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。 (中期計画記載事項) 平成知新館(新平常展示館)建替後の平常展再開については、平成26年9月13日リニューアルオープン予定とし、その準備を進めた。	A	順調
2113-1-1	（奈良国立博物館） ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。 ・西新館　絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 充実した展示ケースや照明設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。 ・なら仏像館　彫刻部門の名品展 ５メートルに近い大きな仏像や等身大の仏像を中心に、できるだけケース外での展示を増やし、より見やすい環境で、優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。 ・青銅器館　中国青銅器の名品展	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。 (奈良国立博物館) ア　名品展においては、24時間空調運転による展示室の快適な保存環境のもとで、多数の優れた作品を展示し、その美を伝えることができた。 ・西新館　絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 収蔵庫の工事(処理番号1330を参照)期間中、東新館を仮収蔵庫としたため、例年東新館で開催していた特別陳列を25年度は西新館で行い、西新館の名品展を休止した。 ・なら仏像館　彫刻部門の名品展 所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した。また、25年8月5日の大雨による雨漏り被害の補修工事期間中は、なら仏像館の一部の展示室を閉室した。 特別公開「金剛寺　降三世明王坐像」(23年10月24日～26年3月31日) 特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」(24年6月26日～26年3月31日 ※ただし夏期特別展期間中を除く) ・青銅器館　中国青銅器の名品展	A	順調

	国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。 ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。	館が所蔵する中国・商（殷）～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。 ・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」(25 年 12 月 25 日～26 年 1 月 19 日)を開催した。		
2113-1-2	イ　定期的な陳列替の実施（年70件程度） ウ　陳列総件数　約500件 エ　特別陳列により名品展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「おん祭と春日信仰の美術」（12月7日～平成26年1月19日） ・「お水取り」（平成26年2月8日～3月16日）	イ　定期的な陳列替を実施し、130件の陳列替を行った。 ウ　陳列総件数　632件（特別陳列・特集展示を含む） （改修工事の影響で西新館での名品展（珠玉の仏教美術）を休止したため、昨年度より陳列総件数減） エ　下記特別陳列を開催し、名品展の充実を図った。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(25年12月7日～26年1月19日)　陳列件数63件（陳列替3件） ・特別陳列「お水取り」(26年2月8日～3月16日)　陳列件数62件（陳列替22件） ○特集展示「新たに修理された文化財」(25年12月25日～26年1月19日）を開催し、保存修理事業の成果を公開した。陳列件数8件 ○特集展示「いにしえの東北～豊岡遺跡と平泉～」(26年2月8日～3月16日）を開催し、岩手県立博物館と平泉町（平泉文化遺産センター）の所蔵品を展示した。陳列件数31件 ○特別展示「正倉院宝庫の瓦」(10 月 26 日～11 月 11 日、12 月 25 日～26 年 1 月 19 日、26 年 2 月 8 日～3 月 16 日)を開催し、正倉院正倉整備工事に伴い、正倉院宝庫に葺かれていた瓦を展示した。陳列件数 18 件	A	順調
2114-1	（九州国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年1,100件程度） イ　陳列総件数　約1,700件 ウ　文化交流展（平常展）のリニューアルに向けて引き続き検討する。 エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる（日程はいずれも予定）。 ・「江戸のサイエンス－武雄鍋島家の西洋科学遺品（仮）」（関連11室、4月16日～7月7日） ・「山の神々（仮）」（関連9室、10月22日～12月1日） ・「アイヌ資料（仮）」（関連9、10、11室、12月10日～平成26年2月16日） **①－２　展示説明の充実**	**【九州国立博物館】** (4館共通) 平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均の9割を確保した。 (九州国立博物館) ア　定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,157件の陳列替を行った。 イ　陳列総件数　2,750件（うち国宝29件　重要文化財27件） ウ　文化交流展示室の広報に努め、来館促進のためのさまざまな企画を行なった。 関連展示第１室の映像機器老朽化のため、通常の展示室へ改修した。 エ　独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を 14 回開催し、新鮮な展示を提供することができた。 **①－２　展示説明の充実**	B	ほぼ順調

2110-2	（４館共通） １）作品キャプションについては全てに英語訳を付す。 ２）展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を８０％以上設置する。	**【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** 1)東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。 2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。 (東京国立博物館)展示テーマ数132件のうち、132件(100%)について外国語パネルを設置した。また、69件(52%)については中国語、韓国語での解説も付している。 (奈良国立博物館)展示テーマ数47件のうち、43件(91%)について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館)展示テーマ数47件のうち、40件(85%)について外国語パネルを設置した。また、33件(70%)については中国語、韓国語での解説も付している。	A	順調
2120	**②　特別展** （共同企画） ・「国宝　大神社展」 （平成25年度 東京国立博物館、九州国立博物館） （東京国立博物館） 平成２５年度は神道に関わる美術や、書跡など日本美術を紹介する展覧会を中心に実施する。	**②　特別展** **【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** (東京国立博物館)特別展を8回開催した。　内訳：当館開催7回、海外展1回 (京都国立博物館)特別展を3回開催した。 (奈良国立博物館)特別展を3回開催した。 (九州国立博物館)特別展を5回開催した。　内訳：当館開催4回、海外展1回 ・「国宝　大神社展」 東京国立博物館での開催については、処理番号 2121-1 を参照。 九州国立博物館での開催については、処理番号 2124-4 を参照。 **【東京国立博物館】**	A	順調
2121-1	ア　「国宝　大神社展」（平成25年4月9日～6月2日） 祀りのはじまりから、神社をとりあげて、日本各地に伝来する神宝を一堂に展観する。（目標来館者数２５万人）	**ア　・展覧会名　「国宝　大神社展」** ・会　　期　平成25年4月9日（火）～6月2日（日）（49日間） ・会　　場　平成館特別展示室第1～4室 ・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション ・特別協力　神社本庁 ・協　　力　千年の森フォーラム ・協　　賛　あいおいニッセイ同和損保、大日本印刷、トヨタ自動車 、三菱商事 ・作品件数　215件（うち、国宝77件、重要文化財90件） ・来館者数　193,990人（目標250,000人・達成率77.6%） ・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金	A	順調
2121-2	イ　特別展「和様の書」（7月13日～9月8日） 平安から安土桃山時代にかけての和様の書の展開を通じて、書の魅力を紹介する。（目標来館者数１３万人）	・アンケート結果　満足度72% 神社本庁をはじめ、日本全国の神社から全面的な協力を得ることができたために、神社の宝物や、日本の神々に関するさまざまな文化財を総合的に示すことができた。特に、かつてない規模と質で、神像彫刻の多様な表情と姿を紹介することができた。 **イ　特別展「和様の書」** ・会　　期　平成25年7月13日（土）～9月8日（日）（51日間） ・会　　場　平成館特別展示室第1～4室 ・主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション ・後　　援　文化庁 ・特別協力　読売書法会 ・協　　賛　光村印刷 ・協　　力　あいおいニッセイ同和損保 ・作品件数　156件（うち、国宝51件、重要文化財35件、重要美術品10件） ・来館者数　104,577人(目標130,000人・達成率 80.4%) ・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度 72% 三跡など能書の作品、四大手鑑などの至高の名品を集めた本展は、日本文化の中で独自に発展した仮名と漢字が融合した和様の書とともに、宮廷文学や料紙工芸など、書に関わる多様な日本の書の展開を通して、書の魅力を広く紹介することができた。	A	順調
2121-3	ウ　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」（10月8日～12月1日） 洛中洛外図屏風とともに二条城など京都を象徴する各所の障壁画を展示し、その空間装飾を紹介する。 （目標来館者数２５万人）	**ウ　日本テレビ開局60年　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」** ・会　　期　平成25年10月8日（火）～12月1日（日）（48日間） ・会　　場　平成館特別展示室第1～4室 ・主　　催　東京国立博物館、日本テレビ放送網、読売新聞社 ・特別協賛　タマホーム ・協　　賛　光村印刷、日本興亜損保 ・協　　力　全日本空輸、日本貨物航空、日本通運、JR東日本、BS日テレ、シーエス日本、ラジオ日本、J-WAVE、文化放送、テレビ神奈川、楽天トラベル、京都市 ・技術協力　キヤノン、キヤノンマーケティングジャパン、JVCケンウッド、凸版印刷 ・作品件数　20件（うち、国宝1件、重要文化財11件） ・来館者数　278,801人(目標250,000人・達成率111.5%) ・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度　72% 超高精細映像展示を駆使して鑑賞の便をはかりながら、「洛中洛外図屏風」によって都の姿を俯瞰した上で、京都御所、龍安寺、二条城という京の街を象徴する建物の室	A	順調

		内の空間構成を立体的に再現することで、400年前の京都の空間を実感的に示すことができた。		
2121-4	エ　特別展 上海博物館　中国絵画名品展（仮称）（10月8日～12月1日） 　中国五代・北宋から明清にいたる中国絵画の流れを、時代と流派を代表する名品によって辿る。（目標来館者数４．５万人）	**エ　東洋館リニューアルオープン記念　特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」** ・会　　期　平成25年10月1日（火）～ 11月24日（日）（48日間） ・会　　場　東洋館8室 ・主　　催　東京国立博物館、上海博物館、日本経済新聞社、毎日新聞社 ・協　　力　全日本空輸株式会社 ・作品件数　40件（うち一級文物18件） ・来館者数　62,378人(目標45,000人・達成率138.6%) ・入場料金　一般600円（500円）、大学生400円（300円）総合文化展観覧料　＊(　)内は20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度　91% 　初公開、一級文物を含む40件もの名品によって、五代・北宋から明清にいたる約千年の中国絵画の流れをたどることのできるまたとない機会となった。さらに日本には伝来しなかった本場中国ならではの中国絵画の真髄を展示することができた。	A	順調
2121-5	オ　「クリーブランド美術館名品展」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定） 　アメリカ・クリーブランド美術館の日本美術コレクションの粋とともに中国、韓国などの優品を展示する。（目標来館者数１２万人）	**オ　「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」** ・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間） ・会　　場　平成館 特別展示室第1･2室 ・主　　催　東京国立博物館、クリーブランド美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社 ・協　　賛　住友ナコ　マテリアル　ハンドリング、日本写真印刷、ハイスター＝エール・マテリアル・ハンドリング ・協　　力　国際交流基金、全日本空輸、日本貨物航空 ・作品件数　51件 ・来館者数　104,865人(目標120,000人・達成率87.4%) ・入場料金　一般1,000円(800円)、大学生800円(600円)、高校生600円(400円)　＊(　)内は20名以上の団体料金 「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」との2展共通観覧料金 一般1,600円(1400円)、大学生1,400円(1200円)、高校生1,000円(800円)　中学生以下無料　＊(　)内は前売り・20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度　57% 　全米屈指の日本美術コレクションを誇るクリーブランド美術館の平安時代から明治時代までの日本絵画の名品を展示して、人や自然の姿が時代ごとにどのように描かれてきたのかを人体表現、花鳥画、山水画、そして物語絵画の４つのテーマで概観することで、日本絵画の特質を示すことができた。	A	順調
2121-6	カ　日本伝統工芸展60回記念特別展―「人間国宝　伝えゆくわざ　生み出された美―」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定）	**カ　日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」** ・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間） ・会　　場　平成館 特別展示室第3･4室	A	順調

	重要無形文化財指定制度施行60周年、「日本伝統工芸展」の第60回を記念し、人間国宝が生み出した伝統工芸の清華を展望する。（目標来館者数１２万人）	・主　　催　東京国立博物館、文化庁、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社、日本工芸会 ・協　　賛　花王、日本写真印刷 ・作品件数　145件（うち、国宝6件、重要文化財13件、重要美術品3件） ・来館者数　112,960人(目標120,000人・達成率　94.1%) ・入場料金　一般1,000円(800円)、大学生800円(600円)、高校生600円(400円)＊(　)内は20名以上の団体料金 「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」との2展共通観覧料金 一般1,600円(1400円)、大学生1,400円(1200円)、高校生1,000円(800円) 中学生以下無料　＊(　)内は前売り・20名以上の団体料金. ・アンケート結果　満足度　69% 　国宝・重要文化財など歴史的に評価されてきた古典的な工芸と、歴代人間国宝104人の名品を一堂に集め、日本が誇る工芸の「わざ」の美を合わせて展示することで、伝統と現代との造形表現におけるつながりを明らかにすることができた。		
2121-7	（年度計画外に実施）	**・展覧会名　特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」** ・開会期間　平成26年2月11日（火）～3月23日（日）(36日間) ・会　　場　本館7室 ・主　　催　東京国立博物館 ・特別協力　文化庁、イタリア大使館 ・協　　力　仙台市博物館 ・作品件数　3件（うち重要文化財2件） ・来館者数　この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。 参考値：56,342人(開催期間中の平常展来館者数) 　安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、南蛮貿易などを通じて日本とヨーロッパとの交流が深まるなかで、ヨーロッパ人への興味関心やその文物への憧れを表わされた「南蛮人渡来図屏風」や「世界図屏風」をヨーロッパで描かれた「支倉常長像」と合わせて展示したことで、日欧交流における絵画表現にみる彼我の異同を端的に示すことができた。	A	順調
	○目標来館者数 の合計９１．５万人（海外展、他館での開催展を除く。）	**○東京国立博物館の特別展来館者数の合計は 857,571 人**		
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
2122-1	ア　特別展覧会「狩野山楽･山雪」（平成25年3月30日～5月12日） 桃山時代から江戸初期にかけて京都を舞台に活躍した狩野派の代表的画家 山楽・山雪の画業を紹介する初の大回顧展。（目標来館者数１０万人）	**ア　特別展覧会「狩野山楽・山雪」** ・会　　期　平成25年3月30日（土）～5月12日（日）（ 39日間） ・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（特別展示館） ・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、京都新聞社 ・作品件数　83件（重要文化財13件） ・来館者数　90,242人（目標100,000人） ・入場料金　一般1,400円（1,200円／1,00円）、大学・高校生900円（700円／600円）、	A	順調

		中学・小学生500円（300円／200円）＊（　）内の料金は前売り／団体20名以上 ・アンケート結果　満足度　95% 新発見９件・初公開 15 件・海外から里帰り４件を含む狩野山楽・山雪の代表作が集結する質の高い大回顧展を実現し、数多くの熱心な鑑賞者を呼ぶことができた。ほとんどの来館者について、１点１点の鑑賞にかける時間が予想以上に長く、滞留時間が通常よりかなり長かったことが特筆される。		
2122-2	イ　特別展観「遊び」（7月13日～8月25日） 神仏に捧げた歌舞音曲から、酒宴、年中行事、遊山、遊興、琴棋書画、合せもの、子どもの人形遊びまで、京都国立博物館が収蔵する多彩な美術品のなかに「遊び」の姿を追いかける。身近なテーマの下に有名作品に親しみ、隠れた名品に出会う展覧会。（目標来館者数３．５万人）	**イ　特別展観「遊び」** ・開催期間　平成25年7月13日（土）～8月25日（日）（38日間） ・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（特別展示館） ・主　　催　京都国立博物館 ・作品件数　128件　（うち国宝1件、重要文化財6件） ・来館者数　23,659人（目標35,000人） ・入場料金　一般1,000円、大学・高校生700円、中学・小学生 無料 ・アンケート結果　満足度84% 親しみやすいテーマの下に文化財に接し、遊びについても考えることのできる機会を提供するために、収蔵品の活用、関連イベントを充実させた。また、豊臣秀丸所用の玩具船（妙心寺蔵・重文）の模型によるからくり構造の再現等が多数の取材を受け、注目を集めた。	B	順調
2122-3	ウ　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」（10月12日～12月15日） 古来やきものの王者として名高い中国陶磁の中でも、その精緻さ、緻密さにおいて他を圧倒する清時代の陶磁器の名品を鑑賞すると同時に、鎖国をしていた日本へも多くの清朝陶磁がもたらされており、日本陶磁にも大きな影響を与えていたことを紹介する。（目標来館者数３．５万人）	**ウ　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」** ・会　　期　平成25年10月12日（土）～12月15日（日）　55（日間） ・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（特別展示館） ・主　　催　京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ ・協　　力　史跡料亭花月、日本香堂 ・作品件数　212件（国宝0件・重要文化財0件） ・来館者数　38,929人（目標35,000人） ・入場料金　一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生400円 ・アンケート結果　満足度　87% 江戸時代から明治・大正時代にかけて日本へもたらされた中国清朝陶磁を集大成すると同時に、日中交流の足跡を陶磁器で辿るという展覧会で、過去の展覧会になかった企画性を強く打ち出すことができた。	A	順調
	○目標来館者数の合計１７万人 （奈良国立博物館）	**○京都国立博物館の特別展来館者数の合計は152,830人** **【奈良国立博物館】**		
2123-1	ア　當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺 －極楽浄土へのあこがれ－」（4月6日～6月2日） 二上山麓に所在する大和の古代寺院當麻寺。その奥深い信仰の歴史と魅力を、極楽浄土を表した本尊當麻曼荼羅を軸に描き出す。（目標来館者数４万人）	**ア　當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺 －極楽浄土へのあこがれ－」** ・会　　期　平成25年4月6日（土）～6月2日（日）（51日間） ・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社 ・後　　援　文化庁、奈良県、葛城市、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送 ・協　　力　葛城市商工会、シーシーエス、ＪＲ東海、千房、日本香堂、仏教美術協会 ・作品件数　159件（うち国宝7件、重要文化財43件） ・来館者数　54,114人（目標40,000人） ・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円 ・アンケート結果　満足度　79% 南都の諸社寺の文化財中でも公開される機会が稀有な国宝綴織當麻曼荼羅を中心に、當麻寺の信仰を描く初めての特別展として、学術的にも高い評価を得た。また展示方法の工夫や、会場に於けるデジタル画像の使用によって、知識のない観覧者にも満足していただくことができた。	A	順調
2123-2	イ　特別展「新しい仏像入門（仮称）」（7月20日～9月16日） 奈良国立博物館に収蔵される館蔵品・寄託品の中から屈指の名品を中心に、仏像・仏画の仏教尊像の諸像を紹介。多彩な仏教美術の魅力に様々な角度からアプローチする。（目標来館者数５万人）	**イ　特別展「みほとけのかたち －仏像に会う－」** ・会　　期　平成25年7月20日（土）～9月16日（月・祝）（52日間） ・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・後　　援　文化庁、奈良県、奈良市、奈良市教育委員会、ＮＨＫ奈良放送局 ・特別協力　読売新聞社 ・協　　力　ＪＲ東海、奈良県ビジターズビューロー、奈良交通、日本香堂、仏教美術協会 ・作品件数　91件（うち国宝5件、重要文化財42件） ・来館者数　39,232人（目標50,000人） ・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、中学生以下 無料 ・アンケート結果　満足度　93% 仏像の「かたち」という、外観的特徴から紹介していく展示構成と、図解やディスプレイを工夫した会場展示に「初心者にもわかりやすかった」と好評を得られ、仏教美術を愛好する新たな客層の獲得に貢献できた。	A	順調
2123-3	ウ　特別展「第６５回正倉院展」（予定） 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。（目標来館者数１８万人）	**ウ　「第６５回正倉院展」** ・会　　期　平成25年10月26日（土）～11月11日（月）（17日間） ・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・特別協力　読売新聞社 ・協　　賛　岩谷産業、ＮＴＴ、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管 ・協　　力　ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房 ・作品件数　66件 ・来館者数　246,269人（目標180,000人） ・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円 ・アンケート結果　満足度　70% 23 年ぶり２回目の出陳である漆金薄絵盤、聖武天皇ご遺愛品である平螺鈿背円鏡や	A	順調

		鳥毛文書屏風、鹿草木夾纈屏風などの名品のほか、宝物の保存に関わる品々が出陳された。一日平均14,000人ほどの来館者であったが、随所に混雑しない工夫を凝らし、また細部の拡大パネルや技法解説パネルなどを設け、満足度の高い展覧会となった。		
	○目標来館者数 の合計２７万人 （九州国立博物館）	**○奈良国立博物館の特別展来館者数の合計は339,615人** **【九州国立博物館】**		
2124-1	ア 「大ベトナム展」（4月16日～6月9日） 日本で初めて本格的にベトナムの歴史と文化を紹介する。（目標来館者数３万人）	**ア 特別展「大ベトナム展」** ・会　　期　平成25年4月16日（火）～6月9日（日）（49日間） ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館、在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館、TVQ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社、九州ベトナム友好協会 ・作品件数　165件（うち重要文化財15件） ・来館者数　71,192人（目標30,000人） ・入場料金　一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果　満足度82% ベトナムの壮大な歴史を紀元前からたどる、日本初の本格的なベトナム展であり、ベトナムの歴史を多角的に、展示品を通して通覧できる画期的な展覧会であった。日本初上陸となるベトナム最大の青銅祭器「銅鼓」をはじめ、国内外の選りすぐりの名品を一堂に公開した。	S	順調
2124-2	イ 「中国　王朝の至宝」（7月9日～9月16日） 歴代王朝の都などの文物を通して、新たな中国文明像をひもとく（目標来館者数５万人）	**イ 特別展「中国　王朝の至宝」** ・会　　期　平成25年7月9日（火）～9月16日（月・祝）（62日間） ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、毎日新聞社、西日本新聞社 ・特別協力　太宰府天満宮 ・作品件数　167件（うち1級文物100件） ・来館者数　77,554人（目標50,000人） ・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果　満足度87% 中国王朝史は複雑であるとの認識で敬遠される向きがあるため、これに対応すべく、解説文の内容や教育普及事業及び会場の空間構成に力をいれた。その結果、分かり易くかつ作品の魅力が伝わる展示空間となり、来場者にはおおむね好評を得た。	S	順調
2124-3	ウ 「尾張徳川家の至宝」（10月12日～12月8日） 尾張徳川家に伝来した大名家の什宝、武器武具等を紹介する（目標来館者数５万人）	**ウ 特別展「尾張徳川家の至宝」** ・会　　期　平成25年10月12日（土）～12月8日（日）（50日間） ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、テレビ西日本、TVQ九州放送、徳川美術館 ・作品件数　226件（うち国宝5件、重要文化財12件、重要美術品6件）	S	順調
		・来館者数　139,448人（目標50,000人） ・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果　満足度85% 尾張徳川家は、徳川家康の９男・義直（1600-1650）を初代とする御三家筆頭の名門大名で、名古屋城を居城とし、江戸時代を通じて徳川将軍家に次ぐ家格を誇っていた。徳川美術館は、尾張徳川家に伝来した什宝を中心に１万数千件を収蔵している。江戸時代における最高水準の大名文化を伝える道具類の清華を一堂にみることができる機会となった。		
2124-4	エ 「国宝　大神社展」（平成26年1月15日～3月9日） 神社本庁をはじめ、日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に展観する。（目標来館者数７万人） ○目標来館者数 の合計２０万人	**エ　特別展「国宝 大神社展」** ・会　　期　平成26年1月15日（水）～3月9日（日）（47日間） ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社 ・作品件数　165件（うち国宝57件、重要文化財65件） ・来館者数　89,561人（目標70,000人） ・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果　87% 25年4月から6月にかけて開催された東京展に引き続き、26年1月15日から3月9日かけて、特別展「国宝 大神社展」福岡展を開催した。九州では初めて本格的かつ総合的に開催された神道に関する文化財展となったほか、九州初公開の文化財も全体の7割を超えているため大きな関心と話題が寄せられ、当初目標を上回る来場者があった。 **○九州国立博物館の特別展来館者数の合計は377,755人**	A	順調
	③海外展 （東京国立博物館）	**③　海外展** **【東京国立博物館】**		
2131	１）海外展「青山杉雨のコレクションと書」（4月19日～5月26日） 会場：上海博物館（中華人民共和国） 書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の生誕100年を記念して、その足跡を回顧する。 ２）海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」（平成26年2月16日～5月11日）」 会場：クリーブランド美術館（アメリカ）東京国立博物	**1)海外展「青山杉雨のコレクションと書」** ・開会期間　平成25年4月20日（土）～7月2日（火）（73日間） ・会　　場　上海博物館（中華人民共和国）　第二展庁 ・主　　催　上海博物館、東京国立博物館、読売新聞社 ・特別協力　謙慎書道会 ・作品件数　80件 ・来館者数　364,298人 昭和から平成まで活躍した書家・青山杉雨が創作活動に生かすため収蔵した優れた中国書画の作品とともに、杉雨の生み出した伝統的な書から新しい表現まで多彩な作品を展示することで、中国において日本を代表する書家の業績を明らかにすることができた。 ２）海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」は、平成26年2月19日～5月11日の会期で開催のため、平成26年度事業として評価を行う。	S	順調

	館の近代美術作品により、日本近代美術を伝統の再創造という観点で紹介する。					
2134	（年度計画外実施）	【九州国立博物館】 文化庁主催海外展「日本文化展」 ・会　　期　平成 26 年 1 月 16 日（木）～3 月 9 日（日）（51 日間） ・会　　場　ベトナム国立歴史博物館 ・主　　催　文化庁、九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館 ・作品件数　69 件（うち重要文化財 7 件） ・来館者数　約 30,000 人 ・入場料金　40,000 ドン（約 200 円） ベトナムで日本文化を体系的に展示する初の取り組みであった。仏教文化や朱印船貿易、元寇などベトナムとの関連が深い内容を中心に 9 のテーマを設定し、日本文化を概観できる展覧会であった。関連事業として、博物館ボランティアが主体となって日本文化を紹介するワークショップを開催した。			A	順調

		定量評価	25 年度	24 年度	目標値	評定
		【平常展】平常展来館者数(人)				
		東京国立博物館(23 年度より黒田記念館を含む)	484, 429	416, 430	362, 470	A
		京都国立博物館	—	—	—	—
		奈良国立博物館	122, 075	145, 914	118, 032	A
		九州国立博物館	349, 848	460, 525	380, 690	B
		【平常展】陳列替件数(件)				
		東京国立博物館	5, 708	6, 989	5, 800	B
		京都国立博物館	—	—	—	—
		奈良国立博物館	130	465	70	S
		九州国立博物館	1, 157	1, 195	1, 100	A
		【平常展】陳列総件数(件)				
		東京国立博物館	8, 824	9, 190	7, 500	A
		京都国立博物館	—	—	—	—
		奈良国立博物館	632	814	500	A
		九州国立博物館	2, 750	2, 416	1, 700	S
		【平常展】外国語パネルの設置(%)				
		東京国立博物館	100%	97%	80%	A
		京都国立博物館	—	—	—	—
		奈良国立博物館	91%	100%	80%	A
		九州国立博物館	85%	87%	80%	A
		【特別展】開催回数(回)				
		東京国立博物館	8	9	3～4	S
		京都国立博物館	3	5	2～3	A
		奈良国立博物館	3	3	2～3	A
		九州国立博物館	5	4	2～3	S
		【特別展】来館者数(人)				
		東京国立博物館	**857, 571**	—	**915, 000**	**B**
		①「国宝　大神社展」	193, 990	—	250, 000	B
		②「和様の書」	104, 577	—	130, 000	B
		③「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278, 801	—	250, 000	A
		④「上海博物館　中国絵画の至宝」	62, 378	—	45, 000	A
		⑤「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」	104, 865	—	120, 000	B
		⑥「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」	112, 960	—	120, 000	B
		⑦「支倉常長像と南蛮美術―400 年前の日欧交流―」	※	—	—	—
		京都国立博物館	**152, 830**	—	**170, 000**	**B**
		①「狩野山楽・山雪」	90, 242	—	100, 000	B
		②「遊び」	23, 659	—	35, 000	C
		③「魅惑の清朝陶磁」	38, 929	—	35, 000	A
		奈良国立博物館	**339, 615**	—	**270, 000**	**A**
		①「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」	54, 114	—	40, 000	A
		②「みほとけのかたち　－仏像に会う－」	39, 232	—	50, 000	B
		③「第 65 回正倉院展」	246, 269		180, 000	A
		九州国立博物館	**377, 755**	—	**200, 000**	**S**
		①「大ベトナム展」	71, 192	—	30, 000	S
		②「中国　王朝の至宝」	77, 554	—	50, 000	S
		③「尾張徳川家の至宝」	139, 448	—	50, 000	S
		④「国宝　大神社展」	89, 561	—	70, 000	A
		【海外展】来館者数(人)				
		東京国立博物館				
		海外展「青山杉雨のコレクションと書」(中華人民共和国・上海博物館)	(364, 298)	—	—	—
		九州国立博物館				
		文化庁主催海外展「日本文化展」(ベトナム・ベトナム国立歴史博物館)	(約 30, 000)	—	—	—

※この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。

(2) 教育活動の充実

【中期目標】
日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。

【中期計画】
(2) 教育活動の充実
日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。
① 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。
② 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。
③ 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【主な計画上の評価指標】
○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成すること。
○ボランティアを支援すること。
○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。
○大学との連携事業等を実施すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（２） 教育活動の充実 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。 **① 学習機会の提供** （４館共通） 1）キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。	**（２）教育活動の充実** **① 学習機会の提供** **【東京国立博物館】** (4館共通) 1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数43校、団体利用を含み21,069名の学生が本制度を利用し入館した。（処理番号2211-2）		
2211-1	（東京国立博物館） 1）日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。	（東京国立博物館） 1)以下のように、総合文化展の状況に応じ歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。 ・総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化への興味関心をより高めることができた。 ・本館19室における「みどりのライオン」は、当初の予定では26年3月の本館1階リニューアルオープン時より実施予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となった。改修工事期間中、プログラムを事前申込制に変更して、小講堂等で開催。他の申込制ワークショップの回数や人数も予定より増やして行った。 ・本館地下、東洋館2室、6室にて体験型プログラム、列品解説、ワークショップ等を行った。 ・ミュージアムシアターや小講堂においては列品解説、ワークショップ等を行った。	A	順調
	○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」（7月17日～8月25日） ○体験型プログラムの実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」など、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークやアクティビティを実施する。 ・本館１９室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。 ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。 ○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」（平成25年3月19日～4月14日）を実施する。	○特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」を実施し、本館の展示作品を「つくり方」という切り口で分かりやすく伝えることができた（25年7月17日～8月25日） ○体験型プログラムの実施 ・総合文化展、特別展に関連したファミリー向けのギャラリートーク、アクティビティを18回実施した。 ・本館19室にて、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」等を26年3月より行う予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となったため開始が遅れた。そこで、3月に予定していた桜ワークショップの内容を当初案のお皿作りから、より手軽に参加できるぬり絵に変更し、19室で予定していた企画同様、事前申込不要のハンズオン体験として平成館ラウンジにて開催した。 ・正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティを実施した。（26年1月2日、3日） ・東洋館2室で体験型プログラム「旅の案内所」、6室で体験型プログラム「アジアの占い体験」を通年実施した。 ○「博物館でお花見を」（25年3月19日～4月14日）では会期中「花見で一句」には481の投句があり、6名が入選。また、鑑賞ガイド、スタンプラリー、ボランティアによるガイドツアーなどを関連事業として行った。 ○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。		
2211-2	2）学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。 ・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。	2)学校との連携事業を計画通り実施した。 ・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。 ・職場体験として、23校82人を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修（共催：東京藝術大学）を25年7月31日～8月2日の3日間開催し、39名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、学校団体での博物館利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。	A	順調
2211-3	・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。 3）文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・	・教員鑑賞会・ガイダンスは 4 回実施し、計 433 人が参加した。 3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念	A	順調

2212	記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 （講演会等の目標）　参加者数　計7,830人（実施回数計77回程度） ・講演会　　参加者数3,500人（実施回数20回程度） ・列品解説等　参加者数4,000人（実施回数55回程度） ・連続講座　　参加者数　250人（実施回数 1回程度） ・公開講座　　参加者数　 80人（実施回数 1回程度） （京都国立博物館） 1）展覧会内容及び展示作品への理解を深めるための事業を実施する。 ・「記念講演会」「土曜講座」を実施する。 ・鑑賞ガイドを発行する。 ・小中学生向け展示解説「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 ・小中学生向けワークシートを発行する。 ・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。 2）歴史及び文化財への理解促進を図るために教育普及事業を実施する。 ・テーマを定めた一般向けの連続講座として「夏期講座」を開講する。 ・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。 ・文化財への関心を高めるワークショップを実施する。 3）教育諸機関との連携事業を推進する。 ・京都市内４美術館・博物館が連携する「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を開講する。 ・社会科教員のための向上講座を開講する。 （講演会等の目標）参加者数　計2,240人（実施回数計13回程度） ・記念講演会　参加者数　150人（実施回数 1回程度） ・土曜講座　　参加者数1,400人（実施回数10回程度） ・夏期講座　　参加者数　570人（実施回数 1回(3日間)程度） ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座 　　参加者数　120人（実施回数 1回程度）	講演会・連続講座を継続して実施した。 参加者数　計15,777人(実施回数　計131回) ・講演会　　参加者数7,184人(実施回数30回) うち月例講演会1,951人(12回)、記念講演会3,368人(11回)、テーマ別講演会1,709人(6回)、その他講演会156人(1回) ・列品解説等　参加者数 8,205人(実施回数98回) ・連続講座　　参加者数 354人(実施回数1回) ・公開講座　　参加者数 34人(実施回数2回) **【京都国立博物館】** (4館共通) 1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(29校)した。 (京都国立博物館) 1) ・「記念講演会」(1回・190人)・「土曜講座」(10回・1,257人)を実施した。 ・小中学生向け「ワークシート」を一般観覧者向けの鑑賞ガイドとしても活用した。 ・「少年少女博物館くらぶ」(2回・68人)を開催した。 ・小中学生向け「ワークシート」(20,000部)を発行した。 ・「博物館ディクショナリー」(7,000部)を発行した。 2) ・「夏期講座(古社寺と文化財)」(１回・219人)を開催した。 ・「文化財に親しむ授業」(7回・435人)を実施した。 ・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加しワークショップを行った。(2回・1,300人) 3) ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(1回・157人)を土曜講座と合同で開催した。 ・「社会科教員のための向上講座」(1回・30 人)を実施した。	A	順調

2213-1	（奈良国立博物館） 1）小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 ・奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・奈良市内の小学校5年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は26校、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館) 1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行った。 ・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。 ・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生33校、合計2,199名に対して実施した。 ・中学2年生の職場体験を3校9人受け入れた。	A	順調
2213-2	2）講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。 （講演会等の目標）参加者数　計2,600人（実施回数計27回程度） ・特別展等講座　　参加者数1,500人（実施回数14回程度） ・夏季講座　　参加者数　500人（実施回数 1回） ・サンデートーク　参加者数　600人（実施回数12回） 3）奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。 4）地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。 5）地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続	2)講座等の開催 サンデートークは毎月第3日曜日に実施し、実績は12回、合計950人の参加があり、アンケート結果では85%の平均満足度が得られた。 ・公開講座は、3つの特別展及び2つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計11回、1,341人の参加があり、平均満足度は85%を得た。その他、特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」に関連して学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」を実施した。 ・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2013　鑑真和上と正倉院宝物」と題して25年10月27日に実施し、4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。192人の参加を得、満足度は89%であった。 ・夏季講座は、今年は第42回目を迎え、奈良県文化会館で開催した。「仏教美術へのいざない」と題し、25年8月20日～22日の3日間に実施、講師は計9人、587人の参加があった。 ・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を26年2月16日に実施し、38人の参加があった。 ・文化財保存修理所の一般公開は、26年2月13日に3回実施し、計117人の参加があった。 ○講演会等の実績　総計26回・参加者3,219人 特別展等講座13回・参加者1,682人（うち公開講座11回・1,341人、シンポジウム2回・341人)、夏季講座1回(3日間)・参加者587人、サンデートーク12回・参加者950人 3)奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月27日に行い、約150人の参加者を得た。（処理番号2213-1) 4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。（処理番号2213-1) 5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に	A	順調

	的に公開する。	公開した。(処理番号2213-1)		
		【九州国立博物館】		
		(4館共通)		
		1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。(処理番号2214-2)		
2214-1	(九州国立博物館)	(九州国立博物館)	A	順調
	1）博物館における体験型事業の充実を図る。	1)博物館における体験型事業を継続して実施した。		
	・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。	・体験型展示室「あじっぱ」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、本年度新たに錫を使用した鋳造体験「銅鐸をつくってみよう」、「銅鏡をつくってみよう」、「アイヌのボードゲームウコニロシキ」、「アイヌのシカ笛をつくってみよう」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに実施した。		
	・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。	・「いこうよ！あじっぱ夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。		
	・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。	・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、さまざまなテーマのもと、「あじ庵」、「あじぎゃら」、「ディスプレイ」において特集展示を行った。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。		
2214-2	2）学校教育との連携事業を実施する。	2)	A	順調
	・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。	・中学生の職場体験を17校（延べ38日間）受け入れ、博物館の様々な業務を体験する機会を提供した。		
	・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。	・高校生「ジュニア学芸員」による全7回の継続プログラムを実施した。		
	・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。	・高等学校初任者研修に係わる体験活動研修を希望する高等学校教員と同経験10年経過者研修に係わる体験活動研修を希望する高等学校教員に対し体験研修を行った。		
		・学校教育における「きゅうぱっく」及び博物館の活用に関する教員研修会を実施した。		
	・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。	・学校貸出キット「きゅうぱっく」の活用を図り、貸出を行った。		
		・出前講座や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。		
2214-3	3）シンポジウムを開催する。	3)国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催)	A	順調
	4）特別展記念講演会を開催する。	4)本年度は特別展記念講演会を5回開催した。		
	5）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。	5)本年度は講演会等を38回開催し、連続講座も開催した。		
	6）ミュージアムトークを随時実施する。	6)定例のミュージアムトークを47回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。		
	7）文化施設等へ講師を派遣する。	7)文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市 アクロス・文化学び塾等)		
	8）特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。	8)文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を行った。		

	9）放送大学の面接授業を実施する。 （講演会等の目標）　参加者数　計3,100人（実施回数計54回程度） ・特別展記念講演会　　参加者数　600人（実施回数 4回程度） ・講演及びシンポジウム　参加者数1,300人（実施回数10回程度） ・ミュージアムトーク　　参加者数1,200人（実施回数40回程度）	9)放送大学の面接授業を実施した。(「文化財の保存と修復」25 年 12 月 7 日、8 日)（処理番号 2214-2)		
	②－１　ボランティア活動の支援	**②－１　ボランティア活動の支援**		
2221-1		**【東京国立博物館】**	A	順調
	（東京国立博物館）	(東京国立博物館)		
	1）館内案内、各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。	1)館内各所での案内、みどりのライオン紹介コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。次年度の活動に向けてスクールプログラム班を立ち上げた。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。		
	2）点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。	2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。		
	3）自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。	3)新規2グループを含めた全15の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施し、新たに1グループの立ち上げ準備を開始した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。		
	4）ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。	4)通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見を」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動見学ツアーを実施した。		
	5）「東京芸術大学学生ボランティア」による活動を継続して実施する。	5)総合文化展の作品解説をするギャラリートーク(研究発表)班 5 人と、調査研究班 12 人による活動を行った。		
2222-1		**【京都国立博物館】**	A	順調
	（京都国立博物館）	(京都国立博物館)		
	1）新平常展示館の新装開館に向け、新規ボランティア事業を立ち上げるための準備を行うとともに、新平常展示館でのボランティア活動を開始する。	1)平成知新館（新平常展示館）の開館が来年度に延期されたため活動開始は持ち越されたが、ボランティア募集チラシ作成など諸準備を行った。新規ボランティア事業の核となるミュージアム・カートの作成に向け、調査及び教材の作成を行った。		
	2）調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。	2)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(25人)		
	3）文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。	3)・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(18回) ・文化財ソムリエによる、京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(7回)		

	4）「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。	4）「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。		
2223-1	（奈良国立博物館） 1）ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。 2）ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。 3）勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 4）ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。	**【奈良国立博物館】** （奈良国立博物館） 1)ボランティアの新制度が発足して2年目になり、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの3つの活動がそれぞれ軌道に乗った。奈良市教育委員会との連携により、世界遺産学習として奈良市の33校の小学5年生（2,199人）を受け入れ、同じ内容で県内外の小学生～高校生（28校，2,251名）を受け入れた。 2)ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全ての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。 正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。 3)ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、運営の指導に当たった。チーム力と知識の向上のため、毎月テーマを決めてグループで発表を行った。解説グループの勉強会では、オブザーバーとして学芸員が立会、指導した。 4)ボランティアによる自主企画として、当館敷地内の茶室庭園や仏教美術資料研究センターの案内ツアーを実施した。プログラムの企画立案にあたって、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をした。	A	順調
2224-1	（九州国立博物館） 1）ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2）ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3）ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。	**【九州国立博物館】** （九州国立博物館） 1)第3期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって､活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。 2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。 3)各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、グループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行った。	A	順調

	②－２　博物館支援者の増加	**②－２　博物館支援者の増加**		
2221-2	（４館共通） 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1）会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2）会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3）企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4）公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5）展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。 （東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2）地域、企業との連携・拡充を図る。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)26年4月の消費税率改定による料金の改定に伴い､これまで独立していた賛助会・友の会・パスポートの会員制度を一元化することで、支援者の選択の幅を広げ、継続的に支援しやすい体系とすべく整備を進めた（26年4月導入予定)。 2)友の会入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。賛助会会員を対象に、感謝会ならびに特別展毎に特別鑑賞会を開催した。 3)地域との連携、ＰＲにより認知度向上に努めた。 4)ＪＲ、地下鉄などに総合文化展、特別展のポスターの掲示、チラシの設置を図るなど、広告活動の充実に努めた。 5)特別展「国宝 大神社展」､「京都－洛中洛外図と障壁画の美」において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)企業へのＰＲ活動を積極的に行い、新規会員を増加させた。 2)上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催)、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。	A	順調
2222-2	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。 2)「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。 3)企業等と連携し､広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。 5)22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知している。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(3回)・見学会(3回)・会報(3回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。	A	順調
2223-2		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)パスポート会員　会員数2,598人(一般2,504人、学生73人、家族21人) 2)会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。 3)株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のＰＲを行った。	A	順調

		4)近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、大阪市交通局とタイアップし、特別展の広報を行った。 5)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。		
	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2）地域、企業との連携・拡充を図る。 （京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。 （奈良国立博物館） 1）支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 2）支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1)賛助会員　29団体41人（特別支援会員：5団体、特別会員：4団体、一般会員（個人）：41人、（団体）：20団体） 2)観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。 奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2013」、「ライトアッププロムナード・なら2013」、「なら燈花会」、 「光のオルゴールinライトアッププロムナード」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。 （京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。 （奈良国立博物館） 1)支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。 2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。		
2224-2		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示チラシ等の送付を行った。 3)企業等と連携し、広報活動を行った。 4)特別展等においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。 5)展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。	A	順調
	（九州国立博物館） 1）近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	（九州国立博物館） 1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。		
	③　大学との連携	**③　大学との連携**		
2231		**【東京国立博物館】**	A	順調
	（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）インターンシップを継続して実施する。	（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、12大学17名を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日間の活動を行った。		
	（東京国立博物館） 1）東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。 2）キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。	（東京国立博物館） 1)東京藝術大学大学院インターンシップを募集し、ギャラリートーク（研究発表）班5名、調査研究班12名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。調査研究班では館蔵の「突起装飾坏（TJ-5401）」の調査研究及び工程見本の制作を行った。 2)キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。（詳細は処理番号 2211-2 及び統計表 2-(2)-②を参照）		
2232		**【京都国立博物館】**	A	順調
	（京都国立博物館） 1）京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。	（京都国立博物館） 1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、前期は、研究員 6 人が客員教授（4 人）、客員准教授（2 人）を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。後期は、客員教授（4 人）のうち、1 人が転出した為、客員教授 3 人、准教授 2 人の体制で担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。修士課程の学生 2 名については、修士論文の指導を行い、論文が提出された。		
2233		**【奈良国立博物館】**	B	順調
	（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）インターンシップを継続して実施する。 （奈良国立博物館） 1）奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。 2）奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。	（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)例年、立命館大学から数名の学生をインターンシップとして受け入れているが、25年度は同大学側の事情により受入れがなく、また、他大学への募集も行わなかったため、今年度のインターンシップ受入実績はなかった （奈良国立博物館） 1)・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期5人、後期4人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生8人であった。 2)・25 年 12 月 22 日（日）、奈良市教育センター及びなら 100 年会館を会場として、「第４回世界遺産学習全国サミット in なら」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、当館学芸部長と女優の紺野美沙子氏による「人とつながる　地域とつながる」と題した対談及び子供達による世界遺産学習発表会を行った。		

2234	（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）インターンシップを継続して実施する。 （九州国立博物館） 1）博物館実習生の受け入れを実施する。	**【九州国立博物館】** （東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。 （九州国立博物館） 1)博物館実習生を14大学20人、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は6大学11人) ○博物館見学実習に対応した。(5校延べ97人) ○福岡大学「博物館教育論」の授業実践に協力した。	A	順調

定量評価項目	25 年度	24 年度	目標値	評定
学習機会の提供　講演会等参加者数(人)				
東京国立博物館	**15,777**	**13,193**	**7,830**	**S**
講演会	7,184	6,952	3,500	S
列品解説	8,205	5,805	4,000	S
連続講座(夏期講座)	354	303	250	A
公開講座	34	133	80	C
京都国立博物館	**2,062**	**3,150**	**1,860**	**A**
土曜講座	1,257	2,682	1,400	B
記念講演会	190	215	150	A
夏期講座	219	213	190	A
社会科教員のための向上講座	30	40	－	－
ギャラリートーク	366	－	－	－
京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む)	(157)	(119)	(120)	A
奈良国立博物館	**3,219**	**3,454**	**2,600**	**A**
特別展等講座	1,682	2,172	1,500	A
夏季講座	587	438	500	A
サンデートーク	950	844	600	S
九州国立博物館	**7,276**	**8,354**	**3,100**	**S**
特別展記念講演会	1,108	966	600	S
講演及びシンポジウム	4,450	4,918	1,300	S
ミュージアムトーク	1,718	2,470	1,200	A
学習機会の提供　講演会等実施回数(回)				
東京国立博物館	**131**	**126**	**77**	**S**
講演会	30	31	20	S
列品解説	98	90	55	S
連続講座(夏期講座)	1	1	1	A
公開講座	2	4	1	S
京都国立博物館	**21**	**19**	**13**	**S**
土曜講座	10	16	10	A
記念講演会	1	1	1	A
夏期講座	1	1	1	A
社会科教員のための向上講座	1	1	－	－
ギャラリートーク	8	－	－	－
京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む)	(1)	(1)	(1)	A
奈良国立博物館	**26**	**29**	**27**	**B**
特別展等講座	13	16	14	B
夏季講座	1	1	1	A
サンデートーク	12	12	12	A
九州国立博物館	**90**	**102**	**54**	**S**
特別展記念講演会	5	5	4	A
講演及びシンポジウム	38	45	10	S
ミュージアムトーク	47	52	40	A

(3)　快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。

【中期計画】

国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【主な計画上の評価指標】

○施設のバリアフリー化を進めること。

○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行うこと。

○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

○ミュージアムショップの商品は、インターネット販売など、観覧者へのサービスの向上に向けた更なる取組を期待したい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（３）快適な観覧環境の提供①施設・設備等の充実 （４館共通） 1）特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進	**（３）快適な観覧環境の提供** **①　施設・設備等の充実**		

2311-1	し、来館者に対するサービスの向上を図る。 （東京国立博物館） 1）多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 2）より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)全ての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展『京都―洛中洛外図障壁画の美』の音声ガイドでは、野際陽子（女優）、佐々木蔵之介（俳優）のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が23.5%となった。 (東京国立博物館) 1)26年4月15日オープン予定の「正門プラザ」において、新しい試みであるデジタルサイネージを含む、館全体の案内・誘導サインを多言語で整備した。 2)・本館から平成館へ24年度に移設・仮設置していた＜東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナー＞のリニューアルを25年12月に行った。その照明として、LEDライン状光源のウォールウォッシュ照明器具を使用し、寄贈者の顕彰とともに憩いのギャラリーとしてリニューアルされた。 ・4月15日にリニューアルオープンする本館18室の展示のため、LED光源によるカッタースポットライトを購入した。 (中期計画記載事項) ○施設のバリアフリー化として、黒田記念館、表慶館に多目的トイレと障がい者用EVを設置し、正門東側に多目的トイレを含むインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。また、本館リニューアルに伴う一時閉館期間に、多目的トイレの改修を行った。	A	順調
2311-2	3）総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」（日本語版・英語版)を引き続き実施する。 4）障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。 5）「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を制作・配布する。 6）本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3ヵ国語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。 7）育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。	3)平成24年度より公開しているAndroidアプリ「トーハクなび」を引き続き公開した。さらに、25年9月26日には、iOS端末用の「トーハクなびiOS Lite版」を新たに公開した。iOS Lite版には、Android版で人気の高い「日本美術の流れコース」と「建物めぐりコース」の２つのコース、３つの体験型コンテンツを収録した。Android版よりもサイズを小さくし、ダウンロードしやすくし、英語にも対応している。また、iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語・英語対応）を引き続き公開した。 4)障がい者の方のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。 5)総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)の制作・配布を行った。 6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3言語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具　今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。 7)前年度に試行実施した託児サービスを、特別展「和様の書」、「京都」会期中に実施した。	A	順調
2312	8）より快適な観覧環境を構築するため、休憩スペースを整備する。（本館地下・表慶館） （京都国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。 2）館内案内リーフレット（6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西）を継続して制作・配布する。	8)25年9月に表慶館がリニューアルオープンしたことに伴い、1階の一部を休憩スペースとして開放した。 **【京都国立博物館】** (4館共通) 1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 (京都国立博物館) 1)24年度に本体工事が完了した平成知新館(新平常展示館)において、快適な観覧環境を提供するため、外構工事（庭園の一部を整備)、展示ケース製作工事、展示製作工事（館内サイン、展示台等を製作）を実施した。 2)前年度に製作した館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。 ○平成知新館（新平常展示館）が、京都市から『みやこユニバーサルデザイン優良建築物』に認定された。 (中期計画記載事項) ・平常展示館にオストメイト対応トイレ、車いす対応水飲み器を設置した。	A	順調
2313	（奈良国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2）誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3）正倉院展の際に託児所を設置する。 4）なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。 5）ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。 6）館内案内リーフレット（7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 7）なら仏像館の会場案内図、展示一覧を作成する。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。 (奈良国立博物館) 1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。 3)正倉院展の会期中に、託児室を開設し、多くの利用者があった。 4)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、展示替が年に数回ありそれに対応するのは困難であり、また解説ボランティアが常駐しているのでその必要性もないことから、導入しないこととなった。 5)ウェブサイトでの展覧会の混雑状況・待ち時間の速報については、正倉院展において特別協力の新聞社ウェブサイトにリンクを張る形で行った。 6)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 7)なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。 (中期計画記載事項) ・多目的トイレに「オストメイト」用設備を整備した	A	順調

2314-1		【九州国立博物館】 (4館共通) 1)特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。	A	順調
2314-2	(九州国立博物館) 1）快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2）来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3）館内案内リーフレット（7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 4）文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。 5）英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。	(九州国立博物館) 1)展示課を中心として毎月１回、文化交流展示室の展示や施設についての研究会を実施した。 2)上記研究会の提言を受けて、展示環境の中で分かり易いサインの開発に努めている。 3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4)トピック展でも展示趣旨を解説する英文のほか、トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」で英文リーフレットを配布した。 5)文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。 (中期計画記載事項) ・施設のバリアフリー化推進のため、「ほじょ犬」専用トイレを整備した。 ・公益財団法人日本博物館協会が実施する車椅子の寄贈事業を活用し、車椅子を新たに１台導入した。	A	順調
	②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 （４館共通） 1）来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2）混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。	**②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営**		
2321		【東京国立博物館】 (4館共通) 1)・タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施 平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施した結果を元に環境改善に努めた。 ・「総合文化展100万人プロジェクト」の一環として非来館者調査(インターネット調査、フォーカスグループインタビュー、街頭調査)を行い、外部有識者を交え、総合文化展の問題点の洗い出しを行った。 2)特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。	A	順調
2322	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1）特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1）モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。	【京都国立博物館】 (4館共通) 1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。 2)混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。 (京都国立博物館) 1)小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。	A	順調
2323	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1）特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。	【奈良国立博物館】 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。 2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」に関し、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』87号に掲載した。	A	順調
2324		【九州国立博物館】 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。 2)・混雑が予想される展覧会（特別展「尾張徳川家の至宝」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。	A	順調
	③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 （４館共通） 1）オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。	**③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実**		
2331		【東京国立博物館】 (4館共通) 1)・ミュージアムグッズは、東京国立博物館協力会と協議を重ね、新たな商品の開発	A	順調

		に努めた。 ・資生堂パーラー製ラ・ガナッシュや榮太樓飴、神戸風月堂ゴーフルなど有名菓子メーカーとの共同開発を行い、来館記念に購入しやすい商品のラインアップを充実させた。また、当館のキャラクターグッズを充実させ購買対象の拡大を図った。 ・秋の特別公開にあわせ、重文「夏秋草図屏風」のグッズコーナーや原寸大複製を設置するなど展示作品との関連を重視した販売を行った。 ○レストランでは、「博物館に初もうで」の期間中にヒマラヤ岩塩パウダーや伊予の水引の箸置の配布を行い、また特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 （東京国立博物館） 1)正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する準備を進めた（26年4月オープン予定）。 2)25年9月4日に黒田記念館別館に上島珈琲店を開店した。		
	（東京国立博物館） 1）正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する。 2）黒田記念館にカフェを設置する。			
2332		**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 （京都国立博物館） 1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。 2)平成知新館（新平常展示館）に併設されるレストランの企画競争準備を整えた。	A	順調
	（京都国立博物館） 1）レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。 2）新平常展示館に新たなレストランを設けるための各種準備を行う。			
2333		**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ、正倉院展模様シリーズ、博物館グッズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。 （奈良国立博物館） 1)・正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。 ・26年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のバッチを配布した。 2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。 3)より快適な環境を提供できるよう、レストランの全面リニューアルを行った。	A	順調
	（奈良国立博物館） 1）ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。 2）仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。 3）より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。			
2334		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展示の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。 （九州国立博物館） 1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。	A	順調
	（九州国立博物館） 1）特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。			

		定量評価項目	25 年度	24 年度	目標値	評定
		リーフレット等（ヵ国語）				
		東京国立博物館	7	7	7	A
		京都国立博物館	6	6	6	A
		奈良国立博物館	7	7	7	A
		九州国立博物館	7	7	7	A

(4)　文化財情報の発信と広報の充実

【中期目標】文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
（4）文化財情報の発信と広報の充実 ①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。 ②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。 ③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。 ④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。 ⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	○収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成すること。また、公開データ件数を増加させること。 ○報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。 ○計画的な広報・情報提供を行うこと。 ○ウェブサイトアクセス件数の向上を図ること。 **【24 年度評価における主な指摘事項】** ○広報活動に関しては、多角的で積極的な取組は評価できる。さらに効果につながるような試みについて、検討してほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（4）文化財情報の発信と広報の充実 **①　デジタル化の推進** （4館共通） 1）収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインター	**（4）文化財情報の発信と広報の充実** **①　デジタル化の推進**		

	ネットでの公開を継続して行う。 2）収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。 3）約6,200件　（東京：1,000、 京都：2,000、 奈良：3,000、 九州:200）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。			
2411		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。 2)国宝・重要文化財の高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。またiOS、Android それぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開し、アップデートを行った。 3)既存のシートフィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、25年度新規フィルム撮影分及び24年度末撮影分にあたる、カラーフィルム304枚、モノクロフィルム1枚をデジタル化した。また、マイクロフィルムについては当初予定していなかったが、25年度予算にて実施できることとなり、館史資料を中心とする550,000コマ(1,039リール）をデジタル化した。これをもって、既存マイクロフィルムのデジタル化についてもほぼ完了することができた。	A	順調
	（東京国立博物館） 1）外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 2）収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 3）収蔵品の和書のデジタル化を実施し、データを整備して、公開する。 4）法隆寺献納宝物について、5ヵ国語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。	(東京国立博物館) 1)「列品管理プロトタイプデータベース」について、検索性能の向上等のアップデートを行った。 2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。 3)収蔵品の和古書について18,307カット、また所蔵する洋古書について3,788カットのデジタル撮影を行い、公開に向けてデータを整備した。 4)「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」はサーバ機器が故障したため、25年4月より一時公開を停止し、バックアップデータと再構築の手順について調査した。開発当時作成されたバックアップデータの旧式カートリッジを読み取る機器を次年度調達してデータを精査し、利用可能であれば次年度の前半には再開可能となる見込みである。 ○東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。		
2412		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。	A	順調
		3)・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、2,682件実施した。 ・平成24年度導入のフィルム用スキャナについて本格運用を開始し、既存フィルムのデジタル化を促進した。 ・ガラス乾板及びマイクロフィルムのデジタル化を開始した。(詳細は処理番号2422を参照)		
	（京都国立博物館） 1）収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。	（京都国立博物館） 1)京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」の内容及び表示方法等について前年度に引き続き修正を行った。		
2413		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。 2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。 3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(7,615件)。	S	順調
	（奈良国立博物館） 1）収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 2）画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。 3）修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。 4）仏教美術情報の公開・普及を図る。	(奈良国立博物館) 1)収蔵品情報システムに新たに収蔵品となった文化財の情報を継続して蓄積し、『なら仏像館名品図録』掲載の情報も追加するなどして内容の充実に努めた。これらは公開用の収蔵品データベースにも反映され、当館から発信する収蔵品の基本情報、画像、解説文、文献をともに充実させることが出来た。 2)写真情報システムの個別データを9,093件追加更新した。このうち公開データは4,280件 3)「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ作成を継続して行い、学芸部内で運用しているデータベースのデータを更新した。 4)仏教美術資料研究センターのウェブサイトを運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。		
2414		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)「九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ」の拡充を図り、館内及びインターネットで継続して収蔵品情報を発信した。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、デジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。 3)62件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。	B	ほぼ順調
	（九州国立博物館） 1）収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。 2）海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。	(九州国立博物館) 1)デジタルアーカイブの充実を図るため、収蔵品に関するコンテンツの追加を検討している。 2)ドイツにおける博物館教育の実態を調査して写真に収め、今後の博物館教育の参考資料とした。		

	②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 （４館共通） １）約11,000件 （東京：3,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：2,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。	**②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化**		
2421	（東京国立博物館） １）資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 ２）法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。 ３）調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。 ４）資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)本年度は9,865件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (東京国立博物館) 1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、約8,500件の図書資料のデータ整備入力を推進した。また、展覧会カタログ約650冊と洋雑誌約640件の既存データについて、書誌データの確認・訂正を実施した。 ・今年度より国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)への雑誌の登録を開始し、洋雑誌639タイトル、和雑誌49タイトルの所蔵情報を登録した。 ・画像管理システムに画像データ9,865件を登録し、既存データ1,450件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。 ・貴重資料のデジタルアーカイブ公開にむけ、16件62冊の洋書・漢籍のデジタル撮影を実施した。 ・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続し、資料館利用者数は前年度に引き続き増加した。(5,661人。参考：24年度4,828人) 2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。 3)東京国立博物館開催の展覧会出品作品データベースに4,989件の作品情報を入力した。また、所蔵品情報と文献情報とを関連づけるため、当館刊行物に収載されている所蔵品を調査し、約120冊の図書・雑誌のデータに列品番号の情報を入力した。また記載された列品番号などの確認調査を行い、約90件について訂正、確認を関連部署に依頼し、画像及び列品情報の精度の向上に努めた。 4)ＶＲシアター跡及び黒田記念館の書庫スペースについて、書架の設置と資料の配置案の策定を行った。	A	順調
2422		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を 1,406 枚、デジタル撮影を 3,119 枚行った。 ・デジタルカメラ等撮影機材が導入され、デジタル撮影とフィルム撮影を並行して行った。 ・画像利用申請に伴う収蔵フィルムのデジタル化作業を継続して行った。 ・館蔵ガラス乾板の保存整理作業を継続して行い、ガラス乾板のデジタル化を始めた。 ・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを開始した。 ・経年劣化の激しいマイクロフィルムのデジタル化を開始した。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書 2,503 冊、逐次刊行物 1,411 冊を収集した。	A	順調
2423	（奈良国立博物館） １）図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 ２）仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(4,648件)。 (奈良国立博物館) 1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。 2)・当館が公開するOPAC（図書)、収蔵品データベース、画像データベースの連携を強化させ、情報発信と利便性の向上に努めた。 ・仏教美術資料研究センターに附属する資料庫の空調設備を改修し、貴重書・複製・拓本などの資料の保存環境を改善するとともに、利便性を考慮して一部資料の配置換えを行った。 ・仏教美術資料研究センターでは、通常の資料・施設の公開にとどまらず、ボランティアによる建築案内や、専門家の見学や研修の受け入れを複数回行った。外部からの見学・取材依頼は増加しており、それらに適宜対応することにより、機能及び施設の普及・宣伝に効果を上げている。	A	順調
2424	（九州国立博物館） １）対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。 ２）博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムについて継続的に見直しと改良を加え、より充実した業務システム構築を目指す。	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1) 1,512件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (九州国立博物館) 1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用のため、システムについて検討を行った。 2)博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムの検討を行った。	B	ほぼ順調
	③　広報計画の策定と情報提供	**③　広報計画の策定と情報提供**		
2430	（機構本部） １）機構の概要、年報を作成する。	**【本部事務局】** (機構本部) 1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成25年度』を25年7月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。	A	順調

		『独立行政法人国立文化財機構年報 平成24年度』を26年1月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。		
	2）機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。	2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。		
	（4館共通） 1）年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。			
2431		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。	A	順調
	（東京国立博物館、奈良国立博物館） 1）広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。	（東京国立博物館、奈良国立博物館） 1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)、「博物館でお花見を」「秋の特別公開」「博物館に初もうで」「本館リニューアル」他各種広報印刷物を制作・配布した。		
	（東京国立博物館） 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 1）本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。	（東京国立博物館） 1)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。		
	2）平成26年春の本館一部リニューアルオープン関連を含めた総合文化展の広報展開の企画・運営を行う。	2)『東京国立博物館ニュース』掲載、「博物館でお花見を」チラシ掲載、ウェブサイト・SNS による告知を行った。		
2432		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。	A	順調
2433		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)25年5月～26年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。	A	順調
	（東京国立博物館、奈良国立博物館） 1）広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。	（東京国立博物館、奈良国立博物館） 1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、5回実施した。		
	（奈良国立博物館） 1）特別展の際に、タクシー･ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー･ホテル等利用者への広報活動を展開する。	（奈良国立博物館） 1)特別展では、タクシー･ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー･ホテル等の利用者への広報活動を行った。		
	2）地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。	2)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。		
	3）地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。	3)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。		
	4）文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。	4)文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。		
	5）写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。	5)新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対して放送のための映像撮影協力を行い、博物館の認知度を高めた。		
2434		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館　展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(20,000部)	A	順調
	（九州国立博物館） 1）特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。	（九州国立博物館） 1)例年通り主催者と連携しつつ、広報・宣伝材料を作成し、告知の拡大に努めた。		
	2）現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。	2)例年同様、2ヵ月間隔で展示替えスケジュールを公開し、文化交流展室の展示内容の告知の拡大に努めた。		
	3）地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。	3)トピック展示ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。 福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。		
	4）九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。	4)九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。		
	5）文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。	5)特別展が開催されない正月期間の来館促進を図るため、オリジナル手ぬぐいを作成し、正月用ポスター等を掲出して展示・イベントの告知に努めた。		
	④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 （4館共通） 1）マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2）ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3）メールマガジンを配信する。	**④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動**		
2441		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。(26回)	S	順調
	（東京国立博物館） 1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回) 2）ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。	（東京国立博物館） 1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回) 2)・「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数116回) ・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。 ・25年7月より新たにSNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を開始し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。		
	3）主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。	3)新聞各紙の美術・文化担当記者ならびに文部科学省記者クラブのメンバーを対象とした記者懇談会を実施した。(25年11月20日)		

2442		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)・各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。 ・各展覧会の招待日のプレス発表会とは別に、調査研究成果のプレス発表会を随時開催し、博物館の研究活動の広報に努めた。 2)ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。また、メールマガジン読者限定特典のブックレット「京博PLUS」の配信を行った。(メールマガジン12回、ブックレット12回)	A	順調
	(京都国立博物館) 1)『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回) 2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。 3)京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。 4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。	(京都国立博物館) 1)『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年3回)の発行・配布を行った。 2)東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。 3)京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。 5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。		
2443-1		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2)特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。 3)メールマガジンを毎月1回配信した。(11回)	A	順調
2443-2	(奈良国立博物館) 1)特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回) 2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 3)奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と連携し、集客増に繋がる広報活動を展開する。 4)東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、	(奈良国立博物館) 1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回) 2)ウェブサイトの英語版に関して、すべての内容や用語の見直しを図った。適切な美術用語、新しい施設名称、外国人にも分かり易い表現などを積極的に採用し、アクセス数の集中する正倉院展の会期前までに修正を完了した。 3)奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、25年8月に3館(各2回)子ども向けワークショップ、25年9月に3館合同神戸シンポジウム、25年10月に3館合同外国人向けワークショップ、25年12月から26年2月にかけて3館リレー東京セミナー(計3回)、26年2月に3館(各1回)ワークショップを実施した。 4)・東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。	A	順調

	特別展等の割引特典付きチラシを配布する。	・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定(26年1月2日～5日)の無料観覧券(※名品展は観覧割引)を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。 ・特別陳列「お水取り」について、期間限定(26年3月7日～9日)の無料観覧券(※名品展は観覧割引)を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。		
	5)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。 6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに継続して掲載する。 7)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。	5)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。 7)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。		
2444		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回)　25年5月15日、フォーマットをリニューアルした。	A	順調
	(九州国立博物館) 1)ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の編集・発行・配布を行う。(年4回)	(九州国立博物館) 1)ウェブサイトにて文化交流展示室の「今月の名品」のスケジュール等を掲載し、また研究員が展覧会等の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。 2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。(年4回) ○『きゅーはく攻略本』を作成・配布した。(25年8月)		
	⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。 (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	**⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。**		
2451		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号2441参照)	A	順調
2452		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)ウェブサイトにおいて特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツ掲載	A	順調

		や更新を通じ、内容の充実に努めた。 ・ウェブサイトにおいて博物館概要、刊行案内などの充実を通じ、情報発信の強化に努めた。 ・メールマガジン及びメールマガジン読者特典ブックレットを配信し、親しみやすさの向上等に努めた。(詳しくは処理番号2442を参照) ・「Twitter」を通じて特別展会場の混雑状況を発信し、来館者サービスの向上を図った。 ・平成知新館(新平常展示館)に向けた当館ウェブサイトのリニューアルの準備をし、26年3月に製作を完了した。(26年6月公開予定) ・セキュリティ維持のため、サーバOSのアップデート及びWAF（ウェブアプリケーションファイヤーウォール）の運用を開始した。		
2453		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)・「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。 ・特別展および特別陳列を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。特に昨年以上に掲載作品を増やし、より展覧会の理解に資するよう努めた。 ・『奈良国立博物館だより』の最新版をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップした。 ・「第65回 正倉院展」の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置した。 ・アンケート集計結果を公表する頁を設け、平成23年度の「第63回 正倉院展」以降の特別展でお客様より頂いたアンケートの集計結果を提示している。	A	順調
2454		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)研究員が展覧会の解説を行う動画や駐車場空き情報の提供など、ウェブサイトの内容の充実を図った。	A	順調

		定量評価項目	25年度	24年度	目標値	評価
		収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数（件）				
		東京国立博物館	550,035	776	1,000	S
		京都国立博物館	2,682	2,732	2,000	A
		奈良国立博物館	7,615	4,924	3,000	S
		九州国立博物館	62	1,450	200	C
		収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数（件）				
		東京国立博物館	9,865	9,556	3,000	S
		京都国立博物館	4,525	2,713	3,000	S
		奈良国立博物館	4,648	4,960	3,000	S
		九州国立博物館	1,512	2,142	2,000	B
		各博物館発行の広報印刷物発行回数（回）				
		東京国立博物館				
		東京国立博物館ニュースの発行	6	7	6	A
		京都国立博物館				
		博物館だよりの発行	4	4	4	A
		Newsletterの発行	3	4	4	B
		奈良国立博物館				
		博物館だよりの発行	4	4	4	A
		九州国立博物館				
		「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4	4	4	A

3　我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

【中期目標】博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。

(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発行

【中期目標】収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。

【中期計画】
博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。
(1)収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【主な計画上の評価指標】
○各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表すること。
○各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行うこと。

【24 年度評価における主な指摘事項】
○インターネットを用いた公開も行われているが、今後は、多言語化、一般向けの分かりやすい成果報告など、なお一層の工夫が望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（１）調査研究の成果の発信	**（１）調査研究の成果の発信**		
3111		**【東京国立博物館】**	A	順調
	（東京国立博物館、京都国立博物館） １）文化財修理報告書を刊行する。	（東京国立博物館、京都国立博物館） 1)『東京国立博物館文化財修理報告』XIVを刊行した。		
	（東京国立博物館） １）東京国立博物館情報アーカイブを運用し、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 ２）紀要・図版目録等を刊行する。 ３）法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 ４）研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)	（東京国立博物館） 1)(東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照)。特別展図録・特集陳列印刷物（リーフレット）14件を発行した。そのうちPDFファイル版5件を東京国立博物館ウエブサイト上に公開することによって研究情報の普及を図った。 2)『東京国立博物館紀要』49号、『東京国立博物館図版目録　中世古文書篇』を刊行した。『東京国立博物館紀要』49号より「キーワード」を導入した。 3)『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXIV　聖徳太子絵伝(四幅本)２』を刊行した。 4) 研究誌『MUSEUM』643～648号を刊行した。今年度より「キーワード」を導入した。 ○特別展図録・特集陳列図録を編集した。 ○国際標準図書番号ISBN及び日本版商品識別コードJANを取得し、図書流通や図書館情報の利便性を図った。 ○出版企画委員会８回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会 11 回を開催し、博物館の出版事業の拡充を図った。		
3112		**【京都国立博物館】**	B	順調
	（東京国立博物館、京都国立博物館） １）文化財修理報告書を刊行する。 （京都国立博物館） １）研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 ２）社寺調査報告書等を刊行する。	（東京国立博物館、京都国立博物館） 1)『文化財保存修理所修理報告書10・11号』を刊行した。 （京都国立博物館） 1)研究紀要『学叢』第35号を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開した。 2)社寺調査報告書については南山城地域調査成果の一層の検討を深めるため、次年度に刊行することとした。 ○特別展等の図録を2巻刊行した。		
3113		**【奈良国立博物館】**	B	順調
	（奈良国立博物館、九州国立博物館） １）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （奈良国立博物館） １）研究紀要『鹿園雑集』を刊行し、ウェブサイトで公開する。 ２）入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。	（奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行される見込み（26年5月)。 （奈良国立博物館） 1)研究紀要『鹿園雑集』は、25年度内に編集作業を進めた（26年5月刊行見込み)。 2)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。 ○展覧会等図録６冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。		
3114		**【九州国立博物館】**	A	順調
	（奈良国立博物館、九州国立博物館） １）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （九州国立博物館） １）研究紀要『東風西声』を刊行する。 ２）保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。	（奈良国立博物館、九州国立博物館） 1)文化財修理に関する印刷物（「市民と共に ミュージアム ＩＰＭ」報告書、「第5回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」報告書）を刊行した。 （九州国立博物館） 1)研究紀要『東風西声』第9号を刊行した。 2)保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。		

		定量評価	25 年度	24 年度	目標値	評定
		研究誌の刊行回数(回) 東京国立博物館(MUSEUM)	6	6	6	A

(2)　海外研究者の招聘

【中期目標】国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

【中期計画】
(2)　文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【主な計画上の評価指標】
○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施すること。
○職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理	年度計画	主な実績	自己評価

番号			年度	中期
	（２）海外研究者の招聘等研究交流の実施 （４館共通） １）海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 （19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4） ２）当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 （31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4） ３）国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。	（２）海外研究者の招聘等研究交流の実施		
3211		【東京国立博物館】 (4館共通) 1)韓国、中国、アメリカ、イギリス、より21名の研究者を招聘し、学術交流に寄与した。 2)韓国、中国、アメリカ、イギリス、スペイン、ドイツ、イタリア等に延べ41名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会の準備・調査を行った。 3)上海博物館展関連事業として同館書画部副主任研究員李維琨氏を講師として講演会を開催した。	A	順調
	（東京国立博物館） １）学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 ２）アジア国立博物館協会(ANMA)理事会、ICOM 等の国際会議へ参加する。	（東京国立博物館） 1)韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。 2)第４回アジア国立博物館協会（ＡＮＭＡ）理事会・定期大会に出席、アジア 13 カ国の国立博物館代表者らと交流、情報交換を行い、ネットワークを強化した。(25 年 10 月 8 日～9 日)		
3212		【京都国立博物館】 (4館共通) 1)25年度実績はなし。 2)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。 3)25年度実績はなし。	B	ほぼ順調
	（京都国立博物館） １）諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。 ２）外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。	（京都国立博物館） 1)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。そのうち国際シンポジウムへ4人を派遣した。 2)外国人客員研究員の招聘実績はなし。25 年度は国際シンポジウムを実施しなかったため。また、ほかに招聘を要する事業もなかった。		
3213		【奈良国立博物館】 (4館共通) 1)中国・韓国の研究者計9名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を実施した。 2)職員延べ8名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。	A	順調
		3)26年2月27日に東アジア古代青銅器に関する国際研究集会を開催し、李眞旼氏（韓国国立慶州博物館）が「韓国の青銅器時代の文化と慶州―集落遺跡を中心に―」のタイトルで口頭報告した。		
	（奈良国立博物館） １）学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。	（奈良国立博物館） 1)中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。		
3214		【九州国立博物館】 (4館共通) 1)タイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等の研究者を16人招聘した。 2)当機構職員をタイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等に研究交流及び文化庁主催海外展「日本文化展」等のため、87人派遣した。 3)国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催、207人参加)	A	順調
	（九州国立博物館） １）国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。 ２）海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する	（九州国立博物館） 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。(韓国国立公州博物館) 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、専門的な講演を行った。(トルコ・トプカプ宮殿美術館)		

	定量評価	25 年度	24 年度	目標値	評定
	海外研究者招聘(人)				
	東京国立博物館	21	11	6	S
	京都国立博物館	0	3	3	F
	奈良国立博物館	9	7	6	S
	九州国立博物館	16	3	4	S
	研究員派遣(人)				
	東京国立博物館	41	34	6	S
	京都国立博物館	19	15	15	A
	奈良国立博物館	8	17	6	A
	九州国立博物館	87	60	4	S

(3)　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

【中期目標】国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。	
【中期計画】 (3)　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。	【主な計画上の評価指標】 ○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること

		【24 年度評価における主な指摘事項】		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（３） 保存修理事業者への研修プログラム （４館共通） １）保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。	（３）保存修理事業者への研修プログラム		
3311		【東京国立博物館】 (4館共通) 1)・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(25年8月19日～29日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から37名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」(25年7月29日～8月3日、5日の7日間)を別会場において開催し、受講生は11名であった。 ・大学院生のインターンシップを8名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(26年3月3日～14日)。	A	順調
3312		【京都国立博物館】 (4館共通) 1)毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヵ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計3回・140人) 参加者「狩野山楽・山雪」展 55人 「遊び」展 45人 「魅惑の清朝陶磁」展 40人 ・文化財修復に関わる大学院生（4人)のインターンシップ実習（25年8月19日～9月2日・9月9日～20日）を実施し、25年11月8日に口頭による報告会を開催し（出席者50人)、報告書を作成した。 ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を25年9月6日に実施した。(18人)	A	順調
3313		【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) ○保存修理事業者を対象とした研修会(計6回・71人) ・文化財保存修理所技術者研修会を、1回実施した(26年1月14日)。(1回・41人) ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(計5回・30人) ・25年10月2日：中国・敦煌研究院及び東京文化財研究所研究員による視察・研修（3人） ・25年11月11日：ドイツ・エジプト博物館のパピルス修復技術者による視察・研修(3人) ・25年11月20日：韓国伝統文化大学校 伝統文化教育担当者による視察・研修(5人) ・25年11月29日：アフガニスタン国立博物館及びウィーン美術史美術館の学芸員・修理技術者による視察・研修（9人） ・26年3月7日：民族学資料の収集・保存・情報化に関する実践的研究：ロシア民族学博物館との国際共同研究 参加者による視察・研修（10人） ○一般向け講演会等 保存修理事業者と協力した研修会を文化財保存修理所彫刻室使用者所属工房の修理担当者による文化財保存修理所事業成果報告「雄勝法印神楽 神楽復興に生きた文化財修理のわざ」を、1回実施した(25年11月24日)。	A	順調
3314		【九州国立博物館】 (4館共通) 1)・保存修理事業者を対象とした研修会として「古文書保存基礎講座」等を開催した。(計6回・139人) ・インターン8名を受け入れた。 ・保存修理事業者と協力した研修会として、短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を行った。 ・文化財保存、ＩＰＭ普及のための講座・研修を開催した。(計3回・215人)	A	順調

(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。	
【中期計画】 (4) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。	【主な計画上の評価指標】 ○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施すること 【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
3411	（４）収蔵品の貸与 （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）	（４）収蔵品の貸与 【東京国立博物館】 （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）	A	順調

	1）国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 （東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 （東京国立博物館） 1）長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2）海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。	1)国内の博物館等117機関に1,086件の作品を貸与した。 （東京国立博物館・奈良国立博物館） 1)下関市立考古博物館、大阪府立弥生文化博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 （東京国立博物館） 1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2)海外の美術館・博物館等6機関に51件の作品を貸与した。		
3412		**【京都国立博物館】** （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)82機関に対し626件の収蔵品・寄託品貸与を行った。（うち海外1機関に対し3件） 収蔵品の貸与件数：353件 寄託品の貸与件数：273件 計　　：626件 ○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。	A	順調
3413	（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。	**【奈良国立博物館】** （東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館） 1)収蔵品と寄託品を、国内外合わせて35の機関に、計135件貸し出した。	A	順調
3414	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 （九州国立博物館） 1）収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1)岩手県立博物館、平泉町（平泉文化遺産センター）の計2館との間で相互貸借事業を実施した。 **【九州国立博物館】** （九州国立博物館） 1）国内 31機関・海外 1機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。 （機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。文化庁・当館・ベトナム国立歴史博物館の共催になる 平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展は、海外機関への貸与として計上した。）	A	順調

(5)　公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(5)　公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。	○公私立博物館等に対する援助・助言を行うこと。 **【24 年度評価における主な指摘事項】** ○特に、文化財レスキュー事業で立入警戒区域での搬出作業などに尽力したことは、ケーススタディとして記録し、諸外国にも必要に応じて情報を提供できるようにしておくことが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（５）　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 （４館共通） 1）公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。	**（５）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進**		
3511		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、114件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(16件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(40件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(7件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(30件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(5 件) 東日本大震災において被災した博物館など3施設に対して、文化財保全のための救援活動を実施した。 ・博物館等の管理運営にかかわる助言(16件)	A	順調
	（東京国立博物館） 1）新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。	(東京国立博物館) 1)新規貸与館５館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。		
3512		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、43件の援助・助言を行った。 ・文化財の展示、修理にかかる指導助言　(9件) ・文化財の調査に関する指導助言　(11件) ・講演会、セミナー等における講演等での協力　(8件) ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力　(15件)	A	順調
3513		**【奈良国立博物館】** 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計71件を実施した。 ・文化財の展示にかかる援助と助言（18件） ・文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言（11件） ・講演会やセミナー等における講演等での協力（9件） ・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力（27件） ・博物館等の運営にかかわる援助と助言（6件）	A	順調
	（奈良国立博物館）	（奈良国立博物館）		

	1）石川県立美術館開館30周年記念「国宝　薬師寺展」（主催：国宝薬師寺展金沢開催委員会、北國新聞社、石川県立美術館、会場：石川県立美術館、会期：4月26日～6月23日）に学術協力する。 2）「法隆寺展（仮称）」（主催：法隆寺・読売新聞社＝予定、会場：福岡市美術館・静岡市立美術館・岡崎市美術館他＝予定）に向けた調査研究を行う。	1)石川県立美術館で開催の特別展「国宝 薬師寺展」（主催：同展実行委員会、会期：25年4月26日～6月23日）への学術協力として、同展への助言と輸送から陳列までの助力と助言を実施した。 2)平成26年度に開催の「法隆寺展―聖徳太子と平和への祈り」では、企画立案の段階から積極的に助言し、調査等にも同行した。		
3514	（九州国立博物館） 1）地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2）地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのＩＰＭ（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(64件) ・文化財の調査に係る助言(17件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(18件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言　(26件) ・講演会、セミナー等における講演(2件) ・福島文化財レスキュー事業(福島県内被災文化財等救援事業)（1件） (九州国立博物館) 1)「古文書保存基礎講座」を実施した。 2)文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアムＩＰＭ支援者研修」基礎編・技術編・実践編を実施した。	A	順調

4　文化財に関する調査及び研究の推進

【中期目標】我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

【中期計画】

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

①我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し調査・研究を実施する。

②我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るため、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する。

③歴史的建造物の保存・活用の促進等を図るため、建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。

④無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るため、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術に関する調査・研究を実施する。

⑤文化財の保存に加え、地域振興・国際的動向の観点も含めた活用の促進等を図るため、記念物に関する調査・研究を実施する。

⑥古代日本の都城の解明等を図るため、平城宮跡、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関する調査・研究を実施する。

⑦文化的景観の文化財としての概念の定着と保存・活用の促進等を図るため、文化的景観に関する調査・研究を実施する。

⑧遺物及び遺構の保存・活用の促進等を図るため、埋蔵文化財に関する調査・研究を実施する。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。

○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（１）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。	**（１）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進**		

	①　我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。			
4111	ア　他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。	**①－ア　文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究** 昨年度一般公開を開始した「東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版)」に 11 号～50 号までをアップし、明治期の残り分についてのデータ処理を進めた。引き続き図版を主とする貴重書の公開方法について検討を重ねた。また、東京文化財アーカイブズの基幹のひとつとして「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」を作成した。アーカイブズを主題とする各種研究会を開催し、アーカイブズのあり方について検討した。なお、国立情報学研究所と東京文化財研究所アーカイブズ構築にかかわる共同研究契約を締結した。	A	順調
4112	イ　日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。	**①－イ　文化財の資料学的研究** (1)調査 東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業 (2)美術史研究のためのコンテンツ形成 14世紀在銘彫刻作品のデータ入力と年表（棒目録）作成、中世絵巻詞書文字総覧のためのデータ入力 (3)研究交流促進のための研究会の開催 植野健造氏（福岡大学教授）の招聘・研究会発表（25 年 9 月 24 日）鄭于澤氏（韓国東国大学校教授・同大学校博物館館長）の招聘・研究講演（25 年 10 月 4 日）染谷香理氏（東京藝術大学大学院）の研究会発表（25 年 11 月 26 日）佐藤全敏氏（信州大学准教授）の研究会発表（25 年 12 月 6 日）	A	順調
4113	ウ　日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。	**①－ウ　近現代美術に関する交流史的研究** 東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を完了、併せて黒田作品の調査も行った。東アジア美術交流の調査研究では、米国の研究者による日中の彫刻概念の成り立ちについての講演を開催。我が国の現代美術の動向に関する調査研究としては、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料及び美術評論家の故鷹見明彦氏旧蔵資料の整理・調査を進めた。	A	順調
4114	エ　美術や文化財についてのより深い理解を形成するため、彫刻や絵画を中心に、その表現・技法・材料の問題に対して基礎的な情報を収集・整理・蓄積するとともに、関連諸分野と連携した多角的な調査研究を行う。	**①－エ　美術の表現・技法・材料に関する多角的研究** 本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を作品の観察、文献資料あるいは科学的手法による分析を実施しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・工芸作品を中心に各地で作品調査を進めるとともに、日本の平安時代絵画や展覧会を通じた日本製輸出螺鈿漆器についての検討、またこれまで本プロジェクトで行ってきた絵画や世界各地の螺鈿漆器について発表を行った他、ウェブサイト上で公開している奈良時代の資料にあらわれた彩色語彙についてデータベースの増補を実施した。また今年度よりの新規事業として、当研究所が所蔵する文化財を撮影したガラス乾板のデジタル化作業を開始した。	A	順調

4121	②　日本の歴史、文化の源流等の実態を探り、それらを記録した資料の保存活用に資するために、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、公表に向けて整理検討を行う。	**②　近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究** 奈良市教育委員会との連携研究の成果として、『大宮家文書調査報告書』を公刊した。大宮家文書は、鎌倉時代から江戸時代まで春日大社の神人だった大宮家に伝わる、中世・近世文書群であり、春日大社研究の基礎史料となり得るものである。また、唐招提寺が所蔵する資料を翻刻して『唐招提寺授戒帳』として刊行した。近世唐招提寺の授戒の実態・近世受戒僧の名を一覧できる基礎資料である。また、内山永久寺旧蔵の扁額が、宝治元年(1247)に藤原教家が筆を執った扁額であることを明らかにした。また、科学研究費補助金も充当して行った東大寺古文書調査について、科学研究費補助金の報告書を 2 冊公刊し、所蔵資料の目録等を公表した。	A	順調
4131	③　我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、古代建築の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、整理が終了したものより順次公表を行うとともに、伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査・研究を推進し、伝統的建造物群の保存を行っている各地への協力を行う。また、アジア地域における文化財建造物の保存・修復及び伝統的建造物群の保存・活用について、関係各国に対し協力を行う。	**③　我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究** 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査を行った。	A	順調
4141	④－１　無形文化財の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集、記録作成を行い、その成果の一部を公開学術講座として発表する。具体的には伝統音楽・伝統芸能で用いる楽器、能楽の文献資料、未調査の音声・映像資料の整理と古い媒体による音声・映像資料の再生及びデジタルアーカイブ化、工芸技術に関する技法書及び工芸技術記録等を対象に調査を行い、能楽及び講談等の記録作成を行う。	**④－１　無形文化財の保存・活用に関する調査研究** 古典芸能の作曲法、染織技術を支える選定保存技術について調査を行い、無形文化遺産部所蔵音声・映像資料の整理、伝承の変化の大きい伝承芸能について実演記録を作成し、楽器に関して国際会議等で発表した。	A	順調
4142	④－２　我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。 また、これまでに研究所で収集・保管している記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努める。	**④－２　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究** 民俗技術や風俗慣習、民俗芸能の伝承実態・伝承組織について現地調査と資料収集を行った。特に東北の被災地域における無形民俗文化財の現状調査は昨年度に引き続き重点的に行った。また、無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議した。特に今年度はこれまで研究の進んでいなかった民俗技術の分野をテーマに取り上げ、関係者間の協議やネットワーク形成を図った。その成果は報告書にまとめ、関係者及び関係機関等に配布した。	A	順調
4143	④－３　日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員交流や無形文化遺産関連調査を行うなど、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。	**④－３　無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集** 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成 23 年度に調印した合意書に基づき、研究員の相互派遣を内容とする研究交流を実施した。また関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し、海外研究者への助言や調査協力を通して、無形文化遺産分野における国際的情報収集及び情報提供を行った。	A	順調

4151	⑤　我が国の記念物に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア　遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行うとともに、遺跡等の保存・活用に関する一体的な研究を推進し、個々の状況に応じた適切な管理・整備等に資する。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、遺跡等のマネジメントに関する研究集会を、計画の策定と実施をテーマとして、文化的景観に関する研究集会と合同で開催する。	**⑤－ア　我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）** 「計画の意義と方法」を主題として遺跡等のマネジメントに関する研究集会を開催するとともに、過年度の成果について、『パブリックな存在としての遺跡・遺産』［平成 24 年度遺跡等マネジメント研究集会（第 2 回）報告書］を刊行・配布するなど、その普及等を行った。	A	順調
4152	イ　庭園史に関する文献調査・内外での現地調査等を行い、研究会を開催するとともに、日本庭園に関する基礎的資料のデータベース化を進める。 また、これまで取り組んで来た公開英文情報の増補改訂を行うとともに、所蔵資料の整理を進める。	**⑤－イ　我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）** 中世の庭園・建築・文学・美術史などの研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書としてまとめた。奈良市における庭園の悉皆的調査に取り組み、寺院庭園の調査を行った。	A	順調
4153	ウ　不動産文化財等に関連する各種研究成果について、米国コロンビア大学との研究交流のもとに成果発表を行う。	**⑤－ウ　我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）** 米国・コロンビア大学からのインターン（3 名）受入の対応を行った。米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に係る講演 2 件を実施した。	A	順調
	⑥　国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。			
4161-1	ア　古代都城の実体解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。	**⑥－ア－１　平城宮跡第一次大極殿院の発掘調査** 礫敷広場・石敷列・幢旗の遺構等を検出し、また第一次大極殿院の大極殿院の様相解明と復原整備に活かしうる資料を得た。これらの発掘成果を記者発表・現地説明会・刊行物により、広く公開した。	A	順調
4161-2		**⑥－ア－２　平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査** 北側の調査区では掘立柱建物を検出した。遺存する柱根の規模から大規模な建物の一部である可能性があり、また数度の建て替えがあることも判明した。これらから、平城京の宅地としては比較的大規模な建物群が存在していたことが明らかとなった。南側の調査区では三彩瓦を含む瓦溜まりを検出した。これまでも同坪では三彩瓦が出土しており、既往の調査成果と合わせて、きわめて特異な土地利用の実態が明らかとなった。	A	順調
4161-3		**⑥－ア－３　平城京右京一条二坊四坪の発掘調査** 平城京右京一条二坊四坪の学術調査。奈良文化財研究所の庁舎建て替えに伴う予備調査として、現庁舎の周辺に 6 箇所の調査区を設定した。このうち北方の 1 箇所の調査区で条坊遺構を確認し、遺構の遺存状況が比較的良好であることを確認した。南方の 4 箇所の調査区では、奈良時代～中世の遺物を含む沼状の堆積を確認し、奈良時代の遺構が失われていることが判明した。現庁舎を機能させたままで可能な 大限の調査を行い、遺構の遺存状況を確認することができた。	A	順調

4161-4		**⑥－ア－４　古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行** (1)第 17 回古代官衙・集落研究集会を開催した（25 年 12 月 13・14 日）。テーマは「長舎と官衙の建物配置」である。各地の官衙遺跡における長舎建物について、考古学、建築史学、文献史といった各方面から検討し、長舎の出現や展開や機能など多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。 (2)昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第 12 冊塩の生産・流通と官衙・集落』として刊行した。	A	順調
4161-5		**⑥－ア－５　古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行** (1)第 14 回古代瓦研究会シンポジウムを開催した（26 年 2 月 8・9 日）。テーマは「8 世紀の瓦づくりⅢ－平城宮式軒瓦の展開 1 6225-6663 系－」である。シンポジウムでは、平城宮式軒瓦の主体をしめる 6225-6663 型式について、平城宮・京での出土状況、また各地における当該形式採用の経緯などについて多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。 (2)第 12 回シンポジウム（平成 23 年度）、第 13 回シンポジウム（平成 24 年度）の成果を、『古代瓦研究Ⅵ』として刊行した。	A	順調
4161-6		**⑥－ア－６　藤原宮跡の発掘調査奈文研都城発掘調査部（藤原）** 藤原宮朝堂院朝庭東北部の発掘調査を実施した。調査の結果、朝庭の礫敷広場、排水用の礫詰暗渠、礫敷上から掘り込む柱列などを検出し、さらに朝庭の下層において、藤原宮造営期の溝や大小の沼状遺構を確認した。朝庭の空間利用や藤原宮の造営過程を考える上で、貴重な手がかりを得た。	A	順調
4161-7		**⑥－ア－７　飛鳥地域発掘調査奈文研都城発掘調査部（藤原）** 第 177 次調査では、既往の調査区とは異なる谷地を調査し、7 世紀代に谷の斜面を切土・盛土し、平坦面を造成していたことが明らかとなった。また、建物 2 棟、溝 1 条、炭溜 3 基、土坑群などを検出した。	A	順調
4162-1		**⑥－イ－１　平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等奈文研都城発掘調査部（平城）** 本年度の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構について、整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業を行い、今後の研究の基盤を整えるとともに、発掘調査の記者発表や現地説明会等に備えた。これらは平成 26 年度刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2014』の報告の準備ともなる。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構についても、整理・分析・調査を継続して実施した。	A	順調
4162-2	イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。	**⑥－イ－２　飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等** 本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、成果の一部を公表した。	A	順調

4163	ウ　飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、出土遺物を中心とした資料の調査を実施する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺等の飛鳥・藤原京跡内寺院の出土部材の研究を行う。	**⑥－ウ　東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究** (1)キトラ古墳、高松塚古墳壁画に関する研究を継続した。 (2)飛鳥寺塔心礎出土品の再整理を継続した。 (3)川原寺裏山出土塑像の再整理を実施した。 (4)日光男体山山頂出土鏡の分析を実施した。 (5)山田寺出土部材の計測調査を継続した。	A	順調
4164	エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（陶磁器窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、遼西地域の都城に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との共同研究、中央アジア地域出土資料に関するカザフスタン・カザフ国立大学への研究協力及び中国霊井遺跡出土品に関する河南省文物考古研究所への研究協力を協定に基づいて実施する。また、整理が終了したものより順次公表を行う。	**⑥－エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力** (1)北魏洛陽城宮城における共同発掘調査の遺物整理作業、渤海・遼金代都城遺跡の踏査を実施した。 (2)三官営子遺跡の踏査を実施。金嶺寺遺跡出土瓦・大板営子遺跡出土鉄製品・銅製品の調査を実施した。 (3)唐三彩関連資料の調査を実施した。 (4)日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施し (5)カザフスタン関係資料の収集を実施した。 (6)報告書原稿を河南省文物考古研究所に納品した。	A	順調
4171	⑦　文化的景観及びその保護に関する基礎的・応用的な調査研究を推進するとともに、諸外国との比較のもとに、我が国の文化的景観保護に関する情報の収集・検討等を行う。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会を主催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に取り組む。なお、例年開催の研究集会については、計画の策定と実施をテーマとして、遺跡等のマネジメントに関する研究集会と合同で開催する。	**⑦　文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究** 文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、“「文化的景観学」検討会”を開催したほか、現地調査等を行い、論文等を通じて成果を報告した。また、『World Heritage Papers 26』の翻訳作業等を進めた。	A	順調
4181	⑧　我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア　全国の遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。	**⑧ア　遺跡データベースの作成と公開** 官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における長舎遺構を重点的に収集し、宮都や居宅・集落まで範囲を広げて全国的に網羅する『長舎遺構資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から中部地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して資料収集を行った。	A	順調
4182	イ　出土遺物等の材質構造調査を行い、劣化状態に関する基礎データを集積する。また、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵中に生じる遺物の劣化現象に関して、環境が及ぼす影響の基礎データを集積する。	**⑧－イ　出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査** (1)鉱物の標準試料のラマンスペクトルを集積するとともに、顔料やガラス、石製遺物のラマンスペクトルを取得した。 (2)遺跡から出土したトンボ玉のＸ線ＣＲ撮影及びＸ線ＣＴ撮影を実施することにより、製作技法を明らかにした。	A	順調

		(3)木造建造物の塗装の彩色調査を行い、使用された色料について明らかにした。 (4)金属製遺物出土遺跡の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵環境が金属製品の腐食に与える影響の解明に取り組んだ。 (5)「文化財の収蔵・展示環境」をテーマとした研究集会を開催した。		
4183	ウ　平城宮跡等をフィールドとして、遺構における水分移動及び溶質移動に関する計測と数値解析を行い、遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集する。	**⑧－ウ　遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集** 土質遺構の露出展示を実施予定の平城宮跡遺構展示館を調査フィールドとして、遺構土壌における熱・水分同時移動解析を行い、遺構土壌の適切な含水状態を維持し塩類析出を抑制するための環境条件、及び保護施設としての覆屋の仕様について検討した。ベトナムのタンロン皇城遺跡では遺構土壌の熱・水分移動特性に関する試験を行い、現地で実測調査を行った外界気象条件に基づき、埋め戻し保存法について検討した。ガランドヤ古墳では石室周辺の熱・水分同時移動解析を行い、石室内石材表面での結露発生を抑制するための手法として、石室内空気への熱源の使用、及び石室外の地盤を断湿材で覆うことの有効性を検討した。また、元町石仏では塩析出を抑制する手法を検討するため、最も重要な物性値である石材の透水性状について試験を行うとともに、磨崖仏表面への石材基質強化剤及び撥水剤使用の良否について検討した。	A	順調

(2)　文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

【中期目標】文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。

【中期計画】

(2)　文化財の研究に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

①文化財の現状及び経年変化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成方法等について研究・開発を実施する。

②遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の調査手法に関する研究・開発を実施する。

③木造文化財の年代及び産地の特定等を図るため、年輪年代の調査手法に関する研究・開発を実施する。

④過去の生業活動の解明等を図るため、動植物遺存体等の調査手法に関する研究・開発を実施する。

【主な計画上の評価指標】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（２）文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。	**（２）文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進**		

4211	①　高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。	**①　文化財デジタル画像形成に関する調査研究** 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財に対して最先端の光学調査を行うことによって得られた高精細画像や特殊撮影画像を分析研究し、さらにその公開による広範な利用を目指して、本年度は宮内庁三の丸尚蔵館との共同調査研究として春日権現験記絵、奈良国立博物館との共同調査研究として国宝當麻寺板曼荼羅（當麻寺所蔵）他の調査・撮影を実施した。この他、経年変化で判読不能となったジアゾ式湿式青焼コピーの撮影による復元研究を継続して行った。	A	順調
4221	②　埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査と遺構・遺物の計測、それらの成果を公開・活用する方法について重点的に研究を進める。	**②　文化財の測量･探査等に関する研究** (1)三次元レーザースキャナーによる遺構・遺物計測の精緻化と迅速化を検討し、実用化を達成した。 (2)簡便で廉価な写真計測法を導入して試験を行い、実用化への見通しを確立した。 (3)アレイ式地中レーダー探査を導入し、探査試験を実施した。 (4)磁気探査機器の計測の高速化及び多プローブによる同時測定の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。 (5)各地の依頼により、計測及び探査を実施した。	A	順調
4231	③　出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資する。とりわけ、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた調査手法は貴重な文化財の非破壊調査に有効であるため、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。	**③　年輪年代学研究** ６都府県下 10 遺跡の出土木製遺物、４県下４棟の木造建造物、２ヵ国７府県下 10 件の木造美術工芸品、３県下３件の自然木について、年輪年代調査と樹種同定調査を実施した。このうち、１件の出土木製遺物及び１件の美術工芸品に対してマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置による調査を実施したほか、木製ではない３件の出土遺物の内部構造把握のため、同装置による非破壊検査を行った。また、これらの調査・研究成果の一部を論文等、学会等発表において公表した。	A	順調
4241	④　動植物遺存体による環境考古学的研究を継続的に実施する。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。	**④　動植物遺存体による環境考古学的研究** 震災復興事業に伴う発掘調査に対する支援を行うとともに、幅広い時代の動植物遺存体の分析を進め、その研究成果を国内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等での発表・講演のほか、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製した。	A	順調

(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	

①大規模燻蒸に替わるカビ対策のシステム化等を図るため、文化財における生物被害の予防と対策に関する調査・研究を実施する。 ②文化財の状態の安定化等を図るため、文化財の保存環境に関する調査・研究を実施する。 ③文化財の材質分析及び劣化診断の向上等を図るため、計測手法に関する調査・研究を実施する。 ④屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害による被害軽減のため必要な調査・研究を実施する。 ⑤文化財に用いられた伝統的な技法及び合成樹脂などの修復材料に関する研究を行い、成果を文化財修復や人材育成に活用する。 ⑥近代文化遺産の保存のための修復材料及び技法の開発評価を行い、成果を保存修復に活用するとともに、海外研究機関との共同研究を推進する。	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（３）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	**（３）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進**		
4311	①　被災文化財等の保管現場を含め、博物館、美術館、図書館、寺社等の文化財のカビの予防、対策が現場でシステマティックに行えるよう、方法論の整理・確立を目指す。また、屋外など環境管理が難しい場所での制御方法についても検討を行う。	**①　文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究** (1)本年度は津波被災民俗資料や写真等の微生物被害についての調査研究を行った。津波被災文化財に発生した微生物は共通して高い塩耐性があることを確認し、洪水などの淡水の被災より微生物被害が起きにくい傾向にはあるが、速やかな応急処置が必要であることを報告した。 (2)環境制御が難しい屋外の装飾古墳などにおいて、浮遊・付着微生物制御のためのモニタリングや除菌清掃の機会を活用し、最適な微生物対策についての検討を行った。	A	順調
4321	②　保存環境を考慮した文化財の展示・収蔵施設の省エネ化の研究及び環境データやシミュレーション技術を用いた文化財の保存環境改善のための研究を推進する。	**②　文化財の保存環境の研究** 本年度は主に気流解析と温湿度測定の比較を行い、気流解析の有効性を評価した。また、熱・換気回路網シミュレーションにより、改修工事が温湿度環境に与える影響について評価した。また、展示ケース建築材料のうち、コーキング剤について、放散速度を実測した。これまでに得られた内装材料の結果と合わせて、望ましい形の実験用の実大展示ケースを試作し、実スケールでの試験と評価を行うための準備を整えた。	A	順調
4331	③　文化財の材質分析及び劣化診断を目的とした計測手法に関する調査研究を進める。 ア　小型可搬型機器の改良を行い、無機及び有機質彩色材料に対する分析精度の向上を目指すとともに、彩色文化財等のその場分析への適用を進める。	**③ーア　文化財の材質及び劣化調査法に関する研究** 基礎的研究として、小型可搬型機器によるその場分析の適用性向上を目的に機器や治具の改良等を行い、分析対象とする文化財の適用範囲の拡大を図った。また、応用	A	順調

		的研究として、平安～江戸期の日本絵画の彩色材料調査、及び工芸品等の材質調査を積極的に進め、データの解析と蓄積を図った。さらに、これまでに小型可搬型機器を用いて実施した光学調査の成果をまとめ、調査報告書を刊行した。		
4332	イ　ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。	**③－イ　ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等** サブミリ波イメージングにより、絹本著色の掛軸の層構造に関する非破壊調査を行った。フレスコ画試験体の層構造の検出に関する核磁気共鳴法とテラヘルツ分光イメージングの比較研究を行った。	A	順調
4341	④　石造・木質文化財を対象に、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石造文化財及び美術工芸品の災害対策に関する基礎的調査を行う。さらに、被災文化財に関して、被災状況に合わせた保存・修復方法の研究を行う。	**④－１　周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究** 石造文化財や木造建造物など屋外にある文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響の軽減手法及び修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)磨崖仏の保存環境制御に関する現地試験及び石造文化財劣化と周辺環境影響に関する調査、(2)積雪寒冷地における木造建造物の保存環境に関する調査を実施した。	A	順調
4342		**④－２　文化財の防災計画に関する研究** 平成 25 年度は、(1)東日本大震災被災文化財に関する研究では、福島県の要請に応じて旧警戒区域内での文化財救援活動を継続し、新たに福島県被災文化財等救援事業の実施を実現した。宮城県では、同県被災文化財等保全連絡会議との連携を図りつつ、救援文化財一時保管場所について温湿度・生物環境に関する調査を実施した。また、津波水損文化財を対象に修復方法に関する実験研究を行った。(2)文化財の地震対策に関する研究では、東大寺戒壇堂建物の常時微動調査、石造文化財について石造多層塔の現地調査や石灯籠の振動台実験を行った。	A	順調
4343		**④－３　文化財の放射線対策に関する研究** 平成 25 年度は、(1)放射線量の測定方法、環境評価等に関する研究では、ワーキンググループ会議を 3 回開催し、放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成した。(2)汚染状態の現状把握と除染方法等に関する研究では、福島県で現地調査を開催するとともに、ワーキンググループ会議を開催して、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめた。これらの結果に関して、プロジェクトチーム会議及び研究会で議論を行い、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめた。	A	順調
4351	⑤　文化財の真正性を考慮した修復に寄与するために、伝統的修復技術及び材料の調査・分析を行う。また、これまで使用されてきた修復材料の追跡調査を行うことにより、それらの評価を行う。さらに、修復に今後使用されることが想定される材料について、それを文化財に適切に使用するための調査・研究を行う。	**⑤－１　文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究** 本年度は中期計画の 3 年目にあたり、伝統的な文化財建造物の塗装材料である漆塗装や乾性油塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。また、これまであまり注目されてこなかった欄間木彫等の凹凸がある部材の塗装彩色の劣化メカニズムの解明や伝統技術及び材料の調査、現状維持修理方法の策定、復元レプリカの作成を伴う資料活用方法の模索などの調査研究にも着手した。合成樹脂に関する調査では、過去使用した建造物塗装のうちで合成樹脂を使用した際の劣化状態の調査と、伝統素材である膠材料を強化するため、合成樹脂とブレンドした際の塗膜の状態を理解するための基礎実験を継続した。また、第 7 回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会を開催した。	A	順調
4352		**⑤－２　文化財修復材料の適用に関する調査研究** 絵画修復材料に関する化学分析、クリーニング方法の検討実験を行った。建造物修理材料の現地曝露試験とその評価を開始した。工芸品の調査としてベトナム漆の現地調査を行った。	A	順調
4361	⑥　近代文化遺産の特徴であるレンガ・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化状況や保存手法に関する調査・研究を行う。写真や図面等紙資料類等の保存修復に関する研究を進める。史跡の構成要素となっている建造物や構造物の保存理念や活用手法に関する研究を進める。ドイツ技術博物館との共同研究及び欧米あるいは東南アジアでの保存や修復事例調査を行う。	**⑥近代の文化遺産の保存修復に関する研究** (1)服飾品：明治維新以降急速に普及した洋服、建築物や列車（御料車など）の室内装飾に使用された裂地などの保存と修復及び活用に関して、また、それまで服飾には使用されてこなかった材料を使った服飾品の保存手法等に関して関係者を招き、研究会を開催し、美術的な位置づけや技術的問題点に関する保存と修復手法について、発表、討論を行い、保存や修復に関する理解を深める事ができた。 (2)屋外展示物：屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。 (3)建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡、長崎県端島（軍艦島）、山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉など、史跡指定地に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。 (4)報告書：昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。	A	順調

(4)　国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】　国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(4)　高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	(4)		

4411	① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	**①－１ 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** 高松塚古墳壁画については、壁画表面のクリーニングを継続実施するとともに、微生物による彩色の汚損被害について、効果が期待される酵素群の利用に関する研究を継続して進めた。キトラ古墳壁画については、墓室壁面から取り外した壁画の再構成作業実施にあたり、裏打ち材料の選定、強度の評価等に関する研究を行った。25 年 9 月の古墳施設整備作業（埋め戻し）までの間、石室・小前室などの温湿度の計測、古墳周辺の気象観測を実施した。両古墳壁画に用いられている材料に関して、各種機器による分析調査とマクロ撮影による状態調査を行った。	A	順調
4412		**①－２ 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** 文化庁が進める国宝高松塚古墳壁画の保存･活用に関する事業が円滑かつ適正に遂行するよう協力した。キトラ古墳では、史跡整備にむけて、墓道部の最終的な考古学的調査や記録作業を実施した。また、古墳の保存、活用、整備の方向性を検討にするにあたり、技術的な支援・協力を行った。	A	順調
4421	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	**②国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力** 本年度は檜隈寺の塔の南北軸線上にあたる位置（A 区）と回廊東南隅（B 区）の調査区を設定した。A 区では古代の建物や溝、B 区でも中世と思われる建物を検出した。	A	順調
4431	③ 農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	**③農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力** 大和平野支線水路等改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原京右京七条一坊および藤原宮外周帯（橿原市上飛騨町）にあたる。調査区は、幅約 1.5m（一部 2.4m）、南北約 110mで、調査面積は 182 ㎡である。その結果、古代の素掘溝を検出し、記録した。	A	順調

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

【中期目標】有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。 ①適切な作品の収集・修理計画を立て、分かりやすい効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う。 ②日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ③平安時代から江戸時代までの京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。	
④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う。 ⑥有形文化財の保存と活用の向上を図るため、有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究を行う。 ⑦有形文化財の次世代への継承に寄与するため、文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究を行う。	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（５）有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める。	（５）		
	① **収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究** （東京国立博物館）	① **収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4511-1	１）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究を行う。	**１）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** 収蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後・収集・展示の対象となりうる文化財と、それらに関連する資料等について、美術史学・歴史学・考古学・博物館学等の多様な見地から調査研究を行い、その成果を学会・研究会・学術雑誌・書籍等に発表・公開した。	A	順調
4511-2	２）特別調査法隆寺献納宝物（第35次）「金工品」第1回を行う。	**２）特別調査法隆寺献納宝物（第 35 次）「金工品」** 国宝 水滴１合・墨台１基・匙３本（法隆寺献納宝物）についての実見調査を実施した。	A	順調
4511-3	３）特別調査「書跡」第11回を行う。	**３）特別調査「書跡」（第 11 回）** 当館で所蔵・収集した書跡分野に属する古筆切と文化庁所蔵の書跡・典籍 計 56 点について、作品の名称、古筆切としての通称、制作年代、形状、界線について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『国歌大観』の収載番号との照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質分析の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解読し書誌情報を収集した。また対象全件について法量を計測した。なお、本年度はスケジュールの都合により調査会場が狭隘であったため、高精細画像の撮影は実施しなかった。	A	順調
4511-4	４）特別調査「工芸」第5回を行う。	**４）特別調査「工芸」第 5 回** 東京国立博物館の金工・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。金工調査では、対象列品の用途を探る手掛かりや制作年代について議論を深め、制作当初の用途や組み合わせに関する新たな可能性も指摘され、今後の検討方針が明確になった。漆工調査では、香道具の中でも不定形な様相を示す香箪笥をとりあげ、香道具の融通無碍なあり方について認識を深めた。また同時に、香道具に用いられた加飾技法や材料の多様性が浮かび上がる結果となった。	A	順調
4511-5	５）特別調査「彫刻」第3回を行う。	**５）特別調査「彫刻」第 3 回** 建仁寺西来院の調査において蘭渓道隆坐像の制作年代、作者が判明、像内に鎌倉時	A	順調

		代と推定できる肖像彫刻の頭部前面を発見した。 六道珍皇寺の小野篁・冥官・獄卒立像の調査において制作年代と作者が判明した。 当館東洋彫刻の調査において時代不詳とされていた作品を北斉時代・6 世紀の作と判定した。		
4511-6	6）特別調査　屏風の箔地についての光学的調査研究を行う。	**6）特別調査　屏風の箔地についての光学的調査研究** 国宝「花下遊楽図屏風」の幔幕や衣装について蛍光Ｘ線分析による絵具調査を行い、これまで行ってきた箔地調査の結果を踏まえて検討した。蛍光Ｘ線分析により、現在茶色に見える部分や黒い部分に銀が使われていることを確認し、それにより江戸時代初期の狩野派作品が金から銀への嗜好へと変わる可能性を検討した。	A	順調
4511-7	7）油彩画の材料・技法に関する共同調査を継続して行う。	**7）油彩画の材料・技法に関する共同調査** 平成 20 年 11 月から開始した本調査は、3 年間の調査期間の締結を更新し、さらなる調査を進めている。本年度調査が終了した作品は、9 点である。	A	順調
4511-8	8）漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究を行う。	**8）漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究** ・漆塗籠棺残片の保管履歴を整理し、現状を確認した。 ・理化学的調査分析の計画を策定した。 ・断片の乾燥処置方法について検討した。	A	順調
4511-9	9）東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査を行う。	**9）東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査** 平成 24 年度に高精細デジタル画像撮影を行った国宝「千手観音像 A-10506」について東博・東文研両機関研究員による検討会を開催し、撮影画像をもとに「千手観音像」に用いられた技法を詳細に観察、検討した結果、截金上にさらに彩色が加えられているとみられることなど、従来認識されてこなかった細部の技巧についての知見を深めることができ、今後の平安仏画の美的表現の研究・公開に資するに足る重要な資料を得た。また、来年度も継続的に調査と検討を行うために国宝「普賢菩薩像 A-1」の高精細デジタル画像撮影を行った。	S	達成
4511-10	10）板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究を行う。	**10）板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）** 伝来資料について、2,791 点（5,012 カット）の撮影を終了するとともに、並行して下絵と関連する原品作品の確認など知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会を開いたのに加え、本年度は資料中に下絵類の見出された新潟県浦佐毘沙門堂（普光寺）山門の障壁画調査（25 年 8 月 28・29 日）及び撮影を行った。	A	順調
4511-11	11）中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究を行う。	**11）中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究（科学研究費補助金）** 聖徳太子絵伝は現在 40 件ほどが知られており、それらは想定される享受環境の違いによって画面形式や図様・画面構成に違いがあり、制作集団の違いも想定されている。各々の作品群の詳細な分析と、他の関連作品との比較検討を行なうため、館蔵品、寄託品、及び館外作品の調査研究を進めた。あわせて、太子絵伝と密に関わる中世太子伝諸本から各年代の事蹟を比較参照できるよう、データ化を行った。	A	順調
4511-12	12）光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究を行う。	**12）光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究（科学研究費補助金）** 昨年度までに撮影した高雄曼荼羅の画像合成等作業を完了した。高雄曼荼羅の表	A	順調

		現・技法を考えるために、その製作と同時期の作品が残る中国山西省の五台山の寺院の調査及び韓国の密教美術の調査を実施した。		
4511-13	13）古筆切紙背の史料学的研究を行う。	**13）古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金）** ・平成 23 年度・24 年度に蓄積したデータ等をもとに、古筆切紙背の伝存状況や特質について考察を行った。 ・当館で長期借用している古筆手鑑２件（３帖）と京都国立博物館所蔵の手鑑１件（１帖）について高精細画像の撮影を行い、データを蓄積した。	A	順調
4511-14	14）家型埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究を行う。	**14）「家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」（学術研究助成基金助成金）** 科学研究費補助金Ｃ・Ｂ(2000～2002･2005～2007 年度)による調査･研究成果に基づき、研究会を開催し、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果を検討すると共に、古代窯業生産体制に関する先行研究の分析・検討を行った。また、本年度は主に韓国・大邱市で嶺南文化財研究院と共同研究会を実施し、韓国・国立中央博物館所蔵家形土器の調査を実施した。	B	ほぼ順調
4511-15	15）絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究を行う。	**15）絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）** 本年度前年度に引き続き、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化を進めた。また、東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査を進め、主に近世に制作された模本から作品所蔵情報を得る基盤を整えた。同時に、近代における作品の移動等に関する情報を収集するため、東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査を開始し、そこに記載された情報のデータ化を進めた。	A	順調
4511-16	16）東京藝術大学付属図書館所蔵後藤家文書の研究を行う。	**16）刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** 本年度は前年度に引き続き、後藤家文書の撮影を行った。また、翻刻作業を継続し、極帳の理解を深めた。	A	ほぼ順調
4511-17	17）近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究を行う。	**17）近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）** 本年度は、伝統的な日本染織の技法や制作工程などを調査し、本研究における調査研究のための資料を収集した。また、ニューヨーク・メトロポリタン美術館で開催された東洋染織の展覧会、ブルックリン美術館に所蔵される東洋染織コレクション、フランス・パリ個人宅の東洋染織コレクション、リヨン染織美術館に所蔵される日本染織コレクションを調査した。本年度は特に、大正期、昭和初期にかけて国外で蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行った。	A	順調
4511-18	18）寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動に関する研究を行う。	**18）寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動（学術研究助成基金助成金）** 東京国立博物館の収蔵品のうち、寄贈品、もしくは寄贈品の可能性があるものについて抽出し、エクセルデータを整理した。館史資料の調査により、寄贈に関する情報が収集された。	B	順調

		また、寄贈者情報の整理により、研究対象としている博物館創設から明治 19 年にかけての寄贈者のうち昨年度調査にて判明していた 292 名の生没年・職業等の判明事項の更新と、今年度新たに判明した 713 名の生没年・職業等の事項をすべてではないが判明させることができた。		
4511-19	19）武家女性の衣生活に関する基礎的研究を行う。	**19）武家女性の衣生活に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** 本年度は、昨年度来進めてきた大名家文書のデータベースの作成を引き続き行うとともに、大名家文書の収集・翻刻を行った。また武家伝来の染織品の実物調査を行い、最終年度の史料と実物資料との分析・考察に備えた。さらに関連資料として公家伝来の染織品関連文書の調査・収集を行った。	A	ほぼ順調
4511-20	20）縄文時代における浅鉢形土器の研究を行う。	**20）縄文時代における浅鉢形土器の研究（学術研究助成基金助成金）** 本年度は文献の悉皆調査（発掘調査報告書等）による、遺跡出土の浅鉢のデータベース化と資料調査（実見・計測・観察など）を実施した。	B	ほぼ順調
4511-21	21）創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究を行う。	**21）創立 150 周年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査** ・館内各所から収集した、館史関係の文書記録・刊行物類を整理して目録を作成し、今後の館史編纂の利用に供することができるようにした。 ・創立 100 周年時に収集され、一部の情報が付与されていた文書記録類について、詳細な目録を作成した。	A	順調
4511-22	22）東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究を行う。	**22）東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究** 環境に関しては①環境の計測、②計測結果の評価、③評価に基づく改善による環境改善の方策を確立した。安定化処理に関しては被災した全ての資料は脱塩、殺菌、除菌のための脱塩処理が必要であることが判明した。本格修理に関しては修理後の状態の推移を観察できる方法論が必要であることが明確になった。	A	順調
4511-23		**23）博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 初年度の研究対象であるドイツに関連して、ベルリンとライプツィヒにおいて文化財の交換先や寄贈元における資料の調査を行った。 また、同館との交流のきっかけである 1873 年ウィーン万国博覧会に関する調査の必要性から，ウィーンにおいて関連文書や関連文化財を調査した。 これらに関連して、研究遂行のための海外諸機関の担当者との協力体制を構築した。館史資料のデジタル撮影にも着手し、釈読も進めた。	A	順調
4511-24		**24）中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 東京国立博物館展示室における既存照明具を用いた主に照明環境に関する展示環境の現状を把握するため、各展示室の諸データを計測、収集した。合わせて現状における種々の先進照明器具の仕様を精査し、照明実験を通して文化財への影響等を調査した。それらの実験、調査結果をもとに、絵画の制作当時の状況を復元的に考慮しながら、有機 EL 照明を用いた展示を実施した。	A	順調

4511-25		**25）模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** 本年度はまず東京国立博物館が所蔵する模写資料の調査と撮影を実施した。その画像を東京国立博物館の画像情報システムへ登録を行うとともに、前年度撮影して未登録だった「平家納経（模本）」575 点の画像登録をした。他館や各地所蔵者への調査も実施し、聞き取り調査や関連データの収集を行うとともに、関連データの入力も行なった。	A	順調
4511-26		**26）江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究（学術研究助成基金助成金）** 狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」の全ての注記（1030 件）をデータ化し、写生図の制作背景を考察した結果、探幽を踏襲した常信によって、幕府主導の写生図制作が行われたことが明らかになりつつある。特に写生図制作に関わった幕臣や藩主、特に水戸藩家臣、そして人見竹洞などの儒学者、金地院などの社寺についてその詳細（32 件）が明確になった。	A	達成
4511-27		**27）神像表現における物語性に関する研究（学術研究助成基金助成金）** 東京国立博物館で開催された「国宝　大神社展」出品作品を中心に、作品調査を実施し、関連する文献資料の収集・分析も行った。	A	順調
4511-28		**28）視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究（科学研究費補助金）** 東京国立博物館所蔵の資料のほか、根岸家（個人考古遺物収集家・熊谷市）、吉見百穴（比企郡吉見町）、東北歴史博物館、静岡市美術館、ストックホルムの東洋美術館（スウェーデン）で調査及び資料収集を行った。本研究成果は、東京国立博物館での展示（特集陳列「うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の記録－」）や茅野市美術館での口頭発表、大学研究紀要での論文発表により一般に公開した。	A	順調
4511-29		**29）日本における「美術」概念の再構築－語彙と理論にまたがる総合的研究（科学研究費補助金）** 本研究の基礎を固めるものとして、「美術」概念の検討成果の確認、記述の現場からの論点の吸収、海外研究者との討議、検討項目の絞込みを本年度の課題とした。そのために、東京文化財研究所、九州大学、石橋美術館、でそれぞれのテーマによる研究会を開催した。これによって、近代美術、古美術、あるいはアジアにおける「美術」の概念についての検討を行なった。	A	順調
4511-30		**30）描いた女性たちに関する研究－桃山時代から明治・大正期まで（科学研究費補助金）** 前年度に引き続き、実践女子大学の科研メンバーと協力し、京都国立博物館で、金戒光明寺寄託の池玉瀾の襖絵等の調査（25 年 8 月 15 日）を行うとともに、女性画家に関するデータ収集に協力し、外部研究者と連携した質の高い研究を行うことができた。次年度以降、外部との協力により当館所蔵の女性画家資料に対する研究を進める準備体制も確立した。	A	順調

4511-31		**31)「武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質」(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** 今年度は、東京国立博物館において円照寺墓山１号墳出土資料を整理して、基礎情報を提示するために実測調査を進めた。また、その情報を基礎として「武装具の集積現象」を比較検討し、研究を推進した。	A	順調
4511-32		**32)「三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究」(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** 既存の東京国立博物館所蔵資料の調査成果の公開と、調査データ・写真の整理・分析を行った。	B	ほぼ順調
4511-33		**33) 木彫像の樹種識別技術の高度化(科学研究費補助金)** 美術史的研究の見地から時代や様式が定まっている多数の木彫像を対象として、揮発成分のサンプリングおよび分析と近赤外分光分析を行うことができた。データの蓄積を継続することで、木材標準試料との比較によって樹種同定の精度を上げられる一定の目途が立った。	A	順調
4511-34		**34) 在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信(科学研究費補助金)** ケルン市立民族学博物館において、日本仏教美術作品の悉皆調査を実施した。それらの調査結果をデータ入力し、データベースを作成している法政大学の担当者に入稿した。また、欧州から画像による調査依頼を受け、各担当者で検討し、依頼館に返答するとともに、データベースに加えた。さらに、東京国立博物館が所蔵する欧州博物館の図録等より、該当する日本仏教美術作品の抜き出しを行なった。	A	順調
	(京都国立博物館)	**【京都国立博物館】**		
4512-1	1) 訓点資料としての典籍に関する調査研究を行う。	**1) 訓点資料としての典籍に関する調査研究** 館蔵品のうち、重要文化財『観自在菩薩如意輪瑜伽法要』及び重要文化財『南海寄帰内法伝』を中心とした調査を踏まえて、宇都宮啓吾が「十一世紀における天台宗山門派谷流のヲコト点について」(『訓点語と訓点資料』132)という論文にまとめて、報告を行った。赤尾・羽田は、館蔵品で訓点資料として知られる、国宝『日本書紀』二巻(岩崎本)と国宝『日本書紀』(吉田本)のデジタル撮影を行い、書誌解題を付して全巻を原寸大カラー図版での書籍を出版した(勉誠出版)。	A	順調
4512-2	2) 彫刻に関する調査研究を行う。	**2) 彫刻に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** ・科学研究費補助金基盤研究(B)「多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究」の研究代表者として、寺院及び博物館における彫刻作品の調査を研究分担者とともに行った。 ・来年度再開する新館(平成知新館)の彫刻展示室における展示計画の立案を行った。	A	順調
4512-3	3) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究を行う。	**3) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究** 野崎家塩業歴史館(岡山)で伝世古陶磁の調査を行い、72 件の調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。	B	一部要注意

4512-4-1	4) 平成25年度から26年度に開催する特別展覧会等について、調査研究を行う。	**4)－1　特別展観「遊び」に関する調査研究** 遊びとひとことで言っても、神仏に捧げた歌や踊り、社寺への参詣、酒宴、遊山、遊楽、琴棋書画のような文人趣味、聞香、闘茶、双六、投扇、楊弓、貝合わせなどの室内競技、からくり人形、カルタ、凧揚げなどの遊戯など、人の営みは多岐にわたり、美術品は、過去の裕福な人々のそうした遊びの記録、記憶ともいえるものである、という視点を基に収蔵品を見直すことができた。玩具船についてはカラクリの構造を想定できた。本館内壁の清掃方法も確立できた。	A	順調
4512-4-2		**4)－2　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)** 研究成果の公表として計画した特別展覧会『魅惑の清朝陶磁』展示作品の調書 212 件を作成すると共に、図録・資料用写真の撮影に務めた。	A	順調
4512-4-3		**4)－3　特別展覧会「南山城の古寺巡礼」に関する調査研究** 京都府南部南山城地域に立地する古寺、海住山寺・笠置寺・岩船寺・浄瑠璃寺・神童寺・蟹満寺・寿宝寺・観音寺・一休寺・禅定寺を調査対象として文化財の調査を行い、その成果をもとに特別展覧会の準備を進めた。	A	ほぼ順調
4512-5		**5) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** 館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・歴史学・考古学・博物館学等の各見地から調査研究を実施し、各種学会等・学術雑誌等でその研究成果を発表した。	A	順調
	(奈良国立博物館)	**【奈良国立博物館】**		
4513-1	1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる。	**1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる。** 仏教美術や奈良に縁の深い文化財を中心に、当館の収蔵品として相応しいものを、新たに館蔵品・寄託品に加えることができた。全ての文化財の受け入れに当たっては、詳細な現品調査に加え、日頃の研究成果を取り入れた文化財調書を作成した。受け入れた文化財は、名品展において可能な限り積極的に展示して、成果を広く一般に還元するとともに、調査を通じて培われた研究蓄積は各種刊行物に反映させた。	A	順調
4513-2	2) 館蔵品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する。	**2) 館蔵品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する。** 各研究員がそれぞれの専門分野に沿って文化財調査を実施し、その成果は展示・刊行物・講座における文化財解説等に反映された。調査・研究活動にあたっては、これを個人単位で展開するだけではなく、研究分担者・連携研究者として各種科研に参画するなど、外部の研究プロジェクトにも積極的に関わり、より広い視野に立って学界に貢献する実績を上げた。	A	順調
4513-4	3) 平成25年度特別展「新しい仏像入門(仮称)」に向けた調査と研究を行う。	処理番号 4543-2-4 参照。		
		4) 平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての資源化を進める(学術研究助成基金助成金) 平成 25 年度は、安倍小水麻呂願経と呼ばれる貞観 13 年(871)の願文を持つ大般若経を集中的に調査した。スタッフ一同で協力し、125 巻を巻頭から巻末まで全て開い	A	順調

		て調書を取るとともに、写真撮影して今後の追加調査や報告書刊行に備えた。調査の過程では、各巻によって料紙や書風に相当の差異のあることが認識され、全体像を把握するための基本情報を獲得することができた。		
	（九州国立博物館）	【九州国立博物館】		
4514-1	1）Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析を行う。	**1）Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析** 泉屋博古館の所蔵品を中心にＸ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この研究成果を中国国内の研究者に公開するために、中国科学院自然科学史研究所と協力して編集を進めた。	Ａ	順調
4514-2	2）平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う。	**2）平成 20 年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究** 平成 25 年度西部工芸展、日本伝統工芸展、西部染織作家展など、本年度開催の工芸展において作品調査を行った。また、伝統工芸の技術や素材をわかりやすく紹介するための体験プログラムの開発のため、博多人形や久留米絣等の工芸作家の工房を訪れ、制作方法や使用素材について調査を行った。	Ａ	ほぼ順調
4514-3	3）日本中世の工芸、特に茶道具に関して研究し、展示に反映する。	**3）日本の中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究** 九州各地に残る煎茶具をクローズアップすることで、これまであまり注目されてこなかった資料の掘り起しができた。特に、竹田市立歴史資料館所蔵資料は、九州出身の文人として知られる田能村直入（たのむらちょくにゅう）の煎茶趣味を、目に見えるかたちで紹介することができた。また、奈良大学博物館所蔵の板木については、これまで紹介されることが少なかった資料であるが、本展の展示においてひろく観覧をしてもらう契機となった。	Ａ	順調
4514-4	4）中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究を行う。	**4）中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** 大般若経の漢訳を行った玄奘三蔵の関連遺跡を調査した。特に訳経事業が行われた大慈恩寺の調査では、事業の行われた故地を調査することができた。カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の「崇永版」大般若経は、600 巻がほぼ完存しているもので、中世版本大般若経研究にとって極めて貴重である。これらの全巻調査を実施できた意義は大きい。また、前年度に引き続き、史料集から基礎史料を収集した。	Ａ	順調
4514-5	5）九州南島の先史時代の資料に関する研究を行い、展示に反映する。	**5）九州南島の先史時代の資料に関する調査研究** 近年になって、徳之島と喜界島で個人が縄文時代の土器や石器を多数採集されていることがわかった。そこで、両町の教育委員会の協力を得て、実物資料を実見した。また、当館で詳細な調査を行うため、資料を搬入した。調査の成果を紹介し、採集された資料の歴史的意義を紹介するために文化交流展示室において展示を実施した。	Ａ	順調
4514-6	6）和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究を行う。	**6）和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究** Ｘ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを集積したデジタルアーカイブを構築した。本年度は帯鉤・殷周青銅器を中心に、肉眼観察と計測画像を対照させながら、青銅器の内部構造について分析を行い、銹に覆われて見えなかった象嵌文様などを発見することができた。また、以前より実施している住友コレクション（京都・泉屋博古館）の成果と比較対照を行って、青銅技術の広がりを確認した。	Ａ	順調
4514-7		**7）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** 館蔵近世絵画の調査研究を行い、その成果を公開するものとして、トピック展示「館蔵近世絵画名品展」を開催した。また、展覧会開催に際し、展覧会図録と所蔵品（近世絵画）目録を兼ねるものとして『館蔵近世絵画名品展』（96 頁）を作成した。当館では毎年絵画作品を購入するなど収蔵品を増やしているが、その全容を公開する機会はなく、ごく一部を特別展図録やデジタルアーカイブで紹介するのみにとどまっている。その課題に対し、本図録では出陳しない作品も含めて所蔵する近世絵画の画像、作品情報を掲載し、広く一般に公開した。	Ａ	順調
4514-8		**8）西光寺梵鐘の総合調査** 西光寺梵鐘を、25 年 7 月 23 日から 12 月 8 日まで展示した。その間、所蔵者の許可を得て露出展示とし、更に蛍光Ｘ線分析や３次元実測を行って、科学的な観点からの調査を初めて実施することができた。この調査結果をもとに、成分組成を明らかにし、更には３次元立体プリンタを用いた詳細なレプリカを作成した。（鐘全体 1、陽鋳銘部分 1）また、作成したレプリカは、ご所蔵者に寄贈し、次年度継続の借用許可を得ることができた。	Ａ	順調
	②　アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 （東京国立博物館）	**②　アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究** 【東京国立博物館】		
4521-1	1）館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究を行う。	**1）館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究** (1)漢籍は、江戸幕府旧蔵資料である医学関係を中心とする調査が一段落したため、昨年より全体の調査に着手し、計 30,000 冊のうち、昨年度は 10,694 冊、本年度は 300 冊の書誌学的調査を終了し、写真撮影を実施した。 (2)洋書については、シーボルト献納本 308 冊について、修理のための調査を行い、あわせて洋書の主なものについて写真撮影を実施した。	Ａ	順調
4521-2	2）東洋民族資料に関する調査研究を行う。	**2）東洋民族資料に関する調査研究** 東洋民族の収蔵品の展示を、昨年までの調査で得られた知見にもとづき、東洋館 13 室で 2 回実施した。内容は次の通りである。 ・「台湾の海の民－タオ族の伝統文化－」（25 年 10 月 1 日～26 年 1 月 13 日） ・「メラネシアの宗教彫刻」（26 年 1 月 15 日～26 年 4 月 13 日予定） また、台湾のパイワン族の生活及び宗教儀礼に関わる資料の詳細な調査を実施した。調査で得られた知見は、将来のパイワン族に関わる展示案の作成に資する予定である。	Ａ	順調

4521-3	3）東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究を行う。	**3）東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）** 前年度に引き続き、装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、書風と料紙分析ほか多角的な調査を、東京国立博物館や中国・香港大学、香港芸術館等で実施してきた。また、これまでの調査で撮影したデジタル写真や、調査結果のデータ入力と整理を進めた。本年度は研究期間の最終年度にあたるため、本研究成果の報告書を京都・思文閣出版より出版した。	A	順調
4521-4		**4）東アジアにおける繍仏の基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 研究開始年度である本年度は、国内外の繍仏の所在情報を網羅的に収集するため、各種刊行物やウェブサイト上に公開されているデータを博捜し、また国内外の関連分野の研究者にも広く情報提供を呼びかけ、現時点での現存作例数を再確認することに努めた。さらに、国内外に所在する日本中世～近世期及び同時期の中国の作例の実見調査を実施することで、図像・材質技法・様式の詳細な分析を行った。これらの調査によって得られた繍仏の現存作例に関する、法量・図像・材質・技法・銘文・箱書・関連情報などを整理し、成果報告書の刊行や公開に向けて基礎データを作成、集積した。	A	順調
4521-5		**5）極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究** 当館が所蔵する中国考古の極薄青銅器について、3 次元計測を 4 回、蛍光Ｘ線分析を 1 回、分光計測を 1 回それぞれ実施するとともに、並行して新たな知見の整理を行った。また、泉屋美術館（25 年 11 月 7 日）、和泉市久保惣記念美術館(25 年 11 月 8 日)、寧楽美術館(25 年 12 月 1 日)、出光美術館（26 年 2 月 7 日）などで極薄青銅器の熟覧調査と写真撮影を実施した。加えて、東京藝術大學では合計 6 回の鋳造実験を行い、異なる条件設定で約 100 点の鋳造サンプルを製作した。鋳造サンプルに対しても蛍光Ｘ線分析と分光計測を 1 回ずつ実施することで、作品に対する分析データとの比較研究を進める足掛かりを得ることができた。	A	順調
4521-6		**6）仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）** 中国各地において現地調査を行い、仁寿舎利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。	A	順調
4521-7		**7）中国典籍日本古写本の研究（科学研究費補助金）** 東京国立博物館所蔵の中国典籍古写本の調査を行うとともに、館内において、研究会を開催し情報の共有に務めた。	A	順調
4521-8		**8）５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究** 日本古代の金銅仏でヒ素や鉛を含むもののあることがわかった。銅製品では亜鉛との合金､いわゆる真鍮が古代に存在することが明らかになったのは大きな成果である。	A	順調
4521-9		**9）東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究** 国内木彫像等の調査によって、多数の木片試料等を得ることができた。今後の樹種同定によって用材観の変化･形成に関する重要な知見が得られると予想される。	A	順調
4521-10		**10）古代イスラエルの墓制と他界観に関する綜合的研究** 今年度は当初予定していたイスラエル共和国下ガリラヤ所在のテル・レヘシュ遺跡の調査に参加することができなかったため、2010 年度までの調査に関する発掘調査報告書に関する作業を実施した。具体的には現地で実施した蛍光Ｘ線分析による元素同定データの整理を行った。また、西アジアに関する金属生産に関する文献の調査、及び発掘調査報告書掲載予定の下原稿の執筆を実施した。	A	ほぼ順調
4521-11		**11）南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－（科学研究費補助金）** (1)作品調査：東京国立博物館所蔵品、関西を中心とする美術館、及び中国での現地調査を含む作品調査を行った。 (2)事業：アメリカでの学会参加、作品調査を行った。 (3)成果：論文と研究発表、講演の形で公開することができた。	A	順調
4521-12-1		**12）－１海外展「青山杉雨のコレクションと書」に関する調査研究** 平成 24 年度に当館にて開催した特別展「青山杉雨の眼と書」の海外展であるため､作品の調査及び選定は前年度までに終了している。本年度は 25 年 4 月に新たに貸与する作品に関する補足調査を行い、また効果的な陳列、論考の執筆、講演会、安全な梱包、輸送、展示、撤収、返却を行った。	A	順調
4521-12-2		**12）－２特別展「和様の書」に関する調査研究** ・事前調査では、これまでの研究によって得られた新知見にもとづき、それぞれの作品において、料紙と書風のあり方がどのように関連しているかという、和様の書としての位置づけを明らかにした。 ・三跡を中心とする名品をとおして、和様の書の成立とその後の展開などの全貌を明示し、日本人の好みや感性を反映した書の美しさを、多くの人々に伝えることができた。 ・展示では、巻子、冊子など平面的な作品について、拡大画像やわかりやすい内容のパネルを後方壁面の随所に配置したことにより、書のさまざまな魅力をクローズアップして示すことができた。	A	順調
4521-12-3		**12）－３　「上海博物館　中国絵画の至宝」に関する調査研究** 一級文物 18 件をふくむ、北宋から明清にいたる絵画、40 件を調査した。状態を確認し、安全な輸送についての計画を立てるとともに、普段は公開されていない題跋や印章、付属品などについても、調査を行った。	A	順調
4521-12-4		**12）－４　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」に関する調査研究** ・京都二条城において建造物、並びに障壁画の作品調査を実施したことで、通常の展覧会では実施することが困難である室内構造を立体的に再現する展示に反映することができた。 ・超高精細映像４Ｋの映写実験を展示会場等、実際の展示に即した状況で実施したことで、展示映像を文化財展示と適切に融合させて提示することができた。	A	順調
4521-12-5		**12）－５　「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」に関する調査研究** ・クリーブランド美術館（アメリカ）において、収蔵品の作品調査を行い、本展出品作品の選定を行った。本年度の作品調査は、24 年度に行った現地調査に引き続いたものである。	A	順調

4521-12-6		**12)－６　海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」に関する調査研究** ・クリーブランド美術館（アメリカ）において展覧会会場の調査を行った。本年度の調査は、クリーブランド美術館スタッフとともに 24 年度に行った当館における出品作品選定のための作品調査と、アメリカにおける施設の現地調査に引き続いたものである。	A	順調
4521-12-7		**12)－７　特別展「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」に関する調査研究** 伝統工芸に携わってきた重要無形文化財保持者（人間国宝）を工芸担当者が個別に調査・研究し、特別展にふさわしい物故の作家 104 名の代表作を 1 点ずつ選出した。伝統がどのように発展を遂げ、現代に伝えられたのかを、国宝・重要文化財といった古典の名品と比較研究し、展示することによって観覧者にも日本の伝統工芸をわかりやすくした。人間国宝作家の名作を一堂に会することによって、日本の伝統工芸の卓越したわざの美を改めて周知する機会となった。	A	順調
4521-12-8		**12)－８　特別展「支倉常長像と南蛮美術―400 年前の日欧交流―」に関する調査研究** 「支倉常長像」に関しては、本展開催前に本作が展示されていた仙台市博物館において展示状況、作品状態を点検し、作品輸送等に関して関係者との協議を行った。あわせて、作品の細部描写等を詳細に観察し、リーフレット等配布物の原稿執筆のための基礎資料とした。「南蛮人渡来図屏風」「世界図屏風」に関しても同様に、デジタル撮影を含む調査研究を進めた。	A	順調
4521-12-9		**12)－９　特別展「栄西と建仁寺」に関する調査研究** ・建仁寺派以外の寺院や美術館の調査により禅宗の立場以外の観点から栄西の著述を研究し、展覧会に反映させることができた。 ・京都・六道珍皇寺や長崎・春徳寺などを含んだ調査により、京都の禅院としてだけでは捕らえきれない建仁寺派の文化的様相を示すことができた。 ・「蘭渓道隆像」（西来院）、小野篁像（六道珍皇寺）の像内調査により、前者では古い「蘭渓道隆像」像の頭部があることが確認され、後者では銘札・墨書銘が見出されたことで、作者・制作年を明らかにすることが出来た。	A	順調
4521-12-10		**12)－10　特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査** 国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設においてキトラ古墳壁画の修理進行状況や現状を確認し、展示可能な壁画を検討するとともに、飛鳥資料館にて出土遺物等の調査を実施した。合わせて共催者とも協議を行った。	A	順調
4521-12-11		**12)－11　特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」に関する調査研究** ・出品交渉を重ねて作品を決定し、分野ごとに作品の調査を開始した。効果的な陳列、安全な輸送などについて検討した。出陳作品にかかわる伝来などの関連資料を収集した。	A	順調
4521-12-12		**12)－12　特別展「日本国宝展」に関する調査研究** 出陳交渉に併せて作品の所在・保存状態を調査するとともに、安全な運搬・展示、効果的な展示方法などについて検討し、展覧会の内容充実に大きく寄与することができた。	A	順調
4521-12-13		**12)－13　特別展「みちのくの仏像」に関する調査研究** 東北６県のうち、岩手・宮城・福島・山形の出品予定作品の出品交渉を終え、一部は作品調査も実施した。うち２件については、作品所在場所の温湿度の調査を実施した。次年度も継続的調査を引き続き実施予定である。	A	順調
4523-1	（奈良国立博物館） １）中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を実施する。	**【奈良国立博物館】** **１）中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究** 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で職員の派遣・受け入れを実施し、活発な研究交流・情報交換を実施した。	A	順調
4523-2	２）日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	**２）日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究** 名品展の展示替えに備えて、各研究員が出陳品に関する調査と研究を実施し、その成果を展示キャプションに反映させた。また、今年度に開催した各種のシンポジウム等においては、各研究員の専門分野を生かしながら、当該項目の日亜文化交流の視点に立った研究成果を発表した。	A	順調
4524-1	（九州国立博物館） １）朝鮮半島、三国時代の考古に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する。	**【九州国立博物館】** **１）朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究** (1)韓国の２つの国立博物館との間で、研究交流を実施して、実物資料の活発な共同調査や情報交換を行った。 (2)九州内の朝鮮半島から伝来した資料等についての調査を実施した。 (3)百済武寧王と縁の深い佐賀県加唐島での韓国研究者との共同での現地調査を行った。 (4)7 世紀の国宝宮地嶽古墳出土金銅装大刀について、朝鮮半島の金工技術との関わりを明らかにすることができた。	A	順調
4524-2	２）九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤を創設する。	**２）九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）** 本年度は南ルートの対沖縄・鹿児島、及び、西ルートの長崎・佐賀の対外交流文化財及びメキシコの関連文化財を中心にして現地調査を実施した。さらにこれらの文化財を移動して最新鋭のデジタル計測機器を活用した科学調査を実施した。この科学調査の結果をふまえて、学際的な研究チームによる実物調査を実施することにより、これまでにない高精度のデジタル情報を網羅したアーカイブを構築している。	A	順調
4524-3	３）武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究を行い、展示に反映する。	**３）武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究** 本年度は、武雄鍋島家資料のなかから約 1,100 点の蘭学関係資料の抽出・調査・目録化作業を達成し、2 ヵ年計画での調査事業を完了することができた。また、前年度の調査事業の成果を反映させた展覧会を、当館及び武雄市図書館・歴史資料館との共同事業として開催し、展覧会の関連事業も積極的に実施することができた。	A	順調
4524-4	４）神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関連する作品の調査研究を行い、展示に反映する。	**４）神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関連する作品の調査研究** (1)神戸市立博物館の近世美術コレクションの調査研究を行った。 (2)本調査研究の成果として、展覧会を神戸市立博物館と共同開催した。 (3)展覧会の開催により、長崎が中国や西洋との文化交流の窓口になって発展した江戸	A	順調

		時代の美術について、観覧者に多くの情報を提供することができた。		
4524-5	5）中国山東省を中心とする漆工品の調査研究を行う。	**5）中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）** (1)調査対象とする螺鈿箱の調査分析を、他作例と比較しながら多角的に進めることができた。 (2)螺鈿器及び関連漆器の調査を広範囲に行うことにより、今まで知られていなかった比較作例を数多く集めることができた。 (3)調査の過程で明らかになった新たな検討課題について、考察を深めるための資料を得ることができた。	A	順調
4524-6	6）タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－に関する研究を行う。	**6）タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 上記研究分担者及び研究協力者は、タイ王国文化省芸術局の協力を得て、タイでの現地調査を行った。特に、日本からタイに伝わった交易品に関しては、これまで調査が難しいとされていた王宮内博物館の調査をすることができた。調査地としては国立博物館資料に加え、プライベートコレクションの調査を通し、新しい情報を得ることができた。調査の成果については、同プロジェクト報告会にて発表し、交易品に関する日本側の記録の一部を英訳して現地に還元した。	A	順調
4524-7	7）ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流について調査研究を行う。	**7）ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流についての調査研究** ・ベトナム歴博所蔵の日本文化財を、同博物館の担当者と共に調査し、多くの新たな知見を得た。 ・文化庁海外展「日本文化」展で 69 件の文化財を展示し、ベトナムと日本の交流についても紹介した。 ・ベトナム歴博編集の展覧会図録に、今回の展示に至る両国の取り組みについて寄稿した。 ・ベトナム歴博と意見交換を行いつつ調査を進め、交流を深めることができた。	A	順調
4524-8		**8）中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** 本年度は中世～近世初期の対馬宗氏領国に関係する史料の調査・収集・整理を重点的に行った。具体的には、東京大学史料編纂所・国立公文書館・長崎県立対馬歴史民俗資料館で原本・写本・写真版を閲覧・調査し、写真撮影・複写・筆写等による収集を行った。収集史料の翻刻・整理・データベース化を行うとともに、関連図書の収集を進め、刊本等からの関連史料の抽出・データベース化も行った。	A	順調
4524-9		**9）契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)** ・3 年間にわたる研究期間中に行う共同研究の内容について、内蒙古博物院及び内蒙古文物考古研究所と協議し、協約書を締結した。 ・京都大学工学部井手亜里教授の協力を得て、内蒙古博物院で修復作業中の壁画資料 30 点について、日本より持ち込んだ機材で高精細画像データを取得した。	A	順調
		・現地で取得した高精細画像データを、パソコンを利用して閲覧、分析ができるようデータ整備を行った。 ・現地の研究者と意見交換を行うとともに、既知の契丹壁画墓に関する発掘報告書などの情報を集積した。		
4524-10		**10）水中遺跡の保存活用に関する調査研究（文化庁受託事業）** 海外の水中遺跡についての取組状況を取りまとめるために、現地を訪問し調査を行った。当該国の機関の担当者と膝を交えた直接のやりとりは、表面だけでは把握できない、その国の海に対するとらえ方や歴史感あるいは地方自治のあり方、国民の感心度合いなどを理解することができた。水中遺跡の保存と活用の課題を整理することができた。また、水中遺跡をどのように魅力的に展示するのかという課題についても、これまでにない展示ケースを作成することができた。	A	順調
4524-11		**11）特別公開「江上波夫の眼　ことばとかたち」に関する調査研究** オロンスムにおけるネストリウス派キリスト教遺跡やカトリック教会堂遺跡に係わる遺物、平面図、キリスト教信者の墓石の拓本や遺物類（元代）、及びチベット仏教関連の拓本や遺物類など（明代）について実物資料を調査した。漢字による文字資料の拓本類多数から代表的な作品を選定した。楔形文字、シリア文字、アラビア文字、パスパ文字、モンゴル文字、契丹文字、女真文字、満州文字、ハングルなどの資料を調査し、展示内容を確定した。	A	順調
	③　京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 （京都国立博物館）	**③　京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究** **【京都国立博物館】**		
4532-1	1）近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究を行う。	**1）近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)** 京田辺市酬恩庵（一休寺）の文化財調査によって未公表の一休禅師の遺品類が見つかった。また金工作品の中でも東南アジアあるいは中国由来の鉄鐘が発見された。さらに原在明筆の庭園図（近世）についてはその絵画表現方法に極めて特異な作品が存在することが明らかとなった。さらに木津川市教育委員会が所蔵する神雄寺出土品の調査で特殊な塑像の破片を確認した。その他様々な新知見を得ることができた。	A	ほぼ順調
4532-2	2）近世絵画に関する調査研究を行う。	**2）近世絵画に関する調査研究** 特別展覧会「狩野山楽・山雪」図録内容に一部反映させた。	A	ほぼ順調
4532-3		**3）漆工芸に関する調査研究(科学研究費補助金)** 昨年度までの成果の一部を当館研究紀要に発表することができた。オランダのライクスミュージアム、スペインのマドリッド国立装飾美術館、イギリスのV&A美術館、フランスのルーヴル美術館、パリ装飾美術館、コンピエーニュ・アントワーヌ・ヴィヴネル美術館などで漆器を調査し、特に 19 世紀パリの漆器コレクションの実例を詳しく知ることができた。日本の研究者が調査に赴くことで、所蔵館の担当者たちの日本漆器に対する関心が高まり、異なる所蔵館のあいだで共同の展覧会を模作する動きも生じてきており、有意義な研究交流を行えた。	A	順調
	④　仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総	**④　仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究**		

	合的な調査・研究 （奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4543-1	1）平成26年度特別展「鎌倉の仏像展（仮称）」、27年度以降の特別展「大百済展（仮称）」「春日式年造替記念展（仮称）」「快慶展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。	**1）特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像 －迫真とエキゾチシズム」に関する調査研究** 出品候補作品の調査と出品交渉、関連資料の調査研究を行った。	A	順調
4543-2-1	2）南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、25年度當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」、25年度特別展「新しい仏像入門（仮称）」等に反映させる。	**2）－1　特別陳列「お水取り」に関する調査研究** 例年恒例となっている、特別陳列「お水取り」開催に向け、出陳を前提とする文化財の調査を行った。	A	順調
4543-2-2		**2）－2　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究** 本年の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、これまでに注目されたことのなかった「大和士：やまとさむらい」の実態を、新史料の公開も含めて取り上げ、広く紹介することができた。	A	順調
4543-2-3		**2）－3　當麻曼荼羅完成 1250 年記念特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」に関する調査研究** 特別展開催のために行われてきた調査研究に基づき特別展を開催するとともに、展覧会開催中にも写真撮影を含む調査研究を行い、展示品に関する基礎データの集積を行うことができた。	A	順調
4543-2-4		**2）－4　特別展「みほとけのかたち－仏像に会う－」に関する調査研究** 特別展開催にあたり、館蔵品・寄託品等の調査・撮影を行い、その成果を、展示会場内の解説や各種刊行物等に反映させた。	A	順調
4543-3	3）正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	**3）特別展「正倉院展」に関する調査研究** 正倉院宝物に関連する調査研究を積極的に進め、その成果は当館が編集・刊行した展覧会図録『第 65 回正倉院展』に掲載されたのに加え、「正倉院展」会場での解説パネル類、新聞連載記事、講座・シンポジウムにおける口頭発表等に反映された。	A	順調
4543-4	4）綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	**4）綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。** (1)前年度に実施した国宝 綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）の調査画像データの分析を進め、重要関連作品である裏板曼荼羅（當麻寺本堂厨子安置）及び貞享本當麻曼荼羅の高精細カラー画像・近赤外線画像の撮影を実施した。 (2)大徳寺五百羅漢図の総合調査報告書の刊行に備え、京都国立博物館寄託分の大徳寺本 20 幅について追加調査を実施し、さらに画絹組織及び各幅の主題に関する検討会を重ねた。	A	順調
	⑤　アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 （九州国立博物館）	**⑤　アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究** **【九州国立博物館】**		
4554-1	1）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う。	**1）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究**	A	順調
		韓国国立公州博物館との学術交流協定に基づき、当館研究員 2 名を派遣し、木浦・羅州・公州、ソウルの遺跡・博物館の調査を実施した。韓国から 3 名を日本に招聘し、共同調査を実施した。タイ王国文化省芸術局の協力を得て、仏教美術・歴史・工芸・民族分野の現地調査と調査報告会をタイで実施するとともに、我が国江戸時代の堺市に伝来した仏画などに関する国内調査成果をタイ側と共有した。		
4554-2-1		**2）－1　特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究** 25 年 7 月 9 日から 9 月 16 日かけて、特別展「中国 王朝の至宝」を開催した。いわゆる「中国王朝」について、これまでの画一的な中原王朝史観の見直しを図るべく幅広い地域から資料を収集し、一堂に会する機会を設けたことで、「中国王朝」についてはより幅広い視野で議論すべきことがより明瞭となった。会期中は、講演会や新聞紙面連載を行い、個別の作品ならびに王朝の流れに関して発表した。また、会期が夏休み期間中であったこともあり、子ども向けのワークショップの開催やガイドブックの作成に力をいれ、幅広い層による王朝の至宝の理解促進につとめた。	A	順調
4554-2-2		**2）－2　特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究** 尾張徳川家は、江戸時代に徳川将軍家に次ぐ格式を誇った最高の大名家である。従って尾張徳川家に伝来した道具類は、江戸時代における大名文化を伝える品々のなかでも、最高水準の作品が数多く伝えられている。このプロジェクトでは徳川美術館の協力を得て、所蔵する作品の大要を把握し、その水準の高さを認識することができたとともに、その成果をふまえて尾張徳川家に伝来した作品を一堂に紹介する機会につなげることができた。	A	順調
4554-2-3		**2）－3　特別展「国宝 大神社展」に関する調査研究** 26 年 1 月 15 日から 3 月 9 日かけて、特別展「国宝 大神社展」を開催した。奈良・手向山八幡宮の錦貼神輿など福岡会場のみの出陳作品については、事前に現地調査を実施して輸送方法や展示手法などの検討・研究に役立てた。 会期中、講演会や新聞紙面における作品紹介記事の連載を行った。また関連事業として、街で見かけた狛犬を WEB 投稿してもらう「狛犬目撃情報」企画の実施、会場内での教育普及企画の展開を行い、幅広い層に対する本展の集客及び理解促進に努めた。	A	順調
4554-2-4		**2）－4　特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝展」に関する調査研究** 摂関政治の全盛期を築いた藤原道長自筆の日記である国宝「御堂関白記」の道長自筆本 14 巻のうち、6 巻をユネスコ世界記憶遺産登録後、初めて九州で公開することが実現した。近衛家は摂政・関白として国政を主導してきた藤原氏の嫡流であり、このために「御堂関白記」も近衛家に伝わった。この他、江戸時代の近衛家を代表する文化人である信尹と家熙の業績についても詳しく調査した。	A	順調

4554-2-5		**２）－５　特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究** (1)特別展覧会「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」の作品を確定するとともに、展示・作品解説・各論執筆にむけた作品の調査研究（約 60 件）を実施できた。また、作品の撮影を実施した。 (2)特別展図録を制作した。	A	順調
4554-2-6		**２）－６　特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」展に関する調査研究** 國立故宮博物院を訪問して、25 年 11 月 28 日、12 月 16 日から 19 日まで、及び 26 年 1 月 20 日から 24 日まで、展覧会について協議した。また、特別展への出品資料を選定し、それらの実見調査、計測等を実施し、展覧会図録や会場解説執筆のための情報を収集できた。	A	ほぼ順調
	⑥　有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 （東京国立博物館）	**⑥　有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4561-1	1）博物館の環境保存に関する研究を行う。	**１）博物館の環境保存に関する研究** 本年度は文化財の保存環境の内、特に特別展示室の温室度環境の安定化について、下記概要に示す調査研究を行った。温室度が不安定になる原因を追及するために、空調の運転状況、展示室扉の開閉管理状況、平成館で入り口の開閉状況などを詳細に検討した。その知見に基づいて運転方式、扉開閉運用などを細かく組み合わせることによって、安定した温室度環境が実現できる見通しが立った。	A	順調
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
4562-1	1）修復文化財に関する資料収集及び調査研究を行う。	**１）修復文化財に関する資料収集及び調査研究** 平成 25 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書）」に基づき、データを入力し、平成 24 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書）」に基づき、データを追加、更新した。また、平成 21・22 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 10・11 号に掲載し、修理時に発見された銘文の平成 21 年度 13 件、平成 22 年度 17 件を「銘文集成」として報告した。	A	順調
4562-2	2）文化財の保存・修復に関する調査研究を行う。	**２）文化財の保存・修復に関する調査研究** (1)「病草子」（紙本着色／平安時代後期／国宝）の修理に伴って、各種の光学調査と紙質分析を実施し、作品のオリジナルの状態、技法材料や、修理履歴などに関わるさまざまな情報を得ることができた。 (2)修理中にしかできない調査・分析によって得られた結果は、本修理品を含め、文化財の調査研究・保存修復の現場での幅広い活用できる貴重な情報である。	A	順調
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4563-1	1）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	**１）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。** (1)展示室、展示ケース内に設置した温湿度センサーのデータを分析し、展示･収蔵環境の保持に努めた。 (2)展示ケース内から回収した粉塵の種類・量を計測し、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。 (3)展示室･収蔵庫等への昆虫トラップの設置回収により文化財害虫の生息状況を調査し、害虫被害回避につなげた。 (4)防災工事に伴う収蔵庫内の VOC（揮発性有機化合物）残留濃度調査を実施し、収蔵環境の保全に努めた。 (5)「環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」会議を定期的に開催し、保存環境の改善に努めた。	A	順調
4563-2	2）館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	**２）館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。** (1)館蔵品、寄託品について保存状態を中心に入念な調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。 (2)館蔵品、寄託品の修理に際し、保存カルテや新規に実施した保存状態調査の所見をもとに修理調書を作成し、修理方針を決定した。 (3)文化財保存修理所で修理中の木造文化財について樹種同定調査を実施し､その成果公開の準備を進めた。 (4)文化財保存修理所で修理中の文化財から発見された銘文の調査を実施し､その成果公開の準備を進めた。	A	順調
4563-3	3）館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	**３）館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。** (1)館蔵品、寄託品等の修理に際し、修理前・修理中に当該文化財に対して透過Ｘ線や蛍光Ｘ線等を用いた光学調査を実施し、その所見を修理方針に反映させる。 (2)館蔵品、寄託品の文化財の修理において、修理前に電子顕微鏡を用いた料紙・料絹の繊維組成調査を実施し、その成果をもとに補紙・補絹を調製する。 (3)文化財保存修理所で修理中の文化財について､研究員と各工房職員が共同で光学機器を用いた材質調査を実施する。	A	順調
	（九州国立博物館）	**【九州国立博物館】**		
4564-1	1）文化財の材質・構造等に関する共同研究を行う。	**１）文化財の材質・構造等に関する共同研究** 透過Ｘ線撮影、Ｘ線ＣＴ調査、３Ｄデジタイザ調査等を実施した。トピック展「雪と火炎土器」で展示した「火炎土器」についてＸ線ＣＴ調査、精密三次元形状計測を実施し、三次元プリンタで原寸大のデジタル複製品を製作した。デジタル複製品手に触れるハンズオン作品として展示した。また、文化交流展元関連の鷹島海底遺跡出土品について、展示替えの機会を利用して文化財の構造や材質を調査した。	A	順調

4564-2	2）博物館における文化財保存修復に関する研究を行う。	**2）博物館における文化財保存修復に関する研究** 吉備国際大学２名、九州産業大学２名、別府大学２名、広島市立大学２名の計４大学８名が研修に参加した。修復技術者の協力を得て、少人数で実践的な研修を実施することができた。本研修により、修理技術者育成に寄与すると共に、学生の文化財保護への理解を深めることができた。	A	順調
4564-3	3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究を行う。	**3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究** (1)研修会等参加者は、全国の美術館・博物館の学芸員及びボランティアからなるが、参加申込受付開始日に定員に達するなど、参加人数が大幅に増え、学芸員・市民の関心の高さがうかがえた。よって前年度よりさらに様々な意見を集約することが可能となり、ミュージアムＩＰＭ支援者研修プログラムの確立に充分活かすことができた。 (2)公開シンポジウムでは専門家の講演とＩＰＭ実践館等による報告を行い、東京での情報発信ができた。 (3)平成 25 年度地域と共働した美術館･歴史博物館創造活動支援事業「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」を軸に市民協同型ＩＰＭシステム構築に関する研究を展開し、その成果を 3 冊の報告書にまとめた。	A	順調
4564-4	4）東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同）を行う。	**4）東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCO との共同)** ＵＮＥＳＣＯとの共同事業として、平成 20 年度より五ヵ年にわたって実施した日本・中国・韓国での手漉き紙の製作状況調査の集大成として、前年度当館において開催された「第 5 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」の報告書を作成した。	A	順調
4564-5	5）赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究を行う。	**5）赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究(学術研究助成基金助成金)** 本年度は赤外線撮影で有用となる彩色材料を明らかにするため、基本となる彩色材料を検討し、カラーチャートを作成した。そしてカラーチャート及び実際の絵画の赤外線画像と彩色の科学分析の結果を照らし合わせ、赤外線画像の解析を試みた。	A	順調
4564-6	6）三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発−興福寺　国宝阿修羅像を中心に−に関する研究を行う。	**6）三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発　―興福寺 国宝阿修羅像を中心に―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 本研究は興福寺の特別な許可を得て、Ｘ線ＣＴ調査で得られた国宝 阿修羅像をはじめとする十大弟子像 4 躯、八部衆像 5 躯の高精細三次元データを、美術史・工芸史・修復技術・文化財科学・博物館学の専門家が一同に集まって解析する研究である。これまでに、Ｘ線ＣＴによって得られた三次元画像を 450 枚以上蓄積した。また研究の成果を出版すべく編集作業を進めた。	A	順調
4564-7	7）三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究を行う。	**7）三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）** 当館では京都・泉屋博古館と共同してＸ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを集積したデジタルアーカイブを構築している。本年度は大阪・和泉市久保惣記念美術館が所蔵する中国古代青銅器を調査すると同時に、中国科学院と協議して成果の検討を進め、中国科学出版社とは出版に向けての打ち合わせを行った。	A	順調
4564-8		**8）石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** 内面が赤く塗られた棺の初現については、これまで北部九州の弥生時代中期後半の箱式石棺墓で、ベンガラが塗布されていたものと考えられていた。しかし、同時期の甕棺墓では水銀朱が塗布されていたものがあることが明らかとなった。古墳時代の石棺等での調査は、現在調査を実施中であるが、内面にベンガラを塗布した例が多いようである。ただし、内面に朱を塗布した事例も少なからず認められる。次年度以降、調査範囲を広げ、さらに検討を行う予定である。	A	順調
	⑦　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 （東京国立博物館）	**⑦　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4571-1	1）博物館環境デザインに関する調査研究を行う。	**1）博物館環境デザインに関する調査研究** ・平成 26 年４月の本館改修工事に先立ち、平成館と本館を結ぶジャンクションとなる本館 17 室の案内・誘導・注意サインについて、4 言語(日・英・中・韓)によりよりわかりやすくなるよう整備した。(25 年 10 月) ・本館から平成館へ移設･新設された＜東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナー＞を、寄贈者の顕彰とともに憩いのギャラリーとしてリニューアルした。 ・平成 26 年度にオープン予定の「正門プラザ」は、ショップ・売札・もぎり・インフォメーションカウンターなど、東京国立博物館の来館者全体を招き入れる施設となる。この施設のサイン全てについてデザインを行った。	A	順調
4571-2	2）博物館教育に関する調査研究を行う。	**2）博物館教育に関する調査研究** ・本館特別 4 室及び東洋館 2 室、6 室「みどりのライオン」における博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、年間で 10 万人を超える利用者があり、当館の博物館教育プログラムとして定着している。この事業の一部は、当館のボランティアの主要な活動範囲となっており、博物館教育におけるボランティアの現状と課題について調査した。 ・トーハクなびは、アンドロイド版に加えて、iOS 版をリリースし、さらに体験型コンテンツを充実させた。このアプリケーションは、GPS を用いた位置の測定や観覧車の滞在時間の調査などが可能であり、観覧者の回遊状況についての調査を実施した。	A	順調
4571-3	3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究を行う。	**3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究** 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能、修理予定・履歴管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。さらに、作品の検索性能の向上や、データの一括アップロード機能の追加を行った。また、システム環境の漸進的な更新にむけた作業を開始した。	A	順調

4571-4	4）凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。	**4）凸版印刷と共同でミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する** (1)前年度にデータ取得及びコンテンツ制作に着手した文化財について、ミュージアムシアターのコンテンツを公開した。 (2)重要文化財「日本沿海輿地図」8 鋪について、凸版印刷との共同で超高精細画像データを取得し、それに基づいたシアター用コンテンツの制作に着手した。同コンテンツは平成 26 年 6 月から 8 月にかけてミュージアムシアターで公開する予定である。 (3)既に取得した作品のデータを元にした新コンテンツ 2 件を監修し、公開した	A	順調
4571-5		**5）聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）** 聴覚障がいをもつ児童・生徒への特別支援教育についての調査と、国内外の美術館・博物館で行われているバリアフリー化、ユニバーサル化事業の調査を行った。	A	順調
4571-6		**6）藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費補助金）** ・当館ならびに橿原考古学研究所附属博物館が使用している非接触高精細三次元計測機の特性を把握するために、各々の機器の利点や弱点などについて把握することができた。 ・非接触三次元計測によって得られたデータについてレリーフ画像や断面形状を比較するだけでなく、データの解析処理を行うことによって、より細かなレベルでの物理的な検査が有効であるとことが判明した。	A	ほぼ順調
4571-7		**7）日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開（科学研究補助金）** 東京国立博物館所蔵の美術解剖学関係資料、特に森鷗外･久米桂一郎･黒田清輝に関する資料調査を、24 年度より継続して行った。	A	順調
4571-8		**8）文化財管理における美術品用語辞典の作成（科学研究費補助金）** 文化財に関する情報を扱う施設から収集した用語データを整理、体系化した。特に分担者は、データの整理や公開方法について検討した。	A	順調
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
4572-1	1）文化財情報に関する調査研究を行う。	**1）文化財情報に関する調査研究** (1)写真資料のデジタル化を進め、ウェブサイトにおける収蔵品公開データベースの追加・更新を随時行った。 (2)収蔵品公開データベースの解説文について、研究の進展に伴う新たな知見を反映させ更新を随時行った。 (3)文化財情報システムの運用上の問題点を検討し、システムの改良を随時行った。 (4)管理棟移転を期に、研究系ネットワーク・画像処理環境の近代化を通じて作業環境を向上させた。	A	順調
4572-2	2）新平常展示館の新装開館に向け、同館における新たな教育ツールの開発を行う。	**2）新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究** (1)他館の教育ツールの調査 (2)試作品の作成と反応調査 (3)「ミュージアム・カート」に配備する教材の作成	A	順調
4572-3	3）高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育について調査・研究を行う。	**3）高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究** (1)文化財ソムリエ（大学生ボランティア）に対するスクーリングを行った(18 回) (2)京都市内の小中学校への訪問授業を行った（7 回） (3)『文化財に親しむ授業ガイドブック』を刊行した（1000 部）	A	順調
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4573-1	1）歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	**1）歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。** 奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、まずは本年度開催した展覧会の中から抽出することとした。その情報を職員やボランティアが共有する機会を設け、児童・生徒が歴史への関心を高めるのに使える情報は何かを検討した。ボランティアへの指導と話合いを通して、世界遺産学習の実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた。	A	順調
4573-2	2）文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	**2）文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。（学術研究助成基金助成金）** デジタル撮影の本格的な稼働をうけ、その安定的な継続を目指して、撮影機材、撮影環境、保存用ストレージ、体制等の整備を引き続き行い、多数の文化財を撮影した。館内の情報システムや公開用データベースのリプレイス、データ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んだ。仏教美術資料研究センターにおいても、資料と施設の整備を継続的に行い、公開と見学受け入れにより、一般への普及に努めた。上記の実践と並行して、文化財アーカイブズに関する研究を進めた。	A	順調
	（九州国立博物館）	**【九州国立博物館】**		
4574-1	1）ＮＨＫと協同で高精細画像を活用したシアター4000での映像公開に向けた研究を引き続き実施する。	**1）NHK と協同で高精細画像を活用したシアター4000 での映像公開に向けた研究** 今回、プロジェクタシステムが機器更新を迎えることから、新しい機器の実験を通じて、最適なプロジェクタシステムの比較調査を実施した。スーパーハイビジョンシステムの将来を見据えたときに、機器の技術情報を関連企業にのみ独占させておくのではなく、当館自ら最新技術動向を把握し、調査研究を行うことで安定運用とコスト削減のバランスを図ることができた。また、新しいコンテンツを上映公開した。	A	順調
4574-2	2）特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う。	**2）特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究** 展示室内での解説パネルの掲出、体験コーナーの設置、配布物・ジュニアガイドの作成、ワークショップ、講演会などを実施。アンケートでは、展示を楽しめた、わかりやすかった、親近感が持てた、などの感想を得た。	A	順調

4574-3	3）学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発を引き続き実施する。	**3）学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・調査** 「きゅうぱっく」を貸し出した学校の実践事例を指導案の形式で収集することができた。また、福岡県教育センターのキャリアアップ講座を通して、博物館を活用した授業づくりに関する指導案を収集するとともに、「きゅうぱっく」について普及を図ることができた。	A	順調
4574-4	4）平成２７年度に迎える開館10周年における一定程度のリニューアルを見据え、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望について検討する。	**4）平成 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討** (1)研究員全員参加による検討会を行い、各課題の解決や必要な展示についての共通理解を得ることができた。 (2)外部委員会「次の 10 年を考える懇話会」を開催し、識者や市民代表による率直な意見をうかがうことができた。 (3)上記検討の成果を関連展示１室の改装工事に反映した。	A	順調
4574-5		**5）高等学校所蔵考古資料の調査研究** 福岡県、大分県、長崎県、広島県、奈良県の高等学校所蔵資料の調査を実施して、収蔵状況における実態をつぶさに把握することができた。また兵庫県において博物館連携を進めている学校教員にヒアリングを行い、今後の指針とした。さらに福岡で開催された高校教育に関する研究会に出席し、現今の学校教育がとりまく諸問題について知見を深めた。	A	順調

５　文化財保護に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1)　保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

【中期計画】

(1)　文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。

【主な計画上の評価指標】

○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。
○国際協力のネットワークを構築すること。
○アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

○調査修復に関わる技術転移、国際的な文化財保存修復等の分野における日本の国際協力の成果をもっと広く発信することが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 （１）文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国において文化財の保護事業を推進する。	（１）		
5111	①　海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を実施する。ユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化財保護施策の検討の用に供する。	**①　文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信** 世界遺産委員会（プノンペン）、無形文化遺産政府間委員会（バクー）等の国際会議に出席し、国際情報収集を行った。また日本の文化財の所蔵館や、他の所内業務において関連のある美術館・博物館を中心にアメリカ及びイギリスにおける動産文化財の所蔵・管理状況についての調査を行った。また、文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たに１冊刊行した。さらに研究機関間の連携強化とネットワーク構築のため、国際的な研究交流を推進した。	A	順調

(2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

【中期目標】------

【中期計画】
(2)　国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。

【主な計画上の評価指標】

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（2）国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。	（2）		
	①　文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。			
5211-1	ア　敦煌莫高窟壁画を始めとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施する。	**①ーア　中国の文化遺産の保存修復のための共同研究** 敦煌研究院、陝西省考古研究院、中国文化遺産研究院との共同関係を維持し、外部資金も活用しつつ、壁画・石造文化財等の保護に関する共同研究、人材育成について実績を上げた。	A	順調
5212-1	イ　韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究を実施する。	**①ーイ　韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究** 韓国国立文化財研究所（韓文研）とワークショップを実施し、北海道の手宮洞窟及びフゴッペ洞窟で共同調査を行った。	A	順調
5213	ウ　カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）を始めとする東南アジア地域等の文化財保護に関する調査研究及び保存修復協力事業を実施する。	**①ーウ　東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力** カンボジア、タイの両国において協力事業を実施した他、ミャンマーにおける文化遺産保存に関する情報収集及び共有、その他各国の関係機関との調整等を行った。	A	順調
5214		**①ーウ・エ　カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査** 西トップ遺跡に関しては、遺跡の安定化を図るための修復工事に本格的にとりかかり、まず南祠堂の解体修理に着手した。本年度中に上部構造及び基壇の解体を完了し、コンクリートベース上での仮組み作業を終えた。タンロン皇城遺	A	順調
		跡に関しては、ユネスコ日本信託基金による事業に協力し、総括としてのシンポジウムに参加した。		
5215	エ　アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施する。また、併せて周辺地域（西アジア諸国等）において、文化財調査研究及び保存修復協力事業を実施する。	**①ーエ　西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業** (1)アフガニスタン：バーミヤーン遺跡保存事業に関する調査研究、報告書の作成・刊行を実施した。 (2)イラク：保存修復専門家の人材育成・技術移転を実施した。 (3)西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力等：タジキスタン、インド、中央アジア諸国、コーカサス諸国、エジプトにおいて実施した。	A	順調
5216	オ　上記各事業と連携しつつ、中央アジア諸国等ユーラシア地域における文化財の保存及び修復に係る調査研究を推進する。また、文化財の保存修復手法に関するワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。	**①ーオ　ユーラシア壁画の調査研究と保存修復** (1)タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土の壁画断片の調査及び保存修復を行った。 (2)ロシア：エルミタージュ美術館と今後の協力体制の構築に向けた協議を行った。	A	順調

(3)　研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

【中期目標】------

【中期計画】
(3)　文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

【主な計画上の評価指標】
○諸外国への文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進めること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（3）文化財保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。	（3）		
5311	①　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化財保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹文化財、漆及び漆文化財についての材料学・保存修復等の講義と、修復、装丁等の実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果を元に修復を行う。	**①ー１　国際研修「紙の保存と修復」** 和紙を使用した紙本文化財の保存修復に関して研修を行った。 (1)日本国内研修：材料、美術史、装こうに関する講義。巻子修復、和綴じ冊子修復及び掛軸・屏風の取り扱い実習。和紙製造現場の視察。 (2)メキシコ研修：材料、装こう技術、装こう道具に関する講義。デンプン糊調製、和紙を用いた裏打ち、和紙を用いた強化、欠失部の補てんに関する実習。	A	順調
5312		**①ー２　在外日本古美術品保存修復協力事業** ・掛軸１作品、屏風１作品の修復を完了し、所蔵館に返還した。 ・作品修復のため、漆工芸品１作品を輸入した。	A	順調

		・今後の修復候補作品選定のため、漆工芸品及び絵画の調査を行った。 ・ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを開催した。 ・ケルンにおいて漆文化財の保存修復に関するワークショップを開催した		
5321	② 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行う。	**② ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力** 集団研修ではアジア太平洋諸国16ヵ国、16名の研修生に対して、木造建造物の保存と修復についての研修を行った。また個人研修ではキリバス人専門家2名に対して、遺跡の整備・活用に関する研修を行い、またバングラデシュ人専門家3名に対して、遺跡・遺物の調査と保存に関する研修を行なった。さらにスリランカで実施された「文化遺産ワークショップ」に協力し、講師1名を派遣した。こうした研修により、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。	A	順調

(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

【中期目標】 平成２３年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。

【中期計画】
(2) ２３年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【主な計画上の評価指標】
○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うこと。

【24年度評価における主な指摘事項】
○アジア太平洋無形文化遺産センターは、その役割がますます期待されるため、予算、人事面における拡充が望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
5411	（4）アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究推進の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究推進を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	**（4）アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進** 文化庁受託事業「平成25年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」及び文部科学省補助金「平成25年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金」事業を通じ、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究に関する国際専門家会合、保護の現状に関する現地での実態調査、及び無形文化遺産保護に関する研修を実施した。なお、これらの事業は当センター中長期計画及び第2回運営理事会での承認に基づき実施されたものである。	A	順調

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

【中期目標】 国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】 ------

【中期計画】
(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。
また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

【主な計画上の評価指標】
○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。
○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

【24年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 （1）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。	（1）		
6111	① 文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	**①－１ 文化財情報基盤の整備** 保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施した。また、インターネット接続について、従来の専用線から公衆回線での接続に変更した。さらに、所外からのグループウェア閲覧の利便性を図るため、VPN接続についてタブレット端末からの閲覧を可能にするソフトウェアを導入した。	A	順調
6112		**①－２ 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化** 本年度より、旧芸能部の時代に作成された映像資料の媒体変換に着手した。画像資料に関しては、既に所蔵を公開している写真資料のデジタル化を行った。アナログ音声資料の内、オープンリールとカセットテープに関しては、収録内容の確認を含めた整理を行った。	A	順調

6113		**①－３　文化財に関するデータベースの充実** 文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・分析に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化を進めながらデータの充実を図かると共に、新規データベースとして考古関連雑誌論文情報補完データベースを構築し、公開の準備を行った。	A	順調
6121	②　被災文化財関連情報に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	**②　被災文化財関連情報に関するデータの蓄積・分析及び情報発信** 平成 23 年度・24 年度に文化庁の委託により東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を運営し、また活動そのものにも携わった文化財レスキュー事業に関する情報を、同委員会の付託により収集・整理し、ウェブで公開した。	A	順調
6131	③　文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	**③－１　専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営）** 資料閲覧室の運営、ならびに資料の登録と情報のデータベース化、またそれを利用した外部公開用 SQL データの更新・運用を行った。	A	順調
6132		**③－２　図書の収集・整理・公開・提供** 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。また、移転に伴い、図書の配列を見直すことによって所在をより明らかにした。	A	順調

(2)　研究所の研究成果の発信

【中期目標】 ------

【中期計画】

(2)　文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【主な計画上の評価指標】

○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。
○ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図ること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（２）文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図る。	（２）		

6211	①　定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』	**①－１　定期刊行物の刊行（年報、概要、ニュース）** 年報 2012 年度版、概要 2013 年度版を編集、発行した。また、『東文研ニュース』を年 2 回、『東文研ニュースダイジェスト』（英語）を年 1 回発行した。	A	順調
6212	○『美術研究』（年3冊） ○『日本美術年鑑』	**①－２　定期刊行物の刊行（『平成 24 年度版日本美術年鑑』、『美術研究』）** 本年度は、『平成 24 年版日本美術年鑑』及び『美術研究』410～412 号を刊行した。	A	順調
6213	○『無形文化遺産研究報告』 ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』	**①－３　定期刊行物の刊行（『無形文化遺産研究報告』、『無形民俗文化財研究協議会報告書』** (1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 8 号を刊行した。 (2)平成 25 年 11 月 15 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 8 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行した。	A	順調
6214	○『保存科学』	**①－４　定期刊行物の刊行（『保存科学』５３号）** 20 件の投稿を受け、外部査読者 2 名を含む編集委員会を中心に査読を行い、報文 4 本、報告 15 本、合計 19 本の掲載を決定した。総ページ数は 244 ページとなった。本誌の体裁は昨年度までのものから変更をせず、650 部印刷し、関係諸機関に配布した。	A	順調
6215		**①－５　第 36 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会プロシーディングスの出版** 24 年 12 月に開催した第 36 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「文化財の微生物劣化とその対策―屋外・屋内環境、及び被災文化財の微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピック―」Microbial Biodeterioration of Cultural Property:Recent Topics on the Investigation of and Countermeasures for Biodeterioration of Outdoor / Indoor Properties and Disaster-affected Cultural Objects の口頭発表 15 件の内容をまとめた論文と、ポスター発表 23 件の要旨を収録したプロシーディングスを編集、出版した（26 年 1 月出版）。	A	順調
6216	○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』	**①－６　定期刊行物の刊行** 紀要等２点、ニュース２種８点、合計１０点を刊行した。	A	順調
6221	②　公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催（年1回）	**②－１　第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会** 26 年 1 月 10 日（金）～12 日（日）、東京文化財研究所の地下セミナー室において、第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会を開催した。最初の 2 日間は基調講演、研究発表（セッション 1～3）、3 日目は前 2 日間の研究発表に基づいたラウンドテーブルを行った。	A	順調

6222	○公開講座（オープンレクチャー）（年1回）	**②－２　平成 25 年度オープンレクチャー** 第 47 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：207 人、アンケートによる満足度：85%（回収率：89%））。	A	順調
6223	○公開講演会 ○現地説明会	**②－３　公開講演会、現地説明会等の開催** (1)公開講演会は、例年実施している定例公開講演会(奈良)を２回、特別講演会(東京)を１回、飛鳥資料館特別展記念講演会を２回開催した。いずれも多くの参加者があり、日頃の奈文研研究成果を一般に発信ができた。 (2)発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区､飛鳥藤原地区あわせて計５回実施した。このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することができ、事業としては順調に実施できた。	A	順調
6231	③アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	**③－１　ウェブサイトの運用** ウェブサイトのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。	A	順調
6232		**③－２　ウェブサイトの充実** (1)ウェブサイトを多言語化対応した。 (2)リポジトリをリニューアルし、利便性が向上した。 (3)コラムを継続発信し、企画展ブログを試行した。 (4)アクセス解析を開始した。	A	順調

(3)　研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】 ------

【中期計画】

(3)　平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。

【主な計画上の評価指標】

○来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（３）平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。	（３）		

6311	①　平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館） 特別展（年1回） 企画展（年1回） 年間目標来館者数　85,300人	**①　平城宮跡資料館における展示公開** (1)常設展の円滑な実施のため、その維持・管理に努めた。 (2)春期企画展「発掘速報展平城 2012」を 25 年 3 月 16 日～6 月 2 日に開催した。 (3)夏期企画展「平城京どうぶつえん」を 25 年 7 月 13 日～9 月 23 日に開催した。 (4)秋期特別展「地下の正倉院展－木簡学ことはじめ/平城宮・京の発掘調査の 50 年」を 25 年 10 月 19 日～12 月 1 日に開催した。	A	順調
6321	②　飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展（月曜日、年末年始休館　有料公開） 特別展（年2回） 企画展（年1回以上） 年間目標来館者数　48,800人	**②　飛鳥資料館における展示公開** (1)第 1 展示室の展示内容を部分的に改装し、特別陳列室の内装を全面的に改装。重量石像物の床補強を実施した。 (2)第 3 回写真コンテスト「神々の山―大和三山のある風景―」（作品展示 25 年 3 月 9 日～4 月 14 日）を開催した。 (3)春期特別展「飛鳥寺 2013」を 25 年 4 月 26 日～6 月 2 日に開催し、記念講演会を 25 年 5 月 18 日に開催した。 (4)春のミニ展示「坂田武嗣「風景の記憶」」を 25 年 5 月 1 日～6 月 30 日に開催した。 (5)夏期企画展「飛鳥・藤原を考古科学する」を 25 年 8 月 1 日～9 月 1 日に開催し、ギャラリートークを 25 年 8 月 4 日、8 月 18 日に実施した。 (6)第 4 回写真コンテスト「飛鳥川の導」（作品展示 25 年 9 月 7 日～10 月 6 日）を開催した。 (7)明日香村活性化事業「飛鳥光の回廊」に参加した。(25 年 9 月 14 日開催、15 日は台風のため中止) (8)ミニ企画展「日光男体山のかがやき–山岳信仰奉賽鏡の世界–」を 25 年 9 月 10 日～9 月 16 日に開催した。 (9)秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」を 25 年 10 月 18 日～12 月 1 日に開催し、記念講演会を 25 年 11 月 16 日に開催した。 (10)「発見 30 周年記念キトラ古墳壁画特別公開」を 26 年 1 月 17 日～1 月 26 日に開催した。 (11)冬期企画展「飛鳥の考古学 2013」を 26 年 2 月 14 日～3 月 16 日に開催した。	A	順調
6331	③　藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（年末年始休館　無料公開） 年間目標来館者数　4,509人	**③　藤原宮跡資料室における展示公開** 常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスの速報展示コーナーでは、最新の調査研究成果の公開を実施した。その他、適宜展示解説や各地の博物館への文化財貸与を行った。	A	順調

定量評価	25 年度	24 年度	目標値	評定
来館者数				
平城宮跡資料館	108,896	124,515	85,300	A
飛鳥資料館	41,736	38,854	48,800	B
藤原宮跡資料室	7,869	9,510	4,509	S

(4)　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 ------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(4)　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、ＮＰＯ法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。	○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。 【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（４）文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び奈良文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、ＮＰＯ法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。	（４）		
6411	①　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ○　文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の管理への協力 ○　国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力 ○　国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力 ○　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	**①－１　文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力** 文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力し、文化庁の平城宮跡等整備事業に協力した。	A	順調
6412		**①－２　文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力** (1)　第一次大極殿院の建物復原にあたり、所内検討会及び有識者を招聘した検討会を開催し、記録集を作成した。 (2)　平城宮跡の整備設計・工事等に対して、設計条件の整理、提出資料に対する助言、立会調査等を実施した。 (3)　文化庁や国土交通省が開催する会議等に対して、専門的・技術的な援助・助言を行った。	A	順調
6413		**①－３　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力** (1)国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳体験学習館の展示に資する奈文研所蔵資料一覧を作成、提示した。 (2)断続的に担当者間で調整・協議を行った。	A	順調
6414		**①－４　国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力** (1)平城宮跡展示館における公園案内ゾーン、ガイダンスゾーンの展示内容に関する指導ならびに必要な情報提供を行った。 (2)平城宮跡展示館における詳覧ゾーンの基本設計の見直しを、設計業者の委託を受け、行った。 (3)平城宮跡展示館と平城宮跡内の他施設との役割分担を検討した。	A	順調
6421	②　平城宮跡解説ボランティア事業の実施	**②　平城宮跡解説ボランティア事業の実施** 高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	A	順調
6431	③　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加	**③　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加** 平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。	A	順調
6441	④　NPO 法人等への支援	**④　ＮＰＯ法人等への支援** ボランティア団体への支援は、その育成につながった。平成 25 年度文化庁長官表彰において、特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワークが選ばれた。	A	順調

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。

【中期計画】

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

(1)地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

(2)文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

【主な計画上の評価指標】

○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。

○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施すること。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

○助言を受け付ける専門部署の設置や助言の申し込みに関する広報などを考慮してほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 （1）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。			
7111	①　地方公共団体等からの要請に応じ、それへの協力・助言・専門的知識の提供等を実施する。	**①－１　文化財の収集、保管に関する指導助言** 各研究員の専門的知識を活かして、地方公共団体等の行う文化財の収集、保存、展示に対して指導、助言を行った。	A	順調
7112		**①－２　無形文化遺産に関する助言** 平成 25 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁文化財部伝統文化課に対する助言を始め、9 件の助言を実施した。	A	順調
7113		**①－３　文化財の修復及び整備に関する調査・助言** 本年度は、件数として 44 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだものもある。	A	順調
7114		**①－４　文化財の虫菌害に関する調査・助言** 本年度は、対応件数が 33 件であり、指導助言先も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ場合もあった。今後も継続して指導助言を実施し、適正に文化財の虫菌害対策が実施されるように努めるとともに、新たな知見を得ながら的確な指導助言が行えるように努力する。	A	順調
7115		**①－５　文化財の材質・構造に関する調査・助言** 平成 25 年度は、蛍光Ｘ線分析やＸ線回折分析による材質調査、Ｘ線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。	A	順調
7116		**①－６　美術館・博物館等の環境に関する調査・助言** 国指定品の収蔵、展示を予定する 35 館を対象とした環境調査を行い、報告書を作成した。また、全国の多くの文化財施設などからの保存環境に関する相談に対して、必要な対応を行った。	A	順調
7117		**①－７　地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助** 対応した計 7 件の発掘調査は、主として個人住宅等の建設に伴う事前調査で、緊急性を要する調査に効率よく対応し、平城宮跡及びその隣接地、あるいは平城京の寺院跡などについての基礎資料を継続的に蓄積することができた。また、対応した立会調査は、当該地区における小規模開発に伴って、計 7 件に的確に対応し、当初の目的を達することができた。	A	順調
7118		**①－８　地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言** 藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 10 件あり、主に工事に伴う事前調査や立会である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。	A	順調
7119		**①－９　地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言** 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。	A	順調
7121	②　これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。	**②　他機関等との共同研究及び受託研究を実施** 地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。	A	順調
7131	③　東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査について、地方公共団体等に対する支援・協力を行う。	**③　東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力** 東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を踏まえ、一般的な発掘調査への支援はもとより、奈文研の特性を踏まえた技術について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を行った。	S	順調

7140	（年度計画外に実施）	**福島県内被災文化財等救援事業（福島文化財レスキュー事業）** ○福島県の支援要請を受けた文化庁の要請に拠り、文化庁、福島県被災文化財等救援本部及び関係団体と連携協力して福島県内被災文化財等救援事業を実施する体制として、機構本部に「福島県内被災文化財等救援事務局」を設置した（25年7月19日）。 ○旧警戒区域内の下記2施設において、被災文化財の救援事業を実施した。 (1)富岡町歴史民俗資料館 (2)双葉町歴史民俗資料館 ○福島県被災文化財等救援本部と共同で「福島県内被災文化財レスキュー会議・福島県被災文化財等救援本部会議」を2回開催した。(9月3日、26年3月3日) ○「福島県被災文化財等救援本部幹事会（第4回)」に出席した。(9月25日、機構出席者2人) ○旧警戒区域内の被災文化財等救出対象リストの作成について、福島県被災文化財等救援本部へ指導・助言を行った。	S	順調
	（２）文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。	（２）		
7211	①　埋蔵文化財及びその他文化財の担当者研修の実施 専門研修9課程、研修人数延べ117人	**①　文化財担当者研修** 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 9 課程の研修を実施し、延べ 138 名が受講した。研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。	A	順調
7221	②　博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施 期間2週間、受講生25名程度	**②　博物館・美術館等保存担当学芸員研修** 第 30 回保存担当学芸員研修、第 18 回及び第 19 回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。	A	順調
7231	③　東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ○　東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学) ○　京都大学：共生文明学（文化・地域環境論） ○　奈良女子大学：比較文化学（文化史論）	**③－１　東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進** 保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また文化財保存学演習（文化財保存学専攻修士課程 1 年対象）を 1 コマ担当した。平成 25 年度修士課程 1 年に、1 名の学生を受け入れ、修士論文指導を行った。	A	順調
7232		**③－２　京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進** 京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 2 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。 なお、平成 25 年度の受入学生数は京都大学 38 名、奈良女子大学 5 名であった。その他、奈良大学と協定を締結し、4 名の研究職員が非常勤講師として、学部生の教育を行った。	A	順調

		定量評価	25 年度	24 年度	目標値	評定
		埋蔵文化財担当者研修　課程数（課程）	9	12	9	A
		研修受講者数（延べ人）	138	156	117	A
		保存担当学芸員研修　期間（週間）	2	2	2	A
		受講生（名）	30	30	25	A

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　一般管理費等の削減

【中期目標】業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費についても５％以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。

なお、１９年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成２３年度までの統合後５年間で、１９年度一般管理費（物件費）の１０％相当の経費削減を図ること。

【中期計画】

1　中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費については５％以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

なお１９年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成２３年度までの統合後５年間で、１９年度一般管理費（物件費）の１０％相当の経費を削減する。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

（1）共通的な事務の一元化による業務の効率化

（2）計画的なアウトソーシング

（3）使用資源の減少

・省エネルギー　（エネルギー使用量は、５年計画期間中に５％削減）

・廃棄物減量化

・リサイクルの推進

【主な計画上の評価指標】

○中期目標の期間中、一般管理費 15%以上、業務経費５％以上の業務の効率化を図ること。

○共通的な事務の一元化を図ること。

○計画的なアウトソーシングを図ること。

○エネルギー使用量は、５年計画期間中に５％の削減を図ること。

○廃棄物の減量化を図ること。

○リサイクルの推進を図ること。

○競争性のある契約への移行を推進すること。

○民間競争入札等の推進を図ること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

○効率化自体が博物館事業・研究所事業の健全な運営を圧迫しつつある現状が少なからず認められるので、総予算の削減については、もはや限界に達したと考えられる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9110	1　一般管理費の削減 （1）共通的な事務の一元化による業務の効率化 1）財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。 2）国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。	1　一般管理費の削減 （1）共通的な事務の一元化による業務の効率化 1)共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。 2)国立博物館各館及び各研究成果公開施設における25～29年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。	A	順調
	3）機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。	3)機構共通の業務システムである、グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」の各システムの基盤となるネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」の運用を継続した。 ・グループウェア「サイボウズ」の本運用サーバーについて、障害発生時に業務への影響が少ないサーバー構成について検討した結果、専用のストレージサーバーを構築することとし、26年3月に調達を行った。26年4月以降、セットアップを行う予定である。 ・人事給与統合システム「U-PDS」及び web 給与明細システム「U-PHS HR」のバージョンアップを行った。(25 年 12 月)		
9120	（2）計画的なアウトソーシング 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 （東京国立博物館） ・資料館業務の一部 ・施設内店舗業務 （京都国立博物館） ・看視案内業務及び設備保全業務の一部 ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務 （奈良国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 （九州国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 （東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等	（2）計画的なアウトソーシング ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。	A	順調
9130	（3）　使用資源の減少 ・省エネルギー 1）光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 （エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減） ・廃棄物減量化 1）使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 1）廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。	（3）　使用資源の減少 ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集，リサイクル業者への古紙売り払い，再生紙の発注等） 使用資源の推移等 光熱水料金　（千円） 事項 / 24 年度 / 25 年度 / 差額 / 増減率 電気料 / 414,971 / 496,266 / 81,295 / 19.59% 水道料 / 83,236 / 87,249 / 4,013 / 4.82% ガス料 / 129,406 / 180,761 / 51,355 / 39.69% 計 / 627,613 / 764,276 / 136,663 / 21.78%	A	順調

※電気料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。
・電気料特殊要因①：原料高騰、再生可能エネルギー発電促進賦課金の賦課による契約単価と燃料調整費の上昇により増額となった。
・電気料特殊要因②：東京国立博物館における東洋館の通年開館及び黒田記念館の一部開館により使用量が増加した。
・電気料特殊要因③：京都国立博物館における平成知新館（平常展示館）の開館準備により使用量が増加した。

事項	24年度単価（円/kwh）	25年度単価（円/kwh）	差（円/kwh）	単価影響額（千円）
電気料特殊要因①	17.1	19.3	2.2	50,132

事項	増加量（kwh）	25年度単価（円/kwh）	単価影響額（千円）
電気料特殊要因②	532,642	21.6	11,505
電気料特殊要因③	1,124,635	23.0	25,867

※水道料は、東京国立博物館における東洋館及び黒田記念館の開館、奈良文化財研究所における発掘現場から大量に出土した遺物洗浄のための水道利用増により、増額となった。
※ガス料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。
・ガス料特殊要因①：原料高騰により契約単価が上昇した。
・ガス料特殊要因②：東京国立博物館における東洋館の通年開館により使用量が増加した。
・ガス料特殊要因③：京都国立博物館における平成知新館（平常展示館）の開館準備により使用量が増加した。

事項	24年度単価（円/㎥）	25年度単価（円/㎥）	差（円/㎥）	単価影響額（千円）
ガス料特殊要因①	81.7	96.4	14.7	24,157

事項	増加量（㎥）	25年度単価（円/㎥）	単価影響額（千円）
ガス料特殊要因②	72,624	87.3	6,340
ガス料特殊要因③	232,460	139.1	32,335

特殊要因を考慮した光熱水料金　（千円）

事項	24年度	25年度	差額	増減率
電気料（※）	414,971	408,762	△6,209	△1.50%
水道料	83,236	87,249	4,013	4.82%
ガス料（※）	129,406	117,929	△11,477	△8.87%
計	627,613	613,940	△13,673	△2.18%

※電気料・ガス料については特殊要因を勘案して算定。

廃棄物排出量　（kg）

事項	24年度	25年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	245,438	238,041	△7,397	△3.01%

9140

（4）　自己収入の増大

独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。

1）機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。

（4）自己収入の増大

1)定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり5.91%となり、目標を上回った。

（単位：千円）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
自己収入基準額	894,510	904,886	915,383
自己収入目標額	904,886	915,383	926,001
自己収入実績額	821,470	880,271	968,819
増　加　率	△8.17%	△2.72%	5.91%

※受託研究・受託事業を除く。
※自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。
※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

A　順調

2）機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

2)下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成25年度
寄附金	226件	486件
科学研究費補助金	76件	95件

A　順調

定量評価	25年度	24年度	目標値	評定
一般管理費の効率化（対前年度比%）	**10.88%減**	**6.44%減**	**3.20%**	**S**
業務経費の効率化（対前年度比%）	**2.61%減**	**0.89%減**	**1.03%**	**S**
光熱水料費の削減（対前年度比%）	**2.18%減**	**3.90%減**	**1.03%**	**S**
自己収入増加率	5.91%	2.72%減	1.16%	S
寄附金件数	486件	438件	226件	S
科学研究費採択件数	95件	76件	76件	A

2　給与水準の適正化等

【中期目標】給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。
　総人件費についても、平成２３年度はこれまでの人件費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成２４年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。

【中期計画】
２　国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成２３年度まで継続するとともに、平成２４年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。
　なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

【主な計画上の評価指標】
○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行うこと。

【24 年度評価における主な指摘事項】
○人件費の削減は順調に実施されており、努力をしていると評価できる。今後は、優秀な人材を確保・育成することにより、組織の活性化を図られたい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9210	２　給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取り組みについて、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。	２　給与水準の適正化等 ・人事給与統合システムが平成 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成 25 年度においても平成 21 年度の率を据え置くことが決定された。 ・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。	A	順調

3　契約の適正化の推進

【中期目標】契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく取組を着実に実施し、一層の競争性と透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。

【中期計画】
３　「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

【主な計画上の評価指標】
○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組むこと。
○情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】
○文化財を取り扱う特殊な分野であることにかんがみると、随意契約が最良の選択となり得る場合があることにも留意すべきである。
○一者応札・応募の原因は把握されてはいるが、改善方策が公告期間の延長のみであるため、さらなる検討が必要である。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9310	３　契約の適正化の推進 1）契約監視委員会を実施する。 2）施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 3）民間競争入札を推進する。 （東京国立博物館・東京文化財研究所） ・施設管理・運営業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。 （東京国立博物館） ・展示場における来館者応対等業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。	３　契約の適正化の推進 1)「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 25 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第１回契約監視委員会（25 年 11 月 29 日開催） 第２回契約監視委員会（26 年 6 月 13 日開催予定） 2）東京国立博物館正門前無料施設（ミュージアムショップ等）運営業務について、企画競争を実施した。 東京国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン・黒田記念館カフェ）、京都国立博物館（レストラン）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（ミュージアムショップ）については、既に企画競争を実施済み。 今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 3)・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。 ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「１０日間以上」から自主的措置として２０日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。	A	順調

一般競争入札件数

年度	24 年度	25 年度	増減
件数	136 件	171 件	35 件

4　保有資産の有効利用の推進

【中期目標】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。

【中期計画】

4　保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【主な計画上の評価指標】

○対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	4　保有資産の有効利用の推進	**4　保有資産の有効利用の推進**		
9411	（博物館４施設） 1）講座・講演会等を開催する。 2）講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3）国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。	**【東京国立博物館】** 1）月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。 2）撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト（ロケなび！）への登録を継続した。 3）・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。 ・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。 ・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。	A	順調
9412		**【京都国立博物館】** 1）平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。 2）平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため、庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。 3）来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。	A	順調
9413		**【奈良国立博物館】** 1）公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 2）奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。 3）地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。	A	順調
9414		**【九州国立博物館】** 1）文化交流展示や特別展に関連する講座・講演会等を開催した。 2）ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。 3）国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワークショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。	A	順調
9415	（文化財研究所２施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	**【東京文化財研究所】** ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを今年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。	A	順調
9416		**【奈良文化財研究所】** ・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ウェブサイト上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。 ・奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。ただし、本庁舎改築整備に伴って研修課程数を減らさざるを得なかったため（研修課程数9課程。24年度：12課程）、利用件数も減少となった。 ・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。	A	順調

施設名	平成 25 年度
平城宮跡資料館講堂	115 件　（内　有償貸与　6 件）
平城宮跡資料館小講堂	156 件　（内　有償貸与　4 件）
寄宿舎施設	805 件　（内　有償貸与 13 件）
飛鳥資料館講堂	45 件　（内　有償貸与　0 件）
その他（本庁舎・管理棟・収蔵庫等）	21 件　（内　有償貸与 14 件）
合計	1,142 件　（内　有償貸与 37 件）

5　内部統制の充実・強化

(1)理事長のマネジメント強化

【中期目標】法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
5(1)理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。	【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9510	**5（1）理事長のマネジメント強化** 1）モニタリングの実施 ・自己点検評価を行う。 ・監事監査を行う。 ・内部監査を行う。 2）リスクマネジメントの実施 ・リスク管理の必要に応じて、関連する諸規程の整備・見直しを行う。 ・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。	**5（1）理事長のマネジメント強化** 1)モニタリングの実施 ・自己点検評価を行い、『平成24年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(25年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮して自己点検評価報告書を作成。 ・監事による定期監査(25年6月21日)を行った他、臨時監査を京都国立博物館(26年1月10日)、九州国立博物館(26年1月17日)、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(26年2月14日)を対象に行った。 ・内部監査を、25年10月31日～11月29日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 2)リスクマネジメントの実施 ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の見直しを行い、東京国立博物館防災管理規則に規定する自衛消防隊組織の改編をした。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを随時行い、東京国立博物館では緊急対応ポケットメモの改訂を行い本部職員と東京国立博物館の職員へ配布した。	A	順調

(2) 外部有識者による事業評価

【中期目標】外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
5(2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。	【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9520	**5（2）外部有識者による事業評価** 1）運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2）職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。	**5（2）外部有識者による事業評価** 1)運営委員会(25年7月30日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会：25年4月17日、博物館調査研究等部会：4月23日、総会：5月22日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。 2)(各種研修について詳細は処理番号 0230 参照)	A	順調

(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善

【中期目標】管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
5(3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。	【24 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9530	**5（3）情報セキュリティ対策の向上と改善** 1）情報セキュリティについて定期監査等を実施する。 2）機構全体での情報セキュリティ強化のため、ネットワーク環境の見直しを行う。	**5（3）情報セキュリティ対策の向上と改善** 1)・保有個人情報管理監査を、京都国立博物館（26年1月10日)、九州国立博物館（26年1月17日)、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（26年2月14日）を対象に実施した。 ・情報システム監査を、京都国立博物館を対象に実施した。(25年11月6日) ・情報システム自己点検・評価について、セキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した。(25年4月) ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(25年12月) 2）当初の予定では、25～26年度にかけて、セキュリティ強化、安定性向上を目的とした機構内ネットワークの統合を行うこととしており、その準備・検討を進めていたが、要求していた26年度以降の予算措置の見込みがなくなったため、やむを得ず見送った（25年12月)。引き続き、機構 VPN の見直しについての検討を継続する。	B	ほぼ順調

Ⅲ　予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

【中期目標】入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。
1　自己収入の増加
　入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。
　また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。
2　固定的経費の節減
　管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。
　また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。

【主な計画上の評価指標】
○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因が明らかにすること。また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因の分析を行った上で、当該要因が法人の業務運営に問題等があることによるものかを検証し、業務運営に問題等があることが判明した場合には当該問題等を踏まえた評価を行うこと。
○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないかについて評価を行うこと。
○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画の妥当性について評価すること。当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証を行うこと。(既に過年度において繰越欠損金の解消計画が策定されている場合の、同計画の見直しの必要性又は見直し後の計画の妥当性についての評価を含む)。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるかどうかについて評価を行うこと。
○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合において、運営費交付金が未執行となっている理由を明らかにすること。
○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析を行った上で、当該業務に係る実績評価を適切に行うこと。

【24 年度評価における主な指摘事項】
○版権・特許権使用料（主に収蔵品画像使用料）の低迷により自己収入目標額を達成できなかった。今後の着実な取組に期待する。
○平成２１年に開催した特別展「阿修羅展」のように来館者数が例年より非常に多い年も勘案して自己収入目標を設定することは現状に即しておらず、こうしたシステムは早急に見直しが望まれる。
○利益剰余金はインセンティブとなるようにする必要がある。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期

予算

（単位：百万円）

区　　分	金 額
収入	
運営費交付金	8,392
施設整備費補助金	2,854
展示事業等収入	1,322
受託収入	26
計	12,594
支出	
管理経費	1,415
うち人件費	614
うち一般管理費	801
業務経費	8,299
うち人件費	2,167
うち調査研究事業費	1,955
うち情報公開事業費	187
うち研修事業費	20
うち国際研究協力事業費	224
うち展示出版事業費	185
うち展覧事業費	3,485
うち教育普及事業費	76
施設整備費	2,854
受託事業費	26
計	12,594

収支計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
費用の部	6,971
経常経費	6,971
管理経費	1,052
うち人件費	614
うち一般管理費	438
業務経費	5,516
うち人件費	2,167
うち調査研究事業費	1,068
うち情報公開事業費	102
うち研修事業費	11
うち国際研究協力事業費	122
うち展示出版事業費	101
うち展覧事業費	1,903
うち教育普及事業費	42
受託事業費	26
減価償却費	377
収益の部	6,971
運営費交付金収益	5,245
展示事業等の収入	1,322
受託収入	26
資産見返運営費交付金戻入	360
資産見返物品受贈額戻入	18

資金計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
資金支出	12,594
業務活動による支出	6,594
投資活動による支出	6,000
資金収入	12,594
業務活動による収入	9,740
運営費交付金による収入	8,392
展示事業等による収入	1,322
受託収入	26
投資活動による収入	2,854
施設整備費補助金による収入	2,854

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【中期目標】

1　施設・設備に関する計画

各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。

2　人事に関する計画

人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。

【中期計画】

1　施設・設備に関する計画

施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

2　人事計画に関する計画

(1)方針

①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。

②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。

③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

(2)人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

中期目標期間中の人件費総額見込額

１３，０８７百万円

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

3　中期目標期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

4　積立金の使途

前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

【主な計画上の評価指標】

○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。

○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ること。

○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行うこと

【24 年度評価における主な指摘事項】

○これ以上の人員削減や人件費の圧縮は法人本来の中核的な業務にも影響が生じることになるため、人事制度の見直しが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
0110	**1　施設・設備に関する計画** 別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。 施設・設備に関する計画 （単位：百万円） 施設・整備の内容 ／ 予定額 ／ 財源 京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事 ／ 200 ／ 施設整備費補助金 奈良国立博物館 収蔵庫免震工事 ／ 123 ／ 施設整備費補助金 奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進 ／ 2,531 ／ 施設整備費補助金 合計 ／ 2,854	**1　施設・設備に関する計画** （国立文化財機構） ・機構の長期的ビジョンを実現していくため、施設整備に関する中長期プランとして、『独立行政法人国立文化財機構 施設整備マスタープラン』を 26 年 3 月 31 日に作成した。今後、概算要求等で活用していく。 （東京国立博物館） ・正門東側にインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。 ・本館リニューアルに向けて、1 階展示室、エレベーター、地下トイレ等の改修工事を実施した。 ・黒田記念館の障がい者用エレベーター、段差解消機及び多目的トイレ設置の改修工事を含めた耐震補強改修及び書庫棟傾き補修等の工事を 24 年度に引き続き実施し、25 年 7 月に完了した。 ・表慶館に障がい者用エレベーター及び多目的トイレ設置の改修工事を 24 年度に引き続き実施し、25 年 6 月に完了した。 （京都国立博物館） ・緊急屋根等漏水補修工事は、平成 25 年度末に文化財保存修理所改修工事期間中の仮工房整備工事を完了し、本館中央室屋根修繕工事の瓦の平葺きまでの工程を終えた。 ・24 年度に本体工事が完了した平成知新館(新平常展示館)において、今年度は外構工事、展示ケース製作工事を実施した。 （奈良国立博物館） ・彫刻品を収める収蔵庫２室について、室内の床を免震化する改修工事を実施した。 ・防災設備等の改修として、収蔵庫ガス消火設備工事、防犯設備工事（センサー・監視カメラ）、発電機設備工事を 24 年度に引き続き実施し、25 年度末に完了した。 （奈良文化財研究所） ・本庁舎の建替に向けて、仮設庁舎建設工事及び移転を完了した。現庁舎取壊工事を進めており、26 年度第二四半期末に完了を予定している。 ・新庁舎建設の設計を進めており、26 年度第二四半期末に完了を予定している。	A	順調

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
0210	**2　人事計画に関する計画** （1）職員の能力や業績を適切に反映	**2　人事計画に関する計画** （1）平成 20 年度において、機構として統一的な運用及び規程を整備し、勤務評定制度を開始した。給与へは昇給及	A	順調

	できる人事・給与制度を検討する。	び勤勉手当に反映している。		
0220	（2）近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。	（2）〈事務系職員〉 ・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。 ・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（計 8 人）における交流を行っている。	A	順調

年度	本部・東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	年度計（人）
21	18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)	13(京大、民博、奈良博、東博)	10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)	11(九大、九工大、本部)	8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)	8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大)	—	68 (8)
22	18(東大、東近美、政研大、京博)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	8(文化庁、阪大、京大、京博)	8(九大、本部	5(医科歯科大、東博、奈文研)	11(京大、阪大、総地研、奈女大)	—	64 (9)
23	17（東大、東近美、政研大、奈文研)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	12(阪大、京大、京博、本部)	8(九大、本部)	6(医科歯科大、東博、本部)	12(文化庁、京大、阪大、奈女大)	1（奈文研）	70 (12)
24	17（東大、学士院、奈文研）	14(京大、民博、奈文研、東博)	9(阪大、京大、京博、本部)	9(九大、本部)	7(医科歯科大、東近美、東博、本部)	8(京大、阪大、奈女大、京博)	1（奈文研）	65 (11)
25	15（東大、学士院）	11（京大、京近美、民博、本部）	9（京大、阪大、本部、奈文研、京博）	8（九大）	5（東大、医科歯科大、東近美、本部、東博）	8（京大、阪大、奈女大、京博）	1（京博）	57 (8)

※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。(機構に受け入れている人数)
※平成 21 年度から機構内の人事交流中の人数を含めた。合計欄の( )内の人数。

〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を 6 人採用した。
・また、文化庁から 9 人の受け入れ及び文化庁への出向を 15 人行っている。
・機構内での人事交流を図るため、各施設間にて計 8 人の交流を行っている。

0230	（3）各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。	（3）・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修(3 件)、施設系の職員を対象とした研修（1 件）及びハラスメントに関する研修(1 件)を行った。 ・その他、他機関で実施する研修に延べ 12 名の職員を参加させ、職員の能力開発に寄与した。	A	順調

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
新任職員研修会	25 年 7 月 22 日～24 日	平成 24 年度以降の新任職員等	27 人
接遇研修	25 年 7 月 23 日	平成 24 年度以降の新任職員等	27 人
個人情報保護についての研修・講演会	25 年 7 月 22 日	平成 24 年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員	約 70 人
ハラスメント防止に関する研修・講演会	25 年 7 月 22 日	各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約 70 人
施設系職員研修会	25 年 7 月 25 日～26 日、26 年 2 月 27 日～28 日	機構内の施設系職員	延べ 19 人

0240	（4）非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	（4）・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、機構独自で採用可能とする規程の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とし、平成 24 年度において、事務職員を適用範囲とした。平成 25 年度において同採用制度を活用し、事務職員 1 名、技術職員 1 名の計 2 名を採用し、事務職員 4 名の採用内定を行った。 ・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイトフェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成 25 年度は東京国立博物館で 5 人、九州国立博物館で 1 名、東京文化財研究所で 5 人及び奈良文化財研究所で 6 人の計 17 人を採用した。 ・平成 25 年度の機構独自の採用人数は上記のとおり、事務職員 1 名、技術職員 1 名、アソシエイトフェロー17 名の計 19 名である。	A	順調
0250	（5）専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。	（5）・高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成23年度において1名採用した。平成25年度において、柔軟かつ多様な人材の確保のため、新たに任期付専門職員制度を整備し、平成25年8月に1名を採用した。 ・高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、新たな専門スタッフの制度創設に向け検討を始めた。	A	順調

Ⅱ　25年度自己点検評価報告書　個別表

【書式A】　施設名：東京国立博物館　処理番号：1111

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】

各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。

(東京国立博物館)

日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　富田　淳

【実績・成果】

・購入件数 5件。内訳：絵画1件、彫刻1件、金工1件、東洋染織2件。
・決算額　123,950,000円

25年度は、絵画1件(伝霊彩筆文殊菩薩像)、彫刻1件(如意輪観音菩薩坐像)、金工1件(重要美術品 線刻千手観音鏡像)、染織2件(帯 銀地花卉段文様モール錦、帯 銀地花卉鱗文様モール錦)の計5件を購入した。

【補足事項】

・絵画の文殊菩薩像は東福寺系の仏画に属する15世紀の作品として、総合文化展「禅と水墨」に活用ができる。
・彫刻の如意輪観音菩薩坐像は鎌倉時代の優品として、密教彫刻・檀像彫刻・観音信仰などのテーマで幅広く展示に活用ができる。
・金工の重要美術品 線刻千手観音鏡像は、バランスの整った形姿や緻密な四十臂の表現など、鏡像としては特に優れた作ゆきを示すものである。
・染織の帯 銀地花卉段文様モール錦、帯 銀地花卉鱗文様モール錦は、いずれも日本国内においては数少ない完形品であり、東洋館13室の展示に活用できる。



如意輪観音菩薩坐像

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品件数	115,653件	－	－		112,776	113,258	113,897	114,362
うち国宝	87件	－	－		87	87	87	87
うち重要文化財	633件	－	－		624	629	631	631
購入件数	5件	－	－		8	4	0	5

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】

体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。

(東京国立博物館)

日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1112

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)-1　適時適切な収集

【年度計画】
　各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(京都国立博物館)
　京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
・購入件数０件
　今年度は、購入がなかった。

【補足事項】
　平成知新館（新平常展示館）の開館に向けての展示器具の調達など、さまざまな準備業務に予算を重点配分したため、当初計画とは異なり、購入費の捻出ができなかった。なお、次年度以降に購入すべき案件候補について、予算規模に合わせて柔軟に対応できるように選定作業を進めた。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品件数	6,721件	－	－		6,526	6,584	6,621	6,708
うち国宝	27件	－	－		27	27	27	27
うち重要文化財	179件	－	－		176	177	177	179
購入件数	0件	－	－		7	23	13	1

総合評価	Ｓ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ⓕ(Ｓ、Ｆの理由)購入予算がなかったため。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(京都国立博物館)
　京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	要注意

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1113

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】
　各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(奈良国立博物館)
　仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
・購入件数　3件　内訳：絵画1件、書跡1件、金工1件
・決算額　40,350,000円

購入により3件の文化財が新たな収蔵品として加わった。
・絵画　絹本著色弥勒菩薩来迎図　1幅　南北朝時代(14世紀)
・書跡　延長四年二月十三日民部省符　1幅　平安時代延長4年(926)
・金工　柄香炉　1柄　平安時代(9～12世紀)

【補足事項】
・絵画部門の購入品である絹本著色弥勒菩薩来迎図は、弥勒菩薩が諸聖衆とともに来迎する様を山水の景のなかに描いた絵画で、阿弥陀来迎図に比べて現存作例の少ない弥勒来迎図の希少な遺例。南都に継承された図像に基づくことが判明しており、中世の南都が生み出した仏教絵画の展開を示す貴重な作品。
・書跡部門の購入品である延長四年二月十三日民部省符は、我が国の古代律令政府の中心である太政官の下にある民部省から、大和国に宛てて出された符（上意下達文書）の原本で、弘福寺（大和国高市郡）が不当に収公された寺田の返還を求めていたのに対し、それを認可する内容のもの。同種の古文書はかつて多数現存したはずだが、現在に伝わる原本は数少なく、本文書は古文書学・古代史研究上の史料として著名かつ貴重。
・工芸部門の購入品である柄香炉は、僧侶が手にとって香を焚き、仏を供養するために用いる仏具で、通常は銅製であり、鉄製のものは珍しい。火炉が浅く朝顔形に口縁が大きく広がり、脚柱が短い安定感ある形状を示す。このような特徴から、平安時代にさかのぼる遺品と目される。


[購入品]絹本著色弥勒菩薩来迎図

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
収蔵品件数	1,862件	－	－	経年変化	1,812	1,827	1,831	1,834
うち国宝	13件	－	－		12	13	13	13
うち重要文化財	111件	－	－		110	109	109	111
購入件数	3件	－	－		4	7	4	2

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(奈良国立博物館)
　仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1114

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】
　各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(九州国立博物館)
　日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
・購入件数15件　内訳：絵画4件、書跡1件、彫刻1件、陶磁1件、漆工1件、染織3件、考古1件、歴史資料3件

・決算額 724,756,100円

　当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を15件購入した。

【補足事項】
・15件を購入した。
・絵画分野においては、12世紀の王朝文化を伝える「紙本著色病草紙断簡（痣のある女)」、14世紀の中国で描かれ、マニ教研究史上にも貴重な「絹本著色摩尼誕生図」等、4件を購入した。
・書跡分野においては、中国・元時代を代表する禅僧で、日本僧も多く参禅した月江正印が執筆した「紙本墨書月江正印墨蹟　識語」を購入した。
・彫刻分野においては、平安時代後期の神像の優品で、同時代の後屏も付属する「女神坐像」を購入した。
・陶磁分野においては、17世紀の伊万里で焼かれた輸出用の色絵磁器「色絵花鳥文六角壺（柿右衛門様式)」を購入した。


[購入品]紙本著色病草紙断簡（痣のある女）

・漆工分野においては、中国・明時代嘉靖期の典型的な彫彩漆の特徴を備え、官営工房作と推考される「春字彫彩漆合子」を購入した。
・染織分野においては、18 世紀のインド更紗の優品で、オランダ東インド会社の「VOC」印が捺される「茜地花丸花唐草文更紗」や、インド更紗を用いて 18 世紀の日本で仕立てられた「格子絣更紗間着」、首里で作られた紅型や煮綛芭蕉布、「薩摩上布」の名で薩摩藩から江戸幕府に献上された八重山・宮古の上布など多彩な資料で構成される「紅型・琉球衣裳」等、3 件を購入した。
・考古分野においては、古墳時代後期の大型鏡で百済との密接なつながりを示す(重要美術品)「伝三上山下古墳出土　獣帯鏡」を購入した。
・歴史資料分野においては、中国明時代の医学の影響を受けた室町時代後期の医学書「紙本墨刷阿佐井野版医書大全」、大和国添上郡楢中郷五条五里一坪に関し、天暦8年（954）から長保4年（1002）までの所有権移転を示す手継証文を貼り継いだ巻子を含む「東大寺等関係文書」等、3件を購入した。
・いずれも、我が国と大陸あるいは九州と本州等との交流を物語るもの、あるいは、時代の美意識や工芸技術の高さを端的に示す優品であり、当館の文化交流展示における基礎をなすものといえる。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品件数	493件	－	－		397	433	453	474
うち国宝	3件	－	－		3	3	3	3
うち重要文化財	29件	－	－		27	28	29	29
購入件数	15件	－	－		27	31	17	18

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(九州国立博物館)
　日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　富田　淳

【実績・成果】
1)○寄贈
・新規寄贈品件数　471件　内訳：絵画5件、書跡11件、彫刻1件、金工414件、刀剣2件、染織4件、歴史資料1件、東洋金工29件、東洋彫刻1件、東洋染織1件、黒田記念館収蔵品2件。

○寄託
・新規寄託品件数　20件　内訳：絵画2件、書跡2件、彫刻10件、漆工3件、東洋絵画3件。
・寄託品は新規に20件を受け入れ、64件を返却した。
・寄贈者については、平成館の寄贈者顕彰版コーナーをリニューアルし、多くの来館者の方々にこれまでの寄贈者の方々のお名前をご覧いただけるようにした。

【補足事項】
○寄贈
・作品の寄贈については15名の所蔵者から、471件の文化財を受け入れた。
・絵画の寄贈品のうち、「源氏物語図屏風」は、現在唯一確認される本間屏風の源氏絵で、近世初期の風俗画や物語絵巻等に、特徴的な人物描写の類作を残す画系の源氏絵作品として重要な作例である。
・黒田記念館収蔵品の寄贈品「グレーの原」は、黒田がフランス留学中にグレーで制作を行い、サロン入選を目指していく時期のもので、黒田記念館の作品群を補う貴重な作例である。



［寄贈品］
黒田清輝筆　グレーの原

○寄託
・作品の寄託については6名2機関から、20件の文化財を新規に受け入れた。
・寄託品の東洋絵画1件(794点)は、日本の個人所蔵の中国絵画コレクションとしては質量ともに最大規模のものであり、展示と研究に活用が期待できる。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
新規寄贈品件数	471件	－	－	経年変化	43	23	151	63
寄託品件数	2,519件	－	－		2,734	2,726	2,689	2,563
うち新規寄託品件数	20件	－	－		3	5	7	3
登録美術品件数	23件	－	－		3	3	3	2

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
1)○寄贈
・新規寄贈品件数　13件　内訳：絵画5件、書跡1件、金工3件、漆工3件、染織1件
・今年度寄贈品13件のうち、書跡1件は寄託品からの寄贈である。金工3件のうち、「刀　無銘（名物島津正宗)」は近代以降に所在が不明であった名物刀剣であり、当館の刀剣コレクションが質・量ともに充実した。絵画では、海北友松、谷文晁、田能村竹田をはじめとする著名な近世の画家たちの優品を相次いで受贈した。
○寄託
・新規寄託品件数　70件　内訳：絵画25件、書跡2件、彫刻2件、金工12件、陶磁20件、染織8件、考古1件
・件数では昨年度より若干減少したが、来年度からの平常展示の再開に向けて、京都周辺の寺院から展示の目玉となる国宝・重文クラスの寄託を受けることができた。また、「狩野山楽・山雪展」や「魅惑の清朝陶磁展」など特別展開催を契機に、数多くの展示作品を寄託いただいた。

【補足事項】
○寄贈
・寄贈は13件で、寄贈者は13人（うち1件は連名）であった。
・金工の「刀　無銘（名物島津正宗)」は『享保名物帳』に載る名物・島津正宗と伝えられる磨上無銘の刀である。その所在が近代以降不明であったが、このたび当館に寄贈されたことで、26年秋開館の平成知新館（新平常展示館）開館展示での目玉の一つとなるものと思われる。
・絵画で寄贈いただいた作品は、どれも美術史的価値の高い作品であることが特筆される。海北友松筆「禅宗祖師図押絵貼屏風」は流麗さの中に筆線の力強さを併せ持った友松独自の様式をよく伝えるもので、谷文晁筆「福禄寿三星図」は最初期の画業として注目に値する。田能村竹田筆「帯瓢拾句図」は大幅ではないが、文人同士の友情を示す。「厳島・近江八景図屏風」は無款だが、近江八景を扱ったものとしてはかなり早い作例で、保存状態も良好である。全体に屏風や大幅の作品が多く、新しい展示室での展示効果が大いに期待される。



［寄贈品］刀　無銘（名物島津正宗）

○寄託
・新規寄託の文化財には、妙心寺から国宝「宗峰妙超墨蹟 印可状」や重文「関山慧玄墨蹟 印可状」、重文「花園法皇像 後花園上皇賛」をはじめ、多数の指定文化財が含まれている。天球院の重文・狩野山楽・山雪筆「朝顔図襖」「竹虎図襖」の寄託は寺坊でデジタル複製の襖に入れ替えての原図保存のためであり、博物館が担うべき文化財保存の役割にかなっている。また、展覧会開催に伴う寄託品も飛躍的に増加したのも特徴である。常念寺の重文「仏涅槃図」は26年春開催の「南山城の古寺巡礼」展開催に先立ち寄託いただいた作品で、25年春の「狩野山楽・山雪」展では開催に前後して上述の天球院の襖のほか多数の狩野山雪作品を、25年秋の「魅惑の清朝陶磁」展では京都の旧家から陶磁19件、絵画1件を受託した。
・返却した寄託品は92件である。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
新規寄贈品件数	13件	－	－		102	35	24	86
寄託品件数	5,892件	－	－		5,957	6,005	6,013	5,914
うち新規寄託品件数	70件	－	－		180	107	93	73

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1123

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
1)○寄贈
・新規寄贈品件数　25件
○寄託
・新規寄託品件数　49件　内訳：絵画7件、彫刻24件、書跡11件、工芸7件
・寄託については、新規に20人の所蔵者から49件の作品の文化財を受け入れた。
絵画7件（絹本着色行基菩薩像　1幅／絹本着色春日若宮祭礼図・鷹狩図屏風　6曲1双／絹本着色春日社寺曼荼羅　1幅／絹本着色春日宮曼荼羅　1幅／重要文化財旧慈門院障壁画　41面／絹本着色當麻曼荼羅　1幅／奈良市指定文化財 當麻練供養図　1幅）
彫刻24件（重要文化財 木造天神坐像　1躯／銅造阿弥陀如来坐像　1躯／銅造光背　1面／木造阿弥陀如来立像　1躯／木造毘沙門天立像　1躯／木造蔵王権現立像　1躯／木造南無仏太子立像　1躯／木造善導大師坐像　1躯／三重県指定文化財 木造薬師如来坐像　1躯／桜井市指定文化財 木造天神坐像　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その一）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その二）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その三）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その四）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その五）　1躯／桜井市指定文化財 木造神像(その六）1躯／木造狛犬　1躯／銅造如来坐像　1躯／銅造力士立像　1躯／銅造菩薩立像　1躯／銅造菩薩立像　1躯／銅造十一面観音菩薩立像　1躯／銅造天部坐像　1躯／銅造獅子　1躯）
書跡11件（紙本墨書大中臣親泰和歌懐紙　1幅／紙本墨書公慶上人書状　1幅／紙本墨書柳里恭日記　2帖／彩箋墨書詠歌大概　1帖／紙本着色大乗院殿境内図　1鋪／称讃浄土仏摂受経　1巻／称讃浄土仏摂受経　1巻／紺紙金字大般若経巻第五百五十二　1巻／紺紙金字華厳経巻第三十七・巻第三十八　2帖／重要文化財紙本墨書法華経（久能寺経）　4巻／写経断簡（五月一日経願文）　1幅

【補足事項】
○寄贈
・新規寄贈品 25 件のほか、「撥鏤工程見本」を受入れたが、平成 10 年度に寄贈された「正倉院宝物模造（撥鏤尺）付 制作過程資料　一括」の内訳として追加登録のため、収蔵品の件数としては計上しない。

○寄託
・絵画部門の寄託品である絹本着色當麻曼荼羅は貞享本と呼ばれ、国宝綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）の當麻寺において制作された写本としてきわめて重要な資料である。
・彫刻部門の寄託品である重要文化財木造天神坐像は、像内に制作された年号を有するとともに、鋳造製の銅鏡を納め、そこに天神の本地仏である十一面観音像を線刻しており、天神信仰の歴史を考えるうえで第一級の資料を提供するとともに、一個の美術作品としてもきわめて優れた作品である。
・書跡部門の寄託品のうち重要文化財紙本墨書法華経（久能寺経）は、平安時代の装飾経を代表する作品として著名であり、その美しさには定評のあるものである。
・工芸部門の寄託品のうち刺繍種子阿弥陀三尊像は、鎌倉時代以降に流行した阿弥陀三尊を刺繍で、しかも種子で表したもので、同時代の阿弥陀信仰と密教との融合を象徴する作品である。


［寄託品］重要文化財・木造天神坐像

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
新規寄贈品件数	25件	－	－		3	8	0	1
寄託品件数	1,994件	－	－		1,957	1,947	1,945	1,951
うち新規寄託品件数	49件	－	－		9	6	12	13

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1124

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
1)○寄贈
・新規寄贈品件数　4件　内訳：絵画1件、陶磁1件、漆工1件、考古1件
○寄託
・新規寄託品件数 15件　内訳：絵画11件、金工1件、刀剣1件、陶磁2件

【補足事項】
○寄贈
・4件の寄贈があった。
・絵画分野においては、江戸時代後期の文人画家である福原五岳（1730-1799）が描いた山水図6面に阿波国ゆかりの儒者6名が着賛した「紙本墨画山水図押絵貼　六曲屏風　福原五岳筆」1隻の寄贈を受けた。文人や儒者たちの交流のあり方を検討するうえでも興味深い作品である。
・陶磁分野においては、江戸時代初期の高取・内ケ磯窯になる「藁灰釉沓形茶碗」1口の寄贈を受けた。割高台の内に「王」字が刻まれた優品である。
・漆工分野においては、江戸時代後期に京都で活躍した塗師佐野長寛(1791-1863)の作と伝えられる「布袋堆朱香合」1合の寄贈を受けた。中国製の堆朱合子を模して作成された和物堆朱で、今後、製作技法研究に資することも期待できる作例である。
・考古分野においては、「福島県寺脇貝塚出土　石冠」の寄贈を受けた。線刻のある石冠の優品は稀少であり、かつ出土地も明らかな本作品は、高い資料的価値を有し、縄文時代の展示に光彩を加える逸品である。


［寄贈品］藁灰釉沓形茶碗

○寄託
・15件の新規寄託があった。
・絵画分野においては、鎌倉時代前期の密教図像で現存例の少ない「烏枢沙摩明王像」や鎌倉時代中期の仏画「阿弥陀三尊来迎図」、近世絵画では、狩野永徳筆の「松に叭叭鳥・柳に白鷺図屏風」をはじめ、雲谷等益、鶴澤探鯨、山本探淵、佐々木泉龍、岸駒らの作品の寄託を受けた。
・刀剣分野においては、14世紀の兜鉢に近世後期の復古調胴丸からなる「金小札萌黄威胴丸具足」1具の寄託を受けた。
・金工分野においては、琉球王国における公的な祝宴等で用いられた錫製蓋付瓶で、色とりどりのガラス小玉で装飾された現存稀少な「御玉貫」1対の寄託を受けた。
・陶磁分野においては、志野茶碗の中でも完品での現存希有な筍図を描いた「志野筍図筒茶碗　銘直進」1口、伊万里・柿右衛門様式の色絵の尺皿として珍しい「色絵船遊人物図大皿」1枚の寄託を受けた。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
新規寄贈品件数	4件	－	－		0	4	1	3
寄託品件数	1,081件	－	－		1,256	1,297	1,219	1,238
うち新規寄託品件数	15件	－	－		197	50	17	30

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
(東京国立博物館)
1)列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。
2)歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板･館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進める。

担当部課	学芸研究部列品管理課 学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　富田　淳 課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として1,492件の保存カルテを作成し、蓄積した。
(東京国立博物館)
1)平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。
2)旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。

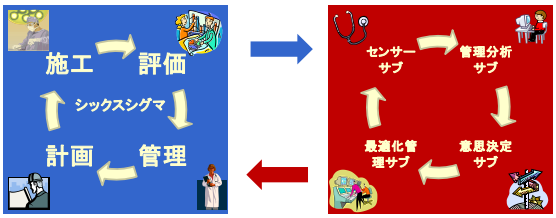
【補足事項】
・本格修理時298件、応急修理時408件、列品貸与時786件、合計1,492件の保存カルテを作成した。
・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「博物館における包括的保存システムの構築に関する研究(Ⅴ)」を発表した。
・臨床支援システムを用いた各種データの有効活用を行い、収蔵品の管理保存の実効性を向上させている。

・列品情報整備事業の本格調査5年目にあたる本年度は、絵画・書跡・彫刻・金工・刀剣・陶磁・漆工・染織・考古・民族資料・和書(帝室本)・東洋絵画・東洋書跡・東洋彫刻・東洋金工・東洋陶磁・東洋漆工・東洋染織・東洋考古・東洋民族の諸分野で作業を進めた。平成25年度の調査件数は7,997件である。

※保存カルテ作成件数の計数方法については、23年度より収蔵品及び寄託品のみを対象とし、特別展等の借用品における応急修理時の保存カルテ作成分は含まないものとした(22年度までは含む)。



列品情報整備の作業(東洋民族)



列品の保存と管理に対する取り組みと支援システム

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数 (23年度より計数方法変更)	1,492件	－	－		1,989	2,368	1,187	1,594

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
　収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（京都国立博物館）
1)定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
（4館共通）
1)貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行い、253件作成した。
・収蔵品の貸与記録及び館内の展示記録を継続して行った。
（京都国立博物館）
1)年に2回定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。
・24年度に作成した寄託者向けリーフレットを新規寄託受け入れ時に寄託者に手渡しし、引き続き制度への理解を深めてもらうように努めた。
・新規寄贈品・寄託品を中心に、収蔵庫搬入前に燻蒸作業を積極的に実施した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
1)燻蒸作業については、当館収蔵庫のIPM（総合的有害生物管理）向上を受けて、良好な環境維持のために行ったものである。


寄託品の期間継続に伴う点検作業

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数	253件	－	－		214	108	249	215

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1213

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2) －1収蔵品の管理・保存

【年度計画】
　収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（奈良国立博物館）
1)文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4館共通)
1)保存カルテの作成
・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成･保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、120件を順調に作成した。
・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたＡ～Ｅの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。
(奈良国立博物館)
1)文化財保存修理所の運用
・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との懇談会である今年度第1回目の文化財保存修理所協議会を25年9月24日及び26年2月20日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、4回実施した。

【補足事項】
・25年12月25日から26年1月19日まで当館西新館北第1室において保存修理指導室が中心となり準備した特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、前年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで(8件展示)、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する日本語版と英語版の案内パンフレットを修理所内に設置した専用ラックに常備し、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。
・26年2月13日に平成21年から続く文化財保存修理所一般公開を開催し、修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。


特集陳列「新たに修理された文化財」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数	120件	－	－		114	218	130	127

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1214

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

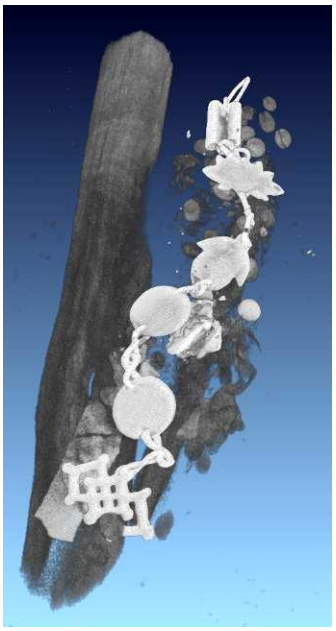
【年度計画】
収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
(九州国立博物館)
1)博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存・活用を図る。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1) 収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを94件作成した。
(九州国立博物館)
1) 収蔵品・展示品を中心にＸ線ＣＴスキャナ・３Ｄデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果をデータ化するとともに、３Ｄプリンタで出力した。このデジタルデータは文化財の保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。

【補足事項】
(4館共通)
1) 保存カルテの作成は、修理完了作品の他、収蔵品の中から計画的に対象を選定して行っている。本年度は、前年度に引き続き、寄贈教育参考資料の保存状況を調査しカルテを作成した。

(九州国立博物館)
1)
・長崎市聖福寺の御本尊釈迦如来坐像・迦葉尊者立像・阿難尊者立像を調査した。諸像は17世紀の制作で、中国から舶載された仏像としては日本最大級の大きさである。現地および博物館で透過Ｘ線撮影を実施して像全体の内部構造把握を行った。その結果、像内に心臓や肺に見立てた金属製の五臓などの内臓模型を納めた「生身仏」の作例であることを確認した。
・文化交流展示で展示中の長崎県松浦市鷹島海底沖発見の元寇関連海底遺物に関連して、松浦市教育委員会と協力して海底で錆びついた金属遺物の構造と保存状態の調査を引き続き実施した。海底で錆びた武具・釘等をＸ線ＣＴ調査することよって、モンゴル軍が使用した武器の実態や遺物の保存状態を明らかにすることができた。
・文化交流展示で展示した久保惣美術館・泉屋博古館所蔵の中国青銅器について、Ｘ線ＣＴスキャナや三次元計測装置による構造調査を引き続き実施した。その結果、中国古代鋳造技術について新たな知見を得た。


金属製の五臓のＣＴ画像

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数	94 件	－	－		205	101	107	91
CTスキャン調査	58 件	－	－		44	60	60	59
三次元計測	43 件	－	－		45	58	55	34

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】

展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。

(4館共通)

1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。

(東京国立博物館)

1)本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。

2)収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。

3)展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。

4)収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。

5)輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】

(4館共通)

1)収蔵庫など551地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。

(東京国立博物館)

1)本館収蔵庫に使用する整理箱を設計し、殺虫処理を行い、収蔵環境を総合的に整備した。

2)収蔵庫及び展示室など302地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。

3)本館1階展示室改修工事に伴い、展示資料の展示支持具を設計し、地震対策を強化した。

4)収蔵庫、展示室など232ヵ所の温湿度に関し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成25年次報告書を作成した。

5)クリーブランド美術館への国際輸送中に梱包箱内で発生する振動･衝撃の計測を実施した。また、特別展「キトラ古墳壁画」出品作品について梱包・輸送及び陳列方法についての事前調査を行い、輸送を含めた環境管理の精度を高めた。

【補足事項】

・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「低酸素環境維持機能をもつミイラ展示用ケースの開発」を発表した。
・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「特別展示場の湿度環境安定化を目指した運用方法の考案」を発表した。
・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「陸前高田市立博物館における一時保管環境の改善過程」を発表した。
・2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム(25年9月5、6日、韓国慶州)において「津波で被災した資料の一時保管環境の改善過程」を発表した。



展示支持具の検討

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価　Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】

展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1222

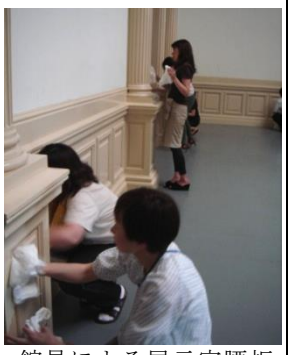
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(京都国立博物館)
1)新平常展示館の建物引渡し後に必要な各種整備を実施し、開館準備を進める。
2)新平常展示館の開館までに、空調による調整開始前の空気環境、粉塵等の環境調査を行い、開館後の効率的な展示収蔵環境の維持管理に役立てる。
3)特別展示館（重要文化財 旧帝国京都博物館本館）の免震補強他の改修計画を具体的に検討する。
4)特別展示館の温湿度など、展示・保存環境に関わる調査研究を行う。

担当部課	学芸部列品管理室 総務課	事業責任者	室長　鬼原俊枝 課長　植田義雄

【実績・成果】(4館共通)
1)年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫類生息調査を行った。また、温湿度モニタリングを拡大した。日常清掃のための備品を拡充した。
(京都国立博物館)
1)24年度に本体工事が完了した平成知新館（新平常展示館）において25年8月に展示ケース工事などが完了、引渡を受けた。
2)平成知新館（新平常展示館）では、空気環境を調査し、東文研基準の展示収蔵環境を整えるための枯らし運転を行った。
3)明治古都館(特別展示館)免震補強ほかの準備として、委託業者を決定し、詳細な建物調査を実施した。また、保存活用計画報告書の原案を作成した。
4)明治古都館（特別展示館)、東収蔵庫等では、展示ケース内の温湿度モニタリングや昆虫類生息調査等、環境監視体制を強化し、状況に応じて、環境の維持・改善を図った。

【補足事項】○保全業務
・空調設備の予防的メンテナンスに努め、定期的な保守・点検、各種フィルターの適宜交換等行い、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を目指した。
・データロガー、毛髪温湿度計、中央監視値を併せた空調運転状況の監視体制を維持した。
・電力事情を考慮し、空調運転時間の変更（収蔵庫）や会場準備期における空調停止や設定変更（展示室）を実施した。
○展示室：特別展示館
・展示室内及び展示ケース内の温湿度モニタリングを継続し、展示品の材質や保存状態、借用条件を考慮した環境監視体制を整え、気象や混雑状況による展示環境の変動等を継続して調査した。
・展示室内の昆虫類生息調査は、目視点検を中心に、一部、インジケータ設置による調査を行った。展示室内フロア及び展示ケース内（25年6月）への蒸散性殺虫剤の散布を行った。
・展示室エントランスの腰板部分の拭き掃除を、約30名の館員の協力を得て実施することができた。
・室内空間、床下部分、小屋裏部分の現地調査を実施した。また、『保存活用計画』に挿入する『価値評価報告書』の作成を京都工芸繊維大学、石田純一郎教授（近代建築史）に依頼した。
○収蔵庫：特別展示館及び東収蔵庫
・データロガー等による温湿度モニタリングにより、空調設備の整備・点検・調整を適宜依頼することができた。
・特別展示館と東収蔵庫にて昆虫類生息調査（インジケータ調査）を6回（特別展示館80、東収蔵庫90、のべ約170箇所)、東収蔵庫にて付着菌拭き取り検査を1回（8箇所)、特別展示館にて床下のシロアリ生息調査を1回実施した。
・清掃備品の拡充、適宜の簡易清掃、各種調査の報告など、予防体制を整えた。
○平常展示館
・引き渡し後も、各施工業者等の協力を得ながら、収蔵庫・展示室・展示ケース内の空気環境調査、及び調査に基づいた維持・改善のための作業を継続している。
・データロガー等による温湿度の計測を開始、空調の運転計画や「環境モニタリングシステム」の検討、昆虫類調査等の各種モニタリング体制について検討を始めた。
・一部収蔵庫においては、専門的な清掃と調査（IPMメンテナンス）を実施した。


館員による展示室腰板の清掃

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1223

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】

展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。

(4館共通)

1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。

(奈良国立博物館)

1)展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。

2)展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。

3)収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】

(4館共通)

1)・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを2ヵ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。

・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。

・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。

(奈良国立博物館)

1)展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線ＬＡＮによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。

2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線ＬＡＮ温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。

・正倉院展終了直後の25年11月12日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。

3)展示室内の温湿度については無線ＬＡＮ温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5ヵ所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。

【補足事項】

・展示室・収蔵庫・文化財保存修理所内など館内150ヵ所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制により2ヵ月に1回交換・回収し、回収したトラップは外部業者に委託して文化財害虫の捕獲数データを蓄積した。この調査データをもとに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施し、併せて害虫発生を防ぐための清掃による衛生環境の保持などＩＰＭの実践につなげた。

・展示ケースの残留ガス(VOC)をチェックするため、外部機関に検査を依頼するとともに、館内でもパッシブインジケータを利用した独自検査を実施した。

・自動調湿装置を内蔵した免震ケースを使用し、気象条件や多数の観覧者など外的要因で展示室内の温湿度環境に変動が生じた場合でも、展示ケース内の温湿度を安定して好条件に保つことができた。



展示ケース内に設置した
文化財害虫用防虫シート

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】

展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1224

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(九州国立博物館)
1)館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。
2)全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭの徹底を図った。文化財搬入に際し、ＩＰＭメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。
(九州国立博物館)
1)常設展示室70、特別展示室約40、収蔵庫30ヵ所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、トラップ、ダストを調査して収蔵環境の改善を行った。
2)・新たな温湿度モニタリング装置を導入し、早期対策に努めた。
　・環境データを解析することで、安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。

【補足事項】
・展示室に無線でデータを確認できる新たな温湿度モニタリング装置を導入した。これによりデータをすぐに確認できるようになり、早期対策を採ることが可能となった。

・本年度も展示、収蔵環境をより安定させることができた。今後も安定を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。

・収蔵庫・展示室等の約420ヵ所に常時粘着トラップを設置し年間を通して、2週間おきに定期的モニタリングを実施し、害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。

・地元ＮＰＯ法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や生物モニタリングには、本年度も引き続き両者の協力を得た。

・平成25年度文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）により「市民と共にミュージアムＩＰＭ」を実施することにより、ＩＰＭボランティア活動やＮＰＯ法人等によるＩＰＭ支援者活動へのさらなる指導をすすめることができた。

・殺虫殺黴処置は、特別展やトピック展あるいはイベント用資料等借用や持ち込み資料についての対応である。内訳は二酸化炭素処置3件、低酸素法処置6件、薬剤くん蒸処置1件。

・1階エントランスにあるカフェで昨年に続き文化財害虫が確認されたが、生物モニタリングを継続して観察を進め、徹底メンテナンスによって被害拡大を未然に防いだ。



ＮＰＯ法人による学芸調査室のメンテナンスの様子

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
殺虫殺黴処置	10件	－	－		7	7	6	6

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。
(東京国立博物館)
1)引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。
2)保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70件程度)

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために408件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから93件の本格修理を実施した。うち国宝2件、重要文化財3件、未指定品2件は寄附金による本格修理である。
(東京国立博物館)
1)修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む298件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めた。
2)データベース構築のために24年度に本格修理を実施した95件の内､修理が完了した84件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書ＸⅣを刊行した。

【補足事項】
・国宝「鷹見泉石像」(江戸時代)、坪内老大人画稿(江戸時代)、坪内老大人像(江戸時代)はバンク・オブ・アメリカからの寄付金により修理を開始した。
・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月21日、仙台)において「花車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理事例～ 修理におけるクリーニング効果に着目して ～」を発表した。
・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「作品に安全な展示方法の新案②-ミニアチュール展示の工夫を例として-」を発表した。
・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「東京国立博物館所蔵コプト裂―プレッシャーマウント法等による安全な固定・保管・公開―」を発表した。


列品番号A- 1069「檜図屏風」の修理風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)	93件	40件	S		106	139	106	95
文化財修理データベース化件数	84件	70件程度	A		53	98	114	83

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。
（京都国立博物館）
1)中長期的修理計画の策定を検討する。
2)収蔵品修理資料のデータベース化に向けた調査を開始する。

担当部課	学芸部列品管理室 学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鬼原俊枝 室長　浅湫毅

【実績・成果】
(4館共通)
1)・館費による修理に加えて、外部資金として財団の修理助成による修理を2件、昨年度より継続して実施した。
　・修理中に修理請負候補者選定委員による工程検査を行い、修理が適正に実施されているかを現場確認した。
　・本格修理実績　15件　内訳は絵画3件、彫刻1件、金工5件、漆工1件、染織4件、考古1件
(京都国立博物館)
1)中長期的修理計画の策定に向けて、各分野の作品担当との調整に入った。
2)収蔵品データベースの更新計画において、修理情報の集積を盛り込むことを念頭に、必要項目の洗い出しとデータ状況の確認を開始した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
1)・昨年度決定した修理助成を事業費に充当して館蔵品の修理を実施中である。朝日新聞文化財団の助成による国宝病草紙10面の修理(4ヵ年間助成額約2000万円)、出光文化福祉財団による重要文化財紙本著色若狭国鎮守神人絵系図1巻の修理（2ヵ年800万円）を継続している。
・修理請負候補者選定委員会委員は、唐織　紅白濃茶段枝垂桜文様の修理の工程検査を修理担当工房の現場に赴いて行った。また、刀剣類の修理についても同様に実施した。本工程検査を通じて、修理物件が適切な修理を受けていることが確認され、委員は修理に対する理解を深め、技術者は文化財の価値に関する判断を受ける機会となる。今後もできるだけ工程検査を行えるよう努力したい。
・館蔵品の修理は緊急性の高いものから実施するよう努め、中長期的計画の策定に向けて努力しているが、修理事業費が限られているため、高額修理の継続事業化と少額修理計画との組み合せによる中期的計画を今後も検討していきたい。
2)文化財保存修理所では、本年度は101件の新規修理文化財の搬入がありデータベース化を行った。また、過去のデータに関して1920回追加、更新を行った。


唐織　紅白濃茶段枝垂桜文様

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)	15件	10件	S		5	9	10	13
文化財修理データベース化件数	101件	－	－		114	106	118	93

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。
(奈良国立博物館)
1)引き続き修理の中長期的計画に基づき修理を実施する。
2)修理資料のデータベース化を図る。
3)寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4館共通)
1)・館蔵品修理8件のうち、新規4件、前年度からの継続事業4件を実施した。
　内訳　絵画4件　（※うち重要文化財 絹本著色十王図1件は3ヵ年継続事業の最終年度。 重要文化財 絹本著色普賢延命像1件は2ヵ年継続事業の最終年度。絹本著色六字経曼荼羅1件は2ヵ年継続事業の1年目。）
　書跡1件
　工芸1件　（※国宝 刺繍釈迦説法図1件は4ヵ年継続事業の2年目）
　考古資料2件　（※うち陶棺（奈良市西大寺出土）1件は2ヵ年事業の最終年度。鉄製品（二塚古墳出土）1件は2ヵ年事業の1年目。）
・年度内に5件が完了した。
(奈良国立博物館)
1)平成22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。
2)前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧の掲載作業を進めるとともに、併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。
3)寄託品2件について当館の推薦による財団助成を受けて修理を実施した。

【補足事項】
・賛助会員や協賛企業からの寄付金を館蔵品修理費に使用する従来の規定に加えて、展示会場入り口に募金箱を設置して募った寄附金を収蔵品の修理費に使用する取扱要項を新たに策定し、これに基づいて前年度からの継続事業である絹本著色十王図(3ヵ年継続事業の最終年度) 及び絹本著色安東円恵像の重要文化財2件、刺繍釈迦如来説法図の国宝1件の修理を実施した。
・寄託品修理については、出光文化福祉財団の助成による兵庫・温泉寺所蔵重要文化財黒漆厨子の1件について新規着工し、出光文化福祉財団・朝日新聞文化財団の助成による京都・海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅修理の1件を23年度からの継続事業（3ヵ年継続事業の最終年度）として引き続き実施した。



館蔵絹本著色安東円恵像の
解体修理に伴う肌裏打作業風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)	8件	9件	B		11	9	11	9
文化財修理データベース化件数	73件	－	－		－	－	54	70

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。
(九州国立博物館)
1)博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。
2)修理資料のデータベース化の調査を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財36件（本格修理17件、応急修理19件）を修理した。
(九州国立博物館)
1)九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理29件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて65件の修理を実施した（施設内修理62件、施設外修理3件　合計65件)。
2)修理報告書及び修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。

【【補足事項】
(4館共通)
1)館費による修理件数36件（本格17、応急19）
（絵画17（うち本格5、応急12）、書跡5（うち本格2、応急3）、彫刻3（うち応急3）、金工1（うち本格1）、刀剣2（うち本格2）、染織5（うち本格5）、歴史資料3（うち本格2、応急1））

(九州国立博物館)
1)修復施設１～３では、(社）国宝修理装潢師連盟が館所蔵品11件の他、国宝・那覇市所蔵琉球国王尚家関係資料文書記録類や重要文化財・大分市立美術館所蔵田能村竹田関係資料など合計54件の修理を実施した。
修復施設４では美術院が3件の仏像の修理を実施した。
修復施設６では目白漆芸文化財研究所が5件の館所蔵品等の修理を実施した。
修復施設外では美術院が1件の仏像の修理を、有限会社藤代が2件の館所蔵刀剣の修理を実施した。


当館所蔵朱漆花鳥草樹螺鈿二層の修理風景
（修復施設６で目白漆芸文化財研究所が施工）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)	17件	15件	A		24	19	19	20
文化財修理データベース化件数	－	－	－		－	－	－	－
修復施設の活用(補助事業等)	29件	－	－		26	23	19	22
表具裂データ	10件	－	－		24	9	0	0

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

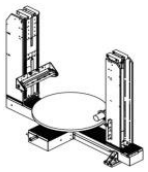
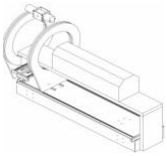
【年度計画】伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(東京国立博物館)1)Ｘ線ＣＴスキャナーの導入に向けて取り組む。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】(4館共通)
1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を34件(A-1069 檜図屏風 など)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析66件(J-16231黒曜石など)、Ｘ線透過撮影19件(TJ-2209鉄鉞戟など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影　3件(A-9972　鷹見泉石像など)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。
(東京国立博物館)
1) 大型垂直式Ｘ線ＣＴスキャナー、大型水平式Ｘ線ＣＴスキャナー、微小部Ｘ線ＣＴスキャナーなど3機種を導入し、試験運用を開始した。

【補足事項】
・文化財保存修復学会第34回大会(25年7月21日、東京)において「名物裂を用いた表装裂の復元に関する共同研究」を発表した。
・2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム(25年9月6日、韓国慶州)において「文化財の断層撮影に適した大型X線CTスキャナーの開発」を発表した。
・東京国立博物館でもより深い文化財調査を行うべく、性能の違う３台の大型Ｘ線ＣＴを設置し、研究を開始した。
設計概念は、様々な分野の、様々な大きさの、細かい観察に対応できる装置を目標とした。1)大型の文化財が撮影できる（垂直撮影）、2)立てられない大型文化財が撮影できる（水平撮影）、3)細かな透過観察撮影ができる（微小部撮影）


ポータブル型蛍光Ｘ線分析装置による旧修理個所の状態調査作業

		大型垂直式Ｘ線断層撮影装置 Vertical CT	大型水平式Ｘ線断層撮影装置 Horizontal CT	微小部Ｘ線断層撮影装置 Precision CT
				
マニプレータ	全体寸法	約5,400x 4,200x 4,300mm	約5,100x 2,800x 4,450mm	約2,500x 1,200x2,000mm
	対象物最大重量	500kg	100kg	25kg
	テーブルサイズ	φ2,500mm／φ1,200mm	長さｘ幅：3,000mmｘ920mm（複合素材製）	φ450mm
検出器		ラインセンサー(LDA) Y.LineScan 250-16-100 ピッチ：254 μm, 4,030 素子 耐電圧:600kV		
		フラットパネル検出器 Y.XRD1621 AN15 ES″premium″有効画素数：1,024x1,024　2,048x2,048		
線源	Ｘ線発生装置	管電圧 ： 20kV-600kV 最大管電流 2.5mA、焦点寸法:準拠 EN 12543:1.0mm/0.4 mm	管電圧 ： 20kV-600kV 最大管電流 2.5 mA 、焦点寸法:準拠 EN 12543:1.0 mm/0.5 mm	管電圧 10 kV-225kV, 最大管電流 3.0mA 最大出力 320／64 W,最小焦点寸法<6μm、最小識別度<3μm

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価　S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312-2

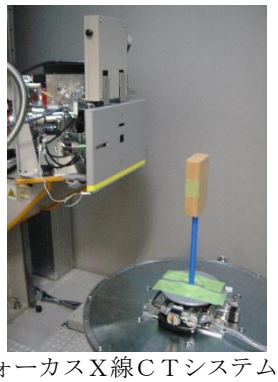
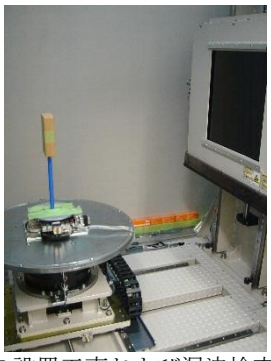
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(京都国立博物館)
1)文化財材質分析システム等を整備する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　村上　隆

【実績・成果】
(4館共通)
1)・2)「病草子」(紙本着色/平安時代後期/国宝)の修理に伴って、各種の光学調査と紙質分析を実施し、修理指針の検討に役立てた。(詳細は処理番号4562-2を参照)
(京都国立博物館)
1)・平成知新館(新平常展示館)に科学調査室及びＸ線撮影室を設けた。
・文化財用マイクロフォーカスＸ線ＣＴシステム、非接触３次元デジタイザ等の機器を調達した。

【補足事項】
(4館共通)
2)文化財の材質・技法・保存状態等に応じた様々な光学的調査が、効率的かつ安全に実施できるような文化財材質分析システムの整備をすすめている。これによって、文化財の使用材料や伝統的技術の解明、精度の高い文化財保存修理の実現に寄与したい。
(京都国立博物館)
1)・本年度は、マイクロフォーカスＸ線ＣＴシステム、非接触３次元デジタイザ、フーリエ変換赤外分光光度計、蛍光観察システム等を調達することができた。来年度購入予定機器とともに、様々な分析・調査に応用していく予定である。
・マイクロフォーカスＸ線ＣＴシステムは、従来から文化財調査に汎用されているＸ線透過装置と、より微細な構造観察が可能なマイクロフォーカスＸ線ＣＴスキャン装置との２種の装置によって構成されている。
・Ｘ線検査装置導入にあたっては、十分な放射線遮蔽構造と安全機構を設け、設置工事の後に隣室・階上等において漏洩検査を実施し、管理区域外に放射線の漏洩がないことを確認した。

マイクロフォーカスＸ線ＣＴシステムの設置工事および漏洩検査風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
科学的調査	1件	－	－		－	－	－	1

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1313-2

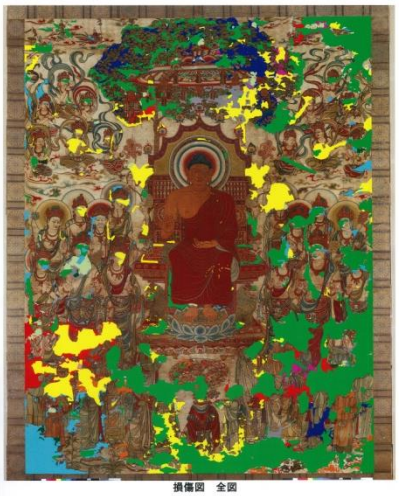
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(奈良国立博物館)
1)木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのＸ線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】(4館共通)
1)館蔵紙本墨書立川流儀軌残巻の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。(実施計1回)
2)・館蔵絹本著色普賢延命像の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光Ｘ線分析を実施した。(実施計1回)
・館蔵刺繍釈迦如来説法図及び海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、これに基づいて詳細な損傷図を作成した。(実施各1回、計2回)
・館蔵絹本著色六字経曼荼羅及び館蔵絹本著色安東円恵像の修理に際し、当館写真室において高精細デジタルカメラによる近赤外線撮影を実施し、補絹・補彩・損傷状態の観察を行った。(実施各1回、計2回)
・寄託品黒漆厨子（温泉寺蔵）の修理に際して当館研究員が透過Ｘ線画像を撮影し、木工の構造把握につとめた。(実施計1回)
(奈良国立博物館)
1)当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品3件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載した。
2)古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料1件の修理に際し、Ｘ線撮影及び蛍光Ｘ線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。(実施計2回)

【補足事項】
・文化財保存修理所各工房が当館館蔵・寄託品を修理するに際して文化財調査を学芸部研究員と共同で実施し、データの収集・共有化に努めた。また同調査を円滑に進めるために当館の備品である光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光Ｘ線分析器、ポリライト)を積極的に利用した。



国宝刺繍釈迦如来説法図（館蔵）の修理に伴う光学調査に基づいて作成した損傷地図

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品修理に伴う光学的調査の実施回数	9回	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1) 当館所蔵国宝栄花物語及び重要文化財対馬宗家関係資料等の紙本作品7件について繊維同定を行った。
2)・東京国立博物館所蔵唐人物図屏風のオゼ部分に隠れていたオリジナルに近い彩色について、高精細画像で記録した。
・当館所蔵仏涅槃図命尊筆の裏彩色について顕微鏡による観察と写真撮影を行った後、ポータブル蛍光Ｘ線分析装置を用いて絵の具の材質分析も行い、使用されていた絵の具の調査を行った。

【補足事項】
・各種最新の分析機器を備えた博物館内に修復施設が設置されている特色を生かし、絵画、書跡、歴史資料、漆工などの各専門分野を持つ研究員と修理技術者、文化財科学専門の研究員の3者が共同で修理作品の調査、検討を行い、最善の修理を行うことができた。
・例えば、文化財科学専門の研究員は、【実績・成果】に記したように多くの調査を実施した。このことにより、作品の材質や技法、構造を詳しく知ることが可能となり、安全かつ適切な修理の実施に役立つことが非常に大きかった。特に、今回のように修理中でしか見ることができない、隠れていた部分の彩色の調査が実施できたことは、大きな成果である。
・右写真は、修理時にしか見ることができない彩色の典型例で、薄緑色の絵具の中に白色の絵具が混じっていることがよく解る。蛍光Ｘ線分析の結果も加味し、緑色は銅系緑色顔料に、白色は鉛系白色顔料と考えられる。
・また、絵画、書跡、歴史資料、漆工などの専門を持つ研究者と協議しながら修理を進めることができたので、各作品の特色を踏まえ、取り扱いや保管、展示についても十分に考慮した修理ができた。
・このように、館内で打ち合わせを密にしながら修理を進められる環境にあることが、有意義であった。



仏涅槃図　命尊筆の裏彩色写真
(写真の幅が約2㎜)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
科学的調査	10件	－	－	経年変化	7	7	24	11

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　1320

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－2　国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
1)文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（京都国立博物館）
1)文化財保存修理所の修理を行う。

担当部課	京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　植田義雄 課長　中村　恵 課長　今津節生

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
1)・京都国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、空調機内の中性能フィルターを一部の空調機で交換した。
・奈良国立博物館の文化財保存修理所の消火設備を現状のスプリンクラー設備に換えて、火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を設置した。
・奈良国立博物館の文化財保存修理所の防犯センサーを更新するとともに監視カメラを新たに設置した。
・九州国立博物館の保存修復施設について、室内温湿度環境の改善の検討を行った。

（京都国立博物館）
1)文化財保存修理所改修工事（一期工事）に着手した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
1)年度内には仮工房の整備を終えた。


仮工房１階


仮工房２階

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号 1330

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－3　収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。

【年度計画】
収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部列品管理室 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部文化財課	事業責任者	課長　富田　淳 室長　鬼原俊枝 課長　中村　恵 課長　冨坂　賢

【実績・成果】
(東京国立博物館)
・東洋館の各収蔵庫について適切な配置を検討し、より効率的に収納が可能となるように収蔵品を移動した。
・東洋館3階の収蔵庫の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。
・資料館3階の収蔵庫に棚を追加し、収納の効率化を図った。
・平成館地下考古収蔵庫の扉を修理し、より円滑に作品を搬出入できるようにした。
(京都国立博物館)
・温湿度などの計測情報を常時監視でき、同時にサーバーにて一元的に管理・蓄積できる「環境モニタリングシステム」の、平成知新館（新平常展示館）での運用について精査し、設計変更や運用方法に反映させ、導入した。
・平常展示館内のフィルム保管室の温湿度環境について、設定温湿度、空調時間、運用方法等の検討を行った。
・デジタルカメラ等撮影機材の導入、及びサーバーの構築を行い、デジタル撮影への移行を進めている。
(奈良国立博物館)
・火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を収蔵庫・一時保管庫に設置した。
・既存の収蔵棚を改造し、より効率的な収納を図った。
・収蔵庫内壁の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。
(九州国立博物館)
・図書閲覧室に書棚（40台程度）を設置し、寄贈書受け入れスペースを増やした。

【補足事項】
(京都国立博物館)
・平常展示館では、展示室、収蔵庫ともに、中央監視による集中的な空調管理と併せて、室内複数場所での温湿度・照度・加速度等の常時モニタリングとそれらのデータを蓄積・分析できる「環境モニタリングシステム」を導入した。
・「環境モニタリングシステム」の、安全で確実かつ効率的な運用を目指して、新収蔵庫内での電波強度の調査や、既存の収蔵庫内での実験、アプリケーションの検討等を繰り返した。これらの結果を設計・仕様へ反映した。
・平常展示館フィルム保管室内の温湿度モニタリングを開始した。空調機に加え、除湿器などを検討しながら、フィルムにとって安全で、持続可能な運用方法を検討している。


環境モニタリングシステムのための電波強度調査(京都国立博物館)


閲覧室複柱式書棚増設
(九州国立博物館)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1平常展

【年度計画】
　展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。
(4館共通)
平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(東京国立博物館)
ア　定期的な陳列替の実施（年5,800件程度）
イ　陳列総件数　約7,500件
ウ　本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。
エ　特集陳列
　特別展「和様の書」の開催に合わせた特集陳列「和様の書−近現代編−」を開催する。東洋館の開館を記念した特集陳列「上海博物館所蔵中国絵画精品展(仮称)」を開催する。また、館史に関連する特集を年間を通じて開催する。すでに恒例となった「博物館に初詣」関連企画、上野動物園・科学博物館との動物を取り上げた連携企画、台東区立書道博物館との連携企画などを実施する。
　・「花生」(3月19日～6月2日)
　・「うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の記録－」(9月10日～10月20日)
　・「江戸時代が見た中国絵画（仮称)」(5月13日～6月19日）等
オ　文化庁関係企画
　・「平成25年 新指定 国宝・重要文化財」(仮称)（4月16日～5月6日）
　　平成25年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　富田　淳

【実績・成果】
(4館共通)
　総合文化展(平常展)は、平成25年度においては、本館1階は26年4月のリニューアルオープンに向け、26年1月～26年3月まで本館15～19室を工事のため閉室したが、平常展来館者数の目標値である全中期計画期間の年度平均を上回った。
（東京国立博物館）
ア　定期的な陳列替を実施し、5,708件の展示替を行った。
イ　陳列総件数　8,824件
ウ　展示ケースの修理点検、低反射フィルムの貼替、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。本館2階の展示ケースの補修を行った。また、26年1月より本館1階15～19室を閉室し、展示環境の改善のための工事を開始した（26年４月15日公開予定)。
エ　33件の特集陳列を実施した。
オ　「平成25年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(25年4月16日～5月6日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。

【補足事項】
・黒田記念館は、耐震改修のため24年4月8日より休館中。27年1月2日より展示を再開する予定。
※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
平常展来館者数　(23年度より黒田記念館を含む)	484,429人	362,470人	A	経年	330,536	373,068	324,597	416,430
陳列替件数	5,708件	5,800件程度	B	変	316	290	4,914	6,989
陳列総件数	8,824件	7,500件程度	A	化	6,601	5,610	7,394	9,190
特集陳列等実施回数	33件	－	－		66	53	32	47

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)展覧事業の充実　①－1平常展

【年度計画】
(4館共通)
平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(京都国立博物館)
　平成２５年度末の新平常展示館開館までの間、平常展は休止する。これに替えて、香川県立ミュージアムにて「いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展」を開催する。(特別協力、4月20日～5月26日)」　また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(京都国立博物館)
　平成知新館（新平常展示館）建替工事に伴い、平常展示を休止した。そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をウェブサイトで公開した。
・特別展「いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展」(香川県立ミュージアム、4月20日～5月26日)」へ企画協力をした。(特別協力)
・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。
(中期計画記載事項)
　平成知新館(新平常展示館)建替後の平常展再開については、平成26年9月13日リニューアルオープン予定とし、その準備を進めた。

【補足事項】
・展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館は積極的に貸出を行い、収蔵品の公開に努めた。
・ウェブサイトにおける貸出作品の情報公開(トップページ「館外での作品公開」)は、寄託作品や個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館では極めて画期的なものといえる。

※京博については実績はないが、陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
平常展来館者数	－	－	－		－	－	－	－
陳列替件数	－	－	－		－	－	－	－
陳列総件数	－	－	－		－	－	－	－
特集陳列等実施回数	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。
　なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市･京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2113-1-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1平常展　(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
　平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(奈良国立博物館)
ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。
・西新館　絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
　　充実した展示ケースや照明設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
　　５メートルに近い大きな仏像や等身大の仏像を中心に、できるだけケース外での展示を増やし、より見やすい環境で、優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。
・青銅器館　中国青銅器の名品展
　　国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。
・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する
イ～エ(略

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(4館共通)
　平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。
(奈良国立博物館)
ア　名品展においては、24時間空調運転による展示室の快適な保存環境のもとで、多数の優れた作品を展示し、その美を伝えることができた。
・西新館　絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
　収蔵庫の工事(処理番号1330を参照)期間中、東新館を仮収蔵庫としたため、例年東新館で開催していた特別陳列を25年度は西新館で行い、西新館の名品展を休止した。
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
　所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した。また、25年8月5日の大雨による雨漏り被害の補修工事期間中は、なら仏像館の一部の展示室を閉室した。
　特別公開「金剛寺　降三世明王坐像」(23年10月24日～26年3月31日)
　特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」(24年6月26日～26年3月31日 ※ただし夏期特別展期間中を除く)
・青銅器館　中国青銅器の名品展
　館が所蔵する中国・商（殷）～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。
・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」(25年12月25日～26年1月19日）を開催した。

【補足事項】
　収蔵庫工事に伴う西新館での名品展休止や、雨漏り被害によるなら仏像館の一部閉室があった中、年度を通して、国宝・重要文化財を多数含む高水準の仏教美術の展観を行い、年間来館数の目標値を上回ることができた。


特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
平常展来館者数	122,075人	118,032人	A		136,672	71,566	130,839	145,914

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113-1-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1平常展　(2/2)

【年度計画】
(奈良国立博物館)
ア(略)
イ　定期的な陳列替の実施（年70件程度）
ウ　陳列総件数　約500件
エ　特別陳列により名品展の充実を図る。
　　独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
　・「おん祭と春日信仰の美術」（12月7日～平成26年1月19日）
　・「お水取り」（平成26年2月8日～3月16日）

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
イ　定期的な陳列替を実施し、130件の陳列替を行った。
ウ　陳列総件数　632件（特別陳列・特集展示を含む）
（改修工事の影響で西新館での名品展（珠玉の仏教美術）を休止したため、昨年度より陳列総件数減）
エ　下記特別陳列を開催し、名品展の充実を図った。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(25年12月7日～26年1月19日)　陳列件数63件（陳列替3件）
・特別陳列「お水取り」(26年2月8日～3月16日)　陳列件数62件（陳列替22件）
○特集展示「新たに修理された文化財」(25年12月25日～26年1月19日）を開催し、保存修理事業の成果を公開した。陳列件数8件
○特集展示「いにしえの東北～豊岡遺跡と平泉～」(26年2月8日～3月16日）を開催し、岩手県立博物館と平泉町（平泉文化遺産センター）の所蔵品を展示した。陳列件数31件
○特別展示「正倉院宝庫の瓦」(10 月 26 日～11 月 11 日、12 月 25 日～26 年 1 月 19 日、26 年 2 月 8 日～3 月 16 日)を開催し、正倉院正倉整備工事に伴い、正倉院宝庫に葺かれていた瓦を展示した。陳列件数 18 件

【補足事項】
特集展示・特別陳列等を除き、通常の名品展(平常展)における各会場毎の陳列総件数は次のとおり。
　珠玉の仏たち(なら仏像館)213件
　珠玉の仏教美術(西新館)　　0件（改修工事の影響で西新館での名品展を休止したため）
　中国古代青銅器(青銅器館)237件

※○陳列替件数が目標値を大幅に上回った理由
・なら仏像館の一部閉室後、別作品を展示したため。
・特別展「みほとけのかたち－仏像に会う－」開催に伴い、なら仏像館の一部陳列替が必要となったため。

※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。



特集展示「いにしえの東北」（豊岡遺跡の出土品）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
陳列替件数	130件	70件程度	S		8	101	481	465
陳列総件数	632件	500件程度	A		717	340	1,092	814
特集陳列等実施回数	10回	－	－		8	5	12	6

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2114-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1平常展

【年度計画】(4館共通)
平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(九州国立博物館)
ア　定期的な陳列替の実施（年1,100件程度）
イ　陳列総件数　約1,700件
ウ　文化交流展（平常展）のリニューアルに向けて引き続き検討する。
エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる（日程はいずれも予定)。
・「江戸のサイエンス－武雄鍋島家の西洋科学遺品（仮)」(関連11室、4月16日～7月7日)
・「山の神々（仮)」(関連9室、10月22日～12月1日)
・「アイヌ資料（仮)」(関連9、10、11室、12月10日～平成26年2月16日)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】(4館共通)
平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均の9割を確保した。
(九州国立博物館)
ア　定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,157件の陳列替を行った。
イ　陳列総件数　2,750件（うち国宝29件　重要文化財27件)
ウ　文化交流展示室の広報に努め、来館促進のためのさまざまな企画を行なった。
関連展示第１室の映像機器老朽化のため、通常の展示室へ改修した。
エ　独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を14回開催し、新鮮な展示を提供することができた。

【補足事項】(4館共通)
特別展の来館者数が少なかったことにより、平常展と特別展を同時に観覧する来館者数が少なかったため、平常展来館者数が目標値に達しなかった。
(九州国立博物館)
イ　展示の関係上、本年度は単品で構成される展示作品の件数が多く、陳列可能な作品件数が多くなり、陳列総件数が目標値を上回った。
エ　25年度に開催したトピック展示・特別公開のうち、特に注目すべき内容を持つものについて以下に記す。
・「江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－」
(関連11室 25年4月16日～7月7日)
武雄蘭学関係資料の重要性を周知させ、九州が果たした先導的な役割を展示した。
・「視覚革命！異国と出会った江戸絵画―神戸市立博物館名品展―」
(関連11室 25年7月17日～9月23日)
神戸市立博物館の名品を紹介し、文化交流で生まれた江戸絵画の魅力を伝えた。
・「山の神々－九州の霊峰と神祇信仰－」
(関連9室 25年10月22日～12月1日)
九州山岳修験に係る神宝を公開し、神祇信仰の世界を展示した。
・「ロシアが見たアイヌ文化－ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館のコレクションより－」
(関連9・10・11室 25年12月10日～26年2月16日)
ロシアの収集家によるコレクションを初めて公開し、アイヌ文化への理解を深めることができた。
・「発掘された日本列島2013」
(関連1･3室 26年1月１日～2月16日)
文化庁ほか主催の巡回展で、日本列島各地の発掘調査成果を速報。あわせて東北地方の震災復興事業に伴う成果を報告、大きな反響を得た。


「江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－」
会場風景


「ロシアが見たアイヌ文化」
会場風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
平常展来館者数	349,848 人	380,690人	B	経	544,661	274,545	358,366	460,525
陳列替件数	1,157 件	1,100件程度	A	年	431	334	1,373	1,195
陳列総件数	2,750 件	1,700件程度	S	変	2,106	1,668	2,417	2,416
特集陳列等実施回数	14 回	－	－	化	22	12	13	12

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式A】　施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号 2110-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－2展示説明の充実		

【年度計画】
(4館共通)
1)作品キャプションについては全てに英語訳を付す。
2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長　富田　淳 美術室長兼列品室長　岩田茂樹 文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
1)東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。
2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。
(東京国立博物館)展示テーマ数132件のうち、132件(100%)について外国語パネルを設置した。また、69件(52%)については中国語、韓国語での解説も付している。
(奈良国立博物館)展示テーマ数47件のうち、43件(91%)について外国語パネルを設置した。
(九州国立博物館)展示テーマ数47件のうち、40件(85%)について外国語パネルを設置した。また、33件(70%)については中国語、韓国語での解説も付している。

【補足事項】
(京都国立博物館)
・京都国立博物館は平成知新館(新平常展示館)建替工事に伴い、平常展示は休止しているが英語訳を付けるべく作業を行っている。

(九州国立博物館)
・九州国立博物館では、4言語による音声ガイドのほか、展示テーマパネルを4言語で提供しているほか、トピック展示の趣旨についても必ず英語を併記し、他国語対応を行った。



(東京国立博物館)東洋館題箋


(九州国立博物館)
トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画」
展示説明パネル(日英表記)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
外国語パネル等の設置				経				
東京国立博物館	100%	80%以上	A	年	97%	96%	96%	97%
京都国立博物館	－	－	－	変	－	－	－	－
奈良国立博物館	91%	80%以上	A	化	91%	84%	89%	100%
九州国立博物館	85%	80%以上	A		82%	83%	94%	87%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　2120

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展

【年度計画】
特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度
(京都国立博物館)
　年2～3回程度
(奈良国立博物館)
　年2～3回程度
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	学芸企画部長　松本伸之 部長　村上　隆 部長　西山　厚 課長　臺信祐爾

【実績・成果】
(東京国立博物館)特別展を8回開催した。　内訳：当館開催7回、海外展1回
(京都国立博物館)特別展を3回開催した。
(奈良国立博物館)特別展を3回開催した。
(九州国立博物館)特別展を5回開催した。　内訳：当館開催4回、海外展1回

【補足事項】

(東京国立博物館)
・当初、年度計画になかった特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」が、急遽開催されることとなった。
・年度計画に記載の海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」(平成26年2月16日～5月11日、会場＝米国・クリーブランド美術館)については、26年度の評価項目とした。
(九州国立博物館)
・当初、年度計画になかった文化庁海外展「日本文化展」(平成26年1月16日～3月9日、会場＝ベトナム国立歴史博物館)が、急遽開催されることとなった。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
特別展等の開催回数								
東京国立博物館	8回	年3～4回程度	S		12	10	7	9
京都国立博物館	3回	年2～3回程度	A		5	5	6	5
奈良国立博物館	3回	年2～3回程度	A		3	4	3	3
九州国立博物館	5回	年2～3回程度	S		4	5	5	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度
(京都国立博物館)
　年2～3回程度
(奈良国立博物館)
　年2～3回程度
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/7)

【年度計画】
ア　「国宝　大神社展」（平成25年4月9日～6月2日）
　　祀りのはじまりから、神社をとりあげて、日本各地に伝来する神宝を一堂に展観する。（目標来館者数２５万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	上席研究員　池田宏

【実績・成果】
・展覧会名　「国宝　大神社展」
・会　　期　平成25年4月9日（火）～6月2日（日）（49日間）
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
・特別協力　神社本庁
・協　　力　千年の森フォーラム
・協　　賛　あいおいニッセイ同和損保、大日本印刷、トヨタ自動車 、三菱商事
・作品件数　215件（うち、国宝77件、重要文化財90件）
・来館者数　193,990人（目標250,000人・達成率77.6%）
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　　中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度72%

　神社本庁をはじめ、日本全国の神社から全面的な協力を得ることができたために、神社の宝物や、日本の神々に関するさまざまな文化財を総合的に示すことができた。特に、かつてない規模と質で、神像彫刻の多様な表情と姿を紹介することができた。

【補足事項】
・来館者数は目標に達しなかったが、これまで容易に実現できなかったほどの大規模かつ質の高い神道美術展を開催したことで、今後の神道美術の調査研究にとって大きな意味をもつ展覧会となったため、総合評価をＡとした。


展覧会風景



ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	193,990人	250,000人	B		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2121-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/7)

【年度計画
イ　特別展「和様の書」(7月13日～9月8日)
　平安から安土桃山時代にかけての和様の書の展開を通じて、書の魅力を紹介する。(目標来館者数１３万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館情報課長　高橋裕次

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「和様の書」
・会　　期　平成25年7月13日（土）～9月8日（日）(51日間)
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
・後　　援　文化庁
・特別協力　読売書法会
・協　　賛　光村印刷
・協　　力　あいおいニッセイ同和損保
・作品件数　156件（うち、国宝51件、重要文化財35件、重要美術品10件）
・来館者数　104,577人(目標130,000人・達成率 80.4%)
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 72%

　三跡など能書の作品、四大手鑑などの至高の名品を集めた本展は、日本文化の中で独自に発展した仮名と漢字が融合した和様の書とともに、宮廷文学や料紙工芸など、書に関わる多様な日本の書の展開を通して、書の魅力を広く紹介することができた。

【補足事項】
・来館者数は目標に達しなかったが、最古級の仮名、三跡の能書、そして江戸時代にまで及ぶ和様の展開を、国宝、重要文化財など多くの貴重な作品によって余す所なく展観したことで、本展により日本文化における書の真髄を示すことができたため総合評価をＡとした。


展覧会風景



ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	104,577人	130,000人	B		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

中項目	２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/7)

【年度計画】
ウ　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」(10月8日～12月1日)
　洛中洛外図屏風とともに二条城など京都を象徴する各所の障壁画を展示し、その空間装飾を紹介する。(目標来館者数２５万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　松嶋雅人

【実績・成果】
・展覧会名　日本テレビ開局60年　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」
・会　　期　平成25年10月8日（火）～12月1日（日）(48日間)
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、日本テレビ放送網、読売新聞社
・特別協賛　タマホーム
・協　　賛　光村印刷、日本興亜損保
・協　　力　全日本空輸、日本貨物航空、日本通運、JR東日本、BS日テレ、シーエス日本、ラジオ日本、J-WAVE、文化放送、テレビ神奈川、楽天トラベル、京都市
・技術協力　キヤノン、キヤノンマーケティングジャパン、JVCケンウッド、凸版印刷
・作品件数　20件（うち、国宝1件、重要文化財11件）
・来館者数　278,801人(目標250,000人・達成率111.5%)
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　72%

　超高精細映像展示を駆使して鑑賞の便をはかりながら、「洛中洛外図屏風」によって都の姿を俯瞰した上で、京都御所、龍安寺、二条城という京の街を象徴する建物の室内の空間構成を立体的に再現することで、400年前の京都の空間を実感的に示すことができた。

【補足事項】
・本展図録に関して、日本印刷産業連合会「第55回全国カタログ・ポスター展　図録部門」において、奨励賞を受賞した。

・本展会場内における「龍安寺石庭」の４Ｋ超高精細映像展示に関して、一般社団法人　全日本テレビ番組製作社連盟「第30回ATP賞」の特別賞を受賞した。


展覧会風景



ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	278,801人	250,000人	A		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2121-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(4/7)

【年度計画】
エ　特別展 上海博物館　中国絵画名品展（仮称）（10月8日～12月1日）
中国五代・北宋から明清にいたる中国絵画の流れを、時代と流派を代表する名品によって辿る。（目標来館者数４．５万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	列品管理課長　富田淳

【実績・成果】
・展覧会名　東洋館リニューアルオープン記念　特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」
・会　　期　平成25年10月1日（火）～ 11月24日（日）（48日間）
・会　　場　東洋館8室
・主　　催　東京国立博物館、上海博物館、日本経済新聞社、毎日新聞社
・協　　力　全日本空輸株式会社
・作品件数　40件（うち一級文物18件）
・来館者数　62,378人(目標45,000人・達成率138.6%)
・入場料金　一般600円（500円）、大学生400円（300円）総合文化展観覧料　＊(　)内は20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　91%

初公開、一級文物を含む40件もの名品によって、五代・北宋から明清にいたる約千年の中国絵画の流れをたどることのできるまたとない機会となった。さらに日本には伝来しなかった本場中国ならではの中国絵画の真髄を展示することができた。

【補足事項】
本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けた。


展覧会風景



ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	62,378人	45,000人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(5/7)

【年度計画】
オ　「クリーブランド美術館名品展」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定）
　　アメリカ・クリーブランド美術館の日本美術コレクションの粋とともに中国、韓国などの優品を展示する。（目標来館者数１２万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　松嶋雅人

【実績・成果】
・展覧会名　「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」
・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1･2室
・主　　催　東京国立博物館、クリーブランド美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社
・協　　賛　住友ナコ　マテリアル　ハンドリング、日本写真印刷、ハイスター＝エール・マテリアル・ハンドリング
・協　　力　国際交流基金、全日本空輸、日本貨物航空
・作品件数　51件
・来館者数　104,865人（目標120,000人・達成率87.4%）
・入場料金　一般1,000円（800円）、大学生800円（600円）、高校生600円（400円）　＊（　）内は20名以上の団体料金
　「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」との2展共通観覧料金
　一般1,600円（1400円）、大学生1,400円（1200円）、高校生1,000円（800円）　中学生以下無料
　＊（　）内は前売り・20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　57%

　全米屈指の日本美術コレクションを誇るクリーブランド美術館の平安時代から明治時代までの日本絵画の名品を展示して、人や自然の姿が時代ごとにどのように描かれてきたのかを人体表現、花鳥画、山水画、そして物語絵画の4つのテーマで概観することで、日本絵画の特質を示すことができた。

【補足事項】
・本展は、日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」とともに、東京都美術館で開かれた「日本美術院再興100年 特別展『世紀の日本画』」とあわせ、３つの展覧会を結ぶプロジェクト「日本美術の祭典」として実施された。
・来館者数は目標に達しなかったが、展示構成にあわせた本展覧会図録、題箋等の調査研究の進展を生かした解説によって、日本絵画の特色並びに特徴を示すことができたため、総合評価をＡとした。



ポスター


展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
来館者数	104,865人	120,000人	B	経年変化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2121-6

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(6/7)

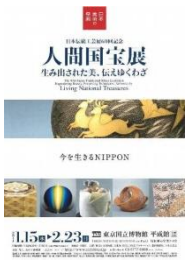
【年度計画】
カ　日本伝統工芸展60回記念特別展―「人間国宝　伝えゆくわざ　生み出された美―」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定）
重要無形文化財指定制度施行60周年、「日本伝統工芸展」の第60回を記念し、人間国宝が生み出した伝統工芸の清華を展望する。（目標来館者数１２万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉

【実績・成果】
・展覧会名　日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」
・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第3･4室
・主　　催　東京国立博物館、文化庁、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社、日本工芸会
・協　　賛　花王、日本写真印刷
・作品件数　145件（うち、国宝6件、重要文化財13件、重要美術品3件）
・来館者数　112,960人(目標120,000人・達成率　94.1%)
・入場料金　一般1,000円(800円)、大学生800円(600円)、高校生600円(400円)＊(　)内は20名以上の団体料金
「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」との2展共通観覧料金
一般1,600円(1400円)、大学生1,400円(1200円)、高校生1,000円(800円)
中学生以下無料　＊(　)内は前売り・20名以上の団体料金.
・アンケート結果　満足度　69%

国宝・重要文化財など歴史的に評価されてきた古典的な工芸と、歴代人間国宝104人の名品を一堂に集め、日本が誇る工芸の「わざ」の美を合わせて展示することで、伝統と現代との造形表現におけるつながりを明らかにすることができた。

【補足事項】
・本展と合わせ、平成館企画展示室において、特集陳列「人間国宝の現在（いま）」を開催し、現在創作活動を続け、後継者の育成を行っている人間国宝56名の作品を展示した。
・本展は、「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」とともに、東京都美術館で開かれた「日本美術院再興100年 特別展『世紀の日本画』」とあわせ、３つの展覧会を結ぶプロジェクト「日本美術の祭典」として実施された。
・目標値に近い来館者数を得ることができた上に、造形表現上の繋がりを、古美術と現代において生み出された工芸品を合わせて展示することで、明確に示すことができたので総合評価をＡとした。



ポスター


展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	112,960人	120,000人	B		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-7

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(7/7)

【年度計画】
(東京国立博物館)
(年度計画外に実施)
特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」(26年2月11日～3月23日)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員 土屋貴裕

【実績・成果】
(東京国立博物館)
・展覧会名　特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」
・会　　期　平成26年2月11日（火）～3月23日（日）(36日間)
・会　　場　本館7室
・主　　催　東京国立博物館
・特別協力　文化庁、イタリア大使館
・協　　力　仙台市博物館
・作品件数　3件（うち重要文化財2件)
・来館者数　この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。
参考値：56,342人(開催期間中の平常展来館者数)

安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、南蛮貿易などを通じて日本とヨーロッパとの交流が深まるなかで、ヨーロッパ人への興味関心やその文物への憧れを表わされた「南蛮人渡来図屏風」や「世界図屏風」をヨーロッパで描かれた「支倉常長像」と合わせて展示したことで、日欧交流における絵画表現にみる彼我の異同を端的に示すことができた。

【補足事項】
本展は当初、年度計画になかったが、急遽開催されることとなった。



ポスター


展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数(参考値)	56,342人	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/3)

【年度計画】
ア　特別展覧会「狩野山楽･山雪」（平成25年3月30日～5月12日）
桃山時代から江戸初期にかけて京都を舞台に活躍した狩野派の代表的画家 山楽・山雪の画業を紹介する初の大回顧展。（目標来館者数１０万人）

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	前連携協力室長　山下善也

【実績・成果】
・展覧会名　特別展覧会「狩野山楽・山雪」
・会　　期　平成25年3月30日（土）～5月12日（日）（ 39日間）
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（特別展示館）
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、京都新聞社
・作品件数　83件（重要文化財13件）
・来館者数　90,242人（目標100,000人）
・入場料金　一般1,400円（1,200円／1,00円）、大学・高校生900円（700円／600円）、中学・小学生500円（300円／200円）
＊（　）内の料金は前売り／団体20名以上
・アンケート結果　満足度　95％
新発見9件・初公開15件・海外から里帰り4件を含む狩野山楽・山雪の代表作が集結する質の高い大回顧展を実現し、数多くの熱心な鑑賞者を呼ぶことができた。ほとんどの来館者について、1点1点の鑑賞にかける時間が予想以上に長く、滞留時間が通常よりかなり長かったことが特筆される。

【補足事項】

なかなか暖かくならなかったこともあって来館者数は目標に達しなかったが、新発見9件・初公開15件・海外から里帰り4件を含む狩野山楽・山雪の代表作が集結する大回顧展を実現。朝日新聞2013年の美術展回顧記事では、明治学院大学文学部芸術科山下祐二教授が第一位に選び、各種ブログ（注）でも第一位に選ばれるなど、高質の展示内容に対し高い評価を受けた。

注
青い日記帳：http://bluediary2.jugem.jp/?eid=3465
Art & Bell by Tora：http://cardiac.exblog.jp/21747844/
Salon of vertigo：
http://salonofvertigo.blogspot.jp/2013_12_01_archive.html

あるYoginiの日常：
http://memeyogini.blog51.fc2.com/blog-entry-1664.html
ほか多数



展覧会ポスター


展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
来館者数	90,242人	100,000人	B	経年変化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/3)

【年度計画】
イ　特別展観「遊び」(7月13日～8月25日)
　神仏に捧げた歌舞音曲から、酒宴、年中行事、遊山、遊興、琴棋書画、合せもの、子どもの人形遊びまで、京都国立博物館が収蔵する多彩な美術品のなかに「遊び」の姿を追いかける。身近なテーマの下に有名作品に親しみ、隠れた名品に出会う展覧会。(目標来館者数３．５万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室主任研究員　永島明子

【実績・成果】
・展覧会名　特別展観「遊び」
・開催期間　平成25年7月13日(土)～8月25日(日)（38日間）
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（特別展示館）
・主　　催　京都国立博物館
・作品件数　128件　（うち国宝1件、重要文化財6件）
・来館者数　23,659人（目標35,000人）
・入場料金　一般1,000円、大学・高校生700円、中学・小学生 無料
・アンケート結果　満足度84%

　親しみやすいテーマの下に文化財に接し、遊びについても考えることのできる機会を提供するために、収蔵品の活用、関連イベントを充実させた。また、豊臣棄丸所用の玩具船（妙心寺蔵・重文）の模型によるからくり構造の再現等が多数の取材を受け、注目を集めた。

【補足事項】
　猛暑のため来館者数は目標の68%に留まったが、展示空間の新たな演出方法を試み（画像印刷シートを床に貼る等）、アンケート結果では満足度84%を得ることができた。


豊臣棄丸所用の玩具船（妙心寺蔵・重文）の展示の様子



「遊び」展チラシ


展示空間の新たな演出方法の様子

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	23,659人	35,000人	C		―	―	―	―

総合評価	S　A　Ⓑ　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　遊びという親しみやすくかつ深淵なテーマの下に、当館が収蔵する多様で質の高い文化財を編纂し、楽しみながら考えることのできる展覧会を実現できた。記念撮影用の看板や実際に触ることのできる模型なども用意し、トークショーや子供向けイベントなど、来館者サービスも充実させた。予算に限りはあるが、広報や展示の演出方法をより充実させて行くことが今後の課題といえよう。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/3)

【年度計画】
ウ　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」(10月12日～12月15日)
古来やきものの王者として名高い中国陶磁の中でも、その精緻さ、緻密さにおいて他を圧倒する清時代の陶磁器の名品を鑑賞すると同時に、鎖国をしていた日本へも多くの清朝陶磁がもたらされており、日本陶磁にも大きな影響を与えていたことを紹介する。(目標来館者数３．５万人)

担当部課	学芸部工芸室	事業責任者	室長　尾野善裕

【実績・成果】
・展覧会名　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」
・会　　期　平成25年10月12日(土)～12月15日(日)　55(日間)
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館(特別展示館)
・主　　催　京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ
・協　　力　史跡料亭花月、日本香堂
・作品件数　212件(国宝0件・重要文化財0件)
・来館者数　38,929人(目標35,000人)
・入場料金　一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生400円
・アンケート結果　満足度　87%

江戸時代から明治・大正時代にかけて日本へもたらされた中国清朝陶磁を集大成すると同時に、日中交流の足跡を陶磁器で辿るという展覧会で、過去の展覧会になかった企画性を強く打ち出すことができた。

【補足事項】
・本展覧会は、科学研究助成基金助成金『「鎖国」下の日本における清朝陶磁の受容とその影響に関する調査研究』(研究代表者　尾野善裕)による研究成果公開の一環として実施。
・休憩スペースにも、展示の流れからは逸脱する館蔵の清朝陶磁を参考出品し、陶磁器という光に対して強い性格の文化財であることに鑑み、観覧者サービスの一環として、その部分に限って写真撮影を許可したところ、観覧者から好評を得た。
・『芸術新潮』誌上で「ありそうでなかった視点に基づく陶磁器展は、近年の発掘・研究に基づく新知見にあふれている」と高く評価された。



展覧会ポスター


展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	38,929人	35,000人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2123-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/3)

【年度計画】
ア　當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺 －極楽浄土へのあこがれ－」(4月6日～6月2日)
二上山麓に所在する大和の古代寺院當麻寺。その奥深い信仰の歴史と魅力を、極楽浄土を表した本尊當麻曼荼羅を軸に描き出す。
（目標来館者数４万人）

担当部課	学芸部美術室	事業責任者	室員　北澤菜月

【実績・成果】
・展覧会名　當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺 －極楽浄土へのあこがれ－」
・会　　期　平成25年4月6日(土)～6月2日(日)（51日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社
・後　　援　文化庁、奈良県、葛城市、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送
・協　　力　葛城市商工会、シーシーエス、ＪＲ東海、千房、日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　159件（うち国宝7件、重要文化財43件）
・来館者数　54,114人(目標40,000人)
・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度　79％

南都の諸社寺の文化財中でも公開される機会が稀有な国宝綴織當麻曼荼羅を中心に、當麻寺の信仰を描く初めての特別展として、学術的にも高い評価を得た。また展示方法の工夫や、会場に於けるデジタル画像の使用によって、知識のない観覧者にも満足していただくことができた。

【補足事項】


展覧会風景



展覧会チラシ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	54,114人	40,000人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)
年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/3)

【年度計画】
イ　特別展「新しい仏像入門（仮称）」（7月20日～9月16日）
奈良国立博物館に収蔵される館蔵品・寄託品の中から屈指の名品を中心に、仏像・仏画の仏教尊像の諸像を紹介。多彩な仏教美術の魅力に様々な角度からアプローチする。（目標来館者数　５万人）

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　岩井共二

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「みほとけのかたち　－仏像に会う－」
・会　　期　平成25年7月20日（土）～9月16日（月・祝）（52日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・後　　援　文化庁、奈良県、奈良市、奈良市教育委員会、ＮＨＫ奈良放送局
・特別協力　読売新聞社
・協　　力　ＪＲ東海、奈良県ビジターズビューロー、奈良交通、日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　91件（うち国宝5件、重要文化財42件）
・来館者数　39,232人(目標50,000人)
・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、中学生以下 無料
・アンケート結果　満足度　93％

仏像の「かたち」という、外観的特徴から紹介していく展示構成と、図解やディスプレイを工夫した会場展示に「初心者にもわかりやすかった」と好評を得られ、仏教美術を愛好する新たな客層の獲得に貢献できた。

【補足事項】
来館者数は目標値に達しなかったが、満足度93％という極めて高いアンケート結果を得ることができた。



展覧会風景



展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	39,232人	50,000人	B		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（奈良国立博物館）
年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/3)

【年度計画】
ウ　特別展「第６５回正倉院展」(予定)
　正倉院宝庫に伝わる宝物約７０件を展示。(目標来館者数　１８万人)

担当部課	学芸部工芸考古室	事業責任者	室長　内藤　栄

【実績・成果】
・展覧会名　「第６５回正倉院展」
・会　　期　平成25年10月26日(土)～11月11日(月)(17日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　岩谷産業、ＮＴＴ、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
・協　　力　ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房
・作品件数　66件
・来館者数　246,269人(目標180,000人)
・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
・アンケート結果　満足度　70％

　23年ぶり2回目の出陳である漆金薄絵盤、聖武天皇ご遺愛品である平螺鈿背円鏡や鳥毛文書屏風、鹿草木夾纈屏風などの名品のほか、宝物の保存に関わる品々が出陳された。一日平均14,000人ほどの来館者であったが、随所に混雑しない工夫を凝らし、また細部の拡大パネルや技法解説パネルなどを設け、満足度の高い展覧会となった。

【補足事項】


展覧会風景



展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	246,269人 (17日間)	180,000人	A		299,294 (20日間)	294,804 (20日間)	239,581 (17日間)	238,019 (17日間)

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/4)

【年度計画】
ア　「大ベトナム展」(4月16日～6月9日)
　日本で初めて本格的にベトナムの歴史と文化を紹介する
　(目標来館者数３万人)。

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課研究員　遠藤啓介

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「大ベトナム展」
・会　　期　平成25年4月16日(火)～6月9日(日)(49日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館、在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館、
　TVQ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社、九州ベトナム友好協会
・作品件数　165件(うち重要文化財15件)
・来館者数　71,192人(目標30,000人)
・入場料金　一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度82%

　ベトナムの壮大な歴史を紀元前からたどる、日本初の本格的なベトナム展であり、ベトナムの歴史を多角的に、展示品を通して通覧できる画期的な展覧会であった。日本初上陸となるベトナム最大の青銅祭器「銅鼓」をはじめ、国内外の選りすぐりの名品を一堂に公開した。

【補足事項】
・日本の国立博物館で初めてベトナムにスポットをあてた展覧会であった。

・ベトナム国立歴史博物館の全面的な協力のもと、タンロン遺跡保存センター、ベトナム国立民族博物館などから展示品を借用した。

・ベトナムの歴史とつながりが深いインドネシアからジャカルタ国立博物館の陶磁器を借用するなど多方面からのベトナム史を展示することができた。


展覧会風景



展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	71,192人	30,000人	S		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由) この展覧会は、日本初の本格的なベトナム展であり、目標を超える多くの来館者を迎えることができた。また、ベトナムでの展覧会につなげることができた。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/4)

【年度計画】
イ　「中国　王朝の至宝」(7月9日～9月16日)
　　歴代王朝の都などの文物を通して、新たな中国文明像をひもとく
　　(目標来館者数５万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員　市元　塁

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「中国　王朝の至宝」
・会　　期　平成25年7月9日(火)～9月16日(月・祝)　(62日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、毎日新聞社、
　　西日本新聞社
・特別協力　太宰府天満宮
・作品件数　167件(うち1級文物100件)
・来館者数　77,554人(目標50,000人)
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度87%

　中国王朝史は複雑であるとの認識で敬遠される向きがあるため、これに対応すべく、解説文の内容や教育普及事業及び会場の空間構成に力をいれた。その結果、分かり易くかつ作品の魅力が伝わる展示空間となり、来場者にはおおむね好評を得た。

【補足事項】
・日中国交正常化40周年の冠事業にふさわしい貴重な作品群の展示を通して、悠久の歴史を体感できる機会を設けることができた。
・会期が夏休みの時期と重なることから、子ども向けのガイドブックやワークショップを開催したことで、幅広い層に受け入れられる展示となった。
・講演会や紙面連載、テレビ出演、動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えることに努めた。



展覧会風景



展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	77,554人	50,000人	S		―	―	―	―

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由) 迫力のあるポスターデザイン、多彩な広報展開、教育普及事業などを通じて、酷暑といわれた時期にあって目標を上回る入場者数を得ることができ、高い満足度を得た。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/4)

【年度計画】
ウ　「尾張徳川家の至宝」(10月12日～12月8日)
　　尾張徳川家に伝来した大名家の什宝、武器武具等を紹介する
　　(目標来館者数５万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　酒井芳司

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「尾張徳川家の至宝」
・会　　期　平成25年10月12日(土)～12月8日(日)　(50日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、テレビ西日本、TVQ九州放送、徳川美術館
・作品件数　226件(うち国宝5件、重要文化財12件、重要美術品6件)
・来館者数　139,448人（目標50,000人）
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度85%

　尾張徳川家は、徳川家康の9男・義直（1600-1650）を初代とする御三家筆頭の名門大名で、名古屋城を居城とし、江戸時代を通じて徳川将軍家に次ぐ家格を誇っていた。徳川美術館は、尾張徳川家に伝来した什宝を中心に1万数千件を収蔵している。江戸時代における最高水準の大名文化を伝える道具類の清華を一堂にみることができる機会となった。

【補足事項】
・数ある江戸時代の大名家のなかで最高の家格を誇った尾張徳川家には、徳川家康の遺品を頂点とする格調高い大名道具が数多く伝来した。本展は徳川美術館の協力を得て、まとまった形で最高水準の大名文化の遺品をみることができるまたとない機会となった。
・徳川家康の遺品には、足利将軍家、織田信長、豊臣秀吉の遺愛の品が多く含まれている。この展覧会では天下人が愛した名品の数々を紹介することができた。
・徳川美術館の収蔵品を代表する二つの国宝、源氏物語絵巻と初音の調度は徳川美術館でも期間限定でしか展示されない名品である。この二件の国宝を、期間を限定して特別に公開することができた。



展覧会風景



展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	139,448人	50,000人	S		―	―	―	―

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)
	国宝源氏物語絵巻を合計4週間限定で特別に公開することができ、また目標を超える来館者を迎えることができた。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(4/4)

【年度計画】
エ　「国宝　大神社展」（平成26年1月15日～3月9日）
　神社本庁をはじめ、日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に展観する。
　（目標来館者数７万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　楠井隆志

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「国宝 大神社展」
・会　　期　平成26年1月15日(水)～3月9日(日)　(47日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社
・作品件数　165件(うち国宝57件、重要文化財65件)
・来館者数　89,561人(目標70,000人)
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　87%
　25年4月から6月にかけて開催された東京展に引き続き、26年１月15日から3月9日かけて、特別展「国宝 大神社展」福岡展を開催した。九州では初めて本格的かつ総合的に開催された神道に関する文化財展となったほか、九州初公開の文化財も全体の7割を超えているため大きな関心と話題が寄せられ、当初目標を上回る来場者があった。

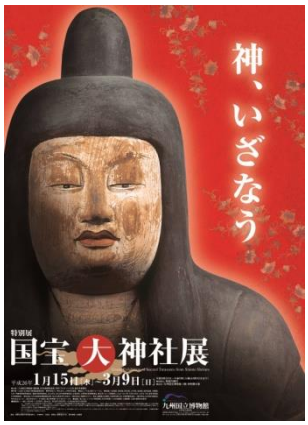
【補足事項】
・平成 25 年に行われた伊勢神宮第 62 回式年遷宮を機に、神社本庁をはじめ日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に展観した。「第１章　祀りのはじまり」、「第２章　古神宝」、「第３章　神社の風景」、「第４章　祭りのにぎわい」、「第５章　伝世の名品」、「第６章　神々の姿」の６章で構成した。

・これまでにも個々の神社や古神宝・神仏習合をテーマとした展覧会は開催されてきたが、今回は神道美術を総合的に展観する、過去最大規模の展覧会となり、来場者には日本の歴史と文化と信仰に育まれた神道美術の粋を鑑賞していただく格好の機会となった。

・本展覧会の教育普及関連事業として、街で見かけた狛犬の画像を WEB 投稿してもらう「狛犬目撃情報」を実施した。投稿情報はウェブサイト上だけでなく、館内でも紹介した。また、会場入口付近ではおみくじに倣った「神社まめちしき」の配布を行い、展示作品と関連のある豆知識を提供し、幅広い層に対する本展の集客及び神社文化の理解促進を試みた。

・本展覧会会期中に、神社本庁総長・石清水八幡宮宮司の田中恆清氏の特別講演会、研究員による連続講座（「国宝　大神社展」の壺）２回、県内各地での地域講演会 3 回を実施し、好評を博すとともに展示内容への理解を深める機会とした。

・また会期中の関連事業として、館内ホール等で各地の神社に伝承される神楽や舞なども上演され、神社と関連深い伝統芸能の紹介を積極的に展開した。



展覧会ポスター


展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
来館者数	89,561人	70,000人	A	経年変化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2131

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　③ 海外展

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)　海外展「青山杉雨のコレクションと書」(4月19日～5月26日)
　　会場：上海博物館（中華人民共和国）
　　書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の生誕100年を記念して、その足跡を回顧する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課長　富田淳

【実績・成果】
(東京国立博物館)
・展覧会名　海外展「青山杉雨のコレクションと書」
・会　　期　平成25年4月20日（土）～7月2日（火）(73日間)
・会　　場　上海博物館（中華人民共和国）　第二展庁
・主　　催　上海博物館、東京国立博物館、読売新聞社
・特別協力　謙慎書道会
・作品件数　80件
・来館者数　364,298人

　昭和から平成まで活躍した書家・青山杉雨が創作活動に生かすため収蔵した優れた中国書画の作品とともに、杉雨の生み出した伝統的な書から新しい表現まで多彩な作品を展示することで、中国において日本を代表する書家の業績を明らかにすることができた。

【補足事項】
　開催期間中、たいへん好評を博したため、当初の会期は25年5月26日までの予定であったが、上海博物館の要請に応えて7月2日まで延長した。



ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	364,298人	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F（S、Fの理由）日本の書家の作品展が会期延長の要望が出るほど好評を博し、日本文化の一端を広く紹介できたため。

【中期計画記載事項】
　海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2134

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　③ 海外展

【年度計画】
（年度計外に実施）
文化庁主催海外展「日本文化展」（26年1月16日～3月9日）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　岸本圭

【実績・成果】
・展覧会名　文化庁主催海外展「日本文化展」
・会　　期　平成 26 年 1 月 16 日（木）～3 月 9 日（日）（51 日間）
・会　　場　ベトナム国立歴史博物館
・主　　催　文化庁、九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館
・作品件数　69 件（うち重要文化財 7 件）
・来館者数　約 30,000 人
・入場料金　40,000 ドン（約 200 円）

ベトナムで日本文化を体系的に展示する初の取り組みであった。仏教文化や朱印船貿易、元寇などベトナムとの関連が深い内容を中心に 9 のテーマを設定し、日本文化を概観できる展覧会であった。関連事業として、博物館ボランティアが主体となって日本文化を紹介するワークショップを開催した。

【補足事項】

・日本側は九州国立博物館からの他、東京国立博物館、文化庁などから作品を借用し、計 53 件の作品を出品した。

・昭和 18 年から行われた東京帝室博物館(現東京国立博物館)とフランス極東学院の美術交換に際し、フランス極東学院に贈られた日本の文化財 16 点について、ベトナム国立歴史博物館より出品された。

・日本の伝統的な遊びを紹介するワークショップを開催し、幅広い年齢層の多くの参加者があり盛況であったと同時に、両館の博物館ボランティアの交流も図ることができた。


展示館前で行われた開会式


展示室風景

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	約 30,000 人	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（九州国立博物館）
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/3)

【年度計画】(4館共通)
1)(略)
(東京国立博物館)
1)日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。
○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」(7月17日～8月25日)
○体験型プログラムの実施
・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」など、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークやアクティビティを実施する。
・本館19室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。
・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。
○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(平成25年3月19日～4月14日)を実施する。
2) 3)(略)

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　伊藤信二

【実績・成果】(東京国立博物館)
1)以下のように、総合文化展の状況に応じ歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。
・総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化への興味関心をより高めることができた。
・本館19室における「みどりのライオン」は、当初の予定では26年3月の本館1階リニューアルオープン時より実施予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となった。改修工事期間中、プログラムを事前申込制に変更して、小講堂等で開催。他の申込制ワークショップの回数や人数も予定より増やして行った。
・本館地下、東洋館2室、6室にて体験型プログラム、列品解説、ワークショップ等を行った。
・ミュージアムシアターや小講堂においては列品解説、ワークショップ等を行った。
○特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」を実施し、本館の展示作品を「つくり方」という切り口で分かりやすく伝えることができた(25年7月17日～8月25日)
○体験型プログラムの実施
・総合文化展、特別展に関連したファミリー向けのギャラリートーク、アクティビティを18回実施した。
・本館19室にて、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」等を26年3月より行う予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となったため開始が遅れた。そこで、3月に予定していた桜ワークショップの内容を当初案のお皿作りから、より手軽に参加できるぬり絵に変更し、19室で予定していた企画同様、事前申込不要のハンズオン体験として平成館ラウンジにて開催した。
・正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティを実施した。(26年1月2日、3日)
・東洋館2室で体験型プログラム「旅の案内所」、6室で体験型プログラム「アジアの占い体験」を通年実施した。
○「博物館でお花見を」(25年3月19日～4月14日)では会期中「花見で一句」には481の投句があり、6名が入選。また、鑑賞ガイド、スタンプラリー、ボランティアによるガイドツアーなどを関連事業として行った。
○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。

【補足事項】(東京国立博物館)
1)26年4月(予定)より本館1階がリニューアルオープンし、本館19室にて体験型プログラム等を再開できる見込みである。
○体験型プログラム
総合文化展関連ワークショップおよび関連事業23回802人、特別展関連ワークショップおよび関連事業5回767人。
・正月のアクティビティ「トーハクうま三昧」26年1月2日・3日　2,284人
・東洋館でのアクティビティ「アジアの占い体験」通年　38,009人


体験型プログラム「アジアの占い体験」
(東洋館6室)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(東京国立博物館)
1)(略)
2)学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象)。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象)。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。
・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。
3)(略)

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数43校、団体利用を含み21,069名の学生が本制度を利用し入館した。
(東京国立博物館)
2)学校との連携事業を計画通り実施した。
・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。
・職場体験として、23校82人を受け入れた。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催:東京藝術大学)を25年7月31日～8月2日の3日間開催し、39名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、学校団体での博物館利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。
・教員鑑賞会・ガイダンスは4回実施し、計433人が参加した。

【補足事項】
2)スクールプログラムでは、ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、198校6475人に対して実施した。また、大学生、専門学校生及び教育関連機関の見学対応を19校439人を対象に行った。
○26年4月(予定)の本館1階がリニューアルオープンし、展示室に近い本館地下にレクチャースペース、ワークショップスペース及びかねてより要望の多い学校用ロッカー(予約制)が利用可能となる見込みである、学校団体での利用等がより一層期待できる。



スクールプログラム
「はじめての東博」実施の様子
（本館地下教育スペース）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
キャンパスメンバーズ加入校数	43校	－	－		35	35	37	38

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(3/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(東京国立博物館)
1)2)(略)
3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。
(講演会等の目標)　参加者数　計7,830人(実施回数　計77回程度)
・講演会　参加者数3,500人(実施回数20回程度)
・列品解説等　参加者数4,000人(実施回数55回程度)
・連続講座　参加者数　250人(実施回数 1回程度)
・公開講座　参加者数　80人(実施回数 1回程度)

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　丸山士郎

【実績・成果】
(東京国立博物館)
3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。
参加者数　計15,777人(実施回数　計131回)
・講演会　参加者数7,184人(実施回数30回)
うち月例講演会1,951人(12回)、記念講演会3,368人(11回)、テーマ別講演会1,709人(6回)、その他講演会156人(1回)
・列品解説等　参加者数 8,205人(実施回数98回)
・連続講座　参加者数 354人(実施回数1回)
・公開講座　参加者数 34人(実施回数2回)

【補足事項】
・その他展示に関連する事業1回・27人
25年5月19日　恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業
「上野の山でサルめぐり」　27人

※講演会等の参加者数が目標値を大幅に上回った理由
講演会及び列品解説のテーマ設定がお客様のニーズに非常によく合致したこと、人気の列品解説を大講堂で開催したこと、また当初の年度計画にはなかった特別展に関連するギャラリートーク（列品解説）を行ったことにより参加者数が増加した。

※公開講座の参加者数が目標値を下回った理由
実際の修復現場に入ることに伴う事故の防止及び修復専門スタッフとお客様との交流の充実を図るため、参加人数の見直しを行い、１回の定員数を80名から20名へ変更し、実施回数を2回としたため。



列品解説の様子
(25年4月、会場：前庭)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
講演会等の参加者数	15,777 人	7,830 人	S		12,546	13,319	12,664	13,193
実施回数	131 回	77 回	S		153	126	112	126
うち								
講演会参加者数	7,184 人	3,500 人	S	経	5,600	9,290	8,224	6,952
実施回数	30 回	20 回	S	年	24	39	32	31
列品解説等参加者数	8,205 人	4,000 人	S	変	6,550	3,659	3,963	5,805
実施回数	98 回	55 回	S	化	126	83	76	90
連続講座参加者数	354 人	250 人	A		320	278	380	303
実施回数	1 回	1 回	A		1	1	1	1
公開講座参加者数	34 人	80 人	C		76	92	97	133
実施回数	2 回	1 回	S		2	3	3	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(京都国立博物館)
1)展覧会内容および展示作品への理解を深めるための事業を実施する。
・「記念講演会」「土曜講座」を実施する。
・鑑賞ガイドを発行する。
・小中学生向け展示解説「少年少女博物館くらぶ」を実施する。
・小中学生向けワークシートを発行する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
2)歴史及び文化財への理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・テーマを定めた一般向けの連続講座として「夏期講座」を開講する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・文化財への関心を高めるワークショップを実施する。
3)教育諸機関との連携事業を推進する。
・京都市内４美術館・博物館が連携する「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を開講する。
・社会科教員のための向上講座を開講する。
(講演会等の目標) 参加者数　計2,240人 (実施回数計13回程度)
・記念講演会　参加者数150人 (実施回数1回程度)
・土曜講座　参加者数1,400人 (実施回数10回程度)
・夏期講座　参加者数　570人 (実施回数1回(3日間)程度)
・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」参加者数　120人 (実施回数1回程度)

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　山川　暁

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(29校)した。
(京都国立博物館)
1)・「記念講演会」(1回・190人)・「土曜講座」(10回・1,257人)を実施した
・小中学生向け「ワークシート」を一般観覧者向けの鑑賞ガイドとしても活用した。
・「少年少女博物館くらぶ」(2回・68人)を開催した。
・小中学生向け「ワークシート」(20,000部)を発行した。
・「博物館ディクショナリー」(7,000部)を発行した。
2)・「夏期講座(古社寺と文化財)」(１回・219人)を開催した。
・「文化財に親しむ授業」(7回・435人)を実施した。
・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加しワークショップを行った。(2回・1,300人)
3)・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(1回・157人)を土曜講座と合同で開催した。
・「社会科教員のための向上講座」(1回・30人)を実施した。

【補足事項】
・講座・講演会については、展示館建替工事のため外部の施設を借りて実施した。土曜講座は26年度末で1,748回を数える歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。夏期講座は遠方から泊まりがけで参加する聴講者も多数あり、見学会も合わせて好評を博している。
・ワークシートや博物館ディクショナリーは、子どもだけでなく大人にも入門的な解説書として好評で、モニターアンケートでも評価が高かった。
・年度計画にはなかったが、東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加し、福島、仙台にてワークショップを実施。また開催してほしいとの要望が多数あった。
※講演会等の実施回数が目標値を大幅に上回った理由
・特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」において、当初予定になかったギャラリートークを実施したため。


「こども☆ひかりプロジェクト」ワークショップの様子

【次ページへ続く】

【書式A】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　2212

【前ページから続く】

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
講演会等の参加者数	2,062人	1,860人 （延べ2,240人）	A		3,002	2,313	1,450	3,150
実施回数	21回	13回	S		21	17	15	19
うち土曜講座　参加者数	1,257人	1,400人	B		2,791	2,076	1,199	2,682
実施回数	10回	10回	A		19	15	13	16
うち記念講演会　参加者数	190人	150人	A		―	―	―	215
実施回数	1回	1回	A		―	―	―	1
うち夏期講座　参加者数	219人	190人 （延べ570人）	A		179	205	193	213
実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
うち社会科教員のための向上講座		―						
参加者数	30人	―			32	32	58	40
実施回数	1回	―		経	1	1	1	1
うちギャラリートーク　参加者数	366人	―		年	―	―	―	―
実施回数	8回	―		変	―	―	―	―
「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」				化				
（土曜講座の内数）　参加者数	157人	120人	A		―	―	158	119
実施回数	1回	1回	A		―	―	1	1
少年少女博物館くらぶ　参加者数	68人	―			19	20	75	85
実施回数	2回	―			1	1	2	2
文化財に親しむ授業　参加者数	435人	―			390	406	552	613
実施回数	7回	―			2	5	7	8
ワークショップ（こどもひかり）参加者数	1,300人	―			―	―	―	―
実施回数	2回	―			―	―	―	―
ワークシート　発行部数	20,000部	―			3,000	15,000	30,000	110,000
発行回数	1回	―			1	1	1	3
博物館ディクショナリー発行部数	7,000部	―			5,000	5,000	5,000	5,000
発行回数	2回	―			1	1	1	1

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付する。
・奈良市内の小学校５年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
2)(略)
3)奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。
5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。

担当部課	総務課渉外室企画推進係 学芸部教育室	事業責任者	係長　石田義則 室長　岩井共二

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は26校、大学との連携を継続した。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行った。
・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。
・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生33校、合計2,199名に対して実施した。
・中学2年生の職場体験を3校9人受け入れた。
3)奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月27日に行い、約150人の参加者を得た。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。
5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開した。

【補足事項】



小学生に向けた世界遺産学習の様子

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
キャンパスメンバーズ加入校数	26校	－	－		27	28	28	27

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/2)

【年度計画】　(4館共通) 1)(略)
(奈良国立博物館) 1),3)～5)(略)
2)講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。
(講演会等の目標) 参加者数　計2,600人 (実施回数　計27回程度)
・特別展等講座　　参加者数1,500人 (実施回数14回程度)
・夏季講座　　参加者数　500人 (実施回数 1回程度)
・サンデートーク　参加者数　600人 (実施回数12回程度)

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　岩井共二

【実績・成果】(奈良国立博物館)
2)講座等の開催
サンデートークは毎月第3日曜日に実施し、実績は12回、合計950人の参加があり、アンケート結果では85%の平均満足度が得られた。
・公開講座は、3つの特別展及び2つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計11回、1,341人の参加があり、平均満足度は85%を得た。その他、特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」に関連して学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」を実施した。
・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2013　鑑真和上と正倉院宝物」と題して25年10月27日に実施し、4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。192人の参加を得、満足度は89%であった。
・夏季講座は、今年は第42回目を迎え、奈良県文化会館で開催した。「仏教美術へのいざない」と題し、25年8月20日～22日の3日間に実施、講師は計9人、587人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を26年2月16日に実施し、38人の参加があった。
・文化財保存修理所の一般公開は、26年2月13日に3回実施し、計117人の参加があった。
○講演会等の実績　総計26回・参加者3,219人
特別展等講座13回・参加者1,682人 (うち公開講座11回・1,341人、シンポジウム2回・341人)、夏季講座1回(3日間)・参加者587人、サンデートーク12回・参加者950人

【補足事項】



学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」
会場風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
講演会等の参加者数	3,219人	2,600人	A		3,421	3,349	3,006	3,454
実施回数	26回	27回	B		33	28	28	29
うち特別展等講座参加者数	1,682人	1,500人	A		2,043	2,172	1,839	2,172
実施数	13回	14回	B		16	15	15	16
うち夏季講座　参加者数	587人	500人	A		391	556	522	438
実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数	950人	600人	S		584	621	645	844
実施数	12回	12回	A		11	12	12	12

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。
2)～9)（略）

担当部課	交流課	事業責任者	教育普及室主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)博物館における体験型事業を継続して実施した。
・体験型展示室「あじっぱ」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、本年度新たに錫を使用した鋳造体験「銅鐸をつくってみよう」、「銅鏡をつくってみよう」、「アイヌのボードゲーム　ウコニロシキ」、「アイヌのシカ笛をつくってみよう」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに実施した。
・「いこうよ！あじっぱ夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。
・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、さまざまなテーマのもと、「あじ庵」、「あじぎゃら」、「ディスプレイ」において特集展示を行った。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)・鋳造体験プログラムは神戸市立博物館との協働により実現した。
・アイヌ関連プログラムはトピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」開催に伴う調査研究の成果であった。
・「あじ庵」における特集展示は「桃の節句」「ベトナム」「中国の吉祥文様」「インドネシアのワヤン」の4回
・「あじぎゃら」における特集展示は「はらのなかのはらっぱで」「やきもの動物園」「郷土人形-うそ・天神さま・午」の3回
・ディスプレイにおける特集展示は「ベトナム」「中国の日常生活」「アジアの午」の3回
・プログラム開発や特集展示は、特別展やトピック展示にあわせた内容で実施している。
・小学校児童向けに「わくわく通信」を年間5回発行し、体験プログラム等の告知を行った。配布地域は福岡市を含む博物館近隣14市町、毎回136,000枚。募集プログラムは毎回定員に達し、臨時に回数を増やす等の措置を行っており、告知の効果は高いと思われる。
・体験型展示室「あじっぱ」の一角にある「BOXキットコーナー」は主として工作系の体験を提供する場であり、体験学習プログラム「韓国のふろしき ポシャギをはり絵でデザインしよう」、「日本の着物 もんようスタンプ」「ウズベキスタンの帽子をつくろう」等を体験できる。休日は幼児等を含む家族連れでにぎわっている。


体験型展示室「あじっぱ」
BOXキットコーナーのにぎわい

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)(略)
2)学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
3)～8)(略)
9)放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長　阿部　勝 課長　篠﨑孝司

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。
(九州国立博物館)
2)・中学生の職場体験を17校（延べ38日間）受け入れ、博物館の様々な業務を体験する機会を提供した。
・高校生「ジュニア学芸員」による全7回の継続プログラムを実施した。
・高等学校初任者研修に係わる体験活動研修を希望する高等学校教員と同経験10年経過者研修に係わる体験活動研修を希望する高等学校教員に対し体験研修を行った。
・学校教育における「きゅうぱっく」及び博物館の活用に関する教員研修会を実施した。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の活用を図り、貸出を行った。
・出前講座や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。
9)放送大学の面接授業を実施した。(「文化財の保存と修復」25年12月7日、8日)

【補足事項】
(4館共通)
1)大学等との連携を継続させるため、本年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校)が新規及び継続で入会した。
加入校内訳(大学13校、短期大学4校、専門学校1校、高等学校6校)
・会員校の学園祭に協賛した。(5校)
・特典の利用として文化交流展を3,857人（学生3,644人、教職員213人)、特別展を2,045人（学生1,797人、教職員248人）が観覧した。また、パスポートを2,104人（学生1,944人、教職員160人）が割引購入した。
・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。
(九州国立博物館)
2)・ジュニア学芸員の募集にあたっては、本年度から対象にキャンパスメンバーズ校を追加し、希望生徒の推薦を依頼した。
9)・放送大学面接授業受講者は50名。保存修復施設等の見学を含むカリキュラムを構成し、当館の活動に対する理解促進に努めた。


職場体験で展示体験する中学生

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
キャンパスメンバーズ加入校数	24校	－	－		29	27	28	24

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(3/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)2)(略)
3)シンポジウムを開催する。
4)特別展記念講演会を開催する。
5)文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。
6)ミュージアムトークを随時実施する。
7)文化施設等へ講師を派遣する。
8)特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。
9)(略)
(講演会等の目標)　参加者数　計3,100人（実施回数計54回程度）
・特別展記念講演会　　参加者数　600人（実施回数 4回程度）
・講演及びシンポジウム　参加者数1,300人（実施回数10回程度）
・ミュージアムトーク　　参加者数1,200人（実施回数40回程度）

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長　臺信祐爾 教育普及室主任研究員　　池内一誠

【実績・成果】
(九州国立博物館)
3) 国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催)
4) 本年度は特別展記念講演会を5回開催した。
5) 本年度は講演会等を38回開催し、連続講座も開催した。
6) 定例のミュージアムトークを47回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。
7) 文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市 アクロス・文化学び塾等)
8) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を行った。

【補足事項】
(九州国立博物館)
5)特別展やトピック展において、関係する共催者等の要請により、当初の想定以上に講演会を実施することとなったため、目標値を大幅に上回った。
7)、8) 館への理解促進・生涯学習支援の活動として館外の文化施設等において体験型ワークショップを実施した。
25年6月8日(土):仙台市農業園芸センター(参加約200人)
25年6月9日(日):福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館(参加約200人)
25年10月12日(土):熊本市現代美術館(参加約200人)
25年12月22(日)～23日(月):せんだいミュージアムストリート(参加約200人)　等


仙台市農業園芸センターでの様子
女性は奥山仙台市長

【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
講演会等の参加者数		7,276人	3,100人	S		6,806	3,996	7,833	8,354
実施回数		90回	54回	S		73	64	89	102
うち特別展記念講演会	参加者数	1,108人	600人	S		1,622	1,410	1,500	966
	実施回数	5回	4回	A		6	9	7	5
うち講演及びシンポジウム	参加者数	4,450人	1,300人	S		3,899	1,266	4,592	4,918
	実施回数	38回	10回	S		25	11	39	45
うちミュージアムトーク	参加者数	1,718人	1,200人	A		1,285	1,320	1,741	2,470
	実施回数	47回	40回	A		42	44	43	52

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。
2)点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
3)自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。
5)「東京芸術大学学生ボランティア」の活動を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館)
1)館内各所での案内、みどりのライオン紹介コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。次年度の活動に向けてスクールプログラム班を立ち上げた。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。
2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。
3)新規2グループを含めた全15の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施し、新たに1グループの立ち上げ準備を開始した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。
4)通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見を」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動見学ツアーを実施した。
5)総合文化展の作品解説をするギャラリートーク(研究発表)班5人と、調査研究班12人による活動を行った。

【補足事項】
2)バリアフリー活動として、点字パンフレットを12冊作成 、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(隔月1回、全6回)を実施した。
3)・各自主企画グループ及びボランティア活動見学ツアー等を実施した。(422回10,511人)
・自主企画グループによるガイドツアーとして、15グループ（樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、たんけんマップ＆ハイライトコラボ、近代美術ガイド、東洋館ツアー）が活動した。また、新たに刀剣武器武具グループ(仮称)を立ち上げた。
・生涯学習ボランティアに対する研修を行った。(29回、解説会6回)
5)今年度より「東京芸術大学学生ボランティア」を「東京藝術大学大学院インターンシップ」と名称を変更。東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班は平成25・26年度2ヵ年での活動としており、25年度は学芸研究部調査研究課の協力の下、作品の調査研究及び工程見本制作を行った。
同インターンシップギャラリートーク班は、総合文化展の作品解説を実施した。(ギャラリートーク29回949人)


生涯学習ボランティアによる「触知図」を使った館内案内とバリアフリー活動

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ボランティア数	169人	－	－		163	159	169	170
うち生涯学習ボランティア登録者数	152人	－	－		155	152	163	164
うち東京藝術大学大学院インターンシップ数	17人	－	－		8	7	6	6

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)新平常展示館の新装開館に向け、新規ボランティア事業を立ち上げるための準備を行うとともに、新平常展示館でのボランティア活動を開始する。
2)調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。
3)文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川　暁

【実績・成果】
(京都国立博物館)
1)平成知新館（新平常展示館）の開館が来年度に延期されたため活動開始は持ち越されたが、ボランティア募集チラシ作成など諸準備を行った。新規ボランティア事業の核となるミュージアム・カートの作成に向け、調査及び教材の作成を行った。
2)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(25人)
3)・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(18回)
　・文化財ソムリエによる、京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(7回)
4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。

【補足事項】
1)募集チラシ（8000枚)、他館の事例調査（34件)、カート（3台)、カートに配備する教材の作成（14件)
　ミュージアム・カートとは、文化財のレプリカや教材見本をカートに設置し、手で触れたりナビゲーターと対話したりすることで、展示作品への理解を深めるためのハンズ・オン教材である。

2)各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。

3)「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアに対して、当館研究員がスクーリングを実施した。教材となる文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、文化財ソムリエが授業案や教材を作成するにあたって、議論を促し、指導・助言を行った。


文化財ソムリエへのスクーリング

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
ボランティア数	45人	－	－	経年変化	35	40	64	45
うち調査・研究支援ボランティア数	25人	－	－		10	15	22	21
うち文化財ソムリエ数	13人	－	－		7	7	14	16
うちらくご博物館学生ボランティア数	7人	－	－		－	－	10	8
（うち京都橘大学学生によるアンケートボランティア数）	－	－	－		18	18	18	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(奈良国立博物館)
1)ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。
2)ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
3)勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長　清水　功

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)ボランティアの新制度が発足して2年目になり、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの3つの活動がそれぞれ軌道に乗った。奈良市教育委員会との連携により、世界遺産学習として奈良市の33校の小学5年生（2,199人）を受け入れ、同じ内容で県内外の小学生～高校生（28校，2,251名）を受け入れた。
2)ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全ての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。
正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。
3)ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、運営の指導に当たった。チーム力と知識の向上のため、毎月テーマを決めてグループで発表を行った。解説グループの勉強会では、オブザーバーとして学芸員が立会、指導した。
4)ボランティアによる自主企画として、当館敷地内の茶室庭園や仏教美術資料研究センターの案内ツアーを実施した。
プログラムの企画立案にあたって、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をした。

【補足事項】
1)・特別展「みほとけのかたち－仏像に会う」では、解説グループと世界遺産グループが連携して、来館者の解説や案内を行った。
・正倉院展講堂解説では、解説グループ・世界遺産グループ・サポートグループの3つが協力して、成果を上げた。
・他施設のボランティアとの交流会を実施し、スライドでボランティア活動を紹介し、当館の展示や施設の案内を行った。
・世界遺産学習では、同じ内容を外国語（英語・韓国語）でも行った。
・英語や韓国語で、名品展解説を行った。
2)・ボランティア間の通信誌「ぶりっじ」を、2ヵ月ごとに発行した。
3)・ボランティアの企画立案による「茶室庭園案内ツアー」を25年4月～5月、25年11月～12月に、26年3月に、計6回実施した。「仏教美術資料研究センター見学ツアー」を25年9月に、26年3月に、合計2回実施した。実施に当たって、数回のリハーサルを行い、万全を期した。
・特別陳列「お水取り」のツアー解説を26年3月に、実施した。
・ボランティア間の交流と研修を兼ねて、社寺旧跡見学会を25年6月と9月に実施した。
・子どものための、「なら仏像館」ガイド手引書を、ボランティア室指導のもとに作成した。
・子どものための、名品展講堂解説のスライドと原稿を、教育室の協力と指導のもとに作成した。



ボランティア活動風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ボランティア数	114人	－	－		98	85	87	121
うち世界遺産グループ数	41人	－	－		－	－	－	42
うち解説グループ数	39人	－	－		－	－	－	43
うちサポートグループ数	34人	－	－		－	－	－	36

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。
2)ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。
3)ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	ボランティア室主任研究員　八尋智之

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)第3期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。
2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。
3)各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、グループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行った。

【補足事項】
1)第3期ボランティアを中心に、第2期ボランティアからアドバイスを受けながら活動を行った。開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。
・各期ボランティア数（25年度当初）
第2期ボランティア（20年4月から活動）数　124人
第3期ボランティア（23年4月から活動）数　163人
・通常の活動においては、1日平均30～40名、1ヵ月平均延べ1000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM活動。土日を中心とした手話通訳による案内。
2)・活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修（視察・交流等）を実施した。
〔主な研修〕
障がい者接遇・英語解説講座・古代韓国歴史講座・古文書講座・IPM関連講座
〔主な館外研修先〕
壱岐市立一支国博物館・熊本市現代美術館・兵庫県立人と自然の博物館
兵庫県立考古博物館・求菩提資料館・長崎ペンギン水族館・宗像大社宝物館 等
3)・企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、イベントやワークショップのみならず、通常の活動においてボランティア自身や部会（グループ）の主体性や自主性を高めることができた。
〔実施したイベント等〕
G.W学生イベント（25年5月）・名古屋市立大学と共催イベント（25年10月）・能装束ワークショップ（26年1月）・七夕飾り（25年8月）・書き初め（26年1月）


視覚障がい者対応の様子
（３Ｄコピー装置での出力物に触れる）


名古屋の大学生との
共催イベントの様子
（貝合わせのワークショップ）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
ボランティア数	287人	－	－	経年変化	345	288	355	308
うち展示解説ボランティア数	75人	－	－		68	63	84	77
うち教育普及ボランティア数	39人	－	－		62	53	48	41
うち館内案内ボランティア数	26人	－	－		34	32	31	29
うち外国語案内ボランティア数	63人	－	－		71	53	89	69
うち環境ボランティア数	29人	－	－		32	28	38	35
うちイベントボランティア数	6人	－	－		11	10	10	6
うち資料整理ボランティア数	19人	－	－		19	18	20	19
うちサポートボランティア数	22人	－	－		29	19	25	23
うち学生ボランティア数	8人	－	－		19	12	10	9

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2221-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
2)地域、企業との連携・拡充を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】(4館共通)
1)26年4月の消費税率改定による料金の改定に伴い、これまで独立していた賛助会・友の会・パスポートの会員制度を一元化することで、支援者の選択の幅を広げ、継続的に支援しやすい体系とすべく整備を進めた（26年4月導入予定)。
2)友の会入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。賛助会会員を対象に、感謝会ならびに特別展毎に特別鑑賞会を開催した。
3)地域との連携、ＰＲにより認知度向上に努めた。
4)ＪＲ、地下鉄などに総合文化展、特別展のポスターの掲示、チラシの設置を図るなど、広告活動の充実に努めた。
5)特別展「国宝 大神社展」、「京都－洛中洛外図と障壁画の美」において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)企業へのＰＲ活動を積極的に行い、新規会員を増加させた。
2)上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催)、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。

【補足事項】
(4館共通)
1)継続案内を積極的に行い、リピーターの拡大に努めた。
2)東大寺講演会では友の会会員向けにＤＭ発送を行い、応募の際にも優先当選枠を設けた。
3)特別展におけるマスコミ各社との共催の他、上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン連絡協議会等に参加し、共同事業の実施や、ＰＲ活動への協力を得るなどして、博物館活動の理解向上に努めた。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会顕彰板の前に寄附金による購入文化財を紹介するパネルを設置し、当館からの感謝の意を表するとともに、文化財の保護に関心の高い来館者に新規加入を促した結果、個人の賛助会維持会員が増加した。



上野ミュージアムウィーク
パンフレット

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
友の会会員数	1,586人	－	－		2,085	1,412	1,802	1,570
パスポート会員数	16,474人	－	－		21,598	13,733	17,672	16,569
賛助会員数	379件	－	－		218	235	292	332
うち特別会員数	20団体	－	－		16	16	19	20
うち維持会員数(団体)	44団体	－	－		24	28	35	43
(個人)	315人	－	－		178	191	238	269

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 企画室長　宮川禎一

【実績・成果】(4館共通)
1)「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。
2)「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。
5)22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知している。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(3回)・見学会(3回)・会報(3回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。
また、地域・機関との連携事業に協力した。

【補足事項】
(4館共通)
2)「パスポート」会員が当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」会員カードを提示すると、商品(書籍・グッズ等)が10%引きで購入できる等の特典がある。
3)・人間国宝　桂米朝氏の所属している米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」を実施した。平常展示館建替中に伴い、今年度は2回実施した。
・アメリカンエキスプレス会員及びみずほプレミアムクラブを対象に茶会を開催し、文化財保護基金の周知につとめた。
4)・全館休館期間中に、京阪電気鉄道株式会社の特別協力による音楽イベント「音燈華」(6月1日開催)を庭園を利用して開催した。武田高明氏の燈火による演出のもと、DEPAPEPE(デパペペ)が音楽を奏で、大盛況であった。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)・「京都市内4館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の4館が連携し、広報のための合同パンフレットを59,500部製作、連携講座やスタンプラリーを実施するなど事業内容の充実を図るとともに、「友の会」の相互協力を行った。



京都市内4館連携合同パンフレット

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
パスポート会員数	2,295人	－	－		2,612	2,468	2,667	3,064
ミュージアム・パートナー会員数	－件	－	－		－	1	2	－
清風会会員数	336人	－	－		389	391	373	353
うち賛助会員数	30人	－	－		31	34	34	33
うち特別会員数	58人	－	－		63	61	61	60
うち普通会員数	248人	－	－		295	296	278	260

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
2)地域、企業との連携・拡充を図る。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
(奈良国立博物館)
1)支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
2)支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。

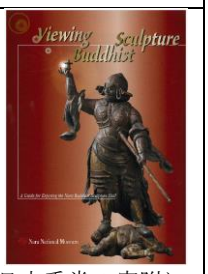
担当部課	総務課渉外室企画推進係	事業責任者	係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)パスポート会員　会員数2,598人(一般2,504人、学生73人、家族21人)
2)会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。
3)株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のＰＲを行った。
4)近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、大阪市交通局とタイアップし、特別展の広報を行った。
5)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員　29団体41人(特別支援会員：5団体、特別会員：4団体、一般会員(個人)：41人、(団体)：20団体)
2)観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。
奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2013」、「ライトアッププロムナード・なら2013」、「なら燈花会」、「光のオルゴールinライトアッププロムナード」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。
(奈良国立博物館)
1)支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。
2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。

【補足事項】
・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。


ムジークフェストなら2013


光のオルゴールinライトアッププロムナード



日本香堂の寄附により作成した『仏像を観る』(英語版) 表紙

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
パスポート会員数	2,598人	－	－	経	2,799	3,180	2,615	2,486
賛助会員数	70件	－	－	年	56	64	65	68
うち特別支援会員数	5団体	－	－	変	5	4	5	5
うち特別会員数	4団体	－	－	化	2	4	5	5
うち一般会員数	61件	－	－		49	56	55	58

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2224-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(九州国立博物館)
1)近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長　阿部　勝 課長　田端幸朋 事務主査　藤﨑秀典

【実績・成果】
1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。
2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示チラシ等の送付を行った。
3)企業等と連携し、広報活動を行った。
4)特別展等においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。
5)展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。
(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】
(4館共通)
1)「年間パスポート」の広告を実施した。(西日本鉄道ドアステッカー、25年8月1日～26年1月31日、ウェブサイトのトップページにバナー広告掲載（25年8月1日～)、館内券売所にも貼付)
4)・特別展について、ＪＲ、西日本鉄道とのタイアップにより広報活動を実施した。
・西日本鉄道、初の観光列車「旅人－たびと－」の運行開始。(26年3月22日)当館なども車体に描かれ、車内にはパンフレット等も配置し、広報の充実に努めた。



「年間パスポート」の広告

(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベント
・福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施した。
・開館以来、8年連続で国の重要無形文化財である博多祇園山笠の飾り山をエントランスホールで展示した。この事業は、西日本新聞社と九州国立博物館振興財団との共同事業として実施した。
・内容を勘案した上で、自治体等が主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベントの実施により来館者へのサービスが促進された。
・支援団体である九州国立博物館を愛する会、観光協会への内覧会を行った。


西日本鉄道　観光列車
「旅人－たびと－」(車体)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
友の会会員数	141 人	－	－		206	144	117	196
パスポート会員数	4,633 人	－	－		3,914	3,318	3,093	4,224

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2231

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(東京国立博物館)
1)東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象)。
2)キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　伊藤信二 教育講座室長　丸山史郎 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、12大学17名を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日間の活動を行った。
(東京国立博物館)
1)東京藝術大学大学院インターンシップを募集し、ギャラリートーク(研究発表)班5名、調査研究班12名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。調査研究班では館蔵の「突起装飾坏（TJ-5401）」の調査研究及び工程見本の制作を行った。
2)キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。(詳細は処理番号2211-2及び統計表2-(2)-②を参照)

【補足事項】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップ
・インターンシップの募集は、近隣の60大学への郵送による通知の他、全国あるいは国外からも応募できるようにウェブサイトでも行った。
・インターンシップ受入部署
　学芸研究部　東洋室、保存修復課
　学芸企画部　教育普及室、教育講座室、情報管理室、情報資料室、
　　デザイン室、広報室
(東京国立博物館)
1)東京藝術大学大学院インターンシップ
・東京藝術大学大学院インターンシップギャラリートーク(研究発表)班によるギャラリートーク　29回　参加人数949人
・東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班による活動は、平成25･26年の2ヵ年。平成25年度は調査研究課の協力のもと実施した。


東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2232

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員　赤尾栄慶

【実績・成果】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、前期は、研究員6人が客員教授(4人)、客員准教授(2人)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。後期は、客員教授(4人)のうち、1人が転出した為、客員教授3人、准教授2人の体制で担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。修士課程の学生2名については、修士論文の指導を行い、論文が提出された。

【補足事項】
・客員教授4人、客員准教授2人で、8科目の授業を担当し、講座に所属する大学院生4人及び授業に登録している数名の学生に、実際の文化財を教材にしながら、研究指導を行った。後期に客員教授が1人転出したが、他の教員で補って授業を行った。また修士課程の2人の学生の修士論文の指導を行った。
・京都大学の日本語・日本文化研修留学生に客員教授の１名が「日本の美術」に関する特別講義を博物館で行った。(25年11月13日に実施、留学生21人)



文化財ソムリエと京都大学大学院との合同授業

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2233

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。
2)奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。

担当部課	総務課総務係 学芸部企画室	事業責任者	係長　金谷嘉久 室長　野尻　忠

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)例年、立命館大学から数名の学生をインターンシップとして受け入れているが、25年度は同大学側の事情により受入れがなく、また、他大学への募集も行わなかったため、今年度のインターンシップ受入実績はなかった。
(奈良国立博物館)
1)・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期5人、後期4人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生8人であった。
2)・25年12月22日(日)、奈良市教育センター及びなら100年会館を会場として、「第４回世界遺産学習全国サミットinなら」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、当館学芸部長と女優の紺野美沙子氏による「人とつながる　地域とつながる」と題した対談及び子供達による世界遺産学習発表会を行った。

【補足事項】



「第4回世界遺産学習全国サミットinなら」チラシ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2234

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生の受け入れを実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課	事業責任者	課長　今津節生 教育普及室主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生を14大学20人、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は6大学11人)
○博物館見学実習に対応した。(5校延べ97人)
○福岡大学「博物館教育論」の授業実践に協力した。

【補足事項】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)・装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。(25年8月19日～23日)
吉備国際大学2名、九州産業大学2名、別府大学2名、広島市立大学2名の計4大学8名が研修に参加した。
(九州国立博物館)
1) ・実習実施期間
25年8月22日～24日、26日～28日、8月30日～9月2日　計10日
・実習内容
作品・資料の収集と管理、展示、保存科学、教育普及、地域交流・国際交流など、博物館の各機能に関する講義、考古遺物・陶磁器などの作品取り扱い実習、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)を中心とした博物館科学実習、子ども向けワークショップの運営や体験コーナーでの対応などの来館者コミュニケーション実習、展示案作成演習
・実習において作成された展示案には秀逸なものもあり、体験型展示室「あじっぱ」において実現することを検討している。
・実習参加大学
山口県立大学、学習院大学大学院、筑紫女学園大学、福岡教育大学、沖縄県立芸術大学、福岡大学、九州産業大学、立命館大学、久留米大学、山口大学、福岡女子短期大学、奈良女子大学、同志社女子大学、Wake Forest大学(14大学20人)
○博物館見学実習受入校
崇城大学(25年5月25日、16人) 武蔵大学(25年9月4日、7人) 県立広島大学(25年9月27日、24人) 福岡女子短期大学(25年11月13日、18人) 東海大学(26年2月7日、32人)
○福岡大学「博物館教育論」(指導:吉川美由紀講師)において、当館を題材として「九博みどころMAP」の制作を行い、その成果の一部を当館体験型展示室「あじっぱ」において掲示・紹介した。


博物館実習の様子

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(東京国立博物館)
1)多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。
2)より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。
3)～6)(略)

担当部課	総務部経理課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課	事業責任者	環境整備室長　大江信浩 特別展室長　松嶋雅人 デザイン室長　木下史青

【実績・成果】
(4館共通)
1)全ての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展『京都―洛中洛外図障壁画の美』の音声ガイドでは、野際陽子（女優）、佐々木蔵之介（俳優）のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が23.5%となった。
(東京国立博物館)
1)26年4月15日オープン予定の「正門プラザ」において、新しい試みであるデジタルサイネージを含む、館全体の案内・誘導サインを多言語で整備した。
2)・本館から平成館へ24年度に移設・仮設置していた＜東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナー＞のリニューアルを25年12月に行った。その照明として、LEDライン状光源のウォールウォッシュ照明器具を使用し、寄贈者の顕彰とともに憩いのギャラリーとしてリニューアルされた。
・4月15日にリニューアルオープンする本館18室の展示のため、LED光源によるカッタースポットライトを購入した。
(中期計画記載事項)
○施設のバリアフリー化として、黒田記念館、表慶館に多目的トイレと障がい者用EVを設置し、正門東側に多目的トイレを含むインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。また、本館リニューアルに伴う一時閉館期間に、多目的トイレの改修を行った。

【補足事項】
・上野公園周辺と東京藝術大学・谷中･根津･千駄木地域とのより密接な連携を図るため、黒田記念館別館に＜情報コーナー＞を整備し、周辺マップとチラシラック、椅子・テーブルを設置した。


正門プラザ東博館名文字サインモックアップ照明の実験風景


黒田記念館別館＜情報コーナー＞


平成館＜寄贈者顕彰コーナー＞LEDライン状照明の実験風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	150,214台	－	－		360,901	130,850	319,172	225,235
展示照明整備件数	2件	－	－		2	4	3	3

総合評価　S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(2/2)

【年度計画】(4館共通)1)(略)
(東京国立博物館)1)2)(略)
3)総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。
4)障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。
5)「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3ヵ国語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
7)育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。
8)より快適な観覧環境を構築するため、休憩スペースを整備する。(本館地下・表慶館)

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　伊藤信二 室長　小林　牧

【実績・成果】(東京国立博物館)
3)平成24年度より公開しているAndroidアプリ「トーハクなび」を引き続き公開した。
さらに、25年9月26日には、iOS端末用の「トーハクなびiOS Lite版」を新たに公開した。iOS Lite版には、Android版で人気の高い「日本美術の流れコース」と「建物めぐりコース」の２つのコース、３つの体験型コンテンツを収録した。Android版よりもサイズを小さくし、ダウンロードしやすくし、英語にも対応している。
また、iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語・英語対応）を引き続き公開した。
4)障がい者の方のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。
5)総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)の制作・配布を行った。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3言語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具　今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。
7)前年度に試行実施した託児サービスを、特別展「和様の書」、「京都」会期中に実施した。
8)25年9月に表慶館がリニューアルオープンしたことに伴い、1階の一部を休憩スペースとして開放した。

【補足事項】
3)各アプリの今年度のダウンロード件数は以下の通りである。
・Android版「トーハクなび」1,775件（累計3,738件、24年4月18日公開）
・iOS版「トーハクなび」2,928件(累計2,928、25年9月26日公開)
・iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」1,603件（累計21,855件、23年1月20日公開）
(東京国立博物館)
6)「日本美術の流れ」パンフレット　日本語版　計18回更新(第287号～第304号)



iOS版「トーハクなび」英語画面


託児スペース

7)今年度より本格導入した託児サービスの実施期間は25年7月31日（水）～11月24日（日）のうち12回であった。試行時とは異なり有料であったことなどから利用者数は25人（児童数30人）にとどまったが、アンケートではご利用いただいたすべてのお客様から、サービスに対して満足であるとの回答を得た（「大変良かった」88%、「良かった」12%)。特別展期間中だけでなく年間を通じての実施を望む意見がアンケートに多く寄せられたことから、次年度は通年での実施を検討中である。
○23年度より開始したベビーカー貸出サービスを継続した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
リーフレット等	7言語	7言語	A		7	7	7	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2312

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(京都国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。
2)館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 部長　村上　隆

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。
(京都国立博物館)
1)24年度に本体工事が完了した平成知新館(新平常展示館)において、快適な観覧環境を提供するため、外構工事（庭園の一部を整備)、展示ケース製作工事、展示製作工事（館内サイン、展示台等を製作）を実施した。
2)前年度に製作した館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。
○平成知新館（新平常展示館）が、京都市から『みやこユニバーサルデザイン優良建築物』に認定された。
(中期計画記載事項)
・平常展示館にオストメイト対応トイレ、車いす対応水飲み器を設置した。

【補足事項】
(4館共通)
1)音声ガイド利用台数　計17,202台
　特別展覧会「狩野山楽・山雪」　(会期25年3月30日～5月12日のうち25年度の台数)：12,496台
　特別展観　「遊び」　1,596台
　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」　3,110台
(京都国立博物館)
1)平常展示館の建替工事が引き続き継続中であるため、お客様の観覧を騒音や振動で妨げないよう配慮した。
○バリアフリー法又はバリアフリー条例の基準に加え､みやこユニバーサルデザインの考え方に沿った一定基準を満たした建築物としてみやこユニバーサルデザインハートマークのステッカーが交付された。



みやこユニバーサルデザイン
優良建築物の印


オストメイト対応トイレ


車椅子対応水飲み器

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	17,202台	－	－		78,797	47,668	34,095	35,037
リーフレット等	6言語	6言語	A		6	6	6	6

総合評価　Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2313

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　①施設・設備等の充実

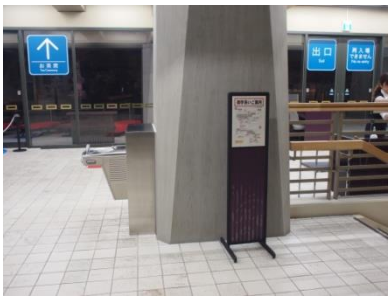
【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。
3)正倉院展の際に託児所を設置する。
4)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。
5)ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。
6)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
7)なら仏像館の会場案内図、展示一覧を作成する。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　森継明広

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。
3)正倉院展の会期中に、託児室を開設し、多くの利用者があった。
4)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、展示替が年に数回ありそれに対応するのは困難であり、また解説ボランティアが常駐しているのでその必要性もないことから、導入しないこととなった。
5)ウェブサイトでの展覧会の混雑状況・待ち時間の速報については、正倉院展において特別協力の新聞社ウェブサイトにリンクを張る形で行った。
6)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。
7)なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。
(中期計画記載事項)
・多目的トイレに「オストメイト」用設備を整備した

【補足事項】
2)正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。
3)開設した託児室は、保育士2人が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを予約制で実施した。会期中174人の利用があった。


音声ガイド貸出コーナー



館内誘導サイン

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	46,953	―	―		51,970	69,219	46,113	41,504
リーフレット等	7言語	7言語	A		7	7	7	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2314-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(九州国立博物館)
1)～5)(略)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　臺信祐爾

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。

【補足事項】
(4館共通)
1)特別展音声ガイド
・特別展「大ベトナム展」では、71,192人の来館者に対して7,205台の貸出があった（貸出率10.1%）。
・特別展「中国　王朝の至宝」では、77,554人の来館者に対して11,385台の貸出があった（貸出率14.7%）。
・特別展「尾張徳川家の至宝」では、139,448人の来館者に対して18,787台の貸出があった（貸出率13.5%）。
・特別展「国宝 大神社展」では、89,561人の来館者に対して12,893台の貸出があった。（貸出率14.4%）



特別展「大ベトナム展」入口
（音声ガイドの案内表示）

○文化交流展示音声ガイド（3言語対応：英語、中国語、韓国語）
文化交流展示音声ガイド実施状況（貸出件数）
文化交流展示　計　5,341台
英語版　1,473台
中国語版　920台
韓国語版　2,948台

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	55,611台	－	－		139,159	81,717	56,993	114,064

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2314-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
2)来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。
3)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
4)文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。
5)英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　臺信祐爾 課長　赤司善彦 課長　阿部　勝

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)展示課を中心として毎月１回、文化交流展示室の展示や施設についての研究会を実施した。
2)上記研究会の提言を受けて、展示環境の中で分かり易いサインの開発に努めている。
3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。
4)トピック展でも展示趣旨を解説する英文のほか、トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」で英文リーフレットを配布した。
5)文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。
(中期計画記載事項)
・施設のバリアフリー化推進のため、「ほじょ犬」専用トイレを整備した。
・公益財団法人日本博物館協会が実施する車椅子の寄贈事業を活用し、車椅子を新たに１台導入した。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)10周年のリニューアルを見据えた研究会を開催し、その提言を、展示課を中心に集約を図っている。
4) トピック展示にも主催者の了解を得て、英文リーフレットを配布し、展示内容を海外からの来館者を対象とした告知を進めた。



「ほじょ犬」専用トイレ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
リーフレット等	7言語	7言語	A		7	7	7	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2321

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
(4館共通)
1)・タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施
　平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施した結果を元に環境改善に努めた。
　・「総合文化展100万人プロジェクト」の一環として非来館者調査(インターネット調査、フォーカスグループインタビュー、街頭調査)を行い、外部有識者を交え、総合文化展の問題点の洗い出しを行った。
2)特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。

【補足事項】
1)・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。
　・東洋館を会場とした特別展においては、会場までの案内をわかりやすく表示した。
　・国際交流基金「KAKEHASHIプロジェクト」の団体受け入れにおいて、アンケートを実施するなど、外国人（若年層）への調査を行った。
　・お客様からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図った。また、質問には迅速に対応した。
　・創立150周年を迎える2022年までに総合文化展来館者100万人を目指して、総合文化展100万人プロジェクトを組織、各種調査を通して初心者にもわかりやすい展示解説や音声ガイドの作成等の提言を行った。新たに策定した中長期事業戦略に沿って、次年度以降は順次実施していく予定。

2)特別展会場における混雑対応
　・休憩用の椅子を通常より多く配置した。



タッチパネルアンケート
（クリーブランド展・人間国宝展）

○旅行会社クーポン契約により、駐車場を利用する団体の入館がスムーズに行われた。
○上野公園と周辺博物館・美術館で開催するイベント「創エネ・あかりパーク2013」に協力し、施設への美術品画像の投影と期間中の開館時間延長を実施した。
○「京都展」期間中の最終週の5日間は開館時間を延長した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
国宝　大神社展　満足度	72%	－	－		－	－	－	－
和様の書　満足度	72%	－	－		－	－	－	－
上海博物館　中国絵画の至宝　満足度	91%	－	－	経	－	－	－	－
京都－洛中洛外図と障壁画の美　満足度	72%	－	－	年	－	－	－	－
クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美　満足度	57%	－	－	変	－	－	－	－
人間国宝展－生み出された美、伝えゆくわざ－　満足度	69%	－	－	化	－	－	－	－
支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－　満足度	81%	－	－		－	－	－	－
総合文化展	78%	－	－		89%	88%	65%	70%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2322

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
(京都国立博物館)
1)モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。
2)混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。
(京都国立博物館)
1)小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。

【補足事項】
(4館共通)
2)・明治古都館(特別展示館)内及び庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。前年度に引き続いて、特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バッグ(カート)の収納が可能な大型コインロッカーの増設も行った。
・また、前年度に引き続き、特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報をウェブサイト等で掲載した。
・混雑対策として、「狩野山楽・山雪」会期中、仮設女子トイレを設置した。
(京都国立博物館)
1)・屋外に設置しているテント・傘立ての設置場所について、景観上望ましくないとの意見があったため、景観に配慮した場所に移設した。
・展覧会場での写真撮影を希望する意見があったため、展覧会によっては、玄関ホール等を写真撮影可能とした。
○職員等への防災・接遇研修等
・当館職員を対象に、普通救命講習及びAED取扱講習会を実施した。
全事務職員が普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても繰り返し訓練している。
・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。
・当館職員、臨時要員、売店・レストラン従業員を対象として「お客様対応についての講習会」を実施した。


臨時コインロッカー及びテント
(「狩野山楽・山雪」会期中)


AED取扱講習会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経	21	22	23	24
狩野山楽・山雪　満足度	95%	－	－	年	－	－	－	－
遊び展　満足度	84%	－	－	変	－	－	－	－
魅惑の清朝陶磁　満足度	87%	－	－	化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2323

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　森継明広

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」に関し、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』87号に掲載した。

【補足事項】
(4館共通)
1)アンケートなどの意見を反映して、下記の改善を行った。
・正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃を業者委託により実施した。
・正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置した。トイレ利用案内を改善した。
・正倉院展の会期中、トイレを順次見回り、汚れがあれば迅速に清掃を行った。

○ウェブサイトから寄せられたご意見等の質問に対し、迅速に対応した。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、実際の混雑に対して工夫等を行った。
・正倉院展では、入場待ちの来館者のためテントを設置し、ピロティではモニターを設置して関連の映像を流した。
・正倉院展では、混雑状況(待ち時間)の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅、ＪＲ奈良駅及び読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して行った。
・正倉院展では、入場待ち列の混雑緩和のため誘導案内を行った。


入場待ちの方のための映像モニター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－　満足度	79%	－	－		－	－	－	－
みほとけのかたち －仏像に会う－　満足度	93%	－	－		－	－	－	－
第65回正倉院展　満足度	70%	－	－		79%	77%	73%	77%
名品展　満足度	84%	－	－		68%	75%	74%	79%

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2324

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　阿部　勝

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。
2)・混雑が予想される展覧会（特別展「尾張徳川家の至宝」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。
・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。

【補足事項】
(4館共通)
1)管理運営の改善のためアンケート結果を関係各課へ回覧した。
・平常展アンケート　満足度 65%　　回答数 229件
（とても良い 37%、良い 28%、普通 13%、あまりよくない 4%、よくない 2%、無回答 16%）


「次の10年を考える懇話会」

2)・混雑が予想された特別展「尾張徳川家の至宝」では、展覧会場の快適な環境維持のため、入場待ち列等の調節、展示室内での誘導等を行った。
・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。
・開館10周年に向けて、「次の10年を考える懇話会」を開催し（年5回）、外部委員からの要望・意見聴取等を実施した。

○太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
大ベトナム展　満足度	82%	―	―	経	―	―	―	―
中国　王朝の至宝　満足度	87%	―	―	年	―	―	―	―
尾張徳川家の至宝　満足度	85%	―	―	変	―	―	―	―
国宝　大神社展　満足度	87%	―	―	化	―	―	―	―
文化交流展満足度	65%	―	―		66%	59%	65%	70%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2331

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(東京国立博物館)
1)正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する。
2)黒田記念館にカフェを設置する。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
(4館共通)
1)・ミュージアムグッズは、東京国立博物館協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に努めた。
・資生堂パーラー製ラ・ガナッシュや榮太樓飴、神戸風月堂ゴーフルなど有名菓子メーカーとの共同開発を行い、来館記念に購入しやすい商品のラインアップを充実させた。また、当館のキャラクターグッズを充実させ購買対象の拡大を図った。
・秋の特別公開にあわせ、重文「夏秋草図屏風」のグッズコーナーや原寸大複製を設置するなど展示作品との関連を重視した販売を行った。
○レストランでは、「博物館に初もうで」の期間中にヒマラヤ岩塩パウダーや伊予の水引の箸置の配布を行い、また特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。
(東京国立博物館)
1)正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する準備を進めた（26年4月オープン予定)。
2)25年9月4日に黒田記念館別館に上島珈琲店を開店した。

【補足事項】
(4館共通)
1)・台東区立書道博物館と連携した特集陳列「清時代の書－碑学派－」の開催期間中に、台東区立書道博物館の図録を販売し、連携企画の趣旨に沿った利用者サービスの向上に努めた。
・資生堂パーラーと提携して、「葛飾北斎冨嶽三十六景・凱風快晴」をもとに、チョコレート菓子（ガナッシュ）を製作した。
・バンダイと提携して、スマートフォンを使用してプロジェクションマッピングを楽しむ玩具菓子「ハコビジョン」を製作した。平成26年1月開催の世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）で紹介された。
・来館者の要望に応えカレンダーを通常の大判サイズの他に、卓上カレンダーを製作した。
・日本美術50選絵はがきを製作し、代表的な収蔵品の絵はがきをセットで購入しやすくした。
・東洋館公式ガイド『東洋美術をめぐる旅』を販売し、来館者が東洋館を観覧する際の手助けに供した。
・25年9月4日に黒田記念館別館に上島珈琲店を開店した。
○今後もミュージアムショップやレストランと連携協力を図りつつ、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。


資生堂パーラー製
東京国立博物館ラ・ガナッシュ


上島珈琲店　黒田記念館店

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。
2)新平常展示館に新たなレストランを設けるための各種準備を行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　植田義雄

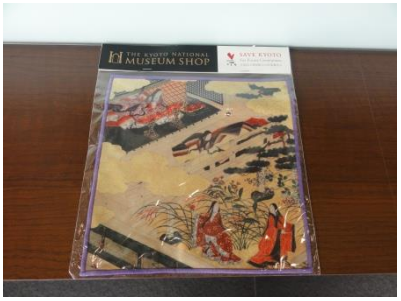
【実績・成果】
(4館共通)
1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。
2)平成知新館（新平常展示館）に併設されるレストランの企画競争準備を整えた。

【補足事項】
・南門施設は21年7月にオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。
・明治古都館（特別展示館）が閉館の期間についても、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。
・当館職員だけでなく、委託している外部業者も当館が開催するお客様対応講習会に参加し、接客サービスの向上を図った。
・当館オリジナルグッズ（クリップ、立体カード、ジグソーパズル等）を引き続き販売した。
・来館できない方には、図録等の通信販売を実施した。
・ミュージアムショップにおいて、24年度に引き続き、350種類の絵はがきを販売し、日本美術を中心としたグッズを販売した。
・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシ掲示や、英会話のできる人員の配置など、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。
・24年度に引き続き、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナー共通の営業カレンダーを製作し、掲示した。
・手ぬぐいやタンブラーなど季節感のあるものの販売も行った。有名レストランのクッキーや、ホテルのチョコレートも作成し好評であった。25年4月から新たにきものポストカード、ボールペン、クリーナークロスの販売を開始し好評であった。


きものポストカード



ボールペン



クリーナークロス

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2333

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(奈良国立博物館)
1)ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。
3)より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　森継明広

【実績・成果】
(4館共通)
1)オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ、正倉院展模様シリーズ、博物館グッズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。
(奈良国立博物館)
1)・正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。
　・26年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のバッチを配布した。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。
3)より快適な環境を提供できるよう、レストランの全面リニューアルを行った。

【補足事項】
(4館共通)
1)堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」の新商品（クリアファイル、正倉院展模様のステンドグラス風しおり、Tシャツ等）をミュージアムショッ　プで開発し販売した。
(奈良国立博物館)
3)内装（全面）とメニュー（一部）をフレンチ風にリニューアルした。また、デッキ部分(テラス席)を拡張した。



クリアファイル


ステンドグラス風しおり


オリジナルTシャツ



ミュージアムレストラン

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2334

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(九州国立博物館)
1)特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。

担当部課	広報課	事業責任者	課長　田端幸朋

【実績・成果】
(4館共通)
1)ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展示の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。
(九州国立博物館)
1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。

【補足事項】
(4館共通)
1) 博物館の8周年にあわせた記念セット商品等を販売した。

(九州国立博物館)
1)特別展に関連したメニューを提供した。
- 「大ベトナム展」では、ベトナムの屋台で定番のメニュー（焼飯、ボイルチキン、揚げ春巻き、ベトナム風えびせん）を盛り合わせた一皿『ベトナム屋台風焼飯　カニスープ添え』等を提供した。
- 「中国　王朝の至宝」展では、練りゴマとピーナッツクリームで仕上げた特製スープと、さっぱりとしたトマト風味のピリ辛ミンチのコラボレーションが絶妙な、夏の暑い日にぴったりな冷製タンタン麺の『夏トマト風味の冷製ピリ辛タンタン麺　ミニ杏仁デザート付き』等を提供した。
- 「尾張徳川家の至宝」展では、徳川家家紋“葵”をイメージし栗・昆布といった“三つ葉葵”の由来を思わせる食材とともに、江戸時代からの伝統料理・名古屋を取り巻く地方の名物料理を加え、松花堂弁当に仕立てた『ミュージアム松花堂弁当　“葵の膳”』等を提供した。
- 「国宝　大神社展」では、伊勢神宮式年遷宮に際する展示にちなみ、三重県の名物料理や特産物、縁起物を彩りよく詰め込んだ特製松花堂弁当『御神宝膳』等を提供した。


ベトナム屋台風焼飯　カニスープ添え


夏トマト風味の冷製ピリ辛タンタン麺
ミニ杏仁デザート付き

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2411

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①デジタル化の推進

【年度計画】(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(東京国立博物館)
1)外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。
2)収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
3)収蔵品の和書のデジタル化を実施し、データを整備して、公開する。
4)法隆寺献納宝物について、5ヵ国語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】(4館共通)
1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。
2)国宝・重要文化財の高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開し、アップデートを行った。
3)既存のシートフィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、25年度新規フィルム撮影分及び24年度末撮影分にあたる、カラーフィルム304枚、モノクロフィルム1枚をデジタル化した。また、マイクロフィルムについては当初予定していなかったが、25年度予算にて実施できることとなり、館史資料を中心とする550,000コマ(1,039リール)をデジタル化した。これをもって、既存マイクロフィルムのデジタル化についてもほぼ完了することができた。
(東京国立博物館)
1)「列品管理プロトタイプデータベース」について、検索性能の向上等のアップデートを行った。
2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。
3)収蔵品の和古書について18,307カット、また所蔵する洋古書について3,788カットのデジタル撮影を行い、公開に向けてデータを整備した。
4)「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」はサーバ機器が故障したため、25年4月より一時公開を停止し、バックアップデータと再構築の手順について調査した。開発当時作成されたバックアップデータの旧式カートリッジを読み取る機器を次年度調達してデータを精査し、利用可能であれば次年度の前半には再開可能となる見込みである。
○東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。

【補足事項】(4館共通)
2)各アプリ版「e国宝」の年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。なお、連携している「Twitter」のAPI変更に伴い、25年4月にアップデートを行った。
・iOSアプリ446,827件（23年1月20日リリース）参考：24年度末時点404,822件
・Androidアプリ161,433件（25年2月6日リリース）参考：24年度末時点55,161件
(東京国立博物館)
3)和古書のデジタル画像のデータ整備を進めたところ、利用者の使いやすさのためには当初想定していた公開方法を変更する必要があるため、公開準備を継続している状況である。
○本館19室のリニューアルに向けて、「e国宝」で公開している画像・テキストのコンテンツ、及び同事業において作成した三次元計測データを対象として、それぞれについてより直感的で親しみやすい新しい閲覧システムを開発した。


三次元計測データ閲覧システム

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	550,305件	1,000件程度	S	経年	775,300	8,639	1,468	776
うちカラーフィルム	304件	－	－	変	3,480	5,136	1,392	715
うちモノクロフィルム	1件	－	－	化	23,639	3,503	76	61
うちマイクロフィルム	550,000件	－	－		748,181	0	0	0

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2412

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(京都国立博物館)
1)収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。

担当部課	総務課 学芸部列品管理室	事業責任者	課長　植田義雄 室長　鬼原俊枝

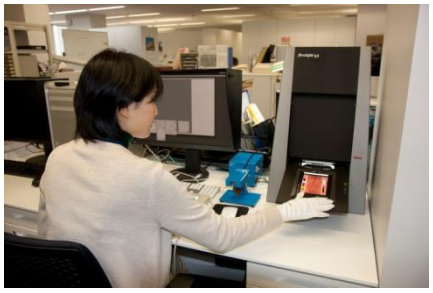
【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、2,682件実施した。
・平成24年度導入のフィルム用スキャナについて本格運用を開始し、既存フィルムのデジタル化を促進した。
・ガラス乾板及びマイクロフィルムのデジタル化を開始した。(詳細は処理番号2422を参照)
(京都国立博物館)
1)京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」の内容及び表示方法等について前年度に引き続き修正を行った。

【補足事項】
(4館共通)
3)デジタル化の必要なフィルム量が膨大であるため、従来のアウトソーシングと同時に、より経済的なスキャナ導入による館内でのスキャニング作業を開始し、フィルムのデジタル化が促進され、費用削減にも貢献した。

(京都国立博物館)
1)当館のウェブサイトのリニューアルを26年6月に予定しており(詳細は処理番号2452を参照)、「KNM GALLERY」と合わせて相乗的かつ効果的な運用を図れるように、全体的な検討を行った。



京都国立博物館所蔵国宝重要文化財
・名品高精細画像公開システム
「KNM GALLERY」


フィルムのスキャニング作業

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	2,682件	2,000件程度	A		―	―	2,165	2,732

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2413

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
2)画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。
3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。
4)仏教美術情報の公開・普及を図る。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。
2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(7,615件)。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品情報システムに新たに収蔵品となった文化財の情報を継続して蓄積し、『なら仏像館名品図録』掲載の情報も追加するなどして内容の充実に努めた。これらは公開用の収蔵品データベースにも反映され、当館から発信する収蔵品の基本情報、画像、解説文、文献をともに充実させることが出来た。
2)写真情報システムの個別データを9,093件追加更新した。このうち公開データは4,280件
3)「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ作成を継続して行い、学芸部内で運用しているデータベースのデータを更新した。
4)仏教美術資料研究センターのウェブサイトを運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。

【補足事項】
「日本美術院彫刻等修理記録」のデータベースを学芸部内で運用しているが、これにより資料の整理とデータ作成が効率的に実施出来ている。このデータベースは現在館内のみで閲覧が可能であるが、外部公開に向けてシステム構成ならびに内容・表示・画面推移などの再検討を行っている。このデータベースには、約8万枚の修理記録と約7千枚のガラス乾板の画像及び関連テキストが格納されており、外部への公開が実現すれば、文化財に関する情報発信をさらに発展させることができる。



「日本美術院彫刻等修理記録」データベース

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	7,615件	3,000件程度	S		90,555	4,311	5,297	4,924
写真データベースの個別データ追加更新件数	9,093件	2,000件程度	S		12,399	5,190	4,370	13,402

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)情報システムの更新による作業効率化と収蔵品写真など既存フィルムのデジタル化・データベース化の積極的な推進により、定量的評価目標値の大幅超え及び文化財情報発信基盤の強化が実現できた。

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2414

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(九州国立博物館)
1)収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。
2)海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。

担当部課	学芸部文化財課 交流課	事業責任者	課長　冨坂　賢 教育普及室主任研究員　　池内一誠

【実績・成果】
(4館共通)
1) 「九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ」の拡充を図り、館内及びインターネットで継続して収蔵品情報を発信した。
2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、デジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。
3) 62件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。
(九州国立博物館)
1) デジタルアーカイブの充実を図るため、収蔵品に関するコンテンツの追加を検討している。
2) ドイツにおける博物館教育の実態を調査して写真に収め、今後の博物館教育の参考資料とした。

【補足事項】
(4館共通)
3) 年度末に約800件のフィルム撮影を行ったが、年度内にデジタル化することはできなかったため、次年度実施する予定である。

(九州国立博物館)
2) 調査結果をもとに、次年度以降における教育普及事業の方向性について館内博物館教育担当者間で検討会を実施した。



A90　紙本著色虎図　熊斐筆
平成25年度購入資料
ポジフィルムのデジタル化画像

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	62件	200件程度	C		3,574	1,391	2,146	1,450

総合評価	S　A　Ⓑ　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2421

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約11,000件(東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(東京国立博物館)

1)資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。

2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。

3)調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。

4)資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】(4館共通) 1)本年度は9,865件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。

(東京国立博物館)

1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、約8,500件の図書資料のデータ整備入力を推進した。また、展覧会カタログ約650冊と洋雑誌約640件の既存データについて、書誌データの確認・訂正を実施した。
・今年度より国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)への雑誌の登録を開始し、洋雑誌639タイトル、和雑誌49タイトルの所蔵情報を登録した。
・画像管理システムに画像データ9,865件を登録し、既存データ1,450件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。
・貴重資料のデジタルアーカイブ公開にむけ、16件62冊の洋書・漢籍のデジタル撮影を実施した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続し、資料館利用者数は前年度に引き続き増加した。
(5,661人。参考：24年度4,828人)

2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。

3)東京国立博物館開催の展覧会出品作品データベースに4,989件の作品情報を入力した。また、所蔵品情報と文献情報とを関連づけるため、当館刊行物に収載されている所蔵品を調査し、約120冊の図書・雑誌のデータに列品番号の情報を入力した。 また記載された列品番号などの確認調査を行い、約90件について訂正、確認を関連部署に依頼し、画像及び列品情報の精度の向上に努めた。

4)ＶＲシアター跡及び黒田記念館の書庫スペースについて、書架の設置と資料の配置案の策定を行った。

【補足事項】(4館共通)

1)新規撮影件数の実績が目標を大幅に上回ったのは、1回の撮影で多数のカットを撮るケースが当初の想定より多かったことによる。デジタル撮影の本格化でこの傾向が安定して見られるため、次回目標値の設定を見直す予定である。


資料館利用案内パンフレット

(東京国立博物館)

1)・図書資料データ整備の内訳は、新規受入図書 4,989冊、既存図書の遡及入力3,505冊である。新規整理のうち、738冊はハングルの寄贈図書と発掘調査報告書である。個人文庫（野口本）のうち長く未遡及だった展覧会カタログ及び発掘調査報告書について遡及入力を行い、307冊と1,975冊のデータを作成した。
・資料館利用案内(Ａ4三つ折り)のパンフレットを作成し、本館等のインフォメーションでの配布及び類似施設へ送付を行い、資料館の広報に努めた。
・雑誌の所蔵登録にあたっては、NACSIS-CATに書誌がない236タイトルの新規書誌登録を行い、CiNii Booksでも資料館所蔵雑誌の一部が検索可能となった。

4)・図書資料の展示コーナー及び新着書架において、所蔵資料紹介の展示(年3回)、及び月毎の新着資料の展示を行った。また、展覧会開催に合わせて、特別展関連図書コーナーを設置し、資料館及び展示会場インフォメーションにて関連図書リストを配布した。
・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース（OPAC）に記事を掲載し資料館からの情報発信に努めた。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品･出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	9,865件	3,000件程度	S		16,567	11,343	10,566	9,556
うちフィルム撮影	22件	－	－		4,177	5,377	1,379	1,063
うちデジタル撮影	9,843件	－	－		12,390	5,966	9,187	8,493
新規図書整理	4,989件	－	－		3,411	7,345	3,970	4,877
遡及図書整理	3,505件	－	－		11,105	7,836	5,459	13,693

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2422

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約11,000件(東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を 1,406 枚、デジタル撮影を 3,119 枚行った。
・デジタルカメラ等撮影機材が導入され、デジタル撮影とフィルム撮影を並行して行った。
・画像利用申請に伴う収蔵フィルムのデジタル化作業を継続して行った。
・館蔵ガラス乾板の保存整理作業を継続して行い、ガラス乾板のデジタル化を始めた。
・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを開始した。
・経年劣化の激しいマイクロフィルムのデジタル化を開始した。
・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書2,503冊、逐次刊行物1,411冊を収集した。

【補足事項】
・当館の展覧会出品作品の撮影は、「狩野山楽・山雪」展、「遊び」展、「魅惑の清朝陶磁」展、また26年4月22日開始予定の「南山城の古寺巡礼」展を対象として進めた。
・デジタル画像の提供は、別途「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介し継続的に行っている。
・ガラス乾板の劣化状態が深刻であるため、京都造形芸術大学の協力により、ガラス乾板の劣化・破損状態調査を行い、基礎データの調書を作成し、カビ・埃等の除去を行った。同時にガラス乾板の画像をデジタル化によって保存活用するため、ガラス乾板のデジタル化を開始した。
・フィルム保存箱の経年劣化が始まっており、フィルムにも悪影響を及ぼすため、保存に適した収納箱に順次移し替えを開始した。
・マイクロフィルムの劣化状態が深刻となり、重要度の高いものからデジタル化を開始した。
・図書管理システム、資料の登録・検索を行う文化財情報システムについては、引き続き情報システム検討委員会で課題を検討しつつ、運用している。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,525件	3000件程度	S		3,753	3,379	3,580	2,713
うちフィルム撮影	1,406件	－	－		－	－	3,410	2,168
うちデジタル撮影	3,119件	－	－		－	－	170	545

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2423

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約11,000件（東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(奈良国立博物館)

1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】

(4館共通)

1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(4,648件)。

(奈良国立博物館)

1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。

2)・当館が公開するOPAC（図書)、収蔵品データベース、画像データベースの連携を強化させ、情報発信と利便性の向上に努めた。

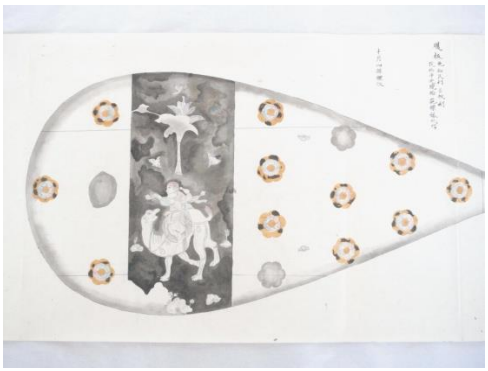
・仏教美術資料研究センターに附属する資料庫の空調設備を改修し、貴重書・複製・拓本などの資料の保存環境を改善するとともに、利便性を考慮して一部資料の配置換えを行った。

・仏教美術資料研究センターでは、通常の資料・施設の公開にとどまらず、ボランティアによる建築案内や、専門家の見学や研修の受け入れを複数回行った。外部からの見学・取材依頼は増加しており、それらに適宜対応することにより、機能及び施設の普及・宣伝に効果を上げている。

【補足事項】

1)仏教美術資料研究センターでは、『國華』(明治22年～）や『稿本日本帝国美術略史』（明治34年）といった刊行物や拓本、複製など、美術史・博物館に関する貴重な近代資料を保管している。これらの保存環境の改善に資するため、資料庫の空調設備を改修した。

2)今年度は、「正倉院御宝物」の写しや古写真、建築資料などからなる近代資料一括の寄贈を受けた。これらを当館保有の資料とともに整理保管し、活用へと繋げるための体制の整備が今後とも必要である。



「正倉院御宝物」



仏教美術資料研究センター
資料庫（収蔵庫）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,648件	3,000件程度	S		5,818	11,684	6,103	4,960
うちフィルム撮影	87件	－	－		5,818	1,725	219	14
うちデジタル撮影	4,561件	－	－		－	10,677	5,884	4,944

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2424

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約11,000件（東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(九州国立博物館)

1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。

2)博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムについて継続的に見直しと改良を加え、より充実した業務システム構築を目指す。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】

(4館共通)

1) 1,512件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。

(九州国立博物館)

1) 対馬宗家文書データベースの効率的な運用のため、システムについて検討を行った。

2) 博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムの検討を行った。

【補足事項】

(4館共通)

1)

・目標値2,000件は、過去の実績をもとに設定しているが、今年度撮影した収蔵品・寄託品は大半が単品で、1回あたりの撮影件数が少なかったため、実績は1,512件に留まり目標値に満たなかった。

・収蔵品・出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影に代わりデジタル撮影が主体となりつつある。



九州国立博物館トピック展用写真撮影
黒島銅矛　東京国立博物館所蔵

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	1,512 件	2,000件程度	B		4,686	1,393	4,441	2,142
うちフィルム撮影	822 件	－	－		－	1,357	2,175	1,480
うちデジタル撮影	690 件	－	－		－	36	2,266	662

総合評価	S　A　Ⓑ　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 2430

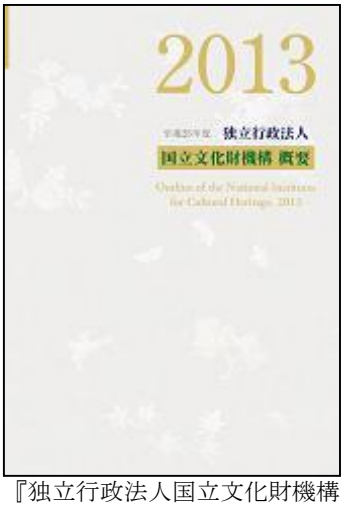
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(機構本部)
1)機構の概要、年報を作成する。
2)機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。

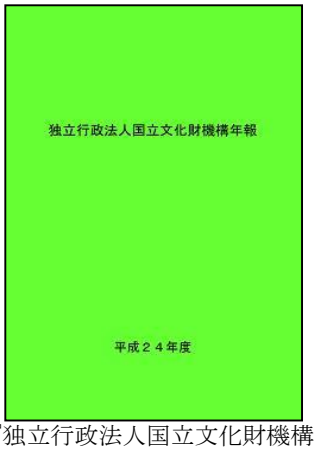
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
(機構本部)
1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成25年度』を25年7月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
　『独立行政法人国立文化財機構年報 平成24年度』を26年1月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。

【補足事項】
1)『平成 25 年度概要』: 2,700 部、カラー45 ページ、和英併記。
　『平成 24 年度年報』: 250 部、カラー4 ページ・モノクロ 1,152 ページ。
2)機構本部ウェブサイトアクセス件数：283,412件。



『独立行政法人国立文化財機構
概要 平成25年度』



『独立行政法人国立文化財機構
年報 平成24年度』



独立行政法人国立文化財機構
ウェブサイト　トップページ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2431

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
(東京国立博物館)
総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
1)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。
2)平成26年春の本館一部リニューアルオープン関連を含めた総合文化展の広報展開の企画・運営を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)、「博物館でお花見を」「秋の特別公開」「博物館に初もうで」「本館リニューアル」他各種広報印刷物を制作・配布した。
(東京国立博物館)
1)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。
2)『東京国立博物館ニュース』掲載、「博物館でお花見を」チラシ掲載、ウェブサイト・SNSによる告知を行った。

【補足事項】

2)
・『東京国立博物ニュース』では、総合文化展のページを増やし、きめ細かい情報発信に努めた。
・「博物館に初もうで」では、朝日、読売、毎日新聞への15段カラー広告を出広し、「毎日広告デザイン賞準部門賞」を受賞した。



『東京国立博物館ニュース』



「博物館に初もうで」新聞広告

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2432

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。

【補足事項】
・25年4月～26年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した。(30,000部)
・近隣私鉄会社と連携し、ポスター・チラシの駅構内掲示等広報活動を実施した。
・最寄り駅となる京阪電鉄と連携した広報活動の実施に向け、検討会を実施した。
・展覧会記者発表会を実施し、展示内容や見どころについて詳細にレクチャーを行い、記事掲載機会の拡大に努めた。
・展覧会のジャンルに併せてチラシ等発送リストの見直しを行い、より効果的な情報発信に努めた。
・メールマガジン会員数の維持・増加を目的として平成24年度に開始した会員特典の小冊子（PDF）の刊行を継続して行った(詳しくは処理番号2442を参照)。
・「Twitter」を通じて展覧会の混雑状況の迅速な情報発信を行った。
・一般社団法人京都府タクシー協会、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューローの構成員に対して展覧会の特別鑑賞会を実施し、さらなる観覧者数の増加を図った。
・前年度に広報特使に任命した女優・藤原紀香氏の公式ブログや公式「Facebook」にて当館の情報を発信し、広報推進を図った。
・博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、25年4月に文化大使として新たに俳優の井浦新氏を任命した。



京都国立博物館　年間スケジュール
(25年4月～26年3月)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2433

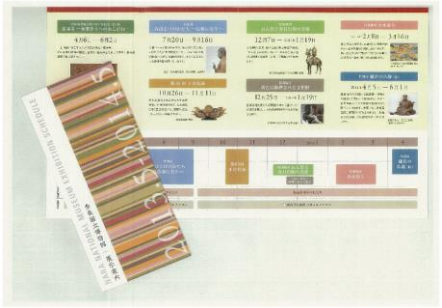
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
(奈良国立博物館)
1)特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。
2)地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
4)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
5)写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　吉澤　悟 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)25年5月～26年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、5回実施した。
(奈良国立博物館)
1)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。
2)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。
3)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
4)文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。
5)新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対して放送のための映像撮影協力を行い、博物館の認知度を高めた。

【補足事項】
3)・「はじまりは正倉院展実行委員会」に参加し、「まちなかバル」及びスタンプラリーに協力した。
・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施した。
・地元商店街の割引クーポン利用施設に参加した。



年間展示案内リーフレット（一部改訂版）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2434

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(九州国立博物館)
1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。
4)九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　臺信祐爾 課長　田端幸朋

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館　展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(20,000部)
(九州国立博物館)
1)例年通り主催者と連携しつつ、広報・宣伝材料を作成し、告知の拡大に努めた。
2)例年同様、2ヵ月間隔で展示替えスケジュールを公開し、文化交流展室の展示内容の告知の拡大に努めた。
3)トピック展示ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。
福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。
4)九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。
5)特別展が開催されない正月期間の来館促進を図るため、オリジナル手ぬぐいを作成し、正月用ポスター等を掲出して展示・イベントの告知に努めた。

【補足事項】
(九州国立博物館)
2)CMとして作成した動画を「YouTube」等動画紹介サイトでも公開し、webとリンクした告知に努めている。
3)太宰府市と連携し、スマートフォン向け情報サイト「太宰府市イベントガイド」を25年12月から開始した。


年間スケジュールリーフレット



太宰府市イベントガイド

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2441

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

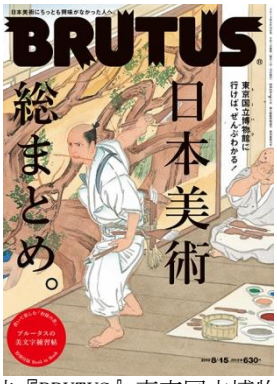
【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回)
2)ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。
3)主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(26回)
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回)
2)・「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数116回)
・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。
・25年7月より新たにSNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を開始し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。
3)新聞各紙の美術・文化担当記者ならびに文部科学省記者クラブのメンバーを対象とした記者懇談会を実施した。(25年11月20日)

【補足事項】
(4館共通)
1)雑誌『BRUTUS』の東京国立博物館特集に協力。若年層への情報発信と、イメージの向上、新たな来館者層の開拓に寄与した。

(東京国立博物館)
2)・「1089ブログ」では、研究員はもとより、館内の様々な部署の職員が、展示・催し、その他館の活動に関する情報発信に関わった。
・「Twitter」フォロワー5255、「Facebook」いいね！3288を獲得。



雑誌『BRUTUS』東京国立博物館特集号


東京国立博物館「Twitter」画面

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
『東京国立博物館ニュース』発行	6回	6回	A		6	6	6	7

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)　SNSによる情報発信を開始し、情報発信力を強化した。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2442

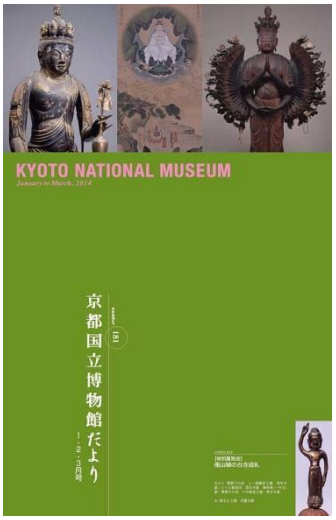
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(京都国立博物館)
1)『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
3)京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。
4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)・各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。
・各展覧会の招待日のプレス発表会とは別に、調査研究成果のプレス発表会を随時開催し、博物館の研究活動の広報に努めた。
2)ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。また、メールマガジン読者限定特典のブックレット「京博PLUS」の配信を行った。(メールマガジン12回、ブックレット12回)
(京都国立博物館)
1)『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年3回)の発行・配布を行った。
2)東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。
3)京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。
4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。

【補足事項】
・『京都国立博物館だより』は、年4回、それぞれ5千部から2万部発行(季節による来館者見込により増減)し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館他、郵送希望者にも発送している。
・『Newsletter』は、『京都国立博物館だより』の英語版として原則として年4回発行(今年度は3回)し。現在120号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物であり、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。
・「京博PLUS」は、メールマガジン読者を増やすため、読者限定特典として、わかりやすさや即時性をより重視した博物館全体を話題にするブックレットとして平成24年度末に刊行を開始、本年度も継続して刊行した。



京都国立博物館だより No.181

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
『京都国立博物館だより』発行	4回	4回	A		4	4	4	4
『Newsletter』発行	3回	4回	B		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　2443-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(奈良国立博物館)
1)～7)(略)

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　吉澤　悟 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
2)特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。
3)メールマガジンを毎月1回配信した。(11回)

【補足事項】
1)○名品展及び館全体の広報
・読売新聞に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った。(隔週)
○特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」広報
・読売新聞に展示品紹介を連載した。(5回)
○特別展「みほとけのかたち　－仏像に会う－」広報
・読売新聞に展示品紹介を連載した。(3回)
・ＮＨＫ奈良放送局「ならナビ」で館職員が広報を行った。
○「第65回正倉院展」広報
・読売新聞に展示品紹介を連載した。(5回)
・朝日放送で「文化財2013　正倉院宝物を写す　我が国最古の文化財写真　第65回正倉院展」、ＮＨＫ教育で「日曜美術館　第65回正倉院展」がそれぞれ放映された。
・読売テレビ「ウェークアップ！ぷらす」で、一般公開初日に館内からの生中継で館長自ら広報を行った。
・読売テレビ「情報ライブ　ミヤネ屋」、読売テレビ「かんさい情報ネットten！」で館職員がそれぞれ広報を行った。
・ＮＨＫ第一とＮＨＫ－ＦＭの「ラジオ深夜便　展覧会への招待」で館職員が広報を行った。


最高の表情 照らす光

奈良博手帖

学芸員の性分

学芸員をしていると、作品の思わぬ表情や秘密に出会う機会がある。例えば陳列作業の時は、作品の底や裏側など普段目にできない部分を見ることができるチャンスであり、写真撮影の時は、作品が最高に美しい姿を見せてくれる。

6月2日まで奈良博で開催中の特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」の図録に載せる写真を撮影するため、1週間ほど葛城市の当麻寺に通った。時間帯は夕方から。暗い中、照明に照らされた仏像は息をのむほど美しい表情を見せてくれ、工芸品もまた、光線の加減で見えなかった文様が浮かび上がった。

忘れがたいのは「當麻曼荼羅（白亨本）」を納める国宝の厨子の撮影だった。柔らかい光を浴びて浮かび上がる曼荼羅を見ていた時、古来多くの善男善女がこの曼荼羅に対して極楽往生を願った気持ちがわかったような気がした。その時私が受けたのは、感動というより幸福感だった。

学芸員は自分の感銘を他人に伝えたいという性分がある。早速、特別展期間中、当麻寺堂内を奈良博でも使用しているLEDを用いてライトアップする段取りをつけた。今、当麻寺を訪れれば、これまで学芸員だけが知っていた御仏の姿を見ていただくことができる。

（奈良国立博物館学芸部長補佐　内藤栄）

照明に浮かび上がる當麻曼荼羅と厨子（葛城市の当麻寺で）

読売新聞での連載『奈良博手帖』

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2443-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
(略)
(奈良国立博物館)
1)特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。
3)奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と連携し、集客増に繋がる広報活動を展開する。
4)東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。
5)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。
6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに継続して掲載する。
7)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　吉澤　悟 係長　石田義則

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回)
2)ウェブサイトの英語版に関して、すべての内容や用語の見直しを図った。適切な美術用語、新しい施設名称、外国人にも分かり易い表現などを積極的に採用し、アクセス数の集中する正倉院展の会期前までに修正を完了した。
3)奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、25年8月に3館（各2回）子ども向けワークショップ、25年9月に3館合同神戸シンポジウム、25年10月に3館合同外国人向けワークショップ、25年12月から26年2月にかけて3館リレー東京セミナー（計3回)、26年2月に3館（各1回）ワークショップを実施した。
4)・東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。
・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定（26年1月2日～5日）の無料観覧券（※名品展は観覧割引）を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。
・特別陳列「お水取り」について、期間限定（26年3月7日～9日）の無料観覧券（※名品展は観覧割引）を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。
5)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。
6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。
7)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。

【補足事項】


奈良トライアングルミュージアムズ
「神戸シンポジウム」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
『奈良国立博物館だより』発行	4回	4回	A		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2444

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(九州国立博物館)
1)ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の編集・発行・配布を行う。(年4回)

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
(4館共通)
1)マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回)　25年5月15日、フォーマットをリニューアルした。
(九州国立博物館)
1)ウェブサイトにて文化交流展示室の「今月の名品」のスケジュール等を掲載し、また研究員が展覧会等の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。(年4回)
○『きゅーはく攻略本』を作成・配布した。(25年8月)

【補足事項】
(4館共通)
1)・公共交通機関にて、ポスターの掲示、チラシの設置等を行った。
　・新聞紙上で展示作品の解説を行った。
　　新聞にて特別展「大ベトナム展」、特別展「中国　王朝の至宝」、特別展「尾張徳川家の至宝」、特別展「国宝 大神社展」の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。
2)・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。
　・ウェブサイト利用者からの意見に九博メールで対応した。
3)・25年5月15日にメールマガジンのフォーマットをリニューアルし、見どころ、おすすめ情報を中心に掲載した。
　・各特別展のアンケートに、メールマガジン登録申込欄を設け、会員の増加を図った。
(九州国立博物館)
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を25年4月1日、7月1日、10月1日、26年1月1日の4回発行した。

○家族を対象とした『きゅーはく攻略本』を作成・配布した。(A5版、20頁、25年8月10日刊行) ウェブサイトでもダウンロード可能。



季刊情報誌『アジアージュ』　Vol.30



『きゅーはく攻略本』

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
九博季刊情報誌『アジアージュ』発行	4回	4回	A		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2451

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号2441参照)

【補足事項】
1)・SNS、メールマガジン、ブログなど複数媒体を連動させた情報発信を行い、訴求力を高めた。
・トップページのフラッシュに新規画像を追加、「博物館に初もうで」や開催中の特別展に関連した画像も使用し、各企画の訴求力を高めた。
・中国語ページについて、展示案内をより詳細にし、中国美術館関連の特別展についてページを設けるなど、充実を図った。
・参加型コンテンツに関して、参加者数が伸び悩んだ「ユリノキひろば」を終了させ、参加者数が増加傾向にある投票に特化させた。
・所蔵作品をデザインしたポストカード等、ダウンロードアイテムの更新並びに新規デザインを追加した。
・動画「東京国立博物館140年の歩み」をアップした。
・「とーはくナビ」の更新版をアップした。
・26年4月に予定されている本館リニューアルオープン、正門プラザのオープンに伴い、基本情報の改訂、マップ画像の改訂等を行った。
○内部業務用システムの改変
・更新作業の効率化を図るため、CMS（コンテンツ管理システム）機能の改変を実施した。



ウェブサイト 1089ブログ



東京国立博物館140年のあゆみ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	2,898,885件	－	－		5,687,673	4,971,306	2,772,633	2,982,729

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2452

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	総務課 学芸部列品管理室	事業責任者	課長　植田義雄 室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)ウェブサイトにおいて特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツ掲載や更新を通じ、内容の充実に努めた。
・ウェブサイトにおいて博物館概要、刊行案内などの充実を通じ、情報発信の強化に努めた。
・メールマガジン及びメールマガジン読者特典ブックレットを配信し、親しみやすさの向上等に努めた。(詳しくは処理番号 2442 を参照)
・「Twitter」を通じて特別展会場の混雑状況を発信し、来館者サービスの向上を図った。
・平成知新館(新平常展示館)に向けた当館ウェブサイトのリニューアルの準備をし、26 年 3 月に製作を完了した。(26 年 6 月公開予定)
・セキュリティ維持のため、サーバOSのアップデート及びWAF（ウェブアプリケーションファイヤーウォール）の運用を開始した。

【補足事項】
1)
・パソコン向けサイト及びモバイルサイトにおいて、特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報の提供に努めた。
・月 1 回発行しているメールマガジンについては、同様に最新の博物館情報の提供に努めるとともに、より親しみやすく展覧会の見どころや作品などを紹介する読者特典ブックレットを併せて発行した。
・特別展の会期中は、一般に普及している SNS メディア「Twitter」を通じて特別展会場の混雑状況を 1 時間ごとに発信し、来館者サービスの向上を図った。「Twitter」を使用しない閲覧者への配慮や、副次的なトラブルを抑止するためのルールも、並行して逐次見直しを行った。また、試験的にイベント等の情報発信も行い、広報効果の向上を図った。
・収蔵品データベースで公開する画像は全て見やすく整えた上で公開し、また昨年度より検索できる件数をさらに増やし、利便性を高めた。
・当年度の開館期間が昨年度の 8 割程度であったため、アクセス件数も同程度に留まった。
○システム関係
・セキュリティを向上しウェブサイト閲覧者が安心してアクセスできるようにするため、サーバOSのセキュリティアップデートを随時行った。また、高度化するサイバー攻撃に対応するため、WAF（ウェブアプリケーションファイヤーウォール）の運用を開始した。



平成知新館開館に向け更新したトップページ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	1,562,480件	－	－		－	2,077,562	1,835,640	1,837,113

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2453

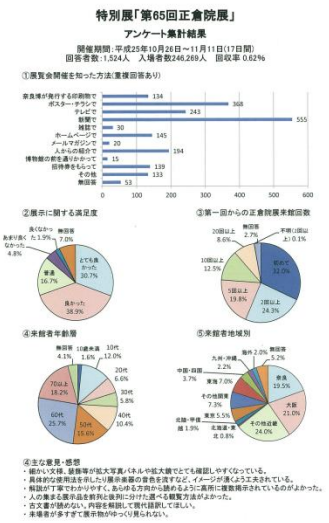
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績・成果】
(4館共通)
1)・「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。
・特別展および特別陳列を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。特に昨年以上に掲載作品を増やし、より展覧会の理解に資するよう努めた。
・『奈良国立博物館だより』の最新版をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップした。
・「第 65 回 正倉院展」の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置した。
・アンケート集計結果を公表する頁を設け、平成23年度の「第63回 正倉院展」以降の特別展でお客様より頂いたアンケートの集計結果を提示している。

【補足事項】



ウェブサイト内で閲覧可能な
各特別展のアンケート集計結果

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	893,553件	－	－		639,030	769,293	722,249	845,202

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2454

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
(4館共通)
1)研究員が展覧会の解説を行う動画や駐車場空き情報の提供など、ウェブサイトの内容の充実を図った。

【補足事項】
(4館共通)
1)
・特別展「大ベトナム展」、特別展「中国　王朝の至宝」、特別展「尾張徳川家の至宝」、特別展「国宝 大神社展」や文化交流展示室の「今月の名品」等を、ウェブサイトにて研究員が解説する動画を「YouTube」で配信した。また、制作したトピック展示のＣＭを 「YouTube」で配信した。

・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。

・ウェブサイトの博物館ブログにて、展覧会の内覧会、イベント情報、ミュージアムショップ情報、スーパーハイビジョンシアター(シアター4000を改称)の紹介等を行った。

・メールマガジンにて、コラム「文化交流展室の散歩道」を連載し、展示作品等の紹介を行った。



ＴＶＣＭの動画を配信した、
九博ウェブサイトの
トピック展示「山の神々」ページ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	1,209,272件	－	－		1,956,287	1,384,701	1,150,408	2,078,279

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3111

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)調査研究の成果の発信

【年度計画】(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)文化財修理報告書を刊行する。
(東京国立博物館)
1)東京国立博物館情報アーカイブを運用し、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
2)紀要・図版目録等を刊行する。
3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。
4)研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長　勝木言一郎

【実績・成果】(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)『東京国立博物館文化財修理報告』XIVを刊行した。
(東京国立博物館)
1)(東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照)。特別展図録・特集陳列印刷物(リーフレット)14件を発行した。そのうちPDFファイル版5件を東京国立博物館ウエブサイト上に公開することによって研究情報の普及を図った。
2)『東京国立博物館紀要』49号、『東京国立博物館図版目録　中世古文書篇』を刊行した。『東京国立博物館紀要』49号より「キーワード」を導入した。
3)『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXIV　聖徳太子絵伝(四幅本)２』を刊行した。
4) 研究誌『MUSEUM』643～648号を刊行した。今年度より「キーワード」を導入した。
○特別展図録・特集陳列図録を編集した。
○国際標準図書番号ISBN及び日本版商品識別コードJANを取得し、図書流通や図書館情報の利便性を図った。
○出版企画委員会8回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会11回を開催し、博物館の出版事業の拡充を図った。

【補足事項】(東京国立博物館)
2)・4)『東京国立博物館紀要』『MUSEUM』にキーワード欄を設け、「キーワード」(条件検索用の関連用語)を列挙することによって、研究データベースの構築に対する便宜を図り、研究者の情報収集の支援を行うなど、研究成果の発信機能の充実に努めた。
○以下の出版物を編集、発行した。
・『MUSEUM』発行(6回)
・定期刊行物(4件)
・『東京国立博物館紀要』49号、『東京国立博物館文化財修理報告』XIV、『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXIV聖徳太子絵伝(四幅本)２』、『東京国立博物館図版目録　古文書篇』
・特別展図録・特集陳列印刷物(リーフレット)(14件)
≪特別展図録≫『国宝　大神社展』、『和様の書』、『東洋館リニューアルオープン記念　上海博物館　中国絵画の至宝』、『上海博物館　中国絵画の至宝　―釈文・印章編―』、『京都―洛中洛外図と障壁画の美』、『クリーブランド美術館名品展―名画でたどる日本の美』、『日本伝統工芸展60回記念　人間国宝展　生みだされた美、伝えゆくわざ』、『開山・栄西禅師８００年遠忌　栄西と建仁寺』
≪特集陳列図録≫『描かれた風景―憧れの真景・実景への関心―』
≪特別展印刷物≫「支倉常長像と南蛮美術　400年前の日欧交流」
≪特集陳列印刷物≫「古文書に親しむ」、「縄文土器に飾られた人物と動物」、「断簡　掛軸になった絵巻」、「東京国立博物館コレクションの保存と修理」
・その他(2件)
東京国立博物館編『東洋美術をめぐる旅　東京国立博物館　東洋館』(平凡社コロナブックス)、東京国立博物館監修『井浦新の美術探検　東京国立博物館の巻』(東京美術)



特別展図録『上海博物館　中国絵画の至宝』



特別展印刷物「支倉常長像と南蛮美術　400年前の日欧交流」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
『MUSEUM』発行	6回	6回	A	経年変化	6	6	6	6
定期刊行物	4件	―	―		6	5	3	4
特別展図録・特集陳列印刷物等	14件	―	―		10	12	12	10
その他	2件	―	―		2	2	2	4

総合評価　S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3112

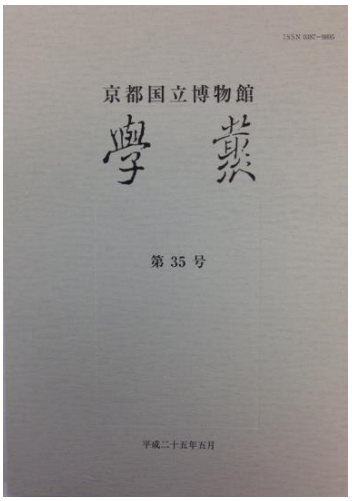
中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)文化財修理報告書を刊行する。
(京都国立博物館)
1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。
2)社寺調査報告書等を刊行する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)『文化財保存修理所修理報告書10・11号』を刊行した。
(京都国立博物館)
1)研究紀要『学叢』第35号を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開した。
2)社寺調査報告書については南山城地域調査成果の一層の検討を深めるため、次年度に刊行することとした。
○特別展等の図録を2巻刊行した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
1)『学叢』第35号で、論文2本、作品紹介2本を発表した。
○明治古都館(特別展示館)の明治時代の建築図面に関する整理作業を終えて『重要文化財旧帝国京都博物館建築資料調査報告書』を刊行した。
○特別展等図録(2冊)
・長年にわたる館蔵・寄託品の調査結果を盛り込み、「遊び」をテーマに作品を紹介する特別展覧「遊び」を開催し、図録を刊行した。
・清時代の陶磁器の名品やその日本陶磁への影響について、各収蔵先での調査結果を盛り込み、特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」を開催し、図録を刊行した。



『学叢』第35号

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
定期刊行物	3件	－	－		－	－	3	3
特別展図録・特集陳列印刷物等	2件	－	－		－	－	4	5

総合評価	S　A　Ⓑ　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3113

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
(奈良国立博物館)
1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行し、ウェブサイトで公開する。
2)入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻　忠

【実績・成果】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行される見込み（26年5月)。
(奈良国立博物館)
1)研究紀要『鹿園雑集』は、25年度内に編集作業を進めた（26年5月刊行見込み)。
2)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。
○展覧会等図録6冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。

【補足事項】
・展覧会等図録6冊を刊行した。
『當麻寺 －極楽浄土へのあこがれ－』(特別展図録)
『みほとけのかたち －仏像に会う－』(特別展図録)
『第65回正倉院展』(特別展図録)
『The65th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)
『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)
『なら仏像館　名品図録』(名品図録)
・特別展「當麻寺」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を5回実施した。
・特別展「みほとけのかたち」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を3回実施した。
・「第65回正倉院展」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を5回実施した。



展覧会図録

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経	21	22	23	24
定期刊行物	0件	－	－	年	1	1	－	1
特別展図録・特別陳列印刷物等	6冊	－	－	変	5	5	5	6
研究論文等発表実績	22件	－	－	化	22	33	29	31

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3114

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)調査研究の成果の発信

【年度計画】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
(九州国立博物館)
1)研究紀要『東風西声』を刊行する。
2)保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1) 文化財修理に関する印刷物（「市民と共に ミュージアム ＩＰＭ」報告書、「第5回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」報告書）を刊行した。
(九州国立博物館)
1) 研究紀要『東風西声』第9号を刊行した。
2) 保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)研究紀要『東風西声』では、論文7本（うち当館職員5本）を掲載した。(26年3月刊行)

2)文化財保存・ＩＰＭ普及のための講演会等を開催した。
・文化財保存交流セミナーを開催した。
・ＩＰＭ普及のための講演会を行った。

○特別展図録・特集陳列等図録11冊を刊行した。
(特別展図録5冊、トピック展示図録6冊)



トピック展示「山の神々」図録

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
定期刊行物	1件	－	－		1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物等	11冊	－	－		7	11	10	9

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　3211

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
（4館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
（19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4）
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
（31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4）
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
（東京国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。
2)アジア国立博物館協会(ANMA)理事会、ICOM等の国際会議へ参加する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長　鬼頭智美

【実績・成果】
(4館共通)
1)韓国、中国、アメリカ、イギリス、より21名の研究者を招聘し、学術交流に寄与した。
2)韓国、中国、アメリカ、イギリス、スペイン、ドイツ、イタリア等に延べ41名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会の準備・調査を行った。
3)上海博物館展関連事業として同館書画部副主任研究員李維琨氏を講師として講演会を開催した。
（東京国立博物館）
1)韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。
2)第4回アジア国立博物館協会（ＡＮＭＡ）理事会・定期大会に出席、アジア13カ国の国立博物館代表者らと交流、情報交換を行い、ネットワークを強化した。(25年10月8日～9日)

【補足事項】
(4館共通)
1)上記研究員派遣の人数については、当館予算で主体的に派遣した人数の延べ人数を示す。科学研究費及び外部の助成金等による派遣人数を含む人数は、派遣：71人であった。
※実績が目標値を大幅に上回っているのは、当初予算で実施可能な人数を目標値に設定しているため。
(東京国立博物館)
1)研究員の海外交流の成果を館内で共有するため、学術交流発表会を実施した。
・韓国国立中央博物館との学術交流発表会（25年8月20日）同館学芸研究室保存科学部学芸員　千　周鉉 氏　館内20名参加
・同（25年11月19日）同館学芸研究室美術部学芸員 申　紹然 氏　館内15名参加
・同(25年12月21日)25年度派遣の井出浩正研究員、金井裕子研究員　館内25名参加
2)・ＡＮＭＡ理事会・定期大会は、ベトナム・ハノイのベトナム国立歴史博物館で開催され、「博物館による社会的変化への貢献」をテーマに行われた定期大会では、「文化遺産保護と発展、活用における東京国立博物館の実践：文化財レスキュー活動と東洋館のリニューアルオープン」と題した発表を行った。また、同時開催された「アジア―文化の彩り」展では日本文化紹介展示が設けられ、日本文化理解に寄与した。
・ICOMブラジル大会に館長以下館員5名が参加、各種委員会に積極的に出席した。



2013ＡＮＭＡハノイ大会
（於：ベトナム国立歴史博物館）


韓国国立中央博物館との
学術交流発表会

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
海外からの研究者招聘	21人	6人程度	S		26	15	16	11人
海外への研究者派遣	41人	6人程度	S		16	54	48	34人
国際シンポジウム開催数	－	－	－		1	－	1	－
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		170	－	323	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3212

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(京都国立博物館)
1)諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。
2)外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。

担当部課	総務課 学芸部企画室	事業責任者	課長　植田義雄 室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)25年度実績はなし。
2)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。
3)25年度実績はなし。
(京都国立博物館)
1)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。そのうち国際シンポジウムへ4人を派遣した。
2)外国人客員研究員の招聘実績はなし。25年度は国際シンポジウムを実施しなかったため。また、ほかに招聘を要する事業もなかった。

【補足事項】
・研究員を作品調査、科研費調査及び国際会議出席などで派遣した。
※今年度招聘事例はないが、目標値は前年度実績をもとに設定している。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
海外からの研究者招聘	0人	3人程度	F	経年変化	29	7	21	3
海外への研究者派遣	19人	15人程度	A		13	27	25	15
国際シンポジウム開催数	0回	－	－		1	1	1	1
国際シンポジウム参加者数	0人	－	－		288	213	150	209

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3213

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(奈良国立博物館)
1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻忠

【実績・成果】
(4館共通)
1)中国・韓国の研究者計9名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を実施した。
2)職員延べ8名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。
3)26年2月27日に東アジア古代青銅器に関する国際研究集会を開催し、李眞旼氏（韓国国立慶州博物館）が「韓国の青銅器時代の文化と慶州―集落遺跡を中心に―」のタイトルで口頭報告した。
(奈良国立博物館)
1)中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。

【補足事項】(奈良国立博物館)
1)学術交流協定に基づき、以下の交流を行った。
・中国上海博物館との学術交流協定に基づき、同館から職員3名を10日間招聘、当館から職員3名を10日間派遣した。
・中国河南博物院との学術交流協定に基づき、同館から職員2名を1ヵ月間招聘、当館から職員2名を約1ヵ月間派遣した。
・韓国国立慶州博物館との学術交流協定に基づき、同館から研究員2名を各1ヵ月間招聘、当館から職員1名を1ヵ月間派遣した。
○その他以下の交流を行った。
・25年5月21日、上海博物館の職員5名の来訪を受け入れ、情報システム等について意見交換した。
・25年8月2日、キリバス共和国の文化財専門職員等2名を受け入れ、当館の展示内容等について講義した。
・25年8月8日、韓国国立公州博物館の館長及び研究者の来訪を受け、博物館の状況や展示方法などについて意見交換した。
・25年9月3日、国立台南芸術大学博物館研究所が募集した台湾の博物館関係者約20名を受け入れ、博物館の運営・経営方針について1時間30分にわたり講義した。
・25年11月25日、バングラデシュの博物館関係者3名を受け入れ、当館の概要・仏教美術の展示・免震展示ケース・照明等について講義した。
・25年11月29日、アフガニスタンのカーブル博物館館長ほかの来訪を受け、当館の概要を講義し、文化財保存修理所の見学を実施した。
・26年1月25日～28日、当館研究員2名を韓国に派遣し、遠願寺址・浄惠寺址他を調査した。
・26年2月27日の国際研究集会には、館外の研究者を含む30名が参加し、活発な議論が展開された。


バングラデシュ博物館関係者への講義

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
海外からの研究者招聘	9人	6人程度	S	経年変化	29	9	20	7
海外への研究者派遣	8人	6人程度	A		30	14	19	17
国際シンポジウム開催数	－	－	－		1	1	－	－
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		197	150	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3214

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(九州国立博物館)
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。

担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　篠﨑孝司 課長　阿部　勝 課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)タイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等の研究者を16人招聘した。
2)当機構職員をタイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等に研究交流及び文化庁主催海外展「日本文化展」等のため、87人派遣した。
3)国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催、207人参加)
(九州国立博物館)
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。(韓国国立公州博物館)
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、専門的な講演を行った。(トルコ・トプカプ宮殿美術館)

【補足事項】
(4館共通)
1)タイ王国文化省芸術局との学術文化交流協定に基づき、研究者等9名を招聘。共同研究の内容・手法等について具体的な協議を行うとともに、被災地を含む各地の博物館等の視察を行った。(25年6月4日～6月14日)
2)文化庁主催海外展「日本文化展」及び特別展に係る協議・調査等のため海外への研究者派遣数が増加した。
(九州国立博物館)
1)韓国国立公州博物館との学術文化交流協定に基づき、同博物館より研究者等3名を招聘し、当館をはじめとする各地の博物館・資料館で文化財調査を実施した。(25年7月29日～8月11日)
2)平成25年度博物館・美術館相互交流事業の一環として、トルコ・トプカプ宮殿美術館より主任学芸員1名を招聘し、各地の博物館等の視察及び当館で職員等を対象とした講演会を実施した。(25年10月7日～10月13日)



国際シンポジウム
「ベトナムに恋して」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
海外からの研究者招聘	16 人	4人程度	S		37	9	21	3
海外への研究者派遣	87 人	4人程度	S		46	77	56	60
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		1	1	1	2
国際シンポジウム参加者数	207人	－	－		300	117	263	450

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3311

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)
・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(25年8月19日～29日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から37名が参加した。

・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」(25年7月29日～8月3日、5日の7日間)を別会場において開催し、受講生は11名であった。

・大学院生のインターンシップを8名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(26年3月3日～14日)。

【補足事項】
・文化財保存修復学会第34回大会(25年7月20日、仙台)において「被災文化財等救援活動における人材養成－『陸前高田学校』(文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ) －」を発表した。
・文化財保存修復学会第34回大会(25年7月20日、仙台)において「被災文化財等救援活動における保存修理―東京国立博物館修理室での油彩画等保存修理活動―」を発表した。
・文化財保存修復学会第34回大会(25年7月20日、仙台)において「被災文化財等救援活動における資料保存処理トリアージの重要性」を発表した。


「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」の講義風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	2回	－	－		2	2	2	2
参加者数	48人	－	－		60	49	37	47
インターン受入れ	8人	－	－		2	3	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3312

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　淺湫　毅

【実績・成果】
(4館共通)
1)毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヵ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。
・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計3回・140人)
　参加者「狩野山楽・山雪」展　55人
　「遊び」展　45人
　「魅惑の清朝陶磁」展　40人
・文化財修復に関わる大学院生（4人)のインターンシップ実習（25年8月19日～9月2日・9月9日～20日）を実施し、25年11月8日に口頭による報告会を開催し（出席者50人)、報告書を作成した。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を25年9月6日に実施した。(18人)

【補足事項】
(4館共通)
1)
・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。
・文化財修復に関わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。
・保存修復技術を専攻する大学院生に、修理現場の見学・説明などの研修を実施することで、学生の意欲や目標意識の向上を図ることができた。


保存修復技術を専攻する
大学院生のための研修会

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	3回	－	－		4	4	4	4
参加者数	140人	－	－		155	166	160	169
インターン受入れ	4人	－	－		3	2	4	3
大学院生のための研修会参加者数	18人	－	－		－	16	13	29

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3313

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4館共通)
1)
○保存修理事業者を対象とした研修会(計6回・71人)
・文化財保存修理所技術者研修会を、1回実施した(26年1月14日)。(1回・41人)
・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(計5回・30人)
　・25年10月2日：中国・敦煌研究院及び東京文化財研究所研究員による視察・研修（3人）
　・25年11月11日：ドイツ・エジプト博物館のパピルス修復技術者による視察・研修(3人)
　・25年11月20日：韓国伝統文化大学校 伝統文化教育担当者による視察・研修(5人)
　・25年11月29日：アフガニスタン国立博物館及びウィーン美術史美術館の学芸員・修理技術者による視察・研修（9人）
　・26年3月7日：民族学資料の収集・保存・情報化に関する実践的研究：ロシア民族学博物館との国際共同研究 参加者による視察・研修（10人）
○一般向け講演会等
　保存修理事業者と協力した研修会を文化財保存修理所彫刻室使用者所属工房の修理担当者による文化財保存修理所事業成果報告「雄勝法印神楽　神楽復興に生きた文化財修理のわざ」を、1回実施した(25年11月24日)。

【補足事項】
○保存修理事業者を対象とした研修会
・文化財保存修理所技術者研修会
　26年1月14日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、彫刻室工房代表者による仏像修理に関する報告（「報恩寺 阿弥陀如来坐像の修理について」）を踏まえた討議を実施した。参加者は41人。
○一般向け講演会等
・文化財保存修理所事業成果報告
　25年11月24日に当館講堂にて、「雄勝法印神楽　神楽復興に生きた文化財修理のわざ」を開催。東日本大震災の津波で失われた神楽面が当館文化財修理所で復元された成果について復元担当技術者及び当館研究員・地元文化財担当者が口頭発表し、併せて復元された神楽面を用いた地元保存会による神楽の実演を行った。成果報告発表者3名、保存会神楽衆11名。聴講71人(一般聴講を含む)。


文化財保存修理所事業成果報告
「雄勝法印神楽 神楽復興に生きた文化財修理のわざ」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	6回	－	－		1	6	7	9
参加者数	71人	－	－		－	－	97	93

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3314

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)・保存修理事業者を対象とした研修会として「古文書保存基礎講座」等を開催した。(計6回・139人)
・インターン8名を受け入れた。
・保存修理事業者と協力した研修会として、短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を行った。
・文化財保存、ＩＰＭ普及のための講座・研修を開催した。(計3回・215人)

【補足事項】

○保存修理技術者を対象とした研修会(計6回・139人)
・紙文化財の保存講座・研修(協力：国宝修理装潢師連盟)
短期インターンシップ「文化財保存修復研修」
(4大学 大学生8名)　25年8月19日～23日
・古文書保存基礎講座(文化財関係者24名) 26年2月7日～8日 (2回)
・ＩＰＭ普及のための研修会
(連携協力：ＮＰＯ法人ミュージアムＩＰＭサポートセンター)
「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」ミュージアムＩＰＭ支援者育成事業
(地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)
研修会3回　参加者107名
○一般向け講演会等 (計3回・215人)
・文化財保存交流セミナー　講演会1回　参加者25名
平成25年度九州国立博物館文化財保存交流セミナー
文化財保存と絵画資料「中国美術における梅について」(26年2月27日)
・ＩＰＭ普及のための報告会(連携協力：ＮＰＯ法人ミュージアムＩＰＭサポートセンター)
平成25年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」(26年2月28日)
ミュージアムＩＰＭ支援者研修会修了者報告会1回　参加者74名
・ＩＰＭ普及のための講演会(連携協力：ＮＰＯ法人ミュージアムＩＰＭサポートセンター)
「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」(25年10月12日)
平成25年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
公開シンポジウム1回　参加者116名


古文書保存基礎講座

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	6回	－	－		20	22	10	7
参加者数	139人	－	－		－	－	263	280

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3411

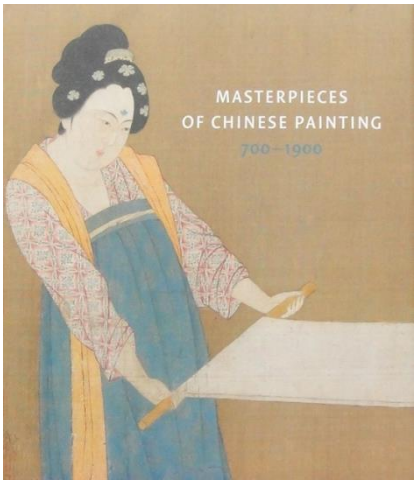
中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　富田　淳

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等117機関に1,086件の作品を貸与した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)下関市立考古博物館、大阪府立弥生文化博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の美術館・博物館等6機関に51件の作品を貸与した。

【補足事項】
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)考古資料相互貸借事業経費により、下関市立考古博物館に10件を貸与、77件を借用、大阪府立弥生文化博物館に19件を貸与、76件を借用した。借用品により当館では特集陳列「本州最西端の弥生文化　－響灘と山口・綾羅木郷遺跡－」、特集陳列「弥生時代の近畿－華麗なる土器と青銅器の展開－」を開催した。
(東京国立博物館)
1)英国のヴィクトリア・アンド・アルバート博物館で開催された特別展「中国絵画の名品 700-1900」には、当館から4件の文化財を貸与し、作品展示・展示替え・撤収・輸送随伴に延べ3名の人員を派遣し、国内輸送については他機関の作品輸送にも随伴するなど多大な協力を行った。



ヴィクトリア・アンド・
アルバート博物館
「中国絵画の名品 700 - 1900」 図録

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
貸与件数	1,137件	－	－	経年	1,104	1,315	905	1,295
うち国内の貸与件数	1,086件	－	－	変化	913	1,155	865	1,252
うち海外の貸与件数	51件	－	－		191	160	40	43

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3412

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)82機関に対し626件の収蔵品・寄託品貸与を行った。(うち海外1機関に対し3件)
　収蔵品の貸与件数：353件
　寄託品の貸与件数：273件
　計　：626件
○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。

【補足事項】
・平常展示館建設中に公私立博物館・美術館からの貸与依頼に応えて、積極的に収蔵品の貸与を行っている。
・今年度は、香川県立ミュージアムにて「いとうるわし。日本の美―京都国立博物館名品展」に特別協力を行い、国宝7件、重要文化財14件、重要美術品２件を含む、収蔵品57件を貸与した。
・また、当館で企画した「魅惑の清朝陶磁」展を長崎歴史文化博物館に巡回し、重要文化財１件を含む62件の収蔵品を貸与した。
・台東区立書道博物館の「清時代の書－碑学派－」展に6件、サントリー美術館の特別展「天上の舞　飛天の美」展に7件、徳川美術館の「歌仙－王朝歌人への憧れ－」展に8件、MIHO MUSEUMの「朱漆「根来」―中世に咲いた華」展に18件などの収蔵品を貸与した。
・海外では、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館の「中国絵画名品展700－1900」展に3件を貸与した。



特別協力
「いとうるわし。日本の美
―京都国立博物館名品展」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経	21	22	23	24
貸与件数	626件	－	－	年	428	297	429	304
うち国内の貸与件数	623件	－	－	変	400	281	426	301
うち海外の貸与件数	3件	－	－	化	28	16	3	3

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3413

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)収蔵品と寄託品を、国内外合わせて35の機関に、計135件貸し出した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)岩手県立博物館、平泉町（平泉文化遺産センター）の計2館との間で相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
　貸与申請のあったもののうち、作品の保存状態に問題がないものについては、展示期間や会場の温湿度の設定、また警備体制などを調査したうえで、慎重に、しかし可能な限りその全てに応えるように対処した。結果、100件を超える貸与件数となり、公私立等の博物館の展示の充実に寄与しえたと考える。
1)○貸出先35件の内訳
・国立5件　公立19件　私立11件　海外0件
○貸与作品135件の内訳
・国宝9件(収蔵品2件・寄託品7件)、重要文化財39件(収蔵品10件・寄託品29件)、その他87件(収蔵品46件・寄託品41件)
・収蔵品　58件(絵画18件・彫刻4件・書跡3件・工芸26件・考古5件・その他2件)
・寄託品　77件(絵画48件・彫刻10件・書跡5件・工芸10件・考古4件)
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)相互貸借事業における貸与品件数、借用品件は以下のとおりである。
・岩手県立博物館（貸与品：1件、借用品：20件）
・平泉町(平泉文化遺産センター)（貸与品：1件、借用品：15件）



貸与品：国宝 牛皮華鬘 登号 一面（収蔵品）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
貸与件数	135件	－	－		108	159	118	102
うち国内の貸与件数	135件	－	－		107	145	113	100
うち海外の貸与件数	0件	－	－		1	14	5	2

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3414

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)収蔵品の貸与

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1) 国内 31機関・海外 1機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。
（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。文化庁・当館・ベトナム国立歴史博物館の共催になる平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展は、海外機関への貸与として計上した。）

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)○国内の貸与先機関は、下記のとおりである。
・国及び国立博物館
文化庁、東京国立博物館、京都国立博物館
・地方公共団体及び公立博物館・美術館等
（福岡県内）
九州歴史資料館、甘木市歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、北九州市立小倉城庭園、太宰府市文化ふれあい館、北九州市立自然史・歴史博物館、求菩提資料館、福岡市博物館、大宰府展示館
（福岡県外）
岩手県立美術館、岡山県立博物館、島根県立石見美術館、佐賀県立名護屋城博物館、吉野ヶ里歴史公園、長崎歴史文化博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、仙台市博物館、大阪市立美術館、下関市立考古博物館、八代市立博物館未来の森ミュージアム
・私立博物館・美術館及び私立団体
MIHO MUSEUM、大和文華館


花鳥蒔絵螺鈿聖龕
（仙台市博物館「伊達政宗の夢－慶長遣欧使節と南蛮文化－」展出品）

○海外の貸与先機関は、下記のとおりである。
ベトナム国立歴史博物館

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
貸与件数	143 件	－	－		89	165	119	113
うち国内の貸与件数	117 件	－	－		88	131	118	105
うち海外の貸与件数	26件	－	－		1	34	1	8

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3511

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部 総務部	事業責任者	部長　伊藤　嘉章 部長　栗原　祐司

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、114件の援助・助言を行った。
・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(16件)
・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(40件)
・講演会やセミナー等における講演等での協力(7件)
・作品の展示・保存環境についての調査・指導(30件)
・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(5 件)
　東日本大震災において被災した博物館など3施設に対して、文化財保全のための救援活動を実施した。
・博物館等の管理運営にかかわる助言(16件)
(東京国立博物館)
1)新規貸与館5館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。

(4 館共通)
1)
○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力
・文化庁美術工芸品買取鑑査会議出席
・東京都文化財保護審議会出席
・高知県新資料館建設会議出席　　他
○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言
・古代オリエント博物館　特別展「ユーフラテス」開催に関する助言
・静嘉堂文庫美術館　「松浦武四郎コレクション」の展示についての助言
・ルーブル美術館　来館者数の推移と傾向についての助言　他
○講演会やセミナー等における講演等での協力
・東京大学附属図書館　特別授業「未来の本の未来」講師
・NPO法人文化財保存支援機構　文化財保存修復専門家養成実践セミナー講師　　他


福島県双葉町歴史民俗資料館における
文化財レスキュー活動

○作品の展示・保存環境についての調査・指導
・福井県立歴史博物館、岐阜県立美術館、佐倉市教育委員会、中国成都博物院、他
○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)
・レスキュー活動の対象となった施設は、双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、陸前高田市博物館の 3 館。
(東京国立博物館)
1)環境調査を実施した新規貸与館は、福井県立歴史博物館、練馬区立美術館、北九州市立小倉城庭園など5館。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	114件	－	－		139	84	126	85

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3512

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。

担当部課	学芸部 総務課	事業責任者	部長　村上　隆 課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、43件の援助・助言を行った。
・文化財の展示、修理にかかる指導助言　(9件)
・文化財の調査に関する指導助言　(11件)
・講演会、セミナー等における講演等での協力　(8件)
・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力　(15件)

【補足事項】
○文化財の展示、修理にかかる指導助言
・香川県立ミュージアム
　名品展展示・撤収作業の指導　他
○文化財の調査にかかる指導助言
・野崎家塩業歴史館
　所蔵品調査の指導
・大津市教育委員会
　大津祭曳山祭総合調査の指導　他
○講演会、セミナー等における講演等での協力
・国際仏教学大学院大学
　公開研究会に参加　他
○地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力
・大田市
　石見銀山遺跡調査活用委員会に出席し助言
・佐渡市
　佐渡金銀山調査指導委員会に出席し助言
・滋賀県
　滋賀県文化財保護審議会に出席し助言　他

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	43件	－	－		114	123	91	65

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　3513

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(奈良国立博物館)
1)石川県立美術館開館30周年記念「国宝　薬師寺展」(主催：国宝薬師寺展金沢開催委員会、北國新聞社、石川県立美術館、会場：石川県立美術館、会期：4月26日～6月23日）に学術協力する。
2)「法隆寺展（仮称)」(主催：法隆寺・読売新聞社＝予定、会場：福岡市美術館・静岡市立美術館・岡崎市美術館＝予定）に向けた調査研究を行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻　忠

【実績・成果】
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計71件を実施した。
・文化財の展示にかかる援助と助言（18件）
・文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言（11件）
・講演会やセミナー等における講演等での協力（9件）
・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力（27件）
・博物館等の運営にかかわる援助と助言（6件）
（奈良国立博物館）
1)石川県立美術館で開催の特別展「国宝 薬師寺展」(主催：同展実行委員会、会期：25年4月26日～6月23日）への学術協力として、同展への助言と輸送から陳列までの助力と助言を実施した。
2)平成26年度に開催の「法隆寺展―聖徳太子と平和への祈り」では、企画立案の段階から積極的に助言し、調査等にも同行した。

【補足事項】
(4館共通)
1)○文化財の展示にかかる援助と助言
・最上義光歴史館（山形市）開催の特別展「重要文化財　光明寺本『遊行上人絵』」（25年9月14日～11月10日）の展示内容への助言、陳列作業の指導
・サントリー美術館（東京都港区）開催「天上の舞　飛天の美」展（25年11月23日～26年1月13日）の展示企画への助言、陳列作業の指導　　他
○文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言
・橿原考古学研究所附属博物館（奈良県橿原市）において、当館より貸与した文化財について助言
・土佐山内家宝物資料館（高知市）における山内家文書料紙の調査に助言　　他
○講演会やセミナー等における講演等での協力
・「正倉院フォーラム2013大阪」での講演
・法隆寺夏季大学での講演　　他
○文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力
・文化庁　文化審議会専門委員（文化財分科会）
・奈良県教育委員会　奈良県文化財保護審議会委員　　他
○博物館等の運営にかかわる援助と助言
・公益財団法人松柏美術館
・公益財団法人大和文華館　他
(奈良国立博物館)
1)「国宝　薬師寺展」では、出陳品の集荷と陳列に当館研究員を各4名派遣し、撤収と返却にも各4名を派遣した。
2)「法隆寺展―聖徳太子と平和への祈り」では、出陳交渉に研究員1名、文化財撮影作業にカメラマンと研究員の計3名、文化財調査に研究員3名、展示品集荷に研究員3名を派遣したほか、折に触れて企画内容に助言するなど、学術協力として相応しい活動を実施した。



「国宝　薬師寺展」での作業風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	71件	―	―		25	35	98	67

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3514

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(九州国立博物館)
1)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのＩＰＭ(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　谷　豊信

(4館共通)
1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(64件)
・文化財の調査に係る助言(17件)
・文化財の保存修理にかかる援助、助言(18件)
・作品の展示及び運営等についての指導、助言　(26件)
・講演会、セミナー等における講演(2件)
・福島文化財レスキュー事業(福島県内被災文化財等救援事業)（1件)
(九州国立博物館)
1)「古文書保存基礎講座」を実施した。
2)文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアムＩＰM支援者研修」基礎編・技術編・実践編を実施した。

【補足事項】
(4館共通)
1)○文化財の調査に係る助言
・鳥取県立博物館所蔵の絵画の調査への助言　等
○文化財の保存修理にかかる援助、助言
・臼杵市所蔵文化財の保存についての指導・助言　等
○作品の展示及び運営等についての指導、助言
・体験型展示室のあり方について助言
・第60回日本伝統工芸展運営委員会　等
○福島文化財レスキュー事業(福島県内被災文化財等救援事業)
・東日本大震災で被災した博物館等施設にて実施された文化財レスキュー事業に、学芸部職員延べ1人を派遣した。
作業従事の延べ日数は3日
(九州国立博物館)
1)「古文書保存基礎講座」(第8回)
（文化財関係者 24 名）26 年 2 月 7 日～8 日（2 回）
2)「ミュージアムＩＰM支援者研修」
主催:「市民と共に　ミュージアムＩＰM」実行委員会
ミュージアムＩＰM支援者研修（基礎編)・(技術編)・(実践編）各1実施
参加総数107名


「古文書保存基礎講座」
(寒糊炊き風景)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	64件	－	－		39	77	97	109

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4111
（様式1）

業務実績書

研№1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究((1)－①－ア)

【事業概要】
他機関との連携を図り、文化財の研究情報について、効果的に発信していくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究する。また、東京文化財研究所の全所的アーカイブズの構築を推進する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　綿田稔

【スタッフ】
田中淳(部長)、山梨絵美子(副部長)、二神葉子(情報システム研究室長)、小林公治(広領域研究室長)、津田徹英(文化形成研究室長)、塩谷純(近・現代視覚芸術研究室長)、小林達朗(主任研究員)、皿井舞(主任研究員)、城野誠治(専門職員)、井上さやか(アソシエイトフェロー)、橘川英規(アソシエイトフェロー)、中村明子(アソシエイトフェロー)、福永八朗（アソシエイトフェロー)、津村宏臣(客員研究員、同志社大学准教授)、中村佳史(客員研究員、国立情報学研究所特任助教)、吉崎真弓（客員研究員、国立情報学研究所特任技術専門員)、丸川雄三(客員研究員、国立民族学博物館准教授)、飯島満(無形文化遺産部音声・映像記録研究室長)、佐野千絵(保存修復科学センター保存科学研究室長)、早川泰弘(分析科学研究室長)、山内和也(文化遺産国際協力センター地域環境研究室長)、加藤雅人(主任研究員)、高砂健介(研究支援推進部管理室長)

【主な成果】
昨年度一般公開を開始した「東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版)」に11号～50号までをアップし、明治期の残り分についてのデータ処理を進めた。引き続き図版を主とする貴重書の公開方法について検討を重ねた。また、東京文化財アーカイブズの基幹のひとつとして「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」を作成した。アーカイブズを主題とする各種研究会を開催し、アーカイブズのあり方について検討した。なお、国立情報学研究所と東京文化財研究所アーカイブズ構築にかかわる共同研究契約を締結した。

【年度実績概要】
文化財アーカイブズのよりよい発信方法を開発研究するため、国立情報学研究所と共同研究契約書を交わした。この中で、東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズとして以下について協議を重ねて実施した。

・東京研究所所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版)：前年度一般公開を開始した創刊号～10 号までのものについて点検評価を行い、修正と改良を加えた上で 11 号～50 号を追加公開した。(http://mizue.bookarchive.jp/index.html)。また 51 号以降についても次年度に明治期すべてを公開すべく、80 号まではデータの整形と登録の準備をほぼ終えた。なお、公開した資料は、誌面の画像データとテキストデータを重ねているため、従来のデジタルアーカイブより、研究資料として多面的なアクセスが格段に可能となった。
・その他：前年度に引き続き、写真図版を中心とする画集や図録類のデジタルアーカイブの構築に向け、『日本美術画報』を素材として、いかなる検索方法あるいは見せ方が効果的かつこれからの時代にふさわしいのかについて、協議を重ねた。

東京文化財研究所刊行物アーカイブの構築については、基幹のひとつとして各種目録情報を集約して格納するシステムの試作版として「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」を作成した。東京文化財研究所関係刊行物の目次情報は、美術関係文献検索のデータベースと一体化して試験的に公開を始めた。また、誌面のデジタル化とデータ処理についても作業を続行中である。

以上に関連して下記の研究会3件を開催した。

（1）「アート・アーカイヴの諸相」(企画情報部研究会、26年2月25日、東京文化財研究所セミナー室)
加治屋健司（広島市立大学)「美術アーカイブのなかの美術史」
上崎千（慶応義塾大学アート・センター)「アーカイブと前衛―表現の非永続性ephemeralityと資料体」
橘川英規（東京文化財研究所)「中村宏氏作成ノートに残された記録と資料―観光芸術研究所、東京芸術柱展を中心に」
加治屋・上崎・橘川「ディスカッション」

（2）「文化財アーカイブズ構想について」(東京文化財研究所総合研究会、26年3月4日、東京文化財研究所セミナー室)

（3）「『みづゑ』のウェブ公開と美術アーカイブへの展望」(企画情報部研究会、26年3月25日、東京文化財研究所企画情報部研究会室)

【実績値】
研究情報のウェブサイト上での公開1件（①）

【備考】
①東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版、創刊号～50号)

【書式Ｂ】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4111

自己点検評価調書

研№1

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：情報化社会において専門的研究機関から発信される情報の意義が見直されている中にあって、本研究は緊急性が高い。
独創性：通常の図書館や資料館にはない、よりきめ細やかな情報提供ないし総合的な情報発信を目指して当研究所ならではのオリジナリティのある発信方法を模索し、国立情報学研究所と連携しながら一部それを実現している。
発展性：文字情報や画像情報等、多様な資料の在り方に着目しており、常に応用性を重視して研究を進めている。
効率性：費用対効果を吟味しながら進めている。
継続性：過去と現在と未来をつなぐアーカイブを構想しており、一時的なものに終わらないよう十分に留意している。
正確性：単なるＰＤＦ配信に終わらない付加価値のある情報発信を実現している。

２．定量的評価

観点	研究情報のウェブサイト上での公開件数					
判定	A					

判定理由
研究情報のウェブサイト上での公開：東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』（試行版、創刊号～50号）1件を公開している。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国立情報学研究所との連携を図り、多種多様な文化財の研究情報について、効果的かつ有機的に蓄積して発信してゆくための手法を総合的に研究・開発し、計画３年目としては所期の成果を得られた。また、東京文化財研究所の全所的アーカイブズの構築に着手することができた。研究会を開催するこで、より研究的な色彩を強めることができたことも特記しておきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度計画に沿って順調に成果をあげた。次年度はこれをふまえて『みづゑ』の公開件数を増やし、それと並行して図版中心の貴重書の公開方法についても検討を重ねて行きたい。また、本年度作成したシステムを拡張し、所内各所に分散・断片化している所蔵資料の目録情報をそこに集約することに取り組みたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4112

（様式 1）

業務実績書

研№2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の資料学的研究（（１）－①－イ）

【事業概要】

日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化形成研究室長　津田徹英

【スタッフ】

田中淳（企画情報部長）、山梨絵美子（副部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）、中野照男（客員研究員、大東文化大学非常勤講師）、三上豊（客員研究員、和光大学教授）、近松鴻二（客員研究員、国士舘大学非常勤講師）、吉田千鶴子（客員研究員、東京藝術大学非常勤講師）、

【主な成果】

（１）調査

東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業

（２）美術史研究のためのコンテンツ形成

14 世紀在銘彫刻作品のデータ入力と年表（棒目録）作成、中世絵巻詞書文字総覧のためのデータ入力

（３）研究交流促進のための研究会の開催

植野健造氏（福岡大学教授）の招聘・研究会発表（25 年 9 月 24 日）

鄭于澤氏（韓国東国大学校教授・同大学校博物館館長）の招聘・研究講演（25 年 10 月 4 日）

染谷香理氏（東京藝術大学大学院）の研究会発表（25 年 11 月 26 日）

佐藤全敏氏（信州大学准教授）の研究会発表（25 年 12 月 6 日）

【年度実績概要】

（１）調査

東京文化財研究所が所蔵する 7,400 件の黒田清輝に宛てた書簡を目録と突き合わせ、内容検索に資することを念頭に入れて各書簡に何が書いてあるかの事項を充実させた。あわせて、特定の差出人（黒田清綱、小川一真）からの書簡を網羅的に集め、書簡の正確な翻刻を順次行うとともに、翻刻分には解題を付すように努めた。

（２）美術史研究のためのコンテンツの形成

14 世紀在銘彫刻作品のデータ入力と年表（棒目録）づくり

中世絵巻詞書文字総覧のためのデータ入力

東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注を進めた。

（３）研究交流促進のための研究会の開催

25 年 9 月 24 日　植野健三氏（福岡大学教授）の招聘・企画情報部研究会「新出資料紹介『第八回白馬会展覧会出品目録』」

25 年 10 月 4 日　鄭于澤氏（韓国東国大学校教授・同大学校博物館館長の招聘・研究講演「高麗仏画の表現―凝縮された美―」

25 年 11 月 26 日　染谷香理氏（東京藝術大学大学院）の招聘・企画情報部研究会発表「版本・桓齊著『画傳幼学繪具彩色獨稽古』及び、写本『彩色童喩』について」

25 年 12 月 6 日　佐藤全敏氏（信州大学准教授）の招聘・企画情報部研究会発表「観心寺如意輪観音像 再考」

【実績値】

論文数　3 件（①～③）

発表件数 2 件（④、⑤）

【備考】

論文

①綿田稔「研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻― 解題」『美術研究』410 号、2013.9

②綿田稔「研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻― 詞書公刊・影印（上・中・下）」『美術研究』410～412 号、2013.9～2014.3

③田中淳「研究資料　黒田清輝宛小川一真書簡の翻刻と黒田清輝の写真観」『美術研究』412 号、2014.3

発表

④田中淳「華族たちの写真同人誌『華影』と黒田清輝宛小川一真書簡」企画情報部研究会 2013.4.30

⑤津田徹英「平安後期の飛天光背の展開をめぐって―滋賀・浄厳院像、同・西教寺像の実査を踏まえて―」美術史学会東部例会 2013.11.16.

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4112

自己点検評価調書

研No.2

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性	独創性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：
国内外から研究者を招聘し、研究交流促進のための研究会を開催するなど、国際性、公共性、公開性に鑑みて十分に成果が認められた。
発展性・正確性・継続性・独創性：
全貌について知られていなかったフランス・国立ギメ東洋美術館蔵『大政威徳天縁起絵巻』について、全六巻を『美術研究』に影印（モノクロ図版）と解題ならびに詞書の全文翻刻を付して公刊した。また、従来内容が一般には十分知られていなかった、黒田清輝宛小川一真書簡について、影印（モノクロ）を付して翻刻し、あわせて、書簡のそれぞれに解題を付した。いずれの資料も影印を付すことで翻刻の正確性を期すことができ、あわせて、これまで十分に周知されていない資料の内容の詳細を提示できたことで、独創性とともに、今後の斯界の研究の発展性と継続性を期すことができ、十分に成果が認められた。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文数・発表件数：
論文数、発表件数ともに、目標を達成したため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	黒田清輝宛書簡を、影印と翻刻を対比的に配して、一点ずつに解題を付して行う資料紹介の手法は、正確性と継続性を見据え、今後、黒田清輝宛書簡のみならず文化財研究を行ううえでの近代文書の紹介のあり方として定型をなし得るものである。この形態を踏襲しつつ、次年度以降も資料翻刻・解題の充実に努めたい。あわせて、文化財研究の「今」を見据え、研究の発展性を念頭に置きつつ、研究交流促進のための研究会を、次年度も積極的に開催したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を100%達成したので順調と判定した。中期計画の趣旨に沿って次年度も調査、美術史研究のためのコンテンツの形成、研究交流促進のための研究会等の開催を行ってゆきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4113

業務実績書

研No.3

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近現代美術に関する交流史的研究（(1)－①－ウ）

【事業概要】
日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純

【スタッフ】
田中　淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、城野誠治（専門職員）、中村明子（アソシエイトフェロー）、三上　豊（客員研究員、和光大学教授）、丸川雄三（客員研究員、国立民族学博物館准教授）

【主な成果】
東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を完了、併せて黒田作品の調査も行った。東アジア美術交流の調査研究では、米国の研究者による日中の彫刻概念の成り立ちについての講演を開催。我が国の現代美術の動向に関する調査研究としては、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料及び美術評論家の故鷹見明彦氏旧蔵資料の整理・調査を進めた。

【年度実績概要】
（１）黒田清輝作品及び関連資料の調査
・本年度に東京国立博物館へ寄贈された黒田清輝《グレーの原》、及び同《大磯鴫立庵》（個人蔵）の調査を行った。また当研究所が保管する黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を完了した。
（２）現代美術資料の整理作業及びデータベース化作業
・笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。また美術評論家の故鷹見明彦氏旧蔵資料の整理を行った。
（３）当所所蔵近現代美術資料データの公開促進についての調査
・『日本美術年鑑』所載の物故者経歴データベース公開に向け、その分類についての再検討を行った。
（４）矢代幸雄・ベレンソン往復書簡の翻刻・翻訳及び関連調査
・矢代幸雄のベレンソン宛書簡の翻字を終えた。ベレンソンから矢代宛書簡については、ベレンソンの研究所を引き継いだイタリアのイタッティ・ルネサンス・ライブラリーと共同で翻刻を進める協議を行った。
（５）東アジアを中心とする近代美術の交流に関する調査
・25 年 6 月 5 日、来訪研究員のスタンレー・アベ氏（米国、デューク大学教授）による講演会「「中国彫刻」を想像する」を開催した。山梨・塩谷は 25 年 6 月にソウルで崔公鎬氏（韓国伝統文化大学校）・藤村真以氏（光云大学校）と研究協議を行い、田中は 25 年 6 月に東國大学校（ソウル）、25 年 12 月に国立台湾大学（台北）での国際シンポジウムに参加し、発表を行った。


スタンレー・アベ氏講演の様子

【実績値】
論文数　　2 件（①～②）
発表件数　4 件（③～⑥）

【備考】
論文
①塩谷純「歴史を学ぶ・楽しむ―幕末明治期の視覚表現から」『日本美術全集　第 16 巻　幕末から明治時代前期　激動期の美術』　2013.10
②田中淳「序論：萬鉄五郎　七変化－「口髭のある自画像」を中心に」　『萬鉄五郎　七変化』展図録　萬鉄五郎記念美術館　2013.11
発表
③田中淳「モダニズムのなかの文人画－画家中川一政の「文人」像」　第 48 回国際学術シンポジウム「美術文化から見る韓日」　東國大学校日本学研究所　2013.6.21
④山梨絵美子「時代を拓いた人-黒田清輝に迫る」長野県信濃美術館　2013.7.13
⑤山梨絵美子「徳川慶喜の油絵を読む―幕府開成所と近代洋画」　静岡市美術館　2013.11.16
⑥田中淳「移動する画家たち―1920 年代の日本の岩手県の画家たち」　国際学術研討会「異鄉與家鄉　東亜美術史的伏流與激盪　1920-40」　国立台湾大学芸術史研究所　2013.12.6－7

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4113

自己点検評価調書

研No.3

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性・独創性・発展性：
近年の東アジアにおける文化交流の深まりの中で、これまで不問に付されがちだった同地域の近代を研究対象とする意義は大きいため十分に成果が認められた。
継続性・正確性：
作品に比して等閑視されがちな諸資料についても、作家の営為を物語るものとして不断の収集整理及び調査研究を行ったため十分に成果が認められた。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文数・発表件数
論文数、発表件数ともに、目標を達成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は東アジアを対象とする研究において、当該地域の研究者のみならず米国の研究者も交えて研究を進めることができた意義は大きい。韓国での研究協議も、次年度の日本での研究会へと展開させる予定である。黒田清輝宛書簡のデジタル画像化完了についても、資料の読み起こしやデジタル公開といった、次のステップへの足がかりとしたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施しており、当該年度計画を100%達成したため順調と判定した。中期計画の趣旨に沿って次年度も東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理及び我が国の現代美術の動向に関する調査研究を続行、充実させていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4114

（様式 1）

業務実績書

研№4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究（(1)－①－エ）

【事業概要】

様々な美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日にどう至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連書分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないし文化財に対するより深い理解を形成することを目指す。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	広領域研究室長　小林　公治

【スタッフ】田中淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、二神葉子（情報システム研究室長）、津田徹英（文化形成研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）、中野照男（客員研究員・大東文化大学非常勤講師）

【主な成果】

本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を作品の観察、文献資料あるいは科学的手法による分析を実施しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・工芸作品を中心に各地で作品調査を進めるとともに、日本の平安時代絵画や展覧会を通じた日本製輸出螺鈿漆器についての検討、またこれまで本プロジェクトで行ってきた絵画や世界各地の螺鈿漆器について発表を行った他、ウェブサイト上で公開している奈良時代の資料にあらわれた彩色語彙についてデータベースの増補を実施した。また今年度よりの新規事業として、当研究所が所蔵する文化財を撮影したガラス乾板のデジタル化作業を開始した。

【年度実績概要】

・調査

東京国立博物館との共同調査計画に基づき、絵画作品である「国宝・絹本着色普賢菩薩像」の調査を 26 年 3 月に実施したほか、日本国内螺鈿工房（横浜市内・奈良市内）及び個人所蔵コレクション調査（小田原市内）、ニューヨークのメトロポリタン美術館において朝鮮・日本・中国螺鈿漆器の調査、ソウルの国立中央博物館において高麗時代螺鈿漆器の調査を行った。また、滋賀県甲賀市「檜尾寺木造釈迦如来立像」（鎌倉時代）の透過Ｘ線撮影調査を行った。

・研究会発表

本年度は、千手観音調査結果検討会（25 年 5 月 16 日）、第 47 回オープンレクチャーにおける千手観音像調査成果及びアジアを中心として造られてきた螺鈿の歴史と系譜に関する講演（25 年 10 月 5 日）、また第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会において、上記とは異なる視点により千手観音像調査成果による発表（26 年 1 月 11 日）を実施した。

・資料のデータ化

研究所への寄贈資料のうち、技法材料研究と特に関わりの深い久野健旧蔵資料及び秋山光和旧蔵資料（調査ノート・撮影画像など）のデジタル化・整理・入力を行った。また奈良時代資料にあらわれた彩色語彙についてデータベースの増補・公開を実施した。

また、今年度開始の新事業として、当部の他 2 室のプロジェクトと共同して、これまで研究所が蓄積してきた文化財を撮影したガラス乾板およそ 21,500 枚のデジタル化作業を始めており、今後ウェブによる公開を実施する。

【実績値】　論文数　1 件（①）　　発表件数　4 件（②～⑤）　　調査件数　8 件（国内 6 件、海外 2 件）（⑥～⑬）
ガラス乾板のデジタル化数：約 9,200 枚

【備考】

論文：

①小林達朗「美麗の術―国宝千手観音像の場合」第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会プレ・プリント（26 年 1 月 11 日）

発表：

②小林達朗「東京国立博物館蔵国宝本・千手観音像の表現」2013 年度第 4 回企画情報部研究会（25 年 7 月 30 日）

③小林達朗「平安仏画の表現―虚空蔵菩薩と千手観音像―」第 47 回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」（25 年 10 月 4 日）

④小林公治「螺鈿を訪ねて西へ東へ－5000 年の世界史を探る－」第 47 回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」（25 年 10 月 5 日）

⑤小林達朗「美麗の術―国宝千手観音像の場合」第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会発表（26 年 1 月 11 日）

調査

⑥小林公治　横浜芝山漆器研究会調査（横浜市内）　2013 年 4 月 23 日

⑦小林公治　個人所蔵近世近代螺鈿漆器熟覧調査（小田原市内）　2013 年 4 月 27 日

⑧小林公治　メトロポリタン美術館所蔵東アジア螺鈿漆器熟覧調査　2013 年 5 月 24 日

⑨小林公治　螺鈿工房調査（奈良市内）　2013 年 5 月 29 日

⑩津田徹英　滋賀県甲賀市「檜尾寺木造釈迦如来立像」（鎌倉時代）の透過 X 線撮影調査　2014 年 6 月 20 日

⑪塩谷純・小林公治　個人蔵近代彫刻撮影ガラス乾板調査　2013 年 7 月 26 日

⑫小林公治　韓国国立中央博物館所蔵高麗時代螺鈿漆器熟覧調査　2013 年 11 月 29 日

⑬小林達朗・江村知子・皿井舞・城野誠治　東京国立博物館絵画熟覧・光学調査　2014 年 3 月 26 日

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4114

自己点検評価調書

研No.4

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：様々な機会を捉え調査を実施し、また調査成果について速やかな公表を試みたため。
独創性：これまでに多様な調査対象や、創造的な見方・手法による調査等を実施できたため。
発展性：ここで行った研究手法は今後の様々な研究に向けた発展性を十分持つことが期待されるため。
継続性：調査や研究は単発的なものではなく、先年からの継続性を持つものであるため。
正確性：実施した成果公表や調査は実証的な確実性を持つものであるため。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	調査件数	ガラス乾板のデジタル化数		
判定	A	A	A	A		

判定理由
論文数　：論文での成果公開を行うことができたため。
発表件数：これまでの調査結果について多様な視点から、多様な対象に対する研究成果の公表が行えたため。
調査件数：時宜をとらえて様々な調査を行う努力を持てたことから。
ガラス乾板のデジタル化数：透過光デジタル撮影によるデジタル化という新たな方法を試験的に導入し開始したが、この方法により順調にデジタル化作業を進めることができたため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上記評価を総合的に捉えてAとした。来年度以降はより多くの成果公表や調査の実施に向けて努力したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの調査結果に基づいた研究成果の幅広い公表や、新たな調査が実施できたことなどにより、順調な実施状況だと評価できる。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4121

業務実績書

研№.5

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究（(1)－②)）

【事業概要】
近畿地方を中心として、重要な古寺社や関連する旧家等が所蔵する歴史資料や書跡資料等について、継続的・悉皆的に整理・調書作成・写真撮影等の調査を行い、現存資料の把握に努め、成果を目録・データベース等により、また重要資料は翻刻して公開する。このような調査によって文化財研究の基礎を固めた上で、文化財の歴史的性格・特徴等を研究し、日本の歴史・文化の研究に資する。撮影した写真は焼き付けを作成し、研究者等の研究に供する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	歴史研究室長　吉川　聡

【スタッフ】
小原嘉記（中京大学国際教養学部准教授・客員研究員）、渡辺晃宏（史料研究室長）、馬場 基（都城発掘調査部主任研究員）、山本 崇（都城発掘調査部主任研究員）、桑田訓也（史料研究室研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、児島大輔（年代学研究室アソシエイトフェロー）、高田祐一（文化財情報係アソシエイトフェロー）、中村一郎（写真室主任）、栗山雅夫（写真室技術職員）、鎌倉綾（写真室技能補佐員）

【主な成果】
奈良市教育委員会との連携研究の成果として、『大宮家文書調査報告書』を公刊した。大宮家文書は、鎌倉時代から江戸時代まで春日大社の神人だった大宮家に伝わる、中世・近世文書群であり、春日大社研究の基礎史料となり得るものである。また、唐招提寺が所蔵する資料を翻刻して『唐招提寺授戒帳』として刊行した。近世唐招提寺の授戒の実態・近世受戒僧の名を一覧できる基礎資料である。また、内山永久寺旧蔵の扁額が、宝治元年（1247）に藤原教家が筆を執った扁額であることを明らかにした。また、科学研究費補助金も充当して行った東大寺古文書調査について、科学研究費補助金の報告書を 2 冊公刊し、所蔵資料の目録等を公表した。

【年度実績概要】
・興福寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、第 117 函・二条家第 1 函～第 6 函の調書を作成した。また第 106 函・109 函の写真を撮影した。
・仁和寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、御経蔵聖教第 49 函～57 函の調書原本校正・写真撮影を実施した。
・薬師寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、第 58 函・第 59 函の調書作成と、第 1 函～第 5 函の目録校正、第 25 函の写真撮影を実施した。
・三仏寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、第 6 函・経典函等の調書を作成し、第 5 函～第 6 函の写真撮影を実施した。
・唐招提寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、宝蔵に所在する資料の調査を行った。また、資料紹介の報告書を刊行した。
・東大寺所蔵の歴史資料の調査を、科学研究費補助金も充当して実施し、新修東大寺文書聖教第 73 函～78 函の調査データ入力、第 56 函の撮影等を行った。また、科学研究費補助金を用いて報告書を刊行し、所蔵資料の目録等を公表した。
・奈良市教育委員会と連携研究の協定を結び、氷室神社の大宮家所蔵文書の未成巻文書の調査研究を実施して、報告書を刊行した。
・奈良市佐紀町塚原家所蔵の歴史資料の調査を実施し、当該資料はその後、奈良文化財研究所に寄贈された。また奈良市水郷所蔵の歴史資料を調査した。さらに天理市の旧家所蔵の、内山永久寺旧蔵扁額の調査結果を論文にまとめた。


内山永久寺旧蔵扁額

【実績値】
刊行物・論文等数５件（①～⑤）
（参考値）調査資料点数
興福寺：調書作成資料点数 333 点、写真撮影点数 41 点
仁和寺：調書等原本校正資料点数 432 点、写真撮影資料点数 460 点
薬師寺：調書作成資料点数 37 点、写真撮影資料点数 345 点
三仏寺：調書作成資料点数 110 点、写真撮影資料点数 522 点
東大寺：調査データ入力点数 246 点、写真撮影資料点数 557 点

【備考】
刊行物・論文等
①『大宮家文書調査報告書』2014.3
②『唐招提寺授戒帳』2013.6
③『科学研究費補助金　南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究　研究成果報告書１』2014.3
④『科学研究費補助金　南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究　研究成果報告書２』2014.3
⑤吉川聡・鈴木智大・海野聡・赤田昌倫・児島大輔「内山永久寺の扁額」『奈良文化財研究所紀要 2013』2013.6

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4121

自己点検評価調書

研No.5

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：近畿を中心とする、世界遺産にも登録されるような古寺社等には、未だに調査・整理されていない歴史資料・書跡資料が数多く存在している。その内容を把握し、保存を図り、史料として利用できる状態にまで整理することは、極めて適時性が高い調査である。
発展性：これらの資料には、日本史を研究する上で重要な内容を持つものが多く含まれており、発展性がある。本年度は特に、大宮家文書・東大寺所蔵資料の目録を公表した。これらは今後の日本史研究の進展に寄与するものである。また、内山永久寺旧蔵扁額の性格を明らかにした。これは、資料の少ない内山永久寺研究の進展に寄与する成果である。
継続性：調査は着実に中断なく全容を把握する調査を実行しており、継続性に優れている。
正確性：調査資料の重要性に鑑みて、詳細・正確な調査を実施している。

2．定量的評価

観点	刊行物・論文等数					
判定	A					

判定理由
刊行物・論文等数：目標を上回った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	興福寺・仁和寺・薬師寺・三仏寺・唐招提寺・東大寺の調査を実施した。また大宮家は奈良市と連携研究を行った。その他、奈良の旧家所蔵の資料調査も行った。そして、大宮家・唐招提寺・東大寺、さらには内山永久寺旧蔵資料について、調査成果を公表できた。特に、大宮家文書は中世春日大社関係文書を多く含む重要資料群である。また内山永久寺資料も、従来ほとんど知られていなかった扁額を、鎌倉時代のものと確定できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、堅調に実現できたと考える。特に、数年にわたり実施した奈良市教育委員会との連携研究に基づいて、大宮家文書の目録を公表できた。他にも、唐招提寺・東大寺、さらには内山永久寺関係資料など、多くの資料・資料目録を公表したことは大きな成果である。しかしこれらの成果のほとんどは、長年の調査の積み重ねの結果が形になったものである。その公表時期がたまたま今年度に多く重なったが、今後はまた、新たな成果を生み出すための、地道な調査を継続して実施していく必要があるだろう。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4131
（様式 1）

業務実績書

研№6

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究((1)－③)

【事業概要】
我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の技法についての再検証（調査研究）を行い、得られた成果を整理するとともに、一般公開を図る。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	文化遺産部長　林　良彦

【スタッフ】
鈴木智大（建造物研究室研究員）、箱崎和久（遺構研究室長）、黒坂貴裕（都城発掘調査部主任研究員）、番　光（遺構研究室研究員）、大林　潤（遺構研究室研究員）、海野聡（遺構研究室研究員）、井上麻香（遺構研究室アソシエイトフェロー）、中島咲紀（遺構研究室アソシエイトフェロー）、恵谷浩子（景観研究室研究員）、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）、中島義晴（文化遺産部主任研究員）、成田　聖（前学芸室任期付研究員）

【主な成果】
文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査を行った。

【年度実績概要】
・所内で保管している文化財建造物保存修理時の「建造物現状変更説明」資料のうち、1931 年度から 1949 年度分の Word 文書化、図版調整を行い、その成果を刊行・配布した。また、同じく所内保管の文化財建造物等の撮影ガラス乾板（大阪府、兵庫県分）を整理して、画像をデジタル化した（デジタル化は外注）。また、上記ガラス乾板及び建造物保存図並びに同摺拓本資料について、外部への資料提供を実施した。

・古代建築の技法に関する調査研究では、法隆寺所蔵の古材調査を 2009 年～12 年度に引き続き実施した。本年度は、引き続きかつて法隆寺西院金堂に使用されていた部材について調査を行った。なお、調査にあたっては、年代学研究室の協力を得た。

・海外関連事業として、日中韓の 3 国の文化財研究所における共同研究の一環として、2013 年 11 月に平城宮跡資料館で、国際学術会議を開催した。『歴史的集落町並みの保存研究活用』のテーマで研究発表を行うとともに、総合討議を行った。

・地域協力として、斑鳩町に残る歴史的建造物井上家住宅（旧北畠家住宅）の建築調査を行った。棟梁西岡楢光、明治 20 年の建築であることを明らかにした。



国際学術会議の開催風景

・奈良県近代化遺産総合調査の調査員を務め、建築部門の調査、報告執筆を行った。

【実績値】
公刊図書 3 件①②③、論文等 9 件④、学会等発表件数 3 件⑤
保管建造物関係資料整理：写真乾板デジタル化 640 枚、現状変更資料入力等 1931～1949 年分
古代建築研究現地資料収集：法隆寺古材調査 46 回
保管建造物資料の外部者利用数：乾板写真 4 件 221 枚、建造物保存図 5 件 105 枚、摺拓本 2 件 34 冊

【備考】
論文等
①奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1931～1949』2014.3
②奈良文化財研究所『集落町並みの調査と保存・活用　第 5 回日中韓建築文化遺産保存国際学術会議予稿集』2013.11
③『ベトナム社会主義共和国　カイベイ市集落調査報告書』2014.3
④箱崎和久「建築遺跡の整備と問題点」『奈良文化財研究所紀要 2013』　2013.6　ほか 8 件
⑤林良彦「日本における木造建造物の類型と調査」ＡＣＣＵセミナースリランカ　ほか 2 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4131

自己点検評価調書

研№6

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：斑鳩町井上家住宅の調査は現在地方で盛んに行われている歴史的風致維持向上計画の策定に伴う建造物調査で、地方行政の施策に貢献する上で緊急性が高い。
独創性：古代建築の諸構法の研究は、研究所がこれまで継続してきた調査研究に基づき、これを発展させるため、法隆寺古材調査では「技術・技法」等の視点を加え、独創性のある研究内容といえる。
発展性：法隆寺古材調査は、古代建築の技法を知る上でまたとない資料であり、新たな視点での調査行い、成果を資料化することは、古代建築研究の展開に大きく貢献するものである。また、受託業務として行った兵庫県近代和風建築総合調査では、今後の近代和風建築の研究と保存に対して貢献をなす成果をあげた点で、高く評価できる。
効率性：限られた人員に対し充分な成果を出している。
継続性：文化財建造物保存修理事業等で作成された貴重な記録である「建造物現状変更説明」「ガラス乾板」の資料整理、デジタル化作業は近年継続的に実施しており、地味な作業ではあるが高く評価できる。
正確性：保管建造物関係資料整理、古代建築研究現地資料収集、保管建造物資料外部利用等を通じて、情報の正確な収集・整理・公開を行い、建造物の基礎的研究に大きく貢献した。

２．定量的評価

観点	公刊図書数	論文等数	学会等発表件数	保管建造物関係資料整理	古代建築研究現地資料収集	保管建造物資料外部利用数
判定	A	S	A	A	A	A

判定理由
公刊図書数：当初予定していた図書を３件刊行できた。
論文等数：目標の６件に対して９件に達した。
学会等発表件数：目標の３件に達した。
保管建造物関係資料整理：十分な成果が認められる。
古代建築研究現地資料収集：十分な成果が認められる。
保管建造物資料外部利用数：要請に基づき、十分に対応した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財建造物の保存修理に関する基礎データの整理等については計画通り実施でき、この継続的な実施によって、本事業の重要性が認知されるようになっている。奈良県近代化遺産総合調査で、県内の近代建築の具体相を究明できたことは、文化庁等の調査に寄せる期待に応えることになり評価できるとともに、将来実施する建築調査に反映できる。古代建築の研究に関しては、法隆寺古材調査は基礎的な作業であり、今後高く評価されるものと考える。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	所内保管の建造物関係資料についての整理等作業、古代建築の諸構法に関する研究とも順調に進捗している。前者は地味な作業であるが、これを継続させることの重要性をさらにアピールさせたい。後者の研究は、研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした本研究所ならではの研究であり、次年度以降、現場の作業を続けるとともに研究成果をまとめて公表して行く方向で本研究の実施にさらに力を注ぎたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4141

業務実績書

研No.7

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形文化財の保存・活用に関する調査研究((1)－④－1)

【事業概要】
我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	副所長（部長兼務）　石崎武志

【スタッフ】
高桑いづみ(無形文化財研究室長)、飯島満(音声・映像記録研究室長)、菊池理予(研究員)

【主な成果】
古典芸能の作曲法、染織技術を支える選定保存技術について調査を行い、無形文化遺産部所蔵音声・映像資料の整理、伝承の変化の大きい伝承芸能について実演記録を作成し、楽器に関して国際会議等で発表した。

【年度実績概要】
・世阿弥自筆能本等の詳細な調査を行い、世阿弥の作曲技法について一定の成果を得た。成果は楽劇学会大会、第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会などで公表した。また、能楽学会の企画に参画し、世阿弥作曲による《四季祝言》《敷島》の音楽復元も行った。成果は次年度の能楽学会機関誌に発表される。

・工芸技術に関しては主に染織技術を支える選定保存技術について調査を行った。
原材料については熊本県日田市、栃木県鹿沼市、群馬県岩島地域において麻の栽培技術と麻剥ぎに関する調査を実施し、道具に関しては結城紬の機製造技術や刺繍針製造技術に関する聞取り調査を行った。
また、江戸時代初期及び中期における染織関連文献から染織技術に関する項目について整理を進め、成果を報告書に掲載した。

・部が所有するニットー長時間レコードについて「昭和初期上方落語の口演記録」と題する第 8 回無形文化遺産部公開学術講座を行った（25 年 10 月 5 日東京国立博物館平成館大講堂)。

・連続口演の機会が激減している講談について、一龍斎貞水師と神田松鯉師による実演記録を作成した。また、近年ではほとんど上演されなくなっている正本芝居噺（道具入り）について、林家正雀師による実演記録を作成した。



林家正雀師による正本芝居噺の実演風景

【実績値】
論文数　　1 件(⑦)
発表件数　6 件(①～⑥)

【備考】
学会等発表
① 高桑いづみ「世阿弥作《四季祝言》《敷島》の復元」能楽学会第 12 回大会 2013.5.26
② 高桑いづみ「［上ゲ歌］形成試論」楽劇学会第 21 回大会 2013.7.14
③ 高桑いづみ「実践としての謡―音楽としてのおもしろさはどこにあるのか」　京都市立芸術大学伝音講座 2013.11.27
④ 高桑いづみ「くり返すということ」第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　2014.1.10
⑤ 飯島　満「東京文化財研究所所蔵「特殊再生装置を要する音盤」」第 8 回公開学術講座　2013.10.5
⑥ 菊池理予「染織技術を守るということ―文化財保護という立場から―」大妻女子大学創成工房、2013.12.13

論文
⑦ 菊池理予「染織技法の分業に関する研究（一)」『無形文化遺産研究報告』第 8 号　2014.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4141

自己点検評価調書

研№7

１．定性的評価

観点	独創性	発展性	継続性	適時性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
独創性：世阿弥自筆能本の音楽面での調査は、他では行い得ないものであり、その成果を広く公表した価値は大きい。
発展性：当研究所所蔵の音盤については以前より調査を進めており、過去の音盤の状況について様々な音源の発見につながっている。染織技法書の整理も今後の技法解明等に向けての基礎資料となるもので、今後の研究への発展が期待できる。
継続性：能楽の音楽的側面からの研究、音盤調査、工芸技術調査はいずれも以前から行っている独自な調査で、継続によりデータの蓄積や研究手法の発展がみられた。無形文化遺産分野において、継続研究から生み出される成果は大きい。
適時性：連続口演の減少している講談などの記録作成、工芸技術、選定保存技術で後継者のいない分野の調査は、現在行う事が急務の事業であり、将来の伝承へ向けてその意義は大きい。

２．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文数、発表件数：件数は十分である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上記の定性的評価、定量的評価に拠り、判定をＡとした。今年度からは、新たに落語（正本芝居噺）の記録作成も実現させており、無形文化遺産に係る様々な調査・資料収集とあわせ、一層の充実に努めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究、資料収集、成果の発表ともに計画通り実施されており、当該年度計画を 100％達成している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4142

（様式 1）

業務実績書

研№8

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（(1)－④－2）

【事業概要】

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集し、保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行い、媒体転換等の必要な措置を講じるための準備を進める。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	副所長（部長兼務）　石崎武志

【スタッフ】

久保田裕道（主任研究員）、今石　みぎわ(研究員)、齊藤裕嗣(客員研究員)

【主な成果】

民俗技術や風俗慣習、民俗芸能の伝承実態・伝承組織について現地調査と資料収集を行った。特に東北の被災地域における無形民俗文化財の現状調査は昨年度に引き続き重点的に行った。また、無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議した。特に今年度はこれまで研究の進んでいなかった民俗技術の分野をテーマに取り上げ、関係者間の協議やネットワーク形成を図った。その成果は報告書にまとめ、関係者及び関係機関等に配布した。

【年度実績概要】

・無形民俗文化財に関する調査・資料収集

民俗技術の調査として「秋田のイタヤ箕製作技術」「越中福岡の菅笠製作技術」「小木のたらい舟製作技術」（以上国指定重要無形民俗文化財)及び東京都内の職人技術（台東区、荒川区、江戸川区等）に関して、伝承や保護の実態についての現地調査と資料収集を行った。また昨年度より継続テーマである削りかけ状祭具に関わる技術と風俗慣習の研究として、群馬県中之条町、吾妻町等で実施調査を行った。民俗芸能の調査としては、宮城県における震災被災地の伝承調査を継続している。また岡山県高梁市の松山踊りの調査を行った。

・無形民俗文化財の公開状況に関する調査研究

民俗芸能学会飯田大会・第６回南信州獅子舞フェスティバル（長野県)、第６２回全国民俗芸能大会（東京都）における民俗芸能等の公開状況調査を実施した。

・研究集会の開催

25 年 11 月 15 日（金)、第 8 回無形民俗文化財研究協議会を「わざを伝える―伝統とその活用―」をテーマに、東京文化財研究所において開催し、115 名の参加を得た。4 件の事例報告（「佐渡『小木のたらい舟製作技術』伝承の取り組みと課題」井藤博明／「越中福岡の菅笠保全に妙薬はあるのか―行政のサポートについて」徳田光太郎／「えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトの取組みについて」羽太謙一／「荒川区の無形文化財保護の取り組み―伝統工芸技術の保存・普及・継承事業を中心として」野尻かおる）及び 1 件の特別報告（「台東区の伝統産業事業について」浦里健太郎）をもとにコメンテーター2 名(段上達雄、山崎剛)を含めた総合討議を行った。成果は『第 8 回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめ、参加者及び関係者に配布した。

26 年 3 月 5 日（水)、第 2 回無形文化遺産情報ネットワーク協議会を東京文化財研究所において開催。東北被災地域における無形文化遺産の復興支援に関わる様々な分野の関係者と共に今後の支援の在り方について協議した。

【実績値】

論文数　　4 件（④～⑦）
発表件数　3 件（①～③）

【備考】

発表

①今石みぎわ「アイヌと本州以南の祭祀具―イナウと削りかけ」特別講義もう一つの日本と出会う：アイヌ文化　東京造形大学　2013.7.4

②今石みぎわ「無形文化遺産情報ネットワークの活動報告」連携研究会：文化遺産の復興に向けたミュージアムの活用のための基礎的研究－大学共同利用機関の視点から　国立民族学博物館　2013.6.11

③久保田裕道「無形文化遺産情報ネットワーク」総合研究会　東京文化財研究所 2014.1.14

論文

④今石みぎわ「出会いのトポス―描かれた山と人間」『遠野物語　遭遇と鎮魂』岩波書店 2014.3

⑤久保田裕道「鎮魂の解釈をめぐって―タマフリとタマシズメと―」『宗教民俗研究』23 日本宗教民俗学会　2014.3

⑥久保田裕道「日本民俗学の研究動向（2009-2011）民俗芸能」『日本民俗学』276　日本民俗学会 2014.2

⑦久保田裕道「被災地における無形伝承の復興と情報ネットワーク」『共存学２　災害後の人と文化、ゆらぐ世界』弘文堂　pp.49-66　2014.2

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4142

自己点検評価調書

研No.8

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由

適時性：継承の危機にある無形民俗文化財の調査研究、記録は必要性、緊急性が高い。特に平成17年度から指定制度が始まった民俗技術に関する調査研究は遅れていることから調査研究や記録は急務であり、公共性に照らしても十分に成果が認められる。また無形文化遺産情報ネットワークは、東日本大震災で被災した無形民俗文化財の被災状況の把握と復興の点から必要性、緊急性が高く、社会的にもその成果は認められている。

独創性・発展性・継続性：
国内唯一の無形民俗文化財の研究部として、全国の関係者を集めて専門的観点から協議会を継続的に開催し、関係者のネットワーク構築を促進させていることは、無形民俗文化財の保護体制の整備・強化の観点から見て、その独創性、発展性、継続性を十分に評価できる。また被災地域における無形民俗文化財に関する調査・研究及び提言を率先して行ったことは、その独創性において十分に成果が認められる。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由

論文数・発表件数：論文数、発表件数ともに、十分である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の計画通り事業を実施することができた。特に民俗技術の調査研究、記録、保存活用については研究協議会のテーマとしても取り上げ、重点的に実施したことにより、その重要性が一般にも認知されるようになったといってよい。また昨年度から引き続いて行っている被災地域における無形民俗文化財の調査・記録の成果は、全国の継承が困難な無形民俗文化財の保存に際しても活用できるものであり、将来を見通した取組としても極めて重要である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施しており、当該年度計画を達成したため順調と判定した。次年度も中期計画の趣旨に沿って、無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究を続行する。また研究協議会についても、引き続き適時性や独創性を持ったテーマを選択し、開催する予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4143

業務実績書

研No.9

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集（(1)－④－3）

【事業概要】
無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	副所長（部長兼務）　石崎武志

【スタッフ】
高桑いづみ(無形文化財研究室長)、飯島満(音声・映像記録研究室長)、久保田裕道（主任研究員)、菊池理予(研究員)、今石みぎわ(研究員)

【主な成果】
韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成 23 年度に調印した合意書に基づき、研究員の相互派遣を内容とする研究交流を実施した。また関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し、海外研究者への助言や調査協力を通して、無形文化遺産分野における国際的情報収集及び情報提供を行った。

【年度実績概要】
・韓国との交流事業では、平成 23 年度に調印した「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流合意書」に基づき、韓国国立文化財研究所から、同研究所無形文化遺産研究室の黄慶順学芸研究士を 25 年 4 月 17 日～29 日の間、同室の李叙源研究士を 25 年 5 月 21 日～6 月 3 日の間、無形文化遺産部に迎え、研究交流を実施した。日本側からは、25 年 6 月 16 日～30 日の間、今石みぎわ研究員を韓国に派遣し、韓国における無形文化財（工芸技術）の保護制度について調査研究を行った。

・無形文化遺産分野の国際的情報収集では、以下の国際会議等に出席し、情報収集及び研究発表等を実施した。
25 年 4 月 11 日～15 日「東アジアの伝統的綱引き国際シンポジウム」大韓民国　唐津市
25 年 9 月 12 日～16 日「韓日国際管楽器フェスティバル」大韓民国　慶州市
25 年 11 月 20 日～24 日「第五回東亜細亜国際音楽考古学学会」大韓民国　釜山市
25 年 12 月 2 日～7 日「無形文化遺産保護条約第 8 回政府間委員会」アゼルバイジャン　バクー

・25 年 4 月から 12 月にかけて、“Field Survey of the Intangible Cultural Heritage Safeguarding Efforts in the Asia-Pacific Region（アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の取り組みについてのフィールド調査)”を、韓国ユネスコカテゴリー2 センターからの依頼により実施。その成果は 12 月に同センターから報告書として刊行された。

・アジア太平洋無形文化遺産研究センターからの要請で、25 年 10 月 23 日に東ティモールの行政官一行の東京文化財研究所への視察を受け入れ、専門家向けの研修会を実施した。なお、アジア太平洋無形文化遺産研究センターとは、この研修会の実施にあわせ、今後の事業の進め方などについても協議した。



李叙源研究士（韓国国立文化財研究所）との昭和村での調査（25 年 5 月 22 日）

【実績値】
報告書　1 件(①)
発表件数　2 件(②～③)

【備考】
報告書
① International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Regionunder the auspices of UNESCO, Department of Intangible Cultural Heritage, NRICPT,Intangible Cultural Heritage Safeguarding Efforts in Japan, Korea, 2013.12
発表
② 高桑いづみ「現存する一節切―正倉院から 17 世紀初頭まで」韓日国際管楽器フェスティバル　2013.9.14
③ 高桑いづみ「日本における出土鼓胴と古制の鼓胴について」　第五回東亜細亜国際音楽考古学学会　2013.11.23

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4143

自己点検評価調書

研No.9

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：大韓民国のユネスコカテゴリー2センターとの共同でアジア太平洋地域における無形文化遺産保護の取り組みについてのフィールド調査を実施し、その成果を報告書として刊行した。
独創性：日中韓の音楽考古学国際会議等で、日本側からの研究状況を発表し、研究交流を行った点は、当研究所が長年取り組んできたテーマの独自性を海外にも公開することとなった。
発展性・継続性：韓国国立文化財研究所との研究交流も第2期2年目を迎え、より積極的な研究交流へと発展しつつある。

2．定量的評価

観点	報告書	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
報告書・発表件数：成果は十分である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	韓国国立文化財研究所との研究交流は計画通りであり、それ以外の事業でも海外への発信を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施しており、当該年度計画を達成したため順調と判定した。韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との研究交流の成果は3年後に報告書としてまとめる計画であり、それに向けて着実な実績を上げることができた。次年度も引き続き、幅広い分野で研究交流を行うよう、積極的に働きかけていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4151
（様式 1）

業務実績書

研№.10

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）（(1)－⑤－ア）

【事業概要】
遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料収集・調査・整理等を行い、文化財の包括的保存管理を検討する一環として、遺跡等のマネジメントに関する研究集会を開催するとともに、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	文化遺産部長　林　良彦

【スタッフ】
中島義晴(文化遺産部主任研究員）、大平和弘（兵庫県立人と自然の博物館研究員、前遺跡整備研究室アソシエイトフェロー)、平澤　毅(景観研究室長)、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
「計画の意義と方法」を主題として遺跡等のマネジメントに関する研究集会を開催するとともに、過年度の成果について、『パブリックな存在としての遺跡・遺産』［平成 24 年度遺跡等マネジメント研究集会（第 2 回）報告書］を刊行・配布するなど、その普及等を行った。

【年度実績概要】
・国内外における遺跡の整備に関する調査研究活動の一環として、遺跡整備事例に関する現地調査・情報収集を実施した。

・26年1月24、25日に、「計画の意義と方法」を主題とし、平成25年度遺跡等マネジメント研究集会（第3回）を遺跡整備・景観合同研究集会として平城宮跡資料館講堂で開催した。研究集会の開催趣旨等の他、講演3件、事例研究報告4件が発表され、これらを踏まえ討議を行った。

・研究集会開催後、次年度にこの研究集会の報告書を編集・刊行する準備として、討議内容の整理等を進めた。

・昨年度の研究集会「パブリックな存在としての遺跡・遺産」の成果について検討を加え、「奈良文化財研究所紀要 2013」に報告するとともに、報告書を執筆・編集・刊行した。



平成 25 年度遺跡整備・景観合同研究集会

・全国の地方公共団体教育委員会文化財保護主管課等に対して、平成24年度刊行の報告書（『自然的文化財のマネジメント』、『遺構露出展示に関する調査研究』等）を配布するなど、過年度の成果の公表に努めた。

【実績値】
研究集会開催数　1 回(①：参加者数　地方公共団体職員・民間事業者・ボランティア等、148 名)
刊行図書数　　1 件(②)
論文等数　　5 件(③)
(参考値)
平成 25 年度遺跡整備・景観合同研究集会　参加者総数 148 名
アンケート回答 86 名（回収率約 58.1%）
大変有意義であった：44 人(51.1%)、有意義であった：37 人(43.0%)、普通であった：4 人(4.7%)、あまり有意義でなかった：1(1.2%)、有意義でなかった：0 人(0%)

【備考】
研究集会
①『遺跡整備・景観合同研究集会「計画の意義と方法」講演・報告資料集』　2014.1
刊行図書
②『パブリックな存在としての遺跡・遺産』平成 24 年度遺跡等マネジメント研究集会（第 2 回）報告書　2014.1
論文等
③平澤毅「パブリックな存在としての遺跡・遺産」『奈良文化財研究所紀要 2013』　2013.6　他 4 件

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4151

自己点検評価調書

研№.10

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	効率性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：遺跡の整備や文化的景観の保存に関する計画の意義と方法について検討した研究集会は、今日的な課題を扱ったものであり、時宜を得たものと言える。
独創性：遺跡の整備や文化的景観の保存に関する計画の意義と方法について、多様な分野からの講演・報告をもとに検討した研究集会は、これまでに無く独創的なものと言える。
発展性：研究集会は、22年度に開催した遺跡整備・活用研究集会（第5回）「地域における遺跡の総合的マネジメント」を基礎として、23年度「自然的文化財のマネジメント」、24年度「パブリックな存在としての遺跡・遺産」に引き続き、遺跡等のマネジメントに関する課題について発展的に検討を重ねている。
継続性：保存・活用に関する基礎的・応用的な検討を基礎としながら、研究集会の開催等を通じ、遺跡等のマネジメントについて継続的に検討を進めている。
効率性：研究集会の開催、報告書の刊行、論文の発表等をスケジュール通りに進めることができ、事業を効率的に実施できた。

2．定量的評価

観点	研究集会開催回数	刊行図書数	論文等数			
判定	A	A	A			

判定理由
研究集会開催回数：計画通り、研究集会を1回開催した。
刊行図書数：計画通り、1冊刊行できた。
論文等数：十分な成果が認められる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の計画通り事業を実施した。特に、遺跡等マネジメント研究集会については、遺跡の整備等に関する計画の意義と方法を主題とし、近年の全国的な課題を検討した取組として極めて重要である。また、過年度研究集会の報告書を刊行し、遺跡の整備に関する論文等を発表しており、調査・研究の成果を公表している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	遺跡等の整備に関する情報の収集・整理・公開の検討を様々な観点から進めることができた。特に、研究集会については、22年度に開催した遺跡整備・活用研究集会（第5回）「地域における遺跡の総合的マネジメント」を基礎として、23年度「自然的文化財のマネジメント」、24年度「パブリックな存在としての遺跡・遺産」に引き続き、「計画の意義と方法」を主題として検討した。これらによって、急速に変化していく社会構造・国民生活等と遺跡を含む記念物保護との関係を考慮しつつ、遺跡等のマネジメントに関する特に重要な諸課題について検討を行い、文化財の保存と活用を図るための調査・研究を推進できている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4152

業務実績書

研№.11

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)((1)－⑤－イ)

【事業概要】
庭園史に関する文献調査及び国内外での現地調査の他、「庭園の歴史に関する研究会」の開催など、日本庭園に関する基礎的資料の検討を行い、併せて森・村岡・牛川資料の整理・研究を進める。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	文化遺産部長　林　良彦

【スタッフ】
中島義晴（文化遺産部主任研究員）、大平和弘（兵庫県立人と自然の博物館研究員、前遺跡整備研究室アソシエイトフェロー）、マレス・E・ベルナール（総合地球環境学研究所事務補佐員、客員研究員）、小野健吉（副所長）、エドワーズ・W.（中国科学院心理学研究所編集局事務担当、客員研究員）、青木達司（文化庁、前文化遺産部主任研究員）

【主な成果】
中世の庭園・建築・文学・美術史などの研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書としてまとめた。奈良市における庭園の悉皆的調査に取り組み、寺院庭園の調査を行った。

【年度実績概要】

・25年11月2日に、大学などの外部研究者(庭園史学、建築史学、美術史学、考古学など)とともに「庭園の歴史に関する研究会」(テーマ：室町時代の将軍の庭園)を開催した。

・上記の研究会の報告書『平成25年度庭園の歴史に関する研究会　室町時代の将軍の庭園』の執筆・編集・刊行を行った。

・奈良市と連携研究協定を結び、奈良市における庭園の悉皆的調査に取り組み、寺院庭園について、アンケート及び現地調査を行った。

・森蘊・村岡正・牛川喜幸の庭園等関係研究資料について、整理を進めた。

・発掘庭園データベースについて、新たな事例収集を進めた。



奈良市における庭園の悉皆的調査の様子（薬師寺）

【実績値】
研究会開催数：1 回（①奈良文化財研究所；大学等研究者 20 名参加）
報告書等刊行件数：1 件（②）
論文等数：6 件（論文 5 件③、講演・発表等 1 件④）。

【備考】
研究会
①『平成 25 年度庭園の歴史に関する研究会　室町時代の将軍の庭園　資料集』　2013.11
報告書等刊行
②『室町時代の将軍の庭園』平成 25 年度庭園の歴史に関する研究会報告書　2014.3
論文等
③青木達司「禅宗寺院と庭園」『奈良文化財研究所紀要 2013』　2013.6　他 4 件
④中島義晴「近代奈良の庭園 －近年の調査報告から」2013.11

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4152

自己点検評価調書

研№11

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	効率性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：中世の庭園に関する研究会（テーマ：室町時代の将軍の庭園）を開催し、庭園史学、建築史学、美術史学、考古学などの外部研究者とともに、多面的に庭園史を考え、報告書にまとめたことは、テーマの発展性や今後の研究方法の在り方を考えても時宜を得たものであった。
独創性：研究会を開催し、研究発表と討論によって多面的に庭園史を検討し、幅広い観点からの考察と新たな課題の明確化を行ったことは、独創的であると言える。
発展性：今期中期計画では中世の庭園を研究対象としており、本年度の成果は来年度に行うこととしている戦国時代の庭園の研究へと発展させることが期待できる。
継続性：研究会の開催及び報告書の刊行の他、資料収集やデータの改訂に向けた作業等、昨年度から行ってきた事業を着実に進めることができた。
効率性：研究集会の開催、報告書の刊行、論文の発表等をスケジュール通りに進めることができたので、事業を効率的に実施できたと評価できる。

２．定量的評価

観点	研究会 開催数	報告書等 刊行件数	論文等数			
判定	A	A	A			

判定理由
研究会開催数：計画通り、研究会を１回開催し、研究を深めることができた。
報告書等刊行件数：計画通り、報告書を１冊刊行した。
論文等数：十分な成果が認められる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の計画通り事業を実施した。また、今後の調査研究に関して取り組むべき具体的な課題を明らかにできた。特に、「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、庭園史学、建築史学、美術史学、考古学などの外部研究者とともに、多面的に庭園史を考え、報告書にまとめたことは意義があった。また、庭園史及び歴史的庭園等の調査に関する研究成果の情報発信も着実に進めることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	庭園史に関する文献調査、庭園の現地調査、研究会の実施、日本庭園に関する基礎的資料のデータベース化の他、資料の整理についても、着実に進めることができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4153

業務実績書

研№12

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究(国際研究交流)((1)－⑤－ウ)

【事業概要】
不動産文化財に関連した研究成果について、米国・コロンビア大学との研究交流の下に、コロンビア大学にて講演を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	文化遺産部長　林　良彦

【スタッフ】
小野健吉（副所長）、中島義晴（文化遺産部主任研究員）、大平和弘（兵庫県立人と自然の博物館研究員、前遺跡整備研究室アソシエイトフェロー）、海野　聡（遺構研究室研究員）、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）、
マレス・E・ベルナール（総合地球環境学研究所事務補佐員、客員研究員）、鈴木智大（建造物研究室研究員）、
平澤　毅（景観研究室長）、惠谷浩子（景観研究室研究員）、田代亜紀子（国際遺跡研究室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
米国・コロンビア大学からのインターン（３名）受入の対応を行った。
米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に係る講演 2 件を実施した。

【年度実績概要】

・25年5月27日から6月7日にかけて、Trisha Logan（コロンビア大学建築・計画・保存大学院アシスタントディレクター）、Tianchi Yang及びJee Eun Ahn（以上2名同大学院生）の3名のインターンを受け入れ、木造建築ならではの修理、補強等について理解が深まるように、日本における文化財修理現場の見学等を実施した。

・25年9月17日に、米国・コロンビア大学において、コロンビア大学中世日本研究所及びコロンビア大学建築・計画・保存大学院と講演会を共催し、“Research on Large Diameter and Long Logs Used to Maintain Important Cultural Buildings in Japan”及び“Matsuri in Japan’s Historic Districts: Using Traditional Festivals as a Driver in Local Communities”の2つの講演を行い、それぞれ、木造建築物修理における大規模な木材の需要と供給、高山を例として伝統的行事が地域の維持に果たす役割について発表した。



コロンビア大学での講演

【実績値】
講演会開催数：1 回（講演 2 件①，米国・コロンビア大学；約 30 名参加）

【備考】
学会、研究会等発表
①海野聡「Research on Large Diameter and Long Logs Used to Maintain Important Cultural Buildings in Japan」他 1 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4153

自己点検評価調書

研№12

１．定性的評価

観点	発展性	継続性				
判定	A	A				

判定理由
発展性：研究交流の一環として、今年度、コロンビア大学から初めてのインターン受入を実施できた。
継続性：米国・コロンビア大学との研究交流について、平成 23 年度からの事業を着実に進めることができた。

２．定量的評価

観点	講演会 開催数					
判定	A					

判定理由
講演会開催数：計画通り、米国・コロンビア大学において、講演会を１回開催できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の計画通り事業を実施し、不動産文化財等に関する研究成果の情報発信を着実に進めることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	米国・コロンビア大学との研究交流のもとに不動産文化財等に関連する研究成果の発表を計画通りに行い、併せて今後の研究交流事業の方向性等を確認できた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-1

業務実績書

研№13

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮跡第一次大極殿院の発掘調査（(1)－⑥－ア）

【事業概要】
古代都城の実体解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。本プロジェクトでは、平城宮跡の発掘調査を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
渡辺丈彦（都城発掘調査部主任研究員）、青木 敬（考古第二研究室研究員）、大澤正吾（考古第二研究室研究員）、海野 聡（遺構研究室研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、諫早直人（考古第一研究室研究員）、中村一郎（写真室主任）、栗山雅夫（写真室技術職員）

【主な成果】
礫敷広場・石敷列・幢旗の遺構等を検出し、また第一次大極殿院の大極殿院の様相解明と復原整備に活かしうる資料を得た。
これらの発掘成果を記者発表・現地説明会・刊行物により、広く公開した。

【年度実績概要】
発掘調査面積は 476 ㎡、調査期間は 26 年 1 月 7 日～3 月 18 日。


調査区全景（南西より）

・基本層序
地表から造成盛土（1.1～1.6m）、床土（30～40 cm）、包含層（5～10 cm）、奈良時代後半の礫敷（5～15 cm）、奈良時代後半の整地（5～10 cm）、奈良時代前半の礫敷（5～10 cm）、地山の順。

・主な検出遺構
奈良時代後半の幢旗の遺構を 2 列各 4 基確認した。また平城第 217 次調査（1990 年）で検出した平安時代初頭の石敷列が南に延び南端で東西方向の溝と接続することを確認した。また、第一次大極殿院東半を発掘した平城第 72 次調査（1971 年）で検出していた南北溝の中軸線を挟んだ西対称位置で、同様の南北溝を検出した。この間が奈良時代前半の大極殿院南門から大極殿に至る南北通路であることを確認した。

・主な出土遺物
瓦片・土器片など

・調査所見
既往の第一次大極殿院の調査では、儀式に伴う幢旗の遺構は確認されてこなかったが、幢旗の遺構を 8 箇所で確認し、一部については断面観察を行い 3 本の柱を一つの掘方に立てることが、明らかとなった。今回は既往の調査区画と一部重複させているが、上記のような断面を確認したことで、既往の調査で桟敷状遺構としていた遺構が、幢旗の遺構であることが明確となった。また、奈良時代前半の南北通路を確認したことで、今後の整備に反映できる成果を得ることができた。

【実績値】
論文等数：1 件（①）
報道発表等件数：1 件。
記者発表；平成 26 年 3 月 6 日、現地説明会；平成 26 年 3 月 8 日、聴衆約 715 人。
（参考値）
出土遺物：瓦片 7 箱、土器片 2 箱など。
記録作成数：実測図 20 枚（A2 判）、遺構写真約 50 枚（４×５）、デジタル写真約 850 枚。

【備考】
①海野 聡ほか「第一次大極殿院の調査　－第 520 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-1

自己点検評価調書

研№13

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

判定理由

適時性：新たな発掘遺構や遺物を迅速に公開し、活用に供した。
発展性：蓄積された資料の整理に加え、当該区域ならびに他の都城遺跡の解明のための調査・資料作成を行った。
継続性：膨大な既存発掘成果に今回の新資料を加え、当該調査区域の性格付けを明らかとした。
正確性：新たな遺構・遺物を後世の歴史資料とすべく、正確な資料作成と公開に努めた。

２．定量的評価

観点	論文等数	報道発表等件数				
判定	A	A				

判定理由
論文等数：当初の目標に沿って、遺構や遺物についての分析を含めた報告を『奈良文化財研究所紀要 2014』に掲載する予定である。
報道発表等件数：当初計画したとおり、記者発表を行い、また一般市民に発掘遺構を直接見てもらう機会として現地説明会を行うことができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	既往調査で確認できなかった幢旗の遺構について、必要十分な成果を得るとともに、適切な発掘調査現場運営を行うことができた。古代の儀式空間を考えるうえで発掘成果は非常に大きいと考えられる。また第一次大極殿院の南北通路の西側溝や礫敷広場を確認したことで、現在、国土交通省の計画している当該地区の復原整備計画に活かしうる資料を得ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	高い学術的水準を維持した調査を実施し、計画通りに順調に成果をあげた。 第一次大極殿院の様相を明らかとするため、次年度、継続して、当該発掘調査区の西方の調査を計画している。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-2
（様式 1）

業務実績書

研№.14

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査（(1)－⑥－ア）

【事業概要】
古代都城の実体解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。本プロジェクトでは、平城京跡の発掘調査を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
小池伸彦（考古第一研究室長）、神野 恵（都城発掘調査部主任研究員）、川畑 純（考古第三研究室研究員）、松下迪生（遺構研究室アソシエイトフェロー）、中村一郎（写真室主任）

【主な成果】
北側の調査区では掘立柱建物を検出した。遺存する柱根の規模から大規模な建物の一部である可能性があり、また数度の建て替えがあることも判明した。これらから、平城京の宅地としては比較的大規模な建物群が存在していたことが明らかとなった。南側の調査区では三彩瓦を含む瓦溜まりを検出した。これまでも同坪では三彩瓦が出土しており、既往の調査成果と合わせて、きわめて特異な土地利用の実態が明らかとなった。

【年度実績概要】
調査面積は計 461 ㎡、調査期間は 25 年 4 月 23 日～6 月 4 日。

・基本層序
上から、宅地造成土（約１ｍ）、旧染織工場造成土（約 30㎝）、耕土・床土（約 20 ㎝）、部分的に奈良時代の遺物を含む包含層と整地土(約5～20㎝)、地山（黄灰色粘土・礫混じり橙色土・明灰シルト）。遺構は整地土上面で確認した。

・主な検出遺構
奈良時代の掘立柱建物を少なくとも２棟検出し、これとは別に施釉瓦を含む瓦溜りを検出した。さらに複数の調査区にまたがる室町時代後半～江戸時代の流路を検出した。


F 区で検出した施釉瓦を含む瓦溜り

・主な出土遺物
奈良時代の遺物としては、土器・瓦に加え、鬼瓦を含む三彩瓦が出土した。近世の流路からは、箸や漆器、曲物等の木製品や鉄滓など鍛冶関連遺物等が出土した。

・調査所見
当該地は染織工場の跡地であるが、遺構の遺存状況は比較的良好であることが判明した。既往の調査でも施釉瓦が出土するなど、奈良時代前半の有力者の邸宅や奈良時代後半の法華寺関連の施設の可能性が指摘されてきたが、今回の調査でもそれを裏付ける成果を得た。ただし、建物などの検出遺構が部分的であり、奈良時代の当該地の性格を特定するまでには至らなかった。また、室町時代後半～江戸時代には、当該地に集落が形成あるいは隣接していたことが明らかとなった。

【実績値】
論文等数：２件（①・②）
（参考値）
出土遺物：軒丸瓦 36 点、軒平瓦 82 点、丸瓦・平瓦計 1098 kg、土器・土製品 15 点、木製品等 167 点、金属製品３点。
記録作成数：実測図 24 枚（A2 判）、遺構写真 100 枚（４×５）。

【備考】
論文等
①神野 恵「法華寺旧境内の調査（平城第 514 次）」『奈文研ニュース』No.50、奈良文化財研究所、2013.9
②神野 恵ほか「左京二条二坊十五坪の調査　－第 514 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-2

自己点検評価調書

研№.14

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由

適時性：当該地は平城宮周辺の重点地区であり、奈良時代後半には法華寺の推定地、奈良時代前半は藤原不比等邸の推定地として、学術的に極めて重要な場所である。染織工場から住宅への建て替えに先立って、比較的大規模に発掘調査ができた点で、適時性、効率性のうえで顕著な成果と言える。
独創性：７箇所に及ぶ調査区の設定は、遺構の全容把握においては問題があったが建物の有無や規模を推定するうえでは有効であった。当該坪の性格を考えるうえで、重要なデータを得たことは評価ができる。
発展性：既往の発掘調査の手法に則って調査を進め、成果をあげることができた。
効率性：７箇所に分かれた発掘区の調査を順次進め、効率的な調査を行うことができた。
継続性：既往の調査につながるものとして、当該地区の発掘調査を継続して行うことができた。
正確性：ほぼ恒常的に研究員を２名以上配置し、また部員による現場検討会を開催するなど、精査、計測とも十分な精度を確保した調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

判定理由

論文等数：調査の速報として、『奈文研ニュース』No.50 に概要を紹介するとともに、調査終了後、『奈良文化財研究所紀要 2014』に遺構・遺物の分析を含めた報告を行う予定である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	既往の発掘調査成果を踏まえ、効率的で正確な発掘調査を行うことができた。ただし、当該地区全域の発掘調査は困難であったことから、７箇所の小調査区に分けることとなったため、重要な遺構の全容を把握することは難しかった。今次調査の成果をふまえ、今後の周辺地区の発掘調査に取り組んでゆきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮周辺の重点地区の発掘調査として、十分かつ良好な成果を得ることができた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-3
（様式 1）

業務実績書

研№.15

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城京右京一条二坊四坪の発掘調査（(1)－⑥－ア）

【事業概要】
古代都城の実体解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。本プロジェクトでは平城京跡の発掘調査を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
小池伸彦（考古第一研究室長）、箱崎和久（遺構研究室長）、神野 恵（都城発掘調査部主任研究員）、渡辺丈彦（都城発掘調査部主任研究員）、馬場 基（都城発掘調査部主任研究員）、庄田慎矢（考古第一研究室研究員）、青木 敬（考古第二研究室研究員）、小田裕樹（考古第二研究室研究員）、川畑 純（考古第三研究室研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、海野 聡（遺構研究室研究員）、松下迪生（遺構研究室アソシエイトフェロー）、中村一郎（写真室主任）、今西康益（研究支援課長）、三本松俊徳（宮跡等活用支援係係員）

【主な成果】
平城京右京一条二坊四坪の学術調査。奈良文化財研究所の庁舎建て替えに伴う予備調査として、現庁舎の周辺に 6 箇所の調査区を設定した。このうち北方の 1 箇所の調査区で条坊遺構を確認し、遺構の遺存状況が比較的良好であることを確認した。南方の 4 箇所の調査区では、奈良時代～中世の遺物を含む沼状の堆積を確認し、奈良時代の遺構が失われていることが判明した。現庁舎を機能させたままで可能な最大限の調査を行い、遺構の遺存状況を確認することができた。

【年度実績概要】
6 箇所の小調査区に分かれる。調査面積は計 230 ㎡、調査期間は 25 年 7 月 29 日～9 月 13 日。

・基本層序
上から、庁舎建設時の盛土（1.2～1.6m）、旧耕土・床土（10～20 ㎝）で、その下に奈良時代の遺物を含む包含層、あるいは奈良時代の整地土等、調査区によって異なる。

・主な検出遺構
北東の調査区で、西一坊大路西側溝と、それと並行する南北溝を数条検出した。
南方の 4 箇所の調査区では、奈良時代から中世の遺物を含む沼状堆積層が厚く堆積している。奈良時代の遺構面は失われたとみられる。

・主な出土遺物
沼状堆積層からは、植物遺体のほか、奈良時代の土器、中世の瓦器などが出土した。その他、瓦片が少量出土した。


第 518 次調査の一部（北から）

・調査所見
北方の調査区では、遺構面が比較的良好に遺存していることを確認し、想定位置で西一坊大路西側溝をほぼ想定通りの位置で検出した。これより北方では、既往の調査で南北柱穴列を発見しているが、今回の調査ではそれらの性格、ひいては右京一条二坊四坪の土地利用を明らかにするまでには至らなかった。また、南方には沼状の堆積が広がっていることが判明した。これにより奈良時代の遺構面は失われたとみられ、一条南大路に関する遺構は検出できなかった。この沼状堆積の性格については、調査面積が狭小のため、把握することができなかった。

【実績値】
論文等数：１件（①）
（参考値）
出土遺物：丸瓦・平瓦　コンテナ３箱、土器・土製品　コンテナ３箱、木製品等１点、金属製品２点。
記録作成数：実測図 19 枚（A2 判）、遺構写真 80 枚（４×５）。

【備考】
①神野 恵ほか「右京一条二坊四坪の調査　－第 518 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-3

自己点検評価調書

研№15

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：奈良文化財研究所の庁舎建て替えに伴う予備調査として、現段階でできうる限りの調査を行い、新庁舎の設計業務へ成果を反映させることができた。
独創性：調査区は、条坊側溝などの遺構を既往の調査成果等をもとに推定して設定した。残念ながら、一条南大路に関する遺構は失われていたが、西一坊大路西側溝を検出し、平城京の条坊を知る上で貴重な資料を得た。
発展性：平城京の条坊遺構と沼状堆積を検出し、当該地の歴史的様相を知る上で貴重な資料を得ることができた。これをもとに、新庁舎建設に伴う本調査の計画を立案する予定である。
効率性：6 箇所の調査区は、既往の発掘調査等から遺構を推定して設定し、最小限の調査区で最大の成果をあげることができるよう工夫した。また、調査に伴う事前の樹木伐採やアスファルトの除去等の準備作業も、きわめて効率的に行うことができた。遺構の実測では調査員を増員して調査時間の短縮を図った。
継続性：既往の調査に続き、右京一条二坊四坪の調査を行い、当該地の歴史的様相を把握することができた。
正確性：調査は毎日複数の調査員によって行い、また遺構・遺物を検討しながら発掘現場を進行させるなど、精度の高い調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

判定理由

論文等数：『奈良文化財研究所紀要 2014』に遺構・遺物の分析を含めた報告を行う予定である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	緊急の発掘調査ながら、担当部局が連携しながら、調査区の設定、調査員の調整、作業員や重機の手配、樹木伐採、アスファルトの除去等の準備作業を行い、必要時には調査員を増員するなど、効率的な調査を行うことができた。この調査成果は、次年度に計画している当該地区における新庁舎建設に伴う本調査の計画・立案に活かしていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮周辺の発掘調査として、十分かつ良好な成果を得ることができた。平城京周辺の歴史的様相解明のため、今回の成果を活かしながら今後も継続して周辺の調査に望みたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-4
（様式 1）

業務実績書

研№.16

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行（(1)－⑥－ア）

【事業概要】
古代都城の実体解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。本プロジェクトでは古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
馬場 基（都城発掘調査部主任研究員）、黒坂貴裕（都城発掘調査部主任研究員）、大林 潤・海野 聡（遺構研究室研究員）、青木 敬（考古第二研究室研究員）、小田裕樹（考古第二研究室研究員）、小澤 毅（遺跡調査・技術研究室長）

【主な成果】
（1）第 17 回古代官衙・集落研究集会を開催した（25 年 12 月 13・14 日）。テーマは「長舎と官衙の建物配置」である。各地の官衙遺跡における長舎建物について、考古学、建築史学、文献史といった各方面から検討し、長舎の出現や展開や機能など多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。
（2）昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第 12 冊　塩の生産・流通と官衙・集落』として刊行した。

【年度実績概要】
（1）第 17 古代官衙・集落研究集会の開催（25 年 12 月 13・14 日）
「長舎と官衙の建物配置」と題して実施した。発表内容は、大橋泰夫（島根大学）「長舎と官衙研究の現状と課題」、鈴木一議（橿考研）「近畿地方の長舎建物」、長 直信（大分市）「九州における長舎建物の出現と展開」、小宮俊久（太田市）「東北、関東地方における長舎と官衙」、大林 潤（奈文研）「長舎状遺構の構造的検討」、古市 晃（神戸大学）「文献史料からみた長舎と官衙」、小田裕樹（奈文研）「コメント」の計７本で、最後に黒坂貴裕（奈文研）の司会により活発な討論が行われた。開催に当たっては、予稿集及び長舎建物に関する資料集を制作した。



第 17 回　古代官衙・集落研究集会の討論
（平成 25 年 12 月 13・14 日、於 奈良文化財研究所）

（2）報告書の刊行
昨年度の研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第 12 冊　塩の生産・流通と官衙・集落』として刊行した。論考 6 編にコメント及び討議録を収載し、総頁数は 208 頁である。

【実績値】
報告書等数：2 件（①・②）
収集資料数：1,333 件
（参考値）
第 17 回古代官衙・集落研究集会　参加者総数 137 名
アンケート回答 120（回収率約 88%）
大変有意義であった：71、有意義であった：45、普通：4、あまり有意義でなかった：0、有意義でなかった：0

【備考】
報告書等
①『長舎と官衙の建物配置』第 17 回　古代官衙・集落研究会研究報告資料、奈良文化財研究所、2013.12
②『奈良文化財研究所研究報告第 12 冊　塩の生産・流通と官衙・集落』奈良文化財研究所、2013.12

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-4

自己点検評価調書

研№.16

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：古代官衙や集落の研究を推進するうえで、適切なテーマ設定を行うことができた。
独創性：長舎というこれまでにない検討視座から、多様な議論を引き出した研究会を開催した。
発展性：官衙に数多く認められる長舎を集成し、古代官衙の成立と展開について一定の見通しを得たこと、政庁の機能まで議論したことなど、今後の官衙研究に与える影響は大きい。
効率性：研究集会の準備や報告書などの作成は、都城発掘調査部を中心に埋蔵文化財センターの助力も得ながら効率的に進めることができた。
継続性：当研究所の事業として例年通り研究集会を開催し、報告書も刊行できた。いずれも研究所内外の研究者の協力を得て、充実した内容となった。参加者からは、次年度以降も継続的に研究集会を開催し、報告書を刊行することに期待する意見が多く寄せられている。
正確性：研究集会に際して作成した長舎遺構資料集成は、長舎の類例について悉皆的な集成を行ったもので、研究に資する正確なデータを広く提供することが可能となった。研究集会自体においても、各発表者の報告と活発な討論を通じて官衙研究の成果と課題を共有することができた。

２．定量的評価

観点	報告書等数	収集資料数				
判定	A	A				

判定理由
報告書等数：昨年度の研究集会の記録と資料集を『奈良文化財研究所研究報告第 12 冊　塩の生産・流通と官衙・集落』として刊行することができた。報告編には 6 編の論文とコメント、研究集会における討論記録を収録した。考古と文献の両分野から共通テーマを論じる研究領域の広範さ、独創的な各論考の内容、さらに新出資料を多数紹介した点など、今後の活用が期待できる。
収集資料数：第 17 回古代官衙・集落研究集会「長舎と官衙の建物配置」に際して作成した簡易製本の『長舎遺構資料集成』では、古代官衙における長舎の悉皆的な事例集成を行った。集成した事例数は 1,333 例にのぼり、全国の膨大な事例を集成し、かつ俯瞰できるようになったことから、今後の古代官衙研究に資する十分な資料収集を行うことができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究集会には、例年以上に多くの参加者を得て、関心の高さがうかがえ、またアンケートの結果もおおむね好評であり、適切なテーマ設定ができたと考えている。地方自治体からの参加者の評価も高く、地方自治体職員どうしの情報交換・共有の場としての役割も帯びており、今後も継続的に研究集会を開催し、研究成果や収集資料を公表していきたい。 次年度以降も、今年度と同様の成果が上がるよう、適切なテーマ設定を行い、研究集会の開催と報告書刊行の継続を目指す。なお、報告書や予稿集等の編集作業は、次第に効率化が進捗しつつあるが、高い質の維持と強い継続力確保のため、さらなる効率化を目指していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年以上に盛会であった研究集会での報告や討論を通じて、古代都城の分析に資する成果を得たのみならず、全国地方自治体職員等との調査・研究情報を交換する場として、古代都城研究の質的向上の一助ともなった。また、報告書の刊行によって毎年の研究成果を公表し、国民共有の財産となったことも含めて順調と判定した。ただし、研究集会に際する事例収集業務は、1,300 例を超える膨大なものとなり、予定以上の業務量が発生してしまった。本研究集会及び報告書については、全国の自治体職員等からその継続を望む声も大きく、古代都城の分析にも大いに役立つものであり、今後も継続して事業を推進する必要がある。そのため、継続的かつ安定的な事業実施を担保するためにも、報告書編集作業ならびに研究集会準備の効率化を一層推し進めていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-5

業務実績書

研№17

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行（(1)－⑥－ア）		

【事業概要】
古代都城の実体解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。本プロジェクトでは古代瓦に関する研究集会を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
清野孝之（考古第三研究室長）、渡辺丈彦（都城発掘調査部主任研究員）、今井晃樹（都城発掘調査部主任研究員）、森先一貴（考古第三研究室研究員）、石田由紀子（考古第三研究室研究員）、川畑　純（考古第三研究室研究員）、中川二美（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、南部裕行（考古第三研究室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
（1）第 14 回古代瓦研究会シンポジウムを開催した（26 年 2 月 8・9 日）。テーマは「８世紀の瓦づくり Ⅲ　－平城宮式軒瓦の展開１　6225-6663 系－」である。シンポジウムでは、平城宮式軒瓦の主体をしめる 6225-6663 型式について、平城宮・京での出土状況、また各地における当該形式採用の経緯などについて多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。
（2）第 12 回シンポジウム（平成 23 年度）、第 13 回シンポジウム（平成 24 年度）の成果を、『古代瓦研究Ⅵ』として刊行した。

【年度実績概要】
（1）第 14 回古代瓦研究会シンポジウムの開催（26 年 2 月 8・9 日）
「８世紀の瓦づくり Ⅲ　－平城宮式軒瓦の展開１　6225-6663 系」と題して実施した。発表内容は、石田由紀子（奈文研）「平城宮の 6225-6663 型式軒瓦」、原田憲二郎（奈良市）「平城京の 6225-6663 型式軒瓦」、近藤康二（堺市）「摂河泉地域の 6225-6663 系式軒瓦」、松尾佳子（岡山県）「中国地方の 6225-6663 系式軒瓦」、大川敬夫（静岡市）「東海地方の 6225-6663 系式軒瓦」、森本 剛（千葉市）「関東地方の 6225-6663 系式軒瓦」の計 6 本で、2 日目の総合討議では、清野孝之（奈文研）の司会により活発な討論が行われた。開催に当たっては、予稿集を制作した。



第 14 回　古代瓦研究会シンポジウムの討論
（平成 26 年 2 月 8・9 日、於 奈良文化財研究所）

（2）報告書の刊行
平成 23 年度第 12 回シンポジウムと平成 24 年度第 13 回シンポジウムの報告書を『古代瓦研究Ⅵ－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』として刊行した。論考 20 編にコメント及び討議録を収載し、総頁数は 418 頁である。

【実績値】
報告書等数：2 件（①・②）
論 文 等 数 ： 4 件（③～⑥）
（参考値）
第 14 回古代瓦研究会シンポジウム　参加者総数 105 名　アンケート回答 55（回収率約 52.4%）
大変有意義であった：39、有意義であった：13、普通：1、あまり有意義でなかった：0、有意義でなかった：0

【備考】
報告書等
① 『８世紀の瓦づくりⅢ－平城宮式軒瓦の展開１　6225-6663 系』第 14 回シンポジウム予稿集、2014.2
② 『古代瓦研究Ⅵ　－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』奈良文化財研究所、2014.2
論文等
③ 清野孝之「大官大寺の出土軒瓦」『古代瓦研究Ⅵ－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』奈良文化財研究所、2014.2
④ 今井晃樹「興福寺出土の興福寺式軒瓦」『古代瓦研究Ⅵ－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』奈良文化財研究所、2014.2
⑤ 石田由紀子「平城宮内出土の興福寺式軒瓦」『古代瓦研究Ⅵ－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』奈良文化財研究所、2014.2
⑥ 渡辺丈彦「平城宮の重圏文系軒瓦」『古代瓦研究Ⅵ－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』奈良文化財研究所、2014.2

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-5

自己点検評価調書

研№17

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：古代瓦研究を推進するうえで、適切なテーマ設定を行うことができた。
独創性：平城宮において主体を占め、かつ全国的にも多く分布する型式の軒瓦をテーマとしたことにより、中央と地方における瓦生産の共通点と差異をこれまで以上に明瞭にすることができた。
発展性：今回対象とした型式以外にも、平城宮で主体を占め、かつ全国的に広く分布する軒瓦は複数型式あり、それらを今後の継続的にテーマとすることにより、より多角的な視点で中央と地方とでの瓦生産のあり方について明らかにできる。その意味で、今回のシンポジウムの成果はその端緒となるものであり、大きな発展性をもつものと考えられる。
効率性：シンポジウムの準備や報告書などの作成は、都城発掘調査部を中心に効率的に進めることができた。
継続性：当研究所の事業として例年通りシンポジウムを開催し、報告書も刊行できた。いずれも研究所内外の研究者の協力を得て、充実した内容となった。参加者からは、次年度以降も継続的にシンポジウムを開催し、報告書を刊行することに期待する意見が多く寄せられている。
正確性：刊行したシンポジウム予稿集や報告書には、全国的な視野で特定型式の古代瓦の報告がなされており、研究に資する正確なデータを広く提供することが可能となった。

２．定量的評価

観点	報告書等数	論文等数				
判定	A	A				

判定理由
報告書等数：第 14 回シンポジウム予稿集『８世紀の瓦づくりⅢ－平城宮式軒瓦の展開１　6225-6663 系』及び、平成 23・24 年度シンポジウムの成果を盛り込んだ報告書『古代瓦研究Ⅵ－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』を当初の予定どおり、遅滞なく刊行することができた。
論文等数：『古代瓦研究Ⅵ－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』では奈良文化財研究所の職員４名が当初予定どおり論文を執筆した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	シンポジウムには多くの参加者を得て、アンケートの結果もおおむね好評である。また、各地方自治体からの参加者の評価も高く、今後も継続的に研究集会を開催し、研究成果を公表することが望まれる。次年度以降もシンポジウムの開催と報告書刊行を継続する予定である。なお、報告書や予稿集等の編集作業は、次第に効率化が浸透しつつあるが、高い質の維持と強い継続力確保のため、さらなる効率化を目指していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	シンポジウムでの報告や討論を通じて、古代瓦研究に資する成果を得たのみならず、全国地方自治体職員等との調査・研究情報を交換する場として、古代都城研究の質的向上の一助ともなった。また、報告書の刊行によって研究成果を公表し、国民共有の財産となったことも含めて順調と判定した。本研究集会及び報告書については、全国の自治体職員等からその継続を望む声も大きく、古代都城の分析にも大いに役立つものであり、今後も継続して事業を推進する必要がある。そのため、継続的かつ安定的な事業実施を担保するためにも、報告書編集作業ならびに研究集会準備の効率化を一層推し進めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-6
（様式 1）

業務実績書

研№18

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	藤原宮跡の発掘調査（（１）－⑥－ア）

【事業概要】
「飛鳥・藤原」地域は、我が国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果は広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。藤原宮跡は我が国初の本格的都城を備えた宮殿遺跡であり、官衙地区については研究所発足当初から、中枢部については平成 11 年度以降、実態解明のための計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長 玉田芳英

【スタッフ】
清野孝之（考古第三研究室長）、今井晃樹（都城発掘調査部主任研究員）、山本　崇（都城発掘調査部主任研究員）、森川実（都城発掘調査部主任研究員）、大林　潤（遺構研究室研究員）、前川　歩（遺構研究室研究員）、大澤正吾（考古第二研究室研究員）、若杉智宏（考古第二研究室研究員）、桑田訓也（史料研究室研究員）、廣瀬覚（考古第一研究室研究員）、和田一之輔（考古第一研究室研究員）、荒田敬介（考古第二研究室アソシエイトフェロー）、南部裕樹（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、山野ケン陽次郎（熊本大学助教、前考古第一研究室アソシエイトフェロー）、井上直夫（写真室再雇用職員）、栗山雅夫（写真室技術職員）

【主な成果】
藤原宮朝堂院朝庭東北部の発掘調査を実施した。調査の結果、朝庭の礫敷広場、排水用の礫詰暗渠、礫敷上から掘り込む柱列などを検出し、さらに朝庭の下層において、藤原宮造営期の溝や大小の沼状遺構を確認した。朝庭の空間利用や藤原宮の造営過程を考える上で、貴重な手がかりを得た。

【年度実績概要】
調査地　：藤原宮朝堂院朝庭の東北部。昨年度の第 174 次調査区の北側。
目　　的：朝庭（礫敷広場）での空間利用のあり方の検討、礫敷下層における遺構の状況確認
調査期間：平成 25 年 4 月 8 日～26 年 3 月 19 日
調査面積：1430 ㎡
調査成果：藤原宮期の遺構
①朝庭の礫敷広場と排水用の礫詰暗渠。
②東西方向の柱列。柱間は 3m（10 尺）、18 間分（54m）を検出。
柱穴は径 30 ㎝前後の不整円形を呈し、深さは約 35 ㎝。
礫敷上から掘り込まれており、調査区の東に延びる可能性がある。

藤原宮造営期の遺構
③大小複数の沼状遺構を検出。
第 2 次整地（朝庭の本格的な整備にともなう整地）以前の遺構。
埋土には造営時の木材加工で生じたとみられる木屑の薄い層を挟む。
多量の瓦を一括投棄したとみられる瓦だまりを検出。
従来１つと考えていた沼状遺構が、複数の沼状遺構が隣接していたことが判明。


②東西方向の柱列
（西から）

【実績値】
発表件数：4 件（論文等 2 件①・④、報道発表 1 件②、現地説明会 1 件③）
（参考値）
出土遺物：軒瓦 40 点、丸平瓦コンテナ 79 箱、土器コンテナ 14 箱、金属製品 2 点、石器・石製品 2 点、炭 3 点、種実 2 点、骨 4 点、馬歯 2 点
記録作成数：遺構実測図 50 枚、写真〈4×5〉176 枚、デジタル写真 429 枚
現地説明会来場者数：337 人

【備考】
発表
①和田一之輔「藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 179 次）」『奈文研ニュース』No.50　2013.9
②奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 179 次調査）記者発表資料」2013.12.19
③奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 179 次調査）現地説明会資料」2013.12.21
④奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 179 次調査）」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6（予定）

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-6

自己点検評価調書

研№.18

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：発掘調査は、現在必要な課題を解明するために調査地を選定して実施したもので、適時性の面で十分に評価できると判定した。
独創性：藤原宮の造営から解体までの過程を解明することができた。
発展性：藤原宮中枢部の空間利用、造営過程の実態解明に関する成果を蓄積し、研究課題への新たな展望を得た。
効率性：発掘調査・室内調査は事前の計画に基づき、必要最低限の時間的・人的・設備的投資によって遂行した。
継続性：特別史跡藤原宮跡の全体解明のための長期継続的な計画調査であり、長年の調査実績を基礎とした質の高い調査を実施した。
正確性：発掘調査の成果は全て現地で記録した。その過程では外部研究者を招聘して調査データの科学性・正確性を期した。

2．定量的評価

観点	発表件数					
判定	A					

判定理由
発表件数：目標どおり、論文等、報道発表、現地説明会で4件の発表を実施することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査研究は、調査・記録・公開・発表等を適切に行い、定性的・定量的評価において全て所期の目標を達成した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通りに実施されており、かつ目標を順調に達成した。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-7
（様式 1）

業務実績書

研№.19

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	飛鳥地域発掘調査（(1)－⑥－ア）

【事業概要】
飛鳥・藤原地域は、我が国古代国家成立期の舞台であり、６世紀末から８世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。甘樫丘は、蘇我氏が邸宅を構えたことで知られ、本遺跡はその関連遺跡として、実態解明のための計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】清野孝之(考古第三研究室長)、今井晃樹・山本崇・降幡順子(以上、都城発掘調査部主任研究員)、大林　潤・前川　歩(以上、遺構調査室研究員)、和田一之輔(考古第一研究室研究員)、若杉智宏(考古第二研究室研究員)、 荒田敬介(考古第二研究室アソシエイトフェロー)、山野ケン陽次郎(熊本大学助教、前考古第一研究室アソシエイトフェロー)、中村一郎(写真室主任)、栗山雅夫(写真室技術職員)、井上直夫(写真室再雇用職員)

【主な成果】
第 177 次調査では、既往の調査区とは異なる谷地を調査し、7 世紀代に谷の斜面を切土・盛土し、平坦面を造成していたことが明らかとなった。また、建物 2 棟、溝 1 条、炭溜 3 基、土坑群などを検出した。

【年度実績概要】
甘樫丘は、飛鳥川の西岸に位置する標高 145m ほどの丘陵で、多数の谷が入り込む複雑な地形を呈している。国営飛鳥歴史公園甘樫丘地区の整備に伴うものである。

調査地　：2011 年度まで継続的に調査を行ってきた谷の北に位置する。
　　Ａ区は丘陵の尾根上、Ｂ区はその東に降る斜面、Ｃ区はさらに東で南東に開く谷に位置する。
調査期間：2012 年度に着手しＡ区・Ｂ区の調査は、2013 年 1 月 17 日に終了。
　　Ｃ区は平成 25 年 3 月で中断。その後 2013 年 6 月～10 月 4 日に調査終了、12 月 6 日に埋戻しを完了。
調査面積：803 ㎡。
調査成果：谷の造成
　　谷の斜面を切土・盛土し、平坦面を造成していたことが判明。
　　調査区西半では、斜面地を谷の地形に合わせて地山を削り、高低差約 2m の上下 2 段の段を造り出す。
　　上段の平坦面は、南半は幅 2～3m で、北に向かって広くなる。
　　下段は、切土に加え、谷の低い部分を埋め立て、東西 20m 以上、南北 30m 以上の広い平坦面を造り出す。
　　出土遺物や堆積状況などから、谷の埋め立ては一気に行われたとみられる。
　　検出遺構
　　掘立柱建物は調査区北部中央で検出。東西 3 間、南北 3 間の総柱建物
　　柱間寸法は 1.5m、北側と南側の 1 間は 1.2m
　　このほか建物 1 棟、溝 1 条、炭溜 3 基、土坑群など
　　７世紀代の甘樫丘は、広範囲にわたって大規模な造成を伴う開発がなされていた可能性がより強くなった。


検出した総柱建物（北から）

【実績値】
論文等数：2 件（①②）、発表件数 2 件　（報道発表数：１件（③）、現地説明会：１件（④））
出土遺物（参考値）
　軒瓦 2 点、丸平瓦 1 箱分、土器 33 箱分、木器・木製品 1 箱分、金属製品 2 点、その他獣骨 16 点、
　壁土・高師小僧 1 箱、炭化物 1 箱、種実 1 箱。
　記録作成数　遺構実測図 62 枚、写真（4×5）92 枚、デジタル写真 241 枚

【備考】
①大林潤「甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第 177 次）」『奈文研ニュース』No.51　2013.12
②大林潤他「甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第 177 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6（予定）
③奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第 177 次）記者発表資料」2013.9.5
④奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡　飛鳥藤原第 177 次現地見学会資料」2013.9.7

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-7

自己点検評価調書

研№19

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：これまで不明であった新たな谷地における遺跡状況の解明を迅速に実施した。
継続性：計画調査の継続による遺跡全容の解明を着実に実施した。
発展性：遺構の広がりを確認し、今後の調査への見通しを得た。

２．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由

論文等数：目標どおり、紀要等で調査成果２件を公表することができた。
発表件数：目標どおり、報道発表、現地説明会で２件の発表を実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第 177 次調査では、計画調査の目的である新たな谷地の遺構のありかたを確認したことにより、甘樫東麓遺構の広がり、遺跡の全体像解明に向けての良好な資料を得ることができた。この調査により、甘樫東麓遺跡は広い範囲にわたって大規模な造成工事を実施していた可能性が高まった。今後の研究に有益な資料を得ることができたため。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り実施されており、新たな谷地の状況を確認し、全体のありかたを明らかにするとともに、整地ならびに周辺の土地利用の状況を確認したことで、甘樫丘東麓遺跡の性格、及び全体像解明に向けての目的を順調に達成した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4162-1

業務実績書

研№.20

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等（(1)－⑥－イ）

【事業概要】
国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
小池伸彦・芝 康次郎・庄田慎矢・神野 恵・青木 敬・小田裕樹・渡辺丈彦・石田由紀子・川畑 純・渡邉晃宏・馬場 基・山本祥隆・箱崎和久・番 光・海野 聡・松下迪生(以上、都城発掘調査部)、中村一郎、栗山雅夫、鎌倉 綾(以上、企画調整部)、高妻洋成・脇谷草一郎・田村朋美・金田明大（以上、埋蔵文化財センター）

【主な成果】
本年度の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構について、整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業を行い、今後の研究の基盤を整えるとともに、発掘調査の記者発表や現地説明会等に備えた。これらは平成 26 年度刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2014』の報告の準備ともなる。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構についても、整理・分析・調査を継続して実施した。

【年度実績概要】

・平成 25 年度の発掘調査による出土遺物の整理

平城宮・京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理・分析研究、検出遺構の図面トレース・撮影写真の整理・分析研究、及び出土遺物の科学的分析・保存処理は、発掘調査の基礎作業であり、年間を通じて発掘調査と併行し、これを遅滞なく実施した。

関連する受託事業として行った発掘調査も、出土遺物や検出遺構の整理・分析研究といった基礎作業の大半は本事業で行っている。このうち、薬師寺十字廊の発掘調査（平城第 519 次）については、当初の予定通りに『薬師寺-旧境内保存整備計画に伴う発掘調査概報Ⅱ-』を遅滞なく刊行した。

・過年度発掘調査出土遺物の整理と科学的保存処理

旧大乗院庭園の発掘調査報告書の刊行に向けて、平成 24 年度に引き続き遺構と遺物の再整理・分析、報告書編集作業を実施した。

また、平城宮東区朝堂院地区の出土遺物・検出遺構についても、報告書刊行に向けての再整理・分析を継続している。

さらに出土木製品を中心として、保存のための科学的処理を継続して実施した。

・『地下の正倉院展　－木簡学ことはじめ－』の開催と図録作成

これまでに平城宮内から出土した木簡の中から優品を選び、平城宮跡資料館にて秋季企画展『地下の正倉院展　－木簡学ことはじめ－』(25 年 10 月 19 日～12 月 1 日）を開催し、広く公開した。これに伴って、展示解説図録を作成した。



『地下の正倉院展　－木簡学ことはじめ－』展示図録

【実績値】
報告書等数：2 件（①②）

【備考】
報告書等
①『薬師寺　－旧境内保存整備計画にともなう発掘調査概報Ⅱ－』薬師寺、2014.3
②『地下の正倉院展　－木簡学ことはじめ－』奈良文化財研究所、2013.10

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4162-1

自己点検評価調書

研No.20

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：新たに出土・検出した遺物・遺構の資料的価値を明確にし、重要なものについては、発掘調査現場の記者発表や現地説明会等の機会に情報公開できるよう迅速に分析を行い、国民の文化財としての活用を図ることができた。
発展性：新たに出土した資料や検出した遺構の検討を通じ、より高度で精緻な古代史研究を推進するとともに、資料の分析にあたって新たな方法を追求することができた。
継続性：平城宮・京跡及び寺院遺跡の発掘調査を通じて得た膨大な歴史資料についての基礎的な分析と研究を継続することができた。
正確性：蓄積されている資料を正確に資料化し、歴史の事実を正確に把握することができた。

2．定量的評価

観点	報告書等数					
判定	A					

判定理由
報告書等数:当初予定の刊行物を順調に刊行できたことに加え、新しい成果、あるいは過去の調査成果・資料の分析をすすめ、適時公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮・京跡及び寺院遺跡で出土した膨大な考古資料・出土文字資料を継続的に整理・分析し、古代史研究上の様々な重要課題について、汎東アジア的な視点で検討を加えたこと、また刊行物等の当初予定通りに遅滞なく刊行できた。地道ではあるが、正確な歴史の事実を把握するために必要なこの事業を、次年度以降も着実に実行することが極めて重要である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの研究を基礎として、さらに新しい資料・方法を加味・活用して、研究を深化させることができた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4162-2
（様式 1）

業務実績書

研№21

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等（(1)－⑥－イ）

【事業概要】
本年度の発掘調査により飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、合わせて前年度までの発掘調査成果を報告書等で公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行う。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施する。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査副部長　玉田芳英

【スタッフ】
清野孝之(考古第三研究室長)、今井晃樹、黒坂貴裕、森川実、降幡順子、山本 崇(以上、都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人・廣瀬 覚(以上、考古第一研究室研究員)、大澤正吾・若杉智宏(以上、考古第二研究室研究員)、森先一貴(考古第三研究室研究員)、大林潤・前川歩(遺構研究室研究員)、桑田訓也(史料研究室研究員)、和田一之輔(考古第一研究室研究員)、荒田啓介(考古第二研究室アソシエイトフェロー)、南部裕樹(考古第三研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫(写真室再雇用職員)、栗山雅夫(写真室技術職員)

【主な成果】
本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、成果の一部を公表した。

【年度実績概要】
・本年度の発掘調査による出土遺物について
本年度、飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの整理、分析研究、発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業及び、出土遺物の保存と保存処理は発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じての野外での発掘調査と並行して各研究室において計画的に遅滞なく実施した。成果の一部は、『奈良文化財研究所紀要 2014』等で公表する予定。

・前年度までの出土遺物について
発掘調査成果を、計画中の『藤原京左京六条三坊発掘調査報告』等の報告書として公刊するための基礎的整理・分析・復原研究、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。藤原京条坊に関連する発掘成果をデータ化する作業は、前年度に引き続いて実施した。
この他、坂田寺出土建築部材の整理及び写真撮影、高所寺池出土建築部材の保存処理、藤原宮西方地区出土木簡の整理、甘樫丘東麓遺跡（第 177 次）及び藤原宮朝堂院朝庭（第 179 次）の土壌分析、飛鳥寺出土の石製部材の調査、藤原宮出土瓦の胎土分析及び藤原宮朝堂院出土の鬼瓦と面戸瓦の調査を実施し、その成果の一部を『奈良文化財研究所紀要 2014』等で論文として公表する。また、木簡出土遺跡の集成や近年の木簡研究の動向など取りまとめて発表した。



藤原宮出土の鬼瓦の調査

【実績値】
論文等数：4 件①～④
（参考値）
記録作成数：デジタル写真 1,390 枚

【備考】
論文等
① 降幡順子・森先一貴「藤原宮出土瓦の胎土分析」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6(予定)
② 今井晃樹「藤原宮出土の鬼瓦と面戸瓦」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6(予定)
③ 山本崇「近年の木簡調査研究の動向」『考古学ジャーナル』649、2013.11
④ 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター編（責任編集・山本崇）『埋蔵文化財ニュース第 154 号 全国木簡出土遺跡・報告書綜覧Ⅱ』2014.2

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4162-2

自己点検評価調書

研№21

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：新出土資料を迅速に公開し活用に供した。
独創性：新たな資料分析方法を追究した。
発展性：蓄積された歴史資料を正確に資料化した。
継続性：膨大な歴史資料の基礎的分析研究と保存処理を実施した。
正確性：新出資料の正確な資料的性格と価値について公表した。

２．定量的評価

観点	論文数等					
判定	A					

判定理由
論文等数：過去の調査研究の資料を整理研究し、４件の論文、書籍等を公表することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	出土遺物・遺構についての整理調査を、野外での発掘調査と並行して遅滞なく計画通りに実施することができた。また、図書等の刊行を通じて、調査成果の公開も適切に行い得ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	報告書作成のための遺物・遺構整理作業を、計画的に実施することができた。また、成果物の刊行も予定通りに行った。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4163

（様式 1）

業務実績書

研№22

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究（(1)－⑥－ウ）

【事業概要】

飛鳥地域の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、金属工芸関連遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の調査として、山田寺出土部材の研究を行う。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　石橋茂登

【スタッフ】

丹羽崇史（学芸室研究員）、成田聖（前学芸室任期付研究員）

【主な成果】

(1) キトラ古墳、高松塚古墳壁画に関する研究を継続した。
(2) 飛鳥寺塔心礎出土品の再整理を継続した。
(3) 川原寺裏山出土塑像の再整理を実施した。
(4) 日光男体山山頂出土鏡の分析を実施した。
(5) 山田寺出土部材の計測調査を継続した。

【年度実績概要】

(1) 25 年 10 月 24 日に高松塚古墳壁画模写を作成した画家のうち今井珠泉氏から作成時の状況などを聞き取りした。25 年 12 月 16 日に高松塚古墳壁画模写の高精細デジタル撮影を行った。キトラ古墳壁画については平成 25 年度撮影の最新の壁画写真を用いて展示するとともにカタログを作成した。
(2) 昭和 31、32 年に奈良国立文化財研究所（当時）が行った飛鳥寺の発掘調査に際して、塔心礎から出土した資料を再分類し、種類ごとの員数等を確認する作業を行い、成果の一部を平成 25 年度春期特別展にて展示し図録を刊行した。その後、金属製品などの保存状況や形態などの基礎情報を整理する作業を継続した。
(3) 川原寺裏山出土塑像（明日香村所蔵、当館保管）について、保存状況や形態などの基礎情報を整理する作業を実施した。
(4) 栃木県日光二荒山神社の神体山である男体山山頂の祭祀遺跡から出土した青銅鏡について分析し、成果の一部をミニ企画展として公開し、研究図録を作成した。
(5) 第 2 展示室で展示している山田寺東回廊部材について、継続的に計測調査を行い、データを集積した。



高松塚壁画模写を見る今井画伯

【実績値】

研究図録数 1 冊（①）
山田寺部材計測データ 1 年分
（参考値）
カタログ 1（②）
図録 1（③）

【備考】

研究図録
①飛鳥資料館研究図録第 17 冊『日光二荒山神社中宮祠宝物館蔵鏡図録』2014.3
カタログ
②飛鳥資料館カタログ第 29 冊『キトラ古墳壁画発見 30 周年記念　白虎　玄武　朱雀　青龍』2014.1
図録
③飛鳥資料館図録第 58 冊『飛鳥寺 2013』2013.4

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4163

自己点検評価調書

研№22

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：高松塚壁画模写作成の関係者が高齢化・他界するなかで当時の状況の聞き取りができ、貴重な参考情報を得た。キトラ古墳壁画写真は特別公開カタログにあわせて最新画像を公表することができた。
独創性：飛鳥寺資料の再整理の成果を、研究と調査記録を総合した展示として紹介できたのは当研究所ならでは。日光男体山出土青銅鏡のまとまった展示、分析はこれまでなく、貴重な機会となった。
発展性：飛鳥寺、川原寺の資料は今後の基礎資料となり、研究の進展に資する。古墳壁画・模写の精細な写真も実物にかわり広く公開活用され、研究の基礎資料となることが期待される。日光男体山出土品については銅鏡以外の出土品、あるいは他遺跡出土品との比較検討を進めるための資料ともなる。
継続性：東アジアの古代金工に関しては、17 冊の研究図録を刊行している。また古墳壁画についても、資料の蓄積が進んでいる。

２．定量的評価

観点	研究図録数	山田寺部材 計測データ				
判定	A	A				

判定理由
研究図録数：目標（年１冊以上）を達成できた。
山田寺部材計測データ：目標（１年分）を達成した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	出土品や部材データに関する着実なデータの蓄積とともに、最新の機器による精細な壁画・模写の写真撮影によって現状記録とともに公開活用の素材を整えることができた。外部所蔵の貴重な資料も分析するとともに展示企画、図録といった形で国民に情報提供や鑑賞の機会を与えるなど、多角的な展開をしている。今後も継続的に調査研究を続けるとともに資料館の活動に生かしていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	データだけでなく、写真など各種の資料の蓄積も進み、研究図録の刊行も順調である。保存科学的分析や展示などともリンクした研究と成果発表を行っており、次年度以降も当研究所の体制を生かした総合的な研究を行っていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4164

（様式 1）

業務実績書

研№23

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力（(1)－⑥－エ）

【事業概要】

（１）中国社会科学院との共同発掘調査成果の整理と次期共同研究への準備を行う。（２）遼西地域東晋十六国期都城文化関連遺跡・遺物の調査を行う。（３）鞏義市黄冶唐三彩窯跡等出土品の共同研究を実施する。（４）日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究と発掘調査交流を、韓国国立文化財研究所と行う。（５）国立カザフ大学との研究交流を行う。（６）河南省文物考古研究所と河南省霊井遺跡出土細石刃石器群の研究協力を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】

（１）玉田芳英、今井晃樹（以上、都城発掘調査部）他５名(呉 炎亮・李 新全・華 玉冰・李 竜彬・李 霞)、栗山雅夫(企画調整部)、小澤 毅（埋蔵文化財センター）
（２）小野健吉、小池伸彦、清野孝之・川畑 純・諫早直人(以上、都城発掘調査部)、栗山雅夫(企画調整部)、他５名(呉 炎亮・李 新全・華 玉冰・李 竜彬・李 霞)
（３）玉田芳英、森川 実、降幡順子他６名(以上、都城発掘調査部)、難波洋三（埋蔵文化財センター)、丹羽崇史（企画調整部）他５名（孫 新民・白 宜鄭・李 勝利・邢 穎・梁 法偉）
（４）玉田芳英、清野孝之、馬場 基、青木 敬、廣瀬 覚、庄田慎矢、諫早直人、小田裕樹、石田由紀子（以上、都城調査部)、他 24 名（卓 京柏、朴 晟鎭、南 浩鉉、他）
（５）森本 晋、加藤真二(以上、企画調整部)
（６）加藤真二(企画調整部)

【主な成果】

（１）北魏洛陽城宮城における共同発掘調査の遺物整理作業、渤海・遼金代都城遺跡の踏査を実施した。
（２）三官営子遺跡の踏査を実施。金嶺寺遺跡出土瓦・大板営子遺跡出土鉄製品・銅製品の調査を実施した。
（３）唐三彩関連資料の調査を実施した。
（４）日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施した。
（５）カザフスタン関係資料の収集を実施した。
（６）報告書原稿を河南省文物考古研究所に納品した。

【年度実績概要】

（１）25 年 8 月に 4 名の研究員を河南省洛陽市に派遣し、北魏洛陽城宮城出土瓦を調査した。同年 9 月に黒龍江省、内蒙古自治区に研究員 6 名を派遣し、渤海～遼金代都城の遺跡踏査と遺物調査を実施した。
（２）25 年 11 月に 4 名の研究員を遼寧省瀋陽市・北票市・朝陽市に派遣し、三官営子遺跡の踏査と金嶺寺遺跡出土瓦 20 点余り、ならびに大板営子出土鉄製品・銅製品 60 点余りの調査を実施した。
（３）25 年 6 月に 2 名、9 月に 3 名を派遣し、今後の協議及び河南省鄭州市・四川省にて唐三彩関連資料を調査した。11 月に 5 名の研究員を河南省から招聘した。このほか、河南省出土唐三彩等の釉薬・胎土の分析を進め、結果は『華夏考古』に掲載の予定。



四川省における唐三彩の調査（平成 25 年 9 月）

（４）研究者 7 名を派遣し、2 名を招聘した。25 年 11 月 8・9 日にソウル市清渓川文化会館にて「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会」を開催し、5 名を派遣した。発掘調査交流では各 1 名を約 2 ヶ月間、派遣・招聘し、研究報告会も実施した。
（５）カザフスタンの考古資料に関わる文献の収集を行った。
（６）石器群の整理報告書を執筆し、25 年 11 月に河南省文物考古研究所に原稿類を納品し、実測図などを返却した。

【実績値】

論文等数：７件（①③④ほか４件)、報告書等数：１件（②)、口頭発表等数：８件（⑤ほか７件)

(参考値)

記録作成数：（１）デジタル写真 3,255 カット、遺物実測図 101 点、（２）デジタル写真 482 カット、（３）写真・調書等の記録多数

【備考】

①今井晃樹「漢魏洛陽城　北魏宮城西南隅の調査成果」『奈良文化財研究所紀要 2013』2013.6
②独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所／大韓民国国立文化財研究所『日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究』2014.2
③小池伸彦「遼寧省文物考古研究所との共同研究」『奈文研ニュース』NO.52、2014.3
④小池伸彦「中国遼寧省文物考古研究所との共同研究」『奈良文化財研究所概要 2014』2014.6(予定)
⑤馬場 基「東アジア文字文化研究の深化を目指して」　日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会　2013.11.8

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4164

自己点検評価調書

研№23

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：成果報告を迅速に作成し、研究発表や論文、報告書等で速やかに公表を行った。韓国国立文化財研究所との共同研究は、計画の中間にあたるため、韓国にて中間成果発表会が行われ、日本側の成果を発表すると同時に研究の進展を確認することができた。
独創性：アジアの考古学に関する最新情報を入手・公開し、日本における事例との比較検討などを行うことができた。中国社会科学院との共同研究では、北魏洛陽城の出土瓦について、日本で長年培ってきた分析手法を取り入れて調査・研究を推進している。
発展性：海外の諸研究機関との密接な連携にもとづいた、日本文化の源流を探るための基礎的研究の蓄積をすることができた。河南省との共同研究は、再来年度から新たな計画に基づいた共同研究に入るが、それを見据えて調整を始めており、これまでの研究の蓄積を踏まえて次なるステップへ進もうとしている。
効率性：各事業では、数名の研究員を海外に派遣し、限られた時間内で効率的な資料収集を行うことができた。韓国の中間成果発表会は、前日入国、発表会後帰国という１泊２日の行程であった。大変効率的とも言えるが、予算が許せば、研究会後の意見交換などの時間も確保したかった。
継続性：各事業において、膨大な調査資料の詳細な調書作成や、高精細な写真撮影を継続的に実施し、資料の充実を図った。（６）の事業は今年度が最終年度であり、終了のための手続きを行うことができた。

２．定量的評価

観点	論文等数	報告書等数	口頭発表等数			
判定	A	A	A			

判定理由
論文等数：目標に沿うかたちで行うことができた。
報告書等数：予定したものを刊行することができた。
口頭発表等数：目標に沿うかたちで行うことができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中国、韓国を中心として、関係研究機関との密接な連携のもと、遺跡・遺物を考古学・文献史学・建築史など複数分野にまたがって調査し、相互の研究を向上させたほか、各事業を計画通りに実施することができた。 各事業とも、これまでの共同研究によって、日本の研究のみならず海外における研究の推進にも寄与している。また、人的な交流も熟成され、信頼関係は確固たるものとなりつつあり、それを活かしてさらなる研究を推進していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	いずれの研究も計画通りに実施し、成果をあげることができたことから順調と判定した。 これらの国際共同研究は、都城発掘調査部を中心として担当している。（６）の事業は今年度が最終年度であり、来年度からは（１）～（４）を中心として研究を継続していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4171
（様式 1）

業務実績書

研№24

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究（(1)－⑦）

【事業概要】文化的景観及びその保護に関する基礎的・応用的な調査研究を推進するとともに、諸外国との比較のもとに、我が国の文化的景観保護に関する情報の収集・検討等を行う。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会を主催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に取り組む。なお、例年開催の研究集会については、計画の策定と実施をテーマとして、遺跡等のマネジメントに関する研究集会と合同で開催する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	景観研究室長　平澤毅

【スタッフ】
惠谷浩子（景観研究室研究員）、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）、
広田純一（岩手大学教授・客員研究員）、小浦久子（大阪大学准教授・客員研究員）

【主な成果】
文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、“「文化的景観学」検討会”を開催したほか、現地調査等を行い、論文等を通じて成果を報告した。また、『World Heritage Papers 26』の翻訳作業等を進めた。

【年度実績概要】
(1)基礎的・体系的研究
- 「文化的景観学」検討会を、25 年 6 月 2 日、8 月 3・4 日、10 月 27 日、26 年 1 月 26 日、3 月 18 日に開催し、文化的景観学の体系化に向けて検討を進めた。
- 諸外国との比較研究のため、フランスに関する現地調査を 9 月に行った。サン・テミリオン管轄区、ブルゴーニュ、シャンパーニュの現地調査のほか、ボルドー建築造園高等専門学校の専門家へのヒアリング等を行った。（紀要 2014 に報告の予定。）
- 研究集会［テーマ「計画の意義と方法～」］を、26 年 1 月 24・25 日に、遺跡整備研究室と合同で開催した。特別講演 1 件と基調講演 2 件、2 日目は報告 4 件と総合討議を行った。アンケート[回収率 58%]では、94%から有意義であったとの回答を得た。
- 上記の研究集会に合わせ、『講演・報告資料集』(備考①) を作成したほか、昨年度開催した研究集会（第 5 回）の成果報告書（備考②）を刊行した。
- 『World Heritage Papers 26 World Heritage Cultural Landscapes: A Handbook for Conservation and Management』の翻訳作業等を進めた。


「文化的景観学」検討会（25 年 8 月 3・4 日）

(2)文化的景観保護に関する現地調査・研究
- 重要文化的景観等に関する最新の情報を収集・整理し、関連情報とのリンクを付してウェブサイト上に公開した。
- 宇治市、四万十市等をフィールドに、それぞれの地方公共団体担当部局への協力を通じて、文化的景観の価値評価及び整備計画に関する検討を行った。
- 全国の文化的景観に関する協議等により、文化的景観の価値評価及び保護のあり方について検討を進めた。

【実績値】
研究集会等開催数：6 回
　研究集会　1 回①（遺跡整備研究室と合同開催、参加者数／地方自治体職員・研究者・民間事業者等、148 名）
　検討会開催数 5 回
刊行図書数：1 冊②
論文等数：19 件（講演・発表等 9 件③、論文等 10 件④）

【備考】
研究集会
①奈良文化財研究所『平成２５年度遺跡整備・景観合同研究集会　計画の意義と方法～計画は何のために策定し、どのように実施するのか？～　講演・報告資料集』2014.1
刊行図書
②奈良文化財研究所『文化的景観研究集会(第５回)報告書　文化的景観のつかい方』2014.1
論文等
③平澤毅「文化的資産としての名勝地」京都造園懇談会，2013.5　ほか 8 件（詳細については統計表参照）
④惠谷浩子「文化的景観のつかい方」奈良文化財研究所紀要，2013.6　ほか 9 件（詳細については統計表参照）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4171

自己点検評価調書

研№24

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：研究集会及び「文化的景観学」検討会を通じて、2004 年に創設された文化的景観保護制度の今日的な運用について、特に保存計画及び地域総合施策の観点から検討を深めたことは、極めて時宜に適っている。
独創性：現地調査を通じて保護手法に関する検討・提案を行い、文化的景観保護行政及びその学術研究の向上に貢献した。
発展性：国内事例に関する調査研究並びに文化的景観関連文献の翻訳及びフランスにおける取組の現地調査等を踏まえつつ、国内外の文化的景観に関する検討を発展的に進めた。
継続性：研究集会及び「文化的景観学」検討会のほか、現地調査や情報収集を通じて、従前の成果を踏まえつつ、文化的景観の保存と活用に関する継続的検討を進めた。
正確性：文化庁との連携の下に、国内の文化的景観に関わる情報の把握・収集及び現地調査において、詳細かつ正確な把握・検討・公開等を行った。

２．定量的評価

観点	研究集会等開催数	刊行図書数	論文等数			
判定	A	A	A			

判定理由

研究集会等開催数：研究集会については当初予定の１回を達成し、極めて好評であった。また、検討会については、５回開催し、文化的景観学の体系化に関する検討を進めることができた。
刊行図書数：計画通り１冊の報告書を刊行した。
論文等数：十分な成果が認められる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	１：文化的景観に関する研究集会等の実施による保護行政や学術研究への貢献、２：宇治市、四万十川流域などを対象とした現地での調査研究、３：文化的景観に関する重要な海外文献の翻訳、４：報告書の刊行や学会・学術雑誌等での研究成果発表等、年度当初の計画を的確に遂行することができた。これらの調査研究の取組を発展・継続させ、さらに充実を図っていく必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化的景観に関する研究集会の開催や現地調査の実施等により、当初の計画通り研究を遂行することができた。特に、研究集会では、計画の策定と実施の観点から文化的景観保護の在り方を深め、また、現地調査・研究では、保存計画や整備・活用計画の策定について検討を進めることができた。 次年度以降、文化庁との連携・協力を深めつつ、「文化的景観学」検討会の取組を中心として、個別の課題に対する検討も重ね、文化的景観に関する学術上及び保護行政上の検討をさらに深めていくこととしている。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4181
（様式 1）

業務実績書

研№25

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺跡データベースの作成と公開（(1)－⑧－ア）

【事業概要】
官衙関係遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究等を継続し、資料収集とデータベース化を進めて順次一般公開するとともに、寺院遺跡の発掘調査で抽出すべき基本的属性についてのデータ収集と分析を行い、一般公開する

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
山中敏史（元文化遺産部長、客員研究員）、森本　晋（国際遺跡研究室長）、馬場　基（都城発掘調査部主任研究員）、青木　敬（考古第二研究室研究員）、小田裕樹（考古第二研究室研究員）、海野　聡（遺構研究室研究員）

【主な成果】
官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における長舎遺構を重点的に収集し、宮都や居宅・集落まで範囲を広げて全国的に網羅する『長舎遺構資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から中部地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して資料収集を行った。

【年度実績概要】
・ 平成24年度以前に刊行された古代の遺跡全般に関する報告書のめくり作業を行い、長舎遺構の資料を全国的に収集・整理した。
・ 今年度に開催した第17回古代官衙・集落研究集会「長舎と官衙の建物配置」の資料集成（①）を作成した。
・ 報告書のめくり作業を行い、国府・郡衙・城柵やその他の官衙関係遺跡等の資料を追加収集・整理した。また、平成20年度までに刊行された古代寺院に関する報告書のめくり作業を行った。
・ 新たに収集した官衙関係遺跡と古代寺院遺跡の資料をデータベース化し、新出資料も追加して一般公開した。
・ 古代寺院遺跡の建物遺構を中心とした属性分析を進め、それにもとづく寺院遺跡データベース構造を作成して資料収集と整理を行い、中部地方以西のデータを奈良文化財研究所のウェブサイトで一般公開した。
・ 平成21年度以前に刊行された古代の遺跡全般に関する報告書のめくり作業を行い、井戸のデータベースの作成・公開に向けた資料収集を実施した。



古代寺院建物データ入力画面（部分）

【実績値】
データベース入力・補訂件数
官衙関係遺跡データベース：遺跡数約500件、文献データ約700件、
建物データ約3,000件、画像データ約4,000件、
井戸データ約100件
古代寺院遺跡データベース：遺跡数約100件、文献データ約200件、
建物データ約150件、画像データ約250件
公開データ数：官衙関係遺跡：遺跡数約1,700件、文献データ約16,500件、建物データ約20,100件など
古代寺院遺跡：遺跡数約1,300件、文献データ約14,200件、建物データ約3,000件など

（参考値）
研究集会当日資料集：１件（①）

【備考】
①青木敬ほか編『長舎遺構資料集成』第 17 回古代官衙・集落研究会当日資料、2013.12.

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4181

自己点検評価調書

研No.25

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性	独創性	
判定	A	A	S	A	A	

判定理由
適時性：近年需要が多い古代官衙関連遺跡と古代寺院遺跡のデータベースを充実させ、活用に供した。
発展性：必要な項目が生じた場合は追加するなど、データベースの改良に努めている。
継続性：機器の改良等を行い、被災地復興の調査にも役立っている。
正確性：新出資料の追加に加え、変更を生じた事項についても改定を行った。
独創性：属性分析の成果をふまえて、さまざまな分析に役立つ多彩な項目を設置している。

2．定量的評価

観点	データベース入力・補訂件数	公開データ数				
判定	A	A				

判定理由
データベース入力・補訂件数：
毎年増加する官衙遺跡のデータ補塡・追加入力、及び中部地方の古代寺院・井戸の入力を行い、目標を上回った。また、全国的に古代の遺跡全般における長舎遺構の資料を収集した。集成した事例数は約1,400例にのぼり、遺跡単位で図表にまとめた長舎遺構資料集成を作成するなど、十分な成果が認められる。
公開データ数：目標である55,000件を達成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	データベース入力件数の目標値を大幅に上回ったほか、古代の遺跡全般における長舎遺構の資料収集とデータベース化を行い、資料集成を作成した。各地で官衙遺跡の調査研究にあたっている人々にとって、情報の共有化につながると同時に、遺跡から抽出すべき遺構の属性についての指標を提示するものであり、寄与するところが大きい。古代寺院遺跡のデータベースでは、中部地方以西のデータを一般公開できた。今後も、新発見の官衙関係遺跡データを継続的に収集・整理するとともに、全国に及ぶ古代寺院のデータベースを作成し、逐次公開していきたい。また、これにくわえて、発掘調査で検出例の多い井戸遺構についても属性分析を行い、整理・収集のうえデータベース化することにより、官衙関連遺跡の調査や建物遺構分析における新たな指標を示すことができるよう努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	官衙関連遺跡について、新出資料の補充を含めたデータベースの作成を着実に進め、一般公開するとともに、官衙以外の居宅や集落における長舎遺構についてもデータ収集を行い、データベースのいっそうの充実化を図っている。一方、平成21年度に構築した寺院遺跡のデータベースでは、中部地方以西のデータを網羅的に収集・整理してデータベース化し、一般公開することができた。今後は、官衙関連遺跡及び寺院データの収集とデータベース化を継続し、利用しやすいかたちでの一般公開をさらに推進していくことが必要である。また、古代の井戸についても、居宅や集落遺跡などに範囲を拡大してデータ収集を実施し、発掘調査や建物遺構分析における新たな指標を示すことができるよう努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4182

（様式 1）

業務実績書

研№26

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査（(1)－⑧－イ）

【事業概要】

標記プロジェクトに関して、（１）考古遺物の非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用研究、（２）高エネルギーＸ線ＣＴ法及びＸ線ＣＲ法の応用研究、（３）漆製遺物や塗装材料などの分析法の実用化とデータベース作成、（４）鉄製遺物の埋蔵環境調査、（５）文化財の収蔵・展示環境についての研究集会の開催、に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】

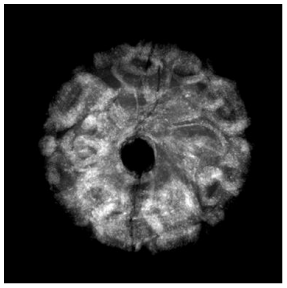
脇谷草一郎（保存修復科学研究室研究員）、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、赤田昌倫（保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）佐藤昌憲（京都工芸繊維大学特任教授、客員研究員）、肥塚隆保（神戸女子大学非常勤講師、客員研究員）

【主な成果】

（１）鉱物の標準試料のラマンスペクトルを集積するとともに、顔料やガラス、石製遺物のラマンスペクトルを取得した。
（２）遺跡から出土したトンボ玉のＸ線ＣＲ撮影及びＸ線ＣＴ撮影を実施することにより、製作技法を明らかにした。
（３）木造建造物の塗装の彩色調査を行い、使用された色料について明らかにした。
（４）金属製遺物出土遺跡の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵環境が金属製品の腐食に与える影響の解明に取り組んだ。
（５）「文化財の収蔵・展示環境」をテーマとした研究集会を開催した。

【年度実績概要】

（１）薬師寺東塔の彩色に用いられた赤色顔料についてレーザーラマン分光分析を実施し、鉛丹であることを明らかにした。また、福岡県糸島市三雲井原遺跡ヤリミゾ地区出土の黄緑色ガラス小玉に含まれる黄色顔料についてレーザーラマン分光分析を実施し、人工黄色顔料の錫酸鉛が用いられていることを明らかにした。
（２）宮城県涌谷町追戸Ａ－１横穴墓出土の斑点文トンボ玉などのＸ線ＣＲ撮影及びＸ線ＣＴ撮影を実施し、古墳時代の遺跡から出土するトンボ玉の施文方法や穿孔方法について明らかにした。
（３）薬師寺東塔における各部材の彩色調査を行い、鉄系赤色顔料と鉛丹、黄土が使用されていたことを明らかにした。また、昭和の修理で再塗装された部材の展色剤には膠を使用したことを明らかにした。
（４）鷹島神崎遺跡を対象として、鉄製遺物の劣化に及ぼす埋蔵環境の影響を検討するため、現地に暴露試験のための試料を設置するとともに、堆積物のｐＨ及び酸化還元電位と海水中の温度及び溶存酸素（ＤＯ）を測定した。
（５）「文化財の収蔵・展示環境」と題した研究集会を開催し、博物館や文化財行政における文化財の収蔵・展示環境の問題点や環境が文化財に与える影響と対策に関する最新の研究の動向について、情報交換と総合討議などを行った。



斑点文トンボ玉の CR 画像

【実績値】

発表件数：８件（①～③）
論文等数：５件（④～⑥）
研究集会開催件数：１件（⑦）

【備考】

発表

①田村朋美「日本出土インド・パシフィックビーズの化学組成の時期変化に関する研究」日本文化財科学会第 30 回大会、2013.7.7
②柳田明進・脇谷草一郎・高妻洋成「塩化鉄(Ⅱ)が付着した鉄製遺物の大気腐食に及ぼす湿度の影響」日本文化財科学会第 30 回大会、2013.7.7
③田村朋美「韓国と日本において出土した鋳造ガラス玉の考古科学的考察」3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia、2013.9.6　他５件

論文等

④田村朋美「松ヶ迫矢谷遺跡出土ガラス小玉の考古科学的研究」奈良文化財研究所紀要、2013.6.
⑤赤田昌倫・高妻洋成・神野恵「出土有機付着物の材料分析」奈良文化財研究所紀要、2013.6.
⑥高妻洋成・脇谷草一郎・田村朋美・赤田昌倫・番光・大林潤「法隆寺所蔵古材調査３―金堂古材の塗装分析調査―」奈良文化財研究所紀要、2013.6.　他２件

研究集会

⑦研究集会「文化財の収蔵・展示環境」、発表件数：10 件、参加人数：112 名、開催日：2014.2.21.

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4182

自己点検評価調書

研No.26

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：出土遺物の材質構造調査に非破壊的な手法が求められているなか、種々の調査機器を応用することで、より多様な遺物の材質構造調査が可能となり、古代の材料や技術に関する新しい知見を得ることができる。
また、平城宮跡など、遺物が埋蔵した状態で整備が行われる事例の増加にともない、埋蔵環境中での遺物の劣化機構の解明が求められている。
独創性：埋蔵環境中における鉄製品の腐食に関する基礎データを収集するため、海底遺跡をフィールドとして現地に暴露試験用の資料を設置するとともに、鉄製遺物の埋蔵環境を室内で再現した腐食実験を行った。このような手法を用いた海底遺跡を対象とした研究は他に類を見ない。
発展性：出土遺物の材質構造に関するデータを集積し、朝鮮半島などの近隣地域の類例との比較研究を発展させることで、生産地や交易関係を明らかにすることができた。
効率性：遺跡から大量に出土する玉類などの遺物に対しては、同時に多量の材質調査が可能な方法（ＡＲ法及びＣＲ法）を適用することで、迅速な調査を実施した。
正確性：蛍光Ｘ線分析法とレーザーラマン分光分析法に加え、非破壊微小点Ｘ線回折分析など、複数の分析法を併用することで、精度の高い材質調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	発表件数	論文等数	研究集会開催件数			
判定	S	S	A			

判定理由
発表件数　　：目標件数２件を上回る８件を達成した。
論文等数　　：目標件数２件を上回る５件を達成した。
研究集会開催件数：目標件数１件を達成した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができた。次年度は、翡翠や碧玉製品などにもラマン分光分析の応用範囲を広げていきたい。埋蔵環境調査に関しては、鷹島海底遺跡に本年度設置した暴露試験のデータ回収を行う予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調と判定した。次年度は、ラマン分光分析のさらなる応用範囲の拡大を予定している。埋蔵環境については、平城宮跡内および鷹島海底遺跡における環境調査を進め、これらの異なる埋蔵環境が遺物の劣化に及ぼす影響について検討を行う予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4183

業務実績書

研№27

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集（(1)－⑧－ウ）

【事業概要】土質遺構や装飾古墳の安定した公開・展示を行うことを目的とした環境調査、ならびに維持管理技術の開発的研究の一環として、遺跡を構成する土、石材および空気における熱・水分移動を推定し、それらが形成する環境を予測する解析技術に関する研究、及び土質遺構露出展示、装飾古墳の公開・展示に関する実地試験に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、脇谷草一郎、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）

【主な成果】
土質遺構の露出展示を実施予定の平城宮跡遺構展示館を調査フィールドとして、遺構土壌における熱・水分同時移動解析を行い、遺構土壌の適切な含水状態を維持し塩類析出を抑制するための環境条件、及び保護施設としての覆屋の仕様について検討した。ベトナムのタンロン皇城遺跡では遺構土壌の熱・水分移動特性に関する試験を行い、現地で実測調査を行った外界気象条件に基づき、埋め戻し保存法について検討した。ガランドヤ古墳では石室周辺の熱・水分同時移動解析を行い、石室内石材表面での結露発生を抑制するための手法として、石室内空気への熱源の使用、及び石室外の地盤を断湿材で覆うことの有効性を検討した。また、元町石仏では塩析出を抑制する手法を検討するため、最も重要な物性値である石材の透水性状について試験を行うとともに、磨崖仏表面への石材基質強化剤及び撥水剤使用の良否について検討した。

【年度実績概要】
- 平城宮跡遺構展示館では、水の浸み出しと乾湿の繰り返し、あるいは蘚苔類の繁茂や塩類析出による劣化が認められる。そこで、展示館内の温熱環境調査とともに、保護施設としての覆屋の仕様の問題点を抽出し、熱水分移動解析から覆屋の改善方法について検討した。
- ハノイ市タンロン皇城遺跡において、遺構土壌の熱・水分移動特性に関する試験を実施した。さらに、現地で測定された外界気象条件の結果に基づき、遺構を露出展示した場合と埋め戻し保存した場合の遺構土壌の含水状態変化について数値実験を行い、埋め戻し保存の有効性を検討した。
- 日田市のガランドヤ古墳では、復元する墳丘によって石材表面の結露発生を抑制し、装飾の保存を図る手法の検討を進めている。今年度は、夏期と冬期における換気回数や、夏期の結露発生時期に石室内空気に対し熱源を使用することで結露発生を抑制する方法について検討したほか、石室外部の地盤面を断湿材で覆うことで、結露発生の危険性を大幅に抑制し得ることを示した。
- 大分市の元町石仏では、繰り返し析出する塩類によって、石仏表面の剥離が進行し、その対策が喫緊の課題となっている。今年度は、塩を含む水分が石仏内をどのように移動するのか検討するために、石仏を構成する石材の水分移動特性と、塩水を含んだ場合の水分特性曲線（含水率―水分ポテンシャルの関係関数）の変化について検討した。



（上）遺構展示館、（下）法面における藻の成長と塩の析出

【実績値】
発表件数：３件（①～③）
論文等数：４件（④～⑦）

【備考】
①桑原範好、鉾井修一、脇谷草一郎、小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究」日本建築学会近畿支部、2013.6.16
②桑原範好、鉾井修一、脇谷草一郎、小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究」日本建築学会、2013.8.30
③石崎武志、脇谷草一郎、青木繁夫、溝口勝「ハノイ、タンロン皇城遺跡の土遺構の保存に関する調査研究」土壌水分ワークショップ、2013.12.21
④桑原範好、鉾井修一、脇谷草一郎、小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究」2013年度日本建築学会近畿支部研究発表会、『2013年度日本建築学会近畿支部研究発表会予稿集』2013.6
⑤桑原範好、鉾井修一、脇谷草一郎、小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究」2013年度日本建築学会大会、『2013年度日本建築学会大会予稿集』2013.8
⑥石崎武志、脇谷草一郎、青木繁夫、溝口勝「ハノイ、タンロン皇城遺跡の土遺構の保存に関する調査研究」土壌水分ワークショップ、『土壌水分ワークショップ2013予稿集』2013.12
⑦脇谷草一郎、高妻洋成「史跡ガランドヤ古墳の保存に関する研究－石室保護施設の設置による結露性状変化の検討－」『奈良文化財研究所紀要2013奈良文化財研究所、2013.6

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4183

自己点検評価調書

研No.27

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：遺跡の公開・活用が推進される現在において、適切な環境下で遺跡の安定性の維持を図りつつ、観覧に供する技術の開発は不可欠のものである。
独創性：本研究では、整備後に生じる遺構の劣化を予測し、それを回避しうる適切な環境を制御することで、遺構保存を実現することを目的としており、土や石材の強化処置を主とする既往の手法とはコンセプトを異にするものである。
発展性：個々の遺構を取り巻く環境は千差万別であるが、乾湿の繰り返しや塩類析出などの劣化要因は普遍的なものである。したがって、本研究から得られた知見は広く汎用性を有する。
効率性：フィールド調査で使用する機材は、取り巻く環境を異にする様々な遺跡で使用可能のものであることから、設備的投資の効率は高いと考える。
正確性：恒常的な高湿度環境など、継続的な環境調査は過酷な条件下で行われることが多いが、それらに対する耐性を備えた測定器具類を選定しており、得られたデータは充分な正確性を有すると考える。また、数値解析結果を実測値と比較することで、解析モデルの妥当性について十分な検討を行っている。

2．定量的評価

観点	発表件数	論文等数				
判定	A	A				

判定理由
発表件数：目標を達成した。
論文等数：目標を達成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究事業を当初の計画通り順調に達成することができた。次年度はさらに詳細な二次元の熱・水分同時移動解析を引き続き実施し、装飾古墳石室内の結露を抑制する環境制御法を検討するとともに、実測調査の結果と比較して、解析解の妥当性を検討する。さらに今年度は、新たに平城宮跡遺構展示館を研究フィールドとして調査研究を開始した。ここの土壌について熱や水分移動特性の試験を実施するほか、保護施設としての覆屋における問題点の抽出、数値解析に基づくその改善方法の提案などを行う予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業を当初の計画通り順調に達成することができたことから、順調と判定した。次年度の土質遺構の保存に関する研究では、土中水の水質や遺構土壌と接する室空気の温度湿度から塩類析出の詳細なメカニズムを検討しつつ、それらの析出を抑制する環境制御法について検討する予定である。また平城宮跡遺構展示館のように、覆屋の改修により遺構の状態を改善し得ると考えられる遺構について、数値解析に基づき、改善方法の提案を行う。装飾古墳の保存では、数値解析を応用して、一般公開の実施時期など文化財の公開・活用に資する知見の提供も目標として研究を進めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4211
（様式 1）

業務実績書

研№28

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財デジタル画像形成に関する調査研究（（２）－①）

【事業概要】
本研究では、着色仏画、彩色壁画・油彩画・日本画などを対象とし、文化財研究に資するデジタル画像の形成方法及びその応用のための手法（表示・出力）を開発し、広範な活用の方向性を研究する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	広領域研究室長　小林　公治

【スタッフ】
田中淳（企画情報部長）、山梨絵美子（副部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、城野誠治（専門職員）、早川泰弘（保存修復科学センター分析科学研究室長）江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）

【主な成果】
脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財に対して最先端の光学調査を行うことによって得られた高精細画像や特殊撮影画像を分析研究し、さらにその公開による広範な利用を目指して、本年度は宮内庁三の丸尚蔵館との共同調査研究として春日権現験記絵、奈良国立博物館との共同調査研究として国宝當麻裏板曼荼羅（當麻寺所蔵）他の調査・撮影を実施した。この他、経年変化で判読不能となったジアゾ式湿式青焼コピーの撮影による復元研究を継続して行った。

【年度実績概要】
本年度実施した他機関との共同調査研究
・宮内庁三の丸尚蔵館（「春日権現験記絵」第 8・13 巻の調査）
　可視光線マルチショット撮影、赤外線撮影（上下両方向）、蛍光撮影、蛍光 X 線撮影
・奈良国立博物館（国宝「當麻裏板曼荼羅」の調査）
　可視光線 6 ショット分割撮影・部分拡大撮影、赤外線分割撮影、蛍光写真分割撮影
・奈良国立博物館（大徳寺伝来　重文「五百羅漢図」の調査）
　可視光線全図・部分図撮影
　なお、この他に奈良国立博物館との研究協議会を 1 回実施した。


当麻寺本堂での調査風景

各種文化財の光学調査
・平等院鳳凰堂西面扉絵 日想観（平等院所蔵）
　近赤外線撮影、蛍光撮影、カラー撮影
・この他、所内外からの依頼を受け、以下 16 件の文化財光学調査を実施した。
　①二十五菩薩来迎図、②絵金屏風、③源氏物語図屏風、④黒田清輝「グレーの原」・「婦人像」、⑤「大磯鴫立庵」、⑥日本銀行貴賓室内ビロード友禅及び格子天井、⑦ミャンマー国内寺院、⑧牽牛子塚古墳夾紵棺破片、⑨素描「青年像」、⑩小石川後楽園螺鈿机、⑪落合左平次道次背旗、⑫臼杵磨崖仏、⑬バンコク・ラチャプラディット寺院扉部材、⑭鎌倉市内出土漆塗り籠手、⑮菱田春草「賢首菩薩」、⑯研究・分析資料

成果の公表
・これまでの調査研究成果のうち、佐野市立吉澤記念美術館所蔵 伊藤若冲筆「菜蟲譜」、平等院鳳凰堂西面扉絵 日想観 について本年度報告書を刊行したほか、昨年度調査を実施した萬鉄五郎「自画像」について、萬鉄五郎記念美術館「萬鉄五郎七変化」展図録『わが内なる自画像 萬鉄五郎 七変化』及びパネル展示で成果の一部を公開した。

退色劣化したジアゾ式湿式青焼コピーの復元研究
・戦前から昭和 40 年代頃まで事務文書複製などに盛んに使用されたいわゆる青焼コピーは時間の経過と共に退色し、その記載内容の判読が不能となる。昨年度実施した撮影による簡便な復元手法の開発のより普遍的な復元技術開発のため、今年度も引き続き研究を行った。

【実績値】
発表件数　1 件(①)、調査成果の公表数　3 件(②～④)、光学調査撮影件数　15 件

【備考】
発表件数：
①江村知子「人物の細部表現から見た「群れとしてのかたち」」第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「かたち」再考―開かれた語りのために―セッション 1 趣旨説明、東京文化財研究所、2014 年 1 月 10 日
調査成果の公表：
②萬鉄五郎記念美術館『わが内なる自画像 萬鉄五郎 七変化』2013.11
③東京文化財研究所『伊藤若冲　菜蟲譜　光学調査報告書』2014.3
④東東京文化財研究所　平等院鳳凰堂西面扉絵 日想観 光学調査報告書 2014.3

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4211

自己点検評価調書

研No.28

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：所内外の様々な要望に対する調査を実施でき、また調査成果の公表が期待されるため。
独創性：当研究所の光学的調査は、長年の調査経験に裏付けられたマルチショット・デジタル撮影などの多様な光学調査技術を駆使したものであることから。
発展性：こうした研究手法は今後の様々な研究で利用可能な汎用性を持つことから。
継続性：こうした調査や研究は先年度より継続的、かつ発展的に行っているため。
正確性：実施した調査研究内容はデータの再現性を備えており再検討が可能なため、十分な確実性を持つと言えるため。

2．定量的評価

観点	発表件数	調査成果の公表数	光学調査撮影件数			
判定	A	A	A			

判定理由
学会等での発表件数：充実した発表を行うことができたため。
調査成果の公表数：調査成果については多数の報告書の発刊によって十分な結果が得られたと考えられるため。
光学調査撮影件数：調査については所内外の様々な対象に対する調査を行えたため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	内容の充実した成果発表を行うことができ、また十分な成果を上げることができたためAとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度は積極的な調査を実施でき、また印刷媒体による成果の公表も十分に行えたことからほぼ順調であると評価する。来年度も引き続き調査や成果の公表に努めたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4221
（様式 1）

業務実績書

研№29

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の測量･探査等に関する研究（(2)－②）

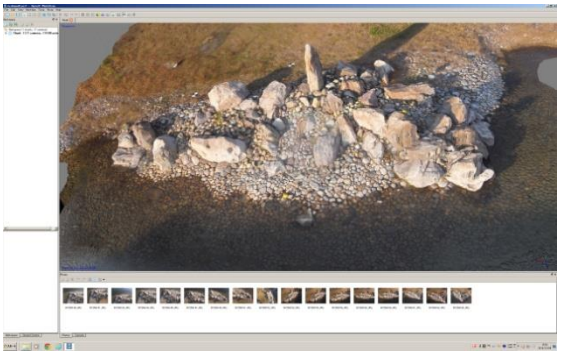
【事業概要】文化財保護に資する研究を主眼として、発掘調査の際の測量・計測による記録方法の高度化、非破壊的手段である探査による地下遺構の把握、その他遺跡を対象とした各種の研究法の開発と試験、活用方法の検討を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
金田明大（埋蔵文化財センター主任研究員）、西村康（ACCU 奈良事務所長・客員研究員）、西口和彦（桜小路電機、客員研究員）

【主な成果】
（1）三次元レーザースキャナーによる遺構・遺物計測の精緻化と迅速化を検討し、実用化を達成した。
（2）簡便で廉価な写真計測法を導入して試験を行い、実用化への見通しを確立した。
（3）アレイ式地中レーダー探査を導入し、探査試験を実施した。
（4）磁気探査機器の計測の高速化及び多プローブによる同時測定の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。
（5）各地の依頼により、計測及び探査を実施した。

【年度実績概要】
（1）三次元レーザースキャナーの計測試験を積極的に実施し、平城宮・京の調査や福島県の震災復興調査の現場において実際に計測し、図化を行った。従来に比べて省力化、精細化を達成した。
（2）写真計測法については、従来の 2 手法に加えて 4 種類の写真計測法の精度や作業効率、成果品の文化財記録における良否を検討し、有効な手法の検討を絞りつつある。また、文化財の記録に特化した計測の作業フローを確立するため、問題点とその解決方法に関しても検討を進めた。
（3）科学研究費の補助を受けて、アレイ式の地中レーダー探査機器を導入した。これについても平城宮及び東大寺で試験的な計測を行った。
（4）日本の磁気探査は傾斜地などで行われることが多く、作業の迅速化を図ることが困難であった。こうした課題を解決する方法を検討し、実際の遺跡で試験的な計測を実施して成果を得た。今後は作業の問題点を抽出し、いっそうの洗練化を図る予定である。また、多プローブによる同時測定試験も実施し、開けた環境にある遺跡についても磁気探査の有効性の検討を進めている。
（5）平城宮、東大寺東塔・西塔、薬師寺食堂、斑鳩大塚古墳、キトラ古墳（以上、奈良県）、鳩山窯跡（埼玉県）、十五郎横穴（茨城県）、窯下窯（岐阜県）、鬼の岩屋古墳（大分県）において遺跡探査を行った。また、平城宮大極殿、東院庭園、東大寺西塔、薬師寺東塔、薬師寺食堂、キトラ古墳（以上、奈良県）、専称寺、大悲山石仏（以上、福島県）において遺構や現状の三次元計測を実施した。遺物については、平城宮出土資料や山内清男考古資料などを中心に計測試験を行った。



平城宮東院庭園の写真計測試験成果

【実績値】
探査件数：10 件
計測件数：８件
発表件数：２件（①・②）
論文等数：２件（③・④）

【備考】
① 金田明大「震災復興に伴う遺跡調査への計測技術の利用にむけて」日本測量協会、2013.4.17
② 金田明大「アレイ式探査機による遺跡探査迅速化の試行」日本文化財科学会　2013.7.7
③ 金田明大「アレイ式探査機による遺跡探査迅速化の試行」『日本文化財科学会第 30 回大会研究発表要旨集』2013.7
④ 金田明大「掘らずに土の中をみる―遺跡探査の応用と成果―」『遺跡をさぐり、しらべ、いかす―奈文研 60 年の軌跡と展望―』2013.9

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4221

自己点検評価調書

研№29

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：両技術とも文化財の保護に不可欠のものであり、問い合わせや依頼件数が増加している。
独創性：機器の改良やワークフローの改善の基礎的な検討は達成しつつある。
発展性：両技術ともに今後の遺跡調査に不可欠のものであり、実際の運用法などのさらなる発展が期待されている。
効率性：探査機器の計測の効率化やレーザースキャナーの高速化など、従来に比べると飛躍的に向上している。今後も解析などの作業の迅速化を進めたい。
継続性：独法化以前の研究室の研究資産を引き継ぎつつ、その研究の蓄積をふまえて、現在の課題に合わせるかたちで研究を進めている。

２．定量的評価

観点	探査件数	計測件数	発表件数	論文等数		
判定	S	A	A	A		

判定理由
探査件数：依頼件数が極めて多いが、これらの依頼の多くを他の研究機関や企業へ配分し、昨年までの課題であった試験研究的な要素の高い対象のみに絞ることができた。この結果、試験的な探査を大学や他研究機関と連携しながら進めることができた。目標である５件を大きく上回っているため、Ｓとした。
計測件数：依頼件数が多く、今後いかに普及を図るかが課題となっている。
発表等数：目標である２件を達成している。
論文等数：依頼に関連したものが多いが、当初の計画を十分に達成している。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	探査では、地域ごとの環境条件に応じた手法の確立を目的に昨年度まで積極的に推進してきたが、反面、技術の検討や開発に充てる人的・予算的な余裕が失われていた。今年度はこれらを大きく整理し、試験的な作業を進めることができた。計測については新たに効果的な手法の検討が好成績を残しており、今後文化財の特性に応じた方法の確立を目的に研究を推進したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画を上回って達成しているものが多く、順調と判定する。改善すべき個所や基礎的な技術に関する検討と試験を行う時間の確保が昨年度に比して可能となり、課題となっていた試験を行うことができた。また、東日本大震災に伴う復興関係の調査など喫緊の課題に、本研究で培ってきた技術を早期投入することが要請されており、実際の支援に活用できたことは大きな成果であろう。科学研究費補助金で導入した機器とあわせて、次年度以降も基礎研究に研究資源を傾注したい。研究補助者の減少と補充に対応して、夏以降やや研究が停滞した。研究を推進する人材の育成も急務である。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4231
（様式 1）

業務実績書

研№.30

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	年輪年代学研究（(2)－③）

【事業概要】
出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財に対して年輪年代法による年代測定を中心とする調査・研究を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカスＸ線ＣＴやデジタル画像による調査手法は、非破壊を原則とする文化財調査に有効であるため、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。また、自然木の年輪年代学的基礎研究の他、木造文化財の樹種同定調査を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	埋蔵文化財センター長　難波洋三

【スタッフ】
大河内隆之（埋蔵文化財センター主任研究員）星野安治（年代学研究室研究員）、児島大輔（年代学研究室アソシエイトフェロー）、伊東隆夫（南京林業大学特別招聘教授、客員研究員）、光谷拓実（総合地球環境研究所元客員教授、客員研究員）、藤井裕之（奈良県教育委員会日々雇用職員、客員研究員）

【主な成果】
６都府県下 10 遺跡の出土木製遺物、４県下４棟の木造建造物、２ヵ国７府県下 10 件の木造美術工芸品、３県下３件の自然木について、年輪年代調査と樹種同定調査を実施した。このうち、１件の出土木製遺物及び１件の美術工芸品に対してマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置による調査を実施したほか、木製ではない３件の出土遺物の内部構造把握のため、同装置による非破壊検査を行った。また、これらの調査・研究成果の一部を論文等、学会等発表において公表した。

【年度実績概要】
- 考古学・建築史・美術史といった多分野にわたる 24 件の木造文化財を対象とした年輪年代調査及び樹種同定調査を行った。
- このうち法隆寺金堂古材調査では、年輪数が多く、部材表面でデジタル画像による非破壊年輪計測ができる 100 点以上の部材を悉皆的に調査した。当初材だけでなく中近世の修理部材についても対象とし、法隆寺金堂の建立年代及び建立後の修理の経過を推定する資料を得ることを目的とした。
- 暦年標準パターンの年代的・地域的拡充を行うため、現生木及び自然埋没木を対象とした基礎データの蓄積を継続した。
- 切片の採取が困難な美術工芸品について、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いた非破壊での樹種識別を目指し、基礎的な検討を行った。
- デバイスの交換により高解像度・高出力化が図られたマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いて、既存の装置では不得手であった保存処理済出土木製遺物への応用を行うとともに、ガラス製遺物及び骨製遺物等の非破壊での内部構造把握などに一定の成果を得た。
- 以上の調査・研究成果の一部を、論文等及び学会等における口頭発表やポスター発表において公表した。


個人蔵百万塔の調査風景

【実績値】
論文等数：３件（①～③）
発表件数：３件（④～⑥）

【備考】
論文等
① 児島大輔「福寿寺から大養徳国金光明寺へ―東大寺前身寺院に関する二三の問題―」『てら　ゆき　めぐれ　大橋一章博士古稀記念美術史論集』2013.4
② 吉川聡、鈴木智大、海野聡、赤田昌倫、児島大輔「内山永久寺の扁額」『奈良文化財研究所紀要 2013』2013.6
③ Junko Kitagawa, Toshiyoshi Fujiki, Kazuyoshi Yamada, Yasuharu Hoshino, Hitoshi Yonenobu, Yoshinori Yasuda ‘Human impact on the Kiso-hinoki cypress woodland in Japan: a history of exploitation and regeneration’ Vegetation History and Archaeobotany, 2013.12

発表等
④ 星野安治、米延仁志、安江恒、野掘嘉裕、光谷拓実「下北半島産ブナ標準年輪曲線を用いた夏気温復元の可能性」日本地球惑星連合 2013 年大会、2013.5.23
⑤ 星野安治、大山幹成、米延仁志「秋田県森吉家ノ前Ａ遺跡出土材を用いた年輪考古学的研究」日本地球惑星連合 2013 年大会、2013.5.23
⑥ 星野安治「深見池年縞堆積物のクロスデーティング」深見の池調査研究発表会、2013.11.10

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4231

自己点検評価調書

研№.30

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：建造物や木彫像の解体修理、あるいは木製遺物の出土に際して迅速に対応することができた。
独創性：年輪年代法は、対象木材の年代を１年精度で測定することができ、実用化されている自然科学的年代測定法の中でも卓越した方法と言える。
発展性：マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の能力向上により、対象試料を拡大するなど、その利用価値を多角的に高めている。
効率性：デジタル画像による調査手法を活用し、調査点数の向上を図ることができている。
継続性：暦年標準パターンの拡充を行うため、全国各地の様々な時代の年輪データを継続的に収集している。
正確性：照合が成立し公表している年代は、統計学的にも極めて正確性が高い。

２．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文等数：目標を達成した。
発表件数：目標を達成した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的、定量的に目標を上回る実績を残すことができたため、Ａと判定した。デジタル画像を用いた手法による調査点数の増大、またマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の活用による対象試料の多様化により、迅速かつ正確な対応がより強く求められてきているため、次年度は調査・研究のいっそうの効率化を図ることで、適時的に応えられる体制を整えたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査・研究事業をほぼ計画通り遂行できており、順調と判定した。今後は、年輪データの蓄積、適応樹種の拡大、さらにはマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の活用といった継続的かつ発展性のある調査・研究事業をこれまで以上に推進していきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4241

業務実績書

研№31

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	動植物遺存体による環境考古学的研究（(2)－④）

【事業概要】
動植物遺存体による環境考古学的研究を継続的に実施する。また、各種計測機器とマイクロスコープを活用して出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	埋蔵文化財センター長　難波洋三

【スタッフ】
山崎　健（研究員）、松井　章（前埋蔵文化財センター長、客員研究員）、丸山真史（前橿原考古学研究所非常勤職員、客員研究員）、菊地大樹（前アソシエイトフェロー・客員研究員）

【主な成果】
震災復興事業に伴う発掘調査に対する支援を行うとともに、幅広い時代の動植物遺存体の分析を進め、その研究成果を国内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等での発表・講演のほか、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製した。

【年度実績概要】
・　東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査に対する支援を継続的に行った。波怒棄館遺跡（宮城県）では迅速かつ効率的な発掘調査を可能にするために現地で作業を実施し、堂の前遺跡（岩手県）では出土した動物遺存体の整理作業を行った。
・　南鴻沼遺跡（埼玉県）、丸山Ｂ遺跡（東京都）、六反田南遺跡（新潟県）において、動物遺存体の調査方法や整理作業に関する指導助言を行った。
・　小竹貝塚（富山県）、内田貝塚（愛知県）、膳所城跡（滋賀県）、雲宮遺跡（京都府）、難波宮跡、大坂城跡（以上、大阪府）などから出土した動物遺存体を分析して、報告書を執筆した。
・　藤原宮朝堂院朝庭、平城宮跡東院地区、西大寺旧境内（以上、奈良県）において、古環境復原を行った。


宮城県波怒棄館遺跡における復興支援

・　継続的に実施している現生標本の収集と公開では、東アジアで展開している蒙古系統のウマの成獣（雌雄）と幼獣の動物骨格標本を収集し、国内外からの標本見学に対応した。
・　研究成果の発信として、日本動物考古学会、日本植生史学会、古代学研究会、日本中国考古学大会、Society for American Archaeology などの学会で発表を行った。
・　社会還元や普及事業として、平城宮跡資料館、飛鳥資料館、神戸市埋蔵文化センター、中学生の職場体験、親子のための奈文研たんけんツアーなどで、一般向けの企画展や講演を行った。

【実績値】
論文等数：９件（①・②）
発表件数：12 件（③～⑤）

【備考】
論文等
①山崎健ほか「同位体化学分析を実施するための事前調査―破壊分析における事前調査の有効性―」『奈良文化財研究所紀要 2013』2013.6
②山崎健・丸山真史・菊地大樹ほか「脊椎動物遺存体」『小竹貝塚発掘調査報告』2014.3　ほか７件
発表等
③山崎健「生業研究からみた晩期前半の社会」東海縄文研究会シンポジウム、2013.7.20
④山崎健「東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査に対する支援の現状報告」日本動物考古学第１回大会、2013.11.16～17
⑤山崎健・松井章「動物考古学における現生標本の管理と公開」第 28 回日本植生史学会大会、2013.11.30　ほか９件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4241

自己点検評価調書

研№31

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	S	A	A	A		

判定理由
適時性：国や地方公共団体からの要請を受け、発掘調査や整理作業、報告書作成において環境考古学に関する協力や助言を行い、動物遺存体の分析も数多く担当した。特に今年度は、震災復興事業に伴う発掘調査の緊急の支援要請があり、円滑な復興と埋蔵文化財保護の両立が重要課題であったため、継続的に被災地へ赴いて支援作業に従事したことから、Ｓとした。
独創性：幅広い時代の動植物遺存体の研究を進めて、動物や植物の利用史を考古学から明らかにした。
発展性：非接触三次元レーザースキャナーによる現生骨格標本や出土動物骨の計測・測定を実施した。
継続性：研究の基礎となる現生標本を、継続的に収集・作製・管理している。

２．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文等数：当初の計画通りに、査読誌を含む論文等を刊行した。
発表件数：当初の計画通りに、学会や研究会において研究発表を行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価に関しては、復興支援を行いながら、幅広い時代の動物遺存体の調査研究を進めるとともに、研究の基礎となる標本の収集を積極的に進めることができた。定量的評価に関しては、動物考古学や環境考古学について、国内外で数多く論文等や学会発表を行った。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度も多くの学会や研究会などで講演や研究発表を行い、これまでに上げた成果を紹介してきた。復興事業に伴う調査は次年度以降も行われるため、継続的に支援していく。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4311
（様式 1）

業務実績書

研№.32

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究((3)－①)

【事業概要】
高温多湿な我が国において、文化財のカビの問題は非常に深刻である。2011 年の大震災によって津波などで被災した文化財をはじめ、年々大規模燻蒸が難しくなってきている博物館などの施設、さらに歴史的建造物等の環境制御が難しい場所において大規模被害を起こさないような予防法、系統的な対応について具体的な流れを示し、普及を目指す。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	生物科学研究室長　　木川りか

【スタッフ】
佐藤嘉則（研究員）、佐野千絵（保存科学研究室長）、犬塚将英（主任研究員）、吉田直人（主任研究員）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、小野寺裕子（研究補佐員）、岡田健（センター長）、藤井義久（客員研究員・京都大学教授）、小峰幸夫（客員研究員・(公財) 文化財虫菌害研究所研究員）、間渕創（客員研究員・三重県立博物館学芸員）、トム・ストラング（カナダ保存研究所上級保存科学者）

【主な成果】
(1) 本年度は津波被災民俗資料や写真等の微生物被害についての調査研究を行った。津波被災文化財に発生した微生物は共通して高い塩耐性があることを確認し、洪水などの淡水の被災より微生物被害が起きにくい傾向にはあるが、速やかな応急処置が必要であることを報告した。
(2) 環境制御が難しい屋外の装飾古墳などにおいて、浮遊・付着微生物制御のためのモニタリングや除菌清掃の機会を活用し、最適な微生物対策についての検討を行った。

【年度実績概要】
(1) 津波で被災した紙資料などの文化財の微生物被害について、昨年度から微生物被害の状況や、劣化原因となっている微生物の種類に関する調査を進めてきたが、今年度はさらに対象とする文化財を広げ民俗資料や写真等の調査を進めるとともに分離された微生物の水分活性や耐塩性など、生理的性質についても調査を実施した。海水被害では含まれる塩によってある程度微生物被害が遅延するものの耐塩性の菌群を中心に被害が起こることを確認し、凍結保存のような速やかな初期対応が必要であることを学会・論文等で報告した。
(2) カビを分解する酵素を応用した文化財の汚れの除去方法の研究に生物科学研究室として参加した。カビの種類によって溶菌酵素が異なることから、本年度は対象となるカビの種類に最適な酵素かつ文化財材質に影響を及ぼさない酵素の選定を進めた。
(3) 津波被災文書の応急処置法のひとつとして研究を進めているスクウェルチ法によって、どの程度海水由来の塩が除去できるかについて検討をすすめた。風乾による脱水処理と比べるとスクウェルチ法では一定量の塩分の除去効果が確認された。
(4) 古墳環境において、浮遊菌・付着菌量のモニタリングを行い、除菌清掃といった微生物制御対策の最適化について評価し、知見をまとめた。さらに石材や装飾を被覆・劣化する原因微生物や観覧者に健康被害を及ぼす可能性のある微生物についても調査を進めた。
(5) 学会で成果を発表し、紀要、学術雑誌などに研究成果を公表した。また昨年度の研究成果については国際研究集会のプロシーディングスにも英文で成果を公表した。


古墳環境での微生物調査

【実績値】
論文数　　2 件　（①、②、）
発表件数　2 件　（③、④）

【備考】
論文
① Sato, Y., Aoki, M., and Kigawa, R. (2014) Microbial deterioration of tsunami-affected paper-based objects: A case study, International Biodeterioration & Biodegradation ,88,pp.142-149
② 小野寺裕子・古田嶋智子・佐藤嘉則・稲葉政満・木川りか：津波等海水に浸水した紙資料のスクウェルチ・ドライイング法―処理後の塩分残留量の調査結果について―、『保存科学」53、2014.03
発表
③ 佐藤嘉則・木川りか・青木睦・赤沼英男・大林賢太郎：津波被災した紙質文化財等から分離した微生物の諸性質、文化財保存修復学会第 35 回大会　　2013.7.20-21
④ 木川りか・喜友名朝彦・立里臨・佐藤嘉則・杉山純多：キトラ古墳石室における微生物制御：石室から分離された微生物の紫外線（UV）耐性試験結果について、文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20-21

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4311

自己点検評価調書

研No.32

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	S	A	A	A

判定理由
適時性：被災文化財の微生物劣化の現象の調査・対策の策定については、緊急かつ必要なテーマであり、結果を国内の学会や海外の論文誌などに公開してきたため、十分に成果が認められる。
独創性：被災文化財の津波による生物被害についての詳細な研究成果は国内外にほとんどなく、新規性の高いデータを得ているので、成果が認められる。
発展性：得られたデータは、被災文化財の津波による生物被害に対応するうえで極めて貴重であり、今後の応用性が高いと考えられるので、十分に成果が認められる。
効率性：微生物の調査や試験には、相当な時間と労力を要するが、現在のスタッフで最大限の成果を達成したと考えている。
継続性：実施しなければならない生物劣化関係の調査、検体数は膨大であり、できうる限りの質を保ちながらデータを出してきているので、十分に成果が認められる。
正確性：検討方法や実験については、十分な技術と分析を行い、正確なデータを提供した。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文数：検討結果について速やかに公表することができた。
研究発表件数：主要なテーマについて検討結果をすぐに公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	被災文化財の津波による生物被害への対応など、発展性・応用性をもって進めており、成果の公表も順調であり、総合的にAと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画していたテーマについて、成果が認められた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4321

業務実績書

研№.33

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の保存環境の研究((3)－②)

【事業概要】
異常な高温・低温など最近の異常気象は文化財を展示収蔵する施設内の環境にも影響を与え、様々な問題を生じている。環境データや材料の水分特性など基本的なデータを用いた環境シミュレーションを行い、文化財の保管環境を考慮した博物館の省エネ化に関する研究を行う。また、展示ケース等から放散する汚染ガス対策の研究を行い、文化財収蔵空間で使用可能な材料を選択する試験法の試案をまとめる。総合的に文化財の保存環境の向上に資する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存科学研究室長　佐野千絵

【スタッフ】
犬塚将英（主任研究員）、吉田直人（主任研究員）、木川りか（生物科学研究室長）、佐藤嘉則（研究員）、呂俊民（客員研究員）、北原博幸（客員研究員・(株) トータルシステム研究所長）、間渕創（客員研究員・三重県立博物館学芸員）、古田嶋智子（研究補佐員）、林美木子（研究補佐員）

【主な成果】
本年度は主に気流解析と温湿度測定の比較を行い、気流解析の有効性を評価した。また、熱・換気回路網シミュレーションにより、改修工事が温湿度環境に与える影響について評価した。また、展示ケース建築材料のうち、コーキング剤について、放散速度を実測した。これまでに得られた内装材料の結果と合わせて、望ましい形の実験用の実大展示ケースを試作し、実スケールでの試験と評価を行うための準備を整えた。

【年度実績概要】
・コンピュータシミュレーションによる展示ケース内の温湿度分布と気流の解析
空調をすることができない蔵を文化財の収蔵施設として用いている美術館にて、温湿度測定・解析することにより、現状の把握と高湿度に対する対策の検討を行った。また、平成 26 年に開館を予定している三重県立博物館の壁付き展示ケース内の気流解析を行い、展示ケース内の温湿度測定結果との比較を行って、解析の有効性を評価した。熱・換気回路網シミュレーション（NETS）により、空調を行うことができない収蔵庫の温湿度解析を行い、耐震工事後の温湿度環境に与える影響を定量的に評価した。この研究結果は来年度、香港で開催される International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works2014 大会にて発表を行う予定である。

・展示ケース製作材料であるコーキング剤からの放散ガスの実測及び実大展示ケースの試作
コーキング材料について、有機酸及びアンモニア放散速度を実測した。この結果もあわせて、昨年度までに放散速度を実測した展示ケース内装材料（仕上げクロス、合板、ガラスコーキング材料）を用いて、材料の由来のわかる状態（入手時期、保管状況などの詳細情報）を用いて実験した。
また JIS で性能評価法が定まっていないパッシブ型空気清浄剤の性能評価について、放散速度と温度の相関を利用して展示ケース全体の「見かけの放散速度」を得てパッシブ型空気清浄剤の設置の有効性を定量的に判断できる手法を提唱し、既存の美術館の空気清浄化について 2 年間の実測を基礎に、新手法で評価可能であることを実証した。



右図：ガス放散速度実測済材料で作った展示ケースでの実験

・美術館、博物館の環境調査の実施
国指定文化財の公開のための館内環境調査を中心に館内環境改善に関する相談を受け、改善のための助言を行った。

・研究成果の速やかな公開
文化財保存修復学会などの年次大会において研究成果を発表した。また得られた成果を、当研究所紀要『保存科学』を中心に速やかに公開した。
これまでの研究の中間報告として、「濃度予測と空気環境清浄化技術の評価」の研究会を開催し、主に学芸員を対象に、内装材からの放散ガスの実態やその清浄化技術を解説し、最新情報を提供した(26 年 1 月 27 日、発表者：3 名、外部からの参加者数：93 名)。

【実績値】
論文数　2 件（①、②）　発表件数　3 件（③～⑤）　研究会　1 回

【備考】
論文
① 佐野千絵・古田嶋智子・呂俊民: 展示ケース内有機酸の低減対策の評価法、『保存科学 53』、2014.3
② 呂俊民・古田嶋智子・佐野千絵：展示ケース内有機酸濃度のギ酸/酢酸比、『保存科学 53』、2014.3
発表
③ 佐野千絵・古田嶋智子・呂俊民：展示ケース内有機酸量の季節変化と吸着シートによる対策の事例、文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20-21
④ 古田嶋智子・呂俊民・林良典・佐野千絵：文化財展示収蔵施設に用いられる内装材料の空気質への影響　その 3―コーキング材からの放散ガス、文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20-21
⑤ 呂俊民・古田嶋智子・佐野千絵：展示ケース内の有機酸濃度の解析、文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20-21

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4321

自己点検評価調書

研No.33

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	S	A	A	A

判定理由
適時性：博物館展示ケース内装材料についての基礎データ収集が終了した。公共性、緊急性が高く、十分に成果が認められた。
独創性：JISでは評価法が定まっていないパッシブ型の吸着剤について新しい評価法を提唱した。独創性が高く、十分に成果が認められた。
発展性：得られた成果を応用し、実大展示ケースの試作を行い、次年度にかけて空気清浄化の評価が可能になった点で、極めて高い成果と発展性が認められた。
効率性：実際に展示ケース作成に使われる資料を効率的に系統的に入手しており、効率的に業務進捗があった。
継続性：コーキング材料試験を終えたことで展示ケースに用いられる材料全てを網羅でき、信頼性の高いシミュレーションを実施できる状況となり、研究の継続性を担保した。
正確性：各使用材料の使用面積について正確に把握しており、気中濃度とシミュレーション濃度が精度よく合致し、十分な成果が認められた。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	研究会			
判定	A	A	A			

判定理由
論文数　：パッシブ型の吸着剤の評価について、新手法で性能評価する論文をまとめ、計測方法についても簡易法と精密法の比較検討する報告をまとめた。
発表件数：汚染ガスの放散速度の温度依存性を利用して、展示ケース内の汚染ガス濃度をシミュレーション予測できることを実証するなど、重要な発表を行った。
研究会　：プロジェクトの3年目にあたることから、これまでの研究成果を振り返る研究会を開催し、今後の研究進捗方針の微修正を加えるなど、効率的な研究見直しを行った。研究成果は高い評価を得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	空気の汚れは目に見えないため、一般には検知されにくく、専門性の高い研究である。今年度までの成果で『展示ケース内の空気質』について定量的に評価し、将来の濃度予測ができるようになり、研究会での評価は非常に高かった。次年度以降はより廉価な清浄化対策について検討する予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	コンピュータシミュレーションによる展示ケース内の温湿度分布と気流の解析、展示ケース製作材料であるコーキング剤からの放散ガスの実測及び実大展示ケースの試作、美術館、博物館の環境調査の実施、文化財保存修復学会、文化財科学会、室内環境学会、建築学会等の年次大会において研究成果を発表、紀要『保存科学』への成果掲載、研究会の開催など、年次計画をすべて完了した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4331
（様式 1）

業務実績書

研№.34

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（(3)－③－ア）

【事業概要】
小型可搬型機器によるその場分析、及び非破壊非接触技術による診断・解析手法の確立と実資料への応用を行う。絵画や彩色文化財に使われている顔料・染料の同定や褪色の評価、あるいは金属製文化財の材質調査や腐食生成物の分析などに関する調査手法の確立を行い、調査結果の蓄積と成果公開を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	分析科学研究室長　早川泰弘

【スタッフ】
岡田健（センター長）、佐野千絵（保存科学研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、三浦定俊（客員研究員、（公財）文化財虫菌害研究所理事長）、城野誠治（企画情報部専門職員）

【主な成果】
基礎的研究として、小型可搬型機器によるその場分析の適用性向上を目的に機器や治具の改良等を行い、分析対象とする文化財の適用範囲の拡大を図った。また、応用的研究として、平安～江戸期の日本絵画の彩色材料調査、及び工芸品等の材質調査を積極的に進め、データの解析と蓄積を図った。さらに、これまでに小型可搬型機器を用いて実施した光学調査の成果をまとめ、調査報告書を刊行した。

【年度実績概要】
5 年計画の第 3 年度として、以下に示す成果を得た。また、これまでの調査研究成果に関する報告書を刊行した。

(1) 小型可搬型機器に関する基礎的研究
- その場分析への適用性を向上させるために、ハンディ型蛍光Ｘ線分析装置の改良や新たな設置治具の製作を行った。安全かつ迅速に高位置・低位置において垂直・水平いずれの方向にも分析調査が実施できる状況を達成した。
- 小型分光器による可視反射スペクトルと蛍光スペクトルの高精度測定を実現するために、測定システム、測定条件等の検討を行った。また、蛍光寿命測定による材料分析、状態分析の可能性についても検討した。
- Ｘ線透過撮影に関して、現地調査に適応したＸ線照射装置固定用治具の設計を行った。また、現地調査においてイメージングプレートによる撮影をより効果的に行うための高遮光性ケース材料の検討を行った。

(2) 応用的研究
- 平安～江戸期の日本絵画の彩色材料調査、工芸品等の材質調査を積極的に進め、調査結果の詳細な解析を行うとともに、絵画技法・絵画材料に関する技術的・美術史的な解釈、金工品や漆工品に関する材料学的な議論を進めた。
  国宝平等院鳳凰堂西面扉絵（平等院）、春日権現験記絵巻（宮内庁三の丸尚蔵館）などの絵画に関する光学調査を実施するとともに、平等院所在の国宝鳳凰像、梵鐘、露盤宝珠、飾金具等の金工品に関する材質調査を実施し、データ解析を行った。
- 漆喰壁画や江戸期版画等の絵画資料に使われている染料などの有機質彩色材料に関し、可視分光スペクトル等の基礎データをベースにした分析調査及びデータ解析を行った。
- Ｘ線透過撮影による手法を用いて、仏像、漆工芸品、絵画等の構造調査を行った。

(3) 調査研究成果に関する報告等
- これまでに実施した絵画や金属製品等の調査結果に対し、論文 2 件、学会発表 2 件の公表を行った。また、これまでに光学調査を実施した伊藤若冲「菜蟲譜」（佐野市立吉澤記念美術館所蔵）、及び平等院鳳凰堂西面扉絵「日想観図」に関する報告書を刊行した。

【実績値】
論文数　　2 件（①、②）
発表件数　2 件（③、④）
報告書　　2 件（⑤、⑥）

【備考】
論文
①早川泰弘、城野誠治：蛍光エックス線分析装置による伊藤若冲　菜蟲譜の彩色材料調査、『保存科学 53』、2014.3
②早川泰弘：平等院鳳凰堂の装飾金具および梵鐘の材料調査、『鳳翔学叢 10』、2014.3
発表
③早川泰弘　他３名：ハンドヘルド蛍光Ｘ線分析装置によるウズベキスタン国立歴史博物館所蔵資料の材料調査、日本文化財科学会第 30 回大会、2013.7.6-7
④早川泰弘　他２名：国宝平等院鳳凰堂内西面扉絵日想観の下地層について、文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20-21
報告書
⑤「伊藤若冲「菜蟲譜」光学調査報告書」、2014.3
⑥「平等院鳳凰堂西面扉絵「日想観図」光学調査報告書」、2014.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4331

自己点検評価調書

研№34

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：文化財資料の科学調査が定着しつつある状況において、その高度化を目的としたタイムリーな研究である。
独創性：調査機器に関する基礎研究から実資料調査に至る応用研究まで、広範囲な研究を行っている。
発展性：光学調査の結果を解析することで、美術史学・金属学等との連携が行えるなど発展性は大きい。
効率性：運営費交付金以外に他機関からの調査派遣依頼などに基づき研究を推進している。
継続性：種々の作品を系統的に調査することで、単一作品の調査だけでは見出せない情報を顕在化できる。
正確性：複数の調査手法を取り入れることで科学的客観性を担保している。

２．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書			
判定	A	A	A			

判定理由
論文数　：保存科学誌に成果を発表した。
発表件数：日本文化財科学会等で研究発表を行った。
報告書　：研究成果報告書（非売品）2 冊を刊行した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基礎的研究と応用的研究を両輪として研究推進を図っており、短期的及び長期的視野の両面において、的確な進捗がなされている。作品を所蔵する博物館・美術館・社寺等からの信頼を増大すべく、共同調査の実施や、調査結果の解析・公開を積極的に行った。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画の第 3 年度として、基礎的研究から応用的研究への比重を高め、博物館・美術館・社寺等でのその場分析の実施を推進した。また、論文投稿・学会発表及び調査報告書の刊行という形で、成果の公開を積極的に進め、東文研の技術力・信頼性をアピールすることに努めた。調査データや画像等の蓄積も着実に進んでおり、これまでに膨大な調査結果が収蔵されている。今後は、この膨大なデータの保管・維持・活用方法について、システム化・予算化を進めることが必要である。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4332

（様式 1）

業務実績書

研№35

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等（(3)－③－イ）

【事業概要】

ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】

脇谷草一郎（保存修復科学研究室研究員）、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）

【主な成果】

サブミリ波イメージングにより、絹本著色の掛軸の層構造に関する非破壊調査を行った。フレスコ画試験体の層構造の検出に関する核磁気共鳴法とテラヘルツ分光イメージングの比較研究を行った。

【年度実績概要】

・　サブミリ波イメージングによる調査に関しては、Picometrix 社製 T-Ray4000 を用いて、掛軸の調査を行った。発信周波数の領域は 0.2～1.4 THz（テラヘルツ）の範囲で、レンズには焦点距離３inch のものを用いた。分解能は 0.1ｍｍとした。

・　絹本著色の掛軸である春日曼荼羅に対するサブミリ波イメージングにより、表面と裏面の両面に対して測定を行うことで、裏彩色の存在を推定できることを明らかにした。研究成果を Asia-Pacific Microwave Photonics Conference 2013 にて発表した。

・　ポンペイ等のフレスコ技法を再現したモデル壁画試料を、THz 波及びポータブル NMR（核磁気共鳴）装置により観測し、両者を比較した。その結果、表面付近を三次元で短時間に観測するには THz 波が優れているが、NMR は、一点での情報であっても、支持体表面から絵画層までの層の位置を示すことができることが確かめられた。得られた研究成果を文化財保存修復学会にて発表した。

・　これまで実施してきた文化財の材料調査へのテラヘルツ波イメージングの応用事例を総括し、3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia にて発表した。



春日曼荼羅のテラヘルツ分光イメージング

【実績値】

発表件数：３件（①～③）

論文件数：３件（④～⑥）

【備考】

発表

①M.Kim, K. Fukunaga and Y. Kohdzuma, ″Application of Terahertz Wave Imaging Technique to Structural Survey of a Historical Painting on Silk″, Asia-Pacific Microwave Photonics Conference 2013, 22-24 April 2013.

②福永香, W. Zia, T. Meldrum, B. Bluemich, 高妻洋成, 「テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査」文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20～21.

③高妻洋成, 福永香, 建石徹, 金旻貞「文化財の材料調査へのテラヘルツ波イメージングの応用」, 3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia, 5-6 September 2013.

論文等

④M.Kim, K. Fukunaga and Y. Kohdzuma, ″Application of Terahertz Wave Imaging Technique to Structural Survey of a Historical Painting on Silk″, Proceedings of Asia-Pacific Microwave Photonics Conference 2013, 2013.4

⑤福永香, W. Zia, T. Meldrum, B. Bluemich, 高妻洋成「テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査」『文化財保存修復学会第 35 回大会研究発表要旨集』2013.6

⑥高妻洋成, 福永香, 建石徹, 金旻貞「文化財の材料調査へのテラヘルツ波イメージングの応用」, 3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia, 2013.9

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4332

自己点検評価調書

研No.35

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：絵画の漆喰層や裏打ちなどの層構造及び状態を可視化できる非破壊非接触調査法として開発されている。
独創性：サブミリ波イメージングをポータブル型ＮＭＲと比較した。
発展性：ミリ波及びサブミリ波は、その周波数帯に応じて検出深度や解像度が異なるため、調査目的に応じた適用が可能である。
効率性：検出器の感度を向上させたことにより、文化財を対象とした調査時間の短縮を行うことができる。
正確性：サブミリ波イメージングにより、掛軸の裏彩色及び表具の構造を明瞭にとらえることができた。

2．定量的評価

観点	発表件数	論文件数				
判定	S	S				

判定理由
発表件数　　：目標である２件を超える３件を達成した。
論文件数　　：目標である２件を超える３件を達成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	異なる分析装置との比較研究を行うことにより、文化財の表面付近における構造調査に対するサブミリ波イメージングの有効性を確認することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調と判定した。分析作業は継続して行っており、本年度は染料のテラヘルツ分光スペクトルの収集に着手した。次年度以降はさらに染料の分析を進めるとともに、文化財資料の材料分析への応用を進める予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4341

（様式 1）

業務実績書

研№.36

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究((3)－④)

【事業概要】

屋外に位置する木造建造物及び石造文化財を対象に、文化財劣化要因となる周辺環境の影響評価手法や劣化診断手法を確立する。また、木造建造物の修復材料について実験室及び現地曝露試験による評価を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】

早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、岡田健（センター長）

【主な成果】

石造文化財や木造建造物など屋外にある文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響の軽減手法及び修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)磨崖仏の保存環境制御に関する現地試験及び石造文化財劣化と周辺環境影響に関する調査、(2)積雪寒冷地における木造建造物の保存環境に関する調査を実施した。

【年度実績概要】

(1)石造文化財：

臼杵磨崖仏において、表面の剥落片に対してより長期間接着可能な材料選定に向けて実験を継続した。また、赤碕塔では蜂の巣状剥離を起こしている石塔の状態調査や周辺環境調査を実施し、劣化箇所と現地卓越風の関係を突き止めることができた。また、各地の大名墓など近世石造文化財の調査では、墓標に入った塗装の劣化と覆屋有無など周辺環境との関係を確認することができた。

また、臼杵磨崖仏では凍結防止策としての覆屋閉鎖実験を行い、その成果から今回の保存修理工事において開口部にシャッター等が取り付けられることとなったが、海外における冬期凍結防止策について、覆屋閉鎖以外の方法を取っているかの情報収集のため、ヘレンキームゼー城（ドイツ）、ブイヨン城（ベルギー）にて調査を行った。その結果、ドイツでは Winter Shelter との呼び名で屋外彫刻に一時的な覆屋を設置しているが、それは例外的なもので、ベルギーでは欠損部のモルタル充填など、まだパッシブコントロールが行われていない現状を確認した。

(2)木造建造物：

積雪寒冷地における木造建造物の保護のために設置された覆屋について、木材やガラスなど覆屋材質の違いが保存環境にどのように影響するのか、温湿度・照度・紫外線強度の現地連続観測を行った。引き続き測定を継続していくが、透明覆屋では温湿度や紫外線強度の変化が確認されるなど、今後劣化状態を確認するうえで有用なデータが得られた。また、これらの成果は次年度発表を行う予定である。



赤碕塔における蒸発量調査

【実績値】

論文数：4 件（①～④）、発表件数：4 件（⑤～⑧）

【備考】

論文

①KUCHITSU, Nobuaki：Deterioration of stone monuments by epiphytes in relation with environmental factors 第 36 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会報告書　2014.2

②MORII, Masayuki：Method for cleaning epiphytes on stone monuments　第 36 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会報告書　2014.2

③朽津信明：日本における岩刻画の保存―フゴッペ洞窟の例を中心にして―　日韓共同研究報告書　2013.5

④森井順之：九州装飾古墳の保存環境調査　日韓共同研究報告書　2013.5

発表

⑤朽津信明、森井順之、伊藤広宣、山路しのぶ、神田高士：臼杵市・下藤キリシタン墓地における遺構の凍結防止策　文化財保存修復学会第 35 回大会　2013.7.20-21

⑥朽津信明：中世石造物に見られる彩色顔料の特徴について　日本文化財科学会第 30 回大会　2013.7.6-7

⑦森井順之、朽津信明、川口孝、時元省二、松田英之：磨崖和霊石地蔵の修復　第 3 回東アジア文化遺産保存国際シンポジウム　2013.9.5-6

⑧森井順之：大分・臼杵磨崖仏における次期保存修理に向けた調査研究―磨崖仏の劣化とその対策―　地盤遺産シンポジウム　2014.2.4

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4341

自己点検評価調書

研No.36

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：臼杵磨崖仏や菅尾磨崖仏では現在覆屋改修が進められており、現場に適切に対応できている。
独創性：劣化した文化財自身を処理するのではなく、環境制御により対処する方向性は独創的である。
発展性：赤碕塔の蜂の巣状剥離の要因として突き止めた卓越風との関係については、ほかにも適用可能である。
効率性：多くの調査研究事例を知ることで効率的な研究を推進している。
継続性：屋外文化財の覆屋について現在でも問い合わせが多くある中で、研究継続が求められている。
正確性：屋外文化財の劣化原因調査や保存環境調査において、写真撮影や実測などを重視するとともに、向きや植生など周辺環境条件も現地で確認することで、劣化と周辺環境の相関について正確な記述を心がけている。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文等　：石造文化財の劣化、生物被害対策に関して国際研究集会で発表した内容を論文にまとめた。
発表件数：屋外文化財の凍結対策や保存環境に関して各種学会で発表できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	石造文化財の保存状態とその周辺環境の相関について様々な事例を確認でき、劣化防止策としての環境制御の可能性について有益な情報を得た。また、木造建造物の覆屋の効果について保存科学的調査を継続できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画通り順調に進めることができた。特に石造文化財については、赤碕塔の事例にもあるように周辺環境をより注意深く観測することが求められることが分かったため、今後の調査にも活かしていきたいと考える。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4342

（様式 1）

業務実績書

研№.37

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の防災計画に関する研究（(3)－④）

【事業概要】

自然災害による文化財被害は甚大であり、復旧には多大な労力と時間を要する。我が国では自然災害の発生予測が難しいうえ、発生後すぐの救援はほぼ不可能である。そのため、「減災」の方向性を探ることが求められている。本研究課題では「地震・津波」を対象に下記の調査研究を進め、文化財の減災に必要な研究成果を提供する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】

早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、北野信彦（伝統技術研究室長）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、岡田健（センター長）、佐野千絵（保存科学研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、佐藤嘉則（研究員）、犬塚将英（主任研究員）、吉田直人（主任研究員）、山内和也（文化遺産国際協力センター保存計画研究室長）

【主な成果】

平成 25 年度は、(1)東日本大震災被災文化財に関する研究では、福島県の要請に応じて旧警戒区域内での文化財救援活動を継続し、新たに福島県被災文化財等救援事業の実施を実現した。宮城県では、同県被災文化財等保全連絡会議との連携を図りつつ、救援文化財一時保管場所について温湿度・生物環境に関する調査を実施した。また、津波水損文化財を対象に修復方法に関する実験研究を行った。(2)文化財の地震対策に関する研究では、東大寺戒壇堂建物の常時微動調査、石造文化財について石造多層塔の現地調査や石灯籠の振動台実験を行った。

【年度実績概要】

(1)東日本大震災被災文化財に関する研究では、震災後 3 年を経過する中、福島県旧警戒区域内からの文化財救出と被災文化財の安定収蔵に向けた調査研究を継続実施した。

・東京電力福島第一原子力発電所事故により設定された警戒区域内の文化財を救援するため、平成 24 年度に被災文化財等救援委員会が活動を行ったが、完了しなかった富岡町・双葉町の両歴史民俗資料館からの救出と資料館以外の個人住宅等からの救出を実現するため、東京文化財研究所単独で福島県被災文化財救援対策本部と連携して活動を続けるとともに、新たな枠組みとして国立文化財機構が中心となり実施する救援事業を発足させた。年度末までに全ての資料館からの救出活動を完了し、来年度以降福島県が独力で活動を継続するための基盤構築に貢献した。
・一時保管施設の保存環境調査：宮城県石巻文化センター救援文化財の一時保管施設となっている旧石巻市立湊第二小学校校舎内の保存環境調査（温湿度、浮遊菌等）を行った。同県被災文化財等保全連絡会議との連携を図り、その他の一時保管施設の状況について情報を収集した。また、その成果の一部について学会発表を行った。
・鹿嶋市龍蔵院の仏画では、過去の修理に伝統的材料を用いず、そのため今回の震災によって特徴的なダメージが発生した。そのような被災文化財の応急処置・修復に関する研究を進めた。

(2)文化財の地震対策に関する研究では、東日本大震災にて多数の被害報告があった石灯籠を対象に、特に地面との接触方法に関して振動台実験による評価を行った。また、野田神社宝篋印塔（今治市）など石造文化財の現地調査を実施し、地震対策の必要性について考察した。塑像・乾漆像の調査については、既に転倒予測を行った東大寺戒壇堂安置の塑造四天王立像について、戒壇堂建物の耐震性を把握するため常時微動調査を行った。



一時保管施設の保存環境調査（石巻市）

【実績値】

論文数：1 件（①）、発表件数：1 件（②）

【備考】

論文

①朽津信明：活動支援班報告　東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成 24 年度報告書、2013.5

発表

②森井順之、犬塚将英、岡田健、及川規、木暮亮、芳賀英実、小谷竜介：石巻文化センター被災文化財一時保管場所の温湿度環境について、文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20-21

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4342

自己点検評価調書

研No.37

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：東日本大震災から3年が経過した中で、将来に向けての防災対策の構築はますます急務となった。
独創性：海水によって水損した文化財に用いられた多様な材料に対して、保存処置の方法を実践的に開発した。
発展性：次の災害に備えるために必要な調査研究を進めることができた。
効率性：石造文化財の地震対策や救援活動など大きな課題に対して少ない人員で対応した。
継続性：東日本大震災以来、一貫して救出活動・保全対策・将来の防災対策を連続した事項として捉え、研究を継続している。
正確性：的確な情報収集をもとに適切な情報判断を行い、科学的根拠をもとに具体的な対策や方法を構築し、文化財の所有者や自治体の文化財担当者に伝えている。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由
論文数　：東日本大震災被災化財救援事業についてまとめ、大災害が将来起こったときに参考となる資料を作成した。
発表件数：現在被災文化財が抱える問題である一時保管環境について広く情報を提供すべく、被災文化財の一時保管施設環境に関する報告を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東日本大震災による被災文化財の保存修復について、今必要とされている保存修復に関する調査研究を進められた。福島県における文化財救出支援体制の構築に大きく貢献した。また、石造文化財の地震対策では石灯籠の地震時挙動についてより詳細に明らかにするとともに、塑像・乾漆像の地震対策についても、東大寺戒壇堂において建物の常時微動調査を行うことで、建物の地震対策の必要性を喚起した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究では、中期計画策定時に想定していなかった東日本大震災の発生を承け、災害発生時の対応とその結果への検証を経て、具体的な事例をもって将来にわたる防災対策の構築を行うことになった。この3年間の蓄積をもとに、残された2年間でその成果をまとめることになる。個別のテーマとしては、いまだ有効な地震対策が講じられていない石灯籠など石造文化財について、地震時挙動を明らかにしていきたい。建造物が建てられている地盤から見た建築内部の文化財が地震時に受ける震動の影響についての研究も着々と実験と考察を積み重ねている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4343

業務実績書

研№.38

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の放射線対策に関する研究（（３）－④）

【事業概要】
平成 23 年 3 月の東日本大震災により発生した福島県の原子力発電所の事故により被曝した文化財の現状把握、調査手法、移動方法、除染方法等に関する研究が急務となった。また、万が一再度同様の放射線災害が発生することがあってはならないが、今回の災害が実際に発生したことを認識して、放射線災害から文化財を守るための、事前準備、常時監視のあり方、事故時の緊急対応等に関する研究が必要となった。本プロジェクトでは、東京文化財研究所が中心になり、国立文化財機構の保存担当の職員、美術館関係者、福島県の関係者及び放射科学の専門家と一緒これらの研究を行い、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめることを目的とする。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副所長　石﨑　武志

【スタッフ】
岡田健（センター長）、佐野千絵（保存科学研究室長）、早川泰弘（分析化学研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、早川典子（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、森井順之（主任研究員）、降幡順子（奈良文化財研究所主任研究員）、神庭信幸（東京国立博物館保存修復課長）、淺湫毅（京都国立博物館保存修理指導室長）、谷口耕生（奈良国立博物館保存修理指導室長）、今津節生（九州国立博物館博物館科学課長）、松本透（東京近代美術館副館長）、村上博哉（国立西洋美術館学芸課長）、山本智代（全国美術館会議）、丹野隆明（福島県）、伊藤匡（福島県）、松田隆嗣（福島県）、杉崎佐保恵（福島県）、桧垣正吾（東京大学アイソトープ総合センター助教）、薬袋佳孝（武蔵大学基礎教育センター教授）、久保謙哉（国際基督教大学理学研究科教授）

【主な成果】
平成 25 年度は、(1) 放射線量の測定方法、環境評価等に関する研究では、ワーキンググループ会議を 3 回開催し、放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成した。(2) 汚染状態の現状把握と除染方法等に関する研究では、福島県で現地調査を開催するとともに、ワーキンググループ会議を開催して、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめた。これらの結果に関して、プロジェクトチーム会議及び研究会で議論を行い、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめた。

【年度実績概要】
本年度は、放射線量の測定方法、環境評価等に関するＷＧ１と汚染状態の現状把握と除染方法等に関するＷＧ２を設置し、具体的に活動を進めた。博物館・美術館等の文化財施設には、危機管理マニュアルとして放射線被害に関してはないので、ＷＧ１では、危機管理マニュアル作成のための会議を３回開催した。また、ＷＧ２は、福島県での現地調査を兼ねて１回開催した。また、ＰＴ会議は２回開催した。

26 年 2 月 12 日に、東京文化財研究所会議室で、「文化財の放射線対策に関する研究会」を行った。参加者は、50 名であった。プログラムは、１）研究会の趣旨説明（東京文化財研究所副所長　石﨑武志）、２）除染に関する基本的な考え方（東京大学助教　桧垣正吾）、３）福島県立美術館での放射線対策について（福島県立美術館学芸課長　伊藤匡）、４）放射線量の測定方法、環境評価等に関するＷＧ１活動報告（東京文化財研究所保存修復科学センター　佐野千絵）、５）除染方法等に関するＷＧ２活動報告、（同　佐野千絵、北野信彦）、６）総合討論が行われた。総合討論は、活発に行われ有意義なものであった。

26 年 2 月 13 日には、「文化財の放射線対策に関する調査研究プロジェクトチーム会議」が開催され、今後の方針が議論され、作成した危機管理マニュアル案を東京文化財研究所ウェブサイトで公開し、広く意見を求めた。


仏像の除染作業の様子


研究会での講演の様子

【実績値】
研究会１回、ワーキンググループ会議４回、プロジェクトチーム会議２回
危機管理マニュアル案作成　１

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4343

自己点検評価調書

研No.38

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	S	A	A			

判定理由
適時性：平成23年3月の東日本大震災により発生した福島県の原子力発電所の事故により被曝した文化財の現状把握、調査手法、移動方法、除染方法等に関する研究が急務である。
独創性：文化財の除染方法などの研究は過去になく新規性がある。
発展性：放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成することができた。また、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめた。

2．定量的評価

観点	研究会	ワーキンググループ会議	プロジェクトチーム会議	危機管理マニュアル案作成		
判定	A	A	A	A		

判定理由
研究会：26年2月12日に、東京文化財研究所会議室で、「文化財の放射線対策に関する研究会」を開催した。
ワーキンググループ会議：予定通り４回開催することができた。
プロジェクトチーム会議：予定通り２回開催することができた。
危機管理マニュアル案作成：放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	放射線量の測定方法、環境評価等に関する研究では、ワーキンググループ会議を3回開催し、放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成した。また、汚染状態の現状把握と除染方法等に関する研究では、福島県で現地調査を開催すると共に、ワーキンググループ会議を開催して、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめた。これらの結果に関して、プロジェクトチーム会議及び研究会で議論を行い、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平成23年3月の東日本大震災により発生した福島県の原子力発電所の事故により被曝した文化財の現状把握、調査手法、移動方法、除染方法等に関する研究が急務となったため、東京文化財研究所が中心になり、国立文化財機構の保存担当の職員、美術館関係者、福島県の関係者及び放射科学の専門家と一緒に検討を進めたものである。短期間で、放射線被害に関する危機管理マニュアル案及び、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめることができた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4351
（様式 1）

業務実績書

研№.39

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究((3)－⑤)

【事業概要】
我が国ではこれまで和紙、糊、膠、漆、顔料などの伝統的な文化財修復材料が劣化の程度や修復技術者の経験をもとに長年使われてきた。これら文化財に使用される伝統技術及び材料や保存修理で使用する合成樹脂の物性、製作技法、利用法に関する調査・分析・評価及び開発を行い、修理現場での応用を図る。以上の内容に即した研究会を開催する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	伝統技術研究室長　北野信彦

【スタッフ】
朽津信明（修復材料研究室長）、早川典子（主任研究員）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、本多貴之（客員研究員、明治大学理工学部専任講師）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター主任研究員）

【主な成果】
本年度は中期計画の 3 年目にあたり、伝統的な文化財建造物の塗装材料である漆塗装や乾性油塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。また、これまであまり注目されてこなかった欄間木彫等の凹凸がある部材の塗装彩色の劣化メカニズムの解明や伝統技術及び材料の調査、現状維持修理方法の策定、復元レプリカの作成を伴う資料活用方法の模索などの調査研究にも着手した。合成樹脂に関する調査では、過去使用した建造物塗装のうちで合成樹脂を使用した際の劣化状態の調査と、伝統素材である膠材料を強化するため、合成樹脂とブレンドした際の塗膜の状態を理解するための基礎実験を継続した。また、第 7 回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会を開催した。

【年度実績概要】
・引き続き、建築文化財に使用する塗装材料の耐候性向上に向けた基礎実験を進めるとともに、PY-GC/MS 分析装置を用いた塗装材料をはじめとする各種修復材料の基礎分析を進めた。このような調査実績を日光東照宮陽明門や厳島神社反橋、平等院鳳凰堂における塗装修理などの実践的な施工計画に役立てた。

・引き続き、研究所が所蔵する表具裂見本の絹布関係資料について、個々の資料の絹の折状態や繊維の拡大顕微鏡画像の取り込みを行い、基礎データを集積した。さらに、伝統材料である各種顔料の標品試料に関する粒子観察及び分析を伝統材料として使用するための資料整理を開始した。

・我が国で使用された伝統技術や材料を理解するために、京都市平安京三条四坊十町跡出土の一括の漆器未製品、鎌倉市大倉幕府跡出土の漆塗金属製籠手や漆器、一宮市博物館所蔵仁王胴具足などの分析調査を行った。

・「文化財建造物における木彫彩色の保存・修理・資料活用」というテーマで、25 年 9 月 26 日に東京文化財研究所の会議室で第 7 回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会を開催し、定員 30 名のところ計 53 名の参加を得た。
講演：1.「本会の趣旨」：北野信彦（東京文化財研究所）、2.第Ⅰ部『瑞巌寺本堂の欄間彩色の修理と資料活用』：「瑞巌寺本堂欄間の調査と保存」：酒巻仁一（文化財建造物保存技術協会）、「資料活用をめざした光造形樹脂レプリカの作成」：運天弘樹（凸版印刷総合研究所）・北野信彦（東京文化財研究所）、3.第Ⅱ部『日光東照宮の木彫彩色の保存と修理』：佐藤則武・手塚茂幸（日光社寺文化財保存会）、4 .参加者全員「総合討論」

【実績値】
論文数　3 件（①～③）、発表件数　2 件（④、⑤）、研究会開催数　1 回　(参加者数：53 名)、報告書　1 冊（⑥）、

【備考】
論文
① 北野信彦：文化財建造物における伝統的な塗装材料と施工上の問題点、『塗装工学』 第 48 巻 11 号、2013.11
② 北野信彦・本多貴之：仁王胴具足にみられる桃山文化期の一塗装技術、『保存科学 53』、2014.3
③ 北野信彦・小檜山一良・竜子正彦・本多貴之・宮腰哲雄：桃山文化期における輸入漆の調達と使用に関する調査（Ⅲ）-日本国内の出土漆器における輸入漆塗料の使用事例-、『保存科学 53』、2014.3
発表
④北野信彦・小檜山一良・竜子正彦・本多貴之・宮腰哲雄：桃山文化期における輸入漆の調達と使用に関する調査（Ⅲ）、第 30 回 日本文化財科学会、弘前大学、2013.7.6
⑤北野信彦・吉田直人・運天弘樹・伊藤利憲・篠塚慶介・酒巻仁一・伊奈仁：桃山文化期欄間彩色の保存と資料活用に関する基礎的調査、文化財保存修復学会第 35 回大会、東北大学、2013.7.20-21
報告書
⑥『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書 2013 年度』東京文化財研究所、2014.3

【書式B】
(様式2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4351

自己点検評価調書

研No.39

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：日光東照宮陽明門、平等院鳳凰堂、厳島神社反橋など、具体的な文化財建造物で実施されている塗装修理や、鎌倉市大倉幕府跡出土漆塗籠手や京都市中世漆器などの保存処理施工方法の策定に調査結果を反映させた。
独創性：過去の塗装材料や彩色材料の調査方法として、PY-GC/MS 分析法をさらに応用し、日光東照宮陽明門の東西壁壁画や仁王胴具足の肌色塗装などからを分析した結果、これまでほとんど注目されてこなかった西洋油画的な技法が確認された。また、はじめて輸入漆塗料を使用した桃山文化期の出土漆器も日本国内で確認した。
発展性：本プロジェクトでは特に風雨に晒されて劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色の修理や、脆弱な漆塗料や有機質材料を伴う複合材料からなる考古資料を研究対象としている。これらの材質・技法に関する分析調査やその結果を考慮した手板試料の劣化促進実験を伴う基礎調査結果の蓄積は、今後国内のみならず海外においても同様の劣化が著しい文化財の保存修復方法の策定処に応用できるものと考え、調査結果の資料化とこれまでの成果の公表を積極的に行った。
効率性：これまで開発した分析手法は、基本的には現有施設と人員を使用することで比較的多くの分析試料を短期間に結果が出せること、さらにはこの結果を実際の保存修復作業の現場にも生かせることが確認された。
継続性：実際の文化財建造物における塗装彩色修理や考古資料の保存処置は、タイトな期間内に比較的安価で効率よく実施することが基本である。本プロジェクトの成果は幾つかの保存修復の現場の作業に効率よく反映させており、今後も継続する予定である。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	研究会開催数	報告書		
判定	A	A	A	A		

判定理由
論文数、発表件数、研究会開催数、報告書：いずれも当初計画の目標に達成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財建造物に使用する屋外塗装や彩色材料の歴史資料に関する調査研究や物性・耐候性試験を行い、実際の塗装修理の現場の施工に役立てた。絹などの表具裂見本や各種顔料のデータベース化、文化財の修復材料などに関して有益な基礎的知見を収集することができた。さらにこの成果の一部を研究会や講演会などを通じて公表した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本プロジェクトで実行している手法や調査結果の有用性が修理現場に応用されるなど、当初の計画通り有効性が明らかになってきた。それに伴い重要な知見の蓄積とこれらの一部を報告書と研究会報告の形で公開及び纏めることができた。そのため、計画の実施状況は順調である。次年度も引き続き、基礎的知見の蓄積と資料調査結果のデータベース目録化を推進する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4352
（様式 1）

業務実績書

研№40

中期計画の項目	4　文化財に関する調査研究及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財修復材料の適用に関する調査研究（（３）－⑤）

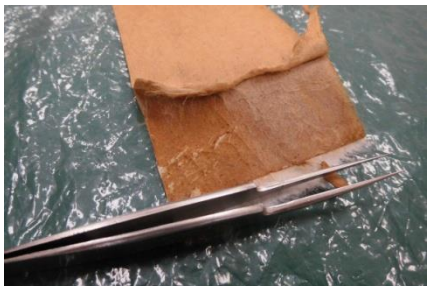
【事業概要】
文化財修復においては、使用する材料及び手法の適切な適用が修復後の作品の状態を大きく左右する。本プロジェクトでは、文化財の種類を問わず修復に用いられる材料について、修復現場での具体的な使用を念頭に材料の分析及び評価を行い、個々の材料について分野にとらわれず横断的な研究を行うことで、最適な使用方法や使用条件の確立を目指す。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】
早川典子（主任研究員）、北野信彦（伝統技術研究室長）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、森井順之（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、本多貴之（客員研究員、明治大学理工学部専任講師）、酒井清文（客員研究員）、岡田健（センター長）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター主任研究員）、山下好彦（任期付研究員）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山田祐子（アソシエイトフェロー）

【主な成果】
絵画修復材料に関する化学分析、クリーニング方法の検討実験を行った。建造物修理材料の現地曝露試験とその評価を開始した。工芸品の調査としてベトナム漆の現地調査を行った。

【年度実績概要】
- 絵画修復材料の物性に関する分析を行った。本年度はフノリについて、その種類による分子構造解析を行った。また、抽出温度による粘度と分子量の差異についても、細かく温度変化を行い、測定した。また、澱粉の老化を利用した接着剤の調整方法についても化学分析を行った。これらの成果について学会発表した。
- 古代に典籍類に使用されていた大豆を原料とすると推定される接着剤について、初めて実資料の赤外分光分析を行い、併せて比較試料を複数作成分析することで、客観的なデータを提示した。
- 過去に接着剤として使用されたポリビニルアルコールに関してその劣化機構の分子構造解析を行った。
- 絵画修復材料としては、人工劣化絹の改良についても対象とし、紫外線や湯洗浄を用いた質感の改良について実験を行い、学会発表した。
- クリーニングに酵素を適用する手法を検討した。
- 建造物の木材空隙部分の充填材料としてエポキシ樹脂を主成分とするパテ材を検討し、厳島神社において現地曝露を行なった。また、表面の変色を軽減するため、主成分の改良とともに表面処理方法についても検討し、各種の曝露試験を開始した。
- 産地の異なる漆の調査を行った。技法や試料を調査してきたタイとミャンマーと比較するためにベトナムにおける漆の調査を行った。技法、材料、道具等について現在の状況と、過去の作品について現地で調査した。



酵素を利用した小麦糊の除去検討

【実績値】
論文数　1 件（①）、発表件数　7 件（②～⑧）

【備考】
論文
①報告：典籍類に使用された「豆糊」の赤外分光分析（早川典子）『保存科学 53』、2014.3
発表
②老化を利用した小麦デンプン糊の接着力調整に関する研究（早川典子、君嶋隆幸、畠中芳郎）文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.21、東北大学
③絵画修理に用いる膠に関する考察（岡泰央、小笠原具子、早川典子、富沢千砂子）文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.21、東北大学
④Characterization of Fukuro-Funori and Ma-Funori through NMR spectroscopy ″ Nguyen Thu Ha, Noriko Hayakawa, Riichiro Chujo, Seiichi Kawahara、高分子討論会、2013.9.11、金沢大学
⑤″ Structural Characterization of MaFunori Extracted from Red Seaweed through NMR Spectroscopy ″ Nguyen Thu Ha, Noriko Hayakawa, Seiichi Kawahara, Riichiro Chujo、NMR 研究会、2013.5.17、東京工業大学
⑥壁画修復処置に用いる接着材料への酵素の影響（貴田啓子、早川典子、佐藤嘉則、大河原典子、和田朋子、五十嵐圭日子、木川りか、川野邊渉）文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.21、東北大学
⑦剥落止めに用いる膠の処理方法について（早川典子、富沢千佐子、岡泰央、奈良真一、小笠原具子）文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.21、東北大学
⑧絹本文化財の修復材料としての劣化絹の研究　-電子線照射と紫外線照射の併用-（山田祐子、早川典子、坪倉早智子、岡泰央、川野邊渉）文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.21、東北大学

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4352

自己点検評価調書

研No.40

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：現在修復を行っている建造物や装潢作品を念頭に研究を遂行し、得られた成果を随時反映させてきた。
独創性：酵素の適用や、作成条件による材料の調整など、従来にはない観点からの調査研究を行った。
発展性：本研究の成果は、実際の文化財修復への活用を念頭に行われており、現場において様々な発展が可能である。
効率性：所内の横断的なメンバーにより研究を分担し、他機関からの調査派遣依頼などに基づき研究を推進しており、効率よく推進することができる。
継続性：文化財修復材料に関する基礎的研究と現場への適用研究との両者を連携づけ、十分な成果を得られている。
正確性：複数の分析手法、多岐にわたる修復材料を網羅し、科学的客観性を確保している。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

判定理由

論文数　：保存科学等に豆糊に関する報告を掲載するした。
発表件数：膠、澱粉糊、紫外線劣化絹等について文化財保存修復学会で報告し、また、ポリビニルアルコールやフノリに関する化学分析を文化財保存修復学会や高分子討論会において発表した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財修復に使用されている材料について、広範囲に網羅した研究を行い、それぞれについて科学的な分析評価を行うことで現場での適用方法の可能性を広げた。実際の修復現場で、これらの成果が具体的に活用され始めており、基礎研究を遂行しながら、具体性、発展性の高い研究を行っている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に基づき、文化財修復現場での適用を念頭に材料の精査を遂行できている。 今年度の成果をもとに、さらに発展させた研究を行う予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4361
（様式 1）

業務実績書

研№41

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近代の文化遺産の保存修復に関する研究　（（３）－⑥）

【事業概要】
近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物など従来の文化財とは、規模、材質、製造方法などに大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両などの保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	近代文化遺産研究室長　中山俊介

【スタッフ】
朽津信明（修復技術研究室長）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、池田芳妃（研究補佐員）、小堀信幸（客員研究員・(公財）船の科学館）、横山晋太郎（客員研究員）、長島宏行（客員研究員・(一財）日本航空協会）、堤一郎（客員研究員・中央大学非常勤講師）

【主な成果】
(1) 服飾品：明治維新以降急速に普及した洋服、建築物や列車（御料車など）の室内装飾に使用された裂地などの保存と修復及び活用に関して、また、それまで服飾には使用されてこなかった材料を使った服飾品の保存手法等に関して関係者を招き、研究会を開催し、美術的な位置づけや技術的問題点に関する保存と修復手法について、発表、討論を行い、保存や修復に関する理解を深める事ができた。
(2) 屋外展示物：屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。
(3) 建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡、長崎県端島（軍艦島）、山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉など、史跡指定地に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。
(4) 報告書：昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。

【年度実績概要】
(1)服飾品/テキスタイル：
・明治維新以降急速に普及した洋服、建築物や列車（御料車など）の室内装飾に使用された裂地などの保存と修復及び活用に関して、また、それまで服飾には使用されてこなかった材料を使った服飾品の保存手法等に関して国内の博物館で保存や修復を担当している専門家や海外の博物館において同様に保存や修復を担当している専門家を招き、美術的な位置づけや技術的問題点に関する保存と修復手法について、発表、討論した研究会を 25 年 11 月 22 日に東京文化財研究所地階セミナー室にて実施した。
・ヨーロッパにおいて、服飾品の保存と修復に関する現状をイギリスの V&A 美術館、大英博物館、王立海洋博物館、スイスのアベッグ財団、フランスのパリ装飾美術感、シュバリエ修復所などにおいて調査を実施しさらに関係者と情報交換を実施した。

(2)屋外展示物：
・ドイツ及びポーランドの産業遺産を往訪し、産業遺産の保存理念や、周囲との関係を考慮した保存手法や修復手法の現地調査を実施した。
・屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために試験片を作成し日本 6 ヵ所に置いて暴露実験を実施し、塗装の劣化と屋外環境との相関について調査を実施した。

(3)建造物・構造物：新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市韮山反射炉、山口県萩市の反射炉や長崎県長崎市端島など、史跡指定地内の建造物や構造物の保存と修復に関する研究会を実施するとともに現地調査も実施した。

(4)報告書：『御料車の保存と修復及び活用』を製作し配布した。

(5)その他：航空機関連の設計図面あるいは明治後期から大正期、昭和初期にかけて記録された関連資料などの保存の一環としてデジタル化を行うなど貴重な資料を後世に遺すべく現地で状態を調査し保存手法の研究を実施した。

【実績値】
報告数　2件（①、②）、発表件数　2件（③、④）、報告書刊行数　1件（⑤）

【備考】
報告
①中山俊介：Regarding Oil Paint Used in Modern Japanese Architecture、Oil Paint Used in Modern Japanese Architecture、pp.5-15、2014.3
②中山俊介：御料車の保存と修復及び活用、『御料車の保存と修復及び活用』、 pp.5-14、2014.3
発表
③中山俊介：近代テキスタイルの保存と修復、近代的スタイルの保存と修復に関しての研究会、2013.11.22
④中山俊介：近代木製家具の修復技法及び材料に関する調査研究、文化財保存修復学会第 35 回大会、2013.7.20
報告書
⑤『御料車の保存と修復及び活用』、東京文化財研究所　2014.3

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4361

自己点検評価調書

研No.41

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：「明治日本の産業革命遺産-九州・山口と関連地域-」が世界遺産登録候補リストに記載された今年度、史跡指定地内の産業遺産の保存・修復理念の作成は急務であり、時代に即した研究テーマとして取り上げた。
独創性：これまでに保存修復のために研究された事が無い素材で製作されている服飾品などの保存と修復をテーマにした研究会を実施した。
発展性：服飾品などの調査研究に関連してヨーロッパを往訪し、関係者への調査、取材を元に、日本ではあまり取り上げられていない服飾製品などの修復手法を学ぶ事が出来た。また、今後の研究につながる人脈形成ができた。
効率性：テーマを決めた調査を実施する事で、国内外の多くの関係者と人脈ができ、また、専門性の高い調査研究協力依頼にも対応してもらえる様になった。
継続性：屋外保存された金属製文化財の暴露実験は長期にわたる金属製文化財保存の維持に貢献する。
また、航空関連資料のデジタル化を行う事により、長く情報を保存する事が可能となる。
正確性：今年度は、服飾品等や屋外展示物というテーマをでそれぞれ諸外国の保存状況に関して現地調査を実施した。これによって、正確に問題を認識し、解決策へつなげる事が可能となった。

2．定量的評価

観点	報告数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			

判定理由
報告数、発表件数、報告書刊行数：いずれも十分な成果を得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	近代文化遺産の保存・修復と活用について、各種の現地調査を実施することができた。その現地調査を通じて、現状の把握、解決すべき問題点なども新たに把握することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今中期計画では新しい材料の保存手法や修復手法の調査研究あるいは屋外展示物などの保存理念や修復理念と言ったものをどのように考えていけばよいのかを調査研究している。新たな材料関係では、今年度注目した服飾品などや、以前に取り上げた音声映像の記録メディアに使われている合成樹脂などの保存手法や修復手法等の調査研究、また屋外保存されている金属製文化遺産の保存状態調査、史跡指定地内に建つ建造物・構造物の保存や修復理念の構築など調査研究を進めており重要な成果が期待できると考えている。また、研究会を通じて新たな知見を得ると共に、多くの研究者との連携も可能となった。次年度も本年度の成果を元にさらに調査研究を発展させることが可能となった。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4411
（様式 1）

業務実績書

研№42

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力　((4)－①)

【事業概要】
本事業は、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施するもので、本事業では文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力している。

【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】
佐野千絵（保存修復科学センター保存科学研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、早川泰弘（分析科学研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、酒井清文（客員研究員）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、加藤雅人（主任研究員）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、楠京子（アソシエイトフェロー）、大河原典子（客員研究員、日本画家）、前川佳文（客員研究員、壁画保存修復士）

【主な成果】
高松塚古墳壁画については、壁画表面のクリーニングを継続実施するとともに、微生物による彩色の汚損被害について、効果が期待される酵素群の利用に関する研究を継続して進めた。キトラ古墳壁画については、墓室壁面から取り外した壁画の再構成作業実施にあたり、裏打ち材料の選定、強度の評価等に関する研究を行った。25 年 9 月の古墳施設整備作業（埋め戻し）までの間、石室・小前室などの温湿度の計測、古墳周辺の気象観測を実施した。両古墳壁画に用いられている材料に関して、各種機器による分析調査とマクロ撮影による状態調査を行った。

【年度実績概要】
○高松塚古墳壁画
生物・環境調査：国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設の修理作業室等において、定期的に害虫トラップを設置し、浮遊菌調査を実施し、環境の清浄度を確認するモニタリングを継続実施している。修理作業室とそれ以外の修理施設内各所における温湿度の測定も継続して行っている。昨年度、作業室で再びチャタテムシが捕獲されたことから、チャタテムシに関する詳細な調査を実施するとともに、温湿度状況との関連を検討した。25 年 8 月までは施設内の湿度が高かったが、25 年 8 月の空調機のメンテナンスを経て、この湿度上昇の問題が解消されたことを確認した。
修復研究：壁画クリーニングの有効な材料として採用を検討している酵素について、壁画の構造である漆喰や顔料、修復材料への影響評価を行い、酵素を使用する場合の修復材料を選択して実際の修復処置に適用した。高松塚古墳及びキトラ古墳の壁画に使用されている石灰漆喰を、石材への密着性や強度、現実的な施工手順といった面から捉え、材料の特定や調合分量を考慮した上での再現を目指した研究を行った。
材料技法調査：奈良文化財研究所との共同により、壁画に対する可視近赤外分光光度計・蛍光Ｘ線分析装置による顔料の分析調査、及びマクロ撮影による状態調査を実施した。
○キトラ古墳壁画
生物・環境調査：25 年 9 月下旬に開始されたキトラ古墳施設の整備作業（埋め戻し）までの間、古墳石室内、小前室の点検を継続し、温湿度の計測、及び古墳周辺の気象観測を実施して、観測データのバックアップを取り、管理の体制を敷いた。
修復研究：漆喰の再構成を行うために、充填材や接着剤の適用方法を検討した。また、再構成にあたって構成後の表面高さ等の作成方法についても複数の材料と工法を検討し、文化庁及び修復技術者と協議した。
材料技法調査：奈良文化財研究所との共同により、壁画に対する可視近赤外分光光度計・蛍光Ｘ線分析装置による顔料の分析調査、及びマクロ撮影による状態調査を実施した。
○その他
・25 年 8 月 18 日から 25 日に行われた文化庁による国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設・キトラ古墳石室一般公開、及び 26 年 1 月 18 日から 26 日に行われた同修理施設一般公開に際して毎回 5 名の研究員が対応して協力した。
・高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存に関連して文化庁が実施している「古墳壁画の保存活用に関する検討会」に事務局として、またその下に設置されている「装飾古墳ワーキンググループ」に委員及び事務局として参加した。
・福岡県うきは市珍敷塚古墳及び日岡古墳で装飾古墳の保存環境調査を継続実施した。珍敷塚古墳では保存庫内の温湿度計測を継続するとともに、うきは市が定期的に実施するモニタリングへ指導助言を行った。日岡古墳では、冬季に発生する保存施設の内壁の結露への対策を講じるため、保存施設の壁面温度の計測を行った。茨城県ひたちなか市虎塚古墳については、一般公開時の点検作業等へ協力した他、石材表面に発生した微生物バイオフィルムの解析と UV 照射による除去方法の検討を行った。この他、各地の装飾古墳の保存に関して、助言等を行い、貢献した。

【実績値】
助言件数　46 件、研究報告 2 件（①②）

【備考】
① 木川りか他「キトラ古墳石室における微生物制御：石室から分離された微生物の紫外線（UV）耐性試験結果について」『文化財保存修復学会第 35 回大会発表要旨集』pp. 184-185
② 貴田啓子、早川典子他「壁画修復処置に用いる接着材料への酵素の影響」『同』pp. 268-269

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4411

自己点検評価調書

研№42

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：キトラ古墳の石室封鎖に際し、奈良文化財研究所の考古学調査と連携し、環境調査を適切に実施した。
独創性：保存科学、修復技術、美術史学の総合的見地から、壁画材料に関する考察を進めることができた。
発展性：各地の装飾古墳の保存・活用に関して、積極的に助言・提言を行うことができた。
効率性：修理施設の環境管理等に迅速に対応することができた。
正確性：客観性のある研究成果をもとに適切な材料選択を行い、修復作業に反映させることができた。

２．定量的評価

観点	助言件数	研究報告				
判定	A	A				

判定理由
助言件数：
国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設及びキトラ古墳石室の維持管理に関して、常に現地担当との連携を取り、的確な判断により作業の進行を助けている。修復作業に関しても随時現地へ赴き、詳しく状況を理解し、適切な助言を行っている。
研究報告：調査研究について 2 件の報告を上げることができ、十分な成果が認められる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	材料調査班・修復班の連携が効率よく図られ、相互の成果を活用し、さらに修理室の環境についても文化庁・奈良文化財研究所との連携のもと適切な管理体制を取っている。キトラ古墳の石室封鎖という段階を迎え、奈良文化財研究所の考古学調査との連携のもと、現状の環境調査を実施した。壁画保存のための確かな体制が形成され、全体としてますます良好な作業を行っている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	修理施設の環境問題に対する迅速な対応や、酵素を使用するのに適切な修復材料に関する研究の推進と実際の作業への応用など、安全性・正確性を確保しながら実施している。奈良文化財研究所との連携が一段と強化されつつある。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4412
（様式 1）

業務実績書

研№43

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳･キトラ古墳の壁画の調査及び保存･活用に関する技術的協力((4)－①)

【事業概要】
本事業は、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施するもので、文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的な協力を行った。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
廣瀬 覚、青木 敬、降幡順子、若杉智宏、荒田敬介、南部裕樹(以上、都城発掘調査部)、辻本与志一、脇谷草一郎、高妻洋成、田村朋美、赤田昌倫(以上、埋蔵文化財センター)、井上直夫、栗山雅夫(以上、企画調整部)、肥塚隆保(元副所長、客員研究員　)、石崎武志、早川泰典、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊(以上、東京文化財研究所)、青柳泰介、水野敏典(奈良県立橿原考古学研究所)、岡林孝作(奈良県教育委員会)、相原嘉之(明日香村教育委員会)

【主な成果】
文化庁が進める国宝高松塚古墳壁画の保存・活用に関する事業が円滑かつ適正に遂行するよう協力した。キトラ古墳では、史跡整備にむけて、墓道部の最終的な考古学的調査や記録作業を実施した。また、古墳の保存、活用、整備の方向性を検討にするにあたり、技術的な支援・協力を行った。

【年度実績概要】
(1)高松塚古墳
・石室解体に伴う発掘調査成果の活用にかかる事業として、石室周囲の版築層の剥ぎ取りパネルを展示公開資料として再加工した。剥ぎ取りパネルを展示空間に沿った形状、大きさに整えるとともに、パネル内に石室空間を擬似的に表現し、見学者にわかりやすい形に仕上げた。完成したパネルは飛鳥資料館の古墳コーナーに設置した。
・同じく石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、古墳構築過程、石室解体作業の 3 次元アニメーション、及びそのモデル作成を行った。今年度は、昨年度短編が完成したことを受けて、長編作成作業に着手した。必要となるモデルを追加作成するとともに、古墳構築過程に関しては長編アニメーションを完成させることができた。
・壁画の保存修復（劣化原因）について、蛍光Ｘ線分析による壁画の材料調査、デジタルアーカイブスキャニングによる記録画像、分光分析による顔料調査などを実施した。
・25 年 8 月・26 年 1 月の高松塚古墳壁画修理施設の一般公開に際しては、解説員として研究員（延べ 21 人）を派遣した。
・装飾古墳の保存・管理の現状を把握するため、奈良文化財研究所が所蔵する装飾古墳の調査・保存整備に関連する報告書類の文献調査を実施した。
(2)キトラ古墳
・キトラ古墳では、墳丘整備にむけた墓道部の最終的な考古学的調査として、3 次元レーザー測量、写真撮影、版築土層剥ぎ取り作業などを実施した。
・保存施設の記録として、覆い屋内外の 3 次元レーザー測量を実施した。
・覆い屋の解体作業に先立ち、墓道部分の埋め戻し作業を実施した。
・2 週間に 1 回、研究員による古墳石室内等のカビ点検作業を実施した。緊急時には現地において応急的な処置にあたり、文化庁に状況を報告した。
・報告書未掲載資料の歯牙及び人骨片 87 箱のうち、24 箱分について強化処置及び仮保管ケースを作成した。
・壁画の保存修復に資する情報を得るために、蛍光Ｘ線分析を用いた壁画の材料調査、デジタルアーカイブスキャニングによる記録画像、THz 波を用いた漆喰層調査、分光分析による顔料調査などを実施した。
・高松塚古墳壁画修理施設の公開と同時に実施された 25 年 8 月の石室一般公開に際しては、解説員として研究員（延べ 13 人）を派遣した。

【実績値】
研究発表 3 件（①～③）、報道発表 1 件(④)、論文数 3 件（⑤～⑦）

【備考】
①福永香・高妻洋成・W.Zia・T.Meldrum・B.Bluemich「テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査」文化財保存修復学会第 35 回大会 2013.7.21
②降幡順子・早川泰弘・辻本与志一・赤田昌倫・脇谷草一郎・田村朋美・高妻洋成・肥塚隆保・吉田直人・朽津信明・早川典子・江村知子・佐野千絵・岡田健・三浦定俊・宇田川滋正・建石徹「高松塚古墳壁画の材料調査-蛍光 X 線分析法による下地漆喰に関する調査(5)-」日本文化財科学会第 30 回大会 2013.7.6
③赤田昌倫・吉田直人・高妻洋成・降幡順子・脇谷草一郎・田村朋美・辻本与志一・岡田健・朽津信明・江村知子・早川典子・宇田川滋正・建石徹「キトラ古墳壁画の材料調査 2-玄武像の可視分光分析調査-」日本文化財科学会第 30 回大会 2013.7.6
④奈良文化財研究所ほか「特別史跡キトラ古墳の調査（飛鳥藤原第 178-6 次）記者発表資料」2013.12.5
⑤若杉智宏「キトラ古墳の調査」『奈文研ニュース』No.49、2013.6
⑥玉田芳英「キトラ古墳との 30 年」『奈文研ニュース』No.51、2013.12
⑦赤田昌倫「高松塚古墳壁画の色料に関する材料調査報告～東壁西壁の女子群像における赤色と黄色の可視分光分析から～」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4412

自己点検評価調書

研№43

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由

適時性：キトラ古墳の史跡整備にむけ、墓道部の考古学的調査と埋め戻し作業を適切に行った。
独創性：保存科学、考古学の双方の立場から、壁画古墳の保存・整備・活用に助言を行った。
発展性：壁画・装飾古墳や緊急性を有する文化財の保存・活用に対する新たな方向性を示すことができた。
効率性：キトラ古墳石室の点検及び考古学的調査・埋め戻し作業を迅速に実施することができた。
継続性：整理・分析作業を引き続き遂行し、今後の保存・活用にむけた成果を得た。
正確性：発掘調査の成果を再現動画の作成や古墳整備に反映させることができた

２．定量的評価

観点	研究発表	報道発表	論文数			
判定	A	A	A			

判定理由

研究発表：高松塚・キトラ古墳の壁材材料調査の成果を目標に沿うかたちで３件発表できた。
報道発表：社会的に関心の高い調査成果について適時に公表することができた。
論文数　：高松塚・キトラ古墳の保存・活用に資する学術的成果を論文にまとめ、目標の３本を発表することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	高松塚古墳の発掘調査成果の整理・検討、壁画の分析調査が進み、また、キトラ古墳墓道部の最終的な調査及び埋め戻し作業が完了したことにより、今後の保存・活用・整備等の事業が円滑に進むものと期待できる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	高松塚・キトラ両古墳の保存・活用に関する業務を遂行し、重要かつ緊急性を有する文化財の今後の保存・活用に対して大きく貢献することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4421

（様式 1）

業務実績書

研№44

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力（(4)－②）

【事業概要】

本事業は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内に所在する檜隈寺の全体像を明らかにすべく、遺跡周辺の調査を行うものである。檜隈寺は、我が国の国家成立期の舞台である飛鳥における古代寺院として重要な遺跡であり、中心部は史跡に指定されている。この遺跡の実体解明及び保存整備に資するため、2008 年度より発掘調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】

黒坂貴裕（都城発掘調査部主任研究員、森先一貴（考古第三研究室研究員）、南部裕樹（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、井上直夫（写真室再雇用職員）、栗山雅夫（写真室技術職員）

【主な成果】

本年度は檜隈寺の塔の南北軸線上にあたる位置（A 区）と回廊東南隅（B 区）の調査区を設定した。
A 区では古代の建物や溝、B 区でも中世と思われる建物を検出した。

【年度実績概要】

本調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備事業に関わる事前調査である。調査地は、明日香村南西部の丘陵上に位置し、この丘陵上には、渡来系氏族である東漢氏の氏寺と考えられる檜隈寺が所在する。

調査地　：檜隈寺の塔の南北軸線上にあたる位置（A 区）と回廊東南隅（B 区）
調査期間：平成 26 年 1 月 9 日～3 月 17 日
調査面積：280 ㎡
調査成果：A 区　古代と推定される掘立柱建物２棟、中世の掘立柱建物１棟、掘立柱塀１基、溝２条、土坑２基
　　古代と推定される建物は中心伽藍の建物の方位の振れと一致する。
　　B 区　掘立柱建物３棟、土坑４基、溝２条
　　いずれも中世の遺構と考えられる。
出土遺物：瓦、土器、金属製品などがある。



A 区の遺構検出状況

【実績値】

（参考値）
論文数：1 件
出土遺物　　軒瓦 42 点、丸平瓦 109 箱、土器 5 箱、鉄製品（鉄釘・鉄鎌・刀子など）6 点、
記録作成数　遺構実測図 26 枚、写真（4×5）64 枚、デジタル写真 90 枚、デジタルメモ写真 367 枚

【備考】

・森先一貴「檜隈寺周辺の調査（飛鳥藤原第 180 次調査）」『奈良文化祭研究所紀要 2015』2015.6（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4421

自己点検評価調書

研No.44

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：国営公園整備事業の事前調査として迅速に対応した。
発展性：檜隈寺周辺の遺構状況の解明について、古代から中世までの重要な資料を得た。
継続性：20 年度から檜隈寺周辺の全体像復元にかかわる継続的な調査を計画通り実施した。

２．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査では、檜隈寺の伽藍が完成した 7 世紀後半の資料のみならず、これまで不明であった中世の檜隈寺の動向が確認できる資料、及び今後の整備計画・調査計画において土地利用状況に関わる重要な資料を得た。檜隈寺の成立や寺域などの解明、歴史的変遷に関わる重要な成果が得られた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査は、年度当初の計画通りに実施されており、国営公園整備事業に関わる事業に伴い、檜隈寺の全体像復元、歴史の解明に向けて、有益な資料を得ることができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4431

業務実績書

研№45

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力（(4)－③）

【事業概要】
飛鳥・藤原地域は、我が国古代国家成立期の舞台であり、６世紀末から８世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
清野孝之（考古第三研究室長）、大林潤（遺構研究室研究員）、若杉智宏（考古第二研究室研究員）、前川歩（遺構研究室研究員）、山野ケン陽次郎　（熊本大学助教、前考古第一研究室アソシエイトフェロー）、井上直夫（写真室再雇用職員）、栗山雅夫（写真室技術職員）

【主な成果】
大和平野支線水路等改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原京右京七条一坊および藤原宮外周帯（橿原市上飛騨町）にあたる。調査区は、幅約 1.5m（一部 2.4m）、南北約 110mで、調査面積は 182 ㎡である。その結果、古代の素掘溝を検出し、記録した。

【年度実績概要】
調査地は藤原京右京七条一坊及び藤原宮外周帯にあたる。調査区は、幅約 1.5m（一部 2.4m）、南北約 110mで、調査面積は 182 ㎡である。発掘調査期間は 25 年 8 月 5 日～9 月 13 日である。

今回の調査で検出した主な遺構は、東西溝 4 条、南北溝 1 条である。

調査区中央付近では東西溝を 2 条確認した。2 条のうち、南側の溝は、飛鳥藤原第 63 次調査で確認した東西溝ＳＤ6510 から西に 3mの位置にあたり、ＳＤ6510 の延長部の可能性がある。北側の溝は、その位置関係から、六条大路の南側溝である可能性が高い。

調査区北側では東西溝を 2 条確認した。位置関係や溝の大きさから、2 条のうちどちらかが、六条大路の北側溝であると考えられる。

調査区北側では南北溝を 1 条確認した。北でやや東にふる直線的にのびる溝で、南北 30mにわたり検出した。検出位置は、西一坊大路東側溝の想定位置とほぼ一致しており、この南北溝は、西一坊大路東側溝の可能性が高い。

本事業は、水路付け替え工事に伴う発掘調査で、狭隘な調査範囲ではあったが、上記のように埋蔵文化財に関する情報を最大限に引き出し、必要となる記録類の作成を迅速に進めることができた。

なお、調査終了後も調査地外の水路改修工事区域の立会を実施し、遺構状況の確認を行った。



調査区北側完掘状況（北から）



調査区中央付近完掘状況（南から）

【実績値】
論文等数：２件（①・②）
（参考値）
出土遺物　：土器・土製品３箱、軒瓦３点、瓦２箱、銅銭１点
記録作成数：遺構実測図 19 枚、写真（4×5）8 枚、デジタル写真 90 枚

【備考】
論文等
①若杉智宏「藤原京右京七条一坊の調査（飛鳥藤原第 178-2 次）」『奈文研ニュース』No. 51、2013. 12
②奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原京右京七条一坊の調査（飛鳥藤原第 178-2 次）」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014. 6（予定）

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4431

自己点検評価調書

研No.45

1．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

判定理由

適時性：開発行為に対して迅速に対応し、地方公共団体の文化財行政に協力した。
継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集のために、調査を継続して行った。

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

判定理由

論文等数：目標どおり、研究所紀要において成果を発表することができる予定である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	緊急の案件に対して、迅速かつ適切に対応し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。この調査によって藤原京に関する遺跡のデータを収集し、蓄積することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究((5)-①)

【事業概要】
収蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、併せて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島　哲

【スタッフ】
荒木臣紀（保存修復課環境保存室主任研究員）、井出浩正（調査研究課考古室研究員）、池田宏（上席研究員）、伊藤嘉章（学芸研究部長）、伊藤信二（学芸企画部教育普及室長）、井上洋一（学芸企画部企画課長）、恵美千鶴子（調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー）、遠藤楽子（学芸企画部出版企画室研究員）、小野真由美（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）、小山弓弦葉（調査研究課工芸室主任研究員）、勝木言一郎（学芸企画部出版企画室長）、川村佳男（列品管理課平常展調整室研究員）、神庭信幸（保存修復課長）、鬼頭智美（学芸企画部国際交流室長）、木下史青（学芸企画部デザイン室長）、救仁郷秀明（列品管理課登録室長）、小泉惠英（学芸企画部博物館教育課長）、後藤健（東京国立博物館特任研究員）、小林牧（学芸企画部広報室長）、佐々木佳美（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）、澤田むつ代（特任研究員）、品川欣也（調査研究課考古室研究員）、島谷弘幸（副館長），白井克也（列品管理課平常展調整室長）、鈴木希帆（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）、鈴木みどり（学芸企画部博物館教育課ボランティア室長）、鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）、高橋裕次（学芸企画部博物館情報課長）、竹内奈美子（調査研究課工芸室長）、田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）、塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）、土屋貴裕（列品管理課平常展調整室研究員）、土屋裕子（保存修復課保存修復室長）、富田淳（列品管理課長）、橋本英将（調査研究課考古室研究員）、平河智恵（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）、古谷毅（列品管理課主任研究員）、松嶋雅人（学芸企画部企画課特別展室長）、松本伸之（学芸企画部長）、三田覚之（調査研究課工芸室研究員）、村田良二（学芸企画部博物館情報課情報管理室長）、山下善也（調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）横山梓（学芸企画部企画課特別展室研究員）、米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）、和田浩（保存修復課環境保存室主任研究員）

【主な成果】
収蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後・収集・展示の対象となりうる文化財と、それらに関連する資料等について、美術史学・歴史学・考古学・博物館学等の多様な見地から調査研究を行い、その成果を学会・研究会・学術雑誌・書籍等に発表・公開した。

【年度実績概要】
・内外の学会・研究会等で研究成果を発表した。
・学術雑誌等に各種の論考を掲載するとともに、著作を刊行した。

【実績値】
・学会・研究会等発表件数：76 件
・論文等掲載数：134 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：学界動向に留意するとともに、社会的な関心や展覧会と関連付けて研究を行っている。
独創性：当館のコレクションは国内外に類例のないもので、常に新規の知見を見出している。
発展性：蓄積されてきたコレクションに対する知見をもとに、新たな視点を持った研究を行っている。
効率性：所蔵品の管理や展示・外部への貸出等、他業務に多く時間を割かれながらも、成果を蓄積している。
継続性：各研究員の長期にわたる学術的関心をもとに研究を行っている。
正確性：実証に基づいた確実な研究を行っている。

2．定量的評価

観点	学会・研究会等発表件数	論文等掲載数				
判定	A	A				

判定理由
学会・研究会等発表件数、論文等掲載数：
いずれも研究機関の規模（研究員の人数）と業務の繁多を考慮した上で、適切な成果をあげている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	科学研究費等の獲得も増加し、それらの調査研究を基礎とした研究成果を順次公開できている。また、各ジャンルにわたり、学術情報の公開を行っている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画に基づき、順調に進捗している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-2

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）特別調査法隆寺献納宝物（第 35 次）「金工品」（(5)-①）

【事業概要】

東京国立博物館では、法隆寺献納宝物について、昭和 54 年より、35 次にわたって献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業は全ての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】

松本伸之（学芸企画部長）、伊藤信二（学芸企画部博物館教育課教育普及室長）、酒井元樹（保存修復課保存修復室研究員）、三田覚之（調査研究課工芸室研究員）、内藤榮（奈良国立博物館学芸部工芸考古室長）、永井洋之（奈良国立博物館学芸部工芸考古室アソシエイトフェロー）、末兼俊彦（京都国立博物館学芸部工芸室研究員）、望月規夫（九州国立博物館学芸部文化財課アソシエイトフェロー）、西川明彦（宮内庁正倉院事務所）

【主な成果】

国宝　水滴１合・墨台１基・匙３本（法隆寺献納宝物）についての実見調査を実施した。

【年度実績概要】

26 年 3 月 17 日東京国立博物館内にて、各研究員が作品を実見調査したのち、それぞれの材質、制作技法、様式、制作年代、伝来などについて、検討会を行った。その結果、従来考えられてきた様式や制作年代について、再検討を加える必要があるとの結論に達した。



国宝　水滴・墨台・匙（法隆寺献納宝物）調査風景

【実績値】

調査回数　　1 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：本調査は、これまで継続的になされてきた法隆寺献納宝物調査の未報告作品に対するものであり、近年重要文化財指定を受けた作品を対象としているため。
独創性・発展性：国宝であるにもかかわらず、これまで本格的な調査がなされておらず、詳細な論考などもなかった作品に焦点をあて調査を実施したため。
効率性：調査者はいずれも日本及び東洋の金工を研究対象とする専門家であり、問題点の所在、調査すべきポイントの見極め、作品の取り扱いなどに習熟しており、効率的に調査を行うことができた。
継続性：昭和54年から35年間調査を継続して行っている。また、次年度以降に本調査の成果を含め調査概要『金工品』として刊行する予定である。
正確性：調査者はいずれも日本及び東洋の金工を研究対象とする専門家であり、極めて専門性の高い見地から調査を行うことができた。

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	A					

判定理由
調査回数：予定通りの調査を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	金工の美術史、技術史を研究分野とする研究者による、極めて専門性の高い見地から行われた調査であり、従来知られていなかった知見を数多く得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昭和54年から35年間調査を継続して行っている調査であり、これまで調査対象として取り上げられてこなかった国宝作品を対象とし精査することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)　特別調査「書跡」（第 11 回）（(5) -①）

【事業概要】
館書跡収蔵品の中で、平安時代から江戸時代にわたる歌書、物語、願文など和様の書跡類を調査する。この分野ではすでに平安時代の作品を中心とした図版目録『日本書跡篇　和様 I』を刊行しているが、その後の新規収集品及び鎌倉時代以降の作品を対象とする。特に古筆切となっている断簡類の原典特定作業、使用された料紙の種類、書写年代の比定を行うとともに、法量計測、高精細画像撮影など基礎データを収集し今後の研究に便宜を図る。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島 哲

【スタッフ】
島谷弘幸（東京国立博物館副館長）、高橋裕次(博物館情報課長)、恵美千鶴子（調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー）、羽田聡(京都国立博物館学芸部企画室主任研究員)、丸山猶計（九州国立博物館文化財課主任研究員）、酒井芳司(九州国立博物館企画課展示室研究員)、渡部史之（九州国立博物館博物館科学課アソシエイトフェロー）、西山厚（奈良国立博物館学芸部長)、吉川聡(奈良文化財研究所文化遺産部歴史研究室長)、高梨真行(文化庁美術学芸課文化財調査官)

【主な成果】
当館で所蔵・収集した書跡分野に属する古筆切と文化庁所蔵の書跡・典籍　計 56 点について、作品の名称、古筆切としての通称、制作年代、形状、界線について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『国歌大観』の収載番号との照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質分析の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解読し書誌情報を収集した。また対象全件について法量を計測した。なお、本年度はスケジュールの都合により調査会場が狭隘であったため、高精細画像の撮影は実施しなかった。

【年度実績概要】
当館の収蔵にかかる書跡分野の作品及び文化庁所蔵の作品の内、主として南北朝時代以降の掛軸装の古筆切、巻子装・帖装の作品、について次の項目について調査を実施した。1,名称・通称の検討、2,筆者の真贋・伝称筆者などの検討、3,制作年代、4,元装丁の推測、5,形状性質の確認、6,本紙の法量計測、7,出典の推定、8,使用料紙の分析、9,界線の分析、10,記載文字の判読、11,書誌情報の確認
調査対象:B-10 詩懐紙など　56 点　　調査日　:26 年 1 月 30 日(木)～31 日(金)。



調査の状況

【実績値】
調査件数:　56 点
調査日数:　2 日間
調書作成:　56 枚
(参考値)
調査人数:参加者　16 人日(のべ)

【備考】

【書式B】
(様式2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：館蔵品の収集がある程度まとまった適切な段階で実施しているため。
独創性：館蔵品を対象とした詳細な調査で、他では実施できないため。
発展性：調査成果は今後の目録の刊行等につながるため。
効率性：必要最小限の経費で実施しているため。
継続性：館蔵品の調査を毎年蓄積しているため。
正確性：各参加者の専門性を活かして、正確な調査内容となっているため。

2．定量的評価

観点	調査件数	調査日数	調書作成			
判定	A	B	A			

判定理由
調査件数：所期の件数を調査した。
調査日数：所期の日数の調査を行った。
調書作成：今後の研究に十分な調書の作成を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今後の研究に必要な件数と内容の文化財の調査を実施している。おおよその対象は調査ができたので、平成26年度以降、成果を目録として公開するために、情報の点検等を進める。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査は、所蔵文化財の持つ情報を詳細に把握し、公開するためのものである。近年の調査の実施によって、和様の書跡のうち新規収蔵品及び南北朝・室町時代の作品に関する詳細情報が順調に蓄積されつつある。今後は成果の再確認を行うとともに、目録等の公開に向けた準備を行う。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-4

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)　特別調査「工芸」第 5 回（(5)－①）

【事業概要】

東京国立博物館における文化財のうち、金工・刀剣・陶磁・漆工・染織等工芸分野の特別調査。独立行政法人国立文化財機構の国立博物館 4 館及び文化庁の工芸担当者が集まり、同じ専門分野の研究者が同時に作品調査を行う。複数の専門家の目で同時に同じ作品を調査することにより、精度の高い成果が得られる。また各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有できる。今後の研究の進展や、展示内容の向上に結びつけることを目的とする。なお、担当研究員の育児休暇や特別展関係業務を鑑み、今年度は金工・漆工の調査会を行うこととする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　竹内奈美子

【スタッフ】

松本伸之（学芸企画部長）、伊藤信二（学芸企画部博物館教育課教育普及室長）、酒井元樹（保存修復課保存修復室研究員）、永島明子（京都国立博物館学芸部列品管理室主任研究員）、内藤榮（奈良国立博物館学芸部工芸考古室長）、永井洋之（奈良国立博物館学芸部工芸考古室アソシエイトフェロー）、末兼俊彦（京都国立博物館学芸部企画室研究員）、川畑憲子（九州国立博物館学芸部企画課文化交流展室研究員）、望月規史（九州国立博物館学芸部文化財課研究員）

【主な成果】

東京国立博物館の金工・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。金工調査では、対象列品の用途を探る手掛かりや制作年代について議論を深め、制作当初の用途や組み合わせに関する新たな可能性も指摘され、今後の検討方針が明確になった。漆工調査では、香道具の中でも不定形な様相を示す香箪笥をとりあげ、香道具の融通無碍なあり方について認識を深めた。また同時に、香道具に用いられた加飾技法や材料の多様性が浮かび上がる結果となった。

【年度実績概要】

・金工調査

実施期間　26 年 3 月 17 日（月）

法隆寺献納宝物など金工列品 7 件について、宮内庁正倉院事務所より保存課保存科学室長・西川明彦氏を迎えて調査を実施した。調査対象の一部である水滴（N-81）、墨台（N-80）、匙（N-82）は、いずれも古来より著名でありながらも、当初の用途や制作年代などに関して検討の余地を残しており、今回の調査会では、これらの点に関して実作品の詳細な調査に基づく意見交換が行われた。そのうち、水滴内面に塗られた漆が用途を探る手掛かりとなる可能性があること、墨台は正倉院宝物と同じ奈良時代の作例とみられること、3 本の匙のうち 1 本は花形皿（N-118）と元来は一具であった可能性が指摘され、今後の検討方針が明確になった。

・漆工調査

実施期間　26 年 2 月 27 日（木）・28 日（金）

漆工列品のうち継続的に香道具をテーマとし、今年度は昨年度に続き、引出しの中に細々とした道具類や多種多様な香木片を収める、箪笥形式の作品 5 件をとりあげて調査を実施した。中でも今回は秋草蒔絵香箪笥（H-455）や水藻蒔絵香箪笥（H-521）などのように、小さな引き出しをもうける形式の作例が含まれており、小型の引き出しを複数収めることが香箪笥の一つの特徴ととらえられるという結論をみた。ただし箪笥全体の形状に特段の法則性はみられず、それゆえに香木を収める香箪笥には汎用の提箪笥を用いた場合が多いことを再確認し、香道具の形式にとらわれない融通無碍な性質について、認識を深めた。また破紗綾形蒔絵香箪笥（H-75）は文様を表わすのに型紙を用いたと推測され、水藻蒔絵香箪笥（H-521）は鮫皮とよばれるエイの皮を用いるなど、加飾技法や材料の多様性も、香道具の特色の一つとして浮かび上がった。さらに内に収められた香包には、しばしば香木の由緒伝来が記載されており、内容品の情報が香道具研究に役立つ可能性が指摘された。



金工調査風景



漆工調査風景

【実績値】

調査回数　2 回
調査日数　3 日
調査員　10 名
調査対象作品　12 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：工芸分野では美術や考古、歴史などの分野より研究者が不足しており、研究推進の緊急性が高く、本事業は時宜に適っているため。
独創性、効率性、正確性：工芸各分野の研究者がそれぞれ複数揃う国立文化財機構ならではの事業であり、本年度も各機関の同じ専門分野の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。
継続性、発展性：本年度の調査事業は、5回目の実施となり継続して行うことができた。これにより、今後の研究推進や展示公開に向け寄与するところは大きいと考えるため。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査日数	調査員	調査対象作品		
判定	A	A	A	A		

判定理由
調査回数：計画通り、金工・漆工それぞれの調査会を実施した。
調査日数：計画通り、それぞれ1～2日にわたる調査を実施した。
調査員：金工・漆工分野は、各機関専門家がそれぞれ全員揃って調査を行った。
調査対象作品：各分野の調査において極めて効率良く、相当数の作品を調査できた。金工調査は希少な奈良時代の伝世品を対象としたため、例年より作品件数を限定し、討議に多く時間を割いた。漆工調査の対象作品は1件に多数の内容品を含むため比較的に作品件数は少ないが、実際には多岐にわたる多数の作品の調査を行っている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	各機関の同じ専門分野の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。今後の研究推進及び展示公開に寄与するところが大きい。また分野ごとに分かれて作品調査を実施するため効率性も高く、相当数の作品を調査している。今後は刀剣・染織分野についても調査を行っていくことが望ましく、26年度以降も継続する必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り作品調査を実施することにより、研究を推進し、その成果が展示公開の向上に寄与している。本事業のような調査会を次年度以降も継続的に行っていくことにより、工芸分野の文化財に関する研究の推進を図る。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）特別調査「彫刻」第 3 回（(5) -①）

【事業概要】
社寺所蔵の仏像、神像、肖像彫刻を調査し、調査研究報告、論文等の研究活動に結び付け、あるいは寄託の増加、特別展等の企画につなげて展示の質の向上を図る。
当館所蔵の東洋彫刻、それに関連した作品を調査し、図版目録東洋彫刻篇の出版、論文等の執筆、展示に反映させる。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室長　浅見龍介

【スタッフ】
丸山士郎（学芸企画部博物館教育課教育講座室長）、小泉惠英（学芸企画部博物館教育課長）、稲本泰生（客員研究員・京都大学准教授）、原田あゆみ（九州国立博物館主任研究員）

【主な成果】
建仁寺西来院の調査において蘭渓道隆坐像の制作年代、作者が判明、像内に鎌倉時代と推定できる肖像彫刻の頭部前面を発見した。
六道珍皇寺の小野篁・冥官・獄卒立像の調査において制作年代と作者が判明した。
当館東洋彫刻の調査において時代不詳とされていた作品を北斉時代・6 世紀の作と判定した。

【年度実績概要】
・建仁寺開山堂、同寺塔頭のうち西来院、興雲庵、正伝永源院、清住院、六道珍皇寺の調査を行い、西来院、六道珍皇寺で上記の発見があったほか、興雲庵の伝観音菩薩坐像、清住院の十一面観音菩薩坐像が南北朝時代の康俊周辺の仏師の作であることがわかった。頂相彫刻は各寺に複数あったが、清住院の蘭洲良芳坐像、正伝永源院の無涯仁浩坐像、霊源院の中巌円月坐像が南北朝時代の作、その他の像は頭部が後補あるいは、全面的に補修しているものであった。

・ベトナム国立歴史博物館所蔵の日本彫刻の調査をハノイで行った。阿弥陀如来立像 2 躯のうち 1 躯は昭和 19 年に東京国立博物館とフランス極東学院が美術品の交換を行った際に日本から送られたものである。調査の結果、鎌倉時代・13 世紀半ばころの優品と見られた。他の 1 躯はベトナム側では江戸時代の作とされていたが、これも鎌倉時代・13 世紀の作だった。このほか能狂言面 5 面も東京国立博物館から送ったものであり、調査・撮影を実施した。

・当館所蔵の東洋彫刻の調査では従来時代不詳としていた作品の中に 6 世紀から 8 世紀の作品を多数見出すことができた。これらは汚れた作品、自立しない作品もあり、活用するためにはクリーニング、展示具の作成が必要である。展示に活用できる作品が見出せたことは価値が高い。



建仁寺西来院蘭渓道隆坐像像内納入の肖像彫刻頭部

【実績値】
調査回数 12 回、調査日数 20 日、調査員 5 名、調査対象作品 125 件

【備考】
特別展『栄西と建仁寺』図録に建仁寺調査の成果を掲載。

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：東洋彫刻の所蔵品に関する情報公開、資産の有効活用、国際性などから時宜にかなっているため。
独創性：金属製品、石造品などの材質分析も行っており、新たな視点を提供できるため。
発展性：研究の基礎資料としての情報量を多く取得し、多くの研究者に多数の視点を提供できるため。
効率性：作品の大小によって１日の調査件数は異なるが、効率的に実施できているため。
継続性：調査方法を確立しており、同様の方法で対象を広げて実施できるため。
正確性：細部の写真撮影を行い検証可能にしている。材質分析は誤差を想定し、開示する情報の正確性を確保しているため。

２．定量的評価

観点	調査回数	調査日数	調査員	調査対象作品		
判定	A	A	A	A		

判定理由
調査回数：2 ヵ月に一度の定期的な調査のほか、出張の調査も実施しており実績が上がっている。
調査日数：他の仕事との兼ね合いから、十分に満足できる数字である。
調査員：中国・朝鮮の作品調査に実績のある調査員を複数得ている。
調査対象作品：調査は効率よく進めており、対象とした作品数も満足できる数字である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館東洋館の展示の充実につながった。次年度は調査した作品を収録した図版目録を刊行する予定である。これに合わせて特集陳列を行うことも検討したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	次年度の図版目録刊行のめどが立ち、展示に活用できる作品を新たに多数見出すことができた。また、作品の保存状態を把握し、今後の修理計画の立案も可能になった。当館の展示計画のみでなく、独立行政法人国立文化財機構の中でどのように活用していくかを京都・奈良・九州の国立博物館彫刻担当研究員と協議・検討したい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6）特別調査　屏風の箔地についての光学的調査研究（(5)－①）

【事業概要】
近年絵画作品の金・銀の使用に関して、当館収蔵の作品を調査対象として光学的調査を行ない、時代の特徴等美術史的観点から考察を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】
神庭信幸(保存修復課長)、荒木臣紀(保存修復課主任研究員)、松嶋雅人（学芸企画部企画課特別展室長)、山下善也（調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）本田光子（調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員）

【主な成果】
国宝「花下遊楽図屏風」の幔幕や衣装について蛍光Ｘ線分析による絵具調査を行い、これまで行ってきた箔地調査の結果を踏まえて検討した。蛍光Ｘ線分析により、現在茶色に見える部分や黒い部分に銀が使われていることを確認し、それにより江戸時代初期の狩野派作品が金から銀への嗜好へと変わる可能性を検討した。

【年度実績概要】

○蛍光Ｘ線分析による国宝「花下遊楽図屏風」調査
- 茶色や黒に見える彩色を目視により子細に観察し、銀ではない部分と銀により彩色が行われたが酸化・硫化により変色した部分があるのではないかと推定した。
- 蛍光Ｘ線分析装置を用いてそれぞれの箇所の成分調査を行った。
- 分析により銀や硫黄が成分に含まれている部分のあることを確認した。
- 現状は銀ではなく暗い色調に変色した絵具に見える部分を当初の色彩に再現して検討し、この作品のイメージを再度検討した。


蛍光Ｘ線分析装置によるデータ計測


「花下遊楽図屏風」調査風景

【実績値】
作品調査等回数 4 回（事前調査検討会 1 回、蛍光Ｘ線分析調査 2 回、分析結果検討会 1 回）
収集データ数　11 箇所 69 データ

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	S	A	S	S	A	

判定理由
適時性：近年の美術史研究では、日本絵画における金や銀の使用方法に対する関心は高く、データ蓄積の必要性も極めて高いため。
独創性：光学機器による金・銀箔の研究は、実物を対象として行う必要があり当館の収蔵品から重要な表現を持っているものを選んで調査を行うことに意味があるため。
発展性：今回の方法では、目視により予想されたが確定的ではなかった判断を、科学的にも証明するものであり、他の作品にも発展的に応用できる研究方法の確立が可能であるため。
効率性：作品を事前調査により美術史的観点から選ぶことで、効率のよい調査ができたため。
正確性：これまで継続的に行ってきた光学的調査をもとに、必要な機材を新たに構成したことで、数値化によるデータ収集ができた。

2．定量的評価

観点	作品調査等回数	収集データ数				
判定	A	B				

判定理由
作品調査等回数：調査対象作品を「花下遊楽図屏風」とし、絵具や、銀の判断に必要なデータ集積を行うことができた。
収集データ数：他業務との関係から1回の調査に時間的制約があったため、必要箇所のみのデータ採集にとどまった。業務の調整を行うことで、1回あたりの収集数を増やすことでより発展的研究を行いたい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	茶色や黒色の部分に、絵具ではなく銀が用いられていることが確認され、現在落ち着いたイメージを持つ国宝「花下遊楽図屏風」が、当初は銀を多用した爽やかで明るい色調の作品であったことわかった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨年までは、金地屏風のみを対象とした金箔使用の調査を行ってきたが、必要とされた最終実験を行うための機材が故障し、実験を行うことができなくなった。そのため、同一条件を前提としたデータを集約しての考察を行うことができなくなった。本年度は、新たな機材により実験が可能となり、総合化を行わなくても調査成果を得ることの出来る研究課題とした。それにより個別の作品を対象として調査し、成果に結びつける実験体制をつくることができた。 次年度以降も継続して、作品を調査する体制が確立した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-7

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)油彩画の材料・技法に関する共同調査（(5)－①）

【事業概要】

本研究は東京藝術大学との共同研究で平成 20 年度から開始し、平成 24 年度に継続の手続きを行い、続行しているものである。東京国立博物館所蔵の油彩画約 150 件の中から、明治期を中心とした約 50 件を調査対象としている。東京藝術大学大学院油画保存修復研究室はこれまで大学所蔵の明治期油彩画について調査研究を続け、多数の成果を公表している。この度の共同調査の目的は、高精細デジタルカメラを使用した顕微鏡写真、普通光写真、赤外線写真、紫外線蛍光写真、透過デジタルＸ線写真、蛍光Ｘ線分析等の科学的調査を通し、当館所蔵の油彩画に使用された材料と技術に関するデータ構築を行い、これまで芸大が集積したデータと比較を可能にすることである。それによって、今後我が国の初期油彩画の技法的解明、あるいは歴史的解明が一層進展するものと考える。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

【スタッフ】

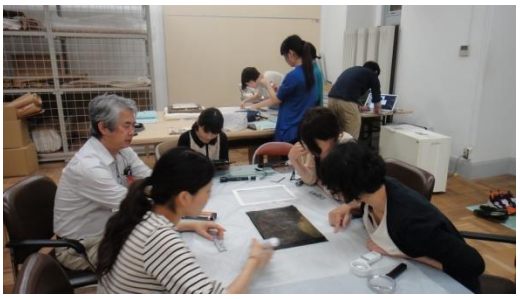
木島隆康(東京藝術大学大学院教授)、西川竜二(東京藝術大学大学院助教)、田沢裕賀(調査研究課絵画・彫刻室長)、土屋裕子(保存修復課保存修復室長)、荒木臣紀(保存修復課主任研究員)

【主な成果】

平成 20 年 11 月から開始した本調査は、3 年間の調査期間の締結を更新し、さらなる調査を進めている。本年度調査が終了した作品は、9 点である。

【年度実績概要】

平成 25 年度に調査が終了した作品（これまでに調査した作品の追加調査も含む）は、①A-698 風景、②A-705 風景、③A-708 海の風景、④A-715 シバの女王とソロモン王、⑤A-716 ジャニー･ディーンズ`の肖像、⑥A-10045 形見の直垂(虫干)、⑦A-11240 漁夫、⑧A-11295 花、⑨A-11753 酢川にかかる常盤橋、以上 9 点。



油彩画の調査風景

【実績値】

調査回数　：5 回

調査作品数：9 点

【備考】

【書式B】
(様式 2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-7

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：展示への活用に資する時宜を得た調査であるため。
独創性：当館保有の油彩画に関して初めての総合調査であるため。
発展性：明治期に油彩画に関して他館との比較研究が可能になるため。
効率性：計画的な調査を実施した。
正確性：調査内容は目的とするメニューを確実に行うことができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査作品数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数、調査作品数:全て当初予定通りの優れた成果を上げることができたと考える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館が所蔵する油彩画コレクションは、東京藝術大学の同時期の作品群を補完する意味でその存在は大きい。これまで光学的調査が不十分であったため、芸大作品と材料や技術に関する科学的な比較が困難であったが、一連の調査によって徐々に可能になってきている。特にX線透過画像、デジタル顕微鏡画像などの詳細なデータ間の比較によって、作品の特性のみならず、関係性などについても新たな検討ができる状態が整いつつある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。『MUSEUM』での発表はなかったが、現在準備中である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-8
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究（(5)－①）

【事業概要】
水漬状態の漆塗籠棺残片(J-39374)のミクロ及びマクロ的な構造を理化学的に調査分析し、合わせて過去の処置事例を検討しながら、水漬状態の資料に対する乾燥方法を確定し、具体的に乾燥処理を行うことを目的とした事業である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

【スタッフ】
齊藤孝正（学芸研究部上席研究員）、古谷毅（列品管理課主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室長）、橋本英将（調査研究課考古室研究員）、川村佳男（列品管理課平常展調整室研究員）、市元塁（九州国立博物館企画課研究員）、永嶋正春（国立歴史民俗博物館情報資料研究系客員教授）、今津節生（九州国立博物館学芸研究部博物館科学課長）、高妻　洋成（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、北野信彦（東京文化財研究所保存修復科学センター主任研究員）、望月幹夫（当館客員研究員）、松井敏也（筑波大学准教授・当館客員研究員）

【主な成果】
・漆塗籠棺残片の保管履歴を整理し、現状を確認した。
・理化学的調査分析の計画を策定した。
・断片の乾燥処置方法について検討した。

【年度実績概要】
・第 1 回全体会議･調査会の開催
開催日：平成 25 年 1 月 30 日
出席者：齊藤・神庭・古谷・和田・橋本・川村・市元・今津・高妻・永嶋・北野
議事：研究経過報告(神庭)、関係資料報告(古谷)、学識経験所見報告(今津・高妻・永嶋･北野)、報告･協議総括(神庭)。
理化学的調査分析についての協議及び、日程を決定した。

・水浸保管中の漆残片の保存状態、形状などについて定期的な点検調査を実施した。



水浸保管中の漆残片

【実績値】
調査回数　16 回
水浸保管中の漆残片の保存状態の調査を継続的に実施した。

調査研究会 1 回
神庭信幸、齊藤孝正、古谷毅、和田浩、橋本英将、川村佳男、市元塁、永嶋正春、今津節生、高妻洋成、北野信彦が参加して、乾燥処置法についての検討を行った。

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-8

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	正確性				
判定	A	A				
判定理由 適時性：緊急性が高く、事業完了後は公開を目指した事業を実施した。 正確性：理化学的調査で得られたデータに基づく修理計画立案を目的とする事業を実施した。						

2．定量的評価

観点	調査回数	調査研究会回数				
判定	A	A				
判定理由 調査回数：年度内に十分な内容を伴う調査を予定通り実施した。 調査研究会回数：予定通り1回の研究会を開催し、本格的修理に向けた検討を実施した。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本格的な保存処理の実施前に、漆塗籠棺残片の構造、材質の検討を実施した。現状では、漆の年代計測、漆の微細構造の解析などがまだ残っているが、それらは次年度に実施できるように調整中である。それらの点を除けば、予定通りに保存のための事前調査は進行し、修理に必要な成果を得ている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	漆塗籠棺残片の制作技法と修理方法の検討は順調に進み、次年度には修理に着手できる見通しがついた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-9

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9）東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査（(5) －①）

【事業概要】
東京国立博物館所蔵の仏教絵画を対象として、東京文化財研究所のもつ高精度のデジタル画像調査による共同調査を行い、仏教絵画の価値認識を深め、劣化しない長期保存可能な最高レベルの記録を作成し、作品の保護に寄与することを目指す。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】
沖松健次郎（保存修復課保存修復室主任研究員）、小林達朗（東京文化財研究所主任研究員）、城野誠治（東京文化財研究所専門職員）、小林公治（東京文化財研究所広領域研究室長）、江村知子（東京文化財研究所主任研究員）、皿井舞（東京文化財研究所主任研究員）

【主な成果】
平成 24 年度に高精細デジタル画像撮影を行った国宝「千手観音像 A-10506」について東博・東文研両機関研究員による検討会を開催し、撮影画像をもとに「千手観音像」に用いられた技法を詳細に観察、検討した結果、截金上にさらに彩色が加えられているとみられることなど、従来認識されてこなかった細部の技巧についての知見を深めることができ、今後の平安仏画の美的表現の研究・公開に資するに足る重要な資料を得た。また、来年度も継続的に調査と検討を行うために国宝「普賢菩薩像 A-1」の高精細デジタル画像撮影を行った。

【年度実績概要】
・　国宝「千手観音像」について
　平成 24 年度に高精細デジタル画像撮影を行った TIFF 高精細画像 23 点､閲覧用ファイル(JPEG 画像等による Zoomify 形式）23 組を受け入れ、調査成果の共有化を図った。
　同画像をもとに東博・東文研両機関研究員による検討会を 25 年 5 月 16 日に東京文化財研究所において開催した。
　検討会の成果は、小林達朗（東京文化財研究所企画情報部主任研究員）が、25 年 10 月 4 日に東京文化財研究所第 47 回オープンレクチャーで「平安仏画の表現―虚空蔵菩薩像と千手観音像」ならびに、26 年 1 月 11 日に第 37 回東京文化財研究所文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「「かたち」再考―開かれた語りのために」で「美麗の術―国宝千手観音像の場合」と題して発表した。
・　国宝「普賢菩薩像」について高精細デジタル画像撮影を行った。


東京文化財研究所における検討会


国宝「普賢菩薩像」撮影風景

【実績値】
検討会回数　1 回（「千手観音像 A-10506」25 年 5 月 16 日　於東京文化財研究所）
作品調査回数　1 回（「普賢菩薩像 A-1」26 年 3 月 26 日　於東京国立博物館）
研究発表回数　2 回
作成データ量　TIFF 高精細画像 23 点、JPEG 画像等による Zoomify 形式 23 組（「千手観音像 A-10506」）

【備考】
本年度は、このプロジェクトによって得られた「千手観音像」の画像資料に基づいて東京文化財研究所スタッフ（小林達朗）による研究成果の公表が行われ、充実したものとなった。

【書式B】
(様式2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-9

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	S	S	S	A	S

判定理由
適時性：日本美術史研究において重要な作品を対象とし、現在最高レベルの調査技術を用いているため。
独創性：同機構内で貴重な文化財を管理するスタッフと最高レベルの高精細画像調査技術を持つスタッフが相互に補完しつつ重要な表現を持っているものを対象に選んで研究を行っているため。
発展性：細部の調査、認識による研究は、仏教絵画以外にも発展的に応用できる研究方法であるため。
効率性：作品を良く知るスタッフにより、美術史的観点からポイントを絞った調査準備が行われており、効率のよい調査ができたため。
継続性：異なる機関のスタッフによる共同研究のため、調査・検討の時期調整に困難が生じたが、来年度も継続的に調査をする準備段階を確立できたため。
正確性：最高レベルの高精細画像調査技術による調査が可能であったため。

2．定量的評価

観点	検討会回数	作品調査回数	研究発表回数	作成データ量		
判定	S	A	S	S		

判定理由
検討会回数：東京国立博物館、東京文化財研究所のプロジェクトスタッフ以外にも、呼びかけを行い、非常に多くの参加者による充実した意見検討が行われ、従来認識されてこなかった細部の技巧についての知見が得られた。
作品調査回数：本年度検討対象とした国宝「千手観音像」については、高精細画像調査が昨年度に行われており、本年度には、来年度のための国宝「普賢菩薩像」について、高精細画像調査が行われ、来年度の準備を果たすことができた。
研究発表回数：研究成果を得ることができたので、研究者、一般を対象とした研究発表をそれぞれ行うことができた。
作成データ量：TIFF 高精細画像 23 点を記録し、JPEG 画像等による Zoomify 形式による 23 組の閲覧用画像を共有することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	高精細デジタル画像撮影の成果を美術史研究に反映させることで、より客観的研究体制を確立している。次年度も継続的に調査を行う準備ができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	本年度は、共同研究をはじめて 3 年度目にあたる。個別作品の研究としても重要なプロジェクトであるが、調査作品数を増やし、研究を蓄積していくことで、日本の仏教絵画に対する広範な視点による研究を導き出すことが可能になると考える。次年度も継続的に調査を行うことで、より正確性の高い研究を目指していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-10

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10）板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】

平成 21 年度東京国立博物館に一括寄贈された約 1 万件に及ぶ板谷家伝来資料について、デジタル撮影、データ整理を行い、データベース作成・公開への準備を進める。また、各古文書・絵画資料の画題や原本、伝来等について調査するとともに、板谷家作品を所蔵する機関にて現存作品調査を実施。これにより伝来資料について、資料そのものと現存作品との比較という両面から理解を深め、その成果を公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画･彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】

池田宏（上席研究員）、冨坂賢（前保存修復課保存修復室長）、小野真由美（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）、塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）、金井裕子（学芸企画部企画課特別展室研究員）、山下善也（調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）

【主な成果】

伝来資料について、2,791 点（5,012 カット）の撮影を終了するとともに、並行して下絵と関連する原品作品の確認など知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会を開いたのに加え、本年度は資料中に下絵類の見出された新潟県浦佐毘沙門堂（普光寺）山門の障壁画調査（25 年 8 月 28・29 日）及び撮影を行った。

【年度実績概要】

・伝来資料のデジタル撮影、データ整理

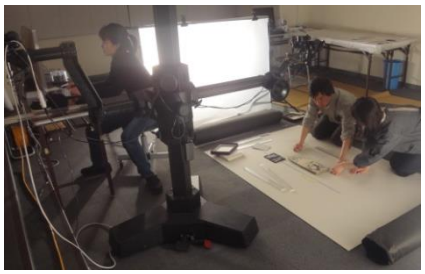
作品保存とデータベース公開のため、伝来資料のデジタル撮影、データ整理を、週 2 日行った。

・調査の実施

東京国立博物館所蔵の住吉家、板谷家作品の調査を行った。また 25 年度は新潟県浦佐毘沙門堂（普光寺）（25 年 8 月 28・29 日）での調査を実施し、実測や撮影等の詳細な調査をもとに下絵と比較し、下絵等の資料が山門障壁画の密接な関係があることを確認した。

・研究会の実施

25 年 8 月 27 日東京国立博物館内で、下絵と関連する作品確認の成果として、浦佐毘沙門堂（普光寺）山門の障壁画調査を前提とした寺院壁画関連下絵を対象として調査研究会を行った。



板谷家伝来資料撮影風景



資料整理保管状況



板谷家伝来資料（飛天下絵）

【実績値】

研究会回数　1 回（25 年 8 月 27 日）
外部調査回数　1 回（25 年 8 月 28・29 日）
画像データ作成点数　2,791 点　5,012 カット

【備考】

【書式B】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-10

（様式2）　　自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	S	A	A	B	

判定理由

適時性：近年の御用絵師研究の進展に寄与する研究であるため。

独創性：総数1万点を超える御用絵師資料の総括的研究は、これまでになされていないため。

発展性：住吉家（本年調査を実施）・狩野家など板谷家以外の御用絵師の活動と連動した研究により、様々な研究が可能となるため。

効率性：これまで御用絵師研究に関わってきた研究者の協力を得て効率の良い調査がなされているため。

正確性：下絵・粉本等の画題検討を手分けして行い、不明部分に関しては、研究会で課題を出し合って精度を高めているが、総量が多いこと、特別展関連業務が年度後半に集中したこともあり、一部には遅れも見られるため。

2．定量的評価

観点	研究会回数	外部調査回数	画像データ作成点数			
判定	B	A	A			

判定理由

研究会回数：館内での検討会と年度前半の研究会は行われたが、年度末の研究会が開催できなかったため。

外部調査回数：回数は1回であるが、これまで紹介されることのほとんどなかった浦佐毘沙門堂（普光寺）山門障壁画調査を行い、板谷家伝来資料との関連を確認することができた。

画像データ作成点数：当初目標であったデジタル撮影、データ整理作業、古文書解読などの調査を定期的に行い、本年度は1月あたり約230点の撮影を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	撮影等については本年度の当初目標をほぼ達成した。作品調査は、当初京都方面を予定していたが、浦佐毘沙門堂（普光寺）山門下絵の可能性があることが推測されたため、本年は調査先を浦佐毘沙門堂に変更し、成果を得ることが出来た。他業務との関係から年度末の研究会開催は難しい状況にあるが、来年度の早い時期での研究会開催に向けて、次年度以降の作品調査（来年度は京都方面）の予定を作成し準備に入っている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を達成した。 1万点を超える膨大な資料の撮影、データ整理に、平成25年度は3人の整理作業補助員、1人のカメラマンで当館研究員とともに作業にあたった。次年度以降につづく調査研究の基盤はできているが、最終年度のデータ集約作業の負担を減らすために、次年度はデータ整理の速度を速めることを目的とした人員増加体制を確立する。来年度は、京都方面の関連作品調査を行うために、年度前半にこれまで蓄積した作品情報集約のための研究会を開催することとしている。 引き続きこれらのデータをもとに各資料に関する情報を精査し、3年後の公開に向けて、利便性の高いデータベースの作成を追及していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-11
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11）中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】
本研究は日本における古代中世の大画面説話画の中でも、画題として比較的早い時期から成立し、多く描かれた主題のひとつである聖徳太子絵伝について、現存諸作品の詳細な調査に基づき、社会的・文化的・宗教的な動向や、他の説話画制作の状況も踏まえた上で、どのように図様が展開したのかを明らかにしようとするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課保存修復室主任研究員　沖松健次郎

【スタッフ】
伊藤信二（学芸企画部博物館教育課教育普及室長）、土屋貴裕（列品管理課平常展調整室研究員）、小林達朗（東京文化財研究所企画情報部主任研究員）、谷口耕生（奈良国立博物館学芸部保存修理指導室長）、朝賀浩（文化庁美術学芸課主任文化財調査官）、石川知彦（龍谷ミュージアム教授）、村松加奈子（龍谷ミュージアム研究員）、阿部泰郎（名古屋大学教授）

【主な成果】
聖徳太子絵伝は現在 40 件ほどが知られており、それらは想定される享受環境の違いによって画面形式や図様・画面構成に違いがあり、制作集団の違いも想定されている。各々の作品群の詳細な分析と、他の関連作品との比較検討を行なうため、館蔵品、寄託品、及び館外作品の調査研究を進めた。あわせて、太子絵伝と密に関わる中世太子伝諸本から各年代の事蹟を比較参照できるよう、データ化を行った。

【年度実績概要】
(1)中世聖徳太子絵伝の作品調査
本研究は中世聖徳太子絵伝諸本に描かれた各場面の比定、大画面説話画をはじめとする中世絵画との比較、中世太子伝との照合を進めるが、その基本となるのが綿密な作品調査である。本年度は、太子絵伝の作例では、昨年度に調査を行った大蔵寺所蔵の二幅の作例と図様が類似する、米国・メトロポリタン美術館所蔵作品の調査を行った。また、同館調査の折に関連する中世仏画や、当館にて 25 年 4 月 9 日から 6 月 2 日まで開催された「国宝　大神社展」の折に宮曼荼羅や参詣曼荼羅をはじめとする、中世説話画を考える上で欠かせない関連作例の調査を進めることができた。

・聖徳太子絵伝　二幅　鎌倉時代　13 世紀　米国・メトロポリタン美術館
・迎接曼荼羅　鎌倉時代　1300 年頃　米国・メトロポリタン美術館
・春日曼荼羅　鎌倉時代　13 世紀　米国・メトロポリタン美術館
・春日若宮像　南北朝時代　14 世紀　米国・メトロポリタン美術館
・愛染明王像　鎌倉時代　14 世紀　米国・メトロポリタン美術館
・不動明王像　　米国・個人像
・大威徳明王像　米国・個人像
・善導大師像　　米国・個人像
・重文　琴弾宮縁起絵　鎌倉時代　14 世紀　香川・観音寺
・重文　山王宮曼荼羅　鎌倉時代　14 世紀　奈良国立博物館
・重文　日吉曼荼羅　鎌倉時代　14 世紀　奈良・大和文華館
・鹿島立神影図　南北朝―室町時代　14 世紀―15 世紀　奈良・春日大社
・重文　白山三社神像　鎌倉時代　13 世紀　石川・白山比咩神社

3 年目の次年度では、米国・メトロポリタン美術館本に関係のある橘寺本、四天王寺本、瑞泉寺本などの作例の調査が課題である。

(2)中世太子伝諸本の事蹟データベースの作成
聖徳太子伝諸本のうち、活字化されていない影印本を中止にして、本文のデータベースを作成中。来年度へ継続する。

(3)中間報告の発表
本研究が対象とする作品のうち、法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝（国宝本）と（四幅本）に関しては、協力者の一人である阿部泰郎（名古屋大学教授）と共に、「法隆寺の聖徳太子伝を絵説く　二つの太子絵伝障子絵伝　四幅絵伝　絵解きの試み」と題して、その成果の一部を講演会（於・いかるがホール）で発表した。
また、四幅本については『法隆寺献納宝物特別調査概報 34』「聖徳太子絵伝（四幅本）2」にその成果の一部を盛り込んで刊行した。

【実績値】
作品調査件数　13 件
中間報告の発表件数　1 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-11

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：従来体系的な検討の試みられなかった聖徳太子絵伝の研究を進める必要性は高いため。
独創性：絵画史のみならず、工芸、有職の知見から研究を進めるため。
発展性：聖徳太子絵伝のみならず、他の大画面説話画の今後の研究にも寄与するため。
効率性：限られた時間の中で、効率的にデータ収集を行えた。
継続性：本研究は5ヵ年計画で進めており、次年度以降も継続的に研究を進めるための整備を行えた。
正確性：中世太子伝の比較検討のための対照表により、各事跡はより正確に把握することができるため。

2．定量的評価

観点	作品調査件数	中間報告の発表件数				
判定	B	A				

判定理由
作品調査：太子絵伝そのものは当初の計画よりも少なく、1件にとどまったため。しかし、関連作品は予定より多くの調査を実施することができた。
中間報告の発表：聖徳太子絵伝（四幅本）に関しては、今後の調査研究の基礎資料として大いに活用されることが期待されるため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	2年目である本年度は、太子絵伝の作例では調査件数は少なかったが、中世太子絵伝の様々な系統への影響が大きいと考えられるメトロポリタン美術館本を調査することができたことは収穫大であった。次年度はメトロポリタン美術館本に関連する作品を中心に調査を行う。文献は、昨年度に引き続きデータ化を進め、次年度も引き続きデータ化作業を行う。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は描かれた事跡の特定のみならず、その図様が選択された背景を中世太子伝などの文献や社会的背景から考究するものであり、研究の基盤を徐々に整えつつあることは次年度以降の研究推進に大きく利するものと考える。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-12
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12）光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究（科学研究費補助金）（(5)－ ①）。

【事業概要】
本研究では高雄曼荼羅（京都・神護寺所蔵）の重要性を考え、その研究推進を図るために、最先端の撮影技術を用いた高精細デジタル画像及び赤外線画像の撮影を全面的に行う。さらに新たな高雄曼荼羅研究の端緒と成せるよう、研究者それぞれが絵画・彫刻・工芸等の専門性を生かし、空海と彼を取りまく仏教美術を考察するのに重要と思われる観点を取り上げて調査・研究を行うものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部長　松本伸之

【スタッフ】
丸山士郎（学芸企画部博物館教育課教育講座室長）、伊藤信二（学芸企画部博物館教育課教育普及室長）、澤田むつ代（特任研究員）、沖松健次郎（保存修復課環保存修復室主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室長）、安藤香織（徳川美術館学芸員）

【主な成果】
昨年度までに撮影した高雄曼荼羅の画像合成等作業を完了した。高雄曼荼羅の表現・技法を考えるために、その製作と同時期の作品が残る中国山西省の五台山の寺院の調査及び韓国の密教美術の調査を実施した。

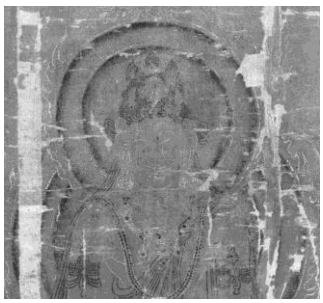
【年度実績概要】
高雄曼荼羅の金剛界と胎蔵界各幅について、カラー画像 8000 万画素 315 カット、赤外線画像 4000 万画素 432 カットの撮影を昨年度までに完了し、それらの分割撮影画像の合成作業を進めてきた。今年度もその作業を引き続き行い未完成分を完了させた。これによって高雄曼荼羅全体について、これまで出版された画像と比較して、格段に精度が高く、金銀泥も明確に表れた画像が得られ、今後の研究には有益な基礎資料となった。

研究成果発表の講演会（26 年 6 月）の準備を進めるとともに、出版社と協議して、来年度以降に研究報告書の刊行を目指すことになり、レイアウトについて検討を始めた。

高雄曼荼羅製作と同時期の遺品が残る中国山西省の五台山内の寺院（南禅寺・広済寺、菩薩頂・顕通寺・竹林寺・金閣寺・仏光寺(以上、山西省忻州市)）と五台山伝来作品を保管する山西博物院(山西省太原市)において調査を実施し、写真資料等を作製した。

また、韓国の国立中央博物館で関連作品の調査を実施した。

電子顕微鏡による高雄曼荼羅の剥落片の調査を実施し、金泥線が金、銀泥線が硫化銀であることを確認した。


高雄曼荼羅の赤外線画像
黒い線が銀製線

【実績値】
画像合成等作業：７６８画像（赤外線画像）
関連作品調査：2ヵ所(中国山西省五台山、韓国国立中央博物館)
電子顕微鏡調査：８サンプル

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-12

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：本研究で得られる高雄曼荼羅の細密な画像は多様な研究分野にとって非常に有効であり、必要性が高い。
独創性：本研究では高雄曼荼羅とアジアの広い地域の仏教美術を比較検証する研究であり、中国・韓国での調査を実施することができたため。
発展性：高雄曼荼羅全体を俯瞰できる合成画像は今後、広く研究に活用できると見込まれるため。
効率性：本年度は画像処理などで研究協力者を依頼して効率的な研究推進に努めた。
継続性：昨年度までに撮影した画像の処理を終えた。昨年度実施したインド調査に引き続き、中国、韓国調査を実施できた。
正確性：大幅である高雄曼荼羅全体を俯瞰できる高精細画像を作成することが出来た。金泥と銀泥の科学的調査を実施した。

2．定量的評価

観点	画像合成等作業数	関連作品調査	電子顕微鏡調査			
判定	A	A	A			

判定理由
画像合成等作業数：必要な全ての作業を終えることができたため。
関連作品調査：効率よく十分な調査ができたため。
電子顕微況調査：効率よく調査を進める為に必要充分な数を確保できたため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究の最重要事項である高雄曼荼羅の撮影、画像合成等作業を全て完了することができた。また高雄曼荼羅をアジアという視点で捉えなおすという研究に着手し、そのための中国・韓国調査を実施することができたため。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の予定通り、縦横4メートルを終える大幅全体について高精細画像を作成することが出来た。高雄曼荼羅をアジアの中で位置づけるという新たな研究視点からの調査研究も行った。本研究の成果を発表する講演会に日程を決め（平成26年6月）、研究成果報告書刊行の準備も始めた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-13

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	13)古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金）（（5）-①）

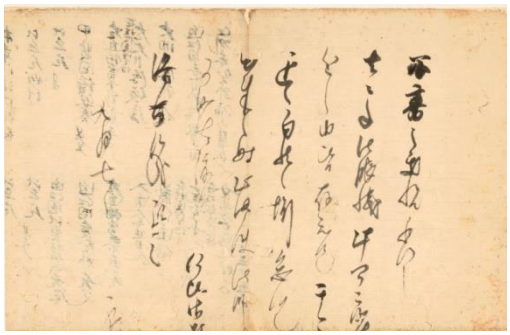
【事業概要】
古筆切の紙背（裏面）には、典籍や記録の断簡が見られることがある。判読の困難という要因もあり、これまで学術的に注目されることがほとんどなかったが、デジタル画像処理技術の普及によって、紙背の内容を把握することが可能となってきた。この研究は、既知の手鑑等に収載されて伝わった希少な古筆切の中から紙背を持つものを集成し、その史料学的な評価と研究の方法を確立することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島　哲

【スタッフ】
島谷弘幸（東京国立博物館副館長）

【主な成果】
・平成 23 年度・24 年度に蓄積したデータ等をもとに、古筆切紙背の伝存状況や特質について考察を行った。
・当館で長期借用している古筆手鑑２件（３帖）と京都国立博物館所蔵の手鑑 1 件（１帖）について高精細画像の撮影を行い、データを蓄積した。

【年度実績概要】
昨年度までに調査や写真撮影を行った資料を精査しながら、古筆切紙背の伝来状況や特質を探った。
すでに、東博所蔵の手鑑の中に解体された同一の典籍に属する複数の紙背文書を貼り込んでいる例を見出していたが、昨年度から今年度にかけて調査した手鑑の中にも同一寸法の典籍の料紙が複数の場所に貼り込まれている例が認められた。これにより、特に書状については、同一典籍の紙背文書に筆跡にふさわしい伝称筆者名を付して配置することが、手鑑編纂の一つの手法であることが、かなり確実に言えるようになった。この事実は手鑑自体の成立過程やその素材となる典籍の伝来について、研究上手がかりを与えるものと考えられる。



裏面に典籍断簡のある書状切の例

【実績値】
（参考値）写真撮影　４帖

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-13

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：古筆切の素材が豊富に公開されつつあり、網羅的な研究をするには適当な時期であるため。
独創性：これまでの古筆切研究には見られない視角からの研究であるため。
発展性：国文学など既存の分野だけでなく、歴史学等他の分野への応用が可能であるため。
効率性：必要最小限の経費で研究を執行するよう務めているため。
継続性：毎年度、継続して研究素材の拡充を図っているため。
正確性：研究に必要な情報を的確に記述するように努めた。

2．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究の問題意識に対して肯定的な素材が集積されている。館蔵品以外の手鑑についても画像データの蓄積に努めた。本研究は25年度までであるので、調査成果をもとに平成26年度中に論文の形で学術誌等に公表する予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当館蔵品に関する情報を蓄積して、研究成果が館業務に寄与している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-14
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	14)「家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」（学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】
日本古代国家形成期である古墳時代の葬送儀礼を家形埴輪の群構成と階層性から分析・研究する。特に東アジア農耕社会の集落建築や家形造形品との比較・検討から、古墳時代社会の安定と成長に大きな役割を果たした古墳葬送儀礼とその背景にある古墳時代他界観（世界観）を解明するための基礎研究の確立を目的とする。
また、これまでの科学研究費補助金Ｃ（2000～2002 年度）・同 Ｂ（2005～2007 年度）の調査・研究成果と併せ、総合研究報告書の作成準備を進める。

【担当部課】	学芸研究部列品管理課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　古谷　毅

【スタッフ】
犬木　努（大阪大谷大学 文学部教授）

【主な成果】
科学研究費補助金Ｃ・Ｂ（2000～2002･2005～2007 年度）による調査･研究成果に基づき、研究会を開催し、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果を検討すると共に、古代窯業生産体制に関する先行研究の分析・検討を行った。また、本年度は主に韓国・大邱市で嶺南文化財研究院と共同研究会を実施し、韓国・国立中央博物館所蔵家形土器の調査を実施した。

【年度実績概要】
本年度は、日本古代史研究者を含む研究協力者と共に、25 年 5 月、26 年 2 月に、東京都・大阪府にて研究会を開催し、これまでの調査成果の確認と問題点を検討・分析した。また、25 年 6 月に韓国で家形埴輪の研究成果を公開し、その歴史的意義について韓国出土の家形土器と比較・検討し、討論を行った。このほか、科学研究費補助金Ｃ･Ｂ（2000～2002･2005～2007 年度）の研究成果を含む、総合的研究報告書の内容・構成と体裁、及び作成スケジュールの検討・打合を進めた。
資料調査としては、近畿地方の主要古墳出土資料（大阪府）を重点的に進めたほか、韓国出土家形土器の調査を行なった。既存調査資料の整理に関しては、写真・データ等の整理・分析を実施し、これまでの調査成果で収集した撮影画像のデジタル化を進めた。東京国立博物館所蔵埴輪資料の調査準備に関しては、館内における存在確認事業等の影響で今年度も実施に至らなかった。



日韓共同研究会 共催者（嶺南文化財研究院 朴升圭院長）による挨拶風景
〔於：韓国･国立大邱博物館〕

【実績値】
○調査日数　　:5 日間
・調査件数　　：約３０件
・主な調査資料　：韓国内出土家形土器（韓国・国立中央博物館蔵）、大阪府内出土埴輪（大阪府文化財センター蔵）
○研究会日数　:3 日間
○論文等公開件数 4 件（備考①～④）
（参考値）
○フィルムデジタル化　　：約 16,000 画像

【備考】
論文等
①犬木　努「下総型埴輪の風景―形態変化・工人編制・分布域―」『埴輪研究会誌』第 17 号、埴輪研究会、1～37 頁、2013 年 5 月
②古谷　毅「家形埴輪研究史と研究成果および課題 -機能と性格」『韓日家形土器・埴輪の比較と歴史的意義』（韓日家形土器･埴輪共同研究會 発表要旨集』韓国･嶺南文化財研究院・東京国立博物館科学研究費（基盤 C）研究会、60～70 頁、2013 年 6 月 15 日
③犬木　努「日本における古墳葬送儀礼と埴輪について」『韓日家形土器・埴輪の比較と歴史的意義』（韓日家形土器･埴輪（하니와） 共同研究會 要旨集』韓国･嶺南文化財研究院・東京国立博物館科学研究費（基盤 C）研究会、116～126 頁、2013 年 6 月 15 日
④古谷　毅「大型古墳と中小古墳 －再整理から見た七観古墳の意義－」『第４回百舌鳥古墳群講演会「巨大古墳あらわる－履中天皇陵古墳を考える－」発表要旨集』大阪府・堺市、15～37 頁、2014 年 2 月 2 日

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-14

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	B	A	A	B	S	A

判定理由
適時性：既存の科学研究費補助金による調査・研究成果の公開性において需要性・必要性があり、早期の公開を目指しているが、今年は館内事情で十分な緊急性には応えていない。
独創性：古墳時代労働編制研究の視角を中心にして発想・着想しており、埴輪研究においてはオリジナリティ及び新規性には優れていると思われる。
発展性：円筒埴輪中心であった従来の埴輪研究の多様性・汎用性に裨益し、研究視角の面からは先史考古学及び古墳時代・古代史研究に与える応用性などに一定の成果があると思われる。
効率性：日本古代史研究者を含む多数の研究協力者を得ており、予算運用の時間的・人的投資について有効であると思われる。一方、設備的投資については、消耗品を含めてほとんど行なっていない。
継続性：これまで交付された科学研究費補助金による調査・研究成果を継承し、期間は適正で、質・内容・量ともに従来の調査・研究例を上回っており、本研究テーマの資料的基盤を構築する基礎性に優れている。
正確性：実測図の作成はほとんど行っていないが、数値・データに関してはすでに写真撮影だけでも 30,000 カットを超えており、達成値・網羅性については従来の調査･研究事例に類似する成果は見られない。

２．定量的評価

観点	調査日数	研究会日数	論文等公開件数			
判定	C	B	B			

判定理由
調査日数：館内事情で十分な日数を実施できなかった。
研究会日数：日本古代史研究者を含む多数の研究協力者を得て、最低限の研究会を開催した。
論文等公開件数：公開性に鑑みても、さらに努力が求められると思われる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続性については変更の必要が認められないと考えられるため、他の定性的・定量的評価により判定。研究計画の達成度については、補足調査と調査精度の向上をさらに高める必要があり、東京国立博物館所蔵資料(列品)の整理･分析は今年度不十分であった。繰越の承認を得たことによって、より研究予算運用の効率性･適時性を高め、研究会ではさらに研究･分析視角に関する発展性･独創性の拡充･確立を図り、最終年度として成果報告書をまとめ刊行したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほ ぼ 順 調	有形文化財の収集・保管に関しては、列品の整理・分析及び学術的評価に関する十分な考古学的情報、及び展示・解説(論文・講演･ニュース等)・出版等を通じた当館における文化財(列品)の公開に資する調査・研究として比較的十分な蓄積を行ったと考えられる。このほか、定性的・定量的評価により判定した。改良・改善点は３.総合的評価のように、より高度な効率性・適時性及び発展性・独創性の確立を図ることを目標として、最終年度の計画へ反映させる予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-15

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	15）絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】

本研究は、絵巻の研究を従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付属情報から捉え直し、推進する。研究にあたっては、絵巻の伝来、鑑賞歴に関わる情報を収集・蓄積した上で、絵巻が今日に至るまでにどのような軌跡を経て伝世したのかという、各作品の通時的な歴史性に配慮し、絵巻という媒体全体を視野に入れた総合的な分析を行うことを最終的な目標として設定する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕

【スタッフ】

【主な成果】

本年度前年度に引き続き、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化を進めた。また、東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査を進め、主に近世に制作された模本から作品所蔵情報を得る基盤を整えた。同時に、近代における作品の移動等に関する情報を収集するため、東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査を開始し、そこに記載された情報のデータ化を進めた。

【年度実績概要】

(1) 文献資料記載絵巻関係資料の抜き出しとデータ化

本研究が主な対象とする古代中世絵巻の伝来、鑑賞情報を得るためには、日記、古記録等の文献資料を博捜し、そこに記載された本文を整理する必要がある。抜き出しにあたっては、絵巻のみならず仏画、肖像画、屏風等、絵画関係の記事をピックアップし、本年度はおよそ 21 タイトルの文献資料から約 1200 件の記事を抜き出し、その一部をデータ化した。

(2) 東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査

絵巻模本の多くは近世に作られたが、その制作に際して、所蔵者や伝来等の情報が記されている場合がままある。本研究では、東京国立博物館所蔵絵巻模本の悉皆調査を目指し、目録の整理、撮影、所蔵者や伝来、模写者等の情報を収集すべく、模本リストの整理に着手した。調査順は列品番号順を基本として進め、本年度は狩野晴川院他模本など約 50 件の調査を行うことができた。

(3) 売立目録の調査

(1)と(2)が前近代における絵巻情報の収集と整理であるのに対し、近代における作品の移動等を追うため、売立目録に記載された絵巻の調査を進めた。とりわけ、東京文化財研究所には国内有数の売立目録が所蔵されており、その全てから、絵巻を中心とするやまと絵の情報を抜き出し、ＰＤＦ化を進める準備を整えた。本年度は、1350 タイトルの目録から約 5500 件の情報を抜き出した。

(4) 調査・研究の展示での公開

上記の調査・研究の成果を踏まえ、25 年 7～8 月の間、東京国立博物館特別 1 室において「特集陳列　断簡―掛軸になった絵巻―」を開催し、リーフレットを作成した。また、本研究テーマに関連する論文等を 3 件公表した。

【実績値】

絵巻伝来関係資料の抜き出し件数（未データ化含む）　約 1200 件
絵巻模本の調査件数　約 50 件
売立目録の調査件数　約 5500 件
展示への反映　1 件
論文等の成果公開　4 件(①～④)

【備考】

①土屋貴裕「歌仙絵がうまれたとき」（「和歌と美術」展図録、島根県立石見美術館、25 年 4 月 20 日）
②土屋貴裕「祖師のおもかげ―「華厳宗祖師絵伝」元暁絵 試論―」（加須屋誠編『図像解釈学―権力と他者―（仏教美術論集 4）』竹林舎、25 年 4 月 25 日）
③土屋貴裕『断簡―掛軸になった絵巻―』（東京国立博物館特集陳列リーフレット、25 年 7 月 17 日）
④土屋貴裕「失われた絵巻を求めて―絵巻模本の底力―」（「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」展図録、26 年 1 月 15 日）

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-15

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付属情報から捉える本研究の意義は大きいため。
独創性：作品の付属情報のみならず、文献資料、売立目録の情報により多角的に研究を推進する本研究の独創性は高いため。
発展性：絵巻研究のみならず、仏画、肖像画をはじめとする絵画の研究にも寄与することができるため。
効率性：限られた時間の中で、効率的にデータ収集を行えたため。
継続性：前年度までの計画を引き続き継続して調査研究を進めることができた。次年度もさらなる展開を目指す。
正確性：データに関しては、入力時、入力後の二度確認を行うことで、資料の正確性を期した。

2．定量的評価

観点	関係資料の抜き出し件数	絵巻模本の調査件数	売立目録の調査件数	展示への反映	論文等の成果公開	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
関係資料の抜き出し：当初の計画よりも、多くの件数を実施することができた。
絵巻模本の調査：当初の計画よりも、多くの件数を実施することができた。
売立目録の調査：当初の計画よりも、多くの件数を実施することができた。
展示への反映：一般にも開かれた研究成果の公開を行うことができた。
論文等の成果公開：本研究にかかわる論文を、当初の計画よりも多く公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	先年度に引き続き本年度も、文献資料記載絵巻関係資料の抜き出しとデータ化、絵巻模本の調査、売立目録の調査という、本研究推進にあたっての基礎作業を着実に進めることができた。あわせて、成果公開を展覧会という形で一般向けに行なうこともでき、論文等も多く公表することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は絵巻の研究を作品のみならず、その付帯情報から総合的にとらえるべく進めてきたが、研究開始当初の計画に沿ったデータ収集を行うことができた。また、絵巻模本の調査もリストはおおむね整理することができた。最終年度である次年度も、リストと作品との照合、撮影をさらに進め、現在構築中のデータベースでの公開や、総合的な成果公開を推進する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-16

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	16）刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)（（5）－①）

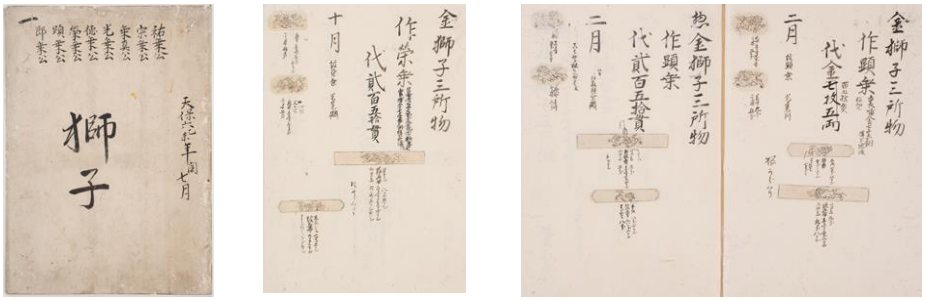
【事業概要】
本研究は、東京藝術大学附属図書館が所蔵する後藤家文書の調査などによって、近世最大の刀装飾具一派であった後藤家の鑑定活動と、同家の作品の価値付けの様相を具体的に捉えるものである。後藤家では刀装具制作とともに、祖先の作品の鑑定も行っており、その結果は後藤家文書のうち「極帳」という鑑定控に記録されていた。本研究では、極帳を含む後藤家文書の撮影を行い、鑑定された作品のリストを作成し、現存作品との照合を可能な限り進める。そして、その作業から鑑定基準などの鑑定の様相を考察し、近世における工芸品の価値付けの実際を考察する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課保存修復室研究員　酒井元樹

【スタッフ】

【主な成果】
本年度は前年度に引き続き、後藤家文書の撮影を行った。また、翻刻作業を継続し、極帳の理解を深めた。

【年度実績概要】
・後藤家文書の撮影
後藤家文書 27 冊について撮影を行った。
・後藤家文書の翻刻とその理解
極帳の部分的な翻刻作業を継続して行い、専門用語の検討など史料内容の理解を進めた。
翻刻を進めつつ、同家の鑑定行為の開始時期やその着眼点、さらに鑑定依頼者の身分など注意して検討を行った。



平成 25 年度撮影　後藤家文書極帳（獅子　天保 6 年（1835）～安政 2 年（1855））

【実績値】
データ収集件数
撮影文書数　27 冊
撮影カット数　1,252 カット

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-16

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：前年度に引き続き後藤家文書の撮影を行ったため。
独創性：専門用語の理解など、現在使用されていない用語について理解を深められたため。
発展性：鑑定依頼者の身分の傾向などが明らかになりつつあり、本文書が歴史学に広く資することができる史料と改めて確認できたため。
効率性：極帳を計画通り1,200カット撮影できたため。
継続性：継続的に翻刻作業ができたため。
正確性：今年度撮影された画像は、前年度撮影されたそれと同一条件で撮影され、適切な色彩補正が行われ、また、ナンバリングがなされたなど管理のための処置もなされたため。

2．定量的評価

観点	データ収集件数					
判定	A					

判定理由
データ収集件数：計画通り約1,200カットの史料撮影を行ったため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通りに史料の撮影を行い、その内容について検討を行い、極帳について理解が深められたため。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	史料の撮影は計画通りに遂行し、その検討もある程度できたため。次年度は、史料検討を継続して行い、できる限り公開性のある成果に結びつけたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-17

業務実績書

中期計画の項目	4）文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	17）近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）（(5)－①））

【事業概要】
本研究は、近現代に形成された古日本染織コレクションがいつ、どのような形態のものが、どのような経路で、どのような形状の変化を伴いながら移動し、コレクションとして集積されたのかを調査することによって、染織史研究の基盤となる古日本染織コレクションの形成過程を明らかにし、古日本染織が近現代に形成された美術史の中でどのように価値付けられたのかを明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室主任研究員 小山弓弦葉

【スタッフ】

【主な成果】
本年度は、伝統的な日本染織の技法や制作工程などを調査し、本研究における調査研究のための資料を収集した。また、ニューヨーク・メトロポリタン美術館で開催された東洋染織の展覧会、ブルックリン美術館に所蔵される東洋染織コレクション、フランス・パリ個人宅の東洋染織コレクション、リヨン染織美術館に所蔵される日本染織コレクションを調査した。本年度は特に、大正期、昭和初期にかけて国外で蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行った。

【年度実績概要】
・25 年 7 月には、京都の友禅染作家及び伝統織物作家、和刺繍作家、沖縄の伝統織物作家、紅型染作家の工房を訪ね、日本の伝統的な染織技法とその工程について調査し、古日本染織の特色に関する研究資料を収集した。

・25 年 8 月には、金沢の加賀友禅作家及び仙台の伝統織物作家の工房を訪ね、日本の伝統的な染織技法とその工程について調査し、古日本染織の特色に関する研究資料を収集した。

・25 年 9 月には、根津美術館に所蔵される東洋染織コレクションの一部を調査し、大正期から昭和初期に根津嘉一郎が蒐集したと考えられる古日本染織について調査・研究を行い、そのデータを集積した。

・25 年 12 月 29 日から 26 年 1 月 3 日にかけて、ニューヨークで調査を行った。メトロポリタン美術館で開催された東洋染織（古日本染織を含む）の展覧会「Interwoven Grobe; The worldwide Textile Trade, 1500-1800」を見学し、染織のコレクションと移動に関する最新の研究成果を調査した。また、ブルックリン美術館に所蔵される東洋染織コレクションの一部（古日本染織を含む）を調査し、その結果、主要な古日本染織コレクションが戦前に海外で活躍した日本の古美術商・山中商会から入手したものであることが判明した。

・26 年 2 月 2 日から 9 日にかけて、フランスで調査を行った。パリ・個人宅で所蔵される東洋染織コレクションの中から古日本染織コレクションの一部を調査した。その中に、日本の古美術商・野村正治郎が蒐集した古日本染織が 1 点含まれていた。また、リヨン染織美術館に所蔵される日本染織コレクションの一部を調査し、当館に所蔵される寄贈コレクションと同じコレクターであるアルセーヌ・アンリー氏が蒐集した古日本染織コレクションの内容について詳細に調査を行った。

・以上の調査で得た写真及び調査内容はファイルメーカーに画像と連動させて入力し、今後の研究の基盤となるデータとした。


リヨン染織美術館での調査風景

【実績値】
データ集積件数　206 件
内訳

日本の伝統染織技術に関する研究資料データ	9 件
根津美術館所蔵古日本染織コレクションの調査データ	3 件
メトロポリタン美術館展覧会出品作品に関する調査データ	121 件
ブルックリン美術館所蔵古日本染織コレクションの調査データ	12 件
パリ・個人宅所蔵古日本染織コレクションの調査データ	5 件
リヨン染織美術館所蔵古日本染織コレクションの調査データ	56 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-17

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：内外のコレクションがほぼ、博物館等公共施設で管理されることとなり、調査しやすい時期である。
独創性：内外における網羅的な古日本染織コレクションの調査は本調査が初の試みである。
発展性：調査をすすめる過程で、未知の古日本染織コレクションに関する情報が集積可能となった。
効率性：1～2箇所を集中的に調査するため、それぞれのコレクションについて網羅的にデータを集積できる。
継続性：新たなコレクション情報をもとに、引き続き調査課題が生まれ、継続的な調査がのぞまれる。
正確性：実地に赴いての現物調査なので、自分で作品を見て、必要な調査データを確認できる。

2．定量的評価

観点	データ集積件数					
判定	A					

判定理由
データ集積件数：国内外における古日本染織コレクション研究に必要な正確性の高い調査データを網羅的に集積した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、データ集積件数は昨年度よりも少なかったが、古日本染織研究者によって調査研究が全くなされていなかった海外博物館施設の古日本染織コレクションに着手することができた。その結果、想定外に多くの古日本染織コレクションが欧米の博物館施設に所蔵されているという情報や、そのコレクションの蒐集履歴や時期に関する特色なども明らかとなり、新たな研究課題も生まれた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究事業によって、本年度は、国内の古日本染織コレクションについては、実業家・根津嘉一郎によるコレクションの調査が進められた。また、海外に流出し、蒐集されることになった古日本染織コレクションの中で、未調査の古日本染織コレクションのうち、ブルックリン美術館及びリヨン染織美術館の調査が実現したほか、事前調査の際に得た情報以外の古日本染織コレクションも存在が多数あることが把握できた。次年度以降は、本研究費によって得られた情報を元にさらに調査の幅を広げ、次年度以降の研究課題へと発展させていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-18

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	18）寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動（学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】

本研究は、博物館における寄贈品と寄贈者に関する情報から明治初期の美術品の移動について明らかにすることを目的とする。東京国立博物館の館史資料から寄贈品・寄贈者に関する情報を抽出し、データベースを作成する。その上で寄贈者についての調査を行い、研究課題の考察、データの活用方法の検討を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 三輪紫都香

【スタッフ】

【主な成果】

東京国立博物館の収蔵品のうち、寄贈品、もしくは寄贈品の可能性があるものについて抽出し、エクセルデータを整理した。館史資料の調査により、寄贈に関する情報が収集された。

また、寄贈者情報の整理により、研究対象としている博物館創設から明治 19 年にかけての寄贈者のうち昨年度調査にて判明していた 292 名の生没年・職業等の判明事項の更新と、今年度新たに判明した 713 名の生没年・職業等の事項をすべてではないが判明させることができた。

【年度実績概要】

(1)館史資料の精査

東京国立博物館創設から明治 19 年に至るまでの寄贈品に関わるデータを、電子化された収蔵品情報である「新列品管理簿」から抽出し、対象収蔵品について過去の台帳である「美術品台帳」、「列品記載簿」を参照して誤記訂正や未記録の部分の調査を行った。また、「列品録」に記された寄贈品に関する項目を調査した。必要に応じて該当箇所の撮影も行った。

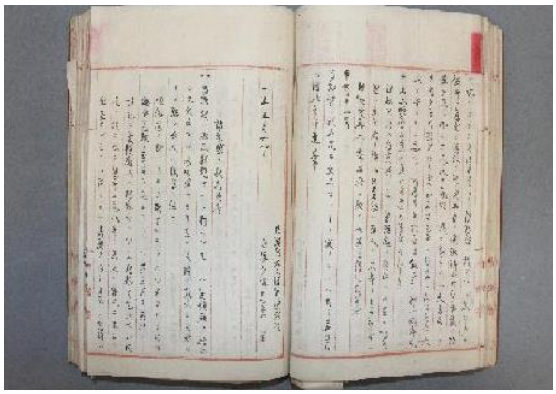
さらに、寄贈の仕組みについて「例規録」「東京帝室博物館例規類纂」を用いて寄贈品の受け入れから登録・管理に至る手続き等についての流れをまとめた。

(2)館外に収蔵される館史資料の精査

国立国会図書館に収蔵される明治 39 年～41 年に編纂された「東京帝室博物館列品目録」、明治 13～15 年に編纂された「博物館列品目録」から、各分野の収蔵品のうち、寄贈に関する情報を読み取り、データベースへの反映を行った。

(3)寄贈者に関する調査

前項の資料の調査に並行して寄贈者の基本データを収集する作業を行った。前項で東京国立博物館への寄贈者と寄贈品のデータをもとに寄贈者ごとに寄贈品をまとめ、氏名・住所・寄贈年から人物事典の検索、地方史の書籍や東京国立博物館の職員録を用いての検索を行った。その他寄贈者に関係する文献を検索した。



館史 585『例規録　明治 10・11 年』より
「第 26 号　博物館献品及出品ノ件」

【実績値】

人物データベース新規作成件数　713 件

（参考値）

調査日数　10 日、作業補助員依頼　53 日

【備考】

①館史研究会にて「博物館草創期の寄贈について」報告（平成 25 年 12 月 26 日）

②論文「寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成」を東京国立博物館研究誌『ＭＵＳＥＵＭ』へ投稿（平成 26 年 5 月以降）予定）

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-18

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	C	A	B

判定理由
適時性：本研究によって得られたデータベースはこれまでに認識されてこなかった寄贈者に関する情報を多分に含んでおり、今後の研究によって新たな発見を期待できるデータと考えられるため。
独創性：寄贈品・寄贈者というまとまりで収蔵品を捉えることにより、現状では無名の人物についても調査により詳細が判明する事例がみられるなど、独創性による成果が得られていると考えられる。
発展性：館史に関する資料を検索する中で、現在は収蔵品から除外されているものの情報も何件か発見することができ、現在の収蔵品という枠を超えて博物館への寄贈者を明らかにできた。
効率性：作業補助スタッフを依頼し、作業を進めているところであるが、昨年度の遅れを消化しきれていない状況であり、時間的投資が不足しているため。
継続性：継続してデータ整理、調査を行っており、基本的な資料の検索や修正箇所の抽出が行われている。
正確性：予定していたデータの反映は正確に行われているが予想より調査対象となる人物が多く、より多くの文献にあたる余地が残されているため。

2．定量的評価

観点	人物データベース新規作成件数					
判定	B					

判定理由
人物データベース新規作成件数：予測していた寄贈者に関するデータは順調に収集できているが、予想より多くの寄贈者が明らかになっており、各個人についてより詳細な調査により情報を更新する必要がある。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	作業補助スタッフを依頼し、継続して調査・データ整理を行っているが、昨年度の代表者の産休・保育時間取得により当初の計画と比較してやや遅れがみられる。また、予想よりも該当する寄贈者が多く明らかになったため、個々人の詳細な調査が行き届いていないと感じている。今年度で計画していた期間は終了するが、今後も継続してデータの充実に努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	作業補助スタッフを依頼し、継続して調査・データ整理を行ってきたが、昨年度及び今年度の代表者の産休・保育時間取得により当初の計画と比較して若干の遅れがみられる。また、予想よりも該当する寄贈者が多く明らかになったため、個々人の詳細な調査が行き届いていないと感じている。今年度で計画していた期間は終了するが、今後も継続してデータの充実に努めたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-19

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	19）武家女性の衣生活に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)((5)－①)

【事業概要】
明治時代以降の社会変動の中で、旧大名家の多くは財産を手放し、各家に代々伝えられてきた什物類や作成されてきた文書類などは、現在、それぞれ別の機関に所蔵されるところとなった。本研究は、江戸時代の大名家文書の染織品に関する記録と実物染織品とを相互に検証し、武家社会の生活の中で、衣服の用いられてきた時・場所・人物・目的などを明らかにする。特に武家の染織品研究の土台となる、染織品に関する大名家文書のデータベースの作成を重要課題とする。

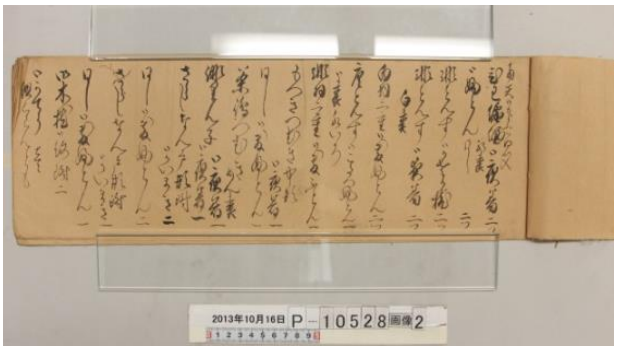
【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 佐々木佳美

【スタッフ】

【主な成果】
本年度は、昨年度来進めてきた大名家文書のデータベースの作成を引き続き行うとともに、大名家文書の収集・翻刻を行った。また武家伝来の染織品の実物調査を行い、最終年度の史料と実物資料との分析・考察に備えた。さらに関連資料として公家伝来の染織品関連文書の調査・収集を行った。

【年度実績概要】
・染織品に関する記録を持つ大名家文書のデータベースの作成
　昨年度までに基礎的な情報を整理・入力した、全国に収蔵される大名家文書のうち史料の伝存状況が良好な 165 件について、各機関の刊行する資料目録を用いて、文書史料の中から染織品に関する記録を抽出・入力し、データの集積をさらに進めた。
・染織品に関する記録を持つ大名家文書の資料収集と解読
　東京・国文学研究資料館、東京・明治大学博物館、福井県立図書館、熊本大学寄託永青文庫所蔵の収蔵する大名家文書の調査を行った。調査には、デジタルカメラによる記録撮影を行い、資料収集を行った。また収集した文書の内容は翻刻を行い、データの入力を進めた。
・武家伝来の実物染織品の調査
　福井市立郷土歴史博物館、リヨン織物装飾芸術博物館において、大名家伝来の小袖等服飾品の調査を行い、デジタルカメラによる記録撮影を行った。
・大名家伝来染織品に関する周辺資料の収集
　東京国立博物館所蔵の正親町家伝来（公家）の染織品関連文書の調査、撮影を行った。収集した文書の内容は翻刻を行い、データの入力を進めた。


打掛　福井市立郷土歴史博物館蔵



『順姫様御婚礼之節御召物覚』東京国立博物館蔵

【実績値】
・大名家文書データベース入力・整理　：165 件
・資料収集（撮影）　：60 件
　内訳・・・大名家文書資料収集（撮影）：35 件（1105 カット）
　　武家伝来染織品調査（撮影）：14 件（278 カット）
　　武家伝来染織品周辺関連資料（撮影）：11 件（216 カット）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-19

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	A	A	A	B

判定理由
適時性：武家染織に関する基礎的な資料として大名家文書のデータ整備は必要性が高いため。
独創性：文字資料と実物資料とを照合するという意味で、研究方法としては最も基本的な手法であるため。
発展性：大名家文書のデータベースは武家染織の研究を行う上で、様々な利用・展開が可能であるため。
効率性：限られた時間の中で、効率的にデータ収集を行った。
継続性：本研究は 3 年計画で進めており、最終年度も継続的に研究を進めるための整備を行った。
正確性：大名家文書のデータベースは、入手可能な染織品に関する記録をほぼ網羅している。

２．定量的評価

観点	大名家文書データベース入力・整理	資料収集（撮影）				
判定	A	A				

判定理由
大名家文書データベース入力・整理：
対象資料について網羅的な情報収集が行えた。また集積データの精度を上げることができたため。
資料収集（撮影）：対象資料について、質・量ともに十分な収集ができたため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、本研究の基盤となる染織品の記録を持つ大名家文書のデータベースについて、ほぼその入力を終えた。また、データ整理と入力を継続的に行うことで、集積データの精度を上げることができた。これにより、大名家文書の効率的な資料収集が実現できた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほ ぼ 順 調	本年度は、染織品の記録を持つ大名家文書のデータベースについて、ほぼ入力作業を終えることができ、本研究の最重要課題がほぼ達成された。これにより、大名家文書の効率的な資料収集を行うこともできた。当初、本研究は 24～26 年度の 3 ヵ年の予定で、最終年度となる 26 年度は、すでに収集した大名家文書の内容分析を進めるとともに、文書資料と対応する実物染織品の調査を重点的に行い、文字資料と実物資料との相互的な考察を進める予定であったが、研究員の異動により、25 年度末にて終了となった。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-20
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	20）縄文時代における浅鉢形土器の研究（学術研究助成基金助成金）（(5)-①）

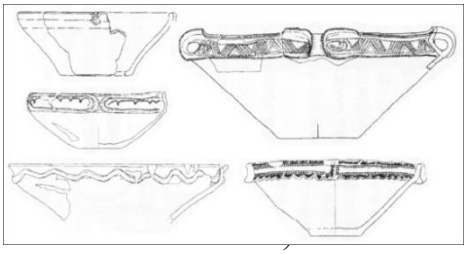
【事業概要】
日本先史時代における社会構造の研究をテーマとする。縄文時代中期（BC3000～2000 年）の東日本域の浅鉢形土器の型式学的検討と具体的な機能の検討に基づく、縄文社会における地域集団間の交渉史の解明を目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課考古室研究員　井出浩正

【スタッフ】

【主な成果】
本年度は文献の悉皆調査（発掘調査報告書等）による、遺跡出土の浅鉢のデータベース化と資料調査（実見・計測・観察など）を実施した。

【年度実績概要】
(1)遺跡出土浅鉢のデータベース化
・文献（発掘調査報告書等）の悉皆調査と文献複写作業
・対象地域の発掘調査報告事例の精査及び出土事例の集積・分析
（対象地域：東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・群馬県・栃木県・茨城県・長野県・新潟県・福島県）
※下線部は今年度データベース化が概ね完了した地域


データベース化資料の一例

(2)浅鉢の実見・計測・観察：資料の実見と肉眼観察
・神奈川県平塚市立博物館（25 年 8 月実施）
・群馬県立歴史博物館（25 年 9 月実施）
・茨城県立歴史館（26 年 1 月実施）
・長野県茅野市尖石縄文考古館（26 年 2 月実施）


資料調査風景（群馬県立歴史博物館）

【実績値】
調査…文献調査回数：10 回
資料調査回数：4 回
成果発表：0 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-20

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	B	A	A	B	B	A

判定理由
適時性：すでに資料の蓄積と解析手法があり、新たな研究視点を導入する時期にふさわしいため。
独創性：研究対象として注目されていない資料群のデータベース化が進んでいるため
発展性：データベース化によって当該資料の定量的・総括的な研究展開が見込めるため。
効率性：限られた時間枠の中で、網羅的な対象地域のデータベース化を実施しているため。
継続性：データベース化が着実に進んでいるため。
正確性：悉皆的調査（データベース化）と分析（型式学的検討）による確実性が高い手法であるため。

2．定量的評価

観点	調査回数	資料調査	成果発表			
判定	B	B	F			

判定理由
調査回数：ほぼ計画通りに調査を実施できたため。
資料調査：ほぼ研究計画通りだが、一部の地域で新出資料のデータベース化が未了。
成果発表：研究計画作成以降の新出資料の増加に伴う全体的な成果発表までに至らなかったため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	ほぼ計画通りだが、研究計画作成以降の行政発掘調査等による新出資料の増加により、それらのデータベース化が一部未了となり、全体的な成果発表までには至らなかった。そのため一年間の研究期間の延長を申請し、次年度にそれらのデータベース化と分析を継続し、総括的な成果発表を行う予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	二ヵ年の研究期間の二ヵ年目に当たる本年度は、当初の研究計画については概ねスケジュール通りに作業を進めることができた。研究計画書作成以降に発生した新発見の資料については、増加分のデータベース化を含めて継続的に実施し、次年度中にそれらを含めた成果発表を行いたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-21

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	21)創立 150 周年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査((5)-①)

【事業概要】
平成 34 年度の東京国立博物館創立 150 年へ向けて、『東京国立博物館 150 年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料として内容の調査を行う。平成 25 年度は館内から収集した文書類に加え、過去に収集し整理を必要とする文書類を編年、分類し利用の便宜に供するための内容目録を作成する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島 哲

【スタッフ】
鷲塚麻季（調査研究課主任研究員）、高橋裕次（学芸企画部博物館情報課長）、保坂裕興（客員研究員・学習院大学教授）

【主な成果】
・館内各所から収集した、館史関係の文書記録・刊行物類を整理して目録を作成し、今後の館史編纂の利用に供することができるようにした。
・創立 100 周年時に収集され、一部の情報が付与されていた文書記録類について、詳細な目録を作成した。

【年度実績概要】
・アルバイト 1 名を採用し、定期的に資料整理作業を行った。
・整理・調査するべき内容については客員研究員と協議して、適切な項目を設定した。
・平成 24 年度に収集整理した資料について、文書タイトル等の項目の目録への入力を継続した。
・創立 100 周年時に収集された資料の一部について、必要な情報を補充し、その他の資料と同様な形式の目録を作成した。
・整理した資料のうち特徴的なものについて、館内職員を対象に説明会を開催した。



調査・整理を終え、中性紙の封筒に収納した館史資料

【実績値】
調査日数：78 日

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-21

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：創立150周年へ向けて、いち早く着手している。
独創性：当館は日本最古・最大級の博物館で、他にはない資料を対象としているため。
発展性：調査成果は今後の館史編纂に十分に反映されるため。
効率性：必要最小限の経費で実施しているため。
継続性：調査内容を標準化し、今後の継続的な調査に備えているため。
正確性：アーカイブズ学の専門家の指導を仰ぎ、方法・内容の正当性と正確さを確保しているため。

2．定量的評価

観点	調査日数					
判定	A					

判定理由
調査日数：執行可能な予算及び業務量の範囲で、最大の日数の調査を実施した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平成24年度の本研究開始時に引き継いだ資料について、今後の編纂に必要な情報の調査を実施するとともに、既存の資料について追加的な情報の整備を行った。平成26年度以降検討する編纂計画に反映する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画I-4-(1)-②「我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るため、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する」を反映した事業として適切に実施している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-22

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	22）東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究（(5)－①）		
【事業概要】 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災によって津波被害に遭った文化財の保存修復についての保存環境、安定化処理、本格修理に関する調査研究を行い、被災資料の保全を図るとともに今後想定される自然災害に対する有効な手立てを開発することを目的として実施する。			
【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭信幸
【スタッフ】 和田浩（保存修復課環境保存室長）、荒木臣紀（保存修復課環境保存室主任研究員）、土屋裕子（保存修復課保存修復室長）			
【主な成果】 環境に関しては①環境の計測、②計測結果の評価、③評価に基づく改善による環境改善の方策を確立した。安定化処理に関しては被災した全ての資料は脱塩、殺菌、除菌のための脱塩処理が必要であることが判明した。本格修理に関しては修理後の状態の推移を観察できる方法論が必要であることが明確になった。			

【25 年度実績概要】

環境：25 年度は、前年度に策定した計画に基づき、引き続き環境保全活動を実施するとともに、活動の恒常化を図ることが主な内容である。①環境の計測、②計測結果の評価、③評価に基づく改善、という順で実践し、①→②→③を何度も繰り返しながら、徐々に保管環境の安定化を目指した。連続した温湿度記録によって各部屋の特性が明らかになりつつある。しかしながら、現実的な特徴を理解するのは連続データを数年にわたって採取する必要があり、今後の調査記録が肝心である。また、生物生息調査、空気成分調査についても次年度以降定期的に行うことによって、全体的な傾向を把握することが可能になる。今年度はそのための実施計画と配置計画と位置付けている。



生物生息調査のためのトラップの準備

安定化処理：染織資料は軽度の処置で博物館の展示にふさわしい状態に安定化させられる染織関連品が 7 割を占めることが今回の調査で明らかになった。次年度に追加の調査を実施して全体の状況を把握したのち、安定化処理及び本格修理に関する考え方、処理を急ぐ資料の優先順位、具体的な処置内容の仕様を策定する計画である。カツラ資料は、全てのカツラについて状態調査を完了した。基本的に、全ての作品を外部専門家によって修理する必要がある。次年度に、安定化処理及び本格修理に関する考え方、処理を急ぐ資料の優先順位、具体的な処置内容の仕様を策定する計画である。漆器資料は、次年度に追加の調査を実施して全体の状況を把握したのち、安定化処理及び本格修理に関する考え方、処理を急ぐ資料の優先順位、具体的な処置内容の仕様を策定する計画である。

本格修理：今回の被災内容から考えて、本格的な処置を行った後の経過観察は、資料の保存状況を確認する上で極めて重要な点である。したがって、油彩画資料のカンバス裏面は常に観察が可能な状態であることが相応しく、そのためルースライニングや裏打ちなどといったカンバス裏面を完全に覆う処置は可能な限り避ける方針で臨んでいる。また、大型資料の修理には、そのサイズに応じた大型の修理施設と設備が必要となる。資料の移動などの点も考え合わせると、可能な限り県内の施設で修理を実施することが望ましく、資料にとっても安全であると考える。

【実績値】

研究会発表件数　4 件

文化財保存修復学会第 35 回大会、仙台（25 年 7 月 20 日）「陸前高田市立博物館における一時保管環境の改善過程」

文化財保存修復学会第 35 回大会、仙台（25 年 7 月 20 日）「被災文化財等救援活動における資料保存処理トリアージの重要性」

文化財保存修復学会第 35 回大会、仙台（25 年 7 月 20 日）「被災文化財等救援活動における保存修理―東京国立博物館修理室での油彩画等保存修理活動―」

2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム、韓国慶州（25 年 9 月 5、6 日）「津波で被災した資料の一時保管環境の改善過程」

【備考】

【書式B】
(様式 2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-22

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：自然災害による文化財への影響が懸念される今日、その具体的な解決策を探る研究として効果が高いため。
独創性：保存環境、安定化処理、本格修理の保存プロセスを構築し、具体的な方法論や材料を提示できたことは優れた成果であるため。
発展性：今後の同様な自然災害に対して成果の活用が大いに期待できるため。
効率性：臨床保存分野において調査診断、予防、修理の専門家がそれぞれの役割を明確に発揮して行った研究であるため。
正確性：専門家がそれぞれの立場から研究に参画し、的確なデータを得ることができた。

2. 定量的評価

観点	研究会発表件数					
判定	A					

判定理由
研究会発表件数：予定通り、成果の波及効果が期待される学術団体において公表することができた。

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	いずれの調査研究も、被災現地における実物資料と現実の環境に対してなされたものであり、同様な問題を抱える他機関あるいは他地域において極めて有用な基礎的成果を得ることができたと考える。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-23
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	23)　博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)((5)-①)

【事業概要】
本研究は、幕末期における西欧の博物館との接触から、維新後における博物館の創設を経て、帝室博物館の成立に至る明治期を中心とした博物館史を、世界史的な視野で再構成するための基礎的な資料調査と研究を、特に所蔵品の流通に着目して行おうとするものである。
対象地域としてドイツ、イギリス、オーストラリアを選び、三カ年にわたって当時の文書や交換・寄贈された文化財を調査する。
あわせて、館史資料の撮影を進め、館史資料の公開・共有を目指す。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室長　白井克也

【スタッフ】
伊藤嘉章（学芸研究部長)、田良島哲（学調査研究課長)、鬼頭智美（学芸企画部企画課国際交流室長)、土屋裕子（保存修復課保存修復室長)、遠藤楽子（学芸企画部企画課出版企画室研究員）

【主な成果】
初年度の研究対象であるドイツに関連して、ベルリンとライプツィヒにおいて文化財の交換先や寄贈元における資料の調査を行った。
また、同館との交流のきっかけである 1873 年ウィーン万国博覧会に関する調査の必要性から，ウィーンにおいて関連文書や関連文化財を調査した。
これらに関連して、研究遂行のための海外諸機関の担当者との協力体制を構築した。
館史資料のデジタル撮影にも着手し、釈読も進めた。

【年度実績概要】
・現地調査
ベルリン東洋美術館　日本と交換された文化財の調査
ライプツィヒ民族学博物館　ウィーン万博時及びその当時収蔵された日本の文化財調査　日本との交流にかかわる文書調査
オーストリア国立図書館　ウィーン万博時の「出品撮影アルバム」の調査
オーストリア国立公文書館　ウィーン万博にかかわる明治天皇や佐野常民にかかわる文書などの調査
ウィーン応用美術館　ウィーン万博時にもたらされた日本の文化財調査
ウィーン民族学博物館　ウィーン万博時に収蔵された日本の文化財調査
ウィーン美術史美術館　ウィーン万博時に収蔵された日本の文化財調査

・館史資料の調査
ウィーン万国博覧会以後の経過などに関する釈読

・館史資料の撮影
『列品録』を中心として、館史資料の撮影に着手し、次年度以降の撮影の方向性を定める

・研究会の開催
研究代表者・研究分担者による研究成果の共有のため勉強会を開催


エロスとプシュケ（G-1308）
ライプツィヒ民族学博物館寄贈

【実績値】
現地調査回数　2 回
デジタル撮影枚数　約 18,000 コマ

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-23

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	A	A	A

判定理由
適時性：日本の国際化を近代にさかのぼって跡付ける内容であり、時宜にかなっている。
独創性：博物館資料の国際的な交流を時代背景とのかかわりから再認識しようとするものであり、新たな研究方法といえる。
発展性：館史資料の精密なカラー画像の公開を目指しており、今後の研究に貢献するところが大きい。
効率性：東京国立博物館における館史資料の整理の成果のほか、他機関における研究成果を利用している。
継続性：研究代表者・研究分担者のこれまでの研究成果を踏まえ、発展させたものである。
正確性：館史資料の撮影を高い精度と高率で進めたほか、研究成果の一部を論文として公表した。

2．定量的評価

観点	現地調査回数	デジタル撮影枚数				
判定	A	A				

判定理由
現地調査回数：現地調査を十分に行うことができた。
デジタル撮影枚数：目標を上回るペースで撮影を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度予定していた現地調査、館史資料のデジタル撮影、館史資料の釈読などを滞りなく終えることができたうえ、国内外の関連分野の研究者との意見交換などにより、今後の研究の展望をひらくことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度は予定していた調査・撮影を滞りなく終えるとともに、明治初年の博物館資料の国際交流においてウィーン万国博覧会が果たした意義を再認識でき、かつウィーン万博にかかわる調査をも並行して実施できたので、予定していた調査内容についてより深く理解することが可能になり、今後の調査を円滑に進めることができるようになった。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-24

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	24)中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）((5) －①)

【事業概要】
中世から近代までの日本絵画を照らす照明の状況を大きな指標ととらえ、まず＜現代の展示空間における光＞が、どのような状況にあるのかを把握する。そして制作された当時、絵画がどのように受容されていたのかを考察しながら、＜歴史的な光＞を先進的照明機器によって復元することで、絵画の展示の手法を拡張しようとするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長　松嶋雅人

【スタッフ】
和田浩（保存修復課環境保存室長）、矢野賀一（学芸企画部企画課デザイン室主任研究員）、土屋貴裕（列品管理課平常展調整室員）

【主な成果】
東京国立博物館展示室における既存照明具を用いた主に照明環境に関する展示環境の現状を把握するため、各展示室の諸データを計測、収集した。合わせて現状における種々の先進照明器具の仕様を精査し、照明実験を通して文化財への影響等を調査した。それらの実験、調査結果をもとに、絵画の制作当時の状況を復元的に考慮しながら、有機 EL 照明を用いた展示を実施した。

【年度実績概要】
(1)東京国立博物館展示室において、輝度カメラ、サーモグラフィーを用いて、既存照明器具で構成される展示照明環境の現状分析を行った。
(2)東京国立博物館敷地内、奈良・依水園等の屋外光の計測、調査を行い、展示室内との比較資料となる自然光のデータ収集を行った。
(3)研究協力社のもとで、LED 照明、有機 EL 照明器具の先進装置を調査、実験を行った。
(4)調査、実験成果をもとに有機 EL 照明を用いた展示照明によって実際の文化財展示に反映させた。


屏風作品への有機 EL 照明の効果


油画作品への有機 EL 照明の効果

【実績値】
(1)東京国立博物館展示室の照明環境の測定･･･6 回
(2)館外施設（屋外、寺院）の計測調査･･･2 回
(3)先進照明器具の調査、実験等･･･3 回
(4)展示への反映･･･2 回(①～②)

【備考】
①「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」（26 年 1 月 15 日～2 月 23 日　東京国立博物館）
②特別展「支倉常長像と南蛮美術―400 年前の日欧交流―」（26 年 2 月 11 日～3 月 23 日　東京国立博物館）

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-24

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	正確性		
判定	S	S	A	A		

判定理由
適時性：各展示施設における既存の照明器具から先進器具への転換が数多くなされている現状において、本研究は極めて緊急性、公共性が高く、また数多くの計測資料は国内のみならず、国外施設との比較材料として極めて有効である。
独創性：美術史、展示デザイン、保存科学各分野を統合した本研究は、これまでに他に類をみない。
発展性：本研究の実測データ、その効果の多様性は、今後の文化財展示に様々な示唆、影響を与える。
正確性：展示室の既存照明環境の計測、照明実験等による計測数値、並びにデータを種々、多数収集することで、正確性を期すことができ、実証的な展示環境の把握が可能となった。

2．定量的評価

観点	展示室の照明環境の測定	館外施設の計測調査	先進照明器具の調査、実験等	展示への反映		
判定	A	A	A	A		

判定理由
展示室の照明環境の測定：絵画作品の形状、素材について各種の測定が実施できた。
館外施設の計測調査：展示環境との比較において、極めて有効な計測値を得ることができた。
先進照明器具の調査、実験等：既存器具との比較とともに、その有効性を把握することができた。
展示への反映：調査研究の成果をもとに、実際の展示に先進照明器具を用い、高い展示効果が得られた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は、既存展示環境の現状把握を行い、先進的照明器具を有効に利用し、美術史、展示デザイン、保存科学の各分野を統合した調査研究を行い、各観点における種々の実験、計測を実施できたことで、実証的で、より先進的な展示環境を構築する諸資料を収集することができた。 次年度にはさらに広範囲における展示環境の数値、データを収集し、これまでにない展示環境の提示が実現できるよう理論構築を進めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現状における展時室等の展示環境の調査を十全に行うことができ、さらに各種の先進照明器具の検討を実施したことで、展示への反映も可能となった。 次年度以降、さらに諸環境における計測値を多数収集し、文化財の展示環境におけるこれまでにない新たな提言を持つべく実験、調査、検討を続けたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-25

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	25）模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】
本研究は模写資料を調査することによって、書の受容や鑑賞の歴史を明らかにしようとするものである。東京国立博物館の蔵する模写資料の調査を実施し、写真撮影をして、ホームページ上で画像を公開する。また関連作品の調査、関連資料のデータ収集を行なうことから、個別研究も進めていく。東京国立博物館においては、模写資料に関する展示を企画し、模写を通じた鑑賞を提示するとともに、多様な鑑賞のあり方を示す。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー　恵美千鶴子

【スタッフ】
島谷弘幸（副館長）、太田彩（宮内庁三の丸尚蔵館・主任研究官）

【主な成果】
本年度はまず東京国立博物館が所蔵する模写資料の調査と撮影を実施した。その画像を東京国立博物館の画像情報システムへ登録を行うとともに、前年度撮影して未登録だった「平家納経（模本）」575 点の画像登録をした。他館や各地所蔵者への調査も実施し、聞き取り調査や関連データの収集を行うとともに、関連データの入力も行なった。

【年度実績概要】
・東京国立博物館所蔵の模写資料の調査研究
　東京国立博物館が所蔵する書の模写資料（作品）の調査を行い、高精細デジタル画像による撮影を行った。
・他館が所蔵する模写資料の調査研究
　京都・陽明文庫所蔵分の調査と撮影、広島・厳島神社所蔵の資料閲覧と担当者との情報交換を実施した。
・模写資料の画像の登録
　撮影した画像のうち公開できるものについては、東京国立博物館の画像情報システムに登録した。また、前年度中に撮影済みであった「平家納経（模本）」575 点の高精細デジタル画像の登録も行った。これらの画像は、システムの更新によってインターネット上に公開される予定である。
・データ収集と入力
　関連する歴史的資料や参考資料のデータを収集し、デジタルデータ化を行った。
・研究成果の公開
　模写資料や書の鑑賞・受容に関する研究論文を発表した。また、来年度は、東京国立博物館の総合文化展において研究成果を公開する展示である特集「国宝再現－田中親美と模写の世界」を開催することが決まった。


「本願寺本三十六人家集　家持集（模本）」

【実績値】
・調査件数 64 件　・撮影点数 591 点（東京国立博物館所蔵分）、363 点（他館所蔵分）
・画像登録点数 1,166 点（以前撮影済みで本年度登録のみの画像あり）　・関連データ収集点数 2,219 点
・関連データ入力点数 6920 点　・研究論文発表件数 3 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-25

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	S	A	A	A	A

判定理由
適時性：撮影した画像はいずれインターネットでの公開がされるものであり公共性・公開性が高いといえる。
独創性：模写資料を研究対象として焦点を当てることはこれまでほとんど行われなかった。撮影されることも少なかった資料群を撮影し公開することは独創的であるといえる。
発展性：模写資料によって個別研究も進めるが、資料の画像公開をすることで、各研究分野に新たな研究材料を提示することができた。
効率性：既存の施設やシステムをそのまま利用しているため、効率的に調査研究と撮影、画像登録を進めることができた。
継続性：本研究は責任者がすでに進めていた研究内容であり継続して蓄積することができた。また、基礎的なデータ収集を十分に進めることができた。
正確性：撮影と画像登録、データ収集を速やかに進めることができ、研究論文の発表もできた。

2．定量的評価

観点	調査件数	撮影点数	画像登録点数	関連データ収集点数	関連データ入力点数	研究論文発表件数
判定	A	A	A	A	A	S

判定理由
調査件数：東京国立博物館の所蔵品を中心に十分に調査を行うことができた。
撮影点数：東京国立博物館のみならず他の所蔵者の分も撮影することができた。
画像登録点数：画像公開のための登録を撮影した分はすべて登録することができた。
データ収集点数：歴史的社会的関連資料のデータ収集、他の所蔵者からのデータ収集も実施できた。
データ入力点数：関連資料のデータ入力を十分に行うことができた。
研究論文発表件数：1年に1件を目標値としていたため、目標値を大幅に上回る論文発表ができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	模写資料の撮影と画像登録を着実に行うことができた。また、研究成果を報告する論文を発表することもできた。次年度以降もこの水準を保って研究を遂行していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度は計画通りに研究を進めることができた。次年度は日常の作業の中でさらに効率的に研究計画を進められるようにしたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-26

業務実績書

中期計画の項目	4　有形文化財に関する調査及び研究推進
プロジェクト名称	26)江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金)((5)-①)

【事業概要】
自然観察によって自然の原理や根源を求めていこうとする動向は、我が国においては博物学として江戸時代にすでにその兆しがみられた。江戸幕府による本草学や博物学の興隆は、江戸中期、特に享保年間（1716-36)以降と考えられてきた。しかし本事業では、その萌芽の時期を江戸初期すなわち 17 世紀に求めるべく、狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」を調査するものである。これら膨大な写生図を調査することで、江戸初期の幕臣や御用絵師らによって、自然観察や諸産物の集成といった科学的視点が牽引され、その後に享保年間以降の本草学や博物学の興隆が導き出されたことを明らかにしたい。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課貸与特別観覧室 主任研究員　小野真由美

【スタッフ】
松島仁（徳川文化財団　特別研究員）

【主な成果】
狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」の全ての注記（1030 件）をデータ化し、写生図の制作背景を考察した結果、探幽を踏襲した常信によって、幕府主導の写生図制作が行われたことが明らかになりつつある。特に写生図制作に関わった幕臣や藩主、特に水戸藩家臣、そして人見竹洞などの儒学者、金地院などの社寺についてその詳細（32 件）が明確になった。

【年度実績概要】
・狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」の基礎的調査。
　上記の作品について全ての画像を撮影し、注記（年紀、地名、人名等）や法量をデータ化した。
・狩野探幽の諸作品にみられる写生図の影響についての調査。
　探幽筆「四季花鳥図」四幅（永平寺所蔵)、探幽筆「寿老人・松鶴・竹鶴図」（黒田家伝来・福岡市美術館所蔵)、探幽縮図（京都国立博物館所蔵）を調査し、探幽の写生図と本画との関連を考察した。
・狩野常信の生涯と写生図制作の関連についての調査。
　『古画備考』などの画史類によって常信の画業を年譜化し、その画業と写生図との関連を調査した。
・宮廷における写生図制作の調査。
　常信と交友のあった近衛家熙や錦小路頼庸の日記を調査し、宮廷における本草学と写生図制作の関連を考察した。



狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」所収「元禄四年(1691)九月十日　人見竹洞より」（東京国立博物館所蔵）

【実績値】
・研究会回数　3 回（5 月、6 月、7 月　於東京国立博物館）
・作品調査回数　3 回（7 月　福井・永平寺、9 月　京都国立博物館、10 月　福岡市美術館）
（参考値）
・古記録の調査　4 回（5 月・6 月　筑波大学付属図書館、5 月　国立公文書館、6 月　東京大学史料編纂所）

【備考】
①小野真由美「近衛家と典薬頭・錦小路頼庸―その日記にみえる絵事について―」『MUSEUM』646、平成 25 年 10 月
②小野真由美「狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」の制作背景―所収写生図の年代順の動向と被写体の提供者について―」『東京国立博物館研究紀要』49、平成 26 年 3 月

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-26

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由

適時性：本年度は狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」29 巻全ての画像を撮影し、公開することができた。これによって美術史、歴史学、博物学、自然史などの諸分野の研究者による資料の活用が可能となった。

独創性：これまで江戸初期（17 世紀）における自然観察の事例は実証されていなかったが、本事業は狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」に着目することで、江戸初期における博物学の萌芽の様相や、そこに関わった幕府の状況について新知見を得た。そしてその成果を論文として当館研究紀要にて発表した（【備考】②）。

発展性：狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」の画像及び注記の情報は、幕臣や藩主の名が記され、かつ江戸初期における動植物の生態を詳しく知ることのできるものである。それらは美術史のみならず歴史学や博物学などの諸分野に資する内容であり、応用性や多様性のある研究成果となった。

効率性：本事業で撮影した画像データを、当館ウェブサイトの「画像利用」とリンクさせて公開するとともに、博物館の画像データの充実を図ることができた。今後は注記データを画像データとリンクさせるべく、さらなる充実を図る。

継続性：狩野派、特に木挽町狩野派関連の写生図は江戸時代末まで数多く描かれており、現存作品も多い（東京藝術大学等）。本事業は今後関連作品の調査へと発展すべく、データの構築を行っている。本年度の研究対象は江戸時代の写生図のなかで、最も膨大で多彩な内容であり、今後の作品調査の基礎となるものである。

正確性：狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」全てのデータ化を行ったが、それは悉皆的なもので、先行研究が行ったような部分的な調査ではなく網羅されたものとなっている。そのため正確で客観性のある研究成果が得られたといえる。

２．定量的評価

観点	研究会回数	作品調査回数				
判定	A	A				

判定理由

研究会回数：春期に研究会を重ねることができたため、狩野探幽筆「草花写生図」と狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」について、責任者とスタッフ間での共通の作品理解が深まり、各自が秋期以降にまとめた研究成果とその発展につながった。

作品調査回数：初年度である本年度は、「四季花鳥図」四幅（永平寺所蔵）など狩野探幽の重要作例を積極的に調査することができた。これによって探幽と常信の写生図制作に対する意識の差が明らかとなり、常信の写生図の制作背景や意図がより明確となった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	春期から計画的に調査とデータ構築を行い、研究の柱となる狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」のデータ化を行うことができた。さらに常信については、その制作背景、すなわち幕府との関連を実証することができた。今後は探幽との関連、常信が同時代や次世代に与えた影響など、多角的な研究へと発展させたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」の網羅的調査が計画通りに達成され、更に幕府の儒学者（人見竹洞）、官医（人見泌大）、典薬頭（錦小路頼庸）など関連人物へと新たな研究を進めた（【備考①】）。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-27
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	27）神像表現における物語性に関する研究（学術研究助成基金助成金）（(5)-①）

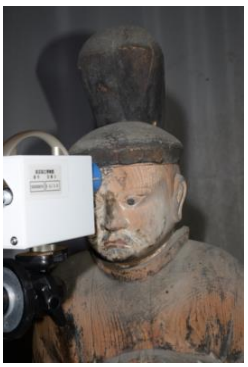
【事業概要】
本研究は、多くの神像は固有の物語（伝承・信仰）を背景に製作されたという視点に立つもので、表情や仕草を読み解き、姿にこめられた意味を探ることを目的にする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館教育課教育講座室長 丸山士郎

【スタッフ】

【主な成果】
東京国立博物館で開催された「国宝　大神社展」出品作品を中心に、作品調査を実施し、関連する文献資料の収集・分析も行った。

【年度実績概要】
「国宝　大神社展」（於東京国立博物館）出品の彫刻・絵画作品の調査を実施し、調書・写真資料を作製するとともに、彩色顔料の蛍光Ｘ線分析調査を実施した。特に重要な作品についてはカメラマンに委託して高精細デジタル撮影を行った。
神像の信仰・伝承等に関する網羅的な文献調査を 2 件について実施した。


彩色顔料の蛍光Ｘ線分析調査

【実績値】
調査作品数：彫刻３０件、絵画８件
文献調査作品数：２件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-27

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：近年神像彫刻研究への関心が高まっており、調査結果はその推進に寄与することができる。
独創性：神像彫刻の表現を固有の物語（伝承等）から考察する視点はこれまでになく、新たな成果が期待できる。
発展性：未紹介作品の調査を実施できたので、その成果は今後の神像研究に活用できる。

２．定量的評価

観点	調査作品数	文献調査 作品数				
判定	A	A				

判定理由
調査作品数：展覧会出品作品２５件を含む３０件の調査を実施し、予定通りの成果を挙げることができた。
文献調査作品数：近世の地誌類を含めた調査対象作品に関連する広い範囲の文献調査を実施した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	予定通りの作品・文献調査を実施することが出来た。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度の研究実施計画どおり展覧会出品作品を中心に、作品調書、写真撮影、蛍光Ｘ線分析、文献調査を実施した。来年度は、引き続き同様の調査を実施するとともに、それらの成果を基にした論文を執筆する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-28

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	28）視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】
日本美術における考古遺物の受容の実態については未だ明らかにされていない。しかしながらそこには、考古学と美術のそれぞれの様式観の違いや、日本の前衛芸術への影響を考察する上での重要な問題が含まれている。そこで、本研究では考古遺物及び古美術品を管理する東京国立博物館における研究を軸に、近世から現代までの描かれた遺物や蒐集行為について調査を行い、日本美術における考古遺物の受容過程を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 鈴木希帆

【スタッフ】

【主な成果】
東京国立博物館所蔵の資料のほか、根岸家（個人考古遺物収集家・熊谷市）、吉見百穴（比企郡吉見町）、東北歴史博物館、静岡市美術館、ストックホルムの東洋美術館（スウェーデン）で調査及び資料収集を行った。本研究成果は、東京国立博物館での展示（特集陳列「うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の記録－」）や茅野市美術館での口頭発表、大学研究紀要での論文発表により一般に公開した。

【年度実績概要】
・遺物の蒐集に関する調査
国内では、東京国立博物館（以下本館）所蔵の重要文化財の埴輪の旧蔵者で遺物の蒐集家として著名な根岸家にて、考古遺物や古写真の調査を行い、本館資料との関係性について研究を行った。そのほか東北歴史博物館の古物収集に関する展示を見学した。これらの研究成果の一部は本館での展示により公表した。海外では、ストックホルムの東洋美術館及び東洋美術図書館において、本館所蔵の紀州徳川家旧蔵の縄文土器と関係のある縄文土器の調査を行った（図１）。これにより、昨年度のフランスでの調査で明らかになった、縄文土器への明治期から昭和初期にかけての民族学的な関心からさらに進めて、昭和初期の日本国内とヨーロッパの先史芸術観を検証する材料を収集することができた。

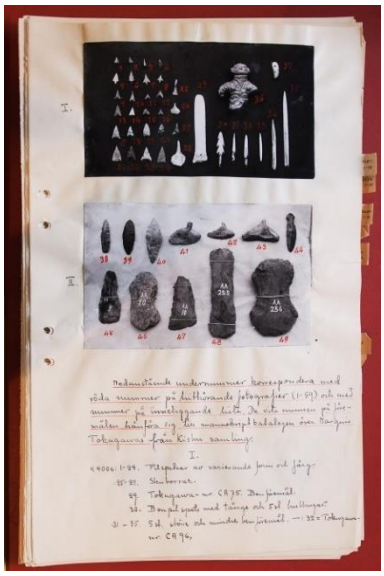


図 1　ストックホルム東洋美術館所蔵の紀州徳川家旧蔵考古遺物の調査

・近代における描かれた遺物に関する調査
本館所蔵の、遺跡が描かれた大型油絵（大正時代作）や古墳時代の人物の復元図（昭和初期作）などの遺跡や遺物に関係する絵画作品を調査し、博物館における美術と考古学の関係について考察した。そのほか静岡市美術館で開催された明治期の洋画表現に関するシンポジウムに参加した。調査の過程では、絵葉書などの考古学特有の視覚表現媒体の活用にも着目し、資料収集を進めた。本調査成果は、本館における展示やブログ、列品解説により公表した。

・研究発表等
論文発表では、昨年度の調査報告を兼ねて、論文「ギメ東洋美術館所蔵の縄文土器―フォリー神父蒐集品の調査報告を兼ねて」『武蔵野美術大学研究紀要 第 44 号』を刊行した（備考①）。講演では、信州大学の依頼により、茅野市美術館において西洋美術史や作家などと超領域の縄文土器に関する対談を行った（備考②）。ほかに、調査地の熊谷市において、根岸友山・武香顕彰会の依頼により根岸家資料についての講演を行った（備考③）。展示では、当館の「特集陳列　うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の記録－」において、研究成果を公表した。

【実績値】
・調査件数　5 件（調査件数国内 4 件、国外 1 件）・写真撮影点数　約 1,000 枚・研究発表等　4 件（論文発表 1 件 ①、講演 2 件②・③、展覧会 1 件④）

【備考】
①論文発表：「ギメ東洋美術館所蔵の縄文土器―フォリー神父蒐集品の調査報告を兼ねて」『武蔵野美術大学研究紀要 第 44 号』平成 26 年 3 月 1 日刊行（査読有）
②招待講演・対談：「線を遊ぶ、語る ～縄文から現代まで～」（茅野市美術館）信州大学人文学部芸術コミュニケーション分野、茅野市美術館　主催　平成 25 年 11 月 23 日（鈴木希帆、松本透（近現代美術史、東京国立近代美術館副館長）、伊藤理佐（漫画家）、金井直（西洋美術史、信州大学准教授）ほか）
③招待講演：「東京国立博物館所蔵の≪群集横穴図≫と≪埴輪 短甲の武人≫について」（熊谷市）根岸友山・武香顕彰会　主催　平成 25 年 12 月 1 日
④展覧会：「特集陳列　うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の記録－」（東京国立博物館）平成 25 年 9 月 10 日～10 月 20 日

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-28

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：館内の調査や展覧会の運営と調査出張の時期を調整し、適時に行うことができたため。
独創性：美術の枠組みで縄文土器及び考古遺物を扱い研究する点に新規性があるため。
発展性：海外の学会誌への投稿依頼が来るなど、研究が国外からも注目されているため。
効率性：東京国立博物館において美術史、考古学双方の研修者の協力を得て、研究が順調に進んでいるため。
継続性：昨年度の調査研究を踏まえた資料の収集と、講演や論文の発表が続けられているため。
正確性：目標として掲げていた今年度の調査件数を達成し、成果を一般に公開することで、科学研究費を用いた研究が有効になされたため。

2．定量的評価

観点	調査件数	写真撮影点数	研究発表等			
判定	A	A	A			

判定理由
調査件数：縄文土器や日本考古遺物に関する国内外の資料の特別観覧及び調査が順調に進められた。
写真撮影点数：海外の博物館の所蔵品を含め、希望資料を当初の予定通り撮影することができた。
研究発表等：当初の予定通りに展覧会を開催し、査読付紀要への論文発表を行い、研究成果を公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は前年度の経験をふまえて資料調査と研究成果の発表が順調に進んだ。特に本館の所蔵品と関係する海外の日本考古資料を調査できたことにより、考古コレクションの管理と移動についてより広い視野での研究が進み、近代における国内外の先史造形観についての基礎研究を行うことができた。これにより、次年度に行う研究成果の発表の準備が整った。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は科研費研究の完成年度であるが、当該年度計画は概ね達成することができた。次年度は、日々の業務との連携を図り、収集した資料のデータベース化を進め、館内外の査読誌や海外の学術雑誌などに論文を発表していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-29
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	29)日本における「美術」概念の再構築－語彙と理論にまたがる総合的研究（科学研究費補助金）((5)-①)

【事業概要】
近代日本が西洋から受容した「美術」は自らの美意識とは異質な分類枠のものであり、それらの作品は西洋とは異なる価値基準によって定義され、記述されるべきものである。
真正の日本の「美術」概念を再構築する場が生成するために、“概念としての「美術」”にかかわる先行研究の成果を踏まえて、日本の「美術」を語る体系全体とそれに従う作品記述の語彙を再検討する。それによりどのように日本美術を捉え、どのような記述がふさわしいのかを理論的に探究する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部長　伊藤嘉章

【スタッフ】
山崎剛（金沢美術工芸大学教授）、並木誠士（京都工芸繊維大学教授）、佐藤道信（東京芸術大学教授）、鈴木浩之（金沢美術工芸大学准教授）、横溝廣子（東京藝術大学准教授）、森仁史（金沢美術工芸大学教授）、後小路雅弘（九州大学教授）、北澤憲昭（跡見学園女子大学教授）、山梨絵美子（東京文化財研究所企画情報部副部長）、青木美保子（京都女子大学准教授）

【主な成果】
本研究の基礎を固めるものとして、「美術」概念の検討成果の確認、記述の現場からの論点の吸収、海外研究者との討議、検討項目の絞込みを本年度の課題とした。そのために、東京文化財研究所、九州大学、石橋美術館、でそれぞれのテーマによる研究会を開催した。これによって、近代美術、古美術、あるいはアジアにおける「美術」の概念についての検討を行なった。

【年度実績概要】
・本年度実施した研究会
本研究では、近代、古美術、海外（欧米）、海外（アジア）といったそれぞれの分野での「美術」概念というものを検証していくことが基本となる。これに向けて分野別の研究会として下記 2 件を開催した。
・26 年 1 月 26 日　近代部会研究会（東京文化財研究所）
・26 年 2 月 25 日、26 日　アジア部会研究会（九州大学･石橋美術館）
近代部会の研究会では、「東京藝術大学資料館所蔵品目録編纂作業について　青木茂」、「矢代幸雄の日本美術品分類―美術研究所の作品・文献カード分類と日本美術年鑑の分類を中心に　山梨絵美子」「近代美術資料の枠組みと総合資料　　鯨井英伸」という発表が行われ、近代における日本での「美術」概念の形成について検討が行われた。

・基礎研究
基礎研究としては、明治期の美術概念を知る資料として、東京国立博物館の列品区分の変遷、内国勧業博覧会の出品区分の変遷等の資料を集成した。


近代部会研究会（東京文化財研究所）

【実績値】
研究会実施回数　2 回(①～②)

【備考】
研究会実施
①近代研究部会　26 年 1 月 26 日
②アジア部会研究会　26 年 2 月 25 日、26 日

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-29

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：研究代表者らは先に日本の工芸･デザイン作品の検索システム構築を行う中で、西洋で形成された体系や用語のみでそれらを行うことの問題に直面した。今後の研究の進展には日本の「美術」のために新たな美術概念の構築を必要不可欠である。
独創性：この分野の研究は日本の工芸･デザインの個別研究から生まれてくるものではなく、近代美術史の進展により、近代における西洋美術概念の導入が明らかになることで、初めて生まれた問題意識である。
発展性：今回の研究では、近代のみでなく、古美術や、日本だけでなく、アジア美術についてもその研究を広げようとするものであり、発展性は大きい。
効率性：本研究の採択が年度半ば過ぎという状況の中で、研究の共通理解の形成のために、分野別の研究会を行った。これらは次年度以降の研究に向けて効率的な積上げを行った。

2．定量的評価

観点	研究会実施回数					
判定	A					

判定理由
研究会実施回数：次年度以降の研究の基礎となる、分野別の研究会を東京、福岡で実施した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	採択決定が年度後半であったが、次年度以降の円滑な研究の進展に向けて、基礎となる研究が進められた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	近現代部会、アジア部会を中心に研究会、基礎データの集成が進みつつある。次年度以降はさらに古美術部会、海外研究者との検討会を実施していくことができる。これらを進める中で、それぞれの部会の検討を進め、さらには、日本美術、東アジア美術についての新たな美術概念の研究を進めることができる。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-30
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	30）描いた女性たちに関する研究－桃山時代から明治・大正期まで（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】
桃山時代から明治・大正期までの女性画家に関して、その実態を文献･作品の両面から明らかにし、造形的・社会的･文化的特質と意義を考察する。制作の目的、制作を可能とした社会的な要件、女性であることと表現内容との相関関係、また、各時代の価値観・倫理観が女性の行動に及ぼした影響等も分析しつつ、歴史的な社会における視覚的イメージを表現することの意味について考察する。合わせて、女性の作画に関するデータベースの作成も目指す。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】
山下善也（調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）、仲町啓子（実践女子大学文学部教授）

【主な成果】
前年度に引き続き、実践女子大学の科研メンバーと協力し、京都国立博物館で、金戒光明寺寄託の池玉瀾の襖絵等の調査（25 年 8 月 15 日）を行うとともに、女性画家に関するデータ収集に協力し、外部研究者と連携した質の高い研究を行うことができた。次年度以降、外部との協力により当館所蔵の女性画家資料に対する研究を進める準備体制も確立した。

【年度実績概要】
・女性画家作品の調査
(1)当館所蔵の清原雪信・奥原晴湖などの作品調査を行った。
(2)京都国立博物館で、池玉瀾筆「西湖図襖」（金戒光明寺蔵、京都国立博物館寄託）４面等の作品調査を行った。
(3)実践女子学園香雪記念資料館で「河辺青蘭―浪華の女性画家―」出品作品の調査を行った。
・女性画家の作品制作の背景を考察
個々の調査作品の制作背景について、順次調査を行った。
・研究会
実践女子学園香雪記念資料館で行われた大阪の女性画家（河辺青蘭）に関する研究会に参加し、意見交換を行った。

【実績値】
研究会参加回数　1 回　（25 年 12 月 7 日 於香雪記念資料館）
作品調査回数　　2 回　（京都国立博物館、香雪記念資料館）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-30

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	A	A	B

判定理由
適時性：女性芸術家に対する現代的関心が高いため。
独創性：女性画家を総合化した画家としての社会的要因にまで踏み込んだ研究はなされていないため。
発展性：各時代の価値観・倫理観が女性の行動に及ぼした影響等、社会における視覚的イメージ表現の意味について研究を広げることができるため。
効率性・継続性：実践女子学園香雪記念資料館は、これまでも女性画家研究を行ってきた。データの蓄積もあり、研究成果にもとづいた研究が可能であり、成果を展示の形でも公開できるため。
正確性：女性画家の作品研究はこれまであまり行われていなかった。そのため、科学研究費の代表者である仲町氏を中心に多くの作品の調査作業を進めたが、質的判断に供しえる基準作品の選定段階にまだあるため。

２．定量的評価

観点	研究会参加回数	作品調査回数				
判定	A	A				

判定理由
研究会参加回数：実践女子学園香雪記念資料館で開催された研究会（本年度開催の研究会は１回）に参加し、女性が絵を描く背景としての書画会に関する意見交換を行うことができた。
作品調査回数：京都国立博物館で、江戸時代の代表的な女性画家である池玉瀾について、代表作である「西湖図襖」（金戒光明寺蔵、京都国立博物館寄託）４面等の調査を行うことができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	昨年度秋から本格化したが、それ以前から研究を始めており、十分な調査を進めることができた。また、外部との調査協力体制も確立し、所蔵品を含めより広範な調査計画が進行中である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	実践女子学園香雪記念資料館で行われた研究会、実践女子大学との共同の調査に参加し、外部との調査協力体制が確立した。当館所蔵品を含めより広範な調査計画が進行中である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-31

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	31)「武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質」（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（5－①）

【事業概要】
古墳時代は、象徴的な器物の授受を通じて、王権中枢が地域社会との関係を構築した時代である。5 世紀の古墳時代中期には、武器と武具とを組み合わせた武装具が、王権から地域社会（首長）へと配布される象徴的器物であった。
本研究は、武装具が古墳に集積する現象に注目して、古墳時代中期社会の特質を描き出すことを目的とする。奈良県円照寺墓山 1 号墳の出土資料を事例として取り上げ、武装具が集積することの意味を「王権」「地域」「東アジア」という 3 つの視座から検討する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　古谷　毅

【スタッフ】
上野　祥史（国立歴史民俗博物館　研究部考古研究系・准教授）、齋藤　努（国立歴史民俗博物館 研究部・教授）、坂本　稔（ 同 研究部・准教授）、橋本達也（鹿児島大学 総合研究博物館・准教授）、杉井　健（熊本大学 文学部・准教授）、阪口英毅（京都大学　文学研究科・助教）、諫早直人（奈良文化財研究所 都城発掘調査部・研究員）、川畑　純（ 同 都城発掘調査部・研究員）、高橋　工（大阪市博物館協会 大阪文化財研究所・難波宮調査事務所長）、清水和明（ 同 大阪文化財研究所・事務企画課長）、鈴木一有（浜松市教育委員会 学芸員）、西嶋剛広（宮崎市教育委員会 学芸員）

【主な成果】
今年度は、東京国立博物館において円照寺墓山 1 号墳出土資料を整理して、基礎情報を提示するために実測調査を進めた。また、その情報を基礎として「武装具の集積現象」を比較検討し、研究を推進した。

【年度実績概要】
本年度は、、25 年 5 月・8 月・9 月・11 月・12 月、26 年 2 月に東京国立博物館において研究会を開催し、資料整理及びこれまでの調査成果の確認と問題点を検討・分析すると共に、実測調査を進めた。また、検討会では研究報告を行い、論点の整理とその共有を図り、「武装具の集積現象」の検討に向けた準備を進めた。
調査資料に関しては、研究協力者を雇用して、写真・データ等の整理・分析を実施した。



調査風景〔於：東京国立博物館〕

【実績値】
○調査日数　　:25 日間
・調査件数　　：約２５件
・主な調査資料　：奈良県円照寺墓山 1 号墳出土資料・京都府久津川車塚古墳出土資料（東京国立博物館蔵）
○研究会日数　:2 日間
○論文等公開件数 3 件（①～③）

【備考】
論文等
①古谷　毅「忠清南道 公州 水村里古墳群出土金銅製装身具についての韓日製作技術の比較」『公州 水村里遺跡発掘 10 周年記念 国際学術シンポジウム 発表要旨集』韓国･忠南歴史文化研究院、335～367 頁、平成 25 年 9 月 25 日
②古谷　毅「大型古墳と中小古墳 －再整理から見た七観古墳の意義－」『第４回百舌鳥古墳群講演会「巨大古墳あらわる－履中天皇陵古墳を考える－」発表要旨集』大阪府・堺市、15～37 頁、平成 26 年 2 月 2 日
③古谷　毅「日本原始･古代の武具と馬具」『平成 25 年度 千葉市遺跡発表会 要旨』千葉市教育委員会　埋蔵文化財調査センター、22 ～35 頁、平成 26 年 2 月 22 日

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-31

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	B	A	A	A	S	S

判定理由
適時性：当館所蔵資料(列品)の調査・研究成果の公開性において需要性・必要性があり、早期の公開を目指しているが、今年は十分な調査を実施することができた。
独創性：古墳時代鉄製武器・武具・馬具研究史を踏まえて発想・着想しており、鉄製武器武具馬具研究においてはオリジナリティ及び新規性には優れていると思われる。
発展性：写真や簡略な実測図中心であった従来の武器武具馬具研究の多様性・汎用性に裨益し、研究視角の面からは古墳時代及び金属器研究に与える応用性などに一定の成果があると思われる。
効率性：調査を進めており、また実測調査に先立ち研究協力者を雇用して資料の事前整理を進めており、予算運用の時間的・人的投資について有効であると思われる。一方、設備的投資については、消耗品を含めてほとんど行なっていない。
継続性：これまで交付された各種科学研究費補助金による調査・研究成果を継承し、期間は適正で、質・内容・量ともに従来の調査・研究例を上回っており、本研究テーマの資料的基盤を構築する基礎性に優れている。
正確性：従来この規模の資料群では、実測図の作成はほとんど行なわれていないが、作成した実測図はすでに 100 枚を超えており、達成値・網羅性については従来の調査･研究事例に類似する事例は見られない。

２．定量的評価

観点	調査日数	研究会日数	論文等公開			
判定	A	B	B			

判定理由
調査日数　：十分な日数を実施した。
研究会日数：最低限の研究会を開催した。
論文等公開：論文等数は、公開性に鑑みてもほぼ適当な分量と思われる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	継続性については変更の必要が認められないと考えられるため、他の定性的・定量的評価により判定。研究計画の達成度については、調査回数は十分であり、調査精度の向上をさらに高めたい。東京国立博物館所蔵資料の整理としても顕著な成果が挙がっている。次年度以降は、より研究予算運用の効率性・適時性を高め、研究会をさらに開催し、さらに発展性・独創性の拡充・確立を図りたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	有形文化財の収集・保管に関しては、列品の整理・分析及び学術的評価に関する十分な考古学的情報の整理･資料化、及び論文発表・講演等を通じた当館における文化財(列品)の公開に資する調査・研究として十分な蓄積を行ったと考えられる。このほか、定性的・定量的評価により判定した。改良・改善点は、より高度な効率性・適時性及び発展性・独創性の確立を図ることを目標として、次年度の計画へ反映させる予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-32
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	32)「三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究」（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）(5－①)

【事業概要】
古墳時代前期を代表する遺物である「三角縁神獣鏡とは何か」について三次元計測技術を応用して製作技法から考えることを目的とする。舶載三角縁神獣鏡と仿製三角縁神獣鏡の対比を中心に、それをとりまく倭鏡、中国鏡、銅鐸の同一文様をもつ青銅器を分析対象として、量産技法から相互関係を分析する。そのための手段として精密三次元計測データによる客観的で詳細な分析を用いる。そして、肉眼観察では扱うことが不可能であった青銅器表面の微細な鋳型の傷や、面的な変形、収縮についての新しい情報を得ることで、これまでにない製作技法の解明を進める。
さらに、青銅器製作技術から「舶載」と「仿製」三角縁神獣鏡の技術的系譜を明らかにすることも目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　古谷　毅

【スタッフ】
水野敏典(奈良県立橿原考古学研究所 調査課総括研究員)、菅谷文則(奈良県立橿原考古学研究所 所長)、奥山誠義(奈良県立橿原考古学研究所主任研究員)、北井利幸(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　主任学芸員)

【主な成果】
既存の東京国立博物館所蔵資料の調査成果の公開と、調査データ･写真の整理・分析を行った。

【年度実績概要】
本年度は、日本考古学協会で研究成果を発表・公開した。
また、奈良県立橿原考古学研究所において、研究を行うための調査機材確保し、三次元計測器の導入を行った。
加えて、これまでの研究成果(科学研究費補助金 基盤研究(A):課題番号 25284161･平成 18 年度～平成 21 年度、基盤研究(A):課題番号 25284161･平成 14 年度～平成 16 年度)において調査した東京国立博物館所蔵の主要古墳出土銅鏡のデータ・写真の整理・分析を行い、今後の研究資料の整備を図った。
ただ、一部スタッフの都合で、研究会・調査等を計画通りに進めることはできなかった。



文様の面的な違いをもつ特異な「同笵鏡」(目録番号 37)
左) 佐味田宝塚鏡(東京国立博物館蔵)、右) 黒塚古墳 22 号鏡(奈良県立橿原考古学研究所蔵)〔①2014 年文献より〕

【実績値】
○調査日数　　：3 日間
・調査件数　　：約１０件
・主な調査資料　：三角縁神獣鏡・日本列島製漢式鏡(東京国立博物館蔵)
○研究会日数　：1 日間
○論文等公開件数 1 件(①)

【備考】
論文等公開
①水野敏典・奥山誠義・古谷毅「三次元計測による三角縁神獣鏡『同笵鏡』の立体的差違の研究(ポスターセッション)」
『日本考古学協会第 79 回総会研究発表 要旨』9 頁、平成 25 年 5 月 26 日

【書式B】
(様式2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-32

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	C	A	A	C	A	A

判定理由
適時性：既存の科学研究費補助金による調査・研究成果の公開性において需要性・必要性があり、早期の公開を目指しているが、今年度は一部スタッフの都合で、十分な緊急性には応えていない。
独創性：三次元計測データの解析･応用研究を目的に発想・着想しており、従来の青銅器研究においてはオリジナリティ及び新規性には優れていると思われる。
発展性：肉眼観察が中心であった従来の青銅器研究の多様性・汎用性に裨益し、研究視角の面からは原始･古代金属器研究、及び弥生･古墳時代の考古学研究に与える応用性などに一定の成果があると思われる。
効率性：予算運用の計画は時間的・人的投資について有効であると思われるが、今年度は一部スタッフの都合で、達成したとはいえない。なお、設備的投資については、今後の研究を進める基盤を形成した。
継続性：これまで交付された科学研究費補助金による調査・研究成果を継承し、期間は適正である。また、従来の研究で得たデータは、本研究テーマの資料的基盤を形成していて基礎性において優れている。
正確性：数値・データに関してはすでに従来の研究で基盤を形成しており、達成値・網羅性については従来の調査･研究事例に類似する成果は見られない。

2．定量的評価

観点	調査日数	研究会日数	論文等公開件数			
判定	C	C	C			

判定理由
調査日数・研究会日数：今年度は一部スタッフの都合で十分な日数を実施できなかった。
論文等公開件数：公開性に鑑みても、さらに努力が求められると思われる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続性については変更の必要が認められないと考えられるため、他の定性的・定量的評価により判定。研究計画の達成度については、調査とデータ分析の質をさらに高める必要があるが、今年度は研究代表者の健康上の問題で十分に達成したとはいえない。来年度はより研究予算運用の効率性・適時性を高め、研究会で分析視角に関する発展性・独創性の拡充・確立を図り、さらに調査を進めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほ ぼ 順 調	有形文化財の収集・保管に関しては、列品の整理・分析及び学術的評価に関する十分な考古学的情報の発表等を通じて、当館における文化財(列品)の公開に資する調査・研究として蓄積は実施できたと思われる。このほか、定性的・定量的評価により判定した。改良・改善点は3.総合的評価のように、今後の計画遂行とより高度な効率性・適時性及び発展性・独創性の確立を図ることを目標として、次年度計画を策定する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-33

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	33）木彫像の樹種識別技術の高度化（科学研究費補助金）((5)-①)

【事業概要】

木彫像の樹種判別に非破壊分析手法、顕微手法を応用した精密分析手法を導入することにより、種レベルでの正確な樹種を特定する研究。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　　和田浩

【スタッフ】

安部久（森林総合研究所主任研究員）、渡邊宇外（千葉工業大学准教授）、渡辺憲（森林総合研究所研究員）、石川敦子（森林総合研究所主任研究員）、久保智史（森林総合研究所主任研究員）

【主な成果】

美術史的研究の見地から時代や様式が定まっている多数の木彫像を対象として、揮発成分のサンプリングおよび分析と近赤外分光分析を行うことができた。データの蓄積を継続することで、木材標準試料との比較によって樹種同定の精度を上げられる一定の目途が立った。

【年度実績概要】

国内木彫像等の調査

以下の国内各所において木彫像の調査を実施し、形状･構造･彩色に関する調書の作成、木片試料採取、像の撮影を行った。

・東京国立博物館（25 年 5 月 23 日）
　大神社展出品作品群（一括）の調査を実施した。
・東京国立博物館（25 年 7 月 10 日）
　東京国立博物館所蔵作品（1 躯）の調査を実施した。
・静岡県南禅寺（25 年 6 月 21 日、9 月 4 日）
　南禅寺が所蔵する木彫像群（一括）の調査を実施した。
・長野県正覚院（25 年 10 月 26 日）
　正覚院が所蔵する木彫像群（一括）の調査を実施した。



大神社展出品作品　　調査の様子

【実績値】

国内調査回数　5 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-33

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	独創性					
判定	A					
判定理由 独創性：非破壊分析で樹種同定を試みるという着想が独創的であるため。						

2．定量的評価

観点	国内調査回数					
判定	A					
判定理由 国内調査回数：国内調査を遅滞なく計画通りに実施することができた。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	木彫像の調査を数多く、また、遅滞なく計画通りに実施することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り進捗した。今年度の成果を踏まえて次年度計画においても同様に進めていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-34

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	34）在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】
在欧博物館が所蔵する日本仏教美術作品の悉皆調査を行う。それらのコレクションの流通経路も調査し、作品自体のデータと合わせて、英語と日本語による画像付データベースを作成して公開する。欧州と日本相互の研究成果の交換を可能にし、在欧における日本美術史研究や日本観の研究を促進するとともに、今後の欧州における日本関係美術品の活用の進展を図る。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	副館長　島谷弘幸

【スタッフ】
伊藤信二（学芸企画部博物館教育課教育普及室長）、丸山士郎（学芸企画部博物館教育課教育講座室長）、小山弓弦葉（調査研究課工芸室主任研究員）

【主な成果】
ケルン市立民族学博物館において、日本仏教美術作品の悉皆調査を実施した。それらの調査結果をデータ入力し、データベースを作成している法政大学の担当者に入稿した。また、欧州から画像による調査依頼を受け、各担当者で検討し、依頼館に返答するとともに、データベースに加えた。さらに、東京国立博物館が所蔵する欧州博物館の図録等より、該当する日本仏教美術作品の抜き出しを行なった。

【年度実績概要】
(1)欧州博物館にて悉皆調査
今年度は、ドイツ・ケルン市立民族学博物館にて調査を実施した。
(2)調査のデータ入力と入稿
在欧日本仏教美術データベースは、本研究課題をとりまとめている法政大学が作成している。東京国立博物館担当者が関わった調査に関する資料は、データ入力をした上で、法政大学の担当者に随時入稿した。
(3)関連データの収集
東京国立博物館の資料館には、欧州博物館を紹介する図録等が所蔵されている。それらの図録等から、本研究課題の調査対象となる日本仏教美術作品に関するデータを抜き出しした。
(4)研究成果の公開
データベースはすでに公開されており、随時更新している。また、本年度は、英語による出版物にて研究成果論集を刊行した（ドイツにて出版）。



日蓮曼荼羅

ドイツ人が所蔵する
日蓮曼荼羅

【実績値】
・調査件数 30 件　・データ入稿件数 30 件
・関連データ収集件数 50 件　・研究論文件数 2 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-34

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	B	S	A

判定理由
適時性：欧州博物館が所蔵する日本仏教美術のデータベース化は、欧州と日本の研究者相互の国際交流ともなり、必要性も高い。
独創性：欧州博物館所蔵の日本仏教美術を画像付データベースで広く公開することは、これまで知られていなかった作品や公開されてこなかった作品を研究対象として知らしめることができる。
発展性：画像付データベースの公開により、日本における仏教美術研究の対象を広げるのみならず、欧州における日本美術研究を促進することができる。
効率性：欧州博物館への調査が一年で一度しか実施できなかったが、日本において基礎的データ収集を進めることができた。
継続性：本研究は、すでに法政大学で数年来進めてきているもので、画像付データベースも公開済みである。調査結果はすみやかにデータ入力してデータベースとして公開できる状況である。
正確性：すでにデータベース本体が完成しているため、調査結果はすみやかにデータベースに流入することができる。データベースは、日本仏教美術研究者に活用できるものとなっている。

2．定量的評価

観点	調査件数	データ入稿件数	関連データ収集件数	研究論文件数		
判定	B	A	A	A		

判定理由
調査件数：欧州の博物館において現地調査を目標通りに実施することができた。
データ入稿件数：調査を実施した結果についてすみやかにデータ入力して入稿することができた。
関連データ収集件数：東京国立博物館において関連作品の資料収集を充分に進めることができた。
研究論文：研究成果を論文として公開することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	継続してきた研究課題であり、本年度の調査対象である欧州博物館での悉皆調査も効率的に進めることが出来た。画像付データベースはすでに公開しており、本年度の調査結果も随時データ入稿している。研究成果は論文としても発表することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	欧州博物館での調査実施など、計画通りに進行している。画像付データベースは所蔵勧ならびに研究協力者へのパスワード配布による公開だが、欧州においても日本においても、今後はデータベース自体の普及につとめていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	1）訓点資料としての典籍に関する調査研究（(5) -①）

【事業概要】
　漢文を訓読するために施された訓点の資料は、漢籍が比較的少なく、その大半が仏典である。主に平安時代や鎌倉時代を中心とした仏典に施された訓点によって、当時の日本人がどのように本文を理解していたか、或いは当時の日本語の有り様が知られることになる。ことに当館は、国内トップレベルの写経コレクションを有していることから、専門の学識者を客員研究員に迎えつつ、それらの調査研究を行い、その成果を研究者や一般に還元する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　赤尾栄慶

【スタッフ】
宇都宮啓吾（大阪大谷大学教授・客員研究員）、羽田聡（主任研究員）

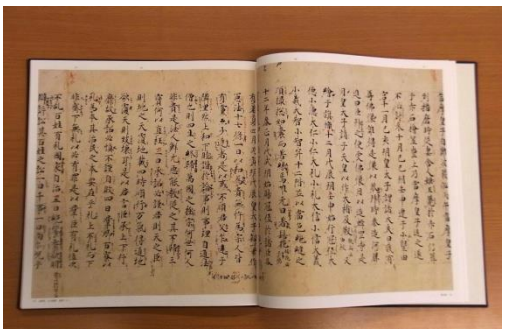
【主な成果】
館蔵品のうち、重要文化財『観自在菩薩如意輪瑜伽法要』及び重要文化財『南海寄帰内法伝』を中心とした調査を踏まえて、宇都宮啓吾が「十一世紀における天台宗山門派谷流のヲコト点について」（『訓点語と訓点資料』132）という論文にまとめて、報告を行った。赤尾・羽田は、館蔵品で訓点資料として知られる、国宝『日本書紀』二巻（岩崎本）と国宝『日本書紀』（吉田本）のデジタル撮影を行い、書誌解題を付して全巻を原寸大カラー図版での書籍を出版した（勉誠出版）。

【年度実績概要】
・調査を年回 10 回実施し、重要な部分は写真撮影を行った。

・漢字文化圏の訓読現象をも視野に入れていることから、25 年 7 月及び 8 月に韓国の口訣学会のメンバーとの意見交換及び検討会を実施した。

・また 25 年 8 月には、大谷大学所蔵の『三国祖師伝絵』の調査を行い、その図様の調査と賛文に付された訓点の調査を行った。

・当館の編集になる、国宝『日本書紀』二巻（岩崎本）と国宝『日本書紀』（吉田本）の出版（勉誠出版）のための調査を実施し、解題を付した書籍の出版を行った。



『京都国立博物館編　国宝　岩崎本日本書紀』（図版部分）

【実績値】
・調査　10 回
・国際交流　2 回
・論文　1 回(①)
・研究成果公開（出版）　2 回(②)

【備考】
論文
①宇都宮啓吾「十一世紀における天台宗山門派谷流のヲコト点について」（『訓点語と訓点資料』132）
研究成果公開(出版)
②赤尾栄慶、羽田聡　当館の編集になる国宝『日本書紀』二巻（岩崎本）と国宝『日本書紀』（吉田本）の出版
　ほか 1 回

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	持続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：館蔵品 2 件について、原寸大カラー図版の書籍の編集を行い、出版し、研究者及び一般に公開した。
独創性：宇都宮論文において、比叡山における訓点の創始に関する新たな視点を提供した。
発展性：原寸大カラー図版の書籍の編集を行い、出版したことにより、国語学・歴史学などの研究者に全巻の情報を提供した。
効率性：赤尾・羽田の研究成果を付しつつ、民間の出版社からの出版を実現した。
継続性：1 年間に 2 冊の大きな書籍の出版を行った。
正確性：国語学・書誌学を中心とした解説及び料紙の紙質（楮紙）に関する最新の成果を提供した。

２．定量的評価

観点	調査	国際交流	論文	研究成果公開（出版）		
判定	B	A	A	S		

判定理由
調査：毎月の調査が実施できなかった。
国際交流：韓国の口訣学会との国際交流会を２回実施した。
論文：宇都宮１回　論文発表は１回であったが、査読のある学会誌に掲載した。赤尾・羽田は、研究成果公開のための解題を執筆することとした。
研究成果公開(出版)：当初、予定していなかったが、民間の出版社から解題を付した館蔵品の書籍を２冊出版し、契約による収入も得られた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査 10　国際交流 2　論文１　研究成果公開（出版）2 回をこなし、研究成果の公開（出版）によって、全巻を繙くことができないような書跡の全貌を公開することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、調査をふまえた研究成果が公開できた。当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-2

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）彫刻に関する調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）　((5)-①)

【事業概要】

京都国立博物館に保管及び寄託される仏像を中心とした彫刻作品の調査、研究。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　淺湫　毅

【スタッフ】

井上一稔（同志社大学文学部教授・客員研究員）、田中健一（大阪大谷大学専任講師・調査員）

【主な成果】

・科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）「多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究」の研究代表者として、寺院及び博物館における彫刻作品の調査を研究分担者とともに行った。
・来年度再開する新館（平成知新館）の彫刻展示室における展示計画の立案を行った。

【年度実績概要】

・京都国立博物館が保管、あるいは社寺より寄託を受けている彫刻作品の調査及び写真資料の収集を、新たに行うとともに、新規寄託作品の増加につとめた。
・社寺、個人宅など、館外に所在する彫刻作品の調査・撮影を行った。
・来年度再開する新館（平成知新館）の彫刻展示室における展示計画の立案を行った。
・下記の科学研究費補助金による調査に研究代表者、研究分担者ないしは研究協力者として参加し、調査研究を行うとともに、それぞれに関し成果を公表した。
　①東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究（研究協力者）　研究代表者：桃山学院大学　深見純生
　国内における研究会に参加し上記のテーマに基づいて意見交換及び情報収集を行った。
　②5～9 世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究（研究分担者）研究代表者：大阪大学　藤岡穣
　国内及び韓国において作品調査を行うとともに、当館館蔵品調査に際して便宜を図った。
　③多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究（研究代表者）
　神奈川県立金沢文庫において研究分担者らと共同で称名寺ご所蔵の十大弟子に関して作品調査を行うとともに、当館寄託の釈迦如来立像についてＸ線透過撮影を行い、詳細なデータの収集につとめた。
・仏教美術研究上野記念財団助成研究会主催のシンポジウム「上代南山城における仏教文化の伝播と受容」にパネリストとして出席した。
・上記調査研究において、客員研究員の井上一稔氏、調査員の田中健一氏の協力を得た。

【実績値】

調査：5 回（南山城調査 1 回、科研による調査 4 回）
論文等執筆：論文 3 本、新聞連載 6 回（京都新聞・京都国立博物館所蔵　名品手帳）
講演：計 4 回（講座 2 回、シンポジウム 2 回）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：仏像に関する関心が一般にたかまっており、世間の需要にもかなう研究といえる。
独創性：多数の尊像から構成される群像の研究は、彫刻史上でこれまでほとんど行なわれてこなかったテーマである。
発展性：自己の研究のみで完結するものではなく、喫緊及び将来の展覧会へとつながる調査研究である。
効率性：保存修理所の業務や新館建設に関わる業務、京都大学における講義などの多岐にわたる併任業務があるなか、限られた時間で効率的な調査研究を行なった。
継続性：展覧会のための調査もそれで終わるものではなく、さらなる展覧会へとつながるものである。
正確性：調査の成果を論文、シンポジウム等で速やかに公開し、関係者の意見を広く聞くようにつとめた。

２．定量的評価

観点	調査	論文等執筆	講演			
判定	A	A	A			

判定理由
調　査：展覧会のための調査に加え、3 種類の科研による調査にも予定回数（各１回）以上に参加することができた。
論文等執筆：当初より予定の論文集に１本の論文を執筆し、それ以外に日蓮宗関連の概説書に２本の論文を執筆した。
講　演：当初予定の遊び展で１回の講演以外に、外部で１回の講演と、シンポジウムで２回の発表を行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展覧会、調査、研究、論文執筆、講演、いずれの面でも積極的に行い、一定の成果をあげることができた。また将来の展覧会計画に関しても新たに計画立案を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	目的は達成することができた。それに加えて昨年度からの継続として外部資金（科学研究費補助金費基盤研究Ｂ）を代表者として獲得することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	3）出土・伝世古陶磁に関する調査研究（(5) -①）

【事業概要】
日本国内で伝世・出土した陶磁器について総合的に調査を実施し、博物館の所蔵品・寄託品の充実を図ると共に、最新の調査・研究成果を展示や講演会などに反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸室長　尾野善裕

【スタッフ】

【主な成果】
野崎家塩業歴史館（岡山）で伝世古陶磁の調査を行い、72 件の調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。

【年度実績概要】
所蔵陶磁の悉皆調査を依頼されている野崎家塩業歴史館の所蔵品調査を延べ 2 日実施し、デジタルカメラでの資料写真撮影と共に、調書の作成を行った。最も力を割いた野崎家塩業歴史館での調査は、これまで調査の手が及んでいなかった厖大な資料群の情報化に主眼があり、それ自体は必ずしも研究として独創性を持つものではないが、文化財の保護・調査・研究上必要不可欠な基本情報の整備として行っており、2 つ目の土蔵の調査を完遂した。そのほか、過去の研究蓄積に基づいて、研究発表と論文執筆に務めた。

【実績値】
調書作成件数　　72 件
調査日数（館外）　　延べ 2 日
成果公表　（研究発表数　2 回(①②)、論文等執筆件数　3 件(③～⑤)）

【備考】
研究発表
①「京都から見た〈山茶碗〉編年」東海土器研究会プレシンポジウム、豊橋市民センター、2013 年 7 月 13 日
②「京都から見た〈山茶碗〉編年～空白の 14・15 世紀をめぐって～」第 2 回東海土器研究会、田原市崋山会館、2013 年 11 月 2 日
論文執筆
③尾野善裕（共著）「織部焼はいつ流行したのか」『特別展：国宝「卯花墻」と桃山の名陶―志野・黄瀬戸／瀬戸黒・織部―』三井記念美術館、2013 年 9 月
④尾野善裕「京都から見た〈山茶碗〉編年」『東海土器研究会プレシンポジウム資料集「渥美窯編年の問題点」』東海土器研究会、2013 年 7 月
⑤尾野善裕「京都から見た〈山茶碗〉編年～空白の 14・15 世紀をめぐって～」『第 2 回東海土器研究会　渥美窯編年の再構築』東海土器研究会、2013 年 11 月

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	B	A	A	C	

判定理由
適時性：所蔵品・寄託品の充実や、最新の調査・研究成果を展示や講演会などに反映させることは、博物館として常時行うべき当然の業務と考えるため、Ａと評価する。
独創性：基礎情報の収集自体に独創性は乏しいため、Ｂと評価する。
発展性：過去、調査成果を特別展覧会（『魅惑の清朝陶磁』）に盛り込んでおり、今後も展覧会などを通して調査成果の広範な活用が見込めるため、Ａと評価する。
効率性：昨年の一日当たりの調書作成件数 35 件を上回る 36 件を達成しているため、Ａと評価する。
継続性：他業務の繁忙化により、これまで継続的に行ってきた野崎家塩業歴史館の調査も、わずか 2 日しか実施することができなかったため、Ｃと評価する。

２．定量的評価

観点	調書作成件数	調査日数	成果公表			
判定	C	C	B			

判定理由
調書作成件数：72 件は、昨年の１/４にも満たないため、Ｃと評価する。
調査日数：独立行政法人化後、日常業務が繁忙化する中でも、昨年は 10 日もの調査が実施できたが、僅か２日に減少したためＣとする。
成果公表：基礎データの蓄積も進まず、平常展示館閉鎖中のため、館内での成果公表ができていないうらみはあるものの、過去の蓄積を利用して成果公表に務めたのでＢと評価する。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	独創性は乏しい事業だが、調査成果の蓄積が展覧会や講演会などの博物館事業の内容充実に貢献するものであることは明らかであり、調査自体を進めるべきであるのも関わらず、他業務繁忙課の中で調査日数を確保することができておらず、基礎データの蓄積が進まなかった。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
一部要注意	過去の研究蓄積によって、成果公表には務めているものの、新規データの蓄積が進んでおらず、研究の先細りが懸念される。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-4-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	4)-1 特別展観「遊び」に関する調査研究（(5) -①）

【事業概要】
特別展観「遊び」（25 年 7 月 13 日～8 月 25 日）に関する調査研究
　特別展観「遊び」の準備に際し、遊びの概念を哲学、言語学、人類学、民俗学の見地から検討し、展示室の構成に合わせたテーマを考え、当館収蔵品から一般観覧者が親しみやすい作品を選び、各テーマに分類した。写真のないものは新たに撮影を行い、個々の作品に解説を加え、遊びに関する小論を添えて図録を編集した。また、秀吉の子、棄丸の玩具船の構造を分析し、模型を作成した。同時に京都国立博物館本館（明治時代・重文）の内壁の清掃方法を検討した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室主任研究員　永島明子

【スタッフ】
青山杏子（企画室事務員）、赤尾栄慶（上席研究員）、淺湫毅（保存修理指導室長）、池田素子（列品管理室アソシエイトフェロー）、大原嘉豊（企画室主任研究員）、岡田愛（列品管理室技術職員）、尾野善裕（工芸室長）、金井杜道（学芸部調査員）、河合優香（教育室事務補佐員）、鬼原俊枝（列品管理室長）、呉孟晋（列品管理室研究員）、小林亜姫（企画室事務補佐員）、坂口さとこ（列品管理室事務補佐員）、末兼俊彦（企画室研究員）、友田直子（教育室事務補佐員）、羽田聡（企画室研究員）、水谷亜希（教育室研究員）、宮川禎一（考古室長兼企画室長）、宮本晋吾（列品管理室事務補佐員）、山川曉（教育室長）、山下善也（前連携協力室長）、山田知佳（国立民族学博物館管理部総務課）、山本英男（美術室長）

【主な成果】
　遊びとひとこととで言っても、神仏に捧げた歌や踊り、社寺への参詣、酒宴、遊山、遊楽、琴棋書画のような文人趣味、聞香、闘茶、双六、投扇、楊弓、貝合わせなどの室内競技、からくり人形、カルタ、凧揚げなどの遊戯など、人の営みは多岐にわたり、美術品は、過去の裕福な人々のそうした遊びの記録、記憶ともいえるものである、という視点を基に収蔵品を見直すことができた。玩具船についてはカラクリの構造を想定できた。本館内壁の清掃方法も確立できた。

【年度実績概要】

・遊びの概念を研究し、研究職員のあいだで認識を共有し、収蔵品 128 件を選抜。

・個々の作品の解説を執筆するにあたり、担当研究員が作品を再検討し、画像のないものを新規に撮影。

・これまで展示することの少なかった作品を研究する機会となった。（例えば、初公開となった館蔵品、推定ドイツ製の銅製の虫形の置物が、農商務省商品陳列館の陳列品であったことの追跡など。）

・妙心寺の寄託品である棄丸の玩具船の構造を観察し、模型を作成した結果、からくり構造があったことを確認できた。

・保存科学の立場から、展示会場として利用している明治時代の建造物の内壁を清掃する方法を検討し、実施した。

・以上の成果を一般来館者に還元することができた。


玩具船模型検討風景


新規撮影風景



展覧会図録

【実績値】
・出品作品 128 件
・新規撮影作品 46 件（102 カット）

【備考】
展覧会図録「特別展観　遊び」京都国立博物館編集・発行　2013 年 7 月（B5 判・並製本・総 156 頁・作品 128 件）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-4-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	B	S	A	A

判定理由
適時性：展覧会のための調査研究であるため、公共性や公開性は極めて高いが、需要・必要性、緊急性はそれほど高くない。図録では作品名称・時代・所蔵のみならず、小論や章解説等をも英訳したので国際性も備えているといえるためＡとした。
独創性：遊びの概念を掘り下げ、美術品を見直す展覧会はこれまでにないという点でオリジナリティ、発想・着想、新規性は顕著な成果が認められるかもしれないが、準備期間も短く、収蔵品のみの事業であるため卓越性のある成果を得られたとは言い難いためＳではなくＡとした。
発展性：遊びの概念の多様性にそって美術品を配置すること自体は無限の発展性があるといえるが、当館で同じ作業を繰り返すことはおそらくない。しかし、以前、当館で実施した動物をテーマにした展覧会のように、他館の活動での応用性・汎用性、影響性などを考慮すると概ね成果が認められると思われ、Ｂとした。
効率性：短い準備期間に、限られた既存の人的・設備的資源を用いて行った事業としては極めて顕著な成果が認められたと考えＳとした。
継続性：展覧会に向けた期間限定の調査研究としては、メディア各社にも取り上げてもらえるような質的、量的な成果をあげられたと考える。個々の作品を画像とともに解説するという基礎性も備えているためＡとした。
正確性：当館の収蔵作品を担当する全分野の研究者が関わり、一般観覧者に公開できる成果を 128 件の作品について実現しており、数値的にも網羅性という観点からも充分な成果を上げたと考えＡとした。

２．定量的評価

観点	出品作品	新規撮影作品				
判定	A	A				

判定理由
出品作品・新規撮影作品：
遊びの概念を掘り下げ、かつ個々の作品の魅力を味わうのに必要にして充分な作品数を集めることができ、その 3 分の１に当る作品数について、初めて印刷物に掲載する画像を撮影することができたため充分な成果を挙げたと判定。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	短い準備期間に、決められた空間に合せて、収蔵品のみを用いて、ひとつのテーマを掘り下げ、かつ一般観覧者が楽しめる内容をまとめ、収蔵品の研究を進めることができた。日本美術の素養のない海外からの来館者でも充分に楽しめる内容であったにもかかわらず、人的・時間的・予算的制限のため完全和英二カ国語図録を作れなかった点には改善の余地がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画のとおり、決められた日付に合せて一定水準の内容をまとめることができ、収蔵品の活用や収蔵品に関する資料の蓄積も図れたため、年度計画を 100％達成できたと考える。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-4-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	4)-2 特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)（(5) -①）

【事業概要】
特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」(25 年 10 月 12 日～12 月 15 日)に関する調査研究
　平成 25 年度事業として予定している特別展覧会『魅惑の清朝陶磁』の開催に向けて、出品候補作品の選定を進めるべく、日本国内で伝世・出土した清朝陶磁と、清朝陶磁の影響下に製作された日本陶磁を広く調査し、展覧会内容の充実を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸室長　尾野善裕

【スタッフ】
岡田愛（列品管理室員）、谷口愛子（京都工芸繊維大学特任准教授・調査員）、梶山博史（兵庫陶芸美術館学芸員・調査研究支援ボランティア）、森下愛子（泉屋博古館分館学芸員・調査研究支援ボランティア）

【主な成果】
　研究成果の公表として計画した特別展覧会『魅惑の清朝陶磁』展示作品の調書 212 件を作成すると共に、図録・資料用写真の撮影に務めた。

【年度実績概要】
・平成 25 年度に開催を計画している特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に向けて、出陳作品の選定を進めるため、候補作品を所蔵している個人宅・今右衛門古陶磁美術館・香蘭社・角屋保存会・田中本家博物庫・古美術商・彦根城博物館・静嘉堂文庫美術館・徳川美術館・大阪歴史博物館・大阪市立美術館などにて作品調査を行った。

・出陳作品の図録・資料用写真約 270 枚を撮影した。

・永年にわたって作品を寄託してこられた個人所蔵者 2 名から、展示候補作品を含む 60 件に及ぶ作品の寄贈を受けた。

・展覧会準備の過程で知りえた新情報に基づいて、積極的に成果公表を行うべく、図録に論文 1 本（①）を掲載したほか、陶磁専門誌に 1 本（②）を寄稿し、特別展への観客動員に務めた。

【実績値】
　調査日数（館外）　　のべ 24 日
　調書作成件数　　212 件
　新規寄託品数　　57 件
　論文等数　　2 本(①、②)
(参考値)
　図録・資料用写真枚数　　約 270 枚

【備考】
論文等
　①尾野善裕「清朝陶磁と日本」『特別展覧会　魅惑の清朝陶磁』読売新聞社
　②尾野善裕「清朝官窯と近世日本」『陶説』第 728 号　日本陶磁協会

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-4-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	S	A	

判定理由
適時性：平成 25 年度の特別展覧会開催に向けて、必要不可欠。ゆえにＡと評価する。
独創性：これまで、美術史研究の上では殆んど注目されてこなかった日本伝世の中国清朝陶磁を意識的に採り上げ、出土品とも比較できるように構成した展覧会は過去開催されたことがなく、展覧会の企画自体は十二分に独創性を持つものにできると自負している。
発展性：過去、等閑視されてきた日本伝世の中国清朝陶磁の存在が周知されれば、新たな作品の発見につながる確率は高い。
効率性・継続性：展覧会出陳作品の半数以上について、写真撮影を行う必要があったが、極めて短期間の間にそれを効率的に完遂し、270 枚に及ぶ高解像度写真を撮影することができたため、効率性をＳ、継続性をＡと評価する。

２．定量的評価

観点	調査日数	調書作成件数	新規寄託品数	論文等数		
判定	A	A	A	A		

判定理由
調査日数・調書作成件数：特別展覧会を開催するべく、優先的業務として取り組み、必要かつ充分な数を確保できたのでＡと評価する。
新規寄託品数：昨年の寄託品数 22 件をはるかに上回る 57 件の寄託を受けることができ、これにより展覧会の開催に向けて業務を大きく前進させることができたため、Ａと評価する。
論文等数：科学研究費の交付を受けた調査研究事業としては、調査成果を展覧会図録に反映させると共に、陶磁専門誌に１本（②）を寄稿し、特別展への観客動員に務めることができたので、Ａと評価する。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度最大の目標であった、中間報告としての特別展覧会の開催に無事こぎつけることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査の進捗は極めて順調であり、対外的な成果公表についても実現できている。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-4-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	4)-3 特別展覧会「南山城の古寺巡礼」に関する調査研究（(5) -①）

【事業概要】
特別展覧会「南山城の古寺巡礼」(26 年 4 月 22 日～6 月 15 日開催予定)に関する調査研究
　平成 26 年 4 月 22 日～6 月 15 日の開催予定である特別展覧会「南山城の古寺巡礼」に関して、展覧会出陳予定作品の調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　宮川禎一

【スタッフ】
　呉　孟晋(列品管理室研究員)、末兼俊彦(企画室研究員)

【主な成果】
　京都府南部南山城地域に立地する古寺、海住山寺・笠置寺・岩船寺・浄瑠璃寺・神童寺・蟹満寺・寿宝寺・観音寺・一休寺・禅定寺を調査対象として文化財の調査を行い、その成果をもとに特別展覧会の準備を進めた。

【年度実績概要】
　25 年度中に出品交渉を行った寺院美術館を記すならば、まず上記の南山城地域所在の古寺院１０ 寺のほか、醍醐寺・金胎寺・仁和寺・真輪院・西寿寺・鶯瀧寺・御霊神社・興聖寺・袋中庵・安楽寿院・法性寺・勧修寺・大和文華館・大阪市立美術館・奈良国立博物館・木津川市教育委員会・京田辺市教育委員会・井手町教育委員会・京都府埋蔵文化財調査研究センター・京都大学総合博物館である。いずれの寺院機関へも直接訪問して出品のお願いをし、作品の調査をし、写真の提供・撮影もあわせてお願いした。
　展覧会への作業は順調に進行しており、26 年 4 月からの展覧会に全て間に合う予定である。

【実績値】
　出品予定作品数　137 件
　出陳予定機関数　30 ヵ所
　(参考値)
　国宝・重要文化財件数　28 件(国宝 2 件、重要文化財 26 件)

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-4-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	B	A	A	B	

判定理由

適時性：平成 26 年 4 月 22 日～6 月 15 日に開催される展覧会にあわせた準備で適時であった。
独創性：今まで取り上げられることの少なかった南山城地域の古寺伝来文化財に焦点をあてた独創的な展示であるため。
発展性：展覧会準備を通じて近隣寺院の文化財の情報が集まり展示に厚みが加わった。
効率性：京都近郊の寺院であり、アクセスが容易なため再調査などが順調に行うことができた。
継続性：今後の社寺調査の方向性を考えることができた。

２．定量的評価

観点	出品予定作品数	出陳予定機関数				
判定	A	A				

判定理由

出品予定作品数：予定していた作品数 120 件を超える 140 件ほどの出陳作品の承諾を得た。うち、指定品件数は国宝 2 件、重要文化財 26 件である。
出陳予定機関数：基本 10 ヶ寺のほか約 20 箇所から出陳の許可を得た。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	概ね予定した作品の出陳が叶ったが、観音寺の本尊十一面観音立像（国宝）や浄瑠璃寺の秘仏吉祥天立像の出陳ができなかったことがやや残念である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	ほぼ順調に作品選定が進んでおり、意図どおりの展覧会が開催できる予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-5

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	5)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究（(5) -①）

【事業概要】

館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、あわせて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　村上　隆

【スタッフ】

尾野善裕（工芸室長）、山川　曉（教育室長）、淺湫　毅（保存修理指導室長）、永島明子（列品管理室主任研究員）、水谷亜希（教育室研究員）、羽田　聡（企画室主任研究員）

【主な成果】

館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・歴史学・考古学・博物館学等の各見地から調査研究を実施し、各種学会等・学術雑誌等でその研究成果を発表した。

【年度実績概要】

・研究会等で発表を行った。
・学術雑誌他出版物に論文等を掲載した。

【実績値】

・学会・研究会等発表件数：5 件
・論文等掲載数： 30 編

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：特別展覧会との関連のものを重視しつつ研究を行っているため。
独創性：京都に伝わる当館収蔵品・寄託品を素材とした研究を重点的に行っているため。
発展性：魔鏡に代表される今後の発展が期待される研究を多く行っているため。
効率性：平常展示館準備など他の業務に多く時間を割かれながらも、多くの研究を実施しているため。
継続性：当然のことであるが各研究者は継続して研究、成果発表を行っているため。
正確性：調査は綿密に行い確実な記録に基づいた研究を行っているため。

２．定量的評価

観点	学会・研究会等発表件数	論文等掲載数				
判定	A	A				

判定理由
学会・研究会等発表件数：研究機関の規模及び業務の繁多を考慮した上で、十分な成果をあげている。
論文等掲載数：研究機関の規模及び業務の繁多を考慮した上で、十分な成果をあげている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	充分な調査研究成果の公開を行い、絵画・書跡・工芸・考古・歴史資料などの各ジャンルにわたり、最新の学術情報を盛り込んだ情報を発信しえた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画に基づき、順調に進捗している。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる。((5)－①)

【事業概要】
社寺・団体・個人等所蔵の文化財に関する情報を恒常的に収集して新規購入・寄贈・寄託候補作品をリストアップし、綿密な調査に基づく調書を作成して陳列品鑑査会に付議し、コレクションの充実を図る。新収蔵品はもちろんのこと、既存の館蔵品・寄託品についてもより詳しく調査し、その成果を名品展や特別展・特別陳列等に反映させる。調査に際しては積極的に客員研究員・調査員の助言を仰ぎ、客観的で信頼度の高い成果を得ることに努める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　西山　厚

【スタッフ】
岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、岩井共二（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（企画室長）、清水健（主任研究員）、岩戸晶子（列品室員）、斎木涼子（教育室員）、北澤菜月（美術室員）、山口隆介（情報サービス室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）

【主な成果】
仏教美術や奈良に縁の深い文化財を中心に、当館の収蔵品として相応しいものを、新たに館蔵品・寄託品に加えることができた。全ての文化財の受け入れに当たっては、詳細な現品調査に加え、日頃の研究成果を取り入れた文化財調書を作成した。受け入れた文化財は、名品展において可能な限り積極的に展示して、成果を広く一般に還元するとともに、調査を通じて培われた研究蓄積は各種刊行物に反映させた。

【年度実績概要】
・購入 3 件、寄贈 25 件、寄託 49 件を受け入れるにあたり、綿密な調査に基づく調書を各担当研究員が作成した。

・木造阿弥陀如来立像（浄教寺蔵）の寄託を受け、名品展「珠玉の仏たち」で 25 年 9 月 20 日～26 年 3 月 31 日の間、展示した。

・木造善導大師坐像（當麻寺念佛院蔵）、木造薬師如来坐像（見徳寺蔵）及び金銅仏 7 件（個人蔵）の寄託を受け、名品展「珠玉の仏たち」で 25 年 12 月 25 日～26 年 3 月 31 日の間、展示した。

・個人蔵の春日若宮祭礼図・鷹狩図屏風の寄託を受け、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（会期：25 年 12 月 7 日～26 年 1 月 19 日）」で展示した。

・客員研究員及び調査員の助言を仰ぐための調査会を 28 回実施した。


木造薬師如来坐像（見徳寺蔵）

【実績値】
購入・寄託に向けた文化財調書の作成枚数　77 件分
展示への反映　11 回
客員研究員・調査員の調査回数（延べ人数）　28 回（31 人）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：寄託・購入・寄贈とも、時宜に適ったものを受け入れることができた。
独創性：当館が得手とする仏教美術品を、新出資料も含めて多数調査し、受け入れることができた。
発展性：新出資料を受け入れたことは、今後の研究の発展が大いに期待できる。
効率性：研究員数も予算も限られている中で、数多くの調書を作成し、文化財の寄託等を受け入れることができた。
継続性：当館が 50 年以上にわたり活動の中心に据えてきた仏教美術研究の基礎に基づき、調査・収集・展示をできた。
正確性：購入・寄贈のために作成した文化財調書は、外部委員による審査においても了承される的確な内容であった。

２．定量的評価

観点	購入・寄託に向けた文化財調書作成枚数	展示への反映	客員研究員・調査員の調査回数			
判定	S	A	A			

判定理由
文化財調書作成枚数：新規に受け入れた文化財の件数が例年（22 年度 21 件、23 年度 16 件、24 年度 16 件）より多い 77 件であり、その全てについて調書を作成できた。
展示への反映：展示会場の広さに制限が多いなかで、受け入れた文化財のうち 11 件を年度内に展示できた。
客員研究員・調査員の調査回数：限られた時間のなかで、28 回の調査会を実施できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良関係の文化財を中心としたコレクションの充実や、館蔵品・寄託品の有効な活用に向けた調査と研究は、これらの分野における調査・研究・展示において主導的な役割を果たしてきた当館にとって、最も基本的な活動の一つである。本年度も、これまでと同様、質・量ともに、上述のような社会的要請に応えるに十分な実績を上げることができた。次年度以降も同様の研究活動を継続していくことが当館の責務である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財調査に基づく館蔵品・寄託品の計画的収集や効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するという目標に沿って、文化財の基礎的かつ総合的な調査を着実に進め、成果を積極的に公表している。中期計画の当該項目に対しては、現在のところ順調に進展している。次年度以降も現状の業務サイクルを展開することで、実績を蓄積していく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）館蔵品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する。((5)－①)

【事業概要】
文化財の調査及び研究活動を、歴史学・考古学・美術史学といった各研究員の専門分野に沿い、個人もくしくはグループを単位として、仏教学・国文学・文化人類学等の周辺学問分野にも目配りした幅広い視野に立って実施する。その研究成果は、当館の展示活動に反映するとともに、展示に直結する館蔵品・寄託品研究にも反映させ、口頭発表や執筆物によって積極的に公表する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　西山　厚

【スタッフ】
岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、岩井共二（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（企画室長）、清水健（主任研究員）、岩戸晶子（列品室員）、斎木涼子（教育室員）、北澤菜月（美術室員）、山口隆介（情報サービス室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
各研究員がそれぞれの専門分野に沿って文化財調査を実施し、その成果は展示・刊行物・講座における文化財解説等に反映された。調査・研究活動にあたっては、これを個人単位で展開するだけではなく、研究分担者・連携研究者として各種科研に参画するなど、外部の研究プロジェクトにも積極的に関わり、より広い視野に立って学界に貢献する実績を上げた。

【年度実績概要】
・各研究員が各々の専門分野に沿って文化財調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列・名品展における会場パネル解説等と、各展示図録掲載の解説等に反映させた。
・毎月 1 回、講堂で実施するサンデートークにおいて、各研究員が各々の専門分野に沿った、多彩な調査と研究の成果の一端を発表した。
・各研究員が各々の専門分野に沿った文化財調査を実施し、その成果の一端を「奈良国立博物館だより」、読売新聞の連載「奈良博手帖」、特別展「當麻寺」「みほとけのかたち」「正倉院展」会期中の新聞連載での展示品解説で紹介した。
・十一面観音立像（海龍王寺）を同寺において調査・撮影した（25 年 4 月 16 日、5 月 9 日・16 日～18 日）
・海住山寺が刊行する『海住山寺の美術』の編集に全面的に協力し、現地調査等を実施した（25 年 8 月 1 日）
・東大寺での経巻聖教調査に参加した（25 年 6 月 28 日）
・法華寺において仏像を調査した（25 年 11 月 28 日）
・科学研究費「近江の古代中世彫像の基礎的調査研究」（基盤研究(B)24320032）に研究分担者として参画。
・科学研究費「多数尊から構成される仏教尊像に関する調査研究」（基盤研究(B)24320034）に研究分担者として 2 名参画。
・科学研究費「東大寺史の総合的再構成」（基盤研究(B) 24320129）に研究分担者として参画。
・科学研究費「平安時代の『大般若波羅蜜多経』遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化」を研究代表者として主宰。


『海住山寺の美術』誌面

【実績値】
口頭発表（うちサンデートーク実施回数 12 回）19 回、論文等発表本数 11 本（①～⑪）、新聞等掲載の作品解説 13 回

【備考】
①岩田茂樹「キンベル美術館・快慶作木造釈迦如来立像について」『MUSEUM』６４６号、１０月１５日
②岩田茂樹「海住山寺の彫刻－近年の調査の成果から、平安時代を中心に－」『海住山寺の美術』、海住山寺、１０月２６日
③内藤栄「華籠を持った飛天」『薬師寺』第一七六号、法相宗大本山薬師寺、６月
④内藤栄「鳳凰堂と金色堂―雲中供養菩薩の有無をめぐって―」平等院鳳凰堂平成修理完成記念『天上の舞　飛天の美』、サントリー美術館、１１月
⑤野尻 忠「万昆嶋主解（天平宝字二年七月二十八日）（紙背　写千巻経所食物用帳断簡）（口絵解説）」、『正倉院文書研究』、１１月１０日
⑥吉澤悟「古代火葬墓の変遷」『事典　墓の考古学』、吉川弘文館、５月３０日
⑦吉澤悟「墓塔の成立と変遷」『事典　墓の考古学』、吉川弘文館、５月３０日
⑧清水健「特別講演　『那智瀧図』に迫る」『第５回熊野学フォーラム―熊野を描く神品をめぐって―国宝『那智瀧図』聖性！！報告書』、新宮市教育委員会、３月
⑨斎木涼子「平安時代の護国法会」『年中行事・神事・仏事　生活と文化の歴史学２』、竹林舎、４月
⑩斎木涼子「中世的天皇像の形成―仏教・神祇と金輪聖王―」『歴史の理論と教育』一三九、名古屋歴史科学研究会、７月
⑪斎木涼子「後七日御修法」『週刊　新発見！日本の歴史』平安時代２、朝日新聞出版、９月

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：當麻曼荼羅が完成して 1250 年の節目の年に特別展「當麻寺」を開催し、調査成果を反映した図録を刊行するなど、時宜に適った研究を発表できた。
独創性：「装飾文様のかたち」など、当館の長年の蓄積に基づかなければ成し得ない研究発表を実施できた。
発展性：特別展「當麻寺」に関わる各所での文化財調査は、新たな資料の発見もあり、今後の研究の進展が期待される。
継続性：美術史学の研究者を継続的に擁する当館ならではの研究発表、例えば「描かれた仏像―霊験仏のかたち」などを実施することができた。
正確性：各刊行物での執筆物に対し、内容の信頼性を疑うような批判がなされたことはなく、その正確性は高い水準で保たれていると言える。

２．定量的評価

観点	口頭発表	論文等 発表本数	新聞等掲載の 作品解説			
判定	A	A	A			

判定理由
口頭発表：当初計画どおり毎月１回のサンデートークを実施するなど、各研究員の専門性を生かした文化財研究の成果を公表できた。
論文等発表本数：必要な論文を的確に発表することができた。
新聞等掲載の作品解説：展覧会事業にも対応しながら、着実な実績をあげられた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良関係の文化財を収蔵する当館にとって、各研究員各種文化財を調査しそれぞれの専門分野の観点から研究を展開・進化させることは、展示内容の充実に直結する重要な活動である。今年度も多数の文化財調査及び研究活動を企画し、また参画することができた。次年度以降も、これまでの実績に甘んずることなく、継続的に本事業を展開していく。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は多数の文化財を調査することができた。調査は、当館研究員の深い学識と経験に裏付けられた高度なものであり、仏教美術及び奈良関係の文化財調査においては当館の活動は他者の追随を許さない高いレベルにある。こうした調査は、中期目標に掲げる「研究の推進」のために不可欠の基礎作業であり、地に足のついたこれらの仕事が当館の展示活動にも多大なる影響を及ぼす。次年度以降も、この研究体制を維持することができれば、着実な研究成果を積み上げることができる。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての資源化を進める（学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】
平安時代に日本で書写された『大般若波羅蜜多経』（略して「大般若経」とも）の網羅的な調査を通じて、当該期における写経の形態的特徴を明らかにするとともに、写経遺品から得られる情報を歴史学の研究資料として利用するための基盤を構築しようとするものである。平安時代のなかでも 9～11 世紀のものは情報の共有が不足しているため、本研究ではその時代に書写された『大般若波羅蜜多経』の基礎データの蓄積に重点を置く。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　野尻忠

【スタッフ】
斎木涼子（教育室員）、永井洋之（工芸考古室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
平成 25 年度は、安倍小水麻呂願経と呼ばれる貞観 13 年（871）の願文を持つ大般若経を集中的に調査した。スタッフ一同で協力し、125 巻を巻頭から巻末まで全て開いて調書を取るとともに、写真撮影して今後の追加調査や報告書刊行に備えた。調査の過程では、各巻によって料紙や書風に相当の差異のあることが認識され、全体像を把握するための基本情報を獲得することができた。

【年度実績概要】
・当館に寄託されている大般若経（安倍小水麻呂願経）（慈光寺所蔵）の調査会を、年度内に 9 回実施し、125 巻を調査した。

・25 年 7 月 27 日、五島美術館において奈良・平安時代の文字資料を調査した。

・26 年 1 月 15 日、正倉院文書や木簡、典籍など奈良・平安時代の史料を調査した。

・26 年 2 月 17 日、東洋文庫において安倍小水麻呂願経の僚巻を調査した。また、あわせて 8 世紀末の大般若経（魚養経）の原本も調査した。



大般若経（安倍小水麻呂願経）調査会　26 年 1 月 24 日

【実績値】
文化財調書作成枚数　　125 巻
発表論文・講演等　　2 回（①～②）

【備考】
発表論文講演等
①野尻 忠「金光明最勝王経（百済豊虫願経）書誌解題」、総本山西大寺編『国宝 西大寺本 金光明最勝王経 天平宝字六年百済豊虫願経』、勉誠出版
②野尻 忠「古文書めぐり　奈良国立博物館の古文書」、『古文書研究』７６号

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：これまで九世紀の写経に関する研究は前後の時代に比べて手薄であり、調査と研究の進展が望まれていた。
独創性：長く研究の必要性が認識されながら、着手されていなかった安倍小水麻呂願経の全巻調査に、初めて本格的に取り組んだ。
発展性：本研究で出した成果は、同時代の他の写経研究の参考に資するであろうし、前後の時代の大般若経調査にも有用な情報を提供し、研究の発展に繋がることが期待される。
継続性：古写経研究は、当館がこれまでにも一貫して取り組んできたものであり、今後もその方針は変わらない。今回の調査で培ったノウハウは、今後も継続予定の写経原本調査に生かされることが期待される。
正確性：多数巻の写経調査であるが人数を多くは動員せず、限られた研究者による調書作成に徹しているため、調書の正確性は高い。加えて、写真撮影は調書と照合しながら進めており、再チェックの機能も果たしている。さらに、調書は後日、プロジェクト責任者による再確認も実施している。

2．定量的評価

観点	文化財調書作成枚数	発表論文･講演等				
判定	S	A				

判定理由
文化財調書作成枚数：当初は全 140 巻を 3 年かけて調査する予定であったが、1 年で 125 巻に達したため、特に優れた成果をあげていると言える。
発表論文・講演等：研究成果を複数回発表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平安時代写経史研究において、すでにある程度の蓄積がある 12 世紀は措くとして、それ以外の 9～11 世紀については、このプロジェクトが初めての本格的研究と言えよう。そのなかで、9 世紀のまとまった写経として著名な安倍小水麻呂願経を集中的に調査できたことは、大きな成果をあげたと言える。次年度に向けては、残りの巻数を調査し、さらに流出分の調査も本格的に開始することを目標とし、調書の精度をさらに上げることを改善点としたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	上記のとおり本研究は順調に成果をあげている。中期計画の「文化財に関する調査及び研究の推進」における本研究の役割としても、重要な成果をあげたと言える。次年度も、このペースでの調査と研究を進める。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析（(5)－①）

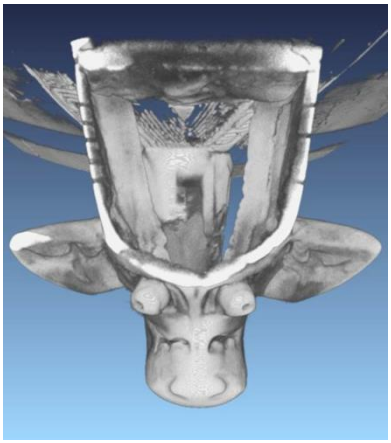
【事業概要】
日本国内で最も優れた中国古代青銅器コレクションである住友コレクションを所蔵する泉屋博古館の所蔵品 180 点を中心に、日本国内で所蔵されている中国古代青銅器を調査する。古代中国青銅器の鋳造技術の解明のための採り得る方法として、①Ｘ線ＣＴスキャナ調査、②３次元計測による調査、③３次元プリンタによる造形出力、④鋳造実験による検証を実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）

【主な成果】
泉屋博古館の所蔵品を中心にＸ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この研究成果を中国国内の研究者に公開するために、中国科学院自然科学史研究所と協力して編集を進めた。

【年度実績概要】
・ＣＴ調査や３Ｄデジタイザによる精密三次元計測を実施した。得られた成果は、文化交流展の展示に活用している。
・中国古代青銅器の鋳造技法の解明
　西周初頭（紀元前 11 世紀後半）と考えられる饕餮文簋（とうてつもんき）を調査した。持ち手と器本体との接続部分をみると、接合痕跡は無く、完全に一体で鋳造したと考えられる。ところが、同時代に製作された日癸罍（にっきらい）には器本体から出ホゾのような突起があり、さらに出ホゾと持ち手との間にごくわずかな隙間が存在することが確認できた。
　このことから同時代の青銅器の持ち手の製作技術に 2 種類の方法が存在することが明らかになった。
・技術史的成果
　日癸罍のような、あらかじめ製作しておいた持ち手を本体の鋳型にはめ込んで全体を鋳造する方法は、これまで戦国前期に製作された鼎（てい）で知られるのみであった。今回の調査でこの方法が戦国時代から 5 百年ほど遡る西周初頭の段階で、すでに採用されていたことが確認できた。


饕餮文簋の持ち手の構造

【実績値】
調査回数：6 回
資料収集数：12 点
学会研究会等発表：1 件（①）

【備考】
学会研究会等発表
①「Ｘ線ＣＴ（３Ｄ－ＣＴ）を用いた文化財の状態調査」東アジア文化遺産学会　25 年 9 月 4 日

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：ＣＴ調査は形状や保存状態の把握に大きな効果がある。
独創性：我が国の博物館で唯一、非破壊で文化財の構造調査や三次元計測、三次元造形を行うことができる。
発展性：X線ＣＴ・３Ｄデジタイザ・三次元プリンタによる調査研究は適用範囲が広く、得られる結果も多様である。
効率性：X線ＣＴ・３Ｄデジタイザ・三次元プリンタは短時間でデータを取得できるので時間的投資効果が大きい。
継続性：非破壊で採取した計測データを基に、短時間で内容豊富な質の高い基礎情報を蓄積することができる。
正確性：X線ＣＴでは文化財内部の構造を約 0.2 ㎜、３Ｄデジタイザでは 0.02 ㎜の高精度で記録することができる。

２．定量的評価

観点	調査回数	資料収集数	学会研究会等発表			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：計画通り実施することができた。
資料収集数：予定通り実施することができた。
学会研究会等発表：計画通り実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化交流展示室で展示した泉屋博古館など中国古代青銅製品について調査を実施することができた。次年度も、展示借用計画と連動して計画的な調査を実施したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初計画にそって研究内容の水準を保ちながら順調に遂行している。引き続き外部資金を積極的に活用しながら研究を継続したい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）平成 20 年度に開催した特別展「工芸のいま　伝統と創造」の成果を基礎とした九州・沖縄の伝統工芸作家についての継続的かつ発展的な調査研究（(5)－①）

【事業概要】
九州・沖縄における伝統工芸作家の創作活動についての継続的調査研究である。無形文化財としての伝統技術と、そこから生まれる新たな創作について、それぞれの作家の取り組みを調査する。これまで調査を行ってきた作家の調査を継続するとともに、新たな作家を調査対象に加えていく。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　谷豊信

【スタッフ】
原田あゆみ（企画課特別展室主任研究員）、池内一誠（交流課主任研究員）、遠藤啓介（展示課研究員）、望月規史（文化財課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
平成 25 年度西部工芸展、日本伝統工芸展、西部染織作家展など、本年度開催の工芸展において作品調査を行った。また、伝統工芸の技術や素材をわかりやすく紹介するための体験プログラムの開発のため、博多人形や久留米絣等の工芸作家の工房を訪れ、制作方法や使用素材について調査を行った。

【年度実績概要】

・久留米絣工房の調査においては、工房を離れた場所で展開可能な体験プログラムについて調査を行い、藍の生葉を使用した染織体験実施の際の素材や用具、実施方法について検討を行った。

・博多人形工房の調査を元に、未就学児向けの人形絵付け体験プログラムの展開方法について考察し、26 年 2 月に実施した館ボランティア主導による体験プログラム実施に反映させた。


博多人形工房の調査風景
（絵付けの実際を見学）

【実績値】

調査回数　7 回
　作家に関する調査 4 回（久留米絣、博多人形）
　全体的な状況調査 3 回（西部工芸展、日本伝統工芸展、西部染織作家展）
展示への反映　17 件
　体験型展示室「あじっぱ」における九州・沖縄の染織作品展示
　（久留米絣 5・琉球絣 3・宮古上布 2・喜如嘉の芭蕉布 2・紅型 3・首里織 2）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：染織・人形の作家の調査を通じて、作家の現時を知ることができ、必要不可欠の調査をすることができた。
独創性：博多人形の調査は従来行われておらず、今後の成果が期待できる。
発展性：作家の調査を通じて、変化していく作品をとらえることができた。
効率性：限られた時間・研究員で調査できることを最大限行った。
継続性：伝統工芸展開催以降、長期にわたる調査研究を行っており、十分に成果が認められる。
正確性：全体的な状況調査を行っており、主要な工芸分野の動向を把握することができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	展示への反映				
判定	B	A				

判定理由
調査回数：目標の8割の調査を実施することができた。
展示への反映：目標を達成することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	九州・沖縄の伝統工芸の調査は、伝統工芸の継承者から伝統工芸の発展に寄与するものと高く評価されている。 博多人形という新しい分野の調査を開始し、教育普及プログラム開発やボランティア活動と連動させることにより、新たな展開への道を開いた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	平成20年度に開催した工芸展の成果を継承し、さらに広がりを大きくもつことができた。本年は調査対象の分野がやや限られた感があり、陶芸・金工などの分野についてもさらなる調査が必要である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3) 日本の中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究（(5)－①）

【事業概要】
毎年行われるトピック展示「茶の湯を楽しむ」を行うにあたって、それに伴う日本の中世から近世にかけての茶道具（特に陶磁器、漆器、金工、染織など）の基礎的な研究を行う。煎茶の普及に大きな役割を果たした売茶翁没後 400 年の本年は、抹茶と並んで日本の喫茶文化を特徴付ける煎茶に焦点を当てた。特に、京都・萬福寺伝来の煎茶具や九州ゆかりの煎茶具を調査し、その展示を行う。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示調整室研究員　遠藤啓介

【スタッフ】
望月規史（文化財課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
九州各地に残る煎茶具をクローズアップすることで、これまであまり注目されてこなかった資料の掘り起しができた。特に、竹田市立歴史資料館所蔵資料は、九州出身の文人として知られる田能村直入（たのむらちょくにゅう）の煎茶趣味を、目に見えるかたちで紹介することができた。また、奈良大学博物館所蔵の板木については、これまで紹介されることが少なかった資料であるが、本展の展示においてひろく観覧をしてもらう契機となった。

【年度実績概要】

・4 階文化交流展示室（関連 11 室）にて、トピック展示「茶の湯を楽しむⅥ　特別編　煎茶の世界」を行った。その結果、我が国の喫茶文化の解明に資する展示を行うことができた。また、茶道具の展示のみにとどまらず、黄檗宗との関係、江戸時代の出版文化が果たした役割などにも注目することで、煎茶をとりまく世界とその魅力について、広く紹介することができた。

・また、黄檗文化を研究する各地の研究者や、煎茶道の家元から大きな反響があり、様々な意見交換の機会を得ることができた。例えばそれは、萬福寺文華殿で黄檗宗を総合的に研究している田中智誠氏や、奈良大学で江戸時代の版本研究を推進している永井一彰氏、煎茶文化の大家として知られる大槻幹郎氏など、普段の博物館活動ではなかなか知りえる機会のない方々との交流を果たすことができる契機とすることができた。


展示室風景

【実績値】

調査回数　　8 回　於：萬福寺（2）、京都国立博物館、高取友仙窟、奈良大学、煎茶美風流、鍋島報效会、竹田市立歴史資料館
展覧会数　　1 回　トピック展示「茶の湯を楽しむⅥ　特別編　煎茶の世界」25 年 10 月 1 日～12 月 1 日
報告書・図録等　2 件（リーフレット及び紹介記事①～②）

【備考】
リーフレット
①「茶の湯を楽しむⅥ　特別編　煎茶の世界」展示解説リーフレット（25 年 10 月）
紹介記事
②「一碗から始まる風雅の世界」『目の眼』10 月号（25 年 9 月 2 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：煎茶道の祖、売茶翁没後 400 年の記念の年に展覧会を開催することができた。
独創性：茶道具だけでなく、煎茶普及に版本が果たした役割について紹介することができた。
発展性：煎茶の魅力を多くの来館者に知ってもらい、続編を希望する声を多数頂いた。
効率性：文化交流展示の枠組みのなかで、遅滞なく作業を進めることができた。
継続性：萬福寺はじめ各所のご所蔵者からご厚意を受け、今後も当館の活動に理解を得ることができた。
正確性：限られた予算枠の中で、可能な限りの調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	調査回数	展覧会数	報告書・図録等			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：ご所蔵者からの様々なご配慮により、計画通り実施することができた。
展覧会数：滞りなく計画通り実施することができた。
報告書・図録等：所定の計画通り実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「売茶翁没後 400 年」という煎茶の歴史における記念の年に展覧会を開催することができ、極めて時宜に叶った調査研究となった。また、煎茶の企画自体、開館以来初めての試みであり、多くの注目を集めることができた。この企画を通じて得られた知見や各ご所蔵者との信頼関係は、次年度における調査研究を、更に発展させるための基盤となるものである。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	茶道具に関する調査研究は、これまで行ってきた抹茶だけでなく、煎茶の世界にまで広がりをみせるものとなった。このことは、中世工芸の様相を明らかにするばかりでなく、それが近世においてどのような影響を与えているのかにまで及ぶ調査結果を得るまでに至っている。我が国で展開した工芸の魅力や喫茶文化の豊かさを解明する上で、本年度は多くの成果を得ることができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4) 中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】
日本中世の大般若経に関する資料を収集し、日本史研究に資する。このため、既刊史料を広く検索するとともに、主要な大般若経や料紙の調査、大般若経関連遺跡の調査を実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	前保存修復室長　藤田励夫

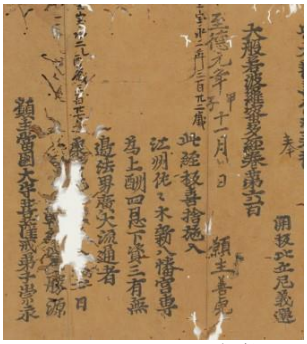
【スタッフ】
森實久美子（企画課特別展室研究員）

【主な成果】
大般若経の漢訳を行った玄奘三蔵の関連遺跡を調査した。特に訳経事業が行われた大慈恩寺の調査では、事業の行われた故地を調査することができた。カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の「崇永版」大般若経は、600巻がほぼ完存しているもので、中世版本大般若経研究にとって極めて貴重である。これらの全巻調査を実施できた意義は大きい。また、前年度に引き続き、史料集から基礎史料を収集した。

【年度実績概要】
・中国・唐時代に玄奘三蔵が大般若経の訳経事業を行った、中国・西安の現地調査を実施した。主な調査先は、訳経事業が行われた大慈恩寺、玄奘の墓塔のある興教寺、陝西省博物館、西安博物院、碑林博物館である。

・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の「崇永版」大般若経の調査を実施した。当該大般若経は、本研究の主要な対象である「崇永版」大般若経の一揃えであり、三井家に伝来していたものである。過去に川瀬一馬氏が存在することだけを紹介したことがあるが、その後、全点の調査を実施したのは初めてのことである。調査では、全巻を巻頭から巻末まで通して通覧し、版心、版木長、料紙、奥書等、総合的な調査を実施した。

・本調査結果は、論文にまとめて公開を予定し、史料のデータベース化を図る予定であったが、プロジェクト責任者の異動により、本年度は実施できなかった。今後は、本研究で得られた成果をもとに、本務の合間をぬって論文等の作成を行う予定である。



カリフォルニア大学
バークレー校東アジア図書館
所蔵
「崇永版」大般若経
巻第六百　刊記

【実績値】
調査回数　2回　（中国・アメリカ）
図録　1件　海外展「日本文化」展図録（ハノイ開催）
資料収集　200点

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	B	A

判定理由
適時性：現在、個別の大般若経に関する研究が盛んであり、本研究は、これらを集大成するものである。
独創性：東アジア図書館所蔵「崇永版」大般若経、全点の調査を実施したのは初めてのことである。
発展性：基礎史料を丹念に収集したので、これらの詳細な分析により、大きな発展が期待できる。
効率性：大量の史料を、補助員の協力を得ながら効率よく収集できた。
継続性：研究代表者が、科学研究費が活用できない職場へ異動してしまった。
正確性：基礎史料を精密に収集した。

2．定量的評価

観点	調査回数	図録	資料収集			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：研究費執行可能期間は5ヵ月間しかなかったが、着実に調査を実施できた。
図録：予定通り、刊行することができた。
資料収集：短い期間であったが、史料集の検索を実施した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現在、個別の大般若経研究が盛んに行われている中、基本史料の収集をほぼ終えることができた意義は大きい。加えて貴重な大般若経の実地調査や関連遺跡の調査も併せて実施できたことは大きな成果である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	基本史料の収集が進んだことにより、今後、これらの分析によって研究を飛躍的に進めることができる。また、実地調査を行った大般若経については、その成果を公表し、学会に貴重な情報を提供することができる。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)九州南島の先史時代の資料に関する調査研究((5)-①)

【事業概要】
九州の対外交流の特質を考える上で、奄美・琉球等の南島は大変重要な地域と位置付けられている。とりわけ奄美地域の縄文文化は、九州本土と同系統と位置づけられる。しかし、相対的な様相が異なることも事実である。従って、当該地域の縄文土器のあり方を調査・研究することは、南島全体の縄文時代の交流を知る手がかりとなる。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	課長　赤司善彦

【スタッフ】
志賀智史(博物館科学課保存修復室主任研究員)

【主な成果】
近年になって、徳之島と喜界島で個人が縄文時代の土器や石器を多数採集されていることがわかった。そこで、両町の教育委員会の協力を得て、実物資料を実見した。また、当館で詳細な調査を行うため、資料を搬入した。調査の成果を紹介し、採集された資料の歴史的意義を紹介するために文化交流展示室において展示を実施した。

【年度実績概要】
・現地での事前調査の段階で、徳之島の資料は天城町歴史資料館に寄託され、整理が進んでいたが、喜界町の資料は個人宅に保管されているままだったので、所蔵者の協力を得て関連資料について写真撮影と採取地を記入した遺物カードを作成した。
また、詳細に調査をするために当館に輸送し、まずは文化交流展示室において、南島で採集された縄文時代遺物の意義について紹介する展示を実施した。
縄文研究者も交えた検討会を 26 年 2 月 2 日に実施した。

調査　館内　2 回
　　現地　2 回
展示　文化交流展示室（25 年 4 月 23 日～12 月 23 日）


文化交流展示室での展示

【実績値】

調書作成枚数　195 枚（土器 135・石器 6・陶磁器 29・貝製品 7・陶器 6・骨 12）
調査回数　4 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：九州の古代文化の成立を考える上で、南島ルートの境界領域のあり方は必要な研究である。
独創性：奄美大島以外の喜界島や徳之島の縄文時代資料はこれまで、調査が行われておらず、今回が初めてである。
発展性：琉球へ至る交流のルートを解明する手がかりとなる。
効率性：訪問して調査するのではなく、一括して借用し館内で調査することで、出張回数を減らすことができた。
継続性：ほぼ出土資料の全てをカードにすることができ、将来の研究の基盤が確立できた。
正確性：縄文土器の専門家を共同研究に加えたことで信頼性が増した。

２．定量的評価

観点	調書作成枚数	調査回数				
判定	A	A				

判定理由
調書作成枚数：カード作成数（195 枚）を予定通り実施することができた。
調査回数：計画通り実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通り調査を実施することができ、その成果を展示において来館者に紹介することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、当初計画に沿って研究内容の水準を保ちながら順調に遂行している。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-6
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究((5)-①)

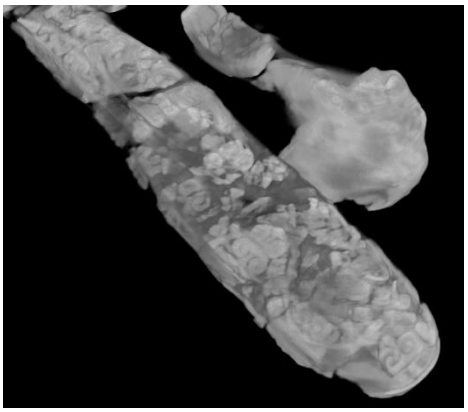
【事業概要】
和泉市久保惣記念美術館が所蔵する中国古代青銅器コレクションを中心に、古代中国青銅器の鋳造技術の解明のためにＸ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて科学調査を実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、今津節生（博物館科学課長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）

【主な成果】
Ｘ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを集積したデジタルアーカイブを構築した。本年度は帯鉤・殷周青銅器を中心に、肉眼観察と計測画像を対照させながら、青銅器の内部構造について分析を行い、錆に覆われて見えなかった象嵌文様などを発見することができた。また、以前より実施している住友コレクション（京都・泉屋博古館）の成果と比較対照を行って、青銅技術の広がりを確認した。

【年度実績概要】
・当館の展示に借用する文化財を中心として、ＣＴ調査や３Ｄデジタイザによる精密三次元計測、蛍光Ｘ線分析調査を実施した。得られた成果は文化交流展の展示に活用している。
・帯鉤のＣＴ調査
　本年度の調査では、帯鉤と殷周青銅器を対象として、肉眼観察と共に画像解析を実施した。帯鉤については鉄製帯鉤の錆の下から肉眼では全く確認できない金線を象嵌した文様を検出することに成功した。
・中国青銅器のＣＴ調査
　殷周青銅器では脚や持ち手など青銅器本体から伸びる立体造形の接続状況に着目して分析を行った。その結果、脚の内部まで全て無垢でつくるものと中子を挿入して円筒状に金属湯をまわすものの 2 種類が存在することを確認した。また、中子と外型とを固定するための構造物（スペーサー）についても、器表面の観察から推定するだけであったが、より具体的な位置を確認することができた。
・蛍光Ｘ線分析調査
　一部については蛍光Ｘ線分析を行った。これらは肉眼による観察のみでは組成不明と思われる部分を対象として分析した結果、中国古代の帯鉤及び青銅器として異質なものは見当たらなかった。
　また、精密三次元計測や蛍光Ｘ線分析の成果を総合することによって、修理や作品の内部構造などの情報を得ることができた。これらについては、大阪・和泉市久保惣記念美術館と共同して成果を共有している。


帯鉤のＣＴ画像

【実績値】

調査回数　　3 回
分析点数　　10 点
展覧会数　　2 回
学会研究会等発表　　1 件（①）

【備考】
学会研究会等発表
①「Ｘ線ＣＴ（３Ｄ-ＣＴ）を用いた文化財の状態調査」東アジア文化遺産学会　25 年 9 月 4 日

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-6

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：国内・海外の研究者から注目を集めた。特徴ある博物館との連携研究として先駆的な研究である。
独創性：中国青銅器の構造研究に非破壊的手法を本格的に導入した最新の研究である。
発展性：調査資料の増加により世界に例のないデジタルアーカイブに発展している。
効率性：従来に比較して短時間でデータを取得できるために、時間的投資、人的投資が少ない。
継続性：Ｘ線ＣＴは文化財の内部構造を非破壊で三次元的に調査できる唯一の方法である。
正確性：0.1㎜の精度で記録することができ、正確である。

２．定量的評価

観点	調査回数	分析点数	展覧会数	学会研究会等発表		
判定	B	A	A	A		

判定理由
調査回数：少ないが、おおむね目標である。
分析点数：できうる分析は全て終了している。
展覧会数：展示期間も長く、目標を達している。
学会研究会等発表：計画通り実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究に使用している調査研究機器は、世界的に最も優れた装置の一つとして高く評価されている。大阪・和泉市久保惣記念美術館との連携研究の他に中国古代青銅器の著名なコレクション（住友コレクション）を有する泉屋博古館との共同研究も進んでいる。また、中国科学院との研究者の連携研究も進めている。次年度はさらに多くの資料を調査すると共に、蓄積したデータの活用を進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当館では、文化財を外部の博物館から借用して展示することが多いので、展示借用の際に、最新機器を用いて共同研究を進めている。すでに、これまでの研究協力において国内外の博物館や研究機関と共同研究が進んでいる。次年度はさらに連携を進めて共同研究を実施していきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究((5)-①)

【事業概要】
館蔵の近世絵画 18 件を前後期の二期に分けて展示する。館蔵絵画を特集したトピック展示としては 23 年度の水墨画に続く 2 回目の企画である。本展では、これまでまとめて公開する機会がなかった近世絵画を、前期「屏風絵の世界」、後期「海外との文化交流」という二つのテーマに沿って展示するとともに、図録は出陳しない作品も掲載して所蔵目録としても使用できる物として制作し、収蔵品を広く紹介する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　谷豊信

【スタッフ】
鷲頭桂（企画課特別展室研究員）、畑靖紀（文化財課資料管理室主任研究員）、森實久美子（企画課特別展室研究員）、荒木和憲（文化財課資料登録室主任研究員）、河野一隆（企画課文化交流展室長）

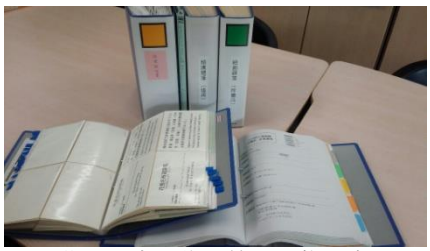
【主な成果】
館蔵近世絵画の調査研究を行い、その成果を公開するものとして、トピック展示「館蔵近世絵画名品展」を開催した。また、展覧会開催に際し、展覧会図録と所蔵品（近世絵画）目録を兼ねるものとして『館蔵近世絵画名品展』(96 頁）を作成した。当館では毎年絵画作品を購入するなど収蔵品を増やしているが、その全容を公開する機会はなく、ごく一部を特別展図録やデジタルアーカイブで紹介するのみにとどまっている。その課題に対し、本図録では出陳しない作品も含めて所蔵する近世絵画の画像、作品情報を掲載し、広く一般に公開した。

【年度実績概要】

25 年度上半期
・館蔵の近世絵画の作品調査及び資料収集を行った。
・所蔵品の新規撮影を行った（約 30 件)。
・絵画（所蔵品、借用、寄託等）の題箋の整理とデータベース化を行った（約 150 件)。

25 年度下半期
・館蔵の近世絵画の作品調査及び資料収集を行った。
・本年度購入となった新収蔵品及び修理を行った作品の新規撮影を行った（約 30 件)。
・展覧会準備のための図録作成、展示造作の検討を行った。
・調査の成果を公表する場として、トピック展示『館蔵近世絵画名品展』（26 年 2 月 25 日～5 月 18 日）を開催した。
・館蔵近世絵画の状態調書を、博物館科学課、文化財課の助言を得て作成・整備した（約 60 件)。


トピック展示「館蔵近世絵画名品展」
展示室風景


収蔵品・寄託作品等の状態調書、
修理報告書、題箋等の整備状況

【実績値】
展覧会数　1 回
・トピック展示「館蔵近世絵画名品展」（前期：26 年 2 月 25 日～4 月 6 日　後期：26 年 4 月 8 日～5 月 18 日予定）
展覧会図録　1 件　『館蔵近世絵画名品展』
ミュージアムトーク　2 回（26 年 3 月 11 日、18 日）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-7

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：長期に及ぶ調査成果を迅速に公開することができた。
独創性：展示や図録の制作にあたっては広く一般に分かりやすくするよう努めた。
発展性：調査の成果をトピック展示として、広く一般に公開することができた。
効率性：時間的、人的、設備的に効率よく調査を進めることができた。
継続性：長期に及ぶ調査成果を十分に反映した展覧会を実施することができた。
正確性：展覧会に加えてミュージアムトークを頻繁に実施することで、幅広くその成果を公開することができた。

２．定量的評価

観点	展覧会数	展覧会図録	ミュージアムトーク			
判定	A	A	A			

判定理由
展覧会数：館蔵近世絵画に関する調査成果を、展覧会を通じて公開することができた。
図録発行件数：展覧会の成果及び当館の収集活動を図録にまとめて公開することができ、目標を達成することができた。
ミュージアムトーク：計画通り実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館が開館より収集してきた近世絵画の調査成果を、展覧会や図録等を通じて包括的に紹介することができた。また、所蔵品の管理・展示に欠かすことのできない状態調書の作成や題箋の整備などを行った。 文化財の収集は今後も継続するものであり、引き続き基礎的な研究を継続していく予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り調査が実施され、当初の目標を達成することができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-8

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8)西光寺梵鐘の総合調査((5)-①)

【事業概要】
福岡市早良区の西光寺に所在する梵鐘は、九州において観世音寺鐘（太宰府市）に次ぐ古さを誇る古代鐘である。しかし、これまで殆どその存在は知られておらず、実見する機会は稀であった。そこで当プロジェクトでは、長期で借用を行い、その間に各種科学分析や写真撮影、またその成果をもとに展示を行い、この梵鐘の調査研究成果とともに広く紹介することに努める。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　望月規史

【スタッフ】
鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）、輪田慧（博物館科学課環境保全室研究補佐員）

【主な成果】
西光寺梵鐘を、25 年 7 月 23 日から 12 月 8 日まで展示した。その間、所蔵者の許可を得て露出展示とし、更に蛍光Ｘ線分析や３次元実測を行って、科学的な観点からの調査を初めて実施することができた。この調査結果をもとに、成分組成を明らかにし、更には３次元立体プリンタを用いた詳細なレプリカを作成した。（鐘全体 1、陽鋳銘部分 1）また、作成したレプリカは、ご所蔵者に寄贈し、次年度継続の借用許可を得ることができた。

【年度実績概要】
・梵鐘を吊るして詳細に表面観察をしたことで、内面部分に中子（なかご）の分割線の痕跡が残っていることを新たに確認した。

・蛍光Ｘ線調査により、梵鐘の成分組成を明らかにした（銅 87-91%、錫 4-7%、鉛 4-7%）。

・３次元デジタルアナライザを活用することにより、実測を行い、梵鐘を立体的に把握することが初めて可能となった。

・３次元実測のデータをもとに、立体プリンタを活用して精巧なレプリカを作成した。なおレプリカは、梵鐘全体を大小１つずつ、また鐘身池の間に陽鋳された銘文部分を１つ製作した。

・展示に際して専用の展示台を作成し、所蔵者の了解を得た上で露出展示を行うことができた。

・展示期間中は露出展示としたため、展示中でも研究者による熟覧が可能となり、各地から調査希望を受けることでき、梵鐘研究の進展に資することができた。

・展示終了後、梵鐘を新規で撮影し、高精度の資料写真を得ることができた。

・上記の調査をもとに、展示会場にてミュージアムトークを開催し、多くの来館者にこの梵鐘の魅力について解説を行うことができた。

・上記調査をもとに、次年度に行う梵鐘の音響調査の基礎データを年度内に集約することができた。


梵鐘の調査風景（３次元デジタルアナライザによる実測）

【実績値】
調査回数　6 回（表面観察 2 回、蛍光Ｘ線分析 1 回、３次元実測 2 回、写真撮影 1 回）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-8

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：ご所蔵者からの要望を満たし、かつ調査結果を踏まえて「特別公開」として特集展示をすることができた。
独創性：大型梵鐘の３次元実測と立体レプリカの作成は日本初の成果である。
発展性：今回蓄積したデータとノウハウをもとに、他の梵鐘の実測とレプリカを作成することができる。
効率性：博物館の館内という安定した環境のなかで、十全な設備と時間をかけて安全に作業することができた。
継続性：次年度においても借用を継続し、音響調査などを行う計画を立てている。
正確性：各科学分析では、詳細なデータをとることができた。その結果、レプリカを作成することにつながった。

２．定量的評価

観点	調査回数					
判定	A					

判定理由
調査回数：
２度にわたる詳細な表面観察により、梵鐘内部の中子継ぎ目痕を発見し、製作技法について新たな知見を得た。また、蛍光Ｘ線分析では、複数個所から成分組成のデータを取得できた。３次元実測では、梵鐘の外側と内側を一度ずつ測定し、詳細なデータを得ることができた。また、写真撮影では、各部位ごとに高精細な画像を撮影することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度における梵鐘調査は、全ての観点において十分な成果を出すことができた。また、次年度に向けて既に展示計画や調査の準備を遅滞なく進めている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	Ⅰ-2「文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信」、Ⅰ-3「我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与」、Ⅰ-4「文化財に関する調査及び研究の推進」、Ⅰ-6「情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信」、Ⅰ-7「地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上」に資する事業である。 すなわち、Ⅰ-2：次年度以降も借用の許可を得ているため、展示を通じてひろく公開することができる。Ⅰ-3：類例のない極めて貴重な古代の梵鐘を、専用の展示台に乗せて露出の状態で展示をすることで、高い展示効果を期待することができる。Ⅰ-4：不明な点の多い古代鐘に対して、充実した館内諸設備を用いて計画的に調査を行う事が可能である。Ⅰ-6：調査研究成果は、展示のなかで解説パネルへ適宜反映させている。また、音響調査の準備も行っており、その成果も展示に取り入れる予定である。Ⅰ-7：館内の安定した環境にあるため、劣化や破損の恐れが少ない。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-1

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究（(5)－②）

【事業概要】

東京国立博物館が所蔵する漢籍・洋書に関する書誌学的調査である。これらは、博物館草創期の明治時代初期に、文部省より引き継いだ江戸幕府旧蔵資料を中心とする資料群より形成されている。また洋書には江戸幕府旧蔵資料の他にも、ドイツ人医師シーボルトより献納された 308 冊を含んでいる。貴重図書として保管されてきたこれらの詳細調査を実施し、その学術的意義を明らかにすることを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館情報課長　高橋裕次

【スタッフ】

田良島　哲(調査研究課長)、住広昭子（学芸企画部博物館情報課情報資料室専門職員）

【主な成果】

(1)漢籍は、江戸幕府旧蔵資料である医学関係を中心とする調査が一段落したため、昨年より全体の調査に着手し、計 30,000 冊のうち、昨年度は 10,694 冊、本年度は 300 冊の書誌学的調査を終了し、写真撮影を実施した。

(2)洋書については、シーボルト献納本 308 冊について、修理のための調査を行い、あわせて洋書の主なものについて写真撮影を実施した。

【年度実績概要】

(1)漢籍には、経年によって劣化や綴じ糸の欠失しているものが多い。調査では書誌データを図書館システムに入力するとともに、保存状態の把握につとめており、必要に応じて糸綴じの手当を行うことを検討中である。26 年 2 月～3 月にかけて、漢籍のなかから 5 点を選び、資料館閲覧室内において解説を付けて展示を行った。

(2)洋書については、全体の書誌データを図書館システムに入力する作業が終了している。シーボルト献納本 308 冊について、今後の修理を前提として、保存状態を把握するための調査を行った。



「黄帝内経素問」

【実績値】

調査件数　漢籍 300 冊、洋書 308 冊

データ入力点数　漢籍 300 冊、洋書は昨年終了

写真撮影点数　漢籍 50 冊（3798 カット)、洋書 12 冊（3788 カット）

【備考】

+

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-1

（様式 1）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由

適時性：これまでは科研費による部分的な調査にとどまっていたが、閲覧の申請も増えていることから、本格的な調査を開始したため。

独創性：他機関では、まとまった江戸幕府旧蔵資料に関する書誌学的調査はまだ行われていないため。

発展性：東博所蔵分の調査の進展により学術的意義が明らかになりつつある。

効率性：書誌データを図書館システムに登録することで、情報公開が促進されたため。

継続性：進捗は順調であり、計画的に全ての漢籍、洋書を調査する予定である。

正確性：横断検索が可能であり、相互にデータの確認をしているため、より精度の高いものになっている。

2．定量的評価

観点	調査件数	データ入力点数	写真撮影点数			
判定	A	A	S			

判定理由

調査件数、データ入力点数：書誌データとともに、保存状態の把握を行っており、今後、綴じ糸などの手当を計画的に行うための準備が整った。

写真撮影点数：撮影は内容など希少性のあるものから行っている。保存上の理由から、半開きの状態で 1 頁ずつ撮影するなど、慎重を要する作業である。進捗は良好で、漢籍 50 冊（3798 カット）、洋書 12 冊（3788 カット）と、目標としていた 1500 点を遙かに上回る点数を達成することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館の所蔵する漢籍、洋書について、書誌データを作成し、図書館システムに入力した。これによって、保存上の理由から閲覧に供することのできない資料であっても、書誌データを伴う画像によってその詳細を公開できるようになったことは大きな進展である。現在、撮影した画像とともにウェブサイトで広く公開するための準備を進めている。昨年度に漢籍の調査をほぼ終了したのを契機に、主要な作品に関して解題を作成するなど、学術的情報の提供に努めている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	漢籍・洋書ともに、その保存状況をほぼ把握することができた。原装を残している貴重な図書を、後世に永く伝えていくためには、必要最小限な処置によって現状を維持し、形状や大きさに応じた配架を行うなどの配慮が必要である。現在、保存修復課と連携して、修復作業を行っており、次年度も引き続き、適切な保存方法について検討していく予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）東洋民族資料に関する調査研究（(5) －②）

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する約 3500 件の東洋民族資料を対象として、総合的な調査研究を行う。従来の台帳の記載内容を踏まえながら形状、材質のほかに、旧蔵者がつけた札や箱書きの内容や保存状態など実際の観察を通してしか分からない情報を、画像とともに一括してデータベース化する。これにより、研究・陳列・保管・修理などに必要な基礎情報をより充実した形で整備する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男

【スタッフ】
丸山清志（客員研究員）

【主な成果】
東洋民族の収蔵品の展示を、昨年までの調査で得られた知見にもとづき、東洋館 13 室で 2 回実施した。内容は次の通りである。
・「台湾の海の民－タオ族の伝統文化－」（25 年 10 月 1 日～26 年 1 月 13 日）
・「メラネシアの宗教彫刻」（26 年 1 月 15 日～26 年 4 月 13 日予定）
また、台湾のパイワン族の生活及び宗教儀礼に関わる資料の詳細な調査を実施した。調査で得られた知見は、将来のパイワン族に関わる展示案の作成に資する予定である。

【年度実績概要】
・文献収集
客員研究員と協力し、日本及び台湾でこれまでに発表、出版された、タオ族及びパイワン族の民族資料に関連する報告書、研究論文、書籍を収集し、今年度調査内容の絞込みを行った。

・熟覧調査の実施
25 年 7 月に東京国立博物館においてタオ族及びパイワン族の民族資料の熟覧調査を実施した。これにより当該民族資料の①形状品質、②保存状態、③来歴、④用途等に関する基礎的なデータを収集することができた。

・展示
東洋館 13 室で 25 年 10 月 1 日から 26 年 1 月 13 日にかけて「台湾の海の民ータオ族の伝統文化ー」を、26 年 1 月 15 日から 4 月 13 日（予定）にかけて「メラネシアの宗教彫刻」を実施した。


「台湾の海の民－タオ族の伝統文化－」展示の一部

【実績値】
調査回数：2 回。作品調査件数：75 件。関連展示回数：2 件。撮影点数：約 120 カット。

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	A	A	B	B	A

判定理由
適時性：これまで東京国立博物館において活用されることが極めて少なかった台湾とメラネシアの民族資料の魅力を調査・展示によって積極的に再評価・発信することができた。これは東京オリンピック開催が決定するなど、我が国の国際性がこれまで以上に問われるようになった昨今の時勢にかなうものとして、高く評価される。
独創性：得られた知見のうち、展示でどの部分をより魅力的かつ分かりやすく伝えるのかを意識しながら本プロジェクトを進めた。その結果、タオ族の民族資料では「海との関わり」、メラネシアの民族資料は「精霊・祖霊信仰」をテーマの柱とする明確な内容の展示を構築することができた。
発展性：これまでの調査による知見の着実な蓄積により、当分野でより多彩な展示内容を実現できるようになった。
効率性：プロジェクトに従事する時間配分の仕方をさらに改善できる余地がある。
継続性：プロジェクトに従事した期間が夏に集中したため、全体として継続期間にややムラが生じた。
正確性：タオ族、パイワン族などテーマごとに関連資料を悉皆的に調査した。

2．定量的評価

観点	調査回数	作品調査件数	関連展示回数	撮影点数		
判定	B	A	A	A		

判定理由
調査回数：目安としていた調査回数におおむね達成した。
作品調査件数：タオ族、パイワン族の暮らしと信仰に関わる民族資料を予定通り調査した。
関連展示回数：今年度に実施できる限りの展示回数に達した。
撮影点数：目安としていた撮影点数を若干上回った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	これまで蓄積させてきた基礎的なデータベースをもとに、タオ族、パイワン族といったテーマごとに知見を掘り下げ、展示という具体的な成果の公開につなげるサイクルが軌道にのりつつある。次年度も新規テーマの調査と展示を継続的に実施することで、本プロジェクトの一層の充実が求められる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨年度までに実施したタオ族やメラネシアの民族資料に関わる調査の成果を、今年度の東洋館13室におけるふたつの展示で結実させることができた。次年度も東洋館13室での新たな展示ソフトの開発につながる東洋民族分野の調査を継続する。次年度は今年度と同程度の業務量が見込まれるため、本プロジェクトの数値目標は今年度並みに設定する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）（(5)－②)

【事業概要】
国内外に所蔵される東アジアの書道史に関わる作品について、1 点ごとに詳細な書誌や伝来などの情報と、デジタル画像を収集する。さらに、科学機器を用いて、料紙の技法、変遷、使用法を検証するとともに、時代による書風の特徴やその変化などを調査研究する。また、個々の作品に関する歴史的・文学的調査も進める。これらによって、書の作品を、料紙と書風という二つの側面から解明し、複合的・総合的なデータ作成を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	副館長　島谷弘幸

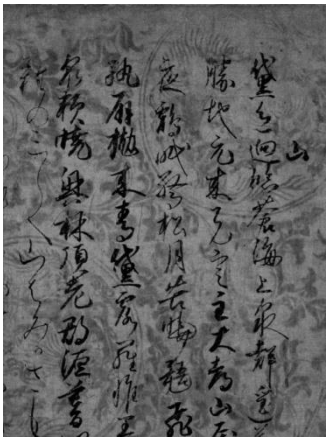
【スタッフ】
神庭信幸(保存修復課長)、高橋裕次(博物館情報課長)、富田淳(列品管理課長)、和田浩(保存修復課環境保存室長)、荒木臣紀(保存修復課主任研究員)、恵美千鶴子(調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー)、赤尾栄慶(京都国立博物館上席研究員)、羽田聡（京都国立博物館学芸部企画室主任研究員）

【主な成果】
前年度に引き続き、装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、書風と料紙分析ほか多角的な調査を、東京国立博物館や中国・香港大学、香港芸術館等で実施してきた。また、これまでの調査で撮影したデジタル写真や、調査結果のデータ入力と整理を進めた。本年度は研究期間の最終年度にあたるため、本研究成果の報告書を京都・思文閣出版より出版した。

【年度実績概要】
(1)東京国立博物館所蔵の装飾料紙作品の調査とデータ化
東京国立博物館が所蔵する装飾料紙作品の調査とデータ化を行った。

(2)特別展に関係する作品の調査とデータ化
今年度に東京国立博物館で開催した特別展「和様の書」において、本研究と関係の深い作品が一堂に展示された。その展示準備を兼ねて、関係作品の調査と関係資料のデータ化を行った。

(3)成果の公開
・特別展「和様の書」において、本研究成果をわかりやすく示すために、装飾料紙が一覧できるようなパネル展示を行った。特別展に関連する印刷物においても本研究成果を発表した。
・本館の総合文化展においても、3 室(宮廷の美術)において、本研究成果に関連する装飾料紙の展示を行った。
・研究論文や講演において、本研究成果を発表した。
・本研究成果のうち、装飾料紙の文様紹介を中心とした図版(文様が判りやすいようにコントラストを強めて紹介したもの)と、研究成果報告論集を掲載する出版物を思文閣出版より刊行した。


重文　和漢朗詠集　巻下（益田本）

【実績値】
・調査件数 約 50 件、写真撮影点数 約 500 点、データ入力点数 約 200 点
・研究会発表件数　9 件
・論文掲載件数　16 件
・成果公開件数　21 件（展示 18 件、特集陳列 1 件、特別展 1 件、成果報告書刊行 1 件）

【備考】
研究会などでの発表：島谷弘幸「陽明文庫所蔵の宸翰について」(陽明文庫講座)平成 25 年 9 月 21 日　ほか 8 件
論文掲載：島谷弘幸「和様の書の魅力」(『聚美』8 号、青月社、平成 25 年 7 月)ほか 15 件

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	A	S	A

判定理由
適時性：中国他海外での調査の実施により国際性が高く、展示や研究発表などで公開に努めたため。
独創性：基礎的なデータ収集にあわせて、料紙の科学的調査や歴史的調査など複合的に進めたため。
発展性：収集した調査データは総合的であり、新たな研究視点をもたらすものであるため。
効率性：通常の業務の中で調査研究を効率よく進めていく体制が確立しているため。
継続性：基礎研究からあわせて、すでに7年間の調査を実施しており、様々なデータを蓄積してきているため。
正確性：総合的研究として複合的なデータを収集できており、研究論文や研究発表などで着実に公開もしているため。

2．定量的評価

観点	調査件数	写真撮影点数	データ入力点数	研究会発表件数	論文掲載件数	成果公開件数
判定	A	A	A	B	A	A

判定理由
調査件数：継続的に進めてきている研究のため調査方法も確立し、確実に調査を進めることができた。
写真撮影点数：日常的に効率的な調査を実施することにより調査写真の撮影も確実に行っているため。
データ入力点数：調査結果のデータ入力、関係資料のデータ入力も効率的に実施できた。
研究会発表件数：目標を少し達成することができなかった。
論文掲載件数：様々な媒体に、調査内容の成果を論文として発表することができた。
成果公開件数：当館での特別展で本研究成果を発表できたことは特に大きい成果といえる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究は継続的に行う調査により、効率が上がっている。その成果の公表についても、論文や展示等で確実に行い、また、研究成果の報告論集を刊行することができた。7年間継続してきた研究成果は、今後の展示や研究論文で引き続き発表していく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	すでに7年継続している研究のため、日々の業務の中で効率よく研究を進めることができている。また、博物館における人脈を生かして、国内外において、あまり公開されていない作品なども調査対象とすることができた。今後も、より多くの情報収集に努めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-4
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4) 東アジアにおける繍仏の基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)((5)－②)

【事業概要】
本研究は、刺繍により仏教尊像や仏教的主題を表した「繍仏」について、日本中世～近世期を中心に、同時期の中国・朝鮮半島など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の調査にもとづいて図像・技法・様式を分析することで、仏教絵画史および染織史の観点から同時代繍仏を総合的・体系的にとらえることを目的とするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館教育課教育普及室長　伊藤信二

【スタッフ】
塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）、土屋貴裕（列品管理課平常展調整室研究員）、高木結美（学芸企画部企画課特別展室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
研究開始年度である本年度は、国内外の繍仏の所在情報を網羅的に収集するため、各種刊行物やウェブサイト上に公開されているデータを博捜し、また国内外の関連分野の研究者にも広く情報提供を呼びかけ、現時点での現存作例数を再確認することに努めた。さらに、国内外に所在する日本中世～近世期及び同時期の中国の作例の実見調査を実施することで、図像・材質技法・様式の詳細な分析を行った。これらの調査によって得られた繍仏の現存作例に関する、法量・図像・材質・技法・銘文・箱書・関連情報などを整理し、成果報告書の刊行や公開に向けて基礎データを作成、集積した。

【年度実績概要】
(1)国内外の繍仏の所在に関する情報収集
本研究は第一に、日本中世～近世期及び同時代東アジア繍仏の現存作例を掌握したうえで、重要と目される作例を可能な限り網羅的に調査することが大前提となる。そのため各種刊行物やウェブサイトに公開されているデータを博捜、また国内外の関連分野の研究者に情報提供を呼びかけるなどの情報収集作業を精力的に行った。その結果、国内外に所在する繍仏に関する情報についてある程度網羅し、現時点での現存作例について再確認することができたと言える。

(2)繍仏現存作例の作品調査
(1)によって得た情報を基に、国内に所在する日本中世～近世期及び同時期の中国の作例の実見調査を行った。この際、仏教的主題以外の刺繍作品もいくつか対象に加えることで、主に材質・技法の観点から繍仏の調査及び分析を進めることができた。本年度作品調査を行った繍仏作例については以下のとおりである。

・刺繍阿弥陀三尊図　1幅　鎌倉時代　アメリカ・メトロポリタン美術館
・刺繍阿弥陀三尊名号　1幅　鎌倉時代　アメリカ・メトロポリタン美術館
・刺繍千手観音図　1幅　室町時代　アメリカ・メトロポリタン美術館
・刺繍准胝観音図　1幅　明時代　アメリカ・メトロポリタン美術館
・刺繍釈三尊図　1幅 明時代　静岡・修善寺
・刺繍阿弥陀名号　1幅　鎌倉～南北朝時代　京都・宝鏡寺（奈良博寄託）
・刺繍善導図　1面　室町時代　奈良・当麻寺
・刺繍阿弥陀三尊来迎図　1幅　南北朝時代　奈良国立博物館
・刺繍種子阿弥陀三尊図　1幅　南北朝時代　奈良国立博物館
・刺繍阿弥陀三尊来迎図　1幅　室町時代　個人蔵
・刺繍種子阿弥陀三尊図　1幅　鎌倉時代　京都・永観堂禅林寺
・刺繍阿弥陀三尊来迎図　1幅　室町時代　岡山・誕生寺


メトロポリタン美術館での調査風景

(3) 繍仏現存作例にかかる詳細情報の基礎データ化
(1)(2)によって得られた繍仏の現存作例に関する、法量・図像・材質・技法・銘文・箱書・関連情報などを整理し、成果報告書の刊行や公開に向け、基礎データを作成、さらにデータの充実を図った。情報をデータ化することにより、調査作例の図像・材質技法・様式をグルーピングすることが可能となり、地域的・時代的・主題的特色を総合的に踏まえた分析及び来年度以降の調査研究課題を洗い出すことができた。

【実績値】
繍仏作品の調査件数　約 20 件
調査作品デジタル画像撮影件数　約 800 枚
繍仏現存作例の作品情報データ化件数　約 90 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：日本中世～近世期と比定される繍仏について現存作例を網羅するという作業は従来ほとんど行われてこなかったため、本研究の意義は大きい。
独創性：繍仏現存作例について図像・技法を詳細に分析し、様式編年化する本研究の独創性は高いため。
発展性：染織研究のみならず、仏画をはじめとする絵画ひいては仏教美術の研究にも寄与することができるため。
効率性：限られた時間の中で、効率的にデータ収集を行えたため。
継続性：研究開始年度に基礎データを整備することで、来年度以降の調査研究課題を洗い出すことができたため。
正確性：データ作成に関しては、入力後、確認者を替えて複数の確認を行うことで、資料の正確性を期したため。

2．定量的評価

観点	繍仏作品の調査件数	デジタル画像撮影件数	繍仏作品情報データ化件数			
判定	A	A	A			

判定理由
繍仏作品の調査件数：当初の計画よりも、多くの件数を実施することができた。
調査作品デジタル画像撮影件数：当初の計画よりも、多くの件数を実施することができた。
繍仏作品情報データ化件数：当初の計画に基づき研究の基盤となるデータを作成することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本中世～近世期の繍仏を中心に、同時期の中国など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の所在を網羅するという作業は従来ほとんど行われてこなかったこともあり、本研究の意義は極めて大きいと言える。本年度は、繍仏現存作例の所在について網羅的に情報を収集し、さらに重要作例を実見調査することで、本研究推進にあたって基盤となるデータを作成することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究開始年度である本年度は、日本中世～近世期及び同時代東アジア繍仏の現存作例について掌握することに努めたが、重要作例についての作品調査もあわせて着実に進めることができた。本研究は当初の研究計画に則り概ね順調であり、基本的な研究基盤を整えつつある。また、調査によって得た詳細情報を整理し作成した基礎データ及びデジタル画像は、繍仏を東アジア仏教美術史に体系的に位置づける本研究にとって極めて重要な情報と考える。次年度以降も引き続き、繍仏に関するデータ収集及び作品調査を進めていく予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究（(5) -②）

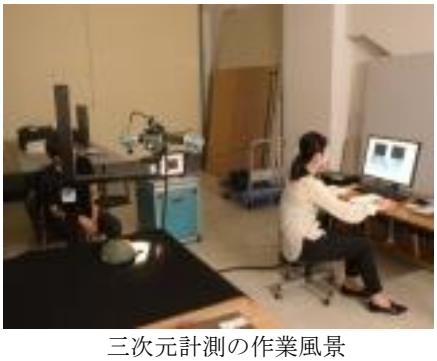
【事業概要】
厚さ 1 ㎜に満たない青銅製容器が、戦国時代（前 5 世紀）以降の中国で急速に普及していった。その製作技術を 3D スキャン、蛍光Ｘ線元素分析装置などの光学機器の使用を含む多角的な分析と製作実験により解明することで、中国金属工芸史の再構築につながる基盤研究を実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男

【スタッフ】
松本伸之（学芸企画部長）、和田浩（保存修復課環境保存室長）、矢野賀一（学芸企画部企画課デザイン室主任研究員）、谷豊信（九州国立博物館学芸部長）、赤沼潔（東京藝術大学教授）

【主な成果】
当館が所蔵する中国考古の極薄青銅器について、3 次元計測を 4 回、蛍光Ｘ線分析を 1 回、分光計測を 1 回それぞれ実施するとともに、並行して新たな知見の整理を行った。また、泉屋美術館（25 年 11 月 7 日）、和泉市久保惣記念美術館（25 年 11 月 8 日）、寧楽美術館（25 年 12 月 1 日）、出光美術館（26 年 2 月 7 日）などで極薄青銅器の熟覧調査と写真撮影を実施した。加えて、東京藝術大學では合計 6 回の鋳造実験を行い、異なる条件設定で約 100 点の鋳造サンプルを製作した。鋳造サンプルに対しても蛍光Ｘ線分析と分光計測を 1 回ずつ実施することで、作品に対する分析データとの比較研究を進める足掛かりを得ることができた。

【年度実績概要】
・館内所蔵極薄青銅器に対する調査及び分析
　館所蔵作品に対して熟覧調査のほか、3 次元計測・蛍光Ｘ線分析・分光計測といった光学的手法による分析を 6 回実施した。
・館外における調査の実施
　山口県立萩美術館・浦上記念館（25 年 8 月 3 日）、泉屋美術館（25 年 11 月 7 日）、和泉市久保惣記念美術館（25 年 11 月 8 日）、寧楽美術館（25 年 12 月 1 日）、出光美術館（26 年 2 月 7 日）で関連作品の熟覧調査を行った。
・サンプルの鋳造実験及び分析
　東京藝術大学で極薄青銅器のサンプルの鋳造実験を 5 回実施した（25 年 8 月 7 日、8 月 30 日、9 月 30 日、26 年 2 月 17 日、2 月 24 日）。鋳造で得られた鋳造サンプルに対して、当館で蛍光Ｘ線分析・分光計測をそれぞれ 1 回ずつ実施した。
・研究成果の公開
　日本中国考古学会大会（25 年 12 月 14 日～15 日　駒澤大学）にて「漢代青銅器の工人集団類別－温酒尊を例にして－」をポスター発表し、研究成果の一部を公開した。


三次元計測の作業風景


鋳造実験の作業風景

【実績値】
館内作品調査・分析実施回数：6 回。館外作品調査実施回数：5 回。サンプルの鋳造実験回数：5 回。鋳造実験で得られたサンプルの点数：約 100 点。研究成果の公開回数：1 回。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	B	A	B

判定理由
適時性：近年の中国古代金属工芸史研究の進展に寄与するものであるため。
独創性：極薄青銅器について、初めて系統的・多角的な視野で取り組んだ本格的な研究であるため。
発展性：本研究による知見が蓄積されれば、古代中国以外の時代や地域に展開した類例との比較検討が可能となるため。
効率性：三次元計測や鋳造実験など極薄青銅器に対して初めて試みた内容の項目が多く、当初は試行錯誤の連続であったため。また、計測機器に故障が生じ、修理が完了するまで当初の計画変更を余儀なくされたことがあったため。
継続性：開始して１年間で質・量ともに良好な基礎的データを得ることができたため。
正確性：計測機器の予期せぬ故障により、分析の実施回数が目標数値をやや下回ったため。

２．定量的評価

観点	館内作品調査・分析実施回数	館外作品調査実施回数	サンプルの鋳造実験回数	鋳造実験で得られたサンプルの点数	研究成果の公開回数	
判定	B	A	A	S	B	

判定理由
館内作品調査・分析実施回数：目標としていた回数におおむね達成したため。
館外作品調査実施回数：当初から予定していた館外の作品調査を完了したため。
サンプルの鋳造実験回数：学生が休暇に入る夏と冬にアルバイトを雇い集約的に実験を行うことで、目標に達したため。
撮影点数：目安としていた撮影点数を若干上回ったため。
鋳造実験で得られたサンプルの点数：予定を大きく上回る数の鋳造サンプルを得ることができたため。
研究成果の公開回数：学会で研究発表を実施したが、年度内に論文発表を行うことはできなかったため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	初年度に蓄積された基礎的なデータは、極薄青銅器と鋳造サンプルのあいだにおける観察・分析結果の相互比較を次年度に展開させていくうえで、重要な足掛かりとなるものである。さらに、次年度はＣＴスキャンによる内部構造の解析、館外作品に対する分析、鋳造サンプルに対する加工実験などの作業項目を加えることで、本研究の一層の充実を図る。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	3 カ年計画の初年度は、初めこそ経験の乏しさや計測機器の不調に見舞われたものの、トータルでみれば順調に作業を進めることができたといえる。今後、作業の効率性を向上させることで、質・量ともにいっそう充実した成果を得ることが可能となる。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-6

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）((5)－②)

【事業概要】

隋文帝が中国全土に建立した仁寿舎利塔の起塔地と関係遺物に関する現地調査を実施し、仁寿舎利塔の信仰と荘厳の全体像の具体的な解明を目的とする事業である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　和田浩

【スタッフ】

加島勝(大正大学教授)、松本伸之(学芸企画部長)、東野治之(奈良大学教授)、岡林孝作(奈良県立橿原考古学研究所総括研究員)、泉武夫(東北大学教授)、長岡龍作(東北大学教授)、大島幸代(龍谷大学龍谷ミュージアム助教)

【主な成果】

中国各地において現地調査を行い、仁寿舎利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。

【年度実績概要】

・文献収集

中国側研究者と協力し、中国国内でこれまでに発表、出版された、仁寿舎利塔起塔寺院跡から出土した遺物の報告書、研究論文、書籍を収集し、今年度調査地点の絞込み、現地との連絡調整、旅程の決定を行った。

・中国現地調査の実施

25 年 8 月に中国側研究協力者の協力のもと、西安市、乌鲁木齐市、库尔勒市、において計 10 日間に及ぶ現地調査を実施した(写真)。これにより現地における①仁寿舎利塔起塔寺院に関する地理的データ、②仁寿舎利塔出土遺物と隋代関連遺物、③関連岳廟、等に関する詳細なデータを収集することができた。



中国・新疆における現地調査の様子

【実績値】

調査日数（中国）　10 日

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-6

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	独創性					
判定	A					
判定理由 独創性：中国の造形美術を通して浮かび上がる信仰と思想について総合的な見地から考察を加える基礎を構築した。						

２．定量的評価

観点	調査日数（中国）					
判定	A					
判定理由 調査日数(中国)：遅滞なく計画通りに実施することができた。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中国の造形美術を通して浮かび上がる信仰と思想について総合的な見地から考察を加える基礎を構築でき、地理的データが相当数収集できた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り進捗した。今年度の成果を踏まえて次年度計画においても同様に進めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-7
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)中国典籍日本古写本の研究(科学研究費補助金)((5)-②)

【事業概要】
日本学術振興会科学研究費助成事業　基盤研究（A）（研究代表者　高田時雄）による研究で、平成 25 年度から 5 か年継続予定である。日本国内に所蔵されている日本古写中国典籍を網羅的に調査し、その総目録を作成することを主たる目的としている。

【担当部課】	調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島哲

【スタッフ】
高田時雄(京都大学人文学研究所教授)、高橋智(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授)

【主な成果】
東京国立博物館所蔵の中国典籍古写本の調査を行うとともに、館内において、研究会を開催し情報の共有に務めた。

【年度実績概要】
・研究代表者　高田教授、研究分担者　高橋智　慶應義塾大学教授と、研究の進め方について打ち合わせを行った。
・当館所蔵の中国典籍古写本 9 件について、研究代表者、研究分担者、連携研究者等 12 名が参加し、詳細な調査と意見交換を行った。
・26 年 1 月 25 日に当館黒田記念館セミナー室において、研究会「中国典籍日本古写本研究の現在」を開催した。5 名が研究報告を行い、約 25 名の出席があった。



調査対象の中国典籍日本古写本の例：重要文化財　蒙求残巻

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-7

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：中国典籍研究は、国際的な必要性が高くなっており、時宜を得た研究計画である。
独創性：世界的にも希少性の高い古写本を研究対象としており、他では困難な研究である。
発展性：人文学各分野の基礎となる資料を構築する研究であり、広い範囲に影響を与える。

２．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究分担者として、必要十分な参画を行っている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当館関係の文化財については順調に調査が進められている。今後の年次で残余のものについても順次調査を行う。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-8

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8) ５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究（(5)-②）

【事業概要】
中国・朝鮮・日本で５～９世紀に造られた金銅仏を対象とし、製作技法、図像、様式の調査を行なう。データを集積し、各地域、時代でどのような特色あるいは共通点があるかを探る。材質、技法、図像、様式の比較検討によって当時の国際関係を考察する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室長　浅見龍介

【スタッフ】
岩田茂樹（奈良国立博物館学芸部美術室長）、淺湫毅（京都国立博物館学芸部保存修理指導室長）、閔丙鑽、権江美（以上、韓国国立中央博物館）

【主な成果】
日本古代の金銅仏でヒ素や鉛を含むもののあることがわかった。銅製品では亜鉛との合金、いわゆる真鍮が古代に存在することが明らかになったのは大きな成果である。

【年度実績概要】
・韓国において、金銅仏及び同時代に造られた石造あるいは瓦磚製の彫刻もあわせて調査を実施した。金銅仏についてはマイクロスコープによる撮影、蛍光Ｘ線分析を行った。

・根津美術館において七連枝仏を調査し、7 躯の小像・光背の蛍光Ｘ線分析によって錫と鉛を検出するもの、さらに亜鉛を検出するものがあった。この像の場合作風と考え合わせて亜鉛が検出されたものは新しい時代の補作と判断された。

・東京国立博物館法隆寺献納宝物のうち 10 躯の調査を実施。調書、細部写真（マイクロスコープによる写真を含む）、蛍光Ｘ線分析を行った。これらのデータを日韓の研究者が共有し、意見交換を行った。



仏三尊像　宿水寺址出土　国立大邱博物館（韓国）

【実績値】
調査回数 3 回、調査日数 8 日、調査対象作品数 42 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-8

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：東アジアを視野にした研究を韓国の研究者とともに行っており、国際的であるため。
独創性：金銅仏の金属組成を蛍光Ｘ線分析により測定している。これを制作年代等の判断に用いているが、データの蓄積により、製作地の推定につながる可能性があり、期待度が高いため。
発展性：対象地域、時代は広く、その間の国際関係を知ることができる可能性があるため。
効率性：金銅仏の蛍光Ｘ線分析、マイクロスコープによる観察、撮影、調書作成を分担して行っており、効率が良いため。
継続性：小金銅仏の遺品は多く、欧米の博物館に所蔵される作品も含めれば継続して行う必要性が高い。
正確性：データは検証可能な形で記録しており、報告段階で種々の条件を提示して正確を期することができるため。

２．定量的評価

観点	調査回数	調査日数	調査対象作品			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：調査に 3 回参加しており、満足できる数字である。
調査日数：韓国出張を含め 8 日を数え、満足できる数字である。
調査対象作品：40 件を超え、満足できる数字である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中国の作品、朝鮮半島の作品、日本の作品のそれぞれの特色と共通点がかなり認識できた。朝鮮半島の簡略化した形の原形である中国の作品を見ることができたためである。また、東京国立博物館所蔵の法隆寺献納宝物の多様性もあらためて知ることができた。 来年度はさらにその多様性の理由、中国・朝鮮作品がそれぞれの国の作品というだけでなく、どの地方でできたかまで考察することを目指したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	東京国立博物館の研究員としては、館蔵品の研究が責務である。この研究に参加することによって、法隆寺献納宝物の金銅仏の研究に様々な視野を得ることができている。 今後もこの研究が実施する各地の調査に参加し、さらに視野と見識を深め、館蔵品の研究につなげたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-9
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9)東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)((5)-②)

【事業概要】
日本における木彫技法の変革や鎌倉時代新様式の確立にともなう用材観の変化及び形成に関する調査研究、及びその用材観に東アジア世界が及ぼした影響に関する調査研究を行う事業である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室長　浅見龍介

【スタッフ】
丸山士郎(博物館教育課教育講座室長)、和田浩（保存修復課環境保存室長)、岩佐光晴（成城大学文芸学部教授)、小澤正人（成城大学文芸学部教授)、能城修一（森林総合研究所木材特性研究領域チーム長)、藤井智之（八ヶ岳中央農業実践大学校長)、安部久（森林総合研究所木材特性研究領域主任研究員)、金子啓明（興福寺国宝館長）

【主な成果】
国内木彫像等の調査によって、多数の木片試料等を得ることができた。今後の樹種同定によって用材観の変化･形成に関する重要な知見が得られると予想される。

【年度実績概要】
国内木彫像等の調査
以下の国内各所において木彫像の調査を実施し、形状･構造･彩色に関する調書の作成、木片試料採取、像の撮影を行った。
・東京国立博物館(25 年 5 月 23 日)
大神社展出品作品群(一括)の調査を実施した。
・東京国立博物館(25 年 7 月 10 日)
東京国立博物館所蔵作品(1 躯)の調査を実施した。
・静岡県南禅寺(25 年 6 月 21 日、9 月 4 日)
南禅寺が所蔵する木彫像群(一括)の調査を実施した。
・長野県正覚院(25 年 10 月 26 日)
正覚院が所蔵する木彫像群(一括)の調査を実施した。
・福岡県八女市桁山(25 年 12 月 22 日)
八女市桁山に生育するカヤの古木(県指定天然記念物)の調査を実施した。


八女市桁山のカヤ古木

【実績値】
国内調査回数　6 回

【備考】

【書式B】
(様式 2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-9

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	独創性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
独創性：「用材観」という概念から独創的に着想に至った研究であるため。
効率性：異分野(美術史、保存科学、木材科学)の研究者が共同で遂行する複合領域的研究であるため。
継続性： 10 数年来継続している木彫像の樹種に関する研究を受け継ぐ事業であるため。

2．定量的評価

観点	国内調査回数					
判定	A					

判定理由
国内調査回数：国内調査を十分に実施することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「用材観」という概念の発祥と形成について解明するための木彫像等の調査を十分に実施することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り進捗した。今年度の成果を踏まえて次年度計画においても同様に進めていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-10

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10）古代イスラエルの墓制と他界観に関する綜合的研究（科学研究費補助金）（(5)-②）

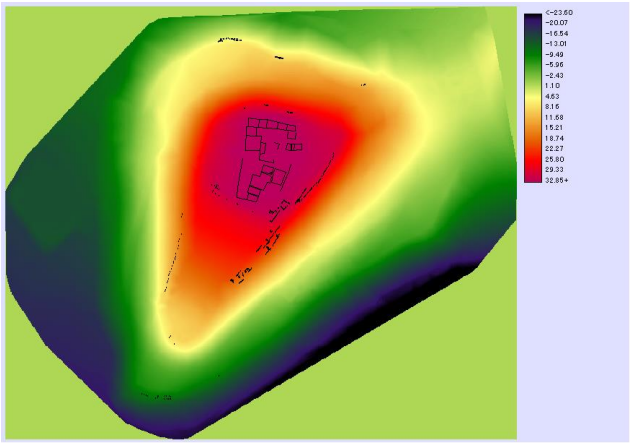
【事業概要】
　古代イスラエルにおける墓制と他界観について、宗教学、文献史学、考古学、文化財科学の観点から総合的に研究することを目的とする。文献の検討を中心として進められているユダヤ教・キリスト教の成立と発展を物質文化の面からも補完することを目指すものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課考古室研究員　橋本英将

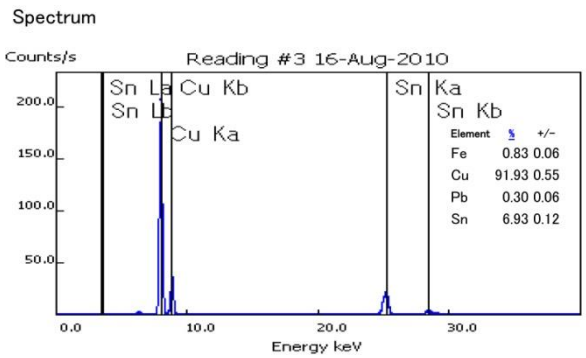
【スタッフ】
月本昭男（立教大学教授）

【主な成果】
　今年度は当初予定していたイスラエル共和国下ガリラヤ所在のテル・レヘシュ遺跡の調査に参加することができなかったため、2010 年度までの調査に関する発掘調査報告書に関する作業を実施した。具体的には現地で実施した蛍光Ｘ線分析による元素同定データの整理を行った。また、西アジアに関する金属生産に関する文献の調査、及び発掘調査報告書掲載予定の下原稿の執筆を実施した。

【年度実績概要】
（１）　取得済みの蛍光Ｘ線による元素同定データの整理
　　2010 年度までの調査で出土し、現地でハンドヘルド蛍光Ｘ線分析計により実施した元素同定データについて、蛍光Ｘ線スペクトル、及び検出元素の整理を行った。
（２）　関連文献の調査
　　元素同定データの解釈において参考とするため、イスラエル及び西アジア全般における金属生産史に関する文献の調査を行った。
（３）　上記（１）、（２）の成果をもとに、予定されている発掘調査報告書用に文章及び図表類の整理を行った。



テル・レヘシュ遺跡 DEM マップ



出土板状青銅製品の XRF スペクトル

【実績値】
データ整理作業・・・11 件
文献調査・・・5 件
報告書下原稿執筆・・・2 件

【備考】
なし

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521－10

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：文献史学・宗教学の成果が考古学的な発掘調査により論証または再検証される事例が増えつつあるため。
独創性：研究対象へのアプローチに考古学・文化財科学の視点を積極的に導入しているため。
発展性：複数の遺跡が重層的にかさなる複合遺跡の調査をすすめており、将来的に当地の通じてきな発展へ迫れると期待されるため。
効率性：蛍光X線分析計を現地に持ち込み測定し、データを持ち帰ったことにより、日本国内でも整理と解釈の作業が可能となったため。
継続性：資料は発掘調査の年度ごとに追加され、分析データの蓄積が今度も期待されるため。
正確性：自然科学分析を援用した調査を実施しており、出土遺物の材質などについて肉眼での観察より厳密であるため。

2．定量的評価

観点	データ整理作業	文献調査	報告書下原稿執筆			
判定	A	A	A			

判定理由
データ整理作業：2010年度までに実施した元素同定データの整理が完了したため。
文献調査：入手を予定していた元素同定データの解釈に有用な研究文献を入手できたため。
報告書下原稿執筆：継続している発掘調査報告書の担当部分について、元となる原稿が当初予定よりも早いスケジュールで執筆できたため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	予定されていた、イスラエルでの夏季発掘調査に、本務との関係および現地情勢との兼ね合いから参加を見合わせたため、本来の計画を変更せざるをえなかったため。また、代替策として、取得済みの分析データの整理作業がすすみ、報告執筆へむけた各作業に一定の進展がみられたため。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	本来の計画である発掘調査への参加を実施しなかったことから、計画自体の再検討が必要となった。次年度以降は発生した進捗の遅れを取り戻すための調査の実施に重点を置きたい。ただし、今後予定されている発掘調査報告書作成へむけての作業を進展させることができたのは一定の成果である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-11
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11)南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－(科学研究費補助金)((5)－②)

【事業概要】
従来まで特殊なジャンルと思われていた南宋時代の仏教絵画を中国絵画史のなかに位置づける試みを行う。そのために従来の南宋絵画史を批判的に検証し、さらには日本、中国、アメリカ等に所蔵される、異なった位相の南宋絵画を包括的に調査する。また、文献的調査についても継続的に行い、作品と文献の両面から、南宋時代における仏教絵画、ひいては仏教文化の具体的な様相を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室研究員 塚本麿充

【スタッフ】

【主な成果】
(1)作品調査：東京国立博物館所蔵品、関西を中心とする美術館、及び中国での現地調査を含む作品調査を行った。
(2)事業：アメリカでの学会参加、作品調査を行った。
(3)成果：論文と研究発表、講演の形で公開することができた。

【年度実績概要】
(1)東京国立博物館所蔵品、寄託品等の調査
所蔵作品の調査を行った。これらの成果は、「元時代の道釈画の名品「四睡図」を中心に」（東洋館 8 室、25 年 7 月 2 日 ～8 月 4 日)、「特集陳列 江戸時代が見た中国絵画」（本館特別 1 室、2 室、25 年 5 月 1 日～6 月 16 日）で展示するとともに、研究の成果を、6 月 11 日、10 月 12 日に開催された列品解説、講演等で一般むけに公開することができた。
(2)アメリカ所蔵作品の調査及び学会発表
26 年 2 月にアメリカ・シカゴでＣＡＡ学会で発表した。ついで、シカゴ美術館、メトロポリタン美術館、プリンストン大学美術館にて調査を行い、大きな知見を得た。

【実績値】
口頭発表 4 回(①～④)
論文 5 本(⑤～⑨)
撮影カット数　約 1000 枚
成果の公開　２回

【備考】
口頭発表
①2014 年 2 月 12 日、Maromitsu Tsukamoto, ″Remodeling Chinese Paintings in Edo Japan: Chan Yue's Arhats and Their Restructuring as Triptychs″, College Art Association 102nd Annual Conference, Chicago
②2014 年 1 月 11 日、「中国絵画史における「人格」と「かたち」―呉彬「山陰道上図巻」と価値評価の構造」:「第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「かたち」再考―開かれた語りのために―」（於：東京文化財研究所）
③2013 年 6 月 25 日、「江戸時代的中國書畫收藏」（於：台湾師範大学藝術史研究所）中文
④2013 年 6 月 13 日（木)、「矢代幸雄とシックマン―20 世紀における中国絵画観の変容」:「美術と宝物の相関性についての比較美術史的研究」分科ワークショップ「コレクション、宝物から美術へ―東アジアの視点から」:「中国の宮廷コレクションと目録」（於：東京大学）
論文
⑤「矢代幸雄とシックマン―20 世紀における中国絵画観の変容」『ＢＩ』Vol.7、2014 年、35－48 頁
⑥「中国宮廷コレクションと目録 ―「舎利感応記」から「龍図閣瑞物目録」へ―」『仏教美術論 第 5 巻 機能論』竹林舎、2014 年、13－27 頁
⑦「中国絵画の至宝をめぐる旅」『上海博物館 中国絵画の至宝』図録、東京国立博物館、2013 年、13-171 頁.
⑧ “Frictions in Universal Contexts and Individual Values: Chinese Paintings at the Toyokan”,Orientations, Volume 44, Number 5, June 2013, pp.40-47.
⑨「江戸時代所見之中國繪畫―狩野畫派的摹本製作與中國畫史研究」『典藏古美術』、第 248 期、2013 年 5 月、162-169 頁
そのほか
・「栄西の入宋―南宋社会からのまなざし―」『栄西と建仁寺』東京国立博物館、2014 年 3 月
・「中国の絵画」「日本独自の美意識―足利将軍の東山御物」「中華文明再編への情熱―乾隆帝のコレクション」ほか(『東京国立博物館東洋館 東洋美術をめぐる旅』平凡社、2013 年 1 月)
・「クリーブランド美術館の中国絵画コレクションと日本」『クリーブランド美術館　名画でたどる日本の美』東京国立博物館、138－139 頁、2014 年 1 月

【書式B】
(様式2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-11

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：今年度はアメリカを中心に作品調査を行い、シカゴ、ニューヨーク、プリンストン大学美術館において、大変大きな知見を得ることができた。
独創性：研究の蓄積によって、今後の発展性、継続性についても道筋をつけることができた。
発展性：東京国立博物館の所蔵品との比較研究が可能となり、独創性とともに、大変適時性を得た調査となったといえる。
効率性：調査とその公開を促進する効率性を確保することができた。
継続性：今後の継続性にも大きな指針が得られた。
正確性：論文の発表において、文献資料からも、作品調査の正確性を期することができた。

2．定量的評価

観点	口頭発表	論文	撮影カット数	成果の公開		
判定	A	A	A	A		

判定理由
口頭発表・論文：今年度は論文、学会発表ともに十分な成果を得ることができた。
撮影カット数：、調査、撮影作品数については十分であった。
成果の公開：データ入力についても十分な蓄積を得ることができた。また、成果の公開についても、今年度は研究会での発表以外にも、２回にわたって一般向け講演を行っており（2013年10月12日、「中国絵画史の正統と異端－上海博物館の名品から－」（於：東京国立博物館）、2013年6月11日、「中国絵画？日本絵画？－馬遠「寒江独釣図」と日本－」（於：東京国立博物館））、成果の公開についても十分であったと考える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	より包括的な中国仏教文化の理解を目指と、士大夫を中心とする文人文化との接点を模索するため、さらなる調査が必要である。特に今後、江南・四川地域の寺観の調査、日本やアメリカのさらなる作品調査が急務である。あわせて、東京国立博物館所蔵品の調査、及び文献的な調査も継続し、研究にさらなる万全を期していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	最終年度としては順調に計画を行うことができたと言える。次年度でその成果は総合文化展、特別展の開催等でも活用していくことが期待される。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-1 海外展「青山杉雨のコレクションと書」に関する調査研究((5)－②)

【事業概要】
海外展「青山杉雨のコレクションと書」(25 年 4 月 20 日～7 月 2 日)に関する調査研究
　24 年 7 月 18 日から 9 月 9 日まで東京国立博物館で開催した特別展「青山杉雨の眼と書」の出品作品のうち、中国書跡 20 件、中国絵画 20 件、日本書跡(青山作品)42 件を精選し、25 年 4 月 20 日から 5 月 26 日まで上海博物館で開催した海外展の調査研究。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課長　富田淳

【スタッフ】
島谷弘幸(副館長)、田良島哲(学芸研究部調査研究課長)、塚本麿充(学芸研究部調査研究課研究員)、鍋島稲子(台東区立書道博物館主任研究員・客員研究員)

【主な成果】
　平成 24 年度に当館にて開催した特別展「青山杉雨の眼と書」の海外展であるため、作品の調査及び選定は前年度までに終了している。本年度は 25 年 4 月に新たに貸与する作品に関する補足調査を行い、また効果的な陳列、論考の執筆、講演会、安全な梱包、輸送、展示、撤収、返却を行った。

【年度実績概要】

・調査及び展覧会の実施で得られた作品の状態に関する知見をもとに、軽量な梱包資材を効果的に用いた安全な梱包方法を考え、東京から上海への文化財の輸送に備えた。その結果、無事に作品の移動、展示、返却を完了することができた。
・メールのやり取りによって上海博物館スタッフと打合せを重ね、効果的な会場レイアウトを策定した。
・開幕に先立ち、現地ボランティアに事前のギャラリートークを行った。
・展覧会図録『漢韻和風　青山杉雨的収蔵与書法作品』作成にあたり、東博版を抄訳する上での助言をした。
・中国書跡、中国絵画については、新たな出陳作の解説を執筆した。
・4 本の論考を『MUSEUM 博物館之友』に発表した。
・25 年 4 月 20 日、上海博物館大講堂で講演会を 2 回行った。


会場風景

【実績値】
　展示への反映　1 回
　論文等数 7 本(日本側執筆論文数 4 本①～④、中国側執筆論文数 3 本)
　関連講座 2 回
　展示作品　80 点
　公刊図書　1 件　237 ページ

【備考】
論文
　①「青山杉雨的生涯」、富田淳、『MUSEUM 博物館之友』「日本書道之美、漢韻和風」、上海博物館編、鳳凰出版伝媒股份有限公司、2013 年 5 月。
　②「青山杉雨的素顔」、鍋島稲子、『MUSEUM 博物館之友』「日本書道之美、漢韻和風」、上海博物館編、鳳凰出版伝媒股份有限公司、2013 年 5 月。
　③「日本書法与審美」、島谷弘幸、『MUSEUM 博物館之友』「日本書道之美、漢韻和風」、上海博物館編、鳳凰出版伝媒股份有限公司、2013 年 5 月。
　④「日本近現代書法与展会」、島谷弘幸、『MUSEUM 博物館之友』「日本書道之美、漢韻和風」、上海博物館編、鳳凰出版伝媒股份有限公司、2013 年 5 月。
公刊図書
　⑤『漢韻和風　青山杉雨的収蔵与書法作品』、上海博物館編、上海書画出版社発行、2013 年 4 月。

【書式B】
(様式 2)

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：日中国交正常化 40 周年に開催することができた。
独創性：青山杉雨の書と創作の基盤となった中国書画の双方を展示した。
発展性：前年の出陳作から精選し、新たに幾つかの中国書画を加え、会場面積に相応しい数とした。
効率性：短時間のうちに少人数で順調に開催できた。
継続性：前年の展示に引き続き開催することができた。
正確性：展示計画にのっとり実施し、事故もなく終了できた。

2．定量的評価

観点	展示への反映	論文等数	関連講座	展示作品数	公刊図書	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
展示への反映：実作と所蔵作品をバランス良く選び、作品の持ち味を充分に引き出す展示ができた。
論文等数：新たに貸与する作品の調査を行い、釈文に反映させつつ、日本側論文数 4 本、中国側論文数 3 本と、複数の論文を発表できた。
関連講座：午前・午後にわたって 2 回の講座を開催し、研究の成果を充分に伝えることができた。
展示作品数：展示会場を考慮しながら、青山杉雨の人となりを彷彿とさせる作品 80 点を選ぶことができた。
公刊図書：237 ページに及ぶ図録を刊行した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	前年度に行った展覧会の成果をふまえつつ、限られた時間の中で、会場の事前調査を反映させ、また前年度の成果をふまえつつ、充実した展示を行うことができた。会場に合わせた作品を選別し、図録・公開講座などと併せて、青山杉雨の人となりを効果的に伝えることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を達成しえたため。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-2 特別展「和様の書」に関する調査研究((5)－②)

【事業概要】
特別展「和様の書」(25 年 7 月 13 日～9 月 8 日)に関する調査研究
　平成 25 年 7 月 13 日～9 月 8 日に開催した特別展「和様の書」の展示を充実させるための調査研究。
　展示においては、平成 19～21 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「東アジアの書道史における料紙と書風の基礎的研究」、平成 22～25 年度の基盤研究(A)「東アジアの書道史における料紙と書風の総合的研究」の成果をもとに行った事前調査によって作品を選定し、その寸法や内容にもとづく分類を経て配置案を作成する。さらに、調査によって、和様の書の魅力とは何かを具体的に検討する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　高橋裕次

【スタッフ】
田良島哲(学芸研究部調査研究課長)、恵美千鶴子(学芸研究部調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー)

【主な成果】
・事前調査では、これまでの研究によって得られた新知見にもとづき、それぞれの作品において、料紙と書風のあり方がどのように関連しているかという、和様の書としての位置づけを明らかにした。
・三跡を中心とする名品をとおして、和様の書の成立とその後の展開などの全貌を明示し、日本人の好みや感性を反映した書の美しさを、多くの人々に伝えることができた。
・展示では、巻子、冊子など平面的な作品について、拡大画像やわかりやすい内容のパネルを後方壁面の随所に配置したことにより、書のさまざまな魅力をクローズアップして示すことができた。

【年度実績概要】
・前年度に行った事前の調査によって、これまで未公開であった数点を確認し、展示することができた。
　重要文化財　書状　藤原行成筆、陣定定文案　藤原行成筆、古今和歌集（修学院切）など個人蔵の作品の調査

・そのほかにも下記の作品の調査を前年度行った。
　国宝　大手鑑など　京都・陽明文庫、国宝　三体白氏詩巻　大阪・正木美術館、国宝　書状（離洛帖）東京・畠山記念館、国宝　平家納経　広島・厳島神社、重要美術品　書状（頭弁帖）広島　ふくやま書道記念館　など

・わかりやすい展示にするために、95 字解説のほかに、鑑賞のポイントを示すパネルを作成した。

・国宝「平家納経」をはじめ、本紙の裏などに施された美麗な装飾をあわせて鑑賞できるようにしたことで、書と料紙が融合した和様の書の特質を理解していただくための効果的な展示が可能となった。



解説パネルなど


「平家納経」の展示

【実績値】
・展示への反映　1 回・作品調査　　8 回(24 年度までに行った調査回数)・論文数　　5 本(①～⑤)

【備考】
論文
①高橋裕次「料紙よりみた和様の書」(『聚美』第 8 号)
②同「和様の書の料紙について」(特別展「和様の書」図録)
③田良島　哲「王朝貴族の書と信仰－藤原行成を中心に」(特別展「和様の書」図録)
④恵美千鶴子「和様の祖「小野道風」受容史」(『聚美』第 8 号)
⑤同「「和様の書」鑑賞の歴史」(特別展「和様の書」図録)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	S	A	A		

判定理由
適時性：展覧会の直前に、主要作品の一つである『御堂関白記』がユネスコの世界記憶遺産に登録されたことで、関心が高まり、文化財の鑑賞において理解を深めていただくきっかけとなった。
独創性：国宝となっている全ての手鑑をできるだけ広げて展示したことは、これまでにない新しい試みであった。また、「平家納経」では、表裏に金銀や蓮手などの装飾が施してあるため、裏を鏡で見えるように工夫した展示ケースを作成し、内部に有機ＥＬ照明を採用して、その装飾の様子をより鮮明にご覧いただくことができた。
発展性：和様の書の美しさを、書と料紙の両方から理解していただける展示となり、今後の書に関わる企画立案に生かせる内容となった。
効率性：展示方法や作品の組み合わせを十分に検討した結果、毎週の展示替えを効率よく実施することができた。

２．定量的評価

観点	展示への反映	作品調査	論文数			
判定	A	A	A			

判定理由
展示への反映：多彩な展開や、日本人の美意識の変遷など、和様の書のもつ多くの魅力を、展示に反映することができた。
作品調査：これまで体系的な展示が行われていなかった世尊寺の書について、8回の作品の調査を実施したことで、和様の特徴を示す多くの作品を一堂に集め、展示することができた。
論文数：調査の成果を具体的に示した 5 本の論文を、図録や雑誌などに掲載することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	作品調査、展示方法の検討などを効率的に実施したことで、一般にわかりにくいといわれている書に親しんでいただける展示が実現し、鑑賞者の文化財に関する深い理解を促すことができた。また他館との連携についても今後さらに発展させることによって、新たな調査や展覧会におけるさまざまな取り組みにつなげていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	科学研究費補助金による研究や、事前調査の成果を十分に展覧会に反映することができた。 本展を一つのステップとして、今後の調査、研究をさらに充実させることができるようにしていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-3「上海博物館　中国絵画の至宝」に関する調査研究((5)-②)

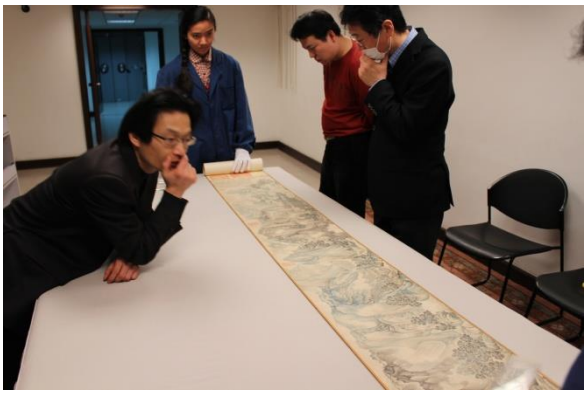
【事業概要】特別展「上海博物館　中国海外の至宝」(25 年 10 月 1 日～11 月 24 日)に関する調査研究
平成 25 年 10 月 1 日（火）～同年 11 月 24 日（日）に開催された、特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」出品する作品の選定と調査を実施し、安全な輸送と、展示内容の充実を図る。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課長　富田淳

【スタッフ】塚本麿充（学芸研究部調査研究課東洋室研究員）

【主な成果】
一級文物 18 件をふくむ、北宋から明清にいたる絵画、40 件を調査した。状態を確認し、安全な輸送についての計画を立てるとともに、普段は公開されていない題跋や印章、付属品などについても、調査を行った。

【年度実績概要】
・上海博物館研究員等の助言を得ながら、25 年 2 月 27～3 月 2 日、25 年 7 月 4 日～5 日にかけて、作品の調査を行い、候補作品を選定した。その結果、40 件のきわめて質の高い、上海博物館を代表する名画の出品につながった。
・出国手続きに困難は生じたが、そのほかの作業では安全な作品輸送と展示を行うことができた。
・題跋や印章、絹、紙本の状態など、従来の写真図版ではわからない詳細な部分を観察することで、作品の根幹となる情報を得ることができ、安全な輸送と、図録及び釈文編執筆の基礎とすることができた。
・図録では、論文 2 本、コラム 5 本を掲載することができた。あわせて、題跋、印章等の釈文をあつめた「釈文編」を出版することができた。図録は最終日に売れ切れるほど好評で、また、記念講演会（2 回）、外部講師を招いてのギャラリートーク（4 回）も、多くの参加者があった。



上海博物館での調査風景

【実績値】
・調査回数　現地研究者との打合せ　3 回、現地調査　40 件
・公刊図書　1 冊(①)
・論文数等　論文 2 本②～③、コラム 5 本(④～⑧)
・関連講座　記念講演会（2 回）(⑨～⑩)、ギャラリートーク（4 回）(⑪～⑭)
・展示への反映　1 回　他館との連携　1 回

【備考】
公刊図書
①東京国立博物館編『上海博物館　中国絵画の至宝』および『釈文・印章編』（東京国立博物館　25 年 10 月）
公開論文、コラム
②李維琨「千年の絵画　画壇の金字塔―「上海博物館　中国絵画の至宝」によせて―」
③塚本麿充「中国絵画の至宝をめぐる旅」（以上、論文）
④富田淳「徽宗皇帝の宣和装と七つの璽印」
⑤富田淳「乾隆皇帝の題詩―銭選の「浮玉山居図巻」」
⑥富田淳「清朝における王冕「墨梅図」の由来」
⑦富田淳「康熙帝を欺いた？男―高士奇の『江村書画目』」
⑧塚本麿充「日本と中国の中国絵画観の差異―元代文人画の評価をめぐって」（以上、コラム）
以上（『上海博物館　中国絵画の至宝』25 年 10 月）
記念講演会
⑨塚本麿充「中国絵画史の正統と異端－上海博物館の名品から－」（25 年 10 月 12 日）
⑩李維琨「唐寅山水画の視覚形式―『春游女几山図』を例に―」（25 年 10 月 12 日）
ギャラリートーク「上海博物館の中国名画　私の見方」
⑪湊信幸（10 月 11 日）、⑫宮崎法子（10 月 25 日）、⑬塚本麿充（11 月 8 日）、⑭板倉聖哲（11 月 22 日）

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	発展性		
判定	A	S	A	A		

判定理由
適時性：本展覧会は 2010 年に上海博物館で開催された「千年丹青」展の交換展として企画されたもので、東洋館のリニューアルオープンにあわせて開催された時期的な意義は大きいものがある。
独創性：一級文物 18 件という高品質の展覧会は、今までの上海博物館が海外で行ってきた中国絵画展でも最高レベルのものである。
効率性：短期間のうちに多くの調査を実施することができた。
発展性：今後、上海博物館との学術協力や展覧会協力など、より一層の交流の拡大が期待できる。

2．定量的評価

観点	調査回数	公刊図書	関連講座	論文数等	展示への反映	他館との連携
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
調査回数:現地研究者との打合せ３回、現地調査 40 件と、短期間のうちに多くの調査を実施することができた。
他館との連携:現地研究者との連携を十分にとることができた。
公刊図書：充実した図版と論考を掲載したことにより、上海博物館の名品図録としてのみならず、中国絵画通史としての性格を持つことで一般の方々にも好評をはくし、完売するほどの高評価を得た。
関連講座：記念講演会（2回）、ギャラリートーク（4回）を実施した。通常よりも多く解説の機会を設けることで、一般の方々がわかりにくい中国絵画についても、親しみをもっていただける工夫をした。
論文数等：論文２本、コラム５本を発表した。通常よりも丁寧な解説を心がけることで、一般の方々にはなかなかわかりにくい中国絵画についても、親しみをもっていただける工夫をした。
展示への反映：安全な輸送、展示と、わかりやすい解説を行うことができた。
他館との連携：現地研究者との連携を十分にとることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上海博物館の協力を得て、もっとも重要な宋元時代の名品を調査できたのみならず、それを最新の研究成果とともに展示することができた。また事前の調査研究を活用して、展示を工夫した結果、観客からも大きな好評を得ることができ、講演会などの付帯事業も好評であった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	時機に適った展覧会を企画し、好評のうちに閉幕して、安全に返却することができた。開催過程において若干の困難は生じたが、今後の展覧会活動にさらに大きな成果が得られることが期待できる。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-12-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-4 特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」(25 年 10 月 8 日～12 月 1 日)に関する調査研究
　平成 25 年 10 月 8 日～12 月 1 日に開催した特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」の展示を充実させるための調査研究。
　特に、他に類を見ない障壁画の立体的な展示手法を検討するために実施した事前調査とともに、文化財の展示と映像展示を融合させ、特別展会場において適切に示すために映写実験を行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　松嶋　雅人

【スタッフ】
　金井裕子（企画課特別展室研究員）

【主な成果】
・京都二条城において建造物、並びに障壁画の作品調査を実施したことで、通常の展覧会では実施することが困難である室内構造を立体的に再現する展示に反映することができた。
・超高精細映像４Ｋの映写実験を展示会場等、実際の展示に即した状況で実施したことで、展示映像を文化財展示と適切に融合させて提示することができた。

【年度実績概要】
・京都・二条城において建造物とともに障壁画の作品調査を行って詳細な寸法と作品状態を把握し、それらの諸データを施工計画に活かし、展示会場内において、文化財に負担のない適切な展示手法を検討した。
・二条城の障壁画の実物大模型により、効果的な照明を施す実験を行った。
・「洛中洛外図屏風　舟木本」の鑑賞にあたり理解を促すために、展示会場内で拡大映写する映像展示のための内容並びに場面選択のための検討、並びに映写実験を行った。
・超高精細映像４Ｋの龍安寺石庭映像について展示会場において映写実験を行った。


二条城障壁画の立体的展示


「洛中洛外図屏風　舟木本」の映像展示


超高精細映像４K の龍安寺石庭映像

【実績値】
・京都二条城の調査（建造物、並びに障壁画）　2 回
・二条城障壁画の実物大模型による照明実験　1 回
・「洛中洛外図屏風　舟木本」の拡大映写における内容選択の検討、並びに映写実験　5 回
・超高精細映像４K の龍安寺石庭映像の会場における映写実験　2 回
・展示への反映　1 回

【備考】
　超高精細映像４K の龍安寺石庭映像については、一般社団法人　全日本テレビ番組製作社連盟「第 30 回 ATP 賞」の特別賞を受賞した。

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	S	A	B		

判定理由
適時性：映像展示における先鋭的、先進的映像機器の利用によって文化財の鑑賞において深い理解を促すことができた。
独創性：本展における二条城障壁画の立体的な再現展示は、これまで類をみない規模のものである。
発展性：文化財展示の鑑賞理解を促す映像展示は、ざまざまな分野で利用される展覧会が今後、増加すると予測される。
効率性：映像展示においては、現状においては設備的投資に関し大きな負担がかかる。

2．定量的評価

観点	文化財調査回数	照明実験回数	映写内容選択の検討、並びに映写実験回数	会場における映写実験回数	展示への反映	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
文化財調査回数：建造物室内の現地調査、障壁画の作品調査を2回実施したことで、適切に展示に反映できた。
照明実験回数：1回の実験結果により、通常の展示物より大画面となる展示面に対して適切に照明を施すことができた。
映写内容選択の検討、並びに映写実験回数：内容検討を経て、5回の映写実験を行ったことにより、文化財の見所を適切に示すことができた。
会場における映写実験回数：2回の実験により、障壁画の展示と融合する適切な映像展示を行うことができた。
展示への反映：総計84面の二条城障壁画を上下2段に展示するなど、画期的な展示手法を提示することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	作品調査、映像試写実験をともに効率的に実施したことで、文化財展示と先進的な映像展示とが適切に融合したかたちで提示することができ、鑑賞者にとっては文化財に対する深い理解を促すことができたと考える。今後は、映像展示のみならず、展示におけるさままざな手法を検討していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査並びに実験の成果を十分に展覧会に反映することができた。 本展を指標としながらさらなる調査、研究へとつなげていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-12-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-5「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」（26 年 1 月 15 日～2 月 23 日）に関する調査研究
　平成 26 年 1 月 15 日～2 月 23 日に開催した「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」の展示を充実させるための調査研究。
　現地における作品調査をクリーブランド美術館、並びに九州国立博物館研究員とともに行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　松嶋　雅人

【スタッフ】
　土屋貴裕（学芸研究部列品管理課平常展調整室）、塚本麿充（学芸研究部調査研究課東洋室員）、本田光子（学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員）、畑靖紀（九州国立博物館）、森實久美子（九州国立博物館）、鷲頭桂（九州国立博物館）

【主な成果】
・クリーブランド美術館（アメリカ）において、収蔵品の作品調査を行い、本展出品作品の選定を行った。本年度の作品調査は、24 年度に行った現地調査に引き続いたものである。

【年度実績概要】
- クリーブランド美術館（アメリカ）において収蔵品の作品調査を行い、作品に関わる歴史的事項などのこれまでに知られていない知見をもとに本展に 51 件の日本、中国、西洋の絵画を出品した。
- 図録作成にあたり、新たな知見を得た作品調査の成果を鑑賞者へよりわかりやすく説明することを踏まえ、九州国立博物館と分担して 5 本の論文を執筆した。
- 作品の調査を踏まえて、クリーブランド美術館、九州国立博物館と分担執筆して作品解説を充実したものとした。


作品調査

【実績値】
・作品調査　　1 回（参考：24 年度調査　1 回）
・論文数　　5 本（九州国立博物館 2 本の分担執筆含む）
・解説数　　51 件（クリーブランド美術館 4 件、九州国立博物館 23 件の分担執筆含む）
・展示への反映　1 回

【備考】
図録掲載の論文
　総論「日本絵画の奥義」松嶋雅人
　各論「約束された救済の情景」土屋貴裕
　附論「クリーブランド美術館の中国コレクションと日本」塚本麿充

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：本展は当館とクリーブランド美術館の交換展にあたり、双方の館において作品調査を行うことができ、適切に展覧会を準備することができた。
独創性：作品調査を十全に行ったことで、８００年にわたる体系的な日本絵画史の流れを追うことのできる展覧会となった。
効率性：限定された機会であった作品調査にも関わらず、適切な出品作品を選定することができた。

２．定量的評価

観点	作品調査	論文数	解説数	展示への反映		
判定	A	A	A	A		

判定理由
作品調査：1 回（参考・24 年度調査　1 回）の調査であったが、本展への出品作品だけでなく、クリーブランド美術館の収蔵である日本絵画作品を広く作品調査できた。
論文数：展覧会図録に日本絵画史における各時代、各流派等、はば広い内容の論文 5 本を掲載することができた。
解説数：展覧会図録に各作品の見所、特徴を示した作品解説 51 件を掲載することができた。
展示への反映：作品調査を踏まえたことで、よりわかりやすい作品の紹介を行うことができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	限られた回数による作品調査であったが、充実した内容の調査を行うことができ、クリーブランド美術館とも種々の意見交換をすることで、作品理解を深め、その内容を展示に際しても適切に反映させることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	作品調査の成果を十分に展覧会に反映することができた。 本展をもとに海外における日本美術の調査研究へとつなげていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-12-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-6 海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」に関する調査研究((5)－②)

【事業概要】
海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」(26 年 2 月 16 日～5 月 11 日開催)に関する調査研究
平成 26 年 2 月 11 日～5 月 11 日開催の海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」の展示を充実させるための調査研究。本年度は現地における会場状況の調査を行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　松嶋　雅人

【スタッフ】
土屋貴裕（学芸研究部列品管理課平常展調整室）

【主な成果】
・クリーブランド美術館（アメリカ）において展覧会会場の調査を行った。本年度の調査は、クリーブランド美術館スタッフとともに 24 年度に行った当館における出品作品選定のための作品調査と、アメリカにおける施設の現地調査に引き続いたものである。

【年度実績概要】
- クリーブランド美術館（アメリカ）において展覧会会場の調査を行った。会場環境の状況とともにその特性、特色に関する知見をもとに本展に出品される当館列品の 55 件の日本の近代美術作品についての適切な作品情報をクリーブランド美術館側に供出した。
- 本展図録作成にあたり、2 本の論文を執筆した。
- 前年度に行った作品調査を踏まえて、クリーブランド美術館への来館者にとって日本絵画の理解が容易となるよう作品解説を充実したものとした。


現地調査


当館における作品調査

【実績値】
・作品調査　　1 回（参考・24 年度調査　1 回）
・論文数　2 本
・解説数　55 件

【備考】
図録掲載の論部
“Japan’s Dream of Modern Art”　松嶋雅人
“The Development of Calligraphy in Japanese Modernism”島谷弘幸

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-6

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	効率性				
判定	A	A				

判定理由
適時性：本展は当館とクリーブランド美術館との交換展実施にあたり、双方の館において各収蔵品の作品調査を行うことができ、適切に展覧会を準備することができた。。
効率性：限定された機会であった調査にも関わらず、適切な出品作品を選定することができた。

２．定量的評価

観点	作品調査	論文数	解説数			
判定	A	A	A			

判定理由
作品調査：1 回（参考・24 年度調査　1 回）の調査であったが、本展への出品作品だけでなく、クリーブランド美術館の収蔵作品を広く作品調査できた。
論文数：展覧会図録に日本近代美術史における概説、近代書跡に関わる適切な内容の論文 2 本を掲載することができた。
解説数：展覧会図録に各作品の見所、特徴を示した作品解説 55 件を掲載することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	限られた回数による施設調査、並びに作品調査であったが、充実した内容の調査を行うことができ、クリーブランド美術館とも種々の意見交換をすることで、作品理解を深め、その内容を展示に際しても適切に反映させることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	施設調査、作品調査の成果を十分に展覧会に反映することができた。 本展をもとに海外における日本美術展実施における調査研究へとつなげていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-12-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-7 特別展「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
特別展「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」（26 年 1 月 15 日～2 月 23 日）に関する調査研究
　日本工芸会及び文化庁が主催する日本伝統工芸展が平成 25 年に第 60 回を迎えた。その記念特別展として、文化庁及び日本工芸会の全面的な協力を得て、平成 24 年度より準備が進められた。平成 25 年春から、全国の博物館など所蔵先へ出品交渉及び作品調査を当館の工芸担当者が中心に行い、展示方法、講演会、広報の効果的な手段などについて検討する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課工芸室 主任研究員　小山弓弦葉

【スタッフ】室瀬和美（公益社団法人日本工芸会副理事）、近藤都代子（文化庁伝統文化課主幹）、伊藤嘉章（学芸研究部長）、高橋裕次（学芸企画部博物館情報課長）、竹内奈美子（学芸研究部調査研究課工芸室長）、伊藤信二（学芸企画部博物館教育課教育普及室長）、酒井元樹（学芸研究部保存修復課保存修復室研究員）、横山　梓（学芸企画部企画課特別展室研究員）、三田覚之（学芸研究部調査研究課工芸室研究員）

【主な成果】
　伝統工芸に携わってきた重要無形文化財保持者（人間国宝）を工芸担当者が個別に調査・研究し、特別展にふさわしい物故の作家 104 名の代表作を 1 点ずつ選出した。伝統がどのように発展を遂げ、現代に伝えられたのかを、国宝・重要文化財といった古典の名品と比較研究し、展示することによって観覧者にも日本の伝統工芸をわかりやすくした。人間国宝作家の名作を一堂に会することによって、日本の伝統工芸の卓越したわざの美を改めて周知する機会となった。

【年度実績概要】
(1)人間国宝作家の作品を所蔵する美術館・博物館施設、及び個人宅へうかがい、作品を実見し調査することによって、それぞれの作家の代表作で特別展にふさわしい名品を選択した。物故人間国宝作家の作品 105 件（刀剣研磨・手漉和紙など作品を展示できない工芸技術は未展示）、古典の名品 40 件（国宝 6 件、重要文化財 13 件、重要美術品 3 件を含む）、全 145 件の作品を、当館の所蔵品、及び、全国の美術館・博物館の所蔵品により構成して展示し、一般公開した。
(2)展覧会は全 3 章から構成され、平成館 3、4 室を展覧会会場として展示した。
(3)現役の人間国宝作家には、各工芸担当者が個別にインタビューを行い、制作の工程や姿勢などを調査した。その調査内容をふまえ、26 年 1 月 15 日～1 月 31 日までの平日の開館日には、毎日午後 1 時半より 2 時まで、特別展会場にて、現役の人間国宝作家によるギャラリートーク（出品作品解説）が行われた。
(4)26 年 1 月 26 日（日）、26 年 2 月 16 日（日）には、本展にかかわる伝統工芸に関する調査内容が一般人や学童にも理解できるよう、日本工芸会に属する作家により、親子向けのワークショップが行われた。
(5)人間国宝作家に関する調査研究によって、伝統工芸への関心や広がりが広く世界に広がりつつある実情があきらかとなった。そのことを広く一般に周知すべく、26 年 1 月 25 日（土）には記念シンポジウム「伝統工芸の 21 世紀を考える」、26 年 2 月 1 日（土）にはトークイベント「日本の工芸を語る」が行われた。



調査風景画像

【実績値】
展示への反映：1 回、作品調査の回数：50 回、執筆論文数：2 本（①～②）、執筆コラム数：3 本（③～⑤）
執筆解説数：198 点、発表回数：13 回（ギャラリートーク、シンポジウム、トークイベント）

【備考】
論文（以下、論文・コラムともに特別展「人間国宝展」図録に掲載）
　①小山弓弦葉：「人間国宝展」への祈り
　②室瀬和美（日本工芸会）：日本の工芸文化　日本工芸会の役割とこれから
コラム
　③酒井元樹：刀剣研磨
　④高橋裕次：和紙
　⑤近藤都代子（文化庁）：重要無形文化財制度について

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-7

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由

適時性：日本伝統工芸展 60 回記念に当たる平成 25 年度にふさわしい時期に人間国宝が制作した伝統工芸の粋を一堂に会する機会となった。
独創性：人間国宝作家の作品だけではなく、古典の名品と並べて展示することにより、伝統のあり方を問う展示は、これまでにない画期的な発想であった。
発展性：日本の伝統工芸の卓越したわざの美を広く一般に啓蒙する機会となり、伝統工芸を志す作家にとっても、日本工芸の優れた技術を学び、今後の制作に発展させていく好機となった。
効率性：全国からの集荷、返却、展示方法や展示替の組合せを検討し、これらを効率よく行うことができた。
継続性：当館における現代工芸の展覧会は初めての試みであったことから、これまで交際のなかった美術館・博物館や所蔵者と関係を持つ機会となった。
正確性：調査の成果を展覧会、図録、ギャラリートーク、シンポジウム、トークイベントなど多彩なイベントで一般に広く、正しく伝えることができた。

２．定量的評価

観点	展示への反映	作品調査回数	論文執筆数	執筆コラム数	執筆解説数	発表回数
判定	A	A	A	A	A	S

判定理由

展示への反映：古代より現代にまで伝わる日本の卓越した伝統工芸のわざの美を物故人間国宝作家 104 名の作品によって広く一般に周知することができた。
作品調査回数：当館に所蔵される人間国宝作家の作品だけではなく、全国の美術館・博物館の所蔵作品を、当館の工芸担当者が分担して 50 回にわたり調査した。
執筆論文数：当館から 1 本、日本工芸会から 1 本、日本の伝統工芸に関する論文を図録に掲載した。
執筆コラム数：当館の担当者 2 名及び文化庁担当者 1 名により、日本の伝統工芸に関するコラムを一般に分かりやすく、3 本のコラムにして図録に掲載した。
執筆解説数：陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸の担当者が分担して、最新の調査内容を反映させた作品解説を 198 点執筆し、図録に掲載した。
発表回数：通常のシンポジウム、トークイベントなどのほか、当館特別展では初めて、外部の解説者によるギャラリートークを 13 回も行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館で初めて行われる現代工芸の展覧会に際し、当館の所蔵品の中核をなす、国宝・重要無形文化財を含む古典の名品を併せて展示することにより、伝統の歴史を古代から現代にまでたどるという、前代未聞の展覧会を開催することができた。この新たな試みにより、今後の展覧会企画にもより広い視野が広がる可能性が生まれた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良、改善計画、次年度計画への反映
順調	調査の成果を展覧会に十分に反映することができた。この展覧会を機に、日本工芸の伝統とその歴史的変遷に関するさらなる調査研究へ発展させていきたいと考えている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12－8

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-8 特別展「支倉常長像と南蛮美術―400 年前の日欧交流―」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
特別展「支倉常長像と南蛮美術―400 年前の日欧交流―」（26 年 2 月 11 日～3 月 23 日）に関する調査研究
　平成 26 年 2 月 11 日～3 月 23 日に開催した特別展「支倉常長像と南蛮美術―400 年前の日欧交流―」の展示を充実させるための調査研究。
　「支倉常長像」を展覧会開催前に調査するとともに、「南蛮人渡来図屏風」「世界図屏風」という本展出陳作の作品調査を行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課平常展調整室 研究員　土屋　貴裕

【スタッフ】
松嶋雅人（企画課特別展室長）

【主な成果】
「支倉常長像」に関しては、本展開催前に本作が展示されていた仙台市博物館において展示状況、作品状態を点検し、作品輸送等に関して関係者との協議を行った。あわせて、作品の細部描写等を詳細に観察し、リーフレット等配布物の原稿執筆のための基礎資料とした。「南蛮人渡来図屏風」「世界図屏風」に関しても同様に、デジタル撮影を含む調査研究を進めた。

【年度実績概要】
・仙台市博物館において「支倉常長像」の展示状況、作品状態を点検し、作品輸送等に関して関係者との協議を行った。これらにより、安全な輸送、展示が実現し、展示ディスプレイに関しても事前に詳細な打ち合わせを行なうことができた。
・仙台市博物館における「支倉常長像」の事前調査により、画像では確認しにくい画面細部の観察を行うことができた。その結果、特に衣装や刀装など、本図を特徴づけるモチーフに関する知見を深めることができ、より充実した解説を執筆することができた。
・「南蛮人渡来図屏風」「世界図屏風」に関しても、展覧会開催前にデジタル撮影、細部の観察、館蔵品を中心とした関連作品の調査研究を行うことができた。
・これらの成果を総合し、合計 8 ページの小冊子（リーフレット）を作成することができた。


仙台市博物館での事前調査


会場風景（内覧会時）

【実績値】
作品調査　3 回
小冊子掲載解説　5 本
会場作品解説　5 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-8

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	効率性				
判定	A	A				

判定理由
適時性：支倉常長の渡欧から約 400 年後に当たる平成 25 年度に本展覧会を開催することができた。
効率性：本展開催にあたり、事前に作品調査を行うことができ、適切な展覧会の準備、展示が実現した。

２．定量的評価

観点	作品調査	小冊子 掲載解説	会場作品解説			
判定	A	A	A			

判定理由
作品調査：展覧会開催前に、入念な事前調査 3 回を実行することができた。
小冊子掲載解説：作品の制作背景を説明した分かりやすい解説やエッセーを 5 本、小冊子に掲載することができた。
会場作品解説：5 件の作品解説のみならず、時代背景を説明する解説なども掲示することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	限られた期間における調査研究であったが、十分な事前調査とその成果を踏まえた充実した内容の展覧会を開催することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	作品調査の成果を十分に展覧会に反映することができた。 本展をもとに、日本や海外の文化交流を紹介する展覧会開催や、調査研究へとつなげていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-12-9

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-9 特別展「栄西と建仁寺」に関する調査研究((5)－②)

【事業概要】
特別展「栄西と建仁寺」(26 年 3 月 25 日～5 月 18 日)に関する調査研究
　平成 26 年 3 月 23 日～5 月 18 日開催の特別展「栄西と建仁寺」の展示作品選定と図録執筆のための調査研究。
　建仁寺山内の文化財に関しては、すでに京都国立博物館が平成 12・13 年度に詳細な調査を行い、平成 14 年に展覧会を行っている。今回はその展覧会とは違う視点を加味するために、九州など京都に限らない広い地域を対象とし建仁寺派以外の寺院の文化財も加えた作品調査を行い、その成果を展覧会とする。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課 絵画・彫刻室長　田沢　裕賀

【スタッフ】
　高橋裕次（博物館情報課長）、齊藤孝正（上席研究員）

【主な成果】
・建仁寺派以外の寺院や美術館の調査により禅宗の立場以外の観点から栄西の著述を研究し、展覧会に反映させることができた。
・京都・六道珍皇寺や長崎・春徳寺などを含んだ調査により、京都の禅院としてだけでは捕らえきれない建仁寺派の文化的様相を示すことができた。
・「蘭渓道隆像」（西来院）、小野篁像（六道珍皇寺）の像内調査により、前者では古い「蘭渓道隆像」像の頭部があることが確認され、後者では銘札・墨書銘が見出されたことで、作者・制作年を明らかにすることが出来た。

【年度実績概要】
・建仁寺派寺院の所蔵作品調査を行って、展覧会のテーマ・展示会場内構成を検討し、会場設営を適切なものとした。
・作品の状態調査に基づいて六道珍皇寺所蔵作品の修理助言を行った。
・名古屋市立博物館等の寺院以外の保管資料を調査し、建仁寺派諸寺院の作品と関連づけることで、新しい栄西のイメージを提示する展示とすることができた。


展示会場風景


長崎・春徳寺での作品調査


「蘭渓道隆像」（西来院）
像内納入物

【実績値】
　○調査回数　25 回
　（内訳）
　・建仁寺山内調査（本坊ならびに塔頭）10 回　・建仁寺以外の建仁寺派寺院調査 5 回・建仁寺派以外の寺院調査 4 回
　・博物館等公立施設における保管作品調査 6 回
　○展示作品点数 183 件
　○論文等数　　12 本
　　（内訳）・論文数　6 本・小論文 6 本
　○解説数 183 件

【備考】
総論
・栄西と建仁寺の品々　　田沢裕賀
各論
・栄西の事跡と建仁寺の建立　　高橋裕次・栄西以後の建仁寺　　浅見龍介・海北友松の伝記と作風―建仁寺の友松筆障壁画の位置づけ　　田沢裕賀・建仁寺ゆかりの宝物―工芸品　　齊藤孝正　・建仁寺とお茶　　齊藤孝正
コラム
・建仁寺　四頭茶会　　齊藤孝正・栄西の入宋―南宋社会からのまなざし　　塚本麿充・蘭渓道隆坐像像内納入の頭部残欠　　浅見龍介・正伝院に伝来した二つの肖像画をめぐって　　田沢裕賀・正伝院障壁画（狩野山楽筆）を復元する　　山下善也・六道珍皇寺の小野篁・冥官・獄卒立像　　浅見龍介

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-9

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	S	S	A	A		

判定理由
適時性：栄西禅師の800年遠忌にあわせることで、通常では展示公開が許可されない作品を特別に借用することが出来た。
独創性：禅宗史の側から以外の栄西像を提示した。また、建仁寺派寺院の所在地域との関連性に着目した。
発展性：禅宗あるいは中世仏教をテーマとした研究に基礎的資料を提示したことで研究の深化に重要な役割を果たした。
効率性：研究成果を展示に効率よく反映させることができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	展示作品点数	論文等数	解説数		
判定	S	A	A	A		

判定理由
調査回数：建仁寺派の協力により、通常は調査を許されない祖師像の像内調査などを含んだ各寺院の作品調査を19回、ならびに博物館等公立施設における保管作品調査6回を実施したことで、成果を展示に反映した充実した内容となった。
展示作品点数：会場の大きさを考慮し、テーマ理解にふさわしい観賞が出来る作品点数を考慮した構成とすることができた。
論文等数：展覧会図録に栄西・建仁寺の特徴を理解するのに適切な内容の論文12本を掲載することができた。
解説数：展覧会図録に各作品の見所、特徴を示した作品解説183件を掲載することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	共催の建仁寺派との調整により効率的に作品調査を行ったことで、作品の安全性を考慮しつつ、新発見の成果を取り入れた建仁寺の文化的特徴と作品に対する鑑賞者の理解を深める展示を行うことが出来た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査並びに実験の成果を十分に展覧会に反映することができた。 本展を指標としながらさらなる調査、研究へとつなげていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-12-10
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-10 特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査((5)－②)

【事業概要】
特別展「キトラ古墳壁画」(26 年 4 月 22 日～5 月 18 日開催予定)に関する調査研究
　平成 26 年 4 月 22 日～5 月 18 日開催予定の特別展「キトラ古墳壁画」の開催に向けて、出品候補作品の選定を進めるべく、作品調査等を広く行い、展覧会内容の充実を図る。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　齊藤孝正

【スタッフ】
　井上洋一（企画課長)、橋本英将（学芸研究部調査研究課考古室研究員）

【主な成果】
　国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設においてキトラ古墳壁画の修理進行状況や現状を確認し、展示可能な壁画を検討するとともに、飛鳥資料館にて出土遺物等の調査を実施した。合わせて共催者とも協議を行った。

【年度実績概要】
・25 年 8 月 21 日、10 月 17、18 日、11 月 18 日、26 年 1 月 25、26 日、30 日に修理施設・飛鳥資料館・奈良文化財研究所にて、壁画及び専用展示ケース、出土遺物等の現地調査を実施した。調査の結果、展示予定の壁画５点については輸送・展示に関して問題がないことを確認し、展示する古墳壁画を５点確定した。また専用展示ケースについても性能は当館での展示において十分に使用できることを確認に、当館へ輸送することとした。
・出土遺物については状態が安定している 10 件を確認し、展示リストを確定することができた。
・以上の成果により、壁画５点については専用ケースにて十分なケース間の空間を確保し、免震台を用いて安全に展示できるよう会場設営を実施する予定である。



飛鳥資料館展示中の出土遺物等の調査

【実績値】
・現地調査及び協議回数　　５回
・共催者との打ち合わせ等回数　１４回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-10

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	S	A	A	A	

判定理由
適時性：修理による壁画面再構成を前に移動可能な壁画を調査することができた。
独創性：地元以外での最初の公開は、当館でなければ実施し得ないものであるため。
発展性：本展覧会の実績をもとに、キトラ古墳壁画以外の古墳壁画についても比較調査等が可能であり、特別展等の可能性を検討することができるため。
効率性：限られた準備期間と予算のなかで、効率よく調査・協議を実施することができたため。
継続性：再度のキトラ古墳壁画そのものの展示は難しいと思われるが、出土遺物等は継続して調査研究を進めることが可能であり、高松塚古墳出土遺物等と比較展示も検討することができるため。

２．定量的評価

観点	調査回数	打ち合わせ・検討会回数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：限られた期間のなかで、５回の現地調査及び協議を実施することができた。
打ち合わせ・検討会回数：共催者との間で１４回にわたる協議・情報交換を行う場を設けることができた。
この結果、展覧会を実施するのに十分な協議・情報交換等を行うことができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	限られた時間の中で、充実した内容の調査・協議等を行うことができ、共催者の一つである文化庁とも綿密に連携を取ることができた。この関係をさらに発展させ、新たな調査及び展覧会へとつなげていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査・協議の成果を十分に展覧会の内容に反映することができた。平成２６年度の本展覧会開催施に向け、引き続き調査、研究を進めていきたいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-11
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-11 特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」に関する調査研究((5)－②)

【事業概要】
特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」(26 年 6 月 24 日～9 月 15 日開催予定)に関する調査研究
　平成 26 年 6 月 24 日～9 月 15 日まで開催される特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」に出陳される作品の出品交渉及び調査研究。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課長　富田淳

【スタッフ】
島谷弘幸(副館長)、竹内奈美子(学芸研究部調査研究課工芸室長)、川村佳男(学芸研究部列品管理課主任研究員)、小山弓弦葉(学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員)、塚本麿充(学芸研究部調査研究課東洋室研究員)

【主な成果】
・出品交渉を重ねて作品を決定し、分野ごとに作品の調査を開始した。効果的な陳列、安全な輸送などについて検討した。出陳作品にかかわる伝来などの関連資料を収集した。

【年度実績概要】
・会場構成を踏まえながら、台北國立故宮博物院のコレクションを代表する名品について、25 年 4 月・8 月に出品交渉を行った。
・25 年 11 月に工芸、12 月に絵画・書跡、26 年 1 月に中国絵画・中国書跡・中国工芸・中国考古・図書文献の作品を実見して保存状態を確認し、効果的な陳列や安全な輸送について、台北國立故宮博物院の研究員と検討を加えた。また、分かりやすい展示のためにパネル画像や周辺資料の提供を依頼した。


作品調査風景

【実績値】
・出品交渉 2 回、作品調査 3 回。
・デザイナーとのディスプレイ検討会、5 回。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-11

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	S	A	A		

判定理由
適時性：日本における開催が長年にわたって切望されてきた國立故宮博物院の名品を公開する。
独創性：開催自体が画期的な展覧会である。独自の観点から形成されてきた皇帝コレクションの特別な意味を伝えうる作品を選定した。
発展性・継続性：調査の成果は今後の展覧会の企画立案に寄与するだけでなく、研究上も貴重なものである。

２．定量的評価

観点	調査回数	検討会				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：2 回にわたる出品交渉を重ねて多くの名品を出陳できることとなり、3 回の作品調査では先方の研究員から貴重な情報を提供していただいた。
検討会：作品の特性を考慮しながら、会場への落としこみを 5 回にわたって検討し、皇帝コレクションの魅力を伝えうる構成となった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	会場を踏まえ、皇帝コレクションの特別な意味を伝える台北國立故宮博物院の名品を選定しえた。調印後の限られた時間の中で、作品の調査を開始できた。安全な輸送と、効果的なディスプレイについて、検討をできた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	日本で初めて開催される台北國立故宮博物院の名品展としてふさわしい作品を選定し、26 年度の実施に向けて予定通り調査を開始できた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-12

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-12 特別展「日本国宝展」に関する調査研究((5)－②)

【事業概要】

特別展「日本国宝展」(26 年 10 月 15 日～12 月 7 日開催予定)に関する調査研究

平成 26 年 10 月の開催を予定している特別展「日本国宝展」の展示予定作品の調査研究。

ワーキンググループによる事前の作品選定に基づき、作品の所有者に対する出品交渉及び作品の所在・状態調査を実施する。また関係者との協議を行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課教育普及室長　伊藤　信二

【スタッフ】

田良島哲（学芸研究部調査研究課長）　丸山士郎（博物館教育課教育講座室長）　沖松健次郎（学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員）　品川欣也（学芸研究部調査研究課考古室研究員）

【主な成果】

・出陳交渉に併せて作品の所在・保存状態を調査するとともに、安全な運搬・展示、効果的な展示方法などについて検討し、展覧会の内容充実に大きく寄与することができた。

【年度実績概要】

・仏像、仏画、工芸品、考古資料、歴史資料、建造物のうちいずれも国宝に指定されている貴重な作品について、「信仰」「祈り」というテーマから、作品を厳選した。
・出陳交渉とともに、作品の調査を 19 回実施し、作品が現在どのような状況で保管されているか、展示に耐えうる保存状態であるか、どのように移動させるかといった点について再確認した。
・作品を安全に移動・梱包・搬送・展示する方法、及び効果的に構成・展示する方法について検討を行った。



奈良・元興寺での作品状態調査・搬送検討会

【実績値】

○出陳交渉及び現地調査　19 回
○協議会・検討会回数　7 回
（内訳）
・共済者との協議　5 回
・展示会場デザイン検討会　2 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-12

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：自然災害や経済状況から「こころの時代」が叫ばれる現代、人々が求める「祈り」の造形という観点から、国宝の世界を再構築するというテーマ設定を行った。
独創性：「信仰」というテーマから国宝の作品を厳選し、ジャンルを超えた展示構成を検討した。
効率性：テーマに沿ってあらかじめ国宝作品を選定することで、文化財所蔵者の理解も得やすく、スムーズな作品調査にもつながった。
継続性：平成 26 年 10 月の展覧会開催は無論のこと、今後も研究や展示活用が大いに期待される貴重な国宝の数々について、多くの情報を得ることができた。

２．定量的評価

観点	調査回数	協議会・検討会回数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：全国各地に所在する国宝作品について、19 回にわたり精力的な出陳交渉及び現地調査を実施することができた。
協議会・検討会回数：共催者や施工業者など関係者との間で定期的に 7 回の協議会を行い、運営体制に関して共通理解を得ることができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国宝作品の安全な搬送・展示及び作品研究、充実した展覧会構成、効率的かつスムースな展覧会の運営体制など、展覧会開催に向けて着実な成果を挙げることができた。実績を分析し、見出された問題点の解消につとめたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査並びに協議会・検討会の成果を、着実に展覧会開催のステップとして積み上げることができた。平成 26 年度の展覧会開催に向け、引き続き精力的な調査・協議を進めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-13
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)-13 特別展「みちのくの仏像」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
特別展「みちのくの仏像」(27 年 1 月 14 日～4 月 5 日開催予定)に関する調査研究
平成 27 年 1 月 14 日（水）から 4 月 5 日（日）に開催される、特別展「みちのくの仏像」に出品する東北６県の仏像の選定と調査を実施し、安全な輸送と、展示内容の充実を図る。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課教育講座室長　丸山士郎

【スタッフ】
浅見龍介（学芸研究部調査研究課東洋室長）

【主な成果】
東北６県のうち、岩手・宮城・福島・山形の出品予定作品の出品交渉を終え、一部は作品調査も実施した。うち２件については、作品所在場所の温湿度の調査を実施した。次年度も継続的調査を引き続き実施予定である。

【年度実績概要】

・東北歴史博物館学芸員等の助言を得ながら、出品候補作品を選定した。
・候補作品の約７割の出品交渉を終えた。
・一部の作品所在地の温湿度調査を実施した。
・作品自体の調査にとどまらず、寺の民俗学的な行事の調査も実施し、展覧会図録の執筆や講演会のための資料収集をした。



福島・勝常寺　薬師如来坐像（国宝）

【実績値】
○現地調査
延べ１４寺社、作品所在地の温湿度調査　２箇所
○現地研究者との打合せ　３回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-12-13

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	発展性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：本展覧会は東日本大震災の復興支援を目的とするもので、記憶が薄れてきたいま実施する意義は大きい。
独創性：東京で東北の仏像に的を絞った展覧会は初めてであり、その魅力を伝える貴重な機会となる。
効率性：短期間のうちに多くの調査を実施することが出来た。
発展性：展覧会初出品作も含め、東北地方の重要な仏像が展示されるので、今後の研究に大きく寄与する。作品所在地の温室度の継続的調査のデータは今後の展覧会にも活用可能である。

２．定量的評価

観点	現地調査	現地研究者との打合せ				
判定	A	A				

判定理由
現地調査：短期間のうちに現地調査延べ１４寺社、作品所在地の温湿度調査２箇所と、多くの調査を実施することができた。
現地研究者との打合せ：現地研究者との打合せを３回行い、現地研究者との連携を十分にとることができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	震災復興支援という時機に適った目的と今までになかったテーマの展覧会を企画し、出品交渉・作品調査も順調に実施することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	時機に適った展覧会を企画し、準備が順調に進んでいる。残りの作品の調査を進めるとともに、調査結果をもとに写真撮影・解説・論文の執筆を進めることができる。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
日本の仏教美術の源流たるアジア大陸の文化財に関する調査と研究を実施する。当館の展示活動は、日本だけでなく中国・韓国を含むアジア地域までを視野に入れており、この研究成果は展示に反映して積極的な発信に努めるものとする。調査と研究にあたっては、アジア諸国の研究者との交流、意見交換、さらには共同作業を実施し、日本の文化財との比較検討や相互理解などに資するとともに、将来の展示活動等に向けた情報を収集する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　西山　厚

【スタッフ】
岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、岩井共二（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（企画室長）、清水健（主任研究員）、岩戸晶子（列品室員）、斎木涼子（教育室員）、北澤菜月（美術室員）、山口隆介（情報サービス室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）

【主な成果】
学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で職員の派遣・受け入れを実施し、活発な研究交流・情報交換を実施した。

【年度実績概要】
・学術交流協定を結んでいる韓国国立慶州博物館から 2 名の研究員を各 1 ヵ月間招聘し、当館からは同館へ 1 名を 1 ヵ月間派遣して、研究交流・情報交換した。また、お招きしたうち 1 名の方には、国際研究集会（26 年 2 月 27 日）において、古代青銅器をテーマとする口頭報告を担当していいただいた。
・学術交流協定に基づき、中国上海博物館から 3 名の職員を 10 日間招聘し、当館からは同館へ 3 名を 10 日間派遣して、研究交流・情報交換した。
・学術交流協定を結んでいる中国河南博物院から 2 名の職員を 1 ヵ月間招聘し、当館からは同館へ 2 名を約 1 ヵ月間派遣し、研究交流・情報交換した。
・韓国国立慶州博物館から学芸研究室長を招聘し、展示と文化財研究について意見交換を行った（25 年 10 月）。
・当館研究員 2 名を韓国に派遣し、遠願寺址・浄恵寺址他を調査した（26 年 1 月）。
・科学研究費「南宋絵画史における仏画の位相」（基盤研究(B)23320033）に研究分担者として参画。
・科学研究費「東インド新発掘の仏教遺跡と出土遺品に関する研究」（基盤研究(B)50065934）に研究分担者として参画。
・月例のサンデートークにおいて、当館研究員が「飛鳥仏の源流をたどる」「幸せの国ブータンの仏教美術」のテーマで研究発表した。


国際研究集会

【実績値】
研究員等海外派遣人数　8 名
海外研究者等受入人数　8 名
研究会・講座等発表回数　2 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：国際情勢が刻々と変化する今時において、中国や韓国など周辺諸国の研究機関と引き続き交流し、相互理解の深化を図ることができた。
独創性：当館は、中国の中では比較的日本との交流が少ない河南博物院に、交流事業の重点を置いている。
発展性：韓国からの招聘研究者による研究発表会を実施し、今後の研究発展に資することができた。
継続性：10 年以上の実績を持つ中国上海や韓国慶州との学術交流を引き続き実施し、継続性に厚みを持たせることができた。
正確性：サンデートークでの研究発表は、内容の正確性を保っており、聴講者からの評価も高い。

２．定量的評価

観点	研究員等海外派遣人数	海外研究者等受入人数	研究会・講座等発表回数			
判定	A	A	A			

判定理由
研究員等海外派遣人数：学術交流協定に基づき、順調な成果をあげた。
海外研究者等受入人数：学術交流協定に基づき、順調な成果をあげた。
研究会・講座等発表回数：各研究員の地道な研究成果を複数回発表することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	奈良に立地し、仏教美術を文化財の収集・展示・研究活動の中核に据えている当館にとって、アジア諸地域の文化財に対する調査と研究は、展示活動の充実を図る上で欠かせない業務である。文化財の調査にあたっては所有者との信頼関係が肝要であるが、特に海外機関の場合は信頼関係の構築に時間と手間がかかる。当館は、この認識に基づき、学術交流協定を海外機関と結び、長期にわたる交流を続けてきており、研究や展示にこれまでも反映してきた。本年度も継続的な交流を実行し、順調な成果をあげることができた。次年度以降も同様の関係を継続したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	学術交流協定に基づく中国・韓国への研究員の派遣等を通じて、アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な研究を遂行し、将来の展示に向けた資料の蓄積を進めている。次年度以降も、将来的に開催を目指している特別展「百済（仮）」や「中国遼寧省遼代仏教文物展（仮）」に向けて、当該地域との交流及び当該地域での文化財調査を継続していく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
「国宝　鑑真和上展」「聖地寧波―日本仏教 1300 年の源流」（平成２１年）、「大遣唐使展」（平成２２年）など、日本とアジア諸国の文化交流をテーマとする展示活動を展開してきた奈良国立博物館の実績を重視して、国内外所在の渡来文化財及びその影響の濃厚な文化財の調査、そして日本アジア間の文化交流に関する諸事象を対象とした研究を実施し、その成果を展示や刊行物に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　西山　厚

【スタッフ】
岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、岩井共二（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（企画室長）、清水健（主任研究員）、岩戸晶子（列品室員）、斎木涼子（教育室員）、北澤菜月（美術室員）、山口隆介（情報サービス室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）

【主な成果】
名品展の展示替えに備えて、各研究員が出陳品に関する調査と研究を実施し、その成果を展示キャプションに反映させた。また、今年度に開催した各種のシンポジウム等においては、各研究員の専門分野を生かしながら、当該項目の日亜文化交流の視点に立った研究成果を発表した。

【年度実績概要】
・名品展「珠玉の仏たち」の「中国・朝鮮半島の金銅仏」コーナーに、新たに新規寄託の７件を展示し、研究内容を展示キャプションに反映させた。

・学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」を開催し（25 年 4 月 27 日）、当館研究員が「當麻寺における綴織當麻曼荼羅」のテーマで研究報告したほか、パネルディスカッションに 2 名が参加しコメントした。

・第 42 回夏季講座「仏教美術へのいざない」を開催し（25 年 8 月 20 日～22 日）、当館研究員 3 名が「仏像の荘厳」「仏像の心とかたち」「仏像に会う」のテーマでそれぞれ研究発表した。

・正倉院学術シンポジウム 2013「鑑真和上と正倉院宝物」を開催し（25 年 10 月 27 日）、当館研究員が「鑑真和上の書状」のテーマで研究発表したほか、パネルディスカッションに研究員 2 名が参加しコメントした。

・月例のサンデートークにおいて、当館研究員が「図像から彫像へ―宋本図像と二軀の文殊菩薩像―」のテーマで研究発表した。

・第二回国際シンポジウム「高麗時代　蒲柳雑樹水禽文螺鈿描金香箱」研究（於：韓国国立中央博物館、25 年 11 月 30 日）において、当館研究員が「正倉院宝物と百済文化」のテーマで研究発表した。

・科学研究費「５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」（基盤研究(A)70314341）に研究分担者として参画。

・科学研究費「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」（基盤研究(B)70252509）に研究分担者として参画。



夏季講座「仏教美術へのいざない」会場風景

【実績値】
講座・研究会等発表回数　7 回
展示への反映　7 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：鑑真和上1250年御遠忌の年に、関連のシンポジウムを開催し研究発表できた。
独創性：新たに展示した中国の金銅仏は、当館ならではの仏教美術研究の基礎があったからこそ可能となった研究成果の公開である。
発展性：アジア全体の中での日本仏教美術の位置づけに関する研究は、未開拓の部分も多く、今後の発展が期待される分野であるが、当館研究員は当該分野で積極的に研究成果を発信できている。
継続性：当館の名品展は、コーナーとして「中国・朝鮮半島の金銅仏」が立てられているように、一貫して日本だけでなくアジア諸国まで視野に入れて企画されている。
正確性：研究成果公表の場である展示において、その内容は専門分野以外の研究員によるチェックを経ており、高い正確性が保たれている。

2．定量的評価

観点	講座・研究会等発表回数	展示への反映				
判定	A	A				

判定理由
講座・研究会等発表回数：当館が主催したシンポジウムにおいて、各研究員が専門分野に立って研究発表し、十分な成果をあげた。
展示への反映：展示会場の広さが限られるなかで、7回にもわたって、このテーマの研究成果を展示に反映することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	奈良に立地し、仏教美術を文化財の収集・展示・研究活動の中心に置いている当館にとって、日本とアジア諸国の文化交流という観点からの研究を実施することは、最も基本的な課題と考えられる。本年度も、各種のシンポジウムで積極的に研究成果を公開することができた。また、展示活動でも当該テーマの研究に基づいて、新たに文化財の寄託を受け、展示に反映することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	仏教美術の源流たるアジア諸国の文化に目配りし、特に相互の「文化交流」という観点から、文化財研究を着実に進め、その成果を研究発表等で公表することができた。次年度以降も、将来に開催を計画している特別展「百済（仮）」や「中国遼寧省遼代仏教文物展（仮）」に向け、単なる海外博物館の所蔵品紹介にとどまらない、アジアと日本の文化交流の視点に立った展示内容となるよう、調査の充実と研究の深化を進めていく。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
百済・新羅・高句麗の三国時代の文化を中心とした朝鮮半島の文化財について、日韓共同で考古分野を中心に美術・工芸等の分野での調査研究を実施するものである。現地で実物資料を実見することを基本にするが、同時に我が国に将来された文化財を当館のＸ線ＣＴなどの科学機器を利用した分析をすすめる。この成果は、平成 26 年度に開催予定の「日本発掘展」（仮称）で活用する。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	課長　赤司善彦

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、今津節生（博物館科学課長）、渡部史之（博物館科学課アソシエイトフェロー）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、楠井隆志（展示課展示調整室主任研究員）、鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）、岸本圭（展示課主任研究員）、進村真之（展示課主任研究員）、八尋智之（交流課主任研究員）

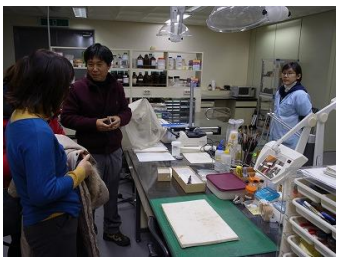
【主な成果】
(1)韓国の 2 つの国立博物館との間で、研究交流を実施して、実物資料の活発な共同調査や情報交換を行った。
(2)九州内の朝鮮半島から伝来した資料等についての調査を実施した。
(3)百済武寧王と縁の深い佐賀県加唐島での韓国研究者との共同での現地調査を行った。
(4)7 世紀の国宝宮地嶽古墳出土金銅装大刀について、朝鮮半島の金工技術との関わりを明らかにすることができた。

【年度実績概要】
(1)・韓国公州博物館の研究員 2 名とともに、国内所在の朝鮮半島と倭国と深く関わる考古遺物について 25 年 7 月 29 日～8 月 11 日までの 2 週間、13 箇所の国内所蔵機関を訪問して、共同での調査を実施した。
・韓国国立中央博物館の研究員 2 名とともに、26 年 3 月 7 日に当館と九州歴史資料館で百済と関わる考古遺物（福岡県内出土考古資料）について調査を行った。
・当館研究員 2 名（考古・保存）が、韓国国内の日本と関連の深い遺跡や遺物を 25 年 11 月 25 日～12 月 7 日までの 2 週間にわたって調査を実施した。
・当館研究員 2 名が百済の遺物について、公州博物館・扶余博物館、中央博物館で調査した。

(2)・宮崎県立西都原考古博物館の学芸担当職員と合同で、対馬島内の韓国との関わりのありそうな文化財について、当館へ輸送しＸ線ＣＴスキャナー等による分析を行った。また、合同での調査成果の検討会を行った。

(3)・25 年 9 月 14・15 日の 2 日間、韓国国立公州大学の教授・副教授とともに佐賀県加唐島の武寧王生誕地の現地調査と、周辺海域から島の地形や眺望を再確認する共同調査を実施した。

(4)・宮地嶽古墳出土金銅装大刀は、7 世紀に日本で制作されたと考えられるが、その金工技術を探るための調査を実施し、大刀の復元模造を制作した。


韓国博物館の保存処理施設での調査風景

【実績値】
調査回数　7 回（韓国との共同調査）
・韓国内での調査 4 回
・日本国内の調査 3 回
Ｘ線ＣＴ分析　3 件（宮崎県内出土考古資料・大分県出土考古資料・福岡県内出土考古資料）
学会研究会等発表　1 件（①）
論文等　1 件（②）

【備考】
学会研究会等発表
①「九州の中の百済及び渡来人の文化」　駐福岡韓国総領事館主催「九州の中の韓国文化」（25 年 12 月 5 日）
論文
②「ダンワラ古墳出土金銀錯嵌龍文鉄鏡の基礎的研究―製作技法と文様構成を中心として―」『東アジア古文化論攷』（26 年 3 月 21 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：日韓では領土問題等の難しい時期にあっても、文化交流を推し進めることができた。
独創性：資料を目の前にして共同で調査できたので、異なる観点で調査することができた。
発展性：日韓の文化財に対する背景の違いや考え方の違いを知ることができたことは有意義である。
効率性：相互に 2 週間という比較的長い期間で調査を行うことができた。
継続性：今回は 2 回目の試みであったため、かなり気を遣う場面が多かったが、調査を実施できた。
正確性：韓国国立公州博物館の協力により、正確なデータを得ることができた。

２．定量的評価

観点	調査回数	Ｘ線ＣＴ分析	学会研究会等発表	論文等		
判定	A	A	A	A		

判定理由
調査回数：計画通りに実施することができた。
Ｘ線ＣＴ分析：目標を達成することができた。
学会研究会等発表：計画通り実施することができた。
論文等：予定通り実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通り調査を実施することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り調査が実施され、当初の目標を達成することができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524－2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）（(5)－②)

【事業概要】
九州はその地政学的特質から日本列島の窓口としてアジアや西洋の文化や技術をいち早く受け入れてきた。そのため、九州には対外交流に関連する文化財が多く残されている。本研究では、九州及びその周辺諸国・地域に所在する対外交流に関係する文化財を対象とする。九州に東西南北 4 つの方向から流入した文化の中から代表的な事象を選んで調査を展開する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

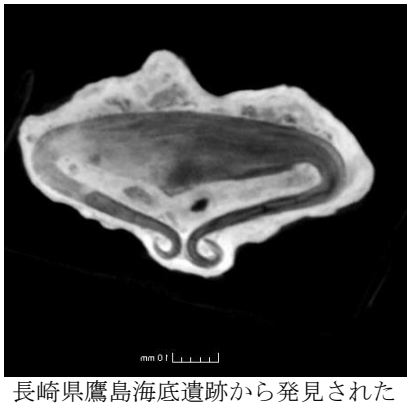
【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、赤司善彦（展示課長）

【主な成果】
本年度は南ルートの対沖縄・鹿児島、及び、西ルートの長崎・佐賀の対外交流文化財及びメキシコの関連文化財を中心にして現地調査を実施した。さらにこれらの文化財を移動して最新鋭のデジタル計測機器を活用した科学調査を実施した。この科学調査の結果をふまえて、学際的な研究チームによる実物調査を実施することにより、これまでにない高精度のデジタル情報を網羅したアーカイブを構築している。

【年度実績概要】
・北ルートの長崎県松浦市鷹島の海底遺跡から発見された元寇関連遺物に関する調査については、Ｘ線ＣＴ調査を実施し、錆と泥に覆われた遺物の立体形状を明らかにした。その中から中国北方民族が特徴的に使用する「火打ち金」を発見した。この成果は新聞等で報道された。

・南ルートの調査として、沖縄のグスクの影響下にある鹿児島県与論島与論城のアーカイブ調査及び、喜界島採集縄文資料調査を実施した。また、近世の首里及び那覇を描いた絵図の調査を実施した。調査先として、那覇市歴史博物館、沖縄県立図書館、沖縄県立公文書館を調査した。那覇市内において、沖縄の研究者と絵図史料に関する研究会を開催した。

・西ルートとして、南蛮屏風や南蛮漆器をはじめ、近世初期における日本と海外との交流を物語る作品を調査した。
①南蛮屏風が成立する前提となった唐船図、②初期の作品を中心とする南蛮屏風、③日本の屏風と関わりの深い西洋・中国の美術、④上記と関わりの深い南蛮漆器などを取り上げた。本年度はメキシコに所在する。日本美術からの影響を受けた作品について現地調査した。また、西洋文化の影響を受けた蘭学資料の調査として、武雄鍋島家資料のうち文書・記録類、典籍類、設計図類、器物類の調査を実施した。本年度内に当該資料の調査を完了し、詳細目録を作成し、武雄市図書館・歴史資料館及び当館で共有することで、今後の保存と活用を図ることを目標に実施している。



長崎県鷹島海底遺跡から発見された中国北方民族が使用した「火打ち金」のＸ線ＣＴ画像

【実績値】
調査件数　11 件
収集資料数　200 点
論文　1 件(①)

(参考値)
新聞等報道　1 件

【備考】
論文
①　「博物館研究におけるＸ線ＣＴ活用の可能性」『東風西声』第 9 号、九州国立博物館（26 年 3 月 31 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524－2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	S

判定理由
適時性：九州各地には対外交流関連文化財が多く残されており、当博物館が中心となって研究に取り組む必要がある。
独創性：高精度の情報を網羅したデジタルアーカイブを構築することで、画期的な博物館情報を蓄積する。
発展性：高精度デジタル計測機器を用いた科学調査を実施して、汎用性の広い高精度の情報を網羅できる
効率性：高精度の情報を基に文化財の保存状態、内部構造・材質技法を網羅した情報を効率的に取得できる。
継続性：対外交流文化財の基礎調査として、本研究を契機に各機関と連携して発展的に展開することができる。
正確性：高精度デジタル計測機器を用いた調査であり、世界最高レベルの信頼性を得ることができる。

２．定量的評価

観点	調査件数	収集資料数	論文			
判定	A	A	A			

判定理由
調査件数：計画通り実施できた。
収集資料数：目標を達成できた。
論文：計画通り実施できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	多様な九州の対外交流文化財について 11 の研究テーマを設定して研究を実施している。本年度は南ルートの対外交流文化財調査として沖縄・鹿児島の文化財について調査を実施することができた。また、西ルートの長崎・佐賀の調査については、近世初期における日本と海外との交流を物語る作品を調査することができた。今後は海外研究機関との国際協力を更に進める必要がある。北ルートの長崎県松浦市鷹島の海底遺跡から発見された元寇関連遺物に関する調査については、研究成果が新聞等で報道された。以上のように、本研究は順調に進んでいる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、当初計画に沿って、研究内容の水準を保ちながら、順調に遂行していると考えられる。引き続き外部資金を積極的に活用しながら、他の研究機関・博物館・教育委員会と連携しながら調査研究を継続し、目標を達成したい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究((5)-②)

【事業概要】
本事業は、武雄市図書館・歴史資料館が所蔵する武雄鍋島家資料のうち、蘭学関係資料（文書・記録類、典籍類、設計図類、器物類）の調査を 24～25 年度の 2 ヵ年計画で実施するものである。調査結果をもとに、管理・学術研究に有用な詳細目録を作成し、両館で共有することで、同資料の保存に資するとともに、展覧会事業において積極的に活用することを目的とする。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室主任研究員　荒木和憲

【スタッフ】

【主な成果】
本年度は、武雄鍋島家資料のなかから約 1,100 点の蘭学関係資料の抽出・調査・目録化作業を達成し、2 ヵ年計画での調査事業を完了することができた。また、前年度の調査事業の成果を反映させた展覧会を、当館及び武雄市図書館・歴史資料館との共同事業として開催し、展覧会の関連事業も積極的に実施することができた。

【年度実績概要】
・武雄鍋島家蘭学資料の抽出・調査・目録化
武雄鍋島家資料は日本有数の蘭学資料の宝庫であり、個々の資料に関する学術的価値は高く評価されてきたが、既存の簡易目録では、蘭学資料の全体像を把握することはできなかった。本年度は他機関から調査協力を得ながら、約 1,100 点の抽出作業及び調査・目録化作業を行い、前年度からの 2 ヵ年で蘭学資料約 2,000 点の目録化を達成した。


モルチール砲

・武雄鍋島家蘭学資料に関する展覧会の実施
前年度調査の成果を反映させたトピック展示「江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－」展（会期：25 年 4 月 16 日～7 月 7 日、会場：当館文化交流展示室）を武雄市図書館・歴史資料館との共同主催事業として開催し、同時に武雄市図書館・歴史資料館主催の企画展「武雄鍋島の蘭学」（会期：25 年 4 月 1 日～6 月 2 日、会場：同館企画展示室）も開催された。上記トピック展示に関連する成果として、図録の発行、講演会の開催、ミュージアムトークの実施が挙げられる。
武雄市教育委員会の呼びかけで、武雄市民（市職員・公民館・商工会議所・女性団体・小中学生・歴史研究会等）の観覧ツアーが企画され、計 11 回の市民向けミュージアムトークを実施したことは特筆される。


トピック展示
「江戸のサイエンス」

【実績値】
調査回数：6 回
調査資料点数：約 1,100 点
展示への反映：1 回　トピック展示「江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－」展（会期：25 年 4 月 16 日～7 月 7 日）
図録：1 件　トピック展示図録「江戸のサイエンス　－武雄蘭学の軌跡－」
講演会数：2 回
ミュージアムトーク：14 回
　一般対象ミュージアムトーク回数：3 回
　武雄市民対象ミュージアムトーク回数：11 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	S	A	A	A

判定理由
適時性：学術的価値の高い公共の文化財の保存・活用に資するものである。
独創性：蘭学資料を個別の関心にもとづき個々に分析するのではなく、その総体を把握することに努めた。
発展性：調査事業を展覧会事業と連動させ、調査成果を市民に還元した。
効率性：限られた調査回数・人数で目標を達成した。
継続性：2 ヵ年計画で計画的に実施した。
正確性：約 2,000 点の蘭学資料の詳細目録を作成した。

２．定量的評価

観点	調査回数	調査資料点数	展示への反映	図録	講演回数	ミュージアムトーク
判定	A	A	A	A	A	S

判定理由
調査回数：概ね当初計画のとおりの成果を収めた。
調査資料点数：当初の見積点数約 1,000 点を上回り、多くの蘭学資料の抽出に成功した。
展示への反映：計画通り実施できた。
図録：予定通り刊行できた。
講演会数：計画通り実施できた。
ミュージアムトーク：武雄市民対象のミュージアムトーク（11 回）は当初計画になかったもので、本事業の発展的な成果である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	2 ヵ年事業の最終年度となる本年度事業では、調査事業・展覧会事業ともに概ね当初目標を達成し、一部は目標以上の成果を収めることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	地域の博物館・美術館等との連携による調査研究・展覧会事業であり、Ⅰ-2「文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信」、Ⅰ-3「我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与」、Ⅰ-4「文化財に関する調査及び研究の推進」、Ⅰ-6「情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信」、Ⅰ-7「地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上」に資する事業である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524－4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関連する作品の調査研究((5)-②)

【事業概要】
本事業は、25 年度上半期に施設の改修工事のため休館することが決定していた神戸市立博物館の全面的な協力を得て、その世界有数の南蛮・紅毛美術コレクションの調査を行う。そして、その調査の成果を、トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画－神戸市立博物館名品展」として共同開催し、図録を制作して広く紹介する。

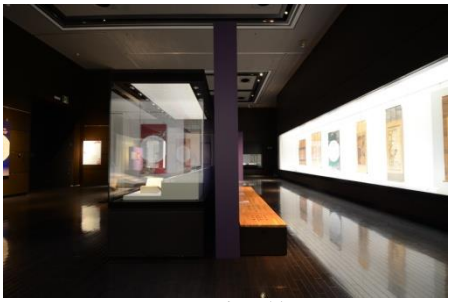
【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室研究員　鷲頭桂

【スタッフ】
畑靖紀（文化財課資料管理室主任研究員）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、川畑憲子（企画課交流展室主任研究員）

【主な成果】
(1)神戸市立博物館の近世美術コレクションの調査研究を行った。
(2)本調査研究の成果として、展覧会を神戸市立博物館と共同開催した。
(3)展覧会の開催により、長崎が中国や西洋との文化交流の窓口になって発展した江戸時代の美術について、観覧者に多くの情報を提供することができた。

【年度実績概要】
○24 年度
・神戸市立博物館にて、所蔵品の調査（約 30 点）を行った。また、神戸市立博物館学芸員とともに展覧会に出品する作品を選定し、展示方法についての意見交換を行った。
○25 年度
・展覧会の図録を制作するために、概論・各論や作品解説等の準備を神戸市立博物館学芸員と共同で進めた。また、出品される作品の追加調査（約 20 点）や新規撮影を行った。
・本調査研究の成果として、トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画―神戸市立博物館名品展」(25 年 7 月 17 日～9 月 23 日)を開催し、展覧会図録を発行した。
・会期中に、以下の講演会を実施した：
「奥行きの発見－18～19 世紀の日本の洋風表現」岡泰正氏（神戸市立博物館　展示企画部長・学芸員）
「舶載蘭書と洋風画」勝盛典子氏（神戸市立博物館学芸員）
ミュージアムトーク 2 回開催
上記を通して、外国との交流が生み出した江戸時代の美術文化について広く紹介する機会を設けた。
・トピック展示の広報を効果的に行うため、総務課、太宰府市に依頼し、その主導のもとトピック展広報印刷物及び特別展広報印刷物を太宰府市の全 44 行政区にポスター、チラシを配付する体制づくりに協力した。(太宰府市 44 行政区、配布物約 2,500／展覧会)


展示室におけるミュージアムトーク風景


展示室風景

【実績値】
調査回数　　2 回
調査資料数　　絵画、工芸作品など　約 50 点
報告書・図録等　1 件　トピック展示図録『視覚革命！異国と出会った江戸絵画―神戸市立博物館名品展』
展示への反映　1 回
　トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画―神戸市立博物館名品展」(25 年 7 月 17 日～9 月 23 日)
講演会等　4 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524－4

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：神戸市立博物館の休館に時期が重なることで貴重な作品を数多く借用し公開することができた。
独創性：来場者が作品の特徴を最も理解し楽しめるよう、事前に模型による展示実験を行う等展示に工夫を凝らした。
発展性：神戸市立博物館の収集方針は当館と近似しており、本事業を通して館蔵品や常設展示への知見も多く得た。
効率性：時間的、人的、設備的に効率よく調査を進めることができた。
継続性：本事業を通して得た知識や情報が、当館の所蔵品研究や収集、展示にも非常に有益である。
正確性：神戸市立博物館の協力により、正確な調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	調査回数	調査資料数	報告書・図録	展示への反映	講演会等	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
調査回数：計画通りに実施することができた。
調査資料数：目標を達成することができた。
報告書・図録等：予定通りに刊行することができた。
展示への反映：計画通りに実施することができた。
講演会等：計画通りに実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通り調査を実施することができ、展覧会にその成果を十分に反映させることができた。また、図録・講演会・ワークショップ・イベント等によりその成果を広く公表することができた。 トピック展開催にあたり、広報を効果的に行うため、総務課、太宰府市の協力を得て、広報物を配付する体制づくりを行った。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り調査が実施され、当初の目標を達成することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-5
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）（(5)-②）

【事業概要】
22 年秋、中国山東省荷澤の工事現場で発見された一艘の木船から、螺鈿箱（いわゆる高麗経箱）をはじめとして、漆器、陶磁器、玉器、金属器、硬貨など 117 点の遺物が見つかった。本研究は、この沈没船遺物、なかでも螺鈿箱に焦点をあて、いまだ未解明である制作技法や、制作年代などについて、科学分析や伝世品との比較調査を通じて明らかにし、高麗螺鈿の歴史的な展開を捉えることを目標とするものである。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	文化交流展室主任研究員　川畑憲子

【スタッフ】

【主な成果】
（1）調査対象とする螺鈿箱の調査分析を、他作例と比較しながら多角的に進めることができた。
（2）螺鈿器及び関連漆器の調査を広範囲に行うことにより、今まで知られていなかった比較作例を数多く集めることができた。
（3）調査の過程で明らかになった新たな検討課題について、考察を深めるための資料を得ることができた。

【年度実績概要】

（1）本年度は、初年度で行った調査をさらに進めるとともに、次年度の総括に向けて、調査データを整理し、新たな検討課題について考察をすすめることに努めた。
具体的には、国内外に所蔵される高麗螺鈿器及び関連作品について、さらに広範囲に、作品調査を行った。

（2）本年度、調査に訪れたおもな所蔵先は、東京国立博物館、徳川美術館、個人（東京）、大英博物館、メトロポリタン美術館などである。調査では、高麗螺鈿器のみならず、同じく出土遺物である宋元漆器までも調査対象とし、当初の計画よりも多くの貴重な作例データを集積することができた。さらには、調査データをもとに国内外の研究者と議論を交わし、研究を深めることができた。

（3）文献資料をあらためて博捜し、他の遺物や他の出土事例とも合わせて検討し、高麗螺鈿の制作地及び制作年代について、これまでの定説を再検討することができた。


菊唐草螺鈿箱（大英博物館）

【実績値】
調査回数　　8 回（国内 4 ヵ所、海外 4 ヵ所）
収集資料数　漆器ほか　約 200 点
研究者海外派遣数　2 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：高麗螺鈿の制作技法や制作年代について検討する、必要な課題に取り組むことができた。
独創性：高麗螺鈿の初めての出土遺物であり、広く知見を得ることができた。
発展性：調査を通して得られた知見を、展示を通して、広く一般に公開することができた。
効率性：時間的、人的、設備的に効率よく調査を進めることができた。
継続性：期間、質・内容において充実した成果を得ることができ、基礎的なデータを集積することができた。
正確性：各所蔵者の協力により、正確な調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	研究者 海外派遣数			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：計画通りに実施することができた。
収集資料数：目標を達成することができた。
研究者海外派遣数：計画通りに実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通りに研究をすすめることができ、次年度の総括に向けて、調査データを整理し、新たな検討課題について考察をすすめることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り調査が実施され、当初の目標を達成することができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）((5)－②)

【事業概要】
本研究は美術史的視点に立脚して、13～18 世紀のタイにおける異文化の受容とその展開を探り、文化交流の実相を浮かび上がらせることを目的とする。タイにおける異文化の受容と変容を明らかにするために、交易品に着目してその関係資料を横断的に調査する。これまでに知られていた資料の理解を深め、新出資料も加えた基礎資料集成を行うとともに、それぞれの資料について正しい評価を行う。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室主任研究員　原田あゆみ

【スタッフ】
研究分担者：小泉惠英（前企画課長）、末兼俊彦（京都国立博物館学芸部企画室研究員）、
研究協力者：藤田励夫（前博物館科学課保存修復室長）、猪熊兼樹（文化庁伝統文化課調査官）、佐藤留実（五島美術館学芸員）、續伸一郎（堺市博物館学芸課主査）、後藤恒（福岡市美術館学芸員）

【主な成果】
上記研究分担者及び研究協力者は、タイ王国文化省芸術局の協力を得て、タイでの現地調査を行った。特に、日本からタイに伝わった交易品に関しては、これまで調査が難しいとされていた王宮内博物館の調査をすることができた。調査地としては国立博物館資料に加え、プライベートコレクションの調査を通し、新しい情報を得ることができた。調査の成果については、同プロジェクト報告会にて発表し、交易品に関する日本側の記録の一部を英訳して現地に還元した。

【年度実績概要】
・25 年 4 月 23 日～25 日仏教美術・歴史班　13 世紀の文化財について調査及び現地共同研究者と調査報告会、次回調査協議。

・25 年 6 月 4 日～14 日　日本国内にてタイ共同研究者と在日タイ文化財について調査及び調査報告会。

・25 年 11 月 6 日～8 日工芸班(染織)　シンポジウム「Weaving Royal Traditions Through Time」参加、バンコク国立博物館染織調査を通し交易染織についての情報を得た。

・25 年 11 月 9 日　現地共同研究者と調査報告会及び本研究を基盤に 29 年開催を目指した展覧会についての協議。

・25 年 11 月 6 日～10 日工芸班（金工・陶磁器）王室博物館、芸術局収蔵庫、バンコク国立博物館、バンコク及び近郊のプライベートコレクションの調査を行い、日本由来文化財及び変容について調査、意見交換を行った。

・25 年 12 月 14 日～15 日歴史班　江戸時代、堺市に伝来したタイ仏画に関する調査として国立美術館及びその周辺で同系統の仏画調査を行った。堺市に伝わった（戦時下に焼失）仏画に関する記録を英訳し、現地共同研究者との情報共有を行った。

・25 年 12 月 28 日～26 年 1 月 2 日民族班　北タイにてタイ族の伝統的生活様式に関する調査を行った。外来文化と在来文化の差異について、現地共同研究者と意見交換を行った。

・26 年 1 月 31 日～2 月 5 日　仏教美術班　13 世紀から 18 世紀のタイ仏教美術に関する調査を行った。現地共同研究者と本年度の共同調査の報告を行った。


在日タイ文化財調査（萬福寺）


在タイ日本文化財調査（王宮博物館）


調査報告会及び展覧会協議（バンコク国立博物館）

【実績値】
調査回数　　8 回（海外：7 回　国内：1 回）
調査報告会回数　4 回（海外：3 回　国内：1 回）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	A	S	B	A	A

判定理由
適時性：本研究は29年の日タイ修好条約130周年事業特別展の基礎となるため、公共性、国際性、緊急性、公開性ともに適している。
独創性：これまで一部に知られながら、具体的な調査がなされていなかった日本から伝わった文化財とタイ社会に及ぼした影響について正当な評価を行っている。
発展性：本研究の成果は日本のみならず、タイ側に還元することができる。また、展覧会という形で公開することで両国の文化理解を深めることが期待される。
効率性：調査は日、タイの共同調査を基本としており、調査成果を共有することができる。しかし、一度に長く滞在できないため、効率性にはやや欠ける。
継続性：本共同研究は19年から始まる当館とタイ芸術局の交流事業が基礎となっており、29年の展覧会を目指し10年という長い期間で計画的に進められている。
正確性：広い分野にわたる調査を展開している。ただし、データベースを構築するための各分野の調査対象は、今後も増やしていく必要がある。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査報告会回数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：本年度は、分野ごとに班分けして調査に臨んだため調査回数は増えたが、分野ごとに集中して調査することができた。
調査報告会回数：日本、タイ双方の研究者が揃って、報告会を重ねることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	プロジェクト2年目の本年は前年に続き、協力者との連携を十分にとり、新知見を得ることができた。日タイ双方揃って報告会を重ねることで、計画的な共同調査を行うことができた。また、調査成果を現地に還元することで、研究者との信頼関係を深め、今後の展開も順調と見込まれる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	予定していたタイ現地での調査を遂行することができた。日タイ双方で、調査研究のための問題点や課題を洗い出し、次年度の対処体制を整えている。29年に展覧会を計画し、それに向けて長期的な視野で研究協力体制を結ぶことができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524－7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流についての調査研究((5)-②)

【事業概要】
ベトナム国立歴史博物館（ハノイ市所在、以下ベトナム歴博）所蔵の日本文化財を調査研究し、その成果を当館も共催に加わる文化庁海外展「日本文化展」（会場はベトナム国立歴史博物館、26 年 1 月 16 日～3 月 9 日）に反映させる。特に、昭和 18 年に日本からフランス極東学院に寄贈された日本文化財の調査に重点を置く。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　岸本圭

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、原田あゆみ（企画課特別展室主任研究員）、藤田励夫（前博物館科学課保存修復室長）

【主な成果】
・ベトナム歴博所蔵の日本文化財を、同博物館の担当者と共に調査し、多くの新たな知見を得た。
・文化庁海外展「日本文化」展で 69 件の文化財を展示し、ベトナムと日本の交流についても紹介した。
・ベトナム歴博編集の展覧会図録に、今回の展示に至る両国の取り組みについて寄稿した。
・ベトナム歴博と意見交換を行いつつ調査を進め、交流を深めることができた。

【年度実績概要】
・文化庁海外展「日本文化」展では縄文時代から江戸時代にかけての日本の文化と歴史に関する文化財を展示した。日本から輸送した文化財が 53 件、ベトナム歴博所蔵品が 16 件である。

・昭和 18 年に当時の東京帝室博物館がフランス極東学院に寄贈した日本の美術工芸品（極東学院交換品）31 件は、これまで行方不明とされていた。調査の結果、ベトナム歴博に、能面、刀の鐔など 21 件が現存していることを確認した。

・このうちの 15 件を「古美術交換ー守り伝えられた文化財」と題するコーナーで展示し、第二次大戦後の苦しい状況下でベトナムの人々が日本の文化財を守り伝えてきたことを紹介した。

・日本関連の文化財は極東交換品の他、博物館独自の収集品もあり、交換品の可能性のあるものを含め記録の作成を行った。

・ベトナム歴博ではこれまで日本文化財の研究はほとんど行われておらず、今回の調査は先方から高く評価されている。

・調査の結果、鎌倉時代の阿弥陀如来像は非常に優れた作風であると評価され、今後日越共同で修理を行う方針を定めた。


文化庁海外展「日本文化」展
極東学院交換品展示状況

【実績値】

調査回数　3 回
調査資料数　30 点

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524－7

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：日越外交関係樹立40年にあたる年でもあり、注目された。
独創性：これまでの日越交流を交換品から紐解こうとするこれまでにない取り組みである。
発展性：日越の交流を物語る文化財であり、今後の交流の際にも象徴的に活用が期待される。
効率性：特別展の打合せの訪越の際に合わせて実施した。
継続性：今回の調査で基礎的な情報の把握ができ、今後の調査・活用等の指針が整理できた。
正確性：工芸分野の担当が調査し、正確な所見が作成された。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査資料数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：訪越のタイミングに合わせて効果的に調査・意見交換を行うことができた。
調査資料数：ベトナム国立歴史博物館の協力で限られた時間の中で多くの作品の調査を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日越外交関係樹立40年という記念すべき年に展示・調査を実施することができ、成果を発信する上で効果的であった。調査を通してベトナム側と交流を深めることができ、今後の展開が期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査・調査成果の公開は、計画通り実施することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-8
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（(5)－②）

【事業概要】
本研究は、中世～近世初期における対馬宗氏領国の特質を、日本列島の政治史、とりわけ中央政権との関連性のなかで連続的にとらえ、もって日本・朝鮮両国の国境地域に存立する宗氏領国の主体性・従属性のありかたを明らかにしようとするものである。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室主任研究員　荒木和憲

【スタッフ】

【主な成果】
本年度は中世～近世初期の対馬宗氏領国に関係する史料の調査・収集・整理を重点的に行った。具体的には、東京大学史料編纂所・国立公文書館・長崎県立対馬歴史民俗資料館で原本・写本・写真版を閲覧・調査し、写真撮影・複写・筆写等による収集を行った。収集史料の翻刻・整理・データベース化を行うとともに、関連図書の収集を進め、刊本等からの関連史料の抽出・データベース化も行った。

【年度実績概要】
・室町幕府関係史料の調査
東京大学史料編纂所・国立公文書館で調査を実施した（25 年 6 月）。史料編纂所架蔵写真帳及び国立公文書館所蔵の写本類のなかから、室町幕府政所執事伊勢氏・執事代蜷川氏関係の史料を中心に閲覧し、従来知られていない対馬宗氏領国関係史料を検出した。

・中世壱岐関係史料の調査
東京大学史料編纂所で調査を実施した（25 年 6 月）。壱岐日高氏関係史料を含む「松浦文書類」（写本）を調査し、『平戸市史』歴史史料編 1 所収の翻刻の誤りを正した。随時、刊本等にもとづき中世壱岐関係史料の検出を行い、前記の「松浦文書類」とあわせて、全文データベースを作成した。

・対馬宗家文庫史料の調査
長崎県立対馬歴史民俗資料館で調査を実施した（25 年 11 月）。宗家文庫史料のなかから、宗家の家譜・系図類、及び宗家菩提寺国分寺関係史料を中心に原本を閲覧し、全冊の写真撮影を行った。あわせて同館に所蔵される新出の中世文書の調査を行い、全点の写真撮影と簡易目録の作成を行った。

【実績値】
調査回数：2 回
収集史料数：75 点
収集図書数：46 冊

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-8

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	A	A

判定理由
適時性：国際交流史研究は近年活発化している分野である。
独創性：中世～近世初期の宗氏領国・日朝交流を連続的に把握する研究は他にない。
発展性：日朝交流史研究にとどまらず、広く国際交流史研究に資するものである。
効率性：通常業務の繁忙により、時間的投資が制約された。
継続性：制約された時間のなかで、最大限の成果を収めた。
正確性：正確なデータにもとづくデータベースを作成した。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集史料数	収集図書数			
判定	B	A	A			

判定理由
調査回数：通常業務の繁忙により、調査回数が当初予定を下回った。
収集史料数：当初予定通り関係史料の調査・収集を行った。
収集図書数：当初予定通り関連図書の収集を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初計画通りの調査成果を収めることができた。 次年度は調査の調査成果を収めることができた。 次年度は調査回数を十分に確保することで、より充実した成果を収めることを期する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は、日本列島と朝鮮半島との交流の窓口であった対馬をフィールドとする調査研究であり、中期計画「日本の文化財及び日本文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。」の趣旨に適うものである。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-9

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9)契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)((5)-②)

【事業概要】
唐滅亡後の東アジアにあって、中国北方に覇をとなえた遊牧民族国家契丹（遼）は、中国文化や仏教を継承する一方、契丹文字を創出するなど文化的な自立を示している。こうした契丹国家形成における重層性を考えるのに、当時の社会構造を視覚的に示す、内蒙古自治区内所在の契丹壁画墓壁画を研究・記録/集成し、公開のための環境整備と新しい展示手法を検討する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	課長　臺信祐爾

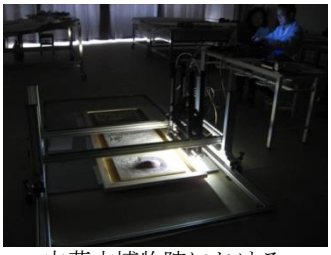
【スタッフ】
今津節生（博物館科学課長）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、畑靖紀（文化財課資料管理室主任研究員）

【主な成果】
・3 年間にわたる研究期間中に行う共同研究の内容について、内蒙古博物院及び内蒙古文物考古研究所と協議し、協約書を締結した。
・京都大学工学部井手亜里教授の協力を得て、内蒙古博物院で修復作業中の壁画資料 30 点について、日本より持ち込んだ機材で高精細画像データを取得した。
・現地で取得した高精細画像データを、パソコンを利用して閲覧、分析ができるようデータ整備を行った。
・現地の研究者と意見交換を行うとともに、既知の契丹壁画墓に関する発掘報告書などの情報を集積した。

【年度実績概要】

・日本文化の形成をアジア史的観点から再構築することを使命としている当館は、唐滅亡後の東アジアの文化交流の実像について、2004 年より、中国内蒙古文物考古研究所と内蒙古博物院と、契丹研究をケーススタディとして共同で進めてきた。こうした実績をもとに、契丹壁画墓に関する本計画を円滑に実施するための協約書を締結した。
当該分野の研究で著名な東潮徳島大学名誉教授と面談協議するとともに、情報を収集した。

・内蒙古博物院構内で修復処理中の壁画資料 30 点について、高精細画像データを作成するとともに、現地研究者との意見交換を実施した。
大容量の高精細画像データを持ち帰り、必要に応じデータファイルを統合するとともに、パソコンでも閲覧や処理ができるようデータ処理を行った。


内蒙古博物院における
高精細壁画画像記録調査

【実績値】

海外出張回数　　2 回
出張人数　　延べ 6 人
取得データ数　30 点（切り取り壁画 30 点について高精細画像データを作成した。）
　上記高精細画像データを、パソコンで閲覧、分析ができるようデータを整備した。

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-9

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：現地でなければ見ることが難しい壁画の高精細画像データを作成し、研究に活用することができる。
独創性：調査記録に切り取り壁画をはめ込み、墳墓内空間を復元することができる。
発展性：一般の人が入ることは基本的にない墳墓内空間を実寸大で復元することで、臨場感がある。
正確性：高精細画像データをスキャナーで作成するため、レンズ収差などのない正確な画像が集成される。

2．定量的評価

観点	海外出張回数	出張人数	取得データ数			
判定	A	A	A			

判定理由
海外出張回数、出張人数、取得データ数：
最小の回数及び人数で現地に赴き、効率的な協議及び調査を行うとともに、高精細画像データ取得作業を実施できたため、今後の作業及び記録について見通しが立った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通り調査を実施することができ、順調に成果を挙げている

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、当初の計画に沿って、順調に成果を挙げている。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-10
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10)水中遺跡の保存活用に関する調査研究（文化庁受託事業）((5)-②)

【事業概要】
我が国は、海外との交流によって歴史文化を育んできた。この直接の担い手が船であるが、近年も長崎県鷹島神崎の海底遺跡から沈没した元寇船が発見されるなど、海中には多くの船体や遺跡が存在すると思われる。こうした水中遺跡は、海外との交流を語る貴重な文化遺産であるが、水中という特殊な立地条件にあるため、その調査や保存活用の手法が確立されていない。そこで水中遺跡の保存活用について国内外の取組について調査研究を行う。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	課長　赤司善彦

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、臺信祐爾（企画課長）今津節生（博物館科学課長）、志賀智史(博物館科学課保存修復室主任研究員)、河野一隆（企画課文化交流展室長）、進村真之（展示課主任研究員）

【主な成果】
海外の水中遺跡についての取組状況を取りまとめるために、現地を訪問し調査を行った。当該国の機関の担当者と膝を交えた直接のやりとりは、表面だけでは把握できない、その国の海に対するとらえ方や歴史感あるいは地方自治のあり方、国民の感心度合いなどを理解することができた。水中遺跡の保存と活用の課題を整理することができた。また、水中遺跡をどのように魅力的に展示するのかという課題についても、これまでにない展示ケースを作成することができた。

【年度実績概要】
(1)諸外国の水中遺跡の調査と保存活用に関する取組み状況調査
主にアジア・オセアニア地域を対象として現地調査や、関係者を招聘する等、水中遺跡の一連の課題を調査した。
オーストラリア　　現地調査　25 年 9 月 30 日～10 月 5 日
中国　　現地調査　25 年 11 月 12 日
韓国　　現地調査　26 年 1 月 14～16 日
イギリス、オランダ　　現地調査　26 年 2 月 11～13 日

(2)国内の水中遺跡の把握調査
水中遺跡の発見は主に漁で引き揚げられる遺物がその契機となっている。その実態について調査した。
現地調査　3 回　長崎県松浦市鷹島町　25 年 7 月 17 日
長崎県松浦市鷹島町　25 年 10 月 15～17 日
鹿児島県宇検村　25 年 11 月 21・22 日


西オーストラリア海事博物館での打ち合わせ

(3)国外関連資料の収集
大韓民国の国立海洋文化財研究所を中心に、主要な海外の諸機関を対象にして、課題についての印刷物の中から必要なものを翻訳している。
韓国、タイの文献。

(4)博物館での水中遺跡の活用手法（展示）の調査検討・展示の試み
平常展示室で、鷹島海底遺物の展示について新しい試みを行っている。
・てつはう実物展示と透明液晶を活用した動画コンテンツを紹介する展示ケースの制作を行っている。
・伊万里湾海底地形模型を３次元プリンターで出力製作するために、海底地形のＤＥＭデータを制作した。

【実績値】
海外調査　4 回
国内調査　3 回
海外招聘　1 回
（参考値）
文化庁との打ち合わせ　9 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-10

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：鷹島海底遺跡で船体が確認され、国民的な話題となっており、これからの方向性を定めるための調査である。
独創性：水中遺跡の内外の取組状況の把握は、まとまったものとしてこれまでなされたことがない。
発展性：水中遺跡に調査研究のガイドライン作成につながる研究と期待できる。
効率性：翻訳業務等、委託できるものは外部に業務をお願いするなど、コストを意識した業務遂行となった。
継続性：アジア・オセアニアの主な水中遺跡に取組んでいる国の状況を把握することができた。
正確性：各国のデータを刊行物によって基礎資料を作り、実際に訪問して関係者と面談したことで、正確な内容を収集することができた。

2．定量的評価

観点	海外調査	国内調査	海外招聘			
判定	A	A	A			

判定理由
海外調査：計画通り実施することができた。
国内調査：計画通り実施することができた。
海外招聘：予定通り実施することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究によって我が国の水中遺跡のこれからの取り扱いを考えるための基礎資料を集積することができた。今後はヨーロッパ諸国の把握に努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、計画に沿って順調に遂行している。引き続き外部資金を積極的に活用しながら研究を継続し、広く研究成果を普及させたい。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-11
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11）特別公開「江上波夫の眼　ことばとかたち」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
文化勲章受章者で考古学者・東洋学者の江上波夫（1906－2002 年）は、ユーラシア全域を研究対象とし、多数の海外調査を主導し多くの成果を挙げてきた。戦前のオロンスム（現中国内蒙古自治区）における元時代のキリスト教会堂遺跡や明時代のチベット仏教関連遺跡に係わる研究ならびに発掘調査成果は世界的な評価を得た。オロンスム関連遺跡に加え、生涯を通じて形成した膨大な個人コレクションのうち各地の言語や美術・考古作品を選んで紹介する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	課長　臺信祐爾

【スタッフ】

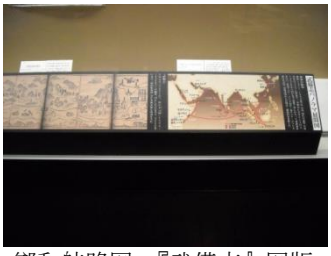
【主な成果】
オロンスムにおけるネストリウス派キリスト教遺跡やカトリック教会堂遺跡に係わる遺物、平面図、キリスト教信者の墓石の拓本や遺物類（元代）、及びチベット仏教関連の拓本や遺物類など（明代）について実物資料を調査した。漢字による文字資料の拓本類多数から代表的な作品を選定した。楔形文字、シリア文字、アラビア文字、パスパ文字、モンゴル文字、契丹文字、女真文字、満州文字、ハングルなどの資料を調査し、展示内容を確定した。

【年度実績概要】
・戦前のオロンスム調査に係わる拓本類、瓦・陶磁片資料、写真資料、平面図等の実物資料について、東京大学東洋文化研究所・東京大学総合研究博物館・横浜ユーラシア文化館で調査した。431 年のエフェソス公会議において異端とされたキリスト教ネストリウス派が唐代の中国に伝来し、13 世紀元時代のモンゴル族の間で信仰されていたことを示す貴重な実物資料から代表的な作品を選んで展示した。

・古代オリエント博物館・横浜ユーラシア文化館で西アジア関連遺物を、また、横浜ユーラシア文化館等で漢字を中心とする文字資料の拓本や細密画などを調査し、展示作品を選定した。

・明代の軍人で宦官の鄭和による南海遠征（1405－1433 年の間に 7 回）により、中国とアフリカ東海岸が直接結ばれたが、これはヨーロッパ諸国による大航海時代に約 70 年先行するものである。中国からアフリカを含む地図上の航海路を図示するとともに茅元儀著の『武備志』に掲載された航路図を横に連続して並べることによって、来館者の理解を助けるパネル作成について検討し、掲出した。

・九州ではなかなか実物を目にすることがないウル第 3 王朝時代の楔形文字による粘土板をはじめ、東アジアで用いられた契丹文字、女真文字、満州文字など各種の文字資料について調査し、陳列用の作品を選定した。


鄭和航路図・『武備志』図版
（鄭和による 7 回におよんだ南海下りの航路と図版をパネルとして掲出した。）

【実績値】

調査回数及び調査資料数　　9 回　140 点
東京大学東洋文化研究所　2 回　資料 30 点調査
東京大学総合研究博物館　2 回　資料 30 点調査
古代オリエント博物館　　2 回　資料 30 点調査
横浜ユーラシア文化館　　3 回　資料 50 点調査

【備考】
江上波夫の紹介、展示する代表的な作品と基礎的情報を掲載したチラシ（A3 二つ折り）を作成頒布した。
（25 年 11 月 1 日）

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-11

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：ユーラシアを研究対象とした江上波夫が体現した国際性を、その旧蔵品から明確に示した
独創性：ユーラシア各地で用いられた言葉にかかわる文字資料を文献だけでなく焼き物などにも見いだした。
発展性：エジプトで生まれた信仰がローマ文化圏で変容しつつ受け入れられたことを実物資料で示せた。
効率性：調査対象機関が限られていたため、効率的に調査できた。
正確性：展示作品に関する所蔵機関による基礎的な先行研究があり、学術的な位置づけはなされていた。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査資料数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数・調査資料数：
旧蔵品のうち、オロンスム資料と文字資料を所蔵する主な所蔵機関を網羅するとともに、すでに基礎的な先行研究のある作品を中心に十分な数の資料を調査することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	楔形文字やアラビア文字等西アジアの文字及び漢時代から明時代に記された漢字、シリア文字、アラビア文字、モンゴル文字、契丹文字、女真文字、ハングル、満州文字など東アジア文化圏で用いられていた文字を一度に展示して、来館者に興味を持ってもらうとともに、古代の人々が作り出した様々な作品を通して、ユーラシアの広がりを感じてもらうことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初計画の通り実施することができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4532-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	1）近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)（(5) -③）

【事業概要】
科学研究費補助金による「南山城の歴史と仏教文化に関する総合的研究」の 3 年目として、引き続き京都府南部寺院の文化財調査を行う。そのデータ整理を進めた。さらにその研究成果の発表の場として、京都国立博物館の特別展覧会「南山城の古寺巡礼」展のため文化財の追加調査・撮影等を行い。調査成果の公表の準備を進めた。展覧会は平成 26 年 4 月 22 日～6 月 15 日を予定している。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　宮川禎一

【スタッフ】
村上隆(学芸部長)、山本英男(美術室長)、尾野善裕(工芸室長)、山川曉(教育室長)、淺湫毅(保存修理指導室長)、鬼原俊枝(列品室長)、大原嘉豊(主任研究員)、羽田聡(主任研究員)、永島明子(主任研究員)、呉孟晋(研究員)

【主な成果】
京田辺市酬恩庵（一休寺）の文化財調査によって未公表の一休禅師の遺品類が見つかった。また金工作品の中でも東南アジアあるいは中国由来の鉄鐘が発見された。さらに原在明筆の庭園図（近世）についてはその絵画表現方法に極めて特異な作品が存在することが明らかとなった。さらに木津川市教育委員会が所蔵する神雄寺出土品の調査で特殊な塑像の破片を確認した。その他様々な新知見を得ることができた。

【年度実績概要】
・前年度までの文化財調査成果（調査カード）の整理作業、パソコンへのデータ入力作業を行った。

・京田辺市の酬恩庵（一休寺）での文化財調査で約 200 点の作品を調査した。

・酬恩庵の調査で染織・金工・絵画などで従来知られなかった文化財が発見され詳細な調査を行った。

・木津川市教育委員会での考古遺物の調査で高麗寺跡・蟹満寺・梅谷瓦窯・山城国分寺跡・神雄寺跡出土品約 50 点を詳細に観察し、撮影も行った。

・京都府埋蔵文化財調査研究センターにおいて馬場南遺跡（神雄寺跡）出土遺物約 20 点の調査を行った。

・京都大学総合博物館で木津川市山城町の椿井大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡など 5 面の青銅鏡の調査を行った。

・京田辺市教育委員会において堀切 7 号墳出土の人物埴輪 1 点の調査と撮影を行った。

・調査で撮影した写真の整理を行った。


一休寺方丈での一休禅師木像の調査撮影風景

【実績値】
調査点数：約 300 点
撮影文化財点数：約 150 点
データ入力件数：約 1000 点

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4532-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	A	B	A	A

判定理由
適時性：京都周辺社寺の文化財調査は寺院側からも調査の要請が強かった。
独創性：多様な方面からの文化財調査であり仏像のみのような調査ではなかった。
発展性：海住山寺様からの情報で山下の未公開彫刻作品の調査などができた。
効率性：京都国立博物館から遠くはないので、調査を継続的・効率的に行うことができた。
継続性：調査3年目であり、引き続き質の高い調査を行うことができた。
正確性：データの蓄積が行われ報告書に向けての客観的情報が整理できた。

2．定量的評価

観点	調査点数	撮影文化財点数	データ入力件数			
判定	S	S	A			

判定理由
調査点数：調査目標数200点のところ、実績300点ほどの文化財の調査が行えたので充分である。
撮影文化財点数：目標の100点を超えて約150点が撮影できた。
データ入力件数：目標の700件を超えて1000件のデータ入力ができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	引き続き木津川流域の寺院の文化財調査が進展したことは評価できる。また古墳や寺院跡から出土した銅鏡や古瓦類の調査も進展したことは評価できる。さらに派生寺院の調査もいくつか実施できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	今回の科学研究費補助金による調査成果の公開としては平成26年4月22日～6月15日の京都国立博物館での特別展覧会「南山城の古寺巡礼」がひとつ。これは順調に準備が進んでいる。一方、文化財の全てをリスト化した「報告書」についてはやや遅延が予測される。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4532-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	2）近世絵画に関する調査研究（(5) -③）

【事業概要】
当館に保管及び寄託される作品を中心とした近世絵画に関する調査研究を行う。再開する平常展示の展示替え計画にあたっての情報整理、基盤固めを行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	前連携協力室長　山下善也

【スタッフ】
奥平俊六（大阪大学大学院教授・客員研究員）、橋本寛子（神戸大学助手・調査支援ボランティア）、吉田智美（同志社大学院生・調査支援ボランティア）、森光彦（京都市学校博物館学芸員・調査支援ボランティア）、大橋あきつ（京都大学大学院生・調査支援ボランティア）、浦上彩音（京都大学大学院生・調査支援ボランティア）

【主な成果】
特別展覧会「狩野山楽・山雪」図録内容に一部反映させた。

【年度実績概要】
・年 2 回、当館近世絵画担当研究員が客員研究員の奥平俊六氏及び調査支援ボランティア等とともに主として館蔵品・寄託品のうち、近世絵画について、調査・調書作成・撮影・意見交換等を行った。




善導寺寄託　「三十三観音図　山口雪渓筆」３３幅の調査

【実績値】
調査回数　　2 回
収集資料数　100 点
調査概報　　12 件（出品 83 件中）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4532-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：続々と入ってくる寄託品の調査を、できるだけ遅れずに実施した。
独創性：文化財・美術史を学びに京都に集まる学生や地元の学芸員のマンパワーを活かした。
発展性：調査の手法を学んだ学生たちが、将来、現場で活躍することが期待される。
効率性：人海戦術により、大量の資料も効率よく調査できた。
継続性：寄託等で作品は増えていくので、継続性は極めて高い。
正確性：調書作成・撮影等、充分に行うことができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	C	A	A			

判定理由
調査回数：責任者が特別展覧会を担当していたため、昨年度と比較して調査の回数が半減した。
収集資料数：1回あたりかなり集中して行い、調査点数を増加させた
調査概報：特別展覧会「狩野山楽・山雪」図録内容に一部反映することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	近世絵画の館蔵品・寄託品についての調査研究及び関連情報収集は、ほぼ順調に進んでいる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	近世絵画担当研究員と客員研究員との協力により、近世絵画の館蔵品・寄託品に関する情報収集・整理が進み、調査研究はほぼ順調に実施されている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4532-3

業務実績書

中期計画の項目	4. 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)漆工芸に関する調査研究(科学研究費補助金)（(5)-③)

【事業概要】科学研究費補助金（若手研究（A)）「内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究」の一環として、国内外の蒔絵の伝世品を調査し、既知の基準作と比較し、また伝世の経緯を伝える史料を研究することによって、近世から近代への微妙な様式変化や、京都とそれ以外の地域の蒔絵の差異を見極めることを目標と定め、京都の蒔絵史を捉えることを目的とする。また海外の所蔵者や研究者との交流を深め、将来の共同研究の在り方を探る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室主任研究員 永島明子

【スタッフ】

【主な成果】昨年度までの成果の一部を当館研究紀要に発表することができた。オランダのライクスミュージアム、スペインのマドリッド国立装飾美術館、イギリスのV&A美術館、フランスのルーヴル美術館、パリ装飾美術館、コンピエーニュ・アントワーヌ・ヴィヴネル美術館などで漆器を調査し、特に 19 世紀パリの漆器コレクションの実例を詳しく知ることができた。日本の研究者が調査に赴くことで、所蔵館の担当者たちの日本漆器に対する関心が高まり、異なる所蔵館のあいだで共同の展覧会を模作する動きも生じてきており、有意義な研究交流を行えた。

【年度実績概要】

・年度当初に昨年度までの成果の一部を当館研究紀要『学叢』に「十八世紀フランスの蒔絵熱: 蒔絵層の剥ぎ取りと高度な模造の実例集」として発表することができた。同時に副次的な成果の一部として「ゴータ・フリーデンシュタイン城美術館蔵画帖:明治政府よりエディンバラ公アルフレッドへの贈答品」を水谷亜希研究員と共著で発表することができた。
・オランダでは 80 年以上行方不明だった 17 世紀のヨーロッパ向け大型櫃の名品を含め、ライクスミュージアムが所蔵する漆器数十点を調査し、V&Aで調査予定の作品の類似品などのデータをとることができた。
・スペインではマドリッド国立装飾美術館において、スペインの修道院や教会に伝えられてきた南蛮漆器を一堂に集めた特別展を見学し、同館における関連作品の調査し、また個人所蔵家の自宅や古美術商の店舗においても漆器を調査した。いずれもここ数年の海外研究者との交流の結果、実現した調査である。
・イギリスでは、万国博覧会の時代を中心とした膨大なコレクションを誇るV&A美術館の収蔵庫における漆器調査を進め、先方に京都国立近代美術館の中尾優衣氏の同行をご許可いただいて、同館が準備中の展覧会への協力も果たすことができた。
・フランスでは、昨年度に引き続き、ルーヴル美術館が所蔵するティエールの漆器コレクションを調査し、その全貌を把握することができた。これについては来年度の研究紀要にて報告する。コンピエーニュでの調査も二年めにしてほぼ全体を見通せた。パリ装飾美術館では同館の学芸員もほとんど見ることがなかった漆器の調査であったため、質問を多く受け、研究交流にもなった。また、コンピエーニュの収蔵品との共通性が発覚し、両館の学芸員たちから、19 世紀の漆器収集家たちについて、将来、共同の展覧会を行えないかとの提案もあり、引き続き連絡を取り合い、情報交換に努めることになった。
・なお、本年度招聘予定であった海外研究者は、所属機関の都合により、来年度来日することになった。



パリ装飾美術館における調査風景
（フランス人学芸員３人が同席）



V&A 美術館蔵「年中行事蒔絵団扇形箱」の調査写真

【実績値】
調査作品数　501 件　撮影カット数　5662 カット

【備考】
「十八世紀フランスの蒔絵熱: 蒔絵層の剥ぎ取りと高度な模造の実例集」『学叢』35 号、京都国立博物館編、2013 年：pp. 19-24 および 107-132。
「ゴータ・フリーデンシュタイン城美術館蔵画帖:明治政府よりエディンバラ公アルフレッドへの贈答品」『学叢』35 号、京都国立博物館編、2013 年：pp. 5-16 および 51-86（共著)。

【書式B】
（様式2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4532-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	S	S

判定理由
適時性：現代の京漆器の担い手たちからの要請もあって企画された事業。海外調査や海外の研究者たちとの交流や情報交換を実施。
独創性：輸出漆器のデータから国内の漆器生産の状況を知る手法の独創性が認められて科研の助成対象となった。
発展性：調査結果をその場で所蔵者に還元。今後の展示や執筆物に活かされる情報を収集した。
効率性：調査後の資料を整理する時間を昨年度にも増してとれていない。非常に限られた時間の中で通訳やコーディネータを使わず海外調査を実施した。
継続性：昨年からの継続事業。研究の大枠は十数年来、一環して続く。比較データの蓄積を行った。
正確性：システマチックな調査と顕微鏡画像を含む比較データの蓄積を行った。

2．定量的評価

観点	調査作品数	撮影カット数				
判定	A	A				

判定理由
調査作品数、撮影カット数：
限られた時間と予算の中で正確なデータを収集するという観点から充分に成果を認めうる数値を達成している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	招聘者の都合で計画の変更があったものの、本研究計画の最終年である来年度中に招聘を実現できる見込みであり、年二回の海外調査の機会を最大限に活かし、海外研究者との交流を一段と深めることができたため、順調と判断する。来年度には今年度の研究成果の一部を発表することができるだろう。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	おおむね計画通りに実施されており、当該年度計画を達成している。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4543-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-1 特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像 －迫真とエキゾチシズム」に関する調査研究（(5)－④）

【事業概要】
特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像-迫真とエキゾチシズム-」（26 年 4 月 5 日～6 月 1 日開催）に関する調査研究
　26 年 4 月 5 日～6 月 1 日に開催する特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像 －迫真とエキゾチシズム」の内容を固めるため、調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部美術室 学芸部情報サービス室	【プロジェクト責任者】	室長　岩田茂樹 室員　山口隆介

【スタッフ】
岩井共二（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、清水健（主任研究員）、佐々木香輔（資料室員）／（外部研究者）内藤浩之（鎌倉国宝館副館長補佐）、高橋真作（同・学芸員）、和澄浩介（同・嘱託学芸員）

【主な成果】
出品候補作品の調査と出品交渉、関連資料の調査研究を行った。

【年度実績概要】
・特別展への展示を予定している作品の多くが寄託されている鎌倉国宝館において、約 50 件の作品につき作品の保存状態を含めた調査を行った。
・特別展に出陳を予定する作品の所蔵者を訪問し、出品交渉を行った。
（鎌倉国宝館寄託分）
円応寺・光触寺・鶴岡八幡宮・建長寺・浄妙寺・浄智寺・円覚寺・神武寺・明月院・荏柄天神社・長谷寺
（その他）
常楽寺・浄光明寺・極楽寺・東慶寺・来迎寺・光厳寺・長安寺・覚園寺



特別展 図録



特別展示チラシ

【実績値】
調査回数：12 回
調書作成数：87 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	S	A	A

判定理由
適時性：26 年 4 月 5 日～6 月 5 日に開催される特別展のための調査であり、公共性・公開性を満たす。
独創性：奈良に限らず、鎌倉以外の地で開催される初めての鎌倉地方の彫刻の展覧会であり、独創性は大である。
発展性：今後の奈良・京都の彫刻との比較により、大きなテーマへと展開できる。
効率性：作品の多くが寄託される鎌倉国宝館の学芸員との共同調査が実施でき、効率的であった。
継続性：今後の東日本の彫刻研究につながるテーマであり、継続性が期待できる。
正確性：個々の作品の調書を個別に作成したので、調書に正確を期すことができた。

２．定量的評価

観点	調査回数	調書作成数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：調査の必要な作品を網羅できた。
調書作成数：87 件は充分な数である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展覧会に対する外部からの問い合わせや期待の声も多く、今後の彫刻研究に大きく寄与するものとして高く自己評価する。この評価を今後の活動に資したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	展覧会の実施に向けて、調査を着実に進めることができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4543-2-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-1　特別陳列「お水取り」に関する調査研究((5)－④)

【事業概要】
南都諸社寺等における文化財の調査、宗教文化に関する調査の一環として、奈良において著名な伝統行事の一つである、東大寺二月堂修二会（お水取り・毎年三月に催行）に関する調査・研究を行い、その成果を毎年恒例開催となっている特別陳列「お水取り」に反映させる。

【担当部課】	学芸部教育室	【プロジェクト責任者】	室員　斎木涼子

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、野尻忠（企画室長）、岩井共二（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、岩戸晶子（列品室員）、清水健（企画室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛利子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
例年恒例となっている、特別陳列「お水取り」開催に向け、出陳を前提とする文化財の調査を行った。

【年度実績概要】
・特別陳列「お水取り」開催に向け、展覧会担当者１名が、出陳を前提とする古文書の調査を東大寺にて行った。特に、東大寺が所蔵する修二会関係文書、重要文化財「二月堂修中練行衆日記」について、従来調査・出陳を行っていない巻・冊に対し、具体的な調査を行い、内容を検討した。その結果、新たな出陳候補となる作品が見いだされたものの、今年度より修二会関係文書が修理に入るため、修理が終了し次第、来年度以降の展示に活用することを提案した。

・特別陳列「お水取り」開催に向け、展覧会担当者２名が、出陳を前提とする文化財（古文書除く）の調査を東大寺にて行った。東大寺が所蔵する修二会（お水取り）関係の文化財、特に民俗資料的な作品を中心に調査し、従来寺内・寺外ともに展覧会等において展示・出陳されたことのない新たな作品を見出し、平成 25 年度特別陳列「お水取り」への出陳を実現した。


出陳作品「懸板」


調査時の様子

【実績値】
・作品調査回数　（人数×日数の延べ回数）　４回
・新聞等掲載の作品解説　２回
・講座等発表回数　２回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：奈良の著名な伝統行事、東大寺二月堂の修二会（お水取り）の時期に合わせ（行事期間26年3月1日～14日）、特別陳列「お水取り」を開催するなど、時宜にかなった研究を公表した。
独創性：東大寺関係者への聞き取り、東大寺所蔵品の詳細な調査など、当館独自の調査成を実施した。こうした文化財調査は、今後の伝統行事研究への大きな礎となるものである。
発展性：修二会のような行事に関わる文化財の調査は、今後の伝統行事研究への大きな礎となるものである。
継続性：奈良の古社寺への調査を継続的に行っている当館でなければできない、新たな文化財発見などを得た。来年度以降も、修二会（お水取り）をテーマとした特別陳列を計画しており、調査研究の蓄積が期待される。
発展性：調査などにより、展覧会図録、展示内容を正確なものとすることができた。

2．定量的評価

観点	作品調査回数	新聞等掲載の作品解説	講座等発表回数			
判定	A	A	S			

判定理由
作品調査回数：
　展覧会の学術面における充実・深化を図るべく、情報交換・内容検討・協議等を行う場を、必要十分な回数、設けることができた。
新聞等掲載の作品解説：
　新聞紙面等における出陳作品の紹介についても、十分な実績をあげた。
講座等発表回数：
　特別陳列「お水取り」開催中、修二会（お水取り）に関連する公開講座を例年１回予定しているが、今年度は２回開催することができた

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良に関連する文化財を展示活動の中核に据えている当館にとって、当該ジャンルに関連する多彩かつ魅力的な展示の企画立案・実施は、社会からの要請が最も強い業務の一つである。このような認識から特別陳列「お水取り」の内容を充実させ、かつそれを学術的な裏付けを伴ったものとすべく、設定した展覧会のテーマに沿った調査研究を展開してきた。本年度は、新たな出陳作品の調査を中心に十分な実績を挙げることができた。次年度以降も将来の企画展示の充実に向けて同様の業務を継続し、着実に成果を挙げていく必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特別陳列「お水取り」の企画立案から開催に至るまでの過程における調査研究を、「仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の、基礎的かつ総合的な調査研究を行う」という計画に沿うよう展開しており、その点において順調に実績を積み重ねている。次年度も、同特別陳列の開催に向けた調査研究を行う予定であり、これを円滑に遂行し、確実な成果の蓄積へと導く業務のサイクルが、すでに確立されている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-2 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究（(5)－④）

【事業概要】
南都諸社寺における文化財の調査、宗教文化に関する調査の一環として、奈良の伝統行事である「春日若宮おん祭」に関する調査・研究を行い、その成果を毎年恒例となっている特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映させる。

【担当部課】	学芸部情報サービス室	【プロジェクト責任者】	室長　吉澤　悟

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、北澤菜月（ボランティア室員）、清水健（企画室員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）、幡鎌一弘（天理大学おやさと研究所研究員）、松村和歌子（春日大社宝物殿主任学芸員）

【主な成果】
本年の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、これまでに注目されたことのなかった「大和士：やまとさむらい」の実態を、新史料の公開も含めて取り上げ、広く紹介することができた。

【年度実績概要】
・プロジェクト責任者及び展覧会担当者が、春日大社及び天理大学の幡鎌氏と共同して、奈良県内に在住する旧大和士家と懇談、先祖の活動の聞き取りや所蔵する文化財の調査等を行った。その結果、新撰組山崎丞の手紙や天誅組の伴林光平の掛け軸など新出史料を旧家から借用・展示紹介することができた。

・旧大和士家の所蔵する「大宿所春日若宮祭式事件並品書」（明治 3 年）を借用、展示したが、おん祭研究におけるその史料の重要性に鑑み、今年の展示図録では「参考資料」として同書の前頁を写真掲載することにした。

・今年のテーマ「大和士」は、春日大社が発行する「第 878 回　春日若宮おん祭」パンフレットでも特集が組まれて、また地元情報誌「ならら」でも総力特集するなど、神社と地域と博物館が連動して一つの話題を盛り上げることになった。これは春日大社をベースに密接な人的交流により実現した「波」であり、博物館の調査・研究の良きモデルを提起できたと考える。



史料調査時の様子



同展で展示した「随兵甲冑」

【実績値】
・図録発行部数　1,800 部
・新出史料の紹介数　19 件
・作品調査回数（人数×日数の延べ回数）　8 回
・新聞等への作品解説　3 回
・講座等の発表回数　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適宜性：春日大社の若宮おん祭の実施に併せて行われる恒例の展示である。特に今年はおん祭の当日を無料観覧日として、観覧者の倍増をはかり、この祭のすばらしさを多くの方に伝えることができた。
独創性：恒例の展示部分に、新規のテーマ「大和士」を盛り込むことで、これまで注目されてこなかった、おん祭を支えてきた人々の苦労と誇りを示すことができた。
発展性：新出の史料を多く紹介できたことは、今後のおん祭研究の基礎の一部をなすものと思われる。また、春日大社と天理大学の協力・連携を密にしたことも、今後の調査研究を円滑化するものと思われる。
効率性：春日大社と旧大和士家の、いずれも奈良県内から展示品を借用したため、輸送は効率的であり、会場造作も大がかりなものはなく経済効率も高かった。
継続性：「おん祭と春日信仰の美術」は今回で８回目である。前回まで７回を担当した者から、今回は新たに別の担当者が引き継いで実施している。春日大社との交流もつつがなく、旧来の枠組を継承しつつ、新規の発想を加えることで、さらなる継続性を確保している。
正確性：館内職員の活動だけではなく、大学や神社の第一線の研究者の見解を容れ、実地指導も受けながら展示品の選定や解説、展示等を行った。図録掲載の解説は、当該分野では最も高い水準をもつと考えられる。

２．定量的評価

観点	図録発行部数	新出史料の紹介数	作品調査回数	新聞等への作品解説	講座等の発表回数	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
図録発行部数：
新出の史料を含めた図録を 1,800 部発行した。巻頭には総論と各論を１本づつ掲載し、さらに巻末には参考資料として重要史料の全頁掲載を行い、質の高い図録とした。
新出史料の紹介数、作品調査回数：
春日大社や手向山八幡社、及び旧大和士家４軒の所蔵品を調査し、未公開の史料をこれまで以上に多く見い出すことができた。
新聞等への作品解説・講座等の発表回数：
数値的には例年並みである。ただし、今年は正規の講座でなく、おん祭当日に参集した観覧者にギャラリートーク的な臨時の展示解説を行い、新出史料を中心とした解説を数回行っている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	奈良に関連する文化財を展示活動の中核に据えている当館にとって、「おん祭と春日信仰の美術」の毎年開催に伴う調査研究は非常に重要な意味をもつ。ことに本件に関しては、春日大社と当館の間で強い信頼関係が築かれていることが前提となっている。今年は主担当者を交替しての取り組みであったが、新出史料の発掘に成功するなど、例年に劣らぬ成果を上げることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」は今年で８回目を迎えたが、その実施は「仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の、基礎的かつ総合的な調査研究を行う」という計画に沿って行われており、順調に実績を積み重ねていると言える。この特別陳列は春日大社との協議によって次年度以降も継続する予定であり、積年の蓄積は当館のみならず奈良における大きな財産になるものと期待される。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-3 當麻曼荼羅完成 1250 年記念特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」に関する調査研究（(5)－④）

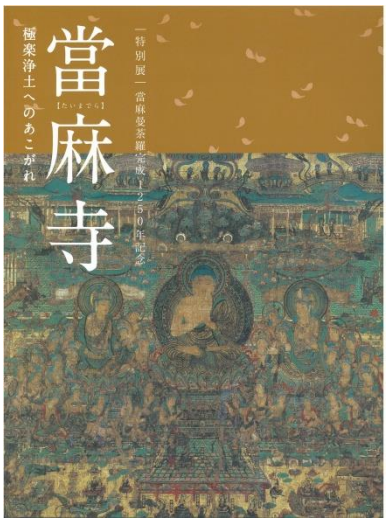
【事業概要】
特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」（25 年 4 月 6 日～6 月 2 日）に関する調査研究
　奈良諸社寺等における文化財の調査、宗教文化に関する調査の一環として、奈良・當麻寺の重宝であり日本の浄土信仰上重要な位置を占める国宝綴織當麻曼荼羅を中心に、當麻寺及び當麻曼荼羅に関わる文化財の調査・研究を行い、特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」の展示内容に反映させるとともに、今後の事業に資する基礎調査を行う。

【担当部課】	学芸部美術室	【プロジェクト責任者】	室員　北澤菜月

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（企画室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、岩井共二（教育室長）、清水健（企画室員）、岩戸晶子（列品室員）、斎木涼子（教育室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
　特別展開催のために行われてきた調査研究に基づき特別展を開催するとともに、展覧会開催中にも写真撮影を含む調査研究を行い、展示品に関する基礎データの集積を行うことができた。

【年度実績概要】
・展覧会開催以前から続けてきた調査研究の成果は、特別展図録収録の総論、各論、作品解説、及び図版に反映することができた。
・特別展に伴い多くの関連作品を借用することがかない、事前に詳細な調査ができなかった作品について、写真の撮影や基礎的調査を行った。またその成果を新聞等掲載の作品解説や、展覧会期間中に開催した学術シンポジウム及び公開講座の際に発表することができた。



特別展図録

【実績値】
・特別展図録刊行　　4,000 部
・論文等　９件
・作品調査回数（人数×日数延べ回数）　25 年度５０回
・新聞等掲載の作品解説　　４回
・公開講座、学術シンポジウム発表回数　７回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：綴織當麻曼荼羅完成１２５０年という記念の年であったからこそ、通常公開されることのない重要な作品を展示公開することが出来た。そのため、作品を所蔵する寺院と来館者の、双方の需要をかなえることができた。
独創性：奈良の古代寺院の一つである當麻寺をテーマにした特別展は、過去に例がなく、日本の信仰史上で重要な位置を占める當麻寺を紹介する初めての企画として、当館に相応しくまたオリジナリティのある内容であった。
発展性：特別展前及び開催期間中の調査研究の成果は今後の当館の活動に資するものとして発展性が認められる。
効率性:當麻寺の所蔵品を主として展示を行ったため､出陳交渉を節減し効率的な特別展を開催をすることができた。
継続性：當麻寺展に関する調査研究は、展覧会開催の３年前より開始し、當麻寺所蔵寺宝の悉皆的な調査を行うことができた。その調査結果の上で特別展を開催するとともに、会期中にも継続した調査研究を行い、今後の当館の展示や調査研究に資する基礎的データを集積することができた。
正確性：調査研究に基づく最新の研究成果を展示や図録、公開講座に反映することができた。

２．定量的評価

観点	特別展 図録刊行	論文等	作品調査回数	新聞等掲載の 作品解説	公開講座等	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
特別展図録刊行：調査研究の成果を反映した内容の図録を 4,000 部刊行することができた。
論文等：企図したとおり、調査研究をもとにした学術的に高度な論文が執筆された。
作品調査回数：企図したとおり、展覧会期間中も主要作品の詳細な撮影や調査を行った。
新聞等掲載の作品解説：予定した通り、調査研究の成果を反映した解説を掲載することが行われた。
公開講座等：予定した通り、調査研究の成果を反映した公開講座やシンポジウムを行うことができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良に関連する文化財を展示活動の中核に据えている当館にとって、当該ジャンルに関連する多彩かつ魅力的な展示の企画立案・実施は、社会からの要請が最も強い業務の一つである。このような認識から、奈良の文化財として非常に重要な綴織當麻曼荼羅を所蔵する當麻寺の展覧会は当館に相応しく、開催に向けた調査研究を展開し、これを実現するとともに、今後活用できる基礎的データを集積することがかなった。今後も将来の企画展の充実に向けて同様の業務を継続し、着実に成果を上げていく必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特別展の企画立案から開催、及び会期中の調査研究は、「仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の、基礎的かつ総合的な調査研究を行う」という計画に沿うように展開しており、その点において順調に実績を積み重ねている。次年度も企画展のテーマに沿って同様に調査研究を展開し、同レベルの成果を得ることが見込まれる。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2-4)　特別展「みほとけのかたちー仏像に会うー」に関する調査研究((5)－④)

【事業概要】
特別展「みほとけのかたちー仏像に会うー」(25 年 7 月 20 日～9 月 16 日)に関する調査研究
　館蔵品・寄託品を中心に、仏像の魅力を再検討するための調査研究

【担当部課】	学芸部教育室	【プロジェクト責任者】	室長　岩井共二

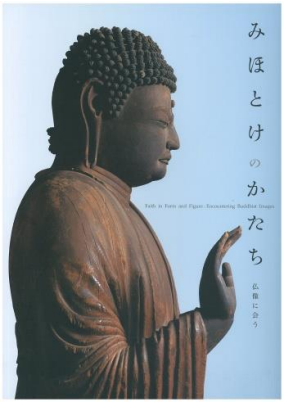
【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、野尻忠（企画室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、斎木涼子（教育室員）、岩戸晶子（列品室員）、清水健（主任研究員）、北澤菜月（教育室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）

【主な成果】
　特別展開催にあたり、館蔵品・寄託品等の調査・撮影を行い、その成果を、展示会場内の解説や各種刊行物等に反映させた。

【年度実績概要】
・平成 25 年 5 月から 6 月にかけて、館蔵品・寄託品の出陳品のうち、未刊行の作品や、写真原板のないものについては、当館写場にて、新規撮影を行った。展示テーマに関連した部分図など図録掲載に必要な撮影もあわせて行った。
・平成 25 年 5 月から 6 月にかけて、館蔵品・寄託品を調査し、採寸を行い、その成果に基づいて展示台の高さや会場構成を検討し、展覧会の重要命題である「仏像の魅力をわかりやすく提示する展示」に反映させた。
・展覧会のテーマに沿って、仏像の形状や材質の詳細を調査し、図録解説、コラム等の文章に反映させた。



展覧会会場風景



特別展図録

【実績値】
　作品調査撮影件数　40 件
　図録刊行数　10,000 部
　公開講座開催　2 回
　展覧会連動企画「夏季講座　仏教美術へのいざない」開催　1 回
　論文等　3 件(①～③)

【備考】
論文等
　①西山厚「仏像に会う」（図録『みほとけのかたちー仏像に会う』掲載）
　②岩井共二「聖なるもの形としての仏像」（図録『みほとけのかたちー仏像に会う』掲載）
　③コラム「仏像の服装」ほか 14 編（図録『みほとけのかたちー仏像に会う』掲載）

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：仏像ブームと言われる昨今、仏像の魅力を伝える展覧会構築が求められていた。
独創性：仏像の種別・年代によらない仏像紹介という既存の展示にはない新規性を探求した。
発展性：仏像の多様性の紹介するためのパネル・バナー等を用いて、より明解な説明を行うなど、今後の展示法に応用可能な展示手法を確立した。
効率性：館蔵品・寄託品を中心に外部借用をせず輸送費や出陳交渉時間を節減し効率よく運営した。
継続性：名品展の展示などにおけるテーマへ応用できるため。
正確性：館蔵品・寄託品の調査研究に基づく最新の見解を展示解説や刊行物に反映させた。

2．定量的評価

観点	作品調査 撮影件数	図録刊行数	公開講座開催	展覧会連動企画 「夏季講座」開催	論文等	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
作品調査撮影件数：図録に必要な図版写真の撮影と調査を実施し、図録刊行に反映させた。
図録刊行数：調査撮影を反映した内容の図録を10,000部刊行することができた。
公開講座開催：展覧会内容に即した講座を開催し、定員数の受講者を得た。
展覧会連動企画「夏季講座」開催：展覧会内容に即した講座を開催し、定員数の受講者を得た。
論文等：展覧会構築のための調査研究の成果をもとに執筆した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良に関連する文化財を展示活動の中核に据えている当館にとって、当該ジャンル~~類~~に関連する多彩かつ魅力的な特別展の企画立案・実施は、社会からの要請がもっとも強い業務の一つである。このような認識から特別展の内容を充実させ、かつそれを学術的な裏付けを伴ったものとすべく、設定した展覧会のテーマに沿った調査研究を展開してきた。本年度は、当該年度及び次年度以降に開催予定の展覧会に関わる研究活動を作品調査中心に進め、質量両面において大きな実績を上げることが出来た。次年度以降も将来の企画展示の充実に向けて業務を継続し、着実に成果を上げていく必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	作品調査に基づく館蔵品・寄託品の計画的収集や効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するという目標に沿って、作品の基礎的かつ総合的な調査を着実に進め、成果を積極的に公表している。当該項目については確実に実績を挙げることのできる体制と業務サイクルがすでに確立されており、次年度以降も同様の活動を継続し、同レベルの成果を得ることが見込まれる。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）特別展「正倉院展」に関する調査研究（(5)－④）

【事業概要】
特別展「第 65 回正倉院展」（25 年 10 月 26 日～11 月 11 日）に関する調査研究
　毎秋恒例の「正倉院展」を最も重要な事業の一つに位置づけている奈良国立博物館の運営方針に沿って、正倉院宝物に関する調査研究活動を行い、その成果を展示や刊行物等に反映させる。

【担当部課】	学芸部工芸考古室	【プロジェクト責任者】	室長　内藤　栄

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、野尻忠（企画室長）、岩井共二（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、斎木涼子（教育室員）、岩戸晶子（列品室員）、清水健（主任研究員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
　正倉院宝物に関連する調査研究を積極的に進め、その成果は当館が編集・刊行した展覧会図録『第 65 回正倉院展』に掲載されたのに加え、「正倉院展」会場での解説パネル類、新聞連載記事、講座・シンポジウムにおける口頭発表等に反映された。

【年度実績概要】
・「第 65 回正倉院展」開催に際し、同題の展覧会図録（和文及び英文）を編集・刊行した。出陳宝物調査資料の精査に基づいて各人が執筆した原稿を当館研究員全員で討議・吟味し、内容を確定した各個解説を掲載した。同図録には当館研究員の執筆した関連論考（「宝物寸描」）2 篇も掲載した。会期中には新聞紙上で当館研究員執筆による宝物紹介記事を連載し、公開講座では当館研究員 1 名が研究成果を披露した。また当館が企画運営した正倉院学術シンポジウム 2013「鑑真和上と正倉院宝物」（於：奈良県新公会堂、25 年 10 月 27 日）でも研究員 1 名が正倉院宝物に関連する研究成果を発表し、討論に参加した。



「第 65 回正倉院展」図録

【実績値】
　展覧会等図録刊行　2 冊
　講座・研究会等発表回数　2 回（正倉院展講座 1、正倉院シンポ 1）
　論文等発表本数　2 本（①～②）

【備考】
論文等発表
　①谷口耕生「漆金薄絵盤（香印坐）の製作をめぐって」（図録『第 65 回正倉院展』掲載）
　②野尻　忠「計帳手実を読む～但波吉備麻呂、四十年の歩み」（図録『第 65 回正倉院展』掲載）

【書式Ｂ】
（様式２）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：正倉院宝物が一般公開される唯一の機会であり、長年にわたり毎年観覧する人も多く需要、公共性も高い。近年中国、韓国などアジア諸国からの見学者も増えている。
独創性：毎年開催されるが展示される宝物は毎年変わり、また近年テーマ性も強くなっている。正倉院宝物を鑑賞できる機会は他になく、独自性は高い。
発展性：６５回を迎えたがマンネリにならないよう、展示方法の工夫、新しいファンの開拓、学校教育との連携など、種々の試みを行い、成果が上がった。
効率性：宝物の収蔵場所から当館までの距離は近く、時間的、物理的にも効率が高い。また、他の特別展に比べ学芸部全員で取り組み体勢ができているため、業者に依存する割合が低い。
継続性：毎年秋に開催しており、学芸部職員の宝物に対する知識、研究態度、そして扱い方法の熟練度は高い。毎年来館する固定のファンは多い。
正確性：正倉院事務所が発表する基礎的な成果を展覧会や図録に反映している。図録は可能な限りの写真、データを掲載しており、学術的にも充実している。

２．定量的評価

観点	展覧会等 図録刊行	講座・研究会等 表等回数	論文等発表 本数			
判定	A	A	A			

判定理由
図録等刊行：開催した特別展で図録を刊行できた。
講座・研究会等発表回数：当該研究の成果を反映した口頭発表を実施することができた。
論文等発表本数：当該研究の成果を盛り込んだ文章を各種公表することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	かつて平城京がおかれた奈良には、独特の魅力に富んだ地域色豊かな文化が形成され、開花した。そこには当館が展示・調査研究の主軸としている仏教美術の枠に収まりきらない要素が、多分に含まれている。また奈良時代の日本に開花した文化の高い水準と国際性を、最も雄弁に物語る存在である正倉院宝物を、毎年恒例の「正倉院展」で展示する館として、当館は世界でも唯一無二の存在である。これら諸点に鑑み、正倉院宝物及び奈良という地域に密着した文化財の調査研究を展開し、その魅力を掘り起こして展示・刊行物等で広く紹介する活動を行ってきたが、本年度もこれまで同様、質量両面において十分な実績を挙げることができた。次年度以降も同様の業務を継続し、着実に成果を挙げていく必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	正倉院宝物や奈良という地域に密着した文化財に関する調査研究は、「仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の、基礎的かつ総合的な調査研究を行う」という計画の趣旨にきわめてよく適合するものであり、その成果の展示等への反映も要請度の高い業務である。本年度は恒例の正倉院展開催時の刊行物や講座・シンポジウム、各展覧会の図録等において優れた成果を公表することができ、順調に実績を挙げることができた。次年度以降も同レベルの成果を得ることができるよう、この方面における調査研究活動を継続的に実施していかねばならない。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-4

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4) 綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。((5)－④)

【事業概要】

奈良国立博物館と東京文化財研究所との間で締結した協定書に基づき、両機関の共同研究として仏教美術作品の光学的調査を実施し、使用材料、製作過程等について検討するとともに、高精細デジタルコンテンツを作成する。光学的調査は、高精細フルカラー画像の作成、可視光励起による高精細蛍光画像の作成、高精細反射近赤外線画像の作成、高精細透過近赤外線画像の作成、蛍光Ｘ線による非破壊分析、を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　西山　厚

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、野尻忠（企画室長)、岩井共二（教育室長)、宮崎幹子（資料室長)、谷口耕生（保存修理指導室長)、吉澤悟（情報サービス室長)、斎木涼子(教育室員)、岩戸晶子(列品室員)、清水健(主任研究員)、北澤菜月(ボランティア室員)、山口隆介（情報サービス室員)、永井洋之(工芸考古室員)、原瑛莉子(企画室員)、佐々木香輔(資料室員)、【東京文化財研究所】田中淳(企画情報部長)、綿田稔(文化財アーカイブズ研究室長)、早川泰弘(分析科学研究室長)、城野誠治(専門職員)

【主な成果】

(1)前年度に実施した国宝 綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）の調査画像データの分析を進め、重要関連作品である裏板曼荼羅（當麻寺本堂厨子安置）及び貞享本當麻曼荼羅の高精細カラー画像・近赤外線画像の撮影を実施した。

(2)大徳寺五百羅漢図の総合調査報告書の刊行に備え、京都国立博物館寄託分の大徳寺本 20 幅について追加調査を実施し、さらに画絹組織及び各幅の主題に関する検討会を重ねた。

【年度実績概要】

(1)前年度に実施した国宝 綴織當麻曼荼羅（奈良・當麻寺蔵）の調査で得られた画像データの詳細な検討を加えるとともに、宮内庁正倉院事務所染織担当研究員と綴織當麻曼荼羅原本の再調査を実施してその綴織組織の現状確認を行った。併せて関連重要作品である當麻寺本堂安置の裏板曼荼羅及び貞享本當麻曼荼羅について、高精細カラー画像及び近赤外線画像の撮影を実施した。

(2)平成 23 年度に刊行した『大徳寺伝来五百羅漢図　銘文調査報告書』の成果を踏まえ、大徳寺五百羅漢図に関する総合調査報告書の年度内刊行を目指して研究会を重ねた。さらに同報告書に掲載するために東京文化財研究所のカメラマンとともに大徳寺五百羅漢図のうち京都国立博物館寄託分の 20 幅について追加調査・撮影を実施した。さらに画絹組織の特色を明らかにするために、新たに撮影した画絹の顕微鏡写真について検討を重ね、併せて各幅の絵画技法や画題・出典など美術史的立場からの研究会も実施した。



高精細デジタルカメラを用いた
大徳寺五百羅漢図撮影（25 年 7 月 3 日於京博）

【実績値】

調査回数　4 回：25 年 4 月 27 日、5 月 29 日、7 月 3 日、10 月 9 日

調査作品数　3 件　22 点：

国宝　綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）1 幅
裏板曼荼羅（當麻寺蔵）1 面
五百羅漢図（大徳寺蔵）20 幅

研究会開催件数　4 回：

奈良国立博物館で 25 年 7 月 22 日、12 月 21 日
東京文化財研究所で 25 年 8 月 23 日、26 年 1 月 12 日

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-4

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：調査成果を特別展の展示内容や文化庁復原模写事業等に着実に反映させることができた。
独創性：可視光励起による蛍光画像撮影等、文化財への応用が進んでいない最新の光学機器を用いた調査を実施した。
発展性：仏教絵画における顔料・絵画技法の解明を進めるため、光学的調査で得られた基礎データを蓄積した。
効率性：当初計画どおり綴織当麻曼荼羅及びその重要関連作品である裏板曼荼羅の調査も年度内に実施することができた。
継続性：東京文化財研究所と締結した協定に基づき、平成 17 年度から継続的に調査を実施している。
正確性：最新の光学機器を用いてデータを収集し、得られた成果をもとに検討会を重ねて報告書作成の準備を進めた。

２．定量的評価

観点	調査回数	調査作品数	研究会 開催件数			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数　：計画的に 4 回・4 日間にわたる調査を実施した。（目標：3～4 回程度）
調査作品数：日本古代及び中国宋代仏教美術を代表する文化財 3 件について調査を実施した。（目標：2～3 件）
研究会開催件数：東京と奈良でそれぞれ研究会を実施し、収集データの検討を重ねた。（目標：2～3 回）

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、前年度から調査を進めてきた當麻寺所蔵の国宝綴織當麻曼荼羅について、関連作品と併せて継続的な調査を実施することができた。とりわけ最新鋭の光学機器を用いた調査の実施により、従来は不明だった文化財の材質や構造を明らかにすることができ、また文化財の保存・修理を将来行う上での指針となる詳細な現状記録を残すことができた。また、共同研究のメンバー以外にも当該作品を総合的に評価するために外部の研究者を招聘して調査を実施するとともに、調査によって得られたデータをもとに研究会を行った。特に本年度は、高精細カラー画像や近赤外線画像、顕微鏡写真などを用いて綴織當麻曼荼羅及び関連作品の綴織組織の分析を中心に実施し、基礎的データの収集に努めたが、次年度にはさらに追加調査を重ねていくことで分析の精度を高め、報告書の刊行につなげたい。また大徳寺五百羅漢図の追加調査を実施して、当初の計画どおり年度内を目指して同五百羅漢図の総合調査報告書の刊行準備を進めることができた。なお本年度については、調査前・調査後の検討会を綿密に行った結果、従来は１週間程度かかっていた１回あたりの調査実施期間を 1 日程度に圧縮して、スムーズな日程調整を実現し、作品自体への負担を軽減することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。 調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、報告書・目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究（(5)－⑤）

【事業概要】
当館がコンセプトに掲げているアジアとの交流について、関係諸国とのさまざまな形での研究活動を進め、これを展覧会や研究報告の形などで示していく。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	課長　臺信祐爾

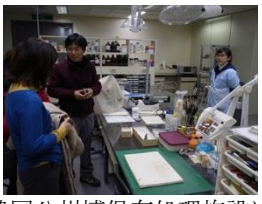
【スタッフ】
藤田励夫（前博物館科学課保存修復室長）、原田あゆみ（企画課特別展室主任研究員）、赤司善彦（展示課長）、渡部史之（博物館科学課アソシエイトフェロー）、遠藤啓介（展示課研究員）、望月規史（文化財課アソシエイトフェロー）、川畑憲子（企画課文化交流展室主任研究員）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、末兼俊彦（京都国立博物館研究員）、猪熊兼樹（文化庁伝統文化課調査官）、山田均（名桜大学国際学群教授）、常松幹雄（福岡市経済観光文化局埋蔵文化財調査課調査第 1 係長）

【主な成果】
韓国国立公州博物館との学術交流協定に基づき、当館研究員 2 名を派遣し、木浦・羅州・公州、ソウルの遺跡・博物館の調査を実施した。韓国から 3 名を日本に招聘し、共同調査を実施した。
タイ王国文化省芸術局の協力を得て、仏教美術・歴史・工芸・民族分野の現地調査と調査報告会をタイで実施するとともに、我が国江戸時代の堺市に伝来した仏画などに関する国内調査成果をタイ側と共有した。

【年度実績概要】
・韓国国立公州博物館との協定に基づく調査では、百済の文化に関連する遺物の調査を実施し 2 名が参加した。この調査は 26 年に予定されている「百済と古代日本」展の予備調査にも位置づけられるものである。なお国立公州博物館からは 3 名を招聘し、我が国において百済由来の古墳出土資料の調査を行った。また、韓国国立中央博物館の研究員 2 名を招聘し、福岡県船原古墳の出土品を共同で調査した。

・タイ王国文科省芸術局の協力を得て、王室博物館、芸術局収蔵庫、バンコク国立博物館、バンコク及び近郊のプライベートコレクションの調査を実施することができたのは特筆すべき成果である。

・日タイの研究者の連携を深めつつ、研究成果を共有することができた。


韓国公州博保存処理施設における意見交換

【実績値】

調査回数　　10 回（海外：8 回　国内：2 回）
研究員海外派遣数　延べ 17 名
研究員受入数　延べ 13 名
研究報告回数　　4 回（海外：3 回　国内：1 回）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	S	A	A		

判定理由
適時性：近々予定されている特別展の内容検討のために、研究員が自由に意見交換することができた。
独創性：国際的な視野に立った共同調査は、博物館レベルとしては他にあまり例がなく先駆的な活動であるため。
発展性：研究の成果を展覧会という形で広く一般に示すことによって、両国の文化交流が深められる。
継続性：開館前後から、展覧会開催を前提として行ってきたプロジェクトである。

２．定量的評価

観点	調査回数	研究員海外派遣数	研究員受入数	研究報告回数		
判定	A	A	A	A		

判定理由
調査回数：順調に回数を重ねている。
研究員海外派遣数：当該分野の専門的研究者を十分に派遣している。
研究員受入数：当該分野の意見交換に十分な研究員を受け入れている。
研究報告回数：研究成果を広く一般に公開している。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画に基づき、順調な進行状況にある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現地研究者との協議を重ねながら、順調に予定を消化している。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)－1 特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】
特別展「中国　王朝の至宝」(25 年 7 月 9 日～9 月 16 日)に関する調査研究
　夏王朝から宋時代にわたる歴史と文化について、それぞれの時期に栄えた二つの王都や地域に着目し、その理解促進を図るとともに、いわゆる「中国史」における新たな視座を構築する。本調査は特別展「中国 王朝の至宝」に関連するものであり、特別展開催年にあたる本年を研究最終年とし、その成果は本特別展及び関連講演会などで公開される予定である。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室主任研究員　市元塁

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）

【主な成果】
　25 年 7 月 9 日から 9 月 16 日かけて、特別展「中国 王朝の至宝」を開催した。いわゆる「中国王朝」について、これまでの画一的な中原王朝史観の見直しを図るべく幅広い地域から資料を収集し、一堂に会する機会を設けたことで、「中国王朝」についてはより幅広い視野で議論すべきことがより明瞭となった。会期中は、講演会や新聞紙面連載を行い、個別の作品ならびに王朝の流れに関して発表した。また、会期が夏休み期間中であったこともあり、子ども向けのワークショップの開催やガイドブックの作成に力をいれ、幅広い層による王朝の至宝の理解促進につとめた。

【年度実績概要】

・25 年 7 月 13 日（土）に当館ミュージアムホールを会場として谷学芸部長により「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」と題した講演会を開催した。本講演は、谷が図録でも言及している中国史を通底する意匠について、展示作品を中心に紹介するものであり、聴講者の好評を得た。

・25 年 7 月 20 日（土）には市元塁が「中国 王朝の至宝を 10 倍楽しく見る方法」と題して講演を行った。従来の通史的な流れに拘泥せずに文化の継承と変容のありかたについて紹介するものであり、聴講者の好評を得た。

・25 年 8 月 3 日（土）に当館ミュージアムホールを会場とて稲畑耕一郎早稲田大学教授による講演会「皇帝たちの中国－ファースト・エンペラーからラスト・エンペラーまでー」を開催し、皇帝と王朝の関係についての講演を行った。聴講を事前申込み制にしたところ予測を上回る応募数であり、当該テーマの関心の高さがうかがえた。

・夏休み期間中ということもあり、子ども向けのワークショップ「跪射俑に変身～段ボールで鎧作り～」の開催やガイドブック「夏休みの朋友」の作成など、研究成果をより平易なかたちで公開することができた。

・本研究の成果公開をかねた特別展「中国 王朝の至宝」では、従来の中国史に対する認識として大半を占めていた、いわば駅伝でたすきをつなぐような王朝交代劇を発展的に検証することで、同一時期における複数地域の相互作用の重要性を明らかにした。またそれを展示で示しえたという点で極めて意義深いものとなった。


ワークショップ風景

【実績値】
展示への反映　1 回　　特別展「中国　王朝の至宝」　25 年 7 月 9 日～9 月 16 日　(62 日間)
図録　1 件　　特別展図録「中国　王朝の至宝」

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：中国に対する関心が高まっている時期に開催した。
独創性：３次元プリンタを用いた展示補助品など、当館ならではの取り組みを盛り込んだ。
発展性：これまでの調査研究をもとに、展示手法や教育普及の面で新たな取り組みを実施した。
効率性：限られた予算のなかで効率的に研究成果を発信した。
継続性：中国の各地から文物を集め展示したことで、今後研究を深めていく上での足がかりが各所にできた。
正確性：それぞれの文物について、制作時期など十分に考慮して展示に反映させることができた。

2．定量的評価

観点	展示への反映	図録				
判定	A	A				

判定理由
展示への反映：計画通り、実施することができた。
図録：予定通り刊行することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	来館者数の面で当初の予測を上回り、研究成果を十分に還元することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、中期計画に沿うものであり、当初の計画通り実施することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-2 特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】
特別展「尾張徳川家の至宝展」(25 年 10 月 12 日～12 月 8 日)に関する調査研究
　特別展「尾張徳川家の至宝展」の開催に向けた準備として、徳川家に伝来した書跡、絵画、漆工、金工、染織、陶磁器等にわたる作品の調査研究を行った。国宝「源氏物語絵巻」をはじめとする尾張徳川家に伝わった約 1 万数千点の作品は、公益財団法人徳川黎明会が設立した徳川美術館が管理している。このプロジェクトでは、徳川美術館の全面的な協力のもと、実物作品の調査を行う。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　酒井芳司

【スタッフ】
荒木和憲（文化財課資料登録室主任研究員）、川畑憲子（企画課特別展室主任研究員）、鷲頭桂（企画課特別展室研究員）

【主な成果】
　尾張徳川家は、江戸時代に徳川将軍家に次ぐ格式を誇った最高の大名家である。従って尾張徳川家に伝来した道具類は、江戸時代における大名文化を伝える品々のなかでも、最高水準の作品が数多く伝えられている。このプロジェクトでは徳川美術館の協力を得て、所蔵する作品の大要を把握し、その水準の高さを認識することができたとともに、その成果をふまえて尾張徳川家に伝来した作品を一堂に紹介する機会につなげることができた。

【年度実績概要】
・数ある江戸時代の大名家のなかで最高の家格を誇った尾張徳川家には、徳川家康の遺品を頂点とする格調高い大名道具が数多く伝来した。本展は徳川美術館の協力を得て、出品件数 226 件という、まとまった形で最高水準の大名文化の遺品を見ることができるまたとない機会をつくることができた。

・徳川家康の遺品には、足利将軍家、織田信長、豊臣秀吉の遺愛の品が多く含まれている。この展覧会では一般に広く知られた天下人が愛した名品の数々を紹介し、その人物の息吹を来館者に感じていただく機会とすることができた。

・徳川美術館の収蔵品を代表する二つの国宝、源氏物語絵巻と初音の調度は徳川美術館でも期間限定でしか展示されない名品である。この一般に関心も高い二件の国宝を、期間を限定して特別に公開することができた。なかでも源氏物語絵巻は徳川美術館でも帖をかえながら、毎年 1 週間しか公開されない作品である。これを 2 週間ずつ、計 4 週間公開できたことは、本作品のすばらしさを実物によって広く知っていただく機会となった。

・25 年 8 月 4 日　徳川美術館にて展示会場図面検討に係る作品調査、25 年 10 月 1 日～5 日　徳川美術館にて作品借用作業に係る作品調査、25 年 12 月 13 日～14 日　徳川美術館にて作品返却作業に係る作品調査を行った。


徳川美術館全景

【実績値】
調査回数　3 回
図録　1 冊　　「徳川美術館　尾張徳川家の至宝」
展示への反映　1 回　　特別展「尾張徳川家の至宝」展　　25 年 10 月 12 日～12 月 8 日（50 日間）

（参考値）
出品件数　226 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：九州ではみることが難しい国宝を期間限定で特別公開することにつなげられたため。
独創性：特別展開催に伴い最高水準の大名文化の遺品を調査研究できたため。
発展性：名品を伝える大名家は他にも存在するので、今回の調査で得た経験は今後に活用することができるため。
効率性：企画段階から徳川美術館と協働で作業を進めたので、効率よく展覧会を実施できたため。
継続性：開館以来、特別公開「初音の調度」で協力を得ていたが、さらに今後の協力体制を強めることができたため。
正確性：書跡、絵画、漆工、金工、染織、陶磁器等にわたる作品を網羅的に調査することができたため。

２．定量的評価

観点	調査回数	図録	展示への反映			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：必要にして十分な回数の調査ができたため。
図録：展覧会開催に必要な図録１冊を刊行できたため。
展示への反映：計画通り実施することができたため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	尾張徳川家の知名度や出品作品の質の高さにより、十分な調査成果の蓄積と展覧会の動員につなげることができたが、特別展開催に伴い最高水準の大名文化の遺品を調査研究できたため。次年度以降、さらに独自の展覧会につながる調査研究をしつつ、かつ来館者も確保できるようにすることが課題である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	徳川展準備のため、質の高い文化財を調査及び研究することができたため。次年度以降、今後ともこのような調査研究体制の安定的な継続と充実が、質が高く、かつ来館者動員につながる展覧会の開催に資することになると考える。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-3 特別展「国宝 大神社展」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】
特別展「国宝　大神社展」(26 年 1 月 15 日～3 月 9 日)に関する調査研究
　特別展「国宝 大神社展」は、神社本庁をはじめ日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に展観するものである。本調査は特別展「国宝 大神社展」に関連するものであり、特別展開催年にあたる本年を本事業の最終年とし、その成果を本特別展及び関連講演会などで公開・還元する。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　楠井隆志

【スタッフ】
　臺信祐爾（企画課長）、冨坂賢（文化財課長）、赤司善彦（展示課長）、今津節生（博物館科学課長）、秋山純子（博物館科学課環境保全室研究員）、志賀智史(博物館科学課保存修復室主任研究員)、渡部史之（博物館科学課アソシエイトフェロー）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）、原田あゆみ（企画課特別展室主任研究員）、川畑憲子（企画課文化交流展室主任研究員）、森實久美子（企画課特別展室研究員）、鷲頭桂（企画課特別展室研究員）、畑靖紀（文化財課資料管理室主任研究員）、丸山猶計（文化財課資料登録室主任研究員）、望月規史（文化財課アソシエイトフェロー）、進村真之（展示課主任研究員）、酒井芳司（展示課主任研究員）、遠藤啓介（展示課研究員）、岸本圭（展示課主任研究員）

【主な成果】
　26 年 1 月 15 日から 3 月 9 日かけて、特別展「国宝 大神社展」を開催した。奈良・手向山八幡宮の錦貼神輿など福岡会場のみの出陳作品については、事前に現地調査を実施して輸送方法や展示手法などの検討・研究に役立てた。
　会期中、講演会や新聞紙面における作品紹介記事の連載を行った。また関連事業として、街で見かけた狛犬を WEB 投稿してもらう「狛犬目撃情報」企画の実施、会場内での教育普及企画の展開を行い、幅広い層に対する本展の集客及び理解促進に努めた。

【年度実績概要】
・25 年 4 月から 6 月にかけて本展東京展が開催されたが、その展示・撤収作業に可能な限り立会し、作品の調査はもちろん保存状態の事前把握に努め、福岡展のための安全な作品の借用・輸送・展示に活かすことができた。
・展示作品のうち福岡・宮地嶽神社所蔵の「金銅装頭椎太刀」については、2 年前より当館にて復元模造制作にむけての調査研究・制作事業を実施してきたが、成果品を本展会場に展示し、展示品の理解促進に活用した。また、その成果については、26 年 2 月 9 日福岡市内で開催された地域講演会「よみがえった宮地嶽古墳黄金の太刀」(展示課長赤司善彦)にて公開し、市民にも還元・披露した。
・関連事業として、街で見かけた狛犬を WEB 投稿してもらう「狛犬目撃情報」企画の実施し、投稿情報はウェブサイト上だけでなく、館内でも紹介した。また、会場内ではおみくじに倣った「神社まめちしき」の配布を行い、展示作品と関連のある豆知識を提供し、幅広い層に対する本展の集客及び神社文化の理解促進に努めた。



福岡・宮地嶽神社所蔵「金銅装頭椎太刀」復元模造の展示風景


教育普及企画
「おみくじ風まめちしき」の配布


WEB 投稿企画「狛犬目撃情報」の館内における紹介

【実績値】
　調査回数　15 回
　　奈良・手向山八幡宮「錦貼神輿」現地調査および輸送方法の検討　25 年 5 月 21 日、東京国立博物館における作品調査　25 年 5 月 7 日、6 月 3 日～6 日、福岡・宮地嶽神社所蔵「金銅装頭椎太刀」復元模造作成のための研究会開催、会期中の作品調査（所蔵者からの依頼も含む）
　展示への反映　1 回　　特別展「国宝 大神社展」26 年 1 月 15 日～3 月 9 日　(47 日間)
　図録　1 件　　特別展図録「国宝 大神社展」(東京国立博物館と共同執筆・編集)
　講演会等　6 回
　　特別講演会 1 回、連続講座 2 回、地域講演会 3 回

【備考】
論文
　①　酒井芳司「神話と『古事記』『日本書紀』」（特別展図録「国宝 大神社展」各論　25 年 4 月 9 日）
　②　楠井隆志「『国宝大神社展』福岡展へのいざなひ」(『月刊若木』第 774 号　25 年 12 月 1 日)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	S	A	S	A	S	

判定理由
適時性：伊勢神宮式年遷宮直後の開催であり、神社に対する関心が高まっている時期に開催した。
独創性：九州島内からの出品を増やすなど、地域に立脚した当館ならではの取り組みを盛り込んだ。
発展性：これまでの調査研究をもとに、展示手法や教育普及の面で新たな取り組みを実施した。
効率性：限られた予算のなかで効率的に研究成果を発信した。
継続性：各地の神社との信頼関係を構築することができ、今後の神社関係文化財の研究を深めていく足掛かりとすることができた。

２．定量的評価

観点	調査回数	展示への反映	図録	講演会等		
判定	A	A	A	A		

判定理由
調査回数：計画以上に実施することができた。またその成果を展示という形で市民に公開・還元した。
展示への反映：計画通り、実施することができた。
図録：予定通り刊行することができた。
講演会：計画通り実施し、大きな反響を得た。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通り調査を実施することができ、展覧会にその成果を十分に反映させることができた。また、図録・各種講演会・イベント等によりその成果を広く公表することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り調査が実施され、当初の目標を達成することができた。将来同様な展覧会を企画するにあたって今回の調査研究の成果や取り組みを生かしていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-4 特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝展」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】
特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝展」(26 年 4 月 15 日～6 月 8 日開催予定)に関する調査研究
　特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝展」の開催に向けた準備として、近衛家に伝来した書跡、絵画、漆工、金工、染織、彫刻、陶磁器等にわたる作品の調査研究を行う。ユネスコ世界記憶遺産に登録された国宝「御堂関白記」をはじめとする近衛家に伝わった約 20 万点の作品は、公益財団法人陽明文庫が管理しているが、通常、一般には公開されていない。このプロジェクトでは、陽明文庫の全面的な協力のもと、実物作品の調査、写真撮影などを行う。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示調整室主任研究員　酒井芳司

【スタッフ】
丸山猶計（文化財課資料登録室主任研究員）、荒木和憲（文化財課資料登録室主任研究員）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、渡部史之（博物館科学課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
　摂関政治の全盛期を築いた藤原道長自筆の日記である国宝「御堂関白記」の道長自筆本 14 巻のうち、6 巻をユネスコ世界記憶遺産登録後、初めて九州で公開することが実現した。近衛家は摂政・関白として国政を主導してきた藤原氏の嫡流であり、このために「御堂関白記」も近衛家に伝わった。この他、江戸時代の近衛家を代表する文化人である信尹と家熙の業績についても詳しく調査した。

【年度実績概要】
・国宝「御堂関白記」を 25 年 6 月のユネスコ世界記憶遺産登録後、初めて九州で公開することが実現し、摂関政治の全盛期を築いた道長自筆の日記によって、摂関政治の実態や平安時代以来の宮廷文化を広く一般に紹介する機会につなげることができた。

・近衛家は皇室とのゆかりが深く、伝来品の中には、道長の外孫・後朱雀天皇から幕末の孝明天皇にいたる歴代天皇自筆の書状など（宸翰）が数多く存在する。天皇は宮廷の頂点にあって、宮廷文化を主導しており、その筆跡は「書の王者」とも呼ばれる。今回の展覧会では、気品あふれる天皇の書を九州で初めてまとまって紹介することが可能となった。

・近衛家の伝来品には、天皇の書ばかりではなく、三蹟と呼ばれた平安時代の能書、小野東風、藤原佐理、藤原行成の作品と伝えられる筆跡があり、また和歌を大成した藤原定家の書も存在する。これら三蹟や定家の書を数多く紹介することも、本展覧会において実現させることが可能となった。

・近衛家の歴代当主には、その時代を代表する文化人を多く輩出した。なかでも、寛永の三筆の一人として知られる信尹は書の世界に桃山時代らしい新風を吹き込んだ。また家熙は伝来の品を中心に古典を研究し、伝来品を優れた美意識によって修復したり、模写を作成したりして、保存に尽力した。この二人の業績を明らかにできた。

・25 年 12 月 20 日　陽明文庫にて書跡・絵画作品調査、26 年 2 月 4 日　陽明文庫にて写真撮影に伴い、歴史資料・彫刻作品調査、26 年 3 月 7 日　陽明文庫にて漆工・染織作品調査を行った。


陽明文庫における調査風景

【実績値】

調査回数　3 回

（参考値）
展覧会への陽明文庫所蔵品の出品件数　105 件（他機関所蔵品を含めると 114 件）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-4

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：25 年 6 月にユネスコ世界記憶遺産に登録された国宝御堂関白記を特別公開することにつなげられたため。
独創性：通常一般に公開されていない作品を特別展に伴い調査研究をできたため。
発展性：名品を伝える公家の家は他にも存在するので、今回の調査で得た経験は今後に活用することができるため。
効率性：企画段階から陽明文庫と協働で作業を進めたので、効率よく展覧会の準備を行えたため。
継続性：質の高い伝来の名品を数多く調査して展示する企画につなげることができたため。
正確性：書跡、絵画、漆工、金工、染織、陶磁器等にわたる作品を網羅的に調査することができたため。

２．定量的評価

観点	調査回数					
判定	A					

判定理由
調査回数：必要にして十分な回数の調査ができたため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	近衞家伝来の作品の質の高さにより、十分な調査成果の蓄積ができ、通常一般に公開されていない作品を特別展に伴い調査研究できたため。次年度以降、独自の展覧会を企画しつつ、かつ来館者も確保できるようにすることが課題である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	近衞展準備のため、質の高い文化財を調査および研究することができたため。次年度以降、今後ともこのような調査研究体制の安定的な継続と充実が、質が高く、かつ来館者動員につながる展覧会の開催に資することになると考える。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4554-2-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-5 特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】
特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」(26 年 7 月 8 日～8 月 31 日開催予定)に関する調査研究
　平成 26 年度開催の特別展覧会「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」にむけて、作品の出品交渉、出品候補作品の調査研究及びクリーブランド美術館の強みである教育普及部門のヒアリングを行う。
　また、その成果を公開するものとして、特別展図録を制作する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室研究員　鷲頭桂

【スタッフ】
畑靖紀（文化財課資料管理室主任研究員）、西島亜木子（企画課アソシエイトフェロー）、森實久美子（企画課特別展室研究員）

【主な成果】
（1）特別展覧会「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」の作品を確定するとともに、展示・作品解説・各論執筆にむけた作品の調査研究（約 60 件）を実施できた。また、作品の撮影を実施した。
（2）特別展図録を制作した。

【年度実績概要】
（1）
・クリーブランド美術館の収蔵庫、調査室、修復施設にて、出陳候補作品（約 60 件）の調査研究、撮影を行った（2 名、3 日間)。
・クリーブランド美術館のエデュケーション事業の視察を行った（1 名、3 日間)。
（2）
・特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」の図録執筆、編集を行った（3 名)。(26 年 1 月 15 日発行)


調査風景

【実績値】

調査回数　1 回
研究者海外派遣回数　1 回
調査作品件数　約 60 件
報告書・図録等　1 件　「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」(26 年 1 月 15 日発行)

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-5

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：クリーブランド美術館のコレクションが九州でまとまって公開されるのは、今回が初めてである。
独創性：準備中のクリーブランド美術館展は、九州で初めて公開される作品を多く含む。
発展性：クリーブランド美術館の作品が一堂に介することで、在米の優れた日本美術に一般の関心を向けることができる。
効率性：東京国立博物館、クリーブランド美術館との情報共有により、順調に進んでいる。
継続性：質量ともに多くの資料を収集できた。
正確性：クリーブランド美術館の所蔵品について正確なデータを得ることができ、展覧会に向けた準備を整えた。

2．定量的評価

観点	調査回数	研究者海外派遣回数	調査作品件数	報告書・図録		
判定	A	A	A	A		

判定理由
調査回数／研究者海外派遣回数：
計画通り、クリーブランド美術館を訪問し、出品交渉、出陳作品の確定、作品調査を行うことができた。
調査作品件数：多くの文化財の調査と写真撮影を行うことができた。
報告書・図録：調査研究により新知見を得ることができ、その成果を図録に反映することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展覧会準備のため、十分な資料調査ができた。意義ある展覧会開催が期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	展覧会開催の準備に必要な資料は、ほぼ8割以上は収集できた。次年度の「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」を開催するに十分である。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-6

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)-6 特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」展に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】

特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」(26 年 10 月 7 日～26 年 11 月 30 日開催予定)に関する調査研究

　平成 26 年度開催の特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」展にむけて、國立故宮博物院（台北）が所蔵する資料を調査研究する。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料管理室主任研究員　畑靖紀

【スタッフ】

谷豊信（学芸部長)、原田あゆみ（企画課特別展室主任研究員)、丸山猶計（文化財課資料登録室主任研究員)、川畑憲子（企画課文化交流展室主任研究員)、遠藤啓介（展示課研究員)、市元塁（企画課特別展室主任研究員)、森實久美子（企画課特別展室研究員)、望月規史（文化財課アソシエイトフェロー)

【主な成果】

　國立故宮博物院を訪問して、25 年 11 月 28 日、12 月 16 日から 19 日まで、及び 26 年 1 月 20 日から 24 日まで、展覧会について協議した。また、特別展への出品資料を選定し、それらの実見調査、計測等を実施し、展覧会図録や会場解説執筆のための情報を収集できた。

【年度実績概要】

・國立故宮博物院において下記の実見調査、計測等を実施した。
　染織分野：25 年 11 月 28 日（参加者 1 名）
　絵画・書跡・典籍分野：25 年 12 月 16 日～19 日（参加者 2 名）
　玉器・青銅器・漆工・陶磁・文房具分野：
　　26 年 1 月 20 日～24 日（参加者 3 名）

　上記分野の出品作品について、制作年代や作者、材質技法、表現様式などに関する具体的な知見を得ることができ、展覧会の内容・構成に関して有益な調査結果を得ることができた。



出品作品の一つ
青磁輪花碗

【実績値】

調査回数　　3 回
調査件数　　約 80 件
収集資料数　　20 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	C	A	A

判定理由
適時性：美術品補償制度の整備に伴い実現可能となった展覧会であり、各界の期待が高い。
独創性：國立故宮博物院の展覧会は、日本のみならず、アジアでは初めての開催である。
発展性：今後の当館と國立故宮博物院との良好な関係を築く上でも有益である。
効率性：國立故宮博物院との交渉は初めてのことが多く、時間は要するため。
継続性：質量ともに多くの資料を収集できた。
正確性：國立故宮博物院所蔵の資料の多くは調査不可であるが、それらも含めて相当数の資料を調査できた。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査件数	資料収集数			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：計画通りに3度の調査を実施し、多くの資料を収集した。
調査件数：調査の受入が制限されているなか、事前協議で許可された以上の作品を実見調査できた。
資料収集数：展覧会図録の執筆に必要な資料を計画通りに収集できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展覧会準備のため、平成25年度中に計画していた資料のうちほぼ9割以上を調査できたので、意義ある展覧会開催が期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	平成25年度中に収集を計画していた展覧会関係資料は、ほぼ予定通りに収集できた。次年度の特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」展を開催するために本年度分は十分な準備ができた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4561-1

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）博物館の環境保存に関する研究（(5)－⑥）

【事業概要】

東京国立博物館における文化財の保存環境及び展示環境について調査研究し、今後の環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭信幸

【スタッフ】

和田浩（保存修復課環境保存室長）、荒木臣紀（保存修復課主任研究員）

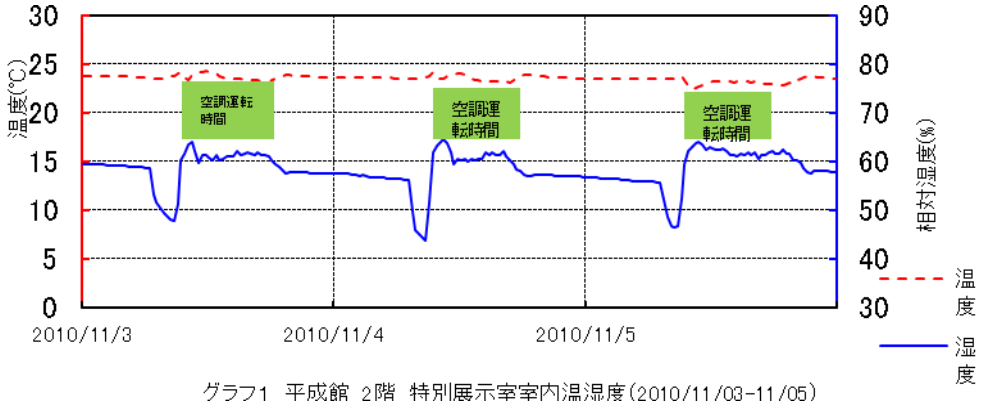
【主な成果】

本年度は文化財の保存環境の内、特に特別展示室の温室度環境の安定化について、下記概要に示す調査研究を行った。温室度が不安定になる原因を追及するために、空調の運転状況、展示室扉の開閉管理状況、平成館で入り口の開閉状況などを詳細に検討した。その知見に基づいて運転方式、扉開閉運用などを細かく組み合わせることによって、安定した温室度環境が実現できる見通しが立った。

【25 年度実績概要】

・問題点

東京国立博物館では基本的にケース内展示を行っているが、ケース内に収まらない大きな作品等は露出展示も行っているため、これまでにも展示室が安定した温湿度になるように努めてきた。しかし、特別展（共催者間で企画した展覧会、作品を借用しての展示が多い）に使用する一つの展示室で以下のように湿度が急激に低下する時期があった。



グラフ1　平成館 2階 特別展示室室内温湿度（2010/11/03-11/05）

・原因の究明

過去のデータの解析によって、季節によって温湿度変化に特徴があること、上記のグラフのように湿度が急激に低下している現象を確認した。湿度低下時間帯の空調の稼働状況は、空調の実効時間前に湿度が低下していることが判明した。その原因は、(1)展覧会活動時間帯（7 時頃～19 時頃）と空調実効時間帯（9 時半頃～17 時）の間にズレが生じて、展示室内が外気の影響を受けている、(2)建造物の構造が引き起こす外気の流入が考えられた。

・解決策

空調時間延長実験から、盛夏季、厳冬季においては夜間に外気や建物がもつ熱による影響が大きいと推測され、３時間以上の適切な延長時間を見つける必要があると判断した。二酸化炭素排出量についても組織として年間一定量の削減を義務付けられており、排出量の増加は削減目標達成に向けての足かせとなるのは確実である。展覧会をとりまくこのような状況においては、これまでの実験から、適切な空調運転方法の探究と実施や展覧会運営方法の改善が文化財の保存に適した環境を作り出す有効な手段であることが判った。

【実績値】

研究会発表件数　4 件

文化財保存修復学会第 35 回大会、仙台（25 年 7 月 20 日）「低酸素環境維持機能をもつミイラ展示用ケースの開発」

文化財保存修復学会第 35 回大会、仙台（25 年 7 月 20 日）「特別展示場の湿度環境安定化を目指した運用方法の考案」

文化財保存修復学会第 35 回大会、仙台（25 年 7 月 20 日）「博物館における包括的保存システムの構築に関する研究（Ⅴ）」

2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム、韓国慶州（25 年 9 月 6 日）「低酸素環境維持機能をもつミイラ展示用ケースの開発」

【備考】

【書式B】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4561-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：作品の活用と保護の観点が重要視される今日、展示環境の安定化はその具体的な解決策を探る研究として効果が高いため。
独創性：実際の展覧会場を対象にして、施設の管理運営と保存科学的知見を融合して、具体的な解決策を提示できたことは優れた成果であるため。
発展性：今後の同様な課題に対して成果の活用が大いに期待できるため。
効率性：臨床保存における調査診断及び予防保存の専門家が役割を明確に発揮して行った研究であるため。
正確性：分析及び環境の専門家がそれぞれの立場から研究に参画し、的確なデータを得ることができた。

2．定量的評価

観点	研究発表件数					
判定	A					

判定理由
研究発表件数：予定通り、成果の波及効果が期待される学術団体において公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	実証実験を行うことで得られた客観的データを詳細に分析することで、従来から存在する問題点について具体的な解決の方向を見出したものであるが、基礎研究にとどまらず、実用的側面に大きく寄与する成果が得られた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4562-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	1）修復文化財に関する資料収集及び調査研究（(5）-⑥）

【事業概要】
文化財保存修理所において修復が行われている文化財に関して情報を収集する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　淺湫　毅

【スタッフ】
大原嘉豊（企画室主任研究員）、伊東史朗（和歌山県立博物館長・調査員）

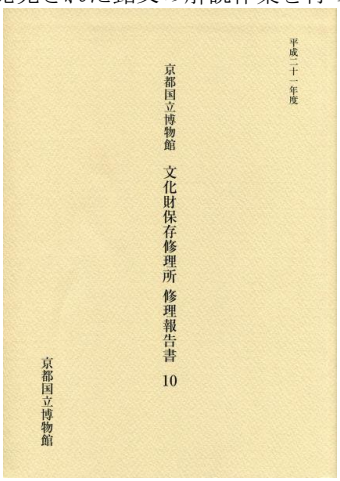
【主な成果】
平成 25 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書）」に基づき、データを入力し、平成 24 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書）」に基づき、データを追加、更新した。また、平成 21・22 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 10・11 号に掲載し、修理時に発見された銘文の平成 21 年度 13 件、平成 22 年度 17 件を「銘文集成」として報告した。

【年度実績概要】
・文化財保存修理所の工房に搬入される新規修理作品に関して、データを収集し、データベースに登録した。

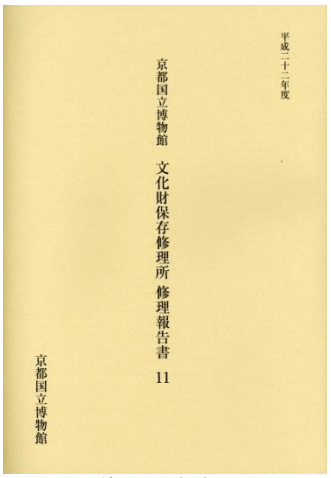
・過去の修理作品に関してもデータの更新、整理作業を行った。

・毎月行っている文化財保存修理における修理工房の巡回時のほか、適宜工房において、修理中にしか得ることの出来ない情報（作品の構造や使用材料、内部納入品や銘文など）を収集し、分析を行った。

・『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 10・11 号に掲載する平成 21・22 年度修理作品のデータを整理するとともに同年の修理で発見された銘文の解読作業を行った。



修理報告書 10



修理報告書 11

【実績値】
・データ収集件数　101 件
平成 25 年度は 101 件の新規修復文化財の搬入があり、これらの作品に関してデータを収集するとともに、修復データベースへの登録を行った。
・修復データベースの追加更新件数　1920 件
過去のデータに関して 1920 回追加、更新を行った。
・調査回数　11 回
修理所の巡回を 11 回行った。その他、新発見の事実や銘文の調査を適宜行った。
・報告書　2 冊
平成 25 年 9 月に『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 10 号（平成 21 年度分）、平成 26 年 3 月に同報告書第 11 号（平成 22 年度分）を発行した。

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4562-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：文化財の修復は社会的関心の高い問題であり、収集したデータはその貴重な資料となっているため。
独創性：修理作品を館の寄託品として受け入れ、修理によって得られたデータを各研究員の間で共有しているため。
発展性：修理データをデジタル化して、修復データベースへ登録し、将来の公開に備えているため。
効率性：データをデジタル化することで、修理作品の情報検索を容易にしているため。
継続性：収集したデータにより『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』を継続的に発行しているため。
正確性：報告書の発行に際し、データの正確性について再確認をしているため。

2．定量的評価

観点	データ収集件数	データ追加更新件数	調査回数	報告書		
判定	A	A	A	A		

判定理由
データ収集件数：修理作品に関するデータの蓄積は、順調である。
データ追加更新件数：修復データベースへの追加更新は、順調である。
調査回数：修理所の巡回・調査回数は、順調である。
報告書：『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』は第10・11号の2冊を発行し、順調である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修理所で行われる修理作品から得られる情報を収集・登録でき、またその成果を報告書に反映した。 よって修復文化財に関する情報の収集を適切に行い得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	修復文化財に関する資料収集及び調査研究を予定通り進めることができた。本年度に収集された情報をさらに充実させるため、他年度と関連づけながら、さらなる情報の収集を図りたい。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4562-2

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	2）文化財の保存・修復に関する調査研究（(5) -⑥）

【事業概要】

京都国立博物館所蔵「病草子」は、平成 23 年度朝日新聞文化財団の助成を受け、修理事業を実施する(4 ヵ年事業)。

本修理事業に伴って、修理受託者である岡墨光堂と協力し、修理品についての各種光学的調査と精密分析を実施し、修理中にしか得ることのできない貴重な調査結果を得ることを目的とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　村上　隆

【スタッフ】

鬼原俊枝（列品管理室長）、淺湫毅（保存修理指導室長）

【主な成果】

(1)「病草子」（紙本着色／平安時代後期／国宝）の修理に伴って、各種の光学調査と紙質分析を実施し、作品のオリジナルの状態、技法材料や、修理履歴などに関わるさまざまな情報を得ることができた。

(2) 修理中にしかできない調査・分析によって得られた結果は、本修理品を含め、文化財の調査研究・保存修復の現場での幅広い活用できる貴重な情報である。

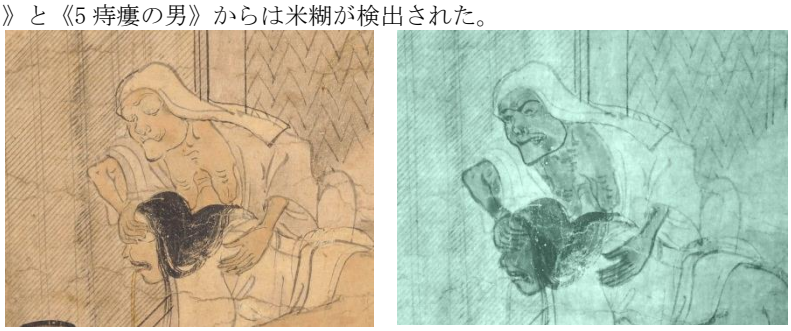
【年度実績概要】

京都国立博物館所蔵「病草子」の修理に伴って

(1)・赤外撮影と透過赤外撮影を行い、下書きからの描線の変化を確認することができた。
　・特に、透過赤外撮影によって、人物の顔の表情や手の位置など、下書きからの変化が大きな箇所が明らかとなった。(挿図参照)

(2)・透過光による料紙の調査・撮影を行い、本紙料紙はすべて厚みにむらがあり、料紙は過去に修理のため相剥ぎされ薄くされていることがわかった。
　・折れ伏せや補紙など過去の修理箇所の位置と状態を確認することができた。
　・料紙の簾の目は、絵では 11～15 本／3cm、詞書では 15～17 本／3cm であり、特に絵のほうで、紙ごとにばらつきがあった。

(3)・料紙裏面よりごく微量サンプリング（5 紙のみ）し、委託分析した。(委託先：高知県立紙産業技術センター)
　・分析の結果、楮繊維が検出され、繊維長は 1～2mmと短く、繊維を切断している可能性があると報告を受けた。これは繊維の稠密さによる紙の平滑化を求めた結果であり、表面観察で見出される雲母による処理と通じる。
　・また《1 風病の男》と《5 痔瘻の男》からは米糊が検出された。



「病草子 七 霍乱する女」の部分　通常撮影（左）と透過赤外撮影（右）

【実績値】

・調査項目　5 項目（通常光・透過光・赤外・透過赤外・紙質分析）
・紙質分析（委託調査）　5 サンプル

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4562-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	C	A	A	A	S

判定理由
適時性：修理中にしか実施できない調査・分析を適時に行った。
独創性：文化財調査で一般的になりつつある手法を用いているが、絵巻の特徴に合せた調査を行った。
発展性：平安後期を代表する絵巻の調査であり、館内外における文化財保存・活用に活かせる貴重な情報を得た。
効率性：修理事業に併せて、修理受託者と連携し、効率的な調査を行うことができた。
継続性：文化財の光学的調査で用いられる基本的な手法を用いており、調査の継続性、結果の汎用性が高い。
正確性：文化財への影響に十分な配慮が求められる中で、網羅的な調査を実施することができた。外部委託による分析によって、客観性の高い結果が得られた。

２．定量的評価

観点	調査項目	紙質分析				
判定	A	A				

判定理由
調査項目：継続性、汎用性が高い調査方法で調査を実施し、観察記述だけでなく、撮影画像として記録が残された。
紙質分析：試料採取に、文化財への影響に十分な配慮が求められる中で、網羅的なサンプリング、客観性の高い分析を実施できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今後も、修理事業に伴う同様の調査を継続し、積み重ねていくことで、本調査の意義はより高く評価されると期待できる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本件と同様に、近年では、文化財の修理の際にさまざまな光学的調査、精密な科学分析が行われることも珍しくない。それら諸成果は、単なる個別的修理のためだけに終始するものではなく、数量が増加することで統計的に有意な意味を持つに至っており、美術史学との相関によって、文化財の修理が、文化財の本質を探る研究活動を発展させている。本研究を通じて、その意義と継続の必要性について、博物館と修理事業者との間で改めて認識を共有するに至った。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-1

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。（(5)－⑥）

【事業概要】

展示室・展示ケース・収蔵庫等の環境が文化財に与える影響の解明を目的として、温湿度センサーによる展示室・展示ケース内等の温湿度データ収集、展示ケース内に浮遊する粉塵の電子顕微鏡観察、パッシブインジケータによるＶＯＣ調査、文化財害虫調査トラップの定期的な設置・回収等を継続的に実施し、調査で蓄積されたデータを分析することで展示室等の保存環境向上を計る。

【担当部課】	学芸部保存修理指導室	【プロジェクト責任者】	室長　谷口耕生

【スタッフ】

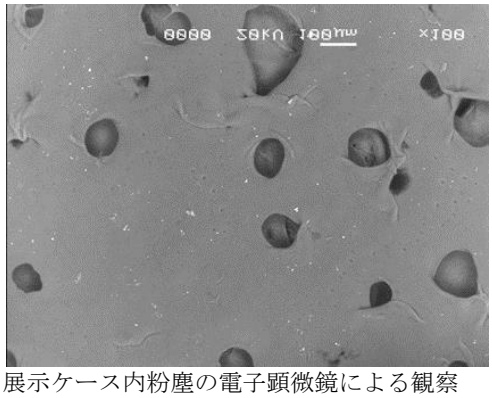
岩田茂樹(美術室長)、内藤栄（工芸考古室長)、清水健（主任研究員)、斎木涼子(教育室員)、山口隆介（美術室員)、降幡順子（奈良文化財研究所主任研究員）

【主な成果】

(1)展示室、展示ケース内に設置した温湿度センサーのデータを分析し、展示･収蔵環境の保持に努めた。
(2)展示ケース内から回収した粉塵の種類・量を計測し、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。
(3)展示室・収蔵庫等への昆虫トラップの設置回収により文化財害虫の生息状況を調査し、害虫被害回避につなげた。
(4)防災工事に伴う収蔵庫内の VOC（揮発性有機化合物）残留濃度調査を実施し、収蔵環境の保全に努めた。
(5)「環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」会議を定期的に開催し、保存環境の改善に努めた。

【年度実績概要】

(1)展示室、展示ケース内の各所に無線機能付き温湿度センサーを設置し、24 時間リアルタイムに温湿度の変化を監視するとともに、ＬＡＮ回線を通じて学芸部内で収集したデータを蓄積し、展覧会ごとに報告書にまとめた。収蔵庫・文化財保存修理所内についてはロガータイプの温湿度センサーを各所に設置して、保存修理指導室員が定期的に温湿度データの回収を行った。これらのモニタリングによって得られたデータを分析し、文化財の展示・収蔵環境の保持及び改善につなげた。
(2)正倉院展終了後、展示ケース内から回収した粉塵を電子顕微鏡で観察し、粉塵の種類及び単位面積当たりの量を計測して、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。その結果、粉塵量が多いと判断されたケースについては機密性確保の改修工事を実施した。
(3)展示室・収蔵庫・文化財保存修理所内など館内 150 箇所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制により 2 ヶ月に 1 回交換・回収し、回収したトラップは外部業者に委託して文化財害虫の捕獲数データを蓄積した。この調査データをもとに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施し、併せて害虫発生を防ぐための清掃による衛生環境の保持などＩＰＭの実践につなげた。
(4)収蔵の防災工事に伴って庫内壁面に新規設置する調湿ボードについてその性能評価実験を重ねるとともに、設置工事によって接着剤等から発生する有機酸・アルカリ性ガスの残存状況についてパッシブインジケータを用いた検査を行い、保存環境の安全を確認した。
(5)学芸部保存修理指導室員と総務課環境整備係員を中心に構成される「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」の会議を 8 回開催し、上記の調査等で確認された保存環境に関わる問題点について討議を重ねることで、施設の改修など保存環境の改善につなげた。



展示ケース内粉塵の電子顕微鏡による観察

【実績値】

保存環境調査実施箇所数：247 箇所(展示室内温湿度調査：75 箇所、展示ケース内粉塵調査箇所：22 箇所、文化財害虫生息状況調査箇所：150 箇所)
保存環境調査報告書作成件数：7 件(温湿度モニタリング報告書 3 件、昆虫類調査用トラップ分類同定結果報告書 4 件)
研究者発表件数：「保存環境に関するワーキンググループ」開催回数：8 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：温湿度モニタリング報告書を展覧会ごとに、昆虫トラップ報告書を1回作成した。
独創性：1日2万人が来館する正倉院展という特殊環境において、ケースの機密性、温湿度の調査を実施した。
発展性：保存環境関わる基礎データを着実に蓄積し、施設の改修につなげた。
効率性：温湿度センサーなど最新機器を導入し、効率的な保存環境データの収集に努めた。
継続性：無線機能付き温湿度センサーによる24時間モニタリング、当番制による2ヵ月に1回の昆虫トラップ設置回収を着実に実施した。
正確性：最新機器を用いてデータを収集し、得られた成果を定期的に報告書の形にまとめた。

2．定量的評価

観点	保存環境調査実施箇所数	報告書作成件数	研究発表件数			
判定	A	A	A			

判定理由
保存環境調査実施箇所数：前年度と同じ（調査実施箇所数としては必要十分な）点検箇所について継続的にデータ収集を実施した。
報告書作成件数：温湿度モニタリング報告書を展覧会ごとに、昆虫トラップ報告書を1回作成した。（目標：[温湿度モニタリング]展覧会毎ごと、[昆虫トラップ]1回））
研究発表件数：8回開催し、調査データの検討を重ねた。（目標：5～6回）

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	前年度に引き続き一年を通じて保存環境調査を着実に実施し、そこで得られたデータをもとに展示環境の維持・改善に努めることができた。次年度も本年度と同規模の調査を継続的に実施し、データの精度をさらに高めるとともに、保存環境変化の兆候を十分に把握できる体制を築いていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ、保存環境の維持・改善に努めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-2

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。（(5)－⑥）

【事業概要】

・館蔵品、寄託品について詳細に保存状態の調査を実施し、保存カルテとして記録を蓄積することで、将来の文化財修理への指針に役立てる。
・館蔵品、寄託品の修理に際し、事前に当該文化財の保存状態について入念な調査を実施し、その結果を基に修理調書を作成する。
・文化財保存修理所内での修理中に文化財から得られた材質や銘文などの基礎情報について調査分析を実施し、その成果を当館研究紀要に掲載する形でデータを蓄積する。

【担当部課】	学芸部保存修理指導室	【プロジェクト責任者】	室長　谷口耕生

【スタッフ】

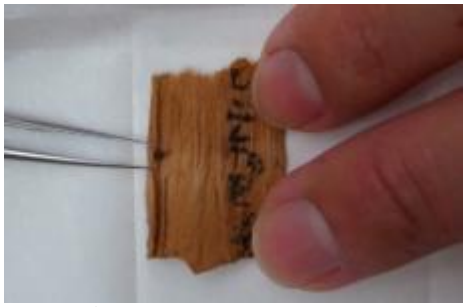
岩田茂樹(美術室長)、内藤栄（工芸考古室長)、清水健（主任研究員)、斎木涼子(教育室員)、山口隆介（美術室員)、降幡順子（奈良文化財研究所主任研究員）

【主な成果】

(1)館蔵品、寄託品について保存状態を中心に入念な調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。
(2)館蔵品、寄託品の修理に際し、保存カルテや新規に実施した保存状態調査の所見をもとに修理調書を作成し、修理方針を決定した。
(3)文化財保存修理所で修理中の木造文化財について樹種同定調査を実施し、その成果公開の準備を進めた。
(4)文化財保存修理所で修理中の文化財から発見された銘文の調査を実施し、その成果公開の準備を進めた。

【年度実績概要】

(1)館蔵品・寄託品の貸与や修理などの機会に、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門担当者が、光学機器等を用いて保存状態確認を中心とする文化財調査を実施し、そこで得られた成果を保存カルテに記入して基礎データを蓄積し、将来の修理への指針に役立てた。保存カルテについては、新規フォームの作成・保管などの管理業務を保存修理指導室が担当した。
(2)館蔵品・寄託品の修理時において、事前に保存状態を中心とする入念な文化財調査を実施し、その成果や保存カルテの情報を参照しつつ修理調書作成し、館内鑑査を経て修理方針を決定した。
(3)当館と京都大学生存圏研究所との間で締結した協定に基づき、当館文化財保存修理所内における未指定の木造文化財の修理過程で自然に脱落した資料について、所蔵者の同意を得て樹種同定の調査を行った。調査対象となったのは奈良市指定の奈良・當麻寺所蔵の金剛力士像頭部及び役行者像 2 件であり、分析結果は当館研究紀要『鹿園雑集』17 号（平成 27 年 3 月刊行予定）に「平成 25 年度　修復文化財（木造）材質調査報告」として掲載する予定。これらの樹種データを蓄積することによって、木造文化財の製作技法・製作背景等を樹種の観点から解明する基盤としたい。
(4)文化財保存修理所内で館蔵品・寄託品及び未指定文化財の修理中に発見された銘文については、当館研究員と修理技術者が共同で調査を実施した。とりわけ前年度に完了した館蔵の木造南無仏太子立像の修理に際して合掌手の中から仏舎利に見立てたと思しき一粒の鉱物を包む墨書銘を付した紙片が発見され、この紙片と仏舎利は像本体とともに特集陳列「新たに修理された文化財」（25 年 12 月 25 日～26 年 1 月 19 日開催）において展示公開した。



館蔵南無仏太子立像の修理に際して
合掌手内から発見された墨書銘

【実績値】

保存カルテ作成件数：総計 98 件
　うち彫刻 14 件、絵画 39 件、書跡 2 件、工芸（金工・刀剣・漆工・染織）30 件、考古 12 件、建築 1 件
修理調書作成件数：総計 11 件
　うち彫刻 1 件、絵画 4 件、書跡 1 件、工芸 2 件、考古 3 件
調査回数：計 6 件(木造文化財樹種同定調査実施件数：2 件、修復文化財銘文調査実施件数：4 件)
調査概報：2 件（「修復文化財（木造）材質調査報告」、「修復文化財関係銘文集成」）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：調査で得られたデータを報告書として公開し、成果の一部を展覧会に反映させた。
独創性：他の研究機関と協定を結び、共同で最新の分析機器を用いた修理文化財の材質調査を実施した。
発展性：材質・保存状態に関する調査を着実に実施し、将来の文化財修理に益する貴重な基礎データを蓄積した。
効率性：修理・貸与の時宜を見計らって計画的に文化財の材質・保存状態調査を実施した。
継続性：文化財の材質・保存状態調査を継続的に実施し、そこで得られた基礎データを着実に蓄積することができた。
正確性：最新機器を用いて文化財の材質・保存状態に関する基礎データを収集し、入念な分析によって得られた成果を報告書の形にまとめた。

2．定量的評価

観点	保存カルテ作成件数	修理調書作成件数	調査回数	調査概報		
判定	A	A	A	A		

判定理由
保存カルテ作成件数：貸与時に列品室から発行される貸付簿とセットで保存カルテを管理するシステムが軌道に乗り着実に保存カルテを作成することができた。
修理調書作成件数：館蔵品修理、寄託品の財団助成修理時に必ず修理調書を作成し、館内の修理鑑査に備えた。
調査回数：文化財保存修理所の各工房と協力して、文化財修理時に材質・銘文調査を着実に実施した。
調査概報：調査で得られた修理文化財の材質・銘文データを全て当館紀要に掲載した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	館蔵品・寄託品の保存状態調査に基づく保存カルテの作成や、以前から継続的に実施している修復文化財の樹種同定調査・銘文調査を着実に実施し、将来における文化財の研究・修復に資するデータを蓄積することができた。次年度以降も本年度のペースを維持しつつ修復文化財調査を着実に実施していく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ堅調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ、修復文化財の基礎データ蓄積に努めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-3

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。（(5)－⑥）

【事業概要】

(1)館蔵品、寄託品等の修理に際し、修理前・修理中に当該文化財に対して透過Ｘ線や蛍光Ｘ線等を用いた光学調査を実施し、その所見を修理方針に反映させる。

(2)館蔵品、寄託品の文化財の修理において、修理前に電子顕微鏡を用いた料紙・料絹の繊維組成調査を実施し、その成果をもとに補紙・補絹を調製する。

(3)文化財保存修理所で修理中の文化財について、研究員と各工房職員が共同で光学機器を用いた材質調査を実施する。

【担当部課】	学芸部保存修理指導室	【プロジェクト責任者】	室長　谷口耕生

【スタッフ】

岩田茂樹(美術室長)、内藤栄（工芸考古室長)、清水健（主任研究員)、斎木涼子(教育室員)、山口隆介（美術室員)、降幡順子（奈良文化財研究所主任研究員）

【主な成果】

(1)館蔵、寄託品の修理に際し、蛍光Ｘ線を用いた材料調査、近赤外線写真やポリライトを用いた補筆・補絹分布調査、透過Ｘ線を用いた構造調査等を実施した。

(2)館蔵、寄託品のうち絹製文化財の修理において電子顕微鏡を用いた料絹の組成調査、紙製文化財の修理において同じく料紙の繊維調査を実施し、その所見を修理に用いる補絹・補紙の調製に反映した。

(3)文化存修理所の修理寄託中の文化財について蛍光Ｘ線を用いた材料調査を実施し、修理方針に資するデータを蓄積した。

【年度実績概要】

(1)・絵画部門の館蔵品、重要文化財絹本著色普賢延命像の修理に際し、肌上げ作業終了時に料絹の裏から近赤外線撮影を行うとともに、蛍光Ｘ線を用いて裏彩色の顔料調査を実施し、絹裏の状態について基礎データを収集した。

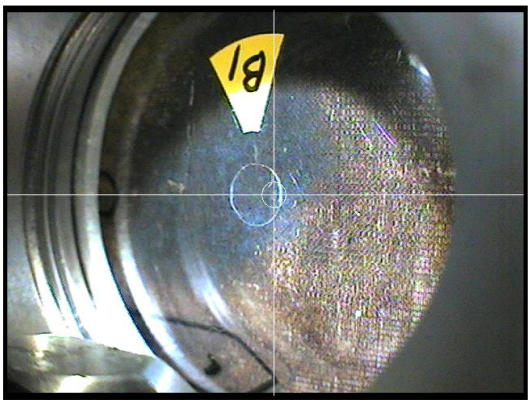
・絵画部門の館蔵品、絹本著色六字経曼荼羅の修理に際し、高精細デジタルカメラを用いた近赤外線写真撮影を実施して、補筆・補彩の有無や、補絹箇所における絹の重なり状態について把握し、その所見に基づいて補絹去作業の方針について協議した。

・工芸部門の館蔵品、国宝刺繍釈迦説法図の修理に際し、刺繍面の損傷及び補絹の状態を把握するためにポリライトを用いた蛍光画像撮影を実施し、修理方針決定に向けての基礎データを収集した。

・考古部門の館蔵二塚古墳出土鉄製品、工芸部門の寄託品、黒漆厨子（温泉寺蔵）の修理において、透過Ｘ線を用いた構造調査を修理技術者と共同で実施し、その成果に基づいて修理方針を決定するとともに、材質教化のために含浸させる樹脂の選定についても修理技術者と検討を重ねた。

(2)館蔵、寄託品のうち絵画部門の絹製品 3 件の修理において、電子顕微鏡を用いた料絹の組成調査を修理技術者と共同で実施し、その成果を補修絹の調製に反映した。同じく、書跡部門の紙製品 1 件について、電子顕微鏡を用いた料紙の繊維調査を修理技術者と共同で実施し、その所見を補修紙の調製に反映した。

(3)次年度以降に修理着工予定の国宝・綴織當麻曼荼羅及び貞享本當麻曼荼羅（ともに當麻寺蔵）について、当館写場において高精細デジタルカメラによるカラー分割画像及び近赤外線分割画像を撮影し、損傷状況の把握及び今後の修理方針決定に資する基礎データを収集した。



絵画修理に伴う蛍光Ｘ線分析器を用いた顔料調査

【実績値】

調査回数　10 回　（館蔵品、寄託品等の修理に伴う光学的調査実施回数：10 回）

研究会回数 19 回　（館蔵品、寄託品等の修理に使用する補修材料の検討会実施回数：19 回）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：修理前、修理中に実施した材質・構造調査の成果を修理方針に反映させた。
独創性：最新の光学機器を用いた材質・構造調査を実施し、その成果を修理方針に反映させた。
発展性：修理文化財の材質・構造に関する基礎データを着実に蓄積し、そのデータを修理技術者に提供することで修理技術の発展に努めた。
効率性：文化財保存修理所内で修理される文化財について、館が所有する最新の光学機器を積極的に活用し、高精度の材質･構造調査を館内で効率的に実施した。
継続性：修理文化財の材質・保存状態調査を継続的に実施し、得られた基礎データを着実に蓄積することができた
正確性：最新機器を用いて文化財修理に有益な材質・保存状態に関する基礎データを収集・精査し、そこで得られた所見を補修材料の選択等の修理方針決定に反映させることができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	研究会回数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：館蔵品・寄託品の修理において確実に調査を実施することができた。
研究会回数：修理文化財の材質・構造調査で得られたデータについて修理技術者と共同で検討を重ね、その成果を補修材料の選定等の修理方針に反映させた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	館蔵品・寄託品の修理に伴って、保存状態の確認や材質解明を主目的とした光学的調査を着実に実施し、当該文化財の修理方針決定や、将来における文化財の研究・修復に資する基礎データを蓄積することができた。次年度以降も本年度のペースを維持しつつ、館蔵品・寄託品を主対象とする保存科学的手法を用いた調査を着実に実施していく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ堅調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ、文化財の基礎データ蓄積に努めていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-1

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）文化財の材質・構造等に関する共同研究（(5)－⑥）

【事業概要】
文化財を解体することなく内部構造を立体的に調査する方法の開発を目指す。当館において、Ｘ線ＣＴや透過Ｘ線を用いて文化財の内部構造を調査する。また３Ｄデジタイザを用いて文化財の詳細な三次元形状を調査する。文化財の構造や制作技法を理解し、文化財の健康状態を知る。さらに、得られた成果を展示に活用することを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

【スタッフ】
臺信祐爾（企画課長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、楠井隆志（展示課主任研究員）

【主な成果】
透過Ｘ線撮影、Ｘ線ＣＴ調査、３Ｄデジタイザ調査等を実施した。トピック展「雪と火炎土器」で展示した「火炎土器」についてＸ線ＣＴ調査、精密三次元形状計測を実施し、三次元プリンタで原寸大のデジタル複製品を製作した。デジタル複製品手に触れるハンズオン作品として展示した。また、文化交流展元関連の鷹島海底遺跡出土品について、展示替えの機会を利用して文化財の構造や材質を調査した。

【年度実績概要】
・トピック展で展示した「火炎土器」をＸ線ＣＴ、精密三次元形状計測を実施し、三次元プリンタで原寸大のデジタル複製品を製作し、デジタル複製品手に触れるハンズオン作品として展示した。さらに、デジタル複製品を 1.07 倍に拡大し、粘土に置き換えて焼くことで、縄文土器に近い質感を得ることができた。この土製のデジタル複製品を手に触れるハンズオン展示として活用した。展示会には多くの子供連れが訪れた。また、三次元プリンタで製作した縄文土器は先進的な例としてマスコミにも取り上げられた（洋泉社 MOOK　『三次元プリンターがわかる本』）。


火炎土器のデジタル複製品

・文化交流展元関連の鷹島海底遺跡出土品について、文化財の構造や材質を調査した。調査は、当館が借用している矢束、鉄刀などに加えて、松浦市所蔵の冑、矢束、武器類、不明鉄製品などに対して行った。測定は、当館のＸ線ＣＴを用いて、320kV、 2mA の条件で実施した。解析は Volume Graphics 社の VGStudioMAX を用いた。その結果、鉄製品のほとんどは地金の鉄が溶脱しており空洞化していることが判明した。空洞化した鉄製品のデータを反転し、遺物の形状を明らかにした。
また、長崎県松浦市鷹島の海底遺跡から発見された元寇関連遺物については、Ｘ線ＣＴ調査を実施し、錆と泥に覆われた遺物の立体形状を明らかにした。その中から中国北方民族が特徴的に使用する「火打ち金」を発見した。

・また、研究成果として、有機遺物のＣＴ調査結果を学会発表数とし、論文として文化財の科学的研究におけるＸ線ＣＴの活用を発表した。

【実績値】

調査件数	60 件
調査回数	30 回
資料収集数	230 点
学会研究会等発表数	1 件（①）
論文掲載数	1 件（②）

【備考】
学会研究会等発表
①「Ｘ線ＣＴを活用した勝負砂古墳出土有機質製品の調査」日本文化財科学会（25 年 7 月 6 日）
論文
②「博物館研究におけるＸ線ＣＴ活用の可能性」『東風西声』第 9 号、九州国立博物館（26 年 3 月 31 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：ＣＴ調査は形状や保存状態の把握に大きな効果がある。鷹島海底遺跡発見遺物について新たな知見を得るなど、形状把握に効果があった。
独創性：我が国の博物館で唯一、非破壊で文化財の構造調査や三次元計測、三次元造形を行うことができる。
発展性：Ｘ線ＣＴ・３Ｄデジタイザ・三次元プリンタによる調査研究は適用範囲が広く、得られる結果も多様である。
効率性：Ｘ線ＣＴ・３Ｄデジタイザ・三次元プリンタは短時間でデータを取得できるので時間的投資効果が大きい。
継続性：非破壊で採取した計測データを基に、短時間で内容豊富な質の高い基礎情報を蓄積することができる。
正確性：Ｘ線ＣＴでは文化財内部の構造を約 0.2 ㎜、３Ｄデジタイザでは 0.02 ㎜の高精度で記録することができる。

２．定量的評価

観点	調査件数	調査回数	資料収集数	学会研究会等発表数	論文掲載数	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
調査件数：60 回の調査を計画通り実施できた。
調査回数：30 回の目標を達成できた。
資料収集数：230 点の資料調査を計画通り実施することができた。
学会研究会等発表数：目標を達成できた。
論文掲載数：目標を達成できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究の成果は手に触れるハンズオン作品として展示され、多くの市民が文化財に親しむ契機になった。また３Ｄプリンタの普及に伴い、マスコミでも注目された、今後は更に多くの文化財を調査研究し、市民が文化財に親しむための機会を作りたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初計画にそって研究内容の水準を保ちながら順調に遂行している。引き続き外部資金を積極的に活用しながら研究を継続したい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）博物館における文化財保存修復に関する研究（(5)－⑥）

【事業概要】
当館の文化財保存修復施設の機能と利点を生かし、西日本地域の大学で装こう技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　志賀智史

【スタッフ】
渡部史之（博物館科学課アソシエイトフェロー）、下田詩織（博物館科学課研究補佐員）、大賀典子（博物館科学課事務補佐員）、竹上幸宏（国宝修理装こう師連盟九州支部技師長）、元 喜載（国宝修理装こう師連盟九州支部技師）、弓場 健太郎（国宝修理装こう師連盟九州支部技師補）

【主な成果】
吉備国際大学 2 名、九州産業大学 2 名、別府大学 2 名、広島市立大学 2 名の計 4 大学 8 名が研修に参加した。修復技術者の協力を得て、少人数で実践的な研修を実施することができた。本研修により、修理技術者育成に寄与すると共に、学生の文化財保護への理解を深めることができた。

【年度実績概要】

・当館の文化財保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムについて、平成 17～24 年度の実績をもとに検討、改善した。その成果は、4 大学 8 名の学生を対象に 25 年 8 月 19 日（月）～23 日（金）の 5 日間にわたり実施した、装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」に反映された。研修では障壁画の下貼り作製に関する講義と実習を通じて、文化財保存修復に対する参加学生の理解と研鑽を深めることができた。

・実習では当館文化財保存修復施設を使用している国宝修理装こう師連盟（国の認定する選定保存技術保存団体）の協力を得られたため、実践的な研修を実施することができた。


文化財保存修復研修
実習風景

【実績値】

研修開催数　　1 回（17 年度より 9 回目）

参加者数　　計 4 大学　8 名
（吉備国際大学 2 名、九州産業大学 2 名、別府大学 2 名、広島市立大学 2 名）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：公共の財産である文化財を、修理を通じて伝えていくためには、修復技術者の育成が不可欠である。
独創性：同様な研修を行っている公的機関は中四国九州地域では当館が唯一である。
発展性：文化財の修復分野は近年メディア等で注目されており、社会への影響が強い。
効率性：文化財保存修復施設で修理を行っている団体から協力を得られたので、効率的に実習を行うことができた。
継続性：修復技術者の育成は継続的に行う必要があり、研修も毎年継続して行う必要がある。
正確性：国宝修理装こう師連盟の協力により、正確な研修を行うことができた。

2．定量的評価

観点	研修開催数	参加者数				
判定	A	A				

判定理由
研修開催数：計画通り実施できた。
参加者数：実習としては適切な人数である。地域大学からの申し込みも多く、研修への関心の高さが窺える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	大学で保存修復の基礎教育を受けた学生を対象に実践的な研修の場を提供できる機関は極めて少ない。次年度以降も地域大学の学生を対象に、本事業を継続していく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平成17年度より少人数の実習を継続的に行っており、参加者数も安定している。そのため、次年度以降も引き続き同様の研修を実施する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究（(5)－⑥）

【事業概要】
平成 25 年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」実行委員として、地域の博物館等と連携協力し、実施する。本事業の目的は、我が国の博物館等におけるＩＰＭ（総合的有害生物管理）普及のための地域共働システムづくりである。本事業では、自治体とＮＰＯ法人や市民ボランティアの共働によるワークショップやシンポジウムの開催及び大学・専門研究機関・地域文化施設の連携による支援者育成研修プログラム確立を通し、ＩＰＭの社会的理解度を深めつつ自立的地域共働システムづくりを目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　本田光子

【スタッフ】
三輪嘉六（館長）、 西村栄造（副館長）、森田稔（副館長）、谷豊信（学芸部長）、阿部勝（総務課長）、今津節生（博物館科学課長）、篠﨑孝司（交流課長）、大石淳子（総務課長補佐）、秋山純子（博物館科学課環境保全室研究員）、河北絵里子（学芸部事務補佐員）、野田真紀子（学芸部事務補佐員）

【主な成果】
(1)研修会等参加者は、全国の美術館・博物館の学芸員及びボランティアからなるが、参加申込受付開始日に定員に達するなど、参加人数が大幅に増え、学芸員・市民の関心の高さがうかがえた。よって前年度よりさらに様々な意見を集約することが可能となり、ミュージアムＩＰＭ支援者研修プログラムの確立に充分活かすことができた。
(2)公開シンポジウムでは専門家の講演とＩＰＭ実践館等による報告を行い、東京での情報発信ができた。
(3) 平成 25 年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」を軸に市民協同型ＩＰＭシステム構築に関する研究を展開し、その成果を 3 冊の報告書にまとめた。

【年度実績概要】
(1)地域連携協力普及事業
・ワークショップ
専門機関職員、当館研究員と環境ボランティア及びＮＰＯ法人から成るチームのアウトリーチによるワークショップで、飛鳥資料館（25 年 8 月 19 日）、熊本市現代美術館（26 年 2 月 18 日）で開催した。
(2)シンポジウム
日本のＩＰＭ普及の現状と課題について、美術館博物館や研究機関の専門家による講演と各地文化施設実践事例の報告。2 名の専門家による基調講演と 6 本の基調報告、4 本の事例報告を 25 年 10 月 12 日に東京で開催した。
(3)人材育成事業
これまで実施検証を重ねた支援者育成プログラムの完成を目指して実施した。ミュージアムＩＰＭ支援者研修は、専門機関や大学との連携による先進館や伝統的施設の調査結果及び協力者会議の指導助言により改善し実施した。「ミュージアムＩＰＭ支援者研修」修了者報告会は、研修実施の意義や効果について、過年度の受講生自身の意見発表を受け、研修プログラムの最終修正に役立てるために行った。


公開シンポジウム

【実績値】
○検討会等開催回数・・・7 回
・「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」全体会議：2 回
・ワーキンググループ検討会：5 回
○支援者研修会開催回数・・・3 回
○支援者研修会参加者数・・・107 名
・ミュージアムＩＰＭ支援者研修（基礎編）：56 名
・ミュージアムＩＰＭ支援者研修（技術編）：33 名
・ミュージアムＩＰＭ支援者研修（実践編）：18 名
○シンポジウム開催回数・・・1 回　公開シンポジウム「市民と共にミュージアムＩＰＭ」（25 年 10 月 12 日）
○シンポジウム参加者数・・・116 名
○報告書 3 冊
・「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」事業報告書（研修編）1,000 部
・「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」事業報告書（報告会・施設見学調査編）1,000 部
・「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」事業報告書（シンポジウム編）1,000 部

【備考】
学会研究会等発表
①　「ミュージアムＩＰＭの実践と課題」文化財保存修復学会（25 年 7 月 20 日）
②　「市民ボランティアによる文化財ＩＰＭの発信について」文化財保存修復学会（25 年 7 月 21 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：研修会参加申し込みは先着順としているが、募集開始時に定員に達することから需要・必要性がある。
独創性：ＩＰＭ活動に市民を組み込んで進めている。
発展性：アウトリーチによるワークショップを実施。具体的なＩＰＭ活動を展開し、普及に努めた。
効率性：文化庁の補助金、太宰府顕彰会の助成金を活用しているため。
継続性：ＩＰＭ支援者の育成は継続的、段階的に行う必要があり、毎年継続する必要がある。
正確性：昨年と比べ研修受講者が大幅に増え、より多くの館でＩＰＭの理解を深めるのに役立った。

２．定量的評価

観点	検討会等開催回数	支援者研修会開催回数	支援者研修会参加者数	シンポジウム開催回数	シンポジウム参加者数	報告書
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
検討会等開催回数：目標回数、開催した。
支援者研修会開催回数：目標回数、開催した。
支援者研修会参加者数：予定を上回る人数の参加があった。
シンポジウム開催回数：計画通り実施できた。
シンポジウム参加者数：目標人数を達成した。
報告書：予定通り刊行した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は文化庁補助金事業の最終年度に当たり、これまでの本事業の集大成と位置づけ、研修プログラムの確立、ＩＰＭ普及のための体制作りを目標に取り組んだ。これまでの研修会・公開シンポジウムなどの実施によって、確実にＩＰＭが広く普及したといえる。次年度は文化庁事業ではなくなるため、新たな研修実施体制の確立とＩＰＭの普及を継続して進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	地域に展開可能なミュージアムＩＰＭ支援者育成プログラムを確立し、館の保存管理機能の基盤強化と共に地域のミュージアム支援者層の拡大に寄与することができた。また地域市民や専門機関との連携を深めながら、より積極的にＩＰＭを軸にした文化財保存に関する調査及び研究を推進した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（ＵＮＥＳＣＯとの共同）（(5)－⑥）

【事業概要】
日本、中国、韓国における文化財の保存修理には、良質の手漉き紙の確保が必要不可欠である。そのため、各国の手漉き紙の製作状況を調査し、材料や技法などを詳細に実地調査し、映像記録（動画、静止画）や調査カードにまとめる。また、各国での調査結果について報告会を開催し、紙文化財の保存修理に関する各国の共通理解の進展を図るとともに、その報告書を作成する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	前保存修復室長　藤田励夫

【スタッフ】
森田稔（副館長）、本田光子（学芸部特任研究員）、渡部史之（博物館科学課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
ＵＮＥＳＣＯとの共同事業として、平成 20 年度より五ヵ年にわたって実施した日本・中国・韓国での手漉き紙の製作状況調査の集大成として、前年度当館において開催された「第 5 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」の報告書を作成した。

【年度実績概要】
・当館において前年度開催された「第 5 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」には、日本・中国・韓国・アメリカ・イギリス各国より総勢 170 名に及ぶ紙文化財の保存修理関係者が出席した。本年度は、その時の基調講演 1 本、研究報告 9 本（日本 3 本・中国 3 本・韓国 3 本)、パネルディスカッションの内容を収録する報告書を作成してその成果を記録に留め、広くその情報を発信した。また、報告書にはそれぞれの内容を日本語・中国語・韓国語の 3 言語に翻訳して収録することで、日本国内だけでなく、中国・韓国にも広く情報を発信し、各国の共通理解の進展が図れるようにした。


第 5 回東アジア紙文化財
保存修理シンポジウム

【実績値】
報告書：　1 件　「第 5 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」報告書

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-4

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：日本・中国・韓国は紙文化財の保存修理について共通の問題を抱えており、共通理解の進展が必要である。
独創性：実地調査の難しい海外の手漉き紙の調査結果をふまえた報告書を作成することができた。
発展性：報告書には各報告を日本語・中国語・韓国語の 3 言語に翻訳して掲載し、情報をひろく三ヵ国に発信した。
効率性：ユネスコと連携することで海外での円滑な調査が可能となり、その成果を報告書に反映することができた。
継続性：各国の手漉き紙の製作状況調査及びその成果の記録・発信は継続的に行う必要がある。
正確性：複数の伝統的製紙工房の調査に基づく日本・中国・韓国の報告を報告書に収録した。

２．定量的評価

観点	報告書					
判定	A					

判定理由
報告書：計画通り刊行することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本語・中国語・韓国語の 3 言語による「第 5 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」の報告書を、計画通り作成することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り報告書が作成され、当初の目標を達成することができた。なお本プロジェクトは、本年度をもってひとまず終了する。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-5

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究(学術研究助成基金助成金)((5)-⑥)

【事業概要】

彩色材料は当時の社会情勢や世界との交流の歴史を解明する上で重要な要素のひとつである。近年の分析装置の発展により非破壊で多くの情報が得られるようになっている。その中で彩色材料について確実な情報を得るには、有効な分析手法を確立する事が求められる。本研究では、赤外線撮影法により彩色材料を非破壊で二次元的に判断することを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室研究員　秋山純子

【スタッフ】

畑靖紀（文化財課資料管理室主任研究員）、森實久美子（企画課特別展室研究員）、鷲頭桂（企画課特別展室研究員）

【主な成果】

本年度は赤外線撮影で有用となる彩色材料を明らかにするため、基本となる彩色材料を検討し、カラーチャートを作成した。そしてカラーチャート及び実際の絵画の赤外線画像と彩色の科学分析の結果を照らし合わせ、赤外線画像の解析を試みた。

【年度実績概要】

・江戸時代までに一般に入手可能であった主な顔料をピックアップした。選定した顔料は群青（8 番、12 番）、白群、緑青（8 番、12 番）、白緑、辰砂（10 番、14 番）、鎌倉朱赤口、丹、弁柄、岱赭、藤黄、日本黄土、鉛白、白土、胡粉、墨の 14 種類である。また、修復の専門家による彩色材料についての意見を下に赤外線調査の基本となるカラーチャート（写真）を作製した。



図 1　作製したカラーチャート

・カラーチャート及び絵画作品の赤外線画像を非接触大型画像取得装置 Niji-H（高精細スキャナ、株式会社サビア製）を使って撮影した。赤外線撮影はモノクロカメラ（レンズ Micro Nikkor 55mm f2.8、絞り 5.6）を用いて、可視光に近い近赤外領域の赤外線で行った（IR-LED 光源、紫外線吸収フィルタ SC70)。

・カラーチャート及び絵画作品の赤外線画像をデジタル一眼レフカメラ（PENTAX 製 645D を使って撮影した。フィルタは可視光撮影には IR カットフィルター（リコー製)、赤外線撮影には R72 フィルタ（Kenko 製）を使用した。

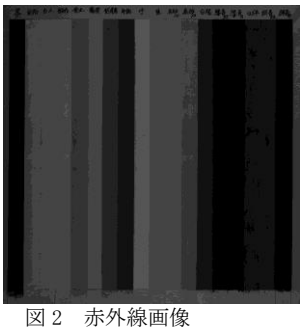


図 2　赤外線画像

・蛍光Ｘ線分析装置で成分を把握し、購入した彩色材料の基礎データを収集した。蛍光Ｘ線分析では成分分析しかできないが、赤外線画像と分析結果を照らし合わせるには顔料分析においても非破壊調査が求められるため、今回は簡易型の蛍光Ｘ線分析装置（デルタハンドヘルド蛍光Ｘ線分析計、機種:Premium、Rh 管球、分析ソフトウェア:土壌モード（絶対値)、Alloy 合金モード、岩石鉱石モード、型式：DP-4000）を使用した。実際の絵画の分析を想定しているため、彩色材料そのものではなく、膠で塗布したカラーチャートの分析を行った。

【実績値】。

・調査回数　4 回（国内 2 回、海外 2 回）
・学会研究会等発表数　1 件(①)

【備考】

学会研究会等発表

①「赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究１」文化財保存修復学会（25 年 7 月 21 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：国内外に関心が高い調査であるため。
独創性：彩色材料の非破壊調査に系統的に赤外線を活用する手法は新たな試みであるため。
発展性：さらに適応例を増やし、より確実なデータを収集することで、汎用性が増す。
効率性：デジタルで撮影も簡単であるので、時間的投資、人的投資が少ない。
継続性：基礎データを元に実際の絵画に適応し、データを積み重ねることで確実なデータとなっていく。
正確性：赤外線撮影用のカメラを活用することで、高精細な画像データを得られる。

２．定量的評価

観点	調査回数	学会研究会等発表数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：年間 4 回、計画通り国内外の絵画を調査した。
学会研究会等発表数：文化財保存修復学会にて計画通り実施できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究に使用している撮影機材は、非破壊で簡便な撮影ができる。蛍光Ｘ線分析による結果と組み合わせ、より確実な彩色調査が可能であることが分かった。次年度はさらに多くの資料を調査すると共に、蓄積したデータの活用を進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究の基礎となるカラーチャートの作成とそれを基準とした実際の絵画の赤外線撮影を行うことができた。赤外線画像の解析を進め、次年度は様々なフィルタを活用した赤外線撮影を行い、波長の違いによる赤外線画像の違いを解析する。蛍光Ｘ線分析と組み合わせ、彩色材料の弁別に役立つデータを蓄積する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6）三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発　―興福寺 国宝阿修羅像を中心に―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（(5)－⑥）

【事業概要】
本研究は特別展の際に各地から収集された文化財を科学的に調査することによって、文化財研究の基礎資料を蓄積すると共に、その研究成果を生かして新しい展示手法を開発することを目的とする。具体的には、文化財用の大型Ｘ線ＣＴスキャン調査によって得られた、奈良興福寺の国宝 阿修羅像をはじめとする十大弟子像 4 躯、八部衆像 5 躯の像内の高精細三次元データを分析し、奈良時代の脱活乾漆像の構造及び技法、修復履歴を明らかにした上で彫刻史上の作風的位置づけを行う。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

【スタッフ】
楠井隆志（展示課主任研究員）、鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）

【主な成果】
本研究は興福寺の特別な許可を得て、Ｘ線ＣＴ調査で得られた国宝 阿修羅像をはじめとする十大弟子像 4 躯、八部衆像 5 躯の高精細三次元データを、美術史・工芸史・修復技術・文化財科学・博物館学の専門家が一同に集まって解析する研究である。これまでに、Ｘ線ＣＴによって得られた三次元画像を 450 枚以上蓄積した。また研究の成果を出版すべく編集作業を進めた。

【年度実績概要】
・本年度はカルラ像を中心に八部衆、十大弟子の構造解析を進めた。カルラ像の心木は虫食が無い良好な状態であることが判明した。また、鎌倉時代と江戸時代、明治時代に実施された修理の痕跡も明瞭に把握することができた。さらに三次元データの解析から像内脚部付近に欠落材が存在することを明らかにした。この欠落材を三次元プリンタで造形化し、形状や釘の位置を検討した結果、この欠落材は腰部の前後に補強材として取り付けられていたものが、何らかの原因で釘が外れて下部に落ちたと推定できた。このように、本調査によって、文化財の過去の破損歴や修復歴を明らかにできた。このように、本研究によって天平彫刻の基準作品を、科学調査を基盤として客観的に位置づけることによって、日本彫刻研究の新しい研究基盤を形成することが期待される。


カルラ像の横断面画像

【実績値】

収集資料数　　9 点
論文掲載数　　1 件（①）

【備考】
論文
①「博物館研究におけるＸ線ＣＴ活用の可能性」『東風西声』第 9 号（26 年 3 月 31 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-6

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：天平彫刻の最高傑作を、科学調査することによって日本彫刻研究の新しい研究基盤を形成することができた。
独創性：所蔵者である興福寺様の特別な許可を得て実施できた研究であり、これまでにない新たな研究基盤である。
発展性：Ｘ線ＣＴと三次元プリンタによる調査研究は適用範囲が広く、得られる結果も多様である。
効率性：展示会の際にＣＴ調査を実施しており、高精度の三次元デジタルデータを解析しながら研究データを得られる。
継続性：採取した三次元データを基に、内容豊富な質の高い基礎情報を蓄積することができる。
正確性：正確な三次元データを基に、文化財の状態を把握することは、多くの文化財調査に有効である。

２．定量的評価

観点	収集資料数	論文掲載数				
判定	A	A				

判定理由
収集資料数：9 点（写真数　450 枚）の調査を計画通り実施できた。
論文掲載数：目標を達成できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究は、Ｘ線ＣＴによる膨大な三次元データを美術史・工芸史・修復技術・文化財科学・博物館学の専門家が一同に集まって解析することにより、天平彫刻の最高傑作を日本彫刻研究の新しい研究基盤として位置づけることになる。本年度はカルラ像を像を中心に八部衆、十大弟子の構造解析を進めた。次年度は、随時研究成果を公開し、最終的には膨大な研究成果を集積した報告書を作成する予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、当初計画にそって研究内容の水準を保ちながら順調に遂行している。すでに、450 枚以上の画像データを収集し、研究報告の出版を計画している。引き続き外部資金を積極的に活用しながら研究を継続したい。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-7
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）((5)-⑥)

【事業概要】
京都・泉屋博古館所蔵の住友コレクションのうち、中国古代青銅器コレクションを中心に、古代中国青銅器の鋳造技術の解明のためにＸ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて科学調査を実施、その成果を中国で出版して広く成果の普及と学術交流を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　谷豊信

【スタッフ】
今津節生（博物館科学課長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）

【主な成果】
当館では京都・泉屋博古館と共同してＸ線ＣＴ、３Ｄデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを集積したデジタルアーカイブを構築している。本年度は大阪・和泉市久保惣記念美術館が所蔵する中国古代青銅器を調査すると同時に、中国科学院と協議して成果の検討を進め、中国科学出版社とは出版に向けての打ち合わせを行った。

【年度実績概要】
・本年度は、大阪・和泉市久保惣記念美術館の殷周青銅器を対象として、肉眼観察と共に画像解析を実施した。その中でも脚や持ち手等青銅器本体から伸びる立体造形の接続状況に着目して分析を行った。これらの成果は住友コレクションで以前から進めてきた立体装飾造形の調査成果を補強するもので、中国古代青銅技術の広がりを確認する結果となった。

・北京の中国科学院、科学出版社を訪問して、中国語版の成果報告書を出版するための学術的・事務的な協議を進めた。特に科学院との検討では、本成果が中国はもとより世界的に見ても例を見ない成果であるため、早く中国の学界に報告すべきであるとの意見を頂戴し、そのために改訂すべき諸点（スペーサーや厚さの均一性をどう表現するか）が明らかとなった。また、中国古代青銅技術が、広くユーラシアに系譜が求められると同時にオリエントとは異なるいくつかの要素が認められることも明らかになった。中国科学出版社との協議は事務的な内容が中心だったが、報告書の体裁や印刷・製本の方法が固まり、見積取得できる段階に到ったため、次年度の出版がスケジュール・予算的にも明確となった。また、本年度末に京都・泉屋博古館で開催する日中双方の研究会を経て、翻訳作業に入り、次年度 10 月中の出版を目指して、研究論文の執筆や画像作成を進めていく予定である。



科学研究費成果　原稿(案)

【実績値】

海外共同調査数　　1回
海外研究者招聘・受入数　1回

【備考】
（参考）
学会研究会等発表（共同研究者）
① Takafumi Niwa , Hidehiro Shingo, Takahiro Yatsuki, Yosuke Higuchi,　Experimental archaeological study for reconstructing the relationship between technologies and the remains of metal artifacts:Based on an investigation of Zun-Pan vessels from the Zenghou Yi tomb

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-7

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：文化財ＣＴ分析は必要性が高まっている分野であり、国際的にも日本が優先的位置を占めている。
独創性：この種の研究は世界でも類が無く、速やかな成果公開が求められる。
発展性：資料が無くても、海外で共同研究が進められ、発展性が期待される。
効率性：計測時間が飛躍的に向上し、ノウハウが蓄積されている。
継続性：住友コレクションに対する計測の蓄積がある。
正確性：デジタル計測のため、肉眼による分析に比べ確度が高い。

２．定量的評価

観点	海外共同調査数	海外研究者招聘・受入数				
判定	A	A				

判定理由
海外共同調査数、海外研究者招聘・受入数：
特に目標値は無いが、実務的な協議が達成できたため、A判定とした。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究に使用している調査研究機器は、世界的に最も優れた装置の一つとして高く評価されている。大阪・和泉市久保惣記念美術館との連携研究の他に中国古代青銅器の著名なコレクション（住友コレクション）を有する泉屋博古館との共同研究も進んでいる。また、中国科学院との研究者の連携研究も進めている。次年度はさらに多くの資料を調査すると共に、蓄積したデータの活用を進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当館では、文化財を外部の博物館から借用して展示することが多いので、展示借用の際に、最新機器を用いて共同研究を進めている。すでに、これまでの研究協力において国内外の博物館や研究機関と共同研究が進んでいる。次年度はさらに連携を進めて共同研究を実施していきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-8

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8)石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）((5)-⑥)

【事業概要】

本研究では、弥生時代～古墳時代の墳墓の埋葬施設（室、槨、棺）への赤色顔料の塗布について、その種類や塗布範囲の調査を行い、時期差や地域差、階層差の有無を検討することを目的とする。これまで墳墓から出土する赤色顔料の使用方法については、塗布や散布、敷かれたなどと言われることがあるが、使用対象が木棺や遺骸といった有機物であることが多く、実際にはその使用方法は明確では無い。ここでは、石棺や甕棺などの腐朽しない棺を主な調査対象とし、これらの点について検討を行うものである。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　志賀智史

【スタッフ】

【主な成果】

内面が赤く塗られた棺の初現については、これまで北部九州の弥生時代中期後半の箱式石棺墓で、ベンガラが塗布されていたものと考えられていた。しかし、同時期の甕棺墓では水銀朱が塗布されていたものがあることが明らかとなった。古墳時代の石棺等での調査は、現在調査を実施中であるが、内面にベンガラを塗布した例が多いようである。ただし、内面に朱を塗布した事例も少なからず認められる。次年度以降、調査範囲を広げ、さらに検討を行う予定である。

【年度実績概要】

・本年度は、主に九州地方を調査対象とした。

・受託研究として行った弥生時代中期後半の大分県日田市吹上遺跡の甕棺墓での調査結果を受けて、本科研費で関連資料の調査を行ったところ、当該期の北部九州では、甕棺内面に水銀朱が塗布されているものが一定量存在していることが明らかになった。棺に赤色顔料が塗布された事例としては、従来、同時期の北部九州の箱式石棺墓でのベンガラの塗布が初現と考えられてきた。今回の調査で、墳墓の形態と棺内に塗布された赤色顔料の種類に相関関係がある可能性も指摘できた。これらは埋葬施設への赤色顔料塗布の出現期の状況として、大変重要な調査成果である。

・古墳時代前期中頃の福岡県宗像市田久瓜ヶ迫遺跡 1 号墳出土円筒棺の調査を行い、内面にベンガラが塗布されていることを明らかにした。

・古墳時代中期後半の福岡県大牟田市石櫃山古墳出土 1 号石棺の調査を行い、内面にベンガラが塗布されていることを明らかにした。

・長崎県大村市竹松遺跡や群馬県金井東裏遺跡での関連資料の調査を行い、発掘現場でしかみることができない赤色顔料の出土状況の調査を行った。



資料保管先での携帯型実体顕微鏡を用いた調査風景

【実績値】

調査回数　5 回
収集資料数　30 点
学会参加数　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-8

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：これまで遺物として認識されてこなかった赤色顔料について、基礎的な調査を行うことが求められている。
独創性：出土赤色顔料を考古学的に検討する研究は、ほとんど行われていないため独創的な研究であると言える。
発展性：出土赤色顔料は世界各国、色々な時期に認められることから、今後は世界的視野からの検討も必要である。
効率性：出土状態の検討や顕微鏡観察は、長時間の観察が必要であるが、これまでの経験を生かし効率的に調査を実施することができた。
継続性：調査内容の質を保ちながら調査を継続している。
正確性：顕微鏡による付着状況の観察や赤色顔料粒子の観察も行っており、調査結果は極めて正確である。

２．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	学会参加数			
判定	A	A	A			

判定理由
調査回数：付着状況の顕微鏡観察に長時間を必要とすることから、十分な調査回数と考えられる。
収集資料数：顕微鏡を用いた赤色顔料粒子の形態観察に長時間を必要とすることから、適切な資料数と考えられる。
学会参加数：数は少ないが、会員数の最も多い文化財科学関連の学会に参加しており、適切な参加数と考えられる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	科学研究費による４ヵ年継続事業の１年目であるが、新知見を得られたことは大きな成果である。次年度は中四国地域を中心に調査を行いたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は、当初の計画に沿って研究内容の水準を保ちながら順調に遂行している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-1

（様式 1）　　業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)博物館環境デザインに関する調査研究((5)-⑦)

【事業概要】

東京国立博物館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課デザイン室長　木下史青

【スタッフ】

勝沼早苗（企画課デザイン室 アソシエイトフェロー)、矢野賀一（企画課デザイン室主任研究員）

【主な成果】

- 平成26年４月の本館改修工事に先立ち、平成館と本館を結ぶジャンクションとなる本館17室の案内・誘導・注意サインについて、4言語(日・英・中・韓)によりよりわかりやすくなるよう整備した。(25年10月)
- 本館から平成館へ移設･新設された＜東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナー＞を、寄贈者の顕彰とともに憩いのギャラリーとしてリニューアルした。
- 平成26年度にオープン予定の「正門プラザ」は、ショップ・売札・もぎり・インフォメーションカウンターなど、東京国立博物館の来館者全体を招き入れる施設となる。この施設のサイン全てについてデザインを行った。

【年度実績概要】

- 他館展示／観覧環境のデザイン調査：これまでの国内外の博物館・美術館での事例調査に加え、さらに地方博物館・美術館における環境デザインを調査し、特に今年度においては寄贈者顕彰コーナーの参考とした。
- 調査先／プラド美術館、ソフィア王妃芸術センター（マドリッド)、國立故宮博物院、台湾國立台灣博物館（台北)、ベルリン博物館島、ベルリン自然科学博物館（ベルリン)、ライプツィヒ造形博物館（ライプツィヒ)、沖縄県平和祈念資料館（沖縄)、福島県立美術館（福島)、青森県立郷土館（青森県)、広島県立美術館（広島)、二条城（京都)、名古屋市美術館、名古屋城本丸御殿（名古屋)、IMT インターメディアテク（東京）等



本館 17 室案内･誘導･注意サイン





平成館「東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナー」

【実績値】

研究発表件数　5 回

・《展示と照明》講演、ワークショップ　於･台中自然科学博物館，国立台中美術館（台中市）　ほか

論文等掲載数　4 回

・照明学会誌（照明学会)、『日本歴史』（吉川弘文館）　ほか

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	B	A		

判定理由
適時性：当館の来館者数拡大が事業目標とされる中で、より解り易い案内サインの整備が課題である。「正門プラザ」建設にともなうサイン整備にあたり、さまざまなサインに関わる検討がなされた。
発展性：平成16年度の本館リニューアルから、平成22年度のアクションプランまで、館内サインの充実がなされてきた。一方デジタルサイネージ等、技術的進歩に対応しつつ当館に適応するデザインを整備しつつある。
効率性：正門プラザでは、大型ディスプレイやモニタによる、当館初のウェブサイト情報とリンクした情報発信が可能となる予定である。今後は時間的・人的な手当て等、より効率的な情報発信を推進したい。
継続性：館内サインへのデジタルサイネージ導入についての一定の有効性は判断できる。正門プラザでの情報提供整備へ向け、継続的な最新の技術面・デザイン面での継続的な調査研究が望まれる。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文等掲載数				
判定	A	A				

判定理由
研究発表件数：全館的な方針に沿って研究を行い、その成果として館内において計画を実施（製作･設置）している。
論文等掲載数：特にデジタルサイネージについて、最新の技術的・意匠的な面での調査研究が望まれ、文化施設のみでなく、先進的な事例として商業環境を含む調査も合わせて必要である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示・公開事業の基本的なメンテナンスは欠かせない一方で、急速な技術的進歩を遂げているサインのデジタル化（デジタルサイネージ）及び画像・映像利用の増進に対応して、展示解説等への応用的デザイン研究を計画的に進めている。 平成25年度に得られた成果、特に東洋館リニューアルで実施・検証された、サイン掲出におけるコンセプトと、視認性・判読性等の方法論的知見は、特に26年度にオープンする「本館リニューアル」及び「正門プラザ」に反映させる予定。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	２５年度においては本館リニューアルと正門プラザ建設の事業を中心に計画通り実施している。 引き続き館内の環境デザインのファシリティ及び質的向上を計画的に行う必要がある。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4571-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）博物館教育に関する調査研究（(5)―⑦）

【事業概要】
当館本館特別 4 室及び東洋館 2 室、6 室の教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」において、総合文化展と密接に関連した博物館教育事業の理論と実践に関する調査研究を実施する。
総合文化展の来館者の鑑賞体験をより豊かなものにするため、総合文化展のスマートフォン用アプリケーションガイドとして、「トーハクなび」を一般公開し、その成果について調査する。

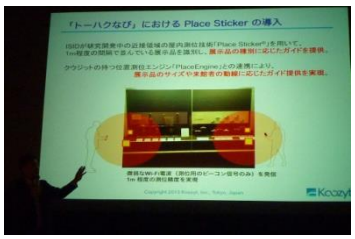
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　小泉惠英

【スタッフ】
鈴木みどり（ボランティア室長）、永田香織（教育普及室任期付研究員）

【主な成果】
・本館特別 4 室及び東洋館 2 室、6 室「みどりのライオン」における博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、年間で 10 万人を超える利用者があり、当館の博物館教育プログラムとして定着している。この事業の一部は、当館のボランティアの主要な活動範囲となっており、博物館教育におけるボランティアの現状と課題について調査した。
・トーハクなびは、アンドロイド版に加えて、iOS 版をリリースし、さらに体験型コンテンツを充実させた。このアプリケーションは、GPS を用いた位置の測定や観覧車の滞在時間の調査などが可能であり、観覧者の回遊状況についての調査を実施した。

【年度実績概要】
・本館特別 4 室では、触知図によるハンズオン体験、東洋館 6 室では、開館時にはボランティアがほぼ常駐し、来館者への案内、体験コーナーの紹介を実施している。この用務は基本的に当館のボランティアが担当している。プログラムに対する来館者の対応、ならびにボランティアの果たす役割について、これらの業務を通じて調査、研究し、以下の発表を行った。
　鈴木みどり
「東京国立博物館の生涯学習ボランティアについて」（文化庁「第二回企画展示セミナー」口頭発表　25 年 7 月 4 日）
「東京国立博物館におけるボランティア制度の現状と課題」（日本博物館協会平成 25 年度研究協議会「博物館とボランティアの新しい地平」口頭発表　26 年 1 月 16 日）

・トーハクなびは、ISID（電通国際情報サービス）、クウジット社との共同研究で開発し、平成 24 年 4 月より一般公開を始め、その後、コンテンツの拡充、各種 OS に対応するヴァージョンをリリースしてきた。本年度末までに当館の展示全般にわたるガイドコンテンツを作成し、次年度より公開の予定である。
　また、本研究に関し、地理空間情報フォーラム 2013 において共同研究者の（株）クウジットが、成果報告を行った。
　塩野崎敦
「拡がりつつある屋内におけるロケーションサービス」（地理空間情報フォーラム 2013、於日本未来館　口頭発表　25 年 11 月 14 日）



クウジット社のフォーラムでの発表

【実績値】
研究発表回数　3 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：情報化社会の発展した時代のニーズに対応し、広く公開を目指したものであるため。
独創性：今までの博物館にないサービスの提供を行っているため。
発展性：今後のサービスの多様化に向けての多くの可能性を示しているため。
効率性：有効な人材の活用ならびに、人的な投資に代わる機器の利活用を実施しているため。

2．定量的評価

観点	研究発表回数					
判定	A					

判定理由
研究発表回数：
東京国立博物館の教育普及活動の実践例を多角的に紹介し､情報化社会の中での博物館の役割について広く知らしめているため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館が実施している教育普及活動は、ガイダンス、レクチャー、体験型プログラムなど様々であるが、これらの業務にボランティアが積極的に関与し、成果を上げている。また、近年ではスマートフォンの普及により、来館者が情報を得る手段が変化してきているが、アプリケーションガイドの充実により、こうした時代の動きに適切に対応している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館教育に関しては、おおむね計画に沿って進行している。時代の変化に遅れず、観覧者に対して適切なサービスが実施できるように、今後も取り組んでいきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究（(5)－⑦）

【事業概要】
東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究し、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課情報管理室長　村田良二

【スタッフ】
和久井遥（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能、修理予定・履歴管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。さらに、作品の検索性能の向上や、データの一括アップロード機能の追加を行った。また、システム環境の漸進的な更新にむけた作業を開始した。

【年度実績概要】
収蔵品管理システムの運用を継続することにより、収蔵品のデータ更新・追加・訂正を円滑に行える環境を維持し、随時改善を重ねて一層の機能向上を図った。

作品の検索機能においては、全文検索システムを応用した索引生成の手法により、これまでよりもシンプルな実装で、同等以上の速度・精度の検索さ可能となった。また、作品データの登録作業のために CSV ファイルから一括でデータをアップロードする機能を追加した。

システムは 2005 年から開発を継続しているものであるが、サーバソフトウェアやプログラミング言語等の環境の変化にあわせるため、また、よりメンテナンス性を高めるために、これまでも移行を検討してきたが、現行のシステムそのものを漸進的に更新していく方法がより現実的であることがわかり、そのための作業に着手をした。



収蔵品管理システム
（修理情報管理画面）

【実績値】
収集データ件数　209,794 件
（内訳）
作品データ件数　202,752 件
平常展データ件数　3,416 件
鑑査会議データ件数　73 件
貸与データ件数　1,094 件
修理データ件数　2,459 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：業務に合わせて必要とされる改修・改善を随時行っている。
独創性：既存のシステムにない総合的な博物館資料情報システムとなっている。
発展性：柔軟な機能追加・改善が可能な設計となっている。
効率性：内製により効率的な開発を行い、検索性能の向上により業務効率の向上に寄与した。
継続性：データ整備の基盤構築として継続的に実施した。
正確性：作品に関する調査結果を随時反映し、データの正確性をさらに向上させた。

2．定量的評価

観点	収集データ件数					
判定	A					

判定理由
収集データ件数：効果的な業務支援機能により、学芸業務を行う流れの中で効率的に無理のないデータ収集が可能となり、その結果データを着実に蓄積している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	収蔵品のデータ蓄積と業務支援を密接に連動させたシステムにおいて効果的にデータの蓄積、活用を行うことが可能となっている。今後は、現行のシステムの機能を維持しつつ、より今日的なフレームワークやソフトウェア環境に適合的で、メンテナンス性の高いシステムとなるよう更新を重ねていく。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各分野の研究員、業務担当者と連携をとりながらシステム開発を継続しつつ、館内の利用者アカウント管理の統合や、文書出力関連の機能強化を進める。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-4
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）凸版印刷と共同でミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する（（5）－⑦）

【事業概要】
館蔵文化財のデジタルアーカイブを活用した、新たな公開手法を凸版印刷株式会社と共同で研究する。
平成 19 年度から「国宝　聖徳太子絵伝」「国宝　灌頂幡」「重要文化財　洛中洛外図　舟木本」「土偶」「十一面観音菩薩立像」の高精細デジタルアーカイブを作成し、それらを素材としてミュージアムシアターにおけるコンテンツの公開を実施している。本年度は重要文化財「日本沿海輿地全図」（伊能忠敬の日本図）を素材にコンテンツ制作を行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課長　井上洋一

【スタッフ】
田良島　哲（学芸研究部調査研究課長）、松嶋雅人（企画課特別展室長）

【主な成果】
(1)前年度にデータ取得及びコンテンツ制作に着手した文化財について、ミュージアムシアターのコンテンツを公開した。
(2)重要文化財「日本沿海輿地図」8 鋪について、凸版印刷との共同で超高精細画像データを取得し、それに基づいたシアター用コンテンツの制作に着手した。同コンテンツは平成 26 年 6 月から 8 月にかけてミュージアムシアターで公開する予定である。
(3)既に取得した作品のデータを元にした新コンテンツ 2 件を監修し、公開した。

【年度実績概要】
(1)前年度にデータ取得及びコンテンツ制作に着手した重要文化財「十一面観音菩薩立像」について、ミュージアムシアターのコンテンツ「三蔵法師の十一面観音」として公開した。
(2)館蔵の歴史資料である　重要文化財　日本沿海輿地全図　伊能忠敬作　8 鋪（P-2906）について、超高精細画像データを取得し、それに基づき、凸版印刷が当館の監修のもとに、ミュージアムシアター用コンテンツ「伊能忠敬の日本図（仮称）」の制作に着手した。同コンテンツは平成 26 年 6 月から 8 月にかけてミュージアムシアターで来館者に公開する予定である。併せて同時期に平成館企画展示室において特集「伊能忠敬の日本図」を開催する予定である。
(3)作成済みのデータ及びコンテンツを元にした「土偶　縄文人の祈りのカタチ」・「洛中洛外図屏風と岩佐又兵衛」の２件のコンテンツ制作の監修を行い、特集陳列及び特別展に関連した企画として公開された。


日本沿海輿地全図の超高精細画像データ取得作業

【実績値】
データ化件数　1 件（8 点）
コンテンツ化件数　1 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：博物館の情報化と、より広範な文化財の活用という現在の動向を反映している。
独創性：希少性の高い文化財を素材として、研究員の知見に基づいた他に類例のないコンテンツを制作している。
発展性：多目的に活用できるデータを蓄積している。
効率性：凸版印刷との協業により、効率のよいデータ蓄積を行っている。
継続性：共同研究以来6年を経過し、引き続き積極的な展開を図っている。
正確性：凸版印刷の持つ画像技術の応用により、高精細かつ正確なデータの取得を行っている。

2．定量的評価

観点	データ化件数	コンテンツ化件数				
判定	A	A				

判定理由
データ化件数・コンテンツ化件数：所期のデータ化及びコンテンツ化ができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画どおりに新コンテンツの公開及び次のコンテンツの素材となるデータの取得が行われた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	凸版印刷との共同研究を継続しており、アーカイブの方法も含めた作品データの蓄積と活用を進めるとともに、新シアター向けのコンテンツが公開し、平成26年度公開に向けたデータ取得を行うことができた。引き続き、研究対象の選定と方法について協議を進め、新たな素材に関する研究とデータ及びコンテンツ制作に取り組む。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-5
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5) 聴力障がいを持つ児童･生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)((5)－⑦)

【事業概要】
聴覚に障害がいもつ児童・生徒の博物館での学習や鑑賞の困難さの特徴を示し、その具体的解決方法としての鑑賞プログラム構築を行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー　川岸瀬里

【スタッフ】

【主な成果】
聴覚障がいをもつ児童・生徒への特別支援教育についての調査と、国内外の美術館・博物館で行われているバリアフリー化、ユニバーサル化事業の調査を行った。

【年度実績概要】
・聴覚特別支援学校、特殊教育学会、国立特別支援教育総合研究所、聾教育研究会などでの調査、情報収集のほか、特別支援教育研究者や教員、ろう者との意見交換を行った。
・国内外の美術館・博物館で聴覚障がいに限らず、障がい者に対応しているプログラムや設備、ツールに関する調査、情報収集した。健常者にもあらゆる障がい者にも有益なものは限られているが、聴覚障がい、視覚障がい、知的障がい、肢体不自由など障がい種を越えて、児童が利用していたものに韓国で多く見られたフロッタージュや、アニメーション等動画による解説などが挙げられる。道具の工夫等で、日本の既設のフロッタージュなどもユニバーサル化できることを国内の美術館・博物館関係者と確認した。
・聴覚障害者への対応の遅れと、その解決法について意見交換を行った。
　都内調査：三井記念美術館、東京ステーションギャラリー、山種美術館、国立新美術館
　九州調査：石橋美術館、九州歴史資料館、熊本博物館、熊本県立美術館、九州国立博物館、熊本市現代美術館、福岡アジア美術館、西南学院大学博物館、福岡市博物館、北九州市立美術館、いのちのたび博物館
　韓国調査：国立中央博物館、ソウル薬令市韓医薬博物館、仏教中央博物館、サムスン美術館リウム、南山コル韓屋マウル、景福宮、国立民俗博物館
　和歌山調査：和歌山県立博物館


韓国・国立中央博物館フロッタージュコーナー

【実績値】
美術館等調査回数　5 回
特別支援教育施設等調査回数　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	A	A

判定理由
適時性：博物館のユニバーサル化という時代の要請に応えているため。
独創性：これまで注目されてこなかった聴覚障がい者を対象とした、先進的な取組を行っているため。
発展性：今後の展開を視野に入れながら行っているため。
効率性：周到な計画の上に行っているため。
継続性：計画に基づき、情報収集及び検討を重ねているため。
正確性：美術館・博物館だけでなく、特別支援教育の現場と協力し検証しながら進めているため。

２．定量的評価

観点	美術館等 調査回数	特別支援教育 施設等調査回数				
判定	B	B				

判定理由
美術館等調査回数・特別支援教育施設等調査回数：
広く情報収集するとともに、意見交換等を通じ、聴覚障がい者の学びに関する新たな視点を提供してきたため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別支援教育の現場では、博物館への訪問を希望しているものの、受入体制に不安を抱えていることがわかった。また、美術館、博物館をはじめとする多くの公共施設で、聴覚障がい者に対する教育普及事業やサービスがほとんど行われておらず、その必要性も感じられていないことが確認された。しかし既存のプログラムの中には聴覚障がい者の学習の特徴を踏まえ、改良することで、聴覚障がい者に有益なプログラムにできることを提案してきた。今後もさらに研究を続けるとともに、成果の情報発信を精力的に行っていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は、概ね研究計画に沿ったかたちで順調に進められていると考える。今後も新たな教育手法の有効性を検証し、また有形文化財に関する調査研究の最新の成果を活用しながら、博物館という場をいかした実践的プログラムの開発に取り組んでいきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4571-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財を活用した効果的な展示や教育活動等に関する調査・研究
プロジェクト名称	6）藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費補助金）（(5) -⑦）

【事業概要】
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館が所蔵する藤ノ木古墳出土品をはじめ11件（3000点以上）の国宝等国指定文化財を対象に、照度・大気・振動・温湿度等の展示・収蔵環境の調査と非接触高精度三次元形状計測および透過X線撮影検査による微細物理的検査との相関性について研究し、適正保管・管理・公開を促進するための計画の指針（試案）を検討する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課考古室　研究員　品川欣也

【スタッフ】
今尾文昭（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　学芸課課長）

【主な成果】
・当館ならびに橿原考古学研究所附属博物館が使用している非接触高精細三次元計測機の特性を把握するために、各々の機器の利点や弱点などについて把握することができた。
・非接触三次元計測によって得られたデータについてレリーフ画像や断面形状を比較するだけでなく、データの解析処理を行うことによって、より細かなレベルでの物理的な検査が有効であるとことが判明した。

【年度実績概要】

・当館ならびに橿原考古学研究所附属博物館が使用している非接触高精細三次元計測機について、実際に計測作業をともに行うことでそれぞれの機器のもつ利点や弱点、また資料ごとの効率的な作業方法について意見交換を行った。

・岩手大学工学部における調査にて、従来手計りで作成した実測図と三次元計測して得られたデータによる図示方法について意見交換を行い、また資料の微細な物理的な変化について検査を行うために必要な解析処理について助言を得た。



非接触高精細三次元計測機による計測作業風景

【実績値】
調査回数　4 回
検討会参加数　2 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：非接触高精度三次元形状計測機を用いた考古資料の計測データの集積が進みつつあるため。
独創性：計測データをもとに、これまで検討が困難であった対象や方法で分析が可能となってきたため。
発展性：計測データは汎用性の高いものであるため、研究だけではなく、映像やレプリカなどの作成による新たな展示手法の開発も可能であるため。
効率性：既存の計測機器に加えて橿原考古学研究所附属博物館では新たに三次元計測機を導入しており、人的・時間的コストの縮減を図っているため。
継続性：同博物館はこれまで三次元計測機を用いた青銅器(鏡や銅鐸)の計測とその研究を進めてきた。同様に分担者も三次元計測機とそのデータを用いた分析方法の開発やその実践を進めてきた。双方の研究成果を組み合わせることで、より効率よく充実した研究成果をもたらすことができると考えるため。
正確性：三次元計測による計測データは、従来の手図りによる記録方法とは異なるもので、確度の高いものであるため。

2．定量的評価

観点	調査回数	検討会参加数				
判定	A	B				

判定理由
調査回数：三次元計測機を用いた計測データの分析方法の開発のために、資料の特性に応じた検討を行ったため。
検討会参加数：全体での検討会が複数回行われたが、業務などの都合で参加できないことがあったため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究計画の遂行が不十分なために、分析方法の開発やその結果に対する十分な議論ができず、成果の公表にいたっていない。次年度は計画に基づいて研究を実施し、成果の公開を進められるようにする。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	三ヵ年の研究計画の一年目にあたる本年度は個々の非接触高精細三次元計測機のもつ特性、微細な物理的な変化を把握するための分析方法の確立のための計測手順や誤差の扱いについての意見交換ができ、基本的な共通認識が得られた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4571-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	7) 日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開（科学研究補助金）((5)-⑦)		
【事業概要】 東京国立博物館所蔵の美術解剖学関連資料について調査を行い、我が国における美術解剖学の導入及び教育方法を位置付ける過程を明らかにする。さらにこれら資料の公開を目的として特集陳列を実施する。			
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課デザイン室長　木下史青
【スタッフ】 宮永美知代（東京藝術大学大学院美術教育 美術解剖学Ⅱ 助教・客員研究員）			
【主な成果】 東京国立博物館所蔵の美術解剖学関係資料、特に森鷗外･久米桂一郎･黒田清輝に関する資料調査を、24 年度より継続して行った。			

【年度実績概要】

・他館における資料調査

25 年 8 月 31 日 久米美術館 『学んだ！教えた！久米桂一郎と美術解剖学展』(25 年 8 月 24 日～10 月 14 日)
調査内容：美術解剖学関連の久米桂一郎に関する資料及び作品等の展示方法について
25 年 11 月 ベルリン自然科学博物館(フンボルト大学附属)において解剖学関連等資料の展示調査を行った。

・館内での資料調査

26 年 1 月～2 月、黒田の滞欧時代のものと思われる「美術解剖学ノート」の翻刻を行った。
久米美術館所蔵の美術解剖学関連ノート・スケッチ・メモ（コピー）について整理を行った。



久米美術館『学んだ！教えた！
久米桂一郎と美術解剖学展』



ベルリン自然科学博物館
の解剖学関連資料の展示



「美術解剖学ノート」（当館蔵）

【実績値】
資料調査回数　　5 回(うち他館 2 回、館内 3 回)
(参考値)
研究発表件数　　1 件(①)

【備考】
研究発表
①・25 年 6 月 27 日(木)　映画「タリウム少女の毒殺日記」トークイベントにて、当館所蔵資料紹介・美術解剖学について発表を行った。

【書式B】
（様式2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-7

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	B	A		

判定理由
適時性：森鷗外･黒田清輝･久米桂一郎がドイツ・フランスから移入した「美術解剖学」に関わる基礎資料が、歴史資料として当館（東京国立博物館と黒田記念館）に保管されており、総合的に調査する事が求められている。
発展性：科研のテーマであるドイツにおける教育的関連を研究する必要があるが、特にドイツや東京美術学校と関係の深い森鷗外関係資料との関連性について発展することも視野に置いている。
効率性：黒田清輝と同時期にフランスに学んだ久米桂一郎に関わる資料を保管する久米美術館所蔵資料と並行して調査研究することにより、より効率的に今後も新たな知見が得られることが考えられる。
継続性：昨年度に引き続き、資料紹介論文・ウェブサイト上等で、より広い対象に公開することができた。

2．定量的評価

観点	資料調査回数					
判定	A					

判定理由
資料調査回数：当初の計画通り資料調査を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	美術解剖学関連資料は現在「館史資料」の位置付けで、東京国立博物館所蔵の列品として保管されている。これらを横断的総合的に研究する必要があり、24年度に特集陳列企画としてまとめて公開する機会を得た事は意義深いことであった。25年度は「美術解剖学ノート」の翻刻・翻訳に着手し、作業を進めており、次年度以降その成果を『MUSEUM』等研究誌にて公開することを計画している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	前年度までの成果をもとに未整理の資料を分類し、今後の公開機会に向けて研究をすすめている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-8
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）文化財管理における美術品用語辞典の作成（科学研究費補助金）((5)-⑦)

【事業概要】
本研究は、日本の文化財について使用されている用語を収集・体系化し、それら用語に関する典拠情報を作成することを目的とするものである。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課情報管理室長　村田良二

【スタッフ】
河内晋平（東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター　教育研究助手)、原田一敏（東京藝術大学大学美術館　教授）

【主な成果】
文化財に関する情報を扱う施設から収集した用語データを整理、体系化した。特に分担者は、データの整理や公開方法について検討した。

【年度実績概要】
文化庁が公開している国宝・重要文化財リストと指定文化財目録、東京国立博物館が館内で使用している収蔵品データベース、東京藝術大学大学美術館の収蔵品データベースそれぞれから、絵画、書跡、工芸の分野を中心に、名称や品質形状といったカテゴリの用語をデータとして収集した前年度に続き、それら収集した用語について整理し、体系化を行った。また一部について試行的に用語解説を付与し、Wiki をベースとしたデモ版の用語集システムを検討した。



Wiki をベースとしたデモ版画面

【実績値】
整理用語件数：47,479 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-8

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：用語の典拠情報を提供する上でインターネット上での提供手法を検討できたため。
独創性：これまでに作成されていない典拠データであり、提供手法もあわせて研究している。
発展性：本研究の手法は他分野の文化財関連用語の典拠情報整備にも適用できるため。

２．定量的評価

観点	整理用語件数					
判定	A					

判定理由

整理用語件数：収集した用語データについて網羅的に整理した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	典拠情報整備に向けて着実に用語データを収集し、分析をしている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財情報の整備のための基盤として期待される典拠情報の整備と分析が順調に進められた。また提供手段のデモ版の検討も行った。これらを元に、次年度はさらに提供手法についても検討を進める。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4572-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	1）文化財情報に関する調査研究（(5) -⑦）

【事業概要】
当館のウェブサイトや文化財情報システムなど、運用中のコンテンツの問題点の検討やサイボウズなど機構内の共通システムの運用に対する対応、館内 LAN システムの発展的整備の方向性など、文化財情報に関する諸般の調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　赤尾栄慶

【スタッフ】
後藤　真（花園大学専任講師・客員研究員）、澁谷完滋（総務課事業推進係係員）

【主な成果】
(1) 写真資料のデジタル化を進め、ウェブサイトにおける収蔵品公開データベースの追加・更新を随時行った。
(2) 収蔵品公開データベースの解説文について、研究の進展に伴う新たな知見を反映させ更新を随時行った。
(3) 文化財情報システムの運用上の問題点を検討し、システムの改良を随時行った。
(4) 管理棟移転を期に、研究系ネットワーク・画像処理環境の近代化を通じて作業環境を向上させた。

【年度実績概要】
・各月ごとに現時点での情報システムの運用面における実態調査を行い、その結果について、当館研究員・事務職員・情報システム技術担当と共同で検討会を実施して、システム全体の問題点を抽出。改良を随時行った。

・特別観覧業務（写真資料の活用等）のデジタル化に伴い、システムへの高精細画像追加・更新を継続して実施した。

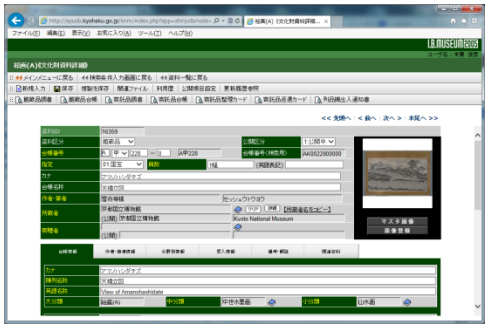
・デジタル撮影及び写真原板デジタル化の進展に伴い、不可逆処理前の RAW データを保管可能な大容量ストレージの整備を、継続して実施した。

・ウェブサイトコンテンツと情報発信についての対応を強化するため、上記検討会にてワーキンググループを編成し、ウェブサイトコンテンツの検討会を集中的に実施した。

・ウェブサイトにおける公開情報の充実に向けた取り組みとして、国宝・重要文化財をはじめとする高精細画像の公開データベース更新、研究紀要『学叢』バックナンバーPDF 版の拡充、館外貸出作品一覧の更新、展覧会情報の更新など、コンテンツ充実に向けての検討を行った。

・増大する研究系データの集積と、耐用年数を迎えたシステム更新コストの削減を両立させるため、研究系システムを仮想化技術により集積する仮想化基盤システムを試験的に小規模環境で構築し、実証運用を開始した。

・管理棟の平成知新館移転を通じ、研究系ネットワークの基幹インフラを刷新し実効通信速度・安定性の向上を図るとともに、デジタル化で使用する画像処理環境を見直すなど、関連業務の作業効率向上を図った。



文化財情報システム（資料概要画面）

【実績値】
・システムの現状調査　　10 回（概ね 1 回/月）
・システム検討会　　10 回（概ね 1 回/月）
・ウェブサイトコンテンツの検討　10 回（概ね 1 回/月）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4572-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：平成知新館への移転や開館に向け、システム移転やウェブサイト公開において適時対応を行った。
独創性：館蔵品をほぼ網羅した収蔵品公開データベースや解説ページの更新を行った。
発展性：新館において導入されたネットワークシステムや仮想化サーバ装置の能力向上により、発展性を確保した。
効率性：文化財情報システムの改修を通じ、資料管理・画像管理業務における業務効率の向上を行った。
継続性：中長期的な運用計画を検討し、増大する画像やデータを処理するためのシステム更新を継続的に行った。
正確性：収蔵品公開システムを適宜更新する事で、正確性を維持する取り組みを行った。

2．定量的評価

観点	システム現状調査	システム検討会	ウェブサイトコンテンツの検討			
判定	A	A	A			

判定理由
システム現状調査：情報基盤整備のため各種システムの問題点について随時調査を行ったほか、管理棟移転のため現状システムとネットワークの点検を随時行った。また、移転時期の遅れに伴う整備計画見直しのため、耐用年数を超過するシステムの延命等について調査を行った。
システム検討会　：定期的な検討会においてウェブサイトや文化財情報システムの運用改善、リニューアルなどを検討し、対応を行った。
ウェブサイトコンテンツの検討：平成知新館開館に向けたアクセス件数向上のため、ページ構成や動線の整理による見やすさの向上、CMSシステム導入による情報速達性の向上などを検討し、ウェブサイトのリニューアル要件を取り纏め構築を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ソフトウェア面では文化財情報システムなど各種システムの改修・情報更新を続け、管理棟の新建屋移設を機に通信インフラ網の新規設計や機材の一新など、ハードウェア面の強化を行った。また、情報発信の要であるウェブサイトについても、質・量ともにさらなる充実を図った。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	予算・人的リソースを最大限に活用し、山積する問題点を整理・順位付けすることで、緊急性の高い事項から順次検討を行い、改良を加えている

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4572-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	2）新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究（(5) -⑦）

【事業概要】
新平常展示館の新装開館に向けて、館内に設置する「ミュージアム・カート」を開発・作成する。これは、カート上でハンズ・オン教材を展開し、対話によって展示作品や文化財への理解を深めるための教育ツールである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室研究員　水谷亜希

【スタッフ】
山川曉（教育室長）

【主な成果】
(1)他館の教育ツールの調査
(2)試作品の作成と反応調査
(3)「ミュージアム・カート」に配備する教材の作成

【年度実績概要】
(1)他館の教育ツールの調査
「ミュージアム・カート」の作成にあたり、他館の教育ツールやプログラムを体験、見学、事例報告を聞くなどして、事例を調査、資料を収集した。(34 件) 具体的には、今年度は東京国立博物館や京都国立近代美術館、京都大学総合博物館、大津市歴史博物館などに赴いたほか、当館も参加した「こども☆ひかりフェスティバル」で他館のブースを見学したり、全国美術館会議や日本博物館協会の研究部会で他館の事例発表を聞いたりするなどした。


試作中のミュージアム・カート

(2)試作品の作成と反応調査
「ミュージアム・カート」の実際の運用にあたっては、新たに募集する「京博ナビゲーター」（ボランティア）が常駐し、来館者とやりとりをする方式を想定している。そのため、実際にどのようなやりとりが可能となるか、子どもを対象として、事前に反応調査を行った。
絵画の材料見本（岩絵具・膠・金箔等）については、試作品を作成し、このプロジェクトとは別途実施した絵画に関する訪問授業やワークショップに持参し、子ども達の反応を観察した。
銅鐸、銅剣のレプリカについては、実際にカートに設置してモデルに触ってもらい、どのような反応があるか、取り扱いの際の安全性も含めて調査した。

(3)「ミュージアム・カート」に配備する教材の作成
考古、絵画、彫刻の 3 分野について「ミュージアム・カート」に配備する教材を作成した。作成にあたっては、各専門家に制作や助言を依頼した。
考古：銅鐸レプリカ、銅剣レプリカ、銅戈レプリカ（計 3 件）
絵画：岩絵具、膠、金箔、胡粉、墨、絵筆、画絹、紙（計 8 件）
彫刻：衣紋の彫刻見本、漆箔工程見本、木材見本（計 3 件）　　以上合計 14 件

【実績値】
他館の事例調査　34 件
カートに配備する教材の作成　14 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4572-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：リニューアル・オープンに向けた新しい取り組みである。
独創性：カート上でハンズ・オン教材を展開し、対話によって理解を深める方法は古美術の分野では珍しく、あまり例のない取り組みである。
発展性：実際の運用に基づき、教材の活用方法を改善したり、カート内の教材を増やしたりすることで発展させることができる。
正確性：作成にあたっては、各専門家に制作や助言を依頼し、展示作品や文化財への理解を深めるために十分な質を確保した。

２．定量的評価

観点	他館の事例調査	カートに配備する教材の作成				
判定	A	A				

判定理由
他館の事例調査：前年度までの調査結果に加え、参考事例として十分な件数を調査することができた。
カートに配備する教材の作成：3つの分野においてそれぞれ、基本となる教材を作成することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	リニューアル・オープンに向けて、調査、試作、制作までを行うことができた。次年度は実際に利用者の反応を見て、教材の改良や活用方法の発展、追加の制作を行う。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究については、順調に進んでいる。今後は他の分野についても制作する予定である。また、制作した教材を、訪問授業やワークショップなど、別の活動にも応用したい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4572-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進。
プロジェクト名称	3）高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究（(5) -⑦）

【事業概要】
京都市教育委員会の協力のもと、京都国立博物館とＮＰＯ法人京都文化協会が共同で行っている訪問授業、「文化財に親しむ授業」の理論と実践に関する調査研究を実施し、その成果を発展的な事業展開のために公開することを目的とする。公開の方法として、学校教員に向けたガイドブックを作成する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室研究員　水谷亜希

【スタッフ】
山川曉（教育室長）

【主な成果】
(1)文化財ソムリエ（大学生ボランティア）に対するスクーリングを行った(18 回)
(2)京都市内の小中学校への訪問授業を行った（7 回）
(3)『文化財に親しむ授業ガイドブック』を刊行した（1000 部）

【年度実績概要】
(1)　「文化財に親しむ授業」で講師を務める文化財ソムリエ（日本文化を専門に学ぶ大学生ボランティア）に対するスクーリングを 18 回行い、ソムリエが授業内容や教材を作成する課程で、指導・助言を行った。
　ソムリエからは、子どもとのやりとりの中で、「伝えることの難しさや面白さを実感した」という意見があった。また、大学や研究分野の異なる学生との交流が「自分の視野を広げるのに役立った」という声も聞かれた。他館の学生ボランティアとの交流や、博物館教育を研究する大学院生の見学などもあり、この活動が、文化財や教育普及について学ぶだけでなく、学生同士が大学の枠を超えて出会い、交流する場としても機能するという成果があった。


訪問授業の様子

(2)　京都市内の 7 校の小中学校で訪問授業を行った。授業では教室に高精細デジタル複製を持ちこみ、子どもとの対話を中心としながら、作者や制作された時代、画材などの紹介も行った。授業にあたっては、そのつど事前に学校の先生方と打合せを行い、内容を検討した。児童・生徒のアンケートでは、「今まで興味がなかったけど面白く見えてきた」「作者のことや屏風のことをもっと知りたい」という意見が多数見られた。
　また、2 年続けて授業を受けた生徒からは「文化財ソムリエになりたい」という声が聞かれ、若い大学生が講師を務めることで憧れの気持ちが生まれ、文化財に関する活動に興味関心が高まると言う効果も見られた。

(3)　学校からは以前より、訪問授業の回数を増やしてほしいという要望があったが、準備期間を考えると文化財ソムリエが訪問授業を実施できる回数には限度があり、要望に全て答えることができないのが課題であった。それを解決するために作成したのが、これまでの活動などをまとめた『文化財に親しむ授業ガイドブック』である。次年度の新学期に京都市内の小中学校に配布し、学校の先生方に高精細複製を用いた授業を実施していただく予定である。さらに、そのノウハウを文化財ソムリエにフィードバックすることで、博物館教育と学校教育、両者の活動をより充実したものに発展させていく。



『文化財に親しむ授業ガイドブック』

【実績値】
・スクーリングの実施回数　18 回
・訪問授業の実施回数　7 回
・ガイドブックの刊行部数　1,000 部　『文化財に親しむ授業ガイドブック』

【備考】
『文化財に親しむ授業ガイドブック』京都国立博物館、2014 年（企画・執筆　水谷亜希）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4572-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	A	A	A

判定理由
適時性：学習指導要領の改訂に伴い、学校教育では我が国の文化財への感心がいっそう高まっている。学外に児童・生徒を連れ出さなくてもよい訪問授業は、時間的・金銭的にも、安全面においても学校側の負担が少なく、最も要望の高い事業である。
独創性：博物館が大学生を育成し、大学生が小中学生に教え伝える、という二重の教育を担っている点が独創的である。本事業は、大学生、小中学生の双方にとって学習の場となっている。
発展性：ガイドブックを作成したことで、次年度以降、教員が高精細複製を使った授業をすることが可能になった。
効率性：文化財ソムリエが講師と補助（子どもに話しかけたり、屏風を開いたりする）を務めることで、クラス単位での授業やグループ活動が可能になり、より親密なコミュニケーションを通して文化財の魅力を発信することが可能となっている。
継続性：先輩の文化財ソムリエを後輩が見習うことで、人が入れ変わっても蓄積したノウハウが受け継がれていく。
正確性：研究員が、教材となる文化財に関するレクチャーを毎年行っており、文化財ソムリエは最新の研究成果を学んだうえで授業を行っている。

２．定量的評価

観点	スクーリングの実施回数	訪問授業の実施回数	ガイドブックの刊行部数			
判定	A	A	A			

判定理由
スクーリング実施回数：
当初の予定通り、月に約 2 回のペースで計 18 回実施し、文化財ソムリエの育成に十分な効果があった。
訪問授業　実施回数：
年間で計 7 回実施した。文化財ソムリエが授業内容や教材を作成するために必要な準備期間を考慮し、最大で実施できる回数を行った。
ガイドブック刊行部数：
新学期に京都市内の小中学校に配布する部数に加え、公立図書館と、全国の教育普及関係者への活動紹介のために必要な部数を作成した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本活動は平成 21 年度から継続しており、ノウハウの蓄積や文化財ソムリエの成長に伴い、今年度は例年にも増して充実した活動を行うことができた。増え続ける訪問授業の要望に全て答えられないことが課題であったが、教員向けのガイドブックを作成することで、次年度の教員による高精細複製を用いた授業実施にむけて、下地を整えることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究は、これまでの活動の蓄積を生かし、年々内容が深まっている。博物館外に持ち出すことができ、間近で鑑賞できるという高精細複製の特性を生かし、今後も、文化財に対する興味関心を育む教育普及活動に取り組んでいく。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4573-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。((5)－⑦)

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統行事に関する情報を集め、「世界遺産学習」をはじめとする教育プログラムに反映させられるか検討を行い、重要度の高い情報、適切な内容を発信する仕組みを考える。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　西山　厚

【スタッフ】
岩井共二（教育室長）、斎木涼子（教育室員）

【主な成果】
奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、まずは本年度開催した展覧会の中から抽出することとした。その情報を職員やボランティアが共有する機会を設け、児童・生徒が歴史への関心を高めるのに使える情報は何かを検討した。ボランティアへの指導と話合いを通して、世界遺産学習の実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた。

【年度実績概要】
・当館で開催した特別展や特別陳列、正倉院展の中には奈良の歴史と伝統文化を反映した作品や情報が多く含まれており、その一部は公開講座やサンデートークなどによって各研究員から情報発信されているが、さらに子供に向けてどのような語り方があるか、検討を行っている。
・世界遺産学習で直接生徒に向き合うのは解説ボランティアであるため、ボランティアに対しても研修の機会などを通して、要点を解説し、共有化を図ると同時に、子供たちに伝えるべき情報は何かを個々にも考えてもらうこととした。これらは未だ試行段階にありマニュアル化されてはいないが、世界遺産学習の実地現場において生徒たちへの語りかけの内容が広がっているとの実感がある。今後も方法論的な検討を行い、短時間の中で伝える情報の質的向上がはかられるとの見通しを得ることができた。
・当館学芸部の職員が個別の情報発信源として学校に趣き、「伝えること」の尊さを講義する機会も設けている。


歴史、宝物楽しく勉強
正倉院展
奈良育英中で研究員特別授業

当館学芸部職員による出張講義を掲載した
新聞記事

【実績値】
「世界遺産学習」に来校した小学校　33 校
出張講義に赴いた回数　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4573-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：博物館が基点となった「世界遺産学習」とは何かを追求する好事業となった。
独創性：展覧会情報を生かした「語りかけ」を検討することで、他の観光案内にはない博物館のオリジナリティをもたせることができた。
発展性：「世界遺産学習」活動の充実により、ボランティアガイドの育成・充実にも貢献し、来館者向けの開設サービスの向上にもつながっているため。
効率性：職員・ボランティアで共有された情報を繰り返し利用して生徒に語ることができ、効率的であり、かつ反復により精度を高めることにもつながった。
継続性：「世界遺産学習」は継続的に行っているため。

２．定量的評価

観点	「世界遺産学習」に来校した小学校数	出張講義に赴いた回数				
判定	A	A				

判定理由
「世界遺産学習」に来校した小学校数：「世界遺産学習」に来校した小学校数が 33 校に達した。（目標：20～30 校）
出張講義に赴いた回数：出張講義に赴いた回数が 3 回に達した。（目標：2～3 回）

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	職員とボランティアの間で情報を検討する時間が多くとれれば、「世界遺産学習」のみならず一般来館者への解説サービスの向上にもつながるものと考える。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	「世界遺産学習」は歴史・伝統文化の宝庫、奈良にある博物館が担うべき重要な事業である。今後の継続性のみならず発展性をもふまえて、さらに情報の蓄積と方法論の先鋭化をはかっていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4573-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。（学術研究助成基金助成金）（(5)－⑦）

【事業概要】
当館が活動範囲とする仏教にかかわる歴史と美術について、展覧会や調査研究事業と連動した情報収集を行い、そこにデジタル技術を適切に取り入れることにより、データの継続的な作成・データベースの構築・情報資源の公開ならびに共有へと展開させる。その際には実践に即した方法論を鍛え、文化財の保存活用に資するアーカイブズの形成・発展にも寄与することを目指す。

【担当部課】	学芸部資料室	【プロジェクト責任者】	室長　宮崎幹子

【スタッフ】
岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、野尻忠（企画室長）、岩井共二（教育室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、吉澤悟（情報サービス室長）、清水健（企画室員）、岩戸晶子（列品室員）、斎木涼子（教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（工芸考古室員）、原瑛莉子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
デジタル撮影の本格的な稼働をうけ、その安定的な継続を目指して、撮影機材、撮影環境、保存用ストレージ、体制等の整備を引き続き行い、多数の文化財を撮影した。館内の情報システムや公開用データベースのリプレイス、データ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んだ。仏教美術資料研究センターにおいても、資料と施設の整備を継続的に行い、公開と見学受け入れにより、一般への普及に努めた。上記の実践と並行して、文化財アーカイブズに関する研究を進めた。

【年度実績概要】

・デジタル撮影

特別展「當麻寺」の開催と連動して、30 年ぶりに国宝綴織當麻曼荼羅の撮影が実現した。高精細デジタルカメラを用いた分割撮影と接合を行うことにより、現状で最も高品質の画像を取得することができた。これに続いて當麻曼荼羅文亀本、貞享本の撮影と接合も実施し、當麻曼荼羅 3 幅の画像が揃い、さらに他の展覧会出陳作品の撮影も多数行った。これらの画像は当館以外では得ることが極めて困難なもので、基礎資料としての整備と今後の活用が可能となったことは大きな成果である。また、特別展「みほとけのかたち」の開催に合わせて、館蔵品・寄託品の彫刻を新たに撮影した。これまでにない角度や部分のカットを多数撮影し、国宝・重要文化財を含む重要作例の基礎資料を充実させることができた。


なら仏像館での寄託品の撮影風景

・国立情報学研究所との共同事業

国立情報学研究所の協力を得て、国宝綴織當麻曼荼羅原本・文亀本・貞享本の画像を用いたデジタルコンテンツを 2 種制作し、展覧会場などで公開した。その内の 1 つは 3 幅の當麻曼荼羅を任意の場所で自在に拡大・比較出来るもので、操作性の高さと学術的な有用性から、観覧者ならびに専門家から大きな反響を得た。

・奈良女子大学への学術協力

奈良地域の文化財の画像公開を目的とする「奈良地域関連資料画像データベース公開事業」において奈良女子大学附属図書館と学術協力の協定を締結している。今年度はこの事業の一環で、寄託品の日張山縁起（青蓮寺）の撮影を実施し、画像提供を行った。


「當麻曼荼羅デジタルビューア」

・「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータベース構築

「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ作成を継続した。前年度に引き続いて、彫刻部門の研究員の協力を得てガラス乾板の同定を行い、撮影対象の名称及び所蔵者を明らかにすることが出来た。データベースについては、現在学芸部内で共有しているものを一般公開に向けて改修する作業を行った。

【実績値】
画像撮影件数：4,561 件
データ登録件数（画像データベースへの個別データ登録）：9,093 件（そのうち公開　4,280 件）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4573-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	独創性	継続性	発展性	適時性	効率性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
独創性：展覧会や調査研究事業と密接に関連させることにより貴重な文化財の撮影を行い、当館以外では取得の困難な画像を多数蓄積し、稀少かつ学術的価値の高い文化財アーカイブズの形成へと繋げることができた。
継続性：画像の作成枚数及びデータベースへの登録件数を順調に増加させ、公開に結び付けた。
発展性：画像が文化財指定調査や修理時の基礎資料となるなど、文化財の研究や保存の進展に大きく貢献した。また、データベースの構築や連携にも積極的に取り組み、文化財アーカイブズの発展性を示した。
適時性：南都を中心とした文化財の新発見とも連動しており、適切なかたちで新たな記録の蓄積が叶った。
効率性：限られた人員と予算の範囲内において、効率的に撮影ならびに登録件数を増加させた。
正確性：調査に伴って取得された一次的なデータに基づいてアーカイブズの形成を行っており、またデータベースの継続的かつ安定的な運用を行うことにより、信頼性の高い情報を公開している。

２．定量的評価

観点	画像撮影件数	データ登録件数				
判定	A	A				

備考
画像撮影件数　：本年度も充分な調査と撮影を実施しており、画像撮影件数は豊富であった。
データ登録件数：撮影後の処理やデータベースへの登録件数については、当館の規模やスタッフ数を勘案しても他機関と比較して遜色のない数をこなしており、順調に増加している。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財の調査と撮影は、文化財の保存や所蔵者の意向、物理的・時間的制約など様々な要因が影響するため、過去の平均値との比較から年度の実績を評価することは必ずしも適切ではない。実績概要でも述べたとおり、當麻曼荼羅に代表されるような、学術的に重要でありながら調査と撮影の機会を得ることが通常では極めて困難な文化財について、調査を実施し、質の高い画像を取得して、公開へと繋げていることの意義は非常に大きい。今後も当館の事業と密接に連携しつつ情報の蓄積を続け、仏教美術情報の一大拠点として、コレクションの質・量双方の維持に努める予定である。 情報資源の運用にあたっては、デジタル技術を適切に取り入れ、内外の複数のデータベースとの連携に取り組むど、文化財アーカイブズ形成の実践を鋭意進めている。今後も更なる発展を視野に入れた研究に力を注いでいく。 また、国立情報学研究所の技術支援を得て、当館の画像を利用したデジタルコンテンツの制作と公開を行う共同事業も実績を重ねている。高品質の画像を、一般利用者と研究者がともに満足できるようなかたちで発信しており、調査研究の成果を幅広い層に向けて還元していくという意味でも大きな成果をあげている。人員と予算が限られる現在のような体制の中で、外部の研究機関との連携を効果的に展開している点でも評価できる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	デジタル撮影については現在のところ安定的な稼働を実現できているが、館内での処理から最終的な情報公開までの一連の流れについて、今後とも人材及び機材の確保を含めた長期的な展望が必須である。また、現在行っているカラー・近赤外線のデジタル撮影にとどまらず、透過Ｘ線・ＣＴ撮影についてもデジタル化を実現すべく、機材・設備の整備が急務である。当館では仏教美術分野では国内唯一と言っていい貴重な画像コレクションを維持管理しているが、文化財調査の拡充にあわせて、アーカイブズの充実がはかれるよう体制を充実させていくことが肝要である。 今後も文化財の保存・活用そして研究の基盤として機能するべく、文化財アーカイブズ形成の実践を続けていくとともに、それを下支えする理論の構築にも取り組んでいく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）ＮＨＫと協同で高精細画像を活用したシアター4000 での映像公開に向けた研究（(5)－⑦）

【事業概要】
テレビの世界ではフルハイビジョンが主流だが、その 4 倍の画素数の４Ｋテレビという高画質のテレビが近年普及しようとしている。当館では開館以来、この４Ｋのさらに 4 倍の密度を有する８Ｋというスーパーハイビジョンシステムによる映像を、世界で唯一の常設施設として公開してきた。このスーパーハイビジョンの質感と臨場感に優れた特性を、文化財の保存と活用のために、魅力的なコンテンツ制作と、コストも考慮した新しいシステムの調査研究を推進する。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	課長　赤司善彦

【スタッフ】
三輪嘉六（館長）、臺信祐爾（企画課長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）

【主な成果】
今回、プロジェクタシステムが機器更新を迎えることから、新しい機器の実験を通じて、最適なプロジェクタシステムの比較調査を実施した。スーパーハイビジョンシステムの将来を見据えたときに、機器の技術情報を関連企業にのみ独占させておくのではなく、当館自ら最新技術動向を把握し、調査研究を行うことで安定運用とコスト削減のバランスを図ることができた。また、新しいコンテンツを上映公開した。

【年度実績概要】
・当館のスーパーハイビジョンシステムの主な仕様である画面サイズ、解像度、階調を満足させ、あるいはそれに近い性能を有する表示装置をＮＨＫと共同で選定した。実際の選定ではプロジェクタ方式だけでなく、これらとは根本的に表示方法が異なる液晶ディスプレイも候補に入れて、現在 3 つの企業が製作している 3 機種を選定した。
それぞれに特長と短所があることから、装置の方式や解像度、光出力、画面サイズ、映像信号入力方式などの属性を調査して、性能の差を調べるとともに、シアターでの映像実験を行うなどして、性能とコスト等の多角的な観点で評価を行った。あわせて、選定した機種を用いる前提で、他の関連装置（映像信号再生装置・映像信号変換装置・画像管理装置）についても、調査を実施した。その結果、本システムの安定動作を保証する仕様と、その検査・支援体制をまとめることができた。


上映番組の一場面

・長崎の島嶼部には、江戸時代にキリシタン弾圧が始まると多くの人が逃れるように移り住んでいた。そこでは信仰が密かに守られ、明治時代に信仰が認められるようになると、自分たちの教会を建てはじめた。こうした教会群を静止画で撮影し、これを「受け継がれるおもい、小さな島の教会群」のタイトルで番組を製作し、定期的な上映をすることができた。

【実績値】

○調査回数　2 回
・現地調査　2 回（25 年 4 月 11 日・8 月 26 日）

○打合せ回数　5 回
・コンテンツ上映の打ち合わせ　2 回
・設備改善についての打ち合わせ　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：教会群は、ユネスコ世界文化遺産暫定リストに登録されており、その番組制作の意義は大きい。
独創性：動画ではなく、あくまでも静止画によって臨場感あふれる番組を制作できた。
発展性：将来の安定的な映像の展開ができる機器のシステムのあり方について見通しが立った。
効率性：今後、機器を取り替えることで大幅なランニングコストの低減を図る目途がついた。
継続性：ＮＨＫもスーパーハイビジョン放送の早期実現に積極的に取り組むこととなり、当館との連携を協議できた。

２．定量的評価

観点	調査回数	打合せ回数				
判定	A	A				

判定理由
調査回数：計画通り実施することができた。
打合せ回数：予定通り実施することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	動画的な手法も取り入れ、臨場感あふれる教会の姿を観覧者に感じていただくことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に沿った内容で実施でき、展示作品を分かりやすく伝える手法として、今後さらにハード面も含めて開発・改良を図りたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究（(5)－⑦）

【事業概要】
特別展ごとに観覧者に展示内容の理解を促進するため、教育普及プログラムを実施する。本年度は、「大ベトナム展」「中国　王朝の至宝」「尾張徳川家の至宝」「国宝 大神社展」の４つの特別展において、教育普及プログラムを実施する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	課長　臺信祐爾

【スタッフ】
藤田励夫（前博物館科学課保存修復室長）、市元塁（企画課特別展室主任研究員）、酒井芳司（展示課主任研究員）、楠井隆志（展示課主任研究員）、西島亜木子（企画課特別展室アソシエイトフェロー）、山下久美子（企画課研究補佐員）、鮫島由佳（企画課研究補佐員）

【主な成果】
展示室内での解説パネルの掲出、体験コーナーの設置、配布物・ジュニアガイドの作成、ワークショップ、講演会などを実施。アンケートでは、展示を楽しめた、わかりやすかった、親近感が持てた、などの感想を得た。

【年度実績概要】
わかりやすい解説パネルや、展示物をより身近に感じるプログラムは来館者にも好評であるため、来館者の要望を反映したさまざまなプログラムを実施した。
・「大ベトナム展」では、ベトナムの歴史をわかりやすく伝えるため、ベトナムを旅行しているような気分で展示を見てもらうよう、トラベラーズノート風の解説パネルを設置した。
・「中国　王朝の至宝」展では、夏休み期間中であったことから、夏休みの宿題冊子風のジュニアガイド「夏休みの朋友」を作成し、小中学生に配布した。また、展示室内では、ジュニアガイドに連動した夏朋パネルを設置。国語や算数など教科ごとのテーマで展示作品や時代背景を解説した。体験コーナーでは、展示作品「猿形帯鉤」の機能に関する理解を促すため、３Ｄプリンタで作成した複製品のベルトを装着する体験と、磨かれた玉のなめらかさを感じる体験を実施した。
・「尾張　徳川家の至宝」では、作品について理解を深める解説や、時代背景を解説するパネルを設置した。
・「大神社展」では、神社を身近に感じてもらう企画として、配布物「おみくじ風まめちしき」を作成。神社に関するまめちしきや作品理解を助ける内容とした。さらに、当館ウェブサイトでお気に入りの狛犬に関する情報を広く募集し、当館ウェブサイト及び、1階エントランスホールで掲示した。
・各展覧会を通じて、連続講演会・記念講演会を複数回実施した。



「中国　王朝の至宝」展
猿ベルト体験コーナー

【実績値】
解説パネル作成　22 枚（大ベトナム展 13 枚、中国展 5 枚、徳川展 4 枚）

冊子及びリーフレット等の配布物の作成　2 回（中国展 1 回、大神社展 1 回）

講演会　24 回（大ベトナム展 2 回、中国展 9 回、徳川展 5 回、大神社展 8 回）

ワークショップ　1 回（中国展 1 回）

体験コーナー　2 回（中国展 2 回）

（参考値）
解説パネル満足度　（大ベトナム展 72%、中国展 74%、大神社展 69%）
*徳川展では、教育普及単独のアンケート調査項目は立てていないため、満足度は不明。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-2

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：観覧者が求める作品に関する情報や時代背景等を適切に提供できた。
独創性：３Ｄプリンタで作成した複製品を使用した体験や展示と連動した配布物など、独自のプログラムを実施した。
発展性：今後の展示にも応用が利く内容であった。
継続性：本年度の実施を踏まえ、次年度も継続して実施していく予定である。

２．定量的評価

観点	解説パネル	配布物の作成	講演会	ワークショップ	体験コーナー	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
解説パネル：展覧会毎にその特性を生かしたパネルを作成した。
配布物の作成：子供向け１回、全ての対象者向けに１回作成し、展示理解を助けた。
講演会：入門的なものから専門的なものまでバラエティに富んだ講演会を多数実施した。
ワークショップ：ワークショップを実施することで、作品や展示の理解が深まったと、好評であった。
体験コーナー：展示物の魅力を最大限に伝えることができる体験で、展示物がより身近に感じられたと好評だった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展の展示内容の理解促進につながる、バラエティに富んだプログラムを実施し、来館者からも評価を得た。次年度も来館者の要望を適切な形で反映していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、来館者からの反応も良好である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・調査（(5)－⑦）

【事業概要】
現在、13 種類の「きゅうぱっく」を準備し（各 2 ぱっく、計 26 ぱっく）、学校や社会教育団体等への貸出を行っている。今後の新規ぱっく開発を見据えて、現在ある「きゅうぱっく」の有効な活用法に関する実践事例を収集するとともに、教員研修や出前授業を通して博物館の活用や「きゅうぱっく」に関する情報を発信し、利用の普及を図る。

【担当部課】	交流課	【プロジェクト責任者】	教育普及室主任研究員　釜瀬進一郎

【スタッフ】
池内一誠（交流課主任研究員）

【主な成果】
「きゅうぱっく」を貸し出した学校の実践事例を指導案の形式で収集することができた。また、福岡県教育センターのキャリアアップ講座を通して、博物館を活用した授業づくりに関する指導案を収集するとともに、「きゅうぱっく」について普及を図ることができた。

【年度実績概要】
・「きゅうぱっく」の利用報告書とは別に、「きゅうぱっく」を活用した実践事例の指導案提供を求め、「社会科」「総合的な学習の時間」に関する学習プリント等を含む多くの資料を収集することができた。

・福岡県教育センターのキャリアアップ講座は、定員を前年度の 60 名から 40 名に絞り込み、事前に博物館を活用した指導案作成を課題としたところ、実践事例を含む具体的な指導案が収集できるとともに、「きゅうぱっく」の活用について周知を図ることができた。

・太宰府市立太宰府中学校の「総合的な学習の時間（飛梅タイム）」の歴史探訪講座に九州歴史資料館（小郡市）と連携して職員を派遣し、出前授業を行った。また、大野城市立大利中学校と春日市立須玖小学校の「総合的な学習の時間」にも出前授業を行った。

・新規「きゅうぱっく」の開発のための研究を進めた。北海道大学 橋本雄准教授（日本中世史）の協力を得て、開発中の新シリーズ「アジアの海は日々是好日（仮称）」に搭載予定の「日明勘合」の仕様・活用方法について調査・検討を行った。


「きゅうぱっく」の資料を
熱心にスケッチする児童

【実績値】

「きゅうぱっく」貸出件数：72 件
博物館職員による授業実践支援回数：5 回（対象生徒数延べ約 382 名）
「きゅうぱっく」の活用に関する教員研修：3 回（参加教員数延べ約 105 名）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-3

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	A	A	A	A

判定理由
適時性：小学校及び中学校の学習指導要領には、博物館や人材の活用が示されている。学校貸出キットなど博物館の資源を教材として活用した学習指導の展開は、必要性が高い。
独創性：多くの実践事例に関する指導案等を収集し、新たな活用法について調査研究する上での基礎資料を集めることができた。
発展性：同じぱっくでも多様な活用方法があり、活用される学年、教科、単元は多様である。今後も新たな活用法の開発が期待できる。
効率性：学校連携担当職員の配置により、活用や授業展開に関する教師との打ち合わせや資料の要望に応えやすい体制になっている。
継続性：文化交流展示Ⅳテーマに対応した資料を、新規「きゅうぱっく」として製作予定である。現状の 13 ぱっくに加えて、更なる活用や授業実践が期待できる。
正確性：三次元プリンタで出力した資料や、文化交流展示室のハンズオン資料と関連する教材が活用されている。資料の有する情報の正確性は非常に高い。

２．定量的評価

観点	きゅうぱっく貸出件数	授業実践支援回数	きゅうぱっく活用教員研修			
判定	A	B	A			

判定理由
きゅうぱっく貸出件数：特に目標値は定めていないが、貸出件数は 72 件で、前年度比 129%（平成 24 年度 56 件）と増加した。また、県外への貸出が 13 件（18%）と一定数を占めている。
授業実践支援回数：特に目標値は定めていないが、支援回数は 5 回で、前年度比 56%（平成 24 年度 9 回）と減少した。これは、前年度に新規指導案開発のため同一校に 6 回連続で出向いていた支援が一区切りついたためである。
きゅうぱっく活用に関する教員研修：特に目標値は定めていないが、研修回数は 3 回で、前年と同数であった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「きゅうぱっく」の貸出は順調であり、教員研修も内容を進化させながら継続して実施している。「きゅうぱっく」が有効な学習教材として、学校で学習活動に活用されていると考えられる。今後は収集した実践事例を整理して公開し、学校へ提供するなどの活用が考えられる。 また、文化交流展示Ⅳテーマに対応した資料を、新規「きゅうぱっく」として製作予定であり、今後も展示に関わる貸出キットの製作に向けた調査研究が必要である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	カリキュラムに「きゅうぱっく」活用が位置付けられる学校があるなど、学校教育との連携は着実に進展している。現行の学習指導要領が求める教育活動において、「きゅうぱっく」が意義ある教材であることは間違いない。また、館内での「きゅうぱっく」活用や特別支援学校での活用も少なからずあり、今後の活用の発展が期待できる。これらのことから、学校教育との連携は今後ますます強化が求められるといえる。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-4

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)平成 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討（(5)－⑦）

【事業概要】

27 年には開館 10 周年を迎えることから、文化交流展示室のリニューアルを念頭におき、現在の展示全般に関するさまざまな課題に対して、展示に関係する全研究員による討論や、外部委員会による意見の聴取あるいは、展示業者等との討議により、新しい展望を開こうとする取り組みである。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	課長　赤司善彦

【スタッフ】

三輪嘉六（館長）、森田稔（副館長）、谷豊信（学芸部長）、本田光子（学芸部特任研究員）、臺信祐爾（企画課長）、冨坂賢（文化財課長）、今津節生（博物館科学課長）、秋山純子（博物館科学課環境保全室研究員）、志賀智史(博物館科学課保存修復室主任研究員)、渡部史之（博物館科学課アソシエイトフェロー）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、池内一誠（交流課教育普及室主任研究員）、八尋智之（交流課ボランティア室主任研究員）、楠井隆志（展示課展示調整室主任研究員）、鳥越俊行（文化財課資料登録室主任研究員）、畑靖紀（企画課特別展室主任研究員）、川畑憲子（企画課文化交流展室主任研究員）、森實久美子（企画課特別展室研究員）、鷲頭桂（企画課特別展室研究員）、進村真之（展示課情報サービス室主任研究員）、酒井芳司（展示課展示調整室主任研究員）、遠藤啓介（展示課展示調整室研究員）、岸本圭（展示課情報サービス室主任研究員）、丸山猶計（文化財課資料登録室主任研究員）、原田あゆみ（企画課特別展室主任研究員）、望月規史（文化財課アソシエイトフェロー）

【主な成果】

(1) 研究員全員参加による検討会を行い、各課題の解決や必要な展示についての共通理解を得ることができた。
(2) 外部委員会「次の 10 年を考える懇話会」を開催し、識者や市民代表による率直な意見をうかがうことができた。
(3)上記検討の成果を関連展示１室の改装工事に反映した。

【年度実績概要】

(1) 平成 23 年度より実施。毎月 1 回、閉館後の 40 分程度、文化交流展示室を会場に全研究員と非常勤職員が参加する検討会を実施。各回テーマを決め、それぞれ専門分野や担当テーマの立場からこれまでの取り組みや課題などについて討議した。関連展示室の改装について、4F エントランスホールの使い方、キャプション表記についてなど、活発な意見交換を重ね、共通認識を深める格好の機会となった。検討内容については協議概要をまとめて配布しており、共通理解を構築している。

(2) 平成 24 年度より立ち上げた新規事業。文化交流展示だけでなく、国際交流、ボランティア活動、地域との連携、広報・サービス面に関する様々な意見・要望が外部委員から寄せられた。

(3) 25 年 9 月より 12 月にかけて関連展示１室の改装工事を実施。改装計画の立案にあたり、これまでの展示検討会での意見を反映させることができた。



関連展示１室（改装工事前）



関連展示１室（改装工事後）

【実績値】

(1)館員による展示検討会　　4 回
(2)外部委員による次の 10 年を考える懇話会　　5 回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：2年後には開館10周年を迎える。それにむけて課題の洗い出しを着実に進めることができた。
独創性：館内関係者だけでなく、外部の様々な視点を取り入れ、新たな活動の展開につなげようと試みているため。
発展性：関連展示室改装を実施するなど実績を積み重ねている。
効率性：展示検討会は毎月の学芸定例会議開催日に定例化し、定着した。そのため、関係者の出席率も高い。
継続性：館員による展示検討会は、平成23年度から引き続き定例的に検討を進めており、館員の共通認識を深めることにつながっているため。

2．定量的評価

観点	館員による展示検討会	外部委員による懇話会開催				
判定	A	A				

判定理由
館員による展示検討会：検討会がほぼ定例化されることで館員に定着した。リニューアルにむけての共通認識を得ることにつながっている。
外部委員による懇話会開催：ほぼ3ヵ月ごとに開催され、外部視点からの多岐にわたる意見を聞くことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	全研究員による検討会の定例化、外部委員会の実施をとおして、10周年リニューアルに対するある一定の方向性を見出すとともに、館員の共通認識を得ることにつながっている。着実な検討を進めていると評価できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	展示に関係する全研究員による討論や、外部委員会による意見の聴取により、10周年リニューアルに対する具体的な方向性を見出しつつあるとともに、館員の共通認識を得ることにつながっている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)高等学校所蔵考古資料の調査研究((5)－⑦)

【事業概要】
日本の各地の高等学校には様々な考古資料が保管されている。収蔵資料の多くは、教員や地元有志からの寄贈、構内遺跡出土品、歴史系クラブ活動の調査資料品などである。いずれも高校がその地域において知の集積地として機能していたことを示しており、収蔵資料の実態把握は、考古学上重要であるばかりでなく、近現代の社会史的あるいは教育史的意義を有する。しかしながら、学校によっては管理者が不在であったり、知識不足から活用がなされなかったりと、文化財の活用という面において各種の問題を抱えている。本研究では、高等学校が所蔵する考古資料について全国的な調査を実施して、保管実態を精査するとともに、平成 26 年度には関連する展示会を実施し、文化財保護の普及ならびに実物資料の重要性と有用性の啓蒙をはかり、かつ次代を担う高校生たちの考古学に対する興味を存分に感化することを企図するものである。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室主任研究員　市元塁

【スタッフ】
河野一隆（企画課文化交流展室長）、志賀智史（博物館科学課保存修復室主任研究員）

【主な成果】
福岡県、大分県、長崎県、広島県、奈良県の高等学校所蔵資料の調査を実施して、収蔵状況における実態をつぶさに把握することができた。また兵庫県において博物館連携を進めている学校教員にヒアリングを行い、今後の指針とした。さらに福岡で開催された高校教育に関する研究会に出席し、現今の学校教育がとりまく諸問題について知見を深めた。

【年度実績概要】
・前年度に引き続き、考古学に関係する高等学校のリスト化と関連資料の収集を進めた。

・西日本、九州を中心に高等学校を訪問し、各校が所蔵する考古資料とその来歴、ならびに現在の活用状況やクラブの活動状況について調査を実施した。本年度調査を実施できた高等学校（調査日）は以下の通り。
福岡県立筑紫丘高等学校（25 年 5 月 17 日、12 月 12 日)。福岡県立糸島高等学校（25 年 5 月 18 日、12 月 14 日)。長崎県立国見高等学校（25 年 5 月 20 日、9 月 10 日)。奈良県立畝傍高等学校（25 年 5 月 31 日奈良県立橿原考古学研究所で調査)。広島県立府中高等学校（25 年 7 月 31 日、8 月 1 日)。熊本県立鹿本高等学校（25 年 10 月 10 日。山鹿市立博物館をあわせて訪問)。大分県立中津南高等学校（25 年 11 月 20 日。中津市歴史民俗資料館をあわせて訪問)。島根県立矢上高等学校（26 年 3 月 12 日)。香川県立高松北高等学校（26 年 3 月 13 日）


福岡県立筑紫丘高等学校
所蔵甕棺

・25 年 12 月 9 日には兵庫県立須磨高等学校教諭に面会し、本研究テーマに係る意見交換を行った。25 年 12 月 15 日には福岡大学で開催された高校教育関係の研究会に出席し情報収集を行った。なお、本調査の成果の一部を 26 年 7 月から 9 月にかけて当館トピック展示で公開することが正式決定し、一部の出品資料について集荷と写真撮影を実施した。

【実績値】
収集資料数：実績 40 点
収集図書数：実績 40 点
学会研究会等発表数：1 件（①）

（参考値）新聞取材：2 件(②～③)

【備考】
学会研究会等発表
①「高等学校の考古資料が抱える諸問題」福岡県高等学校歴史研究会（25 年 5 月 22 日）
（参考）
取材記事
②「九州国博が収蔵品調査」西日本新聞（25 年 5 月 23 日）
③「高校歴史部 栄光よ再び」朝日新聞（25 年 11 月 1 日）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-5

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	A	A	A

判定理由
適時性：高校所蔵資料はつねに散逸や毀損の危機にあるため、本研究は緊急性が極めて高い。
独創性：全国レベルで調査をしている博物館は他にない。
発展性：研究成果を学校現場や地域社会に還元できる。また昭和史の新たな側面を浮彫にすることができた。
効率性：事前の情報収集により調査対象校を絞り込み、効率的に調査が実施できた。
継続性：計画的に調査を続けている。
正確性：各府県自治体の関係職員の協力と一次資料の収集により正確な調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	収集資料数	収集図書数	学会研究会等発表数			
判定	A	A	A			

判定理由
資料収集数：考古学上の重要資料を収集し得た。また目標を達成した。
収集図書数：学史上重要な図書を収集し得た。また目標を達成した。
学会研究会等発表数：発表と研究会参加によって、今後の調査の指針を策定できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初目標を達成した。また、新聞 2 社から取材を受けたことは、当該テーマの取り組みが社会的に関心をよんでいることを裏付けるものである。これを踏まえ、次年度に実施するトピック展示「全国高等学校考古名品展」は高い公共性を有するものと期待できる。なお、次年度以降は本年度まで未着手であった四国、山陰などでの現地調査を実施し、研究のさらなる充実をはかりたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通りに調査を実施できている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5111
（様式 1）

業務実績書

研№46

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信((1)－①)

【事業概要】
文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国においての文化財保存・修復事業を推進する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員　江村知子

【スタッフ】
川野邊渉（センター長）、山内和也（地域環境研究室長）、友田正彦（保存計画研究室長）、加藤雅人（主任研究員）、境野飛鳥（アソシエイトフェロー）、新免歳靖（研究補佐員）、渡部妥子（研究補佐員）、高多加奈子（事務補佐員）、二神葉子（企画情報部情報システム研究室長）

【主な成果】
世界遺産委員会（プノンペン）、無形文化遺産政府間委員会（バクー）等の国際会議に出席し、国際情報収集を行った。また日本の文化財の所蔵館や、他の所内業務において関連のある美術館・博物館を中心にアメリカ及びイギリスにおける動産文化財の所蔵・管理状況についての調査を行った。また、文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たに 1 冊刊行した。さらに研究機関間の連携強化とネットワーク構築のため、国際的な研究交流を推進した。

【年度実績概要】
・国際会議等出席
文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。集約した情報、今後の課題について、研究発表のかたちでも一部報告した。
25 年 6 月 16 日～6 月 27 日　世界遺産委員会（プノンペン）
25 年 11 月 24 日～30 日　ICCROM の理事会・総会（ローマ）
25 年 12 月 2 日～7 日　無形文化遺産政府間委員会（バクー）
世界遺産委員会では、事前調査や会議の分析を通じて、日本政府代表団を支援した。また、世界遺産委員会で得られた情報を効果的に国内の関係者と共有するためのニーズ調査を実施した。無形文化遺産政府間委員会においては、補助機関に選ばれた日本政府団の一員として、無形文化遺産代表リストへの記載の審査を行うとともに、審議の要約を作成した。


世界遺産委員会

・文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究
アメリカ国内には 2 万館を超えるミュージアムが存在し、指定品クラスの日本の美術作品を収蔵している美術館も少なくないが、文化行政を担当する省庁は存在せず、独自の方法で文化財が保護されている。また、欧米の美術館・博物館の果たしている歴史的・社会的役割は、日本における文化財保護を考える上で、大いに参考になる。以下の美術館・博物館において、所蔵日本美術作品及び作品管理状況についての調査を行った。調査成果については研究発表のかたちで一部報告した。
25 年 6 月 26 日～7 月 2 日　デトロイト美術館
25 年 11 月 14 日～19 日　エジンバラ国立博物館
26 年 2 月 10 日～14 日　ボストン美術館、ハーヴァード大学美術館

・対訳法令集シリーズの刊行
本年度はインドネシアについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして 1 冊刊行した。また、シリア、メキシコなど諸国の文化財保護関連の基本的法令の取得や情報収集を行った。

【実績値】
論文発表　1 回（①）、発表件数　4 回（②③④⑤）、刊行物発行　2 冊：文化財保護法令集作成　1 冊（⑥）、国際資料室蔵書目録作成　1 冊（⑦）、国際会議出席　3 回、海外現地調査　3 回（アメリカ、イギリス）、

【備考】
論文発表：①Tomoko Emura, Rinpa Artists and Samurai class, Bulletin of the Detroit Institute of Arts, Vol. 88, nos. 1/4, Detroit Institute of Arts 2014.3
研究発表：②二神葉子「世界遺産－現状と問題、将来像」東京文化財研究所第 47 回オープンレクチャー 2013.10.5
③境野飛鳥「アメリカの動産文化財保護制度」東京文化財研究所第 4 回総合研究会 2014.2.4
④江村知子「文化財の国際情報の活用−日本美術作品を中心に」東京文化財研究所第 4 回総合研究会 2014.2.4
⑤二神葉子「ユネスコ無形文化遺産保護条約第 8 回政府間委員会」第 14 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向」2014.3.7
刊行物発行：⑥各国の文化財保護法令シリーズ[18]インドネシア　⑦国際資料室蔵書目録

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5111

自己点検評価調書

研No.46

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：収集した国際情報を適切に蓄積し、必要に応じて関連組織や関係者に提供した。
独創性：過去の様々な事業を通じて築いてきた独自のネットワークを活用した。
発展性：収集・蓄積した情報は、今後の調査研究を遂行するにあたって有益なものである。
効率性：これまで蓄積してきた情報や、構築してきたネットワークを利用し、最小限の従事者・規模で大きな成果を得た。
継続性：刊行物に関する問い合わせも多く、継続的に情報収集を行う意義が認められる。

2．定量的評価

観点	論文発表	発表件数	刊行物発行	海外現地調査	国際会議出席	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
論文発表：デトロイト美術館の日本美術作品についての情報を集約し、所蔵品管理及び活用に貢献した。
発表件数：世界遺産委員会の報告、最新の国際動向及び今後の課題について発表し、情報共有に努めた。
刊行物発行：2種2冊の刊行物により、専門性の高い情報を広く利用できるような形式で公開することができた。
海外現地調査：アメリカ、イギリスでの調査を実施し、次年度以降の発展的な調査研究につながる成果をあげた。
国際会議出席：3回の会議に出席して情報収集を行い、国際協力のネットワークを強化した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初計画の通り、国際会議への出席や現地調査を通じて、国際情報の収集を実施した。また、刊行物の発行や研究発表により、収集した情報を公開した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	順調に国際情報の収集・研究・発信を実施している。次年度においてもこうした活動を継続するとともに、より効率的・効果的に業務を推進していく。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5211
（様式 1）

業務実績書

研№47

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究（(2)－①－ア）

【事業概要】
国際共同研究を通じて東アジア諸国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進することを目的として、中国・敦煌莫高窟壁画及び陝西省墳墓壁画の保護のための共同研究を実施する。

【担当部課】	保存修復科学センター・ 文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	センター長　岡田健 地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】早川泰弘（保存修復科学センター分析科学研究室長）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、藤澤明（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー）、高林弘実（客員研究員、京都市立芸術大学講師）、渡邉真樹子（客員研究員、絵画修復家）、津村宏臣（客員研究員、同志社大学准教授）、鉾井修一（京都大学大学院教授）、小椋大輔（京都大学大学院准教授）、石松日奈子（清泉女子大学非常勤講師）

【主な成果】
敦煌研究院、陝西省考古研究院、中国文化遺産研究院との共同関係を維持し、外部資金も活用しつつ、壁画・石造文化財等の保護に関する共同研究、人材育成について実績を上げた。

【年度実績概要】
敦煌研究院
・25 年 8 月 31 日～9 月 8 日の日程で、敦煌へミッションを派遣し、莫高窟第 285 窟 4 壁と天井部について携帯型蛍光 X 線、顕微鏡、分光光度計を用いた分析調査及び環境調査を実施した。これにより第 285 窟天井部の調査を完了した。（一部科学研究費）
・25 年 9 月 22 日～10 月 12 日の日程で、敦煌研究院研究員 1 名を招聘し、研修を実施した。
・敦煌研究院と共同で 2013 年度成果報告書を編集・発行した。
・26 年 2 月 19 日、科学研究費による研究「敦煌芸術の科学的復原研究―壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ」（研究代表者：岡田健）の成果報告会を兼ね、第 285 窟に関する研究調査に関してシンポジウムを開き、翌 20 日は壁画研究に携わる他機関の研究者と情報交換と専門的討論を行った。（一部運営費交付金）

陝西省考古研究院
・25 年 8 月 27 日～9 月 1 日の日程で、陝西省へミッションを派遣し、陝西省延安市周辺で発掘途中の壁画墓（金時代）2 基を視察し、発掘現場における光学調査に関する方法を検討した。（一部助成金）
・25 年 10 月 22 日、23 日の日程で、西安市所在の曲江芸術博物館が開催した第 1 回壁画芸術研究及び保存修復技術に関する国際会議に招待され、陝西省考古研究院と共同で実施している壁画発掘現場における記録保存に関する研究の成果を発表した。23 日には、保存修復セッションに関する総括を担当した。（一部科学研究費、先方負担）
・26 年 2 月 23 日～28 日の日程で、陝西省考古研究院、河南省龍門石窟研究院、洛陽古墓博物館等へ赴き、今後の文化遺産研究に関する討議を行った。

中国文化遺産研究院
・同研究院が実施している世界遺産大足石窟（重慶市/北宋時代）の石造千手観音像の彩色・金箔全面修復事業に合わせて開催する「2013 年宗教遺跡の保存修復に関する大足石窟国際シンポジウム」（25 年 9 月 16 日、17 日）に招待され、第 1 日セッション「文化財研究と保護の理念」において、我が国の特に石造文化財における生物劣化対策の取り組みについて紹介した。第 2 日セッション「文化財の修復技術と保護の方法」では、中国文化遺産研究院高級工程師黄克忠氏とともに座長を担当した。（一部先方負担）
・同研究院文物修復トレーニングセンターの張曉彤研究員を 25 年 11 月 4 日～23 日の日程で日本へ招聘し、我が国における文化遺産保護の現状と課題、技術的な特色等について研修を行った。（助成金）

【実績値】発表件数：6 件（学会発表 4 件 ①～④、シンポジウム発表⑤～⑥）、報告書件数：1 件、海外派遣回数:5 回（延べ 10 名）、招聘者数：2 名、

【備考】
学会
①高林弘実、犬塚将英、孫勝利、張文元、崔強、渡辺真樹子、岡田健：朱が使用された壁画彩色の劣化―敦煌莫高窟第 285 窟の天井に描かれた雲気文の保存状態―、文化財保存修復学会第 35 回大会　25 年 7 月 21 日
②高林弘実、渡辺真樹子、犬塚将英、津村宏臣、丁淑君、毛嘉民、孫勝利、岡田健：敦煌莫高窟第 285 窟壁画の保存状態Ⅲ―天井壁画における劣化の定量的解析―、文化財保存修復学会第 35 回大会　25 年 7 月 21 日
③井上優子、皿井舞、崔強、張文元：敦煌莫高窟第 285 窟北天井に描かれた禅定比丘像の彩色技法」文化財科学会第 30 回大会、　25 年 7 月 6 日
④中田雄基、鉾井修一、小椋大輔、　岡田健、蘇伯民、宇野朋子、渡辺真樹子：敦煌莫高窟第 285 窟壁画の劣化に及ぼす太陽光の影響、2013 日本建築学会大会　25 年 8 月 30 日

シンポジウム
⑤岡田健：石造文化財の微生物劣化に関する研究―日本の現状、2013 年宗教遺跡の保存修復に関する大足石窟国際シンポジウム、25 年 9 月 16 日
⑥岡田健：墓葬壁画記録方法研究、第 1 回壁画芸術研究及び保存修復技術に関する国際会議、25 年 10 月 23 日

【書式B】
(様式2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5211

自己点検評価調書

研No.47

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：国際共同によって中国文化財の保護に協力することは、昨今の日中関係において果たす意義は大きい。
独創性：国際シンポジウムへ参加し、多様な文化財の保存のための関係を積極的に構築しようとしている。
発展性：若手研究者の招聘研修を積極的に実施し、将来にわたる共同関係を構築しようとしている。
効率性：運営費交付金以外に、助成金、一部先方負担金等を活用し、効率よく実施している。
継続性：長期にわたり共同研究を積み重ね、将来にわたる継続についても視野に入れて作業を行っている。
正確性：取得したデータの整理保管が着々と進み、構築したデータベースの活用まで目前に迫っている。

2．定量的評価

観点	発表件数	報告書件数	海外派遣回数	招聘者数		
判定	A	A	A	A		

判定理由
発表件数、報告書件数、海外派遣回数、招聘者数、：いずれも目標を達成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	敦煌研究院との共同研究は予定どおり、莫高窟第 285 窟の調査をほぼ完成し、これまでの研究成果をまとめることができた。若手研究者の招聘においても効果的な研修を実施している。次年度以降に向けて敦煌研究院と数回にわたる協議を行い、第 285 窟を起点として他の石窟への展開について同意を得ている。陝西省考古研究院との共同研究は、発掘現場での簡便な光学調査の実現を目指し、赤外線専用カメラ、紫外線照射用ストロボなどを応用した調査を実施し、効果を上げた。同研究院も積極的にこの方法を採用している。中国文化遺産研究院とは、同研究院の次世代の研究者を育成するために短期的に日本へ招聘し、日本の文化財保護の理念と技術について研修を行った。以上によって、中国との国際協力関係は十分な内容を持って展開できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画第1年目（平成 23 年）の震災発生、昨今の日中間に発生する政治的問題、中国国内のテロリズムや PM2.5 による空気汚染など、次々と問題が発生し、研究者の派遣自体に不安が生じる情勢となっているが、文化財保護の理念と方法には大きな隔たりはなく、次期中期計画において中国の文化財に関する国際協力を引き続き実現するための布石を打っていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5212

業務実績書

研№48

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
プロジェクト名称	韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究（(2)－①－イ）		
【事業概要】 韓国国立文化財研究所（韓文研）と共同研究を行い、保存修復技術に関する情報共有を進める。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明
【スタッフ】 早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、岡田健（センター長）			
【主な成果】 韓国国立文化財研究所（韓文研）とワークショップを実施し、北海道の手宮洞窟及びフゴッペ洞窟で共同調査を行った。			

【年度実績概要】

25 年 5 月 21 日、東京文化財研究所地下会議室において日韓共同研究ワークショップを開催し事業成果の報告を行うとともに、韓国で現在問題となっている岩刻画の保存に対して、我が国の保存事例となる小樽・手宮洞窟及び余市・フゴッペ洞窟にて共同調査を行った。

また、25 年 9 月に、韓国・瑞山磨崖三尊仏像において、かつて石仏保護のために設けられていた覆屋が撤去されて以降の現状について共同調査を行った。



日韓共同調査（フゴッペ洞窟）

【実績値】
報告書：1 件（①）

【備考】
報告書
①日韓共同研究報告書 2013　東京文化財研究所／韓国国立文化財研究所　2013.5

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5212

自己点検評価調書

研No.48

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：韓国で現在進められている岩刻画保存について、適切な参考事例を紹介することに適時性がある。
独創性：海外研究機関との共同研究において岩刻画及び定期的に沈む文化財を対象にしたことは独創的である。
発展性：フゴッペ洞窟における共同調査の成果は、韓国国内の岩窟が保護に対しても発展性が期待される。
効率性：韓文研との共同研究により、より多くの調査研究事例を知ることで効率的な研究を推進している。
継続性：10年以上に及び共同研究の成果を踏まえ、継続的に共同研究が進められてテーマが設定されている。
正確性：単に保存対策を提唱するだけでなく、覆屋が撤去されて以後の石仏の現状について検証調査を行うことで、正確性を期している。

2．定量的評価

観点	報告書					
判定	A					

判定理由
報告書　：日韓共同研究において、岩刻画をテーマに報告書を作成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	韓国側で問題となっている盤亀台岩刻画をはじめとする岩刻画の保存方法についてフゴッペ洞窟など我が国の先進事例を提供することができ、また韓国での調査では、日本ではあまり行われない覆屋撤去後の磨崖仏の保存環境について調査することができ、双方にとって有益な研究交流を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画通り順調に進めることができた。さらに共同研究を進めて行きたいと考える。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5213
（様式 1）

業務実績書

研№49

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（(2)－①－ウ）

【事業概要】
東南アジア諸国においては、文化遺産の保存修復に関する国際協力や域内連携の動きが近年活性化しているが、なお多くの文化遺産を抱え、国ごとの保護体制に関するレベルの差も大きい。このため、当該地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】
川野邊渉（センター長）、佐藤桂（アソシエイトフェロー）、山下好彦（任期付研究員）、北川瑞季（研究補佐員）、二神葉子（企画情報部情報システム研究室長）

【主な成果】
カンボジア、タイの両国において協力事業を実施した他、ミャンマーにおける文化遺産保存に関する情報収集及び共有、その他各国の関係機関との調整等を行った。

【年度実績概要】
カンボジア関係
・建築測量・図化研修：前年度に引き続き、人材育成協力として、タネイ遺跡における建築遺構の実測研修を実施した。GPS とトータルステーションを用いた遺構実測と、CAD による図化作業までの一連の基本的手順をカンボジア人スタッフに技術移転することを目的とし、アプサラ機構に加え、プレアヴィヒア機構、JASA のスタッフが参加した。第 3 回研修は 25 年 7 月 22 日～8 月 2 日の 2 週間で実施し、上記各機関より建築及び考古を専門とする若手・中堅スタッフが計 9 名参加し、地形測量の方法を中心に実習した。第 4 回研修は、26 年 1 月 17 日～24 日のうち 7 日間で実施し、新規参加者を含む計 9 名が参加した。主に写真測量の技術を実習したほか、伽藍中枢部の平面実測・図化作業を基本的に完了した。
・ICC 出席：25 年 12 月 3 日～4 日午前にシエムレアプで開催されたアンコール遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）第 22 回技術会議に参加し、活動報告を行った。また、4 日午後に開催された同第 20 回本会議、5 日開催の第 3 回アンコールに関する政府間会議にも参加し、保存と国際協力の現状や課題に関する情報収集等を行った。
・石造遺跡の微生物劣化に関する研究報告：本共同研究事業の総括として、昨年 1 月にアプサラ機構と現地で共催した研究会の記録を含む報告書を英語で刊行した。

タイ関係
・漆工芸品の保存に関する協力：タイ文化省芸術局の要請にもとづく、バンコク市内ワット・ラチャプラディット寺院の扉に施された螺鈿装飾の保存に向けた協力として、25 年 5 月 7～10 日にかけてバンコクにて、同局や寺院関係者ほかとの協議、扉の現状調査と日本移送準備作業、類例調査、螺鈿を含む伝統工芸技術の工房調査等を実施した。


ラチャプラディット寺院での調査風景

ミャンマー関係ほか
・26 年 2 月 17 日～22 日：ミャンマー国文化省考古・国立博物館局の職員 3 名を日本に招聘し、同国における文化遺産保護の現状について情報収集するとともに、我が国の文化遺産保護関係の現場見学等も行いつつ意見交換した。
・研究会開催：ミャンマーにおける文化遺産保護国際協力の一環として、26 年 2 月 18 日に本研究所地下会議室にて研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」を開催した。上記ミャンマー国文化省職員 3 名による報告のほか、東文研・奈文研の担当者 3 名が各分野における受託協力事業の内容を中心に報告を行い、関係機関担当者や関連分野の研究者も含めた情報共有を図った。研究会には所内関係者も含めて計 43 名が参加した。
・その他：ベトナム、ブータン等において実施している外部資金事業と連携し、その効果を促進するため、関連の資料翻訳や研究会への参加等を行った。

【実績値】
報告書　2 冊（①、②）、研究会開催　1 回、専門家招聘　1 回

【備考】
報告書作成
① 東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成 25 年度成果報告書　2014.3
② 報告書：Study on the Biodeterioration of Stone Monuments in Angkor- Results of the Joint Research Project at Ta Nei Temple -（英語）2014.3

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5213

自己点検評価調書

研No.49

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：協力相手国のニーズに応じた支援活動を実施し、その成果に関する情報提供、共有も行った。
独創性：カンボジアでの測量に特化した研修は基本的調査技術にもかかわらず他国等がこれまで行ってこなかったもので、タイでは日本の伝統技術を活かした漆工芸分野の支援事業を実施している。
発展性：研修や共同研究の成果は、相手国における保護事業の改善や、今後の協力事業展開にも活用される。
効率性：国内外の専門家、機関との協力、他事業との連携も通じて効率的に事業効果を上げることができた。
継続性：研修事業は前年度の継続として着実に実施した。他事業も今後の展開に関する調整等を図ることができた。
正確性：外部資金事業との連携も含め、ほぼ予定通りに事業を実施した。

2．定量的評価

観点	報告書	研究会開催	専門家招聘			
判定	A	A	A			

判定理由
報告書作成：研究調査や協力事業の内容を取りまとめた報告書を刊行し、成果の公開と普及を図ることができた。
研究会開催：協力事業の成果を共有、普及する機会として、計画通り研究会を開催した。
専門家招聘：計画通り、考古局職員を招聘して情報共有と意見交換を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	カンボジアにおいて研修事業を継続し、これを順調に実施することができた。また、同国とのこれまでの共同研究成果を総括する報告書を刊行し、成果の普及を図ることができた。一方、タイとの間では前年度に合意した協力事業につき、着実な進捗を図ることができた。また、ミャンマーについては、受託事業と連携しながら、専門家交流及び関係者間での情報共有を促進することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	カンボジアにおいては協力事業を次年度も実施し、技術移転及び研究交流をさらに促進したい。また、ミャンマーにおいては、ユネスコ日本信託基金事業の始動も予測されるなか、外部資金事業と連携しながら文化遺産保存修復協力の場をさらに拡げていきたいと考えている。タイについては、漆扉の調査自体は今後受託事業で対応しつつ、関連の調査研究等を支援することで、専門家交流を通じた連携強化をさらに図っていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5214

業務実績書

研No.50

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査((2)－①－ウ・エ)

【事業概要】
東南アジア地域における文化財保存修復協力事業及び調査研究等を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡等）、ベトナム・タンロン皇城遺跡などにおいて考古学的、建築史的、保存科学的調査を実施する。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山　洋

【スタッフ】
森本　晋（国際遺跡研究室長）、石村　智(国際遺跡研究室研究員)、田代亜紀子(国際遺跡研究室アソシエイトフェロー)、佐藤由似(国際遺跡研究室研究補佐員)、今井晃樹（都城発掘調査部主任研究員）、大林　潤（建造物研究室研究員）、高妻洋成（保存修復科学研究室長）、脇谷草一郎(保存修復科学研究室研究員)、田村朋美(保存修復科学研究室研究員)

【主な成果】
西トップ遺跡に関しては、遺跡の安定化を図るための修復工事に本格的にとりかかり、まず南祠堂の解体修理に着手した。本年度中に上部構造及び基壇の解体を完了し、コンクリートベース上での仮組み作業を終えた。タンロン皇城遺跡に関しては、ユネスコ日本信託基金による事業に協力し、総括としてのシンポジウムに参加した。

【年度実績概要】
・西トップ遺跡の南祠堂の上部構造及び基壇の解体を完了した。また解体した上部構造・基壇のコンクリートベース上での仮組み作業を終えた。
・再構築に当たって必要となる砂岩とラテライトの補完石材と、基壇再築成のための資材の準備を行った。
・西トップ遺跡の修復工事の進捗について、アンコール遺跡群国際調整会議（ICC-Angkor）の第 22 回技術委員会（25 年 12 月 3 日～5 日）で報告した。
・IPPA 国際学会において西トップ遺跡の調査成果を発表した（26 年 1 月 14 日）。
・西トップ遺跡の事業内容を紹介したニューズレター（日・英文）を 2 号（No. 8: 25 年 10 月、No. 9: 26 年 2 月）刊行し、関係者と諸機関に配布した。
・タンロン皇城に対する支援の総括として、25 年 9 月 10 日～13 日にハノイでシンポジウムを行い瓦についての発表を行った。


西トップ遺跡南祠堂の解体工事


ハノイにおけるシンポジウム発表（道具瓦について）

【実績値】
○論文等数 1 件（①）
○成果報告数　3 件
・アンコール遺跡群国際調整会議技術委員会（25 年 12 月 3～5 日）における報告　1 件
・IPPA 国際学会において西トップ遺跡の調査成果を発表した（26 年 1 月）　（口頭発表）1 件
・タンロン皇城に関する総括シンポジウムに参加し、発表を行った（25 年 9 月 10～13 日）計 1 件
○公刊図書数　3 件
・西トップ遺跡ニューズレターNo.8（25 年 10 月）、No. 9（26 年 2 月）の刊行（発行数各 1,000 部）計 2 件(②、③)
・西トップ遺跡の調査修復に関する年次報告書　南祠堂解体編　26 年 2 月刊行（④）
○シンポジウム開催数 2 回

【備考】
論文等　①杉山洋・佐藤由似「西トップ遺跡の調査と修復」『奈良文化財研究所紀要 2013』2013.6
公刊図書　②『西トップ遺跡ニューズレターNo.8』2013.10
③『西トップ遺跡ニューズレターNo.9』2014.2
④『西トップ遺跡調査修復中間報告　南祠堂解体編』2014.2

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　5214

自己点検評価調書

研No.50

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：カンボジアの西トップ遺跡・ベトナムのタンロン皇城遺跡はいずれもその保存が国際社会によって切望されており、それに貢献する本事業は適時性にかなっている。
発展性：西トップ遺跡については、本格的な修復工事が南祠堂から始まり、本園ども順調に進行している。それに伴う考古学・建築学的な成果もおおく見受けられる。タンロン皇城遺跡については、前年度までに達成した遺構解析・出土遺物分析の技術移転が順調に推移し、本年度の総合シンポジウムで成果を共有してプロジェクト当初の目的を達成した。以上のことから、両事業は発展的に展開していると評価できる。
継続性：西トップ遺跡については、2001 年から計画的に調査を行っており、また修復工事は平成 27 年度までの工程表に基づいて進められている。またタンロン皇城遺跡については、本事業を通じてベトナム関連機関との良好」な関係を醸成できたので、今後も友好的な国際協力関係へ発展・継続していく見込みである。以上のことから、本事業は発展的に展開していると評価できる。

２．定量的評価

観点	論文等数	成果報告数	公刊図書数	シンポジウム開催数		
判定	A	A	A	A		

判定理由
論文等数：1 本の論文を公表し、当初の目標を達成した。
成果報告数：当初の予定通りアンコール遺跡群国際調整会議等での報告を行った。
公刊図書数：当初の目標どおり、西トップ遺跡ニューズレターを年 2 号公刊（各 1,000 部）するとともに、本年から解体調査の年次報告書の刊行を開始した（１冊、邦文 500 部、英文 300 部）
シンポジウム開催数：タンロン皇城遺跡全体に関するシンポジウムを２回に分けて実施した

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	西トップ遺跡の調査修復事業は、文化復興を進めるカンボジアへの国際文化協力として、適時性を有するとともに、平成 27 年度まで修復工事を継続する予定であり、発展性・継続性も担保されている。 タンロン皇城遺跡の保存に関しても、世界遺産登録を受けた遺跡への持続的な文化協力として適時性・継続性を有するとともに、今後周辺地域の発掘調査への貢献という意味で発展性を有している。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定とおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5215
（様式 1）

業務実績書

研№51

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力
プロジェクト名称	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（（２）－①－エ）

【事業概要】
西アジア諸国等の文化財の保護・保存修復に関する協力・支援事業の一環として、特に内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、併せて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
安倍雅史（アソシエイトフェロー）、久米正吾（アソシエイトフェロー）、藤澤明（アソシエイトフェロー）、山田大樹（アソシエイトフェロー）、近藤洋（研究補佐員）、杉原朱美（客員研究員、東京藝術大学大学院専門研究員）、間舎裕生（客員研究員、慶応大学非常勤講師）、釘屋奈都子（客員研究員、東京藝術大学大学院専門研究員）、松田泰典（客員研究員、JICA 専門家）、谷口陽子（客員研究員、筑波大学准教授）、山藤正敏（客員研究員、日本学術振興会特別研究員 PD）、有村誠（客員研究員、金沢大学准教授）邊牟木尚美（客員研究員、ローマ・ゲルマン中央博物館研修員）、鈴木環（客員研究員、JICA 専門家）、森本晋（奈良文化財研究所国際遺跡研究室長）、石村智（奈良文化財研究所国際遺跡研究室研究員）、田代亜紀子（奈良文化財研究所国際遺跡研究室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
（1）アフガニスタン：バーミヤーン遺跡保存事業に関する調査研究、報告書の作成・刊行を実施した。
（2）イラク：保存修復専門家の人材育成・技術移転を実施した。
（3）西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力等：タジキスタン、インド、中央アジア諸国、コーカサス諸国、エジプトにおいて実施した。

【年度実績概要】
（1）アフガニスタン
・バーミヤーン遺跡保存事業第 11 次ミッションの派遣（25 年 9～10 月）。
・バーミヤーン遺跡保存事業専門家会議への出席（25 年 12 月）。
・バーミヤーン石窟壁画の保存修復に向けた調査研究の実施、及び報告書（英語）の作成・刊行（備考欄①、②、③）、第 11 次ミッション概報（日・英）の作成。
（以上、ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金「バーミヤーン遺跡保存事業」と連携して実施）。
（2）イラク
・イラク国立博物館より保存修復家 1 名をアルメニアに招聘し、アルメニア共和国歴史博物館にて開催した「考古青銅遺物の保存修復に関する国際ワークショップ」と連携して、保存修復に関する人材育成を実施（26 年 1 月）。

（3）西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等
・インド：アジャンター壁画の保存修復に関する報告書の作成、刊行（日・英）（備考欄④、⑤）。
・タジキスタン：国立古代博物館所蔵の壁画の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転に関する協力。
・キルギズ共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力・ワークショップ（2 回）：25 年 8 月～9 月、26 年 2 月（文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携）。
・タジキスタン、ウズベキスタンにおける文化遺産のドキュメンテーションに関するワークショップへの協力（2 回）：25 年 11 月タジキスタン、25 年 12 月ウズベキスタン（ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金事業と連携）。
・コーカサス：アルメニア共和国歴史博物館との考古青銅遺物の保存修復に関する協力・ワークショップ（2 回）：25 年 6 月、26 年 1 月（文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携。）報告書（日）の作成、刊行（備考欄⑥）。
・エジプト：JICA 事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力。（4 回）
・シリア：シンポジウム「シリア復興と文化遺産」開催。
・国際会議「Sub-regional closing meeting of UNESCO/Japan project」（25 年 12 月、ウズベキスタン）への参加。

【実績値】
発表件数：2 件、報告書：8 件（①～⑥）、ワークショップ回数：10 回、海外派遣回数:9 回（延べ 25 名）、招聘者数：6 名

【備考】
報告書
①『Conservatino of the Mural Paintings of the Bamiyan Buddhist Caves』2013.6
②『Strucuture, Design and Technique ot the Bamiyan Buddhist Caves』2013.7
③『Archtecutural Survey of the Bamiyan Buddhist Caves』2014.3
④『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究』2014.3
⑤『Scientific Examinations of the Paintings of Ajanta Cave 2』2014.3
⑥アルメニア歴史博物館所蔵考古金属資料の保存修復と自然科学的調査 2011・2012 年度』2013.5　　他 2 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5215

自己点検評価調書

研No.51

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：内戦中のシリアに代表されるように、紛争・災害・開発等によって危機にさらされている文化遺産を保護する活動は緊急かつ不可欠であり、当事国及び海外諸国と協調して取り組むべき国際的課題である。
独創性：我が国がこれまで培ってきた人的・技術的・学術的資源及び国際的ネットワークを基盤として、我が国のプレゼンスを示しつつ適切に本事業を実施している。
発展性：特に紛争後の文化遺産保護活動は国際連携体制で実施される。このため、当事国の人材育成と持続的発展のみならず、我が国の文化遺産専門家の調査研究等の進展や国内外専門家間交流の促進にも寄与している。
効率性：国内外の他機関との連携や人的・設備的資源の事業横断的運用を通じて、十分な効率性を図っている。
継続性：当事国側からの具体的な要請内容に基づいて人材育成・技術移転事業を展開しており、当事国による持続的な文化遺産保護活動の促進に寄与している。
正確性：アフガニスタン、中央アジア・コーカサス諸国、国際会議等に計 9 回の海外派遣を行い、十全かつ適切に事業を展開している。

2．定量的評価

観点	発表件数	報告書	ワークショップ回数	海外派遣回数	招聘者数	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
発表件数：タジキスタンでの壁画保存修復成果等、学会等において積極的な公表を行った。
報告書件数：バーミヤーン関連報告書 3 件等を通じて、これまでの成果について積極的に公開した。
ワークショップ回数：当事国から個々に要請のある分野に配慮して、多様なワークショップを開催した。
海外派遣回数：西アジア地域及びその周辺諸国という広範囲の地域を対象とするため 9 回の海外派遣を実施し、十分に目標を達成した。また適切かつ多様な専門家を派遣し、文化遺産国際協力活動に貢献した。
招聘者数：第三国専門家の招聘等を通じて、当事国の人材育成への貢献のみならず、専門家間の国際的交流の促進にも寄与した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	治安情勢のため渡航が不可能だったアフガニスタン、バーミヤーン遺跡に 3 年振りにミッションを派遣し、保存状況確認調査を行うことができたたため、次年度以降の保存計画を具体化できた。また、情勢の安定しないイラクについては第三国に専門家を招聘して効果的・継続的に人材育成を行っている。西アジア周辺諸国では、特に内戦中のシリアの文化遺産保護のための国内基盤形成を開始し、内戦後を意識した適時的取り組みを行った。その他、中央アジア・コーカサス地域等では継続的に事業を展開し、当該諸国への技術移転が確実に行われていると同時に、国際ワークショップ等を通じて専門家間の交流を促進させ、国際ネットワーク形成にも多大に寄与している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を十分に達成したことから順調と判断した。また、人材育成、技術移転、調査研究、国際ネットワーク形成等の計画の主要素がバランスよく進展し、西アジア諸国等における文化遺産に係る国際協力の推進が確実に実行されている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5216

業務実績書

研№52

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（（２）－①－オ）

【事業概要】
ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他の分野の専門家と学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域（含む北アフリカ）を対象とし、その中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。また、時代幅については、6～8 世紀を基軸におき、紀元前後から 13 世紀の壁画を主な対象とする。

【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	センター長　岡田健 地域環境研究室長 山内和也

【スタッフ】
藤澤明（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー）、杉原朱美（客員研究員、東京藝術大学大学院専門研究員）、前川佳文（客員研究員、壁画保存修復士）

【主な成果】
(1)タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土の壁画断片の調査及び保存修復を行った。
(2)ロシア：エルミタージュ美術館と今後の協力体制の構築に向けた協議を行った。

【年度実績概要】
(1) タジキスタン
平成 22 年度より、現地に専門家を派遣し、フルブック遺跡出土の壁画断片の保存修復を行っている。平成 26 年度中の展示公開を目指し、今年度は、壁画断片の安定化処置を行った。

・国内作業において、壁画の保存修復に関する新たな処置方法の検討を行った。得られた成果を実際に適用するとともに学会や論文にて発表
・25 年 9 月 18 日～10 月 15 日までタジキスタンに 15 次ミッションを派遣し、タジキスタン国立古代博物館においてフルブック遺跡出土の壁画断片の調査及び保存修復作業を実施


タジキスタンでの保存修復作業

(2) ロシア
これまでに文化遺産国際協力センターが開催するワークショップにエルミタージュ美術館から専門家を招聘し、協力を得ている。これまでの関係を鑑みて、東京文化財研究所とエルミタージュ美術館の間には今後よりいっそうの交流が期待される。そこで、今後の文化財保護に関する協力体制を構築することを目的とし、調査を実施した。

・26 年 2 月 3 日～8 日までロシアエルミタージュ美術館にミッションを派遣し、専門家と今後の協力体制の構築にむけた話し合い及び技術交流を実施
・エルミタージュ美術館調査報告書を編集・発行

【実績値】
論文数 1 件(①)、発表件数：1 件(②)、報告書：1 件(③)、海外派遣回数:2 回（延べ 10 名）

【備考】
論文：
①「タジキスタン国立古代博物館が所蔵するフルブック都城址出土壁画断片の保存修復」（杉原朱美、藤澤明、島津美子、増田久美、山内和也）『保存科学』第 53 号　2014.3
発表：
②「タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復－壁画断片群の状態と安定化のための処置－」（杉原朱美、島津美子、山内和也、その他 3 名）文化財保存修復学会第 35 回大会　2013.7.20
報告書：
③『ロシア エルミタージュ美術館調査報告書』　2014.3

【書式B】
(様式 2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5216

自己点検評価調書

研No.52

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	A	A	A

判定理由
適宜性：壁画の保存修復は、アジア諸国共通の緊急課題であり、本研究は国際的なニーズに答えるものである。
独創性：ユーラシアの壁画を技術・文化・技法の観点から横断的に研究する本プロジェクトは極めて革新的である。
発展性：今後は、中国、タジキスタン、インド以外でもロシアといった様々な国々が所有する壁画の研究も実施していく予定であり、本プロジェクトは発展性を有する。
効率性：タジキスタンに関しては、少人数のミッション派遣だったが、効率よく保存修復作業を実施した。また、その成果も着実に、論文、学会を利用して公表されている。
継続性：タジキスタンに関しては、同プロジェクトが開始される以前からプロジェクトが実施され、着実に研究成果が蓄積されている。
正確性：計 7 回のミッションを派遣し、高い研究成果を挙げた。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書	海外派遣回数		
判定	A	A	A	A		

判定理由
論文数　：新しく技術的検討を行い、その成果について積極的に公開した。
発表件数：様々な学会において適宜、研究成果を公表している。
報告書　：エルミタージュ美術館調査に関する報告書を出版し、成果について積極的に公開した。
海外派遣回数：計 2 回の海外派遣を行い、タジキスタン、ロシアで高い成果をあげた。また適切かつ多様な専門家を派遣し、文化遺産国際協力活動に貢献した。（タジキスタン 6 名、ロシア 4 名）

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	タジキスタンにおいて、ユーラシア壁画に関する技法・材料の研究、保護・保存手法の研究、壁画の歴史的・文化的背景の研究を効果的に実施した。またエルミタージュにもミッションを派遣し、来年度以降の協力体制に向けて話合いを実施し来年度以降の共同研究の足がかりを作った。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	東京文化財研究所がユーラシア各地で実施している壁画研究と壁画保護のためのプロジェクトをより一層体系的なものとするため、当該年度計画に予定した内容を着実に達成するだけでなく、適宜各地で開催される国際シンポジウム等に参加して成果発表を行い、併せて積極的な情報収集を行っており、順調に中期計画を実施していると判断した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5311

業務実績書

研№53

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	国際研修「紙の保存と修復」((3)－①)

【事業概要】
日本の紙本文化財を所蔵する海外の美術館・博物館に、そのような文化財の保存修復専門家が所属していることは稀である。さらに近年では、和紙を使った修復技術が、欧米の文化財修復に応用されるようになってきた。しかし、海外においてこれらに関する情報や経験を得る機会がほとんど提供されていない。日本国内では文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）と共同で英語を用いた国際研修会を、メキシコ合衆国内おいては ICCROM 及び INAH（メキシコ国立人類学歴史機関）と共同でスペイン語を用いた国際研修を開催し、紙本文化財の保存と修復について広く海外に技術移転を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
加藤雅人（主任研究員）、江村知子（主任研究員）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、早川典子（保存修復科学センター主任研究員）

【主な成果】
和紙を使用した紙本文化財の保存修復に関して研修を行った。
（1）日本国内研修：材料、美術史、装こうに関する講義。巻子修復、和綴じ冊子修復及び掛軸・屏風の取り扱い実習。和紙製造現場の視察。
（2）メキシコ研修：材料、装こう技術、装こう道具に関する講義。デンプン糊調製、和紙を用いた裏打ち、和紙を用いた強化、欠失部の補てんに関する実習。

【年度実績概要】
（1）日本国内研修
タイトル：国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
場所：東京文化財研究所、その他
期間：25 年 8 月 26 日～9 月 13 日
参加者国名：アメリカ、アラブ首長国連邦、ドイツ、カナダ、オーストラリア、イギリス、マレーシア、スイス、ボリビア、グアテマラ
内容：[講義]早川典子「日本画修復に使われる接着剤について」、加藤雅人「紙の基礎」、君嶋隆幸「書について」。[実習、その他]巻子修復、冊子綴じ、掛軸・屏風取り扱い、所内見学、討論
[スタディーツアー]25 年 9 月 2 日～6 日実施。岐阜県美濃市（長谷川和紙工房見学、美濃和紙の里会館観覧及び和紙の手漉き、美濃史料館観覧、美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区見学)、名古屋市（紙販売店、徳川美術館)、京都市（修復材料・道具店、岡墨光堂（修復工房）見学)


実習風景

（2）メキシコ研修
タイトル：ICCROM-LATAM プログラムにおける International Course on Paper Conservation in Latin America
場所：INAH
期間：25 年 10 月 6 日～22 日
参加者国名：メキシコ、スペイン、ウルグアイ、ペルー、アルゼンチン、エクアドル、ブラジル、プエルトリコ
内容：日本の伝統的な紙、接着剤、道具についての基本的な知識を得るとともに、実際にそれらを使用して補強や補修、裏打ちの実習を行うことで、日本の装潢修理技術への理解を深めることを目的として研修を行った。研修の前半は、装潢修理技術に用いる材料、道具、技術をテーマに、日本人講師が講義、実習を行った。研修後半では、装潢修理技術の研修経験のあるメキシコ、スペイン、アルゼンチンの講師らが、日本の材料、道具、技術が欧米の文化財修復に実際にどのように活用されているかを紹介し、実習を行った。
また、本プログラムの一環として、25 年 6 月 28 日～10 月 15 日の期間 INAH の職員から一名を招聘し、和紙を欧米の文化財修復に応用するための基礎的な研究及び研修を行った。さらに、26 年 3 月 3 日からも別の一名を招聘し、同様の研究及び研修を行っている。

【実績値】
研修会開催数 2 回、国内研修参加者数 10 名、メキシコ研修参加者数 9 名、国内研修参加者満足度 100％

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5311

自己点検評価調書

研No.53

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	S	A	A	

判定理由
適時性：海外からの要望が高い。公的な機関から参加者を選択するため公共性も高い。
独創性：本プロジェクトのような研修は当研究所独自のものである。
発展性：日本の紙文化財のみならず海外の文化財に極めて応用性が高い。参加者が、帰国後に報告会、シンポジウム、ワークショップなどで報告することで知見・経験が共有されている。研究員を招聘することによりさらに展開できた。
効率性：必要かつ最小限の時間で効率的に事業を完遂した。
継続性：参加者から好評を得ている。20年以上継続しているが未だに例年6倍以上の応募がある。

2．定量的評価

観点	研修会開催数	国内研修参加者数	メキシコ研修参加者数	国内研修参加者満足度		
判定	A	A	A	A		

判定理由
研修会開催数、国内研修参加者数、メキシコ研修参加者数、国内研修参加者満足度：
全て計画通り遂行した。国内研修参加者満足度に関しては、アンケートを実施して全員から「満足した」との回答を得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	昨年度の高評価を得て今年度もメキシコにおいても研修を行った。国内研修、海外研修ともに、参加者から高い評価を得た。 INAHとの技術交流、研究交流を推進するために招聘を行った。 内容に関しても時節や近年の和紙を用いた修理に関する要望の動向に応じて、実施する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5312

（様式 1）

業務実績書

研№54

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業((3)－①)

【事業概要】

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財及び漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的とする。また、ワークショップを開催し、保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】

加藤雅人（主任研究員）、江村知子（主任研究員）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、山下好彦（任期付研究員）、早川典子（保存修復科学センター主任研究員）、田中淳（企画情報部長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、今城裕香（研究支援推進部管理室企画渉外係）、深井啓（アソシエイトフェロー）

【主な成果】

・掛軸１作品、屏風１作品の修復を完了し、所蔵館に返還した。
・作品修復のため、漆工芸品１作品を輸入した。
・今後の修復候補作品選定のため、漆工芸品及び絵画の調査を行った。
・ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを開催した。
・ケルンにおいて漆文化財の保存修復に関するワークショップを開催した。

【年度実績概要】

作品修復

・キンベル美術館（アメリカ）所蔵　二十五菩薩来迎図　絹本着色　掛軸２幅　修復完了。
・シンシナティ美術館（アメリカ）所蔵　源氏物語図屏風　　紙本着色　屏風６曲１隻　修復完了。
・ブロツワフ国立博物館（ポーランド）所蔵　五十嵐道甫作秋野蒔絵硯箱　１合　輸入。

作品調査

・グルジア国立博物館（グルジア）
・ギメ東洋美術館（フランス）
・スペイン国立装飾美術館（スペイン）
・サラゴサ美術館（スペイン）
・スペイン国立図書館（スペイン）
・スペイン国立近代美術館（スペイン）
・スペイン国立工芸美術館（スペイン）
・ドレスデン陶磁器博物館（ドイツ）
・ウィーン応用美術大学（オーストリア）



ワークショップの様子

ワークショップ

・Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館連合・アジア美術館（ベルリン・ドイツ）:(Worhshop 1) “Basic -Japanese paper and silk cultural properties-”、25 年 7 月 3 日～5 日、参加者　19 名、(Worhshop 2) “Advanced - Restoration of Japanese folding screens-”、25 年 7 月 8 日～12 日、参加者　14 名（オブザーバー4 名含む）
・Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Lacquer ware)、場所　ケルン市博物館連合・ケルン東洋美術館（ケルン・ドイツ）:(Workshop Ⅰ-a) 25 年 11 月 14～15 日、参加者 5 名。(Workshop Ⅰ-b) 25 年 11 月 16 日、参加者 6 名。(WorkshopⅢ) 25 年 11 月 19～22 日、参加者 6 名。(Workshop Ⅳ) 25 年 11 月 26～29 日、参加者 6 名

研究発表

備考①②

【実績値】

発表件数　2 件（①，②）
修復作品数　3 件（修復完了 2 件、修復開始 1 件）
ワークショップ開催数　2 件
（参考値　報告書 1 冊③）

【備考】

①山下好彦、川野邊渉「Pressurizing and supporting techniques for damaged lacquer objects」Asian Lacquer Symposium 2013、バッファロー州立大学（アメリカ合衆国・ニューヨーク州）、25.5.20-26
②楠京子、山田祐子、加藤雅人「裏打ち紙除去に使用した酵素の除去確認方法について」文化財保存修復学会第 35 回大会、東北大学百周年記念会館川内萩ホール（宮城県仙台市）、25.7.20-21
③コーカサスに渡った日本美術作品-アルメニア国立美術館所蔵『名区小景』調査報告書（2014.3）

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5312

自己点検評価調書

研No.54

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	S	A	

判定理由
適時性：作品修復、研修ともにおいて海外の博物館美術館からの要望が高い。
独創性：海外所蔵作品の修復は既存の技法や材料では対応できないことも多く、当研究所の知見を活かした事業である。
発展性：研修で教える技術や材料は、世界各地域の文化財修復にも応用できる。
効率性：最小限の員数、限られた予算及び時間のなかで極めて大きな成果を得た。
継続性：作品修復、研修ともに関係者、参加者の評価が高く、継続に値する。

2．定量的評価

観点	発表件数	修復作品数	ワークショップ開催数			
判定	A	A	A			

判定理由
発表件数・修復作品数・ワークショップ開催数：
全て計画通り遂行した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は海外の博物館美術館からの評価も高く、継続が望まれているため、次年度以降も本年度と同様に事業を行う。ただし、内容をより充実させるために、材料及び技術の情報収集及び研究を、国内外において広く行う必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5321

業務実績書

研№55

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力（(3)－②）

【事業概要】
ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業に協力する。本年は集団研修「木造建造物の保存と修復」（アジア太平洋諸国から 16 名）と個人研修「遺跡の整備・活用」（キリバスから 2 名）・「遺跡・遺物の調査と保存」（バングラデシュから 3 名）、「文化遺産ワークショップ」（スリランカで実施）の各事業に関して、研修の講師派遣、現地指導等、全面的に協力する。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	国際遺跡研究室室長　森本　晋

【スタッフ】
石村　智（国際遺跡研究室研究員）、田代亜紀子（国際遺跡研究室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
集団研修ではアジア太平洋諸国 16 ヵ国、16 名の研修生に対して、木造建造物の保存と修復についての研修を行った。また個人研修ではキリバス人専門家 2 名に対して、遺跡の整備・活用に関する研修を行い、またバングラデシュ人専門家 3 名に対して、遺跡・遺物の調査と保存に関する研修を行なった。さらにスリランカで実施された「文化遺産ワークショップ」に協力し、講師 1 名を派遣した。こうした研修により、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。

【年度実績概要】
(1)集団研修「木造建造物の保存と修復」（25 年 9 月 3 日～10 月 3 日、アジア太平洋諸国から 16 名参加）の実施に協力し、「日本の建造物」「文化財建造物保存施策」の講座を開講した。

(2)個人研修「遺跡の整備・活用」（25 年 8 月 1 日～26 日、キリバスから 2 名参加）の実施に協力し、「遺跡の指定と保護制度」「遺跡の整備と活用Ⅰ」「遺跡の整備と活用 II」「遺跡整備の実例」「文化的景観の保存と制度」「遺跡の記録と調査法」「遺物の整理と管理システム」「GIS・GPS データの管理・活用 I」「GIS・GPS データの管理・活用 II」「飛鳥地域の文化的景観」「博物館における展示法の実際」「文化遺産マネジメントの実際」（計 12 件）の講座を開講した。

(2)個人研修「遺跡・遺物の調査と保存」（25 年 11 月 5 日～28 日、バングラデシュから 3 名参加）の実施に協力し、「遺跡の記録と調査法」「遺物の整理と管理システム」「遺物（土器）の分析法」・「遺物（石器）の分析法」「博物館における展示法の実際」「博物館実習」「遺跡の指定と保護制度」「遺物の記録法（写真）」「遺跡の保存科学 I」「遺跡の保存科学 II」（計 10 件）の講座を開講した。

(4)文化遺産ワークショップ（スリランカで開催、25 年 10 月 16 日～28 日）の実施に協力し、現地に研究員 1 名を派遣し、木造建造物の保存にかかる研修・指導を行った。



個人研修「遺跡の整備・活用」における講座「遺跡の記録と調査法」（興福寺発掘現場）



個人研修「遺跡・遺物の調査と保存」における講座「遺跡の記録と調査法」（薬師寺発掘現場）

【実績値】
研修件数　4 件（うち集団研修 1 件、個人研修 2 件、ワークショップ 1 件）
講師派遣数　（スリランカ）1 名
関連講座数　24 件（うち集団研修 2 件、個人研修 22 件）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　5321

自己点検評価調書

研№.55

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：近年諸外国からの文化財保存技術についての研修依頼が増加する傾向にあり、ユネスコアジア文化センターや国際協力機構等からの研修依頼に対して、適時迅速に対応した。
発展性：本年度は前年度までの講座の内容を再検討して改良を加え、特に近年要望の高い「遺跡の整備・活用」に特化した研修を開講・実施したため。
継続性：本研究所は、ユネスコアジア文化センター奈良事務所の発足以来、文化遺産の保存、特に埋蔵文化財と建造物に関する保存の研修への協力を継続しているため。

２．定量的評価

観点	研修件数	講師派遣数	開講講座数			
判定	A	A	A			

判定理由
研修件数：集団研修 1 件、個人研修 2 件という当初の目標を達成したのに加え、文化遺産ワークショップ 1 件にも講師を派遣したので、十分な達成度と評価できる。
講師派遣数：現地で研修・指導を行うの十分な能力のある研究員を派遣したので、十分に成果を達成できた。
開講講座数：集団研修 2 件（全 20 講座）、個人研修それぞれ 12 件（全 18 講座）、10 件（全 17 講座）に加え、文化遺産ワークショップへの講師派遣 1 名と、いずれの研修とも開講講座数の多くの割合を本研究所が担当しており、十分に成果が認められる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業はその適時性・発展性・継続性のいずれの観点においても十分な成果を達成しており、さらに事業内容においても研修回数・開講講座数ともに当初の目標を達成した。次年度計画については、本年度の内容を踏まえ、研修実施機関ともよく協議しつつ、研修の質的な向上に努める予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本事業は中期計画における達成目標に照らしても順調に事業を遂行しており、その適時性・発展性・継続性のいずれの観点においても十分な成果を達成しており、さらに事業内容においても研修回数・開講講座数ともに当初予定通りの成果を達成していることから、順調に実施されていると評価した。今後は、本年度の内容を踏まえ、中期計画の目標を達成するのに必要な課題を検討しながら、その目標達成に努めることとしたい。

【書式Ｂ】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 5411
（様式 1）

業務実績書

研№.56

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進((4))

【事業概要】
ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究推進の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究推進を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【担当部課】	－	【プロジェクト責任者】	所長　荒田明夫

【スタッフ】
大貫美佐子(副所長(兼)室長(研究担当))、児玉茂昭(アソシエイトフェロー)、井内千紗(前アソシエイトフェロー)、辻修次(アソシエイトフェロー)

【主な成果】
文化庁受託事業「平成 25 年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」及び文部科学省補助金「平成 25 年度　政府開発援助ユネスコ活動費補助金」事業を通じ、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究に関する国際専門家会合、保護の現状に関する現地での実態調査、及び無形文化遺産保護に関する研修を実施した。なお、これらの事業は当センター中長期計画及び第 2 回運営理事会での承認に基づき実施されたものである。

【年度実績概要】
(1)国際的動向に関する情報収集のため、下記の 2 事業を実施した。
①国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」を実施した。(受託)
②無形文化遺産関係の国際会議へ出席した。(受託)
(2)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究を推進することを目的に、下記の 3 事業を実施した。
①紛争後の国家における危機に瀕する伝統工芸(スリランカ)：紛争終結地域における生活再建支援のために早急に保護が必要とされる無形文化遺産の特定を目的に、現地にて実態調査を行った。(補助金)
②メコン地域における無形文化遺産に関する法制度研究（ラオス、カンボジア)：無形文化遺産の法的・政策的な枠組強化への貢献を目的に、危機遺産の保護に関連した法制度の現状と問題点に関するヒアリング調査を実施した。(補助金)
③消滅の危機に瀕する無形文化遺産の保護（ベトナム)：継承が危機的状況におかれているベトナムのバクニン州ドンホー村の木版画の実態を調査し、具体的な保護措置を検討した。また、下記(3)-④に記載のワークショップに継承者を招き、記録作成技術習得の機会を提供するとともに、日本における無形文化遺産継承の事例研究として、金沢市の施設・工房を視察した。(補助金)
(3)我が国の知見を活用した無形文化遺産保護の国際的充実のため、下記の 4 事業を実施した。
①「無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム」(ホテルアゴーラリージェンシー堺、25 年 8 月 3 日）を文化庁、堺市と共同開催した。(受託)
②タイ王国シリントーン人類学センターと共催した「無形文化遺産と博物館に関する研修会」(タイ・スリン、25 年 8 月 6 日～18 日）に宮城教育大学小塩さとみ教授を講師として派遣した。(補助金)
③「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」(東京都内各所、秋田県男鹿市、茨城県結城市、栃木県益子町、25 年 10 月 22 日～26 日）をユネスコジャカルタ事務所と共同実施した。(受託)
④昨年度に引き続き、コミュニティ主体の記録作成推進を目的とする「無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップ」(東京国立博物館、26 年 2 月 4 日～6 日）を開催した。(受託)

なお、受託事業の詳細は処理番号 8059、8060 を参照。

【実績値】
実施事業件数　9 件
招聘数(海外研究者招聘・受入れ実績)　延べ 40 名(用務先が海外を含む。国内研究者の海外派遣延べ 6 名含む。)
海外派遣数　延べ 18 名
(参考値)
ウェブサイトアクセス件数　5,454 件(25 年 4 月 1 日～26 年 3 月 31 日)

【備考】

【書式B】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 5411

（様式2）

自己点検評価調書

研No.56

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

判定理由

適時性：無形文化遺産とその保護に対する関心は、近年高まりを見せており、その関心に応えるために、危機に瀕した無形文化遺産の調査の実施及びシンポジウム、国際会議並びにワークショップを開催できた。また、その成果の一部を報告書やウェブサイトで公開している。

発展性：様々な形が存在する無形文化遺産はその保護の方法も多様である。それに対応するため、センターの事業を通じて様々な方法論を着実に収集しており、発展的である。

効率性：センターは受託研究等の外部資金で事業を展開しており、事業を進めるにあたっては効率性を最大限に高められるよう留意している。スタッフの人数も限られるため、ユネスコ及びアジア太平洋地域の研究機関とも協力し、事業成果を高められるよう留意している。

継続性：個々のプロジェクトについては運営理事会の承認を得て進めており、その内容については担保されている。ただし、事業のほとんどは外部資金で実施されているため、毎年度申請が必要であるため、継続的に予算を確保できるよう努めていく。

正確性：事業を通じて収集した情報やデータは多岐にわたるが、その内容については可能な限り正確性を向上することができるように努力した。

2．定量的評価

観点	実施事業件数	招聘数	海外派遣数			
判定	A	A	A			

判定理由

実施事業件数：限られた人員の中で、海外の協力機関とも連携し、効率的に事業を遂行することで、当初計画よりも１件多く受託事業を行うことができた。

招聘数：センター事業遂行のために、センターのネットワークを活用して国内外の研究者を招聘することで、計画していた事業を予定通り遂行することができた。

海外派遣数：効果的に調査活動を行うため、スタッフのみでなく、外部の研究者や協力機関に調査研究を依頼することで、計画していた事業を予定通り遂行することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	機構中期計画及びセンター運営理事会の中長期計画に定められた基本方針に基づき立案された本年度事業について、当初の計画を実行することができた。次年度については、本年度及び次年度の運営理事会の承認並びに本年度の事業成果に基づき、事業内容の改善及び向上を図っていく。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	機構中期計画及びセンター運営理事会の決定に基づいて立案された本年度事業について、事業計画通りに実行することができた。本年度の事業成果に基づき、事業内容の改善を図り、さらに調査研究を深めるべく次年度事業計画を立案・実施していくため、当事業は順調であると判定した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6111

（様式 1）

業務実績書

研№.57

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備（(1)－①）

【事業概要】

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図り、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】

田中淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、津田徹英（文化形成研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、城野誠治（専門職員）、中村明子（アソシエイトフェロー）、井上さやか（アソシエイトフェロー）、橘川英規（アソシエイトフェロー）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、小山田智寛（研究補佐員）、高橋佑太（研究補佐員）

広報委員（LAN 担当）：

川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）　各部センターLAN 担当：高砂健介（研究支援推進部管理室長）、綿田稔（企画情報部文化財アーカイブズ研究室長）、飯島満（無形文化遺産部音声・映像記録研究室長）、吉田直人（保存修復科学センター主任研究員）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター主任研究員）

【主な成果】

保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施した。また、インターネット接続について、従来の専用線から公衆回線での接続に変更した。さらに、所外からのグループウェア閲覧の利便性を図るため、VPN 接続についてタブレット端末からの閲覧を可能にするソフトウェアを導入した。

【年度実績概要】

ネットワーク機器の更新

・平成 25 年度にハードウェア保守の期限が切れるネットワーク機器を更新した。具体的には所内から所外、所外から所内への情報のアクセスを制御するファイアウォールである。
・平成 25 年 11 月、インターネット接続のために研究機関等で共同利用している SINET の接続先を従来の東京大学ノードから東京データセンターに変更するのに伴い、これまで専用線で接続していたのを公衆回線（フレッツ光）に変更した。その際、VPN 接続を行うことで、セキュリティは確保している。このことにより、利用料の低減を実現するとともに、接続速度は従来通りもしくは向上した。
・職員が使用しているコンピュータ用のウィルス駆除ソフトウェアについて、Kaspersky Anti-Virus 及び ESET NOD32 の 2 種類のソフトウェアのライセンスを、それぞれ所内で使用されているコンピュータ台数の半数分ずつ購入し、全てのコンピュータが一斉に同一の不具合を引き起こさないよう工夫している。これらのライセンスについて、平成 25 年 6 月から 7 月にかけて更新し、最新のウィルス定義ファイルによる職員のコンピュータの保護を図った。

ネットワーク機器の新設

・平成 25 年 9 月に、所外からのノート PC やタブレット端末等でのグループウェア（ガルーン）閲覧のため、VPN 接続のための専用ソフトウェアを導入した。

【実績値】

サーバ更新　　1 件（ファイアウォール）
接続回線変更　1 件
システム新規導入　1 件（タブレット端末による VPN 接続ソフトウェア　1 件）

【備考】

【書式B】
(様式2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6111

自己点検評価調書

研No.57

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：適切な時期に機器及びシステムを更新することができた。
効率性：インターネット接続を公衆回線に変更することで、利用費を大きく削減した。
継続性：継続的にネットワークシステムを運用することができた。

2．定量的評価

観点	サーバ更新	接続回線変更	システム新規導入			
判定	A	A	A			

判定理由
サーバ更新　　：当初の予定通り実施することができた。
接続回線変更　：利用料の低減化と接続速度の向上をもたらす変更を、実施することができた。
システム新規導入：VPN接続のための専用ソフトウェアの導入は、節約の結果前倒しで実施できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報システムの整備については、ネットワーク環境の更新やインターネット接続方法の変更に伴い、セキュリティの強化及び高速化、費用の縮減が図られた結果、適時性、効率性、継続性が向上したと判断した。次年度以降も、ネットワークの安定運用と効率化、利便性の向上を図るとともに、整備した環境にさらに情報発信のためのサーバを導入することで、蓄積した文化財調査研究情報の公開のための環境を整備する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報システムの整備については、セキュリティの強化及び接続速度の高速化を図るに当たり、利便性を保ったうえでより効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新をさらに進めた。次年度は、更新予定の機器はないが、Wordpressやeコミによる各種データベースの公開のため、サーバの導入を予定している。現有のスタッフの能力を最大限に活用し、ユーザの意見を適宜取り入れて費用対効果の高い機器の導入とその安定的な運用に努めるとともに、保守内容をさらに見直すなど費用の削減を図る。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6112

（様式 1）

業務実績書

研№.58

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化((1)－①)

【事業概要】

無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。第 1 期中期計画（平成 17 年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	副所長（部長兼務）　石﨑武志

【スタッフ】

高桑いづみ（無形文化財研究室長）、飯島満（音声・映像記録研究室長）、久保田裕道（主任研究員）、今石みぎわ（研究員）、菊池理予（研究員）、佐野真規（研究補佐員）、橋本かおる（研究補佐員）

【主な成果】

本年度より、旧芸能部の時代に作成された映像資料の媒体変換に着手した。画像資料に関しては、既に所蔵を公開している写真資料のデジタル化を行った。アナログ音声資料の内、オープンリールとカセットテープに関しては、収録内容の確認を含めた整理を行った。

【年度実績概要】

旧芸能部所蔵資料の内、8 ミリフィルム（モノクロ）3 本、8 ミリフィルム（カラー）1 本、16 ミリ（モノクロ）2 本の媒体変換を行い、HDCAM6 本を作成した。音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960 年代に放送された邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認し、インデックス付与済みＣＤを 21 枚作成した。カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。画像資料の媒体変換に関しては、モノクロネガフィルムを中心にデジタル化に着手し、今年度は石井雅子撮影歌舞伎舞台写真 1,947 枚の媒体変換を行った。

この他、無形文化遺産関連の映像資料 365 枚（作成ＤＶＤ218 枚・作成ＢＤ147 枚）を登録した。



媒体転換した映像資料の静止画（1978 年「イザイホー」の記録）

【実績値】

ＣＤ（音声資料）　21 枚
ＨＤＤ（画像資料）　1 台（1,947 枚）
ＤＶＤ・ＢＤ（映像資料）　365 枚
ＨＤＣＡＭ(映像資料)　6 本

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6112

自己点検評価調書

研No.58

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	発展性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：映像資料について経年劣化が進行する前に媒体変換に着手することができた。
独創性：他の公的機関では所蔵されていない資料の恒久的な利用に向け、処理を行っている。
継続性：アナログ資料の継続的な媒体変換とともに、資料整理も着実に進めている。
発展性：将来の資料公開に備え、資料の蓄積に努めている。

2．定量的評価

観点	CD （音声資料）	HDD （画像資料）	DVD・BD （映像資料）	HDCAM （映像資料）		
判定	A	A	A	A		

判定理由
CD（音声資料）・HDD（画像資料）・DVD・BD（映像資料）：
これまで集積してきたものを補完するような資料の整理が進められており、より充実した無形文化遺産アーカイブを構築することができた。
HDCAM（映像資料）：本年度から本格的に着手したものであり、今後とも順調な作業水準を期待できる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定量的評価、定量的評価ともに、これまでの水準を維持していることに加え、映像資料（8ミリ・16ミリフィルム）の媒体変換についても本格的な事業を展開している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	事業は、従来の水準を維持している。また、将来的なデータベース公開へ向け、資料作成を着実に進めている。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6113

（様式 1）

業務実績書

研№.59

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実((1)－①)

【事業概要】

文化財情報の特性について具体的な資料の研究に基づいて検討を加え、それに最も適した電子化・情報化の方法を探り実際のデータベース入力を進める。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山　洋

【スタッフ】

森本　晋（文化財情報研究室長）

【主な成果】

文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・分析に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化を進めながらデータの充実を図かると共に、新規データベースとして考古関連雑誌論文情報補完データベースを構築し、公開の準備を行った。

【年度実績概要】

・　文化財情報電子化の研究として、GIS（地理情報システム）の技術を活用した考古情報の分析に関する調査研究を行い、成果を地理情報システム学会で発表した。資料調査として関連学会の中でも重要な地球惑星科学連合と文化遺産記述国際委員会（CIPA）に参加した。

・　文化財情報データベースの充実として、従来より進めている遺跡、写真、報告書抄録、航空写真、図面画像等のデータベースについてデータの入力・更新を行った。

・　新規データベースとして、考古関連雑誌の内で、インターネット上に情報が提供されていない論文に関するデータベースを作成し、考古関連雑誌論文情報補完データベースとして公開の準備を行った。



図面画像データベースの詳細表示

【実績値】

研究発表件数　1 件（①）

（参考値）

データベース件数　平成 25 年末　ただし（　）内は平成 24 年度末の値

全文 213,535（212,709）、木簡 155,121（151,098）、抄録 78,725（74,755）、写真 448,922（402,732）、遺跡 478,763（477,822）、航空写真 1,353,481（1,334,996）、図面画像 97,265（71,081）、考古関連雑誌論文情報補完 36,428

【備考】

研究発表

① 尾吉章・碓井照子・森本晋・清水啓治・藤本悠・清野陽一・玉置三紀夫「遺構情報モデルにおける不確かな時間属性の取り扱いについて」『日本地理情報システム学会第 22 会研究発表大会予稿集』2013.10.27

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6113

自己点検評価調書

研No.59

1．定性的評価

観点	適時性	正確性	独創性	継続性	発展性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性:刊行後間もない発掘調査報告書の記述も参照してデータ入力を行っており、十分に成果が認められた。
正確性:データ入力に際し、典拠資料や関連文献の調査を行っており、正確性を十分に担保できた。
独創性:当研究所独自のデータベースを開発･整備して研究に資するとともに､公開用データベースを充実させており、独創性は十分に成果が認められた。
継続性:各種データベースを最新情報に更新しながら、広く継続的に公開提供しており、十分に成果が認められた。
発展性:新規のデータベース開発を図るなど、今後の展開が確実で、充分に成果が認められた。

2．定量的評価

観点	研究発表件数					
判定	A					

判定理由
研究発表件数：継続的に研究を行い、早期に成果を公表しているので目標を達成している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、適時性・正確性・独創性・継続性・発展性のいずれの観点においても、目標とするレベルに到達しているので、Aと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	それぞれのデータベースにおいて、入力データの充実は滞ることなく進んでいる。また、新規データベースの公開の準備も行うことができた。全体として当初計画通りに進捗しており、順調と判定した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6121

（様式 1）

業務実績書

研 No. 60

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	被災文化財関連情報に関するデータの蓄積・分析及び情報発信（(1)－②）

【事業概要】

被災文化財関連情報に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】

田中淳（部長），山梨絵美子（副部長），小山田智寛（研究補佐員）

文化財レスキュー旧事務局・日報担当：

岡田健（保存修復科学センター長）、皿井舞（企画情報部主任研究員）、久保田裕道（無形文化遺産部主任研究員）、菊池理予（研究員）、今石みぎわ（研究員）、森井順之（保存修復科学センター主任研究員）、江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）

【主な成果】

平成 23 年度・24 年度に文化庁の委託により東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を運営し、また活動そのものにも携わった文化財レスキュー事業に関する情報を、同委員会の付託により収集・整理し、ウェブで公開した。

【年度実績概要】

(1)ウェブサイトでの報告書の公開

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会が作成した報告書 3 件（『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成 23 年度活動報告』、『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成 24 年度活動報告』、『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会公開討論会報告』）について、ウェブサイトで公開した。公開にあたっては、単に各報告書の PDF ファイルを掲載するのではなく、目次を HTML ファイルで作成し、章ごとに PDF ファイルを分割することで、目的の情報を探しやすくするとともにウェブでの閲覧を容易にするよう工夫した。

(2)ウェブサイトでのその他の活動内容の公開

上記の報告書のうち、2 年間の活動に関する年表と活動場所を示す地図については別途サイトを作成し、ウェブでの閲覧に最適化した。地図については、Zoomify(ブラウザ上で超高解像度の画像を拡大・縮小表示させることのできる FLASH を作成できるソフトウェア)により PC で閲覧した場合、画面上で自由に拡大・縮小することを可能にした。

(3)英語による情報発信

(2)の情報は英訳してウェブサイトに掲載した。また、文化財レスキュー活動についての英語によるまとめを掲載した。(Rescue Efforts for Cultural Properties Affected by the Great East Japan Earthquake Disasters)

(4)日報データベースの整理、写真のデータベース化の検討

データベース化した日報の分析、現場や文化財の写真の整理方法について検討を行った。

【実績値】

論文数　：1 件

発表件数：4 件ウェブコンテンツ（①～④）

ウェブサイトで公開した報告書の件数：3 件（⑤～⑦）

【備考】

論文：Rescue Efforts for Cultural Properties Affected by the Great East Japan Earthquake Disasters　2014.1

発表：①活動報告書（平成 23 年度、24 年度）、②公開討論会報告書、③2 年間の活動（年表）④活動場所（地図）

ウェブサイトで公開した報告書：

⑤『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成 23 年度活動報告』

⑥『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成 24 年度活動報告』

⑦『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会公開討論会報告』

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6121

自己点検評価調書

研 No. 60

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：速やかに情報の更新を行うことができた。
独創性：東京文化財研究所が事務局を担当し、集約した文化財レスキューに関する情報を公開することができた。
発展性：災害発生時の緊急対応である文化財レスキューに関する情報を分析・公開することにより、文化財レスキュー自体について総括するだけでなく、次の災害への備えの検討のための資料とすることができる。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	ウェブサイトで公開した報告書の件数			
判定	A	A	A			

判定理由
論文数・発表件数：論文数、発表件数ともに、予定通り公表することができた。
ウェブサイトで公開した報告書の件数：
被災文化財等救援委員会が発行した3冊全ての報告書をウェブサイト上に掲載することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ウェブサイトの運用については、適時性、独創性、発展性が認められた。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨年度まで実施した文化財レスキューに関する活動に関する資料をまとめ、公開することができた。次年度以降も、資料の蓄積、分析を行ったうえで、今後の文化財防災計画の立案に資する資料を配布、ウェブでの公開により関係者による活用を促していく予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6131

業務実績書

研№61

中期計画の項目	６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営）（(1)－③）

【事業概要】
文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりを踏まえ、①受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、②閲覧室で月・水・金の週 3 回の一般利用者へ所蔵資料の提供、③データベースの作成、検索システムの構築・ウェブサイト上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　綿田稔

【スタッフ】
田中淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、津田徹英（文化形成研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、吉田千鶴子（客員研究員、東京芸術大学非常勤講師）、城野誠治（専門職員）、井上さやか（アソシエイトフェロー）、橘川英規（アソシエイトフェロー）、中村明子（アソシエイトフェロー）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、飯島満（無形文化遺産部音声・映像記録研究室長）、佐野千絵（保存修復科学センター保存科学研究室長）

【主な成果】
資料閲覧室の運営、ならびに資料の登録と情報のデータベース化、またそれを利用した外部公開用 SQL データの更新・運用を行った。

【年度実績概要】
・資料閲覧室を公開運営した（合計１３９日、利用者数のべ９７７人）。
・資料の登録と情報のデータベース化を継続した。
・断片化しがちな情報登録システムの整理統合に着手し、数種あった文献データベースを整理統合した。
・情報を外部公開データベースに登録し、基礎情報を一般に提供した。
・外部公開のインターフェイスを一新し、従来の文献データベースを統合した「文化財関係文献データベース（統合試行版）の運用を開始した。
・引き続き関係各部署の協力を得て貴重書のデジタル化を進めた。
・セインズベリー日本藝術研究所と共同で「日本芸術研究の基盤形成のため事業」を開始した。



セインズベリー日本藝術研究所との協約書締結式の様子
（25 年 7 月 25 日、イギリス・ノリッジにて）

【実績値】
研究協議会の開催　４回
資料受入数：和漢書 2,645 件、洋書 142 件、展覧会図録・報告書等 2,146 件、雑誌 943 件（合計 5,876 件）
データベースの公開件数：1 件（新規公開、既存の 15 件データベースを統合したもの。内部運用 34 件）
閲覧室利用状況：公開日総数 139 日・利用者年間合計 977 人

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6131

自己点検評価調書

研No.61

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性	独創性	効率性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：資料閲覧室の公共性と特徴に則った運営をすることができた。
発展性：汎用性のある情報を自前でデータベース化し、国外との連携も模索している。
継続性：研究基盤の形成を重視し、中長期的視野に立って業務を遂行している。
正確性：文化財専門機関としてより正確な情報提供を実践している。
独創性：東京文化財研究所の業務に密着した、特徴あるデータ整理を行なっている。
効率性：細分化されたデータベースの統合を目指すことで、効率化を図っている。

2．定量的評価

観点	研究協議会の開催数	資料受入数	データベースの公開件数	閲覧室利用者数		
判定	A	A	A	A		

判定理由
研究協議会の開催数：目標値に達した
資料受入数：漢書2,645件、洋書142件、展覧会図録・報告書等2,146件、雑誌943件（合計5,876件）
データベースの公開件数：1件（新規公開、既存の15件データベースを統合したもの。内部運用34件）
閲覧室利用状況：公開日総数139日・利用者年間合計977人
いずれも十分なものと判断する。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	実施計画に沿って遂行することができた。セインズベリー日本藝術研究所との協力関係についても協約書を交わして実行段階に移すことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	次年度以降も、より質の高い専門的文化財アーカイブの充実を目指していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6132
（様式 1）

業務実績書

研№62

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	図書の収集・整理・公開・提供(⑴－③)

【事業概要】
文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者及び一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中 康成

【スタッフ】
渡　勝弥（文化財情報係長）、伊藤久美、山内章子、中西晶子、堀内千嘉、井上江理奈、永岡美和、太田淳士(以上、連携推進課事務補佐員)

【主な成果】
遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。
また、移転に伴い、図書の配列を見直すことによって所在をより明らかにした。

【年度実績概要】
・図書等の収集・整理:
遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集・整理を行った。
また、国立情報学研究所が構築しているオンライン共同分担目録方式による全国規模の総合目録データベース(NACSIS-CAT)への新規及び遡及入力の継続等、所外の利用者への情報提供を行った。
図書資料以外では、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。
移転に伴い、大型図書と一般図書を分別することによって、図書の所在をより明らかにした。
・利用者サービス:
歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物等を一般公開施設として広く利用に供し、遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行っている NACSIS-ILL を通じて文献複写・現物貸借サービスを行った。



仮設庁舎閲覧室

【実績値】
（参考値）
受入数：

購入図書	985 冊
寄贈図書	6,814 冊
雑誌	1,386 タイトル
写真	9,892 点

利用者サービス：

一般利用者数	421 人
利用冊数	3,186 冊
来館者複写件数	1,239 件

遠隔利用：

複写受付件数	623 件
貸借貸出冊数	119 冊

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6132

自己点検評価調書

研№62

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：要求のあった図書資料等を積極的に収集・整理・公開を行った。
継続性：図書資料等の収集・整理・公開を滞ることなく遂行した。
正確性：移転時において分散配置されていた資料を集中管理することが可能となった。

２．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	資料の収集・整理・公開を滞りなく実施することができた。また、利用者サービスも適切に行った。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	発掘調査報告書をはじめ、文化財に関する図書等を広く受け入れることができていることから、順調に実施されたと判断する。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6211
（様式 1）

業務実績書

研№.63

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行（年報、概要、ニュース）((2)－①)

【事業概要】
本プロジェクトは研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、及び不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】
田中淳（部長），山梨絵美子（副部長），津田徹英（文化形成研究室長），塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長），綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長），小林公治（広領域研究室長），小林達朗（主任研究員），皿井舞（主任研究員），城野誠治（専門職員），中村明子（アソシエイトフェロー），井上さやか（アソシエイトフェロー），橘川英規（アソシエイトフェロー），福永八朗（アソシエイトフェロー），小山田智寛（研究補佐員），高橋佑太（研究補佐員）
広報委員（概要）：岡田健（保存修復科学センター長）
各部門概要担当：安孫子卓史（前研究支援推進部管理室企画渉外係員）、今城裕香（研究支援推進部管理室企画渉外係員）、塩谷純（企画情報部近・現代視覚芸術研究室長）、高桑いづみ（無形文化遺産部無形文化財研究室長）、今石みぎわ（研究員）、佐藤嘉則（保存修復科学センター研究員）、友田正彦（文化遺産国際協力センター保存計画研究室長）
広報委員（年報）：田中淳（企画情報部長）　各部門年報担当：平出秀文（研究支援推進部管理室総務係長）、安孫子卓史（前研究支援推進部管理室企画渉外係員）、今城裕香（研究支援推進部管理室企画渉外係員）皿井舞（企画情報部主任研究員）、高桑いづみ（無形文化遺産部無形文化財研究室長）、森井順之（保存修復科学センター主任研究員）、山内和也（文化遺産国際協力センター地域環境研究室長）
広報委員（東文研ニュース）：山梨絵美子（企画情報部副部長）、安孫子卓史（前研究支援推進部管理室企画渉外係員）、今城裕香（研究支援推進部管理室企画渉外係員）、津田徹英（企画情報部文化形成研究室長）、菊池理予（無形文化遺産部研究員）、北野信彦（保存修復科学センター主任研究員）、江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）

【主な成果】
年報 2012 年度版、概要 2013 年度版を編集、発行した。また、『東文研ニュース』を年 2 回、『東文研ニュースダイジェスト』（英語）を年 1 回発行した。

【年度実績概要】
・『年報』2012 年度版の刊行
2013 年 5 月 31 日付で年報を刊行した。2012 年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。
・『概要』2013 年度版の刊行
『概要』2013 年度版を刊行した。各ページの構成の決定や原稿のとりまとめについては、各部・センターの概要担当者が行った。
・『東文研ニュース』の刊行
『東文研ニュース』を年 2 回発行した。基本的には、ウェブサイトに掲載した活動報告から四半期ごとの記事を掲載しているが、掲載する記事は各部・センターで選択している。ページ数は固定せず原稿の多寡によって自由に構成し、記事の配置については会議や研究会と現地調査とがバランスよく並ぶようにして見た目の印象にも配慮した。この他、東文研ニュースには、特定のトピックについてまとまった紹介を行うコラムや刊行物の案内、人事異動などを掲載している。なお、54 号から英語版と統合し、日本語・英語併記とした。
『東文研ニュース』の英語版である『Tobunken News Digest』を年 1 回発行し、外国への情報発信にも努めた。

・エントランスロビーパネル展示の実施
エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示した。25 年度は昨年度予算で作成した企画情報部による横山大観「山路」に関するパネル展示を行い、25 年度末に文化遺産国際研究センターによる「海外にある日本美術作品の修復事業」（仮題）に関するパネルを作成し、展示準備をすすめた。

【実績値】
刊行数　『東京文化財研究所年報』2012 年度版　800 部
『東京文化財研究所概要』2013 年度版　3,500 部
『東文研ニュース』53 号 1,000 部　54 号 2,500 部
『東文研ニュースダイジェスト』第 13 号　3,500 部

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6211

自己点検評価調書

研№63

１．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

適時性：東文研ニュースについて、編集担当を研究支援推進部に移行するとともに、和英併記とするなどの紙面の刷新を図ることができ、海外発信力を強化することができた。
効率性：編集費用についてはできるだけ内製化することで予算削減に努めた。
継続性：継続的に刊行物を作成した。
正確性：概要・年報については十全な校正をそれぞれ実施することで、情報の正確性を維持した。

２．定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					

判定理由
刊行数：ウェブサイトに掲載するとともに刊行物を発行した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『東文研ニュース』に『Tobunken News Digest』を統合し、和英併記の新たな『東文研ニュース』とすることで、効率的、効果的な情報発信の媒体としての活用を目指した。また、年報・概要に関しては、各部・センター担当者が入稿前の原稿を整えるなど役割分担を明確化したことにより、早期の発行を行うことができた。ただし、『東文研ニュース』の統合にあたって内容やレイアウトの検討・。合意形成に時間を要したが、次年度以降につながるかたちをつくることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	概要、年報の発行を順調に実施することができた。東文研ニュースについては発行回数が昨年度よりも減少したが、編集担当を研究支援推進部に移行し、和英併記にするなど紙面を刷新することで情報発信の効率化を図ることができたので、次年度には順調に発行できると考える。次年度以降も、これらの媒体による情報発信を継続するとともに、より効果的な情報発信の方法について検討し、ウェブサイトその他インターネットによる情報発信との連携にも努める。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6212
（様式 1）

業務実績書

研№64

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行（『平成 24 年版日本美術年鑑』、『美術研究』）（(2)－①）

【事業概要】
各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和 11 年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』を年 1 冊刊行するとともに、昭和 7 年 1 月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する『美術研究』を年 3 冊刊行する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純

【スタッフ】
田中淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、津田徹英（文化形成研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）、中野照男（客員研究員、大東文化大学非常勤講師）、三上豊（客員研究員、和光大学教授）、近松鴻二（客員研究員、国士舘大学非常勤講師、）、吉田千鶴子（客員研究員、東京藝術大学非常勤講師）

【主な成果】
本年度は、『平成 24 年版　日本美術年鑑』及び『美術研究』410～412 号を刊行した。

【年度実績概要】
①『平成 24 年版　日本美術年鑑』　B5 版(2014.3)
　2011（平成 23）年美術界年史、美術展覧会（企画展、作家展、団体展）、美術文献目録（定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展））、物故者
②『美術研究』410 号（2013．9）
・李清泉（西林孝浩訳）「空間論理と視覚意味― 宋遼金墓「婦人啓門」図新論（上）」
・田中伝「吉川霊華筆《離騒》の主題と典拠」
・大谷省吾「靉光《眼のある風景》をめぐって（上）」
・綿田稔「研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻―解題―」
・綿田稔・土屋貴裕・大月千冬・佐藤直子「研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻―詞書公刊ならびに影印（上）―」
・企画情報部報
③『美術研究』411 号（2014．2）
・李清泉（西林孝浩訳）「空間論理と視覚意味― 宋遼金墓「婦人啓門」図新論（下）」
・大谷省吾「靉光《眼のある風景》をめぐって（下）」
・綿田稔・土屋貴裕・大月千冬・佐藤直子「研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻― 詞書公刊ならびに影印（中）―」
・齊藤洋一「研究資料　華族写真同人誌『華影』考―明治末期華族写真愛好家の活動と小川一真・黒田清輝との交流を巡って―」
④『美術研究』412 号（2014．3）
・李裕群（森美智代訳）「トルファン・トユク石窟の考古学的新発見―五世紀高昌の仏教図像に関する試論―」
・鈴木廣之「展覧会評　狩野山楽・山雪」
・綿田稔・土屋貴裕・大月千冬・佐藤直子「研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻― 詞書公刊ならびに影印（下）―」
・田中淳「研究資料　黒田清輝宛小川一真書簡の翻刻と黒田清輝の写真観」
・岡塚章子「明治期の写真団体と華族―小川一眞の事績からの考察―」
・岡塚章子「黒田清輝宛 小川一真書簡　影印・翻刻・解題」
・美術研究（407 号～412 号）総目次

【実績値】
刊行数
『平成 24 年版　日本美術年鑑』刊行数　1 点　（①）
『美術研究』刊行数　　3 点　（②～④）
配布部数
『平成 24 年版　日本美術年鑑』刊行部数　600 部　　配布部数　600 部（①）
『美術研究』刊行部数　各 400 部　　配布部数　各 380 部（②～④）

【備考】
①『平成 24 年版　日本美術年鑑』東京文化財研究所　2014.3
②『美術研究』410 号　東京文化財研究所 2013.9
③『美術研究』411 号　東京文化財研究所 2014.2
④『美術研究』412 号　東京文化財研究所 2014.3

【書式B】
(様式2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6212

自己点検評価調書

研No.64

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性、発展性：
『美術研究』において、話題となった展覧会「狩野山楽・山雪」を展覧会評として取り上げ、今後の研究動向と展望を示した。また、これまで全容の知られていなかった「国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻」全六巻、「黒田清輝宛 小川一真書簡」を影印とともに翻刻・解題を付して「研究資料」として世に紹介した。さらに、『美術研究』海外編集委員によって推薦された韓国語圏と中国語圏で発表された論文を翻訳し掲載することで、広く東アジアにおいてどのような問題が最新のテーマとして文化財研究の俎上にあがっているかを提示した。いずれも適時性・発展性において十分に成果が認められた。
正確性、継続性：
1936（昭和11）年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』において、2011年の美術界に関する基礎データの集成に努め、十分に成果が認められた。1932（昭和7）年の創刊以来、日本・東洋の古美術、ならびに日本近代・現代の美術とこれらに関連する西洋美術についての論文・研究ノート・図版解説・展覧会評・研究資料などを掲載する『美術研究』を計画通り年度中に3冊刊行した。

2．定量的評価

観点	刊行数	配布部数				
判定	A	A				

判定理由
刊行数　　：目標を達成した。『日本美術年鑑』については、各関係機関等に600部を配布することができた。
配布部数　：目標を達成した。『美術研究』については、各号を関係機関等に380部を配布することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年度計画通り、『美術年鑑』1冊と『美術研究』3冊を刊行した。ことに前者においては、2011（平成23）年美術界年史、美術展覧会、美術文献目録を収録して、遺漏なく斯界の動向の記録に努めるとともに、後者では、論文、翻訳論文、展覧会評、研究資料のそれぞれにおいて国内外の文化財研究に資するべく充実を図った。この点において十分に評価できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画にあげた実施状況は、順調である。次年度は、『日本美術年鑑』のウェブへのデータ公開の迅速化を図るとともに、同年鑑創刊以前のデータについても補完を目指したい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6213

（様式 1）

業務実績書

研№65

中期計画の項目	６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行（『無形文化遺産部研究報告』、『無形民俗文化財研究協議会報告書』）（（２）－①）

【事業概要】

無形文化遺産部スタッフによる業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』及び民俗文化財保護行政担当者、無形民俗文化財保存関係者、研究者の参加を得て開催する無形民俗文化財研究協議会の事例報告・総合討議を内容とする『無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	副所長（部長兼務）　石﨑武志

【スタッフ】

高桑いづみ（無形文化財研究室長）、飯島満（音声・映像記録研究室長）、久保田裕道（主任研究員）、今石みぎわ（研究員）、菊池理予（研究員）

【主な成果】

(1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 8 号を刊行した。

(2)平成 25 年 11 月 15 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 8 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行した。

【年度実績概要】

(1)『無形文化遺産研究報告』第 8 号を以下の内容で刊行した。

「染織技法の分業に関する研究（一）」菊池理予、「日本における出土鼓胴と古制の鼓胴について」高桑いづみ、「〔資料紹介〕無形文化遺産部収蔵映像フィルムとそのデジタル化」佐野真規、「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真（五）」鎌田沙弓、「〔資料紹介〕東京文化財研究所所蔵ニットー長時間レコード」飯島満

(2)「わざを伝える―伝統とその活用―」をテーマとした『第 8 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を以下の内容で刊行した。

趣旨説明

［第 1 部　報告］

「佐渡『小木のたらい舟製作技術』伝承の取り組みと課題」井藤博明

「越中福岡の菅笠保全に妙薬はあるのか―行政のサポートについて」徳田光太郎

「えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトの取組みについて」羽太謙一

「荒川区の無形文化財保護の取り組み―伝統工芸技術の保存・普及・継承事業を中心として」野尻かおる

「台東区の伝統産業事業について」浦里健太郎

［第 2 部　総合討議］

コメント・ディスカッション　参考資料

【実績値】

刊行数　2 部（『無形文化遺産研究報告』第 8 号、『第 8 回無形民俗文化財研究協議会報告書』）2014.3

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6213

自己点検評価調書

研No.65

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：報告書に掲載した資料紹介は、東京文化財研究所がこれまでに集積してきた無形文化遺産関連資料の紹介である。
独創性：無形民俗文化財研究協議会で取り上げた「伝統的技術」は、民俗技術に範囲を限定せず、無形文化財の分野である無形文化財選定保存技術等も視野に入れたためであり、こうしたテーマ設定に基づく報告書は、無形の文化財を扱う無形文化遺産部ならではのものといえる。
発展性：一般の認知度が比較的低い民俗技術をテーマに取り上げ、その報告書を刊行したことによって、無形民俗文化財研究協議会が、数少ない民俗技術の継承等の諸問題についての議論の場となることが期待できる。

２．定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					

判定理由
刊行数：予定通りの刊行数を達成している。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『無形文化遺産研究報告』には、今年度の事業に基づく報告や、これまで継続してきた調査を踏まえた研究成果を掲載することができた。『無形民俗文化財研究協議会報告書』は、「伝統的技術」をテーマとする数少ない報告書（民俗技術を取り上げたのは本協議会でも第 1 回以来）であり、それだけに有用性も高い。また、関係機関や専門研究者へ配布した後、広範な研究分野からの要請にも資するため、速やかにＰＤＦでの公開もなされてきている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	両誌ともに計画通り年１回の刊行がなされ、目的を順調に達成した。今後もこのペースの維持をめざす。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6214

業務実績書

研№66

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行(『保存科学』53 号)((2)－①)

【事業概要】
保存修復科学センターと文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存と修復に関する調査や研究に基づく成果のまとめ、公開を目的とし、論文集である「保存科学」を年 1 回、刊行する。様々な文化財の科学的調査の結果や基礎研究に関する論文・報告、受託研究に関する研究報告や修復処置報告などを掲載する。また、研究成果のさらなる公開を行うために、掲載論文を PDF 化して、研究所のウェブサイト上で公開を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】
中山俊介（近代文化遺産研究室長）、犬塚将英（主任研究員）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）

【主な成果】
20 件の投稿を受け、外部査読者 2 名を含む編集委員会を中心に査読を行い、報文 4 本、報告 15 本、合計 19 本の掲載を決定した。総ページ数は 244 ページとなった。本誌の体裁は昨年度までのものから変更をせず、650 部印刷し、関係諸機関に配布した。

【年度実績概要】
岡田健（保存修復科学センター長）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、神庭信幸（東京国立博物館文化財保存修復課長）、稲葉政満（東京藝術大学大学院美術研究科教授）の 4 名から構成される編集委員会によって『保存科学』の編集を行った。平成 25 年度は、19 件の研究論文・報告を掲載した『保存科学』第 53 号を発行した。その中で 4 件の研究論文の題目を以下に記す：

1. 仁王胴具足にみられる桃山文化期の一塗装技術－一宮市博物館所蔵仁王胴具足を例として－
2. 装飾古墳のおかれた「環境」と保存の歴史
3. 展示ケース内有機酸の低減対策の評価法
4. 柿（こけら）葺き屋根材中存在する糸状菌の菌叢解析

その他、15 件の研究報告を掲載した。



『保存科学』第 53 号

【実績値】
印刷部数　650 部
掲載論文数　19 件

【備考】
本誌体裁 B5、総ページ数：244 ページ

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6214

自己点検評価調書

研No.66

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	S	A

判定理由
適時性：掲載されている論文は文化財の保存・修復に関して現在問題になっていることを取り上げたテーマや新しい研究成果を含んでおり、それらを報告することは適時性に富んでいる。
独創性：個々の論文がそれぞれ特有のテーマに沿ってまとめられた内容であることから独自性・独創性を有している。
発展性：現在問題になっている問題への取り組みや発表された新しい研究成果の応用を検討することにより、新たな課題も明らかになり、さらに研究の発展が期待される。
効率性：外部委員2人も含め、編集委員会は4人の編集委員で構成されており、担当者2名との連携により過不足なく編集作業を効率良く進められた。
継続性：半世紀にわたり文化財保存学を牽引してきた学術研究誌であり、引き続き内外から注目・期待を集めるべく努力している。
正確性：論文を掲載する前に十分な査読を行っていることから、発表した内容の正確性を保証している。

2．定量的評価

観点	印刷部数	掲載論文数				
判定	A	A				

判定理由
印刷部数：文化財の保存と修復に関する新しい情報を発信するための十分な発行部数（650部）を確保するために印刷を行った。
掲載論文数：文化財の材料分析に関する調査結果、遺跡等屋外にある文化財の調査、文化財を取り巻く環境に関する研究など研究テーマは多岐にわたり、そして豊富な数（19件）の論文を掲載することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新しい研究成果等を発表する論文集であることから、適時性、独創性、発展性、継続性を有している。また、論文を掲載するにあたっては、各論文に査読者を割り当てて十分な審査を行ったことにより、発表内容の正確性も有している。印刷を行い関係各所への配布を行ったが、さらに、掲載論文はPDF化して研究所のウェブサイトからも閲覧可能とし、国内外の研究者、修復技術者にとって重要な情報源としての役割も果たした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通りに、編集作業を進めることができ、『保存科学第53号』を発行することができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215

業務実績書

研№67

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	第 36 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会プロシーディングスの出版（(2)－①）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、国際シンポジウムを開催し、その内容をまとめたプロシーディングスを出版することにより、積極的に情報や成果を公開・提供する。

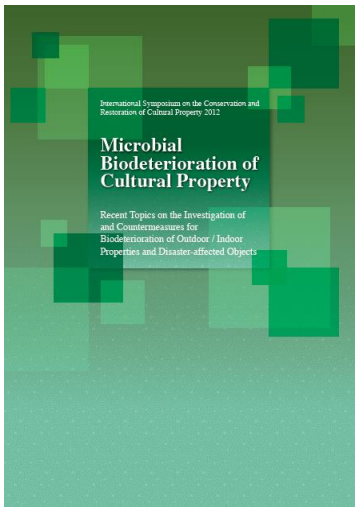
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	生物科学研究室長　　木川りか

【スタッフ】
佐藤嘉則（研究員）、小野寺裕子（研究補佐員）

【主な成果】
24 年 12 月に開催した第 36 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「文化財の微生物劣化とその対策―屋外・屋内環境、及び被災文化財の微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピック―」Microbial Biodeterioration of Cultural Property:Recent Topics on the Investigation of and Countermeasures for Biodeterioration of Outdoor / Indoor Properties and Disaster-affected Cultural Objects の口頭発表 15 件の内容をまとめた論文と、ポスター発表 23 件の要旨を収録したプロシーディングスを編集、出版した（26 年 1 月出版）。

【年度実績概要】
24 年 12 月に開催した国際研究集会の口頭発表の内容をまとめた論文（英文）を発表者から集め、英文校正作業を含む編集作業を実施した。ポスター発表の英文要旨とともに、プロシーディングスを編集、出版した。

【Contents】
・Overviews of the characteristics and problems of biodeterioration of stone monuments/ objects and recent topics on diagnostic methods for determining deterioration and conservation treatments：Piero Tiano
・Investigation on the bio deterioration of cultural properties: Overview, preventive measures and recent topics：Geneviève Orial
・Overview of cultural properties affected by disaster in the Great East Japan Earthquake of March 2011：Toru Tateishi
・Microbial damage of tsunami-affected objects in the Great East Japan Earthquake 2011 and problems with fungicidal fumigation：Rika Kigawa and Yoshinori Sato
・Microbial deterioration of tsunami-affected paper-based objects: Yoshinori Sato, Mutsumi Aoki, and Rika Kigawa
・Deterioration of stone monuments by epiphytes in relation with environmental factors：Nobuaki Kuchitsu
・Method for cleaning epiphytes on stone monuments：Masayuki Morii and Wataru Kawanobe
・Sulfur-oxidizing microorganisms isolated from the deteriorated sandstone in Angkor monuments, Cambodia：Yoko Katayama, Xian Shu Li, Asako Kusumi, and Ji-Dong Gu
・Microbial deterioration/ degradation of polymers used in conservation and issues with the use of antimicrobial biocides：Ji-Dong Gu
・Agents responsible for wood decay in historical monuments: identification, treatment and preventive measures：Faisl Bousta
・Investigation of deterioration of wood by various methods including non-destructive methods：Yoshihisa Fujii
・Decay inspection of historical wooden architectures by genetic analysis：Tomoaki Sugiyama
・Investigation of indoor air-borne microbial particles in cultural asset facilities：Kosuke Takatori, Toru Shimizu, Atsuko Takahashi and Yuko Kumeda
・The development of a DNA microarray for the rapid identification of moulds on works of art：Wibke Neugebauer, Dirk M. Leinberger , Karin Petersen , Ulrike Schumacher , Till T. Bachmann and Christoph Krekel
・Mould risk to cultural property – on the problem of defining adverse environmental conditions and potential for harm：Tom Strang



第 36 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会プロシーディングス

【実績値】
プロシーディングス刊行　1 件　（①）
（参考値）
総ページ数：218 ページ
刊行部数：　700 部

【備考】
①　『Microbial Biodeterioration of Cultural Property:Recent Topics on the Investigation of and Countermeasures for Biodeterioration of Outdoor / Indoor Properties and Disaster-affected Cultural Objects』　2014.1

【書式B】
(様式2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6215

自己点検評価調書

研No.67

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：被災文化財の微生物劣化の現象の調査・対策の策定を含む、文化財の微生物被害対策は、極めて緊急なテーマであり、このテーマの最新の成果を国際研究集会のプロシーディングスとして公開できるため、十分に成果が認められる。
独創性：文化財の生物被害に特化した国際研究集会は珍しく、充実した内容を英文でまとめて提供することができたことは、国内のみならず国外にとっても貴重な資料となり、今後のこの分野の発展に資するものである。
発展性：今回まとめられた内容は、今後現場の文化財の生物被害対策を考えるうえで、極めて応用性が高いと考えられるので、十分に成果が認められる。
効率性：少ないスタッフ数ながら最大限の成果を達成したと考えられるので、十分な成果が認められる。
継続性：国際研究集会のプロシーディングスは開催年度の翌年度に毎年発行されており、国際的に成果を発信するとともに、貴重な研究成果の記録となっている。
正確性：記述内容については、英文校正を含め十分に吟味したと考えられるので、十分な成果が認められる。

2．定量的評価

観点	プロシーディングス刊行					
判定	A					

判定理由
プロシーディングス刊行：予定通り、国際研究集会の内容をまとめたプロシーディングスを刊行することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	予定通り刊行し、十分な成果が上がった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画していたテーマについて、十分な成果が認められた。文化財の生物被害に特化した国際研究集会は珍しく、充実した内容を英文でまとめて提供することができたことは、国内のみならず国外にとっても貴重な資料となり、今後のこの分野の発展に資するものである。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6216

業務実績書

研№68

中期計画の項目	６ 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行（（２）－①）

【事業概要】文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を発行する。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】
紀要等２点、ニュース２種８点、合計１０点を刊行した。

【年度実績概要】
（紀要等）　『奈良文化財研究所紀要 2013』2013.6 月刊、3,000 部
『奈良文化財研究所概要 2013』2013.7 月刊、2,700 部

（ニュース）『奈文研ニュース』NO.49　2013. 6 月刊,3,000 部
『奈文研ニュース』NO.50　2013. 9 月刊,3,000 部
『奈文研ニュース』NO.51　2013.12 月刊,3,000 部
『奈文研ニュース』NO.52　2014. 3 月刊,3,000 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.154（全国木簡出土遺跡・報告綜覧）、2014.2 月刊、2,500 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.155（現場のための環境考古学）、2014.3 月刊、2,500 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.156（奈良文化財研究所が公開しているデータベース）、2014.3 月刊、2,500 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.157（2012 年度埋蔵文化財関係統計資料）、2014.3 月刊、2,200 部



『奈良文化財研究所紀要 2013』『奈良文化財研究所概要 2013』

【実績値】
刊行数：紀要 1 点、概要 1 点、奈文研ニュース 4 点、埋蔵文化財ニュース 4 点、計 4 種 10 点

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6216

自己点検評価調書

研№68

１．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
判定理由 適時性：調査研究の成果を適時に刊行できた。 継続性：継続的な定期刊行物として刊行できた。						

２．定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					
判定理由 刊行数：当初の計画どおりに刊行することができた。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定期刊行物は、研究成果を公表するものとして計画的に発行できた。 また、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を専門家だけでなく、一般の方にもわかりやすい形での刊行に努めた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	紀要、概要、ニュースの刊行は計画どおり順調に実施できた。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6221
（様式 1）

業務実績書

研 No. 69

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会（(2)－②）

【事業概要】
第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「「かたち」再考―開かれた語りのために―」を開催した。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　皿井　舞

【スタッフ】
田中淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、津田徹英（文化形成研究室長）、小林達朗（主任研究員）、小林公治（広領域研究室長）、二神葉子（情報システム研究室長）

【主な成果】
26 年 1 月 10 日（金）～12 日（日）、東京文化財研究所の地下セミナー室において、第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会を開催した。最初の 2 日間は基調講演、研究発表（セッション 1～3）、3 日目は前 2 日間の研究発表に基づいたラウンドテーブルを行った。

【年度実績概要】
プログラムは以下の通り。

趣旨説明「今、なぜ「かたち」なのか」皿井舞（東京文化財研究所）
基調対談「生まれてくる〈かたち〉」イケムラレイコ（アーティスト）・田中淳（東京文化財研究所）
セッション 1：群れとしての「かたち」
　セッション趣旨説明　　江村知子（東京文化財研究所）
　サイモン・ケイナー「先史時代からみた「かたち」の概念―土偶や縄文時代の遺物の観察を通して」（セインズベリー日本藝術研究所）
　高桑いづみ「くり返す」ということ―音楽の「かたち」と変化する伝承―」（東京文化財研究所）
　ユキオ・リピット「蟠龍図の「かたち」と行為」（ハーバード大学）
　小沢朝江「近代日本の行在所にみる様式の創造」（東海大学）
　セッション討議　司会：江村知子、荒川正明（学習院大学）
セッション 2：個としての「かたち」
　セッション趣旨説明　　塩谷純（東京文化財研究所）
　小林達朗「美麗の術―国宝千手観音像の場合」
　内呂博之　「「かたち」への挑戦―岡田三郎助と藤田嗣治」（金沢 21 世紀美術館）
　大島徹也「ポロックをポロックとして見る―ジャクソン・ポロックのオールオーヴァーのポード絵画」（愛知県美術館）
　渡部泰明「歌の＜かたち＞―源俊頼の方法」（東京大学）
　セッション討議　司会：塩谷純、藤川哲（山口大学）
セッション 3：「かたち」をささえるもの
　セッション趣旨説明　　綿田稔（東京文化財研究所）
　メラニー・トレーデ「八幡縁起のローカリゼーション」（ハイデルベルグ大学）
　崔公鎬「器―社会的形態・文明の記憶」（韓国伝統文化大学校）　（通訳：稲葉真以／韓国光云大学）
　塚本麿充「中国絵画史における「人格」と「かたち」―呉彬「山陰道上図巻」と価値評価の構造」（東京国立博物館）
　桑木野幸司「記憶のかたち―コスマ・ロッセッリ『人工記憶の宝庫』（1579 年）における天国と地獄の表象」（大阪大学）
　セッション討議　司会：綿田稔（東京文化財研究所）、佐藤直樹（東京芸術大学）

【実績値】
開催回数：1 回（平成 26 年 1 月 10 日～12 日）
国内外からの招聘者数：14 名（海外 5 名、国内 9 名）
満足度：「たいへん満足」「おおむね満足」が 26 年 1 月 10 日：100 パーセント、1 月 11 日：95.8 パーセント

【備考】
第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「「かたち」再考―開かれた語りのために」（予稿集）400 部
印刷物数：ポスター200 枚、チラシ 4000 枚、プレプリント 300 部
参加者数：260 名

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6221

自己点検評価調書

研 No. 69

1．定性的評価

観点	適時性	独自性	発展性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：美術における制度史の研究が蓄積され、造形を再考するのによい機会に開催できた。
独創性：学問諸分野をまたぐ「かたち」という枠組みを設定して議論することができた。
発展性：今後の議論につながる課題が浮き彫りになった。

2．定量的評価

観点	開催回数	国内外からの招聘者数	満足度			
判定	A	A	A			

判定理由
開催回数：規定の回数を実行することができた。
国内外からの招聘者数：計画通りに招聘できた。
満足度：2 日間にわたりアンケートを実施、多くの参加者から「たいへん満足」「おおむね満足」という評価を得ることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当所で主催した「今、日本の美術史学をふりかえる」(1997 年）以後、美術史学の分野で制度史の調査研究成果が蓄積された段階で、再度、造形作品を「かたち」という枠組みで見直すきっかけをつくることができた。定性的、定量的ともA評価と考え、総合的にもAと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	定性的にも定量的にも高い水準で実施することができたので、順調と判断した。 次年度には本シンポジウムの報告書を刊行する予定である。また、議論によって浮かび上がってきた課題についてさらに深めるべく、研究会を開催していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6222
（様式 1）

業務実績書

研№.70

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平成 25 年度オープンレクチャー（（２）－②）

【事業概要】
企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長　田中淳

【スタッフ】
山梨絵美子（副部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、津田徹英（文化形成研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、中野照男（客員研究員、大東文化大学非常勤講師）、三上豊（客員研究員、和光大学教授）、近松鴻二（客員研究員、国士舘大学非常勤講師、）、吉田千鶴子（客員研究員、東京藝術大学非常勤講師）、

【主な成果】
第 47 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：207 人、アンケートによる満足度：85％（回収率：89％））。

【年度実績概要】
企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で 47 回目を迎えた。昨年度同様、本年度も金曜日と土曜日の午後、2 日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。「モノ／イメージとの対話」をテーマに掲げ、個々の講演内容は以下の通りである。
今回は 2 日間でのべ 207 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、185 人から回答を得た（回収率:89％）。満足度に関する回答結果は、「たいへん満足した」77 人、「おおむね満足した」81 人、「普通だった」12 人、「不満が残った」6 人、無回答 9 人、回答者の 85％が満足感を得たことがわかった。

第 1 日目
25 年 10 月 4 日（金曜日）午後 1：30～4：30　東京文化財研究所地下セミナー室
「平安仏画の表現―虚空蔵菩薩と千手観音像―」小林達朗（東京文化財研究所）
「高麗仏画の表現―凝縮された美―」鄭于澤（東国大学校大学院教授・同大学校博物館館長）
第 2 日目
25 年 10 月 5 日（土曜日）午後 1：30～4：30　東京文化財研究所地下セミナー室
「螺鈿を訪ねて西へ東へ―5000 年の世界史を探る―」小林公治（東京文化財研究所）
「世界遺産―現状と問題、将来像―」二神葉子（東京文化財研究所）


オープンレクチャー開講（第 1 日目）

【実績値】
参加者数　207 人
満足度　85％（回収率：89％）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6222

自己点検評価調書

研№.70

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：企画情報部の美術史研究の現今の最新成果を反映させて、所員によって高精細デジタル画像撮影によって得られた成果を「平安仏画の表現―虚空蔵菩薩と千手観音像―」として公表を行うとともに、その対比として韓国の仏画研究者による自国仏画の微細な研究成果の公表を併せて行うことで、日本の仏画と相違を浮かびあがらせながら、一般への成果公表を行った。併せて、所員それぞれの最新の調査・研究を公表することで、東京文化財研究所企画情報部の研究の「今」を一般に公表し、その適時性において十分に成果が認められた。
独創性・発展性：
それぞれの研究成果を単に公表するのではなく、「モノ／イメージとの対話」という独自の統一のテーマで括りつつ、成果公表を行い、それぞれの調査・研究への展望を示し、来聴者の満足度を十分に得られた。
継続性：企画情報部のオープンレクチャーとして、途切れることなく第 47 回目の開催を行うことができた。

2．定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				

判定理由
参加者数・満足度：多くの参加者を得、高い評価を得たため。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的にも定量的にも高い評価を得たためＡと判定した。 次年度も文化財に関する調査・研究に基づく最新の成果・新知見を、時宜に適応しながら公表し、その参加者数、満足度においても高い評価を目指したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度も計画通り実施し、「平成 25 年度オープンレクチャー」を 100％達成したので順調と判定した。 中期計画の趣旨に沿いつつ、次年度も、文化財に関する調査・研究に基づく最新の成果・新知見を「モノ／イメージとの対話」という統一テーマで括りつつ、公開講演という形態をとりつつ成果・知見を、一般に公表・還元していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6223

（様式 1）

業務実績書

研№.71

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	公開講演会、現地説明会等の開催（(2)－②）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会等の開催により、積極的に公開・提供する。

【担当部課】	研究支援推進部 連携推進課、研究支援課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中康成 研究支援課長　今西康益

【スタッフ】松本正典（連携推進課課長補佐）、米野元則（連携推進課専門職員）、江川　正（宮跡等活用支援係長）、三本松俊徳（宮跡等活用支援係係員）

【主な成果】
（１）公開講演会は、例年実施している定例公開講演会（奈良）を２回、特別講演会（東京）を１回、飛鳥資料館特別展記念講演会を２回開催した。いずれも多くの参加者があり、日頃の奈文研研究成果を一般に発信ができた。
（２）発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計５回実施した。
このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することができ、事業としては順調に実施できた。

【年度実績概要】
（１）公開講演会等
・第 112 回公開講演会　25 年 6 月 29 日（土）　聴講者数 250 人　場所：平城宮跡資料館講堂　講演者数 3 名
アンケート結果＝回収数 194 人 回収率 77.6% 満足度Ａ＝170 人（87.6%）／Ｂ＝23 人（11.9%）／Ｃ＝1 人（0.5%）
・第 113 回公開講演会　25 年 10 月 26 日（土）　聴講者数 176 人　場所：平城宮跡資料館講堂　講演者数 3 名
アンケート結果＝回収数 101 人 回収率 57.4%　満足度Ａ＝90 人（89.1%）／Ｂ＝10 人（9.9%）／Ｃ＝1 人（1.0%）
・特別講演会（東京会場）25 年 9 月 22 日（日）　聴講者数 408 人　場所：有楽町朝日ホール　講演者数 6 名
アンケート結果＝回収数 189 人 回収率 77.8% 満足度Ａ＝166 人（87.8%）／Ｂ＝22 人（11.6%）／Ｃ＝1 人（0.6%）


第 112 回公開講演会風景

・飛鳥資料館春期特別展「飛鳥寺 2013」記念講演会　25 年 5 月 18 日（土）　参加者数 71 人　場所：飛鳥資料館講堂　講演者数 1 人、アンケート結果＝回収数 54 人、回収率 76.1%　満足度Ａ＝54 人（100%）／Ｂ＝0 人（0%）／Ｃ＝0 人（0%）
・飛鳥資料館秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」記念講演会　25 年 11 月 16 日（土）　参加者数 112 人　場所：飛鳥資料館講堂　講演者数 1 人、アンケート結果＝回収数 88 人、回収率 78.6%　満足度Ａ＝85 人（96.6%）／Ｂ＝2 人（2.3%）／Ｃ＝1 人（1.1%）

（２）発掘調査現地説明会等
・飛鳥藤原第 177 次（甘樫丘東麓遺跡）1,038 ㎡、発掘調査現地説明会 25 年 9 月 7 日（土）、参加者 1,122 人、報告者 1 人　アンケート結果＝回収数 378 人、回収率 33.7% 満足度Ａ＝208 人（55.0%）／Ｂ＝164 人（43.4%）／Ｃ＝6 人（1.6%）
・平城第 516 次（興福寺西室）985 ㎡、発掘調査現地見学会 25 年 9 月 28 日（土）、参加者 885 人、報告者 1 人
アンケート結果＝回収数 194 人、回収率 21.9% 満足度Ａ＝78 人（40.2%）／Ｂ＝113 人（58.2%）／Ｃ＝3 人（1.6%）
・飛鳥藤原第 179 次（藤原宮朝堂院朝庭）1,430 ㎡、発掘調査現地説明会 25 年 12 月 21 日（土）、参加者 337 人、報告者 1 人　アンケート結果＝回収数 80 人、回収率 23.7% 満足度Ａ＝47 人（58.7%）／Ｂ＝31 人（38.8%）／Ｃ＝2 人（2.5%）
・平城第 519 次（薬師寺十字廊）872 ㎡、発掘調査現地見学会 26 年 2 月 15 日（土）、参加者 350 人、報告者 1 人 アンケート結果＝回収数 65 人、回収率 18.5% 満足度Ａ＝43 人（66.2%）／Ｂ＝22 人（33.8%）／Ｃ＝0 人（0%）
・平城第 520 次（平城宮第一次大極殿院）476 ㎡、発掘調査現地見学会 26 年 3 月 8 日（土）、参加者 715 人、報告者 1 人 アンケート結果＝回収数 163 人、回収率 22.7% 満足度Ａ＝102 人（62.6%）／Ｂ＝61（37.4%）／Ｃ＝0 人（0%）

【実績値】
開催回数１０回
（１）　公開講演会等開催回数　５回
（２）　発掘調査現地説明会等開催回数　５回
（参考値）
（１）公開講演会等　聴講者延人数 1,017 人、アンケート回収数 626 人、回収率 61.6%
満足度Ａ＝565 人（90.3%）、Ｂ＝57 人（9.1%）、Ｃ＝4 人（0.6%）
（２）発掘調査現地説明会等　参加者延人数 3,409 人　内アンケート実施回数 5 回　回収数 880 人　回収率 25.8%
満足度Ａ＝478 人（54.3%）、Ｂ＝391 人（44.4%）、Ｃ＝11 人（1.3%）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6223

自己点検評価調書

研No.71

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：広く一般に公開し、その必要性に答えることができた。
独創性：公開は、内容の新規性及び卓越性を持たせ実施することができた。
発展性：聴講者は多数かつ多種にわたり、様々な分野への影響が期待される。
継続性：様々な媒体を活用して、研究成果の継続的な公表を行った。
正確性：多数が満足する正確性を持った内容であった。

2．定量的評価

観点	開催回数					
判定	A					

判定理由
開催回数：公開講演会、現地説明会ともに予定どおり実施できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	公開講演会については年5回実施し、発掘調査現地説明会等については、5回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対して行ったアンケートでは、公開講演会では99.4%、発掘調査現地説明会では98.8%の方から「大変満足である」または「おおむね満足である」という結果を得ている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	公開講演会、現地説明会の開催は計画のとおり順調に実施できた。 今後も、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握を図る。さらに事業広報を充実させることにより参加者数の増加と満足度の向上に努める。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6231

業務実績書

研No.72

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ウェブサイトの運用（(2)－③）

【事業概要】
研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】
田中淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、津田徹英（文化形成研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）、城野誠治（専門職員）、中村明子（アソシエイトフェロー）、井上さやか（アソシエイトフェロー）、橘川英規（アソシエイトフェロー）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、小山田智寛（研究補佐員），高橋佑太（研究補佐員）
広報委員（LAN）：
川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）　各部門 LAN 担当：高砂健介（研究支援推進部管理室長）、綿田稔（企画情報部文化財アーカイブズ研究室長）、飯島満（無形文化遺産部音声・映像記録研究室長）、吉田直人（保存修復科学センター主任研究員）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター主任研究員）

【主な成果】
ウェブサイトのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。

【年度実績概要】
・ウェブサイトのリニューアルの継続
昨年度に引き続きウェブサイトのトップページ及び案内、活動報告等全所的な情報に関するページのレイアウトを変更し、各種の情報へのアクセスの利便性を向上させた。研究所の業務紹介としては、東京文化財研究所の刊行物（図書）について 25 年度までのデータを追加掲載した。

・ウェブサイトの適宜更新
各部・センターの調査研究、会議や研究会の開催等の活動について、日本語及び英語による「活動報告」として毎月掲載した。研究会開催や職員募集、入札公告などの情報については、依頼があり次第ただちに掲載した。
また、ウェブサイトの内容の充実を図り、開所記念展覧会目録など、当研究所で蓄積しているデータの公開を実施した。さらに、東日本大震災後の対応として、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業に関連する活動や被災した文化財などへの対応について、昨年度に引き続きウェブサイトによる情報発信を行った。



テキストデータ事例（和田新調査撮影記録）

・テキストデータ、画像データ公開のためのシステムの検討
テキストデータや、メタデータを含む画像データのデータベース化・検索可能な形での公開を容易にする Wordpress を用いた情報公開について公開の方法について検討を行い、所内で公開した。テキストデータは「日本美術年鑑」所載物故記事、画像データは和田新撮影による西アジア地域を中心とした画像、および当研究所所蔵ガラス乾板の画像である。

・メールマガジンの発信
活動報告を含むウェブサイトの更新情報や、研究会開催、職員募集や入札公告などの情報を登録者に対して直接発信する手段としてメールマガジンの送信を随時行い、平成 25 年度は 11 件を送信した。

・アクセス数
本年度のウェブサイトへのアクセス数は 1,410,075 件（セッション数）で、うち上半期は 741,419 件であり、前年度の同時期に比べ 117,588 件増加した

【実績値】
Wordpress によるデータベース公開数　1 件
メールマガジン送信数　11 件
（参考値）
ウェブサイトアクセス件数　1,410,075 件

【備考】

【書式B】
(様式2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6231

自己点検評価調書

研No.72

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	独創性	発展性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：速やかに情報の更新を行うことができた。
効率性：ウェブサイトのデザインの大きな変更は外部委託、日々の更新作業はアシスタントが担当するなど分担して効率的に更新を行うことができた。
継続性：活動報告の更新を毎月実施するなど、継続的に情報公開を行うことができた。
独創性：活動報告や美術界年史（彙報）など独自の情報を掲載することができた。
発展性：東京文化財研究所所蔵ガラス乾板や和田新撮影画像、物故記事の所内ウェブサイトでの公開のシステムを構築したことで、今後、その他の画像も含めた一般公開・活用のシステムを検討する上での基礎とすることができた。
正確性：ウェブサイトへの掲載の際は複数の担当者が記事の内容を確認することで、正確性を保つことができた。

2．定量的評価

観点	Wordpressによるデータベース公開数	メールマガジン送信数				
判定	A	A				

判定理由
Wordpressによるデータベース公開数：
今年度はこれまでになかった試みとして、Wordpressによる横断検索も可能なデータベースを1件公開することができた。
メールマガジン送信数：
また、メールマガジンについても、ほぼ月に1回の発行ペースを維持することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ウェブサイトの運用については、適時性、効率性、継続性、独創性、発展性、正確性が認められた。また、試験公開版のデータベースを構築し、来年度早々の公開に向けての準備ができた。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ウェブサイトの情報へのアクセスの利便性向上、データの充実、速やかな更新を実施することができた。ウェブサイトのアクセス件数も増加している。このような実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると考えた。次年度以降も、現在それぞれの部門で独自に作成しているウェブサイトのデザインの統一や、より多くのデータベースの公開など、当研究所の広報・研究成果の公開をより効果的に実施するための業務を実施していく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6232

業務実績書

研№.73

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ウェブサイトの充実（(2)－③）

【事業概要】
研究所の事業・研究成果をはじめ、催し物案内など様々な広報を実施する。新たな情報発信をすべく更なる内容の検討を行う。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中 康成

【スタッフ】
渡　勝弥（文化財情報係長）、高田祐一（連携推進課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
(1) ウェブサイトを多言語化対応した。
(2) リポジトリをリニューアルし、利便性が向上した。
(3) コラムを継続発信し、企画展ブログを試行した。
(4) アクセス解析を開始した。

【年度実績概要】
(1) ウェブサイトを多言語化対応した。英語、中国語、韓国語に対応することにより、国際的な情報発信が可能となった。研究成果の一部は英訳し公開している。

(2) 学術情報リポジトリを再構築した。リポジトリの画面構成など見直すことにより、利便性が向上した。また内容がウェブサイトと重複があったが、統合することにより、整合性を確保した。

(3) コラムを継続発信し、企画展ブログを試行した。研究員によるコラム「作寶樓」を定期的にリリースした。定期的なリリースによりコンテンツとして定着しつつある。また展示企画室による特設ブログ「平城京どうぶつえん」の基盤構築とアクセス解析を実施した。このブログは奈文研ウェブサイト本体のアクセス件数の 15%に相当し、各種の効果が大であった。

(4) ウェブサイトのページ毎にアクセス解析システムを設定した。ページ単位でアクセスを解析できるようになり、今後の施策立案に活用できるようになった。



韓国語対応のウェブサイト

【実績値】
（参考値）
ウェブサイトアクセス件数：447,563 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6232

自己点検評価調書

研№.73

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		
判定理由 適時性：学術情報リポジトリを再構築することにより適時な成果発信を可能とした。 発展性：多言語化対応によりグローバルな情報発信が可能となった。 効率性：新たにアクセス解析システムを導入したことにより、効率よく各種施策の立案・事後評価が可能となった。 継続性：コンテンツの継続的な配信により閲覧者の定着を確認できた。						

２．定量的評価

観点						
判定						
判定理由						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報発信の国際化、学術情報の成果発信、最新情報の発信、アクセス解析システムの確立を適切に推進した。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ウェブサイトの維持更新、情報の発信を滞りなく実施した。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6311

（様式 1）

業務実績書

研№.74

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	平城宮跡資料館における展示公開（(3)－①）

【事業概要】

平城宮跡に関する理解促進、ならびに当研究所が行う平城宮・京の発掘調査及び研究の成果公開や情報発信のため、平城宮跡資料館において常設展・企画展を実施する。

【担当部課】	企画調整部　展示企画室	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山　洋

【スタッフ】

加藤真二（展示企画室長）、中川あや（展示企画室研究員）、渡邉淳子（展示企画室アソシエイトフェロー）、松本正典（連携推進課課長補佐）

【主な成果】

(1) 常設展の円滑な実施のため、その維持・管理に努めた。
(2) 春期企画展「発掘速報展平城 2012」を 25 年 3 月 16 日～6 月 2 日に開催した。
(3) 夏期企画展「平城京どうぶつえん」を 25 年 7 月 13 日～9 月 23 日に開催した。
(4) 秋期特別展「地下の正倉院展－木簡学ことはじめ/平城宮・京の発掘調査の 50 年」を 25 年 10 月 19 日～12 月 1 日に開催した。

【年度実績概要】

(1) 常設展のみの開館日：172 日、入館者数：39,502 名。
(2) 開催期間：25 年 3 月 16 日～6 月 2 日（25 年度は 54 日間）。
内容：奈良文化財研究所が 2011 年度に平城宮・京で実施した発掘調査の速報展を行った。主要 3 地点の調査成果について、出土品や調査写真をもとに紹介。
来館者：39,179 名（うち 25 年度 34,025 名）。
(3) 開催期間：25 年 7 月 13 日～9 月 23 日（43 日間）。
内容：平城宮・京から出土した様々な動物の出土品を集めて展示した。夏休みの子ども向け企画として開催し、ワークショップなど親子で楽しめるイベントも実施した。
会場リーフレット『平城京どうぶつえん』、図録『平城京動物園』25 年 7 月 13 日刊行。
来館者数：18,616 人


平城京どうぶつえん　おやこワークショップ

(4) 開催期間：25 年 10 月 19 日～12 月 1 日（39 日間）。
内容：毎年恒例の木簡の実物公開を行った。本年度は、木簡研究確立のきっかけとなった、平城宮内裏北外郭官衙 SK820 の出土木簡を展示し、黎明期の木簡研究が確立していく様子を紹介した。同時開催として、都城発掘調査部平城地区（元平城宮跡発掘調査部）設立 50 周年を記念して、「平城宮・京発掘調査の 50 年」と題し、写真パネル・動画展示を行った。会場リーフレット『地下の正倉院展－木簡学ことはじめ』25 年 10 月 19 日刊行。
来館者：16,753 名。

【実績値】

平城宮跡資料館　来館者数 108,896 名（目標値：85,300 名）、開館日数 328 日。特別展開催 1 回、企画展開催 2 回。

（参考値）

(1) 常設展のみ 172 日、来館者 39,502 名
(2) 25 年 4 月 1 日～6 月 2 日（54 日）、来館者 34,025 名、
ギャラリートーク 6 回（25 年 4 月 12 日、4 月 19 日、4 月 26 日、5 月 17 日、5 月 24 日、5 月 31 日、参加者 93 名）
クイズ大会 2 回（25 年 4 月 5 日、5 月 10 日、参加者 36 名）
(3) 25 年 7 月 13 日～9 月 23 日（63 日）、来館者数 18,616 名
博士のおもしろどうぶつ講座 4 回（25 年 7 月 26 日、8 月 9 日、8 月 23 日、8 月 30 日、参加者 110 名）
おやこワークショップ 2 回（25 年 8 月 2 日、8 月 16 日、参加者 81 名）
リーフレット 1 部（①）、図録 1 部（②）
(4) 25 年 10 月 19 日～12 月 1 日（39 日）、来館者 16,753 名
ギャラリートーク 3 回（25 年 10 月 25 日、11 月 8 日、11 月 22 日、参加者 121 名）
リーフレット 1 部（③）

【備考】

①『平城京どうぶつえん』会場リーフレット 2013.7　5,000 部刊行
②『平城京どうぶつえん』図録 2013.7　2,500 部刊行
③『地下の正倉院展－木簡学ことはじめ』会場リーフレット 2013.10　8,500 部刊行
(3)展示企画の公表「平城宮跡資料館夏期企画展における新たな試み」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6(予定)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6311

自己点検評価調書

研№.74

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：都城発掘調査部平城地区（元平城宮跡発掘調査部）設立 50 周年に合わせた展示を開催することができた。
独創性：子ども向けの企画展やワークショップを開催し、出土遺物展示の新たな切り口、表現方法を試みた。
継続性：毎年開催している木簡の実物展示を実施し、貴重な文化財を公開する機会を設けた。

２．定量的評価

観点	来館者数	開館日数	特別展開催数	企画展開催数		
判定	A	A	A	S		

判定理由
来館者数：年間入館者数 108,896 名で目標値（85,300 名）を達成した。
開館日数：定期休館日を除けば、毎日開館した。
特別展開催数：目標値（年１回）を達成した。
企画展開催数：目標値（年１回）に対し年 2 回開催した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	いずれの観点からも十分な成果をあげ、時宜を得たテーマ設定、展示手法の工夫等により、来館者から高い満足度が得られた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	前年度同様、定期的に企画展・特別展を実施することができ、展示内容、展示構成、展示手法ともに向上発展を遂げていることから「順調」と判定した。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6321

（様式 1）

業務実績書

研№.75

中期計画の項目	６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	飛鳥資料館における展示公開（(3)－②）

【事業概要】

飛鳥資料館第１、第２展示室の常設展示の維持管理を行うとともに、展示の手直しを適宜行う。特別展を春秋の２回開催するとともに企画展、講演会を開催する。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　石橋茂登

【スタッフ】　丹羽崇史（学芸室研究員）、成田　聖（前学芸室任期付研究員）

【主な成果】

(1) 第 1 展示室の展示内容を部分的に改装し、特別陳列室の内装を全面的に改装。重量石像物の床補強を実施した。
(2) 第 3 回写真コンテスト「神々の山―大和三山のある風景―」（作品展示 25 年 3 月 9 日～4 月 14 日）を開催した。
(3) 春期特別展「飛鳥寺 2013」を 25 年 4 月 26 日～6 月 2 日に開催し、記念講演会を 25 年 5 月 18 日に開催した。
(4) 春のミニ展示「坂田武嗣「風景の記憶」」を 25 年 5 月 1 日～6 月 30 日に開催した。
(5) 夏期企画展「飛鳥・藤原を考古科学する」を 25 年 8 月 1 日～9 月 1 日に開催し、ギャラリートークを 25 年 8 月 4 日、8 月 18 日に実施した。
(6) 第 4 回写真コンテスト「飛鳥川の導」（作品展示 25 年 9 月 7 日～10 月 6 日）を開催した。
(7) 明日香村活性化事業「飛鳥光の回廊」に参加した。（25 年 9 月 14 日開催、15 日は台風のため中止）
(8) ミニ企画展 「日光男体山のかがやき–山岳信仰奉賽鏡の世界–」を 25 年 9 月 10 日～9 月 16 日に開催した。
(9) 秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」を 25 年 10 月 18 日～12 月 1 日に開催し、記念講演会を 25 年 11 月 16 日に開催した。
(10)「発見 30 周年記念　キトラ古墳壁画特別公開」を 26 年 1 月 17 日～1 月 26 日に開催した。
(11) 冬期企画展「飛鳥の考古学 2013」を 26 年 2 月 14 日～3 月 16 日に開催した。

【年度実績概要】

(1) 第 1 展示室の展示内容を部分的に改装し、特別陳列室の内装を全面的に改装。重量石像物の床補強を実施。
(2)「神々の山―大和三山のある風景―」をテーマに募集した作品を展示し優秀作品を選出した。
(3) 飛鳥寺関係の研究を展示した。佐川正敏氏（東北学院大学）を講師に記念講演会を開催した。
(4) 奈良・飛鳥を題材とする坂田武嗣氏のイラストをロビーにて展示した。
(5) 奈文研埋蔵文化財センターの研究成果を展示した。ギャラリートークを 2 回実施した。
(6)「飛鳥川の導」をテーマに募集した作品を展示し優秀作品を選出した。第 1 回～第 4 回の優秀作を収録した写真集を刊行した。
(7) 明日香村活性化事業の夜間照明イベントに参加し、前庭にろうそくを並べ夜間開館した。
(8) 日光男体山出土の青銅鏡 154 面を展示した。
(9) 竹内街道 1400 年と飛鳥藤原宮跡発掘調査部 40 周年を記念して同調査部の成果を主に道に関する調査研究成果を展示した。近江俊秀氏（文化庁）を講師に記念講演会を開催した。
(10) キトラ古墳壁画発見 30 周年を記念して文化庁と共催で壁画特別公開を開催した。
(11) 昨年度の飛鳥地域の発掘成果を中心に展示した。奈良県立橿原考古学研究所、明日香村と共催した。

【実績値】

飛鳥資料館　平成 25 年度来館者数 41,736 名（目標値：48,800 名）　特別展開催数 2 回、企画展等開催数 7 回（企画展 2 回、その他 5 回）、講演会等開催 4 回（講演会 2 回、ギャラリートーク 2 回）、図録類刊行数 7 冊(①～⑦)

（参考値）

(2) 応募作品 210 点。作品展示期間 25 年 3 月 9 日～4 月 14 日（32 日間）。入館者 3,059 名。
(3) 25 年 4 月 26 日～6 月 2 日（38 日間）。入館者 9,406 名。講演会 1 回（25 年 5 月 18 日、参加 71 名）。図録 1 冊（①）。
(4) 25 年 5 月 1 日～6 月 30 日（57 日間）。入館者 2,648 名。
(5) 25 年 8 月 1 日～9 月 1 日（28 日間）。入館者 2,633 名。ギャラリートーク 2 回（25 年 8 月 4 日、8 月 18 日）。カタログ 1 冊（②）。
(6) 応募作品 162 点。作品展示期間 25 年 9 月 7 日～10 月 6 日（26 日間）。入館者 3,359 名。写真集 1 冊（③）。
(7) 25 年 9 月 14 日開催（1 日）。入館者 399 名。
(8) 25 年 9 月 10 日～9 月 16 日（7 日間）。入館者 1,046 名。研究図録 1 冊（④）。
(9) 25 年 10 月 18 日～12 月 1 日（45 日間）。入館者 9,132 名。記念講演会 1 回（25 年 11 月 16 日、参加 112 名）。図録 1 冊（⑤）。
(10) 26 年 1 月 17 日～1 月 26 日（10 日間）。入館者 4,008 名。カタログ 1 冊（⑥）。
(11) 26 年 2 月 14 日～3 月 16 日（27 日間）。入館者 1,851 名。カタログ 1 冊（⑦）。

【備考】

①飛鳥資料館図録第 58 冊『飛鳥寺 2013』2013.4。
②飛鳥資料館研究図録第 17 冊『日光二荒山神社中宮祠宝物館蔵鏡図録』2014.3。
③飛鳥資料館写真コンテスト入賞者作品集(第 1 回～第 4 回)『飛鳥－知られざる情景－』2014.3。
④飛鳥資料館カタログ第 28 冊『飛鳥・藤原を考古科学する』2013.8。
⑤飛鳥資料館図録第 59 冊『飛鳥・藤原京への道』2013.10。
⑥飛鳥資料館カタログ第 29 冊『キトラ古墳壁画発見 30 周年記念　白虎　玄武　朱雀　青龍』2014.1。
⑦飛鳥資料館カタログ第 30 冊『飛鳥の考古学 2013』2014.2。

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6321

自己点検評価調書

研№.75

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	正確性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：考古学、保存科学など諸分野の最新の調査、研究の成果を迅速に展示に生かした。
独創性：キトラ古墳壁画、飛鳥藤原地区に関する発掘成果といった奈文研の調査研究の蓄積を生かした、他ではできない展示を実施した。
発展性：特別展、企画展以外の展示やイベントも積極的に実施し、多彩な事業への可能性を示した。
正確性：奈文研の調査研究活動成果をベースとして展示を構築することで正確かつ精緻な内容となった。
継続性：第１展示室を中心とした改装を継続し改善を続けている。キトラ古墳壁画の公開を継続している。

２．定量的評価

観点	来館者数	特別展開催数	企画展等 開催数	講演会等 開催数	図録類刊行数	
判定	B	A	S	A	S	

判定理由
来館者数：来館者数は目標値の 85.5%となった。
特別展開催数：目標値（年２回）を達成した。
企画展等開催数：企画展等開催目標値（年１回以上）に対し７回開催した。
講演会等開催数：目標（年２回）を達成した。
図録類刊行数：目標（年２冊以上）に対し７冊刊行した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	いずれの観点からも十分な成果をあげることができた。次年度は第１展示室の改装を継続し、各種展示と出版物に関しても精選して充実したわかりやすい内容を実現するよう取り組む。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	来館者数以外はＡ以上の評価であり、順調に推移していると判断した。キトラ古墳壁画の特別公開に頼らず入館者を呼べる展示、企画を検討していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6331

（様式 1）

業務実績書

研№.76

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	藤原宮跡資料室における展示公開（(3)－③）

【事業概要】

都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）庁舎に併設された藤原宮跡資料室及びエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実を図る。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】

清野孝之(考古第三研究室長)、今井晃樹・降幡順子・山本崇・黒坂貴裕・森川実(以上、都城発掘調査部主任研究員)、廣瀬覚・和田一之輔・諫早直人(以上、考古第一研究室研究員)、若杉智宏・大澤正吾(以上、考古第二研究室研究員)、森先一貴(考古第三研究室研究員)、大林潤(遺構研究室研究員)、桑田訓也(史料研究室研究員)、荒田敬介(考古第二研究室アソシエイトフェロー)、南部裕樹(考古第三研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫(写真室再雇用職員)、栗山雅夫(写真室技術職員)

【主な成果】

常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスの速報展示コーナーでは、最新の調査研究成果の公開を実施した。その他、適宜展示解説や各地の博物館への文化財貸与を行った。

【年度実績概要】

・都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）庁舎に併設された藤原宮跡資料室において、通年にわたり常設展示を実施した。

・申請のあった団体などへは展示説明、藤原宮跡及び発掘調査現場の案内などの応対を行った。

・庁舎エントランスに設置した発掘調査成果の速報展示コーナーにおいては、夏季速報展として「東方官衙北地区の調査」及び整理分析が進んだ「藤原宮朝堂院東第６堂の瓦」と「石神遺跡の銅製人形」の各展示を行った。その後、25 年 10 月 15 日～12 月 27 日にかけて、飛鳥藤原宮跡発掘調査部設立 40 周年を記念する「写真でふりかえる発掘調査 40 年」の展示を実施し、解説パンフレットを発行した。また、「東日本大震災復興調査における奈文研の取り組み」のパネル展示を行った。

・橿原市の解説ボランティアによる土日開館を行った。

・各地の博物館等の要請に応じ、当調査部保管遺物ならびに模型・模造品などの貸与を行った。



「写真でふりかえる発掘調査 40 年」の展示風景

【実績値】

入室者数：7,869 名（目標値 4,509 名）、開室日数：356 日
刊行物数：１件①
報道等数：3 件②
（参考値）
各種団体などへの展示説明：10 件
他機関への所蔵品貸出：192 件

【備考】

①奈良文化財研究所「写真でふりかえる発掘調査 40 年」2013.10
②玉田芳英「飛鳥・藤原 40 年の春秋」『奈文研ニュース』No.50、2013.9

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6331

自己点検評価調書

研No.76

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：調査研究成果を常設展示と速報展示などにより公開し、社会からの多様な要望に対応した。
独創性：調査機関ならではの豊富な実物展示、発掘調査に関連した展示に独創性がある。
発展性：従来の常設展、速報展示に加えて、創設 40 周年にあわせてこれまでの遺跡写真をパネルにして公開した。
継続性：常設展示及び速報展示を通年で公開し、研究の進展にあわせて内容を更新している。

２．定量的評価

観点	入室者数	開室日数	刊行物数	報道等数		
判定	S	A	A	A		

判定理由
入室者数：　展示の更新や工夫を行い、目標値 4,509 人を上回った。
開室日数：　土日開室を継続し、昨年度と同様の開室日数を維持した。
刊行物数：　予定通りの刊行ができた。
報道等数：　展示の広報を 3 件実施した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	昨年度に引き続き速報展示を随時変更するなどし、調査成果の速報性を維持している。一部、展示内容を更新し、発展性を示した。また、昨年度に引き続き土日開館の実施により、入室者数及び開館日数を維持し、調査研究成果に公表に大いに貢献した。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	土日開館を継続し、常設展示及び速報展示なども充実した内容で継続的に実施しているので、順調と判断した。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6411

（様式 1）

業務実績書

研№.77

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力（(4)－①）

【事業概要】

文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力する。

【担当部課】	研究支援推進部研究支援課	【プロジェクト責任者】	研究支援課長　今西 康益

【スタッフ】

江川　正（宮跡等活用支援係長）、三本松 俊徳（宮跡等活用支援係係員）

【主な成果】

(1) 文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力し、文化庁の平城宮跡等整備事業に協力した。

【年度実績概要】

(1)文化庁平城宮跡等管理事務所の文化庁施設の公開・活用等に対し、以下のとおり積極的に協力した。

○文化庁施設の公開・活用に対して利用申込者との連絡調整

○文化庁が実施する各種行事及び宮跡利用者による各種行事、発掘調査等に係る連絡調整

・関係機関等視察対応（文部科学省・文化庁等）

○宮跡内施設（建物、諸設備、工作物等）の整備、維持管理及び修繕等に係る文化庁への助言

・朱雀門消火設備工事
・既設水路等清掃
・東院庭園池清掃
・第一次大極殿免震装置点検
・壬生門汚損清掃
・既設水路補修

○住民等からの要望や意見の文化庁への取次ぎ

・平城宮跡への来訪者、利用者、近隣住民等からの防火、防犯、植生及び運営等の意見



朱雀門消火設備工事完了検査

【実績値】

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6411

自己点検評価調書

研No.77

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応したため。
独創性：宮跡内建物、工作物等の整備、維持管理に寄与したため。
発展性：専門知識を生かした協力による人的投資の効率性は十分に成果が認められた。
継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制を行えたため。

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等に積極的に協力し、文化庁の要請に応じ、文化庁施設の整備、維持管理及び修繕等に対して適時、的確に対応している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・利用等の連絡、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備、維持管理及び修繕等の相談に対して適切に対応できている。文化庁施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対して現況に基づいた維持管理の提案、助言協力等が適切に行われている。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6412

（様式 1）

業務実績書

研№.78

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力（(4)－①）

【事業概要】

文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力、及び国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】

小池伸彦・芝 康次郎・庄田慎矢・神野 恵・青木 敬・小田裕樹・渡辺丈彦・石田由紀子・川畑 純・中川二美・渡邉晃宏・馬場 基・山本祥隆・箱崎和久・番 光・海野 聡・松下迪生・井上麻香・中島咲紀・村山聡子・山本 崇・黒坂貴裕・大林 潤・前川 歩（以上、都城発掘調査部）、林 良彦・鈴木智大・平澤 毅・中島義晴（以上、文化遺産部）、小澤 毅・高妻洋成・脇谷草一郎・児島大輔（以上、埋蔵文化財センター）、上田浩司・田中康成・今西康益・江川 正・三本松俊徳（以上、研究支援推進部）

【主な成果】

(1)第一次大極殿院の建物復原にあたり、所内検討会及び有識者を招聘した検討会を開催し、記録集を作成した。
(2)平城宮跡の整備設計・工事等に対して、設計条件の整理、提出資料に対する助言、立会調査等を実施した。
(3)文化庁や国土交通省が開催する会議等に対して、専門的・技術的な援助・助言を行った。

【年度実績概要】

(1)第一次大極殿院の建物復原
・所内検討会を 11 回開催し、発掘遺構や現存建築などの資料収集と整理を行った。
・有識者を招聘した検討会を 2 回開催し、助言を得て復原設計に反映させた。
・上記の検討会の記録作成に向けて、活字化した発表録音の校正を行うとともに、印刷原稿の作成などを行った。

(2)平城宮跡の整備設計・工事等に対する設計条件の整理、助言・調査等
・過去の整備の設計図書の他、発掘遺構の標高など、設計条件の整理を行って適宜情報を提供した。
・文化庁記念物課が行う史跡等における歴史的建造物等の復元の取り扱いに関する専門委員会（「復元検討委員会」）に国土交通省が提出する資料作成について助言等を行った。
・平城宮跡内の整備工事にあたり、発掘調査や立会調査を行って記録を作成した。

(3)国土交通省や文化庁が開催する以下の会議等に出席し、専門的・技術的な援助・助言を行った。
・国土交通省が開催する「平城宮跡第一次大極殿院建造物復原整備検討委員会」
　第一次大極殿院の建物復原検討成果を発表した。
・文化庁が開催する「平城宮跡保存・活用連絡協議会」
　奈良県・奈良市・国土交通省・文化庁の担当職員等と平城宮跡の保存と活用について協議した。
・文化庁が開催する「平城宮跡遺構展示館の露出展示改善に関する検討委員会」
　有識者を招聘して行う上記会議に出席し、それに関する情報収集や専門的見地からの助言を行った。

【実績値】

(1)検討会開催数　13 回　（第一次大極殿院建物復原に関する所内検討会開催数 11 回、有識者招聘検討会開催数 2 回）
　記録集刊行　2 冊(①、②)
（参考値）
(2)平城宮跡内の整備工事にともなう立会調査出動件数；15 件 63 日以上。
(3)文化庁や国土交通省が開催する会議等への出席；４回

【備考】

①・②『第一次大極殿院復原検討会記録７』・『同８』（内部資料）2014.3

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6412

自己点検評価調書

研No.78

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性	独創性	発展性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：第一次大極殿院の建物復原設計では必要な検討を適時に行い、年度内の検討成果を記録集としてまとめることができた。文化庁や国土交通省の各種要請に対し、的確に対応することができた。
継続性：第一次大極殿院の建物復原に関する所内検討会を継続的に開催することができた。
正確性：第一次大極殿院の建物復原に関する検討会の内容は、精緻な分析に基づいて行うことができた。
文化庁や国土交通省の各種要請に対しても、正確に対応することができた。
独創性：第一次大極殿院の建物復原検討会では精緻な分析に基づきつつ、他例のない遺構に対して新たな案を一定の根拠にもとづいて検討することができた。
発展性：復原建物の検討会で行った検討手法は、全国の遺跡整備における建物復元も応用できる。
今後の平城宮跡の整備・活用に向けて、次のステップに進むための着実な成果をあげることができた。

2．定量的評価

観点	検討会開催数	記録集刊行				
判定	A	A				

判定理由
検討会開催数：研究の進捗にもとづいて適切に検討会を開催することができた。
記録数：当初計画した検討会記録集2冊を刊行することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	復原検討会については、短期間に多視点からの濃密な研究・検討を重ね、概ね復原原案（奈良時代の建物形態がどうであったかの復原案）の大要を示すことができた。今後の実施設計に向けてさらなる細部の設計や検討を進めていきたい。 平城宮跡の整備工事に対する対応も的確に行い、遺跡の保護も十分に行うことができた。次年度も、今年度同様に細心の注意を払いながらおこなってゆきたい。 文化庁や国土交通省からの各種要請すべてに対応することができた。次年度もさらに連携を深めながら、平城宮跡の保護と整備・活用に向けて取り組んでいきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	第一次大極殿院の建物復原研究は、これまでの朱雀門や第一次大極殿、東院庭園などの復原検討と比較しても、すでにそれらをしのぐ調査研究を重ねており、順調に検討が行われている。次年度は一般的な設計図には現れない細部、あるいは彩色・金具といった装飾についても具体的な復原検討を行っていきたい。 文化庁や国土交通省からの各種の要請や会議、平城宮跡の整備工事に伴う立会調査に対しても、これまで同様、的確に対応し、平城宮跡の保存・整備・活用に尽力していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6413

（様式 1）

業務実績書

研№.79

中期計画の項目	６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力((4)－①)

【事業概要】
国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設とその展示に対して、助言・協力を行う。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　石橋茂登

【スタッフ】
丹羽崇史(学芸室研究員)、成田　聖(前学芸室任期付研究員)

【主な成果】
(1) 国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳体験学習館の展示に資する奈文研所蔵資料一覧を作成、提示した。
(2) 断続的に担当者間で調整・協議を行った。

【年度実績概要】
(1) 国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳体験学習館の展示に資する、当研究所が所蔵する図書、出土品、映像等の資料の状況を確認した。公園事務所側からはそららの展示に関する会議や具体的な内容の検討依頼等はなかったため、展示内容についての検討は次年度以降の課題である。
(2) 調整会議、資料一覧に基づき、展示に関して、断続的に担当者間で調整・協議を行い、当研究所が所蔵する出土品、レプリカ、模型等の状況確認と情報共有を行い、今後の協力に備えた。



キトラ古墳出土品レプリカの一部

【実績値】
資料数　１件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6413

自己点検評価調書

研No.79

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：体験学習館展示の実施設計に必須な作業であり、当研究所による発掘調査、展示公開を公園事務所と協力して社会に還元できた。
効率性：部局間で情報を共有し、円滑に状況確認を行い、必要な資料の提供を行うことができた。
継続性：今後の体験学習館展示の計画にあたり、その基礎固めをすることができた。
正確性：調査研究の成果を反映させることができた。

2．定量的評価

観点	資料数					
判定	A					

判定理由
資料数：国営飛鳥歴史公園事務所の要求に応える詳細な資料を作成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所との調整会議は開催されなかったが、国営飛鳥歴史公園事務所の要請に対応するとともに、当研究所の調査研究、展示の成果を余すことなく、正確に提供し、それらの社会的還元を果たすことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画どおり達成している。次年度以降も積極的に協力していきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6414

業務実績書

研№.80

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力((4)－①)

【事業概要】
国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設にあたり、主に学芸に関わる部分において、専門的な見地から協力を行う。

【担当部課】	企画調整部　展示企画室	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山　洋

【スタッフ】
加藤真二（展示企画室長）、中川あや（展示企画室研究員）、渡邉淳子（展示企画室アソシエイトフェロー）

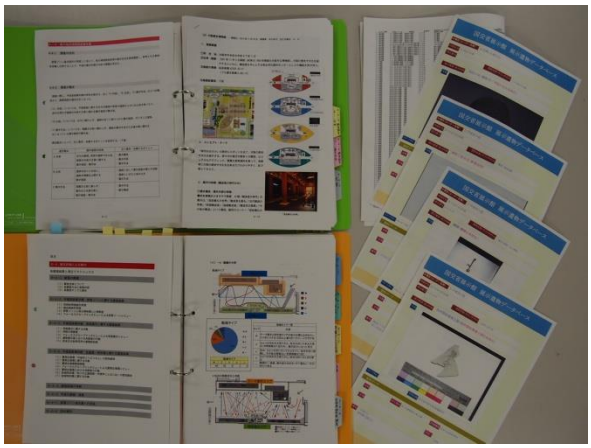
【主な成果】
(1) 平城宮跡展示館における公園案内ゾーン、ガイダンスゾーンの展示内容に関する指導ならびに必要な情報提供を行った。
(2) 平城宮跡展示館における詳覧ゾーンの基本設計の見直しを、設計業者の委託を受け、行った。
(3) 平城宮跡展示館と平城宮跡内の他施設との役割分担を検討した。

【年度実績概要】

(1) 公園案内ゾーン、ガイダンスゾーンの展示計画案の内容について専門的な見地から指導を行い、展示構成について詳覧ゾーンとのバランスや関連性について検証した。展示の設計・実施に資するため、国交省から委託された設計業者から要望のあった、映像、画像などの素材データの所在と内容を確認し、情報を提供した。

(2) 詳覧ゾーンの基本計画の見直しのために、①他の博物館施設の視察調査、②展示評価、③展示候補物のリスト化を、設計業者からの受託業務として行った。

(3) 平城宮跡展示館と既存の平城宮跡資料との役割分担を明確化した。



調査報告書ならびに展示候補物リスト（抜粋）

【実績値】
打合せ回数　10 回　　国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室・展示に関する設計業者との打合せ
論文等数　1 件
（参考値：業務受託提出資料）
①施設視察報告書　1 式（41 施設分）
②展示評価分析報告書　1 式（アンケート調査 952 件、展示評価のためのインタビュー調査 10 回、行動観察調査 4 回、フォーカスグループインタビュー２回の成果を反映）
③展示候補物リスト　1 式（225 件分）

【備考】
(2) 調査成果の掲載「平城宮跡資料館における展示評価調査と都城関連展示の現状と課題」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6(予定)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6414

自己点検評価調書

研№80

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：平成 27 年から始まる実施設計への備えとして適切な時期に、視察調査・展示評価を行うことができた。
発展性：これまでに行った協議ならびに作成し、国土交通省に提出した資料は、国交省の今後の事業の進展に大いに寄与するものである。
効率性：派遣職員を雇用し、業務の効率化を図った。

２．定量的評価

観点	打合せ回数	論文等数				
判定	A	A				

判定理由
打合せ回数：前年に増して、国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室・展示に関する設計業者との綿蜜な打合せをすることに努め、必要な内容確認、情報提供を行うことができた。
論文等数：今年度公表が必要な１件の事業について公表ができる予定である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示評価や視察調査の成果を反映した基本設計見直し新案を作成することができ、平成 27 年度の実施設計に向けて大きく前進した。次年度は、新案を一層吟味して改良するとともに、実施設計に向けて内容を詰める作業を行う必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り進んでいるため、順調と判定した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6421

業務実績書

研№81

中期計画の項目	６ 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティア事業の実施（（４）－②）

【事業概要】
平城宮跡への来訪者に奈良文化財研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化財に対する理解を深めてもらうため、 平城宮跡資料館や遺構展示館、東院庭園、朱雀門、第一次大極殿の復原建物等の案内・解説を行う平城宮跡解説ボランティアの運営を実施する。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中康成

【スタッフ】
加藤真二（展示企画室長）、中川あや（企画展示室研究員）、渡邉淳子（展示企画室アソシエイトフェロー）、松本正典（連携推進課課長補佐）

【主な成果】
高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。

【年度実績概要】

・定点解説のほか、予約及び当日受付した来場者を対象に「ツアーガイド」として宮跡内散策に同行し解説を行った。
・活動者に対しては、奈良文化財研究所が主催する専門研修及び他機関の文化財に関するボランティアガイドが解説する場に赴き臨地研修を実施した。
・活動拠点でもある平城宮跡資料館において、企画する展示ごとに展示趣旨の解説を、その都度研究所研究員によって実施した。




平城宮跡解説ボランティアによるガイド風景

【実績値】
・平城宮跡解説ボランティア登録数：１５５名

〈参考値〉
・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：９０，２５９人
・解説活動日数　３０７日
・解説活動数延べ　３，９８４人（１日あたり１３人）
・ボランティアに対する学習会等回数
　平城宮跡資料館夏期企画展示研修　１回
　〃　　秋期特別展示研修　３回
　講演形式専門研修　１回
　臨地ガイド研修　１回

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6421

自己点検評価調書

研№81

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：来訪者の様々な知識需要・必要性に対し、その場にて十分な対応ができた。
発展性：多種多様な層の来訪者へ解説ができ、その反響は大きかった。
効率性：解説に係る時間的・人的投資は効率よくできた。
継続性：年間を通して、とぎれず継続した解説者の配置を行うことができた。
正確性：研修で得た知識・経験を基に正確な情報を伝えることができた。

2．定量的評価

観点	ボランティア登録数					
判定	A					

判定理由
ボランティア登録数：ガイドに必要な人数を十分に満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ガイドに必要なボランティアを確保することができた。また登録ボランティアに対し講習等を行うことで、来訪者に対し文化財の理解を広めることに大きく貢献した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	解説するボランティアへの学習・研修機会を提供し、そのレベル向上につなげ、広報による解説受講者数の増加を図ることなど、ボランティア運営の積極的な実施ができたと考える。 今後もこのペースを維持し、奈良文化財研究所の情報発信、さらには平城宮跡の公開活用につながるよう力を注ぎたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6431

業務実績書

研№82

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加((4)－③)

【事業概要】
平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に関して、平城宮跡みまもり隊へ参加することにより、平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に寄与する。

【担当部課】	研究支援推進部研究支援課	【プロジェクト責任者】	研究支援課長　今西康益

【スタッフ】
江川　正（宮跡等活用支援係長）、三本松俊徳（宮跡等活用支援係係員）

【主な成果】
平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。

【年度実績概要】
平日は平城宮跡内を巡回し、火災や宮跡内にある看板等の毀損予防のパトロール活動を行った。月 1 回の土日のボランティア活動では、平城宮跡来訪者に防犯メッセージが書かれたティッシュペーパーの配布や声かけを行い、マナー向上や防災・防犯意識を高める活動を行う等、事務局として連絡調整を行った。
年 1 回、文化庁平城宮跡管理事務所、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所平城分室、奈良県、奈良市、所轄警察署及び所轄消防署の行政機関や NPO 法人平城宮跡サポートネットワークによる連絡会議を開催しパトロール活動の報告を行った。



平城宮跡みまもり隊出発準備風景

【実績値】

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6431

自己点検評価調書

研No.82

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：市民ボランティアと共に活動を行った。
発展性：参加者はみまもり隊員に加え一般市民も加わることもあった。
継続性：計画に従って活動を行い、連続的な社会還元が出来た。

2．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮跡内の問題事項等について、文化庁平城宮跡管理事務所、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所平城分室、奈良県、奈良市、所轄警察署及び所轄消防署の行政機関やNPO法人平城宮跡サポートネットワークと協力して問題解決に尽力した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮跡のパトロールを行い宮跡内の来訪者の安全・安心に寄与した。 今後も宮跡のパトロールを行い宮跡内の問題事項等の検証を行い、それを行政機関やNPO法人平城宮跡サポートネットワークにフィードバックして来訪者の安全・安心に努めたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6441

業務実績書

研№83

中期計画の項目	６ 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ＮＰＯ法人等への支援（（４）－④）

【事業概要】
平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、奈良文化財研究所施設を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣を行う等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中康成

【スタッフ】
松本正典（連携推進課課長補佐）

【主な成果】
ボランティア団体への支援は、その育成につながった。
平成 25 年度文化庁長官表彰において、特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワークが選ばれた。

【年度実績概要】
・「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動場所、講師の派遣、資料の提供など、積極的な活動支援を行った。
・「子ども歴史教室」を共催で実施するとともに、「平城宮跡歴史講座」、「遺跡見学会」、「平城宮跡探検隊」を後援し、年間を通して連続した支援ができた。



子ども歴史教室〈拓本づくり〉



平城宮跡探検隊〈どんぐり拾い〉

【実績値】
（参考値）
奈良文化財研究所が支援し、ボランティアが実施した主な事業名称、回数、活動場所、従事ボランティア数、参加者数
子ども歴史教室　　３回開催、平城宮跡資料館講堂・平城宮跡内、ボランティア延べ 22 名、参加者数 32 名
平城宮跡歴史講座（講演会）　３回開催、平城宮跡資料館講堂、ボランティア延べ 45 名，参加者数 542 名
遺跡見学会　　２回開催、ボランティア延べ 10 名、参加者数 18 名（講師派遣）
平城宮跡探検隊　　１回開催　平城宮跡内、ボランティア延べ 13 名、参加者数 65 名
「萬葉集」勉強会　　１２回開催、平城宮跡資料館小講堂、ボランティア延べ 207 名，参加者数延べ 219 名
「続日本紀」読書会　　１２回開催、平城宮跡資料館小講堂、ボランティア延べ 181 名，参加者数延べ 181 名

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6441

自己点検評価調書

研№83

１．定性的評価

観点	継続性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			

判定理由
継続性：支援事業は、継続的に実施された。
効率性：奈良文化財研究所の施設を有効かつ効果的に使用し、参加者への広報・成果発表につながった。
発展性：子供達等の将来につながる好影響のある体験学習が実施された。

２．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	子ども歴史教室，平城宮跡探検隊、平城宮跡歴史文化講座等への講師派遣、活動場所提供等の支援を行い、活動の活性化に貢献した。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ボランティア団体の活動要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。 今後も各種ボランティ育成に寄与していきたい

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7111

（様式 1）

業務実績書

研№84

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言（(1)―①）		
【事業概要】 地方公共団体等の実施する文化財の収集、保管、展示に対して援助するために、指導助言を行う。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長　田中　淳
【スタッフ】 田中淳（部長）、山梨絵美子（副部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、綿田稔（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、津田徹英（文化形成研究室長）、塩谷純（近現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（主任研究員）、皿井舞（主任研究員）			
【主な成果】 各研究員の専門的知識を活かして、地方公共団体等の行う文化財の収集、保存、展示に対して指導、助言を行った。			
【年度実績概要】 平成 25 年度は以下の組織等において指導助言を行った。 ・千葉県美術館資料審査委員会　1 件 ・府中市美術品収集選定委員会委員　1 件 ・岩手県立美術館美術品収集評価委員会委員　1 件 ・佐倉市立美術館運営協議会委員　1 件 ・公益信託　倫雅美術奨励基金運営委員　1 件 ・茨城県近代美術館美術資料審査委員会委員　1 件 ・愛知県美術館美術品収集委員会委員　1 件 ・小杉放庵記念日光美術館評議員　3 件 ・秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価審査委員会　1 件 ・秋田県立美術館アドバイザー会議　2 件 ・迎賓館の改修に関する懇談会委員　3 件 ・芸術文化振興基金運営委員会美術専門委員会専門委員　2 件 ・豊島区美術品等収集・活用委員会　3 件 ・雪舟研究会（山口県立美術館）への助言　2 件 ・『真宗の美』（仮称、福井県立美術館）への助言　1 件 ・『黒田清輝展』（長野県信濃美術館）の展示指導　1 件			
【実績値】 指導助言件数：25 件			
【備考】			

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7111

自己点検評価調書

研No.84

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：必要とされる情報を速やかに提供することができた。
継続性：多くの組織から継続的な依頼を得ている。
正確性：正確な情報を提供することができた。

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					

判定理由
指導助言件数：十分な指導、助言を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	多くの組織に対し、定性的に優れた指導助言を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	定性的にも定量的にも高い水準で実施することができたので、順調と判断した。 次年度も他機関の活動に資する指導助言を行って行きたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7112

（様式 1）

業務実績書

研№85

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言（(1)－①）

【事業概要】

地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・活用などの事業に対し助言を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	副所長（部長兼務）　石崎武志

【スタッフ】

高桑いづみ（無形文化財研究室長）、飯島満（音声・映像記録研究室長）、久保田裕道（主任研究員）、今石みぎわ（研究員）、菊池理予（研究員）

【主な成果】

平成 25 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁文化財部伝統文化課に対する助言を始め、9 件の助言を実施した。

【年度実績概要】

平成 25 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。

・伝統音楽普及促進支援事業（文化庁）への助言　1 件
・新進芸術家育成事業（文化庁）への助言　1 件
・日本芸術文化振興会への助言　3 件
・岡山県高梁市への助言　3 件
・早稲田大学演劇博物館への助言　1 件

【実績値】

指導助言件数　　9 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7112

自己点検評価調書

研No.85

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：岡山県高梁市に対しては同市で行われている民俗芸能の無形民俗文化財指定へ向けての助言、また演劇博物館に対しては25年12月に開催された『豊竹山城少掾展』に係る助言など、様々な分野の無形文化遺産に関する助言に的確に対応できた。
継続性：多くの委員を継続的に委嘱されており、助言の継続性が評価されている。
正確性：各状況に応じた的確な助言ができた。

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					

判定理由
指導助言件数：例年と同様、十分な助言を実施できたと考えている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものと考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通り、多様な助言依頼に対応できており、計画は順調に達成できた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7113

業務実績書

研№86

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言（(1)－①）

【事業概要】
地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田　健

【スタッフ】
中山俊介（近代文化遺産研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、佐野千絵（保存科学研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、早川泰弘（分析科学研究室長）、犬塚将英（主任研究員）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、山下好彦（文化遺産国際協力センター任期付研究員）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、大河原典子（客員研究員、日本画家）

【主な成果】
本年度は、件数として 44 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだものもある。

【年度実績概要】
・各地の国宝、史跡や重要文化財の保存や修復に関する指導助言を行った。
国宝高松塚古墳壁画、特別史跡・キトラ古墳壁画、厳島神社反橋・荒胡子神社、国宝臼杵磨崖仏、史跡屋形古墳群などうきは市内装飾古墳群、日光東照宮陽明門、重要文化財菅尾磨崖仏、平等院阿弥陀堂（鳳凰堂）、史跡竹原古墳、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡韮山反射炉、史跡萩反射炉、史跡原爆ドーム、史跡石巻市石井閘門、東大寺法華堂安置仏像群及び同寺戒壇堂塑像四天王立像、鎌倉大仏、国宝瑞巌寺本堂、重要文化財通潤橋、小高磨崖仏、京都市平安京跡出土資料、臼杵市内キリシタン遺跡、大山崎町宝積寺石造塔、大牟田市・萩ノ尾古墳、広川町石人山古墳、八千代市長福寺五輪塔、長崎市出島遺跡、双葉町清戸迫横穴、史跡小田良古墳、絵金屏風、東京都指定文化財候補地の史跡整備、小石川後楽園得仁堂内螺鈿漆机、一宮市博物館所蔵仁王胴具足、東京大学史料編纂所「落合左平次道次背旗」、鹿嶋市龍蔵院所蔵両界曼荼羅、国宝薬師寺東塔、重要文化財清水寺奥院、石清水八幡宮、宗像市田熊石畑遺跡・桜京古墳、富山市北代遺跡等



生物被害の軽減に対する調査（臼杵磨崖仏）

【実績値】
指導助言件数　：　44 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7113

自己点検評価調書

研No.86

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：自然災害による文化財の被災、施設の老朽化、新たな施設の建設、修理事業等、様々な状況で発生する保存修復の必要性に応じて、文化財の所有者である地方公共団体等に対して、適宜必要な指導助言を実施した。
継続性及び正確性:文化財の保存あるいは修理に関する指導助言は1回で終了するものではなく、継続して行う事で、正確さも増し、正確な指導助言が可能となる。

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					

判定理由
指導助言件数：十分な数の指導助言を実施したと言える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国宝や重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は、件数は44件であった。指導助言の内容は多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだものもある。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努める。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7114

業務実績書

研№87

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言（（１）－①）

【事業概要】
地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助・助言するために、文化財の虫菌害に関する調査を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	生物科学研究室長　　木川りか

【スタッフ】
佐藤嘉則（研究員）、佐野千絵（保存科学研究室長）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、小峰幸夫（客員研究員・(公財) 文化財虫菌害研究所研究員）

【主な成果】
本年度は、対応件数が 33 件であり、指導助言先も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ場合もあった。今後も継続して指導助言を実施し、適正に文化財の虫菌害対策が実施されるように努めるとともに、新たな知見を得ながら的確な指導助言が行えるように努力する。

【年度実績概要】
公立・私立の美術館・博物館、教育委員会、社寺等に対して、文化財の虫菌害対策に関わる指導助言を実施した（対応件数 33 件)。
相談や問い合わせは、一年を通してほぼ継続的にある。相談や問い合わせの内容としては、実際に害虫やカビの被害が出たときの対処法に対する相談や、文化財害虫、浮遊菌などの状況の調査法に関する問い合わせが多い。また、作品や資料を保存するうえで、生物被害を受けないような適正な保存環境にするための相談もある。
現地を見て詳しい状況を把握しないと対応が難しいと考えられる場合は、出張して調査のうえ指導助言を実施した。そのほか、先方の担当者に、状況がわかる資料をもってきてもらい、対面で相談を受ける場合と、資料を郵送や、メールなどであらかじめ送付してもらい、詳しい状況を確認したうえで、電話で相談を受ける場合がある。



収蔵環境における浮遊菌数などの調査の例

【実績値】
指導助言件数　：　33 件

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7114

自己点検評価調書

研No.87

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：文化財の所有者である地方公共団体等に対して、適宜必要な指導助言を実施した。
発展性：問い合わせの内容のなかには、将来にわたる問題点や、研究が必要な課題として認識できるものが含まれ、今後の研究の発展に資することができた。
効率性：生物劣化関係の問い合わせは多く、微生物の調査や試験には、相当な時間と労力を要するが、現在のスタッフで最大限の成果を達成したと考えているので、成果が認められる。
継続性：毎年さまざまな問い合わせや依頼があるが、それぞれに現場で重要な課題であることを認識したうえで、継続的に対応をしている。
正確性：助言に際しては、現地を見る、あるいは不可能な場合にも画像や図面などを通して、状況をできる限り詳しく伝えてもらったうえで、最も適した助言ができるように努力をしている。

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					

判定理由
指導助言件数：十分な数の指導助言を実施したと言える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	依頼に応じて適切な指導助言を実施したと言える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財の虫菌害はいろいろな場面で突然発生することが多いため、指導助言先も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだものもある。今後も継続して指導助言を実施し、適正に文化財の虫菌害対策が実施されるように努めるとともに、新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるようにする。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7115

業務実績書

研№88

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言（（１）－①）

【事業概要】
地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助するために、文化財の材質・構造に関する調査・助言を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	分析科学研究室長　早川泰弘

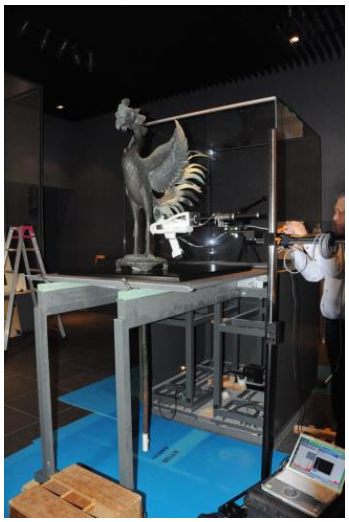
【スタッフ】
吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）

【主な成果】
平成 25 年度は、蛍光Ｘ線分析やＸ線回折分析による材質調査、Ｘ線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。

【年度実績概要】
平成 25 年度に実施した文化財の材質・構造に関する調査・助言は以下のとおりである。

(1)材質調査（7 件）
・漆工品（出光美術館、25 年 5 月）
・建造物飾金具類 38 点（平等院、25 年 5 月～8 月）
・明治期絵図 3 資料（群馬県立文書館、25 年 6 月）
・日本画（東京藝術大学、25 年 6 月）
・日本画顔料（平等院、25 年 6 月）
・金属製品（平等院、25 年 6 月～10 月）
・日本画 2 資料（宮内庁三の丸尚蔵館、25 年 8 月～10 月）

(2) 構造調査（6 件）
・仏像（大津市歴史博物館、25 年 6 月）
・鎧（一宮市博物館、25 年 6 月～8 月）
・桐油蒔絵板壁（日光東照宮、25 年 8 月～26 年 3 月）
・冑（東京国立博物館、26 年 2 月）
・仏像（文化庁、26 年 2 月）
・鉄斧、鉄鉇（東京国立博物館、2014.3）



金属製品の材質調査（平等院、2013.10）

【実績値】
調査助言件数　13 件

【備考】
上記の材質・構造調査について、調査終了後には全て調査報告書を依頼者及び作品所蔵者に提出している。

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7115

自己点検評価調書

研No.88

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：文化財の所有者である地方公共団体等に対して、的確な調査・助言を実施した。
継続性及び正確性：文化財の保存・修理・活用等に関して行われる調査・助言は、保存・展示環境等の変化に応じて継続的に実施することが必要な場合もあり、客観的な正確さが求められる。

2．定量的評価

観点	調査助言件数					
判定	A					

判定理由
調査助言件数：例年と同様、必要かつ十分な調査・助言を実施することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して、文化財の材質・構造に関する調査・助言を行った。非破壊・非接触の科学的調査機器を主として活用し、調査対象の文化財を所蔵する博物館・美術館あるいは社寺等での調査を実施したケースも多い。多様な調査・助言への依頼に対し、適切な機器を活用し、的確に対応することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査・助言の依頼内容は多岐にわたり、1件の依頼に多数の資料が含まれているなど、長期間にわたる調査が必要な場合も多い。博物館・美術館あるいは社寺等での調査を実施する際には、機材の輸送や現場で予期しない困難に直面することも少なくない。より高度な調査依頼にも対応できるように、一層の向上を図る。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7116

（様式 1）

業務実績書

研№89

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境に関する調査・助言（(1)－①）

【事業概要】

文化財施設による国宝･重要文化財などの展示・収蔵・借用に係る館内環境調査を行い、報告書を作成・提出する。また、文化財を扱う施設からの保存環境等に関する相談に対して、必要な援助や助言を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存科学研究室長　佐野千絵

【スタッフ】

吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、林美木子（研究補佐員）

【主な成果】

国指定品の収蔵、展示を予定する 35 館を対象とした環境調査を行い、報告書を作成した。また、全国の多くの文化財施設などからの保存環境に関する相談に対して、必要な対応を行った。

【年度実績概要】

平成 25 年度は、次の 35 館に対して環境調査を行い、計 37 通の報告書を作成・提出した。

京都国立近代美術館、新潟県立万代島美術館、五島美術館、八幡市立松花堂庭園・松花堂美術館、北九州市立美術館、長野県信濃美術館、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、埼玉県立さきたま史跡の博物館、石水博物館、熊谷市立熊谷図書館、名古屋城総合事務所、朝霞市博物館、宇都宮美術館、樂美術館、久能山東照宮、逸翁美術館、足利市立美術館、静岡市立登呂博物館、中野市立博物館、安芸高田市歴史民俗博物館、福井県陶芸館、市立岡谷美術考古館、千葉県立中央博物館、松江歴史館、佐野美術館、横浜美術館、長崎歴史文化博物館、東京都美術館、霊山歴史館、板橋区立美術館、郵政博物館、福井県立歴史博物館、あべのハルカス美術館、渋谷区立松濤美術館、下関市立美術館

また、全国の博物館、美術館、社寺、その他文化財収蔵施設の保存環境、及び新築・施設改修・増築などの相談に対して指導助言を行い、必要に応じた現地調査なども適宜行った。

【実績値】

指導助言件数：341 件（施設数 100 館）

（参考値）

環境調査報告書作成数：37 通

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7116

自己点検評価調書

研No.89

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：依頼や相談に応じて、適宜必要な対応を行った。
継続性：必要性を判断して調査や指導助言を継続して行い、また施設が独自に適切な環境管理が行えるよう援助も行った。
正確性：適切な方法による環境測定や評価を行い、客観的な観点からの報告書を作製した。また文化財施設からの求めに応じ、適切な指導助言を行った。

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					

判定理由
指導助言件数：依頼や相談のあった施設に対して、全て必要十分な指導助言を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国指定品の展示・収蔵・借用に係る環境調査報告書については、資料を守るという観点を第一に、客観的な調査結果に基づいて作成した。保存環境に関する相談に対しては、施設の立地や設備、管理体制なども勘案しながら、必要かつ、現実的、効率的な改善に資するための指導助言や援助を行った。今後もこの業務を継続し、個別対応のみではなく、得られた経験や知見を保存環境に関する研究にも活かしていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全ての要請に応じて、十分な対応を行い、安全な文化財の保存と展示に資することが出来た。今後も、多岐に渡る保存環境の相談、また新たな技術や環境変化によって生じうる未知の問題にも適切に対応できるよう、情報収集と研鑽に努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7117

（様式 1）

業務実績書

研№.90

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助（(1)－①）

【事業概要】

特別史跡平城宮跡内の非国有地や隣接地、ならびに平城京内の寺院跡等の重点地区における小規模開発に対し、奈良時代を中心とした各時代の土地利用の実態把握と、現地表面からの遺構の深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施する。また、平城京内の寺院跡等の重点地区における発掘調査に及ばない程度の小規模開発に対し、開発による遺構の破壊の有無、あるいは現地表面からの遺構の深度などを確認する目的で立会調査を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】

小池伸彦(考古第一研究室長)、芝 康次郎(考古第一研究室研究員)、庄田慎矢(考古第一研究室研究員)、神野 恵(都城発掘調査部主任研究員)、青木 敬(考古第二研究室研究員)、小田裕樹(考古第二研究室研究員)、渡辺丈彦(都城発掘調査部主任研究員)、石田由紀子(考古第三研究室研究員)、川畑 純(考古第三研究室研究員)、渡邉晃宏(史料研究室長)、馬場 基(都城発掘調査部主任研究員)、山本祥隆(史料研究室研究員)、箱崎和久(遺構研究室長)、番 光(遺構研究室研究員)、海野 聡(遺構研究室研究員)、松下迪生(遺構研究室アソシエイトフェロー)、中村一郎(写真室主任)、栗山雅夫(写真室技術職員)、鎌倉　綾（写真室技能補佐員）

【主な成果】

対応した計 7 件の発掘調査は、主として個人住宅等の建設に伴う事前調査で、緊急性を要する調査に効率よく対応し、平城宮跡及びその隣接地、あるいは平城京の寺院跡などについての基礎資料を継続的に蓄積することができた。また、対応した立会調査は、当該地区における小規模開発に伴って、計 7 件に的確に対応し、当初の目的を達することができた。

【年度実績概要】

・発掘調査の概要

特別史跡平城宮跡に隣接する平城京域の発掘調査への援助・助言は計 7 件あり、そのいずれもが開発行為や特別史跡内の現状変更（個人住宅等の建設）に伴う事前の発掘調査である。発掘調査の総面積は 585 ㎡、調査期間は 25 年 4 月 1 日～26 年 2 月 20 日で、延べ 72 日に及ぶ。その概略を下表に示す。

このうち第 523 次調査は、過去の調査によって瓦窯が発見されていた場所に隣接する土地で、擁壁工事に伴う厳重立会を行ったところ、瓦窯が発見されたため緊急発掘調査に切り替えて対応したものである。瓦窯は 3 基あり、いずれも登窯式で遺存状態が良好であったが、破壊は免れず、工事日程にあわせざるを得なかったため、最大限の情報を収集する記録保存の手法に徹した調査を行った。

・立会調査の概要

立会調査は、興福寺旧境内、薬師寺旧境内、西大寺旧境内、法華寺旧境内（平城宮跡周辺）などの重点地区において、電柱の立柱、ガス管埋設など、半日程度のものから数日に及ぶものまで計 40 件に対応し、遺構の保護、あるいは遺構の深度の情報を得た。

次 数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
505 次	西大寺旧境内	集合住宅	263 ㎡	2013.04.05～2013.04.26	金堂院軒廊・西面回廊
510 次	平城京左３－１－９	個人住宅	33 ㎡	2013.04.01～2013.04.05	顕著な遺構なし
511 次	平城京左１－２-15	個人住宅	25 ㎡	2013.04.02～2013.04.08	南北溝１条
512 次	阿弥陀浄土院跡	個人住宅	36 ㎡	2013.04.08～2013.04.11	柱穴１基
513 次	平城宮北方	個人住宅	45 ㎡	2013.04.17～2013.04.25	顕著な遺構なし
523 次	中山瓦窯	個人住宅	135 ㎡	2014.01.21～2014.02.10	３基の瓦窯を検出
524 次	平城京左２－２-14	宅地造成	48 ㎡	2014.02.03～2014.02.20	二条条間路南側溝ほか

【実績値】

発掘調査件数：7 件（72 日）、立会調査件数：40 件（144 日）、論文等数：3 件（①～③）

（参考値）

出土品：木器・木製品 91 点、金属製品 9 点、石器・石製品 35 点、土器類(整理用コンテナ)14 箱、軒丸瓦 52 点、軒平瓦 38 点、丸瓦・平瓦（整理用コンテナ）480 箱など。

記録作成数： 実測図 45 枚、遺構写真 401 枚（4×5）

【備考】

①諫早直人ほか「西大寺旧境内の調査　－第 505 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）
②石田由紀子ほか「中山瓦窯の調査　－第 523 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）
③青木 敬ほか「左京二条二坊十四坪の調査　－第 524 次」奈良文化財研究所、2014.6（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7117

自己点検評価調書

研№90

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：奈良県教育委員会及び奈良市教育委員会の要請に迅速に対応し、発掘調査及び立会調査を実施できた。
継続性：データ収集のため、規模の大小に関わらず発掘調査及び立会調査を継続的に実施できた。
正確性：円滑な文化財保護行政の実施に協力し、正確な調査を実施できた。

２．定量的評価

観点	発掘調査件数	立会調査件数	論文等数			
判定	A	A	A			

判定理由
発掘調査件数：奈良県教育委員会及び奈良市教育委員会から要請を受けた、対象地区内の開発行為に先立つ事前の発掘調査の全てに対応できた。
立会調査件数：奈良県教育委員会及び奈良市教育委員会から要請を受けた、対象地区内における開発行為の立会調査に全て対応することができた。
論文等：発掘調査成果のうち重要なものについて、成果を『奈良文化財研究所紀要 2014』等で公表する予定である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体から要請のあった緊急性を要する発掘調査及び立会調査に効率よく対応し、平城宮・京及び平城京の寺院跡について基礎資料を継続的に蓄積することができた。次年度以降もこれまで同様に対処していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京及び平城京内の寺院の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得ることができた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7118

（様式 1）

業務実績書

研№91

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言（(1)－①）

【事業概要】

飛鳥・藤原地域は、我が国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】

清野孝之(考古第三研究室長)、今井晃樹・黒坂貴裕・森川　実・降幡順子・山本　崇(以上、都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人・大澤正吾・大林　潤・桑田訓也、廣瀬　覚・前川　歩・森先一貴・若杉智宏・和田一之輔(以上、都城発掘調査部研究員)、荒田啓介・南部裕樹(以上、都城発掘調査部アソシエイトフェロー)、井上直夫(写真室再雇用職員)、栗山雅夫(写真室技術職員)

【主な成果】

藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 10 件あり、主に工事に伴う事前調査や立会である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【年度実績概要】

藤原宮跡及び飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査及び立会への援助・助言の事業は 10 件あった。

次　数	調　査　地	調査原因	発掘面積	調査期間	概　要
178-1 次	本薬師寺旧境内	住宅建設	70 ㎡	2013.6.7～6.27	近世の東西溝等を検出
178-3 次	藤原京左京五条三坊	住宅建設	132 ㎡	2013.7.1～7.19	古代の道路側溝を検出
178-4 次	藤原宮	工事立会		2013.7.23～8.9	遺構面まで達せず
178-5 次	藤原宮	工事立会		2013.9.17～9.20	遺構面まで達せず
178-8 次	藤原宮	工事立会		2013.12.2	遺構面残存せず
178-9 次	藤原宮	工事立会		2013.12.19	遺構面まで達せず
178-10 次	藤原京右京七条一坊	工事立会		2014.1.14～1.28	遺構なしを確認
178-11 次	本薬師寺旧境内	住宅建設	92 ㎡	2014.2.7～3.10	旧自然流路を検出
178-12 次	檜隈寺周辺	工事立会		2014.2.26～3.14	遺構面まで達せず
178-13 次	藤原宮	工事立会		2014.3.27	遺構面まで達せず

以下 178-1 次と 178-3 次調査の成果を述べる。

・178-1 次　調査地は本薬師寺旧境内にあたる。溝 3 条、井戸 2 基、土坑 14 基を検出した。溝 1 条は平安時代以降、溝 2 条は近世以降、土坑は中近世である。本薬師寺講堂跡が想定されていたが、関連する遺構はなかった。

・178-3 次　調査地は藤原京左京五条三坊にあたる。藤原京東二坊大路の東側溝、同五条条間路の北側溝、南側溝を検出した。今後の条坊研究における重要なデータを蓄積した。



178-1 次発掘全景（北西から）



178-3 次遺構検出（北東から）

【実績値】

論文等数：2 件(①、②)

(参考値)

出土遺物（178-1・3～5・8～13 次の合計）：

木器・木製品 7 点、石器・石製品 2 点、土器・土製品コンテナ 10 箱

軒瓦 52 点、丸･平瓦コンテナ 32 箱

記録作成数（178-1・3～5・8～13 次の合計）：遺構実測図 28 枚、写真（4×5）40 枚、デジタル写真 198 枚

援助・助言数：10 件

【備考】論文等

①奈良文化財研究所都城発掘調査部「本薬師寺旧境内の調査-第 178-1 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6(予定)

②奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原京左京五条三坊の調査-第 178-3 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6(予定)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7118

自己点検評価調書

研№91

１．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

判定理由
適時性：開発行為に対する緊急の事業に対応し、地方公共団体の文化財行政に協力した。
継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集と蓄積のために、規模の大小に関わらず、調査を継続した。

２．定量的評価

観点	論文数等					
判定	A					

判定理由
論文等数：今年度公表が必要な２件の事業について公表ができる予定である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間 10 件の案件に対して、迅速かつ適切に対応し、地方公共団体の埋蔵文化財行政に対して協力した。これらの調査を通して藤原京および飛鳥地区の遺跡のデータを継続的収集し、今後の研究に生かすことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に迅速に対応し、藤原京並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7119

（様式 1）

業務実績書

研№92

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（（１）－①）

【事業概要】

地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し協力・助言を行う。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

【年度実績概要】　主な協力・助言

・平成 25 年度特別史跡百済寺跡再整備検討委員協議会出席（大阪府）
・平成 25 年度佐渡銀山調査指導委員会出席（新潟県）
・平成 25 年度多賀町史跡敏満寺石仏谷墓跡保存管理計画策定委員会出席（滋賀県）
・四万十市重要文化的景観整備活用計画検討会出席（高知県）
・名勝及び天然記念物浦富海岸整備計画策定委員会出席（鳥取県）
・竹田城跡保存管理計画策定委員会出席（兵庫県）
・磐田市遠江国分寺跡整備委員会出席（静岡県）
・名勝慶雲館庭園保存整備委員会出席（滋賀県）
・牽午子塚古墳整備検討委員会出席（奈良県）
・鴻臚館跡整備検討委員会出席（福岡県）
・福井県朝倉氏遺跡研究協議会出席（福井県）
・松波城庭園基本計画策定委員会出席（石川県）
・松浦市鷹島海底遺跡遺跡調査指導委員会出席（長崎県）
・郡上市伝統的建造物群保存地区保存審議会出席（岐阜県）
・橿原市伝統的建造物群保存地区保存審議会出席（奈良県）
・神戸市文化財保護審議会出席（兵庫県）
・奈良市文化財保護審議会出席（奈良県）
・三重県文化財保護審議会出席（三重県）
・美馬町脇町市街地景観審議会出席（徳島県）
・「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録助言（岩手県）
・重要文化財旧名手本陣妹尾家住宅・史跡旧名手宿本陣の整備の指導（和歌山県）
・三重県指定候補文化財の調査（三重県）
・正倉院正倉整備工事に関する技術指導（奈良県）
・「石山寺所蔵典籍・古文書・美術工芸品」の調査（滋賀県）
・岐阜城千畳敷遺跡発掘調査の指導（岐阜県）
・那智勝浦大滝の災害復旧に関する指導（和歌山県）
・波怒棄館遺跡現地指導（宮城県）
・六反田南遺跡の調査方法の指導（新潟県）
・特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の出土遺物の調査指導（福井県）
・宮畑遺跡環境整備事業露出展示の指導（福島県）
・史跡千足古墳石障保存に関する現地指導（岡山県）
・大萱古窯跡群磁気探査の調査（岐阜県）

【実績値】

（参考値）

協力・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）345 件

（委員会出席　、審議会出席　、その他（現地指導、現地調査等）　）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7119

自己点検評価調書

研No.92

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

判定理由
適時性：実施業務に適時・適切に対応した。
発展性：的確な協力・助言による実施業務の順調な実現をした。
継続性：就任した委員会等において、専門的・技術的な助言を行った、

2．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、的確に協力・助言を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・修復事業や、建造物の調査、修復事業について、各担当機関から専門的な協力・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈良文化財研究所に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7121

（様式 1）

業務実績書

研№93

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施（（１）－②）

【事業概要】
地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、共同研究及び受託研究を実施する。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】
地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。

【年度実績概要】
地方公共団体等が行った文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。

・文化遺産国際協力拠点交流事業
・宝城坊本堂の年輪年代調査
・兵庫県近代和風建築総合調査
・京都岡崎の文化的景観保存計画策定調査
・平成 25 年度小竹貝塚出土動物遺存体同定調査業務
・陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務
・陸前高田市立博物館所蔵骨角器抜本修復業務
・平成 25 年度平出地区伝統的建造物群保存対策調査
・長谷川家建造物・庭園現況調査業務
・相川地区文化的景観保存計画策定調査
・国史跡田熊石畑遺跡墓城整備に伴う環境調査
・国宝薬師寺東塔木材年輪測定業務
・鬼ノ岩屋古墳総合的探査業務
・東名遺跡出土動物遺存体調査
・文化庁事業「大阪府安満宮山古墳出土保存修理事業」など

このほか、島根大学、公益財団法人辰馬考古資料館、都道府県教育委員会等と分担して計 15 件の研究を行った。

【実績値】
（参考値）
受託研究件数　41 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7121

自己点検評価調書

研No.93

１．定性的評価

観点	適時性	正確性				
判定	A	A				

判定理由
適時性：実施業務に適時・的確に対応した。
正確性：実施業務に対し、正確な調査等実施した。

２．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等からの依頼に対し、これまで研究所が培ってきた研究成果、調査技術等を活かし、的確な受託研究等を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	地方公共団体等からの受託研究に迅速、かつ的確に対応している。 今後も、わが国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく他機関と共同して研究等に取り組んでいく。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7131
（様式 1）

業務実績書

研№94

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力（（１）－③）

【事業概要】
東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を行う。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】

【主な成果】東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を踏まえ、一般的な発掘調査への支援はもとより、奈文研の特性を踏まえた技術について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を行った。

【年度実績概要】
（１）現地に以下の通り派遣した。
○　桜田Ⅳ遺跡（福島県広野町：古代官衙遺跡）
・　発掘調査：　25 年 4 月 8 日～5 月 18 日
・　写真撮影：　25 年 5 月 8 日～10 日
・　整備指導：　25 年 5 月 23 日～24 日
○　椴木沢Ｃ遺跡（福島県南相馬市：古代製鉄遺跡）
・　地中探査：　25 年 8 月 5 日～8 日
・　発掘調査：　25 年 11 月 5 日～12 月 20 日、26 年 1 月 14 日～31 日
○　横手古墳群（福島県南相馬市）
・　発掘調査：　26 年 1 月 14 日～31 日
・　計測測量：　26 年 1 月 28 日～30 日
○　波怒棄館遺跡（宮城県気仙沼市：縄文時代貝塚）
・　調査指導：　25 年 4 月 16 日、25 年 5 月 8 日～9 日
・　発掘調査：　25 年 6 月 10 日～14 日
・　整理指導：　25 年 10 月 30 日

（２）波怒棄館遺跡で発掘された動物遺存体について、展示に活用できる遺物の選別とともに、その分析を行った。

（３）東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議に以下の通り出席した。
○　東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議（25 年 6 月 11 日、10 月 4 日、12 月 5 日、26 年 3 月 13 日）
○　東日本大震災の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の発掘調査に係る派遣専門職員会議（25 年 4 月 19 日、10 月 4 日）
○　東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する懇談会（25 年 9 月 13 日）

（４）その他、以下の取組を行った。
○　東日本大震災で水損した資料のクリーニングを行い、地元地方公共団体へ返却した。
○　堂の前遺跡（岩手県陸前高田市）で発掘された動物遺存体について、受託調査研究により強化処理・分析・報告書執筆を行った。



椴木沢Ｃ遺跡発掘調査

【実績値】
現地派遣人数：１６９人日
（参考値）
支援・協力件数　１２件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7131

自己点検評価調書

研№94

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	S	S	S	S	S	

判定理由
適時性：復旧・復興事業に伴う緊急性の高い発掘調査に対し、地方公共団体の要請を踏まえ、適切に対応した。
独創性：高所リモート撮影を行う等、新たな技術を発掘調査支援に導入した。
発展性：製鉄遺跡等、今後、増加が予想される遺跡の発掘調査標準となる汎用性の高い調査を行った。
効率性：地中探査、発掘調査、測量図化・写真撮影等をパッケージとして支援することで短期間での調査を行えた。
継続性：研究所内で担当を決めるとともに、会議等により関係機関と意思疎通を図ることで、今後も要請に応じた支援を行える体制を整備した。

２．定量的評価

観点	現地派遣人数					
判定	S					

判定理由
現地派遣人数：当所、発掘調査への技術的支援を行うための派遣を想定していたが、地方公共団体等からの要請により技術的支援以外に発掘調査員の派遣も行ったため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	地方公共団体からの要請に応じた適切な活動を実施するとともに、新たな調査技術の導入を行う等、より効率的な発掘調査のことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	地方公共団体からの要請に応じ、今までの調査・研究の成果を踏まえ支援を適時・適切に対応している。今後も、より効率的な調査を目指し、新たな技術の開発、導入を図る。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7211

（様式１）

業務実績書

研№95

中期計画の項目	７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財担当者研修（（２）―①）

【事業概要】

地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。

研修受講者のうち平均８０％以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。

【担当部課】	企画調整部 研究支援推進部総務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山　洋 総務課長　　石澤　剛

【スタッフ】

加藤真二（企画調整室長）、村上加代子（総務課課長補佐）、桑原隆佳（総務係長）

（研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。）

【主な成果】

遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修９課程の研修を実施し、延べ 138 名が受講した。

研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。

【年度実績概要】

専門研修９課程を実施し、延べ 138 名が受講した。

また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100％の者から『思う』の回答を得た。



保存科学基礎Ⅱ（木製遺物）課程講義風景

		実施期日（日数）			定員	受講者数	満足度
専門研修	建築遺構調査課程	６月 10 日	～ ６月 14 日	（５日）	12 名	10 名	100％
	中近世城郭調査整備課程	６月 17 日	～ ６月 21 日	（５日）	16 名	25 名	100％
	建造物保存活用基礎課程	６月 24 日	～ ６月 28 日	（５日）	16 名	16 名	100％
	報告書作成課程	７月 11 日	～ ７月 19 日	（９日）	16 名	27 名	100％
	災害痕跡調査課程	９月 ９日	～ ９月 13 日	（５日）	12 名	12 名	100％
	三次元計測課程	９月 30 日	～ 10 月 ４日	（５日）	10 名	８名	100％
	保存科学基礎Ⅰ（金属製遺物）課程	10 月 ８日	～ 10 月 17 日	（10 日）	10 名	11 名	100％
	保存科学基礎Ⅱ（木製遺物）課程	10 月 17 日	～ 10 月 25 日	（９日）	10 名	15 名	100％
	古代・中近世瓦調査課程	10 月 28 日	～ 11 月 １日	（５日）	15 名	14 名	100％

【実績値】

研修実施回数　９課程（目標値：９課程）

受講者数　延べ 138 人（目標値：延べ 117 人）

受講者の満足度　100％

【備考】

【書式Ｂ】
（様式２）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7211

自己点検評価調書

研№95

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：公共性、緊急性への対応を行った。
独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性を実施した。
発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上に対応した。
効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を実施した。

２．定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	A	A			

判定理由
研修実施回数　：当初予定通り 9 課程を実施した。
受講者数　　：目標値である延べ 117 人に対し延べ 138 人であった。
受講者の満足度：100%が『有意義だった』或いは『役に立った』と回答している。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、本庁舎建替えに伴う研修棟の取り壊し工事が予定されており、11 月 1 日までの間に研修を実施しなければならなかったため、9 課程を予定し、9 課程全てについて実施した。 受講者数については、年度計画の延べ 117 人に対して 138 人となり本研修の必要性はあったと思われる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度の研修実績について、受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』」と『思う』との回答が１００％という結果ではあった。 今後も本研究所では、真に地方公共団体が求める研修、さらには厳しい財政事情のなか、対費用効果も十分に勘案しながら研修事業の充実を図りたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7221

業務実績書

研№96

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修 （2）－②

【事業概要】
「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」は、全国の文化財施設で資料保存を担当する職員が、資料保存に関する基本的な知識や技術を習得し、現場における保存環境の向上に資することを目的として開催するものである。また、本研修受講経験者を対象に、最新の保存に関する知見を提供する「保存担当学芸員フォローアップ研修」や、国内各地において保存環境に関する講義を行う「資料保存地域研修」なども適宜実施する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長　岡田健

【スタッフ】
佐野千絵（保存科学研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、早川泰弘（分析科学研究室長）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、桐原瑛奈（研究補佐員）

【主な成果】
第 30 回保存担当学芸員研修、第 18 回及び第 19 回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。

【年度実績概要】
今回で 30 回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を 25 年 7 月 8 日～19 日の 2 週間の日程で実施した。受講者は、美術史学、歴史学、民俗学等を専門とする 30 名の学芸員や自治体の文化財行政担当者で、前半週では主に温湿度や空気環境など保存環境や生物被害対策に関して、後半週では資料の種類ごとにその劣化と修復に関する講義と実習から成るカリキュラム構成で研修を行った。また、保存修復科学センター連携併任の東京国立博物館保存修復課の協力により、博物館における省エネ対策に関する討論会を実施し、同博物館の見学や受講者の所属館における状況を踏まえた意見交換を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は新宿区立新宿歴史博物館で実施し、3 人もしくは 4 人ずつのグループがそれぞれ実習テーマを設定し、保存環境に関する調査と評価を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する基礎的な知識と方法論を習得した。



殺虫処置実習の様子

今年度は他に資料保存地域研修を 2 回実施した。本研修は、研究所職員が地方に出向き、保存環境管理の基礎に関する講義を行うものである。2 週間の長期にわたって行われる博物館・美術館等保存担当学芸員研修への参加が困難な学芸員が多い現状の中で、1 日もしくは 2 日間で行う資料保存地域研修の果たす役割は大きく、非常に好評を得た。
・第 18 回資料保存地域研修（25 年 12 月 11 日～12 月 12 日、山梨県立博物館）参加者 41 名
・第 19 回資料保存地域研修（26 年 2 月 6 日～2 月 7 日、大分県消費生活・男女共同参画プラザ）参加者 83 名

【実績値】
「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」実施期間　2 週間（目標値：2 週間）
研修受講者数　30 名（目標値：25 名程度）
受講者の満足度　97%

【備考】
① 学芸員研修応募要綱
② 資料保存地域研修プログラム

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7221

自己点検評価調書

研No.96

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		

判定理由
適時性：自然科学的基礎に立脚した保存環境管理に関する唯一の研修である。また、数年の勤務を経て、自館の設備や保存状況の現状に精通した中堅学芸員が多く参加しており、学習効果が非常に高い。
発展性：保存環境管理の基礎を講義と実習によって学び、参加者の勤務館における現状把握と評価、改善に資するカリキュラム構成となっている。また、基礎のみではなく、設備更新や改修の参考となるよう最新の知見や技術を伝えている。
効率性：高い専門性を持つ職員が各講義と実習を担当し、2週間の期間で基礎的かつ不可欠な内容を網羅している。
継続性：30年に渡り毎年実施しており、受講経験者との人的ネットワークを保ちながら、全国の文化財保存施設の環境改善に資している。

2．定量的評価

観点	実施期間	研修受講者数	満足度			
判定	A	A	A			

判定理由
実施期間：例年通り、7月の2週間にわたって「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施した。
研修受講者数：全国から30名の学芸員や文化財行政担当者が参加した。
満足度：参加者へのアンケート結果として、非常に高い満足度を得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	予定通り「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、多くの参加者と高い満足度を得ることが出来た。しかし、参加者からのアンケートには、ただ満足したというのみではなく、施設の現状と理想とのギャップに戸惑う意見も多く記されており、このような現場の実情も踏まえたうえでカリキュラムと内容の充実に努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	毎年、継続して実施しており、参加者、満足度ともに非常に高いレベルを維持するよう、内容の充実と講義能力の向上を図ってきた。今後も、現場でのニーズや保存環境を取り巻く状況の変化に応じた内容の見直しを絶えず行い、受講生の要望に応えたい。2週間の研修に職員を派遣する余裕のない博物館等が以前に比べて多くなっており、地域研修やフォローアップ研修の充実に力を入れたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7231

業務実績書

研№97

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進（(2)－③）

【事業概要】
平成 7 年 4 月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21 世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の 2 講座から成る。6 名の所員が連携教員として授業を開講している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存科学研究室長　佐野千絵

【スタッフ】
木川りか（生物科学研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、早川典子（主任研究員）、古田嶋智子（東京藝術大学大学院教育研究助手）

【主な成果】
保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また文化財保存学演習（文化財保存学専攻修士課程 1 年対象）を 1 コマ担当した。
平成 25 年度修士課程 1 年に、1 名の学生を受け入れ、修士論文指導を行った。

【年度実績概要】
連携教員は、保存環境学講座を佐野千絵連携教授（教室主任）、木川りか連携教授、朽津信明連携准教授の 3 名、修復材料学講座を北野信彦連携教授、中山俊介連携教授、早川典子連携准教授の 3 名が担当する。スタッフとして東京藝術大学経費で、古田嶋智子が参加している。

今年度開講した授業及び担当教員は以下のとおりである。
保存環境計画論（前期、火曜 1 限）　2 単位　佐野千絵
修復計画論　　（前期、木曜 1 限）　2 単位　北野信彦・中山俊介・早川典子・朽津信明
修復材料学特論（前期、木曜 2 限）　2 単位　北野信彦・中山俊介・早川典子・朽津信明
保存環境学特論（後期、火曜 1 限）　2 単位　佐野千絵・朽津信明

このほかシステム保存学研究室修士 1 年の学生に対して、前期・水曜日に、輪講及び機器実習、修士論文指導を行った。

上記の授業のほかに、文化財保存学演習（25 年 6 月 4 日）題目：「色を測る」（担当：朽津信明　場所：東京文化財研究所）を実施した。

平成 26 年度東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程）入学試験を実施し、25 年 9 月 18、19 日に入学試験及び面接を実施して、合格者 1 名を決定した。



実習の様子（朽津信明 連携准教授）

【実績値】
開講時間：　前期　火曜 1 限、木曜 1 限、木曜 2 限　/　後期　火曜 1 限
　　1 限　9：00～10：30　　2 限　10：40～12：10
開講回数：2 単位（90 分×15 回）　4 コマ
受講者数：保存環境計画論（17 名）、修復計画論（11 名）、修復材料学特論（11 名）、保存環境学特論（7 名）

【備考】

【書式B】
（様式2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7231

自己点検評価調書

研No.97

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

判定理由
本務において得た正確な知識、技術、最新情報やデータを元に、授業を展開している。
適時性：最新の情報を下に授業を展開した。修士課程に受け入れた学生の論文テーマについても、適時性の高いものを選択するよう、新規性を重視した指導を行った。
独創性：文化財の保存環境・修復材料に特化した開講は他大学にはない。
発展性：教育した学生は文化財保存学分野に根付いている。
効率性：大学内での開講と当所内での授業とを組み合わせて学生及び当所員の負担に配慮して開講した。
継続性：多数の受講者が毎年授業を受けており、十分に成果が認められた。
正確性：授業内容は保存修復倫理に基づいた正確な知識・技術・経験が盛り込まれている。

2．定量的評価

観点	開講時間	開講回数	受講者数			
判定	A	A	A			

判定理由
開講時間：文化財保存学専攻の他の授業と重ならず、また当所の業務時間への影響を最小限とした開講時間を設定しており、効率的である。
開講回数：文部科学省の定めた2単位（90分×15回）を満たしており、修了必要単位数として重視されている。
受講者数：当所が開設している授業は専門に合わせて選択する科目として開講されているが、全員出席している授業もあり、当所員による授業成果に東京藝術大学から大きな期待が寄せられている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	正確な知識や技術、情報やデータを元に、授業を展開している。明日の文化財保存修復を担う若い学生にとって、基礎となる土台を作る重要な仕事であり、その影響は極めて高く、また芸術大学との連携は効率的であり、当所の教育に関する期待と評価は高い。平成26年度修士課程入学生に対して入試を実施し、合格者を1名決定した。連携教員の開講科目についても見直しを行い、より効果の高い授業を展開した。修士学生の修士論文指導も順調である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	開講科目の担当者を常に見直し、修士学生の論文指導の時間を十分に確保し、かつ修士研究について中間報告会を開くなど、教育は充実している。来年度は学生がもう1人増えるので、より良い教育状況にするための配置や体制整備について模索している。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7232
（様式 1）

業務実績書

研№98

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進（（２）－③）

【事業概要】
京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科との協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】
小野健吉、玉田芳英、小池伸彦、渡邉晃宏、馬場　基（以上、都城発掘調査部）、平澤毅、中島義晴、惠谷浩子（以上、文化遺産部）、高妻洋成、小澤毅、山崎　健（以上、埋蔵文化財センター）

【主な成果】
京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 2 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。
なお、平成 25 年度の受入学生数は京都大学 38 名、奈良女子大学 5 名であった。
その他、奈良大学と協定を締結し、4 名の研究職員が非常勤講師として、学部生の教育を行った。

【年度実績概要】
京都大学大学院人間・環境学研究科〔共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野（客員）〕、奈良女子大学大学院人間文化研究科及び奈良大学文学部における平成 25 年度の実施状況については、以下のとおりである。

京都大学大学院人間・環境学研究科
①小野健吉
「庭園文化論１」【修士課程 16 名】
「庭園文化論２」【修士課程 4 名】
②玉田芳英
「文化遺産学演習 5B」【修士課程 1 名】
③高妻洋成
「保存科学論１」【修士課程 3 名】
「共生文明学演習Ⅱ」【修士課程 1 名】
「文化遺産学特別演習Ⅱ」【博士課程 2 名】
「文化・地域環境特別セミナー」【博士課程 2 名】
④小澤毅
「遺跡調査法論１」【修士課程 2 名】
「文化遺産学演習 1B」【修士課程 2 名】
⑤馬場　基
「史料学論１」【博士課程 1 名】
「文化遺産学演習 3B」【修士課程 3 名】
⑥山崎　健
「共生文明学特別研究Ⅰ」【博士課程 1 名】


京都大学大学院人間･環境学研究科「文化遺産学演習３Ｂ」

奈良女子大学大学院人間文化研究科
⑦小池伸彦
「文化財学の諸問題Ⅰ」【博士後期課程 1 名】
「文化財学の諸問題Ⅱ」【博士後期課程 1 名】
⑧渡邉晃宏
「歴史資料論Ⅰ」【博士後期課程 2 名】
「歴史資料論Ⅱ」【博士後期課程 1 名】

奈良大学文学部
⑨小野健吉・平澤毅・中島義晴・惠谷浩子
「文化財修景学」【学部 69 名】

【実績値】
（参考値）
受入学生数（延べ人数）　京都大学：38 名、奈良女子大学：5 名、奈良大学：69 名

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7232

自己点検評価調書

研№98

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	計画性		
判定	A	A	A	A		

判定理由

適時性：本務において得た最新の研究成果などをもとに、研究指導を行った。
発展性：若手研究者の育成、充実において、人材確保に寄与した。
継続性：毎年多くの受講者があり、十分な成果が認められた。
計画性：協定に基づき、計画的に実施できた。

２．定量的評価

観点						
判定						

判定理由

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学院協定に基づき、計画的かつ継続的に実施できた。次期についても、引き続き連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 7140

中項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
事業名	(1)　福島県内被災文化財等救援事業（福島文化財レスキュー事業）

【年度計画】
（年度計画外に実施）

担当部課	本部事務局	事業責任者	事務局長　栗原祐司

【実績・成果】
○福島県の支援要請を受けた文化庁の要請に拠り、文化庁、福島県被災文化財等救援本部及び関係団体と連携協力して福島県内被災文化財等救援事業を実施する体制として、機構本部に「福島県内被災文化財等救援事務局」を設置した（25年7月19日）。
○旧警戒区域内の下記2施設において、被災文化財の救援事業を実施した。
(1)富岡町歴史民俗資料館
(2)双葉町歴史民俗資料館
○福島県被災文化財等救援本部と共同で「福島県内被災文化財レスキュー会議・福島県被災文化財等救援本部会議」を2回開催した。（9月3日、26年3月3日）
○「福島県被災文化財等救援本部幹事会（第4回）」に出席した。（9月25日、機構出席者2人）
○旧警戒区域内の被災文化財等救出対象リストの作成について、福島県被災文化財等救援本部へ指導・助言を行った。

【補足事項】
○本事業における、富岡町・双葉町にて行われた救援活動への参加人数は以下のとおり。人数は公益財団法人日本博物館協会・全国美術館会議を含み、のべ116人日（うち機構75）。
(1)富岡町歴史民俗資料館：のべ2人日（うち機構2）
・資料館内資料の調査及び整理
8月22日～23日：各日1人（うち機構1）
(2)双葉町歴史民俗資料館：のべ114人日（うち機構73）
・資料館内資料の調査及び整理
8月29日：7人（うち機構7）、30日：5人（うち機構5）、9月5日～6日：各日7人（うち機構7）、9月26日～27日：各日11人（うち機構5）
・資料館内資料の整理及び梱包
10月3日：8人（うち機構5）、4日：9人（うち機構6）
・旧相馬女子高校へ資料を搬送
10月30日～31日：各日18人（うち機構9）、26年1月22日：6人（うち機構4）、23日：7人（うち機構4）
○「福島県内被災文化財レスキュー会議・福島県被災文化財等救援本部会議」の主な内容
・第1回：福島県内の現状と今後の活動予定など。9月3日、於福島県庁、34名出席（うち機構4名）。
・第2回：平成25年度活動成果報告、平成26年度活動予定など。26年3月3日、於福島県庁、29名出席（うち機構3名）。
○当機構理事長による現地視察を行った。（10月3日～4日）


富岡町での活動


双葉町での活動

（参考）本事業とは別に、機構では福島県に関して下記を実施した。
○東京文化財研究所が主宰する文化財放射線対策ワーキンググループ実地調査
・旧相馬女子高校・福島県立美術館にて10月24日～25日の2日間、実証実験と文化財除染の考え方について協議を行った。機構からは九博が参加した。（詳細は処理番号4543を参照）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
救援対象施設数	2施設	－	－		－	－	－	－
機構職員の現地派遣人数	のべ75人日	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F（S、Fの理由）今年度をもって、旧警戒区域内3町（富岡町、双葉町、大熊町）の資料館内の資料について、搬出をほぼ終えることができたため。（大熊町は24年度完了）

【中期計画記載事項】
地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【受託】
（様式３）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8001

業務実績書（受託事業）

研№6-1

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	比叡山延暦寺建造物の普及・啓発に関する業務（受託）((1)－③)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】
海野聡(遺構研究室研究員)

【年度実績概要】
平成 23、24 年度に当研究所が行った比叡山延暦寺建造物総合調査事業の成果を受け、さらに一般向けに文化財の普及啓発を行うためにかみ砕いた内容で出版物を刊行するための原稿を作成した。
所有者の行う文化財の普及啓発事業に対し大きく貢献できる。



延暦寺大書院

【実績値】
報告書原稿 64 ページ。

【受託経費】
283 千円

【受託】
（様式３）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8002

業務実績書（受託事業）

研No.6-2

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	兵庫県近代和風建築総合調査（受託）((1)－③)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】
鈴木智大(建造物研究室研究員）、箱崎和久(遺構研究室長)、黒坂貴裕(都城発掘調査部主任研究員)、大林潤（遺構研究室研究員)、番　光（遺構研究室研究員)、海野聡（遺構研究室研究員)、松下迪生(遺構研究室アソシエイトフェロー)、中島義晴(文化遺産部主任研究員)

【年度実績概要】
３ヵ年継続の最終年度となる本受託事業では、兵庫県内に所在する明治から昭和初期にかけて建設された文化財的価値を有する近代和風建築のうち、本年度は兵庫県文化財課が行った一次調査の結果から選定された 17 件の物件について、その歴史調査、実測調査、技法調査、写真撮影を実施し、配置図及び平面図の作成と文化財としての学術評価を行った。また、前年度以前からの調査を含む 7 件について庭園史的観点から補足調査を実施した。調査成果は学術評価原稿、配置図及び平面図、写真について、また、本年度は最終年度となることから建築類型別、地域別の総論原稿を提出した。



一乗寺常行堂（加西市）
明治 10 年の寺院建築

調査では、兵庫県内の各市町村から１件以上を条件として、各市町村に所在する近代和風建築を現地調査した。建築類型の上では、公共建築として学校、博物館を、住宅建築として町家、農家、邸宅、別荘を、宗教建築として寺院、神社を、商業建築として旅館、料亭をと、多岐にわたる対象を調査した。

調査の結果として、これまで不明瞭であった兵庫県における近代和風建築の現存状況と、建築類型の広がりの幅が明らかになったこと、近代和風建築の技術の具体相が明らかとなったこと、近代和風建築に関わった施主、設計者、施工者の具体名が多数明らかとなり、近代兵庫における建築事情が解明されつつあることがあげられる。本調査は、文化庁が行っている全国の近代和風建築調査の一環として実施しているものであり、兵庫県に留まらず、日本全体における近代和風建築の研究と保存に対して多大な貢献をなす成果を上げ得るものと考える。

【実績値】
調査票 20 枚、実測野帳 50 点、デジタル写真 3800 点、報告書原稿 90 ページ。

【受託経費】
461 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8003

業務実績書（受託事業）

研No.6-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査および研究の推進		
【事業名称】	平成 25 年度平出地区伝統的建造物群保存対策調査（受託）（(1)－③）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室　林良彦

【スタッフ】
松下迪生（遺構研究室アソシエイトフェロー）、黒坂貴裕（都城発掘調査部主任研究員）、箱崎和久（遺構研究室長）、大林潤（遺構研究室研究員）、番　光（遺構研究室研究員）、海野聡（遺構研究室研究員）、成田聖（前学芸室任期付研究員）、恵谷浩子（景観研究室研究員）、菊池淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】



平出集落の本棟造り民家

前年度から 2 ヵ年で実施する本受託事業では、長野県塩尻市宗賀にある平出集落の伝統的な建物群について、今後の保存と活用の基礎となる調査及びその報告書作成を目的とする。

調査は、集落の歴史・集落構造・伝統的建造物について対象としている。また、市内の伝統的な集落において類例調査も行っている。

今年度は、平出地区で 1 棟、類例として 4 棟の建物詳細調査（実測・聞き取り・写真撮影）及び祭礼の民俗調査を行った。5 棟分の平面図作成を済ませ、原稿を整えて報告書を刊行した。

この集落及び周辺地域の民家は、規模の大きな切妻屋根で本棟造りと呼ばれる。また、山裾に湧く泉から水路を延ばし、水の利用が暮らしに根付く点はこの地域の集落の特徴である。平出集落は、本棟造り民家と水路の良好な残存状況を示し、地域の代表的な伝統的集落と評価することができる。本事業は、伝統的な集落と建造物の文化財としての価値を明らかにし、保存管理に向けた計画立案に資することができると考えられる。

【実績値】
『平出　伝統的建造物群保存対策調査報告』2014.3　調査票 16 枚、実測図 18 枚（平面図 13 枚、配置図 5 枚）、デジタル写真 2100 点、大判写真 22 点

【受託経費】
2,500 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8004

業務実績書（受託事業）

研№6-4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	長谷川家建造物・庭園現況調査（受託）（(1)－③）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】
番　光（遺構研究室研究員）、箱崎和久（遺構研究室長）、黒坂貴裕（都城発掘調査部主任研究員）、大林潤（遺構研究室研究員）、海野聡（遺構研究室研究員）、中島義晴（文化遺産部主任研究員）、成田聖（前学芸室任期付研究員）、鎌倉綾（写真室技能補佐員）

【年度実績概要】
本受託事業では、松阪市魚町・殿町に所在する長谷川家住宅の建造物及び庭園の調査を行った。松阪市に寄贈された長谷川家住宅の歴史的価値を裏付ける学術的根拠をまとめ、歴史的建造物としての保存・活用計画を作成するための基礎的資料とすることを目的とする。

長谷川家住宅の建造物及び庭園について、技法調査、痕跡調査、破損調査などの詳細調査を実施し、調書の作成及び写真撮影を行った。また、長谷川家周辺に残存する町屋の外観調査を行った。その結果、調査成果を報告書として刊行した。



長谷川家住宅主屋魚町通り側外観

調査の結果、主屋が少なくとも 3 度の増築を行っていることが増築部の棟札や痕跡調査などから明らかになった。土蔵 5 棟のうち 4 棟の年代（最古のものは大蔵の享保 6 年）が棟札や墨書から明らかになった。また、殿町の明治期離れ、魚町の大正座敷など、近代の屋敷地の変遷もおおよそ明らかになった。これまで長谷川家住宅に関する調査・報告は今までなく、その歴史的価値を明らかにした調査・研究として評価できる。

【実績値】
『旧長谷川家住宅調査報告書』2014，3　調査票 13 枚、調査野帳 20 枚、デジタル写真 2430 点、大判写真 31 点、高精細デジタル写真 35 点。

【受託経費】
1,903 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8005

業務実績書(受託事業)

研№14-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	興福寺西室跡の発掘調査（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
小池伸彦（考古第一研究室長）、渡邉晃宏（史料研究室長）、神野 恵（都城発掘調査部主任研究員）、川畑 純・石田由紀子（考古第三研究室研究員）、番 光・前川 歩（遺構研究室研究員）、芝 康次郎（考古第一研究室研究員）、松下迪生（遺構研究室アソシエイトフェロー）、中村一郎（写真室主任）、鎌倉 綾（写真室技能補佐員）

【年度実績概要】

興福寺では「興福寺境内整備基本構想」（平成 10 年）に基づいて、寺観の復元・整備を進めている。本調査もその一環として、西室及びそれに付随する小子房の解明を目的として行った。調査面積は 985 ㎡、調査期間は 25 年 6 月 3 日～10 月 11 日。

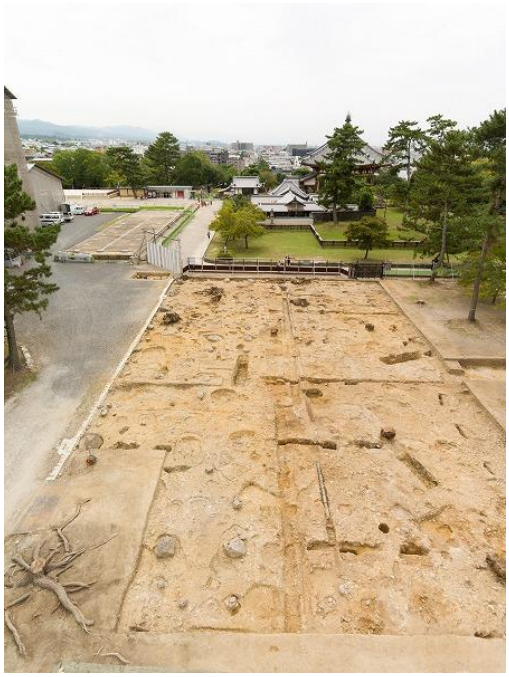
・基本層序

上から黒褐色砂質土（表土）、暗褐色砂質土（包含層）、礫混じり黄褐色シルト（地山）。遺構検出は地山上面で行った。調査前の地表に露出している礎石もあった。

・主な検出遺構

南北棟礎石建物（西室）１棟：それに伴う礎石及び礎石の据付穴・抜取穴、基壇外装、雨落溝等を検出した。調査区内では桁行 7 間、梁行 3 間分を検出し、柱間寸法は、桁行の南端 2 間が約 4.75m、以北が約 6.65m等間、梁行は約 2.95m等間。礎石のうち 8 石は創建当初の位置を保つ。柱間を 3 等分する位置に間柱の礎石痕跡がある。

南北棟掘立柱建物１棟：柱穴掘方、抜取穴。桁行 7 間以上、梁行 2 間で、西室から約 2.5m隔てた位置に建つ。西室と梁行方向の柱筋を揃えるため、柱間寸法は、桁行方向は西室と同寸で、梁行は約 2.6m等間である。



調査区全景（北から）

・主な出土遺物

奈良時代から近代までの土器・陶磁器類及び瓦が多数出土した。土器のうち最も出土量が多いのは鎌倉～江戸時代の「カワラケ」と呼ばれる土師器の小皿。瓦は各時代の軒丸瓦・軒平瓦以外に、鬼瓦や磚、土管が出土した。

・調査所見

西室は今回の調査成果とともに、地表に残る礎石などから全体で桁行 10 間、梁行 4 間に復元される。南北棟掘立柱建物は、創建は古代に遡るとみられ、廃絶時期は明確でないが下限は室町時代である。性格は明確でないが、小子房の可能性がある。

興福寺西室の礎石と基壇の一部を検出し、創建当初の建物や基壇に関する資料を得た。また、西室の 7 度にわたる再建の際には創建当初の位置と規模を踏襲していることが明らかになった。掘立柱建物はやや西室に接近しすぎており、性格については検討の余地がある。いずれにしても、興福寺の古代の寺観を考えるうえで重要な成果を得ることができた。

【実績値】
論文等数：2 件
①番 光「興福寺西室の調査（平城 516 次）」『奈文研ニュース No.51』奈良文化財研究所、2013.12
②番 光ほか「興福寺西室の調査　－第 516 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）
報道発表件数：2 件
記者発表；平成 25 年 9 月 26 日。現地見学会；平成 25 年 9 月 28 日。
記者発表；平成 25 年 11 月 27 日。
（参考値）
出土遺物：金属製品・石製品等 245 点。土器・土製品 コンテナ 47 箱。
軒丸瓦 187 点、軒平瓦 96 点、丸瓦・平瓦 コンテナ 56 箱。
記録作成数：実測図 42 枚（A2 判）、遺構写真 82 枚（４×５）、（中判デジタル）18 枚、（35㎜ デジタル）2052 枚。
遺跡航空写真（トラッククレーン）測量　垂直写真１式・測量成果品１式

【受託経費】
21,095 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8006

業務実績書(受託事業)

研№14-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	法華寺旧境内の発掘調査(受託)（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
渡辺丈彦（都城発掘調査部主任研究員）、青木 敬・大澤正吾（考古第二研究室研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、海野 聡（遺構研究室研究員）、中村一郎（写真室主任）

【年度実績概要】
賃貸住宅建設に伴う事前調査。調査面積は 30 ㎡、調査期間は 26 年 3 月 6 日～3 月 18 日。

・基本層序
表土の下、GL-0.1m付近で造成土（厚さ 0.2m前後）を確認した。さらに GL-0.3m付近で畑の旧耕作土（厚さ 0.1m前後）、GL-0.4m前後で地山である黄褐色粘質土の順である。

・検出遺構
検出遺構は、塀１列、南北溝２条、柱穴１基、土坑１基、ピット群などからなる。このうち西側の南北溝は、東二坊坊間路東側溝と推定される素掘溝であり、長さ 10m、幅 0.2～0.6m分を検出した。溝の西肩を調査区東端で検出し、深さは 0.4m以上と推定できる。今回の調査では、溝西肩部の確認にとどまり、西側へ向けて傾斜していることから、溝底は調査区外東側に位置し、さらに深くなると考えられる。このほか、中世以降と考えられる掘立柱塀や小穴群、土坑などを検出した。

・出土遺物
古代～中世の土器や瓦などが、東二坊坊間路東側溝を中心に出土した。

・調査成果
平城京左京東二坊坊間路東側溝を検出した。出土遺物から、奈良時代から中世に至るまでの長期間利用されていたことが明らかとなった。



調査区全景（北から）

【実績値】

（参考値）
論文数：1 件出土遺物：丸瓦・平瓦整理用コンテナ 5 箱、土器・土製品整理用コンテナ 1 箱。
記録作成数：実測図 3 枚（A2 判）、遺構写真 1 枚（４×５）。
・青木敬ほか「法華寺旧境内の調査―第 526 次」『奈良文化財研究所紀要 2015』2015.6（予定）

【受託経費】
531 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8007

業務実績書(受託事業)

研№.14-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	海竜王寺旧境内の発掘調査(受託)（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
渡辺丈彦（都城発掘調査部主任研究員）、青木 敬・大澤正吾（考古第二研究室研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）・海野 聡（遺構研究室研究員）、中村一郎（写真室主任）

【年度実績概要】

写経道場建設に伴う事前調査。調査地は海龍王寺境内西側、西金堂の北西である。調査面積は 30 ㎡、調査期間は 26 年 2 月 19 日～28 日。

・基本層序

GL-0.4m 付近で旧耕土を確認した。その下に整地層 1(厚さ 10 cm)、整地層 2(厚さ 40 cm)と 2 層の整地層、さらに黄橙粘質土(地山)と続く。整地層 1 は、GL-0.5m(H=68.4m)、整地層 2 は、GL-0.6m(H=68.3m)で確認した。いずれの整地層にも古代～中世の瓦などが混入していることから、整地はともに中世以降と考えられる。

・検出遺構

整地以前、すなわち古代の遺構として、海龍王寺西回廊に伴うと考えられる凝灰岩製基壇外装ならびに雨落溝の残欠を検出した。後世の削平により基壇土は残存しないなど残存状態が悪く、正確な規模と構造は不明だが、基壇外装は地覆石をもたず、幅 40～50 cm前後、厚さ 20 cm前後の羽目石を直接据え付けたとみられる。基壇外装据付穴の西側では、乱石積雨落溝にともなう玉石の抜取痕跡を検出した。このほか、中世以降の所産と推定される東西棟建物 1 棟、柱穴 2 基、土坑 2 基、ピット 5 基を検出した。

・出土遺物

上記土坑を中心に、土師器や須恵器などの土器片が整理用コンテナ 1 箱分、軒丸瓦や軒平瓦をはじめとした古代～中世の瓦片が整理用コンテナ 52 箱分出土した。



調査区全景（西から）

・調査成果

古代にさかのぼる海龍王寺西回廊にかかわる基壇外装や雨落溝などを検出した。既往の調査による回廊の推定復元成果も勘案し、海龍王寺の回廊規模がほぼ確定できた。このほか、中世以降における海龍王寺の土地利用の一端があきらかになった。

【実績値】
論文等数：1 件（①）
①青木 敬ほか「海龍王寺旧境内の調査―第 525 次」『奈良文化財研究所紀要 2015』2014.6（予定）
（参考値）
出土遺物：軒丸瓦 8 点、軒平瓦 4 点、丸瓦・平瓦整理用コンテナ 52 箱、土器・土製品整理用コンテナ 1 箱。
記録作成数：実測図 5 枚（A2 判）、遺構写真 3 枚（4×5）。

【受託経費】
320 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8008

業務実績書(受託事業)

研№15-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	西大寺旧境内（薬師金堂西方）の発掘調査(受託)（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
渡邉晃宏（史料研究室長）、諫早直人（考古第一研究室研究員）、小田裕樹（考古第二研究室研究員）、鈴木智大（建造物研究室研究員）、中村一郎（写真室主任）、栗山雅夫（写真室技術職員）

【年度実績概要】
共同住宅新築に伴う事前の発掘調査。調査期間は 25 年 2 月 12 日～4 月 5 日。調査面積は 190.5 ㎡。

・基本層序
上から現代の造成盛土（約 80 ㎝厚）、旧耕土(約 20 ㎝厚)、床土（約 30 ㎝厚)、西大寺造営に伴う整地土（約 20 ㎝厚)、西大寺造営以前の整地土（約 40 ㎝厚)、地山の順。

・主な検出遺構
西大寺金堂院に関連する遺構
南北素掘溝 1 条（薬師金堂院西面回廊東雨落溝）
南北石敷溝 1 条（薬師金堂院西面回廊西雨落溝延長部暗渠か）
東西素掘溝 2 条（薬師金堂西軒廊の南北雨落溝）
瓦敷き面
西大寺金堂院創建以前の遺構
掘立柱穴 6 基
樹皮敷き面
西大寺金堂院廃絶以後の遺構
南北溝 1 条
井戸 1 基


遺構検出状況（西から）

・主な出土遺物
南北素掘溝や 2 条の東西素掘溝からは、西大寺創建瓦を含む瓦片が多数出土した。また西大寺創建以前の柱穴抜取穴の一つから木屑や木端、瓦、土器などが大量に出土した。金堂院廃絶以後に設けられた井戸からは、西大寺創建瓦をはじめとする瓦片や、曲物などの木製品、土器・青磁片などが大量に出土した。

・調査所見
調査区は西大寺薬師金堂跡の西方約 10ｍに位置する。今回確認した 2 条の東西素掘溝は、埋土に西大寺創建瓦をはじめとする多量の瓦を含むこと、既調査で検出した薬師金堂の梁行規模と両溝間の距離がおおむね一致することから、薬師金堂の西に取りつく軒廊の南・北雨落溝とみられる。北側の東西素掘溝は調査区の西部で南北素掘溝と南北石敷溝の接点にＴ字状に接続する。南北素掘溝はやはり埋土に西大寺創建瓦をはじめとする多量の瓦を含んでおり、金堂院西面回廊の東雨落溝とみられ、南流する南北石敷溝については軒廊を横断する暗渠状の施設とみられる。残念ながら基壇についての情報はほとんど得られなかったものの、薬師金堂に取りつく軒廊が、従来想定されていた単廊ではなく複廊であること、西面回廊の位置が確定したことは、これまで『西大寺資財流記帳』などの文献から類推するほかなかった西大寺中枢伽藍の実態に迫る上で極めて高い学術的意義をもつ。

【実績値】
論文等数：１件（①)。
①諫早直人ほか「西大寺旧境内（薬師金堂西方）の調査　－第 505 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）
(参考値)
出土遺物：土器コンテナ８箱、軒丸瓦 16 点、軒平瓦 12 点、丸瓦・平瓦コンテナ 265 箱、凝灰岩礫片コンテナ 1 箱、貨幣（元符通寶）１点、木製品（金箔貼半円棒 1 本、部材片 3 点、杓子 1 点、削片バット 5 箱）
記録作成数：実測図（A2 判）11 枚、遺構写真（４×５）22 枚

【受託経費】
3,343 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8009

業務実績書(受託事業)

研№.15-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	薬師寺十字廊跡の発掘調査(受託)（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
箱崎和久（遺構研究室長）、馬場 基（都城発掘調査部主任研究員）、庄田慎矢（考古第一研究室研究員）、小田裕樹（考古第二研究室研究員）、脇谷草一郎（考保存修復研究室研究員）、星野安治（年代学研究室研究員）、児島大輔（年代学研究室アソシエイトフェロー）、中村一郎（写真室主任）、栗山雅夫（写真室技術職員）・鎌倉 綾（写真室技能補佐員）

【年度実績概要】

薬師寺旧境内の整備に伴う十字廊跡の調査。『薬師寺縁起』に記される十字廊は、類例が国内外にも乏しい建造物であり、その規模や構造、機能、存続時期を明らかにする目的で発掘調査を行った。調査面積は 859 ㎡、調査期間は 25 年 9 月 17 日～26 年 2 月 28 日。

・基本層序

調査区の東西で大きく異なる。近現代の耕作により上部を削平された東半部では、耕作土の直下に瓦を多量に含む時期不明の包含層、その下に遺構検出面である地山及び整地土が堆積している。西半部の基本層序は、表土－近現代の整地－十字廊の基壇土および整地土（奈良～平安）－地山である。

・主な検出遺構

（1）礎石建物３棟

①十字廊：東西廊・南北廊よりなる。それに伴う礎石の据付穴、基壇外装、雨落溝等を検出した。

東西廊：桁行 11 間、梁行 1 間のうち、東から 7 間分を検出した。柱間寸法は、桁行が 12 尺～15 尺と場所により異なり、梁行は 17 尺。基壇南北幅は約 8m。基壇外装は凝灰岩製で、地覆石を用いず羽目石を地面に直接立てる。羽目石が一部で遺存する。

南北廊：桁行 5 間以上、梁行 1 間、柱間寸法は、桁行が 10 尺～12 尺と場所により異なるが、梁行は 17 尺。基壇規模は東西幅が約８m、南北約 21 m。基壇外装はやはり凝灰岩製で羽目石を地面に直接立てる。玉石組の雨落溝（幅約 80 ㎝）を一部に残す。

②東小子房：西端の桁行１間分、梁行２間分を検出した。柱間寸法は、桁行が 10 尺、梁行が 7 尺。

③礎石建物：調査区北端で南北１間分を検出した。柱間寸法は 12 尺。

（2）土坑：瓦片や土師器を含む土坑が、調査区内に散在する。

（3）石敷：十字廊と北側の礎石建物の間に位置する。



調査区全景（北東から）

・主な出土遺物

調査区全体から創建時のものを含む瓦片及び土器片が大量に出土し、調査区東方の土坑からは土師器皿がまとまって出土した。また、調査区中央付近の土坑から銅製の螺髪が出土した。

・調査所見

十字廊の建物と基壇の規模がほぼ確定した。『薬師寺縁起』に記載された東西廊の長さは 14 丈 1 尺であり、発掘調査成果とおおむね一致する。南北廊については南北端が現存せず明確ではないが、おおよそ一致するものと見られる。十字廊の中央付近に掘り込まれた 11 世紀代の土器を多量に含む土坑により、奈良時代後半に始まる十字廊が、この時期にはこの場所に建っていなかったと考えられる。また、十字廊の周囲の施設、特に十字廊の北側や東側の空間利用についても新たな知見を得た。今回の調査では、薬師寺内部の施設配置という面だけでなく、全国的にもほとんど明らかにされていない古代寺院における食堂の背後の具体的な様相を明らかにしたという面でも、貴重な成果となった。

【実績値】

論文数等　2 件（①・②）

① 奈良文化財研究所編『薬師寺　旧境内保存整備にともなう発掘調査概報 Ⅱ』薬師寺、2014.3

② 庄田慎矢ほか「薬師寺旧境内の調査　第 519 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）

（参考値）

出土遺物：軒丸瓦 189 点、軒平瓦 211 点、鬼瓦 9 点、隅木蓋瓦 1 点、磚 1 点、丸瓦・平瓦コンテナ 2072 箱、土器・土製品コンテナ 22 箱、木製品等 51 点、金属製品等 19 点、その他コンテナ 1 箱

記録作成数：実測図 59 枚（A2 判）、遺構写真 66 枚（４×５）

【受託経費】

19,877 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8010

業務実績書(受託事業)

研№15-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	西大寺旧境内（弥勒金堂東方）の発掘調査(受託)（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
箱崎和久（遺構研究室長）、馬場 基（都城発掘調査部主任研究員）、庄田慎矢・諫早直人（考古第一研究室研究員）、小田裕樹（考古第二研究室研究員）、中村一郎（写真室主任）、栗山雅夫（写真室技術職員）、鎌倉 綾（写真室技能補佐員）

【年度実績概要】

集合住宅建設に伴う事前調査。調査面積は 460 ㎡、調査期間は 25 年 12 月 3 日～26 年 2 月 7 日。



調査区全景（北西から）

・基本層序

上から、旧駐車場の造成土（厚さ約 20cm）、旧耕作土・床土（約 20cm）、中・近世の遺物包含層（約 10cm）、西大寺の整地及び基壇土（約 20～60 cm）、奈良時代前半の整地土（約 5～10cm）、地山（暗褐色粘質土及び灰褐色粗砂）の順。遺構検出面は標高 74.90～75.10m の西大寺の整地土及び基壇土の上面である。

・検出遺構

南北棟礎石建物（西大寺金堂院東面回廊）1 棟、それに伴う南北溝 2 条（回廊東・西雨落溝）、東西溝 1 条、回廊東方の礎石建物 1 棟、瓦組井戸 1 基、整地土下層落ち込みである。検出した金堂院東面回廊は桁行 6 間以上の複廊である。柱間寸法は桁行・梁行とも 12 尺等間。礎石据付穴は一辺約 1.2～1.4m で人頭大～40cm の石を含む壺地業を行う。基壇は黄灰色粘質土と灰色砂質土を約 40～50cm 積み上げる。基壇外装は抜き取られている。

・出土遺物

西大寺東西両塔所用瓦と同型式の軒丸瓦・軒平瓦が出土した。また南北溝より奈良三彩盤片が出土したほか、金堂院東方の整地土下層から丸太材や建築部材未成品が出土した。

・調査成果

本調査により、西大寺金堂院東面回廊を検出した。また西雨落溝が調査区西北隅で西へ折れると想定されることから、本調査区北側に北面回廊が取りつくと推定される。また、回廊東方の礎石建物は文献史料に記載がなく、従来想定されていなかった建物であり、新たな知見である。また、西大寺造営以前の遺構や西大寺に関わる各遺構・整地土の重複関係から、西大寺金堂院の造営過程の実態を捉えることができた。

本調査により、西大寺の中枢伽藍である金堂院全体の配置や造営過程を明らかにする重要な手掛かりが得られた。これは、西大寺中枢部の実態に迫る上で極めて高い学術的意義をもつ。

【実績値】
論文等数：1 件（①）
①小田裕樹ほか「西大寺旧境内（弥勒金堂東方）の調査　－第 521 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈良文化財研究所、2014.6（予定）
(参考値)
出土遺物：軒丸瓦 77 点、軒平瓦 62 点、丸瓦・平瓦整理用コンテナ 476 箱、土器・土製品整理用コンテナ 13 箱、出土木材・部材 4 点。
記録作成数：実測図 20 枚（A2 判）、遺構写真 4 枚（４×５）。

【受託経費】
5,668 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8011

業務実績書(受託事業)

研№.18-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査(受託)（(１)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
森川実（都城発掘調査部主任研究員)、大澤正吾(考古第二研究室研究員)、大林潤・前川歩(遺構研究室研究員)、南部裕樹(考古第二研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫(写真室再雇用職員)、栗山雅夫(写真室技術職員)

【年度実績概要】
本調査は、法花寺町地内の水路改修に伴うものである。
調査地点：173-1 次調査地に隣接する南側。農水路が東二坊大路の東側溝の推定地に重なる。
調査目的：東二坊大路に伴う条坊側溝の確認等
調査期間：25 年 11 月 5 日（火）～12 月 6 日（金)。
調査面積：400 ㎡（全長約 100m、幅 1.5mの調査区を設定。西に 5 ヵ所、東に 2 ヵ所の計 7 ヵ所の拡張区を定
調査成果：拡張区内を中心に東側溝を調査区各所で確認。
三条条間路の想定位置にも拡張を行ったが、掘削の結果、条間路の南北側溝は調査区外に位置することが判明し、検出はできなかった。
その他、飛鳥時代頃の流路及び古墳時代の土坑を検出。
条坊側溝と関連する遺物　土師器は杯など、須恵器は杯・壺・甕などが出土しており、飛鳥時代後半に位置づけられるものである。瓦は複弁蓮華文軒丸瓦が 2 点、重弧文軒平瓦が 1 点、そのほかに丸瓦・平瓦が出土した。また、古墳時代の土坑内から土師器の壺・甕・高杯などが出土している。その他に、スクレイパー 1 点と、剥片数点があるが、所属時期は不明である。
全長約 100mにわたっての調査で、部分的にではあるが、東二坊大路の東側溝を確認することができた。調査で得られた測量値も、これまでの調査成果と矛盾せず、東二坊大路の延長に関して、より精度の高い計算値が得られた。
出土遺物：土師器・須恵器はコンテナで 4 箱分、
瓦はコンテナで 2 箱分、
石器が数点出土。


調査区全景（北から）

【実績値】
出土遺物　　軒瓦 5 点、丸平瓦 1 箱、土器 4 箱、石器 5 点、榛原石 1 点
記録作成数　遺構実測図：22 枚、写真（4 × 5）：12 枚、写真（デジタル）：56 枚
論文等数
南部裕樹「左京三条三坊の調査-第 178-7 次」『奈文研ニュース』No.52、2014.3
南部裕樹「左京三条三坊の調査-第 178-7 次」『奈良文化財研究紀要 2014』奈良文化財研究所 2014.6(予定)

【受託経費】
2,314 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8012

業務実績書(受託事業)

研 No. 18-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	本薬師寺跡、藤原京跡(右京八条三坊) 発掘調査(受託) ((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部 (藤原)	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
黒坂貴裕(都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人(考古第一研究室研究員)、南部裕樹 (都城発掘調査部アソシエイトフェロー)、井上直夫(写真室再雇用職員)、栗山雅夫(写真室技術職員)、飯田ゆりあ(写真室技能職員)

【年度実績概要】

個人住宅建設に伴い、本薬師寺旧境内の発掘調査を実施した。今回の調査地は、中心伽藍の金堂跡からみて北西にあたり、平城京の薬師寺伽藍を本薬師寺に重ねてみた場合、西面僧坊が存在する位置にあたる。また、奈良文化財研究所がかつて調査を行った、本薬師寺 1994-1 次調査地や飛鳥藤原 143-3 次調査地に隣接している。

宅地の西辺及び南辺に沿って、幅４ｍの調査区を「L」字形に設定した。南北長 18.5m、東西長 8.5mで、調査面積は 92 ㎡である。

上層遺構面では、耕作溝や近現代に深掘りされた土坑・穴・井戸を検出しただけであり、それらを掘削・除去しても、本薬師寺に関わる遺構は検出できなかった。下層では、南北２ヶ所で自然流路が検出された。北側の流路は、基盤層の砂層上面からの深さ約 40 ㎝、幅約 3.0～3.5mであり、溝幅は南西が狭く北東が広いので、この方向に流れていたと考えられる。南側の流路は、調査区内でX字状に交差して検出している。断面や断ち割りの観察では、北側の流路とは反対に東から西に流れており、錯綜した状況がうかがえる。南北の流路ともに、若干の遺物が堆積層から出土しているものの、小片であり時期を特定できていないが、確実に飛鳥時代をさかのぼるものである。

これらの流路が埋没する洪水堆積があった後、耕作が行われて、最終的に藤原宮期の遺構面を形成されたと考えられる。

今回の調査地では、中世以降に耕作が行われたようであり、近現代になって宅地に改変されている。調査区西南で検出した井戸は宅地に伴うものであり、現代の造成によって埋められている。

調査地内では、土師器・須恵器・中近世土器はコンテナで１箱分、瓦は、コンテナで３箱分が出土している。本薬師寺創建に関わる遺物として、複弁蓮華文軒丸瓦、偏向唐草文軒平瓦・偏向忍冬唐草文軒平瓦、その他に丸瓦・平瓦が出土した。また、須恵器・土師器類にも飛鳥時代に位置づけられると考えられる破片が出土している。すべて、上層の造成土・耕作土層からの出土であり、特に古代の遺構に関わって出土したものではない。

今回の調査地では、本薬師寺に関わるような飛鳥時代後半に位置づけられる遺構は存在していなかった。隣接する既調査地も同様の状況であり、西面僧坊周辺は、遺構の希薄な現況であることが追認される結果となった。



発掘調査区全景

【実績値】
出土遺物　　瓦３箱、土器１箱
記録作成数　遺構実測図：９枚、写真（４×５）：カラー6 枚・白黒 10 枚、写真（デジタル）：24 枚
南部裕樹「本薬師寺跡の調査-第 178-11 次」『奈良文化財研究紀要 2014』2014.6(予定)

【受託経費】
999 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8013

業務実績書（受託事業）

研№.24-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	京都岡崎の文化的景観保存計画策定調査（受託）（(1)－⑦）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　平澤　毅

【スタッフ】
惠谷浩子（景観研究室研究員）、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

・「京都岡崎の文化的景観保存計画書」の執筆及び図版作成、「重要な構成要素個票」作成を行った。
保存計画案策定にあたっては、現地調査（延べ 6 回）及び京都市・京都府・文化庁との協議（延べ 18 回）を行った。

・保存計画案は、「京都岡崎の文化的景観保存計画策定委員会」等（計 5 回）において報告するとともに、各委員からの意見を集約し、修正作業を進めた。

・京都岡崎の文化的景観保存計画策定委員会の議事録を作成した。

・保存計画策定に向けた普及啓発及び合意形成活動として、
(1) 白川を創る会が主催する「白川ワークショップ」の企画立案・司会進行等（計 3 回）
(2) 各種イベントの実施協力（まちあるき、古写真展、中学校ワークショップ）
(3) 地域住民への説明会（計 2 回）
(4) 白川ワークショップ成果をまとめた冊子「白川こみちの栞」の作成・印刷
等を行った。



保存計画書と重要な構成要素個票



古写真展の実施

【実績値】
保存計画書：1 点
保存計画重要な構成要素個票：1 式
普及啓発事業：8 回
地域配布印刷物：1 点
デジタル写真：487 点

【受託経費】
2,153 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8014

業務実績書（受託事業）

研№.24-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	相川地区文化的景観保存計画策定調査（受託）（(1)－⑦）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　平澤　毅

【スタッフ】
惠谷浩子（景観研究室研究員）、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）、大平和弘（前遺跡整備研究室アソシエイトフェロー）、鎌倉　綾（写真室技術補佐員）

【年度実績概要】

・「佐渡相川の鉱山都市景観保存調査報告書」作成に向けた補足調査、編集協力、原稿執筆及び大判写真撮影等を行った。また、あわせて、「佐渡相川の鉱山都市景観全覧図」の作成を行った。

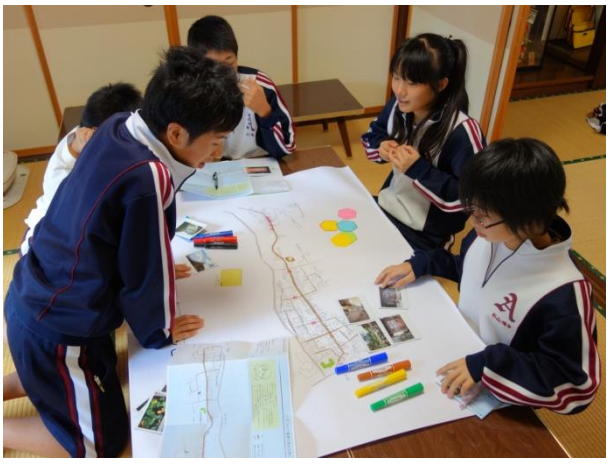
・「佐渡相川の鉱山都市景観保存計画書」の執筆及び図版作成、「重要な構成要素個票」作成を行った。
保存計画案策定にあたっては、現地調査（延べ 10 回）及び新潟県・佐渡市との協議（延べ 20 回）を行った。

・普及啓発活動として、
(1) 地元向けの刊行物「あいかわらばん」の編集・印刷（年 9 回）
(2)「あいかわ発見まっぷ」（上町編・下町編）の作成・印刷
(3) 普及啓発パンフレットの編集・印刷
(4) 各種イベントの実施協力（まちあるき（あいかわ発見まちあるき）、写真展（あいかわ発見展）、中学校ワークショップ）等
を行った。

・普及啓発及び合意形成のための住民座談会「あいかわ座談会」の開催に協力し、各回への参加及び説明等を行った（延べ 15 回）。

・「佐渡金銀山調査指導委員会（文化的景観専門分野会議）」へ出席し、資料説明等を行った（年 3 回）。

・「佐渡金銀山世界遺産学術委員会」へオブザーバーとして出席し、文化的景観保存と世界遺産の取組をつなげるための情報収集を行った。



相川中学校とのワークショップの実施



取組の一環としての刊行物（作成協力）

【実績値】
保存計画書：１点
保存計画重要な構成要素個票：１式
普及啓発パンフレット：2 点
普及啓発関連地域配布物：11 点
報告会発表件数：5 件
デジタル写真：643 点

【受託経費】
5,886 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8015

業務実績書（受託事業）

研№24-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平成 25 年度長良川流域の文化的景観における普及啓発事業支援業務委託（受託）（（１）－⑦）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　平澤　毅

【スタッフ】
惠谷浩子（景観研究室研究員）、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）

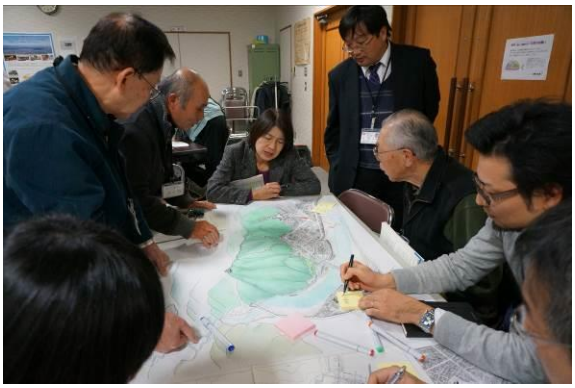
【年度実績概要】

・重要文化的景観選定の答申を受けた「長良川中流域における岐阜の文化的景観」の全覧図を作成した。なお、全覧図の作成にあたっては、現地調査（延べ 4 回）及び岐阜市との協議（延べ 2 回）を行った。

・重要文化的景観の選定に向けた住民対象のワークショップの運営（企画立案・司会進行等）を行った。
ワークショップは計 4 回実施し、その間、ワークショップ成果を簡単にまとめた地域配布チラシも作成した。



作成した全覧図



全覧図を用いたワークショップの様子

【実績値】
全覧図：１点
住民対象のワークショップ：4 回
地域配布印刷物：１点

【受託経費】
490 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8016

業務実績書(受託事業)

研№26-1

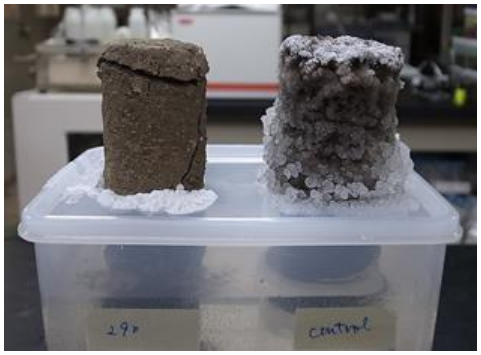
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	元町石仏が彫刻された凝灰岩の不飽和水分移動特性に関する研究（受託）((1)－⑧－イ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員)、脇谷草一郎、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

大分県大分市に位置する史跡大分元町石仏は、軟弱な溶結凝灰岩から構成される段丘崖の底部に彫刻された磨崖仏である。冬期に石仏表面において多量の塩類（硫酸ナトリウム）が析出するため、塩類風化による石仏の劣化が深刻な状況にある。

石仏には古くから覆屋（お堂）が設けられていたため、石仏表面は常に水分蒸発の場となってきた。そして、石仏表面で蒸発する周辺の浅層地下水は多量の溶質を含み、これらが乾季に塩として析出する際に石仏の塩類風化を引き起こすと考えられる。さらに、高湿度時期に塩は潮解して再び岩内部へ浸透するため、塩は石仏表層に濃集していると推察される。従って、元町石仏の保存方法を検討するためには、石仏が彫刻された凝灰岩の水分移動特性を把握することが不可欠である。



塩析出促進実験（左：撥水処理、右：無処理）

本研究では、円柱状に整形された凝灰岩の下部を水に浸して給水し、γ線水分計を用いて、凝灰岩の含水率鉛直分布を一定間隔で測定した。このときの含水率測定結果に対して逆解析を行い、既存の水分移動モデル（ここでは van Genuchten-Mualem モデルを使用）のフィッティングパラメータを推定した。

また、石材の保存処理では基質強化及び撥水処理が頻繁に実施されるが、これらの処理は遺物表面の水分移動特性を大きく変化させるものである。元町石仏のように塩を含んだ水分の供給源を有する場合には、塩の析出による遺構の劣化に対して、むしろ逆効果を示す場合が危惧される。そこで、本研究では、同様に円柱状に整形された石材試料をもちいて、無処理のもの、及び撥水処理を施したものに対して、塩類析出促進実験を行った。

その結果、無処理試料では試料表面全体から塩が析出するものの、石材表面からは粉状化した石材が落下するにとどまった。一方、撥水処理を施した試料では、石材表面から塩の析出は認められないが、石材表層が層状に大きく剥離した。以上の結果から、本石仏においては、表面の撥水処理は適切なものとはいえず、昨年度に実施したフェイシング材料を使用する脱塩方法を実施すべきと考えられる。

【実績値】
分析点数：6 点
事業報告書：1 件
『元町石仏が彫刻された凝灰岩の不飽和水分移動特性に関する研究』2014.3

【受託経費】
498 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8017

業務実績書(受託事業)

研№26-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う環境調査(受託)（(1)－⑧－イ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員)、脇谷草一郎、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

宗像市に位置する田熊石畑遺跡では、弥生時代中期前半頃の６基の墳墓全てから、計 15 点の銅剣、銅矛及び銅戈の青銅製品が出土している。しかし、墓域には未だ発掘調査が行われていない墳墓が存在し、これまでの調査結果から、それらの墳墓にも青銅製品が埋蔵されている可能性が非常に高い。

昨年度は、遺跡を構成する土壌の熱と水分の移動特性に関する物性値を捉え、現状と盛土をした場合での熱と水分移動の解析を行って、盛土による埋蔵環境の改善方法を検討した。

今年度は、埋蔵環境に大きく影響を及ぼす外界気象条件の測定と、土中の埋蔵環境についての実測調査を開始した。具体的には、外界気象条件として、

・外気温度及び湿度
・大気圧
・水平面全天日射量
・降水量
・風向及び風速

について測定を開始した。また、土中の埋蔵環境として、金属製遺物の腐食に大きく影響を及ぼす因子である酸素濃度と水分量の測定を開始した。

今後は、外界気象条件が最低でも１年間分測定された段階で、あらためて数値解析を実施するとともに、埋蔵環境を模して金属製遺物の腐食に関する室内実験を実施する予定である。


気象観測装置


土中観測装置

【実績値】

事業報告書：1 件
『国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う環境調査業務委託』2014.3

研究発表：１件
脇谷草一郎・高妻洋成「田熊石畑遺跡における青銅器埋蔵環境の変遷に関する研究」日本文化財科学会第 30 回大会、2013.7

【受託経費】
821 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8018

業務実績書（受託事業）

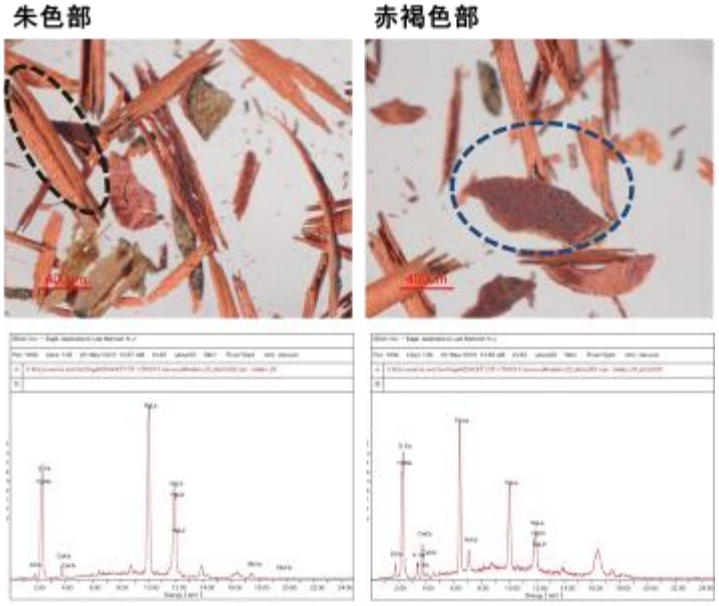
研№.26-3

中期計画の項目	4　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	建中寺における文化財建造物の彩色塗装材料の調査研究（受託）（(1)－⑧－イ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎・田村朋美（以上、保存科学修復研究室研究員）、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、赤田昌倫（保存科学修復研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
名古屋市建中寺の複数の文化財建造物について、修理に伴う塗り直しを前提とした彩色塗装材料の調査を行った。その結果、展色材については漆と膠を、色料としては顔料と染料が使用されていることを明らかにした。

- 赤色塗装について複数の部材から試料採取し分析を行った結果、透塀柱と拝殿格縁からは漆が検出された。渡殿の垂木からは展色材に関連する分析結果は得られなかった。
- 色料については、透塀柱には鉄系赤色顔料が用いられていることがわかった。拝殿格縁については下層から鉄系赤色顔料が、上層からは水銀朱が検出された。また、こぶし鼻については、赤色の顔料粒子が認められない点や分光分析の結果から、染料（えんじ）が使用された可能性があることがわかった。
- 本殿木負は緑色塗装で施工されている箇所があり、濃い緑については緑青が、淡い緑については白緑が使用されていることがわかった。



【実績値】
報告書：1 件
『建中寺における文化財建造物の彩色塗装材料の調査研究報告書』2014.3
分析点数：14 点

【受託経費】
297 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8019

業務実績書(受託事業)

研№27-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	史跡ガランドヤ古墳１号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究(受託)（(1)－⑧－ウ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員)、脇谷草一郎、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

日田市に位置する史跡ガランドヤ１号墳では、奥壁を中心に、装飾が描かれた石材表層の剥離が進行している。剥離による石材の劣化は、石材表面における結露の発生と乾燥を繰り返す“乾湿風化”、及びそれに伴う析出物の発生が主要因と考えられる。従って、石材の劣化を抑制し、装飾を保存するためには、結露の発生を抑制することが重要である。

現在、ガランドヤ１号墳では整備工事が進行中であり、露出した石室を覆うコンクリート製躯体の建設が進められている。今年度は、これまで石室横に設置されていた気象観測の装置を着工に際して移設し、外界の気象条件、及び石室内の温熱環境について実測調査を継続している。



移設された気象観測装置

また、今年度も引き続き石室内の結露発生を抑制する手法として、数値実験による石室内空気への加熱と、躯体内部空間の地表面への断湿材の適用について検討した。冬期は積極的な換気、夏期は換気を抑制することで、石室内空気は絶対湿度は年間を通して低い値を維持し、室空気の温度は年周期の振幅が小さな安定した状態を維持できる見通しが得られた。

特に、(1)夏期に石室内空気に対して熱源を使用することで、石材表面温度を上昇させ、結露発生のリスクを軽減し得ること、(2)冬期の湿気のソースは土壌からの水分蒸発と考えられるが、石室床面と比較して圧倒的な面積を占める躯体内部空間の地表面を断湿とすることで、冬期の絶対湿度を低下させることが可能となり、躯体内側表面の結露を抑制し得ることが推定された。従って、夏期の熱源の使用と地表面の断湿は、ガランドヤ古墳の保存環境制御において非常に効果的と考えられる。以上の結果は、今後整備が実施される他の古墳の保存方法を検討する上で、有益な知見を提供するものといえる。

【実績値】
事業報告書：1 件
『史跡ガランドヤ古墳１号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究』2014.3
論文：1 件
脇谷草一郎・高妻洋成「史跡ガランドヤ古墳の保存に関する研究―石室保護施設の設置による結露性状変化の検討―」『奈良文化財研究所紀要 2013』2013.6

【受託経費】
398 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8020

業務実績書(受託事業)

研№29-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	ネットワーク型遺跡調査システムの開発（受託）（(2)－②）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	主任研究員　金田明大

【スタッフ】

【年度実績概要】

・　独立行政法人科学技術振興機構（JST）の受託事業として、（株）ラング、岩手大学、宮古市教育委員会、（有）三井考測と共同で、東日本大震災復興関連の埋蔵文化財発掘調査における記録成果の質的な向上と効率化を目的とするネットワーク型遺跡調査システムの開発を実施し、技術及び行政的な観点から、開発担当である（株）ラングと岩手大学に助言を行った。

・　福島県及び本研究所の発掘調査現場などで、計測試験を実施した。

・ 

計測試験例

【実績値】

計測試験地点：４地点

成果報告：１件

JST マッチング促進プログラム中間報告会「ネットワーク型遺跡調査システムの開発」（2013.11.7、JST 盛岡）

【受託経費】

368 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8021

業務実績書(受託事業)

研№29-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	鬼ノ岩屋古墳総合的探査委託業務（受託）((2)－②)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	主任研究員　金田明大

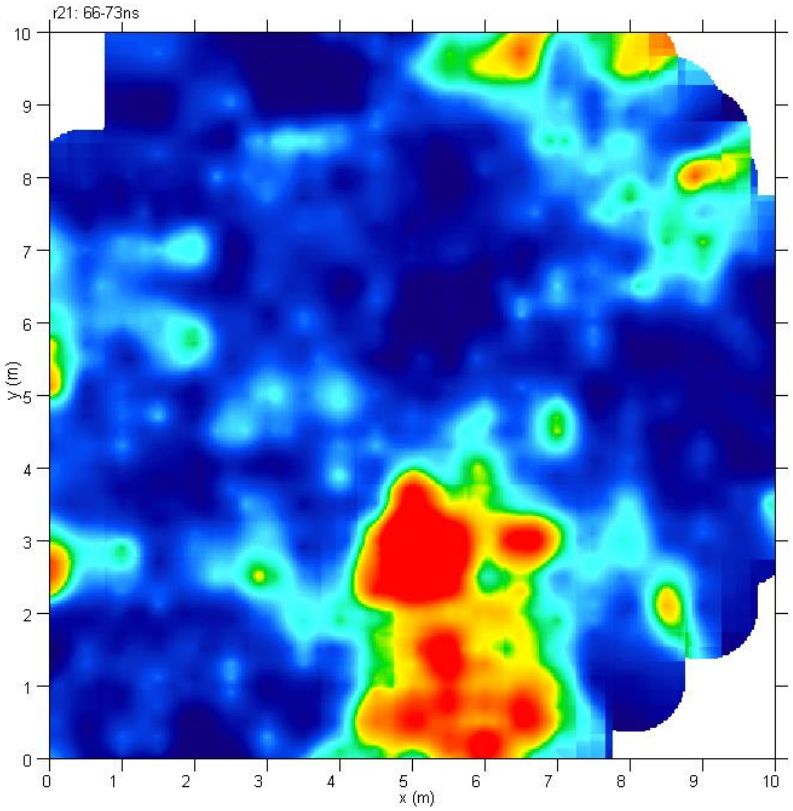
【スタッフ】
西口和彦（桜小路電機、客員研究員）

【年度実績概要】

大分県別府市に所在する鬼ノ岩屋古墳群は、複室構造の石室を有する２基の古墳が現存し、壁画をもつ古墳として国史跡に指定されている。これらの古墳の保全を目的とした調査の一環として、石室周辺の構造や墳丘の状況を検討するため、別府市からの受託調査として、物理探査を共同で実施することとした。

現地作業は２月 16～21 日に行った。草刈りなどの環境整備から開始し、測線設定の後、270MHz と 400MHz のアンテナを用いた地中レーダー探査と、Wenner 法の電極配置による電気探査を実施した。

成果は現在解析中であるが、石室西側に異常部の存在が指摘でき、風倒木や土砂の流出などによる可能性が高い。また、石室の控え積みはそれほど幅広くはないことが予想される。今後、さらに処理を進めていく予定である。



計測成果例（赤い反射部分が石室）

【実績値】
計測試験地点：２地点
成果報告：１件
『鬼ノ岩屋古墳総合的探査報告』

【受託経費】
800 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8022

業務実績書（受託事業）

研№.30-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	宝城坊本堂の年輪年代調査（受託）（(2)－③）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　難波洋三

【スタッフ】
大河内隆之（埋蔵文化財センター主任研究員）、星野安治（年代学研究室研究員）、児島大輔（年代学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

・　神奈川県伊勢原市・宝城坊本堂（重要文化財）の解体修理工事に伴い、同堂部材の年輪年代調査を行った。また、同堂の建築部材の樹種同定調査及び放射性炭素年代測定調査もあわせて実施した。

・　現地調査を 3 回、延べ 13 日間行った。年輪年代調査に際しては、高解像度のデジタル一眼レフカメラを用いて各建築部材の年輪計測用画像を撮影し、当研究室においてデジタル画像を用いた年輪計測を行う方法を採用した。現地調査では、82 部材を調査対象とした。

・　樹種同定調査は、現地で建築部材の小片を採取し、これを当研究室に持ち帰って、木口・柾目・板目の 3 断面の透過標本（木材組織プレパラート）を作製し、生物顕微鏡で観察する方法で実施した。調査は 23 部材を対象とした。

・　放射性炭素年代測定調査については、現地で微量の試料を採取して測定に供した。調査は 15 点の試料を対象とした。同調査は、樹種や年輪数が年輪年代調査に不向きな部材を対象とすることで、両調査方法がお互いに補完しあい、より精度の高い年代情報を多くの部材から得るために行った。なお、同調査では、試料採取及び計測結果の解釈等において、国立歴史民俗博物館教授・坂本稔、武蔵大学総合研究所・中尾七重両氏の協力を得ている。

・　以上の調査により、現在の宝城坊本堂が鎌倉時代に遡る前身建物の部材を転用していることがほぼ確実となった。このほか、修理の履歴をあとづける年代についても明らかとなっており、同堂の建築史的理解に不可欠な年代情報を得ることができた。



宝城坊本堂飛檐垂木の年輪年代調査風景

【実績値】
年輪年代調査点数：82 点。
樹種同定調査点数：23 点。
放射性炭素年代調査点数：15 点。

【受託経費】
1,683 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8023

業務実績書（受託事業）

研№.30-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝薬師寺東塔木材年代測定業務（第１回）（受託）（(2)－③）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	年代学研究室研究員　星野安治

【スタッフ】
児島大輔（年代学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

・　国宝薬師寺東塔の解体修理工事に伴い、同塔構成部材の年代測定を行って、建立年代及び建立後の修理経過を推定する資料を得るための調査を実施した。
・　対象部材は、奈良県職員と協議の上、樹皮・辺材の有無等に注視するほか、当初材は無論のこと、いわゆる中古材と分類される材や近世以降の修理材と目される部材も含めて、可能な限り悉皆的に調査することを旨とした。
・　年輪年代測定は、ヒノキ、スギ及びケヤキ材のうち、水平断面（木口）もしくは放射断面（柾目）で年輪数 100 層以上確認し得るものを優先した。選定部材のうち、153 点について年輪計測用画像を高精細カメラで撮影した。
・　放射性炭素年代測定は、辺材が残存していること、年輪数が少ないこと、また暦年の確定した日本産樹木の年輪変動パターン（暦年標準パターン）の整備されていない樹種であることを基本選定条件とし、10 点の部材について試料を採取した。



薬師寺東塔の年輪年代調査

【実績値】
年輪年代調査点数：153 点
放射性炭素年代調査点数：　10 点

【受託経費】
1,906 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8024

業務実績書(受託事業)

研№31-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平成 25 年度小竹貝塚出土動物遺存体同定調査業務（受託）((2)－④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	研究員　山崎健

【スタッフ】
丸山真史（前橿原考古学研究所非常勤職員、客員研究員)、菊地大樹（前アソシエイトフェロー、客員研究員）

【年度実績概要】

・　小竹貝塚の発掘調査で出土した 55,439 点の動物遺存体（縄文時代前期中葉～末葉）を同定した。同定された分類群は、魚類 40 分類群、両棲爬虫類 3 分類群、鳥類 19 分類群、哺乳類 28 分椎群の合計 90 分類群である。

・　魚類は 29,596 点を同定した。スズキ属、クロダイ属、コイ科が多く出土し、主に汽水域～淡水域で漁獲していたと推定される。

・　鳥類は 594 点を同定した。カモ亜科やカイツブリ科が多く出土し、主に汽水域～淡水域で狩猟していたものと考えられる。

・　陸棲哺乳類は 8,059 点を同定した。ニホンジカが多く、次いでイノシシ、イヌ、タヌキ、カワウソ、キツネが出土した。また、発掘調査で 16 個体の埋葬犬が検出されていたが、整理作業でも 5 個体について埋葬犬の可能性が高いと判断した。

・　海棲哺乳類は 3,152 点を同定した。クジラ目はカマイルカとマイルカ属が主体であり、そのほかハナゴンドウ、ハンドウイルカ、シャチが含まれていた。鰭脚亜目ではニホンアシカを同定した。

・　分析結果をまとめると、魚類ではクロダイ属・スズキ属・コイ科、鳥類ではカモ亜科・カイツブリ科、哺乳類ではカワウソなど、遺跡至近に広がる汽水域～淡水域に生息する動物が多く出土している。

　遺跡周辺の古環境を考慮すると、小竹貝塚では遺跡至近の汽水域～淡水域において狩猟や漁撈といった生業活動を行っていたと考えられる。一方で、カマイルカやマイルカ属といったイルカ類を積極的に獲得しており、富山湾に季節的に来遊したカマイルカの群れを対象とした漁撈活動を行っていたことがわかる。また、背後の呉羽丘陵などでは、ニホンジカを中心とした狩猟活動が推測される。

・　小竹貝塚が形成された縄文時代前期中葉～末葉は、縄文海進の影響で沿岸環境が大きく変容していたと推測されるが、小竹貝塚における狩猟や漁撈といった生業活動は、基本的に変化しなかったことが明らかとなった。



小竹貝塚から出土したイルカ類の骨

【実績値】
分析点数：55,439 点

【受託経費】
8,756 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8025

業務実績書(受託事業)

研№.31-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務（受託）（(2)－④）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	研究員　山崎健

【スタッフ】
丸山真史（前橿原考古学研究所非常勤職員、客員研究員）、松崎哲也（京都大学大学院生）

【年度実績概要】
・　堂の前貝塚（岩手県陸前高田市）から出土した動物遺存体の分析を行った。
・　動物遺存体の保存状態が良好でなく、脆弱な資料が多かったため、資料の状態に応じてパラロイド B-72（アセトンで 5～10%に希釈）を使用して補強した。
・　採取された土壌については、微細資料が含まれている可能性があるため、フルイを用いて土壌選別を行った。
・　貝類 65 点、魚類 166 点、哺乳類 135 点の計 366 点の動物遺存体を同定した。
・　現場採集資料では、貝類はマガキやチジミボラ、哺乳類はニホンジカとイノシシが多く出土し、魚類はマグロ属に集中した。水洗選別資料では、貝類はイガイ科、魚類はニシン科などが多く出土した。
・　土壌選別により、これまで堂の前貝塚では知られていなかった非常に小さな釣針を検出することができた。



堂の前遺跡から出土した脆弱資料の強化処置

【実績値】
分析点数：366 点

【受託経費】
590 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8026

業務実績書(受託事業)

研№31-3

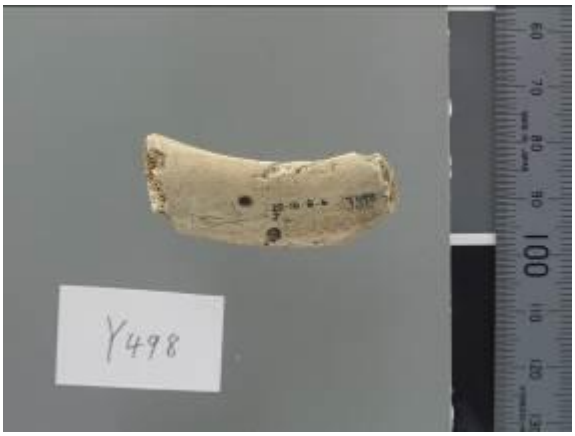
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	陸前高田市立博物館所蔵骨角器抜本修復業務（受託）（(2)－④）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎・田村朋美（保存修復科学研究室研究員）、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、赤田昌倫（保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
- 陸前高田市立博物館所蔵骨角器は東日本大震災の大津波により被災したのち、奈良文化財研究所で応急処置を施し保管している。その恒久的保存と活用を図るため、昨年度に引き続き、当該資料の抜本修復を行った。
- 被災した骨角器について、素材の種類及び部位を同定した。また、骨角器の器種名を付与し、骨角器資料一覧を作成した。
- 骨角器はアルコール等の滅菌剤を用いて滅菌を行った。津波により付着したヘドロなどは、エチルアルコール、酢酸エチル、アセトンにより除去した。
- 骨角器表面に付着している黒色物質については、その一部が油脂性物質であることがわかった。これは被災時に付着した重油ではなく、アスファルトの可能性が考えられたため、脱塩及びクリーニング時には注意して処理を行った。
- 骨角器に含まれる塩分を超純水により除去した。塩分の除去量を確認するため、イオンクロマトグラフィによる塩化物イオン濃度の測定を行い、塩分の除去後、遺物を損傷しないよう乾燥処置を施した。
- 脆弱な遺物に対しては、アクリル樹脂（商品名：パラロイドＢ72）の 5%アセトン溶液を用いて強化処置を施した。破損した資料で接合可能なものは、アクリル樹脂により接合を行った。
- 個々の骨角器の保存修復の記録を作成した。



アスファルト状物質の付着状態



脱塩後の骨角器

【実績値】
報告書：1 件
『平成 25 年度 陸前高田市立博物館所蔵骨角器抜本修復業務における脱塩作業報告』2014.2
処理点数：830 点

【受託経費】
3,198 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8027

業務実績書(受託事業)

研№31-4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	東名遺跡出土動物遺存体調査(受託)((2)－④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	前埋蔵文化財センター長、客員研究員　松井章

【スタッフ】
大江文雄（愛知県環境審議会専門調査委員、客員研究員）、丸山真史（前橿原考古学研究所非常勤職員、客員研究員）

【年度実績概要】

東名遺跡群の貝塚からは多数の動物遺存体が出土しており、これまでに甲殻類、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類の同定を行い、報告してきた。魚類には、骨以外に耳石が多数含まれ、今年度の受託研究ではこの耳石の魚種同定を行った。

耳石は約 1,000 点が出土しているが、今年度はそのうち 500 点の種同定を行い、９科 12 種を同定することができた。スズキ科、ニベ科、タイ科、ボラ科が中心であり、これら４種類で全体の 89.4%を占めている。出土した耳石が、この４種類に集中していることは、極めて選択的な漁労か、漁労水域の環境を反映している。また、最小で１㎜目のフルイを用いて、貝層の土壌を水洗選別しているにもかかわらず、採集した耳石にはイワシ類やハゼ科などの小型個体が少ないことが特徴的であり、中型～大型魚に集中した漁労が営まれていたことを示している。

注目されるのは、現在の有明海に生息しない大型のニベ科の一種であるホンニベ（Miichthys miiuy）の耳石が含まれていることである。最も大きなものでは耳石長が 30.4 ㎜を測り、体長２ｍ前後と推定される。現在の黄海や東シナ海では、体長 40～50 ㎝程度の個体が一般的に漁獲される大きさであり、体長２ｍのホンニベは稀な大きさといえる。出土したホンニベの耳石長の平均は 24 ㎜程度で、これに近い大きさの個体が約 90 点出土しており、耳石総数の 8.9%を占める。魚体の大きさが比較的揃っていることから、産卵期に河口に集まってきた個体を狙って漁獲していたと考えられる。

これまでに同定した東名遺跡群出土の魚骨ではニベ科は少なかったが、今回、耳石ではニベ科が多数出土していることが明らかとなり、また現在の有明海に生息しないホンニベを同定できたことは、当時の漁労の実相に迫るだけでなく、有明海の古環境を復元する資料としても重要である。



ホンニベ(Miichthys miiuy)の耳石

【実績値】
魚種同定点数：500 点

【受託経費】
435 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8028

業務実績書(受託事業)

研№.37-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	水浸した日本画の修復方法に関する調査研究（受託）((3)－④)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　岡田健

【スタッフ】
早川泰弘（分析科学研究室長)、早川典子（主任研究員)、山田祐子（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー)、楠京子（アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

本調査研究は、東日本大震災において水浸した日本画について、過去の修理において通常の伝統的材料とは異なる接着剤が使用されているものが発見されたため、当研究所が茨城県鹿嶋市との契約を結び、再現実験や劣化の分析を行い、適切な処置方法の検討を行おうとするものである。

昨年度、対象作品である両界曼荼羅図について、旧総裏紙を接着している接着剤を分析し、ポリエチレン一酢酸ビニルの共重合体であることを確認している。この材料はシクロヘキサンを使用することで剥離可能なことも確認できている。本年度は、総裏を除去した場合に残る肌裏紙について検討した。

この肌裏紙は旧修理時には打ち替えていないため、劣化した澱粉糊と思われる接着剤により辛うじて接着されている現状であることが確認された。この肌裏紙を除去するか否か、また除去する方法について本年度、調査を行いつつ検討した。

その結果、肌裏紙を除去した上で、本紙の本格修理を行うことを決定した。

具体的な作業は、顔料の剥落どめを行った後に水によるクリーニングをし、肌裏紙の除去を行うもので、作業者に対する適切な助言を行った。



水によるクリーニング作業

【実績値】

【受託経費】
300 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8029

業務実績書(受託事業)

研№.37-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業（受託）((３）－④)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】
山梨絵美子（企画情報部副部長)、佐野千絵（保存科学研究室長)、森井順之（主任研究員)、江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員)、二神葉子（企画情報部情報システム研究室長)、皿井舞（主任研究員)、菊池理予（無形文化遺産部研究員)、今石みぎわ（研究員)

【年度実績概要】
本調査研究は、文化庁からの受託事業である。25 年度、26 年度の 2 カ年間で実施される。
23 年 3 月に発生した東日本大震災を受け、被災各地で行われた被災文化財等の緊急保全活動について全容を把握し、今後予想される大災害等が発生した際の初動対応等の指針を策定する際に提供できるよう情報整理を行った。主な事業としては、①東日本大震災を受けて実施された文化財（美術工芸品）等の緊急保全活動の実績のとりまとめ、②①の活動により緊急保全された文化財等の保管状況や修復状況の調査、③全国組織の文化財・美術等関係団体、地域の資料保全に関わる団体等の災害に対する対応策の現状調査、から成る。

①　文化庁による文化財レスキュー事業の 2 年間の活動において救援委員会が作成・集積した資料の整理・分析
今年度は活動日報（全 914 件）及び写真（26,933 件）の情報整理を行った。活動日報については、対象となる施設、被災資料分類など項目を新たに設けることで、ある対象施設において必要な人員、時間、物資についてデータベースから分析可能となるようにした。また、写真ファイルにも位置情報などを付加することで、活動日報データベースと情報共有ができるようにした。また、村井源氏（東京工業大学）の協力を得て、活動日報データベースのビッグデータ解析に着手した。また、総合博物館（大規模館)、地域の歴史資料館（小規模館）のモデルケースを作成し、津波被災による被害状況、および救援活動に必要な人員・時間・物資等の解析を行った。

②　文化財レスキュー事業により緊急保全された文化財等の保管状況や修復状況に関する調査
今年度は福島県浜通りにおける救援活動が行われ、一時保管場所となる旧相馬女子高等学校における保存環境について指導助言を行った。また、宮城県石巻文化センター被災資料の一時保管施設となっている旧石巻市立湊第二小学校の保存環境に関する調査を実施した。

③　災害時の対応策についての調査
本調査については第 2 年次に実施予定であるが、進めるうえでの情報収集を開始した。



石巻文化センター被災文化財一時保管施設の環境調査

【実績値】
受託研究報告書「文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業報告書」　26.3　1 件

【受託経費】
3,412 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8030

業務実績書(受託事業)

研№.39-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	絵金屏風の保存修理に関する調査研究（受託）((３)－⑤)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　岡田健

【スタッフ】
朽津信明（修復材料研究室長)、早川典子（主任研究員)、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長)、山田祐子（アソシエイトフェロー)、楠京子（アソシエイトフェロー)、

【年度実績概要】

燻蒸事故により汚損された絵画の保存修復に関係して、調査研究を行った。
これは、通常の汚損事故とは異なり、燻蒸薬剤による化学反応で作品に使われていた色料が変色・変化をした状況で、作品のみならず作業者の安全を図るため、当研究所が事故当事者である熊本市現代美術館との契約において実施するもので、この結果をもとに修理技術者が慎重な作業を行っている。

概要は以下の項目である。
(1)クリーニング手法の研究と、今後の顔料の変化に関する分析研究
エメラルドグリーンが使用されていた部分については､サクションテーブルを用いて一部分ずつ吸引濾過を行いながら水による洗浄をすることで、絵画に付着した汚れ物質を除去した。洗浄に使用した水の pH を測定しつつ行い、pH が中性になる時点を洗浄終了の目安とした。
この作業の終了後にイオン交換水を噴霧器で噴霧し、作品の下に敷いた吸取紙に吸い取り、全体のクリーニングとした。

(2)高精細画像の撮影
クリーニング作業終了後に企画情報部写真室により対象作品の高精細画像を撮影した。

(3)株式会社修護により行われている保存修理への指導助言
上記クリーニング作業に関する調査を行い、作業方法の提案を行った。また、クリーニング終了後の肌裏の除去時に、汚損物質による肌裏紙の固着が見られたため、その部分の元素分析を行った。



クリーニング作業を終了し、pH 調整後の裏打ち作業

【実績値】

【受託経費】
199 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8031

業務実績書(受託事業)

研№.39-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	松平定信≪細写 物語歌書『源氏物語』≫の収蔵箱の保存に関する調査研究（受託）((3)-⑤)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存科学研究室長　佐野千絵

【スタッフ】
山下好彦（文化遺産国際協力センター任期付研究員）、石井美恵（客員研究員・染織品修復家）

【年度実績概要】

松平定信≪細写 物語歌書『源氏物語』≫収蔵箱の装飾技法と構造に関する調査及びその修復処置に関する技法的研究を進めるため、桑名市博物館からの受託調査研究を受け入れた。

収蔵箱は背面に蝶番を打ち、観音開きになる形式で、内部に棚を設ける。棚の上には歌書を引き出すための引手のついた台をそれぞれの段に置く。棚の表面に格子状の枠を設けて紗を貼り、周囲に金紙を廻す。正面には裏側に裏箔した鼈甲を貼り、月型の彫金を取り付ける。素地は鉄刀木製の指物造りで、さくらの花を木地蒔絵する。正面には留金具、天板には提金具、箱の角に隅金具を打つ。

現状は、木地の収縮により木地接合部が外れ段差ができていた。また、木地表面に数か所亀裂があり、大きいところでは幅 2～3 ミリ程度の割れが認められた。鼈甲は著しく剥離し、彫金も一部で外れていた。蝶番部分には後世修理と考えられる釘が打たれ、鼈甲は合成樹脂で接着されていると考えられる。棚の前面の銀糸を織り込んだ紫絹紗を張った内扉については、片側の絹紗（A）は一部裂けているが残っているものの、もう片方の絹紗（B）は桟にわずかに糸を残すのみでほとんど失われていた。

修復方針としては、木工、漆工部分は現状維持修理を基本とし、展示効果を考えて木地割れや亀裂部分は充填後に色調整を行った。また蝶番取り外しの際に、後世修理の釘等で損傷などの問題が生じた場合は釘を復元した。染織部については、絹紗（A）の欠損が広がらないように補修した。絹紗（B）は蒔絵箱を開いて展示するには見栄えが悪く、現状では残糸がさらに失われる可能性が高いため絹紗（A）に類似した布を復元し、残糸をそこに補強したうえで張り込んだ（見た目は復元されるが、技法と素材を変えることで後補であることが分かるようにした）。



刺繍部分の目視調査と打ち合わせ

【実績値】
修理件数　1 件

【受託経費】
539 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8032

業務実績書(受託事業)

研№42-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）((4)－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　岡田健

【スタッフ】
佐野千絵（保存修復科学センター保存科学研究室長)、木川りか（生物科学研究室長)、早川泰弘（分析科学研究室長)、朽津信明（修復材料研究室長)、北野信彦（伝統技術研究室長)、吉田直人（主任研究員)、犬塚将英（主任研究員)、佐藤嘉則（研究員)、早川典子（主任研究員)、森井順之（主任研究員)、酒井清文（客員研究員)、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長)、加藤雅人（主任研究員)、山田祐子（アソシエイトフェロー)、楠京子（アソシエイトフェロー)、大河原典子（客員研究員、日本画家)、前川佳文（客員研究員、壁画保存修復士)

【年度実績概要】

○生物及び環境関連研究

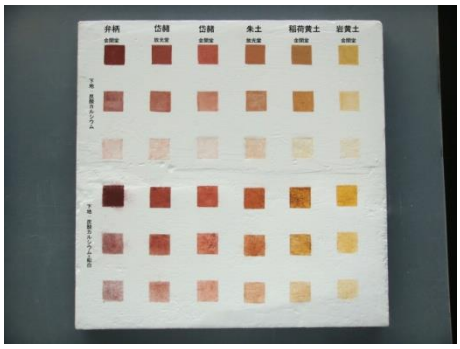
・高松塚壁画修理施設の修理作業室等において、定期的に害虫トラップを設置し、浮遊菌調査を実施し、環境の清浄度を確認するモニタリングを継続実施している。修理作業室とそれ以外の修理施設内各所における温湿度の測定も継続して行っている。昨年度、作業室で再びチャタテムシが捕獲されたことから、チャタテムシに関する詳細な調査を実施するとともに、温湿度状況との関連を検討した。25 年 8 月までは施設内の湿度が高かったが、25 年 8 月の空調機のメンテナンスを経て、この湿度上昇の問題が解消されたことを確認した。
・茨城県ひたちなか市虎塚古墳で、石材表面に発生した微生物バイオフィルムの解析と UV 照射による除去方法の検討を行った。
・福岡県うきは市珍敷塚古墳および日岡古墳で装飾古墳の保存環境調査を継続実施した。珍敷塚古墳では保存庫内の温湿度計測を継続するとともに、うきは市が定期的に実施するモニタリングへ指導助言を行った。日岡古墳では、冬季に発生する保存施設の内壁の結露への対策を講じるため、保存施設の壁面温度の計測を行った。

○修復関連研究

・高松塚古墳壁画のクリーニング方法として、以前より行ってきた紫外線照射に加えて酵素を利用した除去方法について検討した。バイオフィルムの分解を目的として酵素を利用するための準備作業として、漆喰や顔料、また修復材料に対する酵素の影響評価を行い、顔料等の色みに変化がないことを確認した。また、酵素を使用する場合の修復材料を選択し、実際の修復処置に適用した。
・高松塚古墳壁画に使用されている石灰漆喰を、石材への密着性や強度、現実的な施工手順といった面から捉え、材料の特定や調合分量を考慮したうえでの再現を目指した研究を行なった。日本国内において、石灰漆喰が残存する装飾古墳を視察した。石槨内に残る漆喰片の残留状態や残存箇所、またそれらを取り巻く保存環境に着目し、本研究の参考資料とした。現在の左官技術者の協力を得て、現地調査を行い、石灰漆喰への粘材及び骨材の有無による乾燥後の状態観察、石質板支持体を用いた場合の密着強度への影響などについての確認も行った。

○材料技法研究

・奈良文化財研究所との共同により、高松塚古墳壁画に対する可視近赤外分光光度計・蛍光Ｘ線分析装置による顔料の分析調査、及びマクロ撮影による状態調査を実施した。
濃度の差異による可視光や蛍光 X 線の検出感度を検討した。



高松塚古墳壁画人物群像の衣部分に使われている赤色、黄色に関する基礎実験用色材試料

【実績値】

【受託経費】
4,287 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8033

業務実績書(受託事業)

研№42-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）（(4)－①）		
【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　岡田健

【スタッフ】
佐野千絵（保存修復科学センター保存科学研究室長）、木川りか（生物科学研究室長）、早川泰弘（分析科学研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、吉田直人（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、加藤雅人（主任研究員）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、楠京子（アソシエイトフェロー）、大河原典子（客員研究員、日本画家）、前川佳文（客員研究員、壁画保存修復士）

【年度実績概要】

○生物環境関連研究
・25 年 9 月下旬のキトラ古墳の整備作業開始までの間、古墳石室内、小前室の点検を継続し（奈良文化財研究所が現地で担当）、温湿度の計測、及び古墳周辺の気象観測を実施して、観測データのバックアップを取り、管理の体制を敷いた。
・施設の埋め戻しに先立って、石室内に設置した気象観測装置等の撤収作業を行った。
・25 年 2 月に実施されたキトラ古墳盗掘口のステンレス台取り外しに伴い、盗掘口、閉塞石の微生物サンプルを採取し、菌叢を調査する目的で微生物分離とその同定及び分離株のアンプル作成を実施した。

○修復関連研究
・漆喰の再構成を行うために、充填材や接着剤の適用方法を検討した。また、再構成にあたって構成後の表面高さ等の作成方法についても複数の材料と工法を検討し、文化庁及び修復技術者（国宝修理装こう師連盟）と協議した。
・現状のキトラ古墳壁画の漆喰を、石材への密着性や強度、現実的な施工手順といった面から捉え、材料の特定や調合分量を考慮したうえでの再現研究を行った。この調査は、高松塚古墳の漆喰研究と関連づけながら遂行した。
・キトラ古墳壁画の四神及び十二支について、描かれている絵画を修復時に正確に認識するために、線起こし図の作成を行った。

○材料技法研究
・奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳壁画に対する可視近赤外分光光度計・蛍光Ｘ線分析装置による顔料の分析調査、及びマクロ撮影による状態調査を実施した。


天井再構成の作業

【実績値】

【受託経費】
34,514 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 8034

業務実績書(受託事業)

研№42-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	装飾古墳の保存に関する調査研究事業(受託)((4)－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】
木川りか（生物科学研究室長)、犬塚将英（主任研究員)、佐藤嘉則（研究員)、朽津信明（修復材料研究室長)、森井順之（主任研究員）

【年度実績概要】

本調査研究は、文化庁からの 25 年度受託事業として実施したものである。

古墳壁画の保存活用に関する検討会に設けられた装飾古墳ワーキンググループにおいて、装飾古墳の保存活用の在り方やその方針を検討するに当たって必要となる技術的な調査を行った。

装飾古墳の保存状態は、古墳の特性や管理状況に応じて様々であり、装飾部分の劣化の態様も様々である。本事業において、将来にわたる装飾古墳の保存管理の在り方や保存活用の方針を検討するために必要となる情報を整理し、また必要に応じて現地調査を実施し、それらの調査結果をまとめて資料を提供した。なお、墳丘形状や土質の問題等、考古学的な性格の強い項目は奈良文化財研究所へ再委託を行った。

本受託研究では、特に「保存管理、保存活用」という観点から装飾古墳のおかれている全体像の把握を目指すことを目的とし、「外部空間に装飾があるもの」「内部空間に装飾があるもの」「本来の位置から移設された博物館環境下で保存されているもの」「埋戻しされたもの」とカテゴリーを分けて調査を進めた。また調査では、(1)これまでの文献や資料等に基づく体系的な調査、(2)装飾古墳の今後の保存活用を考えるうえで重要と考えられる現場の調査、の 2 つを実施した。

(1)これまでの文献や資料等に基づく体系的な調査

古墳や装飾に関するこれまでの調査結果（公表された文献や資料）を整理し、装飾古墳の保存活用に関する情報の体系的な調査を行った。墳丘や石室など史跡整備報告書の図面等のデジタルデータ化を行うとともに、古墳環境に近い環境にある海外の遺跡について生物被害やその対策に関する情報収集を行った。

(2)装飾古墳の今後の保存活用を考えるうえで重要と考えられる現場の調査

装飾古墳の保存整備に関する現地視察・聞き取り調査を、福岡県、熊本県、福島県、奈良県、大阪府、岡山県にて行った。特に福岡県内にある石人山古墳では、墳頂部に覆屋内展示されている石棺を対象に温湿度・照度の連続計測、石材水分量の調査や着生生物の分布調査、周辺部の三次元形状計測を実施し、装飾古墳の保存上の問題点の把握を行った。


石人山古墳石棺の着生生物分布調査（色差計測）


外部空間に装飾がある事例の現地視察（石貫ナギノ横穴群）

【実績値】
受託事業報告書　1 件　①装飾古墳の保存に関する調査研究事業報告書　26.2.
発表等　1 件
②　岡田健：装飾古墳の保存に関する調査研究事業について、第 10 回古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ　26.1.31

【受託経費】
12,000 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8035

業務実績書(受託事業)

研№43-1

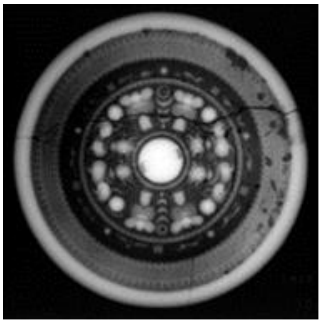
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	大阪府安満宮山古墳出土品保存修理事業(受託)((4)－①)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

本事業の対象は安満宮山古墳出土の青銅鏡、ガラス小玉、苧麻布及び板状鉄斧である。

青銅鏡は出土直後に保存処理が行われており、比較的安定した状態を保っているが、保存処理後10年以上が経過しているため、本事業では、詳細な状態調査（写真撮影、肉眼観察、顕微鏡観察、Ｘ線ラジオグラフィ）を行い、劣化が進行していないことを確認した。保存修理作業と並行して、保存修理後も低湿度環境下で保管ならびに展示に用いることのできる安定台を作製した。


青銅鏡の状態調査
(X 線ラジオグラフィ)

ガラス小玉は、ほとんどが完形品で比較的保存状態は良好であるが、二片以上に細片化しているものが90点ある。これらの破片資料は脆弱であり、わずかな衝撃によってさらに細片化する危険性を有しているため、物理的な衝撃でこれ以上細片化することのないように強化処置を施し、接合可能なものについてはアクリル樹脂を用いて接合した。保存修理作業と並行して、収蔵・保管中の物理的衝撃による破損を防ぎ、安定した収蔵・展示環境を実現するための保管台座を作成した。

苧麻布は、水を含んだ状態のままガラス板にはさまれており、展示・保管が困難な状態であった。また、水を含んだ状態のため、保管中の腐朽や乾燥によって外形を損傷する危険性を有していた。そこで、適当な強度と柔軟性を与えるため、水溶性ポリマー（商品名：ポリオックスTM）を含浸したうえで、真空凍結乾燥法により乾燥状態に移行させた。保存修理の一環として、収蔵及び展示に用いることのできる保管台座を作成した。

板状鉄斧は、低湿度環境下で問題が生じないことを確認したのち、アクリル樹脂を用いて接合した。さらに、隙間や欠損部が生じている部分に対しては、エポキシ樹脂（フェノールマイクロバルーンをエポキシ樹脂（商品名：アラルダイトラピッド）に所定量混合したもの）を充填した。

【実績値】
実施報告書：１件
『平成 25 年度 重要文化財大阪府安満宮山古墳出土品保存修理報告書』2014.3
保存修理点数：８点

【受託経費】
2,994 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8036

業務実績書(受託事業)

研No.43-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）((4)－①)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
廣瀬 覚、青木 敬、降幡順子、若杉智宏、荒田敬介、南部裕樹(以上、都城発掘調査部)、辻本与志一、脇谷草一郎、高妻洋成、田村朋美、赤田昌倫(以上、埋蔵文化財センター)、井上直夫、栗山雅夫(以上、企画調整部)、肥塚隆保(元副所長、客員研究員)、石崎武志、早川泰典、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊(以上、東京文化財研究所)、青柳泰介、水野敏典(奈良県立橿原考古学研究所)、岡林孝作(奈良県教育委員会)、相原嘉之(明日香村教育委員会)

【年度実績概要】

・キトラ古墳では、墳丘整備にむけた墓道部の最終的な考古学的調査として、3 次元レーザー測量、写真撮影、版築土層剥ぎ取り作業などを実施した。
・保存施設の記録として、覆い屋内外の 3 次元レーザー測量を実施した。
・覆い屋の解体作業に先立ち、墓道部分の埋め戻し作業を実施した。
・2 週間に 1 回、研究員による古墳石室内等のカビ点検作業を実施した。緊急時には現地において応急的な処置にあたり、文化庁に状況を報告した。
・報告書未掲載資料の歯牙及び人骨片 87 箱のうち、24 箱分について強化処置及び仮保管ケースを作成した。
・壁画の保存修復に資する情報を得るために、蛍光Ｘ線分析を用いた壁画の材料調査、デジタルアーカイブスキャニングによる記録画像、THz 波を用いた漆喰層調査、分光分析による顔料交差などを実施した。
・高松塚古墳壁画修理施設の公開と同時に実施された 25 年 8 月の石室一般公開に際しては、解説員として研究員（延べ 13 人）を派遣した。



土層剥ぎ取り作業

【実績値】
論文等 2 件、発表等 3 件
・福永香・高妻洋成・W.Zia・T.Meldrum・B.Bluemich「テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査」文化財保存修復学会第 35 回大会
・赤田昌倫・吉田直人・高妻洋成・降幡順子・脇谷草一郎・田村朋美・辻本与志一・岡田健・朽津信明・江村知子・早川典子・宇田川滋正・建石徹「キトラ古墳壁画の材料調査 2-玄武像の可視分光分析調査-」日本文化財科学会第 30 回大会
・奈良文化財研究所ほか「特別史跡キトラ古墳の調査（飛鳥藤原第 178-6 次）記者発表資料」2013.12.5
・若杉智宏「キトラ古墳の調査」『奈文研ニュース』No.49、2013.6
・玉田芳英「キトラ古墳との 30 年」『奈文研ニュース』No.51、2013.12
記録作成数　写真（デジタル）131 枚

【受託経費】
37,896 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8037

業務実績書(受託事業)

研№43-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）((4)－①)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
廣瀬 覚、青木 敬、降幡順子、若杉智宏、荒田敬介、南部裕樹(以上、都城発掘調査部)、辻本与志一、脇谷草一郎、高妻洋成、田村朋美、赤田昌倫(以上、埋蔵文化財センター)、井上直夫、栗山雅夫(以上、企画調整部)、肥塚隆保(元副所長、客員研究員)、石崎武志、早川泰典、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊(以上、東京文化財研究所)、青柳泰介、水野敏典(奈良県立橿原考古学研究所)、岡林孝作(奈良県教育委員会)、相原嘉之(明日香村教育委員会)

【年度実績概要】

・石室解体に伴う発掘調査成果の活用にかかる事業として、石室周囲の版築層の剥ぎ取りパネルを展示公開資料として再加工した。剥ぎ取りパネルを展示空間に沿った形状、大きさに整えるとともに、パネル内に石室空間を擬似的に表現し、見学者にわかりやすい形に仕上げた。完成したパネルは飛鳥資料館の古墳コーナーに設置した。

・同じく石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、古墳構築過程、石室解体作業の 3 次元アニメーション、及びそのモデル作成を行った。今年度は、昨年度短編が完成したことを受けて、長編作成作業に着手した。必要となるモデルを追加作成するとともに、古墳構築過程に関しては長編アニメーションを完成させることができた。

・壁画の保存修復（劣化原因）について、蛍光Ｘ線分析による壁画の材料調査、デジタルアーカイブスキャニングによる記録画像、分光分析による顔料調査などを実施した。

・25 年 8 月・26 年 1 月の高松塚古墳壁画修理施設の一般公開に際して、解説員として研究員（延べ 21 人）を派遣した。



版築層の剥ぎ取りパネルの設置風景

【実績値】

論文等 1 件、発表等 2 件

・福永香・高妻洋成・W.Zia・T.Meldrum・B.Bluemich「テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査」文化財保存修復学会第 35 回大会
・降幡順子・早川泰弘・辻本与志一・赤田昌倫・脇谷草一郎・田村朋美・高妻洋成・肥塚隆保・吉田直人・朽津信明・早川典子・江村知子・佐野千絵・岡田健・三浦定俊・宇田川滋正・建石徹「高松塚古墳壁画の材料調査-蛍光 X 線分析法による下地漆喰に関する調査(5)-」日本文化財科学会第 30 回大会
・赤田昌倫「高松塚古墳壁画の色料に関する材料調査報告～東壁西壁の女子群像における赤色と黄色の可視分光分析から～」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6

【受託経費】
53,977 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8038

業務実績書（受託事業）

研№43-4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	装飾古墳の保存に関する調査研究事業－考古学的見地にもとづく調査研究－（受託）（(4)－①）		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
廣瀬 覚、青木 敬、降幡順子、若杉智宏、荒田敬介、南部裕樹（以上、都城発掘調査部（飛鳥藤原地区））、辻本与志一、脇谷草一郎、高妻洋成、田村朋美、赤田昌倫（以上、埋蔵文化財センター）、井上直夫、栗山雅夫（以上、企画調整部）、肥塚隆保（客員研究員　元副所長）、石崎武志、早川泰典、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊（以上、東京文化財研究所）、青柳泰介、水野敏典（奈良県立橿原考古学研究所）、岡林孝作（奈良県教育委員会）、相原嘉之（明日香村教育委員会）

【年度実績概要】

・装飾古墳の保存・管理の現状を把握するため、奈良文化財研究所が所蔵する装飾古墳の調査・保存整備に関連する報告書類の文献調査を実施した。

(1)福岡県、熊本県、福島県内の装飾古墳保存管理状況の現地調査（とりわけ福岡県石人山古墳では装飾を有する石棺・石人、及びその保護施設に対する３Ｄレーザー測量調査）
(2)奈良文化財研究所所蔵の装飾古墳に関する文献調査
・整備・保存管理状況に関する図面集成
・基本となる関連文研のＰＤＦ化作業

を実施し、適宜、情報を東文研・文化庁と共有するとともに、最終的に成果を東京文化財研究所編『装飾古墳の保存に関する調査研究事業報告書』にまとめた。

また、成果の一部は、文化庁編『古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ報告書』にも掲載した。



石人山古墳３Ｄ測量の作業風景

【実績値】
報告書等 1 件：文化庁編『古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ報告書』2014.3

【受託経費】
4,950 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8039

業務実績書(受託事業)

研№44-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	甘樫丘地区遺跡発掘調査業務(受託)((4)－②)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
清野孝之(考古第三研究室長)、今井晃樹、山本崇、降幡順子(都城発掘調査部主任研究員)、大林潤・前川歩(遺構研究室研究員)、和田一之輔(考古第一研究室研究員)、若杉智宏(考古第二研究室研究員)、荒田敬介(考古第二研究室アソシエイトフェロー)、山野ケン陽次郎(前考古第一研究室アソシエイトフェロー)、中村一郎(写真室主任)、栗山雅夫(写真室技術職員)、井上直夫(写真室再雇用職員)

【年度実績概要】
甘樫丘は、飛鳥川の西岸に位置する標高 145m ほどの丘陵で、多数の谷が入り込む複雑な地形を呈している。『日本書紀』には、皇極天皇 3 年（644）に蘇我蝦夷・入鹿親子の邸宅が甘樫丘に営まれたことが記されている。今回の調査は、国営飛鳥歴史公園甘樫丘地区の整備に伴うもので、平成 23 年度まで継続的に調査を行ってきた谷の北に位置する。調査地は、Ａ～Ｃ区の 3 ヵ所を設定した。Ａ区は丘陵の尾根上、Ｂ区はその東に降る斜面、Ｃ区はさらに東で南東に開く谷に位置する。調査は平成 24 年度に着手しＡ区・Ｂ区の調査は、25 年 1 月 17 日に終了した。Ｃ区は 24 年 3 月で中断していたが、25 年 6 月より作業を再開し、25 年 10 月 4 日に調査終了、25 年 12 月 6 日に埋戻しを完了した。調査面積は 803 ㎡である。

調査の結果、谷の斜面を切土・盛土し、平坦面を造成していたことが明らかとなった。調査区西半では、斜面地を谷の地形に合わせて地山を削り、高低差約 2m の上下 2 段の段を造り出す。上段の平坦面は、南半は幅 2～3m で、北に向かって広くなる。下段は、切土に加え、谷の低い部分を埋め立てることによって、東西 20m 以上、南北 30m 以上の広い平坦面を造り出している。谷の埋立土は、出土する遺物が 7 世紀前半から中頃までにほぼまとまること、厚い単位で斜めに堆積していること、平坦な整地面などが確認されないことなどから、埋め立ては一気に行われたとみられる。

検出遺構は、建物 2 棟、溝 1 条、炭溜 3 基、土坑群などである。このうち調査区北部中央で検出した建物は、東西 3 間、南北 3 間の総柱建物で、柱間寸法は 1.5m、北側と南側の 1 間は 1.2m である。

これらの結果より、調査地が存在する谷は、平成 23 年度まで継続して調査を行ってきた南の谷より面積が狭いが、同様に切土・盛土などの造成を行い、様々な施設を造り活発に利用していたことが明らかとなった。また、7 世紀代の甘樫丘は、広範囲にわたって大規模な造成を伴う開発がなされていた可能性がより強くなった。



検出した総柱建物（北から）

【実績値】
論文等数　：2 件
大林潤「甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第 177 次)」『奈文研ニュース』No.51　2013.12
大林潤他「甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第 177 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6（予定）
報道発表数：１件
奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第 177 次）記者発表資料」2013.9.5
現地説明会：１件
奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡　飛鳥藤原第 177 次現地見学会資料」2013.9.7
出土遺物（参考値）
軒瓦２点、丸平瓦１箱分、土器 33 箱分、木器・木製品１箱分、金属製品２点、その他獣骨 16 点、
壁土・高師小僧１箱、炭化物１箱、種実１箱。
記録作成数　遺構実測図 62 枚、写真（4×5）92 枚、デジタル写真 241 枚

【受託経費】
16,616 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8040

業務実績書(受託事業)

研№44-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務（受託）((4)－②)		
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
黒坂貴裕(都城発掘調査部主任研究員)、森先一貴(考古第三研究室研究員)、南部裕樹（考古第三研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫(写真室再雇用職員)、栗山雅夫(写真室技術職員)

【年度実績概要】

本調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備事業に関わる事前調査である。調査地は、明日香村南西部の丘陵上に位置し、この丘陵上には、渡来系氏族である東漢氏の氏寺と考えられる檜隈寺が所在する。今年度は、檜隈寺中心伽藍跡の南東方向で擁壁工事計画に先立ち、昨年度の調査で素掘溝を確認していた丘陵の南東裾部分について調査を実施した。調査期間は 26 年 1 月 9 日より開始し同年 3 月 17 日に終了した。発掘調査面積は 280 ㎡。

調査地　：檜隈寺の塔の南北軸線上にあたる位置（A 区）と回廊東南隅（B 区）
調査期間：26 年 1 月 9 日～3 月 17 日
調査面積：295 ㎡
調査成果：A 区　古代と推定される掘立柱建物２棟、中世の掘立柱建物 1 棟、掘立柱塀１基、溝２条、土坑２基
古代と推定される掘立柱建物は中心伽藍の建物の方位の振れと一致する。
B 区　掘立柱建物３棟、土坑４基、溝２条
いずれも中世の遺構と考えられる。
出土遺物：瓦、土器、金属製品などがある。



A 区の遺構検出状況

【実績値】
（参考値）
出土遺物　　軒瓦 42 点、丸平瓦 109 箱、土器 5 箱、鉄製品(鉄釘・鉄鎌・唐須など)6 点
記録作成数　遺構実測図 26 枚、写真（4×5）64 枚、デジタル写真 90 枚、デジタルメモ写真 367 枚

【受託経費】
3,203 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8041

業務実績書（受託事業）

研№45-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査（受託）（(4)―③）		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
清野孝之（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）室長）、大林潤、若杉智宏、前川歩（以上、同部研究員）、山野ケン陽次郎、（前考古第一研究室アソシエイトフェロー）、井上直夫、栗山雅夫（以上、企画調整部技術職員）

【年度実績概要】

調査地は藤原京右京七条一坊及び藤原宮外周帯にあたる。調査区は、幅約 1.5m（一部 2.4m）、南北約 110mで、調査面積は 182 ㎡である。発掘調査期間は 25 年 8 月 5 日～9 月 13 日である。

今回の調査で検出した主な遺構は、東西溝 4 条、南北溝 1 条である。

調査区中央付近では東西溝を 2 条確認した。2 条のうち、南側の溝は、飛鳥藤原第 63 次調査で確認した東西溝ＳＤ6510 から西に 3mの位置にあたり、ＳＤ6510 の延長部の可能性がある。北側の溝は、その位置関係から、六条大路の南側溝である可能性が高い。

調査区北側では東西溝を 2 条確認した。位置関係や溝の大きさから、2 条のうちどちらかが、六条大路の北側溝であると考えられる。

調査区北側では南北溝を 1 条確認した。北でやや東にふる直線的にのびる溝で、南北 30mにわたり検出した。検出位置は、西一坊大路東側溝の想定位置とほぼ一致しており、この南北溝は、西一坊大路東側溝の可能性が高い。

本事業は、水路付け替え工事に伴う発掘調査で、狭隘な調査範囲ではあったが、上記のように埋蔵文化財に関する情報を最大限に引き出し、必要となる記録類の作成を迅速に進めることができた。

なお、調査終了後も調査地外の水路改修工事区域の立会を実施し、遺構状況の確認を行った。



調査区北側 完掘状況（北から）



調査区中央付近 完掘状況（南から）

【実績値】
論文等
若杉智宏「藤原京右京七条一坊の調査（飛鳥藤原第 178-2 次）」『奈文研ニュース』No. 51、2013. 12
奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原京右京七条一坊の調査（飛鳥藤原第 178-2 次）」『奈良文化財研究所紀要 2014』2014. 6（予定）
出土遺物　：土器・土製品３箱、軒瓦３点、丸平瓦２箱、銅銭１点
記録作成数：遺構実測図 19 枚、写真（4×5）８枚、デジタル写真 90 枚

【受託経費】
1,968 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 8042

業務実績書(受託事業)

研 No. 46-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】原本知実（アソシエイトフェロー）、原田怜（アソシエイトフェロー）、宮崎彩（アソシエイトフェロー）、井内千紗（アソシエイトフェロー）、草薙綾（研究補佐員）、降旗翔（研究補佐員）、中山仁美（事務補佐員）、川嶋陶子（事務補佐員）、長谷川泉（事務補佐員）、後藤多聞（客員研究員）

【年度実績概要】

文化遺産国際協力に係わる諸課題について議論するための分科会を１４回、ワーキンググループ会合を 2 回開催すると共に、会員間の情報共有を促進するための場として研究会を２回開催した。コンソーシアム活動を広報するために、25 年 10 月には、一般市民向けの公開シンポジウムを行ったほか、国際協力事業を紹介する冊子の作成、公式ウェブサイトのデータ追加を行った。さらに、フィリピン、スリランカ、バーレーン等への協力支援を実施した。

（1） コンソーシアムの企画・運営
・運営委員会を２回開催して、活動方針等を協議したほか、26 年 3 月には研究会と併せて総会を開催した。
・企画分科会、東南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米文化会を計１４回開催した。
・ミャンマーワーキンググループ会合を２回開催した。
・広報活動のため、事業紹介冊子の作成、基本方針冊子の作成、一般向けウェブサイトのデータ追加を行った。
（2） 情報共有と情報発信
・シンポジウム「世界遺産シンポジウム　世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力」を開催した。
・研究会「文化遺産保護の新たな担い手―多様化するニーズへの挑戦」、「文化遺産保存の国際動向」を開催した。
・報告書『平成２４年度協力相手国調査　フィリピン』をまとめた。
・報告書『平成２４年度協力相手国調査　スリランカ』をまとめた。
・報告書『ブルーシールドと文化財緊急活動-国内委員会の役割　研究会報告書』をまとめた。
・報告書『世界遺産シンポジウム　世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力　シンポジウム報告書』をまとめた。
（3） 文化遺産国際協力に関することがら
・フィリピン、スリランカ、バーレーンに対して文化遺産保護状況に関　する事業の支援を行った。
・第３７回世界遺産委員会に出席し情報収集を行った。
・世界文化フォーラムに出席し情報収集を行った。



シンポジウム「世界遺産シンポジウム　世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力」
平成 25 年 10 月 26 日撮影

【実績値】
運営委員会の開催：２回、総会の開催：１回、シンポジウムの開催：１回、分科会の開催：(企画分科会５回、東南アジア分科会２回、東・中央アジア分科会２回、西アジア分科会２回、欧州分科会１回、アフリカ分科会１回、中南米分科会１回）合計１４回、　ワーキンググループ会合の開催：２回、研究会の開催：２回、フィリピンの文化遺産保護国際協力支援、スリランカの文化遺産保護国際協力支援、バーレーンの文化遺産保護国際協力支援、文化遺産保護関係国際機関情報収集：第３７回世界遺産委員会参加、世界文化フォーラム参加

（成果物ドキュメント名）①報告書『平成 24 年度協力相手国調査　フィリピン調査報告書　日本語』2014.3　300 部②報告書『ブルーシールドと文化財緊急活動-国内委員会の役割　研究会報告書』2014.3　190 部③「世界遺産シンポジウム　世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力　シンポジウム報告書」2014.2　500 部④「文化遺産国際協力事業紹介 2013 年度」2014.3 月　2500 部⑤「文化遺産国際協力事業紹介 2013 年度　英語」2014.3　2500 部⑥「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」2014.3　3000 部

【受託経費】43,674 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8043

業務実績書（受託事業）

研№46-2

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	第 37 回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成（受託）（（１）－①）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
二神葉子（企画情報部情報システム研究室長），境野飛鳥（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー），原本知実（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

当該事業では文化庁からの委託により、25 年 6 月 16 日～6 月 27 日にカンボジア・プノンペンで開催された第 37 回世界遺産委員会に関連して下記の項目を実施した。

(1) イコモス（国際記念物遺跡会議）による推薦物件に関する勧告内容一覧の作成（25 年 5 月上旬～5 月下旬）

・第 37 回世界遺産委員会の会議文書が 25 年 5 月上旬に世界遺産センターのウェブサイトで公開された後、議題 8（世界遺産一覧表の改訂）の会議文書について、全ての推薦物件の名称の仮の和訳を作成した。また、世界遺産委員会の文化遺産の諮問機関であるイコモスからの勧告内容（記載、情報照会、記載延期、不記載）を一覧表とした。

(2) 保全状況報告一覧の作成（同上）

・(1)と同様に審議文書の公開後、議題 7（保全状況の報告）の会議文書について、世界遺産一覧表記載物件を有する締約国から定期報告が提出され、第 37 回世界遺産委員会での検討の対象となる全ての物件の名称を和訳し、一覧表を作成した。

以上で作成した内容は、電子ファイル（Excel 形式）で電子メールにより文化庁に提出した。



三保松原から臨む富士山

【実績値】
作成データ数　1 件
第 37 回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表

【受託経費】
654 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 8044

業務実績書(受託事業)

研№46-3

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	第 37 回世界遺産委員会審議調査研究事業（受託）((1)－①)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
二神葉子（企画情報部情報システム研究室長），境野飛鳥（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー），原本知実（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

当該事業では文化庁からの委託により、25 年 6 月 16 日～6 月 27 日にカンボジア・プノンペンで開催された第 37 回世界遺産委員会に関連して下記の項目を実施した。

(1) イコモスによる推薦物件に関する勧告内容の分析（25 年 5 月下旬～6 月上旬）
・議題 8（世界遺産一覧表の改訂）の会議文書で、文化遺産のイコモスの評価、決議案の要約を作成した。また、締約国が作成した推薦書も参照し、評価のポイントや妥当性、着目すべき点についてコメントを作成した。
・各推薦物件に関する知識を有する専門家から同様の見地で意見を求め、あわせて提出した。

(2) 世界遺産委員会対処方針作成支援（25 年 5 月下旬～6 月上旬）
・議題 7（保全状況の報告）の会議文書で、文化遺産の審議対象物件のイコモスの評価、決議案の要約を作成した。また、イコモスの現地調査報告書や現地の専門家の意見も参考に、(1)と同様にコメントを作成、提出した。

(3) 世界遺産委員会での情報収集と議事概要の作成（25 年 6 月中旬～7 月上旬）
・第 37 回世界遺産委員会に参加、本会議の全議題と作業指針の作業部会で、発言国・組織ごとに発言内容を記録した。我が国から推薦した「富士山」の審議では、発言記録を審議終了後ただちに文化庁に送付し、報道発表資料の作成の支援を行った。
・発言内容の記録は議事概要としてまとめ、会期終了 1 週間後に提出した。



富士山の世界遺産リスト記載直後の会場の様子

(4) 審議における議論の内容及び決議の分析と提言、報告書作成（25 年 7 月中旬～9 月末）
・(3) に基づき議題 7、8 の議事をまとめた。あわせて上記(1)(2)で作成した資料を要約、添付した。
・物件の推薦や定期報告に関連する議題 11（手続規則の改訂）、12（作業指針の改訂）についても議事をまとめた。
・本会議での審議全体に関する概要と審議の傾向を簡略にまとめ、提言を記した。

以上を報告書とした。報告書のうち文化庁提出分以外は、成果利用の許諾を得て、各地方自治体の世界遺産、文化財担当部局に配布した。

【実績値】
作成報告書数　1 件
『平成 25 年度文化庁委託　第 37 回世界遺産委員会審議調査研究事業』

【受託経費】
3,000 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8045

業務実績書（受託事業）

研№46-4

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	第 38 回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成（受託）（（１）－①）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
二神葉子（企画情報部情報システム研究室長），境野飛鳥（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー），原本知実（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

当該事業では文化庁からの委託により、26 年 6 月 15 日～6 月 25 日にカタール・ドーハで開催予定の第 38 回世界遺産委員会に関連した資料作成として、下記の項目を実施した。

(1) 世界遺産委員会での審議が予定されている物件の一覧の作成（26 年 2 月～3 月）
・世界遺産センターのウェブサイトで公開されている会議文書について、第 38 回世界遺産委員会での議題 7（保全状況の報告）での審議の対象とされている物件の一覧表を作成した。また、議題 8（世界遺産一覧表への推薦）での審議の対象とされている全ての物件の名称の仮の和訳を作成し、一覧表とした。

(2) 推薦予定物件に係る資料の作成（同上）
・(1)で作成した議題 8 での審議予定物件の一覧表に基づいて、世界遺産センターで公開されている資料、その他信頼できる公的なウェブサイトを中心に資料を収集し、資産ごとにまとめた。

以上で作成した内容は、電子ファイルで電子メールにより文化庁に提出した。



議題 7 で審議予定の「城壁都市バクー、シルヴァンシャー宮殿、及び乙女の塔」

【実績値】
作成データ数　2 件
第 38 回世界遺産委員会における審議予定物件一覧表
第 38 回世界遺産委員会における推薦予定物件に係る資料

【受託経費】
417 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8046

業務実績書(受託事業)

研№49-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ラチャプラディット寺院螺鈿扉修復計画策定のための調査研究（受託）((2)－①－ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
山下好彦（任期付研究員），二神葉子（企画情報部情報システム研究室長）

【年度実績概要】
(1)経緯
タイ・バンコクに所在するラチャプラディット寺院（Wat Ratchapradit）は一級王室仏教寺院のひとつで、1864 年にラーマ 4 世の発願により建立されたとされる。当該寺院の拝殿には、窓及び出入口の扉の建物内側に面した部分に、黒漆螺鈿と漆絵による装飾が施されており、特に螺鈿はその文様と用いられている貝の特徴、文書記録から、日本での製作の可能性があったため、23 年 6 月と 24 年 8 月にタイ文化省芸術局の依頼により東京文化財研究所が予備調査を行った。

芸術局からの改めての修理に関する協力要請に対し、日本での調査、専門家の研修を含む、タイ側の機関を実施主体とする 5 年間の修理計画を立案したところ、25 年 5 月及び 6 月のタイ側関係機関及び東京文化財研究所での協議を経て、所有者であるラチャプラディット寺院からの受託研究という形式で、扉の螺鈿及び漆絵の部材各 1 点を日本に持ち込み、試験的な修理を含む修理計画策定のための調査を行うこととなった。


受け入れた螺鈿扉部材（部分。白く細長いのは剥落防止のための和紙による養生）

(2)実施項目
・扉部材の受け入れ
25 年 10 月 7 日にラチャプラディット寺院と文化省芸術局の関係者が上記扉部材各 1 点の合計 2 点を持参、同日、東京文化財研究所に部材を受け入れた。通関手続の後、部材は脱酸素剤とともに密封する脱酸素薫蒸を開始、収蔵庫に安置した。26 年 1 月 16 日に修復アトリエ（漆）に移動し、脱酸素薫蒸を終了、開封した。

・調査・修理前写真撮影
調査及び試験的な修理に先立って、部材の写真撮影を行った。

・分析のための試料採取
用いられている材料、後の修理で用いられた材料の種類、製作技法、材料の産地に関する情報を得ることを目的として、漆膜、下地、木材及び下張に用いられている紙に関する分析のための試料を採取し、分析に供した。

なお、本受託研究の実施期間は 27 年 3 月 31 日までであるため、平成 26 年度も引き続き調査研究を実施する。

【実績値】
扉部材受入点数　2 点

【受託経費】
受入総額 1,135 千円（25 年度 300 千円、26 年度 835 千円）

【受託】
（様式 3）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8047

業務実績書(受託事業)

研No.49-2

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（ブータン）（受託）（(2)－①－ウ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
亀井伸雄（所長）、友田正彦（保存計画研究室長）、佐藤桂（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業

・ブータン王国内務文化省文化局を相手国拠点とし、石造または版築造と木造との複合構造である同国の民家及び寺院等の伝統的建造物を対象として、それらの文化遺産としての歴史的価値付けと耐震性評価に向けた建築学的、構造学的調査、及び材料実験等を共同で実施することにより、効果的な技術移転と人材育成の促進を図ることを目的とした。

・事業 2 ヵ年目にあたる本年度は、以下の日程により 2 度の専門家派遣を行った。
　25 年 6 月 21 日～7 月 3 日：建築工法及び構造調査（建築及び構造専門分野 9 名を派遣）
　25 年 10 月 19 日～28 日：建築工法及び構造調査＋ワークショップ（建築及び構造専門分野 7 名を派遣）

・前年度に引き続き、首都ティンプーのほか、パロ、ウォンデュフォダン、プナカの各県において、版築による伝統的建設技法に関する実地調査や簡易的な実測、職人への聞き取り等を行ったほか、版築造民家及び寺院での常時微動計測も実施した。本年度は新たに、実大の型枠を用いた版築壁の施工実験を行ったほか、コアドリルを用いて実際の建物や試験体から採取した土壁供試体の圧縮・引張強度試験等をブータン側と共同で実施し、建築的構造的評価及び解析のための基礎的なデータ収集を行うとともに、調査や実験の方法及び手順について、現地スタッフへの技術移転に努めた。第 2 回派遣時に開催したワークショップでは、これまでに実施してきた調査成果を共有するとともに、既往の関連研究成果や、今後行うべき研究の方向性について意見交換を行った。



型枠を用いた版築壁の施工実験

【実績値】
(1) 専門家派遣　2 回、現地ワークショップ　1 回

【受託経費】
7,546 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8048

業務実績書(受託事業)

研№49-3

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」ユネスコ日本信託基金事業（受託）((2)－①－ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
亀井伸雄（所長）、石崎武志（副所長）、友田正彦（保存計画研究室長）、佐藤桂（アソシエイトフェロー）、杉山洋（奈良文化財研究所企画調整部部長）、高妻洋成（奈良文化財研究所保存修復科学研究室長）、脇谷草一郎（奈良文化財研究所保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

ハノイの都心に立地するタンロン皇城遺跡は、11 世紀初頭の大越国建国以来、歴代の王朝が拠点とした宮城の中枢域に関する遺跡である。指定対象としての遺跡は、平成 14 年に国会議事堂建設予定地で発見された李・陳朝期の考古学的遺構と黎朝期以降の地上遺構を含む皇城中枢部の遺跡とで構成されている。その後、日越両政府の合意に基づき両国専門家による協力体制によって調査研究等が行われてきた。

本事業は、歴史・考古・建築・保存科学・社会学及び管理計画策定等の各分野専門家を現地に派遣し、ベトナム側専門家やタンロン・ハノイ遺産保存センター、ハノイ国家大学ベトナム学社会発展科学院、社会科学院考古研究所、同都城研究センター等の現地関係機関との協力の下、同遺跡の歴史的文化的価値をさらに明らかにするとともに、今後のより良い保存に向けた技術的検討と保存管理体制強化を含む総合的支援を行うことを目的としている。

事業の最終第 4 年度である本年度は、以下の現地ミッションを派遣し、現地調査及び技術研修等を実施した。

25 年 5 月 15 日～18 日：GIS 班 2 名（GIS 研修ワークショップ）
25 年 5 月 19 日～25 日：保存管理計画班 4 名（植民地期建造物実測調査）
25 年 8 月 7 日～10 日：保存科学班 5 名（遺構保存調査）
25 年 9 月 9 日～11 日：GIS 班 3 名（GIS 研修ワークショップ）
25 年 9 月 10～15 日：総括 1 名、歴史班 2 名、考古班 2 名、建築班 1 名、社会経済班 1 名、保存科学班 2 名、保存管理計画班 1 名、GIS 班 2 名（成果報告シンポジウム）
25 年 12 月 17 日～19 日：2 名（事業終了式典：先方負担による招聘）

25 年 9 月 11～12 日にタンロン・ハノイ遺産保存センターにて開催した成果報告ワークショップには、日越双方から専門家及び関係者 60 名余が参加し、これまでの事業成果を共有するとともに、今後の遺跡研究保存管理における課題等について意見を交換した。ここでの発表内容を含む事業実施経緯及び成果の概要については、成果報告書にとりまとめ、ベトナム語、日本語、英語の 3 言語版で刊行した。また、遺跡内所在のフランス植民地建造物については、実測調査の成果をもとに作成した現状図を収録した図面集を英語版で刊行した。



ハノイでの成果報告シンポジウム

【実績値】
専門家派遣　6 回
現地ワークショップ　2 回
現地シンポジウム　1 回
刊行物 2 件
『ユネスコ日本信託基金事業「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」成果報告書』（越日英語）2013.12　300 部
『Architectural Drawings of the Buildings from French Colonial Period in the World Heritage Site “Central Sector of the Imperial Citadel of Thang Long - Hanoi”』（英語）2013.12　70 部

【受託経費】
505,400 米ドル（事業期間 45 ヶ月分の総額）
68,330 米ドル（25 年度）

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8049

業務実績書(受託事業)

研No.49-4

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマー）（受託）((2)－①－ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

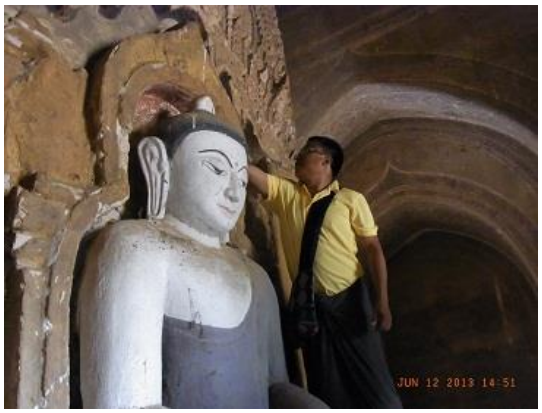
【スタッフ】
亀井伸雄（所長）、友田正彦（保存計画研究室長）、佐藤桂（アソシエイトフェロー）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山下好彦（任期付研究員）、早川典子（保存修復科学センター主任研究員）、城野誠治（企画情報部画像情報室専門職員）、杉山洋（奈良文化財研究所企画調整部部長）、森本晋（奈良文化財研究所国際遺跡研究室長）、石村智（奈良文化財研究所国際遺跡研究室研究員）、小田裕樹（奈良文化財研究所考古第二研究室研究員）

【年度実績概要】
ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業

本事業では、ミャンマー連邦共和国文化省考古・国立博物館局を相手国拠点とし、有形文化遺産の保護に関する専門家交流及び技術移転・人材育成への協力を行った。具体的対象としては、歴史的建造物、これに付随する壁画・漆芸等の工芸、そして考古学遺跡・遺物の三分野に焦点を当て、現地への日本人専門家派遣及び日本への同国専門家招聘等を通じて、その調査や保存修復のための手法をミャンマー側に技術移転し、専門的人材の育成に協力しようとするものである。本年度に実施した内容は以下の通りである。なお、考古分野は奈良文化財研究所への再委託により実施した。

・25 年 6 月 9 日～14 日：建築、美術工芸の 2 班からなる 7 名の専門家チームをミャンマーに派遣し、協力事業の開始にあたっての合意形成及び実施に向けての準備・調整等を行った。この間、10 日には文化大臣に面会し、当方提案内容について基本的に了承を得た。
・25 年 7 月 19 日～28 日：考古班の専門家 3 名を派遣し、ピィ考古学フィールドスクール及びシュリクシェトラ遺跡において遺物調査研究法の素材確認としての現地調査を行った。
・25 年 10 月 23 日～31 日：美術工芸班の専門家 3 名をバガンに派遣し、気象観測装置の設置や壁画の撮影等を行ったほか、漆工の専門家 1 名がバガン・マンダレーほかにて材料や技法等に関する調査を行った。
・25 年 11 月 24 日～29 日：建築班の専門家 3 名をバガン・マンダレーほかに派遣し、木造僧院建築の保存上の課題把握と研修カリキュラム作成のための調査を行った。
・26 年 1 月 19 日～26 日：考古班の専門家 3 名を派遣し、ピィ考古学フィールドスクール及びシュリクシェトラ遺跡において遺物調査研究法に関する研修及び技術移転を行った。
・26 年 2 月 2 日～13 日：建築班の専門家 5 名をマンダレー及びインワに派遣し、考古局スタッフ等 11 名を対象として、第 1 回木造建造物保存研修を実施した。
・26 年 2 月 3 日～7 日：ミャンマー文化省考古・国立博物館局の保存科学専門家 2 名を日本に招聘し、壁画の保存修復に関する研修を当研究所ほかにおいて行った。
・26 年 2 月 2 日～8 日：ミャンマー文化省考古・国立博物館局の考古学専門家 3 名を日本に招聘し、考古遺跡の保存管理と考古遺物の記録法に関する研修を奈良文化財研究所において行った。

本年度事業成果の概要は、当研究所が別途同局職員を招聘して 26 年 2 月 18 日に開催した研究会において報告した。



ﾊﾞｶﾞﾝ・No.1205 内温湿度計測用ﾃﾞｰﾀﾛｶﾞｰの設置


インワ・バガヤ僧院での木造建造物保存研修

【実績値】
現地派遣　6 回、招聘　2 回

【受託経費】
12,000 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8050

業務実績書（受託事業）

研No.50-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	平成 25 年度文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業・考古分野）（受託）（(2)－①－ウ・エ）		
【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	企画調整部長　杉山　洋

【スタッフ】
森本　晋（国際遺跡研究室長）、石村　智（国際遺跡研究室研究員）、田代亜紀子（国際遺跡研究室アソシエイトフェロー）、小田裕樹（考古第二研究室研究員）

【年度実績概要】

・ 25 年 7 月 19 日～7 月 28 日に、研究員 3 名をミャンマーに派遣し、シュリクシェトラ都城遺跡を見学すると共に現地にある考古学フィールドスクールにおいて、考古遺跡出土遺物の整理・調査方法の研修に用いることができる遺物が収蔵されているかを調査した。

・ 26 年 1 月 19 日～26 日に、研究員 4 名をミャンマーに派遣し、シュリクシェトラ都城遺跡の考古学フィールドスクールにおいて、考古遺跡出土遺物の整理・調査方法の研修を 37 名の受講生に対して行った。また、シュリクシェトラ都城遺跡の露出展示遺構で最新技術による遺構実測実験を行った。

・ 26 年 2 月 2 日～8 日に、ミャンマー国文化省考古・国立博物館の考古学専門家 3 名を招聘し、奈良文化財研究所において発掘調査で出土した遺物の整理及び実測などの記録方法についての研修を行った。また、平城宮跡、藤原宮跡、難波宮跡等を見学して遺構保存や復原整備の手法を学ぶとともに、平城宮跡資料館、飛鳥資料館等の博物館で展示手法についても見学した。


考古学フィールドスクールにおける研修


難波宮跡地域で遺構の復原展示の見学を行うミャンマー人専門家

【実績値】

【受託経費】
3,300 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8051

業務実績書(受託事業)

研№.50-2

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	平成 25 年度文化遺産国際協力拠点交流事業　ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業(受託)((2)－①－ウ・エ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美（以上、保存修復科学研究室研究員)、杉山　洋（企画調整部長)、森本　晋（国際遺跡研究室長)、今井晃樹（都城発掘調査部主任研究員)、廣瀬　覚（考古第一研究室研究員)、石村　智（国際遺跡研究室研究員)、田代亜紀子（国際遺跡研究室アソシエイトフェロー)、佐藤由似（国際遺跡研究室研究補佐員)、杉山淳司（京都大学生存圏研究所教授)、Thi Ngoc Bich（ベトナム林業大学教授)、Le Xuan Phuong（ベトナム林業大学講師)、Bui Minh Tri（ベトナム都城研究センター所長)、Nguyen　Van Anh（ベトナム都城研究センター研究員)

【年度実績概要】
（1)25 年 8 月 25 日～9 月 1 日の期間、ベトナム林業大学より Thi Ngoc Bich 教授と Le Xuan Phuong 講師を奈良文化財研究所に招聘してベトナム産水浸出土木製遺物の保存に関する研究会を行い、ベトナム産木材の基礎研究（樹種同定、組織構造、物理的性質、化学成分)、ベトナム産水浸出土木製遺物の劣化状態及び保存処理研究についての意見交換と研究計画の策定を行った。また、静岡大学及び東京大学農学部を訪問し、日本とベトナム木材利用の歴史について協議した。静岡大学では、ベトナム産水浸出土木製遺物の保存に関する研究会を開催した。
（2）25 年 9 月 12 日～9 月 15 日の期間、ハノイのベトナム都城研究センターを訪問し、都城研究センターが保存するタンロン皇城遺跡出土木製遺物に関する検討と調査を行った。
（3)26 年 1 月 14 日～19 日の期間、ベトナム国内の木製遺物が出土した遺跡を訪問し、ベトナム林業大学のスタッフとともに出土木製遺物の調査を実施した。調査では、ベトナムにおける出土木製遺物の樹種、劣化状態及び保存処理についての情報収集と木材試料のサンプリングを行った。
（4)26 年 2 月 17 日～3 月 1 日の期間、ベトナム林業大学より研修生として Nguen Duc Thanh 氏を奈良文化財研究所に招聘し、木製遺物の劣化状態の調査法ならびに保存処理に関する基礎研修を実施した。



白藤江遺跡で現地保存されている杭
(ベトナム出土木製遺物の調査)

【実績値】
ベトナム産水浸出土木製遺物の保存に関する研究会（2013.8.27、奈良文化財研究所、参加者 10 名）
ベトナム産水浸出土木製遺物の保存に関する研究会（2013.8.29、静岡大学農学部、参加者 15 名）
木製遺物の劣化状態の調査法ならびに保存処理に関する基礎研修（2014.2.17～3.1、対象者 1 名）

研究発表（①）
①Y. Kohdzuma, “Conservation of Archaeologiical Wooden Ojbects found from the Imperial Citadel of Thang Long”,

【受託経費】
3,999 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8052

業務実績書(受託事業)

研No.51-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（アルメニア及びコーカサス諸国等）（受託）（(２）－①－エ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
藤澤明（アソシエイトフェロー）、有村誠（客員研究員、金沢大学准教授）、邊牟木尚美（客員研究員、ローマ・ゲルマン中央博物館研修員）、釘屋奈都子（客員研究員、東京藝術大学大学院専門研究員）、鈴木稔（帝京大学大学院准教授）、関根恵梨子（保存修復専門家）、犬塚将英（保存修復科学センター主任研究員）、園田直子（国立民族学博物館教授）

【年度実績概要】
「アルメニアおよびコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する拠点交流事業」の枠組みにおいて、コーカサス諸国等の文化財保存修復専門家間のネットワーク作りに貢献し、幅広い技術交流、人材育成の促進を図ることを目的とした。本事業では、アルメニア共和国文化省と文化遺産保護のための協力に関する合意書に基づき、アルメニア共和国歴史博物館が所蔵する金属考古資料の保存修復・調査研究活動を通じ、若手アルメニア人保存修復家の育成と技術移転を目指した。

(1) ミッションの派遣
25 年 6 月に第 5 次ミッション、26 年 1 月に第 6 次ミッションを実施した。第 5 次ミッション及び第 6 次ミッションでは、アルメニア共和国歴史博物館にて歴史博物館が所蔵する金属考古資料の保存修復に関するワークショップを開催した（下記 2 参照）。ワークショップを通して、一連の保存修復処置に必要な知識と技術を習得し、専門家間の意見交換や情報共有を行った。

(2) ワークショップ開催
25 年 6 月 12 日から 25 日まで歴史博物館において、第 4 回目のアルメニア国内向けワークショップ「アルメニア共和国歴史博物館における考古青銅遺物の保存修復」を開催した。ワークショップは保存修復をテーマとし、表面クリーニング、接着、欠損部の充填、科学分析等の実習を行った。
26 年 1 月には第 5 回目となるアルメニア国内向けワークショップに引き続き、第 3 回目の国際ワークショップを開催した。ワークショップは予防保存をテーマとし、環境制御、IPM、材料試験等の講義及び実習を行った。
国内ワークショップには、歴史博物館からだけでなく国内の他博物館や研究所からも参加者があり、国内のネットワーク作りにも貢献した。また、国際ワークショップでは、グルジア（グルジア国立博物館）、イラク（イラク国立博物館）、カザフスタン（アーケオロジカル・エクスパティーズ）、キルギス（国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所）、ロシア（国立エルミタージュ美術館）から保存修復に関わる専門家を招聘し、意見交換及び技術交流を行った。


国内ワークショップ保存修復実習の様子

【実績値】
① 報告書 2 件：
『日本－アルメニア文化遺産保護協力事業報告　第 1 巻 アルメニア歴史博物館所蔵考古金属資料の保存修復と自然科学的調査 2011・2012 年度（第 1 次～第 4 次ミッション)』60 冊　2013.5
「アルメニアおよびコーカサス諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」アルメニア歴史博物館所蔵の考古金属資料の保存修復・調査研究事業及びそれに係わる人材育成・技術移転のための協力（第 5 次、6 次ミッション）平成 25 年度業務報告書　50 冊　2014.3
② 資料集 1 件：「アルメニア歴史博物館における考古青銅遺物保存修復ワークショップ」平成 25 年度資料集　50 冊　2014.3
③ ワークショップ参加人数：第 4 回アルメニア国内向けワークショップ参加者 4 名、第 5 回アルメニア国内向けワークショップ参加者 7 名、第 3 回国際ワークショップ参加者 13 名

【受託経費】
11,999 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8053

業務実績書(受託事業)

研№.51-2

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス及び中央アジア諸国）（受託）((2) －①－エ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長 山内和也

【スタッフ】
安倍雅史（アソシエイトフェロー)、間舎裕生（客員研究員、慶應大学非常勤講師)、森本晋（奈良文化財研究所国際遺跡研究室長）

【年度実績概要】
当事業は、文化庁の委託を受け、将来的な中央アジアの文化遺産保護を目標に、中央アジア若手研究者の人材の育成を目的とする。具体的には平成 23 年度から 26 年度までの 4 年間、キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所と共同で、キルギス共和国チュー河流域の都城址アク・ベシム遺跡を対象に、「ドキュメンテーション」、「発掘」、「保存修復」、「史跡整備」に関する一連の人材育成を実施している。
事業の 3 年目に相当する今年度は、「発掘」と「保存修復」「史跡整備」に関するワークショップを 2 回開催した。

(1)1 回目のワークショップは、「遺跡の発掘」と「出土遺物の保存修復」、「史跡整備」をテーマに 25 年 8 月 27 日から 9 月 12 日にかけて 17 日間にわたり、実施した。このワークショップでは、中世の都城址であるアク・ベシム遺跡で発掘実習を行い、また脆弱遺物の取り上げ実習や土層の剥ぎ取り実習などを実施した、また、史跡整備に関しても講義を行い、アク・ベシム遺跡を題材に、史跡整備のプラニングを実施した。
このワークショップには、キルギスから 8 名、アルメニア、トルクメニスタン、カザフスタン、タジキスタンから 1 名ずつ、アフガニスタンから 2 名、計 14 名の若手専門家が研修生として参加した。

(2)2 回目のワークショップは、「考古遺物の保存修復」をテーマに 26 年 2 月 10 日から 2 月 15 日にかけて 6 日間にわたり実施した。このワークショップでは、金属器や土器などの考古遺物の保存修復実習を行い、またシリコン樹脂、石膏を用いたレプリカ作りの実習も行った。このワークショップには、キルギスから計 9 名の若手研修者が参加した。

【実績値】
① 報告書 1 件
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」平成 25 年度業務報告書　2014.3
② ワークショップ参加人数：23 名

【受託経費】
12,000 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8054

業務実績書(受託事業)

研 No. 51-3

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「ツバル・キリバス・フィジーの文化遺産保護に関する技術的調査」（受託）((2)-①-エ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】
久保田裕道（無形文化遺産部主任研究員），城野誠治（企画情報部専門職員），境野飛鳥（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー），石村智（奈良文化財研究所企画調整部研究員）

【年度実績概要】
本受託事業は、気候変動による海面上昇の影響を被る可能性の高い文化遺産を抱えたツバル、キリバス、フィジーの三ヵ国において、文化遺産の現状と保護措置を明らかにし、当該分野における今後の日本の国際協力の在り方を検討するものである。26 年 2 月 18 日～3 月 2 日にかけて、以下の項目に関し現地調査を実施した。

(1) ツバル
- フナフティ島及びフナファラ島（離島）における有形・無形文化遺産調査。
- 政府閣僚（内務大臣・外務大臣等）からの文化遺産に関わる政策の聞き取り。
- 南太平洋大学ツバルキャンパスにおいて研究者との文化遺産・環境に関する意見交換。
- 文化遺産保護関連法についての情報収集。


ファレカウプレ（伝統的集会所）における舞踊調査（ツバル）

(2) キリバス
- タラワ環礁北部のブアリキ島、及びアバイアン島における有形・無形文化遺産調査。
- 教育文化相からの文化遺産に関わる政策の聞き取り。
- 文化遺産保護関連法についての情報収集。

(3) フィジー
- 南太平洋大学 PACE-SD Office において、レオーネ氏ら研究者との文化遺産に関する意見交換。
- 文化遺産保護関連法についての情報収集。

以上の結果を「業務結果説明書」にまとめた。

【実績値】
業務結果説明書（電子データ）

【受託経費】
4,150 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8055

業務実績書(受託事業)

研No.51-4

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業(ウズベキスタン)（受託）（（２）－①－エ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
安倍雅史（アソシエイトフェロー)、間舎裕生（客員研究員、慶應大学非常勤講師)、森本晋（奈良文化財研究所企画調整部国際遺跡研究室長)

【年度実績概要】
26 年度のシルクロード関連遺跡の世界遺産登録を目指し、中央アジア 5 カ国と中国は、様々な活動を行ってきた。この活動を支援するため、文化遺産国際協力センターは、23 年度より 3 年間にわたりユネスコ・日本文化遺産保存信託基金による「シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業」に参加し、中央アジア各国で様々な人材育成ワークショップを実施してきた。

文化遺産国際協力センターは、このプロジェクト最後の人材育成ワークショップをウズベキスタン共和国タシケントのユネスコ・タシケント事務所で 25 年 12 月 1 日から 12 月 3 日にかけて開催した。今回は、「文化遺産の写真測量」をテーマに研修を行い、研修には 14 名のウズベク人若手専門家が参加した。

また、人材育成ワークショップ終了後に、25 年 12 月 4 日、5 日と同じくタシケントで開催された「シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業の最終会議」にも参加した。この会議では、東京文化財研究所やロンドン大学が中央アジア各国で実施してきた人材育成事業のレビューを行った。各国からは、今後も同様の研修を継続してほしいとの声があがり、特に「歴史的建造物の測量」、「遺跡の保存」、「文化遺産のマネージメント」に関する研修を行ってほしいとの要望が寄せられた。



講義の様子

【実績値】
②　報告書：1 件
Final Report on the UNESCO Workshop on Documentation of Archaeological Sites in Tashkent, 2013

②　ワークショップ参加人数：14 名

【受託経費】

16,655 米ドル

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8056

業務実績書(受託事業)

研No.51-5

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業（タジキスタン）（受託）（（２）－①－エ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
久米正吾（アソシエイトフェロー）、山田大樹（アソシエイトフェロー）、山藤正敏（客員研究員、日本学術振興会特別研究員 PD）

【年度実績概要】

現在、中央アジア 5 カ国と中国が、シルクロード関連遺跡の世界遺産一括登録を目指し、国境の枠を超え、様々な活動を行っている。この活動を支援するため、文化遺産国際協力センターは、23 年度より、ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金「シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業」に参加し、中央アジア各国で様々な事業を行っている。昨年度に引き続き、今年度もタジキスタン共和国において、タジキスタン共和国文化省等と共同で 25 年 11 月 7 日～14 日までの 8 日間、考古遺跡のドキュメンテーションにかかる技術移転と人材育成を目的としたワークショップを開催した



現地での研修の様子

今回の研修では世界遺産にノミネートしている中世の都城址「フルブック遺跡」を対象に実習を行った。実習は講師として日本から専門家(木口氏) を招聘し、トータルステーションを使用した測量、CAD を使ったドキュメンテーション、GIS を用いた分析に関する研修を行った。

今回のワークショップには国立古代博物館から 2 名、歴史・考古・民族学研究所から 2 名、歴史文化遺産保護活用局から 1 名、現地フルブック博物館から 3 名、クローブ博物館から 1 名、計 9 名の若手専門家が研修生として参加した。

参加者は約 1 週間にわたる集中講義・実習を経て、ドキュメンテーションのための測量計画と実施、その分析に関わる専門的プロセスを学習し、また、本事業に伴って寄贈された測量機材や GPS 機材などの使い方を習得することが出来た。研修修了者はこの経験と提供機材を当該国における文化財の調査や保護、そのドキュメンテーションに役立てることになる。

【実績値】
報告書 1 件：
① UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project“Support for Documentaion Standards and Procedure of Serial and Transnational Nomination of Silk Roads in Central Asia”NRICP Tokyo Activtities in Tajisitan 2013.
②ワークショップ参加人数：計 9 名

【受託経費】
29,000 米ドル（2,437 千円）

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8057

業務実績書(受託事業)

研No.51-6

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　バーミヤーン遺跡保存事業（受託）（（２）－①－エ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
安倍雅史（アソシエイトフェロー）、久米正吾（アソシエイトフェロー）、近藤洋（研究補佐員）、谷口陽子（客員研究員、筑波大学准教授）、鈴木環（客員研究員、JICA 専門家）、前田耕作（和光大学名誉教授）、ファビオ・コロンボ（保存修復専門家）、岡崎甚幸（武庫川女子大学教授）、森本晋（奈良文化財研究所国際遺跡研究室長、石村智（国際遺跡研究室研究員）、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）、田代亜紀子（国際遺跡研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
16 年より、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業に参画し、バーミヤーンの文化遺産保護のために様々な活動を実施している。本年度は、バーミヤーン遺跡保存にむけた調査研究、キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所と連携したアフガニスタンの考古学専門家の人材育成・技術移転を実施し、バーミヤーン遺跡の保存にむけた報告書等を刊行した。

(1) バーミヤーン遺跡保存事業
アフガニスタンのバーミヤーン遺跡において、アフガニスタン情報文化省と共同で「バーミヤーン遺跡保存事業」第 11 次ミッションを実施し（25 年 9 月 28 日～10 月 6 日）、下記の作業を実施した。
1. 保存修復処置を実施したバーミヤーン谷Ｉ窟、N(a)窟、C(a)窟、C(b)窟、D 窟、D1 窟の壁画の状態調査。
2. 石窟及び収蔵庫等の環境測定データの回収。
3. フォーラーディ谷石窟及び壁画の状態調査。
4. 考古遺跡の状態調査。
5. 新博物館構想の実現に向けた景観情報の収集。

6. 上記の作業を通したアフガニスタン専門家の人材育成・技術移転、
7. 現地大学生への公開レクチャー。

(2) 考古学専門家の人材育成・技術移転
アフガニスタン考古学研究所よりアフガニスタン人専門家 2 名をキルギス共和国に招聘し、発掘研修を行った（25 年 9 月 1 日～12 日）。キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所と連携し、アクベシム遺跡において遺跡発掘、遺構測量、出土遺物の保存修復についての研修を実施した。

(3) 第 12 回ユネスコ・バーミヤーン遺跡保存事業専門家会議への出席
イタリア環境保護調査研究所の主催によりイタリア、オルビエトで開催された専門家会議に出席し、調査、保存修復成果及び新博物館構想についての発表を行った。また、今後の事業の方針について、ユネスコ、イクロム、ドイツ隊、イタリア隊、フランス隊等との協議を行なった（25 年 12 月 8 日～13 日、5 名）。

(4) 本事業の枠組みで実施されたバーミヤーン谷石窟の建築学的報告、保存修復及び石窟構造に関する資料集、今年度の事業概報を作成した（①報告書 4 件）。

【実績値】
①報告書 4 件：
・Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan, Supplement 6『Documentation of the Bamiyan Sites 3: Conservation of the Mural Paintings of the Bamiyan Buddhist Caves』2013.6.28
・Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan, Volume 5『Strucuture, Design and Technique ot the Bamiyan Buddhist Caves』2013.7.17
・『UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project for the Safegurding the Cultural Landscape and Archaeologial Remains of the Bamiyan Valley: Final Report 2013』2014.1.31
・Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan, Supplement 7『Documentation of the Bamiyan Sites 4: Archtecutural Survey of the Bamiyan Buddhist Caves』2014.3.31
②研修参加人数：2 名（キルギス、アクベシム遺跡）
③国際会議参加人数：5 名（イタリア、オルビエト）

【受託経費】
63,164 米ドル（5,753 千円）

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8058

業務実績書(受託事業)

研No.54-1

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務（受託）（（３）－①）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
島津美子（前文化遺産国際協力センター特別研究員）、藤澤明（アソシエイトフェロー）、川口雄嗣（アソシエイトフェロー）、田島さか恵（アソシエイトフェロー）、本郷浩志（事務補佐員）、松田泰典（客員研究員、大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト JICA 専門家テクニカルチーフアドバイザー）

【年度実績概要】
当事業は、独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け、主としてエジプト国大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）における人材育成に係る以下の業務を行った。(1)計画策定支援、(2)研修支援、(3)専門家派遣支援

(1)研修計画策定のための専門家（講師）全体会議を 2 回（25 年 4、12 月）開催し、「保存修復人材育成プログラム」における 27 年度までの各研修計画を策定した。

(2)本格化した保存修復分野の研修のほか、保存科学分野や予防保存分野などの部門横断的な研修を引き続き支援するため、必要な教材・資機材についての助言、資料作成支援、翻訳、語彙集の作成、及び本邦研修について研修協力機関とのアレンジを含めた全般的な調整を行った（カッコ内は開催時期と参加人数)。

＜現地研修（計 7 回）＞
「第 2 回染織品研修」(25 年 4 月、16 名)
「第 3 回労働安全衛生研修」(25 年 4～5 月、19 名)
「文化財の診断技術・分析法研修」(25 年 5 月、10 名)
「第 6 回所内移動・梱包研修」(25 年 6 月、35 名)
「国外視察研修（含む BUMA8 奈良大会)」(25 年 9 月、3 名)
「第 7 回所内移動・梱包研修」(26 年 2 月、23 名)
「第 2 回彩色文化財研修」(26 年 2 月、16 名)
＜本邦研修（計 4 回）＞
「第 4 回収蔵品管理研修」(25 年 6 月、6 名)
「第 3 回染織品研修」(25 年 9 月、8 名)
「第 3 回微生物管理研修」(26 年 1 月～2 月、3 名)
「木材研修」(26 年 2 月、7 名)
このほか 26 年度上半期に実施予定の各研修の準備を継続して行った。


第 3 回染織品研修の様子

(3)上記研修の講師としての JICA 派遣専門家の推薦と研修支援、研修協力機関との調整を行った。また、現地に派遣されている JICA 長期及び短期専門家の活動に対し継続的な支援を行った。

以上のほか、GEM-CC の運営体制や研修資機材の調達と管理についての助言、博物館の保存修復における技術情報支援を行った。

【実績値】
報告書　2 件（①～②)、計画案　1 件（③）
① 『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務実施報告書（上半期分)』2013.10
② 『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務実施報告書（下半期分)』2014.3
③ 「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）26 年度研修計画（案)」

【受託経費】
26,893 千円

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 8059

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研 No. 56-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	平成 25 年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム(受託)(4)		
【担当部課】	―	【事業責任者】	副所長　大貫美佐子

【スタッフ】
児玉茂昭(アソシエイトフェロー)、井内千紗(前アソシエイトフェロー)、辻修次(アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に関する知見の共有ならびに域内の協力を強化することを目的に、各地域の研究者を招集し、国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」(タイ・ユネスコバンコク事務所、26 年 2 月 19 日～20 日) を開催した。

○無形文化遺産のネットワークの構築

(1)国際会議への出席

①成都国際会議 (中国・成都、25 年 6 月 14 日～16 日)
②中国 C2 センター(CRIHAP)第 2 回運営理事会 (中国・成都、25 年 6 月 17 日)
③無形文化遺産分野 C2 センター第 1 回総会 (ブルガリア・ソゾポル、25 年 7 月 23 日～28 日)
④韓国 C2 センター(ICHCAP)第 3 回運営理事会 (韓国・大田、25 年 9 月 29 日～10 月 1 日)
⑤第 8 回政府間委員会 (アゼルバイジャン・バクー、25 年 11 月 30 日～12 月 10 日)

(2)運営理事会の開催

「センター第 2 回運営理事会」(ホテルグランヴィア京都、25 年 10 月 21 日) を開催した。本理事会では、センター中長期計画や規程の改正、過年度の事業報告、今後の事業計画について審議の上、承認された。

(3)ウェブサイトの更新

「無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム」の事業報告の掲載や、現行の日本語、英語、タイ語、ベトナム語に加え、タミル語、クメール語、ラオ語を新規に追加し、計 7 言語での情報発信に向けた準備作業を行った。

○無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム

文化庁、堺市との共催で「無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム」(ホテルアゴーラリージェンシー堺、25 年 8 月 3 日) を開催した。シンポジウムの第一部では、二つの基調講演とパネルディスカッションを行い、第二部では、佐陀神能とカンボジアの宮廷舞踊の公演を行った。

○無形文化遺産の保護の方法に関するワークショップ

「無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップ」(東京国立博物館、26 年 2 月 4 日～6 日) を開催した。



国際専門家会合 (バンコク)



10 周年記念シンポジウム (堺市)



ワークショップ (東京国立博物館)

【実績値】

国際会議出席回数	5 回 (上記、国際会議)
国際会議開催回数	4 回 (海外 1 回(バンコク)、国内 3 回(理事会、シンポジウム、ワークショップ))
10 周年記念シンポジウム出席者	291 人
ウェブサイトアクセス件数	5,454 件 (25 年 4 月 1 日～26 年 3 月 31 日)
刊行物	1 冊

『2013 Study Tour Report : Toward Safeguarding the Intangible Cultural Heritage for the Promotion of Cultural Identity and Community Resilience in Timor-Leste』

【受託経費】
51,367 千円

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 8060

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研 No. 56-2

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー(受託)(4)		
【担当部課】	—	【事業責任者】	副所長　大貫美佐子

【スタッフ】
児玉茂昭(アソシエイトフェロー)、井内千紗(前アソシエイトフェロー)、辻修次(アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

ユネスコジャカルタ事務所との共催で、東ティモールの文化担当行政官を対象に「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」を 25 年 10 月 22 日～26 日に実施した。本研修では下記の箇所を訪問し、日本における無形文化遺産への行政の取り組みについて学ぶとともに、無形文化遺産の実例の視察と継承者との意見交換を行った。

レクチャー
「日本の無形文化遺産保護のシステム」　文化庁（東京）　10 月 23 日
「なまはげ館における展示の手法と伝承の取り組み」　なまはげ館（秋田）　10 月 24 日
「結城紬技術保存のための結城市の取り組み」　結城市伝統工芸コミュニティセンター（茨城）　10 月 25 日
「結城紬継承の現状と課題」　同上
「結城紬の広報について」つむぎの館（茨城）　同上

視察
特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」　東京国立博物館（東京）　10 月 22 日
無形文化遺産部の調査活動　東京文化財研究所（東京）　10 月 23 日
歌舞伎　国立劇場（東京）　10 月 26 日
常設展示　なまはげ館及び男鹿真山伝承館（秋田）　10 月 24 日
トレーニングプログラム　結城市伝統工芸コミュニティセンター（茨城）　10 月 25 日
常設展示　つむぎの館（茨城）　同上
常設展示　益子参考館（栃木）　同上
益子焼の市場　益子町内（栃木）　同上

セッション
東京国立博物館会議室及び小講堂　10 月 22 日及び 10 月 26 日

最終日には参加者が研修を通じて得た知識をもとに、東ティモールの無形文化遺産保護について討論を行った。


つむぎの館視察（10 月 25 日）


東京国立博物館での討論（10 月 26 日）

【実績値】
参加人数　9 名
レクチャー回数　5 回
視察　8 箇所
刊行物　1 冊
『2013 Study Tour Report : Toward Safeguarding the Intangible Cultural Heritage for the Promotion of Cultural Identity and Community Resilience in Timor-Leste』(ただし、別予算から刊行)

【受託経費】
4,648 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8061

業務実績書(受託事業)

研№.78-1

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
【事業名称】	平城宮跡歴史公園および朱雀大路緑地等の発掘調査(受託)（(4)－①）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野健吉

【スタッフ】
小池伸彦（考古第一研究室長）、渡邉晃宏（史料研究室長）、神野 恵（都城発掘調査部主任研究員）、川畑 純(考古第三研究室研究員)、番 光(遺構研究室研究員)・芝 康次郎(考古第一研究室研究員)・石田由紀子(考古第三研究室研究員)、松下迪生（遺構研究室アソシエイトフェロー）、中村一郎（写真室主任）、鎌倉 綾（写真室技能補佐員）

【年度実績概要】

平城宮跡展示館の建設に伴う平城京左京三条一坊一・二坪の調査（A：平城第 515 次）と、休憩施設等の設置に伴う平城宮跡中央区朝堂院周辺及び第一次大極殿西南の調査（B：同 517 次）の 2 箇所に分かれる。Aは北区・南区の 2 箇所に、Bは 3 箇所の小調査区にさらに分かれる。このうちBの第一次大極殿院西南の調査区はさらに南北の 2 箇所に分かれる。調査面積はAが計 264 ㎡、Bが計 156 ㎡、調査期間はAが平成 25 年 5 月 16 日～31 日、Bが同年 8 月 5 日～29 日。

・基本層序
A：上から造成盛土 150cm、畑地・水田耕作土 30～50cm、遺物包含層 10cm、整地土。
B：上から造成盛土 70～100cm、耕作土・床土 50～80cm、遺物包含層 20cm、地山。

・主な検出遺構
A：北区では南北溝１条、南区では東西溝１条（三条条間北小路南側溝）と古墳周濠を検出した。
B：中央区朝堂院東北の調査区では瓦溜まり、第一次大極殿院西南の調査区では、小穴・溝状遺構を検出した。

・主な出土遺物
A：冶金関連遺物、土器、埴輪、瓦
B：土器、瓦、木製品

・調査所見
A：両調査区とも西半にボックスカルバートが設置され、遺構は損なわれていたが、それを除けば、遺構の遺存状況は良好であることが判明した。南区では三条条間北小路南側溝を検出し、条坊復元のための貴重な情報を得た。また南区では新たに古墳の存在が判明し、平城京造営以前の様相を知る上で貴重な情報を得た。
B：中央区朝堂院東北の調査区で検出した瓦溜まりは、遺構検出面の標高及び堆積土からみて、小さな谷地形に落ち込んだ流路に由来するものと考えられる。中央区朝堂院西南の調査区では、自然流路（奈良時代以降か）を検出したにとどまった。第一次大極殿院西南の調査区では、南北区ともに GL-1.6m 付近で小穴及び溝状遺構を検出した。仮設建物の建設予定地であるため、遺構の検出に留め、掘り下げは行わなかった。このため性格は不明だが、遺構の年代は出土遺物（土器、瓦）から奈良時代に属すると考えられる。いずれも平城宮内の当該地区の様相を知る上で貴重な成果である。



A南区　三条条間北小路南側溝及び古墳の周壕（北から）

【実績値】
論文等数：3 件（①～③）
①川畑 純「平城京左京三条一坊一・二坪の調査　（平城第 515 次)」『奈文研ニュース』No.50、奈文研、2013.9
②川畑 純ほか「平城京左京三条一坊一・二坪の調査　－第 515 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈文研、2014.6（予定）
③芝 康次郎ほか「平城京中央区朝堂院等の調査　－第 517 次」同上
(参考値)
A：出土遺物：木製品１点、木炭２点、冶金関連遺物コンテナ１箱、土器・埴輪コンテナ 15 箱、瓦磚類コンテナ５箱（軒丸瓦１点を含む）
記録作成数：実測図 12 枚（A2 判)、遺構写真 18 枚（４×５）
B：出土遺物：木製品５点　土器コンテナ３箱　瓦磚類 コンテナ 42 箱
記録作成数：遺構写真 12 枚（４×５)、実測図 16 枚（A2 判)

【受託経費】
6,260 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8062

業務実績書(受託事業)

研№.78-2

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査（(4)－①）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
松村恵司（所長）、小野健吉（副所長）、小池伸彦・箱崎和久・清野孝之・渡辺丈彦・山本 崇・黒坂貴裕・今井晃樹・大林 潤・諫早直人・森先一貴・小田裕樹・番 光・石田由紀子・海野 聡・庄田慎矢・芝 康次郎・川畑 純・前川 歩・中川二美・井上麻香・松下迪生・中島咲紀・村山聡子（以上、都城発掘調査部）、林 良彦(文化遺産部長)、鈴木智大・中島義晴（以上、文化遺産部）、小澤 毅・脇谷草一郎・児島大輔（以上、埋蔵文化財センター）、窪寺 茂（建築装飾技術史研究所長、客員研究員）、上田浩司（研究支援推進部長）、田中康成（連携推進課長）

【年度実績概要】

国土交通省による第一次大極殿院地区の整備に伴う復原検討の 4 年目。奈良時代前期（Ⅰ－２期）の第一次大極殿院を構成する、南門、東楼・西楼、築地回廊の各建物、及び大極殿院の地形等について往時の形態を復原するのが目的である。所内復原検討会は計 11 回開催し、また、有識者を招聘し、復原建物自体と、その復原根拠資料に関する検討会を計 2 回開催した。これらによって、対象建物の復原設計の大要が固まった。そして、検討の内容を収録した『第一次大極殿院復原検討会記録』（内部資料）を刊行した。



有識者を招聘した検討会
(25 年 9 月 30 日～10 月 1 日)

・南門の検討

現存建築や絵画史料等の検討から、上下層の柱高・柱径、組物の各部材寸法といった細部の寸法を決定した。このほか、柱間装置等について検討し、復原図を作成した（第 49,54,55 回検討会)。

・東楼・西楼の検討

架構、屋根形式、組物、天井等は互いに関係するため、これらについて作図し、納まり等を検討した。その結果、梁と束で棟木や隅木を支える架構、寄棟造、組物は平三斗、格天井とする案が最も妥当と考えられた。また、柱間装置のほか細部の寸法等を決定し、復原図を作成した（第 51,55 回検討会)。

・築地回廊とそれに開く小門の検討

発掘遺構、現存建築及び発掘遺構の類例、史料等の検討の結果、築地回廊の桁行柱間寸法は基本的に 15.5 尺等間と考えられた。北面回廊の中央に開く門は、桁行 15 尺等間の八脚門、東面・西面回廊には、桁行 1 間の小門が各 3 箇所ずつ開くと考えられた。築地回廊、北門、小門の上部構造については、構造形式のほか、軒の出・柱高・柱径といった主要寸法等を決定し、これらの復原図を作成した（第 48,50,51,52,53,55,56 回検討会)。

・彩色・金具の検討

出土瓦に付着した赤色色料の科学分析により、主な建築木部には、酸化鉄系の赤色塗装が施されていたことが判明した。これと並行して、文化財建造物の修理工事報告書や絵画史料、発掘出土品からも、彩色・飾金具についての検討を進めた。一方、古代の建築木部の塗装については不明な点が多いため、塗装手板を作成し、耐候性試験を実施した（第 57,58 回検討会)。

【実績値】
・第一次大極殿院復原検討会開催数：11 回（第 48～58 回）
・第一次大極殿院復原建物検討会（25 年 9 月 30 日～10 月 1 日）：有識者３名招聘
・第一次大極殿院復原資料検討会（25 年 12 月 16 日）開催：有識者４名招聘（ほか２名にも指導・助言を頂いた）
・類例調査：国内４回
論文等数：４件（①～④）
①海野 聡「東西楼…―第一次大極殿院の復原研究 12―」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈文研、2014.6（予定）
②中島咲紀「南門…―第一次大極殿院の復原研究 13―」同上
③井上麻香「回廊…―第一次大極殿院の復原研究 14―」同上
④中川二美「磚・瓦…―第一次大極殿院の復原研究 15―」同上
報告書等数：2 件（⑤・⑥）
⑤⑥『第一次大極殿院復原検討会記録７』・『同８』（いずれも内部資料）2014.3

【受託経費】
39,091 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8063

業務実績書（受託事業）

研№78-3

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
【事業名称】	朱雀大路緑地遺跡の発掘調査（受託）（(4)－①）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　小野 健吉

【スタッフ】
渡辺丈彦（都城発掘調査部主任研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、海野 聡（遺構研究室研究員）、青木 敬（考古第二研究室研究員）、諫早直人（考古第一研究室研究員）、大澤正吾（考古第二研究室研究員）、中村一郎（写真室主任）、栗山雅夫（写真室技術職員）

【年度実績概要】

国土交通省の平城宮跡展示館の建設に伴う事前調査。平城京左京三条一坊八坪にあたる北新大池内の調査区（A）、及び同一坪にあたる旧道路下の調査区（B）の 2 箇所に分かれる。Aは調査面積が 450 ㎡、調査期間が 25 年 11 月 5 日～29 日。Bは調査面積が 1953 ㎡、調査期間が 25 年 12 月 16 日～26 年 3 月 28 日。

・基本層序
A：旧建物の基礎による地盤改良剤により大きく攪乱を受けており、攪乱下で地山（灰色細砂・黒灰粘土）を検出し、この上面で遺構を検出した。
B：上から、整備盛土（約 1.5m）、耕土・床土（約 50cm）奈良時代の整地土数層（最大 30 ㎝）、地山（灰色細砂）の順。一部整地土が完全に削平されている箇所がある。最上層の整地土上面または地山面上が遺構検出面。

・検出遺構
A：弥生時代後期の溝 2 条、時期不明の自然流路 2 条。
B：奈良時代の建物 3 棟、塀 1 条、坪内道路、三条条間北小路。

・出土遺物
A：溝より弥生時代後期の土器及び種実等自然遺物、自然流路より風倒木。
B：床土及び整地土、道路側溝より瓦片、土器片、埴輪片、木炭。



B 調査区全景（東南から）

・調査所見
A：攪乱により奈良時代の遺構は検出できなかったが、弥生時代後期の溝のほか自然流路などを検出し、奈良時代以前の当該地区の様相を知るうえで貴重な資料を得た。
B：既検出の建物 1 棟、塀 1 条、道路 2 条の東延長部分に加え、調査区北東部で新たに建物 2 棟を検出した。それ以外には全体的に遺構は少なく、当該坪が朱雀門前の広場的空間として利用されていたことを確認した。平城京における土地利用の多様性を知るうえで貴重な資料を得た。

【実績値】
論文等等：2 件（①・②）
①小田裕樹ほか「平城京左京三条一坊八坪の調査　－第 515・522 次」『奈良文化財研究所紀要 2014』奈文研、2014.6（予定）
②山本祥隆ほか「平城京左京三条一坊一坪の調査　－第 522 次」『奈良文化財研究所紀要 2015』奈文研、2015.6（予定）
（参考値）
A：出土遺物：土器・土製品 コンテナ４箱、種実多量
記録作成数：実測図 16 枚（A2 判）、遺構写真 12 枚（４×５）
B：出土遺物：丸瓦・平瓦 コンテナ 11 箱、土器・土製品 コンテナ 3 箱、木炭多量
記録作成数：実測図 55 枚（A2 判）、遺構写真 8 枚（４×５）

【受託経費】
25,780 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8064

業務実績書(受託事業)

研№80-1

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
【事業名称】	平城宮跡展示館詳覧ゾーン展示内容調査業務（受託）(4)－①		
【担当部課】	企画調整部　展示企画室	【事業責任者】	企画調整部長　杉山　洋

【スタッフ】
加藤真二（展示企画室長）、中川あや（展示企画室研究員）、渡邉淳子（展示企画室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

(1) 他の博物館等施設（38 施設）の視察を行い、展示内容、展示構成、展示手法の観点から調査し、詳覧ゾーンの展示基本設計見直しの参考とした。

(2) 利用者調査（平城宮跡資料館他）、企画段階調査（詳覧ゾーン展示計画）、において、アンケート調査・インタビュー調査・行動観察調査等を行い、詳覧ゾーン展示基本設計見直しの参考とした。

(3) 以上の（1）、(2) の結果をふまえて検討した基本設計の展示見直し案にもとづき、展示候補物をリスト化した。



企画段階調査　インタビュー調査風景

【実績値】
(1) 施設視察報告書　1 式（41 施設）
(2) 展示評価分析報告書　1 式（アンケート調査 952 件、展示評価のためのインタビュー調査 10 回、行動観察調査 4 回、フォーカスグループインタビュー２回の成果を反映）
(3) 展示候補物リスト　1 式（225 件分）

【備考】
6,770 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8065

業務実績書(受託事業)

研№86-1

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	関西大学博物館及び考古学研究室保管奈良県高市郡明日香村牽牛子塚古墳出土夾紵棺一括の修理（受託）((１）－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	伝統技術研究室長　北野信彦

【スタッフ】
犬竹和（修復家）

【年度実績概要】

本事業で修理を行った資料は、終末期古墳（７世紀）である奈良県高市郡明日香村牽牛子塚古墳から出土した夾紵棺（漆製の棺）の破片である。関西大学が保管している大正の発掘品破片 7 点と考古学研究室に保管されている昭和 52 年に明日香村が古墳の保存環境整備に伴う発掘で出土した破片一括である。

夾紵棺の製作技法は縄文、弥生、古墳時代の遺跡から出土する日本の漆製品とは相違がある。これらの資料は破片ではあるが当時の社会変革や仏教伝来などに伴う大陸からの人や物の流入、工芸品製作の技術移転を考察する上で重要な資料である。

資料中には斉明天皇と間人皇女の棺の破片が混在していると考えられているが、両者を判別出来ていない状態で、全体像の解明を含め、今後の調査研究が期待されている。しかしながら、夾紵棺の殆どが関西大学を含めの数カ所に散在して断片として保管されているため資料研究が進んでいないのが現状である。従って、関西大学が保管している資料も調査研究を進め資料情報を公開し、他の研究機関や研究者と広く資料情報を共有する必要があるが、昭和 52 年に発掘後漆膜の剥落や亀裂、損傷などを防止するためかなり厚く樹脂が塗布されているので表面観察が難しく、調査研究の妨げとなってしまったため以後進展していない。また表面の光沢が著しく展示などの資料公開も一部に限られていた。

さらにこの樹脂が夏などの高温期に特に軟化し、粘着性を持ち、保護紙と付着し、これを剥がそうとすると、かえって漆膜ごと剥がれてしまうなどの損傷を与えていた。また樹脂の塗布後 30 年以上経過し樹脂の劣化が原因と思われる臭いがするなど、明らかに樹脂の経年劣化が見受けられた。

従って、今回の修理では資料の観察を妨げている劣化した樹脂をできるだけ除去し、資料の調査研究ができるような状態にした。尚かつ安全な今後の保管のため脆弱部分については強化処置を行った。

概要
◇修復対象　夾紵棺破片一括
◇修復概要
(1) 過去の保存処理で使用された強化処理剤の除去：劣化した強化処理剤を有機溶剤（エチルアルコール）で溶かして除去した。
(2) 土などの汚れの除去：表面の汚れは蒸留水と有機溶剤（エチルアルコール）を少量筆に含ませて除去した。
(3) 強化処理：劣化して脆弱になった破片をアクリル樹脂エマルションで強化した。
(4) 漆膜の剥落留め：漆膜の接合はアクリル樹脂で点接合した。
(5) 接合：アクリル樹脂を使用して破片を接合した。
◇効果と課題

以上の修理、とりわけクリーニング作業を実施した結果、これまで他の機関が少数の資料を調査した断片的な結果しか知られていなかった本資料群の塗装技術の実態を、ほぼ網羅的に明らかにすることができた。今後は、本資料群をどのような資料活用元するのかが課題である。



修理対象資料

【実績値】受託事業報告書　1 件:『関西大学博物館および考古学研究室保管奈良県高市郡明日香村牽牛子塚古墳出土夾紵棺一括の修理報告書』、東京文化財研究所、14,3,20、(内容：対象資料である牽牛子塚古墳出土夾紵棺一括の修理工程及び作業時で知り得た情報に関する報告書)

本事業は関西大学から委託

【受託経費】
1,365 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 8066

業務実績書(受託事業)

研№86-2

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	小石川後楽園得仁堂収蔵物の保存修復科学的な調査委託（受託）((１）－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	伝統技術研究室長　北野信彦

【スタッフ】
桐原 瑛奈（研究補佐員)、山下好彦（文化遺産国際協力センター任期付研究員)、西山陽（修復家）

【年度実績概要】

本事業で調査対象となった文化財は、江戸時代には旧水戸藩邸庭園であった小石川後楽園に所在する得仁堂内に長年収蔵されていた螺鈿机 1 点である。

この得仁堂は寛文 8 年(1668)に水戸藩主徳川光圀によって建立された東京都指定文化財であり、この堂内収蔵物である螺鈿机も他からの搬入品というよりは本建造物由来の文化財であると理解されている。この螺鈿机は天板のみならず脚部や側板にも緻密な草木花蝶の文様が螺鈿漆塗りで加飾されていたことが、漆塗膜や螺鈿貝の残存痕跡から理解される優品である。ところが長年堂内に放置されたままであったため、全体的に埃塵に覆われるとともに、脚部等の破損が激しく天板・側板・脚部は分割された状態であった。また、本資料を特徴つける中国風もしくは琉球風の模様が入った漆塗膜層や螺鈿貝の剥落などの劣化も著しいため、早急の保存措置が必要であった。

そこで平成 25 年度から 26 年度の 2 ヵ年の継続事業として、1.本対象資料である螺鈿机の性格を把握するための基礎的な調査（螺鈿模様の復元図作成、塗装材料及び技法・構造の分析調査など)、2.塗装面の保存修復作業、3.破損や欠損が著しい脚部の復元、などの一連の作業を行うこととなった。このうちの本年は、主に 1.に関係する観察・分析調査と、それに伴うクリーニング作業及び劣化が著しい箇所の養生作業を実施した。

概要
◇調査対象　1 点
◇調査概要
(1) 搬入及び低酸素燻蒸作業：搬入された対象資料は、得仁堂内で長年放置されていたため、虫害痕跡が目視確認された。そのため、当研究所搬入時に脱酸素剤と専用袋を用いた燻蒸作業を約 3 ヶ月実施した。
(2) 調査前の写真撮影：燻蒸作業が終了した対象資料を写場に移動し、高精細デジタル写真撮影を実施した。
(3) クリーニング及び脆弱膜面の養生作業：対象資料表面には埃塵が多く覆っているため、以後の調査を実施する際の移動時に脆弱箇所から漆塗料及び螺鈿貝の小剥落片が出ないよう、和紙としょうぶ糊による養生作業と、試料表面に堆積した埃塵を刷毛・筆、ミュージアムクリーナー等を用いて簡易クリーニングを実施した。
(4) 塗装材料と技法に関する分析調査：剥落小塗膜試料を採取し、塗装断面の顕微鏡観察、漆塗料の PY-GC/MS 分析等を実施した。
(5) 螺鈿模様や復元図作成：先に撮影した高精細デジタル写真画像と目視観察により、対象資料の螺鈿模様の復元図を作成し、現状で残存している箇所と復元箇所の比較が可能なように色分けした線描の図面を作成した。
◇効果と課題

今年度の調査では、螺鈿机の材質・技法の分析や劣化状態の確認、螺鈿模様の復元図作成等を行うとともに、第１段階のクリーニング作業を実施した。その結果、本資料の現状把握を詳細に行うことができた。来年度は、剥落止め、漆固め、破損が著しい脚部の復元等の施工実験を行う予定である。従来の漆塗料の身を使用する漆工品の修理作業とは異なり、膠材料や合成樹脂の応用、加温コテを使用した膜面の変形修正などの作業も施工実験では取り組む計画にしている。



螺鈿机の天板

【実績値】
受託事業報告書　1 件：
『小石川後楽園得仁堂収蔵物の保存修復科学的調査報告 2013 年度』、東京文化財研究所、2014.3.20
(内容：対象資料である小石川後楽園得仁堂内収蔵物（螺鈿机）の材質・技法・構造に関する調査報告書
（本事業は東京都［東京都東部公園緑地事務所］からの委託

【受託経費】600 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8067

業務実績書(受託事業)

研№93-1

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	鳥取県鳥取市良田平田遺跡他２遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究(受託)（(1) －②)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】
山本　崇（都城発掘調査部主任研究員)、渡辺晃宏（史料研究室長)、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員)、馬場基（都城発掘調査部主任研究員)、桑田訓也（史料研究室研究員)、山本祥隆（史料研究室研究員)、高妻洋成（保存修復科学研究室長)、脇谷草一郎（保存修復科学研究室研究員)、田村朋美（保存修復科学研究室研究員)、藤井裕之（客員研究員)、中村一郎（写真室主任)、松井　潔（(公財)鳥取県教育文化財団調査室長)、高尾浩司（(公財)鳥取県教育文化財団文化財主事)

【年度実績概要】

・鳥取市良田平田遺跡・良田中道遺跡・東桂見遺跡から出土した木簡及び、良田平田遺跡から出土した墨書土器について、最新の機器を用いた解読によりその歴史的な評価を確定し、また貴重な資料群を後世に残すために木簡の状態に即した最適の手法による科学的な保存処理を行うものである。木簡 9 点、墨書土器 49 点を対象とした。

・本年度に実施した事業は、下記の通りである。

(1)水漬け状態にある木簡について、現物の熟覧のほか、赤外線テレビカメラ装置と赤外線デジタル写真を用いて検討を加え、現状の釈文案を作成した。加えて、実体顕微鏡による樹種の観察を行った。

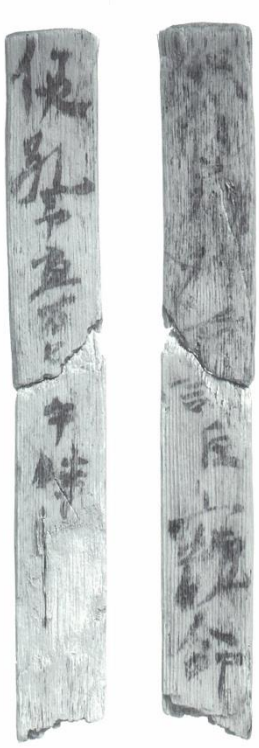
(2)上記の作業完了後、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、科学的な保存処理を実施した。保存処理は、木簡の状態に応じて個別に検討を加え、高級アルコール法を採用した。

(3)保存処理後の状態を記録し、再釈読に供するため、カラー・赤外線デジタル撮影を行った。作成した画像は、奈文研と(公財)鳥取県教育文化振興財団の双方に保管している。

(4)保存処理後、(1)と同じ要領で再度釈読検討会を実施し、9 点の木簡の釈文を確定した。

(5)墨書土器の熟覧調査を行い、釈文を確定した。

・以上の調査の結果、保存処理により墨痕が鮮明になるものも多く、従来の釈読に加えて、さらに読みを進めることができた。とりわけ、現在のところ中国地方最古となる文書木簡の解読が進んだ点は特筆される。成果の一部は、高尾浩司「鳥取県鳥取市良田平田遺跡出土木簡」(『考古学ジャーナル』646 号、2013 年)、高尾浩司「鳥取・良田平田遺跡」(『木簡研究』35 号、2013 年）に示したほか、保存処理後の成果を含む最新の釈文を、山本崇・高尾浩司「鳥取県良田平田遺跡の出土文字資料」(『奈良文化財研究所紀要 2014』2014.6 予定）として公表する予定である。



良田平田遺跡出土の前白木簡（保存処理後・赤外画像）

【実績値】
解読木簡点数 9 点、解読墨書土器点数 49 点、木簡の保存処理点数 9 点、デジタル写真 74 枚、赤外線画像 142 点

【受託経費】
195 千円

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化

【年度計画】
1)財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。
2)国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。
3)機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
1)共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。
2)国立博物館各館及び各研究成果公開施設における25～29年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。
3)・機構共通の業務システムである、グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」の各システムの基盤となるネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」の運用を継続した。
・グループウェア「サイボウズ」の本運用サーバーについて、障害発生時に業務への影響が少ないサーバー構成について検討した結果、専用のストレージサーバーを構築することとし、26年3月に調達を行った。26年4月以降、セットアップを行う予定である。
・人事給与統合システム「U-PDS」及び web給与明細システム「U-PHS HR」のバージョンアップを行った。(25年12月)

【補足事項】
3)・機構グループウェア「サイボウズ」のバックアップサーバー(奈良文化財研究所に設置)は、故障対応のため、26年3月にサーバー一式を新規調達した。26年4月以降、セットアップ完了次第、奈良文化財研究所へ再設置する予定である。
・グループウェア「サイボウズ・ガルーン3」25年度利用ユーザ数(24年度も同数):
機構全体　1,000
内訳:本部事務局・東京国立博物館230、京都国立博物館100、奈良国立博物館60、九州国立博物館150、東京文化財研究所150、奈良文化財研究所250、アジア太平洋無形文化遺産研究センター20、予備40

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名　法人全体　　処理番号　9120

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(2)計画的なアウトソーシング

【年度計画】
　以下の業務の外部委託を継続して実施する。
(東京国立博物館)
・資料館業務の一部
・施設内店舗業務
(京都国立博物館)
・看視案内業務及び設備保全業務の一部
・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務
(奈良国立博物館)
・建物設備の運転・管理業務
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
(九州国立博物館)
・建物設備の運転・管理業務等
・警備業務、看視案内業務及び清掃業務
(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)
・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課 京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課 東京文化財研究所研究支援推進部 奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。

【補足事項】
・外部委託が可能な業務については、民間委託を進めている。
・また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約等の実施により、業務の効率化を図っている。
・民間委託の増加に伴い、契約手続・監督等の業務が増加しているが、担当職員が削減されたため、業務継続に必要なノウハウが館に蓄積されないなどの問題が生じている。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
　中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
　このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
　具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
　・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
　・廃棄物減量化
　・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9130

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(3)　使用資源の減少

【年度計画】
・省エネルギー
1)光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
（エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減）
・廃棄物減量化
1)使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
・リサイクルの推進
1)廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原祐司

【実績・成果】
・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集，リサイクル業者への古紙売り払い，再生紙の発注等）

使用資源の推移等
光熱水料金　（千円）

事項	24 年度	25 年度	差額	増減率
電気料	414,971	496,266	81,295	19.59%
水道料	83,236	87,249	4,013	4.82%
ガス料	129,406	180,761	51,355	39.69%
計	627,613	764,276	136,663	21.78%

※電気料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。
・電気料特殊要因①：原料高騰、再生可能エネルギー発電促進賦課金の賦課による契約単価と燃料調整費の上昇により増額となった。
・電気料特殊要因②：東京国立博物館における東洋館の通年開館及び黒田記念館の一部開館により使用量が増加した。
・電気料特殊要因③：京都国立博物館における平成知新館（平常展示館）の開館準備により使用量が増加した。

事項	24 年度単価（円/kwh）	25 年度単価（円/kwh）	差（円/kwh）	単価影響額（千円）
電気料特殊要因①	17.1	19.3	2.2	50,132

事項	増加量（kwh）	25 年度単価（円/kwh）	単価影響額(千円)
電気料特殊要因②	532,642	21.6	11,505
電気料特殊要因③	1,124,635	23.0	25,867

※水道料は、東京国立博物館における東洋館及び黒田記念館の開館、奈良文化財研究所における発掘現場から大量に出土した遺物洗浄のための水道利用増により、増額となった。
※ガス料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。
・ガス料特殊要因①：原料高騰により契約単価が上昇した。
・ガス料特殊要因②：東京国立博物館における東洋館の通年開館により使用量が増加した。
・ガス料特殊要因③：京都国立博物館における平成知新館（平常展示館）の開館準備により使用量が増加した。

事項	24 年度単価（円/m^3）	25 年度単価（円/m^3）	差（円/m^3）	単価影響額(千円)
ガス料特殊要因①	81.7	96.4	14.7	24,157

事項	増加量（m^3）	25 年度単価（円/m^3）	単価影響額（千円）
ガス料特殊要因②	72,624	87.3	6,340
ガス料特殊要因③	232,460	139.1	32,335

【次ページへ続く】

【書式Ａ】　施設名　法人全体　処理番号　9130

【前ページから続く】

特殊要因を考慮した光熱水料金　（千円）

事項	24年度	25年度	差額	増減率
電気料（※）	414,971	408,762	△6,209	△1.50%
水道料	83,236	87,249	4,013	4.82%
ガス料（※）	129,406	117,929	△11,477	△8.87%
計	627,613	613,940	△13,673	△2.18%

※電気料・ガス料については特殊要因を勘案して算定。

廃棄物排出量　（kg）

事項	24年度	25年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	245,438	238,041	△7,397	△3.01%

【補足事項】

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
光熱水量	2.18%減	年間1.03%減	S		8.8%減	4.24%減	1.58%減	3.90%減

総合的評価　S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】

中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化

(2)計画的なアウトソーシング

(3)使用資源の減少

・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)

・廃棄物減量化

・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9140

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(4)自己収入の増大

【年度計画】
独立行政法人整理合理化計画(19年12月24日閣議決定)の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。
1)機構全体において、入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。
2)機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
1)定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり5.91%となり、目標を上回った。

（単位：千円）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
自己収入基準額	894,510	904,886	915,383
自己収入目標額	904,886	915,383	926,001
自己収入実績額	821,470	880,271	968,819
増　加　率	△8.17%	△2.72%	5.91%

※受託研究・受託事業を除く。
※自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。
※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

2)下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成25年度
寄附金	226件	486件
科学研究費補助金	76件	95件

【補足事項】
科研費採択件数は、「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」の件数である。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経	21	22	23	24
自己収入増加率	5.91%増	1.16%増	S	年	8.67%増	13.38%増	8.17%減	2.72%減
寄附金件数	486件	226件	S	変	290	314	393	438
科研費採択件数	95件	76件	A	化	86	81	76	88

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	2　給与水準の適正化等
事業名	給与水準の適正化等

【年度計画】
　国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取り組みについて、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
・人事給与統合システムが平成 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。
・地域手当について、平成 25 年度においても平成 21 年度の率を据え置くことが決定された。
・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。

【補足事項】
・レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費(法定外福利費)は 13,171 千円である。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。

・ラスパイレス指数は事務・技術職員が 97.0、研究職員が 98.4 となっている。

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
人件費削減率 (17 年度比較)	－	17 年度決算額に比して 6 年間で 6%削減	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成 23 年度まで継続するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。
　なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名　法人全体　　処理番号　9310

中項目	3　契約の適正化の推進
事業名	契約の適正化の推進

【年度計画】
1)契約監視委員会を実施する。
2)施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。
3)民間競争入札を推進する。
（東京国立博物館・東京文化財研究所）
・施設管理・運営業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。
（東京国立博物館）
・展示場における来館者応対等業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
1)「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 25 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
第１回契約監視委員会（25 年 11 月 29 日開催）
第２回契約監視委員会（26 年 6 月 13 日開催予定）
2) 東京国立博物館正門前無料施設（ミュージアムショップ等）運営業務について、企画競争を実施した。
東京国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン・黒田記念館カフェ）、京都国立博物館（レストラン）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（ミュージアムショップ）については、既に企画競争を実施済み。
今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。
3)・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「１０日間以上」から自主的措置として２０日間以上確保するように引き続き努めている。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	24 年度	25 年度	増減
件数	136 件	171 件	35 件

【補足事項】

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
一般競争入札件数	171 件	－	－		202	175	132	136

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定)に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　9411

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
1)月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。
2)撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケなび！)への登録を継続した。
3)・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。
　・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。
　・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。

【補足事項】
○企業等のパーティー、撮影(映画、ドラマ、雑誌等)、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用(それに伴う収入増)を図った。
・企業等のパーティーによる収入は、9件12,099千円となった。(昨年度実績5件4,345千円)
・撮影による収入は、249件38,225千円となった。(昨年度実績223件35,607千円)
○撮影件数の更なる増加のため
・インターネットロケーション検索サイト(ロケなび！)の申し込みプランを23年8月より更改(掲載写真増、間取り図追加)したところ、撮影件数が大幅に増加した。今年度は25年9月より表慶館がオープンされたことに伴い、表慶館での撮影は限定的なものとなったが、黒田記念館の耐震工事が25年9月に終了したことを受けて黒田記念館での撮影対応を再開した。
・上記「ロケなび！」編集の業界向け雑誌「Location Japan」(26年1月15日発売2月号)において特集記事を掲載、撮影件数の増加を図るとともに、黒田記念館での撮影受入開始を広くアピールした。
・昨年度作成したロケハン（撮影下見）用のシートに黒田記念館を追加することで、ロケ担当者からのニーズにより幅広く対応することができるようになった。
・ロケスタッフへのきめ細かな対応と、更なるサービス向上の一環として、ロケ弁（弁当）業者の斡旋を引き続き実施した。



「Location Japan」2月号掲載紙面

○来館者に展示観覧と合わせてコンサート等を楽しんでいただけるよう､イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。
○イベント開催を来館者数が比較的少ない時期に行い、来館者数の増加に貢献した。
○博物館や美術館などの特別な場所でイベントを実施する「ユニークベニュー」としての施設利用を推進し、企業等パーティーを積極的に実施した。
　また、観光庁が主催するユニークベニュー活用施策に全面協力し、国内におけるユニークベニュー利用促進に貢献するとともに、業界内での認知度向上を図った。
○ウェブサイトのトップページに「ロケ地利用」ページのリンクを設け、ページ閲覧数の増加を図るとともに、「施設有料貸出」ページの情報を追加・整理し、問い合わせ件数の増加及び対応事務の効率化を図った。
○利用者によりわかりやすい料金体系とするため、施設利用料金の見直しを行い、26年4月の消費税率改定に合わせ、実施することとした。
○今後とも企業等のパーティー、講堂・茶室貸出しが増えるよう方策を検討したい。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
施設の有効利用件数	676件	－	－		341	538	618	637
うち有償利用件数	393件	－	－		262	256	341	342

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 9412

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 部長　村上　隆

【実績・成果】
1)平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。
2)平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため、庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。
3)来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。

【補足事項】
○庭園(明治古都館前)
・全館休館期間中に、音楽イベント「音燈華 vol.4」を庭園にて開催し、大盛況であった。(来館者数481名)
・展覧会会期中にお客様が「庭園散策ガイド」を購入することで庭園のみの利用を可能とした。(平成25年8月で終了)
・野外映画上映会を25年7月19日、7月26日に開催した。
(計2日間開催　参加人数65名)
○茶室
・当館に茶室が設けられていることが浸透しているようで、茶道愛好家の利用が多い。
・京都国立博物館主催の茶会を25年4月7日、10月13日、10月20日、11月29日に開催し、盛況であった。
(計4日間開催　参加者数336名)
○講堂の建替に伴う措置
・平成知新館(新平常展示館)は26年9月13日開館予定であるが、講堂については、開館に先立って先行運用すべく準備を進めた。
・「土曜講座」・「夏期講座」・「京都・らくご博物館」の開催会場は、館外の施設を利用し継続した。(詳細は処理番号2212、2222-2参照)


音燈華vol.4　DEPAPEPEコンサート

施設有効利用件数		使用料
茶室	22件(うち、有償　22件、無償　0件)	253,750円
講堂等	4件(うち、有償　1件、無償　3件)	10,500円
撮影利用	2件(うち、有償　2件、無償　0件)	59,115円
計	28件(うち、有償　25件、無償　3件)	323,365円

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
施設の有効利用件数	28件	－	－		35	59	42	59
うち有償利用件数	25件	－	－		26	44	35	46

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　9413

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課渉外室企画推進係	事業責任者	係長　石田義則

【実績・成果】
1)公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。
2)奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。
3)地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。

【補足事項】
○講座・講演会
公開講座(13回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(92回)、特別鑑賞会(9回)、文化財保存修理所特別公開等
○世界遺産学習(33校)
○イベントの実施
・講堂：當麻寺による出張イベント＠奈良博(3回)、トークセッション「仏像模刻にかける青春群像！」、第65回正倉院展親子鑑賞会、特別陳列「お水取り」関連企画「お水取り「講話」と「粥」の会」、文化財保存修理所特別公開、お水取り展鑑賞とお松明
・地下回廊：夏休み親子企画「ほとけさまの絵をかいてみよう！」、奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「仏像切り絵体験」・「写仏散華体験」
・仏教美術資料研究センター：當麻寺による出張イベント＠奈良博(1回)、奈良トライアングルミュージアムズ3館合同外国人向けワークショップ「写仏散華体験」、案内ツアー(2回)、古典の日フォーラム「古典の魅力を堪能する」
・庭園・茶室：案内ツアー（6回)、「おん祭と春日信仰の美術」茶会
○会場提供
・講堂：「中将姫物語」の公演・講談・対談、映画上映会・トークショー、小学生を対象にした「奈良の歴史に学ぶ」講演、能楽学会「世阿弥忌セミナー」、奈良市教職員研修講座、美術史学会西支部大会開催、奈良の＜本当の魅力＞発見！講演、 TANTANAKYU　フォルクレールコンサート
・地下回廊：夏休み子ども教室「香木のフシギ！？」、コンサート「ムジークフェストなら2013」
・仏教美術資料研究センター：コンサート「ムジークフェストなら2013」、光のオルゴールinライトアッププロムナード、言霊と音霊の夜会、結婚式
・庭園：コンサート 音燈華「ジェスカ・グランペール」「ＡＵＮクラックオーケストラ」
・茶室：茶会
・敷地内：なら燈花会、野点の茶会、春日若宮おん祭執行に係る敷地提供、なら瑠璃絵


當麻寺による出張イベント＠奈良博
(仏教美術資料研究センター)


映画上映会・トークショー（講堂）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
施設の有効利用件数	144件	－	－		59	146	144	139
うち有償利用件数	43件	－	－		21	31	28	39

総合的評価　Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 9414

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	交流事業室事務主査　藤﨑秀典

【実績・成果】
(博物館4施設)
1)文化交流展示や特別展に関連する講座・講演会等を開催した。
2)ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。
3)国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワークショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。

【補足事項】
(博物館4施設)
1)・文化交流展(トピック展示)関連イベント
　トピック展示「江戸のモダニズム 古武雄」関連特別講演会「古武雄の美と魅力について」（25年4月20日、参加者数：220名）等を開催した。
・特別展関連イベント
　特別展「尾張徳川家の至宝」関連イベント「ファッションショー『KIMONO夢物語』（25年11月3日、参加者数：350名）等を開催した。
・主催イベント
　8周年イベント「日本とタイの伝統人形劇」（25年10月19日、参加者数：444名）等を開催した。
・各種団体主催イベント
　神話のふるさとみやざき神楽展(25年10月29日～11月10日、参加者数〔期間中来館者数〕：56,574名）等を開催した。

2)・施設の利用実績　計　269件(うち　有償　122件)
　ミュージアムホールの利用　67件(うち　有償　12件)
　研修室の利用　98件(うち　有償　88件)
　茶室の利用　41件(うち　有償　17件)
　その他(エントランスホール外)　47件(うち　有償　2件)
　撮影利用　16件(うち　有償　3件)

3)・コンサート
　きゅーはくミュージアムコンサートを毎月開催した。


特別展「尾張徳川家の至宝」関連ファッションショー


「日本とタイの伝統人形劇」


「神話のふるさとみやざき神楽展」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
施設の有効利用件数	269 件	―	―		250	321	264	246
うち有償利用件数	122件	―	―		69	76	90	86

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。
また、保有資産の管理を徹底する。とくに環境汚染物質については、法令に則り適正な処置を講じる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 9415

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所2施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　島崎正弘

【実績・成果】

・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを今年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。

【補足事項】





第46回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
施設の有効利用件数	177 件	－	－		140	178	196	181
うち有償利用件数	23件	－	－		21	13	12	20

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 9416

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(文化財研究所2施設)
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	研究支援推進部長　上田浩司

【実績・成果】

施設名	平成 25 年度
平城宮跡資料館講堂	115 件　(内　有償貸与　6 件)
平城宮跡資料館小講堂	156 件　(内　有償貸与　4 件)
寄宿舎施設	805 件　(内　有償貸与 13 件)
飛鳥資料館講堂	45 件　(内　有償貸与　0 件)
その他(本庁舎・管理棟・収蔵庫等)	21 件　(内　有償貸与 14 件)
合計	1,142 件　(内　有償貸与 37 件)

・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ウェブサイト上での施設利用紹介等による積極的有効利用(貸付等)の促進を図った。
・奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。ただし、本庁舎改築整備に伴って研修課程数を減らさざるを得なかったため(研修課程数9課程。24年度：12課程)、利用件数も減少となった。
・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

【補足事項】
平成 24 年度実績

施設名	平成 24 年度
平城宮跡資料館講堂	75 件　(内　有償貸与　8 件)
平城宮跡資料館小講堂	117 件　(内　有償貸与　3 件)
寄宿舎施設	1,107 件　(内　有償貸与 44 件)
飛鳥資料館講堂	10 件　(内　有償貸与　0 件)
その他(本庁舎・管理棟・収蔵庫等)	19 件　(内　有償貸与 13 件)
合計	1.328 件　(内　有償貸与 68 件)


解説ボランティア「続日本紀」読書会


平城宮跡資料館ミュージアムショップ

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
施設の有効利用件数	1,142 件	－	－		1,211	1,489	1,449	1.328
うち有償利用件数	37 件	－	－		40	105	52	68

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9510

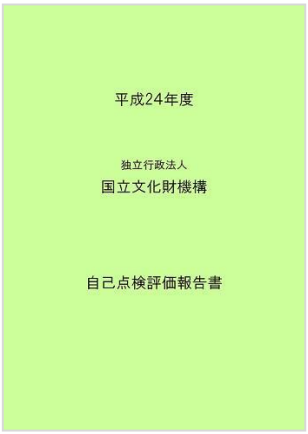
中項目	5　内部統制の充実・強化
事業名	(1)理事長のマネジメント強化

【年度計画】
1)モニタリングの実施
・自己点検評価を行う。
・監事監査を行う。
・内部監査を行う。
2)リスクマネジメントの実施
・リスク管理の必要に応じて、関連する諸規程の整備・見直しを行う。
・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
1)モニタリングの実施
・自己点検評価を行い、『平成24年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(25年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮して自己点検評価報告書を作成。
・監事による定期監査(25年6月21日)を行った他、臨時監査を京都国立博物館(26年1月10日)、九州国立博物館(26年1月17日)、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(26年2月14日)を対象に行った。
・内部監査を、25年10月31日～11月29日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。
2)リスクマネジメントの実施
・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の見直しを行い、東京国立博物館防災管理規則に規定する自衛消防隊組織の改編をした。
・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを随時行い、東京国立博物館では緊急対応ポケットメモの改訂を行い本部職員と東京国立博物館の職員へ配布した。

【補足事項】
1)・定期監査は、業務の監査（機構の業務運営状況、調査研究活動の実施状況等の監査）及び会計の監査（決算の状況、契約の状況等の監査）を行った。
・臨時監査は、業務及び会計についての実地監査を、特に物品等納入に係る検収状況、無料観覧券の管理状況、入場者等の分析状況、収蔵品の管理状況等に重点を置いて実施した。
2)東京国立博物館防災管理規則においては、収蔵品保護業務に関し列品管理課長指揮の下、自衛消防隊と連携をとって作業を行うこととすること等の全面的な改定を行った。



『平成 24 年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』



独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト 24 年度評価結果のページ

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9520

中項目	5　内部統制の充実・強化		
事業名	(2)外部有識者による事業評価		
【年度計画】 1)運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2)職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸
【実績・成果】 1)運営委員会(25年7月30日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会：25年4月17日、博物館調査研究等部会：4月23日、総会：5月22日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。 2)(各種研修について詳細は処理番号0230参照)			

【補足事項】


運営委員会(25 年 7 月 30 日)


外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会(25 年 4 月 17 日)

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年 1 回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9530

中項目	5　内部統制の充実・強化		
事業名	(3)情報セキュリティ対策の向上と改善		
【年度計画】 1)情報セキュリティについて定期監査等を実施する。 2) 機構全体での情報セキュリティ強化のため、ネットワーク環境の見直しを行う。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸
【実績・成果】 1)・保有個人情報管理監査を、京都国立博物館（26年1月10日)、九州国立博物館（26年1月17日)、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（26年2月14日）を対象に実施した。 ・情報システム監査を、京都国立博物館を対象に実施した。(25年11月6日) ・情報システム自己点検・評価について、セキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した。(25年4月) ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(25年12月) 2) 当初の予定では、25～26年度にかけて、セキュリティ強化、安定性向上を目的とした機構内ネットワークの統合を行うこととしており、その準備・検討を進めていたが、要求していた26年度以降の予算措置の見込みがなくなったため、やむを得ず見送った（25年12月)。引き続き、機構VPNの見直しについての検討を継続する。			
【補足事項】 1)・情報システム監査は、20年度～24年度まで、情報システムの活用状況とセキュリティ対策を中心とした監査項目にて実施し、監査対象が機構内各施設を一巡した。25年度は、京都国立博物館にて平常展示館建替に伴うサーバールーム移転があったため、移転に関する監査項目を新たに設定し、監査を行った。 ・監査法人によるシステム監査（25年12月）での指摘事項に基づき、人事給与統合システムのアカウントを係単位から個人単位に変更した。(26年3月)			

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)
【中期計画記載事項】 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　　施設名　本部事務局　　処理番号　0110

大項目	Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項
中項目	1　施設・設備に関する計画
事業名	施設・設備に関する計画

【年度計画】

別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

別紙：　施設・設備に関する計画

（単位：百万円）

施設・整備の内容	予定額	財　源
京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事	200	施設整備費補助金
奈良国立博物館 収蔵庫免震工事	123	施設整備費補助金
奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進	2,531	施設整備費補助金
合　計	2,854	

担当部課	本部事務局環境整備室	事業責任者	室長　大江信浩

【実績・成果】

（国立文化財機構）

・機構の長期的ビジョンを実現していくため、施設整備に関する中長期プランとして、『独立行政法人国立文化財機構 施設整備マスタープラン』を 26 年 3 月 31 日に作成した。今後、概算要求等で活用していく。

（東京国立博物館）

・正門東側にインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。
・本館リニューアルに向けて、1 階展示室、エレベーター、地下トイレ等の改修工事を実施した。
・黒田記念館の障がい者用エレベーター、段差解消機及び多目的トイレ設置の改修工事を含めた耐震補強改修及び書庫棟傾き補修等の工事を 24 年度に引き続き実施し、25 年 7 月に完了した。
・表慶館に障がい者用エレベーター及び多目的トイレ設置の改修工事を 24 年度に引き続き実施し、25 年 6 月に完了した。

（京都国立博物館）

・緊急屋根等漏水補修工事は、平成 25 年度末に文化財保存修理所改修工事期間中の仮工房整備工事を完了し、本館中央室屋根修繕工事の瓦の平葺きまでの工程を終えた。
・24 年度に本体工事が完了した平成知新館(新平常展示館)において、今年度は外構工事、展示ケース製作工事を実施した。

（奈良国立博物館）

・彫刻品を収める収蔵庫２室について、室内の床を免震化する改修工事を実施した。
・防災設備等の改修として、収蔵庫ガス消火設備工事、防犯設備工事（センサー・監視カメラ）、発電機設備工事を 24 年度に引き続き実施し、25 年度末に完了した。

（奈良文化財研究所）

・本庁舎の建替に向けて、仮設庁舎建設工事及び移転を完了した。現庁舎取壊工事を進めており、26 年度第二四半期末に完了を予定している。
・新庁舎建設の設計を進めており、26 年度第二四半期末に完了を予定している。

【補足事項】

（京都国立博物館）

・仮工房への移転後、文化財保存修理所改修工事を 26 年度に実施予定である。

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】

施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

（別紙４）　施設・設備に関する計画

施設・整備の内容	予定額（単位：百万円）	財　源
国立文化財機構施設整備費	19,189	施設整備費補助金

（脚注）金額については見込みである。また、施設・設備の老朽度合等を勘案した改修（更新）等が追加されることがあり得る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 0210

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(1)　職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。

【年度計画】
職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
平成 20 年度において、機構として統一的な運用及び規程を整備し、勤務評定制度を開始した。給与へは昇給及び勤勉手当に反映している。

【補足事項】
職員の評価については、被評価者の直近の上司の他に、直近上司の上司及び実施権者である施設の長も評価者となっており、公正な評価が行われている。また、評価項目についても施設によって評価項目が大きく異なることがないよう職責に応じた統一的な項目に加え、各施設の特性も加味するため 1 項目については施設の長が定めることができ、各施設の特性に合致した評価が実施できている。

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名：本部事務局　処理番号：0220

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(2)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

【年度計画】
近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
〈事務系職員〉
・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（計８人）における交流を行っている。

年度	本部・東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	年度計（人）
21	18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)	13(京大、民博、奈良博、東博)	10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)	11(九大、九工大、本部)	8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)	8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大)	—	68 (8)
22	18(東大、東近美、政研大、京博)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	8(文化庁、阪大、京大、京博)	8(九大、本部	5(医科歯科大、東博、奈文研)	11(京大、阪大、総地研、奈女大)	—	64 (9)
23	17（東大、東近美、政研大、奈文研)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	12(阪大、京大、京博、本部)	8(九大、本部)	6(医科歯科大、東博、本部)	12(文化庁、京大、阪大、奈女大)	1（奈文研)	70 (12)
24	17（東大、学士院、奈文研)	14(京大、民博、奈文研、東博)	9(阪大、京大、京博、本部)	9(九大、本部)	7(医科歯科大、東近美、東博、本部)	8(京大、阪大、奈女大、京博)	1（奈文研)	65 (11)
25	15（東大、学士院)	11（京大、京近美、民博、本部)	9（京大、阪大、本部、奈文研、京博)	8（九大)	5（東大、医科歯科大、東近美、本部、東博)	8（京大、阪大、奈女大、京博)	1（京博)	57 (8)

※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。(機構に受け入れている人数)
※平成 21 年度から機構内の人事交流中の人数を含めた。合計欄の(　)内の人数。
〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を６人採用した。
・また、文化庁から９人の受け入れ及び文化庁への出向を 15 人行っている。
・機構内での人事交流を図るため、各施設間にて計８人の交流を行っている。

【補足事項】
・事務系職員において、近隣大学等との交流数が９法人 10 機関あり、優秀かつ多様な人材を確保した。また、人事交流者数も 57 人と、引き続き優秀かつ多様な人材を確保し、計画に対し順調に成果をあげている。
・事務系職員において、計５人を他機関へ派遣・出向させているが、他法人からの受け入れが交流の中心となっているため、平成 27 年度には双方向の人事交流の増加に向けた施策が行えるよう検討する。
・研究職員については、文化庁との双方向の人事交流が行われているが、交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。しかし、退職手当の通算ができない場合が多く、難しい問題がある。
・また、６地方公共団体より事務系２名、研究系４名を研修生として受け入れ、交流の促進を行った。

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 0230

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(3)　各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。

【年度計画】
各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修(3 件)、施設系の職員を対象とした研修(1 件) 及びハラスメントに関する研修(1 件)を行った。
・その他、他機関で実施する研修に延べ12名の職員を参加させ、職員の能力開発に寄与した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
新任職員研修会	25 年 7 月 22 日～24 日	平成 24 年度以降の新任職員等	27 人
接遇研修	25 年 7 月 23 日	平成 24 年度以降の新任職員等	27 人
個人情報保護についての研修・講演会	25 年 7 月 22 日	平成 24 年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員	約 70 人
ハラスメント防止に関する研修・講演会	25 年 7 月 22 日	各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約 70 人
施設系職員研修会	25 年 7 月 25 日～26 日、26 年 2 月 27 日～28 日	機構内の施設系職員	延べ 19 人

【補足事項】
・新任職員及び人事交流者に対しては、機構職員としての必要な業務・組織等についての基礎的知識及び執務要領を修得させ、新任職員等の資質の向上を図ることができた。
・新任職員等を対象とした接遇研修の企画及び実施により、機構職員としての資質向上を図るとともに、修得した知識等(お客様からの苦情への対応方法等)を業務に反映させることができた。
・保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることができた。
・ハラスメント防止を目的とした研修・講演会を開催し、外部講師による専門的見地からのアドバイスによりハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図ることができた。

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
研修機会の提供	5 件	－	－		6	6	6	6

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名　本部事務局　　処理番号　0240

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(4)　非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。

【年度計画】
非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、機構独自で採用可能とする規程の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とし、平成 24 年度において、事務職員を適用範囲とした。平成 25 年度において同採用制度を活用し、事務職員１名、技術職員１名の計２名を採用し、事務職員４名の採用内定を行った。
・平成20年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイトフェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成25年度は東京国立博物館で5人、九州国立博物館で1名、東京文化財研究所で5人及び奈良文化財研究所で6人の計17人を採用した。
・平成25年度の機構独自の採用人数は上記のとおり、事務職員1名、技術職員1名、アソシエイトフェロー17名の計19名である。

【補足事項】
・研究職員においても、人事の流動化を図りたいが、退職手当の通算の問題があるので、難しい状況にある。

・現在の国立大学法人等職員採用試験一次試験合格者名簿のみからの採用と相まって、機構が従来の任用・採用方法にとらわれず、独自に定める戦略的かつ柔軟な採用方法を実施することは、多様な人材の確保を可能にすることはもとより、最良の母集団形成及び専門知識、特殊技術並びに技能を持つ優れた人材の確保を可能にし、将来の機構の人事戦略に大きく寄与するものである。

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
機構独自の採用	19 人	－	－		25	21	18	19

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 0250

中項目	2　人事計画に関する計画		
事業名	(5)　専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。		
【年度計画】 専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】

・高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成23年度において1名採用した。平成25年度において、柔軟かつ多様な人材の確保のため、新たに任期付専門職員制度を整備し、平成25年8月に1名を採用した。

・高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、新たな専門スタッフの制度創設に向け検討を始めた。

【補足事項】

・上記採用実績は，東京国立博物館総務部総務課渉外開発担当に、主に外国人等来訪者対応業務、国際化業務を担当する専門職員として採用した

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
専門スタッフの配置	1人	－	－		－	－	1	0

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】

①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。

②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。

③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１２０，２７０（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２２，４０８
	延面積		７２，１９２
展示館	展示面積	計	１８，１９９
	収蔵庫面積	計	７，８３６
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	６，５７３
		収蔵庫面積	４，０２８
	東洋館	建	２，８９２
	※耐震改修工事のため平	延	１２，５３１
	成25年1月1まで休館、	展示面積	４，２５０
	同1月2日より開館	収蔵庫面積	１，３７３
	平成館	建	５，５２９
		延	１９，３９３
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，１１９
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
	※休館中	延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
		収蔵庫面積	－
	黒田記念館	建	７２４
	※平成24年4月8日より	延	１，９９６
	休館	展示面積	２６４
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	３，５９６
		延	９，７４８

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		１３，５１７
	延面積		３１，８２８
展示館	展示面積	計	５，６５７
	収蔵庫面積	計	５，４２１
	平成知新館(新平常展示館)	建	５，５６８
		延	１７，９９７
		展示面積	３，５８７
		収蔵庫面積	２，７１０
	明治古都館(特別展示館)	建	３，０１５
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	８０３
	旧管理棟	建	５９０
		延	１，９５４
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	７２８
		延	２，８５６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	１，０８４
		延	１，９９６
		収蔵庫面積	１，４１２
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，７０７
		延	１，８９９

【奈良国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７６９
	延面積		１９，１１６
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，５５８
	なら仏像館(本館)	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	青銅器館(本館付属棟)	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，３９４
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７１８
		延	７１８
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１６６，４７７		
			(法人　１０，７９８ 県　１５５，６７９)
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			(法人　９，３００ 県　５，７８０ 共用　１５，５９５)
展示館	展示面積	計	５，４４４
			(法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５)
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			(法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９)

【東京文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，６２３

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

	土地面積	建物	
本館地区	８，８６０	建築面積 延面積	現在、建替中
平城宮跡資料館地区	(文化庁所属の国有地を無償使用)	建築面 延面積	１３，３２８ ２１，３９５
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	２０，５１５	建築面積 延面積	６，０１６ ９，４７７
飛鳥資料館地区	１７，０９３	建築面積 延面積	２，６５７ ４，４０４

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　(㎡)

建物	建築面積	２４４．６７
	延面積	２４４．６７
総室数		４室

※建物は大阪府堺市より借用。

Ⅳ　財務諸表

※財務諸表については、現在承認申請中である。

目　　次

１．貸借対照表

２．損益計算書

３．キャッシュ・フロー計算書

４．行政サービス実施コスト計算書

５．利益の処分に関する書類（案）

６．注記（重要な会計方針等）

７．附属明細書

貸 借 対 照 表

平成26年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ　流動資産			Ⅰ　流動負債		
現金及び預金		5,393,420,039	運営費交付金債務		715,679,777
たな卸資産		24,900,107	預り寄附金		184,589,686
立替金		52,998,710	未払金		4,906,230,009
前払費用		4,755,564	未払費用		90,179,831
未収金		945,279,165	前受金		796,530
その他の流動資産		991,823	預り金		177,940,296
流動資産合計		6,422,345,408	その他の流動負債		1,470,602
			流動負債合計		6,076,886,731
Ⅱ　固定資産					
1有形固定資産			Ⅱ　固定負債		
建物	83,590,346,887		資産見返負債		
減価償却累計額	−25,026,295,663		資産見返運営費交付金	3,201,596,992	
減損損失累計額	−294,658,061	58,269,393,163	資産見返寄附金	107,829,027	
構築物	4,094,526,397		資産見返物品受贈額	37,832,579	
減価償却累計額	−2,027,208,345	2,067,318,052	資産見返その他補助金	66,021,126	
機械・装置	706,136,943		建設仮勘定見返運営費交付金	11,518,500	
減価償却累計額	−128,335,890	577,801,053	建設仮勘定見返施設費	154,791,000	
車両運搬具	56,755,711		資産見返負債合計	3,579,589,224	
減価償却累計額	−43,148,573	13,607,138	引当金		
工具器具備品	6,576,302,162		退職給付引当金	12,582,071	
減価償却累計額	−3,649,477,250	2,926,824,912	その他の固定負債		
収蔵品		105,099,427,953	長期未払金	77,570,379	
土地		44,410,675,104	固定負債合計		3,669,741,674
建設仮勘定		166,309,500	負債合計		9,746,628,405
有形固定資産合計		213,531,356,875			
			（純資産の部）		
2無形固定資産			Ⅰ　資本金		
ソフトウエア		97,726,908	政府出資金		104,713,813,740
電話加入権		4,233,600	資本金合計		104,713,813,740
無形固定資産合計		101,960,508			
			Ⅱ　資本剰余金		
3投資その他の資産			資本剰余金		132,740,571,241
保証金		411,000	損益外減価償却累計額（−）		−27,623,318,504
長期前払費用		1,653,146	損益外減損損失累計額（−）		−298,034,861
投資その他の資産合計		2,064,146	資本剰余金合計		104,819,217,876
固定資産合計		213,635,381,529			
			Ⅲ　利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金		636,280,909
			積立金		111,098,021
			当期未処分利益		30,687,986
			（うち当期総利益30,687,986円）		
			利益剰余金合計		778,066,916
			純資産合計		210,311,098,532
資産合計		220,057,726,937	負債純資産合計		220,057,726,937

（注）運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は2,169,875,227円であります。

（注）当期の運営費交付金による財源措置が手当されない賞与の見積額は206,976,818円であります。

損益計算書

（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		2,988,494,132	
業務経費			
調査研究業務費	1,080,820,002		
情報公開業務費	145,914,537		
研修業務費	13,432,332		
国際研究協力業務費	150,379,011		
展示出版業務費	138,909,503		
展覧業務費	2,081,253,475		
教育普及業務費	63,499,140		
受託業務費	609,713,640	4,283,921,640	
減価償却費		451,928,435	7,724,344,207
一般管理費			
人件費	730,664,770		
一般管理経費	711,877,430		
減価償却費	88,118,984	1,530,661,184	
財務費用		988,614	
雑損		985,323	1,532,635,121
経常費用合計			9,256,979,328
経常収益			
運営費交付金収益		6,404,889,197	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入	530,515,048		
その他受託収入	94,856,555	625,371,603	
入場料収入		673,986,101	
展示事業等附帯収入		343,710,135	
財産利用収入		201,791,175	
寄附金収益		159,112,785	
施設費収益		275,372,045	
その他補助金収益		15,079,540	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入	442,798,902		
資産見返寄附金戻入	36,167,406		
資産見返物品受贈額戻入	9,591,106		
資産見返その他補助金戻入	31,454,963		
建設仮勘定見返施設費戻入	40,230,225	560,242,602	
財務収益			
受取利息		366,374	
その他財務収益		6,793	
雑益		20,459,838	
経常収益合計			9,280,388,188
経常利益			23,408,860
臨時損失			
固定資産除却損			24,680,252
			24,680,252
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入			8,005,536
資産見返寄附金戻入			566,096
資産見返物品受贈額戻入			16,108,620
過年度修正益			2,542,574
			27,222,826
当期純利益			25,951,434
前中期目標期間繰越積立金取崩額			4,736,552
当期総利益			30,687,986

（注） ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は△953,076円であり、当該損益を除いた当期総利益は31,641,062円であります。

キャッシュ・フロー計算書

（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−3,649,129,655
業務支出	−4,959,828,410
科学研究費支出	−243,731,945
消費税等支払額	−40,218,006
運営費交付金収入	8,391,705,000
科学研究費収入	268,390,043
展示事業等収入	844,645,145
財産利用収入	234,927,857
受託収入	570,414,417
寄附金収入	168,200,189
消費税等還付額	439,227,940
その他補助金による収入	15,079,540
その他の業務収入	16,177,482
小計	2,055,859,597
利息の受取額	409,370
利息の支払額	−609,047
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,055,659,920
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	−200,000,000
定期預金の払戻による収入	200,000,000
施設費による収入	8,065,076,265
有形固定資産の取得による支出	−13,355,494,445
無形固定資産の取得による支出	−19,694,520
その他投資活動による収入	146,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	−5,309,966,700
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−14,421,379
財務活動によるキャッシュ・フロー	−14,421,379
Ⅳ　資金増加額	−3,268,728,159
Ⅴ　資金期首残高	8,462,148,198
Ⅵ　資金期末残高	5,193,420,039

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	5,393,420,039 円
うち定期預金（控除）	−200,000,000
資金期末残高	5,193,420,039

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	478,816,619
工具器具備品	16,752,750
合計	495,569,369

②ファイナンス・リースによる資産取得　　90,355,520

行政サービス実施コスト計算書

（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務費用		
損益計算書上の費用		
業務費	7,724,344,207	
一般管理費	1,530,661,184	
財務費用	988,614	
雑損	985,323	
臨時損失	24,680,252	9,281,659,580
（控除）		
受託収入	−625,371,603	
入場料収入	−673,986,101	
展示事業附帯収入	−274,789,119	
財産利用収入	−201,791,175	
寄附金収益	−159,112,785	
財務収益	−373,167	
雑益	−20,459,838	
資産見返寄附金戻入	−36,733,502	
還付消費税収入	−439,227,940	
過年度修正益	−2,542,574	−2,434,387,804
Ⅱ　損益外減価償却相当額		3,264,620,930
Ⅲ　損益外除売却差額相当額		151,051,284
Ⅳ　損益外減損損失相当額		294,658,061
Ⅴ　引当外賞与見積額		20,820,662
Ⅵ　引当外退職給付増加見積額		−76,331,732
Ⅶ　機会費用		
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	133,612,150	
政府出資等の機会費用	1,264,124,418	1,397,736,568
Ⅷ　行政サービス実施コスト		11,899,827,549

（注記）

・引当外退職給付増加見積額には、国からの出向職員にかかる者が10名、3,386,772円が含まれております。

・国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

・政府出資等の機会費用の計算利率については、10年もの長期国債の平成26年3月末利回りを参考に0.641%としております。

利益の処分に関する書類（案）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　当期未処分利益		30,687,986
当期総利益	30,687,986	
Ⅱ　利益処分額		
積立金	7,279,126	
独立行政法人通則法		
第４４条第３項により		
主務大臣の承認を受けようとする額		
業務拡充積立金	23,408,860	30,687,986

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

財務費用、その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～　５年
車両・運搬具	２年～　７年
工具・器具・備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

３．賞与に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の賞与については運営費交付金により財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、当事業年度の引当外賞与見積額から前事業年度の同見積額を控除した額を計上しております。

４．退職給付に係る引当金及び見積額の計上方法

運営費交付金による財源措置のない有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の退職給付に備えるため、当事業年度末にかかる自己都合要支給額を計上しております。

その他の役職員の退職給付については、運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、自己都合退職金要支給額の当期増加額に基づき計上しております。

５．たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法
国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。

８．行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法
（１）国有財産無償使用の機会費用の計算方法
国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和３３年１月７日付大蔵省管財局長通知蔵管第１号）を準用して算出しております。
（２）政府出資等の機会費用の計算に使用した利率
１０年利付国債の平成２６年３月末利回りを参考にして０．６４１％で計算しております。

９．リース取引の処理方法
リース料総額が３００万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
リース料総額が３００万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

１０．消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．固定資産の減損
当年度に減損を認識した固定資産は下記のとおりであります。
（１）減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

資　　産　　名	奈良文化財研究所本庁舎
主　な　用　途	研究用建屋
資　産　科　目	建物
場　　所	奈良県奈良市二条町２－９－１
帳　簿　価　格	２９４，６５８，０６１円

（２）減損の認識に至った経緯
昭和 39 年に竣工した奈良文化財研究所本庁舎は、老朽化が激しいため建替工事を実施することに伴い、取壊しのため平成 25 年 12 月にその全機能を隣接する仮庁舎に移転したことから、減損を認識しました。

（３）減損額のうち損益計算書に計上していない金額の内訳
２９４，６５８，０６１円

（４）回収可能サービス価格の算定方法の概要

回収可能サービス価額は正味売却価額より測定しており、全建物を取壊すため 0 円であります。

Ⅲ．重要な債務負担行為

東京国立博物館平成館特別展示室等改修工事	1,819,182,000 円
京都国立博物館緊急屋根等漏水補修工事	128,054,000 円
奈良国立博物館なら仏像館外壁等補修工事外	605,960,000 円
奈良文化財研究所本庁舎建替工事	2,106,363,527 円
合　　計	4,659,559,527 円

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定しております。また、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
(1)現金及び預金	5,393,420,039	5,393,420,039	―
(2)未収金	945,279,165	945,279,165	―
(3)未払金	(4,906,230,009)	(4,906,230,009)	―

（注１）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券等に関する事項

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）負債に計上されているものは、(　) で示しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

石綿（アスベスト）関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫３棟の天井材、東京国立博物館黒田記念館の床材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しますが当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

附　属　明　細　書

第7期

自：平成25年 4月 1日
至：平成26年 3月31日

独立行政法人　国立文化財機構

第7期　附属明細書

自：平成25年 4月 1日
至：平成26年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７ 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第９１ 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　たな卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　退職給付引当金の明細

８．　資産除去債務の明細

９．　法令に基づく引当金等の明細

１０．　保証債務の明細

１１．　資本金及び資本剰余金の明細

１２．　積立金の明細

１３．　目的積立金の取崩しの明細

１４．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１５．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１６．　役員及び職員の給与の明細

１７．　セグメント情報

１８．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	2,328,743,056	132,363,246	21,328,905	2,439,777,397	974,494,213	151,843,312	0	0	0	1,465,283,184	(注)
	構築物	142,570,267	631,050	0	143,201,317	61,713,730	11,338,482	0	0	0	81,487,587	
	機械・装置	33,927,254	3,401,500	0	37,328,754	3,957,548	2,248,851	0	0	0	33,371,206	
	車両運搬具	50,047,368	892,500	1,143,517	49,796,351	36,512,827	4,666,573	0	0	0	13,283,524	
	工具器具備品	3,322,550,111	1,060,672,164	359,578,011	4,023,644,264	2,177,069,676	319,396,439	0	0	0	1,846,574,588	
	計	5,877,838,056	1,197,960,460	382,050,433	6,693,748,083	3,253,747,994	489,493,657	0	0	0	3,440,000,089	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	75,531,091,720	5,857,683,719	238,205,949	81,150,569,490	24,051,801,450	2,989,493,504	294,658,061	0	294,658,061	56,804,109,979	(注)
	構築物	3,358,851,713	611,803,441	19,330,074	3,951,325,080	1,965,494,615	164,404,790	0	0	0	1,985,830,465	
	機械・装置	170,901,050	544,982,000	47,074,861	668,808,189	124,378,342	8,988,901	0	0	0	544,429,847	
	車両運搬具	6,959,360	0	0	6,959,360	6,635,746	139,181	0	0	0	323,614	
	工具器具備品	1,596,830,870	923,573,350	61,682,338	2,458,721,882	1,472,407,574	101,594,554	0	0	0	986,314,308	
	計	80,664,634,713	7,938,042,510	366,293,222	88,236,384,001	27,620,717,727	3,264,620,930	294,658,061	0	294,658,061	60,321,008,213	
非償却資産	工具器具備品	93,936,016	0	0	93,936,016	0	0	0	0	0	93,936,016	
	収蔵品	103,778,983,281	1,370,644,719	50,200,047	105,099,427,953	0	0	0	0	0	105,099,427,953	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	1,653,803,079	7,986,758,009	9,474,251,588	166,309,500	0	0	0	0	0	166,309,500	
	計	149,937,397,480	9,357,402,728	9,524,451,635	149,770,348,573	0	0	0	0	0	149,770,348,573	
有形固定資産合計	建物	77,859,834,776	5,990,046,965	259,534,854	83,590,346,887	25,026,295,663	3,141,336,816	294,658,061	0	294,658,061	58,269,393,163	
	構築物	3,501,421,980	612,434,491	19,330,074	4,094,526,397	2,027,208,345	175,743,272	0	0	0	2,067,318,052	
	機械・装置	204,828,304	548,383,500	47,074,861	706,136,943	128,335,890	11,237,752	0	0	0	577,801,053	
	車両運搬具	57,006,728	892,500	1,143,517	56,755,711	43,148,573	4,805,754	0	0	0	13,607,138	
	工具器具備品	5,013,316,997	1,984,245,514	421,260,349	6,576,302,162	3,649,477,250	420,990,993	0	0	0	2,926,824,912	
	収蔵品	103,778,983,281	1,370,644,719	50,200,047	105,099,427,953	0	0	0	0	0	105,099,427,953	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	1,653,803,079	7,986,758,009	9,474,251,588	166,309,500	0	0	0	0	0	166,309,500	
	計	236,479,870,249	18,493,405,698	10,272,795,290	244,700,480,657	30,874,465,721	3,754,114,587	294,658,061	0	294,658,061	213,531,356,875	
無形固定資産(償却費損益内)	ソフトウエア	436,925,020	23,810,130	29,421,082	431,314,068	333,587,160	50,553,762	0	0	0	97,726,908	
	計	436,925,020	23,810,130	29,421,082	431,314,068	333,587,160	50,553,762	0	0	0	97,726,908	
無形固定資産(償却費損益外)	ソフトウエア	3,444,861	0	844,084	2,600,777	2,600,777	0	0	0	0	0	
	計	3,444,861	0	844,084	2,600,777	2,600,777	0	0	0	0	0	
無形固定資産(非償却)	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	0	4,233,600	
	計	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	0	4,233,600	
無形固定資産合計	ソフトウエア	440,369,881	23,810,130	30,265,166	433,914,845	336,187,937	50,553,762	0	0	0	97,726,908	
	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	0	4,233,600	
	計	447,980,281	23,810,130	30,265,166	441,525,245	336,187,937	50,553,762	3,376,800	0	0	101,960,508	
投資その他の資産	保証金	497,000	0	86,000	411,000	0	0	0	0	0	411,000	
	長期前払費用	3,240,305	1,634,966	3,222,125	1,653,146	0	0	0	0	0	1,653,146	
	計	3,737,305	1,634,966	3,308,125	2,064,146	0	0	0	0	0	2,064,146	

(注)当期増加額のうち2,991,095,065円は、京都国立博物館平常展示館の建て替えによるものであります。

2. たな卸資産の明細

（単位:円）

種　　類	期首残高	当　期　増　加　額		当　期　減　少　額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	25,357,122	14,141,381	0	14,598,396	0	24,900,107	
計	25,357,122	14,141,381	0	14,598,396	0	24,900,107	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

当該年度は退職給付引当金以外の引当金を計上していないため、記載を省略しております。

7. 退職給付引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　要
退職給付債務合計額	12,525,881	5,291,580	5,235,390	12,582,071	
退職一時金に係る債務	12,525,881	5,291,580	5,235,390	12,582,071	
退職給付引当金	12,525,881	5,291,580	5,235,390	12,582,071	

8. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

9. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

10. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

11. 資本金及び資本剰余金の明細

（単位:円）

区分		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
資本金	政府出資金	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
	計	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
資本剰余金	施設費補助金	24,315,499,725	7,938,042,510	0	32,253,542,235	施設費による特定資産取得
	目的積立金	469,592,463	0	0	469,592,463	
	運営費交付金	13,693,194,711	846,878,100	0	14,540,072,811	運営費交付金による収蔵品購入
	寄附金等	157,407,850	44,950,000	0	202,357,850	寄附金による収蔵品購入
	贈与	86,481,342,625	478,815,804	0	86,960,158,429	寄贈品の受け入れ
	収蔵品編入	4,496,786	815	0	4,497,601	一般物品から収蔵品への編入
	損益外固定資産除売却差額	-1,272,575,295	-417,074,853	0	-1,689,650,148	出資財産の除却 施設費により取得した特定資産の除却 収蔵品の二重計上の修正
	計	123,848,958,865	8,891,612,376	0	132,740,571,241	
	損益外減価償却累計額	-24,624,721,143	-3,264,620,930	-266,023,569	-27,623,318,504	出資財産の減価償却相当
	損益外減損損失累計額	-3,376,800	-294,658,061	0	-298,034,861	奈良文化財研究所本庁舎取壊のため
	差引計	99,220,860,922	5,332,333,385	-266,023,569	104,819,217,876	

12. 積立金の明細

（単位:円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　　要
通則法44条1項積立金	44,284,052	66,813,969	0	111,098,021	
前中期目標期間繰越積立金	641,017,461	0	4,736,552	636,280,909	
合　計	685,301,513	66,813,969	4,736,552	747,378,930	

（注記）

1 通則法44条1項積立金の当期増加額は、平成24年度利益処分によるものです。

2 前中期目標期間繰越積立金の当期減少額の内訳は次のとおりです。

受託研究費購入資産分に係る減価償却相当分取崩額　　4,736,552 円

13. 目的積立金の取崩しの明細

（単位:円）

区分		金額	摘要
目的積立金取崩額	前中期目標期間繰越積立金取崩額	4,736,552	受託研究費取得資産減価償却分
合計		4,736,552	

14. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

施設名	国立文化財機構

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

交付年度	期首残高	交付金当期交付額	当期振替額					期末残高
			運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	資本剰余金	小計	
23 年 度	4,701,390	0	1,567,130	0	0	0	1,567,130	3,134,260
24 年 度	621,638,984	0	145,077,199	115,858,385	0	325,800,000	586,735,584	34,903,400
25 年 度	0	8,391,705,000	6,258,244,868	934,739,915	0	521,078,100	7,714,062,883	677,642,117
合　計	626,340,374	8,391,705,000	6,404,889,197	1,050,598,300	0	846,878,100	8,302,365,597	715,679,777

(2)運営費交付金債務の当期振替額の明細

①平成23年度交付分　　(単位:円)

区　分		金額	内　容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	1,567,130	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 1,567,130円 (一般管理費　1,567,130円) イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:該当なし ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	1,567,130	

①平成24年度交付分　　(単位:円)

区　分		金額	内　容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	145,077,199	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 145,077,199円 (一般管理費　2,500,000円、調査研究事業費　41,747,014円、 国際研究協力事業費　13,000,000円、展覧事業費　87,830,185円) イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:　441,658,385円 (収蔵品購入費:　325,800,000円、一般管理費　1,422,750円、 調査研究事業費　22,478,820円、展覧事業費　91,956,815円) ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	115,858,385	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	325,800,000	
	計	586,735,584	

②平成25年度交付分　　(単位:円)

区　分		金額	内　訳
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	3,119,443,752	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 3,119,443,752円 (退職手当177,296,641円、調査研究事業費　1,007,010,824円、 情報公開事業費 208,416,548円、研修事業費　17,399,037円、 国際研究協力事業費　189,993,273円、展示出版事業費　163,725,747円、 展覧事業費　1,333,966,642円、教育普及事業費 21,635,040円) イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし
	資産見返運営費交付金	912,360,845	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	

	資本剰余金	521,078,100	ウ)固定資産の取得額: 1,433,438,945円 (収蔵品購入費: 521,078,100円、調査研究事業費 417,114,389円、 情報公開事業費 15,274,427円、国際研究協力事業費 1,970,850円、 展示出版事業費 13,526,493円、展覧事業費 464,474,686円) ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	計	4,552,882,697	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	3,138,801,116	①期間進行基準を採用した経費:人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費、 管理部門の経費(特に指定するものを除く)及び減価償却費 ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 3,138,801,116円 (役職員給与 2,388,159,821円、法定福利費 302,781,154円、一般管理費 447,860,141円) イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額: 22,379,070円(一般管理費) ③運営費交付金収益化額の積算根拠 期間が経過したので、財源と予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	22,379,070	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	3,161,180,186	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
会計基準第81第3項による振替額		0	
合 計		7,714,062,883	

(3)運営費交付金債務残高の明細 (単位:円)

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
23年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	0	
	業務達成基準を採用した業務に係る分	3,134,260	業務未達成等による運営費交付金債務の繰越による運営費交付金債務の残高。業務の達成に応じて、当該事業達成年度に収益化予定。
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	
	計	3,134,260	
24年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	0	
	業務達成基準を採用した業務に係る分	34,903,400	業務未達成等による運営費交付金債務の繰越による運営費交付金債務の残高。業務の達成に応じて、当該事業達成年度に収益化予定。
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	
	計	34,903,400	
25年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	0	
	業務達成基準を採用した業務に係る分	677,642,117	業務未達成等による運営費交付金債務の繰越による運営費交付金債務の残高。業務の達成に応じて、当該事業達成年度に収益化予定。
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	
	計	677,642,117	

15. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

15－1 施設費の明細　　（単位:円）

区　　分	当期交付額	左の会計処理内訳				期末残高	摘要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	小　計		
東京国立博物館 黒田記念館耐震改修補強工事	489,504,870	0	437,883,341	51,621,529	489,504,870	0	
東京国立博物館 表慶館バリアフリー化工事	56,658,000	0	52,698,439	3,959,561	56,658,000	0	
東京国立博物館 大型X線CTスキャナー取設工事	873,527,000	0	862,771,075	10,755,925	873,527,000	0	
東京国立博物館 本館内装等改修工事	483,000,000	0	452,573,172	30,426,828	483,000,000	0	
東京国立博物館 無料ゾーン施設新営工事	525,821,625	0	482,990,831	42,830,794	525,821,625	0	
京都国立博物館 平常展示館建替工事	2,884,279,959	0	2,849,223,186	35,056,773	2,884,279,959	0	
京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事	71,946,000	71,946,000	0	0	71,946,000	0	
奈良国立博物館 防災設備等改修工事	759,886,215	0	688,078,289	71,807,926	759,886,215	0	
奈良国立博物館 収蔵庫等免震工事	107,934,214	0	102,949,578	4,984,636	107,934,214	0	
奈良国立博物館 なら仏像館免震展示ケース等整備工事	162,005	0	0	162,005	162,005	0	
東京文化財研究所 水損文化財の保存修復研究の拠点整備	89,995,500	0	82,310,697	7,684,803	89,995,500	0	
奈良文化財研究所 X線回析装置等整備	62,212,185	0	62,212,185	0	62,212,185	0	
奈良文化財研究所 本庁舎建替工事	424,601,473	82,845,000	285,444,983	56,311,490	424,601,473	0	
合　　計	6,829,529,046	154,791,000	6,359,135,776	315,602,270	6,829,529,046	0	

(注)その他の内訳は、施設費収益:275,372,045円、建設仮勘定見返施設費戻入:40,230,225円です。

15－2 補助金等の明細　　（単位:円）

区　　分	当期交付額	左の会計処理内訳				期末残高	摘要
		建設仮勘定見返補助金	資産見返補助金	収益計上	小　計		
東京国立博物館 文化芸術振興費補助金	5,147,000	0	0	5,147,000	5,147,000	0	
アジア太平洋無形文化遺産研究センター 政府開発援助ユネスコ活動費補助金	9,932,540	0	0	9,932,540	9,932,540	0	
合　　計	15,079,540	0	0	15,079,540	15,079,540	0	

(注)収益計上の内訳は、その他補助金収益:15,079,540円です。

16. 役員及び職員の給与の明細

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 2,880 ）千円 43,141	（ 2 ）人 3	（ 0 ）千円 0	（ 0 ）人 0
職員	（ 707,725 ） 2,356,498	（ 455 ） 333	（ 20,576 ） 168,001	（ 32 ） 14
合計	（ 710,605 ） 2,399,638	（ 457 ） 336	（ 20,576 ） 168,001	（ 32 ） 14

(1) 支給人員数は、報酬又は給与については平成25年4月～平成26年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

(2) 役員報酬基準の概要　理事長　887，864円（期末における金額）
理事2名　752，519円（期末における金額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、120，000円を月額として支給しております。

(3) 役員退職手当基準の概要　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

(4) 職員給与基準の概要　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程等に基づき支給しております。

(5) 職員退職手当基準の概要　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

(6) 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

(7) 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

(8) 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

17．セグメント情報　（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構

Ⅰ事業費用,事業収益及び事業損益

（単位：円）

区　　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　　計
事業費用										
業務費	1,983,434,628	954,929,680	808,798,675	1,189,972,078	977,274,057	1,728,339,366	81,595,723	7,724,344,207	0	7,724,344,207
人件費	883,710,662	315,997,625	265,959,256	297,560,085	435,225,535	774,919,977	15,120,992	2,988,494,132	0	2,988,494,132
業務経費	979,337,022	612,441,214	493,087,237	740,379,339	502,359,230	889,842,867	66,474,731	4,283,921,640	0	4,283,921,640
調査研究業務費	199,070,886	127,966,694	71,474,473	231,787,961	101,911,209	337,872,214	10,736,565	1,080,820,002	0	1,080,820,002
情報公開業務費	5,619,825	0	0	0	43,800,230	96,494,482	0	145,914,537	0	145,914,537
研修業務費	0	0	0	0	4,161,430	9,270,902	0	13,432,332	0	13,432,332
国際研究協力業務費	0	0	0	0	118,049,164	32,329,847	0	150,379,011	0	150,379,011
展示出版業務費	0	0	0	0	9,597,962	129,311,541	0	138,909,503	0	138,909,503
展覧業務費	705,881,335	473,980,122	410,513,217	490,878,801	0	0	0	2,081,253,475	0	2,081,253,475
教育普及業務費	39,735,980	10,494,398	11,099,547	2,169,215	0	0	0	63,499,140	0	63,499,140
受託業務費	29,028,996	0	0	15,543,362	224,839,235	284,563,881	55,738,166	609,713,640	0	609,713,640
減価償却費	120,386,944	26,490,841	49,752,182	152,032,654	39,689,292	63,576,522	0	451,928,435	0	451,928,435
一般管理費	448,830,422	155,378,897	223,016,266	105,669,792	185,606,557	175,727,789	11,032,565	1,305,262,288	225,398,896	1,530,661,184
人件費	134,583,303	78,592,897	80,865,435	49,199,885	122,641,697	112,221,579	5,703,662	583,808,458	146,856,312	730,664,770
一般管理経費	282,819,648	67,193,219	121,907,034	39,377,444	62,690,860	60,319,988	5,219,907	639,528,100	72,349,330	711,877,430
減価償却費	31,427,471	9,592,781	20,243,797	17,092,463	274,000	3,186,222	108,996	81,925,730	6,193,254	88,118,984
財務費用	0	0	0	10,554	671,123	306,937	0	988,614	0	988,614
雑損	31,470	694,003	93,715	50,778	1,703	6,000	0	877,669	107,654	985,323
事業費用計	2,432,296,520	1,111,002,580	1,031,908,656	1,295,703,202	1,163,553,440	1,904,380,092	92,628,288	9,031,472,778	225,506,550	9,256,979,328
事業収益										
運営費交付金収益	1,416,535,568	907,849,384	522,594,482	981,717,422	878,464,101	1,439,096,050	26,893,000	6,173,150,007	231,739,190	6,404,889,197
受託収入	29,028,996	0	0	15,543,362	230,210,167	294,573,988	56,015,090	625,371,603	0	625,371,603
入場料収入	315,141,843	39,724,945	225,693,950	89,050,933	0	4,374,430	0	673,986,101	0	673,986,101
展示事業等附帯収入	171,931,673	44,670,401	56,667,537	30,397,662	9,629,444	29,626,497	0	342,923,214	786,921	343,710,135
財産利用収入	142,694,557	19,805,627	26,115,266	3,988,816	2,902,033	6,284,876	0	201,791,175	0	201,791,175
寄附金収益	61,521,059	17,472,365	54,096,757	6,700,000	6,227,861	13,004,148	0	159,022,190	90,595	159,112,785
施設費収益	127,376,448	35,056,773	57,781,851	0	7,684,803	47,472,170	0	275,372,045	0	275,372,045
その他補助金収益	5,147,000	0	0	0	0	0	9,932,540	15,079,540	0	15,079,540
資産見返負債戻入	164,032,604	36,073,587	89,168,695	164,833,050	31,034,361	68,798,055	108,996	554,049,348	6,193,254	560,242,602
財務収益	188,735	671	0	0	6,793	522	0	196,721	176,446	373,167
雑益	314,194	12,110,849	322,432	233,770	1,589,714	1,405,579	0	15,976,538	4,483,300	20,459,838
事業収益計	2,433,912,677	1,112,764,602	1,032,440,970	1,292,465,015	1,167,749,277	1,904,636,315	92,949,626	9,036,918,482	243,469,706	9,280,388,188
事業損益	1,616,157	1,762,022	532,314	−3,238,187	4,195,837	256,223	321,338	5,445,704	17,963,156	23,408,860

Ⅱ総資産

（単位：円）

区　　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　　計
流動資産	1,684,135,354	1,651,509,948	1,138,056,087	641,340,070	340,495,437	349,611,493	65,783,201	5,870,931,590	551,413,818	6,422,345,408
固定資産	90,863,677,963	54,440,753,332	30,586,656,997	25,969,023,348	6,167,326,099	5,547,747,096	269,464	213,575,454,299	59,927,230	213,635,381,529
建物	16,374,744,039	19,548,196,471	6,097,179,693	9,817,347,956	3,159,971,979	3,234,883,982	0	58,232,324,120	37,069,043	58,269,393,163
収蔵品	46,210,671,886	23,729,506,004	20,014,544,284	15,041,871,212	0	102,834,567	0	105,099,427,953	0	105,099,427,953
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	1,445,474,038	2,091,153,957	599,922,816	650,824,180	357,354,120	688,028,547	269,464	5,833,027,122	22,858,187	5,855,885,309
総資産	92,547,813,317	56,092,263,280	31,724,713,084	26,610,363,418	6,507,821,536	5,897,358,589	66,052,665	219,446,385,889	611,341,048	220,057,726,937

（注）

1．事業の種類の区分方法及び事業の内容

（1）東京国立博物館

我が国を代表する博物館として、日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる文化財について収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（2）京都国立博物館

平安時代から江戸時代に至る京都文化を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（3）奈良国立博物館

仏教美術を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（4）九州国立博物館

日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行っております。

（5）東京文化財研究所

美術、伝統芸能並びに文化財の保存・修復に関する調査・研究等を行っております。

（6）奈良文化財研究所

遺跡、建造物、庭園等の不動産的文化財に関する調査・研究等を行っております。

（7）アジア太平洋無形文化遺産研究センター

アジア太平洋地域の無形文化遺産について調査・研究を行っております。

2．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は225,506,550円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

3．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益であります。
なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は243,469,706円であり、すべて本部事務局に係る収益であります。

4．総資産のうち共通の項目に含めた金額は611,341,048円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

5．各セグメントにおける目的積立金の取り崩しを財源とする費用は以下の通りです。

（単位：円）

区　　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　　計
目的積立金取崩額（費用）	0	0	0	0	20,371	4,716,181	0	4,736,552	0	4,736,552

6．各セグメントにおける損益外減価償却相当額、損益外除売却差額相当額、損益外減損損失相当額、引当外賞与増加見込額及び引当外退職給付増加見込額は以下の通りです。

（単位：円）

区　　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　　計
損益外減価償却相当額	1,058,907,015	771,035,265	443,439,882	546,226,888	231,462,493	210,029,123	0	3,261,100,666	3,520,264	3,264,620,930
損益外除売却差額相当額	104,096,604	36,915,129	1,983,645	0	3,030,890	5,025,016	0	151,051,284	0	151,051,284
損益外減損損失相当額	0	0	0	0	0	294,658,061	0	294,658,061	0	294,658,061
引当外賞与増加見積額	8,286,258	182,614	944,968	1,063,989	2,973,781	6,851,856	−90,786	20,212,680	607,982	20,820,662
引当外退職給付増加見積額	−3,533,111	−25,731,312	−15,734,674	−15,738,162	−11,267,005	−8,780,359	323,233	−80,461,390	4,129,658	−76,331,732

18. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

(1)未払金の明細　　(単位:円)

取引先	未払金の内訳	金額
エクスロン・インターナショナル株式会社	大型デジタルX線断層撮影装置等製造及び設置業務他	792,487,500
㈱丹青社	平常展示館展示工事	783,163,000
株式会社きんでん　奈良支店	奈良国立博物館防災設備等改修電気設備工事他	302,416,800
株式会社奥村組　関西支店	奈良国立博物館防災設備等改修建築工事他	278,932,500
株式会社大林組	本館1階展示室等改修工事他	253,800,750
真柄建設株式会社	正門周辺再開発工事他	199,447,500
㈱三ツワフロンテック	東芝ITｺﾝﾄﾛｰﾙｼｽﾃﾑ製 ﾏｲｸﾛﾌｫｰｶｽX線CTｽｷｬﾝ装置他	169,764,000
ダイダン株式会社天理支店	奈良国立博物館防災設備改修機械設備工事他	165,879,000
コクヨファニチャー㈱	本館1階展示ケース製作及び設置等業務他	155,749,650
その他		2,385,938,609
合計		4,906,230,009

(2)資産見返運営費交付金の明細　　(単位:円)

区分	金額
建物	1,386,674,231
構築物	44,846,924
機械・装置	33,343,643
車両運搬具	11,425,987
工具器具備品	1,644,694,960
ソフトウエア	80,200,247
差入敷金・保証金	411,000
合計	3,201,596,992

平成25年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	予 算 額	決 算 額	差　額	備　考
収　入				
運営費交付金	8,391,705,000	8,391,705,000	0	
施設整備費補助金	2,853,965,000	6,829,529,046	3,975,564,046	(注記)1
文化芸術振興費補助金	0	5,147,000	5,147,000	(注記)2
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	0	9,932,540	9,932,540	(注記)3
展示事業等収入	1,322,634,000	1,240,225,834	−82,408,166	(注記)4
受託収入	26,000,000	625,371,603	599,371,603	(注記)5
その他寄附金等	0	172,318,289	172,318,289	(注記)6
計	12,594,304,000	17,274,229,312	4,679,925,312	
支　出				
運営事業費	9,714,339,000	9,720,116,098	5,777,098	
管理経費	1,415,082,000	1,244,331,558	−170,750,442	
人件費	614,537,000	637,513,661	22,976,661	
一般管理費	800,545,000	606,817,897	−193,727,103	(注記)7
業務経費	8,299,257,000	8,475,784,540	176,527,540	
人件費	2,167,275,000	2,262,531,478	95,256,478	
調査研究事業費	1,955,066,000	1,775,541,088	−179,524,912	
情報公開事業費	187,073,000	161,188,964	−25,884,036	
研修事業費	19,665,000	13,432,332	−6,232,668	
国際研究協力事業費	223,876,000	152,349,861	−71,526,139	(注記)8
展示出版事業費	185,151,000	151,223,923	−33,927,077	
展覧事業費	3,485,208,000	3,896,017,754	410,809,754	(注記)9
教育普及事業費	75,943,000	63,499,140	−12,443,860	
施設整備費	2,853,965,000	6,829,529,046	3,975,564,046	(注記)1
文化芸術振興費	0	5,147,000	5,147,000	(注記)2
政府開発援助ユネスコ活動費	0	9,932,540	9,932,540	(注記)3
受託事業費	26,000,000	611,025,231	585,025,231	(注記)5
計	12,594,304,000	17,175,749,915	4,581,445,915	

（注記）

1. 平成23年度、平成24年度予算の平成25年度への繰越及び平成25年度予算の平成26年度への繰越の差額によるものであります。
2. 文化庁による地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業によるものであります。
3. 文部科学省による消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究事業によるものであります。
4. 展示事業等収入の差額は、入場者数が大幅に減少したことによるものであります。
5. 受託収入及び受託事業費について、予算額と決算額の差異が多額になったのは、当初の受入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約があったためであります。
6. 賛助会等の寄附金によるものであります。
7. 一般管理費の差額は、大規模な工事の事務委託費が減ったことと、展示事業等収入の減少に伴い事業の緊縮を進めたことによるものであります。
8. 国際研究協力事業費の差額は、国際情勢により研究の一部を延期したものであります。
9. 展覧事業費の差額は、前年度からの繰越等による収蔵品購入費、展示棟の改修経費等が増加したものであります。

損益計算書の計上金額と決算金額の集計区分の相違の概要

（1）収蔵品の取得支出891,828,100円は、決算報告書上、展覧事業費に表示されております。

（2）有期雇用職員に係る人件費は損益計算書上、人件費として計上されておりますが、決算報告書上、各事業経費に表示されております。

一般管理費	90,058,244円
調査研究事業費	340,014,160円
展覧事業費	388,384,591円

（3）損益計算書に計上されている一般管理費人件費のうち914,526円、一般管理経費のうち189,452,928円、調査研究事業費のうち55,074,968円、展覧事業費のうち29,929,623円は決算報告書上、施設整備費に計上されております。

目　次

１．国民の皆様へ

２．基本情報
(1) 法人の概要
(2) 本社・支社等の住所
(3) 資本金の状況
(4) 役員の状況
(5) 常勤職員の状況

３．簡潔に要約された財務諸表
①貸借対照表
②損益計算書
③キャッシュ･フロー計算書
④行政サービス実施コスト計算書
・用語解説

４．財務情報
(1) 財務諸表の概況
①資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析
② セグメント総資産の経年比較・分析
③ セグメント事業損益の経年比較・分析
④ 積立金の申請、取崩内容等
⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析
(2) 施設等投資の状況（重要なもの）
① 当事業年度中に完成した主要施設等
② 当事業年度において継続中の施設等の新設・拡充
③ 当該事業年度中に処分した主要施設等
(3) 予算・決算の概況
(4) 経費削減及び効率化目標との関係

５．事業の説明
(1) 財源構造
(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

独立行政法人国立文化財機構　平成 25 年度事業報告書

１．国民の皆様へ

平成 25 年度の平常展入場者数は対前年度比 10 万人減の 101 万人となりました。特別展入場者数も同 60 万人減の 181 万人にとどまり、総入場者数は 282 万人となり、入場者数の面からは非常に厳しい一年となりました。総入場者数が 300 万人を達成できなかったのは、本機構が設立された平成 19 年度以降初めてとなります。

以下、財務概況について報告いたします。

収入面では、入場料収入が入場者数の減を受け同 140 百万円減の 674 百万円となりました。一方で入場料収入以外の収入は、キャンパスメンバーズ収入 8 百万円増、カタログ撮影やイベントへの建物の貸与・駐車場への敷地貸与等の財産利用収入 24 百万円増等により同 55 百万円増の 566 百万円となりました。収入全体では、昨年度の特殊要因である還付消費税を除いて比較しても、同 86 百万円減の 1,240 百万円となり、平成 19 年度の国立文化財機構設立以降初めて自己収入予算額（収入ノルマ）1,323 百万円を 83 百万円（6.3%）下回りました。

また、運営費交付金収入では、京都国立博物館平常展示館（平成知新館）の展示制作費 814 百万円及び研究機器整備費 438 百万円の当年度限りの予算を措置いただき同 1,026 百万円増の 8,392 百万円となりました。

支出面では、人件費について「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」（以下「給与特例法」という。）に準じ、平成 24 年度に引き続き 25 年度も平均 7.8%減額支給を完全実施しました。また、自己収入減及び燃料費の高騰等による固定経費の増加等並びに今年度限りの運営費交付金増を踏まえて支出予算を設定し、引き続き支出や契約内容の精査徹底など経費節減に努めました。

経常損益では、対前年度比 51 百万円減の 23 百万円の経常利益となりました。また、臨時損益など 7 百万円を反映して、当期総利益は同 36 百万円減の 31 百万円（54.1%）となりました。

施設面では、東京国立博物館ではお客様をお迎えする正門プラザを新設し、本館展示室の一部のリニューアル工事を実施しました。また、文化財の調査研究・保存修理に多大な成果が期待できる大型 X 線 CT スキャナーを整備しました。京都国立博物館では平成知新館の全工事がしゅん工しました。奈良国立博物館では防災設備等改修工事がしゅん工し、入館者と文化財の安全性が確保されました。東京文化財研究所では甚大な災害に備え、水損文化財の保存修復拠点としての施設改修工事を実施しました。奈良文化財研究所では本庁舎建替工事の一環として、仮設庁舎の新設及び旧庁舎の取壊し工事を進めました。平成 26 年度は新庁舎建設に着工予定です。

これらの工事等により、資産別で建物が 59 億 90 百万円、構築物が 6 億 12 百万円、調査研究用の機械装置が 5 億 48 百万円、展示や調査研究用の工具器具備品が 19 億 84 百万円増加しました。

今年度は集客面では厳しいながら、今後の展覧会や調査研究事業の発展に不可欠な基盤整備を行うことができました。来年度は平成知新館のリニューアルオープンや大規模な展覧会も計画されており、今年度以上のお客様にご来館いただけるよう努めてまいりますので、引き続き皆様の温かいご支援ご協力をお願いいたします。

２.基本情報

(1) 機構の概要

① 法人の目的

独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二条第一項第一号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下に同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第三条）

② 業務内容

当機構は、独立行政法人国立文化財機構法第三条の目的を達成するため以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第一号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第二号、第三号及び前三号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第二号、第三号及び第五号から第七号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

③ 沿革

平成 19 年 4 月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立
平成 23 年 10 月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

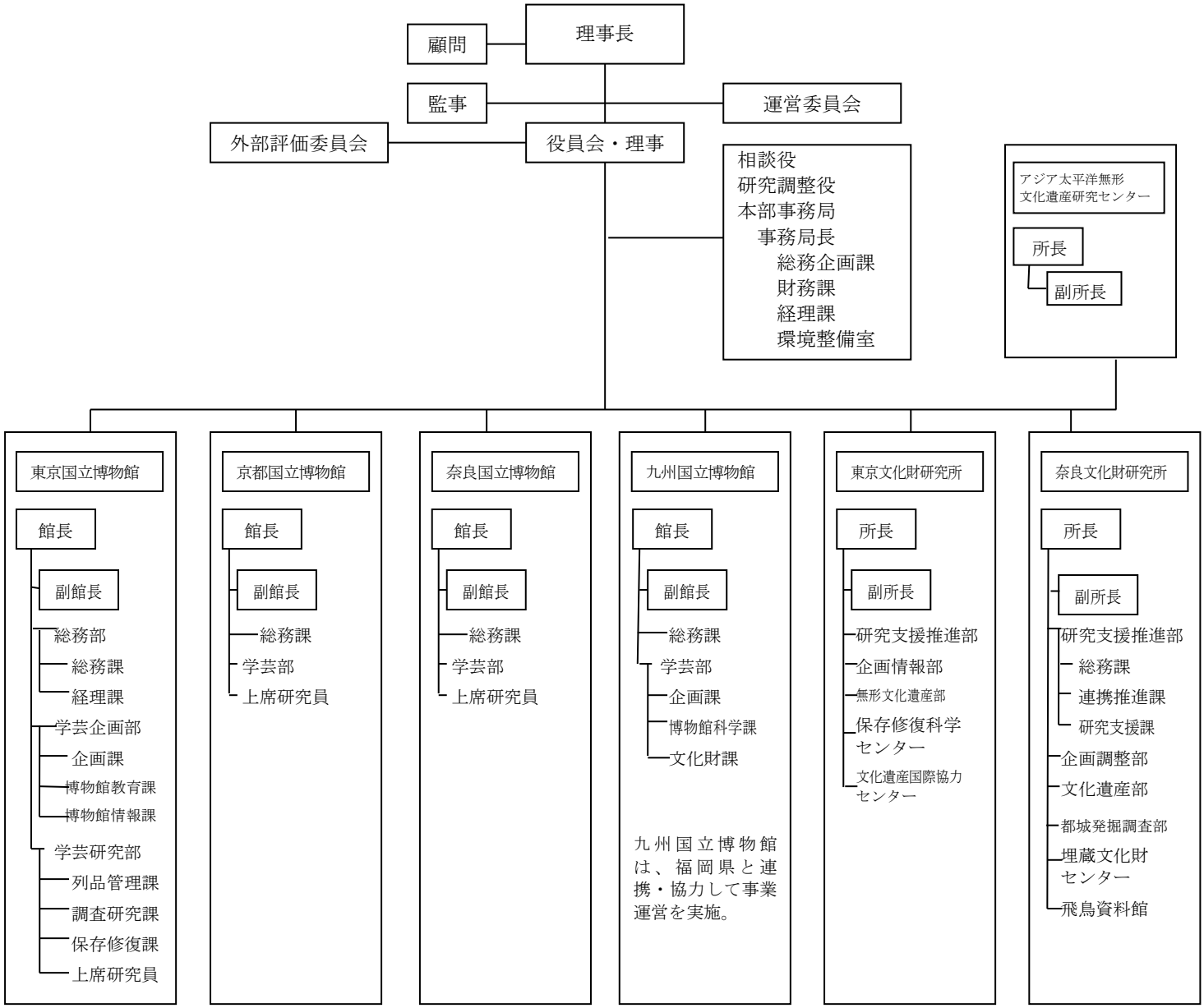
④ 設立根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

⑤ 主務大臣（主務省所管課等）

文部科学大臣（文化庁長官官房政策課）

⑥ 組織図（平成 26 年 3 月 31 日現在）



(2) 本社・支社等の住所

本社：東京都台東区上野公園 13－9

支社：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）

東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）

京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）

奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）

奈良県奈良佐紀町 247－1（奈良文化財研究所）

福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）

大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁　堺市博物館内（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

(3) 資本金の状況

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

(4) 役員の状況

役職	氏名	任期	担当	経歴
理事長	佐々木丞平	自 平成19年4月1日 至 平成26年3月31日		昭和45年4月　京都府教育委員会 昭和47年4月　文化庁入庁 昭和56年4月　京都大学 平成　3年3月　京都大学文学部教授 平成12年4月　京都大学附属図書館長(併任) 平成12年11月　京都大学 大学文書館長 平成17年3月　退職 平成17年4月　(独)国立博物館理事（(兼)京都国立博物館長） 平成19年3月　退職（統合のため）
理　事	松村恵司	自 平成23年10月1日 至 平成26年3月31日	文化財の調査・研究・保存修復、ナショナルセンター機能、対外広報担当	昭和52年10月　奈良国立文化財研究所 昭和62年10月　文化庁入庁 平成　7年4月　奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長 平成18年4月　(独)文化財研究所奈良文化財研究所都城発掘調査部上席研究員・考古第一研究室長 平成20年4月　(独)国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長 平成21年4月　文化庁文化財部文化財鑑査官 平成23年3月　退職
理　事	辰野裕一	自 平成23年9月1日 至 平成26年3月31日	総務、財務、危機管理担当	昭和53年4月　文部省入省 平成13年7月　文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長 平成16年7月　文化庁文化財部長 平成17年4月　文化庁長官官房審議官 平成18年7月　文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 平成19年7月　国立大学法人東京大学理事 平成21年7月　文部科学省大臣官房政策評価審議官 平成22年7月　文部科学省大臣官房文教施設企画部長 平成23年8月　退職
監　事	雪山行二	自 平成21年4月1日 至 平成26年3月31日		昭和51年4月　国立西洋美術館 平成　4年9月　国立西洋美術館学芸課長 平成10年9月　退職 平成10年10月　愛知県美術館副館長 平成14年4月　横浜美術館長 平成21年4月　和歌山県立近代美術館長 平成24年3月　退職 平成24年4月　富山県立近代美術館長　　現在に至る
監　事	服部彰	自 平成22年4月1日 至 平成26年3月31日		昭和46年10月　監査法人中央会計事務所 昭和55年3月　クーパースアンドライブランド・シドニー事務所 昭和63年9月　中央監査法人代表社員 平成　9年4月　中央監査法人評議員 平成12年4月　中央青山監査法人代表社員・評議員 平成18年9月　みすず監査法人パートナー 平成19年8月　服部公認会計士事務所　　現在に至る

(5) 常勤職員の状況

常勤職員は平成 25 年度末で 339 人（前期末比 1 人減)、平均年齢は 44 歳（前期末に同じ）です。このうち、国等からの出向者は 12 人、民間からの出向者は 0 人です。

3.簡潔に要約された財務諸表

①貸借対照表

平成 26 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	5,393	運営費交付金債務	716
未収金	945	未払金	4,906
その他	84	その他	455
流動資産合計	6,422	流動負債合計	6,077
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	3,580
建物	58,269	その他の固定負債	90
収蔵品	105,099	固定負債合計	3,670
土地	44,411	負債合計	9,747
工具器具備品	2,927	純資産の部	
建設仮勘定	166	資本金	104,714
その他	2,660	資本剰余金	104,819
無形固定資産	102	利益剰余金	778
投資その他資産	2	純資産合計	210,311
固定資産合計	213,636		
資産合計	220,058	負債純資産合計	220,058

②損益計算書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	9,257
業務費	
人件費	2,988
業務経費	4,284
減価償却費	452
一般管理費	
人件費	731
一般管理経費	712
減価償却費	88
その他	2
経常収益(B)	9,280
運営費交付金収益	6,405
受託収入	625
入場料収入	674
展示事業等収入	344
財産利用収入	202
施設費収益	275
資産見返負債戻入	560
その他	195
臨時損失(C)	−25
臨時利益(D)	27
前中期目標期間繰越積立金取崩額(E)	5
当期総利益(B−A+C+D+E)	31

③キャッシュ・フロー計算書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	2,056
人件費支出	－3,649
運営費交付金収入	8,392
自己収入等	2,102
その他の支出	－5,244
消費税等還付額	439
その他収入	16
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	－5,310
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	－14
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	－3,269
Ⅴ資金期首残高(E)	8,462
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	5,193

④行政サービス実施コスト計算書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務費用	6,847
損益計算書上の費用	9,281
（控除）自己収入等	－2,434
（その他の行政サービス実施コスト）	
Ⅱ損益外減価償却相当額	3,265
Ⅲ損益外除売却差額相当額	151
Ⅳ損益外減損損失相当額	294
Ⅴ引当外賞与見積額	21
Ⅵ引当外退職給付増加見積額	－76
Ⅶ機会費用	1,398
Ⅷ行政サービス実施コスト	11,900

■ 用語解説

①貸借対照表

現金及び預金　　：現金、銀行預金（定期預金含む）

未収金　　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など

その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など

有形固定資産　　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの

建設仮勘定　　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など

無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など

その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用

運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額

未払金　　：退職給付（アソシエイトフェローを除く）、購入代金などの未払金で1年以内に支払期限が到来するもの

その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など

資産見返負債　　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額

その他（固定負債）　：リース長期未払金など

政府出資金　　：国から出資された土地、建物等の相当額
資本剰余金　　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵品の相当額
利益剰余金　　：剰余金の累計額

②損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費
減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益等：運営費交付金、補助金等のうち、当期の収益として認識した相当額
資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益
臨時損失　　：固定資産除却損
臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益
前中期目標期間繰越積立金取崩額　：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

③キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

④行政サービス実施コスト計算書

業務費用　　：損益計算書における一切の費用から運営費交付金、施設整備費補助金等の国からの措置に基づく収益を控除した相当額
損益外減価償却相当額　：建物などで減価に対応すべき収益の獲得が予定されないとされた資産の減価償却費相当額（損益計算書には反映されていないが、減価償却累計額は貸借対照表に反映）
損益外除売却差額相当額：上記のような建物などを除売却した場合の損益計算書には反映されない除売却損相当額
損益外減損損失相当額：独立行政法人が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額
引当外賞与見積額・引当外退職給付増加見積額　：財源措置が運営費交付金により行われる場合の賞与引当金増加見積額・退職給付引当金増加見積額（損益計算書には反映されていないが、貸借対照表に注記）
機会費用　　：政府から出資された土地・建物等の出資額及び政府から譲与を受け資本剰余金となっている収蔵品等の相当額を市場で運用すると仮定した場合に得られたと考えられる運用益相当額

４.財務情報

(1) 財務諸表の概況

①資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

主要な財務データの経年比較　（単位：百万円）

区　　分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
資産	197,977	202,650	206,245	220,156	220,058
負債	9,621	9,316	15,189	15,469	9,747
利益剰余金（又は繰越欠損金）	1,163	1,304	691	752	778
純資産	188,356	193,334	191,056	204,687	210,311
経常費用	9,700	9,703	8,908	8,746	9,257
経常収益	9,847	9,844	8,946	8,820	9,280
当期総利益	148	143	44	67	31
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,860	1,410	664	1,171	2,056
投資活動によるキャッシュ・フロー	－2,025	－1,981	867	2,206	－5,310
財務活動によるキャッシュ・フロー	－20	－6	－14	－13	－14
資金期末残高	4,158	3,581	5,098	8,462	5,193

（資産）

平成25年度末現在の資産合計は、2,200億58百万円と前年度比98百万円（0.0%）減少しました。これは、東京国立博物館の正門プラザ新設・本館展示室一部リニューアル、京都国立博物館の平成知新館展示ケース等制作、奈良国立博物館の防災設備等改修、奈良文化財研究所の本庁舎建替等の各工事がしゅん工または部分完成したことにより建設仮勘定が同14億87百万円減の1億66百万円、建物が同57億31百万円増の835億90百万円、構築物が同5億93百万円増の40億95百万円となる一方で、建物・構築物の減価償却等が同34億31百万円増となったこと、研究機器整備により機械装置が同5億1百万円増の7億6百万円、工具器具備品が同15億38百万円増の29億27百万円となったこと、並びに建物や研究機器の完成によりその未払金相当額が同47億99百万円減の49億6百万円となったこととの見合いなどにより、現金預金が同32億69百万円減の53億93百万円、未収金が同16億32百万円減の9億45百万円となったこと、また、各博物館における収蔵品が13億20百万円増加したことが主な要因です。

（負債）

平成25年度末現在の負債合計は、前年度比57億23百万円（37.0%）減の97億47百万円となりました。これは、各工事のしゅん工等により建設仮勘定見返負債が同14億24百万円減の1億55百万円、展示用の備品類を整備したこと等により資産見返運営費交付金が同6億63百万円増の32億2百万円となったこと、平成25年度中に大型工事がしゅん工して支払を完了したことから未払金が同47億99百万円減の49億6百万円となったことが主な要因です。

（純資産）

平成25年度末現在の純資産は、前年度比56億24百万円（2.7%）増の2,103億11百万円となりました。これは、各工事のしゅん工・収蔵品の増加等により資本剰余金が同88億92百万円（7.2%）増の1,327億41百万円となる一方で、損益外減価償却累計額が同29億99百万円（12.2%）増の276億23百万円、損益外減損損失累計額が同2億95百万円（8,726%）増の2億98百万円となったことの差し引きが主な要因です。

（経常費用）

平成25年度末現在の経常費用は、前年度比5億11百万円（5.8%）増の92億57百万円となりました。これは、退職手当の増減等により業務人件費が同1億58百万円増、管理人件費が同53百万円減、京都国立博物館平成知新館展示制作等による展覧業務費が同3億12百万円

増、施設整備費財源による修繕等により一般管理経費が同 1 億 16 百万円増となったことなどが主な要因です。

（経常収益）

平成 25 年度末現在の経常収益は、前年度比 4 億 61 百万円（5.2%）増の 92 億 80 百万円となりました。これは、当年度限りの京都国立博物館関連の運営費交付金の増により、運営費交付金収益が同 5 億 41 百万円（9.2%）増の 64 億 5 百万円、各施設での工事により施設費収益が同 1 億 92 百万円（232%）増の 2 億 75 百万円、資産見返負債戻入が同 55 百万円（10.8%）増の 5 億 60 百万円となる一方で、入場料収入が同 1 億 40 百万円（17.2%）の減の 6 億 74 百万円となり、昨年度のような消費税還付金の未収金計上がないため雑益が同 2 億 52 百万円（92.5%）減の 20 百万円となったことによる差し引きが主な要因です。

（当期総利益）

以上による経常利益 23 百万円に、固定資産の除却に伴う臨時損失 25 百万円とそれに伴う資産見返勘定の戻入による臨時利益等 27 百万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩額 5 百万円と合わせて、平成 25 年度の当期総利益は 31 百万円と前年度比 36 百万円（54.1%）減少しました。

（業務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 25 年度の業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入超過が 20 億 56 百万円と前年度末比 8 億 83 百万円（75.3%）増加しました。これは、業務支出が 49 億 60 百万円と前年度比 4 億 76 百万円（10.6%）、運営費交付金収入が 83 億 92 百万円と同 10 億 25 百万円（13.9%）それぞれ増加し、展示事業等収入が 8 億 45 百万円と同 4 億 36 百万円（34.0%）減少したこと、消費税等支払額が 40 百万円と同 2 億 92 百万円減少し、また、消費税等還付額が 4 億 39 百万円あったことが主な要因です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

平成 25 年度の投資活動によるキャッシュ・フローでは、前年度末比 22 億 6 百万円の収入超過から 53 億 10 百万円の支出超過となりましました。これは、施設整備費補助金による収入が 80 億 65 百万円と前年度比 6 億 97 百万円（8.0%）減少した一方、有形固定資産の取得による支出が 133 億 55 百万円と同 70 億 50 百万円（111.8%）増加したことが主な要因です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 25 年度の財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出超過が 14 百万円と前年度末比 2 百万円（13.1%）増加しました。これは、当該区分は全てリース債務の支払であるところ、当該支払が同額増加したためです。

② セグメント総資産の経年比較・分析

セグメント総資産の経年比較　（単位：百万円）

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
東京国立博物館	89,823	92,163	89,950	89,786	92,548
京都国立博物館	36,385	38,005	42,128	51,806	56,092
奈良国立博物館	29,955	31,486	30,667	30,512	31,725
九州国立博物館	26,677	27,183	26,850	26,443	26,610
東京文化財研究所	7,080	7,192	6,774	6,605	6,508
奈良文化財研究所	6,595	6,270	6,171	6,016	5,897
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	-	-	4	56	66
共　通	1,462	351	3,701	8,932	611
合　　計	197,977	202,650	206,245	220,156	220,058

総資産は2,200億58百万円と、前年度末比で98百万円（0.0%）減少しました。

以下、施設毎に概況について報告いたします。

東京国立博物館においては925億48百万円と、同27億62百万円（3.1%）増加しました。これは、建物が15億93百万円、構築物が1億32百万円、収蔵品が3億96百万円、機械装置が5億48百万円、流動資産が13億24百万円それぞれ増加し、損益外を含め12億11百万円相当の減価償却が進行したことが主な要因です。

京都国立博物館においては560億92百万円と、同42億86百万円（8.3%）増加しました。これは、平成知新館建替工事のしゅん工により建物が28億95百万円、構築物3億3百万円、収蔵品が1億36百万円、工具器具備品が14億26百万円、流動資産が13億94百万円それぞれ増加した一方で、建設仮勘定が 11億49百万円減少し、損益外を含め8億7百万円相当の減価償却が進行したことの差し引きが主な要因です。

奈良国立博物館においては317億25百万円と、同12億13百万円（4.0%）増加しました。これは、防災設備等改修工事のしゅん工により建物が9億6百万円、構築物が1億39百万円、収蔵品が59百万円、流動資産が8億75百万円それぞれ増加した一方で、建設仮勘定が 2億77百万円減少し、損益外を含め5億13百万円相当の減価償却が進行したことの差し引きが主な要因です。

九州国立博物館においては266億10百万円と、同1億67百万円（0.6%）増加しました。これは、収蔵品が7億29百万円、工具器具備品が2億23百万円それぞれ増加した一方で、流動資産が1億21百万円減少、損益外を含め7億15百万円相当の減価償却が進行したことの差し引きが主な要因です。

東京文化財研究所においては65億8百万円と、同97百万円（1.5%）減少しました。これは、工具器具備品が1億29百万円、建物附属設備が15百万円増加し、損益外を含め2億71百万円相当の減価償却が進行したことが主な要因です。

奈良文化財研究所においては58億97百万円と、同1億19百万円（2.0%）減少しました。これは、本庁舎建替工事に伴い建物が2億89百万円、建設仮勘定が64百万円、工具器具備品が80百万円それぞれ増加し、損益外を含め2億77百万円相当の減価償却が進行したことの差し引きが主な要因です。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいては、総資産が66百万円となりました。建物は借用しており、資産のほとんどは現金預金となっております。

共通は、機構本部事務局その他の資産であり、6億11百万円と、同83億20百万円（93.2%）減少しました。これは、今年度末においては施設整備費補助金の各施設への送金を完了していたため、本部に滞留する現金預金が減少したことが主な要因です。

③ セグメント事業損益の経年比較・分析

セグメント事業損益の経年比較　（単位：百万円）

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
東京国立博物館	−70	29	69	20	2
京都国立博物館	35	0	−185	5	2
奈良国立博物館	38	0	−10	0	1
九州国立博物館	75	−7	16	35	−3
東京文化財研究所	18	23	51	10	4
奈良文化財研究所	47	−4	−35	1	0

アジア太平洋無形文化遺産研究センター	-	-	2	1	0
共通	4	100	130	2	18
合　　計	147	141	38	74	23

事業損益は 23 百万円の利益と、対前年度末比 51 百万円（68.9%）減少しました。

以下、施設毎に概況について報告いたします。なお、人件費の対前年度増減は、主に退職手当によるものです。

東京国立博物館においては 2 百万円の利益と、同 18 百万円（90.0%）減少しました。これは、事業費用が 24 億 32 百万円と同 92 百万円（3.9%）、事業収益が 24 億 34 百万円と同 74 百万円（3.1%）それぞれ増加したことの差し引きによります。事業費用は、業務人件費が同 34 百万円（4.0%）、施設整備費財源による修繕等のため一般管理費が同 1 億 26 百万円（39.0%）それぞれ増加する一方、調査研究業務費が同 20 百万円（9.1%）、展覧業務費が同 36 百万円（4.9%）減少したこと、事業収益は、入場料収入が同 61 百万円（16.2%）減少する一方、運営費交付金収益が同 42 百万円（3.1%）、展示事業等附帯収入が同 22 百万円（14.7%）、財産利用収入が同 20 百万円（16.3%）、施設費収益が同 1 億 17 百万円（1,170%）それぞれ増加したこと、消費税還付金による雑益が 78 百万円純減したことの差し引きが主な要因です。

京都国立博物館においては 2 百万円の利益と、同 3 百万円（60.0%）減少しました。これは、事業費用が 11 億 11 百万円と同 3 億 65 百万円（48.9%）、事業収益が 11 億 13 百万円と同 3 億 63 百万円（48.4%）それぞれ増加したことの差し引きによります。事業費用は、業務人件費が同 35 百万円（12.5%）、調査研究業務費が同 39 百万円（43.8%）、展覧業務費が平成知新館の展示制作により同 3 億 9 百万円（187%）それぞれ増加する一方、施設整備費財源による支出の減少により一般管理経費が同 43 百万円（21.7%）減少したこと、事業収益は、運営費交付金収益が展示制作の特殊要因により同 4 億 21 百万円（86.4%）増加する一方、入場料収入が同 27 百万円（40.3%）、施設費収益が同 21 百万円（37.5%）それぞれ減少し、消費税還付金による雑益が 35 百万円純減したことが主な要因です。

奈良国立博物館においては、昨年度同様損益 1 百万円となりました。これは、事業費用が 10 億 32 百万円と同 92 百万円（9.8%）、事業収益が 10 億 32 百万円と同 92 百万円（9.8%）それぞれ増加したことの差し引きによります。事業費用は、業務人件費が同 21 百万円（8.6%）増加、一般人件費が同 22 百万円（21.4%）減少、展覧業務費が同 30 百万円（7.9%）、施設整備費財源による修繕等のため一般管理費が同 65 百万円（114%）それぞれ増加したこと、事業収益は、運営費交付金収益が同 20 百万円（4.0%）、入場料収入が同 18 百万円（8.7%）、施設費収益が同 43 百万円（287%）それぞれ増加したことの差し引きが主な要因です。

九州国立博物館においては 3 百万円の損失と、前年度 35 百万円の利益から 38 百万円減少しました。これは、事業費用が 12 億 96 百万円と同 32 百万円（2.5%）増加し、事業収益が 12 億 92 百万円と同 7 百万円（0.5%）減少したことの差し引きによります。事業費用は、業務人件費が同 35 百万円（13.3%）、展覧業務費が 9 百万円（1.9%）、増加する一方、調査研究業務費が同 14 百万円（5.7%）、一般管理経費が同 17 百万円（30.4%）それぞれ減少したこと、事業収益は、運営費交付金収益が同 1 億 81 百万円（22.6%）増加した一方で、入場料収入が同 71 百万円（44.4%）減少、消費税還付金による雑益が 1 億 39 百万円純減したことの差し引きが主な要因です。

東京文化財研究所においては 4 百万円の利益と、同 6 百万円（60.0%）減少しました。これは、事業費用が 11 億 64 百万円と同 26 百万円（2.3%）、事業収益が 11 億 68 百万円と同 20 百万円（1.7%）それぞれ増加したことの差し引きによります。事業費用は、業務人件費が同 11 百万円（2.6%）増加、一般人件費が 12 百万円（10.8%）増加し、受託業務費が 17 百万円（8.2%）増加したこと、事業収益は、受託収入が 18 百万円（8.5%）増加、施設費収益が 8 百万円純増、雑益が 2 百万円（50.0%）減少したことの差し引きが主な要因です。

奈良文化財研究所においては、昨年度 1 百万円の利益が損益 0 百万円となりました。これは、事業費用が 19 億 4 百万円と同 87 百万円（4.4%）、事業収益が 19 億 5 百万円と同 87 百万円（4.4%）いずれも減少したことの差し引きによります。事業費用は、一部人件費の支出区分の変更により業務人件費が同 20 百万円（2.6%）増加、一般人件費が同 40 百万円（26.3%）減少しました。調査研究業務費が同 39 百万円（13.0%）増加する一方、情報公開業務費が同 47 百万円（32.9%）、展示出版業務費が同 43 百万円（25.0%）、受託業務費が同 22 百万円（7.2%）いずれも減少したこと、事業収益は、施設費収益が同 46 百万円（4,600%）増加する一方、運営費交付金収益が同 1 億 15 百万円（7.4%）、受託収入が同 25 百万円（7.8%）いずれも減少したことの差し引きが主な要因です。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいては、前年度 1 百万円の利益から損益 0 百万円となりました。これは、事業費用が 93 百万円と同 3 百万円（3.3%）、事業収益が 93 百万円と、同 1 百万円（1.1%）それぞれ増加したことの差し引きによります。

共通は、機構本部事務局その他の損益で 18 百万円の利益と、同 16 百万円（800%）増加しました。これは、事業費用が 2 億 26 百万円と同 11 百万円（4.6%）減少し、事業収益が 2 億 43 百万円と同 4 百万円(1.7%)増加したことの差し引きによります。事業費用は、一般管理経費が同 8 百万円（10%）減少したこと、事業収益は、運営費交付金収益が同 3 百万円（1.3%）増加したことが主な要因です。

④積立金の申請、目的積立金の取崩内容

当期未処分利益 31 百万円については、現金ではない臨時損益、前中期目標期間繰越積立金取崩額 7 百万円を除く 23 百万円を目的積立金として申請する予定です。

目的積立金取崩は、前中期目標期間において自己収入により取得した償却資産に関する減価償却費相当額などについて前中期目標期間繰越積立金取崩を 5 百万円計上しております。

⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
業務費用	7,558	7,527	6,962	6,463	6,847
損益計算書上の費用	10,049	9,715	8,910	8,801	9,282
（控除）自己収入等	−2,491	−2,188	−1,948	−2,338	−2,434
損益外減価償却相当額	2,296	2,322	2,843	2,882	3,265
損益外除売却差額相当額	0	42	55	35	151
損益外減損損失相当額	−	−	1	−	295
引当外賞与見積額	−9	−7	−29	5	21

引当外退職給付増加見積額	－69	12	48	105	－76
機会費用	2,652	2,431	1,970	1,207	1,398
（控除）法人税等及び国庫納付金	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト	12,428	12,327	11,850	10,697	11,900

平成 25 年度の行政サービス実施コストは 119 億円と、前年度比 12 億 3 百万円（11.2%）増加となっています。これは、業務費用が 3 億 84 百万円（5.9%）、損益外減価償却相当額が同 3 億 83 百万円（13.3%）、機会費用が同 1 億 91 百万円（15.8%）それぞれ増加、損益外減損損失相当額が 2 億 95 百万円純増した一方で、引当外退職給付増加見積額が前年度 1 億 5 百万円から△76 百万円となったことが主な要因です。

(2) 施設等投資の状況（重要なもの）

①当事業年度中に完成した主要施設等

＜東京国立博物館＞

黒田記念館耐震補強改修工事、表慶館バリアフリー化工事、大型 X 線 CT スキャナー取設工事、本館内装等改修工事、無料ゾーン施設新営工事

＜京都国立博物館＞

平常展示館（展示制作等を除く）

＜奈良国立博物館＞

防災設備等改修工事

＜東京文化財研究所＞

水損文化財の保存修復研究の拠点整備

＜奈良文化財研究所＞

X 線回折装置等整備

②当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

＜東京国立博物館＞

平成館特別展示室等改修工事

＜京都国立博物館＞

平常展示館建替工事（展示制作等）

＜奈良国立博物館＞

なら仏像館外壁等補修及び免震展示ケース等整備工事

＜奈良文化財研究所＞

本庁舎建替工事

③当事業年度中に処分した主要施設等

該当なし

(3) 予算・決算の概況

国立文化財機構　　(単位：百万円)

区　分	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》 運営費交付金	8,367	8,367	8,192	8,192	7,941	7,941	7,602	7,366	8,392	8,392	
施設整備費補助金	3,674	2,331	3,992	5,094	4,792	4,414	6,884	10,273	2,854	6,830	繰越による
文化芸術情報電子化推進費補助金	700	548	0	136	-	-	-	-	-	-	
文化芸術振興費補助金	-	-	-	-	-	-	-	-	0	5	
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	-	-	-	-	-	-	-	-	0	10	
展示事業等収入	1,120	1,898	1,132	1,580	1,188	1,318	1,309	1,587	1,322	1,240	入場料収入減等
その他寄附金等	0	139	0	143	0	241	0	200	0	172	賛助会等
受託収入	26	525	26	518	26	507	26	634	26	625	当初見込外契約の増加
合　計	13,887	13,808	13,342	15,663	13,947	14,421	15,821	20,060	12,594	17,274	
《支出》 運営事業費	9,487	10,454	9,324	11,010	9,129	8,952	8,911	8,856	9,714	9,720	
・人件費	3,330	3,244	3,165	3,162	3,119	3,116	3,078	2,806	2,781	2,900	
・業務経費	6,157	7,210	6,159	7,848	6,010	5,836	5,833	6,050	6,933	6,820	
(一般管理費)	1,020	1,066	980	932	833	917	811	681	801	607	経費節減等
(展覧事業費)	2,940	4,050	2,905	4,672	3,206	2,846	3,138	3,229	3,485	3,896	展示棟改修等
(調査研究事業費)	1,438	1,473	1,517	1,633	1,297	1,440	1,167	1,481	1,955	1,776	繰越による
(教育普及事業費)	121	74	120	89	55	96	47	64	76	64	
(国際研究協力事業費)	304	223	303	227	245	178	265	163	224	152	国際情勢による延期
(情報公開事業費)	155	144	155	127	169	147	133	201	187	161	
(研修事業費)	22	17	22	18	18	16	13	18	20	13	
(展示出版事業費)	158	163	157	150	187	196	259	213	185	151	
受託事業費	26	492	26	507	26	512	26	620	26	611	当初見込外契約の増加
施設整備費	3,674	2,212	3,992	5,094	4,792	4,414	6,884	10,273	2,854	6,830	繰越による
文化芸術情報電子化推進費補助金	700	542	0	142	-	-	-	-	-	-	
文化芸術振興費	-	-	-	-	-	-	-	-	0	5	
政府開発援助ユネスコ活動費	-	-	-	-	-	-	-	-	0	10	
合　計	13,887	13,700	13,342	16,753	13,947	13,878	15,821	19,749	12,594	17,176	

(4) 経費削減及び効率化目標との関係

国立文化財機構
(一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ)

(単位：百万円)

区　分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間			
	金額	比率	平成24年度		平成25年度	
			金額	比率	金額	比率
一般管理費	932	100%	681	73.1%	607	65.1%

※比率は対前中期目標終了年度

機構は、当中期目標期間終了年度における一般管理費を、前中期目標期間の最終年度に比べて、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中で一般管理費 15%以上の削減を目標としております。

この目標を達成するため、具体的には下記の措置を講じます。

①共通的な事務の一元化による業務の効率化

②使用資源の減少

・省エネルギー（5 年期間中 1 年に 1.03%の減少）

・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を 5 年期間中 5%減少）

・リサイクルの推進（古紙の回収、ディスプレイ材料の再利用徹底等）

③施設有効使用の推進

・施設の利用推進

④民間委託の推進

・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進めます。

・各施設の警備・清掃業務について民間委託を推進します。

・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進めます。

⑤競争入札の推進

・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図ります。

・包括契約、近隣他機関や法人内同一地域での共同購入及び複数年契約への変更等により、経費の効率化を図ります。

５. 事業の説明

(1) 財源構造

当機構の経常収益は 92 億 80 百万円で、その内訳は、運営費交付金収益 64 億 5 百万円（69.0%）、受託収入 6 億 25 百万円（6.7%）、入場料収入 6 億 74 百万円（7.3%）、展示事業等附帯収入 3 億 44 百万円（3.7%）、財産利用収入 2 億 2 百万円（2.2%）、寄附金収益 1 億 59 百万円（1.7%）、施設費収益 2 億 75 百万円（3.0%）、その他補助金収益 15 百万円（0.2%）、資産見返負債戻入 5 億 60 百万円（6.0%）等です。

(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

ア　調査研究事業

調査研究事業は、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を通して、国内の機関との共同研究や研究交流を深め、種々の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与すること、及び文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 10 億 81 百万円です。その財源は、運営費交付金 8 億 7 百万円及び自己収入 2 億 74 百万円です。

イ　情報公開事業

情報公開事業は、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の方が調査・研究成果を容易に入手できるようにすることを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 46 百万円です。その財源は、運営費交付金 1 億 36 百万円及び

自己収入 10 百万円です。

ウ　研修事業

研修事業は、文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、及び保存科学に関する保存担当学芸員研修等を行うことにより、文化財保護に必要な人材を養成することを目的としています。

事業に要した費用は 13 百万円です。その財源は、運営費交付金のみです。

エ　国際研究協力事業

国際研究協力事業は、文化財の保存・修復に関する国際研究協力に関する事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際研究協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 50 百万円です。その財源は、運営費交付金 1 億 48 百万円及び自己収入 2 百万円です。

オ　展示出版事業

展示出版事業は、文化財に関する調査・研究に基づく成果について刊行物を発行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供すること、及び研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 39 百万円です。その財源は、運営費交付金 1 億 34 百万円及び自己収入 5 百万円です。

カ　展覧事業

展覧事業は、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施すること、及び国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うことを目的としています。

事業に要した費用は 20 億 81 百万円です。その財源は、運営費交付金 13 億 43 百万円及び自己収入 7 億 38 百万円です。

キ　教育普及事業

教育普及事業は、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化への理解促進を図るための中心的拠点として相応しい事業を重点的に行うこと、及び教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努めることを目的としています。

事業に要した費用は 63 百万円です。その財源は、運営費交付金 29 百万円及び自己収入 34 百万円です。

ク 受託事業

受託事業は、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施することを目的としています。

事業に要した費用は 6 億 18 百万円です。その財源は、受託収入のみです。

以　上

Ⅴ　評価

1.文部科学省独立行政法人評価委員会評価(平成25年度)

独立行政法人国立文化財機構の平成25年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価　　**＜参考＞　業務の質の向上：A　業務運営の効率化：A　財務内容の改善：A**

①評価結果の総括

・事業実績に関しては、年度計画の目標値に達していないものが一部見られるが、大幅なかい離は見られず、おおむね中期目標を上回る業績を上げており、順調と評価できる。
・中期計画の半ばを過ぎて、今後も目標の達成に向けた積極的な取組の継続が望まれる。
・調査・展覧等業務の質を確保しつつ組織全体の業務の効率化も図り、とりわけ、東日本大震災復興に関わる支援事業への継続的取り組み、保存修復調査への先進的科学技術の応用などが評価できる。
・SNS・スマートフォンガイドアプリ・e国宝などIT発信モデルの拡充、多言語化・海外展等を通しての国際交流の進展、バリアフリーや託児サービス、資料レファレンスサービスなど多様なニーズと利便性への取り組みなど、顕著な実績と創意工夫及び努力が認められる。
・我が国の文化政策を推進するナショナルセンターとしての機能を十全に果たしていると評価できる。
・理事長のトップマネジメントの体制強化及び内部統制の強化も十分に対応されたと認められ、機構全体が取り組むべきリスクの把握がなされているが、適切な人員の確保については課題を残している。

②平成25年度の評価結果を踏まえた、事業計画及び業務運営等に関して取るべき方策（改善のポイント）

（1）事業計画に関する事項

・各館における特別展・平常展の個々について、展示内容と来館者数等の自己評価がなされているが、その結果を次年度以降の展示に如何に反映させるか、必ずしも明確に示されていない。展示の質を高め、来館者数を増加させるための重要な作業と思われる（項目別P.12～17、21、23参照）。
・平常展示の充実は、博物館として本来あるべき姿を追求するものであり、今後も創意工夫の元に一層の充実を図られたい。京都国立博物館の平常展示施設が開業されれば、さらなる進展が期待される。（項目別P.12～17、21参照）
・文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信に際して、分かりやすく親しみのもてる平常展の構築、e国宝やHPによる情報提供、SNS、ガイドアプリ等広い年代層へむけての各種広報などが行われ様々なニーズに応えているが、今後はさらに新たな入館者のシーズを掘り起こすような一層の創意工夫と、多言語化の推進が求められる。（項目別P.35～42参照）
・研究成果、保存修復の成果の公開は、学術分野においても重要だが、広く国民への還元という点で、わかりやすい広報の仕方も求められる。博物館における展示活動に加え、文化財レスキューといった支援事業の内容や文化財保存における科学的解析の成果利用の実績など、機構の活動の具体的な内容や社会的意義を広く国民に周知する取組が求められる。（項目別P.87～91参照）

（2）業務運営に関する事項

・収蔵品の整備と次代への継承を確実に進展させるため、適時適切な収集と十分な収蔵施設の確保、保存修理部門を充実することが求められる。（項目別P.124参照）
・友の会等の充実は自己収入確保の観点から重要であるが、これらの個人情報の漏えい等、顧客に対するセキュリティー強化を図られたい。（項目別P.128参照）
・一般管理費や人件費の削減は既に限界を超えつつあり、これ以上の予算圧迫は博物館業務に重大な影響を及ぼすおそれがある。我が国文化の地球規模での発信は、国際理解や相互交流に不可欠のはずであるが、現状ではこれ以上の展開は望めない。今後は自己収入を確保し、博物館・研究所業務のさらなる発展に努められたい。（項目別P.129～134参照）

（3）その他

・なし

③特記事項

・福島県旧警戒区域内における被災文化財のレスキュー事業では、被爆資料に関する情報の蓄積と分析を行い、その情報を広く公開して、将来的な大規模災害に備える情報基盤の整備を図り、ナショナル・センターとしての責務並びに地方公共団体への多大な貢献を遂行したとして高く評価したい。

全体－1

文部科学省独立行政法人評価委員会
文化分科会　国立文化財機構部会　名簿

＜正委員＞

永村　眞　　日本女子大学文学部教授

＜臨時委員＞

上原　真人　　京都大学大学院文学研究科教授

内田　篤呉　　（公財）岡田茂吉美術文化財団　ＭＯＡ美術館　館長

佐野　みどり　　学習院大学文学部哲学科教授

竹本　幹夫　　早稲田大学文学学術院教授

筑紫　みずえ　　株式会社グッドバンカー代表取締役社長

宮 島 博 和　　公認会計士

（以上７名）

独立行政法人国立文化財機構の平成25年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため	A	A	A			(中項目名)文化財保護に関する国際協力の推進	A	A	A		
(中項目名)歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	A	A	A			(小項目名)国際協力に関する研究基盤の整備	A	A	A		
(小項目名)収蔵品の収集	A	A	A			(小項目名)保存修復に関する技術移転の推進	A	A	A		
(小項目名)収蔵品の管理、保存	A	A	A			(小項目名)無形文化遺産保護の国際的充実	A	A	A		
(小項目名)収蔵品修理、保存処理	A	A	A			(中項目名)情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	A	A	A		
(中項目名)文化財を活用した歴史・ 伝統文化の国内外への発信	A	A	A			(小項目名)情報基盤の整備充実	A	A	A		
(小項目名)展示の充実	A	A	A			(小項目名)調査研究成果の公開・提供	A	A	A		
(小項目名)教育活動の充実	A	A	A			(小項目名)公開施設の運用	A	A	A		
(小項目名)快適な観覧環境の提供	A	A	A			(中項目名)地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A	A	A		
(小項目名)文化財情報の発信と広報の充実	A	A	A			(小項目名)地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築	A	A	A		
(中項目名)我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与	A	A	A			(小項目名)中核的文化財担当者の研修・若手研者の育成	A	A	A		
(小項目名)調査研究成果の発信	A	A	A			(大項目名)業務の効率化に関する目標を達成する	A	A	A		
(小項目名)海外研究者の招聘	S	A	A			(小項目名)業務の効率化	A	A	A		
(小項目名)博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施	A	A	A			(小項目名)給与水準の適正化等	A	A	A		
(小項目名)収蔵品貸与の推進	A	A	A			(小項目名)内部統制の充実・強化	A	A	A		
(小項目名)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言	A	A	A			(大項目名)財務・人事	A	A	A		
(中項目名)文化財に関する調査及び研究の推進	A	A	A			(小項目名)予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画	A	A	A		
(小項目名)調査研究の目的・内容の適切性／調査研究の実施状況／調査研究の成果の	A	A	A			(小項目名)人事計画に関する計画	A	A	A		

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

※「－」は当該年度では該当がないことを、「／」は終了した事業を表す。

備考(法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等)

総表－1

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)　　(単位:百万円)

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
収入						支出					
運営費交付金	8,367	8,192	7,941	7,366	8,392	運営事業費	10,454	11,010	8,952	8,856	9,730
施設整備費補助金	2,331	5,094	4,414	10,273	6,830	人件費	3,244	3,162	3,116	2,806	2,900
文化芸術情報電子化推進費補助金	548	136	－	－	－	一般管理費	1,066	932	917	681	607
文化芸術振興費補助金	－	－	－	－	5	業務経費	6,144	6,916	4,919	5,369	6,223
展示事業等収入	1,898	1,580	1,318	1,587	1,240	調査研究事業費	1,473	1,633	1,440	1,481	1,786
受託収入	525	518	507	634	625	情報公開事業費	144	127	147	201	161
その他寄附金等	139	143	241	200	172	研修事業費	17	18	16	18	13
						国際研究協力事業費	223	227	178	163	152
						展示出版事業費	163	150	196	213	151
						展覧事業費	4,050	4,672	2,846	3,229	3,896
						教育普及事業費	74	89	96	64	64
						施設整備費	2,212	5,094	4,414	10,273	6,830
						文化芸術情報電子化推進費	542	142	－	－	－
						文化芸術振興費	－	－	－	－	5
						受託事業費	492	507	512	620	611
計	13,808	15,663	14,421	20,060	17,264	計	13,700	16,753	13,878	19,749	17,176

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)
運営費交付金収入の増加は、当年度限りの京都国立博物館の展示制作費等の増加が主な要因である。
施設整備費(補助金)の減少は、京都国立博物館平常展示館建替工事のしゅん工により、大型工事が減少したことによるものである。
展示事業等収入の減少は、入場者減により入場料収入が前年度比1億40百万円減となったこと及び消費税が前年度は金261百万円の還付、今年度は13百万円の納付となったことが主な要因である。
人件費の増加は、退職手当の増加が主な要因である。
調査研究事業費の増加は、各施設での調査・研究用機器購入費の増加によるものである。
展示出版事業費の減少は、奈良文化財研究所創立60周年記念事業の終了によるものである。
展覧事業費の増加は、、京都国立博物館平常展示館展示制作費の増加が主な要因である。

参考－1

（単位：百万円）

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
費用						収益					
経常経費	9,700	9,703	8,908	8,746	9,257	運営費交付金収益	6,364	6,792	6,430	5,864	6,405
人件費	3,842	3,804	3,829	3,615	3,719	受託収入	554	586	522	634	625
一般管理費	1,128	852	839	596	712	入場料収入	1,322	892	808	814	674
業務経費	4,730	5,047	4,240	4,535	4,826	展示事業等附帯収入	370	383	305	324	344
調査研究業務費	1,393	1,192	871	1,018	1,081	財産利用収入	159	154	184	178	202
情報公開業務費	124	122	129	189	146	寄附金収益	123	122	138	144	159
研修業務費	17	17	16	17	13	施設費収益	143	216	82	83	275
国際研究協力業務費	222	225	171	155	150	その他補助金収益	376	98	－	－	15
展示出版業務費	179	144	179	183	139	資産見返負債戻入	418	517	470	506	560
展覧業務費	1,894	2,299	1,771	1,770	2,081	雑益等	18	84	7	273	21
教育普及業務費	68	87	96	62	64	臨時利益	347	11	2	42	27
受託業務費	484	505	511	616	610						
減価償却費	346	451	490	523	540						
雑損等	3	5	6	2	2						
臨時損失	349	12	2	55	25						
計	10,049	9,715	8,910	8,801	9,282	計	10,194	9,855	8,948	8,862	9,307
						純利益	145	141	38	61	26
						目的積立金取崩額	3	2	6	6	5
						総利益	148	143	44	67	31

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
人件費の増加は、退職手当の増加が主な要因である。
一般管理費の増加は、施設整備費財源による修繕等の増加が主な要因である。
調査研究業務費の増加は、京都国立博物館での調査研究用消耗品及び光熱水料、奈良文化財研究所での本庁舎発掘関連経費の増加が主な要因である。
運営費交付金収益の増加は、当年度限りの京都国立博物館の展示制作費等の増加が主な要因である。
臨時損失・臨時利益の減少は、固定資産の除却が減少したことによるものである。

（単位：百万円）

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	9,034	9,254	9,675	8,793	8,894	業務活動による収入	11,894	10,665	10,339	9,964	10,949
投資活動による支出	4,345	7,083	3,983	6,556	13,575	運営費交付金による収入	8,367	8,192	7,941	7,366	8,392
財務活動による支出	20	7	14	13	14	展示事業等による収入	3,527	2,473	2,398	2,598	2,557
翌年度への繰越金	4,158	3,581	5,098	8,462	5,193	投資活動による収入	2,320	5,102	4,850	8,762	8,265
						施設費による収入	2,320	5,102	4,349	8,762	8,065
						固定資産売却による収入	0	0	0	0	0
						有価証券の償還等による収入	0	0	501	0	200
						財務活動による収入	0	0	0	0	0
						前年度よりの繰越金	3,343	4,158	3,581	5,098	8,462
計	17,557	19,925	18,770	23,824	27,676	計	17,557	19,925	18,770	23,824	27,676

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
投資活動による支出の増加は、京都国立博物館平常展示館建替工事の平成24,25年度しゅん工分の支払いが平成25年度となったことが主な要因である。
財務活動による支出は、リース債務の支払によるものである。
運営費交付金による収入の増加は、当年度限りの京都国立博物館の展示制作費等の増加が主な要因である。
施設費による収入の減少は、京都国立博物館平常展示館建替工事のしゅん工により、大型工事が減少したことによるものである。
有価証券の償還等による収入は、大口定期預金の満期払い戻しによるものである。

【参考資料2】貸借対照表の経年比較（過去5年分を記載）　（単位：百万円）

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
資産						負債					
流動資産						流動負債					
現金・預金	4,158	3,581	5,098	8,662	5,393	運営費交付金債務	1,197	0	396	626	716
未収金	601	637	619	2,577	945	預り施設費	0	0	0	0	0
その他	32	526	26	48	84	預りその他補助金	6	0	0	0	0
固定資産						預り寄附金	144	86	192	202	185
有形固定資産						未払金	2,448	3,635	4,656	9,705	4,906
建物	42,143	45,582	42,938	55,806	58,269	未払費用	59	59	72	64	90
収蔵品	99,521	101,359	102,593	103,779	105,099	前受金	－	0	2	3	1
土地	44,411	44,411	44,411	44,411	44,411	預り金	229	101	172	347	178
その他	6,961	6,383	10,409	4,741	5,753	その他流動負債	4	5	4	4	1
無形固定資産											
ソフトウェア	144	165	142	124	98	固定負債					
電話加入権	5	5	4	4	4	資産見返負債					
投資その他資産	1	1	5	4	2	資産見返運営費交付金	2,038	2,429	2,410	2,538	3,202
						資産見返寄附金	106	177	156	127	108
						資産見返物品受贈額	99	90	77	64	38
						資産見返その他補助金	162	174	136	97	66
						建設仮勘定見返運営費交付金	126	143	173	75	11
						建設仮勘定見返施設費	2,963	2,383	6,715	1,579	155
						引当金					
						退職給付引当金	0	0	0	13	12
						その他の固定負債					
						長期未払金	39	34	28	25	78
						負債合計	9,620	9,316	15,189	15,469	9,747
						純資産					
						資本金	104,714	104,714	104,714	104,714	104,714
						資本剰余金	82,479	87,316	85,651	99,221	104,819
						利益剰余金	1,164	1,304	691	752	778
						（うち当期未処分利益）	148	143	44	67	31
						純資産合計	188,357	193,334	191,056	204,687	210,311
資産合計	197,977	202,650	206,245	220,156	220,058	負債資本合計	197,977	202,650	206,245	220,156	220,058

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
現金・預金、未収金及び未払金の減少は、京都国立博物館平常展示館建替工事等がしゅん工して支払いを完了したことから、文化庁からの施設整備費補助金の未収金及び未払金が同額減少したことが主な要因である。
建物の増加は、京都国立博物館平常展示館等がしゅん工したことが主な要因である。これに関連して固定資産・その他（建設仮勘定）及び建設仮勘定見返施設費がそれぞれ減少している。
運営費交付金債務の増加は、次年度への繰越の増加によるものである。

【参考資料3】利益（又は損失）の処分についての経年比較（過去5年分を記載）　（単位：百万円）

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
Ⅰ　当期未処分利益					
当期総利益	148	143	44	67	31
前期繰越欠損金	0	0	0	0	0
Ⅱ　利益処分額					
積立金	148	143	44	67	8
独立行政法人通則法第４４条第３項により					
主務大臣の承認を受けた額	0	0	0	0	23
業務拡充積立金	0	0	0	0	23
施設改修積立金	0	0	0	0	0

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
当期総利益の減少は、自己収入の減少及び予定外の退職手当の支出が主な要因である。なお、平成25年度利益処分額のうち業務拡充積立金23百万円については、主務大臣の承認を受けようとする額である。

【参考資料4】人員の増減の経年比較（過去5年分を記載）　（単位：人）

職種※	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
定年制研究職員	186	186	185	183	184
任期制研究系職員	7	10	5	6	4
再任用研究職職員	2	2	3	3	2
定年制事務職員	123	123	121	122	124
任期制事務職員	0	0	2	2	1
再任用事務職員	1	1	2	2	1
定年制技能・労務職員	20	19	19	19	18
任期制技能・労務職員	0	0	0	0	0
再任用技能・労務職員	3	0	0	0	1
指定職相当職員	3	3	3	3	4

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）

独立行政法人国立文化財機構の平成25年度に係る業務の実績に関する評価

【(大項目)1−1】	1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(中項目)1−1】	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整理と、次代への継承	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)1−1−1】	収蔵品の収集	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(1)−1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。

(東京国立博物館)

日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(京都国立博物館)

京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(奈良国立博物館)

仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(九州国立博物館)

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(1)−2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表

p1−p4 1−(1)−1 適時適切な収集

p5−p8 1−(1)−2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

・自己点検評価報告書 統計表

p1−p17 1−(1) 収蔵品

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	1,037	1,759	1,863	720	874	892
従事人員数(人)	99	103	105	100	99	99

※決算額は、4国立博物館の文化財購入費の決算額を計上している。

※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○購入、寄贈、寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成したか。

実績

主な実績

収蔵品 124,729 件、25 年度新収品 1,351 件(うち 購入 23 件、寄贈 513 件、編入 815 件) ※24 年度新収品 576 件

文化財購入費 8 億 9 千万円 ※24 年度 8 億 7 千万円(2 千万円増)

寄託品 11,486 件 ※24 年度 11,666 件(180 件減)

(参考)収蔵品件数

【収蔵品件数】	過去の実績に関する経年データ					25 年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24 年度	
東京国立博物館	112,529	112,776	113,258	113,897	114,362	115,653
京都国立博物館	6,417	6,526	6,584	6,621	6,708	6,721
奈良国立博物館	1,805	1,812	1,827	1,831	1,834	1,862
九州国立博物館	370	397	433	453	474	493
4 館合計	121,121	121,511	122,102	(*1) 122,802	123,378	124,729

(*1) 23 年度新収品 701 件のうち編入 1 件は東京国立博物館から九州国立博物館への管理換であるため、4 館合計の 23 年度収蔵品数は 22 年度比 700 件増。

(参考)寄託品件数

【寄託品件数】	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	2,750	2,734	2,726	2,689	2,563	2,519
京都国立博物館	5,907	5,957	6,005	6,013	5,914	5,892
奈良国立博物館	2,067	1,957	1,947	1,945	1,951	1,994
九州国立博物館	1,105	1,256	1,297	1,219	1,238	1,081
4 館合計	11,829	11,904	11,975	11,866	11,666	11,486

(目標値について)

収蔵品件数については、目標値を定めていない。文化財の購入は、各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見を踏まえて行っている。内外の関係者と連携を図り、迅速かつ的確な情報収集に努めているが、そもそも文化財購入は収集対象として適切な作品が市場に出るかどうかに影響されるため、定量評価になじまない。寄贈についても相手方の意向によるものであり、同様である。

寄託品件数は、各館の継続的な努力による所蔵者との良好な関係が前提であるが、最終的には

分析・評価

各館の役割を踏まえ、ナショナルセンターにふさわしい質の新収品を、内容的なバランスに配慮して収集し、確実な成果を得ている。

全体的に収蔵品は、微増の傾向にあり、購入は、著名な作品及び美術史的価値の高い資料が新規に収集され、今後の各館の特色をいかした展示活動が期待される。

寄贈品について、かつて所在不明であった文化財や評価の高い作品の新規受入れがあったことは評価できる。

近年社寺の収蔵庫・展示施設設備の進展に伴う寄託返却の一方で、継続的寄託や新規寄託の努力がなされて新規寄託が 154 件を数えるなど、寄託や寄贈に向けての働きかけも高く評価したい。

	作品をお預けいただく所蔵者の意向により決定するものであり、定量的評価になじまないため、23年度より目標値を定めていない。 **(参考)法人の自己評価** 25年度も展示や研究に活用できる文化財の収集に努め、編入を除き536件の新収品を得た(うち購入23件、寄贈513)。 主な購入品としては、「如意輪観音菩薩坐像」(東博)、「絹本著色弥勒菩薩来迎図」(奈良博)、「紙本著色病草紙断簡(痣のある女)」(九博)など、各館の特色を活かした効果的な収集を行っており、平常展の活性化や調査研究を行う上で、重要な役割を果たすことが期待される。京都国立博物館においては、平成知新館(新平常展示館)の開館に向けての展示器具の調達など、様々な準備業務に予算を重点配分したため、当初計画とは異なり、購入費の捻出ができなかった。なお同館では、次年度以降に購入すべき案件候補について、予算規模に合わせて柔軟に対応できるように選定作業を進めた。 寄贈については、個人収集家等へ積極的な働きかけを行った結果、513 件の文化財を新規に寄贈いただくことができた。東京国立博物館の寄贈品のうち、「源氏物語図屏風」は特徴的な作風を示しており、近世初期の風俗画や物語絵巻等を研究する上で貴重な資料である。京都国立博物館では、近代以降に所在が不明であった名物刀剣である「刀　無銘(名物島津正宗)」のほか、海北友松、谷文晁、田能村竹田をはじめとする著名な近世画家による美術史的価値の高い絵画など、計13 件の寄贈を受けた。 寄託については、25 年度は新規寄託 154 件、返却 334 件があり、寄託品総件数は 180 件減少したが、これは近年、寄託者である社寺等が、自ら収蔵庫・展示施設を整備される事例が増えている中で、継続的寄託及び新規寄託についての努力を継続した結果である。京都国立博物館の新規寄託品は、妙心寺所蔵の国宝「宗峰妙超墨蹟　印可状」、重文「関山慧玄墨蹟　印可状」、重文「花園法皇像　後花園上皇賛」をはじめ、多数の指定文化財が含まれている。天球院の重文・狩野山楽・山雪筆「朝顔図襖」「竹虎図襖」の京都国立博物館への寄託は、寺坊でデジタル複製の襖に入れ替えての原図保存のためであり、博物館が担うべき文化財保存の役割にかなっている。また、寄託品返却件数には、その後寄贈を受けたものも含まれる。 以上のような購入・寄贈・寄託により、全体としてコレクションの体系的・通史的バランスをより良いものにすることができたと考えている。京都国立博物館において文化財購入を行わなかったことは、平成知新館(新平常展示館)の開館という重要な事業のために、限られた資源を重点配分するという経営判断によるものである。次年度以降も国立博物館としてのナショナルセンターの役割に相応しい収集を実施していきたい。	

【(小項目)1－1－2】　収蔵品の管理・保存

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(2)－1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(2)－2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p9-p12　1-(2)-1 収蔵品の管理・保存
p13-p16　1-(2)-2 施設の環境整備

・自己点検評価報告書　統計表
p18-p19　1-(2) 収蔵品の管理・保存

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	2,106	2,212	5，094	4，414	10，273	6，830
従事人員数(人)	109	115	115	111	110	110

※決算額は、決算報告書・施設整備費補助金の決算額を計上している。(管理・保存にかかる光熱水料や、調査にかかる事務費は個別に計上できないため、勘案していない。)
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員及び常勤施設系職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○収蔵品の写真・管理データを蓄積することにより、収蔵品の保存・管理の徹底に努めたか。	**(2)－1 収蔵品の管理・保存** **主な実績** ・本格修理等における列品調査時、応急修理時(対症修理時)、列品貸与の点検時に保存カルテを作成し、保存・蓄積した。(各館) ・平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。(東博) ・24年度に作成した寄託者向けリーフレットを新規寄託受け入れ時に寄託者に手渡しし、引き続き制度への理解を深めてもらうように努めた。(京博) ・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたA～Eの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。(奈良博) ・収蔵品・展示品を中心にX線CTスキャナ・3Dデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果をデータ化するとともに、3Dプリンタで	収蔵品の整備と次世代への継承として、各館ともに保存カルテの作成と蓄積が順調に進められ、充実が図られた。 博物館における科学調査において先導的役割を果たしている九州国立博物館に加え、東京国立博物館や京都国立博物館においてもX線CTスキャナーや3Dデジタイザー等を導入し、科学的調査の成果を保存カルテ・保存管理・修理・展示に反映したことは評価できる。 環境整備は、免震化工事・防災及びバリアフリー化工事を進展させた。防虫対策、

出力した。このデジタルデータは文化財の保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。（九博）

（参考）保存カルテ作成件数

【保存カルテ作成件数】	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	(2,693)	(1,989)	(2,368)	(1,641) 1,187	1,594	1,492
京都国立博物館	174	214	108	249	215	253
奈良国立博物館	108	114	218	130	127	120
九州国立博物館	289	205	101	107	91	94
4館合計	3,264	2,522	2,795	1,673	2,027	1,959

※（ ）内は、計数方法が異なるため参考数。22 年度まで東京国立博物館では、収蔵品及び寄託品に加えて特別展等の借用品における応急修理時の保存カルテ作成分を含めていたが、23 年度より他館と統一のため含めない計数方法とした。

（目標値について）
保存カルテ作成件数については、列品貸与件数の影響が大きく、外的要因に左右され目標値設定になじまないため、23年度より定量的な目標は定めていない。

（参考）法人の自己評価

25年度保存カルテ作成件数の前年度比は、4館計で68件減であり、各館ともほぼ前年同様の件数であった。列品貸与時、本格修理時、応急修理時のそれぞれで保存カルテ作成は順調に行われている。保存カルテデータの収蔵品管理システムとの連携については、東京国立博物館では24年度にシステム改修を行い対応済みであり、奈良国立博物館では前年に引き続き25年度も準備を進めた。

東京国立博物館において、20年度から25年度までの5ヵ年で計画していた列品情報整備事業については、予定通り実施することができた。今後は収蔵品情報調査として継続して実施していく予定である。

九州国立博物館で使用している科学調査機器については、文化財用のX線CTとして世界的に最も優れた装置の一つとして、内外で高く評価されている。測定により得られた三次元データは、文化財の適切な保存や調査研究に役立てるとともに、3Dプリンタでの出力を展示に反映した。X線CTスキャナや三次元計測装置を活用した外部機関との共同調査も多数実施しており、成果をあげている。

無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムの運用、空気汚染状況の調査・対策などにより、収蔵庫及び展示室内の環境維持が図られた。東京国立博物館の企画展に出品する古墳壁画を、奈良から安全に輸送するための事前調査が行われ、環境管理の精度を高めたことも評価できる。

○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施したか。

（2）－2　施設の環境整備

主な実績

・本館リニューアルに向けて、1 階展示室、エレベーター、地下トイレ等の改修工事を実施した。（東博）
・黒田記念館の障がい者用エレベーター、段差解消機及び多目的トイレ設置の改修工事を含めた耐震補強改修及び書庫棟傾き補修等の工事を24年度に引き続き実施し、25年7月に完了した。（東博）
・クリーブランド美術館への国際輸送中に梱包箱内で発生する振動･衝撃の計測を実施した。また、特別展「キトラ古墳壁画」出品作品について梱包・輸送及び陳列方法についての事前調査を行い、輸送を含めた環境管理の精度を高めた。（東博）
・24年度に本体工事が完了した平成知新館（新平常展示館）において25年8月に展示ケース工事などが完了、引渡を受けた。（京博）
・平成知新館（新平常展示館）では、空気環境を調査し、東文研基準の展示収蔵環境を整えるための枯らし運転を行った。（京博）
・明治古都館(特別展示館)免震補強ほかの準備として、委託業者を決定し、詳細な建物調査を実施した。また、保存活用計画報告書の原案を作成した。（京博）
・彫刻品を収める収蔵庫2室について、室内の床を免震化する改修工事を実施した。（奈良博）
・防災設備等の改修として、収蔵庫ガス消火設備工事、防犯設備工事（センサー・監視カメラ）、発電機設備工事を 24 年度に引き続き実施し、25 年度末に完了した。（奈良博）
・展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。（奈良博）
・環境データを解析することで、安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。（九博）

（参考）法人の自己評価

耐震補強工事のため建替工事を行った京都国立博物館の平成知新館（新平常展示館）は、25年度は展示ケース工事などの展示環境整備を行い、26年9月の開館予定に向けた準備を進めた。奈良国立博物館では、彫刻品を収める収蔵庫の、床の免震化工事を実施した。

このほか、東京国立博物館黒田記念館の耐震補強改修工事、奈良国立博物館の防災設備等改修についても24年度に引き続き実施し、それぞれ25年度内に完了した。地震対策をはじめ各種災害対応について、機構全体として順調に進行している。

また、東京国立博物館表慶館のバリアフリー化改修工事についても24年度に引き続いて実施し、25年度内に完了した。快適な観覧環境の提供、建物の有効活用が期待される。

	生物生息・温湿度等の環境管理については、各博物館でIPM（総合的有害生物管理）活動の実践として防虫対策に取り組んでおり、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムの運用、空気汚染状況の調査・対策などにより、収蔵庫及び展示室内の環境維持について、万全の体制を図っている。	

【（小項目）1－1－3】 収蔵品修理、保存処理

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】
（3）－1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。
（3）－2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。
（3）－3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p17-p24 1-(3)-1 収蔵品の修理
p25 1-(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実
p26 1-(3)-3 収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討
p687 Ⅳ-1 施設・設備に関する計画

・自己点検評価報告書 統計表
p20-p41 1-(3) 収蔵品の修理

【インプット指標】

（中期目標期間）	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額（百万円）	126	158	187	140	144	145
従事人数（人）	51	50	50	48	47	46

※決算額は、文化財修理を外注した決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施したか。	**主な実績** ・計画的な文化財の本格修理を実施した。（133件 ※24年度137件） ・紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てた。（4館） ・修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てた。（4館） ・文化財修理の適正化を図るため修理契約委員会を 21 年度に設置し、以降も引き続き同委員会を開催し、契約形態の審議を行っている。（4館） ・紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために408件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから93件の本格修理を実施した。うち国宝2件、重要文化財3件、未指定品2件は寄附金による本格修理である。（東博） ・大型垂直式X線CTスキャナー、大型水平式X線CTスキャナー、微小部X線CTスキャナーなど3機種を導入し、試験運用を開始した。（東博） ・国宝「鷹見泉石像」(江戸時代)、坪内老大人画稿(江戸時代)、坪内老大人像(江戸時代)はバンク・オブ・アメリカからの寄付金により修理を開始した。（東博） ・館費による修理に加えて、外部資金として財団の修理助成による修理を2件、昨年度より継続して実施した。（京博） ・平成知新館(新平常展示館)に科学調査室及びX線撮影室を設けた。（京博） ・文化財用マイクロフォーカスX線CTシステム、非接触3次元デジタイザ等の機器を調達した。（京博） ・寄託品2件について当館の推薦による財団助成を受けて修理を実施した。（奈良博） ・館内の修復施設にて、目白漆芸文化財研究所による「朱漆花鳥草樹螺鈿二層」修理など、館所蔵品等の修理を実施した。（九博）	四館全てで本格修理が計画的に実施されており、外部資金の活用も評価できる。また東京国立博物館で館内の応急（対症）修理によって作品の劣化予防（予防保全）が図られ、展示への活用が拡大していることも評価できる。最新の分析機器が導入され文化財用大型X線CTスキャナ等も本格的運用の準備が進められており、これら最新機器の活用、効果が期待される。 重要文化財・国宝等の修理を行うための拠点としての文化財修理所の整備・充実が進められている。 収蔵スペースの拡大・効率化と、その温湿度環境の向上を図るため、現状の計測データの蓄積と、断熱材の強化など具体的な改善策が実施された。
○文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行ったか。	・京都国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、空調機内の中性能フィルターを一部の空調機で交換した。（京博） ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の消火設備を現状のスプリンクラー設備に換えて、火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を設置した。（奈良博） ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の防犯センサーを更新するとともに監視カメラを新たに設置した。（奈良博） ・九州国立博物館の保存修復施設について、室内温湿度環境の改善の検討を行った。（九博）	
○計画的な収蔵スペースの確保が図られたか。	・東洋館の各収蔵庫について適切な配置を検討し、より効率的に収納が可能となるように収蔵品を移動した。（東博）	

・東洋館3階の収蔵庫の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。（東博）
・資料館3階の収蔵庫に棚を追加し、収納の効率化を図った。（東博）
・温湿度などの計測情報を常時監視でき、同時にサーバーにて一元的に管理・蓄積できる「環境モニタリングシステム」の、平成知新館（新平常展示館）での運用について精査し、設計変更や運用方法に反映させ、導入した。（京博）
・平常展示館内のフィルム保管室の温湿度環境について、設定温湿度、空調時間、運用方法等の検討を行った。（京博）
・火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を収蔵庫・一時保管庫に設置した。（奈良博）
・既存の収蔵棚を改造し、より効率的な収納を図った。（奈良博）
・収蔵庫内壁の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。（奈良博）

【修理件数（本格修理）】指標：年度計画
※定量的評価の目標値を設定しているものについては、実績が目標値の1.5倍以上をあげた場合「S」とした。

東京国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
40 件以上	28 件以上 40 件未満	28 件未満	93 件	S

京都国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
10 件以上	7 件以上 10 件未満	7 件未満	15 件	S

奈良国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
9 件以上	7 件以上 9 件未満	7 件未満	8 件	B

九州国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
15 件以上	11 件以上 15 件未満	11 件未満	17 件	A

（目標値について）
　修理件数（本格修理）の目標値は、各館の長期的な修理計画及び年度計画策定時点で確定している当年度の修理予算等により、設定している。

【修理件数（本格修理）】	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	75	106	139	106	95	93
京都国立博物館	17	5	9	10	13	15
奈良国立博物館	8	11	9	11	9	8
九州国立博物館	25	24	19	19	20	17
4 館合計	125	146	176	146	137	133

（参考）法人の自己評価
　定量的な目標を定めている本格修理件数については、奈良国立博物館のみ目標値を1件下回ったものの、他3館は目標に達しており、4館全体では本格修理は計画的に実施されている。特に、東京国立博物館と京都国立博物館で本格修理件数が目標値を大幅に上回っている要因は、寄附金や助成金などの外部資金による収蔵品の修理を継続して実施できていることによるものである。
　なお、東京国立博物館では、館内の応急（対症）修理を多数実施することにより、作品の劣化予防（予防保全）を充実させるとともに、作品の展示への活用を可能とし、大きな効果をあげている。
　また、上記の定量評価項目は収蔵品の本格修理件数であり、寄託品は除外しているが、奈良国立博物館では、寄託継続を図る必要性の高い寄託品について、財団から奈良国立博物館推薦による助成を受けての修理を、25年度は2件実施している（25年度新規：1件、23年度から3ヵ年継続事業の最終年度：1件）。科学的な技術を取り入れた修理については、4館とも継続して行っており、特に九州国立博物館では各種最新の分析機器を備えた博物館内に修復施設が設置されている特色が生かされている。東京国立博物館では文化財用としては世界最大級の大型X線CTスキャナーなど3機種を導入、京都国立博物館でも文化財用マイクロフォーカスX線CTシステム等を調達し、今後の本格運用に向けて準備を進めている。
　文化財保存修理所については、規程に基づいて供用及び運営を行っており、またその整備・充実に努めた。
　収蔵スペースの確保については、奈良国立博物館での収蔵庫改修工事に伴う物品の移動等もある中、安全性を確保しつつ限られた空間を有効活用しており、各館とも計画的な収蔵スペースの確保に努めている。

【(中項目)1－2】	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)1－2－1】 展示の充実

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①－1 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26 年度までに開催する。

①－2 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

(東京国立博物館)年3～4回程度
(京都国立博物館)年2～3回程度
(奈良国立博物館)年2～3回程度
(九州国立博物館)年2～3回程度

③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p27-p31 2-(1)-①-1 平常展
p32 2-(1)-①-2 展示説明の充実
p33-p50 2-(1)-② 特別展
p51-p52 2-(1)-③ 海外展

・自己点検評価報告書 統計表
p42 2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置
p113 共通資料 a-①来館者数推移(入館料別)(過去5ヵ年)
p114 共通資料 a-②来館者数推移(展覧会別)(過去5ヵ年)
p116 共通資料 a-③入場料収入
p117 共通資料 a-④平常展・特別展・海外展
p211 共通資料 e 平成 25 年度平常展・特別展アンケート結果

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	894	980	1，086	854	1，770	2，081
従事人員数(人)	99	103	105	100	99	99

※決算額は、展覧事業費に要したディスプレイ費・印刷製本費・旅費・謝金・消耗品費等の損益計算書上の費用額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとしたか。また、観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫したか。

(平常展)
○展覧事業の中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示としたか。

○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付したか。また、海外からの来館者向けに、展示テーマご

実績

主な実績

25年度国立博物館来館者数 合計266万0,010人 ※24年度 334万7,505人(約68万7千人、20.5%減)

■25 年度 博物館の年間総来館者数等

	総来館者数	平常展		特別展・共催展	
		来館者数	特集陳列件数	来館者数	開催回数
東京国立博物館	1,322,288 人	484,429 人	33件	837,859 人	8回(1回)
京都国立博物館	148,429 人	－人	－件	148,429 人	3回
奈良国立博物館	461,690 人	122,075 人	10件	339,615 人	3回
九州国立博物館	727,603 人	349,848 人	14件	377,755 人	5回(1回)
4博物館 合計	2,660,010 人	956,352 人	57件	1,703,658 人	19回(2回)

※来館者数は年度集計(25年4月1日～26年3月31日)であり、複数年度にかかる特別展は、当年度分のみ集計している。
※東博平常展来館者数は、黒田記念館を含む。
※開催回数の( )内は、海外展(東博 1 回、九博 1 回)で内数。(来館者数は除く。)

①平常展(来館者数 95万6,352人) ※24年度 102万2,869人(約6万7千人、6.5%減)

・総合文化展(平常展)は、平成25年度においては、本館1階は26年4月のリニューアルオープンに向け、26年1月～26年3月まで本館15～19室を工事のため閉室した。(東博)
・黒田記念館は、耐震改修のため24年4月8日より休館中。27年1月2日より展示を再開する予定。(東博)
・平成知新館(新平常展示館)建替工事に伴い、平常展示を休止した。そのため、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をウェブサイトで公開した。(京博)
・収蔵庫の工事期間中、東新館を仮収蔵庫としたため、例年東新館で開催していた特別陳列を25年

分析・評価

研究活動に基づく学術的意義の高い企画が、展示によく調和され、観覧者にとって理解しやすい解説を示す取組も行われている。

平常展については、一部目標に達していないが、おおむね達成している。目標に達していない原因分析も行われている。来館者数が昨年より減少しており、改善策が求められる。各館ともに展示件数の増加を図り、トピック展示等、特別展とは異なる工夫がなされ、新たな視点の掘り起こしや親しみやすく分かりやすい展覧構想が実現された。

展示説明は、各館とも英文表記の目標80%以上を達成し、特に東京国立博物館では平常展の外国語パネルの設置について、100%を達成した。

特別展の開催回数は、目標値を上回って達成し、入館者数も一部の展覧会で目標に達していないが、各館合計で目標入館者数を上回っている。各館において個性的な企画展示を実施しており、その積極的な取り組みは、一定の成果を得たと評価できる。特に九州国立博物館開催の特別展は注目すべき来館者数を得た。

とに外国語の解説パネル等を80%以上設置したか。	度は西新館で行い、西新館の名品展を休止した。(奈良博) ・所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、特別公開「金剛寺　降三世明王坐像」、特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」を前年度に引き続き実施した。(奈良博) ・25年8月5日の大雨による雨漏り被害の補修工事期間中は、なら仏像館の一部の展示室を閉室した。(奈良博) ・トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化－ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館のコレクションより－」(関連9・10・11室　25年12月10日～26年2月16日)など、独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を14回開催し、新鮮な展示を提供することができた。(九博) 【平常展来館者数】指標:年度計画(22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す) 東京国立博物館(362,470人)	来館者分析としてアンケート調査を適宜実施し、その成果をウェブサイトの対応と情報発信、託児サービス導入に反映するなど、来館者サービスの向上が図られている。 海外展は、好評で会期を延長した中国・上海博物館での「青山杉雨のコレクションと書」、ベトナムでの初の体系的日本文化の展示となる文化庁主催「日本文化展」の二つであるが、いずれも意義深い展覧事業として注目される。

A	B	C	実績	定量的評価
362,470人以上	253,729人以上 362,470人未満	253,729人未満	484,429人	A

京都国立博物館(－)

A	B	C	実績	定量的評価
－	－	－	－	－

奈良国立博物館(118,032人)

A	B	C	実績	定量的評価
118,032人以上	82,623人以上 118,032人未満	82,623人未満	122,075人	A

九州国立博物館(380,690人)

A	B	C	実績	定量的評価
380,690人以上	266,483人以上 380,690人未満	266,483人未満	349,848人	B

(目標値について)
　平常展来館者数は、22年度まで目標値を定めていなかったが、23年度より前中期計画期間の年度平均の確保を目標としている。京都国立博物館では平常展を休止しているため、目標値を設定していない。

【平常展来館者数】	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	412,675	330,536	373,068	324,597	416,430	484,429
京都国立博物館	141,965	－	－	－	－	－
奈良国立博物館	112,849	136,672	71,566	130,839	145,914	122,075
九州国立博物館	241,423	544,661	274,545	358,366	460,525	349,848
4館合計	908,912	1,011,869	719,179	813,802	1,022,869	956,352

※東京国立博物館平常展来館者数は、23年度より黒田記念館を含む。

【平常展　陳列替件数】指標:年度計画
東京国立博物館(5,800件程度)

A	B	C	実績	定量的評価
5,800件以上	4,060件以上 5,800件未満	4,060件未満	5,708件	B

京都国立博物館(－)

A	B	C	実績	定量的評価
－	－	－	－	－

奈良国立博物館(70件程度)

A	B	C	実績	定量的評価
70件以上	49件以上 70件件未満	49件未満	130件	S

九州国立博物館(1,100件程度)

A	B	C	実績	定量的評価
1,100件以上	770件以上 1,100件未満	770件未満	1,157件	A

(目標値について)
　平常展陳列替件数は、各館毎に当年度の平常展展示計画に基づき目標値を設定している。
　東京国立博物館における目標値5,800件について、昨年度目標値から増の要因は、24年度は東洋館が25年1月開館以降の3ヶ月間のみの展示であったのに対し、25年度は通年で公開していることによるものである。また、本館1階のリニューアルに伴う一部閉室については、年度当初に予定していなかった閉室であるため、目標値には通年公開として計上している。(24年度東博目標値4,500件)
　京都国立博物館では平常展を休止しているため、目標値を設定していない。
　奈良国立博物館における目標値70件について、昨年度目標値から減の要因は、収蔵庫の改修のため、一部の展示室が仮収蔵庫となって展示に供し得ないので、名品展の回数が少なくなることに

よるものである。また、当該期間は仏像館が展示の中心となり、比較的大きな展示品が多いため、数字上は大幅な減となっている。(24年度奈良博目標値400件)

【平常展　陳列替件数】(件)	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	(319)	(316)	(290)	4,914	6,989	5,708
京都国立博物館	(39)	―	―	―	―	―
奈良国立博物館	(12)	(8)	(101)	481	465	130
九州国立博物館	(386)	(431)	(334)	1,373	1,195	1,157

※(　)内は、計数方法が異なるため参考数

【平常展　陳列総件数】指標:年度計画
東京国立博物館(7,500件程度)

A	B	C	実績	定量的評価
7,500件以上	5,250件以上 7,500件未満	5,250件未満	8,824件	A

京都国立博物館(ー)

A	B	C	実績	定量的評価
―	―	―	―	―

奈良国立博物館(500件程度)

A	B	C	実績	定量的評価
500件以上	350件以上 500件未満	350件未満	632件	A

九州国立博物館(1,700件程度)

A	B	C	実績	定量的評価
1,700件以上	1,190件以上 1,700件未満	1,190件未満	2,750件	S

(目標値について)
　平常展陳列総件数は、各館毎に当年度の平常展展示計画に基づき目標値を設定している。
　東京国立博物館における目標値7,500件について、昨年度目標値から増の要因は、24年度は東洋館が25年1月開館以降の3ヶ月間のみの展示であったのに対し、25年度は通年で公開していることによるものである。また、本館1階のリニューアルに伴う一部閉室については、年度当初に予定していなかった閉室であるため、目標値には通年公開として計上している。(24年度東博目標値6,500件)

　京都国立博物館では平常展を休止しているため、目標値を設定していない。
奈良国立博物館における目標値500件について、昨年度目標値から減の要因は、収蔵庫の改修のため、一部の展示室が仮収蔵庫となって展示に供し得ないので、名品展の回数が少なくなることによるものである。(24年度奈良博目標値700件)

【平常展　陳列総数】(件)	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	7,172	6,601	5,610	7,394	9,190	8,824
京都国立博物館	1,081	―	―	―	―	―
奈良国立博物館	605	717	340	1,092	814	632
九州国立博物館	3,146	2,106	1,668	2,417	2,416	2,750

【平常展外国語パネルの設置率】指標:中期計画
東京国立博物館(80%以上)

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	100%	A

京都国立博物館(ー)

A	B	C	実績	定量的評価
―	―	―	―	―

奈良国立博物館(80%以上)

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	91%	A

九州国立博物館(80%以上)

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	85%	A

(目標値について)
　平常展外国語パネルの設置率は、中期計画にて目標値を設定している。京都国立博物館では平常展を休止しているため、目標値を設定していない。

【外国語パネルの設置率】	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	

東京国立博物館	97%	97%	96%	96%	97%	100%
京都国立博物館	100%	―	―	―	―	―
奈良国立博物館	77%	91%	84%	89%	100%	91%
九州国立博物館	82%	82%	83%	94%	87%	85%

（特別展）
〇我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示としたか。また、個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成したか。さらに展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ったか。
・東京国立博物館　3～4回
・京都国立博物館　2～3回
・奈良国立博物館　2～3回
・九州国立博物館　2～3回

②特別展（来館者数　170万3,658人）　※24年度　232万4,636人（約62万人、26.7%減）
【特別展　開催回数】指標：中期計画
※定量的評価の目標値に幅を持たせて設定している場合の定量評価は、AかBかの判定及びBかCかの判定については目標値幅の下限を使用し、SかAかの判定については目標値幅の上限を使用している。例えば、目標値2～3回の場合の判定は、実績値1回：C、2回：A、3回：A、4回：A、5回：S となる。
東京国立博物館（3～4回）

A	B	C	実績	定量的評価
3回以上	―	3回未満	8回	S

京都国立博物館（2～3回）

A	B	C	実績	定量的評価
2回以上	―	2回未満	3回	A

奈良国立博物館（2～3回）

A	B	C	実績	定量的評価
2回以上	―	2回未満	3回	A

九州国立博物館（2～3回）

A	B	C	実績	定量的評価
2回以上	―	2回未満	5回	S

※海外展を含む。
（目標値について）
特別展開催回数は、中期計画にて目標値を設定している。

【特別展　開催回数】（回）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	8(1)	12(4)	10(6)	7(□)	9(2)	8(1)
京都国立博物館	3	5(1)	5(1)	6(2)	5	3
奈良国立博物館	4	3	4	3	3	3
九州国立博物館	4	4	5(1)	5(1)	4	5(1)
4館合計	19(1)	24(5)	24(8)	21(4)	21(2)	19(2)

※（ ）内は海外展で、内数。

【特別展　来館者数】指標：年度計画
東京国立博物館（目標合計：91万5,000人）
「国宝　大神社展」(25.4.9～6.2　49日間)

A	B	C	実績	定量的評価
250,000人以上	175,000人以上 250,000人未満	175,000人未満	193,990人	B

特別展「和様の書」(25.7.13～9.8　51日間)

A	B	C	実績	定量的評価
130,000人以上	91,000人以上 130,000人未満	91,000人未満	104,577人	B

日本テレビ開局60年　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」(25.10.8～12.1　48日間)

A	B	C	実績	定量的評価
250,000人以上	175,000人以上 250,000人未満	175,000人未満	278,801人	A

東洋館リニューアルオープン記念　特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」(25.10.1～11.24　48日間)

A	B	C	実績	定量的評価
45,000人以上	31,500人以上 45,000人未満	31,500人未満	62,378人	A

「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」(26.1.15～2.23　35日間)

A	B	C	実績	定量的評価
120,000人以上	84,000人以上 120,000人未満	84,000人未満	104,865人	B

日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」(26.1.15～2.23　35日間)

A	B	C	実績	定量的評価
120,000人以上	84,000人以上 120,000人未満	84,000人未満	112,960人	B

（参考）年度計画外に実施
特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」(26.2.11～3.23　36日間)
この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。
参考値：56,342人（開催期間中の平常展来館者数）
ただし特別展開催回数に含む。

京都国立博物館（目標合計：17万人）

特別展覧会「狩野山楽・山雪」(25.3.30～5.12　39日間)

A	B	C	実績	定量的評価
100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	90,242人	B

特別展観「遊び」(25.7.13～8.25　38日間)

A	B	C	実績	定量的評価
35,000人以上	24,500人以上 35,000人未満	24,500人未満	23,659人	C

特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」(25.10.12～12.15　55日間)

A	B	C	実績	定量的評価
35,00人以上	24,500人以上 35,000人未満	24,500人未満	38,929人	A

奈良国立博物館（目標合計：27万人）

當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」(25.4.6～6.2　51日間)

A	B	C	実績	定量的評価
40,000人以上	28,000人以上 40,000人未満	28,000人未満	54,114人	A

特別展「みほとけのかたち　－仏像に会う－」(25.7.20～9.16　52日間)

A	B	C	実績	定量的評価
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	39,232人	B

特別展「第65回正倉院展」(25.10.26～11.11　17日間)

A	B	C	実績	定量的評価
180,000人以上	126,000人以上 180,000人未満	126,000人未満	246,269人	A

九州国立博物館（目標合計：20万人）

特別展「大ベトナム展」(25.4.16～6.9　49日間)

A	B	C	実績	定量的評価
30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	71,192人	S

特別展「中国　王朝の至宝」(25.7.9～9.16　62日間)

A	B	C	実績	定量的評価
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	77,554人	S

特別展「尾張徳川家の至宝」(25.10.12～12.8　50日間)

A	B	C	実績	定量的評価
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	139,448人	S

「国宝　大神社展」(26.1.15～3.9　47日間)

A	B	C	実績	定量的評価
70,000人以上	49,000人以上 70,000人未満	49,000人未満	89,561人	A

（目標値について）
　特別展来館者数の目標値については、各館とも、開催日数、開催時期、展示会場、展覧会名称、展示品分野、出品作品、共催者、その他要因を総合的に勘案して、特別展ごとに設定している。

（海外展）
〇海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介したか。

③海外展　2件　※総来館者数に含めない（開催回数に含む）
・海外展「青山杉雨のコレクションと書」（25.4.20～7.2　73日間　会場：上海博物館）
　主催：上海博物館、東京国立博物館、読売新聞社
　特別協力：謙慎書道会
　来館者数：346,298人
・文化庁主催海外展「日本文化展」（26.1.16～3.9　51日間　会場：ベトナム国立歴史博物館）
　主催：文化庁、九州国立博物館・福岡県、ベトナム国歴史博物館
　来館者数：約30,000人

（参考）法人の自己評価

25年度における国立博物館への総来館者数は、266万10人を数え、前年度比約69万人減（20.5%減）であった。

（平常展）

平常展来館者数については、25年度は4館合計の平常展来館者数は95万6,352人となり、前年度比約6万7千人減（6.5%減）となった。東京国立博物館と奈良国立博物館は目標値を達成することができ、九州国立博物館は目標値の9割を確保している。東京国立博物館の平常展来館者は前年度比6万8千人増であり、東洋館リニューアルオープン記念　特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」（25.10.1～11.24、東洋館8室）が平常展料金であるため平常展来館者数に計上していること、また、特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」（26.2.11～3.23、本館7室）が、会場が平常展の一部であり、平常展活性化に繋がったことが一因として挙げられる。九州国立博物館での平常展来館者数減の要因は、特別展のチケットに平常展の半券を付けて観覧できるようにしているが、特別展の来館者数が少なかったため、平常展と特別展を同時に観覧する来館者数が少なかったことによるものと考えられる。

陳列替件数と陳列総件数については、東京国立博物館の陳列替件数を除き、目標値を達成できた。東京国立博物館の陳列替件数が目標値に達しなかった要因は、本館1階のリニューアルに伴う一部閉室（15～19室、26年1月～3月）が、年度当初に予定していなかったリニューアルであったが、目標値算出時に通年公開を前提としていたことによるものである。

特集陳列の実施回数について、東京国立博物館の実績33件が、前年度比では減であるが、これは24年度が東京国立博物館140周年にあたり、その関連事業として多数の特集陳列を行っていたことによるものである。（24年度47件）。

平常展の内容については、東京国立博物館では、「博物館に初もうで」「博物館でお花見を」「秋の特別公開」など、季節に応じた企画を毎年恒例として継続して実施しており、定着してきている。そのほか、奈良国立博物館における社寺の改修等によりお預かりしている仏像の特別公開や、九州国立博物館におけるトピック展示など、各館の特色を生かした展示を行った。各館それぞれが多様な研究成果を基に、国立博物館として質・量ともに充分な展示を行っている。京都国立博物館は、平成知新館（新平常展示館）建替工事に伴い平常展示を休止しており、平成26年9月の開館に向け、準備作業は順調に進んでいる。

展示説明においては、全作品のキャプションに英語訳を付している。また、展示テーマ毎の外国語パネルの設置についても、英語については各館とも目標（80%以上）を達成している。更に、中国語・韓国語での解説パネルの設置も進んでおり、東京国立博物館で52%、九州国立博物館で70%の展示テーマ解説が4言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）されるなど、多言語による対応に努めている。（24年度：東博46%、九博57%）

（特別展）

特別展開催回数については、4館とも目標回数を上回り、国民のニーズに応じた、また各館の特

色を生かしつつ学術的意義の高い特別展を多数開した。特に東京国立博物館では、平成館を会場とした特別展以外に、本館や東洋館などの平常展展示館の一部を会場とした特別展も開催した。また、特別展開催回数は、海外展2回を含めたものである。

特別展来館者数については、博物館4館の合計は170万3,658人となり、前年度比約62万人減（26.7%減）となった。特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」（東博）が27万9千人、「第65回正倉院展」（奈良博）が24万6千人など、多数の来館者数を集めた特別展があった一方で、来館者数の定量的評価がB以下となった特別展が、東京国立博物館で4本、京都国立博物館2本、奈良国立博物館1本と、計7本となった。これは、25年度の特別展ラインナップが、特別展「和様の書」（東博）や特別展覧会「狩野山楽・山雪」（京博）、特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」（京博）など、研究成果の公開として開催された展覧会が多く、専門家、愛好家などからの評価は高かったものの、一般層の出足が鈍かったものと推察される。

東京国立博物館の特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」では、展示会場内に「龍安寺石庭」の4K超高精細映像のコーナーを設け、話題となった。特別展「国宝　大神社展」は、来館者数は目標に達しなかったが、これまで容易には実現できなかったほどの大規模かつ質の高い神道美術展であり、今後の神道美術の調査研究にとって、大きな意味を持つ展覧会となった。特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」は、年度計画策定時には予定していなかった特別展であるが、支倉常長がにヨーロッパに向けて出向した慶長18年(1613)から400年目にあたる節目に開催することができた。

京都国立博物館の特別展覧会「狩野山楽・山雪」は、来館者数については目標達成率90%であったものの、ほとんどの来館者について1点1点の鑑賞時間が予想より長く、アンケートによる満足度は95%と極めて高い結果となった。

奈良国立博物館の特別展「みほとけのかたち－仏像に会う－」は、展示構成やディスプレイなどの工夫により、初心者にも分かりやすいと好評を得、アンケートによる満足度は93%に達した。

九州国立博物館の特別展「大ベトナム展」は、日本の国立博物館で初めてベトナムにスポットをあてた展覧会で、ベトナムの歴史を多角的に通覧できる画期的な機会となったことに加え、ベトナムを会場とした海外展の開催に繋げることができた。

（海外展）

海外展は、中国・上海博物館（主催：東博ほか）、ベトナム国立歴史博物館（主催：九博ほか）において、計2本開催した。中国・上海博物館での海外展「青山杉雨のコレクションと書」（25年4月20日～7月2日）は、当初の会期は5月26日までの予定であったが、たいへん好評を博したため、上海博物館からの要請に応えて7月2日まで会期を延長したものである。ベトナム国立歴史博物館での文化庁主催海外展「日本文化展」は、ベトナムで日本文化を体系的に展示する初の取り組みであり、関連のワークショップでは幅広い年齢層の多くの参加者があり、盛況であった。

	（来館者分析・事業への反映の状況） 博物館の来館者数については、館別、展覧会区分（平常展、特別展）別、観覧者区分別等の各種統計によって推移データを把握するとともに、アンケートの実施により来館者の傾向・満足度等について調査を行い、各館の展示企画・事業運営の参考としている。 展示の充実についての評価は来館者数を含めた様々な要素から判断されるものだが、平常展の魅力を高めつつ、再来館者の増加を図るため、展示館のリニューアル、特集陳列の実施など魅力ある陳列計画に努めるとともに、「博物館に初もうで」・「博物館でお花見を」・「秋の特別公開」やコンサートなど各種イベントを多数実施してきたところである。また、友の会・パスポート会員の確保により、再来館者の増加を図るとともに博物館の活動事業への理解が増進されることを目指している。東京国立博物館では、会員制度を一元化し、選択の幅を広げて継続しやすい体系を検討し、整備を進めた。（26 年 4 月導入予定） 分析結果を事業へ反映した例として、東京国立博物館では、平成 18～20 年度に実施した平常展来館者意識調査及び非来館者調査の結果・分析を基に、情報発信・ブランド再定義等を中心とした各種方策の検討・実施を継続している。25 年度は、ブログの継続に加えて SNS「Facebook」「Twitter」による情報発信の開始（25 年 7 月）、Google Art Project への継続参加、スマートフォンによるガイドアプリの提供について対応 OS と対応言語の拡充、託児サービスの本格導入と託児室やミュージアムショップを備えた「正門プラザ」の建設（26 年 4 月オープン予定）などに反映した。	

【（小項目）1－2－2】　教育活動の充実

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。

①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

②教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

③大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p53-p62　2-(2)-①　学習機会の提供
p63-p66　2-(2)-②-1　ボランティア活動の支援
p67-p70　2-(2)-②-2　博物館支援者の増加
p71-p74　2-(2)-③　大学との連携

・自己点検評価報告書　統計表
p43-p76　2-(2)　教育活動の充実

【インプット指標】

（中期目標期間）	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額（百万円）	62	74	89	96	64	63
従事人員数（人）	53	52	54	51	49	49

※決算額は、決算報告書・教育普及事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部博物館教育課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成したか。	**主な実績** **①学習機会の提供** ・講演会、ギャラリートーク等については、各館の年間展示予定に沿ったテーマを設定し、実施した。（4館） ・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供した。（東博） ・講座・講演会については、平成知新館(新平常展示館)建替工事のため外部の施設を借りて実施した。（京博） ・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加し、福島・仙台にてワークショップを行った。（京博）	教育活動は、4館とも講演会やスクールプログラム等が定量的目標を達成した。特に京都国立博物館は、平成知新館の建て替え工事にも関わらず外部施設の借用により各種講座を開催して、学習機会を国民に広く提供して目標値を達成したことは評価できる。 奈良国立博物館の「當麻寺」展に伴う学術シンポジウムの開催、近隣小中学校と連携した世界遺産の学習、九州国立博物館

・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生33校、合計2,199名に対して実施した。（奈良博）
・特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」に関連して学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」を実施した。（奈良博）
・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2013　鑑真和上と正倉院宝物」と題して25年10月27日に実施し、4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。192人の参加を得、満足度は89%であった。（奈良博）
・体験型展示室「あじっぱ」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、本年度新たに錫を使用した鋳造体験「銅鐸をつくってみよう」、「銅鏡をつくってみよう」、「アイヌのボードゲーム　ウコニロシキ」、「アイヌのシカ笛をつくってみよう」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに実施した。「BOXキットコーナー」は主として工作系の体験を提供する場で、休日は幼児等を含む家族連れでにぎわっている。（九博）

【講演会、ギャラリートークの参加者数】指標：年度計画

東京国立博物館（7,830 人）

A	B	C	実績	定量的評価
7,830人以上	5,481人以上 7,830人未満	5,481人未満	15,777人	S

京都国立博物館（1,860 人）

A	B	C	実績	定量的評価
1,860人以上	1,302人以上 1,860人未満	1,302人未満	2,062人	A

奈良国立博物館（2,600 人）

A	B	C	実績	定量的評価
2,600人以上	1,820人以上 2,600人未満	1,820人未満	3,219人	A

九州国立博物館（3,100 人）

A	B	C	実績	定量的評価
3,100人以上	2,170人以上 3,100人未満	2,170人未満	7,276人	S

（目標値について）
　講演会、ギャラリートークの参加者数については、当年度の特別展、平常展の展示計画に基づき、講演会・ギャラリートーク等の計画をたてて目標値を設定している。
　22年度まで（第2期中期計画期間まで）は、前中期計画期間の年度平均を目標値としていたが、

の「あじっぱ」による体験型事業、京都国立博物館の東日本復興支援プロジェクトへの参加など、各館の地域的特色を生かし、また児童・生徒を対象とした様々な教育活動は今後の博物館教育の新しいあり方として期待される。
　各館とも研修や自己学習の機会提供など、ボランティア活動の支援と協力に力を注いでおり、また企業等への積極的アプローチにも取り組み、賛助会等の加入件数の実績を上げている。
　大学との連携は、東京藝術大学、京都大学との連携事業、博物館実習生の受入れなどが進展し、文化財に関わる人材育成に貢献している。

23年度より（第3期中期計画期間より）、年度計画において定めることとした。この理由としては、講演会の多くが特別展の関連事業であり、各年の特別展の回数やテーマの影響を大きく受けること、また、改修工事等による平常展の長期休止等の影響を受けることから、年度によって適正な目標値が変動するためである。特に京都国立博物館では、平成20年度からの平常展示館建替工事に伴う講堂閉鎖により、外部の会場を借用して講演会を実施しているため、物理的に「前中期目標期間の年間平均実績」を上回ることが困難な状況となっていた。
　25年度の講演会、ギャラリートークの参加者数の目標値の設定は、以下のとおりである。
・東京国立博物館　25年度目標値：7,830人
　内訳：講演会3,500人、列品解説等4,000人、連続講座250人、公開講座80人
・京都国立博物館　25年度目標値：1,860人
　内訳：土曜講座1,400人、記念講演会150人、夏期講座190人、京都ミュージアムズ・フォー連携講座120人
　目標値減の要因は、特別展が25年度3回（24年度4回）であることに伴い、土曜講座の予定回数も10回（24年度15回）となること、また、一部の開催で昨年より小さな会場しか借りることが出来ない見通しとなったことによる。
・奈良国立博物館　25年度目標値：2,600人
　内訳：特別展等講座1,500人、夏季講座500人、サンデートーク600人
・九州国立博物館　25年度目標値：3,100人
　内訳：特別展記念講演会600人、講演及びシンポジウム1,300人、ミュージアムトーク1,200人

【講演会、ギャラリートークの参加者数】（人）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	12,332	12,546	13,319	12,664	13,193	15,777
京都国立博物館	3,413	3,002	2,313	1,450	3,150	2,062
奈良国立博物館	3,655	3,421	3,349	3,006	3,454	3,219
九州国立博物館	5,507	6,806	3,996	7,833	8,354	7,276
4館合計	24,907	25,775	22,977	24,953	28,151	28,334

（参考）キャンパスメンバーズ加入校数

【キャンパスメンバーズ加入校数】　（件）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	29	35	35	37	38	43
京都国立博物館	29	30	29	30	30	29
奈良国立博物館	25	27	28	28	27	26

九州国立博物館	22	29	27	28	24	24
4館合計	105	121	119	123	119	122

（目標値について）
　キャンパスメンバーズ加入校数については、大学等への周知活動等、各館における努力の結果であるが、最終的な実績値は、加入する側（学校等）の判断によるものであり、定量的評価になじまないため、目標値を設定していない。

（参考）法人の自己評価
　定量的な目標として掲げた講演会等参加者数は、4館とも目標に達した。京都国立博物館においては平成知新館（新平常展示館）講堂が建替工事のため、土曜講座・夏期講座の継続開催が危ぶまれていたが、学習機会の継続的な提供を続けるため、外部の施設を借りて実施し、参加者数についても目標を達成することができた。講座・講演会等はリピーターの参加も多く、毎年継続して実施することが、参加者増にもつながっている。
　教育普及事業については、東京国立博物館の「みどりのライオン」、九州国立博物館の「あじっぱ」などの常設の事業に加えて、奈良国立博物館の世界遺産学習をはじめとした近隣小中学校との連携事業、京都国立博物館では平常展示を休止しているにも関わらず東日本復興支援プロジェクトに参加して被災地でワークショップを行うなど、各館ともこれまでの事業を継続・発展して実施し、児童・生徒のみならず大学生や一般も対象とした事業を実施し、学習の機会の提供を図っている。

○ボランティアを支援したか。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ったか。

②-1 ボランティア活動の支援
・ボランティア向け研修の実施、自己学習の奨励をした。（4館）
・館内各所での案内、みどりのライオン紹介コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助のほか、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。次年度の活動に向けてスクールプログラム班を立ち上げた。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。（東博）
・今年度より「東京芸術大学学生ボランティア」を「東京藝術大学大学院インターンシップ」と名称を変更。東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班は平成25・26年度2ヵ年での活動としており、25年度は学芸研究部調査研究課の協力の下、作品の調査研究及び工程見本制作を行った。同インターンシップギャラリートーク班は、総合文化展の作品解説を実施した。（東博）
・平成知新館（新平常展示館）の開館が来年度に延期されたため活動開始は持ち越されたが、ボランティア募集チラシ作成など諸準備を行った。新規ボランティア事業の核となるミュージアム・カートの作成に向け、調査及び教材の作成を行った。（京博）

・「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアに対して、当館研究員がスクーリングを実施した。（京博）
・ボランティアの新制度が発足して2年目になり、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの3つの活動がそれぞれ軌道に乗った。（奈良博）
・ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。（奈良博）
・第3期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。（九博）
・三次元プリンタによるデジタル複製品を手に触れるハンズオン作品として活用した。（九博）

（参考）ボランティア数：

【ボランティア数】（人）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	171	163	159	169	170	169
京都国立博物館	30	35	40	64	45	45
奈良国立博物館	102	98	85	87	121	114
九州国立博物館	388	345	288	355	308	287
4館合計	691	641	572	675	644	615

（目標値について）
　ボランティア数は、募集時にある程度の定員数を想定はするものの、ボランティア人数が博物館のサービスと比例するものではない。重要なのは活動の内容であって、多ければよいというものではなく、人数による定量的評価になじまないため、目標値を設定していない。

（参考）法人の自己評価
　ボランティアについては、各館において研修や自己学習の機会を提供するとともに、ボランティアにとっても充実した活動となるよう各館とも協力して事業を実施している。なかでも京都国立博物館においては、26年9月の平成知新館（新平常展示館）の開館時に活動開始すべく諸準備を行い、新規ボランティア事業としてミュージアム・カートの作成など、順調に進捗している。奈良国立博物館においては、25年度は新制度発足2年目であり、各グループの活動が軌道に乗ったところである。

②-2 博物館支援者の増加

・「友の会」「パスポート」等の会員制度を継続し、リピーターの拡大に努めた。（4館）
・26 年 4 月の消費税率改定による料金の改定に伴い、これまで独立していた賛助会・友の会・パスポートの会員制度を一元化することで、支援者の選択の幅を広げ、継続的に支援しやすい体系とすべく整備を進めた（26 年 4 月導入予定）。（東博）
・特別展「国宝　大神社展」、「京都－洛中洛外図と障壁画の美」において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。（東博）
・支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（3 回）・見学会（3 回）・会報（3 回）の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。（京博）
・観光関連業界と連携して、奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2013」、「ライトアッププロムナード・なら2013」、「なら燈花会」、「光のオルゴール in ライトアッププロムナード」、「なら瑠璃絵」に協力し、顧客層の開拓を行った。（奈良博）
・支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。（九博）
・西日本鉄道とのタイアップにより、西日本鉄道初の観光列車「旅人－たびと－」の運行が開始した（26年3月22日）。当館なども車体に描かれ、車内にはパンフレット等も配置されている。広報の充実や博物館支援者の増加に繋がるものと期待される。（九博）

（参考）賛助会等加入件数

【賛助会等加入件数】（件）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	196	218	235	292	332	379
京都国立博物館	388	389	391	373	353	336
奈良国立博物館	49	56	64	65	68	70
3 館合計	633	663	691	732	765	785

（目標値について）
　賛助会等加入件数は、各館における周知活動等の努力の結果であるが、最終的な実績値は、加入する側（個人・団体）の判断によるものであり、定量的評価になじまないため、目標値を設定していない。

（参考）友の会・パスポート加入者数

【友の会・パスポート加入者数】（人）		過去の実績に関する経年データ					25年度
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立	友の会	1,913	2,085	1,412	1,802	1,570	1,586

博物館	パスポート	20,405	21,598	13,733	17,672	16,569	16,474
	小計	22,318	23,683	15,145	19,474	18,139	18,060
京都国立博物館	パスポート ※	2,932	2,612	2,468	2,667	3,064	2,295
奈良国立博物館	パスポート ※	2,815	2,799	3,180	2,615	2,486	2,598
九州国立博物館	友の会	154	206	144	117	196	141
	パスポート	3,120	3,914	3,318	3,093	4,224	4,633
	小計	3,274	4,120	3,462	3,210	4,420	4,774
4 館合計		31,339	33,214	24,255	27,966	28,109	27,727

※機構内で統一するため、京都国立博物館では 24 年 4 月より、奈良国立博物館では 24 年 1 月より、「友の会」から「パスポート」へ名称変更した。（会費・特典等に変更無し）

（目標値について）
　友の会・パスポート加入件数は、各館における周知活動等の努力の結果であるが、最終的な実績値は、加入する側（来館者）の判断によるものであることに加え、加入した会員が継続的に来館して初めてリピーターを確保したと言えるものであることから、定量的評価になじまないため、目標値を設定していない。友の会・パスポートによる来館者数は、平常展の有料来館者数の内数としてカウントしているが、平常展来館者数全体での目標値を設定していることから、目標値を設定していない。

（参考）法人の自己評価

　博物館支援者の増加については、賛助会や寄附金などは経済情勢に伴い厳しくなっている中、企業等への個別訪問による賛助会参加企業増加や、特別展への協力金獲得など、各館で企業等への積極的なアプローチに取り組んでおり、賛助会等加入件数については、昨年以上の実績を上げている。友の会・パスポート加入者数については、25 年度の特別展来館者数が少なかったことが影響して、昨年度より減となっている。

○大学との連携事業等を実施したか。

③大学との連携

・博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、12大学17名を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日間の活動を行った。（東博）
・東京藝術大学大学院インターンシップを募集し、ギャラリートーク（研究発表）班5名、調査研究班

	12名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。調査研究班では館蔵の「突起装飾坏（TJ-5401）」の調査研究及び工程見本の制作を行った。（東博） ・京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、前期は、研究員 6 人が客員教授(4 人)、客員准教授(2 人)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。後期は、客員教授(4 人)のうち、1 人が転出した為、客員教授 3 人、准教授 2 人の体制で担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。修士課程の学生 2 名については、修士論文の指導を行い、論文が提出された。（京博） ・25 年 12 月 22 日(日)、奈良市教育センター及びなら 100 年会館を会場として、「第4回世界遺産学習全国サミット in なら」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、当館学芸部長と女優の紺野美沙子氏による「人とつながる　地域とつながる」と題した対談及び子供達による世界遺産学習発表会を行った。（奈良博） ・博物館実習生を 14 大学 20 人、計 10 日間受け入れた。（九博） **（参考）法人の自己評価** 大学との連携については、東京国立博物館における東京藝術大学大学院インターンシップや、京都国立博物館における京都大学大学院での授業の担当、奈良国立博物館における奈良教育大学等との共同事業「第4回世界遺産学習全国サミット in なら」の開催、九州国立博物館における博物館実習生受け入れ等、各館とも近隣の大学等との連携事業を継続して実施した。インターンシップについては、東京国立博物館では 12 大学 17 名、、九州国立博物館で 4 大学 8 名の学生を受け入れた。	

【(小項目)1－2－3】　快適な観覧環境の提供

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p75-p80　2-(3)-①　施設・設備等の充実
p63-p66　2-(2)-②-1 ボランティア活動の支援
p81-p84　2-(3)-②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営
p85-p88　2-(3)-③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実
p687 Ⅳ-1 施設・設備に関する計画

・自己点検評価報告書　統計表
p77　2-(3) 快適な観覧環境の提供
p211　共通資料 e　平成 24 年度平常展・特別展アンケート結果

【インプット指標】

（中期目標期間）	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額（百万円）	25	15	33	18	22	21
従事人員数（人）	85	88	85	85	86	84

※決算額は、平常展に要するチラシ・パンフレット等の作成にかかる決算額を計上している。

※従事人員数は東京国立博物館の総務部及び京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の各総務課の常勤事務職員の人数を計上している。その際、役員及び学芸系職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した観覧環境の提供を行ったか。	**主な実績** ・施設のバリアフリー化により、車椅子の方や高齢者、障がい者の利用にも配慮した観覧環境を提供している。（4館） ・多言語（6～7 カ国語）による案内パンフレットの製作・配布を行った。（4館） ・施設のバリアフリー化として、黒田記念館、表慶館に多目的トイレと障がい者用 EV を設置し、正門東側に多目的トイレを含むインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正	施設のバリアフリー化といったハード面での環境整備に加え、多言語案内表示などを含めソフト面でも多様な来館者に対応する工夫がなされている。九州国立博物館では、視覚障害者の「ほじょ犬」専用トイレの整備など、さらなる工夫が進められた。

○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行ったか。	門プラザ）を建設した。また、本館リニューアルに伴う一時閉館期間に、多目的トイレの改修を行った。（東博） ・26 年 4 月 15 日オープン予定の「正門プラザ」において、新しい試みであるデジタルサイネージを含む、館全体の案内・誘導サインを多言語で整備した。（東博） ・前年度に試行実施した託児サービスを、特別展「和様の書」、「京都」会期中に実施した。（東博） ・ボランティアによるバリアフリー活動として、点字パンフレットを 12 冊作成 、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(隔月 1 回、全 6 回)を実施した。（東博） ・平成知新館（新平常展示館）が、京都市から『みやこユニバーサルデザイン優良建築物』（バリアフリー法など一定の基準を満たした建築物）に認定された。（京博） ・平成知新館（新平常展示館）にオストメイト対応トイレ、車いす対応水飲み器を設置した。（京博） ・正倉院展の会期中に、託児室を開設し、多くの利用者があった。（奈良博） ・トピック展でも展示趣旨を解説する英文のほか、トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」で英文リーフレットを配布した。（九博） ・施設のバリアフリー化推進のため、「ほじょ犬」専用トイレを整備した。（九博） ・来館者のニーズを引き出すため、平常展及び各特別展において来館者アンケートを実施し、その結果を観覧環境改善に活かした。（4館） ・混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。（4館） ・「総合文化展100万人プロジェクト」の一環として非来館者調査(インターネット調査、フォーカスグループインタビュー、街頭調査)を行い、外部有識者を交え、総合文化展の問題点の洗い出しを行った。（東博） ・「京都展」期間中の最終週の 5 日間は開館時間を延長した。（東博） ・平成24年度より公開しているAndroidアプリ「トーハクなび」を引き続き公開した。さらに、25年9月26日には、iOS端末用の「トーハクなびiOS Lite版」を新たに公開した。iOS Lite版には、Android版で人気の高い「日本美術の流れコース」と「建物めぐりコース」の2つのコース、3つの体験型コンテンツを収録した。Android版よりもサイズを小さくし、ダウンロードしやすくし、英語にも対応している。（東博） ・小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。（京博） ・正倉院展では、入場待ちの来館者のためテントを設置し、ピロティではモニターを設置して関連の映像を流した。（奈良博） ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。	混雑した展覧会における臨時の開館時間の延長が行われた。また、混雑情報の最寄り駅での掲出やウェブ配信、休憩所の増設、仮設女子トイレの設置、防寒・日差し対策など各館で可能なかぎりの対応を実施したことを評価したい。 来館者の側から観覧条件の改善を図るための調査が進められており、その実現が期待される。 博物館への親近感を高める努力がなされ、ミュージアムショップの充実やレストランなどの充実が図られている。ミュージアムショップの商品のインターネットでの販売など、更なるサービスの向上に向けた取組も期待したい。

○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善したか。	（九博） ・オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品の提供など、サービス向上に努めた。（4館） ・正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する準備を進めた（26年4月オープン予定）。（東博） ・25 年 9 月 4 日に黒田記念館別館に上島珈琲店を開店した。（東博） ・レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。（京博） ・平成知新館（新平常展示館）に併設されるレストランの企画競争準備を整えた。（京博） ・より快適な環境を提供できるよう、レストランの全面リニューアルを行った。（奈良博） ・博物館の 8 周年にあわせた記念セット商品等を販売した。（九博） **（参考）法人の自己評価** 施設のバリアフリー化は一定の水準に達しているが、我が国を代表する施設として多様な来館者に対応すべく検討・工夫を継続しており、建物の改修、設備の充実、多様な来館者を想定したサービスなど、ハード・ソフト両面において改善を重ねている。25 年度は特に、懸案であった東京国立博物館の表慶館及び黒田記念館のバリアフリー化工事が完了し、京都国立博物館の平成知新館（新平常展示館）においては最新のバリアフリー施設として、開館準備が進んでいる。外国人対応としては、館内表示の 4 言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）など、着実に整備を進めている。 また、混雑が予想される展覧会では、収容力に応じた会場配置や音声ガイド対象作品の選定など、あらかじめ対応を想定して計画を行っているが、想定を超える来館者数があった場合は、入場規制を行わざるを得ない。混雑時の入場待ち行列の対策としては、混雑情報のウェブ配信や最寄駅での掲出、休憩場所の増設、仮設女子トイレの設置、冬季の防寒対策、夏季の日傘貸出、テント設置、給水所の設置など、来館者の負担軽減のための可能な限りの工夫を各館とも行っている。25 年度は、特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」（東博）、特別展覧会「狩野山楽・山雪」（京博）、「第65回正倉院展」（奈良博）、特別展「尾張徳川家の至宝」（九博）などの特別展にて、それぞれ状況に応じた対応を検討し、実施した。 ミュージアムショップ及びレストランについては、新たなグッズの開発や、特別展ごとにその趣に合わせた新メニューを提供したほか、レストラン利用者へのアンケート調査を実施するなど、さらなる接客サービス改善に努めた。東京国立博物館の正門プラザ内のショップ（26 年 4 月オープン予定）は、本館 20 室のショップより規模は小さいながら、正門チケット売り場の外側に位置し、観覧券なしで利用することが出来るもので、利用者のニーズを適切に反映したものと言える。	

【(小項目)1－2－4】	文化財情報の発信と広報の充実

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【評定】

A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表

p89-p92 2-(4)-① デジタル化の推進

p93-p96 2-(4)-② 博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

p97-p101 2-(4)-③広報計画の策定と情報提供

p102-p106 2-(4)-④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

p107-p110 2-(4)-⑤ ウェブサイトのアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る

・自己点検評価報告書 統計表

p78-p93 2-(4) 文化財情報の発信と広報の充実

p210 共通資料 d ウェブサイトアクセス件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額①(百万円)	27	53	21	81	33	23
決算額②(百万円)	－	542	142	－	－	－
従事人員数(人)	67	64	65	64	63	58

※決算額①は、H18～H22はデジタルアーカイブ化にかかる撮影費・データ入力費の決算額を計上、H23はこれに広報経費を加えた決算額を計上している。

※決算額②は、文化芸術情報電子化推進費補助金にかかる決算額を計上している。

※従事人員数は、東京国立博物館の学芸企画部企画課、学芸企画部博物館情報課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の人数を計上している。

評価基準	実績	分析・評価

○収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成したか。また、公開データ件数を増加させたか。

主な実績

①デジタル化の推進

・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化について目標値を定め、実施した(4館)

・各館のウェブサイトにて、収蔵品デジタル画像の公開を継続した。(4館)

・国宝・重要文化財の高精細画像公開システム「e国宝」のサービスを継続した。(4館)

・スマートフォンアプリ「e 国宝」については、iOS アプリ版・Android アプリ版ともサービスを継続し、アプリのアップデートを行った。(4館)

・既存のシートフィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、25年度新規フィルム撮影分及び24年度末撮影分にあたる、カラーフィルム304枚、モノクロフィルム1枚をデジタル化した。また、マイクロフィルムについては当初予定していなかったが、25年度予算にて実施できることとなり、館史資料を中心とする550,000コマ(1,039リール)をデジタル化した。これをもって、既存マイクロフィルムのデジタル化についてもほぼ完了することができた。(東博)

・本館19室のリニューアルに向けて、「e 国宝」で公開している画像・テキストのコンテンツ、及び同事業において作成した三次元計測データを対象として、それぞれについてより直感的で親しみやすい新しい閲覧システムを開発した。(東博)

・ガラス乾板及びマイクロフィルムのデジタル化を開始した。(京博)

・平成24年度導入のフィルム用スキャナについて本格運用を開始し、既存フィルムのデジタル化を促進した。(京博)

【収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数】指標:年度計画

東京国立博物館(1,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
1,000件以上	700件以上 1,000件未満	700件未満	550,305件	S

京都国立博物館(2,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	2,682件	A

奈良国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	7,615件	S

九州国立博物館(200 件)

A	B	C	実績	定量的評価

収蔵品のデジタル化は、4館とも順調に整備が進展し、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館では目標値以上の実績を示した。特に東京国立博物館は、既存マイクロフィルムのデジタル化がほぼ完了している。九州国立博物館は目標値を下回ったが、撮影のデジタル化によるフィルム撮影の減少によるもので、特段の問題はないと判断される。

レファレンス機能の充実については、全体で目標値を大きく上回っており、積極的に取り組んでいる。目標値を下回った館についても分析がされている。東京国立博物館資料館での利用者の増加、奈良国立博物館仏教美術資料研究センターの見学ツアーなど、利用者の利便性向上とともに、情報提供サービスに関する広報も進められていることが評価できる。

広報活動は、各館独自の広報誌の刊行、マスコミや公共交通機関、地域団体等との連携、さらにウェブサイト、メールマガジン、SNS 等による計画的な広報活動が行われている。特にウェブサイトの「e 国宝」は、スマートフォンアプリなど各種の関連環境への対応が図られ、掲載コンテンツ内容の充実等により、アクセス件数は拡大し、多角的で活発な広報活動が進められた。

ウェブサイトのカウント方式を統一し、その内容の充実を図ることにより、アクセス数の増加が達成された。特に企画展の広報画面で、学芸員による解説動画は、大いに注目される試みである。

200件以上	140件以上 200件未満	140件未満	62件	C

（目標値について）
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数の目標値については、各館が保管する既存フィルム等のうちデジタル化がどこまで完了しているかの進捗に応じた中長期的な計画に基づき、各年度のデジタル化予算にて実施可能な件数を算出し、設定している。
25 年度目標値は、計 6,200 件(東博 1,000 件、京博 2,000 件、奈良博 3,000 件、九博 200 件)と設定した。東京国立博物館・九州国立博物館の2館は、保管フィルムのほぼ全てについてデジタル化が完了しているため、デジタル化件数の目標値には、当年度の新規フィルム撮影分を当年度内にデジタル化することとし、設定している。九州国立博物館の目標値減は、当年度の新規撮影予定 2,000 件のうちフィルム撮影分 200 件を当項目の目標値としたことによるもので、撮影そのもののデジタル化によるフィルム撮影の減少が影響している。(24 年度九博目標値 1,000 件)

【収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数】（件）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	139,000	775,300	8,639	1,468	776	550,305
京都国立博物館	(6,478)	(5,603)	(4,594)	2,165	2,732	2,682
奈良国立博物館	1,410	90,555	4,311	5,297	4,924	7,615
九州国立博物館	(3,963)	(3,574)	1,391	2,146	1,450	62

※（　）内は、計数方法が異なるため参考数

（参考）法人の自己評価
収蔵品等の写真フィルムのデジタル化は、各館とも順調に実施されている。東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館については目標値以上の実績があった。九州国立博物館については、実績が目標に大きく及ばなかったが、既存フィルムのデジタル化はほぼ全て完了しており、当年度の新規フィルム撮影分をデジタル化する予定として目標値を立てていたところ、撮影の時期が年度末となったため、フィルム現像後のデジタル化作業が翌年度となったものである。東京国立博物館においては、既存マイクロフィルムのデジタル化についてもほぼ完了することができた。また、公開データの件数は、4館とも順調に増加させることができた。

○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させたか。

②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化
・収蔵品・出品作品等の新規撮影を行い、関連データを整備した。(4館)
・東京国立博物館資料館における資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続し、資料館利用者数は前年度に引き続き増加した。(5,661人。参考:24年度4,828人)(東博)
・今年度より国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)への雑誌の登録を開始し、洋雑誌639タイトル、和雑誌49タイトルの所蔵情報を登録した。(東博)
・館蔵ガラス乾板の保存整理作業を継続して行い、ガラス乾板のデジタル化を始めた。(京博)
・経年劣化の激しいマイクロフィルムのデジタル化を開始した。(京博)
・仏教美術資料研究センターに附属する資料庫の空調設備を改修し、貴重書・複製・拓本などの資料の保存環境を改善するとともに、利便性を考慮して一部資料の配置換えを行った。(奈良博)
・仏教美術資料研究センターでは、通常の資料・施設の公開にとどまらず、ボランティアによる建築案内や、専門家の見学や研修の受け入れを複数回行った。外部からの見学・取材依頼は増加しており、それらに適宜対応することにより、機能及び施設の普及・宣伝に効果を上げている。(奈良博)

【収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数】指標:年度計画

東京国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	9,865件	S

京都国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	4,525件	S

奈良国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	4,648件	S

九州国立博物館(2,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	1,512件	B

（目標値について）
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数の目標値は、各館とも当年度の撮影計画に基づいて年度計画にて設定している。25 年度目標値は、計 11,000 件（東博 3,000 件、京博 3,000 件、奈良博 3,000 件、九博 2,000 件）と設定した。なお、フィルム撮影とデジタル撮影とがあるが、それらの合計を目標値としてしている。九州国立博物館の目標値増は、過去の実績値も勘案した増である。（24 年度九博目標値 500 件）

【収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数】（件）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	4,721	16,567	11,343	10,566	9,566	9,865
京都国立博物館	6,478	3,753	3,379	3,580	2,713	4,525
奈良国立博物館	6,457	5,818	11,684	6,103	4,960	4,648
九州国立博物館	(6,633)	(4,686)	1,393	4,441	2,142	1,512

※（　）内は、計数方法が異なるため参考数

（参考）法人の自己評価
情報資料の収集については、各館とも収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備を行い、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館については目標値以上の実績があった。九州国立博物館では、今年度撮影した収蔵品・寄託品の大半が単品で、撮影1回あたりの写真枚数が少なかったことにより、実績が目標値に満たなかったが、全体として順調である。また、近年はフィルム撮影からデジタル撮影への移行が急速に進んでおり、文化財撮影の現場も、デジタル撮影が主体となりつつある。
レファレンス機能の充実についても、積極的な取り組みを行っている。東京国立博物館資料館では、23 年 9 月に有料来館者向け導線を整備して以来、年々利用者が増え続けており、来館者向け広報の成果が出ているものと考えられる。奈良国立博物館仏教美術資料研究センターにおいても、ボランティアによる見学ツアーなどを実施し、外部からの見学・取材依頼が増加している。引き続き、利用者の利便性向上を図るとともに、情報提供サービスの拡充に努めたい。

○計画的な広報・情報提供を行ったか。

○積極的な広報活動に努めたか。

③広報計画の策定と情報提供
・年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。（4館）
・総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動として、『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)、「博物館でお花見を」「秋の特別公開」「博物館に初もうで」「本館リニューアル」他各種広報印刷物を制作・配布した。（東博）
・「博物館に初もうで」では、朝日、読売、毎日新聞への 15 段カラー広告を出広し、「毎日広告デザイン賞準部門賞」を受賞した。（東博）
・前年度に広報特使に任命した女優・藤原紀香氏の公式ブログや公式「Facebook」にて当館の情報を発信し、広報推進を図った。（京博）
・博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、25 年 4 月に文化大使として新たに俳優の井浦新氏を任命した。（京博）
・奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。（奈良博）
・太宰府市と連携し、スマートフォン向け情報サイト「太宰府市イベントガイド」を25年12月から開始した。（九博）

④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動
・広報誌の発行、ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。（4館）
・メールマガジンを配信した。（4館）
・25 年 7 月より新たに SNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を開始し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。（東博）
・雑誌『BRUTUS』の東京国立博物館特集に協力。若年層への情報発信と、イメージの向上、新たな来館者層の開拓に寄与した。（東博）
・京都市内 4 館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。（京博）
・奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、ワークショップやシンポジウムを実施し、集客増に繋がる広報活動を展開した。（奈良博）
・ウェブサイトにて文化交流展示室の「今月の名品」のスケジュール等を掲載し、また研究員が展覧会等の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。（九博）
・家族を対象とした『きゅーはく攻略本』を作成・配布した。（A5 版、20 頁、25 年 8 月 10 日刊行、ウェブサイトでもダウンロード可能）。（九博）

（参考）法人の自己評価
広報については、各館とも広報誌やウェブサイト、メールマガジン等の自社媒体による計画的な

情報発信を行うとともに、マスコミや公共交通機関等、地域団体等と連携した広報活動を展開し、積極的な取組みを継続して行っている。東京国立博物館では、「Facebook」、「Twitter」に館広報としての公式アカウントを作成して細やかな発信を行い、比較的新しいメディアである SNS を活用した。九州国立博物館においては、昨年度に引き続き動画投稿サイト「YouTube」を活用しており、各館とも多角的な広報を実践している。

○ウェブサイトアクセス件数の向上を図ったか。

⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

・23 年度より、アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。（4館）
・アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。（4館）
・「e 国宝」を継続して公開した（4館）
・SNS、メールマガジン、ブログなど複数媒体を連動させた情報発信を行い、訴求力を高めた。（東博）
・動画「東京国立博物館 140 年の歩み」をアップした。（東博）
・平成知新館(新平常展示館)に向けた当館ウェブサイトのリニューアルの準備をし、26 年 3 月に製作を完了した。(26 年 6 月公開予定)（京博）
・「Twitter」を通じて特別展会場の混雑状況を発信し、来館者サービスの向上を図った。（京博）
・特別展「大ベトナム展」、特別展「中国　王朝の至宝」、特別展「尾張徳川家の至宝」、特別展「国宝　大神社展」や文化交流展示室の「今月の名品」等を、ウェブサイトにて研究員が解説する動画を「YouTube」で配信した。また、制作したトピック展示のCMを「YouTube」で配信した。（九博）

（参考）ウェブサイトアクセス件数（ユーザーセッション数）：

【ウェブサイトアクセス件数】（ユーザーセッション数）（件）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	5,271,261	5,637,673	4,971,806	2,772,633	2,982,729	2,898,885
京都国立博物館	(1,409,634)	(848,486)	2,077,562	1,835,640	1,837,113	1,562,480
奈良国立博物館	(1,230,774)	639,030	769,293	722,249	845,202	893,553
九州国立博物館	1,480,341	1,956,287	1,384,701	1,150,408	2,078,279	1,209,272
「e 国宝」	383,864	630,399	659,056	1,139,318	1,420,662	1,676,762

※（　）内は、計数方法が異なるため参考数

（目標値について）

ウェブサイトアクセス件数は、23 年度より目標値を設定していない。4館のウェブサイトは、22 年度までは前中期計画期間の年度平均実績を目標値としていたが、インターネット環境や関連技術の進歩や世代交代が速いため、前中期計画期間との比較がほぼ意味をなさないこと、また、23 年度からアクセス件数の単位をユーザーセッション数に統一したため、第 2 期中期計画期間と第 3 期中期計画期間とで、実績値の単位がそもそも異なる施設があることから、目標値を設定していない。

（参考）法人の自己評価

ウェブサイトについては、アクセス件数向上を目指し、4館とも掲載コンテンツ内容の充実及び積極的な情報提供に努めた。また、SNS や動画共有サービスも活用し、多角的な展開を進めている。

「e 国宝」は、4館が所蔵する国宝・重要文化財の高精細画像公開システムである。20 年度にサイトをリニューアルして以降、22 年度は iPhone アプリ、23 年度は iPad 対応とTwitter連携、24 年度は Android アプリ、と、対応環境を順次広げながら機能強化するとともに、アクセス件数を着実に伸ばしてきた。これらスマートフォンアプリ「e 国宝」からの利用も、ウェブサイトアクセス件数に含まれている。このように、急速に進化する各種の情報関連環境への対応により、文化財情報の発信の充実に努めている。

アクセス件数の単位は、23 年度より全施設においてユーザーセッション数に統一して集計・記載を行っている。

【(中項目)1－3】	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)1－3－1】	調査研究成果の発信	【評定】 A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。

(1)収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p111-p114 3-(1) 調査研究の成果の発信

・自己点検評価報告書 統計表
p167- 共通資料 c-③ 学会、研究会等発表実績一覧
p181- 共通資料 c-④ シンポジウム開催実績一覧
p183- 共通資料 c-⑤ 論文等発表実績一覧
p199- 共通資料 c-⑥ 調査研究刊行物一覧

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	28	33	32	23	28	26
従事人数(人)	99	103	105	100	99	99

※決算額は、紀要等の調査研究にかかる印刷物作成の決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。

評価基準	実績	分析・評価
○各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表したか。また、各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行ったか。	**主な実績** ・研究誌『MUSEUM』643～648号、『東京国立博物館紀要』49号、『東京国立博物館図版目録 中世古文書篇』、『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXIV 聖徳太子絵伝(四幅本)2』を刊行した。『MUSEUM』と『東京国立博物館紀要』では、「キーワード」(条件検索用の関連用語)欄を設けた。(東博) ・特集陳列リーフレット14件のうち5件について、PDFファイル版を作成し、刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を進めた。(東博) ・ウェブサイト「東京国立博物館情報アーカイブ」の運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等のインターネットでの公開を継続した。(東博) ・研究紀要『学叢』第35号を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開した。(京博) ・社寺調査報告書については南山城地域調査成果の一層の検討を深めるため、次年度に刊行することとした。(京博) ・研究紀要『鹿園雑集』は、25年度内に編集作業を進めた(26年5月刊行見込み)。(奈良博) ・文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行される見込み(26年5月)。(奈良博) ・研究紀要『東風西声』第9号を刊行した。(九博) **(参考)法人の自己評価** 収蔵品等に関する調査研究成果の発信として、各館の研究誌・研究紀要である『MUSEUM』(東博)、『東京国立博物館紀要』(東博)、『学叢』(京博)、『東風西声』(九博)を刊行した。京都国立博物館の社寺調査報告書及び奈良国立博物館の『鹿園雑集』については、25年度刊行予定であったが、26年度の刊行に向けて編集作業を進めた。 特別展図録・特集陳列印刷物等については、各館とも順調に刊行した。 インターネットにおける研究成果の公開についても、東京国立博物館情報アーカイブの継続的な運用など、積極的な取組みが行われている。	収蔵品などに関わる調査研究成果を、図版や紀要などで公表し、我が国における博物館の中核として、先導的な活動を行ったと評価できる。東京国立博物館情報アーカイブの運用など、インターネットも含めた研究成果の積極的な公開の努力も評価するとともに、これからさらに進展されることを期待する。

【(小項目)1－3－2】	海外研究者の招聘

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(2)文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また、職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【評定】
A

H23	H24	H26	H27
S	A		

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p115-p118　3-(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

・自己点検評価報告書　統計表
p136-p160　共通資料 c-①　研究交流実績一覧

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	5	3	4	5	6	1
従事人員数(人)	58	56	56	56	55	53

※決算額は、国際シンポジウム開催に要するディスプレイ・旅費・滞在費等の決算額を計上している。
※従事人員数は、東京国立博物館の学芸企画部企画課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤学芸職員の人数を計上している。

評価基準	実績	分析・評価
○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施したか。また、職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣したか。	**主な実績** ・当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣した。(4館) ・海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進した。(東博・奈良博・九博) ・学術交流協定に基づき、共同調査や講演会等を行い、海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。(東博・奈良博・九博) ・第4回アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会に出席、アジア13カ国の国立博物館代表者らと交流、情報交換を行い、ネットワークを強化した。(25年10月8日～9日)(東博) ・研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。そのうち国際シンポジウムへ4人を派遣した。(京博) ・26年2月27日に東アジア古代青銅器に関する国際研究集会を開催し、李眞旼氏(韓国国立慶州博物館)が「韓国の青銅器時代の文化と慶州―集落遺跡を中心に―」のタイトルで口頭報告した。(奈良博) ・国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催、207人参加)(九博) ・平成25年度博物館・美術館相互交流事業の一環として、トルコ・トプカプ宮殿美術館より主任学芸員1名を招聘し、各地の博物館等の視察及び当館で職員等を対象とした講演会を実施した。(25年10月7日～10月13日)(九博)	平成知新館の開館準備という事情があった京都国立博物館を除き、全体で海外研究者招へい 46 名、海外への派遣 155 名と、国際交流が活発に行われた。特に九州国立博物館の国際シンポジウムの開催とベトナムにおける「日本文化展」の開催は、現在のアジア諸外国との関係の中で日本文化の発信と文化交流に大きく貢献したものとして高く評価できる。

【海外研究者招聘】指標:年度計画
東京国立博物館(のべ 6 人)

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	21人	S

京都国立博物館(のべ3人)

A	B	C	実績	定量的評価
3人以上	―	3人未満	0人	F

奈良国立博物館(のべ6人)

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	9人	S

九州国立博物館(のべ4人)

A	B	C	実績	定量的評価
4人以上	3人以上4人未満	3人未満	16人	S

(目標値について)
海外研究者招聘人数の目標値は、年度計画策定時点で確定している国際交流費予算等を基に算出しており、25年度は4館合計で19人程度(内訳:東京6、京都3、奈良6、九州4)を目標値として設定している。なお、京都国立博物館の目標値3人については、前年度実績も勘案して設定している。(24年度京博目標値5人)

【海外研究者招聘】(人)	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	15	26	15	16	11	21
京都国立博物館	9	29	7	21	3	0
奈良国立博物館	9	29	9	20	7	9
九州国立博物館	18	37	9	21	3	16
4 館合計	51	121	40	78	24	46

【研究員派遣】指標:年度計画

東京国立博物館（のべ6人）

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	41人	S

京都国立博物館（のべ15人）

A	B	C	実績	定量的評価
15人以上	11人以上 15人未満	11人未満	19人	A

奈良国立博物館（のべ6人）

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	8人	A

九州国立博物館（のべ4人）

A	B	C	実績	定量的評価
4人以上	3人以上4人未満	3人未満	87人	S

（目標値について）

研究員の海外への派遣人数の目標値は、年度計画策定時点で確定している国際交流費予算等を基に算出しており、25年度は4館合計で31人程度（内訳：東京6、京都15、奈良6、九州4）を目標値として設定している。なお、京都国立博物館の目標値15人については、前年度実績も勘案して設定している。（24年度京博目標値6人）

【研究員派遣】(人)	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	25	16	54	49	34	41
京都国立博物館	18	13	27	25	15	19
奈良国立博物館	6	30	14	19	17	8
九州国立博物館	35	46	77	56	60	87
4館合計	84	105	172	149	126	155

（参考）法人の自己評価

海外からの研究者招聘は46人、海外への派遣は155人と積極的に国際交流を進め、博物館に新たな知見を広めることができた。4館全体では例年通りの実績をあげているが、京都国立博物館における海外からの研究者招聘のみ、実績0人・定量評価Fとなった。これは、25年度は京都国立博物館では、平成知新館（新平常展示館）の26年9月開館に向けた準備作業という、重要な事業のために、限られた資源を重点配分するという経営判断によるもので、やむを得ず当初計画と異

なり、招聘を要する事業を行えなかったことによる。

目標値と実績値の乖離については、海外研究者招聘、研究員派遣ともに、年度当初に決定している国際交流費等の予算を基に目標値を設定しているが、その後、海外交流展経費や外部資金等による実績を上げることができていることによる。

また、今年度は九博にて国際シンポジウム1件を実施したほか、国際研究集会を行う等、他国研究者との研究交流を推進した。

【(小項目)1－3－3】	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(3)保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

【評定】
A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p119-p122　3-(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	－	－	－	－	－	－
従事人員数(人)	51	50	50	48	47	46

※決算額は、研修テキストなどのコピー機を利用しての作成により外注額が少額のため、個別に計上できない。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施したか。	**主な実績** ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(25 年 8 月 19 日～29 日の 10 日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から 37 名が参加した。(東博) ・特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を計3回実施した。(京博) ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計 5 回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(奈良博) ・保存修理事業者を対象とした研修会として「古文書保存基礎講座」等を計 6 回開催した。(九博) **(参考)法人の自己評価**	特定非営利活動法人との連携により、東京国立博物館において「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を開催し、その運営を全面的に支えた。また他館においても、修理技術の向上を実現するための研修会等を開催し、文化財保存事業の分野で大きな貢献がなされた。 文化財修理事業における研修業務の効率化について、目的に適応した配慮がなされている。 東京国立博物館における NPO 法人との共催は、業務効率化の取組として評価できる。 国の文化財保護施策の一翼を担う高度の専門人材を養成するための研修であり、

	昨年に引き続き東京国立博物館にて特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)主催の専門家養成実践セミナーを共催として開催し、京都国立博物館では特別展ごとに修理技術者に対する定例研修会を実施、奈良国立博物館、九州国立博物館でも博物館等関係者や修理技術関係者等対象の研修会・セミナー等を開催するなど、4館とも保存科学・修理技術の専門家を対象とした研修プログラムを実施し、文化財を将来にわたって保存していくための人材育成に努めている。	その知識・技術等が各地域に普及することによって、国民共有の財産である文化財を守ることにつながる公益性の高い事業と判断でき、受講料を徴収しない運営方式は妥当と考える。
○業務の効率化について、教材作成作業等の効率化、研修施設の有効活用、施設管理業務の民間委託等の取組を行っているか。	【業務の効率化について】 京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館では、関係者を対象に、文化財保存修理所内の工房視察や、各工房技術者との情報交換等が主であり、主催者側が用意した教材に沿って行われるものではないため、一般的な研修とは異なる。また、専用の研修施設もない。実施にあたっては、業務効率化の観点に意識し実施している。 東京国立博物館では、NPO主催の専門家セミナーへの共催という形をとっており、館内の修理施設・展示施設を会場として提供している。教材はNPOが作成している。	
○受益者負担の妥当性・合理性があるか。	【受益者負担の妥当性・合理性について】 文化財保護に必要な人材の育成を目的としているものである。よって、これらの研修の受講を必要とする者の参加を促進し文化財保護に必要な知識・技術等の普及を図るため、受講料無料は妥当と考える。 東京国立博物館共催の専門家セミナーにおいても、東京国立博物館としては受講料を徴収していない。	

【(小項目)1－3－4】	収蔵品貸与の推進

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(4)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【評定】

A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p123-p126 3-(4) 収蔵品の貸与

・自己点検評価報告書 統計表
p94-p95 3-(4) 収蔵品の貸与

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	11	14	14	11	22	21
従事人員数(人)	99	103	105	100	99	99

※決算額は、考古相互貸借事業にかかる輸送費・資料保存箱作成費等の決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施したか。

実績

主な実績

・国内外の博物館等へ積極的に貸与を行った。(4館)
・下関市立考古博物館、大阪府立弥生文化博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。(東博)
・香川県立ミュージアム「いとうるわし。日本の美―京都国立博物館名品展」に特別協力を行い、国宝7件、重要文化財14件、重要美術品2件を含む、収蔵品57件を貸与した。(京博)
・「魅惑の清朝陶磁」展を長崎歴史文化博物館に巡回し、重要文化財1件を含む62件の収蔵品を貸与した。(京博)
・本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。(京博)
・岩手県立博物館、平泉町(平泉文化遺産センター)の計2館との間で相互貸借事業を実施した。(奈良博)
・文化庁・当館・ベトナム国立歴史博物館の共催になる平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展は、海外機関への貸与として計上した(九博)

(参考)文化財の貸与件数

分析・評価

保存状態に十分配慮した上で、各館ともに国内外の博物館などへ収蔵品を積極的に貸与し、我が国の博物館活動に大きく寄与したと評価できる。京都国立博物館で公開している「貸出作品リスト」は、各地博物館等の展示事業を豊かにする手助けとなるものであり、こうした取り組みのさらなる展開が望まれる。

【文化財の貸与件数】(件)	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	1,125	1,104	1,315	905	1,295	1,137
京都国立博物館	246	428	297	429	304	626
奈良国立博物館	163	108	159	118	102	135
九州国立博物館	106	89	165	119	113	143
4館合計	1,640	1,729	1,936	1,571	1,814	2,041

(参考)貸与先件数

【貸与先件数】(館)	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	135	124	150	129	159	123
京都国立博物館	45	68	74	74	71	82
奈良国立博物館	47	34	43	37	37	35
九州国立博物館	44	23	34	26	44	32
4館合計	271	249	301	266	311	272

(目標値について)

文化財の貸与件数及び貸与先件数については、目標値を設定していない。文化財の貸与は、先方からの依頼に基づいて行うものであり、外部での展覧会開催回数に大きく影響され、定量評価になじまないため。

(参考)法人の自己評価

所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。4館合計の貸与先件数272件は、24年度比は39件減(約13%減)であるが、貸与件数は2,041件であり、24年度比227件増(約13%増)となった。これは、京都国立博物館の貸与で文化財件数の多い案件があったことによるもので、具体的には、香川県立ミュージアム「いとうるわし。日本の美―京都国立博物館名品展」への57件貸与、長崎歴史文化博物館「魅惑の清朝陶磁」展への62件貸与などである。

なお、京都国立博物館においてウェブサイトでの京都国立博物館収蔵品の「貸出作品リスト」を公開している(寄託作品や個人名は伏せている)。このような情報の公開は、日本の博物館では極めて画期的なものである。

【(小項目)1－3－5】	公私立博物館・美術館等に対する援助・助言

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(5)公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【評定】
A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p127-p130 3-(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

・自己点検評価報告書 統計表
p96-p103 3-(5) 公私立博物館等に対する援助・助言

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	－	－	－	－	－	－
従事人員数囚)	99	103	105	100	99	99

※決算額は、公私立博物館・美術館等に対する援助・助言に係る外注額が少額なため、個別に計上できない。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○公私立博物館等に対する援助・助言を行ったか。	**主な実績** ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った.。(4館) ・東日本大震災において被災した博物館などの施設に対して、文化財保全のための救援活動を実施した。(東博・九博) ・新規貸与館 5 館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。(東博) ・文化財の展示、修理にかかる指導助言として、香川県立ミュージアムにて名品展展示・撤収作業の指導等を実施した。(京博) ・石川県立美術館で開催の特別展「国宝 薬師寺展」(主催:同展実行委員会、会期:25年4月26日～6月23日)への学術協力として、同展への助言と輸送から陳列までの助力と助言を実施した。(奈良博) ・平成26年度に開催の「法隆寺展―聖徳太子と平和への祈り」では、企画立案の段階から積極的に助言し、調査等にも同行した。(奈良博)	ナショナルミュージアムにふさわしい、展覧会の企画・運営に関する援助・助言を継続している。なお新規貸与の施設に対して、東京文化財研究所と協力して環境調査を実施した上で、指導助言を行ったことは、注目される。 福島県旧警戒区域内における被爆文化財のレスキュー事業は、文化財機構でなくては実施できない質の高い支援を行い、ナショナル・センターとしての責務を十二分に果たしたものとして高く評価したい。このような経験はケーススタディとして記録し、諸外国にも必要に応じて情報を提供できるようにしておくことが望まれる。

(参考)公私立博物館等に対する援助・助言件数

【公私立博物館等に対する援助・助言件数】 (件)	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京国立博物館	134	139	84	126	85	114
京都国立博物館	114	114	123	91	65	43
奈良国立博物館	5	25	35	98	67	71
九州国立博物館	47	39	77	97	109	64
4 館合計	300	317	319	412	326	292

(目標値について)
公私立博物館に対する援助・助言件数については、目標値を設定していない。援助・助言は、先方からの依頼に基づいて行うものであり、外部の要因によって実績値が決定し、定量評価になじまないため。

(参考)法人の自己評価
公私立博物館・美術館等に対する援助・助言件数については、対外的要因の影響が大きく目標値設定になじまないため、今中期計画から目標値を設定していないが、各館とも我が国の博物館の中核としてふさわしい内容・件数の援助・助言を行っている。特に東日本大震災により被災した館に対する文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)については、25年7月に機構本部に「福島県内被災文化財等救援事務局」を設置しており(詳しくは「【小項目１－７－１】地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築」のページを参照)、東京国立博物館・九州国立博物館における援助・助言件数は、福島文化財レスキュー事業としての、旧警戒区域内の2施設(富岡町歴史民俗資料館・双葉町歴史民俗資料館)での救援活動を含んでいる。

【(中項目)1－4】	4 文化財に関する調査及び研究の推進	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)1－4－1】 調査研究の目的・内容の適切性／調査研究の実施状況／調査研究の成果の状況

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めた課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

(3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

(4)高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

(5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表

p131-p184 4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進
p185-p192 4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進
p193-p212 4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進
p213-p220 4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
p221-p498 4-(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

・自己点検評価報告書 統計表

p161-p166 共通資料 c-②調査研究テーマ一覧
p167-p180 共通資料 c-③ 学会、研究会等発表実績一覧
p181-p182 共通資料 c-④ シンポジウム開催実績一覧
p183-p198 共通資料 c-⑤論文等発表実績一覧
p199-p201 共通資料 c-⑥調査研究刊行物一覧
p202-p206 共通資料 c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究
p207-p209 共通資料 c-⑧ 客員研究員一覧

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	1，448	1，473	1，633	1，440	1，481	1，785
従事人員数(人)	189	191	197	188	185	184

※決算額は、決算報告書・調査研究事業に要した決算額を計上している。

※従事人員数は4国立博物館及び2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。

評価基準

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。

実績

1．調査研究の目的、内容の適切性

・中期計画に示した課題を達成するために、年度毎ごとに研究目的・テーマを設定

(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

目的	国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。
主なテーマ	・文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究(東文研) ・我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究(奈文研) ・無形文化財の保存・活用に関する調査研究(東文研) ・平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等(奈文研) ・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等(奈文研) ・東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究(奈文研) ・アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力(奈文研) ・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究(奈文研) ・遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集(奈文研)

(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

目的	文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

分析・評価

中期目標計画に沿って、課題や文化財保護政策に関わる総合的かつ体系的な研究計画が立案され、実質的な成果を得ていると評価できる。

各研究所において設定された有形・無形文化財を対象とする調査・研究計画のもとで、個々に業務を進行させることにより、確実な成果を得ている。また文化庁からの要請に基づき、高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査・保存事業は適宜かつ迅速に実施されている。文化財のカビ対策では、放射線被曝の問題と併せて、貴重な調査・研究の成果を得ており、特筆すべき点である。

各博物館では継続的な調査・研究を実施し、その中で得られた新たな知見を盛り込んだ企画展示を開催している。また調査・研究の中で集積された貴重かつ膨大な情報が、各種のデータベースに蓄積されており、将来様々な文化的事業に活用されることになろう。さらに東日本大震災による被災文化財の保存修復事業により、新たな研究蓄積がなされたことに注

主なテーマ	・文化財デジタル画像形成に関する調査研究（東文研） ・文化財の測量･探査等に関する研究（奈文研） ・年輪年代学研究（奈文研） ・動植物遺存体による環境考古学的研究（奈文研）

(3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

目的	最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。
主なテーマ	・文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究（東文研） ・ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等（奈文研） ・周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（東文研） ・文化財の防災計画に関する研究（東文研） ・文化財の放射線対策に関する研究（東文研） ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究（東文研）

(4)国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

目的	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。
主なテーマ	・文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（東文研・奈文研） ・国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力（奈文研） ・農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力（奈文研）

(5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

目的	有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める

目しておきたい。

所蔵品等の保存と活用では、九州国立博物館が進めている三次元プリンタを応用した視覚障碍者への対応は、今後の新しい可能性を切り開くものとして注目したい。こうした日常の調査研究や最新技術の研究成果が特別展や展示にいかされていることも評価できる。

研究成果は、論文や学会での口頭発表などが継続的に実施され、論文掲載数や学会発表件数も定量的観点からも満足するものである。

科研費の申請が積極的になされ、採択件数は前年と同数ながら、交付総額は増加しており、研究分野における外部資金の導入は、大きな成果をあげている。

主なテーマ	①収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・収蔵品、寄託品等の調査研究（4館） ・特別展等の事前調査（4館） ・特別調査「書跡」、「工芸」、「彫刻」（東博） ・特別調査　屏風の箔地についての光学的調査研究（東博） ・X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析（九博） ②アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 ・中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究（東博・奈良博・九博） ③京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（京博） ④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する（奈良博） ⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 ・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究（九博） ⑥有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 ・文化財の保存・修復・環境保存に関する調査研究（4館） ・文化財の材質・構造等に関する共同研究（九博） ⑦文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 ・文化財情報に関する調査研究（4館） ・博物館教育に関する調査研究（4館） ・博物館環境デザインに関する調査研究（東博）

（参考）法人の自己評価

中期目標・中期計画を達成するための適切な計画を立てることができたと考える。

○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。

2. 調査研究の実施状況

(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

		調査研究の名称	施設名
①	ア	**文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究**	東京文化財研究所

昨年度一般公開を開始した「東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版)」に 11 号～50 号までをアップし、明治期の残り分についてのデータ処理を進めた。引き続き図版を主とする貴重書の公開方法について検討を重ねた。また、東京文化財研究所アーカイブズの基幹のひとつとして「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」を作成した。アーカイブズを主題とする各種研究会を開催し、アーカイブズのあり方について検討した。なお、国立情報学研究所と東京文化財研究所アーカイブズ構築にかかわる共同研究契約を締結した。

イ	**文化財の資料学的研究**	東京文化財研究所

(1)調査

東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業

(2)美術史研究のためのコンテンツ形成

14 世紀在銘彫刻作品のデータ入力と年表(棒目録)作成、中世絵巻詞書文字総覧のためのデータ入力

(3)研究交流促進のための研究会の開催

植野健造氏(福岡大学教授)の招聘・研究会発表(25 年 9 月 24 日)

鄭于澤氏(韓国東国大学校教授・同大学校博物館館長)の招聘・研究講演(25 年 10 月 4 日)

染谷香理氏(東京藝術大学大学院)の研究会発表(25 年 11 月 26 日)

佐藤全敏氏(信州大学准教授)の研究会発表(25 年 12 月 6 日)

ウ	**近現代美術に関する交流史的研究**	東京文化財研究所

東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を完了、併せて黒田作品の調査も行った。東アジア美術交流の調査研究では、米国の研究者による日中の彫刻概念の成り立ちについての講演を開催。我が国の現代美術の動向に関する調査研究としては、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料及び美術評論家の故鷹見明彦氏旧蔵資料の整理・調査を進めた。

エ	**美術の表現・技法・材料に関する多角的研究**	東京文化財研究所

本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を作品の観察、文献資料あるいは科学的手法による分析を実施しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・工芸作品を中心に各地で作品調査を進めるとともに、日本の平安時代絵画や展覧会を通じた日本製輸出螺鈿漆器についての検討、またこれまで本プロジェクトで行ってきた絵画や世界各地の螺鈿漆器について発表を行った他、ウェブサイト上で公開している奈良時代の資料にあらわれた彩色語彙についてデータベースの増補を実施した。ま

た今年度よりの新規事業として、当研究所が所蔵する文化財を撮影したガラス乾板のデジタル化作業を開始した。

②	**近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究**	奈良文化財研究所

奈良市教育委員会との連携研究の成果として、『大宮家文書調査報告書』を公刊した。大宮家文書は、鎌倉時代から江戸時代まで春日大社の神人だった大宮家に伝わる、中世・近世文書群であり、春日大社研究の基礎史料となり得るものである。また、唐招提寺が所蔵する資料を翻刻して『唐招提寺授戒帳』として刊行した。近世唐招提寺の授戒の実態・近世受戒僧の名を一覧できる基礎資料である。また、内山永久寺旧蔵の扁額が、宝治元年(1247)に藤原教家が筆を執った扁額であることを明らかにした。また、科学研究費補助金も充当して行った東大寺古文書調査について、科学研究費補助金の報告書を 2 冊公刊し、所蔵資料の目録等を公表した。

③	**我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究**	奈良文化財研究所

文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査を行った。

・比叡山延暦寺建造物の普及・啓発に関する業務(受託)
・兵庫県近代和風建築総合調査(受託)
・平成 25 年度平出地区伝統的建造物群保存対策調査(受託)
・長谷川家建造物・庭園現況調査(受託)

④	1	**無形文化財の保存・活用に関する調査研究**	東京文化財研究所

古典芸能の作曲法、染織技術を支える選定保存技術について調査を行い、無形文化遺産部所蔵音声・映像資料の整理、伝承の変化の大きい伝承芸能について実演記録を作成し、楽器に関して国際会議等で発表した。

	2	**無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究**	東京文化財研究所

民俗技術や風俗慣習、民俗芸能の伝承実態・伝承組織について現地調査と資料収集を行った。特に東北の被災地域における無形民俗文化財の現状調査は昨年度に引き続き重点的に行った。また、無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議した。特に今年度はこれまで研究の進んでいなかった民俗技術の分野をテーマに取り上げ、関係者間の協議やネットワーク形成を図った。その成果は報告書にまとめ、関係者及び関係機関等に配布した。

	3	**無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集**	東京文化財研究所

		韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成 23 年度に調印した合意書に基づき、研究員の相互派遣を内容とする研究交流を実施した。また関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し、海外研究者への助言や調査協力を通して、無形文化遺産分野における国際的情報収集及び情報提供を行った。	
⑤	ア	**我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）**	奈良文化財研究所
		「計画の意義と方法」を主題として遺跡等のマネジメントに関する研究集会を開催するとともに、過年度の成果について、『パブリックな存在としての遺跡・遺産』[平成 24 年度遺跡等マネジメント研究集会（第 2 回）報告書]を刊行・配布するなど、その普及等を行った。	
	イ	**我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）**	奈良文化財研究所
		中世の庭園・建築・文学・美術史などの研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書としてまとめた。奈良市における庭園の悉皆的調査に取り組み、寺院庭園の調査を行った。	
	ウ	**我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）**	奈良文化財研究所
		米国・コロンビア大学からのインターン（3名）受入の対応を行った。 米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に係る講演 2 件を実施した。	
⑥	ア	**平城宮跡第一次大極殿院の発掘調査**	奈良文化財研究所
		礫敷広場・石敷列・幢旗の遺構等を検出し、また第一次大極殿院の大極殿院の様相解明と復原整備に活かしうる資料を得た。 これらの発掘成果を記者発表・現地説明会・刊行物により、広く公開した。	
	ア	**平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査**	奈良文化財研究所
		北側の調査区では掘立柱建物を検出した。遺存する柱根の規模から大規模な建物の一部である可能性があり、また数度の建て替えがあることも判明した。これらから、平城京の宅地としては比較的大規模な建物群が存在していたことが明らかとなった。南側の調査区では三彩瓦を含む瓦溜まりを検出した。これまでも同坪では三彩瓦が出土しており、既往の調査成果と合わせて、きわめて特異な土地利用の実態が明らかとなった。 ・興福寺西室跡の発掘調査（受託） ・法華寺旧境内の発掘調査（受託） ・海竜王寺旧境内の発掘調査（受託）	
	ア	**平城京右京一条二坊四坪の発掘調査**	奈良文化財研究所
		平城京右京一条二坊四坪の学術調査。奈良文化財研究所の庁舎建て替えに伴う予備調査として、現庁舎の周辺に 6 箇所の調査区を設定した。このうち北方の 1 箇所の調査区で条坊遺構を確認し、遺構の遺存状況が比較的良好であることを確認した。南方	

		の 4 箇所の調査区では、奈良時代～中世の遺物を含む沼状の堆積を確認し、奈良時代の遺構が失われていることが判明した。現庁舎を機能させたままで可能な最大限の調査を行い、遺構の遺存状況を確認することができた。 ・西大寺旧境内(薬師金堂西方)の発掘調査（受託） ・薬師寺十字廊跡の発掘調査(受託) ・西大寺旧境内(弥勒金堂東方)の発掘調査（受託）	
	ア	**古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行**	奈良文化財研究所
		(1)第 17 回古代官衙・集落研究集会を開催した（25 年 12 月 13・14 日）。テーマは「長舎と官衙の建物配置」である。各地の官衙遺跡における長舎建物について、考古学、建築史学、文献史といった各方面から検討し、長舎の出現や展開や機能など多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。 (2)昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第 12 冊　塩の生産・流通と官衙・集落』として刊行した。	
	ア	**古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行**	奈良文化財研究所
		(1)第 14 回古代瓦研究会シンポジウムを開催した（26 年 2 月 8・9 日）。テーマは「8世紀の瓦づくり Ⅲ　－平城宮式軒瓦の展開1　6225-6663 系－」である。シンポジウムでは、平城宮式軒瓦の主体をしめる 6225-6663 型式について、平城宮・京での出土状況、また各地における当該形式採用の経緯などについて多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。 (2)第 12 回シンポジウム（平成 23 年度）、第 13 回シンポジウム（平成 24 年度）の成果を、『古代瓦研究Ⅵ』として刊行した。	
	ア	**藤原宮跡の発掘調査**	奈良文化財研究所
		藤原宮朝堂院朝庭東北部の発掘調査を実施した。調査の結果、朝庭の礫敷広場、排水用の礫詰暗渠、礫敷上から掘り込む柱列などを検出し、さらに朝庭の下層において、藤原宮造営期の溝や大小の沼状遺構を確認した。朝庭の空間利用や藤原宮の造営過程を考える上で、貴重な手がかりを得た。 ・藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査(受託) ・本薬師寺跡、藤原京跡(右京八条三坊)発掘調査（受託）	
	ア	**飛鳥地域発掘調査**	奈良文化財研究所
		第 177 次調査では、既往の調査区とは異なる谷地を調査し、7 世紀代に谷の斜面を切土・盛土し、平坦面を造成していたことが明らかとなった。また、建物 2 棟、溝 1 条、炭溜 3 基、土坑群などを検出した。	
	イ	**平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等**	奈良文化財研究所
		本年度の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構について、整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業を行い、今後の研究の基盤を整えるとともに、発掘調査	

		の記者発表や現地説明会等に備えた。これらは平成 26 年度刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2014』の報告の準備ともなる。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構についても、整理・分析・調査を継続して実施した。	
	イ	**飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等**	奈良文化財研究所
		本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、成果の一部を公表した。	
	ウ	**東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究**	奈良文化財研究所
		(1)キトラ古墳、高松塚古墳壁画に関する研究を継続した。 (2)飛鳥寺塔心礎出土品の再整理を継続した。 (3)川原寺裏山出土塑像の再整理を実施した。 (4)日光男体山山頂出土鏡の分析を実施した。 (5)山田寺出土部材の計測調査を継続した。	
	エ	**アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力**	奈良文化財研究所
		(1)北魏洛陽城宮城における共同発掘調査の遺物整理作業、渤海・遼金代都城遺跡の踏査を実施した。 (2)三官営子遺跡の踏査を実施。金嶺寺遺跡出土瓦・大板営子遺跡出土鉄製品・銅製品の調査を実施した。 (3)唐三彩関連資料の調査を実施した。 (4)日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施した。 (5)カザフスタン関係資料の収集を実施した。 (6)報告書原稿を河南省文物考古研究所に納品した。	
⑦		**文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究**	奈良文化財研究所
		文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、"「文化的景観学」検討会"を開催したほか、現地調査等を行い、論文等を通じて成果を報告した。また、『World Heritage Papers 26』の翻訳作業等を進めた。 ・京都岡崎の文化的景観保存計画策定調査(受託) ・相川地区文化的景観保存計画策定調査(受託) ・平成 25 年度長良川流域の文化的景観における普及啓発事業支援業務委託(受託)	
⑧	ア	**遺跡データベースの作成と公開**	奈良文化財研究所
		官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における長舎遺構を重点的に収集し、宮都や居宅・集落まで範囲を広げて全国的に網羅する『長舎遺構資料集成』を作成	

		した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から中部地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して資料収集を行った。	
	イ	**出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査**	奈良文化財研究所
		(1)鉱物の標準試料のラマンスペクトルを集積するとともに、顔料やガラス、石製遺物のラマンスペクトルを取得した。 (2)遺跡から出土したトンボ玉のX線CR撮影及びX線CT撮影を実施することにより、製作技法を明らかにした。 (3)木造建造物の塗装の彩色調査を行い、使用された色料について明らかにした。 (4)金属製遺物出土遺跡の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵環境が金属製品の腐食に与える影響の解明に取り組んだ。 (5)「文化財の収蔵・展示環境」をテーマとした研究集会を開催した。 ・元町石仏が彫刻された凝灰岩の不飽和水分移動特性に関する研究(受託) ・国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う環境調査(受託) ・建中寺における文化財建造物の彩色塗装材料の調査研究(受託)	
	ウ	**遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集**	奈良文化財研究所
		土質遺構の露出展示を実施予定の平城宮跡遺構展示館を調査フィールドとして、遺構土壌における熱・水分同時移動解析を行い、遺構土壌の適切な含水状態を維持し塩類析出を抑制するための環境条件、及び保護施設としての覆屋の仕様について検討した。ベトナムのタンロン皇城遺跡では遺構土壌の熱・水分移動特性に関する試験を行い、現地で実測調査を行った外界気象条件に基づき、埋め戻し保存法について検討した。ガランドヤ古墳では石室周辺の熱・水分同時移動解析を行い、石室内石材表面での結露発生を抑制するための手法として、石室内空気への熱源の使用、及び石室外の地盤を断湿材で覆うことの有効性を検討した。また、元町石仏では塩析出を抑制する手法を検討するため、最も重要な物性値である石材の透水性状について試験を行うとともに、磨崖仏表面への石材基質強化剤及び撥水剤使用の良否について検討した。 ・史跡ガランドヤ古墳1号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究(受託)	

(参考)法人の自己評価

24年度同様25年度においても、無形文化遺産から遺跡の発掘まで幅広い分野についての継続的な調査・研究を通して、文化財に関する基礎的な情報を蓄積することができている。基礎的・体系的な調査・研究は成果がすぐに出るものではなく、長期的な視野に立つことが欠かせないので、報告書の刊行や研究会・学会での発表を通じて、調査研究の成果を国民に還元していけるよう努力している。今後もこれらの調査・研究を通じて、我が国における文化財に関する調査・研究の底上げを図

っていきたい。

(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

	調査研究の名称	施設名
①	**文化財デジタル画像形成に関する調査研究**	東京文化財研究所
	脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財に対して最先端の光学調査を行うことによって得られた高精細画像や特殊撮影画像を分析研究し、さらにその公開による広範な利用を目指して、本年度は宮内庁三の丸尚蔵館との共同調査研究として春日権現験記絵、奈良国立博物館との共同調査研究として国宝當麻裏板曼荼羅(當麻寺所蔵)他の調査・撮影を実施した。この他、経年変化で判読不能となったジアゾ式湿式青焼コピーの撮影による復元研究を継続して行った。	
②	**文化財の測量・探査等に関する研究**	奈良文化財研究所
	(1)三次元レーザースキャナーによる遺構・遺物計測の精緻化と迅速化を検討し、実用化を達成した。 (2)簡便で廉価な写真計測法を導入して試験を行い、実用化への見通しを確立した。 (3)アレイ式地中レーダー探査を導入し、探査試験を実施した。 (4)磁気探査機器の計測の高速化及び多プローブによる同時測定の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。 (5)各地の依頼により、計測及び探査を実施した。	
	・ネットワーク型遺跡調査システムの開発(受託) ・鬼ノ岩屋古墳総合的探査委託業務(受託)	
③	**年輪年代学研究**	奈良文化財研究所
	6都府県下 10 遺跡の出土木製遺物、4県下4棟の木造建造物、2ヵ国7府県下 10 件の木造美術工芸品、3県下3件の自然木について、年輪年代調査と樹種同定調査を実施した。このうち、1件の出土木製遺物及び1件の美術工芸品に対してマイクロフォーカスX線CT装置による調査を実施したほか、木製ではない3件の出土遺物の内部構造把握のため、同装置による非破壊検査を行った。また、これらの調査・研究成果の一部を論文等、学会等発表において公表した。	
	・宝城坊本堂の年輪年代調査(受託) ・国宝薬師寺東塔木材年代測定業務(第1回)(受託)	
④	**動植物遺存体による環境考古学的研究**	奈良文化財研究所

	震災復興事業に伴う発掘調査に対する支援を行うとともに、幅広い時代の動植物遺存体の分析を進め、その研究成果を国内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等での発表・講演のほか、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製した。	
	・平成 25 年度小竹貝塚出土動物遺存体同定調査業務(受託) ・陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務(受託) ・陸前高田市立博物館所蔵骨角器抜本修復業務(受託) ・東名遺跡出土動物遺存体調査(受託)	

(参考)法人の自己評価

文化財の調査研究において、新たな手法が開発されることによって、これまで知り得なかったことが明らかになることは少なくない。25 年度も文化財に関する新たな手法について継続的に研究を実施している。

東京文化財研究所の文化財デジタル画像形成に関する調査研究では、今年度も他機関との共同調査研究を進めることができており、また、昨年度より実施の退色劣化したジアゾ式湿式青焼コピーの撮影による復元研究についても、より普遍的な復元技術開発に向けて研究を継続している。

奈良文化財研究所における文化財の測量・探査については、三次元レーザースキャナーの高速化など、従来に比べると効率性は向上しているが、依頼件数が極めて多く、研究資源の配分が昨年度からの課題となっていたところであるが、今年度は他の研究機関や企業への配分を適切に行い、試験研究的な要素の高い対象のみに絞ることができた。また、東日本大震災に伴う復興関係の調査など喫緊の課題に、本研究で培ってきた技術を早期投入することが要請されており、福島県の震災復興調査の現場など、実際の支援に活用できたことは大きな成果であると考える。

その他、木造文化財の年輪年代学研究、出土した動植物遺存体の分析による環境考古学的研究など、順調に進めている。特に今年度は、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査の緊急の支援要請があり、継続的に被災地へ赴いて支援作業に従事しながら、幅広い時代の動物遺存体の調査研究を進めるとともに、研究の基礎となる標本の収集を進めることができた。

今後も調査・研究を継続的に実施し、新たな調査手法の開発を通して、調査研究に新たな知見が得られるように努めたい。

(3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

調査研究の名称	施設名

①		**文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究**	東京文化財研究所
		（1）本年度は津波被災民俗資料や写真等の微生物被害についての調査研究を行った。津波被災文化財に発生した微生物は共通して高い塩耐性があることを確認し、洪水などの淡水の被災より微生物被害が起きにくい傾向にはあるが、速やかな応急処置が必要であることを報告した。 （2）環境制御が難しい屋外の装飾古墳などにおいて、浮遊・付着微生物制御のためのモニタリングや除菌清掃の機会を活用し、最適な微生物対策についての検討を行った。	
②		**文化財の保存環境の研究**	東京文化財研究所
		本年度は主に気流解析と温湿度測定の比較を行い、気流解析の有効性を評価した。また、熱・換気回路網シミュレーションにより、改修工事が温湿度環境に与える影響について評価した。また、展示ケース建築材料のうち、コーキング剤について、放散速度を実測した。これまでに得られた内装材料の結果と合わせて、望ましい形の実験用の実大展示ケースを試作し、実スケールでの試験と評価を行うための準備を整えた。	
③	ア	**文化財の材質及び劣化調査法に関する研究**	東京文化財研究所
		基礎的研究として、小型可搬型機器によるその場分析の適用性向上を目的に機器や治具の改良等を行い、分析対象とする文化財の適用範囲の拡大を図った。また、応用的研究として、平安～江戸期の日本絵画の彩色材料調査、及び工芸品等の材質調査を積極的に進め、データの解析と蓄積を図った。さらに、これまでに小型可搬型機器を用いて実施した光学調査の成果をまとめ、調査報告書を刊行した。	
	イ	**ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等**	奈良文化財研究所
		サブミリ波イメージングにより、絹本著色の掛軸の層構造に関する非破壊調査を行った。フレスコ画試験体の層構造の検出に関する核磁気共鳴法とテラヘルツ分光イメージングの比較研究を行った。	
④		**周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究**	東京文化財研究所
		石造文化財や木造建造物など屋外にある文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響の軽減手法及び修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)磨崖仏の保存環境制御に関する現地試験及び石造文化財劣化と周辺環境影響に関する調査、(2)積雪寒冷地における木造建造物の保存環境に関する調査を実施した。	
		文化財の防災計画に関する研究	東京文化財研究所
		平成 25 年度は、(1)東日本大震災被災文化財に関する研究では、福島県の要請に応じて旧警戒区域内での文化財救援活動を継続し、新たに福島県被災文化財等救援事業の実施を実現した。宮城県では、同県被災文化財等保全連絡会議との連携を図りつ	

		つ、救援文化財一時保管場所について温湿度・生物環境に関する調査を実施した。また、津波水損文化財を対象に修復方法に関する実験研究を行った。(2)文化財の地震対策に関する研究では、東大寺戒壇堂建物の常時微動調査、石造文化財について石造多層塔の現地調査や石灯籠の振動台実験を行った。	
		・水浸した日本画の修復方法に関する調査研究(受託) ・文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業（受託）	
		文化財の放射線対策に関する研究	東京文化財研究所
		平成 25 年度は、(1) 放射線量の測定方法、環境評価等に関する研究では、ワーキンググループ会議を 3 回開催し、放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成した。(2) 汚染状態の現状把握と除染方法等に関する研究では、福島県で現地調査を開催するとともに、ワーキンググループ会議を開催して、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめた。これらの結果に関して、プロジェクトチーム会議及び研究会で議論を行い、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめた。	
⑤		**文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究**	東京文化財研究所
		本年度は中期計画の 3 年目にあたり、伝統的な文化財建造物の塗装材料である漆塗装や乾性油塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。また、これまであまり注目されてこなかった欄間木彫等の凹凸がある部材の塗装彩色の劣化メカニズムの解明や伝統技術及び材料の調査、現状維持修理方法の策定、復元レプリカの作成を伴う資料活用方法の模索などの調査研究にも着手した。合成樹脂に関する調査では、過去使用した建造物塗装のうちで合成樹脂を使用した際の劣化状態の調査と、伝統素材である膠材料を強化するため、合成樹脂とブレンドした際の塗膜の状態を理解するための基礎実験を継続した。また、第 7 回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会を開催した。	
		・絵金屏風の保存修理に関する調査研究(受託) ・松平定信≪細写 物語歌書『源氏物語』≫の収蔵箱の保存に関する調査研究（受託）	
		文化財修復材料の適用に関する調査研究	東京文化財研究所
		絵画修復材料に関する化学分析、クリーニング方法の検討実験を行った。建造物修理材料の現地曝露試験とその評価を開始した。工芸品の調査としてベトナム漆の現地調査を行った。	
⑥		**近代の文化遺産の保存修復に関する研究**	東京文化財研究所
		（1）服飾品：明治維新以降急速に普及した洋服、建築物や列車（御料車など）の室内装飾に使用された裂地などの保存と修復及び活用に関して、また、それまで服飾には	

使用されてこなかった材料を使った服飾品の保存手法等に関して関係者を招き、研究会を開催し、美術的な位置づけや技術的問題点に関する保存と修復手法について、発表、討論を行い、保存や修復に関する理解を深める事ができた。
（2）屋外展示物：屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。
（3）建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡、長崎県端島（軍艦島）、山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉など、史跡指定地に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。
（4）報告書：昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。

（参考）法人の自己評価

高温多湿な我が国において、文化財のカビの問題は非常に深刻である。「文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究」では、東日本大震災による津波などで被災した文化財の微生物劣化についての調査研究を昨年度に引き続いて実施し、今年度は対象とする文化財を広げ、民俗資料や写真等の調査も進めている。被災文化財の津波による生物被害についての詳細な研究成果は国内外にほとんどなく、貴重な成果である。

「文化財の防災計画に関する研究」では、東日本大震災以来、一貫して救出活動・保全対策・将来の防災対策を連続した事項として捉えて研究を継続しており、必要とされている被災文化財の保存修復に関する調査研究を進めると同時に、福島県における文化財救出支援体制の構築に大きく貢献した。

「文化財の放射線対策に関する研究」は、東日本大震災により発生した福島県の原子力発電所の事故により被曝した文化財の現状把握、調査手法、移動方法、除染方法等に関する研究が急務となったため、東京文化財研究所が中心となり、国立文化財機構の保存担当の職員、美術館関係者、福島県の関係者及び放射科学の専門家と一緒に検討を進めたものである。短期間で、放射線被害に関する危機管理マニュアル案及び、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめることができた。

その他各研究テーマにおいても、文化財保護政策上必要な調査・研究を、迅速かつ適切に実施したと認められる。今後も文化財保存・修復に関する研究を継続的に実施し、我が国の文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点としての機能を強化していきたい。

（4）高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

	調査研究の名称	施設名
①	**文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力**	東京文化財研究所
	高松塚古墳壁画については、壁画表面のクリーニングを継続実施するとともに、微生物による彩色の汚損被害について、効果が期待される酵素群の利用に関する研究を継続して進めた。キトラ古墳壁画については、墓室壁面から取り外した壁画の再構成作業実施にあたり、裏打ち材料の選定、強度の評価等に関する研究を行った。25 年 9 月の古墳施設整備作業（埋め戻し）までの間、石室・小前室などの温湿度の計測、古墳周辺の気象観測を実施した。両古墳壁画に用いられている材料に関して、各種機器による分析調査とマクロ撮影による状態調査を行った。	
	・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託） ・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託） ・装飾古墳の保存に関する調査研究事業（受託）	
	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	奈良文化財研究所
	文化庁が進める国宝高松塚古墳壁画の保存・活用に関する事業が円滑かつ適正に遂行するよう協力した。キトラ古墳では、史跡整備にむけて、墓道部の最終的な考古学的調査や記録作業を実施した。また、古墳の保存、活用、整備の方向性を検討にするにあたり、技術的な支援・協力を行った。	
	・大阪府安満宮山古墳出土品保存修理事業（受託） ・特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託） ・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託） ・装飾古墳の保存に関する調査研究事業－考古学的見地にもとづく調査研究－（受託）	
②	**国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力**	奈良文化財研究所
	本年度は檜隈寺の塔の南北軸線上にあたる位置（A 区）と回廊東南隅（B 区）の調査区を設定した。 A 区では古代の建物や溝、B 区でも中世と思われる建物を検出した。	
	・甘樫丘地区遺跡発掘調査業務(受託) ・キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務（受託）	
③	**農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力**	奈良文化財研究所

	大和平野支線水路等改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原京右京七条一坊および藤原宮外周帯(橿原市上飛騨町)にあたる。調査区は、幅約 1.5m(一部 2.4m)、南北約 110 mで、調査面積は 182 ㎡である。その結果、古代の素掘溝を検出し、記録した。
	・大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査(受託)

(参考)法人の自己評価

文化庁の要請に応じて、高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用について積極的に協力している。特にキトラ古墳では、25年9月に石室封鎖という段階を迎え、東京文化財研究所による環境調査と奈良文化財研究所による考古学的調査を連携して実施するなど、適時必要な調査研究を、迅速かつ適切に実施している。

また、古墳の保存・活用・整備の方向性の検討においても技術的な支援・協力を行っており、各関係機関との良好な関係のもと、円滑な事業遂行に大きく貢献していると考える。

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与したか。

(5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

調査研究の名称	
①	収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究
	東京国立博物館
	・収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	・特別調査法隆寺献納宝物(第 35 次)「金工品」
	・特別調査「書跡」第 11 回
	・特別調査「工芸」第 5 回
	・特別調査「彫刻」第 3 回
	・特別調査　屏風の箔地についての光学的調査研究
	・油彩画の材料・技法に関する共同調査
	・漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究
	・東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査
	・板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	・中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)
	・光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究(科学研究費補助金)
	・古筆切紙背の史料学的研究(学術研究助成基金助成金)
	・家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的

	研究(学術研究助成基金助成金)
	・絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究(科学研究費補助金)
	・刀装具一派後藤家の鑑定　極帳(鑑定控)の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	・近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金)
	・寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動に関する研究(学術研究助成基金助成金)
	・武家女性の衣生活に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	・縄文時代における浅鉢形土器の研究(学術研究助成基金助成金)
	・創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
	・東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究
	・博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	・中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	・模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	・江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金)
	・神像表現における物語性の研究(学術研究助成基金助成金)
	・視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する(科学研究費補助金)
	・日本における「美術」概念の再構築－語彙と理論にまたがる総合的研究(科学研究費補助金)
	・描いた女性たちに関する研究－桃山時代から明治・大正期まで(科学研究費補助金)
	・武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	・三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	・木彫像の樹種識別技術の高度化(科学研究費補助金)
	・在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信(科学研究費補助金)
	京都国立博物館
	・訓点資料としての典籍に関する調査研究

		・彫刻に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
		・出土・伝世古陶磁に関する調査研究を行う
		・特別展観「遊び」に関する調査研究
		・特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)
		・特別展覧会「南山城の古寺巡礼」に関する調査研究
		・収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	奈良国立博物館	
		・館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる
		・館蔵品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する
		・特別展「みほとけのかたち－仏像に会う－」に関する調査研究
		・平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての資源化を進める(学術研究助成基金助成金)
	九州国立博物館	
		・X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析
		・平成20年度に開催した特別展「工芸のいま　伝統と創造」の成果を基礎とした九州・沖縄の伝統工芸作家についての継続的かつ発展的な調査研究
		・日本中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究
		・中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
		・九州南島の先史時代の資料に関する調査研究
		・和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究
		・収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
		・西光寺梵鐘の総合調査
②	アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究	
	東京国立博物館	
		・館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
		・東洋民族資料に関する調査研究
		・東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(科学研究費補助金)
		・東アジアにおける繍仏の基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
		・極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
		・仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金)
		・中国典籍日本古写本の研究(科学研究費補助金)
		・5～9 世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)

		・東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)
		・古代イスラエルの墓制と他界観に関する綜合的研究(科学研究費補助金)
		・南宋絵画史における仏画の位相―都と地域、中国と周縁―(科学研究費補助金)
		・海外展「青山杉雨のコレクションと書」に関する調査研究
		・特別展「和様の書」に関する調査研究
		・特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」に関する調査研究
		・特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」に関する調査研究
		・特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究
		・海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」に関する調査研究
		・特別展「人間国宝展－生み出された美、伝えゆくわざ－」に関する調査研究
		・特別展「支倉常長像と南蛮美術－400 年前の日欧交流」に関する調査研究
		・特別展「栄西と建仁寺」に関する調査研究
		・特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査研究
		・特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」に関する調査研究
		・特別展「日本国宝展」に関する調査研究
		・特別展「みちのくの仏像」に関する調査研究
	奈良国立博物館	
		・中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究
		・日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究
	九州国立博物館	
		・朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究
		・九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設(科学研究費補助金)
		・武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究
		・神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関連する作品の調査研究
		・中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱(高麗経箱)に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)
		・タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
		・ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流についての調査研究
		・中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
		・契丹壁画墓の集成と公開　－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
		・水中遺跡の保存活用に関する調査研究(文化庁受託事業)

		・特別公開「江上波夫の眼　ことばとかたち」に関する調査研究
③	京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究	
	京都国立博物館	
		・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)
		・近世絵画に関する調査研究
		・漆工芸に関する調査研究(科学研究費補助金)
④	仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究	
	奈良国立博物館	
		・特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像　−迫真とエキゾチシズム」に関する調査研究
		・特別陳列「お水取り」に関する調査研究
		・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究
		・當麻曼荼羅完成 1250 年記念「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」に関する調査研究
		・特別展「みほとけのかたち～仏像に会う」に関する調査研究
		・特別展「正倉院展」に関する調査研究
		・綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する
⑤	アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究	
	九州国立博物館	
		・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
		・特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究
		・特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究
		・特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究
		・特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝展」に関する調査研究
		・特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究
		・特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」展に関する調査研究
⑥	有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究	
	東京国立博物館	
		・博物館の環境保存に関する研究
	京都国立博物館	
		・修復文化財に関する資料収集及び調査研究
		・文化財の保存・修復に関する調査研究
	奈良国立博物館	
		・収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調

		査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る
		・館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する
		・館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する
	九州国立博物館	
		・文化財の材質・構造等に関する共同研究
		・博物館における文化財保存修復に関する研究
		・博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究
		・東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCOとの共同）
		・赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究(学術研究助成基金助成金)
		・三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発－興福寺　国宝阿修羅像を中心に－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
		・三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
		・石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
⑦	文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究	
	東京国立博物館	
		・博物館環境デザインに関する調査研究
		・博物館教育に関する調査研究
		・博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
		・凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する
		・聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)
		・藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)
		・日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開(科学研究費補助金)
		・文化財管理における美術品用語辞典の作成(科学研究費補助金)
	京都国立博物館	
		・文化財情報に関する調査研究
		・新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究
		・高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究

奈良国立博物館	
	・歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる
	・文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる(学術研究助成基金助成金)
九州国立博物館	
	・NHKと協同で高精細画像を活用したシアター4000 での映像公開に向けた研究
	・特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究
	・学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・調査
	・平成 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据え、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討
	・高等学校所蔵考古資料の調査研究

（参考）法人の自己評価

各博物館とも、日常の調査研究の成果が特別展や特集陳列などの展示に結びついている。東京国立博物館における特別展「和様の書」、京都国立博物館における特別展観「遊び」、奈良国立博物館における特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」などにその成果が活かされた。九州国立博物館においては、「ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流についての調査研究」の共同研究の成果を、文化庁海外展「日本文化展」（会場：ベトナム国立歴史博物館、26年1～3月）の展示に反映することができた。

特に、東京国立博物館における「東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究」は、津波被害にあった文化財の保存修復についての保存環境や安定化処理を含めた調査研究であり、その成果は他地域においても有用と考える。また、九州国立博物館における「文化財の材質・構造等に関する共同研究」では、「火炎土器」の三次元プリンタによる原寸大デジタル複製品を製作し、手に触れるハンズオン展示として活用するなど、最新技術と研究成果を展示に生かし、マスコミでも注目された。

共同研究については、「綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する」（奈良国立博物館・東京文化財研究所）を継続して実施した他、「特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査研究」は、東京国立博物館・東京文化財研究所・奈良文化財研究所他の共同事業である翌年度（26年4～5月）開催の特別展として実を結んでいる。

文化財の保存と公開という博物館の使命を持続するために保存環境やリスク回避などについての研究を行い、次世代へ継承するために不断の努力を続けている。各館の特色を生かした有形文化財に関する調査研究と同時に、効果的な展示手法や博物館教育活動等に関する調査研究、文化財情報に関する各種データベース構築など、公開に力点を置いた研究も成果を上げており、次世代への継承及び我が国の文化の向上に寄与している。

また、自己点検評価報告書の作成にあたり、特別展の開催に伴う調査研究を今回から4館とも報告するなど、これまで各館で差異があった部分についても4館統一する方向で調整した。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保したか。

○研究の実施にあたっては、外部資金を活用したか。

3. 調査研究の成果の状況

主な実績

		学術雑誌等への論文掲載数		学会、研究会等での発表件数	
		24年度	25年度	24年度	25年度
(1)	文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進	86 件	78 件	58 件	66 件
(2)	文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進	24 件	14 件	50 件	18 件
(3)	科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として先端的調査研究等の推進	16 件	17 件	19 件	26 件
(4)	国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施	4 件	13 件	2 件	3 件
(5)	有形文化財の収集・保管・管理・展示・教育活動等に係る調査研究	218 件	207 件	205 件	142 件
(6)	保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備	－	1 件	1 件	4 件
(7)	諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進	2 件	2 件	9 件	9 件
(8)	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究	1 件	1 件	6 件	1 件
(9)	情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	－	1 件	1 件	1 件
(10)	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館における調査・研究成果	－	9 件	－	－

(11)	地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	5件	—	—	—
	計	356件	343件	351件	270件

外部資金の獲得

■科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数

	24年度	25年度
新規応募件数	103	112
新規採択件数	33	33
新規採択率	32%	29.5%
件数(新規＋継続)計	88	95
直接経費(千円)	199,900	221,950
間接経費(千円)	59,820	66,585
交付額計(千円)	259,720	288,535

(参考)法人の自己評価

専門家や研究者への研究成果の還元については、論文や学会での発表を通して、着実に成果をあげている。論文掲載数と発表件数については、件数ベースでは昨年度比では若干減となったが、内容は充実しており、今後も各分野の学会や専門誌・出版物等により研究成果の発信を継続するとともに、一般社会への還元についても努力していきたい。

科研費については、25年度も積極的な応募により、外部資金を活用しながら調査研究を実施している。

【(中項目)1－5】	5 文化財保護に関する国際協力の推進	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)1－5－1】	国際協力に関する研究基盤の整備	【評定】 A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。

(1)文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。

(2)国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p497-p498 5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備
p499-p510 5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

・自己点検評価報告書 統計表
p105 5-(1)-②国際ワークショップ開催実績一覧
p136-p160 共通資料 c-① 研究交流実績一覧
p165-p166 共通資料 c-②調査研究テーマ一覧
p173-p179 共通資料 c-③ 学会、研究会等発表実績一覧
p183- 共通資料 c-⑤ 論文等発表実績一覧

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	229	223	227	178	163	152
従事人員数(人)	90	88	92	88	86	88

※決算額は、決算報告書・国際研究協力事業費の決算額を計上している。(小項目1－5－1と1－5－2は個別に計上できないため。)

※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○情報の収集・分析及びその提供を行い、国際協力のネットワークを構築したか。 ○アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めたか。	**主な実績** 調査研究の名称 (1)① **文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信**　東京文化財研究所 世界遺産委員会(プノンペン)、無形文化遺産政府間委員会(バクー)等の国際会議に出席し、国際情報収集を行った。また日本の文化財の所蔵館や、他の所内業務において関連のある美術館・博物館を中心にアメリカ及びイギリスにおける動産文化財の所蔵・管理状況についての調査を行った。また、文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たに 1 冊刊行した。さらに研究機関間の連携強化とネットワーク構築のため、国際的な研究交流を推進した。 ・文化遺産国際協力コンソーシアム事業(受託) ・第 37 回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成(受託) ・第 37 回世界遺産委員会審議調査研究事業(受託) ・第 38 回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成(受託) (2)① ア **中国の文化遺産の保存修復のための共同研究**　東京文化財研究所 敦煌研究院、陝西省考古研究院、中国文化遺産研究院との共同関係を維持し、外部資金も活用しつつ、壁画・石造文化財等の保護に関する共同研究、人材育成について実績を上げた。 イ **韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究**　東京文化財研究所 韓国国立文化財研究所(韓文研)とワークショップを実施し、北海道の手宮洞窟及びフゴッペ洞窟で共同調査を行った。 ウ **東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力**　東京文化財研究所 カンボジア、タイの両国において協力事業を実施した他、ミャンマーにおける文化遺産保存に関する情報収集及び共有、その他各国の関係機関との調整等を行った。 ・ラチャプラディット寺院螺鈿扉修復計画策定のための調査研究(受託) ・文化遺産国際協力拠点交流事業(ブータン)(受託) ・「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」ユネスコ日本信託基金事業(受託) ・文化遺産国際協力拠点交流事業(ミャンマー)(受託) ウ・エ **カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査**　奈良文化財研究所 西トップ遺跡に関しては、遺跡の安定化を図るための修復工事に本格的にとりか	国際的な協力体制のもとで文化財保護を図るため、国際情報の収集とともに、外国研究機関との共同研究・調査を実施し、ネットワーク形成の努力がなされている。また世界遺産等に関わる文化財ネットワークの構築、国際会議や国際シンポジウムへの参加にも努め、国際文化交流を積極的に推進した。 アジア諸地域において保存、修復、環境調査、技術研修など、文化財保護に関わる事業を展開し、日本の国際貢献に大きな役割を果たしたと評価できる。

	かり、まず南祠堂の解体修理に着手した。本年度中に上部構造及び基壇の解体を完了し、コンクリートベース上での仮組み作業を終えた。タンロン皇城遺跡に関しては、ユネスコ日本信託基金による事業に協力し、総括としてのシンポジウムに参加した。 ・平成 25 年度文化遺産国際協力拠点交流事業(ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業・考古分野)(受託) ・平成 25 年度文化遺産国際協力拠点交流事業　ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業(受託) エ **西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業**　東京文化財研究所 (1)アフガニスタン:バーミヤーン遺跡保存事業に関する調査研究、報告書の作成・刊行を実施した。 (2)イラク:保存修復専門家の人材育成・技術移転を実施した。 (3)西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力等:タジキスタン、インド、中央アジア諸国、コーカサス諸国、エジプトにおいて実施した。 ・文化遺産国際協力拠点交流事業(アルメニア及びコーカサス諸国等)(受託) ・文化遺産国際協力拠点交流事業(キルギス及び中央アジア諸国)(受託) ・文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ツバル・キリバス・フィジーの文化遺産保護に関する技術的調査」(受託) ・ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業(ウズベキスタン)(受託) ・ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業(タジキスタン)(受託) ・ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　バーミヤーン遺跡保存事業(受託) オ **ユーラシア壁画の調査研究と保存修復**　東京文化財研究所 (1)タジキスタン:タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土の壁画断片の調査及び保存修復を行った。 (2)ロシア:エルミタージュ美術館と今後の協力体制の構築に向けた協議を行った。 **(参考)法人の自己評価** 国際的な文化財機構のネットワーク構築のため、国際会議への参加や国際シンポジウムの開催等を行い、専門家間の交流や情報交換を推進した。国際協力事業については、カンボジア、タイ、ミャンマーなどアジア地域を中心に文化財保存修復に積極的に協力し、国際協力が図られている。	

【(小項目)1－5－2】	保存修復に関する技術移転の推進

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(3)文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

【評定】
A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p511-p516 5-(3) 研修・専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成及び技術移転
・自己点検評価報告書 統計表
p105 5-(1)-②国際ワークショップ開催実績一覧
p107 5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	229	223	227	178	163	152
従事人員数(人)	90	88	92	88	86	88

※決算額は、決算報告書・国際研究協力事業費の決算額を計上している。(小項目1－5－1と1－5－2は個別に計上できないため。)
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○諸外国への文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進めたか。	**主な実績** 調査研究の名称 (3) ① **国際研修「紙の保存と修復」** 東京文化財研究所 和紙を使用した紙本文化財の保存修復に関して研修を行った。 (1)日本国内研修:材料、美術史、装こうに関する講義。巻子修復、和綴じ冊子修復及び掛軸・屏風の取り扱い実習。和紙製造現場の視察。 (2)メキシコ研修:材料、装こう技術、装こう道具に関する講義。デンプン糊調製、和紙を用いた裏打ち、和紙を用いた強化、欠失部の補てんに関する実習。 **在外日本古美術品保存修復協力事業** 東京文化財研究所 ・掛軸 1 作品、屏風1作品の修復を完了し、所蔵館に返還した。	文化財の保存修復技術を諸外国へ移転するため、外国人技術者を対象とする、紙本修復、漆工芸品や絵画の修復に関する研修、ワークショップを計画通り実施した。また、ユネスコアジア文化センターの開催による木造建築物の保存・修復等の研修会にも、積極的な関わりをもった。日本が先進的な技術を有する紙・木の文化財について、国際貢献が確実になされている。

	・作品修復のため、漆工芸品 1 作品を輸入した。 ・今後の修復候補作品選定のため、漆工芸品及び絵画の調査を行った。 ・ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを開催した。 ・ケルンにおいて漆文化財の保存修復に関するワークショップを開催した。 ・エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズⅡ)に係る国内支援業務(受託) ② **ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力** 奈良文化財研究所 集団研修ではアジア太平洋諸国 16 ヵ国、16 名の研修生に対して、木造建造物の保存と修復についての研修を行った。また個人研修ではキリバス人専門家 2 名に対して、遺跡の整備・活用に関する研修を行い、またバングラデシュ人専門家 3 名に対して、遺跡・遺物の調査と保存に関する研修を行なった。さらにスリランカで実施された「文化遺産ワークショップ」に協力し、講師 1 名を派遣した。こうした研修により、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。	

(参考)法人の自己評価

諸外国の文化財保護に係る人材育成と文化財の保存・修復に関する技術移転を目的とした研修・ワークショップ等を計画通り実施することができた。

国際研修「紙の保存と修復」は、日本の紙本文化財を所蔵する海外の美術館・博物館に、そのような文化財の保存修復専門家が所属していることは稀であるため、これらに関する情報や経験を得る機会として継続して実施しているものである。日本国内における研修に加えて、メキシコにおいても研修を行い、参加者から高い評価を得た。

在外日本古美術品保存修復協力事業は、海外で所蔵されている掛軸や屏風などの紙本絹本文化財及び漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還する事業である。関連のワークショップも開催し、保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行っており、海外からの評価も高い。

ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力においては、ユネスコアジア文化センター奈良事務所の発足以来、文化遺産の保存、特に埋蔵文化財と建造物に関する保存の研修への協力を継続している。25年度は集団研修1回と個人研修2回、ワークショップ1回を行い、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助とし、また、国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。

【(小項目)1－5－3】	無形文化遺産保護の国際的充実

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(4)23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【評定】

A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
- p517-p518 5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究
- p662 (受託事業) 平成25年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム
- p663 (受託事業) 東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー

・自己点検評価報告書 統計表
- p141-p143, p159-p160 共通資料 c-① 研究交流実績一覧
- p165 共通資料 c-② 調査研究テーマ一覧
- p180 共通資料 c-③ 学会、研究会等発表実績一覧
- p182 共通資料 c-④シンポジウム開催実績一覧
- p180 共通資料 c-⑤ 論文等発表実績一覧
- p201 共通資料 c-⑥ 調査研究刊行物一覧
- p210 共通資料 d ウェブサイトアクセス件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)				45	63	66
従事人員数(人)				1	1	1

※決算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおける決算報告書・受託事業費及び調査研究事業費の決算額を計上している。

※従事人員数は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行ったか。	**主な実績** 調査研究の名称 (4) **アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進**　アジア太平洋無形文化遺産研究センター 文化庁受託事業「平成25年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」、文部科学省補助金「平成25年度 政府開発援助ユネスコ活動費補助金」事業、及びユネスコ受託事業「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」を通じ、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究に関する国際専門家会合の開催、保護の現状に関する現地での実態調査、「無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム」の開催、及び無形文化遺産保護に関する研修等を実施した。なお、これらの事業は当センター第 2 回運営理事会において改定された中長期計画、及び承認された事業計画に基づき実施されたものである。 ・平成25年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム(受託) ・平成25年度 政府開発援助ユネスコ活動費補助金(補助金) ・東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー(受託) **(参考)法人の自己評価** アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、22年8月に日本政府とユネスコとの間で締結された無形文化遺産の国際研究センター設立に関する協定に基づき、23年10月に設置された、機構の7番目の施設である。 25年度も限られた人員の中で国内・海外の協力機関と連携し、危機に瀕した無形文化遺産の調査の実施や研修への講師派遣に加え、国際シンポジウム、国際会議並びにワークショップ等を開催することができた。無形文化遺産とその保護に対する関心は近年各国において高まりを見せており、調査研究の成果の一部を報告書やウェブサイトで多言語にて公開し、その関心に応えている。	平成 25 年度も限られた人員の中で国内・海外の協力機関と連携し、危機に瀕した無形文化遺産の調査の実施や研修への講師派遣に加え、国際シンポジウム、国際会議並びにワークショップ等を開催することができたことは高く評価する。また、調査研究の成果の一部をウェブサイトにおいて多言語で公開していることも評価できる。

【(中項目)1－6】	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)1－6－1】	情報基盤の整備充実	【評定】 A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。

(1)文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p519-p530 6-(1) 情報基盤の整備充実

・自己点検評価報告書 統計表
p107 6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	146	144	127	147	201	161
従事人員数(人)	23	21	22	22	21	20

※決算額は、決算報告書・情報公開事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－2と重複があり、個別に計上できないため。)

※従事人員数は、東京文化財研究所の企画情報部、奈良文化財研究所の企画調整部の常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ったか。また、文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ったか。	**主な実績** ・平成 25 年 9 月、所外からのグループウェア閲覧の利便性を図るため、VPN 接続についてタブレット端末からの閲覧を可能にするソフトウェアを導入した。(東文研) ・平成 25 年 11 月、インターネット接続について、従来の専用線から公衆回線での接続に変更した。その際、VPN 接続を行うことでセキュリティは確保しつつ利用料の低減を実現するとともに、接続速度は従来通りもしくは向上した。(東文研) ・平成 25 年度にハードウェア保守の期限が切れるネットワーク機器を更新した。(東文研) ・無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化を進めた。(東文研) ・文化財情報電子化の研究として、GIS(地理情報システム)の技術を活用した考古情報の分析に関する調査研究を行った。(奈文研) ・平成23年度・24年度に文化庁の委託により東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を運営し、また活動そのものにも携わった文化財レスキュー事業に関する情報を、同委員会の付託により収集・整理し、ウェブで公開した。(東文研) ・資料閲覧室の運営、並びに資料の登録と情報のデータベース化、またそれを利用した外部公開用 SQL データの更新・運用を行った。(東文研) ・セインズベリー日本藝術研究所と共同で「日本芸術研究の基盤形成事業」を開始した。(東文研) ・遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入及び寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。また、本庁舎の移転に伴い、分散配置されていた資料を集中管理するとともに図書の配列を見直し、所在をより明らかにした。(奈文研) **(参考)法人の自己評価** ネットワーク機器の更新やインターネット接続回線の見直し等を適切に行い、セキュリティの強化及び情報システムの利便性向上は順調に進められている。データベース構築、各種資料のデジタル化等、専門的アーカイブの拡充も着実に行われており、閲覧室の運営、インターネットでの公開ともに順調である。奈良文化財研究所においては、本庁舎建替工事に伴う仮設庁舎への移転があり、分散配置されていた資料を集中管理することが可能となった。 被災文化財関連情報に関するデータの蓄積・分析及び情報発信については、東京文化財研究所が事務局を担当し、集約した文化財レスキューに関する情報を公開することができた。災害発生時の緊急対応である文化財レスキューに関する情報を分析・公開することにより、文化財レスキュー自体について総括するだけでなく、次の災害への備えの検討のための資料とすることができるものである。	セキュリティの強化とともに有形文化財のデータベースの拡充、無形文化財を含めた各種資料のデジタル化が着実に進められ、その閲覧とインターネット上の公開も順調に進められた。またセインズベリー日本藝術研究所との共同事業を開始したことも特筆される。 震災関連では、被爆資料に関する情報の蓄積と分析を行い、その情報を広く公開して、将来的な大規模災害に備える情報基盤の整備を図ったことは高く評価できる。

【(小項目)1－6－2】	調査研究成果の公開・提供の公開・提供

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(2)文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【評定】

A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p531-p552 6-(2) 研究所の研究成果の発信
p517-p518 5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

・自己点検評価報告書 統計表
p107-p108 6-(2)-① 公開講演会、現地説明会
p182 共通資料 c-④シンポジウム開催実績一覧
p200-p201 共通資料 c-⑥調査研究刊行物一覧
p210 共通資料 d ウェブサイトアクセス件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額①(百万円)	146	144	127	147	201	161
決算額②(百万円)	112	163	150	197	213	151
従事人員数(人)	23	21	22	23	22	21

※決算額①は、決算報告書・情報公開事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－1と重複があり、個別に計上できないため。)
決算額②は、決算報告書・展示出版事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－3と重複があり、個別に計上できないため。)
※従事人員数は、H18～H22 は東京文化財研究所の企画情報部、奈良文化財研究所の企画調整部の常勤学芸職員の人数を計上、H23 はこれにアジア太平洋無形文化遺産研究センターの常勤学芸職員を加えた人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行ったか。また、ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図ったか。	**主な実績** ・『年報』、『概要』、『東文研ニュース』、『Tobunken News Digest』、『日本美術年鑑』、『美術研究』、『保存科学』など、定期刊行物を刊行した。(東文研) ・『無形文化遺産研究報告』第8号、『第8回無形民俗文化財研究協議会報告書』など、研究報告書を刊行した。(東文研) ・24年12月に開催した第36回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「文化財の微生物劣化とその対策―屋外・屋内環境、及び被災文化財の微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピック―」Microbial Biodeterioration of Cultural Property:Recent Topics on the Investigation of and Countermeasures for Biodeterioration of Outdoor / Indoor Properties and Disaster-affected Cultural Objectsの口頭発表15件の内容をまとめた論文と、ポスター発表23件の要旨を収録したプロシーディングスを編集、出版した(26年1月出版)。(東文研) ・『紀要』、『概要』、『奈文研ニュース』、『埋蔵文化財ニュース』など、定期刊行物を刊行した。(奈文研) ・第37回文化財の保存と修復に関する国際研究集会を開催した。(東文研) ・第47回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」を開催した(参加者数:207人、アンケートによる満足度:85%)。(東文研) ・公開講演会は、例年実施している定例公開講演会(奈良)を2回、特別講演会(東京)を1回、飛鳥資料館特別展記念講演会を2回開催した。(奈文研) ・発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計5回実施した。(奈文研) ・ウェブサイトのレイアウトを更新し、毎月の活動報告(和英)の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。(東文研) ・ウェブサイトの多言語化対応(英語、中国語、韓国語)を行った。また、コラムを継続発信し、企画展ブログを試行した。(奈文研) ・無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム」の事業報告の掲載や、現行の日本語、英語、タイ語、ベトナム語に加え、タミル語、クメール語、ラオ語を新規に追加し、計7言語での情報発信に向けた準備作業を行った。(無形センター) (参考)ウェブサイトアクセス件数(ユーザーセッション数)	文化財の保存・修復に関わる国際研究集会や公開講演会・発掘現地説明会などを開催し、専門家から市民まで幅広い聴衆を対象とした、情報公開を積極的に行った。 ウェブサイトでは、レイアウトの更新やメールマガジンによる情報発信、多言語化など内容の充実と改善を図り、アクセス件数が増加していることを評価したい。 またウェブサイトの多言語化も推進されており、「無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム」の事業報告の掲載や、現行の日本語・英語・タイ語・ベトナム語に加え、タミル語、クメール語、ラオ語を追加した計 7 言語でウェブ掲載すべく準備されていることに注目したい。

ウェブサイトアクセス件数	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
東京文化財研究所	1,405,278	1,417,203	1,489,091	1,314,541	(*1) 1,230,718	1,410,075
奈良文化財研究所	(701,711)	571,283 (1,030,905)	641,695 (4,977,076)	457,154	425,044	447,563
アジア太平洋				1,838	5,289	5,454

無形文化遺産研究センター				(23年12月16日サイト開設)		

※（　）内の実績値は、計数方法が異なるため参考数

(*1) 参考値。サーバ入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24 年 10 月～25 年 2 月のアクセスログが消失したことから、24 年度東文研の年間アクセス件数は不明である。ログが保存されている 7 ヶ月間のアクセス件数 717,919 件の月平均を 12 倍した値を、参考値として記載している。

（目標値について）

ウェブサイトアクセス件数は、23 年度より目標値を設定していない。22 年度までは、前中期計画期間の年度平均実績を目標値としていたが、インターネット環境や関連技術の進歩や世代交代が速いため、前中期計画期間との比較がほぼ意味をなさないこと、また、23 年度からアクセス件数の単位をユーザーセッション数に統一したため、第 2 期中期計画期間と第 3 期中期計画期間とで、実績値の単位がそもそも異なる施設があることから、目標値を設定していない。

（参考）法人の自己評価

25 年度も研究報告書や年報等定期刊行物の刊行により研究成果の公表を行っている。また、文化財の保存・修復に関する国際研究集会を通して、文化財の保存・修復の国際的な課題や取組みなどを検討する機会を設け、研究成果を積極的に公表している。

オープンレクチャーや現地説明会などを通した一般への研究成果の公表にも力を入れており、今後も積極的に公表の機会を設けていきたい。

ウェブサイトについては、利便性向上のためのページレイアウト変更やコンテンツ更新を引き続き行い、内容の充実に努めるとともに、多言語化対応や企画展ブログの試行など、アクセス件数の向上を図った。

【(小項目)1－6－3】　公開施設の運用

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(3)平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。

(4)文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【評定】

A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表

p553-p558 6-(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

p559-p572 6-(4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

・自己点検評価報告書　統計表

p113 共通資料 a-①来館者数推移(入館料別)(過去5ヵ年)

p115 共通資料 a-②来館者数推移(展覧会別)(過去5ヵ年)

p116 共通資料 a-③入場料収入

p131-p132 共通資料 a-④平常展・特別展・海外展

p89 2-(4)-⑤ 広報実績一覧

p135 共通資料 b ボランティア受入れ実績

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額(百万円)	112	163	150	197	213	151
従事人員数(人)	90	88	92	88	86	88

※決算額は、決算報告書・展示出版事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－2と重複があり、個別に計上できないため。)

※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示の充実を図ったか。また、来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保したか。	**（3）平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館** **主な実績** ・平城宮跡資料館 春期企画展「発掘速報展平城 2012」を開催した。（25 年 3 月 16 日～6 月 2 日） 夏期企画展「平城京どうぶつえん」を開催した。平城宮・京から出土した様々な動物の出土品を集めて展示し、ワークショップなど親子で楽しめるイベントも実施した。（25 年 7 月 13 日～9 月 23 日） 秋期特別展「地下の正倉院展－木簡学ことはじめ/平城宮・京の発掘調査の50年」を開催した。木簡の実物公開を行うとともに、同時開催として都城発掘調査部平城地区（元平城宮跡発掘調査部）設立50周年を記念した写真パネル・動画展示を行った。（25年10月19日～12月1日） ・飛鳥資料館 第 1 展示室の展示内容を部分的に改装し、特別陳列室の内装を全面的に改装。重量石像物の床補強を実施した。 春期特別展「飛鳥寺 2013」を開催した。（25 年 4 月 26 日～6 月 2 日） 夏期企画展「飛鳥・藤原を考古科学する」を開催した。（25 年 8 月 1 日～9 月 1 日） 秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」を開催した。（25 年 10 月 18 日～12 月 1 日） 「発見 30 周年記念　キトラ古墳壁画特別公開」を開催した。（26 年 1 月 17 日～1 月 26 日） 冬期企画展「飛鳥の考古学 2013」を開催した。（26 年 2 月 14 日～3 月 16 日） ・藤原宮跡資料室 常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスの速報展示コーナーでは、最新の調査研究成果の公開を実施した。その他、適宜展示解説や各地の博物館への文化財貸与を行った。 昨年度開始した橿原市の解説ボランティアによる土日開館を継続して実施した。 【研究公開施設来館者数】指標：前中期計画期間年度平均来館者数（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く）（中期計画） 平城宮跡資料館　来館者数（目標値：85,300人）	平城宮跡資料館、飛鳥資料館、藤原宮跡資料室は、それぞれ企画展や特別展、速報展示などを積極的に実施し、展示公開の充実を図っている。平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室は、来館者数の目標値を越えており、藤原宮跡資料室での土日開館の継続など、国民のニーズに応えるものとして評価できる。飛鳥資料館は目標達成に届かなかったが、研究成果を活用した特別展、企画展等を7回開催するなど、努力が認められる。 文化庁・国土交通省による平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備・公開・活用事業に全面的に協力し、具体的な事業を支えた。特に、国土交通省が計画している平城宮跡展示館（仮称）については、展示評価や視察調査の成果を反映した基本設計見直し新案を作成し、平成 27 年度の実施設計に向けて大きく前進したことは評価出来る。 ボランティアへの学習・研修機会の提供とともに、ボランティア活動への支援が平成 25 年度文化庁長官表彰に結びつき、またボランティアによる一般来場者への文化財理解に寄与していることも評価したい。

A	B	C	実績	定量的評価
85,300人以上	59,710人以上 85,300人未満	59,710人未満	108,896人	A

飛鳥資料館　来館者数（目標値：48,800 人）

A	B	C	実績	定量的評価
48,800人以上	34,160人以上	34,160人未満	41,736人	B

	48,800人未満			

藤原宮跡資料室　来室者数（目標値：4,509 人）

A	B	C	実績	定量的評価
4,509人以上	3,157人以上 4,509人未満	3,157人未満	7,869人	S

（目標値について）

平城宮跡資料館、飛鳥資料館、藤原宮跡資料室の来館者数目標値は、中期計画に記載のとおり、前中期計画期間（18年度～22年度）の平均来館者数としている。また、より適正な定量評価とするため、特殊要因による著しい変動を除いて平均値を算出しており、こちらについても中期計画に記載のとおりである。

23年度目標値は、18年度～21年度の4年平均で設定している。これは、23年度年度計画策定時点で22年度来館者数が未確定であったためである。また、4年平均の際に、特殊要因のある年度は除いている。

24年度及び25年度の目標値は、22年度を含めた前中期計画期間の5年平均で算出している。ただし22年度が特殊要因のある年度の場合は除いている。なお、5年平均の数値と23年度の目標値を比較して、高い方の数値を24年度及び25年度の目標値として採用している。

[平城宮跡資料館]

特殊要因のあった年度として、21 年度（21 年 7 月～22 年 3 月の休館による減）、22 年度（「平城遷都 1300 年祭」による大幅な増）を除いた、18～20 年度の 3 年平均を目標値としている。

（77,560+85,486+92,597）÷3=85,214 端数を切り上げて 85,300 人を目標値に設定。

[飛鳥資料館]

特殊要因として、18～22 年度はキトラ古墳壁画に関する特別展を開催しており、23 年度以降の開催はないため、目標値はキトラ展を除いた来館者数にて算出している。

（参考）飛鳥資料館「キトラ展」来館者数

【飛鳥資料館来館者数】（人）	第 2 期中期計画期間				
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
総来館者数	112,128	100,825	84,608	77,347	133,312
うちキトラ展	60,018	52,203	37,382	30,366	100,307
うちキトラ展以外	52,110	48,622	47,226	46,981	33,005

※23 年度目標値は、下記にて算出した。（上記の表における網掛け部分の平均値）

（52,110+48,622+47,226+46,981）÷4=48,734 端数を切り上げて 48,800 人を 23 年度目標値に設定。

※24 年度及び 25 年度の目標値算出に当たり、22 年度実績を含めた前中期計画期間 5 年平均を下記のとおり算出し、比較した。

(52,110+48,622+47,226+46,981+33,005)÷5=45,589

比較した結果、23 年度目標値 48,800 の方が高い数値であるため、24 年度及び 25 年度も 48,800 を目標値として設定した。

[藤原宮跡資料室]

23 年度目標値は、18・20～21 年度の 3 年平均を目標値としていた。これは、特殊要因のあった年度として、19 年度(19 年 9 月 7 日～11 月 25 日「藤原京ルネッサンス」及び 11 月 1 日～12 月 27 日「フォトマップハイビジョン動画による高松塚古墳壁画 2006」による増)を除いたものである。

(4,457+4,423+4,341)÷3=4,407≒4,400 を 23 年度目標値に設定。

24 年度及び 25 年度の目標値算出に当たり、特殊要因 19 年度を除いた、18・20～22 年度の 4 年平均を下記のとおり算出し、比較した。

(4,457+4,423+4,341+4,815)÷4=4,509

比較した結果、4 年平均 4,509 の方が高い数値であるため、24 年度及び 25 年度のは 4,509 人を目標値に設定した。なお、桁が小さいため端数もこのままとした。

【研究公開施設来館者数】（人）	過去の実績に関する経年データ					25年度
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
平城宮跡資料館	92,597	25,127	354,346	132,295	124,515	108,896
飛鳥資料館	84,608	77,347	133,312	42,479	38,854	41,736
藤原宮跡資料室	4,423	4,341	4,815	2,971	9,510	7,869
（黒田記念館 ※）	19,038	20,345	18,458			
3 施設合計	200,666	127,160	510,931	177,745	172,879	158,501

※黒田記念館の来館者数は 22 年度まで研究公開施設に含み、23 年度から東京国立博物館平常展来館者数に含む。

(参考)法人の自己評価

平城宮跡資料館は、22 年度のリニューアルオープン以降、引き続き定期的に企画展を実施してきており、25 年度も 3 本の企画展・特別展を実施することができた。夏期企画展は、夏休みの子ども向け企画として開催しており、親子で楽しめるワークショップなど、出土遺物展示の新たな切り口を試み、来館者数についても目標値を上回った。

飛鳥資料館は、来館者数の目標達成率が 85.5%(24 年度:79.2%)となったものの、特別展 2 回、企画展等 7 回開催しており、キトラ古墳壁画や飛鳥藤原地区に関する発掘成果といった奈文研の調査研究の蓄積を生かした展示を行っており、成果をあげている。

藤原宮跡資料室は、昨年度より開始した土日開館を継続し、年末年始と展示替日を除いて毎日開館したことにより、来館者数は目標値を大幅に上回り、目標達成率は 175%(24 年度:211%)であった。展示内容についても、速報展示を随時更新するなどし、調査研究成果公開に大いに貢献した。

○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力したか。また、ボランティアへの活動支援を行ったか。

(4)文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力

主な実績

調査研究の名称		
①	**文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力**	奈良文化財研究所
	文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力し、文化庁の平城宮跡等整備事業に協力した。	
	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力	奈良文化財研究所
	(1)第一次大極殿院の建物復原にあたり、所内検討会及び有識者を招聘した検討会を開催し、記録集を作成した。 (2)平城宮跡の整備設計・工事等に対して、設計条件の整理、提出資料に対する助言、立会調査等を実施した。 (3)文化庁や国土交通省が開催する会議等に対して、専門的・技術的な援助・助言を行った。 ・平城宮跡歴史公園および朱雀大路緑地等の発掘調査(受託) ・第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査(受託) ・朱雀大路緑地の発掘調査(受託)	
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	奈良文化財研究所
	(1)国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳体験学習館の展示に資する奈文研所蔵資料一覧を作成、提示した。 (2)断続的に担当者間で調整・協議を行った。	
	国土交通省が行う平城宮跡展示館(仮称)の建設への協力	奈良文化財研究所
	(1)平城宮跡展示館における公園案内ゾーン、ガイダンスゾーンの展示内容に関する指導ならびに必要な情報提供を行った。 (2)平城宮跡展示館における詳覧ゾーンの基本設計の見直しを、設計業者の委託を受け、行った。	

	（3）平城宮跡展示館と平城宮跡内の他施設との役割分担を検討した。 ・平城宮跡展示館詳覧ゾーン展示内容調査業務（受託）	
②	**平城宮跡解説ボランティア事業の実施**　奈良文化財研究所 高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	
③	**平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加**　奈良文化財研究所 平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。	
④	**NPO法人等への支援**　奈良文化財研究所 ボランティア団体への支援は、その育成につながった。 平成 25 年度文化庁長官表彰において、特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワークが選ばれた。	

（参考）法人の自己評価

文化庁、国土交通省が行う、平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備、平城宮跡の復原・整備、平城宮跡展示館（仮称）の建設等について、積極的に協力を行っている。特に平城宮跡展示館（仮称）については、展示評価や視察調査の成果を反映した基本設計見直し新案を作成することができ、平成 27 年度の実施設計に向けて大きく前進した。また、平城宮跡解説ボランティアへの学習・研修機会の提供も引き続き行い、ボランティア運営を積極的に支援するとともに、ボランティアによるツアーガイド等を通じて、広く一般来場者への文化財について理解を深めることに貢献している。

【（中項目）1－7】	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【（小項目）1－7－1】	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築	【評定】 A

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

（1）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等　参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p573-p594　7-（1）　文化財に関する協力・助言の実施
p603　福島県内被災文化財等救援事業（福島県文化財レスキュー事業）

・自己点検評価報告書　統計表
p110　7-①　国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

【インプット指標】

（中期目標期間）	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額（百万円）	－	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	90	88	92	88	86	88

※決算額は、協力・助言等にかかる外注費が少額なため、個別に計上できない。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。
※25 年度の福島県内被災文化財等救援事業（福島文化財レスキュー事業）については、機構本部に救援事務局を設置して機構全体で取り組んでいるため、従事人員数に勘案していない。救援活動の参加人数は実績欄に記載している。

評価基準	実績	分析・評価

○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行ったか。

主な実績

	調査研究の名称	
①	**文化財の収集、保管に関する指導助言**	東京文化財研究所
	各研究員の専門的知識を活かして、地方公共団体等の行う文化財の収集、保存、展示に対して指導、助言を行った。	
	無形文化遺産に関する助言	東京文化財研究所
	平成 25 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁文化財部伝統文化課に対する助言を始め、9 件の助言を実施した。	
	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	東京文化財研究所
	本年度は、件数として 44 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだものもある。	
	・関西大学博物館及び考古学研究室保管奈良県高市郡明日香村牽牛子塚古墳出土夾紵棺一括の修理（受託） ・小石川後楽園得仁堂収蔵物の保存修復科学的な調査委託（受託）	
	文化財の虫菌害に関する調査・助言	東京文化財研究所
	本年度は、対応件数が 33 件であり、指導助言先も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ場合もあった。今後も継続して指導助言を実施し、適正に文化財の虫菌害対策が実施されるように努めるとともに、新たな知見を得ながら的確な指導助言が行えるように努力する。	
	文化財の材質・構造に関する調査・助言	東京文化財研究所
	平成 25 年度は、蛍光X線分析やX線回折分析による材質調査、X線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。	
	美術館・博物館等の環境に関する調査・助言	東京文化財研究所
	国指定品の収蔵、展示を予定する 35 館を対象とした環境調査を行い、報告書を作成した。また、全国の多くの文化財施設などからの保存環境に関する相談に対して、必要な対応を行った。	
	地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助	奈良文化財研究所
	対応した計 7 件の発掘調査は、主として個人住宅等の建設に伴う事前調査で、緊急性を要する調査に効率よく対応し、平城宮跡及びその隣接地、あるいは平城京の寺院跡などについての基礎資料を継続的に蓄積することができた。また、対応した立会調査は、当該地区における小規模開発に伴って、計 7 件に的確に対応し、当初の目的を達することができた。	
	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	奈良文化財研究所
	藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 10 件あり、主に工事に伴う事前調査や立会である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。	
	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所
	地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。	
②	**他機関等との共同研究及び受託研究を実施**	奈良文化財研究所
	地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。	
	・鳥取県鳥取市良田平田遺跡他2遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究（受託）	
③	**東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力**	奈良文化財研究所
	東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を踏まえ、一般的な発掘調査への支援はもとより、奈文研の特性を踏まえた技術について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を行った。	
（年度計画外に実施）	**福島県内被災文化財等救援事業（福島文化財レスキュー事業）**	国立文化財機構
	○福島県の支援要請を受けた文化庁の要請に拠り、文化庁、福島県被災文化財等救援本部及び関係団体と連携協力して福島県内被災文化財等救援事業を実施する体制として、機構本部に「福島県内被災文化財等救援事務局」を設置した（25年7月19日）。 ○旧警戒区域内の下記2施設において、被災文化財の救援事業を実施した。参加人数は、公益財団法人日本博物館協会・全国美術館会議を含み、のべ116人日（うち機構75人日）。 (1)富岡町歴史民俗資料館 (2)双葉町歴史民俗資料館 ○福島県被災文化財等救援本部と共同で「福島県内被災文化財レスキュー会議・福島県被災文化財等救援本部会議」を2回開催した。（9月3日、26年3月3日） ○「福島県被災文化財等救援本部幹事会（第4回）」に出席した。（9月25日、機構出席者2人） ○旧警戒区域内の被災文化財等救出対象リストの作成について、福島県被災文化財等救援本部へ指導・助言を行った。	

国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言　件数

東京文化財研究所、奈良文化財研究所は保存修復、発掘調査などの中核として、これまで培ってきた研究成果や調査技術をいかし、地方公共団体からの文化財に関する依頼に対して、協力や助言を積極的に行っている。

奈良文化財研究所は、被災地における緊急性の高い発掘調査を専門的見地から積極的に支援し、国立文化財機構として、社会の要請に応じて重要な責務を果たしたと評価したい。

東日本大震災の関連事業では、本年度より機構本部に福島県内被災文化財等救援事務局を設置し、旧警戒区域内の 2 施設における被爆資料の現状把握、除染、保存等に努め、地方公共団体への多大な貢献をしたことは高く評価できる。

ナショナルセンターとしての被災文化財レスキュー事業への貢献は、今後の新たな文化財防災体制構築にも向かい、重要な責務を果たすこととなろう。

区分	25 年度
文化財の収集、保存、展示に関する指導助言	25 件
無形文化遺産に関する助言	9 件
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	44 件
文化財の虫菌害に関する調査・助言	33 件
文化財の材質・構造に関する調査・助言	13 件
美術館・博物館等の環境に関する調査・助言	341 件
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	345 件
地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	7 件
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	10 件
東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	12 件
合計	839 件

（参考）法人の自己評価

文化財研究所は、文化財に関する研究や保存・修復、発掘調査等における我が国の中核として、地方公共団体からの文化財に関する依頼に対し、これまで研究所が培ってきた研究成果・調査技術等を活かした的確な協力・助言等を積極的に行っている。

東日本大震災の被災文化財レスキューにおいては、23・24 年度の 2 年間、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を担当し、救援活動を行ってきた。震災後 3 年目にあたる 25 年度は、機構本部に「福島県内被災文化財等救援事務局」を設置して（25 年 7 月）体制を整えた上で、各関係団体と連携協力して、旧警戒区域内の資料館から被災文化財を搬出することができた。

奈良文化財研究所では、東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う緊急性の高い発掘調査について、地元地方公共団体からの要請に応じ、支援・協力を実施した。これまでの調査研究成果を踏まえた技術的支援のみならず、発掘調査員の派遣も行っており、今後も要請に応じた支援を継続できるよう所内の体制を整備している。また、奈良文化財研究所のその他の取り組みとして、東日本大震災で水損した資料のクリーニングを行い、地元地方公共団体へ返却した。

被災文化財のレスキューや、研究所の調査研究成果を生かした復旧・復興支援は、社会の要請に対応するものとして、まさに国立文化財機構が担うべき事業であり、今後の新たな文化財防災体制構築に向け、極めて重要な責務を果たすことができた。

【（小項目）1－7－2】　中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

（2）文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

【評定】

A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p595-p602　7-（2）　保存担当学芸員研修の実施

・自己点検評価報告書　統計表
p110　7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

【インプット指標】

（中期目標期間）	H20	H21	H22	H23	H24	H25
決算額（百万円）	22	17	18	16	18	13
従事人員数（人）	90	88	92	88	86	88

※決算額は、研修事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施したか。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施したか。

実績

主な実績

調査研究の名称		
①	**文化財担当者研修**	奈良文化財研究所
	遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 9 課程の研修を実施し、延べ 138 名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。	
②	**博物館・美術館等保存担当学芸員研修**	東京文化財研究所
	第 30 回保存担当学芸員研修、第 18 回及び第 19 回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。	

分析・評価

奈良文化財研究所による地方公共団体の埋蔵文化財担当者を対象とする研修事業、東京文化財研究所による保存担当学芸員を対象とする研修事業は、いずれも参加者から充実した内容として高い評価を得ており、文化財の調査・研究を支える人材養成に大きく寄与している。

使用教材の専門性・内容により、教材作成について現状以上の効率化は不可能である。所有している施設を使う場合も管理業務は民間委託をしていることから、できう

③	**東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進**	東京文化財研究所
	保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また文化財保存学演習（文化財保存学専攻修士課程 1 年対象）を 1 コマ担当した。 平成 25 年度修士課程 1 年に、1 名の学生を受け入れ、修士論文指導を行った。	
	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	奈良文化財研究所
	京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 2 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。 なお、平成 25 年度の受入学生数は京都大学 38 名、奈良女子大学 5 名であった。 その他、奈良大学と協定を締結し、4 名の研究職員が非常勤講師として、学部生の教育を行った。	

【埋蔵文化財担当者研修　課程数・受講者数】指標：年度計画

課程数（9 課程）

A	B	C	実績	定量的評価
9課程以上	7課程以上 9課程未満	7課程未満	9課程	A

受講者数（述べ 117 人）

A	B	C	実績	定量的評価
117人以上	82人以上 117人未満	82人未満	138人	A

【保存担当学芸員研修　研修期間・受講生数】指標：年度計画

研修期間（2 週間）

A	B	C	実績	定量的評価
2週間以上	―	2週間未満	2週間	A

受講生数（25 人）

A	B	C	実績	定量的評価
25人以上	18人以上 25人未満	18人未満	30人	A

る効率化は図られていると判断する。

国の文化財保護施策の一翼を担う高度の専門人材を養成するための研修であり、その知識・技術等が各地域に普及することによって、国民共有の財産である文化財を守ることにつながる公益性の高い事業と判断でき、受講料を徴収しない運営方式は妥当と考える。

（目標値について）

埋蔵文化財担当者研修の課程数・受講者数、及び保存担当学芸員研修の研修期間・受講生数については、当該年度の研修計画に基づき、実施予定の課程数を目標値として、年度計画にて設定している。研修計画は、年度初・年度末・年末年始・お盆などの実施が難しい期間や、外部講師の都合、準備期間、会場の都合等を考慮する必要があるため、一定の制約がある中、年度単位でカリキュラムを決めている。

奈良文化財研究所の埋蔵文化財担当者研修の課程数について、25 年度目標値 9 課程が 24 年度目標値 14 課程より減の理由は、25 年度は奈良文化財研究所本庁舎の建替工事に伴い、研修棟が 25 年 11 月以降使用できない状況にあることから、9 課程のみ実施予定としていたためである。受講者数についても、実施予定の各課程の定員数の合計値を目標値として設定しているため、同様の理由により、25 年度目標値 117 人は 24 年度目標値 160 人より減となっている。

東京文化財研究所の保存担当学芸員研修については、25 年度目標値 2 週間・25 人は、24 年度目標値からの増減は無い。

		過去の実績に関する経年データ					25年度
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
【埋蔵文化財担当者研修】	課程数（課程）	14	12	11	13	12	9
	受講者数（人）	170	130	137	136	156	138
【保存担当学芸員研修】（※）	研修期間（週）	2	2	2	2	2	2
	受講生数（人）	29	31	33	27	30	30

※保存担当学芸員研修フォローアップ研修を除く

（参考）法人の自己評価

埋蔵文化財担当者研修、保存担当学芸員研修は毎年継続して実施しており、地方公共団体の文化財担当者や博物館・美術館の保存担当学芸員等を対象に、文化財の調査研究や保護について研修を実施することにより、将来的な文化財保護行政を担う人材の育成を図ることができていると考える。また、連携大学院教育においても、同様に人材育成に貢献している。

奈良文化財研究所の埋蔵文化財担当者研修については、前述の（目標値について）に記載のとおり、工事の関係で 25 年度の研修課程数は例年より少なかったが、26 年度は仮設庁舎での研修が可能となり、例年通りの課程数を実施予定である。

○業務の効率化について、教材作成作業等の効率化、研修施設の有効活用、施設管理業務の民間委託等の取組を行っているか。	【業務の効率化について】 　埋蔵文化財担当者研修（主催：奈良文化財研究所）については、埋蔵文化財の保護・活用を推進するため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象に、発掘調査や遺跡保護など、必要なテーマを毎年設定し、実施している。それぞれ専門性が高く、また各課程・各年度で内容も異なり、各課程の講師が研修資料をその都度作成していることから、これ以上の効率化は困難である。例年およそ 12～13 課程（25 年度は 9 課程）の研修を実施しており、奈良文化財研究所内の研修施設を活用し、25 年 11 月までは、施設管理業務について民間委託を実施していたところである。25 年 11 月からは、奈良文化財研究所本庁舎建替え工事に伴う旧庁舎の取り壊しを行い、26 年度より仮設庁舎にて研修を再開する予定であるが、宿泊施設はないため、施設管理業務自体が発生しない。 　保存担当学芸員研修（主催：東京文化財研究所）については、資料保存を担当する学芸員を対象に、基本知識や技術の習得を目的として毎年実施している。資料作成作業等については、前回の研修資料をアップデートして作成する等、効率化が図られている。研修の会場は同研究所内の会議室を使用しており、東京文化財研究所においては専用の研修施設等は所有していない。	
○受益者負担の妥当性・合理性があるか。	【受益者負担の妥当性・合理性について】 　埋蔵文化財担当者研修、保存担当学芸員研修のいずれも、全国の地方公共団体等において、文化財保護活動を行う者、文化財施設で貴重な資料の保存管理を担当する者を対象としており、我が国全体における、文化財保護に必要な人材の育成を目的としているものである。よって、これらの研修の受講を必要とする者の参加を促進し文化財保護に必要な知識・技術等の普及を図るため、受講料無料は妥当と考える。	

【(大項目)2】	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)2－1】	業務の効率化	【評定】 A

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 一般管理費等の削減

　中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

　なお、19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費を削減する。

　このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。具体的には下記の措置を講じる。

（1）共通的な事務の一元化による業務の効率化

（2）計画的なアウトソーシング

（3）使用資源の減少

・省エネルギー（エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減）

・廃棄物減量化

・リサイクルの推進

3 契約の適正化の推進

「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

4 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表

p671 Ⅱ-1-(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化

p672 Ⅱ-1-(2) 計画的なアウトソーシング

p673 Ⅱ-1-(3) 使用資源の減少

p675 Ⅱ-1-(4) 自己収入の増大

p677 Ⅱ－3 契約の適正化の推進

p678-p683 Ⅱ-4 保有資産の有効利用の推進

・自己点検評価報告書 統計表

p112 Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

評価基準	実績	分析・評価

○中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図ったか。 ・共通的な事務の一元化を図ったか。 ・計画的なアウトソーシングを図ったか。 ・エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%の削減を図ったか。 ・廃棄物の減量化を図ったか。 ・リサイクルの推進を図ったか。 ○競争性のある契約への移行を推進したか。また、民間競争入札等の推進を図ったか。	**(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化** 1)共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web 給与明細システムの運用を継続した。 2)国立博物館各館及び各研究成果公開施設における25～29年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。 3)・機構共通の業務システムである、グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web 給与明細システム「U-PHS HR」の各システムの基盤となるネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」の運用を継続した。 ・グループウェア「サイボウズ」の本運用サーバーについて、障害発生時に業務への影響が少ないサーバー構成について検討した結果、専用のストレージサーバーを構築することとし、26年3月に調達を行った。26年4月以降、セットアップを行う予定である。 ・人事給与統合システム「U-PDS」及び web 給与明細システム「U-PHS HR」のバージョンアップを行った。(25 年 12 月) **(2)計画的なアウトソーシング** ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務(展示等の企画運営を除く)及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。 **(3)使用資源の減少** ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施(廃棄物の分別収集, リサイクル業者への古紙売り払い, 再生紙の発注等) 使用資源の推移等	業務運営は機構共通の業務システムの運用を継続することにより、共通的な事務を一元化されており、予定通りに効率化が図られており評価できる。 電気料、水道料及びガス料は、その増額分析を実施することにより、増額について合理的な説明がなされている。また、特殊要因を考慮した電気料及びガス料は減少しており、省エネルギーは推進されていると認められる。 一般廃棄物排出量は法人の努力により3.01%減少しており、リサイクルは推進されていると認められる。 計画的なアウトソーシングは着実に実施されていると判断している。今後も民間委託が人件費・経費の削減や業務の効率化にどれだけ資するかを検証しつつ実施されたい。

光熱水料金　(単位:千円)

事項	24 年度	25 年度	差額	増減率
電気料	414,971	496,266	81,295	19.59%
水道料	83,236	87,249	4,013	4.82%
ガス料	129,406	180,761	51,355	39.69%
計	627,613	764,276	136,663	21.78%

※電気料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。
・電気料特殊要因①:原料高騰、再生可能エネルギー発電促進賦課金の賦課による契約単価と燃料調整費の上昇により増額となった。
・電気料特殊要因②:東京国立博物館における東洋館の通年開館及び黒田記念館の一部開館により使用量が増加した。
・電気料特殊要因③:京都国立博物館における平成知新館(平常展示館)の開館により使用量が増加した。

事項	24 年度単価 (円/kwh)	25 年度単価 (円/kwh)	差 (円/kwh)	単価影響額 (千円)
電気料特殊要因①	17.1	19.3	2.2	50,132

事項	増加量(kwh)	25 年度単価 (円/kwh)	影響額 (千円)
電気料特殊要因②	532,642	21.6	11,505
電気料特殊要因③	1,124,635	23.0	25,867

※水道料は、東京国立博物館における東洋館及び黒田記念館の開館、奈良文化財研究所における発掘現場から大量に出土した遺物洗浄のための水道利用増により、増額となった。

※ガス料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。
・ガス料特殊要因①:原料高騰により契約単価が上昇した。
・ガス料特殊要因②:東京国立博物館における東洋館の通年開館により使用量が増加した。
・ガス料特殊要因③:京都国立博物館における平成知新館(平常展示館)の開館準備により使用量が増加した。

事項	24 年度単価（円/㎥）	25 年度単価（円/㎥）	差（円/㎥）	単価影響額（千円）
ガス料特殊要因①	81.7	96.4	14.7	24,157

事項	増加量（㎥）	25 年度単価（円/㎥）	影響額（千円）
ガス料特殊要因②	72,624	87.3	6,340
ガス料特殊要因③	232,460	139.1	32,335

特殊要因を考慮した光熱水料金　（単位：千円）

事項	24 年度	25 年度	差額	増減率
電気料（※）	414,971	408,762	△6,209	△1.50%
水道料	83,236	87,249	4,013	4.82%
ガス料（※）	129,406	117,929	△11,477	△8.87%
計	627,613	613,940	△13,673	△2.18%

※電気料・ガス料については特殊要因を勘案して算定。

廃棄物排出量　（単位：kg）

事項	24 年度	25 年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	245,438	238,041	△7,397	△3.01%

【一般管理費の削減状況】
○一般管理費の削減は順調に進められたか。

【一般管理費の削減状況】

（単位：千円）

	24年度実績	25年度実績	削減割合
一般管理費（物件費）	680,932	606,818	△10.88%

※各数値は、決算報告書の数値を記載している。

一般管理費は計画に従い削減されており、特に問題はないと判断している。

【事業費の削減状況】
○事業費の削減は順調に進められたか。

【事業費の削減状況】

（単位：千円）

	24年度実績	25年度実績	削減割合
業務経費（物件費）	3,941,586	3,838,849	△2.61%

※各数値は、決算報告書の各業務経費の合計から年度ごとの変動が大きい特殊要因を控除して算出している。

事業費は計画に従い削減されており、特に問題はないと判断している。

※平成 24 年度は決算報告書の数値 5,369,179 千円から文化財購入費 874,185 千円、文化財修理費 178,519 千円、還付消費税相当額財源 246,515 千円、京博移転費 6,437 千円、京博展示具作成等費 121,937 千円を控除した 3,941,586 千円としている。
※平成 25 年度は決算報告書の数値 6,223,186 千円から文化財購入費 891,828 千円、文化財修理費 178,304 千円、京博展示具作成等費 814,205 千円、京博文化財材質分析システム等整備 438,000 千円、東文研 3 次元計測システム等整備 62,000 千円を控除した 3,838,849 千円としている。

【契約の競争性、透明性の確保】
○ 契約方式等、契約に係る規程類について、整備内容や運用は適切か。

【契約に係る規程類の整備及び運用状況】
（1）契約に係る規程類
①独立行政法人国立文化財機構会計規程
②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程
③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則
④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則
⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則
⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則
⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項
⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項
⑩契約情報公表に必要な事項に関する取扱
⑪独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項
⑫独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項
⑭標準型プロポーザル方式の実施要項
⑮公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項
⑯調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑰研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑱広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑲情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式
⑳独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて

（2）国の契約基準と異なる規程の有無
「独立行政法人等における契約の適正化について（通知）」（平成20年12月3日付、20文科会第583号）を受け、国と同様の契約基準としたため、国の契約基準と異なる規程はない。

契約に係る規程類及び契約事務手続は整備されていると判断している。

○契約事務手続に係る執行体制

（3）規程類の運用状況

文化財購入など随意契約によらざ

や審査体制について、整備・執行等は適切か。	各施設において、競争契約を原則とし、規程に定めた適切な方法により調達契約等が実施されている。また、修理契約委員会及び契約監視委員会が適切に実施されている。契約情報については、本部ウェブサイト「法人情報」において公開している。 【執行体制】 ・法人内の役職別契約従事者数（施設系職員は含まない） 本部事務局　財務担当室長1名、係員1名 東京国立博物館　経理課室長1名、契約担当係　係長1名、主任・係員3名（本部事務局職員兼務） 経理担当係　係長1名、係員3名（本部事務局職員兼務） 京都国立博物館　課長補佐1名、財務担当係　係長1名、主任・係員3名 奈良国立博物館　課長補佐1名、財務担当係　係長1名、係員2名 九州国立博物館　課長補佐1名、財務担当係　係長1名、係員2名 東京文化財研究所　管理室長1名、財務担当係長1名、契約担当係長1名 奈良文化財研究所　課長補佐1名、財務担当係　主任・係員3名 【審査体制】 ①内部のチェック体制 各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っている。 東京国立博物館における１千万円を超える物品調達の場合の例 [購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同主任チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定　（必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁） [予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁 [一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結] [物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成] [支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し、購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い] ②内部でのチェック対象案件の抽出方法	るを得ない契約を除き、競争入札は推進されている。また、分任契約担当役並びに監事監査・内部監査等においてチェックを実施するとともに、契約監視委員会による契約の点検も実施されており、特段の問題はないと判断している。 民間競争入札の推進に当たっては、入館者に対するサービスの向上や苦情に対する対応、収蔵品・展示品等の維持・保管等において信用できる業者の選定に尽力されたい。

	各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。 【契約監視委員会の審議状況】 （1）実施回数　2回（[第1回]平成25年11月29日/[第2回]平成26年6月13日） （2）実施対象契約案件 [第1回] ・平成25年度（4月～9月期）における契約実績 ・平成25年度（10月～3月期）における契約見込 [第2回] ・平成25年度（10月～3月期）における契約実績 ・平成26年度（上半期）における契約見込 （3）委員会点検内容 ・平成25年度における競争性のない随意契約及び一者応札・一者応募及び平成26年度上半期の契約見込について点検を実施 （4）評価結果 ・一者応札・一者応募となっているものについては、引き続き十分な公告期間の確保や仕様の見直しなどの対応をとること。なお、博物館におけるハローダイヤル情報案内業務については、当該業務を行える者が他にいないとして随意契約を行っているが、他業者でも実施可能であるため、一般競争入札に移行することとされたい。 また、随意契約見直し計画の達成状況については、機構の特殊性として随意契約とせざるを得ない文化財購入について、その件数と金額が年度により大きく変わるので、これが要因となり未達成の年度が生じる場合は未達成も致し方ないと判断する。	
【随意契約等見直し計画】 ○「随意契約等見直し計画」の実施・進捗状況や目標達成に向けた具体的取組状況は適切か。	【随意契約等見直し計画の実績と具体的取組】	「随意契約等見直し計画」の進捗状況や具体的取組状況は適切と判断する。

	①平成 20 年度実績		②見直し計画（H22 年 4 月公表）		③平成 25 年度実績		②と③の比較増減（見直し計画の進捗状況）	
	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
競争性のある契約	164	1,968,416	235	2,334,578	202	4,544,214	△33	2,209,636
競争入札	142	1,718,996	199	2,009,789	171	4,206,183	△28	2,196,394
企画競争、公募等	22	249,420	36	324,789	31	338,031	△5	13,242
競争性のない随意	152	1,469,766	81	1,103,603	63	1,051,603	△18	△52,000

契約								
合計	316	3,438,181	316	3,438,181	265	5,595,817	△51	2,157,636

（具体的取組状況）
契約監視委員会により随意契約が認められた契約以外は全て競争入札等を実施している。平成 25 年度における契約実績は件数割合、金額割合ともに計画を達成している。

【個々の契約の競争性、透明性の確保】
○再委託の必要性等について、契約の競争性、透明性の確保の観点から適切か。
○一般競争入札等における一者応札・応募の状況はどうか。その原因について適切に検証されているか。また検証結果を踏まえた改善方策は妥当か。

【再委託の有無と適切性】
当法人においては、再委託の実績はない。

再委託となっている契約はない。

【一者応札・応募の状況】

		①平成 20 年度実績		②平成 25 年度実績		①と②の比較増減	
		件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
競争性のある契約		164	1,968,416	202	4,544,214	38	2,575,798
	うち、一者応札・応募となった契約	65	738,860	84	1,745,254	19	1,006,394
	一般競争契約	55	531,498	69	1,246,328	14	714,830
	指名競争契約	0	0	0	0	0	0
	企画競争	4	61,445	6	131,492	2	70,047
	公募	6	145,917	7	35,918	1	△109,999
	不落随意契約	0	0	2	331,516	2	331,516

内容を勘案しながら競争入札への移行を進めていると評価できる。
一者応札・応募の原因は把握されてはいるが、改善方策が公告期間の延長のみであるため、さらなる検討を行うべきである。

【原因、改善方策】
（1）原因
一者応募の件数増加の主たる要因は、見直し時において主に随意契約によっていたシステムの改修・保守契約を事前公募に移行したこと、及び文化財修理契約における企画競争が見直し時に比べ増加したことである。また、一者応募の金額増加の主たる要因は、建物保守・電気供給等について複数年契約を締結したことである。
なお、文化財修理は、見直し時に一部を随意契約から企画競争へと移行したものであり、外部有識者を含めた修理契約委員会に諮った上で、特定の技術を持った修理業者を対象に企画競争を行っているが、応募者数が少ない案件も存在するため、一者応募が見直し時に比べて増えた要因となっている。文化財保護の観点から契約条件の見直しは難しいため、適切な公告期間を確保し、企画競争への参加促進を図っている。

（2）改善策
より多くの競争参加者を確保できるよう機構の自主的な措置として公告期間を原則 20 日間以上としている。

【一般競争入札における制限的な応札条件の有無と適切性】
一般競争入札において、制限的な応札条件を設けていない。

【関連法人】
○法人の特定の業務を独占的に受託している関連法人について、当該法人と関連法人との関係が具体的に明らかにされているか。

【関連法人の有無】
関連法人はない。

関連法人はない。

【実物資産】
（保有資産全般の見直し）
○実物資産について、保有の必要性、資産規模の適切性、有効活用の可能性等の観点からの法人における見直し状況及び結果は適切か。

【実物資産の保有状況】
① 実物資産の名称と内容、規模　　平成 25 年 4 月 1 日現在

施　設	土　地（㎡）	建　物（延面積㎡）
東京国立博物館	120,270	71,680
京都国立博物館	53,182	31,780
奈良国立博物館	78,760	19,116
九州国立博物館	166,275(うち九博 10,798)	30,675(うち九博 9,048)
東京文化財研究所	4,181	10,623
奈良文化財研究所	46,468	36,786
合　計	469,136(313,659)	200,660(179,033)

※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,477 ㎡、建物 6,034 ㎡を分有、建物のうち 15,593 ㎡は共有面積である。

② 保有の必要性（法人の任務・設置目的との整合性、任務を遂行する手段としての有用性・有効性等）
・展示棟、研究施設、事務所、収蔵品倉庫、資料館等として全ての建物を使用しており、博物館・研究所としての任務を遂行するために必要不可欠である。

③ 有効活用の可能性等の多寡
・博物館・研究所の本来業務以外にも、講堂・会議室の貸与、建物・庭園等を映画等のロケーションとして貸

実物資産の保有の必要性、資産規模の適切性、有効活用の可能性等については、特に指摘すべき点はない。なお、奈良文化財研究所本庁舎の建て替えに伴う取壊しが予定されているため、当期において減損を認識している。また、資産除去債務については、財務諸表の注記事項において適切に開示されており、特に問題はない。

	出すなど部外者に対しても積極的な貸出しを行い、施設の有効利用を図っている。 ④ 見直し状況及びその結果 ・③のように部外者に対する積極的な貸与等が実施されていることを確認し、今後もさらに継続することとしている。各施設において自ら使用するもののほか、企業等のパーティ、撮影、コンサート、イベント、お茶会、会議等への貸付を行っている。25 年度の貸付総件数は 2,436 件に上り、多数の貸付が実施されている。（例：TBSドラマ 日曜劇場『半沢直樹』撮影に東京国立博物館本館エントランス貸出し）	
○見直しの結果、処分等又は有効活用を行うものとなった場合は、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。	⑤ 処分又は有効活用等の取組状況／進捗状況 ・全ての資産は、博物館・研究所の任務を遂行するために活用されており、処分に該当する資産はない。有効活用については、今後もさらに継続することとしている。	すべて任務遂行に必要不可欠であると判断している。
○「勧告の方向性」や「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」、宿舎戸数、使用料の見直し、廃止等「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」、「独立行政法人の職員宿舎の見直しに関する実施計画」等の政府方針を踏まえて、宿舎戸数、使用料の見直し、廃止等とされた実物資産について、法人の見直しが適時適切に実施されているか（取組状況や進捗状況等は適切か）。	⑥ 政府方針等により、処分等することとされた実物資産についての処分等の取組状況／進捗状況 ・該当なし。	「勧告の方向性」や「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」等の政府方針を踏まえて処分等することとされた実物資産はない。
○ 実物資産について、利用状況が把握され、必要性等が検証されているか。	⑦ 基本方針において既に個別に講ずべきとされた施設等以外の建物、土地等の資産の利用実態の把握状況や利用実態を踏まえた保有の必要性等の検証状況 ・該当なし。	すべての事業遂行に必要不可欠なものであると判断する。
	⑧ 見直し実施計画で廃止等の方針が明らかにされている宿舎以外の宿舎及び職員の福利厚生を目的とした施設について、法人の自主的な保有の見直し及び有効活用の取組状況 ・該当なし。	活用が不十分な資産はない。
（資産の運用・管理） ○資産の活用状況等が不十分な場合は、原因が明らかにされているか。その理由は妥当か。		
○実物資産の管理の効率化及び自己収入の向上に係る法人の取組は適切か。	⑨ 実物資産の管理の効率化及び自己収入の向上に係る法人の取組 ・民間委託の推進として、電気設備保守等の各種保守業務、清掃業務、警備・監視等業務について、大部分を民間委託している。 ・自己収入の獲得のための施設の有効利用として上記③を積極的に実施している。	設備保守等業務の民間委託による効率化や、施設の部外者への貸出しにより自己収入の確保は図られている。
【金融資産】 （保有資産全般の見直し） ○金融資産について、保有の必要性、事務・事業の目的及び内容に照らした資産規模は適切か。	【金融資産の保有状況】 ①金融資産の名称と内容、規模 ・現金及び預金の平成 25 年度末残高は約 54 億円であり、そのほとんどは施設整備費の未払金に充てるもの及び運営費交付金の繰越に相当するものである。 ② 保有の必要性（事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性） ・現金及び預金のほとんどは未払金の支払いに充当するものである。	金融資産の保有の必要性、事務・事業の目的及び内容に照らした資産規模並びに資金の運用状況は適切であると認められ、特に問題はない。
○資産の売却や国庫納付等を行うものとなった場合は、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。	③ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無 ・該当なし。 ④ 金融資産の売却や国庫納付等の取組状況／進捗状況 ・該当なし。	
（資産の運用・管理） ○資金の運用状況は適切か。	【資金運用の実績】 ・東京国立博物館定期預金 200,000 千円（285 日間）。 【資金運用の基本的方針（具体的な投資行動の意志決定主体、運用に係る主務大臣・法人・運用委託先間の責任分担の考え方等）の有無とその内容】 ・独立行政法人国立文化財機構会計規程第27条において、出納命令役は，業務の執行に支障がない範囲で，法令で定められた安全資産により余裕金の運用をすることができると定めている。 また、東京国立博物館余裕資金運用取扱要項において、余裕資金の運用は運営会議の議を経て、館長が決定すること。運用の対象を寄附金、入場料等自己収入、その他館長が定める資金とすること。資金繰計画の作成を要すること。運用方法は、国債等、独立行政法人通則法第 47 条に指定する有価証券、預金等とすること。債権の発行者等の経営状況の把握することを定めている。	金融資産は、安全性の高い定期預金で管理されるなど、適切に運用・管理されている。

	【資産構成及び運用実績を評価するための基準の有無とその内容】 ・定期預金 200,000 千円。安全性の高い金融資産のみでの運用であるため特に基準は設けていない。	
○資金の運用体制の整備状況は適切か。	【資金の運用体制の整備状況】 ・平成 22 年度に東京国立博物館における運用体制を整備し、平成 23 年度に本部における運用体制を整備した。今後、必要に応じ整備を検討する。	
○資金の性格、運用方針等の設定主体及び規定内容を踏まえて、法人の責任が十分に分析されているか。	【資金の運用に関する法人の責任の分析状況】 ・東京国立博物館での運用については計画どおりの利息を得ており、運用についての責任を果たしているものと判断される。	
（債権の管理等） ○貸付金、未収金等の債権について、回収計画が策定されているか。回収計画が策定されていない場合、その理由は妥当か。	【貸付金・未収金等の債券と回収の実績】 ・貸付金の実績なし。 ・未収金（建物、収蔵品画像使用料等）の管理は、独立行政法人国立文化財機構債権管理要項に基づき実施している。使用後精算する建物使用料、外国からの後払いの収蔵品画像使用料等の少額の未収金が大半のため、回収コスト等も考慮しながら実施している。 ・平成 25 年度末の未収金　　252 件、945,279 千円。（うち 343,124 千円が東博大型 X 線 CT スキャナ等にかかる文化庁からの施設整備費） ・平成 26 年 6 月 17 日現在の未収金　21 件 1,176 千円。（5 件 254 千円は平成 26 年 7 月までに回収予定、16 件 922 千円は継続して督促を実施中） 【回収計画の有無とその内容（ない場合は、その理由）】 ・同要項に基づき、未収金の債権管理を帳簿により行い、回収計画、督促状況等を記録している。滞留管理としての管理、保全手続きについても定めている。	債権の管理等については、債権管理要項に基づき、回収計画によって回収しており、特に問題はないと判断する。しかし、与信管理には十分な注意が必要である。
○回収計画の実施状況は適切か。 ⅰ）貸倒懸念債権・破産更生債権等の金額やその貸付金等残高に占める割合が増加している場合、ⅱ）計画と実績に差がある場合の要因分析が行われているか。	【回収計画の実施状況】 ・回収計画に基づき実施している。 【貸付の審査及び回収率の向上に向けた取組】 ・該当なし。 【貸倒懸念債権・破産更生債権等の金額／貸付金等残高に占める割合】 ・該当なし。	

○回収状況等を踏まえ回収計画の見直しの必要性等の検討が行われているか。	【回収計画の見直しの必要性等の検討の有無とその内容】 ・今後の必要に応じ検討する。	
【知的財産等】 （保有資産全般の見直し） ○特許権等の知的財産について、法人における保有の必要性の検討状況は適切か。	【知的財産の保有の有無及びその保有の必要性の検討状況】 ・特許権3件（研究技法関係）と商標権12件（ロゴマーク等）を保有している。取得費用がいずれも少額であるため財務諸表上の資産計上はしていないが、権利として管理している。研究継続の必要性から研究技法関係特許の保有は必要であり、ロゴマーク等の商標権も運営上の支障となる他者の使用を未然に防止するために必要である。 なお、特許権は当然収入につながるものであれば活用するが、維持費との兼ね合いが今後の課題である。 取得特許件数3件 ①木材又は木造文化財の年輪幅又は密度測定装置並びに測定方法（21.5.22 登録：奈良文化財研究所） ②壁画漆喰層剥離用ワイヤソー装置及び壁画漆喰層剥離方法（22.3.5 登録：東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ③文化財用表打ち材料及びそれを用いた文化財修復方法（22.12.10 取得：東京文化財研究所）	知的財産の保有の必要性や運用・管理については、いずれも適切と認められる。
○検討の結果、知的財産の整理等を行うことになった場合には、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。	【知的財産の整理等を行うことになった場合には、その法人の取組状況／進捗状況】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」に基づき対応することになる。	
（資産の運用・管理） ○特許権等の知的財産について、特許出願や知的財産活用に関する方針の策定状況や体制の整備状況は適切か。	【出願に関する方針の有無】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」に基づき、各施設長から理事長に届け出る。 【出願の是非を審査する体制整備状況】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」により整備されている。 【活用に関する方針・目標の有無】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」により規定している。 【知的財産の活用・管理のための組織体制の整備状況】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」により整備されている。	

○実施許諾に至っていない知的財産の活用を推進するための取組は適切か。	【実施許諾に至っていない知的財産について】 ① 原因・理由 研究成果の結実として特許権取得をしている。当機構における特許権取得は、パテント収入を目指すためではなく、研究継続の必要性から防衛的な対抗特許として保有することを主眼としているため。 ② 実施許諾の可能性 ・収入につながるものであれば活用する。 ③ 維持経費等を踏まえた保有の必要性 ・防衛的な対抗特許として保有が必要であるが、維持費との兼ね合いが今後の課題である。 ④ 保有の見直しの検討・取組状況 ・特段必要に迫られる事項は発生していない。 ⑤ 活用を推進するための取組 ・収入につながるよう活用を推進する。	

【(小項目)2－2】	給与水準の適正化等

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
2 給与水準の適正化等
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成23年度まで継続するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p676 Ⅱ-2 給与水準の適正化等

評価基準	実績	分析・評価
○対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表したか。	・人事給与統合システムが平成 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成 25 年度においても平成 21 年度の率を据え置くことが決定された。 ・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について(ガイドライン)、平成 15 年 9 月 9 日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人HP上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。	人件費の削減は、継続して努力しており評価できる。これについては法人の努力を評価している。今後は、優秀な人材を確保・育成することにより、組織の活性化を図られたい。
【給与水準】 ○給与水準の高い理由及び講ずる措置(法人の設定する目標水準を含む)が、国民に対して納得の得られるものとなっているか。	【ラスパイレス指数(平成25年度実績)】 ラスパイレス指数は事務・技術職員が 97.0、研究職員が 98.4 となっている。また、地域・学歴を勘案したラスパイレス指数は事務・技術職員が 92.8、研究職員が 99.3 となっており、給与水準は適正である。	ラスパイレス指数は事務・技術職員が 97.0、研究職員が 98.4 となっており、適正であると認められる。
○法人の給与水準自体が社会的な理解の得られる水準となっているか。	・上記指標より、国を事務・技術職員で 3.0 ポイント、研究職員で 1.6 ポイント下回っており、給与水準は適正である。	
○国の財政支出割合の大きい法人及び累積欠損金のある法人について、国の財政支出規模や累積欠損の状況を踏ま	・支出予算の総額に占める国からの財政支出割合は 89.5%(国からの財政支出額 11,271,670 千円、支出予算の総額 12,594,304 千円:平成 25 年度予算)と 50%を上回っているが、対国家公務員指数は国を 1.6 ポイント下回っており、給与水準は適正と言える。また、累積欠損額はなく、引	

えた給与水準の適切性に関して検証されているか。	き続き給与水準の適正化に努めたい。	
【諸手当・法定外福利費】 ○法人の福利厚生費について、法人の事務・事業の公共性、業務運営の効率性及び国民の信頼確保の観点から、必要な見直しが行われているか。	【福利厚生費の見直し状況】 　レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費（法定外福利費）についても、今後見直しを行っていく。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。	福利厚生費に特段の問題はないと判断される。
【会費】 ○法人の目的・事業に照らし、会費を支出しなければならない必要性が真にあるか（特に、長期間にわたって継続してきたもの、多額のもの）。 ※以下会費がある場合のみ記載 ○会費の支出に見合った便宜が与えられているか、また、金額・口座・種別等が必要最低限のものとなっているか（複数の事業所から同一の公益法人等に対して支出されている会費については集約できないか）。	【会費の見直し状況】 ・公益法人等への会費支出については、機構或いは各施設の業務にとって、真に必要となるものについてのみ支出を行っている。 ・25 年度における公益法人等への会費支出状況は、下記の 1 件が該当する（年 10 万円未満を除く）。 　支出先　名目・趣旨　支出金額 　（公財）日本博物館協会　維持会費（団体、年会費）　235,000 円 ・日本博物館協会の行う諸事業への参画による、全国の博物館関係者との情報交換、人的ネットワーク形成は、機構の中期目標「我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与する」達成のための重要な手段として必要なものであり、会費支出に見合った充分な効果があると認める。 ・日本博物館協会維持会費の金額は、参加施設の規模等に応じて当該法人が算出した会費の請求書に基づき、参加している機構本部及び各施設がそれぞれ支出しており、上記支出金額はその合計である。また、各施設ごとにその活動に参加しているため、これ以上の集約はできない。	会費は業務の質の向上に資する必要最低限のものと認められる。
○監事は、会費の支出について、本見直し方針の趣旨を踏まえ十分な精査を行っているか。	・監事による会費支出状況の精査 　監事は、定期監事監査（6 月）にて、前年度における公益法人等への会費支出状況について、本見直し方針の趣旨を踏まえて十分な精査を行っている。	定期監事監査にて、前年度における公益法人等への会費支出状況について精査を行っており、適切と認められる。
○公益法人等に対し会費（年 10 万円未満のものを除く。）を支出した場合には、四半期ごとに支出先、名目・趣旨、支出金額等の事項を公表しているか。	・会費支出状況の公表 　機構のウェブサイトにて、公益法人等への会費支出状況（当該年度において 10 万円未満を除く）を掲載し、四半期ごとに更新している。公表している項目は、支出先、名目・趣旨、支出金額、交付日等、支出の理由等である。	国立文化財機構のウェブサイトにおいて、公益法人等への会費支出状況の掲載、四半期ごとの更新を行っており、適切と認められる。

【（小項目）2－3】　内部統制の充実・強化

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
5　内部統制の充実・強化
（1）理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。
（2）外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。
（3）管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p684-p686　Ⅱ－5　.内部統制の充実・強化

評価基準	実績	分析・評価
○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行ったか。また、事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させたか。	**（1）理事長のマネジメント強化** 1)モニタリングの実施 ・自己点検評価を行い、『平成24年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(25年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮した自己点検評価報告書を作成した。 ・監事による定期監査(25年6月21日)を行った他、臨時監査を京都国立博物館(26年1月10日)、九州国立博物館(26年1月17日)、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(26年2月14日)を対象に行った。 ・内部監査を、25年10月31日～11月29日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 2)リスクマネジメントの実施 ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の見直しを行い、東京国立博物館防災管理規則に規定する自衛消防隊組織の改編をした。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを随時行い、東京国立博物館では緊急対応ポケットメモの改訂を行い本部職員と東京国立博物館の職員へ配布した。 **（2）外部有識者による事業評価** ・運営委員会(25 年 7 月 30 日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会：25 年 4 月 17 日、博物館調査研究等部会：4 月 23 日、総会：5 月 22 日)を実施し、、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。	理事長の適切なリーダーシップのもと、リスクマネジメントについての検討、危機管理マニュアル等の見直しが随時行われているとともに、自己点検評価、監事監査、内部監査及び外部評価委員会による評価が行われており、結果も事業に反映されている。
【法人の長のマネジメント】 （リーダーシップを発揮できる環境整備）	【リーダーシップを発揮できる環境の整備状況と機能状況】 ・理事長のトップマネジメントとそれを支える体制の確立 運営上の諸課題への対応方針の決定等については、「役員会」での協議を踏まえて理事長が行	役員会、運営委員会、連絡協議会等、理事長がリーダーシップを発揮できる体制が整備されており、それぞれが機能している

○法人の長がリーダーシップを発揮できる環境は整備され、実質的に機能しているか。	った。また、理事長の勤務地（京博）と本部の所在地（東博）が離れていることから、20年度に便宜上置いた「理事長代理」を21年度に「相談役」として規程化し、東京国立博物館長をあて、トップマネジメントとそれを支える体制を整えた。方針の決定に当たっては「運営委員会」などの評価及び提言を十分検討するとともに、方針決定後は速やかに実施するように留意した。また、各施設間で調整を図る必要がある課題については、「国立文化財機構7施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」にて協議を行っている。	と認められる。
（法人のミッションの役職員への周知徹底） ○法人の長は、組織にとって重要な情報等について適時的確に把握するとともに、法人のミッション等を役職員に周知徹底しているか。	【組織にとって重要な情報等についての把握状況】 ・役員会（25年度開催回数：7回） 国立文化財機構の業務に関する重要事項について審議を行う。 ・運営委員会（25年度開催回数：1回） 機構の管理運営の重要事項について審議し、理事長に助言する。（現員17名） ・外部評価委員会（25年度開催回数：1回※博物館部会、研究所・センター部会各1回実施） 国立文化財機構の業務の実績及び自己点検評価の妥当性について評価を行う。（現員13名） ・国立文化財機構契約監視委員会（25年度開催回数：2回） 機構の契約が適正であるか監視し、あわせて効率化の観点等から助言する。（現員6名） ・国立文化財機構7施設連絡協議会（25年度開催回数：1回） 法人全体や各施設の課題の整理や連絡・協議を行う。 ・国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会（25年度開催回数：1回） 研究調整役のもと、機構内の研究者間の情報交換の場を設け、展覧会企画、機構の取組、課題等について協議を行う。 ・独立行政法人国立文化財機構情報化委員会（25年度開催回数：1回） CIO（情報化統括責任者）のもとに、情報担当者の情報交換の場を設け、機構内各施設が共通で利用する情報システム・ネットワーク等について、問題点の共有と今後の取組について検討する。各施設情報担当者との連絡調整はCIO補佐役が担当。 以上のほか、各施設の情報の共有や意思疎通を図るため、22 年度から稼働した機構内グループウェアの運用を継続している。 【役職員に対するミッションの周知状況及びミッションを役職員により深く浸透させる取組状況】 ・役員会（25年度開催回数：7回） 役員会を通じ機構の役職員に対するミッションの周知状況及びミッションを役職員により深く浸透させる取組を行っている。	役員会、各種委員会により連絡調整と情報共有が行われており、役職員に周知していると認められる。 さらに、法人内グループウェアを継続して運用しており、各施設の意思疎通も図られている。
（組織全体で取り組むべき重要な課題	【組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握状況】	組織全体で取り組むべき重要なリスクと

（リスク）の把握・対応等） ○法人の長は、法人の規模や業種等の特性を考慮した上で、法人のミッション達成を阻害する課題（リスク）のうち、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握・対応を行っているか。	リスクの把握については、役員会のほか ・国立文化財機構7施設連絡協議会（25年度開催回数：1回） 法人全体や各施設の課題の整理や連絡・協議を行い、必要に応じて役員会に上程している。 ・国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会（25年度開催回数：1回） 研究調整役のもと、機構内の研究者間の情報交換の場を設け、展覧会企画、機構の取組、課題等について協議を行い、必要に応じ役員会に上程している。 などにより把握している。 把握している重要なリスクは以下の通りである。 ・適切な人員の確保 業務の拡充・拡大にもかかわらず、人件費削減などにより人員の補充が困難であり、職員の負担が過大となっている。身分的に不安定な任期付きの非常勤職員やアソシエイトフェローによる対応には限界があり、文化財の取扱・展示・調査研究等に必要な専門知識や技術の継承が困難になりつつある。 ・大規模自然災害等への対応（耐震化等） ・文化財の破損・盗難・劣化等 ・収蔵庫の不足 ・電力逼迫下における収蔵庫・展示室等の適切な温湿度管理 【組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対する対応状況】 リスクに対する対応については、役員会のほか ・国立文化財機構7施設連絡協議会（25年度開催回数：1回） 法人全体や各施設の課題の整理や連絡・協議を行い、必要に応じて役員会に上程している。 ・国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会（25年度開催回数：1回） 研究調整役の下、機構内の研究者間の情報交換の場を設け、展覧会企画、機構の取組、課題等について協議を行い、必要に応じ役員会に上程している。 などにより対応している。	して、①適切な人員の確保、②大規模自然災害等への対応（耐震化等）、③文化財の破損・盗難・劣化等、④収蔵庫の不足、⑤電力ひっ迫下における収蔵庫・展示室等の適切な温湿度管理を把握しており、対応が図られている。
○その際、中期目標・計画の未達成項目（業務）についての未達成要因の把握・分析・対応等に着目しているか。	【未達成項目（業務）についての未達成要因の把握・分析・対応状況】 ・未達成項目については役員会において各施設長から聴取するなど、常に状況等を把握するよう努めている。またその対応についても、その都度協議している。平成25年度実績において、未達成項目はなかった。	未達成要因の把握・対応は行われていると認められる。

（内部統制の現状把握・課題対応計画の作成） ○法人の長は、内部統制の現状を的確に把握した上で、リスクを洗い出し、その対応計画を作成・実行しているか。	【内部統制のリスクの把握状況】 内部統制のリスクについては、各施設内において絶えず現状把握に努めるとともに、役員会において各施設長から聴取するなど、常に把握し、その都度協議している。 把握している内部統制のリスクは以下の通りである。 ・競争的資金にかかる不正防止 ・個人情報の管理 ・ハラスメント防止 ・情報システム管理・セキュリティ対策 【内部統制のリスクが有る場合、その対応計画の作成・実行状況】 リスクについては役員会において各施設長から聴取するなど常に把握し、リスクへの対応計画などについては役員会において協議し、最終的に理事長の判断により実施時期、実施期限などを定めている。また、その進捗状況等については役員会にて随時報告している。 把握しているリスクについては、関連する規程等を整備し、リスクに対応できる体制を整えるとともに、監査・研修等の実施により状況の確認及び職員への周知等を図っている。	内部統制のリスクとして①競争的資金にかかる不正防止、②個人情報の管理③ハラスメント防止、④情報システム管理・セキュリティ対策を把握しており、対応策を役員会等において具体的に検討している。
【監事監査】 ○監事監査において、法人の長のマネジメントについて留意しているか。	【監事監査における法人の長のマネジメントに関する監査状況】 1．監査規程の整備状況 （1） 監事監査 ①独立行政法人国立文化財機構監事監査要項（平成19年4月1日制定） ②独立行政法人国立文化財機構監査実施基準（平成19年4月1日制定） （2） 内部監査 ①独立行政法人国立文化財機構の会計に関する内部監査要項（平成19年11月13日制定） ②監査計画 内部監査実施要項を参照し、その都度本部事務局で作成する。 （3）独立行政法人国立文化財機構職員倫理規程（平成19年4月1日制定） 2．監査体制の整備状況 （1） 監事監査 ①監事（文部科学大臣任命） 2名（専任：非常勤2名） ②監査の事務補助（監事監査要項第8条） 平成25年度実績3名 （2） 内部監査 ①監査員（内部監査要項第5条） 理事長が命ずる職員 平成25年度実績：13名 3．監査実績(実施項目、実施時期、監査手法等)	監事監査の規程及び体制は整備されており、適切に実施されていると認められる。また、役員会等への出席を通して理事長のマネジメントに留意している。

	（1） 監事監査の実績 ①監事監査の概要 独法統合後（平成19年4月以降）各年度において、役員会その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部において、財務及び業務についての状況を調査した。さらに、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認した。 ②定期監査スケジュール、報告書、指摘事項等 ○ 監事監査計画作成（4月）→ 提出先：理事長 ○ 定期監査（6月） 業務監査・会計監査（毎年度1回）→ 監査結果報告書（提出先：理事長）監査結果報告については、役員会で結果を報告することとしており役職員に対して具体的に周知している。 ③その他の監査 役員会その他重要な会議への出席。聴取、意見交換等，必要に応じた臨時監査（関係役職員からの聴取等）等。 ○臨時監査 ・京都国立博物館（26年1月10日） ・九州国立博物館（26年1月17日） ・アジア太平洋無形文化遺産研究センター（26年2月14日） ④会計監査人との連携 会計監査人からの監査計画の報告（12月頃），会計監査人からの監査報告（6月） ⑤「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」の総会に参加した。 ⑥会計検査院実施の研修等参加　25 年度 1 名 （2） 内部監査の実績 ①内部監査の概要 内部監査要項に基づき平成25年度においては、本部事務局を含めた全施設を対象として、会計全般及び物品（固定資産・少額備品）の管理状況、概算払の会計処理、債権管理及び科学研究費補助金について監査を実施した。 ②監査スケジュール、報告書、指摘事項等 ○内部監査計画の通知：平成25年10月15日 ○実地監査実施： 平成 25 年 10 月 31 日　（京都国立博物館） 平成 25 年 11 月 7、8 日　（奈良文化財研究所）	

	平成 25 年 11 月 21 日　（アジア太平洋無形文化遺産研究センター） 平成 25 年 11 月 22 日　（奈良国立博物館） 平成 25 年 11 月 25、26 日　（本部事務局・東京国立博物館） 平成 25 年 11 月 28 日　（東京文化財研究所） 平成 25 年 11 月 28、29 日　（九州国立博物館） ○内部監査報告書の提出：監査実施後 2 週間以内 4．監査結果概要 内部監査報告書について（報告）（平成25年12月20日） 5．監事監査報告書 独立行政法人国立文化財機構監事監査要項（平成19年国立文化財機構理事長決裁第8号）第10条第1項に基づく平成25年6月21日付けの監査結果報告書 【監事監査における改善点等の法人の長、関係役員に対する報告状況】 監査終了後に報告書を提出いただいている。また第3回役員会においてその結果を報告している。	
○監事監査において把握した改善点等について、必要に応じ、法人の長、関係役員に対し報告しているか。その改善事項に対するその後の対応状況は適切か。	【監事監査における改善事項への対応状況】 25 年度監査報告は、役員会での報告により理事長及び役員が内容について認識した。監事が役員会・国立文化財機構7施設連絡協議会等に出席することにより、監事の要望事項が法人の運営に適切に反映されるよう確認を行った。	監事監査において把握した改善点を役員会で報告する体制は整っていると認められる。なお、監事監査報告においては、特段改善を要する事項はない。
○職員研修等を実施したか。	・職員の資質の向上と能力開発の推進を図るため、本部事務局及び各施設において次のとおり実施した。 主　催 ／ 研　修　等 本部事務局・東京国立博物館：（全施設対象）新任職員研修、接遇研修、個人情報保護についての研修・講演会、施設系職員研修、ハラスメント防止に関する講演会（本部事務局・東京国立博物館対象）産業医による講習会、ハラスメント防止に関する研修会、防災訓練 京都国立博物館：衛生管理講習会、普通救命講習会、マナー講習会、文化財防火デー消防訓練 奈良国立博物館：防災訓練、産業医による講習会 九州国立博物館：防災訓練（2 回）、パワハラ対策研修、メンタルヘルス研修（産業医による講話）、ノロウィルス研修会 東京文化財研究所：新任職員研修、財務処理講習会、産業医による講習会 奈良文化財研究所：新人研修、消防訓練、ハラスメント防止に関する研修会 アジア太平洋無形文化遺産研究センター：新任職員研修及び全職員向けブリーフィング、消防訓練(堺市博物館主催)	職員の資質向上・能力開発を目指し、多様な分野の職員研修が実施されている。

○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組んだか。また、情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施したか。	**(3)情報セキュリティ対策の向上と改善** ・「独立行政法人国立文化財機構保有個人情報管理規程」に基づき、本部事務局及び各施設における保有個人情報の管理状況について、以下の通り、監事による保有個人情報管理監査を行った。 ・京都国立博物館（26年1月10日） ・九州国立博物館（26年1月17日） ・アジア太平洋無形文化遺産研究センター（26年2月14日） ・「情報システム監査要項」に基づき、以下の通り情報システム監査を行った。 ・京都国立博物館 (25年11月6日) ・「情報システム点検・評価要項」に基づき、各施設からのチェックシート提出による自己点検を行った。今回はセキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した(25年4月)。 ・当初の予定では、25～26年度にかけて、セキュリティ強化、安定性向上を目的とした機構内ネットワークの統合を行うこととしており、その準備・検討を進めていたが、要求していた26年度以降の予算措置の見込みがなくなったため、やむを得ず見送った（25年12月）。引き続き、機構VPNの見直しについての検討を継続する。 ・機構内全職員が利用するグループウェア「サイボウズ・ガルーン3」の運用を継続し、機構内の連絡及び情報共有の効率化とセキュリティ向上に寄与した。	VPN の見直し検討や「サイボウズ・ガルーン 3」の運用継続等により、効率化とセキュリティ向上が図られている。 また、情報セキュリティに係る監査も実施されている。 なお、機構内ネットワークの統合等によるセキュリティ強化、安定性向上の取組は引き続き検討されたい。

【(大項目)3】	Ⅲ 財務・人事	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【(小項目)3－1】	予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画	【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。

1 予算(中期計画の予算)

「実績」欄参照

2 収支計画

「実績」欄参照

3 資金計画

「実績」欄参照

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、20億円

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

なし。

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。

Ⅶ 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した時は、次の経費等に充てる。

1 文化財の購入・修理
2 調査・研究、出版事業の充実
3 展覧会の充実
4 来館者サービス、情報提供の質的向上
5 国際協力
6 老朽化対応のための施設設備の充実

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p675 Ⅱ－1－(4)自己収入の増大

・決算報告書

・財務諸表
p2 損益計算書
p3 キャッシュフロー計算書

Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

3 中期目標期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

4 積立金の使途

前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

評価基準	実績	分析・評価

○自己収入の増大

1) 入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。

下表のとおり、5.91%となり、目標を上回った。

(単位:千円)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
自己収入基準額	894,510	904,886	915,383
自己収入目標額	904,886	915,383	926,001
自己収入実績額	821,470	880,271	968,819
増 加 率	△8.17%	△2.72%	5.91%

※受託研究・受託事業を除く。
※自己収入目標額は、前年度の目標額から 1.16%増加した場合の額。
※増加率は、自己収入基準額(前年度の目標額)に対する増加率。

(目標値について)

自己収入増加率の目標値は、変動性の大きい共催展入場料収入、受託収入、奈良文化財研究所キトラ展関係収入を除いた平成 18～20 年度の平均増加率 1.16%を設定根拠としている。なお、平成 24 年度は還付消費税収入 260,696 千円も除いた額である。

(参考)法人の自己評価

自己収入実績額については、平常展入場料収入が、対前年度 20,899 千円増の 201,967 千円と好調だった。またキャンパスメンバーズ収入が対前年度 8,128 千円増の 35,909 千円となったことやその他の展示事業附帯収入や財産利用収入も軒並み増加傾向にあったため、総額では対

前年度 88,548 千円増の 968,819 千円となり、自己収入増加率は 5.91%となり、目標を達成することができた。

2) 寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。

下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成 25 年度
寄附金	226 件	486 件
科学研究費補助金	76 件	95 件

【収入】

【平成25年度収入状況】 （単位：千円）

収入	予算額	決算額	差引増減額
運営費交付金	8,391,705	8,391,705	0
施設整備費補助金	2,853,965	6,829,529	3,975,564
文化芸術振興費補助金	0	5,147	5,147
展示事業等収入	1,322,634	1,240,226	△82,408
受託収入	26,000	625,372	599,372
その他寄附金等	0	172,318	172,318
計	12,594,304	17,264,297	4,669,993

【主な増減理由】

・施設整備費補助金は前年度、前々年度からの繰越のため 3,975,564 千円の増加となっている。
・文化芸術振興費補助金は当初予定外の交付のため増加している。
・展示事業等収入は入場者数が大幅に減少したことにより、82,408 千円の減少となっている。
・受託収入は、当初予定外の受託契約が多かったことにより増加している。受託収入とその他附金等を合わせると、予算と比較して 771,690 千円の増加となっている。

展示事業等収入が、法人設立以降初めて予算を下回ったが、自己収入目標額に対する実績では、平常展入場料収入やキャンパスメンバー収入の増大、その他の展示事業収入の増加傾向などをえて、5.9%の増加となり目標を達成している。また寄附金や科研費も目標件数を上回っていることなどが評価される。

【支出】

【平成25年度支出状況】 （単位：千円）

支出	予算額	決算額	差引増減額
管理経費	1,415,082	1,244,332	△170,750
人件費	614,537	637,514	22,977
一般管理費	800,545	606,818	△193,727
業務経費	8,299,257	8,485,717	186,460
人件費	2,167,275	2,262,531	95,256
調査研究事業費	1,955,066	1,785,474	△169,592

予算額と決算額のかい離が見られるものは受託、施設整備費関係等予算設定時に見込めないものであり、実績については特に問題はないと判断する。

情報公開事業費	187,073	161,189	△25,884
研修事業費	19,665	13,432	△6,233
国際研究協力事業費	223,876	152,350	△71,526
展示出版事業費	185,151	151,224	△33,927
展覧事業費	3,485,208	3,896,018	410,810
教育普及事業費	75,943	63,499	△12,444
施設整備費	2,853,965	6,829,529	3,975,564
文化芸術振興費	0	5,147	5,147
受託事業費	26,000	611,025	585,025
計	12,594,304	17,175,750	4,581,446

【主な増減理由】

・一般管理費は大規模な工事の事務委託費が減ったこと、展示事業等収入の減少に伴い事業の緊縮を進めたこと等により、193,727 千円の減少となっている。
・国際研究協力事業費は国際情勢により研究の一部を延期したことにより、71,526 千円の減少となっている。
・展覧事業費は前年度からの繰越等による収蔵品購入費、展示棟の改修経費等の増加により、410,810 千円の増加となっている。
・施設整備費の増加は前年度、前々年度からの繰越により 3,975,564 千円の増加となっている。

【収支計画】

【平成25年度収支計画】 （単位：千円）

区分	計画額	実績額	差引増減額
費用の部	6,971,436	9,281,659	2,310,223
経常経費	6,971,436	9,256,979	2,285,543
管理経費	1,051,709	1,442,542	390,833
うち人件費	614,537	730,665	116,128
うち一般管理費	437,172	711,877	274,705
業務経費	5,515,916	6,662,702	1,146,786
うち人件費	2,167,275	2,988,494	821,219
うち調査研究事業費	1,067,652	1,080,820	13,168
うち情報公開事業費	102,161	145,915	43,754
うち研修事業費	10,738	13,432	2,694
うち国際研究協力事業費	122,256	150,379	28,123

予算、収支計画及び資金計画については、計画額と実績額とのかい離についておおむね説明がされており、当該かい離の要因が法人の業務運営に問題があることによるものではなく、特に指摘すべき事項はないと判断している。

うち展示出版事業費	101,109	138,910	37,801
うち展覧事業費	1,903,251	2,081,253	178,002
うち教育普及事業費	41,474	63,499	22,025
受託事業費	26,000	609,714	583,714
減価償却費	377,811	540,047	162,236
その他費用	0	1,974	1,974
臨時損失	0	24,680	24,680
収益の部	6,971,436	9,307,611	2,336,175
運営費交付金収益	5,244,991	6,404,889	1,159,898
展示事業等の収入	1,322,634	1,219,487	△103,147
受託収入	26,000	625,372	599,372
資産見返運営費交付金戻入等	377,811	560,243	182,432
寄附金収益等	0	449,564	449,564
その他の収益及び臨時利益	0	48,056	48,056
前中期目標期間繰越積立金取崩	0	4,737	4,737
計	0	30,688	30,688

【主な増減理由】
・人件費は、有期雇用職員の経費が予算上は物件費の区分で措置されるが、損益計算における費用としては人件費に計上されるため、管理経費、業務経費合わせて 937,347 千円の増加となっている。
・一般管理費は、東京国立博物館正門周辺再開発工事のための費用増加等により 274,705 千円の増加となっている。
・情報公開事業費は、東京国立博物館のデジタル化共通事業費、ウェブサイト経費の増加等により 43,754 千円の増加となっている。
・展覧事業費は、京都国立博物館平成知新館展示工事の費用増加等により 178,002 千円の増加となっている。
・収益の部、運営費交付金収益は、京都国立博物館展示制作費の増加及び昨年度からの繰越等により 1,159,898 千円の増加となっている。
・展示事業等の収入は、特別展の入場者数の大幅な減少に伴う入場料収入の減少等により 103,147 千円の減少となっている。
・当初予定外の受託収入の増加や寄附金収益等で計画額を設定していないため、実績額が増加している。

【資金計画】

【平成25年度資金計画】　（単位：千円）

区分	計画額	実績額	差引増減額
資金支出	12,594,304	22,483,127	9,888,823
業務活動による支出	6,593,625	8,893,517	2,299,892
投資活動による支出	6,000,679	13,575,189	7,574,510
財務活動による支出	0	14,421	14,421
資金収入	12,594,304	19,214,399	6,620,095
業務活動による収入	9,740,339	10,949,177	1,208,838
運営費交付金による収入	8,391,705	8,391,705	0
展示事業等による収入	1,322,634	1,079,573	△243,061
受託収入	26,000	570,414	544,414
その他の収入	0	907,485	907,485
投資活動による収入	2,853,965	8,265,222	5,411,257
施設整備費補助金による収入	2,853,965	8,265,222	5,411,257
資金増加額	－	△3,268,728	－
資金期首残高	－	8,462,148	－
資金期末残高	－	5,193,420	－

【主な増減理由】
・業務活動による支出の増加は、固定資産の取得を控え費用に充当した等により増加している。
・投資活動による支出の増加は、前年度未払いの施設整備費の支払い、大型定期預金の預入等による。
・展示事業等による収入の減少は、特別展の入場者数の大幅な減少等による。
・資金収入のうち、受託収入は当初予定外の受託契約の増、その他の収入は寄附金収入等で計画額を設定していないため、また施設整備費補助金による収入は前年度、前々年度からの繰越のためにそれぞれ額が増加している。

○短期借入金は有るか。有る場合は、その額及び必要性は適切か。

【短期借入金の有無及び金額】
短期借入金の実績はない。

【必要性及び適切性】
該当なし。

計画額と実績額のかい離が見られるものにはおおむね説明がなされており、当該かい離の要因が法人の業務運営に問題があることによるものではないため、特に問題はないと判断する。

短期借入金はない。

○重要な財産の処分に関する計画は有るか。ある場合は、計画に沿って順調に処分に向けた手続きが進められているか。	【重要な財産の処分に関する計画の有無及びその進捗状況】 奈良文化財研究所本館は、計画通り平成 24 年度に代替建物の設計及び関連調査を実施し、平成 25 年度に取り壊しを開始した。平成 26 年度において取り壊しが完了する予定である。	重要な財産の処分に関する計画に沿って手続が進められている。
【財務状況】 （当期総利益（又は当期総損失）） ○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因が明らかにされているか。	【当期総利益（当期総損失）】 当期総利益は 30,688 千円である。	財務状況については、自己資本比率が高く、当期総利益を計上しているなどから、特段の問題はないと判断している。
○また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因は法人の業務運営に問題等があることによるものか。	【当期総利益（又は当期総損失）の発生要因】 自己収入が自己収入予算額に達しないことから、計画的に支出を抑制するため一般管理費の節減に努力したことよる。	当期総利益の発生要因は、一般管理費の節減努力によるものであり、法人の業務運営に問題等はないと判断している。
（利益剰余金（又は繰越欠損金）） ○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないか。	【利益剰余金】 前中期目標期間繰越積立金 636,281 千円（※）、積立金 111,098 千円及び当期未処分利益 30,688 千円の合計 778,067 千円を利益剰余金として計上している。 ※繰越額内訳（①自己収入により購入した固定資産（収蔵品）の価格 613,500 千円、②受託収入等で購入した固定資産の残存価格 12,832 千円、③前期からの前中期目標期間繰越積立金 9,025 千円、④リース損益 924 千円）	利益剰余金の要因は適切であり、法人の性格に照らし過大な利益剰余金ではなく、特に問題ないと判断している。 当期未処分利益は積立金の申請によりインセンティブになるよう期待する。
○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画は妥当か。	【繰越欠損金】 該当なし。	
○当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証が行われているか。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるか。	【解消計画の有無とその妥当性】 該当なし。 【解消計画に従った繰越欠損金の解消状況】 該当なし。 【解消計画が未策定の理由】 該当なし。	

（運営費交付金債務） ○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合、運営費交付金が未執行となっている理由が明らかにされているか。	【運営費交付金債務の未執行率（%）と未執行の理由】 8.1%（677,642/8,391,705 千円）。京都国立博物館文化財材質分析システム等整備に関し調達手続きに時間を要したこと(243,503 千円)、平常展示館建替工事に伴う展示制作等の工期延長(191,342 千円)、文化財購入に関し所有者との協議に時間を要したこと(143,271 千円)等による未達事業の次年度への繰り越しによる。	運営費交付金の未執行となっている理由は明らかにされている。また、運営費交付金債務と業務運営との関係についての分析は行われていると判断する。
○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析が行われているか。	【業務運営に与える影響の分析】 平成 26 年度において全事業を完了予定であるため、業務運営に与える影響は軽微である。	
（溜まり金） ○ いわゆる溜まり金の精査において、運営費交付金債務と欠損金等との相殺状況に着目した洗い出しが行われているか。	【溜まり金の精査の状況】 精査した結果、該当なし。 【溜まり金の国庫納付の状況】 該当なし。	溜まり金はない。
【施設及び設備に関する計画】 ○施設及び設備に関する計画は有るか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。	【施設及び設備に関する計画の有無及びその進捗状況】 ・東京国立博物館 黒田記念館耐震補強改修等工事（予算額 613,620 千円）、表慶館バリアフリー化工事（同 58,755 千円）、本館内装等改修工事（同 483,000 千円）、無料ゾーン施設新営工事（同 526,000 千円）、大型 X 線 CT スキャナー取設工事（同 873,527 千円）の各工事は、平成 24 年度に設計等業務を開始し、平成 25 年度において全工事竣工した。平成館特別展示室等改修工事（同 1,819,182 千円）は平成 25 年度に設計等業務を開始し、平成 26 年度において竣工する予定である。 ・京都国立博物館 平常展示館建替工事（同 5,050,065 千円）は、平成 24 年度末に竣工した。平成 26 年夏までに展示具作成等を完了し、平成 26 年秋に開館予定である。緊急屋根等漏水補修工事（同 382,000 千円）は、平成 25 年度に設計等業務を開始し、平成 26 年度において竣工予定である。 ・奈良国立博物館 防災設備等改修工事（同 1,140,899 千円）は、平成 24 年度に設計等業務を開始し、平成 25 年度において竣工した。なら仏像館外壁等補修工事（同 167,160 千円）、なら仏像館免震展示ケース等整備工事（同 438,800 千円）の各工事は平成 25 年度に設計等業務を開始し、平成 26 年度において竣工予定である。	東京国立博物館の各工事を始め、施設及び設備に関する計画は、順調に進捗中であると認められる。

	・東京文化財研究所 　水損文化財の保存修復研究の拠点整備(同 90,273 千円)は、平成 24 年度に仕様策定等業務を開始し、平成 25 年度において竣工した。 ・奈良文化財研究所 　X 線回折装置等整備(同 65,048 千円)は、平成 24 年度に仕様策定等業務を開始し、平成 25 年度において竣工した。本庁舎建替工事(同 6,976,044 千円)は、平成 24 年度に設計等業務を開始し、平成 27 年度において竣工、平成 28 年度において稼動予定である。	
【中期目標期間を超える債務負担】 ○中期目標期間を超える債務負担は有るか。有る場合は、その理由は適切か。	【中期目標期間を超える債務負担とその理由】 中期目標期間を超える債務負担はない。	中期目標期間を超える債務負担はない。
【積立金の使途】 ○積立金の支出は有るか。有る場合は、その使途は中期計画と整合しているか。	【積立金の支出の有無及びその使途】 積立金の支出はない。	積立金の支出はない。

【(小項目)3－2】　人事計画に関する計画

【評定】 A

H23	H24	H26	H27
A	A		

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項
2 人事計画に関する計画
(1)方針
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。
(2)人員に係る指標
給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。
中期目標期間中の人件費総額見込額　13，087百万円
但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p688-p692　Ⅳ-2　人事計画に関する計画

評価基準	実績	分析・評価
○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ったか。	・職員の能力や業績を踏まえ、適切な人事や給与の決定を行った。新たな人事制度の創設に向け、検討を開始した。	適切な人事・給与制度を行っていると認められるが、さらにより良い人事制度の検討を行っている。
○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ったか。	・事務系職員：本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、優秀かつ多様な人材の確保と適正な人員配置を行った。(57 名)また、機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間においても交流を行った。(8 名) 研究系職員：文化庁との相互交流を行った。(文化庁から受入 9 名、文化庁への出向 15 名) ・6地方公共団体より事務系職員 2 名、研究系職員 4 名を研修生として受け入れ、交流の促進を行った。 ・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員及び人事交流者等を対象とした各種研修(3 件)、施設系の職員を対象とした研修(1 件)、個人情報管理に関する研修(1 件)及びハラスメントに関する研修(1 件)を実施した。また、他機関等で実施する研修の情報提供を行い、積極的な参加を促した。	人事交流を促進することにより、人材の確保と適正な人員配置並びに相互交流が積極的に行われている。また、適切に内外研修への参加の機会は提供されている。 常勤職員についての人件費の抑制が専門分野への人員配置、技術の継承、年齢構成などに断層が生じる恐れがないか検討し、今後の人事計画にその検討結果を反映させることが望まれる。

○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行ったか。 ○適切な人員配置等を推進したか。 【人事に関する計画】 ○人事に関する計画は有るか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。 ○ 人事管理は適切に行われているか。	・引き続き専門スタッフの適材適所の配置を行っており、OJT などを通じてその専門性をさらに高めている。また、高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認められる業務に従事する者を確保する仕組みとして、任期付専門員制度を既に導入しているが、さらに柔軟かつ多様な人材の確保を可能とするため、平成 25 年度に任期付専門職員制度の整備を行い、平成 25 年 8 月に1名を採用した。 ・限られた人員数の中において、適材適所の人員配置に努めた。 【人事に関する計画の有無及びその進捗状況】 ・ 人事に関する計画は有り、順調に進捗している。 ・ 常勤職員の削減状況 平成 18 年度から継続的に業務の見直しや人員の再配置、退職後の職員の不補充を行い、常勤職員を 355 人としている。 ・ 常勤職員、任期付職員の計画的採用状況 ・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とし、平成 24 年度において、事務職員を適用範囲とした。また、平成 25 年度においては、同採用制度を活用し、事務職員 1 名、技術職員 1 名の計 2 名を採用し、事務職員 4 名の採用内定を行った。 ・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度(アソシエイト・フェロー)を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成 25 年度は東京国立博物館で 5 人、九州国立博物館で 1 名、東京文化財研究所で 5 人及び奈良文化財研究所で 6 人を採用した。(計 17 人) ・常勤職員については、平成 25 年度において、事務職員を京都国立博物館で1名、奈良文化財研究所で 1 名、技術職員を京都国立博物館で 1 名、研究職員を東京国立博物館で 2 名、九州国立博物館で 1 名、東京文化財研究所で 1 名、奈良文化財研究所で 2 名採用した(計 9 名)。 ・人事交流の実績 事務系職員:東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美	専門性の高い分野における人員確保のために、任期付専門員制度を導入し、適切な人員配置に配慮している。 事務職員、技術職員、研究職員とも計画的に常勤の人員配置が行われている。また常勤の研究職員に準じた有期雇用のアソシエイトフェローの採用も計画的に行われている。 人事計画に基づき、人員の再配置と不補充により、常勤職員の削減を進めている。ただし本来の業務に影響を及ぼす人員削減は避けるべきであろう。 また理事長のもとで危機管理体制の規程整備が行われている。

	術館等との人事交流を実施(57 名) うち機構内の各施設間における人事交流の実施(8 名) 研究系職員:文化庁から 9 名の受け入れ及び文化庁への出向を 15 名行っている 危機管理体制等の整備・充実に関する取組状況 ・災害等の危機管理体制については、「独立行政法人国立文化財機構防災規程(規程第 44 号)」及び各施設にて「危機管理マニュアル」を制定して危機管理体制を整備し、非常時の対応を明確化している。 ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の見直しを行い、東京国立博物館防災管理規則に規定する自衛消防隊組織の改編をした。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを随時行い、東京国立博物館では緊急対応ポケットメモの改訂を行い本部職員と東京国立博物館の職員へ配布した。	

２．　独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価

目　次

１．外部評価委員会報告

２．外部評価委員評価書

（１）総会

（２）博物館調査研究等部会

（３）研究所・センター調査研究等部会

はじめに

本委員会は、国立文化財機構（以下、「機構」という。）における25年度事業及び自己点検評価について、研究所・センター調査研究等部会、博物館調査研究等部会、総会の３回に分けて開催し、評価の適正性や、各事業内容及び業務運営の効率化等について、外部の第三者による評価を実施した。評価にあたっては、定性的・定量的評価を基に客観性のある評価に努めた。

総　評

（２５年度実績の概観）

・平成 25 年度も、機構は全体として、日本の文化財保護における中核的な組織として、基礎的な業務から先端的なものまで、幅広く実施してきており、その実績は高く評価されるべきである。

・自己点検評価もかなり定着してきた。ただし、プロジェクトごと、あるいはプロジェクト責任者ごとの差は時として大きく、相互理解の必要性はまだあるように思われる。

・東日本大震災の復興に関わる支援事業への取り組みは大いに評価されるべきであり、さらに実績を積み重ねていくとともに、この経験を今後の災害発生時の機動的な対応策の確立とネットワーク化にもぜひ役立てていただきたい。

・福島文化財レスキュー事業は、多くの困難を伴う緊急対応的な事業であるが、富岡町・双葉町の両歴史民俗資料館等からの被災資料救出を完了するなど多くの成果を挙げ、今後の継続と一層の支援が期待される。また、現在の世界全体を視野に入れると、例外的な緊急対策というよりはむしろ今後もおこりうる状況での世界で初めての本格的な取り組みでもあり、関連活動の国際的発信と連携にも力を入れる価値がある。

（国立文化財機構をとりまく状況について）

・機構と国立博物館の予算は、その国内的・国際的な重要性にもかかわらず、欧米の主要館と比べても、韓国や中国の主要館と比較しても、あまりにも小さい。国（政府）には、文化国家の責務として、世界を見据えた国の大きな決断と文化予算の大幅な増額が期待される。

・健全な事業運営の上で、機構の総予算の削減は、限界に達していると言わざるを得ない。国内最大規模の東京国立博物館でさえも、諸外国の国立博物館に比較すると、その予算規模・職員定数は全く少ないと言わざるを得ず、国（政府）には、文化国家の責務として、博物館や文化財保護への理解を一層深めて欲しいと願うばかりである。

国民に、より親しみが持てる機構（博物館）づくりを目指して、今後も地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非ご理解いただき、積極的支援がなされることを期待したい。

・元々の予算が少ない上に人員削減や人件費の圧縮が続いており、適正な機構運営のためには望ましいことではない。実際、事業に果たす非常勤雇用者の役割比率がかなり高くなっており、常勤職員の定年退職後に専門的知識や技術・経験が伝承されない恐れが生じており、人材の育成と補充は喫緊の深刻な問題である。

（国立文化財機構の将来について）

・日本の歴史・伝統文化の継承と理解は、豊かな人間形成や活力ある社会構築、さらには将来の日本の文化・社会の発展の基礎として大きく寄与するものである。「文化芸術立国」の実現を目指す我が国において、機構が果たす役割は将来にわたって大きなものがある。

・また、来る 2020 年に開催が決まった東京オリンピック・パラリンピックの開催に際しては、外国人が日本の歴史・伝統文化に触れることのできる象徴的な場として、国立博物館が重要な役割を果たすことが期待される。
・こうした状況にあって、機構は積極的な将来ビジョンを自ら打ち出し、文化政策の先導的役割を担っていただきたい。そのためには何にも増して国民の理解と支援が肝要であり、これを確かなものにしていくために、今こそ機構自身およびサポーターが社会的な情報発信力を強化していく必要がある。こうした視点に立ち、ダイナミックな戦略を構築していただきたい。
・ＩＣＯＭ（国際博物館会議）の世界大会は、既に韓国（ソウル）や中国（上海）では大会が開催され、その後の両国における博物館・美術館の大きな発展ぶりを考えると日本でもぜひ開催すべきとの機運が起きている。我が国の文化の振興のために、2019 年京都大会の招致に向けて、国立博物館の活動の充実と発信力の強化を図っていく必要がある。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承【博物館】

（概観）

・収蔵品の整備と次代への確実な継承は博物館の基本である。量だけでなく、質の充実が求められる。寄託、寄贈に加え、館購入の収蔵品は展覧会、中でも常設展の充実を図るうえで重要であり、収蔵品の整備が概ね、順調に進んでいるのは喜ばしい。

（特記事項）

・収蔵品の適切な管理保存という、博物館の基礎的活動も従来どおり着実に行われている。収蔵品の修理にあたっては、各館とも中長期修理計画の策定を進めるとともに、緊急性の高いものから計画的に実施している。本格修理は、寄付金や財団助成など外部資金の導入により目標値以上の件数を実施できたところもあり、これは評価されるべき点である。
・収蔵品の収集について、京都国立博物館が購入の年度計画を立てたにもかかわらず、平成知新館の展示器具調達等への予算配分のため、収蔵品の購入が出来なかったというが、予算編成段階でこのような事態は予想できたと思う。事業計画をもっと慎重にするべきではなかったか。また、機構全体として各館互いに必要に応じて予算的に助け合える枠組みはあるようだが、「適時適切な収集」の徹底のため、そのような柔軟な運営体制の確保が望まれる。

（希望事項）

・国立博物館は、国・地方の宝を守るべく、従来にも増して、資料の寄贈や寄託を積極的に受け入れることが必要となって来ている。そのためにも、収蔵スペースの新規確保は欠かせない課題である。
・優れた文化財の散逸を防ぎ、国民の財産としてのコレクションを充実していくためには、何と言っても財源の確保が大きな課題である。外部資金の導入がかなえられればと期待はするが、安定的に資金提供を得るのは極めて困難と思われ、現実的には国費に頼らざるを得ないであろう。文化庁と各館が情報と資金の有機的な連携を図り、それぞれの役割分担のもとで収蔵品の収集と整備を効果的に進めていただきたい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信【博物館】

（概観）

・特別展・平常展以外にも多角的に企画展示・シンポジウム・講座・列品解説などが展開され、文化財と接する多様な機会を国民に提供していることは、高く評価できる。一方、平成２５年度は博物館の平常展・特別展の総入場者がやや減少となってしまったが、京都国立博物館の常設展示施設のリニューアルも終わることから、魅力的な展示や講座などで、ふたたび総入場者の増加をめざしていただきたい。

・東アジア諸国との政治的関係が難しいなかで、25 年度は九州国立博物館などが中国やベトナムとの相互交流展を実現させ、注目された。

・来館者対応サービスについては音声ガイドや日本語以外の解説パンフレットなどもサービスが充実してきており外国人来館者対応も順調に出来ている。

（特記事項）

・特別展については、格別に集客力のある展示はなかったが、学術的な内容や文化財保護の上で、あるいは国際交流で意義の大きな展示がなされた。特に「青山杉雨のコレクションと書」が上海博物館で３６万人余の来館者を得たことは画期的であった。日本での「大ベトナム展」とベトナムでの「日本文化展」開催は時宜にかなった企画であった。

・教育活動は、小学校から大学まで、様々な方法でよく工夫され取り組んでいる。展示のみでは理解が難しいと思われる小学生に対して、先駆的な「きゅうぱっく」や「みどりのライオン」に加え、京都国立博物館にも「ミュージアム・カート」が加わるのは喜ばしい。ことに奈良国立博物館の寺院とタイアップした体験型プログラム、世界遺産学習はより広い展開が期待できる。

（希望事項）

・特別展の来館者アンケート結果は、概ね高いものとなっており、努力の成果が窺えるが、例えば東京国立博物館で開催の「クリーブランド美術館展」は、その中で満足度が 57％と目立って低い。待ち時間が長い特別展ほど評価は低い傾向にあるとは聞くが、満足度の低かったものについては、原因の究明を是非行い、以後の特別展開催の参考にすべきと考える。

・これまで各館は、国立博物館ならではの質量ともに豊かで魅力的な特別展を企画し、来館者を楽しませて来た。これこそが機構の最もわかりやすい存立意義であり、多くの人々が期待していることである。今後も各方面の協力を仰ぎ、最大限の創意工夫をもって優れた成果を生み出していただきたい。

・特別展は国民の関心事であり、今後も積極的な企画でユニークな特別展を企画していただきたい。それには入館者の多寡以外に質の高い展覧会を評価できる態勢が必要であり、必要な予算を確保の上、自主企画展の開催も積極的に行うべきである。

・展覧会による来館者数にはかなり大きな開きがあり、その理由等は概略わかっているようだが、今後非常に重要になるので、適切な分析と今後の企画へのフィードバックが期待される。

・小中学生の博物館利用について、各館意を払っている様子が伺えたが、十分実が上がっているとはいえないようである。博物館が子どもたちにより身近な存在になり、将来のサポーターとなるよう一層の工夫を求めたい。

・これからの観客層を形成していく若年層にも親しめるストーリーを作成し、さらに従来型のテレビや新聞などのメディアよりも親しんでいる、SNS などウェブ中心の新しい媒体について、情報発信方法の研究が必要のように思われる。

3　我が国における博物館の中核としての機能の評価【博物館】

（概観）

・25 年度は、東京・奈良・九州の三館は比較的堅調に活動しており、ナショナルミュージアムとしても、東アジア・東南アジア・欧米と全般的に交流し、それぞれの館の特徴がよく現れた活動が進められた。国内の公私立博物館・美術館への助言や援助も順調であり、リーダー的存在として確実に信頼されている様子がうかがわれる。

（特記事項）

・福島県内被災文化財等救援事業の期間を延長し、富岡町歴史民俗資料館や双葉町歴史民俗資料館にて救出作業を実施したことについては敬意を表したい。とりわけ国・地方による指定等の有無にかかわらず、学術上あるいは地域にとって意義ある資料を救済対象としたことは高く評価される。今後とも関係資料の保護に尽力されることを期待したい。

・国家間には様々な難しい問題がある中、学術・文化の面に於いては、従来と変わりなく活発に交流が行われていることは意義深いことである。ことに、アジア関係の研究、展示は各館重点的に取り組んでいるようであり、今後の成果が期待される。ことに九州国立博物館のタイ、ベトナムとの交流は、長年に亘り広汎な交流が続けられた成果が、所在不明資料の発見にもつながりベトナムでの展覧会に結実したことは、喜ばしく、頼もしく思われる。

（希望事項）

・国立博物館４館とも、公私立博物館への協力等を通じて、我が国における博物館の中核として十分に機能している。現在我が国がおかれている経済状況等によって公立および私立の博物館のなかにはかなりの苦境にあるところも多く、国立博物館自体も予算減で苦しい状態にはあるが、その機能は一層強化すべきであろう。

・国内の博物館・美術館や大学の博物館学講座などに向けた専門知識・技術の発信や連携・協力を進めていただきたい。

・海外機関との交流は軌道に乗り、順調に運営されているようであるが、こうした地道な活動が国際的な共同事業の実現など、大きな成果に結びつくことを期待したい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進【博物館・研究所・センター】

（概観）

・４国立博物館と２つの文化財研究所ならびにアジア太平洋無形文化遺産研究センターによって、予算的には十分とは言えないが、文化財に関する調査及び研究は順調に推進されている。

【研究所・センター】

・先駆的研究とともに、基礎的調査・研究、さらには震災関連の情報収集・調査・協力が、有形・無形ともに続けられており、いずれの分野においても成果をあげている。

（特記事項）

○東京文化財研究所において以下の点を特に評価する。

・物理学・化学等専門の外部委員を加えたワーキンググループを設けて放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成する等の成果を得た。

・津波被災文化財のカビに共通して高い耐塩性がみられたという発見など、大きな成果があった。

・保存修復センターの事業では、文化財の保存環境調査や分析にとどまらず、新たな素材や製品の開発まで視野に入れている点は望ましいあり方として評価したい。

○奈良文化財研究所においては以下の点を特に評価する。
・三次元レーザースキャナーによる遺構・遺物計測で記録の精緻化と迅速化や、また簡便かつ効果的な高所リモート撮影を工夫して調査の促進は、被災地での発掘調査で特に効果が上がっている。住居の高台移転などでの調査にも威力を発揮しており、有効性は計り知れない。
・マイクロフォーカス X 線 CT 装置による非破壊樹種識別をはじめ、今後の発展が期待できる内容が多かった。

（希望事項）

・都城発掘・歴史史料調査・保存科学・無形文化遺産調査などにおける地味ながら重要な基礎的研究の分野にも、充分な人的・財政的な配慮をするべきと考える。
・震災関連では、放射線対策のノウハウが蓄積され、それをもとに危機管理マニュアルが公開されている。今後は諸外国に向けて、さらなる情報発信をお願いしたい。
・平城宮跡及び京域の調査について、次々と調査成果が上がっている点、また研究所のリニューアルを含めた長期計画のもとで今後の調査が進められる点は心強いが、世界遺産及びその緩衝地帯としての包括的計画未完の状態は一刻もはやく脱する必要があり、計画策定主体への積極的提言を期待する。

【博物館】

・予算と人員の削減が進む状況下にもかかわらず、各館の特徴・個性を生かした有形文化財等に関わる調査研究が多数なされ着実に成果を上げている。

（特記事項）

・九州国立博物館のＸ線ＣＴスキャナや３次元プリンタ等、新しい機器の調査研究における使用や、民間企業との共同事業による４Ｋ・８Ｋ等の超高精細映像の展示における活用は、今後とも国立博物館にとって重要な意味を持つと思われる
・京都国立博物館の、大学生を対象とした「文化財ソムリエ」の育成や、九州国立博物館の高等学校所蔵考古資料の調査研究は、様々な面で重要な意味を持っており、評価できる。

（希望事項）

・光学的研究は年々盛んになってきており、これまでわかり得なかったことが判明した事例や文化財の保護に資する事例が報告されている。今後さらなる研究の進化が期待される。
・学際的な視点の導入も必要であり、異分野の研究者、また国際的な研究者との交流を積極的なものとしてほしい。

５　文化財保護に関する国際協力の推進【研究所・センター】

（概観）

・東京・奈良の両文化財研究所とも、文化財保護のための調査・研究、保存修復、人材育成や技術移転などをめぐる国際協力や国際研究集会の開催などでは、多分野にわたり、日本ならではの質の高さで大きな実績を挙げており、非常に高く評価できる。
・23 年度から新しく取り組まれるようになったアジア太平洋地域における無形文化遺産の保護事業は、これまで日本が培ってきた技術やノウハウの供与などが期待される分野であるにも関わらず、予算や人事面においてはなはだ不十分である。東京文化財研究所ともより一層連携しつつ、掛け声だけでない具体的な打開策が必要であると思われる。

（特記事項）

・紙の保存と修復というまさに日本のお家芸とも言える分野での国際的な研修が行われ、発展性のある

成果を残している。
・日・中・韓の国際関係が難しい状況にあるなかで、敦煌を中心とした中国の文化遺産保存修復の共同研究が継続・実施されていることは、きわめて貴重な成果である。
・中国や韓国との共同研究、東南アジアや西アジア諸国での保存修復協力、その他多くの受託事業が同時進行している。これら一連の国際協力活動は、文化面での日本の国際貢献の重要な柱であり、日本への理解を諸外国で高める一翼を担う、意義深い活動である。

（希望事項）

・国際協力は外国にとって期待される事業であり、多角的な内容は高く評価される。しかし、単年度事業だけではない。長期的な視野で続けなければならないものもあり、費用や人的な面で本来の業務を圧迫することのないような配慮が必要である。「平和外交大使」の側面を持つ国際協力として、機構の役割に期待したい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信【研究所・センター】

（概観）

・研究所の報告書・研究論集などの出版物が、多様かつ大量に刊行されていることは、成果の発信として高く評価できる。
・オープンレクチャー、公開講演会、現地説明会、展示公開の開催により、研究成果を一般の方々に発信する努力が続けられている。

（特記事項）

・文献蒐集に関し、セインズベリー芸術文化研究所との間で協力関係ができたことは幸いであった。同研究所は芸術分野のみならず広く日本の考古学・文化財の研究でも蓄積があり、今後の成果が期待される。
・ウェブサイトの更新関係では、アジア太平洋無形文化遺産研究センターが、現行の日本語、英語、タイ語、ベトナム語に加え、タミル語、クメール語、ラオ語を新規追加する準備を行っていることは特筆に値する。
・無形文化財に関する音声・画像・映像資料のデジタル化は現在求められている重要な作業で、これにより沖縄のイザイホーなどの記録が失わることなく保存されていくことを評価したい。

（希望事項）

・東日本大震災の復興事業における「文化財レスキュー」で果たした両研究所の大変な努力・活躍について、国民に対してのみならず、国際的にもっと積極的に発信していただきたい。
・調査研究の高いレベルの成果を、研究者向けのみでなく一般国民に対しても分かりやすい形で、出版したり、講演会・シンポジウムによって伝えるなど、さらに発信していただきたい。
・資料のデジタル化情報は脆弱な一面もあって実物資料の保存を粗略にしてよいことにはならない点を再確認し、資料の適正な保存方法を考える東京文化財研究所の取り組みに大きな期待を持ちたい。
・東京文化財研究所が国立情報学研究所の総合目録データベースを通じて広く情報提供を行い、図書利用についてもサービスを充実したことは喜ばしい。今後はもっとこれを利用してもらうことに取り組んでほしい。
・東京国立博物館の「キトラ古墳壁画展」のように、同じ機構内の国立博物館と東京・奈良の両研究所の協力のもとでの発信事業が成果を挙げていることは、大変喜ばしい。さらに、他の国立博物館や外部の各地の自治体立博物館・大学博物館と協力する形での展示・公開事業はできないものか。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上【研究所・センター】

（概観）

・地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、文化財、美術館や博物館環境、発掘調査、遺跡整備、無形文化遺産とすべての分野において展開されている。震災復興に関連した発掘調査では、新たな技術開発を行い、より効率的に実施できるようになっている。

（特記事項）

・東日本大震災の復興事業に係わる発掘調査では、阪神淡路大震災の復興事業発掘とは異なり、奈良文化財研究所が技術的な支援を行い発掘調査にも加わったことは、重要な成果であった。

（希望事項）

・各地で文化財実務に携わる人材の育成について、研究所スタッフが地方に出向く形での研修事業が、現有スタッフの負担を考えると容易ではなさそうだが、今後拡充するべき事業分野とみなしてよいのではないか。

・大学など高等機関との交流もいっそう積極的に進めてほしい。３機関を支える人材を育てる可能性があるし、地方自治体に就職したとしても中心的存在として活躍が期待されるからだ。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

（概観）

・管理費の削減、給与水準や契約の適正化、保有資産の有効利用推進等については相当に努力していることが伺われ、自己収入増加率の上昇や寄付金件数の増加，科学研究費採択件数の増加、財団助成を受けた寄託品の修理等の成果は十分評価されてよい。

（特記事項）

・25 年度は展覧会収入が減少したものの、全体的な自己収入は年々増加の傾向にあり、保有資産の有効活用にも興味を引く内容の活用がなされている。また寄付金や科研費補助金も目標件数を上回るなど，考え得るすべての面で大いに努力されていることを評価したい。

（希望事項）

・効率的業務運営に心がけるのは当然の責務であるが、そこにとどまることなく、むしろ機構自身が将来に向けて積極的なビジョンを打ち出すことで、国民も納得できる新たなありようを提示し、その活動領域を拡大する方向で考えていくべき時代であろう。そのためには何にも増して国民の理解と支援が肝要であり、これを確かなものにしていくために、今こそ機構自身およびサポーターが社会的な情報発信力を強化していく必要がある。こうした視点に立ち、ダイナミックな戦略を構築していただきたい。

・外部からの収入として、科研や寄付の件数が増加しているとのことだが、間接経費を含む金額ベースでの推移は公表できないか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

（概観）

・文化政策においては、長期的な見地にたって継続的に調査や基礎研究を行い、着実に実績を蓄積していくことは重要である。予算削減や、短期間での成果が社会的に求められがちであるが、効率化や外部資金獲得の努力を続けつつ、それなりの研究環境と研究員の確保のための資金計画を忘れてはならないと考える。

（特記事項）

・独立行政法人の制度的環境が厳しく見直されるなか、努力・効率化によって自己収入増加を実現してきた一方で、運営費交付金の一律削減がそれ以上に進む状況にある。単純な経済利益の原理と即応しない文化・文化財を専門とする法人に対しては、特段の配慮があるべきと考える。自己収入の目的積立金化が認められ、努力が報われる制度が実現すべきである。

（希望事項）

・機構においては経理上、毎年開催される特別展毎に個別収支計算が出来る仕組みが出来ており、このデータを利用して各特別展の採算性の分析を行い対策に生かすことが出来る。ただし、特別展は必ずしも収益性の追求を目的するものではなく、場合によっては学術的あるいは啓蒙的な観点から損失を覚悟するケースもあり得る。ここで大事なことは、赤字企画についても合理的な理由を説明する責任を明確にするという“説明責任体制”を確立することである。

・昨年は「国立文化財機構の経営環境」の報告を受け、危機的な状況であることが共有された。これについては、近代以降築いてきた日本の文化のあり方が危機にひんしている現実として認め、そうした問題の共有と解決に向けて関係機関に働きかけることを強く要望したい。

・昨年、欧米主要国や韓国・中国の国立博物館の予算や人員の説明があり、日本の博物館の貧弱さが示されたが、そういう国の姿勢が国民の自国の歴史に対する関心の低さを生み出している一因ではないか。国民の歴史や文化等への理解を育み、心豊かな人材を育成するために、機構として文科省に今まで以上に積極的なアプローチをしていただき、文化行政の充実を強く要請してほしい。

Ⅳ　その他人事計画等

（概観）

・諸外国の国立博物館に比較して、わが国の博物館は予算規模とともに職員定数についても全く少ないと言わざるを得ない。適正な機構運営のためには、これ以上の人員削減や人件費の圧縮は決して望ましいことではない。任期付きのアソシエイトフェロー制度の導入は良い試みと言えるが、任期付職員の専任化を含め、専任職員の増員も急務と思われる。

（特記事項）

・非公務員化のメリットを活かして、特殊技術や技能をもつ人材を機構独自で採用可能とする規定を整備し、アソシエイトフェローの制度により業務の専門性に対応している。しかし、アソシエイトフェローなどの非常勤雇用者が多くの業務を担っている現状のなかで、職員の定年退職後、いかに専門的知識や技術・経験が伝承できるか、されているのかは深刻な問題として残る。

（希望事項）

・研究の活性化のためには、博物館や研究所・文化庁間に高等機関も加えた人事交流を盛んにすべきだろう。長期的視野のもとに人材育成のプログラムが求められるのではないか。

・有期雇用職員については、任用期間内に常勤職員化あるいは他機関への就職等ができれば問題はないが、任用期間後の動向にも配慮しつつ、安心して働ける職場つくりに配慮していただきたい。

・人事にかかる長期的・継続的な問題については文化財機構においての継続的な取り組みとモニタリングを行い、その結果を外部評価委員会総会に報告することが望まれる。

・ＩＣＯＭ（国際博物館会議）の京都大会招致に向けて動き出した。そうした現状を鑑みて、人事面においても国際的な役割を担える博物館として発展してゆくことを望む。

・繁多な日常業務の中で毎年実施される自己評価にかける機構スタッフの労力が軽微なものではないこ

とは明らかである。これまで回を重ねてきてこのあたりで、自己評価の簡略化による負担軽減の方途を考えてもよいのではないか。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	小　林　　忠	（学習院大学名誉教授･岡田美術館館長）
副委員長	横　里　幸　一	（ＮＨＫプロモーション取締役）
委員	鮎　川　眞　昭	（公認会計士）
委員	稲　田　孝　司	（岡山大学名誉教授）
委員	岡　田　保　良	（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）
委員	河　合　正　朝	（慶應義塾大学名誉教授･千葉市美術館館長）
委員	酒　井　忠　康	（世田谷美術館長）
委員	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委員	園　田　直　子	（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）
委員	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	藤　田　治　彦	（大阪大学大学院文学研究科教授）
委員	森　　弘　子	（福岡県文化財保護審議会専門委員）
委員	柳　林　　修	（読売新聞大阪本社記者）

２．外部評価委員会評価書

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎総会

外部評価委員名

横 里　幸 一

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の収集、修理等の整備は、文化の保存・継承という観点から、当機構事業活動の最も基盤を成す業務であるが、一部例外的なケースを除き概ね順調な成果をあげており、各館の取り組みと努力は評価したい。

今後も、優れた文化財の散逸を防ぎ、国民の財産としてのコレクションを充実していくためには、何と言っても財源の確保が大きな課題である。外部資金の導入がかなえられればと期待はするが、安定的に資金提供を得るのは極めて困難と思われ、現実的には国費に頼らざるを得ないであろう。文化庁と各館が情報と資金の有機的な連携を図り、それぞれの役割分担のもとで収蔵品の収集と整備を効果的に進めていただきたい。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

今期は、入場者数が 300 万人を割り込んだとのことであったが、これは無論一時的な現象であり、再び勢いを取り戻すものと思われる。

これまで各館は、国立博物館ならではの質量ともに豊かで魅力的な特別展を企画し、来館者を楽しませて来た。これこそが機構の最もわかりやすい存立意義であり、多くの人々が期待していることである。今後も各方面の協力を仰ぎ、最大限の創意工夫をもって優れた成果を生み出していただきたい。

一方、入場者数と満足感が相反するという指摘も決して看過することはできない。様々な対応策が検討されているが、いずれも決め手に欠け未だ解決には至っていない。しかし個別の事情に応じて様々な対策を試行し、少しでも改善していくべきである。

こども達の来館が減少していることは、大変残念である。教師の関心を高めるための工夫、あるいは来館に伴うプレミアム感の提供など、多角的なアプローチを講じ、何とか改善を図っていただきたい。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

海外機関との交流は軌道に乗り、順調に運営されているようであるが、こうした地道な活動が国際的な共同事業の実現など、大きな成果に結びつくことを期待したい。

また、人材育成面でも機構は中核的な役割を積極的に担うべきである。今期も保存修理事業者への研修や各種援助、助言などが行われているが、とりわけ地域の人材の育成のため、長期間の研修受け入れ等計画的な施策の立案と実行を求めたい。

なお、東日本大震災の復興に関わる支援事業への取り組みは大いに評価されるべきであり、さらに実績を積み重ねていくとともに、この経験を今後の災害発生時の機動的な対応策の確立にもぜひ役立てていただきたい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

５　文化財保護に関する国際協力の推進

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

今後の日本においては、文化の果す役割が増々大きくなっていくものと思われるが、その中で当機構の担うべき役割もまた大きくなるものと思われる。

独立行政法人化されて以降、業務改革、効率的運営などに着実に成果をおさめてきたことは、大いに評価されるが、今後もこの延長線上で経営を考えていくべきかどうかは、意見の分れるところである。

業務が多様化、高度化し、その動向に社会的な注目が高まる中で、新たな展開に対応した人材の確保・育成が果して適正に行われているのか危惧されており、改善が期待される。

効率的業務運営に心がけるのは当然の責務であるが、そこにとどまることなく、むしろ機構自身が将来に向けて積極的なビジョンを打ち出すことで、国民も納得できる新たなありようを提示し、その活動領域を拡大する方向で考えていくべき時代であろう。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

来年４月には、独立行政法人改革が施行されると伺った。

毎年議論されていることであるが、目的積立金の弾力的な運用が本当に実現されるのであろうか。国からの交付金の減少はもはや限界に達している。機構が自助努力により収入拡大を果してきたことが、経営のインセンティブに全く結びつかない現在の仕組みは、当然見直されるべきである。

また、企業等が個別の展覧会に協賛することは定着し、多彩な文化事業の振興に寄与している。これを各館への直接的な協賛に発展させることはできないのであろうか。例えば、海外の一部美術館で行われている、協賛企業名を冠した学芸員職位名称の導入なども検討して良いと思われる。

Ⅳ　その他人事計画等

今後の日本においては、経済が力を落としていく中で文化こそが大きな力を持つべき時代を迎えようとしている。

こうした状況にあって、当機構は積極的な将来ビジョンを自ら打ち出し、文化政策の先導的役割を担っていただきたい。そのためには何にも増して国民の理解と支援が肝要であり、これを確かなものにしていくために、今こそ機構自身およびサポーターが社会的な情報発信力を強化していく必要がある。

こうした視点に立ち、ダイナミックな戦略を構築していただきたい。

◎総会

外部評価委員名

鮎川　眞昭

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

① 今回の外部評価委員会・総会において両部会長からの報告されたとおり、限られた予算と人員の中で機構は最大限の努力と熱意を以て業務に当たってこられたことを前年同様に、高く評価したいと思います。

② 前回も指摘したことですが、収蔵品の取得についての財源と予算の配分について今回の総会で他の委員から同様の指摘がありました。すなわち、収蔵品の取得がそれぞれの博物館単位で行われており、新規収蔵品の件数と予算枠にかなりのばらつきがあります。　各博物館の独自性と個性を尊重するという基本方針のもと、それぞれの判断で収蔵品の取得を行うのが原則であるとの説明でした。しかしこのような個別対応ではなく、むしろ機構全体で必要な予算枠を確保し、各博物館の方針と要請に従って機構本部が予算を配賦する体制が必要なのではないでしょうか？　それぞれの博物館が個別に予算枠で縛られるのは、結果として必要かつタイムリーな文化財の購入確保に支障をきたす恐れがあると思います。（これまで東博において東洋館の耐震補強工事にかかる施設修理・整備費支出が負担となったため、東博において収蔵品の購入がストップしたことや、今年度は京博において知新館の建設工事があったため、収蔵品の購入がストップしてしまったという経緯があります。）

③ 前回も指摘していますが、運営費交付金が収蔵品の取得と通常の機構運営にかかる経費という全く性質の異なる支出を区分認識せずに、単一の予算枠で全てを賄うように要求する現在の取り扱いは是正すべきではないでしょうか。加えて、運営費交付金が機構の自助努力による自己収入の増大によって結果的に削減されてしまうという構造的問題があるように思われます。　自己収入の拡大に努力した結果、収蔵品の購入予算が逆に削減されることのないような措置と配慮が強く望まれます。

④ 前回、「独立行政法人国立文化財機構の経営環境について」（平成 25 年 4 月 23 日付）が提示されました。　これは我が国の文化財事業に投入されている国の予算と人員は韓国や中国のそれに比較しても明らかに見劣りするという事実を示したものです。今回の総会ではこのような資料の提示はありませんでしたが、我が国のこうした現状を踏まえ、国、行政並びに社会全般に対する啓蒙活動を積極展開し、必要十分な予算財源の確保と支援を得られるよう、機構としては幅広い広報活動を積極的に展開することが急務だと思われます。

⑤ 文部科学省主導で文化芸術立国のための分科会などが設置されているとのことでありますが、このような公の場において文化財機構が積極的な発信を行い、各界にアピールを強めていく必要があるとの意見があり、機構として対外的な情報発信の取り組みが強く望まれます。

⑥ 前回も申し述べましたが、緊急災害時のリスク管理についての対応の更なる必要性です。今後 30 年以内に首都直下型地震や東海、南海、東南海トラフ連動の大震災など、マグニチュード 9 クラスの巨大地震が発生する可能性が非常に高いと言われており、文化財を保護するために当機構の保有する施設等について高い耐震強度を確保することが急務です。予算が限られている中でこうした分野にどれだけ先行投資が出来るかがカギとなります。　すでに「理事長のマネジメント強化」策の一環として危機管理マニュアル等リスク管理に関連した諸規定類の改訂を行っているとの報告がなされています。しかし、さらに踏み込んで機構が設定する現行の安全基準値を再検討し、現在の設備の耐震強

度がどの程度であり、さらにどれだけの耐震補強が必要かを外部専門家の参加を得て組織的、網羅的に調査研究する必要があると考えます。　なお、機構は独自の調査結果に基づき、具体的な補強工事に必要な予算要求を行っているとの説明を受けました。

⑦　文化財の修理、修復のため、あるいは科学的な調査研究に様々な最新機器や技術（３Ｄデジタイザーや３次元プリンターなど）が導入されていることは大変評価できることであり、これにも当然予算の問題がありますので、文化財保全のために必要な財源確保が強く望まれます。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

①　今期も前期に引き続き中国関連の催事に日中関係の悪化が影響し、海外からの来館者の減少傾向が続いているとのことです。　このような困難な環境下でも機構の最大限の努力により、いくつかの文化交流のための中国関連の催事が成功裏に行われたことは大いに評価できると思います。

②　来館者対応サービスについては“音声ガイド”や日本語以外の解説パンフレットなどもサービスが充実してきており外国人来館者対応も順調に出来ていると思います。

③　今年度においても平常展は、来館者数および出品数など、概ね目標を上回る活動が展開されています（平常展示館の建て替え工事中であった京都を除きます）が、奈良と九州では前年度を下回る結果となっています。

一方、特別展で見ると、東京（6 件）および京都（3 件）九州（4 件）の特別展で目標来館者数を下回り、全体的に些か低調な結果となっています。　これに対し奈良は「正倉院展」が成功し予想を上回る結果となりました。　いずれにせよ、各博物館それぞれに特別展・開催の努力は大いに評価するべきですが、結果に場所ごとのばらつきが多くあります。

④　現在、定量評価値として来館者数と陳列品数などが報告されていますが、これに加えてやはりそれぞれの入場料収入金額も「評価委員会」に報告されることが重要であると考えます。特別展や平常展は金銭的成功を目指すものでなく、金額による評価には抵抗感があるのは十分理解できます。　しかし、組織としての成果を入場料収入金額で評価することはそれなりに意味のあることと思います。

⑤　今年度は、現在の機構が発足して以来、初めて入館者数が 300 万人を下回り、282 万人となったとの報告がなされています。（平常展では 10 万人減の 101 万人、特別展では 60 万人減の 181 万人）このため、入場料収入は 140 百万円減の 674 百万円となっています。この原因は全体的に入館者が減少傾向にあり、かつ「興福寺　阿修羅展」のような大人気を博した成功イベントが無かったためであるとの説明を受けました。入場料収入は機構収入の最大財源である運営費交付金 6,405 百万円に比較すると 1 割強でしかなく、自己収入という自助努力の限界を感じさせるものではありますが、その増大を図ることが機構の中期目標にも掲げられています。やはり、上記④で述べた通り、平常展、特別展それぞれに業績管理を積み上げて、目標達成率の向上を図る仕組みが必要と思われます。

⑥　小林委員長からの発言で、昨今、国立博物館などに小中学生や児童の団体入館が非常に少なくなっているとの指摘があり、これを受けて、我が国の文化財の価値を次世代に受け継いでもらうことが大事であり、文化芸術の未来の担い手、後継者となってもらうためにも児童・学生の来館を増やすための対策が重要であるとの意見が出されていました。まず少子化の現実があり、修学旅行などが団体で行われなくなったことなども遠因になっているとの指摘がありました。　今後は機構としてもこうした面での対策を積極的に考えていくべきだと感じました。

⑦　来館者に対して快適な観覧環境を提供するという目的のため、施設、設備の整備充実はもちろんですが、付帯設備としてのミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実が大事です。これに付随

して機構自体はこうしたサービスの直接的提供者として、テナント方式で専門業者を導入しています。　今総会では、一委員からこのような業者はどのように選定され営業しているのかとの質問があり、企画競争による選定を行っているとの説明がありました。　これらのショップやレストランは機構としては家主として場所を提供し、家賃をとって自己収入としていると思いますが、この場合に自己収入を増やす手段として、テナント家賃を使用面積に応じた固定家賃（坪当たり○○円）ではなく売上高の一定%を家賃とする変動家賃とすることも可能です。さらには粗利の一定%とする家賃（セブンイレブンなどのコンビニ方式）もあり、売り上げ自体を機構の売り上げとして計上する消化テナント方式というものもあります。　ショップなどの運営に機構が直接、間接に関わるのは無理があるかもしれませんが、単なる固定家賃方式から一歩踏み出して、家賃収入を増やす方策も検討してみる価値があると思います。なお、各博物館ではすでにショップやレストランの営業について固定家賃プラス出来高家賃（売り上げの一定%）を導入しておりかなりの努力をされていることがわかりました。

3　**我が国における博物館の中核としての機能の強化**

①　多岐にわたるテーマが設けられ、それぞれに適切な調査研究活動が展開されていると思います。研究成果の公表も多様なメディアを利用して活発に行われていると思います。

②　調査研究の国際化の活動の内、日本から海外への調査研究員の派遣が活発であるのに比べ海外からの研究者受け入れが相対的に少ない傾向はまだ残りますが、少なくとも今年度はかなり積極的に海外からの研究員招聘を増やしたことが顕著にみられますが、特段の問題はないと思います。

4　**文化財に関する調査及び研究の推進**

①　多岐にわたる調査研究テーマが設けられ、それぞれに適切な活動が展開されており、特段の問題はないと思います。

5　**文化財保護に関する国際協力の推進**

①　文化財保護に関する様々な分野での国際協力事業が展開され、適切な活動が実施されており、特段の問題はないと思います。

6　**情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信**

①　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化が推進されており今年度は特に東京では驚異的な件数をこなしたことが目を引きます。また、各博物館の広報印刷物の刊行やウェブサイトの活用推進も高く評価できますので、特段の問題は無いと思います。

7　**地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上**

①　地方公共団体への協力等は全国各地の公私立博物館に対する収蔵品の貸出やこれらに対する援助、指導助言などを通じて活発になされており、特段の問題は無いと思います。

Ⅱ　**業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置**

①　現在、文化財機構に対しては平成 22 年 12 月 7 日閣議決定の基本方針のもとで、中長期的に一般管理費の 15%以上の削減、業務経費の 5%以上の削減という目標が設けられています。また、平成 19 年度の法人統合による機構運営に際しては平成 23 年度までの 5 年間で 19 年度一般管理費の 10%相当の削減を図ることが目標に掲げられています。しかし、この目標は既に平成 23 年度までに達成すべ

き過去のものとなっており、このような目標自体が既に意味があるのか定かでありません。

② さらに一般管理費中の業務経費に次ぐ重要費目である人件費の削減については「国家公務員の給与水準等を十分考慮してその適正化に取り組むこと」とされており、当年度は「国家公務員の給与の改訂および臨時特例に関する法律」に準じて平均7.8%の減額が行われたとの報告がありました。　このような削減目標は、文化財機構の運営上、意味があるのか再検討すべきではないかと考えます。

③ 前年度に続き、今年度も継続して文化財機構が経費削減のための具体策として取り組んだのは以下のものです。

- 共通的事務を一元化して業務効率化を図ること（具体的には財務会計システムやweb給与システム、機構VPMの導入など）。
- 計画的に一定の外注可能な業務をアウトソーシングして経費削減につなげること。（博物館の施設管理運営や来館者対応業務等の民間競争入札による業務委託など）
- 使用資源（電気、ガス、水道料金等）の節約、削減を行うこと。

こうした努力は評価できますが、電気、ガス料金の高騰など、不可抗力的な増加要因があったことにより徹底したコスト削減には限界があります。また、競争入札をしても業務のアウトソーシングによるコスト削減も単純にはいかない面があります。

そうした中で機構は地道な努力を積み重ねているという印象を受けています。

④ 昨年に続き、今回の総会において提出された資料上、一般管理費と業務経費の効率化（定量評価）のデータは「集計中」とされて開示されていません。理由は「監査中であるため」と昨年度に説明を受けました。前年度もお願いしましたが「後日変更の可能性があります」と注書きしたうえで、総会開催日に提出される資料には記載をお願いしたいと思います。

⑤ 自己収入の増大も文化財機構の目標として設定され、総会開催時提示資料には基準額、目標額と実績額が記載されています。自己収入は毎年、基準額の 1.16%の増加を図ることが目標とされており、当年度においては自己収入実績額（969,081 千円）は目標額（926,001 千円）を大幅に上回り、過去3年間でも最高の実勢額を達成しています。　これは機構の地道な努力の大きな成果だと思います。さらに自己収入の内訳と増加要因の分析が望まれます。

⑥ 自己収入の財源としてもう１つ大事なのは寄付金です。　これまで寄付金は目標としては件数のみでなぜか金額を目標に示さないことにされてきました。　やはり寄付金も機構の財源の新しい柱としてさらに強化するべきものと考えます。　欧米の有名な美術館や博物館は巨額の寄付金によって賄われているといわれています。　我が国では寄付金文化がない、公益のための寄付の習慣が乏しいのは致し方ありませんが、長期的には寄付金収入をどうしたら飛躍的に伸ばせるのかを研究してみる価値があります。できれば機構の管理部門から人材をパリのルーブルやNYのメトロポリタンなどに一定期間、海外派遣して寄付金獲得のための実務や環境整備の実情を学び情報収集をして来るのはどうでしょうか？

⑦ 文化財の調査・研究や修理・保存などの専門家の確保、育成の観点から現在の公務員人事制度を準用した形での人事給与制度がはたして機構の場合、適切かつ妥当かどうかの議論は今回の総会でもありませんでした。人材の流出、過重労働負担などの問題や、文化財に関わる人々の間に非正規雇用（不定期採用、パートタイマーや嘱託などの人員）を生むことも懸念されていましたが、今回の総会においてこのような問題について言及はありませんでした。　こうした人事にかかる長期的・継続的な問題については文化財機構においての継続的な取り組みとモニタリングを行い、その結果を総会に報告することが望まれます。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

① 文化財機構の場合、今年度数値で見ると運営費交付金」（6,405 百万円）と「施設整備費補助金」（275 百万円）という二つの収入が全収入（9,281 百万円）の 72%となっており、自己収入（1,240 百万円）は全体収入のうちの 13.4%にすぎません。機構の財政基盤は国（文化庁と文部科学省など）の政策や方針に大きく依存しますが、我が国の文化芸術立国の視点からすると国による機構への財務支援は十分とは言えないことは前述のとおりです。

② そこでは自己収入をどのように拡大していくべきかが問われています。　機構においては経理上、毎年開催される特別展毎に個別収支計算が出来る仕組みが出来ており、総会資料には毎年度、この個別収支計算によって各特別展の入場料収入額とこれに係る運営経費、その結果としての損益が明瞭に表示されています。この損益データを利用して各特別展の採算性の分析を行い対策に生かすことが出来ます。　特別展は必ずしも収益性の追求を目的するものではなく、場合によっては学術的あるいは啓蒙的な観点から損失を覚悟する（少ない予想入場料に対し多額の運営費用がかかる）ケースもあり得ます。　ここで大事なことは、赤字企画についても合理的な理由を説明する責任を明確にするという“説明責任体制”を確立することです。

今年度の総会資料にはこのデータが添付されていました。来年度はそれに対する分析と対策の報告をお願いしたいと思います。

③ また、平常展についても同様に収支計算をすることが可能であり、東京、京都、奈良、九州の 4 博物館の平常展がどのような収支実績となっているかを明らかにすることができます。　来年度の総会資料にはこのデータを提示していただければこれをもとに、平常展を適切に運営するために必要な予算枠を要求する根拠ともなるのではないでしょうか。

④ 機構の運営委員会はこのような収支実績の報告を受けて機構全般の経営基盤の改善を図り、各博物館に所要の収支対策を求めることができます。また、自助努力による改善金額は、運営費交付金の額に反映させないよう要求することの根拠作りにもなります。

⑤ 保有資産の活用による自己収入の増大も対策の一つであります。　施設を様々なイベントや講演会、セミナーやシンポジウムなどの場として提供し利用料収入を得ることになれば財源確保にもつながります。こうした利用実績を拡大していく努力を続けて戴きたいと思います。　前述のショップやレストランのテナント家賃の獲得、増加もその一つです。

Ⅳ　その他人事計画等

特にコメントはありません。

◎総会

外部評価委員名

稲 田　孝 司

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

全体としては適時適切な収集、収蔵品の管理・保存・修理、施設の環境整備などが良好に行われたと認

められる。ただ京博では、収蔵品購入予算が新館整備に伴う機器購入経費等に充てられ、結果として購入０件ということであった。一時的な必要であり、苦渋の選択であろうと推察されるが、購入予算とはその程度のものかという印象を世間に与えれば、今後、交付金削減の口実にもなりかねないのではないかと危惧される。収蔵品収集経費に関する同様な事例は、平成２３年度に東博の東洋館再開館へ向けての備品購入等に際してもみられたので、注意が必要である。もっとも京博では寄贈・寄託品の増加に向けて努力し、来年度からの新しい平常展では国宝・重文クラスの寄託も見込まれるとのことであり、今後とも収蔵品の整備に尽力されることが期待されよう。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

東博では平常展を総合文化展と名称変更し、展示品の部分的な入れ替えも継続して来館者数を増加させたことは貴重な工夫であった。九博では当初から中央の大きな展示室と周囲の小展示室を組み合わせ、小展示室では随時トピック展示を開催して、常設展のイメージチェンジをはかってきた。各館もそれぞれに平常展の改革に取り組んでおり、今後の博物館のあり方を考える上で重要な動向である。多くの地方博物館では、建設時に巨額の予算をつぎ込んで常設展示を開設するものの、手の込んだ展示施設のためにかえってその後の展示内容改良への柔軟性が失われ、リピーター減少の原因となる場合も少なくないようだ。国立博物館の常設展示改革がさらに全国的に発展することを期待したい。

特別展については、格別に集客力のある展示はなかったが、学術的な内容や文化財保護の上で、あるいは国際交流で意義の大きな展示がなされた。特に「青山杉雨のコレクションと書」が上海博物館で３６万人余の来館者を得たことは画期的であった。日本での「大ベトナム展」とベトナムでの「日本文化展」開催は時宜にかなった企画であった。

機構設立以降はじめて４館あわせた入館者数が３００万人の大台を割ったということであるが、特別展の来館者には自ずと波があり、各館とも平常展の改革や教育活動の充実、学校教育との連携等に努めており、そうした地道な努力が今後の来館者数増大を下支えするものと思われる。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

福島県内被災文化財等救援事業の期間を延長し、富岡町歴史民俗資料館や双葉町歴史民俗資料館にて救出作業を実施したことについては敬意を表したい。とりわけ国・地方による指定等の有無にかかわらず、学術上あるいは地域にとって意義ある資料を救済対象としたことは高く評価される。今後とも関係資料の保護に尽力されることを期待したい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

（研究所部会での外部評価書参照）

５　文化財保護に関する国際協力の推進

（研究所部会での外部評価書参照）

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

（研究所部会での外部評価書参照）

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
（研究所部会での外部評価書参照）

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

管理費の削減、給与水準や契約の適正化、保有資産の有効利用推進等については相当に努力していることが伺われ、自己収入増加率の上昇や寄付金件数の増加，科学研究費採択件数の増加、財団助成を受けた寄託品の修理等の成果は十分評価されてよい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

現在、目的積立金は認められていないが、事業の長期的展開や新たな事業企画を支えるためには有効な一面を持っている。もとより積立金といっても国民の税を元にした事業活動での成果であり、積み立ての範囲にはおのずと限度はあろうが、事業に取り組む機関の意欲拡大につながれば効果的であろう。

Ⅳ　その他人事計画等

有期雇用職員については、任用期間内に常勤職員化あるいは他機関への就職等ができれば問題はないが、任用期間後の動向にも配慮しつつ、安心して働ける職場つくりに配慮していただきたい。

◎総会

外部評価委員名
岡 田　保 良

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収集、修理等、京博での購入実績を除いて順調。京博の収集についての自己評価をＦにまで下げたことについて、建設工事との関係である程度想定できたれた事態とも考えられる上、文化庁にも共通の購入経費が計上されていて補う措置も可能だったとの説明があった。そこまで評価を下げた理由は何だったのか、予算見通しの甘さなのか、購入品選定努力の不足か、ゼロという定量評価を優先するためか、さらに、そのような評価を避ける方法はなかったのか、他館も含めた今後の評価のためにも、そうした観点を明示してほしい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

きわめて活発で充実した展示活動、データベースやアーカイヴの充実について順調である。ただ事業報告ではとくに海外に向けた、あるいは外国語による情報発信が未だ不十分という自己評価が聞かれた。現有スタッフでそれを望むことが困難なら、別途予算措置など対策を考える必要があるのではないか。他方、上海とベトナムにおける海外展の試みは好評だったようだが、客観的データが欠如している。展示に際して評価を可能にする何らかの指標を定めておくことはできないものか。

小中学生の博物館利用について、各館意を払っている様子が伺えたが、十分実が上がっているとはいえないようである。博物館が子どもたちにより身近な存在になり、将来のサポーターとなるよう一層の工夫

を求めたい。
　平常展の評価が目標値に対する実入場者数の比で表されることは納得できるが、特別展では来館者の満足度も評価の指標として重要。洛中洛外図のような細密絵図の見せ方にもっと工夫が欲しかったことを、数字が示しているのではないか。
　新たにSNSの活用に踏み出したことは至極当然と思われるが、その利活用の実状についてどのように把握し、客観的評価に繋げるか、次年度に期待したい。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化
　展示と研究とのコラボレーションが順調に進められているようで中核博物館として心強い。また、博物館では特別展ばかりが注目されがちだが、東博では平常展を「総合文化展」と呼んで２，３ヶ月毎に展示を入れ替え、膨大な所蔵文化財の活用を図っているという努力はもっと評価されてよい。同時に各館とも、ウェブサイトのさらなる活用と充実により、そうした平常展の魅力をアピールするような工夫を求めたい。まもなく開館する京博の新展示館が、平常展の様々な課題にチャレンジする新たなモデル館となってほしい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

５　文化財保護に関する国際協力の推進

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
　もはや限界かと思われる一般管理費の削減について、業務システムの効率化やアウトソーシングにより目標は達成されている。また、様々な企画や外部からの依頼により、保有資産は有効に活用されているようである
　構成員の多くが科研補助金を獲得して研究活動を充実させることは喜ばしいが、自己収入増を図るための間接経費目当てに科研をめざすということがあれば、それは健全な方向とはいえないのではないか。外部からの受託業務についても、計画に基づく本来業務に支障のない範囲で行われるべきであろう。また外部からの収入として、科研や寄付の件数が増加しているとのことだが、間接経費を含む金額ベースでの推移は公表できないか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
　4館総入場者数の減少やそれによる自己収入減は精査の材料だが、運営費交付金の一時的増額もあって25年度の経常利益、総利益は黒字を確保しており、当面は堅調に推移している。

Ⅳ　その他人事計画等

アソシエイトフェローの採用が効率的に業務運営を支えることは理解するが、せっかく育成した人材を機構内にとどめておく事例がほぼ皆無というのが現状。また募集時におけるそうした雇用条件が、望むべき人材の採用に支障をきたしていないか、スタッフの年齢構成やより好ましい人材を確保なども視野に、テニュアトラック的な制度を取り入れることも考慮に値するのではないか。

最後に、繁多な日常業務の中で毎年実施される自己評価にかける機構スタッフの労力が軽微なものではないことは明らか。これまで回を重ねてきて、負担軽減の方途を考えてよいのではないか。自己点検報告書の作成は毎年のこととしても、外部評価は隔年でよいかもしれない。また、外部評価は次期中期目標策定にこそ重要な意味を持つと考えられ、26 年度末ないし 27 年度当初にそのような議論の場が必要ではないか。

◎総会

外部評価委員名

河 合　正 朝

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

各博物館とも、その館の目指す特徴を意識しつつ、現状において不足していると考えられる作品を補うことに努め、限られた予算の中で、計画に沿ったコレクション形成に相応の成果を上げたものと思われる。京都国立博物館は、已を得ない事情の下にあったと解されるが、各館とも予算確保に好転が期待出来ない現状にあっては、文化財の次代への継承、すなわち保存・活用の観点からも、作品の寄贈や寄託に関して、収蔵家の理解、ならびに協力を得るよう努めるべきだろう。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

当初の目標に沿って、各館は、国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高い展覧会を実施しようとしている。東京国立博物館の東洋館リニューアルオープンは、アジア諸地域の歴史や伝統文化を国内外へ発信する役割を今後果たしてゆくことが期待される。京都国立博物館は、美術館・博物館への収蔵品の貸与を積極的に進め、奈良国立博物館は、活発な収集と新しい資料により名品展の充実を図り、また九州国立博物館では独創的な着想に基くトピック展示を行ったことなどが評価され、それぞれに特色を活かしつつ、いわゆる発信力を高めるための努力がなされた。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

ナショナルセンターとして責めを担う各博物館は、機構が掲げる「文化財情報の発信と広報の充実」および「教育活動の充実」に対して、その機能の強化を図り、もてる能力を発揮しなくてはならないだろう。

その上に立ち、各館はそれぞれに展示内容の充実に努め、他方、スクールプログラム、職場体験、訪問授業「文化財に親しむ授業」、世界遺産学習、ジュニア学芸員事業などにおいて、相当の成果の跡が認められる。また併せて、私的個人的な自論である、教員に対する教育の重要性という観点に鑑み、小・中・高校の教員に対する研修の場を設けている点を評価したい。

大学との連携、ボランティアの多用な活用に関しても、更なる工夫、検討によって、より一層の成果の上がることが期待される。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

機構内の研究員に止まらず、他機関および専門の研究者を加えることで質の向上を図っており、その着実な成果を評価できる。こうした調査研究の成果を反映した、いわば発信形の展覧会が、活発かつ自主的な企画によって行われることを期待したい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

各館ともに努力のあとが認められるものの、なお、十分と思えない感を否めない。

世界遺産委員会、無形文化遺産政府間委員会等への出席のほか、奈良博、九州博には、継続的な交流・協力の実績が認められようか。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

各館ともに、情報基盤の整備充実を目指して、相当の努力をし、その館の特色を生かした研究成果の発信を行っていることを評価したい。しかし、理想的な事業の実現には、相応の経費の導入を考えなくてはならないだろう。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

文化財の収集、保管、無形文化財の収保存・伝承・活用等に関する助言をはじめ、文化財保護の質的向上に関しては、計画の通りに順調な成果を上げていることを、自己評価の報告によって確認出来た。国立文化財機構の研修対象は地方公共団体の文化財担当者であるが、それらの研修受講者が受講内容をさらに、地方公共団体の文化財担当者以外（専門職員でなく、とりわけ教育委員会に属する一般職員や管理職者に）に対する研修指導を行い、文化財保護に関する認識を強化することが望ましい。法律の範囲内であるとの理由をもって埋蔵文化財の破壊が行われることを危惧せざるを得ないケースを見聞きしているためである。

大学との間での連携大学院教育は推進すべきと考えている。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

共通的な事務の一元化による業務の効率化に関しては、評価すべき成果が上がっているものと理解する。しかし、機構内各館には、それぞれに異なる性格や歴史があると思われるので、その点に関する配慮は必要であろう。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

国の方針に従い、人件費の削減は進められていることが窺がわれ、その努力は評価されよう。一方、優秀な人材を確保、育成し、組織の活性化が求められる。人件費の削減にともなう、人員の削減、とりわけ正規職員の採用についての圧縮は、優秀な人材の確保としばしば矛盾をきたす恐れがある。この点についても真摯な検討が今後とも不可欠と思われる。

Ⅳ　その他人事計画等

機構内各館での人事交流は必要と思われるが、高度の専門性を有する職員に関しては、有体にいう適材適所を旨とすべきであろう。また、一般事務職員に関しても、博物館のもつ性格の理解のために適切な教育や研修が必要である。施設長の任用に関しては透明性を確保する必要があり、今後も運用には留意されたい。アソシエイトフェローに関しては、人件費が削減されている中で事業を行うのが困難な状況であることは理解するが、安易な採用は控えるべきである。

その他として、寄付行為の奨励、促進等による外部資金の導入、その税的な優遇に関する法的な整備。入場料収入等の自己収入の取り扱いに関しては、収支計画を作成し、透明性のある運用に努めるとともに、現状のように利益を上げても経営努力が認定されない目的積立金の制度が見直される必要があろう。

◎総会

外部評価委員名

酒 井　忠 康

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

限られた財源のなかで、各館が収集方針にもとづいて収蔵品の充実をはかり、また施設設備と併せて、収蔵品修理等の作業も適切に行われていると思います。しかし、次代への継承ということになると、財源の確保など抜本的な見直しが必要です。再考を促したい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

各館ともに幅広い分野に意欲的に取り組んでいると思います。「遊び」展のように、数字的に不満を残したとしても、こうした学際的な試みは評価していいと思います。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

文化財保護にかかわる領域（例えば震災における「文化財レスキュー」など）で充分な貢献を示しています。今後は海外の研究者との交流（招聘・派遣をふくめて）にもっと積極的であってほしい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

調査・研究の成果は着実にあがっています。しかし学際的な視点の導入も必要です。つまり異分野との相互研究が今後の課題となってくるからです。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

現時点では（政治的な影響もありますから）、アジア諸国との協力関係は意欲的に展開されていると判断します。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

この領域に関してはＩＴ時代の技術導入によって格段の進展がみられます。空港における管制塔の役割を担う部署の開設を望みます。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 人材育成を視野に入れた活動が不可欠です。
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 各種業務の連携（協力）の体制づくりと「質的向上」につながっていくことをはかる必要があります。
Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 独立行政法人制度の抜本的な見直しに期待したいです。
Ⅳ　その他人事計画等 ＩＣＯＭの京都大会招致に向けて動き出しました。そうした現状を鑑みて、人事面においても国際的な役割を担える博物館として発展してゆくことを望んでいます。

◎総会

外部評価委員名 **佐 藤　信**

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 ○展示や調査・研究などを通して、収蔵品をはじめ日本各地の幅広い文化財の保護に大きな成果を収めていることは、高く評価できる。収蔵品の整備や展示・研究を通したその価値の発信に向けた努力を、さらに進めていただきたい。 ○全国の博物館の中心的拠点として、他館での国立博物館収蔵品の展示や展示技術等の普及協力などの事業をさらに展開していただきたい。 ○文化財修理事業では、四博物館や二研究所・センターの機構全体による有機的な連携・協力を進めていただきたい。 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 ○特別展・平常展以外にも多角的に企画展示・シンポジウム・講座・列品解説などが展開され、文化財と接する多様な機会を国民に提供していることは、高く評価できる。 ○平成２５年度は博物館の平常展・特別展の総入場者がやや減少となってしまったが、京博の常設展示施設のリニューアルも終わることから、魅力的な展示や講座などで、ふたたび総入場者の増加をめざしていただきたい。 ○キトラ古墳展のような、博物館・研究所の有機的な協力をふまえた展示を、機構としてさらに進めていただきたい。 ○海外の博物館・研究所などとの調査・研究・展示をはじめとした協力・交流が多角的に為されていることは、高く評価できる。さらに、組織的な協力関係の強化を進めていただきたい。 ○考古学・日本史学・保存科学・美術史・遺跡学・建築史・庭園史・写真学など、関連する多様な学界

の最先端の研究成果とリンクして、タイムリーな文化財の意義を発信するタイプの展示を追求していただきたい。諸段階の学校教育との連携も、さらに推進していただきたい。

○世界文化遺産や民俗文化財・文化的景観などの新しいタイプの文化財の展示や調査・研究にも、配慮をお願いしたい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

○国内の他の博物館・美術館や文化財所有施設と連携した展示や調査・研究をさらに展開していただきたい。

○ナショナルセンターとして、国宝・重文・史跡・名勝などの文化財情報や国内の諸博物館の展覧会・収蔵品情報などを、国内外に発信するリンク機能をもっと展開していただきたい。

○高度で先端的な調査研究成果を、研究者・専門家向けだけでなく、国民・市民向けに分かりやすい形で発信願いたい。

○研究紀要・報告書や年報・概要などの内容を、ホームページで公開する事業を、さらに進めていただきたい。

○東日本大震災で被災した博物館・美術館と連携して、それらを支援する事業を展開していただきたい。

○博物館・研究所などで所蔵する図書や資料などを研究者・市民にも公開する事業をさらに展開していただきたい。

○国内の博物館・美術館や大学の博物館学講座などに向けた専門知識・技術の発信や連携・協力を進めていただきたい。

○文化財の総合的な把握・調査・研究をもととした「博物館型の研究統合」のあり方と研究成果を、是非発信していただきたい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

○東日本大震災への「文化財レスキュー」事業での大活躍に敬意を表したい。今後は、レスキューでの貴重な経験を活かしつつ、文化財の防災に関する研究を積極的に進め、文化財の防災のための実務的で有効な施策作りに国立文化財機構として大きな力を発揮していただきたい。

○先端的・基礎的な文化財の調査・研究に、限られた人員・予算の制約下で大きな成果を挙げていることは、高く評価できる。その成果を、国民向けに分かりやすい形でさらに広く発信していただきたい。

○基礎的で地道な史跡・歴史史料・美術工芸・無形文化財・保存科学などの文化財に関する調査研究についても、さらに継続して推進し、その成果を発信していただきたい。

○内部予算のみでなく、科学研究費など外部資金による研究費を獲得して共同の調査・研究を多方面にわたって展開し、大きな成果を挙げていることを、高く評価したい。

○個別の組織だけでなく、国立文化財機構としての四館・二所・センターの学問的資源を全体として動員した調査・研究の展開や、他機関との共同の調査・研究をさらに展開していただきたい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

○文化財の保存・修復事業や調査・展示を通した国際協力では、文化財研究所・博物館ならではの高いレベルの協力事業が多角的に推進されており、高く評価したい。さらに多様な展開を期待したい。

○中国との国際協力に最近の国家間外交における政治情勢悪化の影響がみられるが、文化財担当機関同士の交流については、これまでどおり着実に進めていただきたい。

○国際協力は、所属研究者それぞれの個人的努力に負っている面があるが、個人に任せることなく、組織としての体制を構えて国際協力を展開していただきたい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

○博物館・文化財研究所のホームページによるデータベースなどの情報発信サービスの展開は高く評価できる。さらにその充実に努めていただきたい。

○調査研究成果を、研究者・専門家向けのみでなく、一般国民に対しても分かりやすい形で出版するなど、発信に努めていただきたい。

○四館・二所のニュース・たより・パンフレット・年報・紀要・報告書などの冊子体の出版物を、インターネットで閲覧できるようにする事業をさらに進めてほしい。

○電子媒体だけでなく、四館・二所が所蔵する膨大な冊子体の図書資料・写真資料などを、研究者・市民が閲覧出来る体制を、さらに充実させていただきたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

○　国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言では、委託事業をはじめとして多分野で高いレベルの大きな実績を挙げており、高く評価できる。

○　大学における高等教育との連携は、国立文化財機構の文化財に関する高い調査・研究能力を活かして、文化財研究の裾野や後継者育成を広げていくためにも、さらに積極的に展開していただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

○四館・二所・センターとも、限られた人員・予算の中で、学術的レベルの高い優れた展示・調査・研究・協力・発信の成果を挙げていることを高く評価したい。そうした費用対効果の面での「効率性」をどのようにめざし、評価するかが課題となろう。

○四館・二所・センターの研究・学芸系職員の協力体制をさらに強化して、機構全体のスケールメリットを活かした調査・研究・学芸業務をさらに有機的に推進していただきたい。そのために、機構の四館・二所・センターの横断型研究に、研究助成を行ってもよいのではないか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

○独立行政法人の制度的環境が厳しく見直されるなか、国立文化財機構は大変な努力のもとで事業目標を順調に達成してきた。しかし、努力・効率化によって自己収入増加を一定実現してきた一方で、運営費交付金の一律削減がそれ以上に進む状況にある。単純な経済利益の原理と即応しない文化・文化財を専門とする法人に対しては、特段の配慮があるべきと考える。同様に苦しい環境にある他法人とも連携しつつ、自己収入の目的積立金化が認められ、努力が報われる制度が実現するように、さらに努力・発信していただきたい。

○外部資金や寄付金の積極的な受容に向けて、さらなる努力をお願いしたい。寄付金についての税制の優遇制度の実現と発信を進めていただきたい。

Ⅳ　その他人事計画等

○学芸・研究職の優秀な人材の獲得・育成や、研究環境の整備に、予算措置の配慮をお願いしたい。

○機構内の博物館・研究所などの間での、学芸・研究職や事務職における人事の交流があってもよいのではないか。

○事業に果たす、非常勤のアソシエイトフェロー・客員研究員・特任研究員・研究補佐員などの役割比率がかなり高くなっており、できるだけ常勤研究・学芸職を増やす努力を進めていただきたい。

◎総会

外部評価委員名

園 田　直 子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

購入、寄贈・寄託はそのときの社会状況や市場に左右されるため、一概に計画通り進むとは限らないが、全体的にはほぼ順調に進んでいるように見受けられる。展示など活用面に一般の注目は集まりがちであるなか、収蔵品の適切な管理保存という、博物館の基礎的活動も従来どおり着実に行われている。収蔵品の修理にあたっては、各館とも中長期修理計画の策定を進めるとともに、緊急性の高いものから計画的に実施している。本格修理は、寄付金や財団助成など外部資金の導入により目標値以上の件数を実施できたところもあり、これは評価されるべき点である。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

海外からの来館者を考慮し、外国語パネルを積極的に整備している。特別展の評価は、必ずしも入館者数に反映されるものではないことは理解できる。アンケートの満足度では一部 60%を切る結果があるが、これは何に起因しているのだろうか。その分析結果や評価を示していただければありがたい。海外展では来館者へのアンケートを実施していないようだが、外国のかたがたの意見等を拾いあげる機会があればと思う。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

調査研究成果の発信、海外研究者招聘、研修プログラムの実施は、例年どおり進んでいる。また、博物館として、そして研究所としても、ひきつづき文化財レスキュー事業による救援活動が続けられ、被災地に寄り添った活動をされていることに敬意を表する。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

5　文化財保護に関する国際協力の推進

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

（これらの項目については、研究所調査研究等部会の報告を参照していただきたい。）

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

光熱水量はいずれも増額しているが、その特殊原因を鑑みるといたしかたのないことと考える。特殊要因を考慮した光熱水量はほとんどの項目で減額となっていることから、日常的に節電節水されていることがうかがえる。自己収入に関しては、科学研究費補助金の件数が目標件数を上まわっており、多大な業務をこなしながら、研究活動を積極的に推進されていると評価できる。

機構全体で予定されていたネットワーク環境の見直しが予算措置との兼ね合いで見送られている。システムのセキュリティ強化を目的としているだけに、昨今の社会状況を考えると、早い段階での措置を図られたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

昨年度は、経営努力により自己収入が増えるほど運営交付金が削減されることが大きな問題としてあげられていた。目的積立金の承認などが指摘されていたが、その後どのようになったのかについての情報をいただきたい。

文化政策においては、長期的な見地にたって継続的に調査や基礎研究を行い、着実に実績を蓄積していくことは重要である。予算削減や、短期間での成果が社会的に求められがちであるが、効率化や外部資金獲得の努力を続けつつ、それなりの研究環境と研究員の確保のための資金計画を忘れてはならないと考える。

Ⅳ　その他人事計画等

非公務員化のメリットを活かして、特殊技術や技能をもつ人材を機構独自で採用可能とする規定を整備し、アソシエイトフェローの制度により業務の専門性に対応している。しかし、アソシエイトフェローなどの非常勤雇用者が多くの業務を担っている現状のなかで、職員の定年退職後、いかに専門的知識や技術が伝承できるか、されているのかは深刻な問題として残る。その対策を見込んだうえでの人事計画をお願いしたい。

◎総会

外部評価委員名

玉 蟲　敏 子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

25 年度は、23 年度の東京国立博物館以来の京都国立博物館が購入物件０という報告がなされたが、寄託品に関しては順調に増えており、所蔵者との着実な信頼関係が形成されている。四館ともに所蔵品の保存カルテ作りに取り組んでおり、博物館活動の基礎体力作りにも手堅さが感じられた。ただし、毎年度の問題点ではあるが、博物館全体を取り巻く蒐集、寄託、修理、保存環境の整備が十分ではないことは明らかで、設定された目標達成に安住せずに改善も念頭において、次年度の動向を注視していってほしい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

東アジア諸国との政治的関係が難しいなかで、25 年度は九博などが中国やベトナムとの相互交流展を実現させ、注目された。とくにベトナムにおける日本文化紹介展が初めての試みであるとうかがい、いささか驚くとともに、それほどまでにアジアに向けての日本文化や美術工芸紹介の発信が遅れていることを痛感した。現地での反応についての報告はなかったが、今後の日本への観光客の増加などにつながる可能性もあり、様々な情報をよく収集して分析し、他のアジア地域を含めた持続的な紹介事業へとつなげていただきたい。

国内への発信については、従来通りのメディアを通じた活動は充実していたが、財務状況の報告において指摘された入館者数の減少という厳しい事実を前にすると、問題は深いところで静かに進んでいるように見受けられる。たとえば、平常陳列の「総合文化展」はいかにもタイトルが堅く感じられ、一般国民には内容がイメージしにくいうらみがある。これからの観客層を形成していく若年層にも親しめるストーリーを作成し、さらに従来型のテレビや新聞などのメディアよりも親しんでいる、SNS などウェブ中心の新しい媒体について、情報発信方法の研究が必要のように思われる。近代以来の修学旅行がかなり変質し、小学校の教科から図工は必修でなくなっている昨今、若年層の博物館や文化財に対する関心や親しみを育てるには、相当の覚悟をもって対応する必要がある。文化財機構として中長期的な展望をもって取り組んでいただきたいと思う。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

25 年度は、東京・奈良・九州の三館は比較的堅調に活動しており、ナショナルミュージアムとしても、東アジア・東南アジア・欧米と全般的に交流し、それぞれの館の特徴がよく現れた活動が進められた。国内の公私立博物館・美術館への助言や援助も順調であり、リーダー的存在として確実に信頼されている様子がうかがわれる。また歴史の古い東京・京都・奈良の三館では所蔵資料のディジタル化が順調に進められ、今後の活動を充実させる素地固めが行われていることを評価したい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

文化財研究の二所、博物館の四館ともに科学研究費等の外部資金を積極的に獲得し、それ以外の研究にも熱心に取り組まれていることを高く評価したい。奈良文化財研究所でも進められている三次元ディジタル計測技術の応用が九博でも始まり、東博と東文研が共同で高精細ディジタル画像による仏画の調査研究が進められている。今後は他の分野においても研究機関と博物館のそれぞれの特徴や長所を活かした共同的な取り組みが進展していくことを期待したいと思う。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

保存に関する国際共同研究の推進や技術者の養成など、規模はけっして大きくないが、さまざまな取り組みが進められた。ただし、23 年度から新しく取り組まれるようになったアジア太平洋地域における無形文化遺産の保護事業は、これまで日本が培ってきた技術やノウハウの供与などが期待される分野であるにも関わらず、予算や人事面において不十分である。掛け声だけでない具体的な打開策が必要であると思われる。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

25 年度も従来通りの紙媒体による刊行物の出版、展示活動やその情報発信などが行われるいっぽうで、ウェブを活用してのデータベース類を発信する試みも充実してきており、今後の進展が期待される。ただ

し、そうした発信が国民にどの程度に届いているのか、困難ではあると思われるが、アクセス件数による判断以外の質的な面を確認する手立ても開発する必要があるように思われる。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

二所・四館とも昨年同様に従来からの事業を順調に進展させている。東日本大震災後の文化財レスキュー活動も三年を経て、機構内に事務局が設置されたことを評価したい。この場が文化財の放射能除染といった人類史上きわめて稀な重大問題について、国内はもとより、国外ではなく世界的にも共有される情報発信のハブとして成長していくことを願ってやまない。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

昨年と同様に、奈良、東京の二研究所、国立四博物館とも懸命な努力をはかっており、その上で数多くの魅力的な展示や優れた研究活動が行われている。ただし、内側からの努力は最早、限界に達しており、2020 年開催予定の東京オリンピックなどが、状況を好転させる起爆剤となりうるのか、次年度以降の動きを注視したい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

昨年度は中国・韓国の国立館との予算・人員の比較が報告され、危機的な状況であることが共有されたが、結局、文化財機構の統合が見送られただけで、予算面での打開は微々たるものであった。自己収入の増加が、結局、科研費の採択数の増加であるように、二所・四博物館に属する研究者の個人能力に頼っていることも明らかである。そうした個人の努力を高次にもっていくためにも、やはり近代以降築いてきた日本の文化のあり方が危機にひんしている現実として認め、そうした問題の共有と解決に向けて状況が好転していくよう関係機関に働きかけることを強く要望したい。

Ⅳ　その他人事計画等

昨年度も指摘したが、常勤職員数の抑制のために行われている退職後のスタッフの不補充と任期制研究員の採用は常態化している。しかしながら、報告よりそうした雇用条件の人材のなかには、所属機関の科研費獲得に貢献する者もおり、調査・研究・展示・発信といった博物館、研究機関の根幹を担う活動を行っている。若い研究者にも希望の持てるように、改めて、四博物館・二研究所は、能動的に文化や学術活動の取り組む人材を長い時間をかけて育成しうる場として、主導的に立場にあることを自覚し、変革期の設計図をじっくりと描いていただけるよう要望したい。

◎総会

外部評価委員名

浜 田　弘 明

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

ほぼ計画が達成されていると評価できる。地方における博物館の相次ぐ閉館や、高齢化に伴う文化財保管の困難化の問題は深刻である。国立博物館は、国・地方の宝を守るべく、従来にも増して、資料の寄贈や寄託を積極的に受け入れることが必要となって来ている。そのためにも、収蔵スペースの新規確保は欠かせない課題である。また、京都国立博物館が行っているような、「寄託者向けリーフレット」の作成と配布は重要と思われる。

さらに資料保存の基礎となる、保存カルテの作成やＩＰＭの徹底化も重要である。これには、新たなシステムの整備とともに人的対策も必要で、東京国立博物館が行ったアソシエイトフェロー制度の導入は良い試みと言えるが、任期付職員の専任化も急務の課題と思われる。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

ほぼ計画が達成されていると評価できる。近年の入館者数の低迷を打破するための一対策として、海外からの観光客の呼び込みを視野に入れた、外国語表記の推進は重要である。またリピーターを増やす対策として、展示のリニューアルはもとより、日ごろからの常設展示資料の定期的更新も欠かすことはできない。各館とも、こうした日々の努力を実現しており、評価したい。さらには、ミュージアムショップやレストランのリニューアルや、新たなグッズやメニューの開発も利用者獲得の上で重要である。

また、特別展の来館者アンケート結果は、概ね高いものとなっており、努力の成果が窺えるが、例えば東京国立博物館で開催の「クリーブランド美術館展」は、その中で満足度が 57%と目立って低い。待ち時間が長い特別展ほど評価は低い傾向にあるとは聞くが、満足度の低かったものについては、原因の究明を是非行い、以後の特別展開催の参考にすべきと考える。

また、次世代を担う子どもの博物館利用の促進も重要な課題である。大学生に対してのキャンパスメンバーズ制度・インターンシップ制度（全館）及び「文化財ソムリエ」制度（京博）、高校生に対しての「ジュニア学芸員」制度（九博）、小中学生を対象とした「スクールプログラム」（東博）・「世界遺産学習事業」（奈博）及び職場体験学習など各館の努力が見られる。さらには、子どもを教える側の教員に対する研修制度の充実も欠くことが出来ない。各館は、他館の取り組みも参考に、子どもの博物館利用の促進に努めて欲しい。さらに情報発信として、ＳＮＳの活用（東博）や観光関連業種との連携（奈博）の今後にも期待したい。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

ほぼ問題なく計画が達成されていると評価できる。電子化社会の中でも、「もの」を扱う博物館は、「冊子」の形で調査研究成果を残すことは、引き続き重要であると思われる。しかし、冊子形態では数に限りがあるため、インターネット上でその成果を広く国民に公開することはより重要である。さらに自らも課題としているが、博物館の国際化のため、海外への多言語化発信も重要である。

アジアの中核を成す我が国博物館の役割として、海外の研究者・技術者への支援や交流も、より活性化される必要がある。さらに、日本の中心的博物館として、公私立の博物館支援もさらに推進して欲しい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

ほぼ計画が達成されていると評価できる。当機構は、わが国の物質文化研究の拠点として重要な役割を果たしている。調査研究の柱とも言うべき、有形文化財に関わる調査研究に多数取り組み、多数の新規科学研究費が採択され、着実に成果を上げていることは、喜ばしく思うとともに高く評価したい。とくに国

内資料の調査研究にとどまらず、欧米に渡っている日本資料の現地調査や記録作業については、立ち遅れている領域であり、是非とも国立博物館の使命として積極的に進めて頂きたい。

また保存環境・保存修復に関わる調査研究や、効果的展示や教育活動に関する調査研究は、博物館でなければ取り組めない領域であるため、全国の博物館の模範となるべく、積極的に展開されることを期待したい。これまでの国立博物館は、子どもの目線から眺めると近寄りがたい印象が拭えないが、「ミュージアム・カート」（京博）や、「きゅうぱっく」（九博）の取り組みなどは、国立博物館のイメージを変えて行くきっかけとなることがことに期待できる研究である。そのほか、多言語化を含めたバリアフリー化やユニバーサル化事業についての研究（東博）も、新たな利用者開拓のための重要な研究と言える。

さらに、大学生を対象とした「文化財ソムリエ」の育成（京博）や、高校所蔵考古資料の所在調査（九博）に関する研究は、新しい取り組みとして評価するとともに今後に期待したい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

計画が達成されていると評価できる。高い保存・修復技術を持つ当機構の使命として、アジア地域の文化財保護への技術支援と人材育成の更なる促進に期待したい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

計画が達成されていると評価できる。当機構の研究成果が国内外に広く公開されることは重要であり、さらに専門家のみならず広く国民に理解されるよう平易な形で、ウェブサイトを含め、公開講座や展示等を通して発信されることに期待したい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

計画が達成されていると評価できる。博物館「冬の時代」と言われる中で、今後、当機構が地方公共団体等に果たす役割は、より大きくなることが予想され、全国の文化財担当者や学芸員に対する技術研修の促進に期待したい。また、東日本大震災被災地への文化財等救援・復旧・復興事業にも、引き続き力を入れる必要があるものと思われる。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

博物館調査研究等部会でも述べたが、予算や人員の削減が進む厳しい状況下にも関わらず、各館の努力の跡を窺うことが出来、健闘していると評価できる。とくに財政難の中、外部資金の導入に当たり、応募しやすい工夫を行った結果として、東京国立博物館の平成 25 年度科学研究費新規採択率 40%という数値は、評価されるべき高い採択率と言える。研究・保存型の国立博物館にとって研究経費の獲得は、重要な課題である。

また、資金の獲得という点では、事務的には難しい点も生ずるかと思うが、凸版印刷との共同事業（東博）の例に見るように、民間企業との共同事業の展開も重要である。本年度は、寄附金件数が目標を大きく上回り、喜ばしい限りであるが、欧米の博物館運営のような寄付金による博物館運営のあり方ついて、より広く国民に知らせる必要があるものと思われる。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

健全な事業運営の上で、機構の総予算の削減は、限界に達していると言わざるを得ない。国内最大規模の東京国立博物館でさえも、諸外国の国立博物館に比較すると、その予算規模・職員定数は全く少ないと言わざるを得ず、国（政府）には、文化国家の責務として、博物館への理解を一層深めて欲しいと願うばかりである。

国民に、より親しみが持てる機構（博物館）づくりを目指して、今後も地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非ご理解いただき、積極的支援がなされることを期待したい。

Ⅳ　その他人事計画等

諸外国の国立博物館に比較して、わが国の博物館は予算規模とともに職員定数についても全く少ないと言わざるを得ない。適正な機構運営のためには、これ以上の人員削減や人件費の圧縮は決して望ましいことではない。任期付きのアソシエイトフェロー制度の導入は良い試みと言えるが、任期付職員の専任化を含め、専任職員の増員も急務と思われる。

◎総会

外部評価委員名

藤 田　治 彦

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

平成２５年度、他の国立３館ではそれぞれ購入作品があったが、京都国立博物館では購入件数ゼロであった。新館建設と展示器具調達に多額の予算が必要で、購入予算を工面できなかったという理由だが、「適時適切な収集」は極めて重要なので、作品購入予算と建築営繕等の予算は明確に分けられるべきであろう。各館それぞれの年次予算は一応あるにしても、国立文化財機構全体として各館互いに必要に応じて予算的に助け合える枠組みはあるようだが、「適時適切な収集」の徹底のため、そのような体制の一層の整備が望まれる。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信は各館ともに活発に行われているようである。展覧会による来館者数にはかなり大きな開きがあり、その理由等は概略わかっているようだが、今後非常に重要になるので、適切な分析と今後の企画へのフィードバックが期待される。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

国立博物館４館とも、公私立博物館への協力等を通じて、我が国における博物館の中核として十分に機能している。現在我が国がおかれている経済状況等によって公立および私立の博物館のなかにはかなりの苦境にあるところも多く、国立博物館自体も予算減で苦しい状態にはあるが、その機能は一層強化すべきであろう。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

４国立博物館と２つの文化財研究所ならびにアジア太平洋無形文化遺産研究センターによって、予算的には十分とは言えないが、文化財に関する調査及び研究は順調に推進されている。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

アジア各地における保存修復協力事業の継続と推進、アジア太平洋地域における無形文化財の保護に関する基礎的な調査や研究の推進等、文化財保護に関する国際協力は、国立文化財機構によって引き続き推進されている。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

国立文化財機構の各組織とも、情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信は十分行っている。外国語ページをも含め、ウェブサイトの充実も図られている。ただし、外国語による発信が十分かというとまだそのレベルにまでは行っていないところもあるように思われる。国立文化財機構は、例えば中央アジアにまで及ぶ質の高い海外調査研究を行っているが、一部の関係者以外それを知る人は必ずしも多くない。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

福島文化財レスキュー事業は、多くの困難を伴う緊急対応的な事業であるが、多くの成果を挙げ、今後の継続と一層の発展が期待される。また、現在の世界全体を視野に入れると、例外的な緊急対策というよりはむしろ以後もおこりうる状況での世界で初めての本格的な取り組みでもあり、関連活動の世界的発信にも力を入れる価値がある。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

理事長のマネジメント強化は業務運営の効率化に資するところ大であろうと想像される。マネジメント強化による成果等については、外部有識者等によって評価ないし確認されるべきであることは言うまでもない。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

平成２５年度、入場料収入が初の減となり、国立文化財機構として自己収入目標を初めて達成できなかった。収入額は各年度の特別展の開催等によって大きく左右され、波もあるだろうから、必ずしも単年度の結果に一喜一憂するのではなく、その前後の変化も視野に入れて観察し、必要な分析を行うべきであろう。ただし、若年人口の減少、年齢別人口ピラミッドの変化等、さらには全人口減少の始まりと今後の加速についての認識は国立文化財機構として十分高めていく必要がある。今後の人口と来館者人口の変化の中で、誰がどの程度の入館料を払うべきなのか、国立文化財機構と国立博物館は誰からどのような、そしてどの程度の収入を期待すべきなのか、抜本的な検討が必要になってくるようにも思われる。比較の意義のある主要国の主要館の入館者数、有料入館者内訳、入館料等を調査し比較してみることは有意義であろう。今後、我が国の国立博物館の財政的なありかたは、近隣国のどこかの館のような方向を目指すべきなのか、欧米の主要館のいくつかのように、外国人来館者に多くを期待するような方向に向かうべきなのか、あるいは我が国独自の方向を設定すべきなのか、比較検討すべきことは多い。無論、多数の外国人入館者を集める欧米の主要館にも、例えばフランス（ルーブル）のように常設展でもかなりの入館料を課すところと、イギリス（大英博物館、ヴィクトリア＆アルバート美術館等）のように常設展は無料としていると

ころなど違いがあり、国の支援による無料化ないし低額化の可能性等をも含めての検討が必要である。また、外国人入館者増が国内入館者減につながるようなことになっては国立博物館の意義を失う。「national」には国の内のためという意味と、外から見た国のためのという二つの大きな意味がある。その二つの同時実現が、今後の方向を見定めるためのヒントになるのではないだろうか。

国立文化財機構と国立博物館の予算は、その国内的・国際的な重要性にもかかわらず、欧米の主要館と比べても、近隣国の主要館と比較しても、あまりにも小さい。内部で適切な収支計画及び資金計画を徹底的に練ると同時に、世界を見据えた国の大きな判断、文化予算の大幅な増額が期待される。

Ⅳ　その他人事計画等

常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイトフェロー）が整備されつつあり、それをステップに国立博物館や文化財研究所等への就職の道が一部開かれつつあるようで、一層の整備拡張が期待される。このように研究職や事務職に関してはある程度のレベルは保っているようだが、高度な専門的技術を備えた人材を確保するための制度はまだ整っていない。関連制度の創設と充実が必要であろう。

◎総会

外部評価委員名

森　弘子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の収集について、京博が購入の年度計画を立てたにもかかわらず、平成知新館の展示器具調達等への予算配分のため、収蔵品の購入が出来なかったというが、予算編成段階でこのような事態は予想できたと思う。事業計画をもっと慎重にするべきではなかったか。しかし、今回は特別な事であり、次年度以降に期待したい。他館に於いては、購入、寄贈、寄託共に順調である。寄贈・寄託へと人々の心を傾斜させるのは館の日頃の努力の賜物と評価したい。

九博では収蔵品の管理保存にも光学的技術を導入しており、新しい試みが各館で共有されることを期待したい。

修理において、外部資金が積極的に獲得されていることは喜ばしい。九博に於いて、館蔵品ばかりでなく、館外所蔵者負担による文化財修理をすることが特記されており、大変意義あることと評価するが、他館では行われていないのだろうか。特に地方に於いては修理業者が少ないこともあり、社寺や公衆にとって修理方法や業者の情報を得ることが困難である。修理業者が豊富な中央に於いても、公衆が気軽に所蔵品の修理について相談できるような体制が各博物館、文化財機構に於いてとられることを希望したい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

平常展はそれぞれの館の特徴や研究員の研究の成果を発揮できる場であり、近年は各館とも平常展に力を入れていることがよく理解される。しかしそのことが、一般に認知されるにはさらなる努力が必要と思われる。また海外や県外からの観覧者に、日本文化や館の特色をよく理解してもらうためには、必ずしも頻繁な展示替えが良いとは限らない。行き届いた解説のある目玉的な展示コーナーをしっかり組み立てる

ことも必要ではないだろうか。評価が展示替えの回数のみを評価する定量的評価に偏っているのも気になるところである。

特別展に於いては、目標値に対する達成度で評価されているが、この目標値の決め方が明確でなく、このような評価をすること自体に疑問を感じる。「大神社展」のように同じ展覧会でも、館によって全体の構成や、力点の置き方が異なる展示が見られたことは非常に興味深かった。研究員の個性ある力量を評価したい。

教育活動は、小学校から大学まで、様々な方法でよく工夫され取り組んでいる。展示のみでは理解が難しいと思われる小学生に対して、先駆的な「きゅうぱっく」や「みどりのライオン」に加え、京博にも「ミュージアム・カート」が加わるのは喜ばしい。ことに奈良博の寺院とタイアップした体験型プログラム、世界遺産学習はより広い展開が期待できる。広報や顧客獲得に於いても積極的に観光関連業界と連携していることは評価される。

各館ともデジタル化が進み、広報や観覧環境の整備の面でも、先端的な様々な方法が採り入れられている。それはそれで推進しなければならないが、それらに疎い人、使えない人も多々ある。報道あるいは紙媒体における工夫も必要と思われる中、障害者のための点字版パンフレットや外国人向けのより基礎的な内容を重視したパンフレットなど、きめ細かな対応がなされていることは評価される。さらにきめ細かな対応が工夫されることを期待したい。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

国家間には様々な難しい問題がある中、学術・文化の面に於いては、従来と変わりなく活発に交流が行われていることは意義深いことである。ことに、アジア関係の研究、展示は各館重点的に取り組んでいるようであり、今後の成果が期待される。ことに九博のタイ、ベトナムとの交流は、長年に亘り広汎な交流が続けられた成果が、所在不明資料の発見にもつながりベトナムでの展覧会に結実し、喜ばしいことである。

東日本大震災の被災地での救援活動はこれまで文化庁主導で行われていたというが、25 年度に機構本部に「福島県内被災文化財等救援事務局」が設置され、より本格的に息長く取り組んで行かれることに敬意を表したい。

公私立博物館との関係は、今のところ「受身」の場合が多いように感じられる。国立でなければ出来ない事も多々あると思われるので、今後共同研究などを通じ、人的交流や信頼関係の構築を進め、さらに博物館の中核としての博物館活動全体の活性化に寄与できるよう努力してほしい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

有形文化財の調査研究ばかりでなく、無形文化財、無形民俗文化財の調査研究でも多大なる成果を上げていることに敬意を表したい。ことに被災地に於いて、復興しようとする人々の心に、無形民俗文化財の存在が大きな力となったことは、各地から報告されている。しかしながら被災によって消えようとする無形民俗文化財も多い。調査研究ばかりでなくその存続に智恵を供与できるような文化財研究所であってほしいと思う。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

計画的なアウトソーシング、会議でのペーパーレス化などあらゆる面で経費節減に努めていることが理解できる。一方、25 年度は展覧会収入が減少したものの、全体的な自己収入は年々増加の傾向にあり、保有資産の有効活用にも興味を引く内容の活用がなされている。また寄付金や科研費補助金も目標件数を上回るなど，考え得るすべての面で大いに努力されていることを評価したい。

アウトソーシングは、経費節減ばかりでなく民間のノウハウを導入できる等、有意義なことではあるが、そのための契約手続きや監督等の業務が省かれて良いものではなく、担当職員の削減や頻繁な異動は問題点として指摘される。

文化財購入費や修復費等、特殊要因経費が経費削減の対象外とされていることは当然のことであるが、今後消費税の増大などに伴い、一般経費捻出のためこの聖域が侵されることのないようお願いしたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

人件費は国家公務員の給与水準に準じており適正と考えられる。

収支計画、資金計画共によく考えられており、適正と考えられる。

Ⅳ　その他人事計画等

機構内だけにとどまらず大学等国立の機関との人事交流がなされていることは、より幅広い視野での業務運営にとって有効と考える。しかしあまり頻繁な異動は、地域と協働で事業をしようとする場合などに、支障を来すこともあり、また異動にあたって十分な引き継ぎがなされないまま、継続事業が中断してしまうこともある。引き継ぎが時間を掛けてきちんとなされるよう、内示の時期、業務体勢などに配慮して頂きたい。

研究職については、各館に於ける研究職の専門分野が偏らないように配置し、一人の業務が過重にならないように配慮すべきである。

◎総会

外部評価委員名

柳 林　修

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の整備と次代への確実な継承は博物館の基本である。量だけでなく、質の充実が求められる。寄託、寄贈に加え、館購入の収蔵品は展覧会、中でも常設展（総合文化展）の充実を図るうえで重要であり、収蔵品の整備が概ね、順調に進んでいるのは喜ばしい。

ただ、京都国立博物館が平成知新館（新平常展示館）の建設に伴う備品などの購入に予算を回したために新規購入がなかったのは残念だ。予算の使い道は各館の自由だが、以前も東博で東日本大震災による収入源などの影響から購入がゼロになったことがあり、継続的な購入の重要性を考慮すれば、機構として予

算の融通や調整を図ってもらえればと思う。文化庁にも収蔵品購入の予算がある。それを使って購入し、館へ貸与することも一つの方策だろう。

一方、寄託品の増加は特に運営費交付金が減る中、収蔵品充実の重要なツールだ。しかし、逆に返却が増えている館があり、危機感を抱く。所有者が自身の収蔵環境の充実で返還を求める場合があるのか。戻った後で売却されるケースも考えられないではない。国立博物館に各地の優品が並び、１か所で歴史の流れを理解できるメリットは大きな価値だ。所有者との一層の良好な関係に努め、寄託品の充実に努めていただきたい。また、新収蔵品の公開を積極的に行ってほしい。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財を通した歴史・伝統文化の発信は、国立博物館の最も大切な役割である。活性化にも役立ち、外国人を呼ぶ観光資源としても欠かせない。そのためには国民や外国人のニーズを把握した魅力ある展覧会が必要だし、常設展であっても展示方法や解説の内容などで見せる工夫をし、入館者の興味や関心を高めることができる。研究成果の新たな情報発信が展示に加わることも求められる。展示の切り口を変えることで発信力はアップする。各博物館や研究所には、文化財を生かした情報発信の一層の努力を期待したい。

そんな中、様々な角度から特別展を多数開催して成果を見せたのは素晴らしい。所有者との交渉、展示品の移動、図録作り、会場設営など大変な労苦を伴うが、特別展は国民の関心事であり、今後も積極的な企画でユニークな特別展を企画していただきたい。それには入館者の多寡以外に質の高い展覧会を評価できる態勢が必要だ。奈良博の特別展「當麻寺」は宗派を越えた初めての企画で、現地と連携した多角的な内容は記憶に残った。一方で、報道機関の主催、後援が得られず、情報発信力が劣って入館者増に結びつかなかった展覧会もあった。検討課題だ。九博での「大ベトナム展」は大好評だった。他の博物館で巡回展示できなかったかと悔やまれる。

研究所にあっては発掘や調査の発信は博物館の展覧会などと重要度では変わりない。現地説明会や報告書、デジタルアーカイブなど様々な手段で文化財を国内外に発信している姿勢に頭が下がる。ただ、発掘が開発に伴うものであると現地説明会や発表がなかった場合がみられ、情報発信という点では残念な気がした。難しいのは承知のうえで、開発者や発掘依頼者を説得して発表を実現するような姿勢が必要ではないのかと思った。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

調査、研究はもとより、ナショナルミュージアムとして全国の博物館の指導者の立場を十分に理解したうえでの活動は多岐にわたり、積極的に行われている。大学との連携、地方自治体や地方の博物館職員の指導、育成などのための研修やアドバイス、収蔵品の貸与による展覧会の実現など、中核としての機能は発揮されている。ただ、外国への研究者の派遣がある程度、実績を積んでいるのに対し、外国からの研究者の受け入れが伸びていないようだ。予算面があるのは承知のうえで、積極的な海外からの研究者の招聘に取り組んでもらいたい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

東文研、奈文研が中心の東日本大震災における「文化財レスキュー」の貢献は計り知れない。被災地の文化財を救出し、勇気を与えたことは機構全体への信頼感にもつながった。それらを通じての研究、調査は今後の災害における文化財調査、研究、ひいては文化財の保護態勢の極めて重要な経験と資料になった。今後は文化財の防災に関する取り組みを行っていただきたい。

２研究所や１センター、４博物館の調査、研究は多角的で多岐にわたり、充実している。有形文化財はもちろん、「心のよりどころ」としても重要な無形文化財についてセンターや研究所が協力する中で、機構もバックアップして調査、研究とその伝承にしっかりと取り組んでほしい。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

各機関とも質の高い協力事業が続く。国際協力は外国にとって期待される事業であり、多角的な内容は高く評価される。しかし、単年度事業だけではない。長期的な視野で続けなければならないものもあり、費用や人的な面で本来の業務を圧迫することのないような配慮が必要だ。「平和外交大使」の側面を持つ国際協力だから、機構全体として各機関の取り組みを把握し、同じような場所での活動では調整することも必要だ。国際協力に関してはある程度、事前に内容を交換し、調整することで無駄が省け、より内容も充実できるのではないか。機構の役割に期待したい。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

ホームページなどウェブサイトを通しての情報発信は年々、充実しており、喜ばしい。博物館のデジタル画像の公開や資料のデジタル化は時代の要求に応えたもので、成果の発信や国民の「知る権利」に役立つ意味でさらなる発展を望みたい。一方で、インターネットに縁が薄い世代の人々にとっては、紙媒体の発信も大切だ。精選して減らすことは世の流れでやむを得ないが、重要度を推し量ったうえで、紙による調査研究成果の発信も続けていただきたい。東博のフェイスブックなどＳＮＳを使った試みも注目したい。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

地方公共団体、博物館、美術館などへの協力は、７機関のナショナルセンターとしての重要な役割である。広い視野と卓越した識見、優れた実績を信頼されての協力要請であり、それに十二分に応えることは７機関と機構の責務だ。そんな中で地方などへの協力を様々な面で受け入れて応えており、敬意を表したい。相手は大学などの高等機関もある。後継者育成や若者の文化財への関心を高める意味合いもあり、これまで以上に高等機関との連携、協力に尽力してほしい。

大震災はその協力の典型だったが、今年から機構に事務局が置かれたことでこれからの対応にさらに弾みがつくのではないかと期待したい。一定の成果は大震災から３年間で挙がったが、長期的にみれば文化財の保存施設、保存への取り組み、地元での情報発信など、協力すべきことはまだまだある。機構が中心となって研究所や博物館と協力しながら地元の要望を集約し、計画的に対応することで、被災地の文化財への力を育成し、文化財保護態勢の構築を援助してほしい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

電気料金やガス料金の値上げなど、館や研究所を取り巻く業務環境が厳しさを増す中で、それなりの努力は認められるが、実際の費用は増加している。対外的な要因であり、やむを得ないが、研究や展示活動に支障がない限り、こうした効率化の姿勢は今後とも持ち続けていただきたい。そのためにも、こまめな対応が求められ、職員への徹底が必要だろう。また、人件費の削減を図る意味もあるのだろうが、常勤職員の削減は厳しい予算の中、改善できる方向を模索してほしい。人材は機関の活動の柱である。継続的な人員の採用は必要だし、非常勤や期限付き職員ではやる気の欠如にもつながりかねない。難しいことは承知のうえで、常勤職員の増加をお願いしたい。そのためには機構として、文科省や財務省への予算増などの積極的なアプローチが必要だ。直接、担当者と会い、直談判を何度もしてほしい。前年度を踏襲した文

化関係予算にならないような対策をとっていただきたい。このままでは兵糧攻めで各機関や機構が息絶えてしまいかねないと危惧する。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

以前、韓国や中国の国立博物館の予算や人員の説明があり、日本の貧弱さが示された。今、思うと、そういう国の姿勢が国民の自国の歴史に対する関心の低さを生み出している一因ではないか。韓国や中国の人々の自国への愛着心、歴史への関心、誇りは日本国民のそれより遥かに大きいし、深い。下村文科相が昨年４月の参院予算委で述べた「文化立国を目指す。（予算の）飛躍的な増額になるような取り組みをしたい」との言葉が今年度予算で少しでも実行されたのかについては、それが反映していないとのこと。極めて残念だ。１００兆近い国家予算の中で、文化関係予算は１，１００億円というわずかな額で恥ずかしい限りである。国民のしっかりした歴史認識を育て、心豊かな人材を育成するために、機構として文科省に今まで以上に積極的なアプローチをしていただき、有言実行を強く要請してほしい。対外的な問題も多くは歴史認識が関わっている。国の対応のバックグラウンドとして、国民の確固たる歴史認識が必要であり、その醸成には文化財行政の充実、発展は欠かせない。他国に劣ってはいけない。

文化関係の４つの独立行政法人の統合は行われないことになった。機構の存在意義は統合した時よりは重い。より緊張した運営が求められよう。「経営努力の認定条件を緩和し、目的積立金の拡充を図る」とある。自己収入増加の工夫や努力が求められており、目的積立金を自由に使えることの実現に全力を挙げて取り組んでほしい。

Ⅳ　その他人事計画等

人材育成は機構や研究所、博物館、センターにとって極めて重要な課題だ。上記でも述べたし、各委員の報告でも再三挙がっているが、その充実にさらに取り組んでいただきたい。研究所や博物館では、ある程度に育った研究者が大学に転出するケースがある。それはそれで大きな目で見て悲しむべきことではないのだが、それを補うような人材の補充、育成が求められるのは当然だ。奈文研が９９人から現在は８０人に減ったのは厳しい現実を見る思いだが、民間の会社でもそういう現実は存在する。業務の精選や作業効率の向上など、限られた中での業務推進もやむを得ない面があるから、研究員や博物館員の大きすぎる負担にならない機構改革も必要だ。

博物館や研究所、文化庁間の人事交流も、勤続年数や待遇の面での違いから難しい面があるという。しかし、京博や奈文研、奈文研や文化庁では交流が実現した例もある。研究の活性化のためには人事交流を盛んにすべきだろう。そこに高等機関を加えてもいい。長期的視野に立った人材育成のプログラムが求められるのではないか。外部資金の調達に一層、努めていただきたい。寄付者の顕彰や恩典などの充実も検討課題だ。「ふるさと納税」に学ぶべき点はないのか。それらを自由に使える道筋を実現してほしい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館調査研究等部会

部会長　　河　合　正　朝（慶應義塾大学名誉教授･千葉市美術館館長）

酒　井　忠　康（世田谷美術館長）

浜　田　弘　明（桜美林大学教授）

藤　田　治　彦（大阪大学大学院文学研究科教授）

森　　弘　子（福岡県文化財保護審議会専門委員）

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

河 合　正 朝

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

各博物館は、地域性を考慮に入れつつ、それぞれの館の持てる特色や個性を発揮すべく、事業に取り組んでいることが窺え、期待と好感を持って評価出来た。各博物館の置かれた状況は、相変わらず人的、予算的な漸減に苦慮するところが多い様子であるが、その中で、国民に対するサービスその他の業務の質の向上を目指し、立案した所期の目標をほぼ達成したものと見る。

博物館における収蔵品、寄託品および関連作品の調査研究は、当然のことながら、基本的には自館で開催される常設、企画、特別などの展覧会に反映させるものでなくてはならないが、予算や人員の制約から有体にいう自前の特別展をすることをしばしば困難にする恨みが感じられる。今中期計画終了の後、次期中期計画立案の際には、現在少なからず行われている、大規模特別展におけるマスコミ各社との共同主催などに関しては、その依存度を軽減し、各館の独立性の高い特別展を少しでも企画して行く方向で、検討して如何かと考える。それにはむろん展覧会準備のための時間と予算が担保されなくてはならない。しかし、そうすることで特別展に借用する作品に対する国家補償制度の活用に関しても、現状を活性化で出来るのではなかろうか。

2　自己点検評価に関する事項

比較的に適正な評価がなさせていると思う。しかし、一方では、昨年度の藤田委員の評価書にあるようにＡかＳ以外は望ましくないというトラウマ（思い込み）が自己点検評価書の制作者側にあるのでないかという指摘も等閑視できなかろう。その場合、当博物館部会だけでなく研究所・センター部会での評価基準というか判断に関しての考え方との調整も必要となりなかなかに難しかろう。下世話に言う、おみくじは大吉や中吉より、小吉や凶の方が良いという仮令もあるように、B.またＣの自己評価は、自己啓発ないしは組織あるいは立案自体の欠陥を指摘することにもなり得、改善、発展への道を拓くことになる可能性があり、有用ともいえよう。このことに関しては、今後の自己点検評価表記の際の検討課題となろう。

3　調査研究に関する事項

各館が、個性を発揮し様々な企画・工夫名のなかで、出来得る限りの効率性と研究の深化という矛盾を抱えながら、所期の目的に向かって努力達成する様子が窺えて、十分な評価を与えることが出来る。

調査研究にあたっては、同一館の研究員に限ることなく、独法他館の研究員、また、調査研究を専門的に共有出来る他機関の研究者を加えることで質の向上を図っており、相応の成果を上げていることは高く評価出来よう。また、国民の財産である文化財の保管や公開の任務を課せられた国立博物館が

広くこうした調査研究の道を広く研究者等に開くことは肝要である。

4　その他

昨年度の森委員の指摘にあるように、様々な制約や困難さのある中で、機構内四博物館が、現状における業務、経営に対する最大の努力をし、相応の成果を上げているにも拘わらず、例えば、その経営努力による自己収入の増大が報われることなく、目的積立金も承認されないという状況は、いかにしても改善されなくてはならない。そのためには、諸外国に明らかに劣っていることがしばしば指摘されている、政府

行政の文化支援強化と民間に対しては文化政策の重要性の認識を啓発するという両面が必要性であろう。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

酒 井　忠 康

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

予算削減など締め付けの厳しい状況下での活動を考慮すると、各館それぞれが当初の目的をほぼ計画通りに達成していると思う。特に大きな問題はない。希望を言えば事業の平均化や細分化をすこし押さえて、年度ごとにでも一つか二つの眼玉になるプロジェクトを立ち上げてはどうだろうか。

2　自己点検評価に関する事項

評価に関しては概ね妥当である。しかし、その評価を前提にし過ぎると弊害が生じるので注意を要する。

3　調査研究に関する事項

全般的に活動の内容が明確になっている。これは調査研究の成果を着実なものとする意味では重要なことであるが、逆に小規模なものが多くなり、それだけ冒険や野心的なこころみに欠けるということにもつながってゆくのは問題であると思う。

4　その他

二つほど提案したい。

1）九州国立博物館の「江上波夫の眼　ことばとかたち」に見られるように、研究者のパーソナルな視点や思想にも関連する調査研究がもっとあってもいい。

2）異分野の研究者、また国際的な研究者との交流を積極的なものとしてほしい。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

浜 田　弘 明

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

総論としては、予算や人員の削減が進む厳しい状況下にも関わらず、各館の努力の跡を窺うことが出来、健闘していると評価できる。とくに財政難の中、外部資金の導入に当たり、応募しやすい工夫を行った結果として、東京国立博物館の平成 25 年度科学研究費新規採択率は 40%であったと聞くが、これは評価されるべき高い採択率と言える。研究・保存型の国立博物館にとって研究経費の獲得は、重要な課題である。また、資金の獲得という点では、事務的には難しい点も生ずるかと思うが、凸版印刷との共同事業の例に見るように、民間企業との共同事業の展開も重要である。

しかしながら、国内最大規模の東京国立博物館でさえも、諸外国の国立博物館に比較すると、その予算規模・人員は全く少ないと言わざるを得ず、文化国家の責務として国（政府）には、博物館への理解を一層深めて欲しいと願うばかりである。

２　自己点検評価に関する事項

自己評価としてＡ評価が中心となっている点については、大半の調査研究業務が順調に進んでいるものと理解する。しかしながら、「独立行政法人化後、日常業務が多忙化する」（京都国立博物館）という気になる記述も見られた。新館開館準備による一時的なものとの説明を受けたが、特別展準備や調査研究の時間が削られるほど、日常業務が多忙化しないような工夫と配慮が望まれる。

定性的評価の項目に関しては、報告担当者によって項目数にバラつきが見られ、中には１項目の自己評価しかないものもある。定量的評価についても同様のことが言えるが、判定理由以外に、評価したあるいは評価しなかった項目の理由付けなどについても、明示出来るようにすると良いかもしれない。

特別展のための調査研究は、博物館にとって極めて重要な位置を占めるが、調査研究成果を展示によって国民に還元するという博物館の使命から考えると、実績値として催し物や刊行物の件数のみならず、国民に向けたマスコミへの情報発信件数の実績記載なども重要と思われる。

３　調査研究に関する事項

多忙を極める日常業務の中で、博物館における調査研究の柱とも言うべき、有形文化財に関わる調査研究に多数取り組まれ、着実に成果を上げていることは、喜ばしく思うとともに、高く評価したい。とくに国内資料の調査研究にとどまらず、欧米に渡っている日本資料の現地調査や記録作業については、立ち遅れている領域であり、是非とも国立博物館の使命として積極的に進めて頂きたい。

また、保存環境・保存修復に関わる調査研究や、効果的展示や教育活動に関する調査研究は、博物館でなければ取り組めない領域であるため、全国の博物館の模範となるべく、積極的に展開されることを期待したい。これまでの国立博物館は、子どもの目線から眺めると近寄りがたい印象が拭えないが、京都国立博物館の「ミュージアム・カート」や、九州国立博物館の「きゅうぱっく」の取り組みなどは、国立博物館のイメージを変えて行くきっかけとなることが期待できるものである。

さらに、京都国立博物館の大学生を対象とした「文化財ソムリエ」の育成や、九州国立博物館の高校所蔵考古資料の所在調査などは新しい取り組みとして、評価するとともに今後に期待したい。

４　その他

国民に、より親しみが持てる国立博物館づくりを目指して、今後も地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非ご理解いただき、積極的支援がなされることを期待したい。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

藤 田　治 彦

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

アジア諸国との政治的関係が難しい近年、中国、韓国、東南アジア各国を初めとするアジア諸国の博物館や関連研究機関と良好な協力関係を保っている国立博物館４館の存在価値は文化的にも社会的にも大きい。今後も引き続いての、より積極的な交流の推進が大いに期待される。国立博物館４館の各館はそれぞれの特徴を生かして、文化財に関する調査及び研究を推進し、その保存や修復にあたっている。また、文化財を活用した展示に努めている。各地における教育活動に関する調査・研究も、工夫しながら積極的に行っている。

２　自己点検評価に関する事項

自己点検評価もかなり定着し、４館間の自己評価についての考え方の違いは小さくなってきた。ただし、プロジェクトごと、あるいはプロジェクト責任者ごとの差は時として大きく、相互理解の必要性はまだあるように思われる。記入が本当に僅かな業務実績書も評価に苦慮するが、書式いっぱいに書かれた業務実績書を見ると、多忙な研究その他の業務の合間に大変な時間を自己点検と評価に費やさせているのではないかという自己点検評価制度の別な問題も感じられる。形式的ではない、短めではあってもエッセンスが伝わる必要最低限の業務実績書ならびに自己点検評価書が望まれる。

３　調査研究に関する事項

東博の「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」、京博の「訓点資料としての典籍に関する調査研究」、奈良博の「日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究」、九博のＸ線ＣＴスキャナならびに３次元プリンタを使った一連の研究等、各館ともに注目すべき成果をあげており、今後の展開が期待される。

４　その他

上記のような新しい機器の調査研究における使用や、４Ｋ・８Ｋ等の超高精細映像の展示における活用は今後とも国立博物館にとって重要な意味を持つであろう。各館がそれらの使用の経験や情報を交換し、一層有効な活用が進むことが期待される。

東日本大震災関係の国立博物館としての活動に関しては、東博の「被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究」等で報告されており、高く評価されるが、ひょっとすると震災関係の活動はやや縮小気味なのではないかと心配される。引き続き国立博物館、そして国立文化財機構全体としての、他にはできない有意義な活動が継続されることが望まれる。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

森　弘子

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

平成25年度も従来通り、各分野に亘り、各館の特色を活かした業務遂行がなされている。

独法内他館との連携は申すまでもなく、大学・企業などとの連携もすすめられ、新しい成果、先端的な成果が上がってきている。その成果を出版社企画で出版できた事例もあり、今後、このような世間の注目を浴びる研究がさらに出てくることを期待したい。

2　自己点検評価に関する事項

業務について自己点検評価をすることの効果が年々あがってきている。

評価のありかたも、これまでより率直かつ実績をよく踏まえたものになってきたと感じられる。

定性的評価・定量的評価の評価項目は、研究内容によって異なるのは当然のことと理解はしているが、なかに評価項目が著しく少ないものがある。ある程度の基準はあって然るべきではなかろうか。

3　調査研究に関する事項

各館に於いて、基礎的な資料の調査、デジタル化など地道な研究がたゆみなく続けられていることは大いに評価すべき事である。

東日本大震災の復興支援は文化財機構としても息長く行うべき事であり、被災文化財の保存修復とともに「みちのくの仏像」の展覧会を企画したことは喜ばしい。仏像など有形文化財だけでなく、寺の民俗行事など無形文化財が調査されたことも評価される。また今後の災害に備え防災に関する研究も早急に成果を上げてほしいことである。

海外に流出した日本の文化財について、ボストンやクリーブランド美術館などよく知られた館からの里帰り展は、多くの人々の関心を集めているが、それとともに従来知られていない海外への流出文化財の探索は重要な課題である。その意味で、ベトナム国立歴史博物館で開催された「日本文化展」は、行方不明であったフランス極東学院交換品の所在が判明し、またベトナムに於ける日本文化財の研究に寄与するなど画期的であった。

光学的研究は年々盛んになってきており、これまでわかり得なかったことが判明した事例や文化財の保護に資する事例が報告されている。今後さらなる研究の進化が期待される。

「国宝大神社展」や京博の特別展観「遊び」に見られるように、従来の文化財の形状や時代性等に関わる研究に止まらず、その背景にある哲学や民俗学など他分野の学問を採り入れ、作品の背後にあるものへの解明にまで踏み込んだものが見られた。真に作品を理解するにはこうした研究姿勢が大切であろう。

九博の高等学校所蔵考古資料の調査研究は、自己点検評価書に書かれるとおり、様々な面で重要な意味を持っている。身近なものでありながら、注目されてこなかったことに調査の目を向けたことは大いに評価され、今後の成果が注目される。

4　その他

京博においては平常展示館の改築も完成し、新装開館を待つところであるが、立派な施設に相応しい

立派な研究、展示、教育普及がなされることと、期待している。

また東博は開館 150 周年、九博は開館 10 周年を間近に控え、記念事業等の準備に取りかかられたようであるが、過去を振り返りさらに次の節目に向っての方向性を模索されていることは大事なことである。

ことに 150 年という東博の歴史は、日本の博物館の歴史そのものであり、地道な作業ではあるが、大きな成果が上げられることに期待したい。

奈良博に於いては、東大寺や興福寺に立派なミュージアムができ、従来の奈良博のあり方に再考を促される時期に来ているのではないだろうか。すでに奈良博に於いては対策が考えられていることとは思うが、それらの寺社と緊密に連携をとりながら、国立博物館としてできること、さらにいえば国立博物館にしか出来ないことを提供し続けてほしい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所・センター調査研究等部会

部会長　　佐　藤　　信（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

稲　田　孝　司（岡山大学名誉教授）

岡　田　保　良（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）

園　田　直　子（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）

玉　蟲　敏　子（武蔵野美術大学造形学部教授）

柳　林　　修（読売新聞大阪本社記者）

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

佐 藤　信

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

○文化財に関する基礎的・先端的な調査・研究と国際協力などの多方面にわたり、期待される成果を充分に挙げていると評価できる。研究成果の発信にも充分な努力が為されているが、高いレベルの成果を研究者向けのみでなく国民全般に向けてさらにわかりやすく発信していただけないものか。

○東日本大震災に対応した「文化財レスキュー」事業での東京・奈良両研究所の実績・活躍については、きわめて高い評価が与えられる。事業は一段落したようだが、事業の成果を、さらに今後の危機対応の際の体制整備のために活かす努力を進めていただきたい。

○東京・奈良の両研究所やアジア太平洋無形文化遺産研究センターの調査・研究事業に果たす、非常勤のアソシエイトフェロー・客員研究員・研究補佐員などの役割比率が次第に高くなっており、常勤研究員の数を増やす経営努力をお願いしたい。

○調査・研究成果の社会的発信をさらに強化していただくことが必要であるが、すぐに話題となりにくい先端的というより基礎的な調査・研究事業についても、研究所・センターの基礎的体力の強化のためにも、充分配慮するべきであろう。

2　自己点検評価に関する事項

○研究所・センターとも、限られた人員・予算の割に諸事業で大きな実績を挙げていると評価できる。一方で、非常勤職員が果たす役割比率が次第に高くなってきている。「効率化」努力について評価する際に、「常勤人員と予算が減った一方実績は増加した」ことを示すための、過去の実績との比較方法は考えられないか。

○研究所・センターの調査・研究成果がマスコミ等で好意的に取り上げられた実績、研究員の受賞、そして科学研究費など外部資金の獲得件数・金額なども、実績としてもっと評価対象としてよいのではないか。

○自己評価では、定量評価もできるだけ詳しく記載していただきたい。

3　調査研究に関する事項

○基礎的・先端的な文化財の調査・研究において、多方面にわたり充分な成果を挙げていると評価できる。都城発掘・歴史史料調査・保存科学・無形文化遺産調査などにおける地味ながら重要な基礎的研究の分野にも、充分な人的・財政的な配慮をするべきと考える。

○東京・奈良の両文化財研究所の協力体制がかなり進んできたことを評価する。アジア太平洋無形文化遺産研究センターや同じ国立文化財機構の博物館等との調査・研究上の協力を、所員・館員どうしの私的な交流としてのみではなく、さらに組織的に展開していただきたい。

○機構外の大学・学会やそこに所属する研究者との連携も、さらに組織的に進めていただきたい。研究集会の開催にあたっては、限られた範囲の研究者との共同研究だけでなく、広範囲な研究者に参加を呼びかけるタイプの研究集会も増やしてよいのではないか。

○近代文化遺産について、東文研の近代文化遺産研究室をはじめ、保存修復のみでない歴史的な調査・研究の充実化と、その保存活用・文化財マネジメントに関する調査・研究を進めていただきたい。

○大きな成果を挙げている奈文研の文化財の探査・測量に関する調査・研究事業について、体制の整備・充実を進めていただきたい。
○アジア太平洋無形文化遺産研究センターの調査・研究体制の整備・充実を、進めていただきたい。

○考古学・日本史学・保存科学・美術史学・遺跡学・建築史学・民俗学・民族学・庭園史学・写真学など、関連する多くの学会への様々な形での協力も、実績として評価する方向を進めていただきたい。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項
○東京・奈良の両文化財研究所とも、文化財保護のための調査・研究、保存修復、人材育成や技術移転などをめぐる国際協力や国際研究集会の開催などでは、多分野にわたり、日本ならではの質の高さで大きな実績を挙げており、非常に高く評価できる。各国・各組織との協力体制を、個々の所員の尽力に負うのみでなく、研究所としての組織的な事業としてさらに展開していただきたい。
○文化財保護は政治や国境を超えた世界的な課題であり、歴史認識問題が外交課題として取り上げられる状況下にある中国・韓国との間の文化財保護に関する国際協力については、これまでの大きな実績をふまえて、さらに積極的に努力していただきたい。
○アジア太平洋無形文化遺産研究センターも、アジア太平洋地域での国際的な協力に向けて、さらなる体制整備をお願いしたい。
○研究所・センターの共通テーマとして、有形・無形の世界文化遺産に関する調査・研究を推進することはできないか。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項
○東日本大震災の復興事業における「文化財レスキュー」で果たした両研究所の大変な努力・活躍について、国民に対してもっと積極的に発信していただきたい。
○ホームページ（インターネット）による調査・研究成果やデータベースなどの発信・公開が、多くの人々からアクセスされていることを評価したい。さらに魅力的な情報発信を展開していただきたい。
○研究所の報告書・研究論集などの出版物が、多様かつ大量に刊行されていることは、成果の発信として高く評価できる。こうした刊行物が、入手しにくい外部・地方の研究者や一般に向けても販売されるようにはできないか。また、インターネットによる、論文・データなどのＰＤＦ公開を、さらに積極的に展開していただきたい。
○調査研究の高いレベルの成果を、研究者向けのみでなく一般国民に対しても分かりやすい形で、出版したり、講演会・シンポジウムによって伝えるなど、さらに発信していただきたい。
○両研究所の図書資料や、所内での公開データ・資料などの閲覧・公開について、さらに部外研究者や市民による利用を促進する方向で、公開体制のさらなる整備・広報を進めていただきたい。
○東京国立博物館の「キトラ古墳展」のように、同じ機構内の国立博物館と東京・奈良の両研究所の協力のもとでの発信事業が成果を挙げていることは、大変喜ばしい。さらに、他の国立博物館や外部の各地の自治体立博物館・大学博物館と協力する形での展示・公開事業はできないものか。また、両研究所がもつ資料館や展示スペースをもっと活用して、調査・研究成果を国民向けにさらに発信していただきたい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

○国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言では、委託事業はもとより、多分野において高いレベルの大きな実績を挙げていることは、非常に高く評価できる。
○両文化財研究所として、文化財研究における高い研究レベルを活かした高等教育への協力を、さらに積極的に展開していただきたい。それに加えて、地元などの初等・中等教育の学校教育との連携をも、進めていただきたい。また、大学の「オープンキャンパス」のような研究所公開事業なども、進められないものか。

7　その他
○同じ機構内でも、博物館と違って収益・集客事業をあまりもたない研究所・センターの努力目標として、科研費・寄付金・研究補助金や企業協賛など外部資金の獲得に向けた努力をお願いしたい。また、調査・研究成果の博物館・大学・学会・自治体・報道機関などでの社会的発信・還元を積極的に進めていただきたい。多様な文化財の保存・活用事業に関して、蓄積されたノウハウをさらに広く提供・活用していただきたい。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名
稲 田　孝 司

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

平成 25 年度の調査研究事業は、いぜんとして東北地方大震災にかかわるものが顕著であったが、いずれの事業にも果敢に取り組み、その過程で下記のような新しい発見の研究成果や、新たな調査方法の工夫なども生まれた。過酷な災害ではあったが、両研究所が逃げることなく被災文化財と被災地の文化財に向き合い、実情にあわせて柔軟に持てる力を発揮しつつあることは、今日における日本の文化財行政の研究側面での底力を示すばかりでなく、今後の災害にとっても重要な教訓となるはずである。

災害発生に伴う対応は、予定していた計画的な調査研究に多少なりとも影響を及ぼしたと推測されるが、反面、計画的な研究以外にも重要な研究課題があることを気づかせてくれる利点もなしとしない。

例えば今日、世界遺産の社会的影響力は驚くほどの広がりを見せ、研究所も国の世界遺産事業の一翼を担っている（研 No.46)。「武家の古都・鎌倉」に関するイコモスの不記載勧告（平成 25 年）の理由は、中世鎌倉の都市計画や経済活動等の証明が不十分という点にあったが、これは文化財行政のあり方の基本を問う指摘でもあった。藤原宮・平城宮は国家的事業として保護・研究・活用され，そのことが奈文研の主な存在理由にもなっているのだが、これに比べて市街地下に埋もれたままの中世鎌倉の幕府跡はあまりに悲惨だ。日本史の中での重要さにまったくふさわしくない。行政は実情を知り、多くの研究者・文化財関係者が心を痛めてきた問題ではあるが、結果としては放置されてきた。古都・鎌倉が暫定一覧表にあって、意義付けのストーリーを変えないかぎり、いずれこの問題は解決されなければならない。国際的なマイナス評価を克服できないのでは、今後の日本の文化財関係国際協力にも影響があろう。第一義的には行政の問題であるが、研究所が知恵袋となって貢献できる余地があるかもしれない。不意の自然災害にさらされる文化財と同様、社会的に放置された文化財もまた文化財行政や研究所による救出を待っているのではあるまいか。

2　自己点検評価に関する事項

アジア太平洋無形文化遺産研究センターの自己評価については、発足時の平成 23 年度評価では効率性が B、平成 24 年度評価では正確性とウェブサイトのアクセス件数が B、平成 25 年度は継続性が B であった。24 年度の正確性 B については老朽化した建物の水漏れによる一部資料の破損（口頭説明）、25 年度の継続性 B については継続的な予算が無いことが理由とされた（No.56）。総合評価は毎年度 A 評価ではあるものの、各年度に散見する定性評価 B には、立場不安定な新設施設の苦境があらわれているようだ。センター独自の努力で解決しがたい問題については国のより積極的な支援が必要であり、文化財機構としてもその実現に今後とも尽力していただきたい。

展示による平城宮跡の研究成果の発信については、従来からの平城宮跡資料館（No.74）と国交省が計画中の平城宮跡展示館（No.80）との「役割分担を明確化した」とのことであるが、いずれの業務実績書にもその具体的な内容が書かれていない。二つの展示をどのように位置づけるかは、今後における平城宮跡の調査研究成果の発信にとって重要な問題であり、評価報告書に役割分担の具体的な内容が説明されておれば、検討したかどうかの評価とともに、検討した結果についての外部評価も可能となったと思われる。

3　調査研究に関する事項

東北地方大震災から 3 年が経過し、平成 25 年度においてもこれに関連した調査研究に進展がみられた。福島県からの要請を受け、新たに「福島県被災文化財等救援事業」をおこして富岡町・双葉町の両歴史民俗資料館等からの被災資料救出を完了（No.37 ）するとともに、物理学・化学等専門の外部委員を加えた W.G.を設けて放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成する等の成果（No.38）を得た。その他、津波被災文化財のカビに共通して高い耐塩性がみられたという発見（No.32）や、復興に伴う発掘調査において、三次元レーザースキャナーによる遺構・遺物計測で記録の精緻化と迅速化を進め（No.29）、また簡便かつ効果的な高所リモート撮影を工夫して調査の促進に貢献する（No.94）など、大きな成果があった。

東京・奈良の両研究所には、文化財行政に資するための調査研究が期待されている。その点で、文化財建造物保存修理時の「建造物現状変更説明」資料（1931～1949 年度分）を電子資料化するとともに刊行配布したこと（No.6）はきわめて重要な成果であった。史跡の現状変更に関する資料も研究所に保管されているとのことであり、そうした我が国近・現代の文化財行政の軌跡を示す基礎資料については、今後、電子資料化と公刊が期待されよう。

近代の文化遺産の保存修復において特に研究が急がれるのは、鉄筋コンクリート建造物の分野である。『コンクリート構造物の保存と修復』が東文研から平成 22 年度に刊行され、翌年度には英文版も出されたが、文化財保存科学としての研究はまだ緒に就いた段階ではなかろうか。平成 24 年度においても長崎県端島（軍艦島）や佐渡金・銀山等を対象とした研究が進められた（No.41）が、前者は平成 27 年度世界遺産推薦資産に含まれ、後者も遅くない時期に申請に向かう段階にある。とりわけ前者の建物群の規模は大きく、鉄筋コンクリート文化財の保存修復研究の真価が問われることになりそうである。

4　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

日・中・韓の国際関係が難しい状況にあるなかで、敦煌を中心とした中国の文化遺産保存修復の共同研究（No.47）が継続・実施されていることは、永年の経過と経験の蓄積があるとはいえ、きわめて貴重な成果である。中国の地方レベルとの研究交流やこれまでの発掘調査出土資料の研究で成果を得た（No.23）ことも重要である。韓国との間において、石造文化財（No.48）や無形文化財（No.9）の研究、あるいは発掘調査を通じて交流（No.23）が進んだことも評価されてよい。

5　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

東北地方太平洋沖地震被災文化財救援委員会が作成した 3 冊の刊行物がウェブサイトで公開され、しかも掲載した地図を拡大・縮小して見ることができるような工夫が種々施されており（No.60）、時宜にかないまた利便性も大きい。文献蒐集に関し、セインズベリー芸術文化研究所との間で協力関係ができたことは幸いであった（No.61）。同研究所は芸術分野のみならず広く日本の考古学・文化財の研究でも蓄積があり、今後の成果が期待される。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

東北大震災の復興事業に係わる発掘調査では、阪神淡路大震災の復興事業発掘とは異なり、奈文研が技術的な支援を行い発掘調査にも加わったことは、重要な成果であった（No.94）。遺跡地の地方公共団体の信頼を得るばかりでなく、支援の他県調査員との交流を深め、研究所職員自身も古代や都城関係以外の遺跡に触れ、地方公共団体の記録保存調査現場の実情を体験できる貴重な機会ともなったのではなかろうか。今回の経験を、今後の災害時における発掘調査支援のあり方の検討等にも活かしていく必要があろう。

7　その他

特になし。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

岡 田　保 良

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

前年までと同様、人的にも予算的にも制約の多い中で、数々の成果をあげ続けている機構のスタッフの方々に敬意を表したい。

本評価の基礎となるべき中期目標ならびに計画について、機構の中でも当部会の３機関は国際業務の比重が高い事実にも関わらず、計画の中での位置づけが極めて弱く、そのことがまた人員の配置、採用に十全の措置をとりづらくしているということはないか、さらに人と技術の現有資源の活用をうたう一方で、真にプロフェッショナルな人材を育成する機能についての目標が定かとはいえないのではないか。そうしたことが、遂行するべき業務において、ともすればキャパシティを超えた無理が生じかねない遠因となってはいないか、懸念する。次期中期目標の課題としたい。

なお、無形文化遺産センターが機構の仲間入りをしたことにより、「文化財」という用語の使用には、それが無形を含むのか否か、記述の際にはこれまで以上に注意が必要であることを指摘しておきたい。

2　自己点検評価に関する事項

３つの機関がすべての事業を整理点検して自己評価する作業は、相当な労力を要するに違いなく、毎年決められたこととはいえ、本来の業務にいささかでも支障をきたしているのではないかと危惧をしながら、報告書を拝見し、部会での報告を聞いている。それらの成果は基本的に中期目標・計画内容に沿って綴られ、ごく例外的なケースを除き、事業ごとの総合的評価が圧倒的に A ランクであることに疑義はない。

他方、評価者の多くが懸念するように、各機関の調査研究環境、あるいは予算措置など改善されるべき

点もないわけではなく、それらは今後の課題とされるべきものだが、その点まで踏み込んだ報告内容は、決められた書式の中であえて控えられているように思える。以前の部会で、その点を考慮して定性、定量評価項目で評価を低くする判定があってもよいのではないかという意見があったが、逆に、それは事業の評価そのものを低くみなされることにつながりかねない、という意見もみられ、それも理解できる。その何れが正しいかという結論は別におくとしても、じっさいの自己評価様式の中では、各業務評価の末にある「実施状況の確認」欄において、評価のＡやＳに拘らず、事業実施に際して直面した苦労や、今後より高い成果を上げるための方途や要望の一端を報告者自身が示すことで、この確認内容がより重い意味を持つことになるではないか。

３　調査研究に関する事項

保存修復センターの事業では、文化財の保存環境調査や分析にとどまらず、新たな素材や製品の開発まで視野に入れている点は望ましいあり方として評価したい。他方、近代遺産や服飾文化財には未指定資産が多く、そのため保存手法について無資格者が関与することへの危惧が表明されていた点、機構内では決して人材豊富とはいえない領域だけに注意しておきたい。

平城宮跡及び京域の調査について、次々と調査成果が上がっている点、また研究所のリニューアルを含めた長期計画のもとで今後の調査が進められる点は心強いが、世界遺産及びその緩衝地帯としての包括的計画未完の状態は一刻もはやく脱する必要があり、計画策定主体（奈良市か）への積極的提言を期待する。また、埋文センターが、遺構の安定化データの収集に意欲的に取り組んでいるとの報告には、まだ試験的レベルかという苛立ちもあるが、多方面から期待されているに違いなく、覆い屋の架構技術の開発と合わせて当面有望な研究分野と思われる。

部会では、飛鳥地方の調査と保存に関わる 3 つないし 5 つの主体の棲み分けについて議論があったが、少なくとも保存管理の計画については、世界遺産候補地でもあるので、県ないし国にはっきり主導する協議体が実質的に機能するよう、機構としても役割を考慮して活動してほしい。

かつて無形遺産センターと東文研の無形部門との棲み分けについて懸念したこともあったが、部会ではそれぞれの特色がよく説明され、また、好ましいコラボレーションの実績も伺えた。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

多くの日本人が注目する世界遺産の動向について、近年文化庁の委託を受けて東文研のセンターが深く関わるようになっている。私見だが、国内の世界遺産事業だけでも文化庁には大きな負担となっているのは明らかで、世界遺産委員会を含む海外の情報収集業務は庁外に委ねるしかなく、本機構の国際部門が、イコモスや大学との連携を図りつつその任に当たるべしという流れができつつあるように思われる。

同時に、手探り状態だったコンソーシアムの事業も、関係省庁・機関とをつなぐ一定の役割が定着しつつある。奈文研では ACCU が企画する集団・個人の研修プログラムの協力というより実質的運営が定着している。これらの国際協力についてアジア中心とする原則を外す必要はないが、コンソーシアムではその枠を柔軟にする基本方針がすでに打ち出されており、機構全体として、中東、南米、東欧、アフリカなどを視野に入れた事業展開を将来的には望みたい。上記はいずれも単年度受託資金が中心で人的余裕が乏しい中での事業となっており、従来業務を脅かしかねず、早い機会に定員と資金の安定化を働きかけるべきと考える。

無形遺産センターの活動について、ユネスコとの協定更新を 2015 年に控え、今年評価ミッションの来日が予定されている。こちらも単年度刻みの事業予算のなかで払われている関係者の努力に対して、ミッシ

ョンの勧告がどのような内容になるか注目したい。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

デジタルアーカイヴの充実により、貴重資料の公開がすすんでいる点、またセインズベリーとの協定など誠に喜ばしいが、資料のデジタル化情報は脆弱な一面もあって実物資料の保存を粗略にしてよいことにはならない点、再確認しておきたい。

なお１月に開催された「かたち」をテーマとした国際研究集会は、美術史の側から建築や文学など異分野の情報を意欲的に取り込もうとした企画であり、今後の方向性を示唆するとして注目したい。

奈良と飛鳥における国交省事業が真に文化財保護と有意な活用となるのか否か、そこに協力する研究所および機構の真価が問われるという側面に注意したい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

各地で文化財実務に携わる人材の育成について、研究所スタッフが地方に出向く形での研修事業が、当然のことながら好評を博したようで、現有スタッフの負担を考えると容易ではなさそうだが、今後拡充するべき事業分野とみなしてよいのではないか。

７　その他

独法移行後、奈良文化財研究所の財源は３４パーセントの減と聞く。その中で、奈文研は大規模なリニューアルを控え、機構への期待や要請はさらに高まることが予想される。同時に、一連の評価作業にあたり、中期目標や計画との連関について、ともすれば見逃しがちになることを自省しつつ、中期目標の４年目になる平成２６年度は、改めてその目標に立ち返り、次なる中期目標の柱を見据え、今後の課題を浮き彫りにするような事業の展開を期待したい。

保存修復センターからの報告の中で、一見華やかにさえ見える中国との交流について、必ずしも順調でないという憂慮が表明された。放置できないとすれば、機構外のチャンネルを活用するなど、立て直しの戦略を図る必要があろう。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

園 田　直 子

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

着実に実績をあげられており、高く評価できる。

震災から３年目をむかえて、より専門的な技術指導や研究が展開できる状況になっている。震災を受けて日本がどのように対応してきたのか（しているのか）に関する情報は、海外においても、文化遺産の減災、リスクマネージメント研究に大いに役立つ。日本からの情報発信が少ないことは、海外の研究者からしばしば指摘されることであり、その意味においても日本のナショナルセンターとして海外への発信を、今後とも積極的に進めていただければと思う。

機構内部の研究所と博物館、あるいは研究所間、というタイアップ事業が着実に進んでいる。

２　自己点検評価に関する事項

プレゼンテーションは要領を得ており、また発表内容が自己点検評価報告書のどこにあたるかについても分かりやすかった。定性的評価、定量的評価、総合的評価はそれぞれ妥当と思われるが、「S」評価を、より積極的につけてもよいのではないだろうか。

３　調査研究に関する事項

先駆的研究とともに、基礎的調査・研究、さらには震災関連の情報収集・調査・協力が、有形・無形ともに続けられており、いずれの分野においても成果をあげている。

三次元レーザースキャナーによる遺構・遺物計測の精緻化と迅速化、マイクロフォーカス X 線 CT 装置による非破壊樹種識別、津波被災資料の生物被害調査をはじめ、今後の発展が期待できる内容が多かった。文化施設においても省エネ化が問われるなか、文化財の保存環境を考慮した適時性を得た研究が進んでいる。一方で、暦年標準パターンの基礎データ蓄積、修復材料の化学的解明、服飾品等近代文化遺産の保存修復の先行事例調査など、基盤となる研究も着実に実施されており、評価できる。震災関連では、放射線対策のノウハウが蓄積され、それをもとに危機管理マニュアルが公開されている。今後は諸外国に向けて、さらなる情報発信をお願いしたい。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

中国や韓国との共同研究、東南アジアや西アジア諸国での保存修復協力、その他多くの受託事業が同時進行している。これら一連の国際協力活動は、文化面での日本の国際貢献の重要な柱であり、日本への理解を諸外国で高める一翼を担う、意義深い活動である。これら文化関連の事業において、一部で国家間の関係悪化の影響がでてしまうのは、いかにも残念である。

前回も述べたが、日本と諸外国間の交流は、今後、新たな段階に入ると予想できる。従来の日本が支援する・育成するというものから、相手国で自立的・持続的基盤が形成され、共同で事業や研究をおこなうという双方向交流へのシフトである。そのような状況になれば、より一層、継続的な国際協力・連携が求められてくるだろう。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

調査研究成果の発信は順調に進んでおり、またデータベースの横断検索が可能になるなど、改良されてきた。2012 年 12 月開催の国際研究集会のプロシーディング（英語）が出版されており、このなかには震災関係の内容も含んでいることから適時性、国際性が認められる。被災文化財のレスキュー活動は web 公開され、英語のまとめも発信されている。なお、web サイトの更新関係では、アジア太平洋無形文化遺産研究センターが、現行の日本語、英語、タイ語、ベトナム語に加え、タミル語、カンボジア語、ラオ語を新規追加する準備を行っていることは特筆に値する。

オープンレクチャー、公開講演会、現地説明会、展示公開の開催により、研究成果を一般のかたがたに発信する努力が続けられている。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

例年どおり、地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、文化財、美術館や博物館環境、発掘調査、遺跡整備、無形文化遺産とすべての分野において展開されている。震災復興に関連した発掘調査では、新たな技術開発を行い、より効率的に実施できるようになっている。

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修、埋蔵文化財担当者研修、さらには連携大学院教育を通じて、次世代の人材育成に寄与している。

7　その他

文化や文化財に関わる調査研究は、継続してこそ価値がある。先駆的研究とともに、基礎研究が着実に継続されることは研究所として非常に重要である。今後とも、専門的人材の確保、優秀な次世代人材の育成、適切な研究環境の確保、これらのための予算措置が求められる。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

玉 蟲　敏 子

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

・前年度に問題になっていた運営交付金の減少など、独立行政法人に移行されて以来の問題は今回あまり話題にならず、とくに緊急の課題もなかったように思われた。ということは、比較的順調に前年度からの活動が継続して進められ、安定した活動が展開されたことを示しているのだろう。

・ただし、全般に話題性に乏しく、国民の関心を引きつけ。支持されるような積極的な活動があまりうかがえなかったように思う。

2　自己点検評価に関する事項

・奈良・東京ともに活動内容のプレゼンテーションが要領を得ていて分かりやすく、全般に活動内容の着実さがよく理解できた。評価に関してもとくに違和感はなかった。

・ただし、全般に平板化している感じは否めなかった。

3　調査研究に関する事項

・少ない人員での取り組みであるにもかかわらず、３Ｄによる標本作りなど新しい技術を導入し、東京・奈良ともに調査研究へ充実した取り組みが報告されたことが光った。

・東日本大震災以後の文化財研究もレスキュー活動から、放射線による文化財の被爆状況の調査の取り組みへと展開しており、順調に展開していることが確認された。

4　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

・冷え込む中国との関係のなかで、それ以外の地域との国際協力の範囲が広がっていくことになり、臨機応変な取り組みにたくましさを感じた。

・東京では、アメリカ・ヨーロッパの様々な美術館所蔵品の修復・調査が行われ、活動の厚みが感じられた。

・紙の保存と修復というまさにお家芸とも言える分野での国際的な研修が行われ、発展性のある成果を残している。

5　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項
・東京では第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会が開催され、まさに原点回帰するようなテーマが設定された。新しい研究の方向が萌芽しつつある感じを受けた。
・また無形文化財に関する音声・画像・映像資料のディジタル化は現在求められている重要な作業で、これにより沖縄のイザイホーなどの記録が失わることなく保存されていくことを評価したい。
・奈良では国土交通省の平城宮跡展示館への協力、「平城宮跡みまもり隊」の活動など、市民を巻き込んだ活動が目立った。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項
・東日本大震災から三年が経過し、奈良を中心に被災地の埋蔵文化財の発掘調査が精力的に進められており、充実した支援協力が展開されていることを評価したい。

7　その他
・全般に手堅い活動が、継続して行われていることが確認でき、安定感のある活動が展開されていることが分かった。１にも書いたことだが、やはり文化財研究機関の存在理由を国民に魅力的に分かりやすく伝える、話題性が付け加われればよかったのではないかと感じられた。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名
柳 林　修

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

東京、奈良両文化財研究所の国内外における活動は年を追って充実し、新たな研究成果を着実に挙げるとともに、継続的で実践的な取り組みも実を結んでいる。とくに、ナショナルセンターという指導的立場を、国内の文化財機関のリーダーとして、海外の文化財関係者を指導する立場として、しっかりこなしている姿は今回も高く評価され、敬意を表する。

報告書からは、少ない人数と漸減していく運営費交付金という極めて困難な状況にもかかわらず、研究職やそれを支える事務職の、仕事にかける意気込みや責任感を感じることができて喜ばしい。また、それを裏付ける多彩な業績をたくさん知ることができて頼もしい。

しかし、年々、膨大化していく仕事の量や、内容の複雑化は、研究所職員の肉体的、精神的な余裕を奪っていないかと危惧する。「やらなければならないこと」が増え過ぎることで、特に研究職にとって求められる新たなアイデア、斬新な企画、自由でユニークな発想等を生み出す「心の余裕」を奪っていないだろうか。「絵画で大切なのは余白」と著名な日本画家が語ったことを思い出す。仕事を精選することも必要なのではないのか。人員など難しい面があることを承知の上で、職員に余裕が生まれ、それが仕事の質をいっそう向上させるような運営をお願いしたい。

東日本大震災における文化財被害での両研究所などの文化財レスキュー活動は称賛される。事務局が国立文化財機構の本部に移ったとのことだが、今後も技術的な面を中心に被災地の自治体や文化財所有者、博物館、美術館などの「よりどころ」であり続けることを希望する。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、極めて少ない人数と予算で、工夫を凝らした取り組みを実

施し、成果を挙げているのは喜ばしい。今まで以上に東文研との協力体制を構築していただきたい。同センターの充実は国立文化財機構挙げて取り組むべき喫緊の課題である。

奈良文化財研究所の運営費交付金が２００１年度に比べ、３４％減という実情には驚いた。東京文化財研究所も同様なのだろうか。昨年４月、下村文科相が国会で「文化立国を目指す。飛躍的な（予算の）増額になるような取り組みをしたい」と言明したことが具体的な形として現れているのだろうか。東日本大震災で有形、無形の文化財の大切さを国も国民も改めて認識した。外国人も日本文化を知る、見る、感じることが大きな目的で訪日している。文化、文化財への投資は、長い目で見て十二分に対価が得られる価値を持っている。

２　自己点検評価に関する事項

限られた人数と漸減する運営費交付金の中で、幅広い分野で成果を挙げる両研究所とセンターの自己点検評価が総じて「Ａ」であることは当然だ。逆に「Ｓ」を少なめにした感がする。そんな中、東日本大震災での対応は「Ｓ」でいい。その努力で命を永らえた文化財は枚挙にいとまがないからだ。奈文研の被災地での発掘支援で「Ｓ」が多いのは理解できる。東文研の無形民俗文化財や伝承調査も「Ｓ」であっていい。時期を逸すれば取り返しのつかない被災地の窮状を救った功績は声を大にして誇るべき取り組みである。

一方、センターの「無形文化遺産保護に関する基礎的な調査、研究の推進」で継続性の評価が「Ｂ」とあり、今回、数少ない「Ｂ」だったことから目を引いた。要は外部資金に頼っているために毎年度申請が必要ということで「Ｂ」にしたとのことだが、取り組みの姿勢は積極的であり、「Ａ」でいい。ユネスコの評価ミッションがあるという。「Ｂ」がマイナス要素にならないでほしい。

３　調査研究に関する事項

これまでの路線を継承し、そのうえで新たな路線も切り開いて先進的な調査、研究に取り組み、着実で世界的にも注目される成果を挙げている。きめ細かな対応は日本人らしさの表れであり、その結実した国内外の業績は世界的に信頼されて評価されている。

資料のデジタル化が写真や調査データ、図面など多くの分野で進む。東文研のデジタル化に関する調査、取り組みも関心が高い。デジタル化すれば「不滅」のように思われているが、果たしてそうなのか。東文研は元データの保存にも心がけ、常にバックアップをしているというが、その対応を全国の自治体にも、研究機関にも広めてほしい。アナログ資料は強いという。デジタル資料の絶対的永久性が真実かどうかはかなり先にならないとわからない。そういう意味で資料の適正な保存方法を考える東文研の取り組みに大きな期待を持ちたい。

奈良文化財研究所の三次元レーザースキャナーによる遺構、遺物の計測や地下探査は、被災地での発掘調査で特に効果が上がっている。住居の高台移転などでの調査にも威力を発揮しており、有効性は計り知れない。担当する研究者の人員不足が指摘されたが、対応はどうなっているのか。人材育成に機構としての取り組みを期待したい。

飛鳥地方（奈良県）の発掘調査の方向性を示していただきたい。狭い範囲で明日香村教委、奈良県教委、奈文研の三者が調査している。三者が切磋琢磨して調査する利点はあるが、情報の共有や調査の進め具合で協調性が担保されているか心配だ。個人的には統一した調査機関「飛鳥文化財研究所」（仮称）が各機関からの出向者で創設され、調査を一元化できればと考える。とくに指導的役割を果たす奈文研には、短期、中期、長期的な調査計画を立てて、他の機関とのすりあわせを密にして調査を進めていただきたい。世界

遺産登録への力強い援護にもなる。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

東文研、奈文研の東南アジアを中心とした調査、研究の進展は目覚ましい。中でも東文研のアフガニスタン・バーミヤーン遺跡の保存状況確認調査は３年ぶりといい、次年度以降の保存計画を具体化できたことは世界的にみても注目される。西アジア諸国への文化財の重要性を理解させる取り組みは極めて重要であり、シリア遺跡での盗掘などのニュースを聞くにつけ、一刻の猶予もままならない状況だ。東文研と奈文研はすりあわせをしっかり行い、重複の無駄を除いて取り組んでほしい。何よりも地元での人材育成と文化財愛護の精神の育成に力を注いでもらいたい。

近年、流出文化財に対する目が厳しい。文化財の不法な流出入を食い止める手立てとしては、１９７０年条約があるというが、批准していない国があったり、遡及性がないことから条約以前の事象については対応できなかったりと問題点は山積だ。文化財は本来の地にあるべきだろうが、博物館などにあるが故に守られてきたというケースも多いし、１か所で優品を鑑賞できる利点もある。しかし、違法と認定されなくても、道義的に本来の場所や国に返すべき文化財も多い。政治的な面もあり、対処は難しいが、今後のことを考えると積極的に文化財保護に関する協力推進に取り組むことは必然の理だ。１９７０年条約の改定も視野に入れ、現状に即応した文化財保護の世界的な取り組みを各国と連携して進めてほしい。東文研には特にこの分野でのノウハウや実績がある。指導的立場で推進し、国の協力を得て文化財保護のあるべき態勢を探っていただきたい。そして、その成果を報道機関や国際機関に対して積極的に発信してもらいたい。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

どんなに立派な調査、研究をしても、その成果が社会に知らされ、還元されなければ、その価値は半減するのではないか。「井の中の蛙」であってはならず、絶えず社会の一員としての機関の研究員であり、職員である自覚は絶えずしっかりと持っていただきたい。その意味では成果の発信は極めて重要な意味を持つ。

東文研が国立情報学研究所の総合目録データベースを通じて広く情報提供を行い、図書利用についてもサービスを充実したことは喜ばしい。今後はもっとこれを利用してもらうことに取り組んでほしい。報告書や冊子など紙媒体をＰＤＦ化して自由に閲覧できる態勢を、大変だが、少しずつ、対象を厳選した上で実現していただけたらと思う。根幹的な図書だけでもいい。

奈文研飛鳥資料館の取り組みは特筆される。交通の便がよくなく、学芸員がわずかという厳しい状況にあって、写真コンテストや企画展、特別展といった多彩な情報発信を試みて頭が下がる思いだ。平城宮跡資料館も「平城京どうぶつえん」など創意工夫を凝らし、子供たちにも楽しんでもらえる展示に取り組んで成果を挙げた。継続して毎年秋に行われる「地下の正倉院展」も確固とした展覧会として地歩を築いたといえよう。毎年の楽しみが増えた。

奈文研の調査で奈良市内の西大寺旧境内と中山瓦窯の発掘調査の報告があった。しかし、これらは発表されておらず、報道もない。受託事業だから、事情はいろいろあり、記録保存がやむをえない場合だったのだろう。しかし、国民共有の財産である文化財の調査成果は、なるべく早く、そして広く公開されるべきだ。行政当局のリーダーシップにも期待したい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

３機関のナショナルセンターとしての指導的役割は、文化財への国民理解が進む中でますます重要性を増している。東日本大震災での被災文化財の救出はすでに記したように大きな成果を挙げた。しかし、自治体が独自で取り組むには難しい状況は変わっておらず、事務局を国立文化財機構本部に移した後も被災地の期待に添う支援態勢は継続すべきだ。そこから被災文化財、とくに放射能に関する文化財レスキューのノウハウなどがある程度、つかめるかもしれない。２度と今回の事象のような被災文化財を生み出してはいけないが、今回の貴重な経験を記録してマニュアル化できれば、世界の文化財保護におけるかけがえのない一つの指針になるだろう。

国、地方自治体への専門的な協力や助言は質、量とも充実している。東文研の美術館や博物館など３５館への環境調査と保存環境への対応の貢献度は高い。奈文研の３２件にも及ぶ地方自治体の審議会、整備委員会などでの助言も心強い。逆にかなりの負担を強いているのではと心配する。本来の仕事に影響のないように、バランスを考えて対応してほしい。

人材育成の長年の取り組みも地方で花開き、専門家が続々と育っていることは頼もしい。その指導、育成の努力は高く評価される。昨年、奈文研旧庁舎にあった研修用の宿泊施設の必要性を訴えて新庁舎にも何らかの施設を求めた。その対応はどうなったのだろうか。気になる。

大学など高等機関との交流もいっそう積極的に進めてほしい。３機関を支える人材を育てる可能性があるし、地方自治体に就職したとしても中心的存在として活躍が期待されるからだ。

７　その他

文化財の研究や保存、国民へのそれらの還元に取り組む国立文化財機構の仕事を、もっと国民に周知することが大切だ。文化財機構が主体となって、百貨店などで仕事の内容、成果、実験の体験などを紹介する「国民の文化財展」（仮称）ぐらいの取り組みをしてもいいのではないか。先進技術による文化財の調査、解明の成果を子供たちにわかるように、そして遊びやクイズを交えて、文化財をより身近に感じ、それを守っている３機関や機構の周知を図る大胆なプレゼンテーションを企画したらどうだろうか。そういう場所で、わが国の文化財予算の貧困さを示してもいい。先年、「危機感をもっと抱いてほしい。紳士的過ぎる」と国への対応を指摘したが、性根を入れてやるのは今だと思う。今まで以上に情報発信の重要性を認識していただきたい。各機関が個々には「職場体験」「職場訪問」などを積極的に行い、活動をもっとアピールすべきだ。大学のオープンキャンパス的な取り組みをしてもいい。

Ⅵ 日誌

（法人全体及び７施設共通事項）

年　月　日	記　　事
25.　4. 12	第１回役員会（東京国立博物館）
25.　4. 17	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所・センター調査研究等部会）
25.　4. 23	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会）
25.　5. 22	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会）
25.　6.　7	第２回役員会（東京国立博物館）
25.　6. 13	監査法人の監査結果（平成 24 年度）通知
25.　6. 21	平成 24 年度定期監査（東京国立博物館）
25.　7.　8	文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立文化財機構部会（第 71 回）
25.　7. 19	第３回役員会（九州国立博物館）
25.　7. 22	平成 25 年度新任職員研修会（個人情報保護及びハラスメントに関する講演も同時実施）（東京国立博物館）（～７月 24 日）
25.　7. 30	独立行政法人文化財機構運営委員会（東京国立博物館）
25.　8. 16	文部科学省独立行政法人評価委員会総会（第 55 回）
25.　9. 12	第１回情報化委員会(東京国立博物館)
25.　9. 18	第１回研究・学芸系連絡協議会(東京国立博物館) 第１回７施設連絡協議会(東京国立博物館)
25.　9. 27	第４回役員会（東京国立博物館）
25. 12. 20	第５回役員会（東京国立博物館）
26.　1. 24	第６回役員会（京都国立博物館）
26.　3.　7	独立行政法人国立文化財機構の第 6 期事業年度財務諸表の承認の通知
26.　3. 20	第７回役員会（東京国立博物館）

（東京国立博物館）

年　月　日	記　　事
25.　1. 12	特別展「飛騨の円空―千光寺とその周辺の足跡―」（～4 月 7 日）
25.　3.　9	春の庭園開放（～4 月 14 日）
25.　3. 19	博物館でお花見を（～4 月 14 日）
25.　4.　2	荒井広幸参議院議員来館
25.　4.　4	東京・春・音楽祭―東京のオペラの森 2013―桜の街の音楽会 ヴァイオリンによる無伴奏　加藤えりな（ヴァイオリン）（法隆寺宝物館）
25.　4.　5	東京･春･音楽祭 ―東京のオペラの森 2013―ミュージアム･コンサート　東博でバッハ vol.14　川本嘉子（ヴィオラ）～無伴奏チェロ組曲（ヴィオラ版）全曲演奏会（平成館）
25.　4.　5	東京・春・音楽祭―東京のオペラの森 2013―桜の街の音楽会 Vive! サクソフォーン・クヮルテット　（正門内池前）
25.　4.　8	特別展「国宝　大神社展」開会式及び特別内覧会
25.　4.　9	東京･春･音楽祭 ―東京のオペラの森 2013―ミュージアム･コンサート　東博でバッハ vol.15　寺神戸亮（ヴァイオリン）（法隆寺宝物館）
25.　4.　9	鈴木克昌衆議院議員来館
25.　4. 10	東京･春･音楽祭 ―東京のオペラの森 2013―ミュージアム･コンサート　東博でバッハ vol.16　池上英樹（マリンバ）（法隆寺宝物館）
25.　4. 11	塩川正十郎元文部大臣来館
25.　4. 12	特別展「国宝　大神社展」賛助会特別鑑賞会
25.　4. 20	海外展「青山杉雨のコレクションと書」（～7 月 2 日）（中国・上海博物館）
25.　4. 15	衛藤晟一参議院議員来館
25.　4. 16	上海市歴史博物館長来館
25.　4. 16	山谷えり子衆議院議員来館
25.　4. 22	谷川弥一文部科学副大臣来館
25.　4. 24	国連大学長来館
25.　4. 24	谷公一復興副大臣来館
25.　4. 25	謝杭生中国外交部副部長来館
25.　5.　8	天皇皇后両陛下「大神社展」行幸啓
25.　5.　9	特別展「国宝　大神社展」10 万人セレモニー
25.　5. 10	廣池学園理事長来館
25.　5. 11	上野ミュージアムウィーク「国際博物館の日」記念事業 2013（～5 月 26 日）
25.　5. 18	国際博物館の日　総合文化展無料観覧日
25.　5. 19	国際博物館の日　記念事業　三館園連携事業「上野の山でサルめぐり」
25.　5. 20	彬子女王殿下「大神社展」お成り
25.　5. 20	皇太子殿下「大神社展」行啓
25.　5. 22	福井照文部科学副大臣来館
25.　5. 30	高鳥修一衆議院議員来館
25.　6.　1	中曽根弘文元文部科学大臣来館
25.　6.　3	平成 25 年度賛助会感謝会
25.　6.　9	東京国立博物館　初夏のコンサート　～ダイナミックなテクニックとパリの香りを～

25. 6. 18　臨時休館日（電気設備保守点検）
25. 7. 2　特集陳列　平成 24 年度新収品（～8 月 2 日）
25. 7. 3　中国常州市博物館長来館
25. 7. 7　東京国立博物館ファミリーコンサート「FAMILY CONCERT 2013」（平成館）
25. 7. 12　特別展「和様の書」開会式及び特別内覧会
25. 7. 12　健康管理のための講習会（東京国立博物館）
25. 7. 19　特別展「和様の書」賛助会特別鑑賞会
25. 7. 30　常陸宮妃殿下「和様の書」お成り
25. 8. 5　皇太子殿下、愛子内親王殿下　総合文化展 行啓
25. 8. 20　西村明宏衆議院議員来館
25. 8. 25　席上揮毫会　（書のデモンストレーション）
25. 8. 21　皇太子殿下「和様の書」行啓
25. 9. 16　ポーランド ワルシャワ国立博物館副館長来館
25. 9. 18　東京国立博物館 平成 25 年度 秋の特別公開（～9 月 29 日）
25. 9. 26　谷川弥一文部科学副大臣来館
25. 9. 21　留学生の日
25. 9. 22　初秋東博寄席 2013（平成館）
25. 9. 28　インドネシアの伝統音楽 ジャワガムランと舞踊（平成館）
25. 9. 28　Music Weeks in TOKYO 2013 まちなかコンサートー芸術の秋、音楽さんぽ（表慶館）
25. 9. 29　東京国立博物館　秋のコンサート　～世界の藤原真理と新進気鋭の大田佳弘による秋のコンサート～（平成館）
25. 9. 30　特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」開会式及び特別内覧会
25. 10. 1　ベトナム文化芸術機構所長来館
25. 10. 7　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」開会式及び特別内覧会
25. 10. 11　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」賛助会特別鑑賞会
25. 10. 16　洛中洛外図 3D プロジェクションマッピングと特別夜間開館　（～ 10 月 17 日）
25. 10. 17　遠山敦子元文部科学大臣来館
25. 10. 18　東京国立博物館評議員会
25. 10. 25　京都展公式アプリ「洛中洛外図屏風 舟木本 完全版」トークイベント
25. 10. 26　東京文化財ウイーク 2013　（～11 月 4 日）
25. 10. 26　秋の庭園開放（～12 月 8 日）
25. 10. 29　コスタリカ文化省大臣来館
25. 11. 1　古典の日　列品解説　聖徳太子絵伝について他
25. 11. 1　特別夜間開館および本館スペシャルライトアップ　（本館前）（～ 11 月 3 日）
25. 11. 5　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」10 万人セレモニー
25. 11. 5　東京国立博物館の記念日　祝賀会
25. 11. 6　上野動物園土居園長、上野動物園協会藤井理事長来館
25. 11. 7　特別展「京都」スペシャルトークイベント 細田守 meets「洛中洛外図　舟木本」アニメーション映画監督　細田守が見た家族の肖像今昔（平成館）
25. 11. 7　台湾国立文化資産局梁華綸部長来館
25. 11. 9　上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会　増山雪斎の虫豸帖とファーブルの昆虫記

25. 11. 9　京都展　三菱商事（特別賛助会員）障がい者向け内覧会
25. 11. 12　第10回「台東区の伝統工芸職人展」～下町に息づく匠の手仕事～（～11月17日）
25. 11. 12　望月義夫行革推進本部長来館
25. 11. 15　程永華中国駐日全権大使来館
25. 11. 18　バローゾ欧州委員会委員長来館
25. 11. 21　塩川正十郎元文部大臣来館
25. 11. 24　特集陳列「日本の仮面　能面 是閑と河内」関連イベント　「面打」（平成館）
25. 11. 23　ケネディ駐日アメリカ大使来館
25. 11. 29　イタリア・トリノ市長、駐日イタリア大使来館
25. 12. 8　東京国立博物館　クリスマスコンサート ～チャイコフスキーの最高傑作～（平成館）
26. 1. 2　博物館に初もうで2014　新春イベント「江戸の遊芸　紙切り」他（～1月26日）
26. 1. 3　博物館に初もうで 2014　新春イベント「クラリネット・コンサート」
26. 1. 13　新春東博寄席2014（平成館）
26. 1. 14　「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」開会式及び特別内覧会
26. 1. 14　日本伝統工芸展 60 回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」開会式及び特別内覧会
26. 1. 17　「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」賛助会特別鑑賞会
26. 1. 17　中山恭子参議院議員来館
26. 1. 17　田中真紀子元文部科学大臣来館
26. 1. 22　西川京子文部科学副大臣来館
26. 2. 1　中田英寿他トークイベント「日本の工芸を語る」（平成館）
26. 2. 3　平成26年防災訓練
26. 2. 7　「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」10万人セレモニー
26. 2. 10　特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」開会式及び特別内覧会
26. 2. 10　皇太子殿下「支倉常長展」行啓
26. 2. 12　ペルー駐日大使夫妻来館
26. 2. 13　カンボジア ノロドム・アルンラスミー王女来館
26. 2. 13　松島みどり経済産業副大臣来館
26. 2. 16　海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」（～5月11日）（米・クリーブランド美術館）
26. 2. 18　フランス　ベタンクール財団理事長来館
26. 2. 19　常陸宮妃殿下「人間国宝展」お成り
26. 2. 25　カンボジア ノロドム・シリヴット殿下来館
26. 3. 8　春の庭園開放（～4月13日）
26. 3. 8　博物館でお花見を（～4月13日）
26. 3. 15　東京･春･音楽祭 ―東京のオペラの森 2014―ミュージアム･コンサート　東博でバッハ vol.17　福田進一（ギター）（平成館）
26. 3. 18　東京・春・音楽祭―東京のオペラの森 2014―桜の街の音楽会「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」（正門内池前）
26. 3. 19　東京･春･音楽祭 ―東京のオペラの森 2014―ミュージアム･コンサート　東博でバッハ

vol.18　三浦文彰（ヴァイオリン）（法隆寺宝物館）

26.　3.　24　　開山・栄西禅師 800 年遠忌 特別展「栄西と建仁寺」　　開会式及び特別内覧会

26.　3.　25　　東京・春・音楽祭―東京のオペラの森 2014―桜の街の音楽会　ヴァイオリンによる無伴奏　加藤えりな（ヴァイオリン）（法隆寺宝物館）

26.　3.　26　　東京･春･音楽祭 ―東京のオペラの森 2014―ミュージアム･コンサート　東博でバッハ vol.19　山崎伸子（チェロ）＆ 小林道夫（チェンバロ）（法隆寺宝物館）

26.　3.　28　　特別展「栄西と建仁寺」　　賛助会特別鑑賞会

（京都国立博物館）

年	月	日	記　　事
25.	4.	1	特別展覧会「狩野山楽・山雪」（～5 月 12 日）
25.	4.	6	土曜講座「山雪の受難、そして「雪汀水禽図」の画想」
25.	4.	7	京博で愉しむ花見
25.	4.	13	土曜講座「山楽・山雪と九条家」
25.	4.	19	「京都・らくご博物館（春）～新緑寄席～」
25.	4.	21	特別講演会「山楽・山雪と京狩野」
25.	4.	27	京都ﾐｭｰｼﾞｱﾑｽﾞ・ﾌｫｰ連携講座「山雪からのメッセージーはじめてこれを画くー」
25.	6.	1	音燈華 Vol. 4 ～DEPAPEPE コンサート～
25.	6.	5	文化財に親しむ授業　「松鷹図」（二条城）京都市立朱雀第六小学校
25.	6.	25	衛生管理講習会「アルコール依存症について」
25.	7.	9	文化財に親しむ授業「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 京都市立第三錦林小学校
25.	7.	13	特別展観「遊び」（～8 月 25 日）
25.	7.	13	土曜講座「遊びのコレクションー展覧会のみどころー」
25.	7.	19	野外映画上映会
25.	7.	20	土曜講座「京都国立博物館の人形」
25.	7.	26	野外映画上映会
25.	7.	27	土曜講座「こんなにおもしろい近世彫刻」
25.	7.	31	夏季講座「大和路の古寺を巡って…わたしの調査遍歴…」他
25.	8.	1	夏季講座「流転する文化財―古社寺に伝わる仏具を中心に―」他
25.	8.	2	夏季講座「寺院と障壁画」、見学会
25.	8.	6	少年少女博物館くらぶ 小・中学生向け鑑賞会「びじゅつで遊ぼう！」
25.	8.	9	少年少女博物館くらぶ 小・中学生向け鑑賞会「びじゅつで遊ぼう！」
25.	9.	4	文化財に親しむ授業「八橋図屏風」尾形光琳筆 京都市立安祥寺中学校
25.	9.	6	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
25.	10.	11	特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」開会式、内覧会
25.	10.	12	特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」（～12 月 15 日）
25.	10.	12	特別シンポジウム「京博がやってきた」
25.	10.	13	文化財保護基金チャリティ茶会
25.	10.	13	二胡コンサート
25.	10.	18	「京都・らくご博物館（秋）～紅葉寄席～」
25.	10.	18	ギャラリートーク「魅惑の中国七宝」
25.	10.	20	ミュージアム茶会
25.	10.	22	社会科教員のための向上講座「魅惑の清朝陶磁展にちなんで」
25.	10.	25	ギャラリートーク「清朝皇帝の愛した蒔絵」
25.	10.	26	土曜講座「清朝陶磁と江戸時代後期の茶道具」
25.	10.	27	中国琵琶コンサート
25.	10.	30	文化財に親しむ授業「八橋図屏風」尾形光琳筆 京都市立納所小学校
25.	11.	1	留学生の日、古典の日
25.	11.	1	能のお話と講演

25. 11.　1　　佐々木館長スペシャルトーク
25. 11.　3　　中国琵琶コンサート
25. 11.　8　　文化財に親しむ授業「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 京都市立美豆小学校
25. 11.　8　　ギャラリートーク「吉祥の図案」
25. 11.　9　　土曜講座「煎茶と清朝陶磁」
25. 11. 12　　インフルエンザ予防接種
25. 11. 15　　ギャラリートーク「坂本龍馬と長崎」
25. 11. 22　　文化財に親しむ授業「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 京都市立松ヶ崎小学校
25. 11. 22　　ギャラリートーク「清朝の宮廷衣裳」
25. 11. 24　　中国琵琶コンサート
25. 11. 29　　文化財保護基金チャリティ茶会
25. 11. 29　　ギャラリートーク「清朝陶磁の吉祥文様」
25. 11. 30　　土曜講座「出土資料からみた清朝陶磁器の国内需要」
25. 12.　1　　二胡コンサート
25. 12.　4　　文化財に親しむ授業「八橋図屏風」尾形光琳筆 京都市立南大内小学校
25. 12.　6　　ギャラリートーク「坂本龍馬と下関」
25. 12.　7　　土曜講座「清朝陶磁と日本人」
25. 12.　8　　中国琵琶コンサート
25. 12. 13　　ギャラリートーク「江戸時代の唐物趣味」
26.　1. 25　　特別シンポジウム「京博が新しくなります」

（奈良国立博物館）

年　月　日	記　　事
25.　4.　5	特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」
	開会式、特別招待日　（会期４月６日～６月２日）
25.　4.　9	賛助会員特別鑑賞会
25.　4. 11	春季仏像供養法要
25.　4. 20	公開講座「當麻曼荼羅と中将姫説話の諸相」
25.　4. 21	サンデートーク「飛鳥仏の源流をたどる」
25.　4. 27	学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」
25.　4. 28	第２回庭園・茶室案内ツアー（４月２８日、５月２日、５月６日）
25.　5.　4	公開講座「〈寺史〉のなかの役行者－當麻寺は役行者の旧跡に建つ」
25.　5.　5	名品展無料観覧日（こどもの日）
25.　5. 18	公開講座「當麻曼荼羅の信仰史」
	名品展無料観覧日（国際博物館の日）
25.　5. 19	サンデートーク「幸せの王国ブータンの仏教美術」
25.　5. 25	公開講座「當麻寺の彫像」
25.　6. 11	第１回陳列品鑑査会
25.　6. 16	サンデートーク「図像から彫像へ－宋本図像と二軀の文殊菩薩像－」
25.　6. 27	第２回陳列品鑑査会
25.　7.　4	夏季仏像供養法要
25.　7. 19	特別展「みほとけのかたち－仏像に会う－」
	開会式、特別招待日（会期７月２０日～９月１６日）
25.　7. 20	夏休み　子供企画「ほとけさまに会おう！ならはくスタンプラリー」（９月１日まで）
25.　7. 21	サンデートーク「ハコ、いろいろ」
25.　7. 22	第１回評議員会
25.　7. 24	賛助会員特別鑑賞会
25.　7. 27	夏休み親子企画「ほとけさまの絵をかいてみよう！」
25.　8.　3	公開講座「曼荼羅の見方・考え方」
25.　8. 18	サンデートーク「国語と日本語－近代の国語施策を振り返る－」
	夏休み子ども教室『香木のフシギ！？』
25.　8. 20	夏季講座「仏教美術へのいざない」（８月２２日まで）
25.　8. 25	トークセッション「仏像模刻にかける青春群像！」
25.　9.　3	第３回陳列品鑑査会
25.　9.　7	公開講座「かたちに見る仏像の諸相」
	仏教美術資料研究センター案内ツアー
25.　9. 15	サンデートーク「描かれた仏像－霊験仏のかたち」
25.　9. 16	名品展無料観覧日（敬老の日）
25.　9. 26	秋季仏像供養法要
25. 10.　8	第４回陳列品鑑査会
25. 10. 20	サンデートーク「第４回　茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」
25. 10. 25	特別展「第６５回正倉院展」開会式、特別招待日

（会期１０月２６日から１１月１１日）
25. 10. 26　公開講座「聖武朝における歌舞の隆盛と和琴」
25. 10. 27　正倉院学術シンポジウム 2013「鑑真和上と正倉院宝物」
25. 10. 28　賛助会員特別鑑賞会
25. 11. 1　古典の日フォーラム「古典の魅力を堪能する」
留学生の日
25. 11. 2　公開講座「慶長櫃が語る正倉院の歴史」
25. 11. 3　公開講座「正倉と正倉院宝物－守る・伝える－」
正倉院展親子鑑賞会
25. 11. 9　高円宮妃殿下お成り
公開講座「香印坐と天平の彩り」
25. 11. 16　名品展無料観覧日（関西文化の日　１１月１７日まで）
25. 11. 17　サンデートーク「怨霊とタタリの歴史学」
25. 11. 23　第３回庭園・茶室案内ツアー（～２４日まで）
25. 12. 7　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（～平成２６年１月１９日まで）
25. 12. 8　公開講座「おん祭と大和士」
25. 12. 10　第５回陳列品鑑査会
25. 12. 15　サンデートーク「附属品」
25. 12. 17　茶会「おん祭と春日信仰の美術」
名品展無料観覧日（おん祭お渡り式の日）
25. 12. 25　第６回陳列品鑑査会
26. 1. 21　冬季仏像供養法要
26. 1. 19　サンデートーク「文化財を撮る ―写真が語り継ぐもの―」
25. 1. 23　第７回陳列品鑑査会
26. 1. 28　文化財防火デー消防訓練
26. 2. 3　名品展無料観覧日（節分の日）
26. 2. 8　特別陳列「お水取り」（～３月１６日まで）
25. 2. 12　第１回買取等協議会（絵画・書跡・工芸）、買取等評価会
26. 2. 13　文化財保存修理所特別公開
26. 2. 15　公開講座「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」
26. 2. 16　お水取り「講話」と「粥」の会
サンデートーク「装飾文様のかたち」
26. 2. 23　公開講座「お水取り 752-2014」
26. 3. 14　第２回評議員会
26. 3. 16　サンデートーク「女性と仏教」
26. 3. 29　春の庭園散策ツアー
仏教美術資料研究センター建物公開

（九州国立博物館）

年　月　日	記　　事
25.　4.　15	特別展「大ベトナム展」開会式及び内覧会 （会期：4 月 16 日～6 月 9 日）
25.　4.　16	トピック展示「江戸のサイエンス　－武雄蘭学の軌跡－」（～7 月 7 日）
25.　4.　17	新任研修
25.　4.　21	特別展「大ベトナム展」特別講演会「日越関係が示す新しい世界史像」 「近現代の日越関係史と今後の展望」
25.　4.　23	「国宝　琉球国王尚家関係資料修理完成記念特別公開」（～6 月 2 日）
25.　4.　27	第 22 回 はじめての茶道体験
25.　4.　29	第 107 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　5.　12	特別展「大ベトナム展」特別講演会「ベトナム・ホイアン日本町跡を発掘する」 「ベトナムの『元寇』を探る～予備調査の結果からわかること」 「安南文書の世界」「陶磁器から見た海のシルクロードとベトナム」
25.　5.　14	特別展「大ベトナム展」入場者 3 万人セレモニー
25.　5.　18	文化交流展無料観覧日（国際博物館の日）
25.　5.　18	第 28 回 親子で茶道体験
25.　5.　18	第 108 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　5.　19	第 23 回 はじめての茶道体験
25.　5.　24	第 5 回　次の 10 年を考える懇話会
25.　5.　30	特別展「大ベトナム展」入場者 5 万人セレモニー
25.　6.　8	第 109 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　6.　8	第 29 回 親子で茶道体験
25.　6.　22	第 24 回 はじめての茶道体験
25.　7.　8	特別展「中国　王朝の至宝」開会式及び内覧会 （会期：7 月 9 日～9 月 16 日）
25.　7.　15	第 110 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　7.　15	第 25 回 はじめての茶道体験
25.　7.　17	トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画－神戸市立博物館名品展－」 （～9 月 29 日）
25.　7.　17	特別公開「国宝・神戸市桜ケ丘出土銅鐸」（～9 月 29 日）
25.　7.　23	特別公開 国宝「西光寺梵鐘」（～12 月 8 日）
25.　7.　27	いこうよ！あじっぱ夏祭り 2013（～7 月 28 日）
25.　7.　27	第 30 回 親子で茶道体験
25.　7.　28	第 31 回 親子で茶道体験
25.　8.　3	特別展「中国　王朝の至宝」特別講演会「皇帝たちの中国－ファースト・エンペラーからラスト・エンペラーまでー」
25.　8.　4	第 111 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　8.　8	メンタルヘルス研修
25.　8.　8	特別展「中国　王朝の至宝」入場者 3 万人セレモニー
25.　8.　9	ボランティアイベント　七夕飾り・浴衣体験（～8 月 11 日）

25.　8.　11　　第 26 回 はじめての茶道体験
25.　8.　21　　第 6 回　次の 10 年を考える懇話会
25.　8.　24　　第 32 回 親子で茶道体験
25.　8.　25　　第 33 回 親子で茶道体験
25.　8.　30　　特別展「中国　王朝の至宝」入場者 5 万人セレモニー
25.　9.　 3　　トピック展示「館蔵名品展ー更紗」（～10 月 14 日）
25.　9.　 8　　第 27 回 はじめての茶道体験
25.　9.　 8　　第 112 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　9.　 9　　谷川文部科学副大臣　来館
25.　9.　11　　第 1 回　評議員会
25.　9.　16　　文化交流展無料観覧日（敬老の日）
25.　9.　25　　第 8 回太宰府 古都の光（17 時以降　文化交流展無料観覧日）
25.　10.　 1　　トピック展示「茶の湯を楽しむVI　　特別編　煎茶の世界」（～12 月 1 日）
25.　10.　 5　　九州国立博物館　国際シンポジウム「ベトナムに恋して」
25.　10.　10　　文化財保存交流セミナー
「トプカプ宮殿の至宝とイスタンブールの象徴ブルーモスクについて」
25.　10.　11　　特別展「尾張徳川家の至宝」開会式及び内覧会
（会期：10 月 12 日～12 月 8 日）
25.　10.　12　　公開シンポジウム「市民と共に　ミュージアム IPM」（一橋大学　一橋講堂）
25.　10.　12　　特別展「尾張徳川家の至宝」特別講演会「“殿”文化を語るー国宝『源氏物語絵巻』を伝えた系譜」
25.　10.　13　　第 28 回 はじめての茶道体験
25.　10.　14　　第 34 回 親子で茶道体験
25.　10.　14　　第 113 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　10.　16　　特別展「台北國立故宮博物院－神品至宝－」調印式
25.　10.　19　　８周年イベント「日本とタイの伝統人形劇」
25.　10.　22　　第 7 回　次の 10 年を考える懇話会
25.　10.　22　　トピック展示「山の神々　－九州の霊峰と神祇信仰－」（～12 月 1 日）
25.　10.　25　　特別展「尾張徳川家の至宝」入場者 3 万人セレモニー
25.　11.　 3　　文化交流展無料観覧日（留学生の日）
第 29 回 はじめての茶道体験(留学生限定)
国際文化交流ツアーin 九博
25.　11.　 4　　第 35 回 親子で茶道体験
25.　11.　 5　　職員定期健康診断
25.　11.　 9　　坂東文部科学省審議官　来館
25.　11.　10　　第 114 回 きゅーはくミュージアムコンサート
25.　11.　11　　文化庁主催海外展「日本文化展（ベトナム国立歴史博物館)」　調印式
25.　11.　12　　特別展「尾張徳川家の至宝」入場者 7 万人セレモニー
25.　11.　14　　特集陳列「江上波夫の眼　ことばとかたち」（～26 年 2 月 2 日）
25.　11.　17　　文化交流展無料観覧日（家族の日）
25.　11.　29　　特別展「尾張徳川家の至宝」入場者 12 万人セレモニー

25. 12. 1　第30回 はじめての茶道体験
25. 12. 1　第115回 きゅーはくミュージアムコンサート
25. 12. 11　ノロウィルス研修
25. 12. 14　第36回 親子で茶道体験
25. 12. 9　トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化　ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館のコレクションより」開会式及び内覧会
（会期：12月9日～26年2月16日）
25. 12. 10　第8回　次の10年を考える懇話会
26. 1. 5　ボランティアイベント「書き初め」
26. 1. 1　トピック展示「発掘された日本列島2013」（～2月16日）
26. 1. 1　新春特別公開「天神さまの宝もの」（～1月26日）
26. 1. 11　第116回 きゅーはくミュージアムコンサート
26. 1. 14　特別展「国宝　大神社展」開会式及び内覧会
（会期：1月15日～3月9日）
26. 1. 16　文化庁主催海外展「日本文化展（ベトナム国立歴史博物館）」開会式及び一般公開
（会期：1月16日～3月9日）
26. 1. 19　第31回 はじめての茶道体験
26. 1. 20　防災訓練
26. 1. 26　特別展「国宝　大神社展」特別講演会「鎮守の社（もり）と日本人」
26. 1. 26　第37回 親子で茶道体験
26. 2. 8　特別展「国宝　大神社展」入場者3万人セレモニー
26. 2. 9　第32回 はじめての茶道体験
26. 2. 23　第38回 親子で茶道体験
26. 2. 23　第117回 きゅーはくミュージアムコンサート
26. 2. 23　九博こどもフェスタ
26. 2. 25　トピック展示「館蔵近世絵画名品展」
（前期：26年2月25日～4月6日　　後期：26年4月8日～5月18日）
26. 2. 27　文化財保存交流セミナー　文化財保存と絵画資料「中国美術における梅について」
26. 2. 28　特別展「国宝　大神社展」入場者7万人セレモニー
26. 3. 2　第118回 きゅーはくミュージアムコンサート
26. 3. 6　第2回　評議員会
26. 3. 17　防災訓練
26. 3. 17　第9回　次の10年を考える懇話会
26. 3. 21　第18回九博デー「エコ・環境から見た博物館と地域」
26. 3. 21　第33回 はじめての茶道体験
26. 3. 22　観光列車「旅人」出発式
26. 3. 23　第39回 親子で茶道体験

（東京文化財研究所）

年　月　日	記　　事
25.　4. 15	明治大学友の会「平成内藤家文書研究会」15 名　施設見学
25.　4. 30	企画情報部研究会第 1 回「華族たちの写真同人誌『華影』と黒田清輝宛小川一真書簡」
25.　5.　9	東京文化財研究所　新人所内見学会　10 名
25.　5. 13	韓国伝統文化大学校 8 名　施設見学
25.　5. 17	第 63 回工業技術賞受賞（一般社団法人大阪工研協会）
25.　5. 21	韓国国立文化財研究所　所長表敬訪問
25.　5. 21	日韓共同研究報告会 2013 開催
25.　5. 21	愛知教育大学附属岡崎中学校生徒 4 名　施設見学
25.　5. 23	学習院女子大学学生 7 名、引率 1 名　施設見学
25.　5. 28	企画情報部研究会第 2 回「四天王寺所蔵六幅本聖徳太子絵伝をめぐる諸問題」
25.　6.　5	企画情報部研究会第 3 回　スタンレー・アベ氏講演会　「『中国彫刻』を想像する」
25.　6.　5	タイ　ラチャプラティット寺院　所長表敬訪問
25.　6. 12	拠点交流事業（アルメニア）：アルメニア歴史博物館所蔵考古金属資料の保存修復国内ワークショップ　（第 4 回）（～6 月 15 日）
25.　6. 16	第 37 回世界遺産委員会参加（～6 月 27 日）（カンボジア）
25.　6. 21	拠点交流事業（ブータン）：ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業（～7 月 3 日）
25.　7.　3	韓国国立文化財研究所 5 名　施設見学
25.　7.　3	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」（基礎編）（ベルリン国立博物館アジア美術館）（～7 月 5 日）
25.　7.　8	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7 月 19 日）
25.　7.　8	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」（応用編）（ベルリン博物館群アジア美術館）（～7 月 12 日）
25.　7. 13	「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝展」（～8 月 25 日）会場：長野県信濃美術館
25.　7. 22	カンボジア・タネイ遺跡における建築測量研修 第 3 回（～8 月 2 日）
25.　7. 23	国立文化財機構新任職員研修会 31 名　施設見学（～7 月 24 日）
25.　7. 24	セインズベリー日本藝術研究所との共同事業「日本芸術研究の基盤形成事業」協定書調印式（セインズベリー日本藝術研究所）
25.　7. 30	企画情報部研究会第 4 回「東京国立博物館蔵国宝本・千手観音像の表現」
25.　8. 26	ICCROM 国際研修「紙の保存と修復」（～9 月 13 日）
25.　8. 27	拠点交流事業（キルギス）：「遺跡の発掘と出土遺物の保存修復と史跡整備に関する人材育成ワークショップ」（第 5 回）（～9 月 12 日）
25.　8. 30	ICCROM 国際研修「紙の保存と修復」研修生 11 名、通訳 1 名　施設見学
25.　9.　2	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト:染織品研修(～9 月 13 日)
25.　9.　5	第 13 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の新たな担い手－多様化するニーズへの挑戦」
25.　9. 11	「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」ユネスコ信託基金事業成果報告シンポジウム（～9 月 12 日）
25.　9. 24	企画情報部研究会第 5 回「新出資料紹介『第八回白馬会展覧会出品目録』」

25. 9. 26　文化財における伝統技術及び材料に関する研究会第7回「文化財建造物における木彫彩色の保存・修理・資料活用」
25. 10. 4　第47回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」(～10月5日)
25. 10. 5　第8回無形文化遺産部公開学術講座「ニットー長時間レコード―昭和初期上方落語の口演記録―」
25. 10. 6　ICCROM国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(～10月22日)(メキシコ国立人類学歴史機構)
25. 10. 7　タイ・チュラーロンコーン大学建築学部建築学科教員及び学生14名　施設見学
25. 10. 7　東京藝術大学学生17名　施設見学
25. 10. 8　駐日タイ王国特命全権大使およびタイ　ラチャプラディット寺院　所長表敬訪問
25. 10. 11　文化庁ミュージアム活性化支援事業「市民と共にミュージアムIPM」参加者29名、引率7名　施設見学
25. 10. 17　ミクロネシア連邦文化大臣　所長表敬訪問
25. 10. 18　韓国文化財研究所　表敬訪問
25. 10. 18　金沢大学4名、JICA研修員8名、研修講師1名、通訳1名　施設見学
25. 10. 19　拠点交流事業（ブータン）：ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業（～10月28日）
25. 10. 23　東ティモール無形文化遺産研修一行来所　(副所長)
25. 10. 25　ユネスコ世界遺産センター長　施設見学
25. 10. 26　世界遺産シンポジウム「世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力」(国連大学)
25. 10. 31　シンポジウム「シリア復興と文化遺産」
25. 11. 5　総合研究会第1回「初唐仏教彫刻論序説」
25. 11. 6　台湾国立文化資産局　および　台北駐日経済文化代表処　副所長表敬訪問および施設見学
25. 11. 7　イクロム・ラタンプログラム「ラテンアメリカにおける紙の保存に関する国際研修」(～11月15日)(メキシコ)
25. 11. 7　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業：タジキスタン共和国における専門家育成のためのワークショップ（～11月14日）（タジキスタン共和国）
25. 11. 14　在外日本古美術品保存修復協力事業における漆工品の保存と修復に関するワークショップ（ケルン東洋美術館）(～11月29日)
25. 11. 15　無形民俗文化財研究協議会第8回「わざを伝える―伝統とその活用」
25. 11. 18　韓国伝統文化大学校4名、通訳1名　施設見学
25. 11. 19　中国文化遺産研究院副院長　所長表敬訪問
25. 11. 22　近代の文化遺産の保存修復に関する研究会第27回「近代テキスタイルの保存と修復に関しての研究会」
25. 11. 26　企画情報部研究会第6回「〔板本〕桓齊著『画傳幼学繪具彩色獨稽古』及び〔写本〕『彩色童喩』について」
25. 12. 1　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業：ウズベキスタン共和国における専門家育成のためのワークショップ（～12月3日）（ウズベキスタン共和国）
25. 12. 3　総合研究会第2回「近代染織品の保存と修復」

25. 12.　6　企画情報部研究会第 7 回「観心寺如意輪観音像 再考」
25. 12. 11　第 18 回資料保存地域研修（山梨県立博物館）（～12 月 11 日）
26.　1. 10　第 37 回文化財の保存および修復に関する国際研修集会「「かたち」再考　―開かれた語りのために―」（～1 月 12 日）
26.　1. 14　総合研究会第 3 回「無形文化遺産情報ネットワーク」
26.　1. 15　拠点交流事業（アルメニア）：アルメニアを中心とするコーカサス諸国およびその周辺諸国等の考古金属資料に関する保存修復国際ワークショップ（第 3 回）（～1 月 21 日）
26.　1. 23　拠点交流事業（アルメニア）：アルメニア歴史博物館所蔵考古金属資料の保存修復国内ワークショップ（第 5 回）（～1 月 24 日）
26.　1. 17　安全衛生講習会
26.　1. 27　文化財の保存環境に関する研究会
26.　2.　4　総合研究会第 4 回「文化財保護制度に関する調査について」
26.　2.　2　拠点交流事業（ミャンマー）：第 1 回ミャンマー木造建造物保存研修（～2 月 13 日）
26.　2.　6　第 19 回資料保存地域研修（大分県消費生活・男女共同参画プラザ）
26.　2. 10　拠点交流事業（キルギス）：「出土遺物の保存修復に関する人材育成ワークショップ」（第 6 回）（～2 月 15 日）
26.　2. 12　「文化財の放射線対策に関する研究会」
26.　2. 17　ミャンマー文化省考古・国立博物館局　所長表敬訪問、講演会、および施設見学
26.　2. 18　文化遺産国際協力センター研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」
26.　2. 19　敦煌芸術の科学的復原研究に関する研究会
26.　2. 20　中国　敦煌研究院保護研究所所長　表敬訪問、講演会、および施設見学
26.　2. 25　企画情報部研究会第 8 回「アートアーカイヴの諸相」
26.　3.　4　総合研究会第 5 回「文化財アーカイブズ構想について」
26.　3.　5　第 2 回無形文化遺産情報ネットワーク協議会
26.　3.　7　第 14 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向」
26.　3. 18　文化財レスキュー事業の記録に関するワークショップ（東北歴史博物館）
26.　3. 22　シンポジウム「飛鳥美の発見　キトラ古墳壁画のすべて」（有楽町朝日ホール）
26.　3. 25　企画情報部研究会第 9 回「美術史料のデジタル公開を念頭に置いた Web 版『みづゑ』の研究と開発」

（奈良文化財研究所）

年　月　日	記　　事
25. 3. 9	写真展「第3回写真コンテスト『神々の山』」（飛鳥資料館）(～4月14日)
25. 3. 16	春期企画展「発掘速報展　平成2012」（平城宮跡資料館）（～6月2日）
25. 4. 26	春期特別展「飛鳥寺２０１３」（飛鳥資料館）（～6月2日）
25. 4. 27	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
25. 5. 1	ロビーミニイラスト展「坂田武嗣　風景の記憶」（飛鳥資料館）（～6月30日）
25. 5. 18	春期特別展記念講演会「最近の東アジアの研究成果から見た飛鳥寺」（飛鳥資料館講堂）
25. 5. 25	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
25. 6. 10	文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」（～6月14日）
25. 6. 17	文化財担当者専門研修「中近世城郭調査整備課程」（～6月21日）
25. 6. 22	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
25. 6. 24	文化財担当者専門研修「建造物保存活用基礎課程」（～6月28日）
25. 6. 29	公開講演会（第112回）『先史時代の大陸と日本列島』「貨幣とは何かー最古の貨幣をめぐる議論」「日本らしさのはじまり」「海を越えてきたもの、こなかったもの」（平城宮跡資料館講堂）
25. 7. 5	文化財写真技術研究会（第4回）の開催「写真資産の利活用」（平城宮跡資料館）（～7月6日）
25. 7. 11	文化財担当者専門研修「報告書作成課程」（～7月19日）
25. 7. 13	夏期企画展「平城京どうぶつえんー天平びとのアニマルアートー」(平城宮跡資料館)（～9月23日）
	夏期企画展ギャラリーイベント（平城宮跡資料館）（夏休み期間の金曜）
25. 7. 26	消防訓練(本庁舎・平城地区)
25. 7. 27	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
25. 8. 1	夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」（飛鳥資料館）（～9月1日）
	ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業の個人研修「遺跡の整備・活用」の実施協力（～8月26日）
25. 8. 4	夏期企画展ギャラリートーク(飛鳥資料館)
25. 8. 15	無料観覧日（飛鳥資料館）
25. 8. 18	夏期企画展ギャラリートーク(飛鳥資料館)
25. 8. 24	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
25. 9. 3	ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業の集団研修「木造建造物の保存と修復」の実施協力（～10月3日）
25. 9. 7	現地見学会「飛鳥藤原第177次（甘樫丘登録遺跡）発掘調査」
	写真展「第4回写真コンテスト『飛鳥川の導』」（飛鳥資料館）（～9月13日）
25. 9. 9	文化財担当者専門研修「災害痕跡調査課程」（～9月13日）
25. 9. 10	ミニ企画展「日光男体山のかがかきー山岳信仰奉賽鏡の世界ー」（飛鳥資料館）（～9月16日）
	タンロン皇城に関する総括シンポジウムにおいて報告（ハノイ）（～9月13日）
25. 9. 17	コロンビア大学中世日本研究所及びコロンビア大学建築・計画・保存大学院との講演会を共催「Research on Large Diameter and Long Logs Used to Maintain Important Cultural

Buildings in Japan」「Matsuri in Japan”s Historic Districts：Using Traditional Festivals as a Driver in Local Communities」（米国・コロンビア大学）

25. 9. 22　特別講演会（東京会場）『〈歴史の証人〉木簡を究める』「木簡を掘る　資料としての木簡、木簡の出土と整理」「木簡を探る　木簡が明らかにした歴史の諸相」「木簡を読む　木簡の情報を読み取り記録する」「木簡を広げる　古代以外の、さまざまな地域の木簡」「木簡と文字　データベース、木簡の文字」「木簡を伝える　木簡の科学的な分析、保存処理と伝来環境」「木簡研究の過去・現在・未来　質疑応答・自由討論など」（有楽町朝日ホール）

25. 9. 28　現地見学会「平城第516次（興福寺西室）発掘調査」

平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加

25. 9. 30　文化財担当者専門研修「三次元計測課程」（～10月4日）

25. 10. 5　日本遺跡学会2013年度の開催「北方の文化と遺跡」（函館山山頂クレモナホール）（～10月6日）

25. 10. 8　文化財担当者専門研修「保存科学基礎Ⅰ(金属製遺物)課程」（～10月17日）

25. 10. 15　「飛鳥・藤原宮発掘調査の40年」（藤原宮跡資料室）（～10月17日）

25. 10. 16　ユネスコアジア文化センターが企画する文化遺産ワークショップの実施協力（スリランカ）（～10月28日）

25. 10. 17　文化財担当者専門研修「保存科学基礎Ⅱ(木製遺物)課程」（～10月25日）

25. 10. 18　秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」（飛鳥資料館）（～12月1日）

25. 10. 19　秋期特別展「地下の正倉院展－木簡学ことはじめ」「都城発掘調査部平城宮・京発掘調査の50年」（平城宮跡資料館）（～12月1日）

25. 10. 25　秋期特別展ギャラリートーク（平城宮跡資料館）

25. 10. 26　公開講演会（第113回）「富本銭と藤原京－貨幣の発行と都城造営」「東日本大震災文化財レスキュー事業における奈文研の取り組み」「－靱形埴輪－造形美に隠された世界」（平城宮跡資料館講堂）

平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加

25. 10. 28　文化財担当者専門研修「古代・中近世瓦調査課程」（～11月1日）

25. 11. 2　庭園の歴史に関する研究会「室町時代の将軍の庭園」の開催（平城宮跡資料館講堂）

25. 11. 3　無料観覧日(飛鳥資料館)

25. 11. 5　ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業の個人研修「遺跡・遺物の調査と」の実施協力（～11月28日）

25. 11. 8　秋期特別展ギャラリートーク（平城宮跡資料館）

25. 11. 16　秋期特別展記念講演会「飛鳥へ続く道」（飛鳥資料館講堂）

25. 11. 22　秋期特別展ギャラリートーク(平城宮跡資料館)

25. 11. 30　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加

25. 12. 3　アンコール遺跡群国際調整会議第22回技術委員会において報告（～12月5日）

25. 12. 7　木簡学会研究集会（第35回）の開催（平城宮跡資料館講堂）（～12月8日）

25. 12. 13　古代官衙・集落研究集会（第17回）の開催「長舎と官衙の建物配置」（平城宮跡資料館講堂）（～12月14日）

25. 12. 14　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加

25. 12. 21　現地説明会「飛鳥藤原第179次（藤原宮朝堂院朝庭）発掘調査」

26. 1. 14　アンコール遺跡群国際調整会議第 20 回本会議において報告
26. 1. 17　「発見 30 周年記念　キトラ古墳壁画特別公開」（飛鳥資料館）（～1 月 26 日）
26. 1. 23　ロビーパネル展示「震災復興調査とその支援」（藤原宮跡資料室）（～3 月 31 日）
26. 1. 24　「計画の意義と方法」を主題とし、遺跡等マネジメント研究集会（第 3 回）を遺跡整備・景観合同研究集会の開催（平城宮跡資料館講堂）（～1 月 25 日）
26. 1. 25　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
26. 1. 29　消防訓練（飛鳥資料館）
26. 2. 2　無料観覧日（飛鳥資料館）
26. 2. 6　総合研究会（第 24 回）「藤原宮出土瓦の胎土分析」「7 世紀における琴柱形木製品の型式学的研究」「興福寺系土師器皿の編年」「第一次大極殿院復原建物の平面と上部構造」「日光男体山頂出土鏡の調査」「総合科学としての年輪年代学確立へ向けた取組み」「高松塚古墳壁画の材料調査～西壁女子群像の分光分析」「薬師寺東塔をめぐる課題と奈文研の役割」
26. 2. 8　古代瓦研究会（第 14 回）シンポジウムの開催「8 世紀の瓦づくりⅢ－平城宮式軒瓦の展開Ⅰ　6225－6663 系」（平城宮跡資料館講堂）（～2 月 9 日）
26. 2. 14　冬期企画展「飛鳥の考古学２０１３」（飛鳥資料館）（～3 月 16 日）
26. 2. 15　現地説明会「平城第 519 次（薬師寺十字廊）発掘調査」
26. 2. 21　保存科学研究集会 2013 の開催「文化財の収蔵・展示環境」（平城宮跡資料館講堂）
26. 2. 22　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
26. 2. 24　消防訓練(本庁舎・平城地区)
26. 3. 1　条里制・古代都市研究会第 30 回の開催「最近 10 年の条里制・古代都市研究」（平城宮跡資料館講堂）（～3 月 2 日）
26. 3. 8　現地説明会「平城第 520 次（平城宮第一次大極殿院）発掘調査」
26. 3. 12　ロビー展示「震災復興調査とその支援」（平城宮跡資料館）（～3 月 31 日）
26. 3. 29　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年　月　日	記　　事
25.　6. 14	成都国際会議（～6 月 16 日）、中国 C2 センター（CRIHAP）第 2 回運営理事会（成都シャングリラホテル，中国）（6 月 17 日）
25.　7. 24	“First annual meeting of category 2 centres active in the field of intangible cultural heritage”（ホテルサンタマリーナ・レジデンシャルヴィレッジ，ブルガリア）（～7 月 26 日）
25.　8.　3	無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム（ホテル・アゴーラ　リージェンシー堺）
25.　8.　6	シリントーン人類学センター主催（アジア太平洋無形文化遺産研究センター協力）“Intangible Cultural Heritage and Museums Field School 2013”（スリン，タイ）（～8 月 18 日）
25.　9. 30	韓国 C2 センター（ichcap）第 3 回運営理事会（インターシティホテル，韓国）
25. 10. 21	第 2 回運営理事会（ホテルグランビア京都）
25. 10. 22	東ティモール専門家向けスタディツアー（東京・秋田・茨城・栃木）（～10 月 26 日）
25. 12.　2	第 8 回政府間委員会（JW Marriott Hotel，アゼルバイジャン）（～12 月 9 日）
25. 12. 17	文化庁文化財部長来所
26.　1. 23	堺市博物館合同消防訓練
26.　1. 28	文化庁長官来所
26.　2.　4	“2nd Workshop for Young Film Makers for ICH Video Documentation”（東京国立博物館）（～2 月 6 日）
26.　2. 19	“Exploring Research on the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage (ICH) in the Asia-Pacific Region”（ユネスコバンコク事務所，タイ）（～2 月 20 日）
26.　2. 26	“The Legal Framework on Intangible Cultural Heritage (ICH) in the Greater Mekong Area General Introduction & Discussion of the Draft Report”（九州大学）（～2 月 27 日）

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
石　澤　　良　昭	上智大学アジア人材養成研究センター所長	委員長
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	副委員長
阿　部　　充　夫	東京国立博物館名誉館長	
安　藤　　裕　康	独立行政法人国際交流基金理事長	
今　村　　峯　雄	国立歴史民俗博物館名誉教授 総合研究大学院大学名誉教授	
風　岡　　典　之	宮内庁長官	
神　居　　文　彰	平等院住職	
佐　藤　　宗　諄	奈良女子大学名誉教授	
白　石　　太一郎	大阪府立近つ飛鳥博物館長	
田　中　　浩　二	九州旅客鉄道株式会社相談役	
辻　村　　泰　善	公益財団法人元興寺文化財研究所理事長	
中　島　　史　子	フリーライター	
西　田　　厚　聰	株式会社東芝取締役会長	
林　田　　ス　マ	公益財団法人大野城まどかぴあ館長	
馬　渕　　明　子	独立行政法人国立美術館理事長	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
冷　泉　　為　人	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	会長
浦　井　正　明	台東区文化財保護審議会委員	副会長
阿　部　充　夫	東京国立博物館名誉館長	
太　田　　稔	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
岡　田　正　治	東京都立上野高等学校長	
小　寺　正　樹	台東区立忍岡中学校長	
嶋　田　実名子	公益財団法人　花王芸術・科学財団　常務理事（兼）事務局長	
髙　橋　武　郎	台東区立根岸小学校長	
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	
福　原　義　春	株式会社資生堂名誉会長	
二　木　忠　男	上野観光連盟会長	
牧　　美也子	漫画家	
馬　渕　明　子	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
宮　田　亮　平	東京藝術大学長	
山　田　五　郎	編集者・評論家	
吉　住　　弘	台東区長	
林　原　行　雄	シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社常任監査役	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
興　膳　　宏	京都大学名誉教授	会長
荒　巻　　禎　一	京都府京都文化博物館長	
池　坊　　由　紀	華道家元池坊次期家元	
上　野　　尚　一	朝日新聞社社主	
柳　原　　正　樹	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長	
神　居　　文　彰	平等院住職	
佐　藤　　茂　雄	京阪電気鉄道株式会社最高顧問	
高　橋　　隆　博	関西大学文学部教授	
竹　下　　景　子	俳優	
藤　田　　裕　之	京都市副市長	
服　部　　重　彦	株式会社島津製作所代表取締役会長	
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授，石川県立歴史博物館長	
湯　山　　賢　一	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	
冷　泉　　為　人	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
森　本　　公　誠	東大寺別当	会長
水　野　　正　好	公益財団法人元興寺文化財研究所長	副会長
大　野　　玄　妙	聖徳宗管長・法隆寺住職	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
河　瀬　　直　美	映画監督	
栄　原　　永遠男	大阪市立大学名誉教授	
佐々木　　丞　平	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館長	
杉　本　　一　樹	宮内庁正倉院事務所長	
田　辺　　征　夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	
檀　　ふ　み	女優	
辻　村　　泰　善	公益財団法人元興寺文化財研究所理事長	
中　島　　史　子	フリーライター	
西　口　　廣　宗	株式会社南都銀行代表取締役会長	
野　村　　政　樹	奈良県地域振興部長	
松　村　　恵　司	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長	
山　口　　昌　紀	近畿日本鉄道株式会社相談役	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
田　中　　浩　二	九州旅客鉄道株式会社　相談役	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学国際文化学部教授	副会長
阿　川　　佐和子	文筆家	
井　上　　保　廣	太宰府市長	
今　泉　　今右衛門	陶芸作家	
海老井　　悦　子	福岡県副知事	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス株式会社取締役会長	
川　崎　　隆　生	株式会社西日本新聞社　代表取締役社長	
木　下　　朝　美	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）直前ガバナー	
高　良　　倉　吉	沖縄県副知事	
田　口　　五　朗	ＮＨＫ福岡放送局長	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮宮司	
林　田　　ス　マ	公益財団法人大野城まどかぴあ館長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
清　水　　眞　澄	三井記念美術館長	委員長
横　里　　幸　一	ＮＨＫプロモーション取締役	副委員長
鮎　川　　眞　昭	公認会計士	
稲　田　　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	
小　林　　忠	学習院大学名誉教授･岡田美術館館長	
酒　井　　忠　康	世田谷美術館長	
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	
柳　林　　修	読売新聞大阪本社記者	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
小　林　　忠	学習院大学名誉教授・岡田美術館館長	部会長
酒　井　　忠　康	世田谷美術館長	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

研究所調査研究等部会名簿

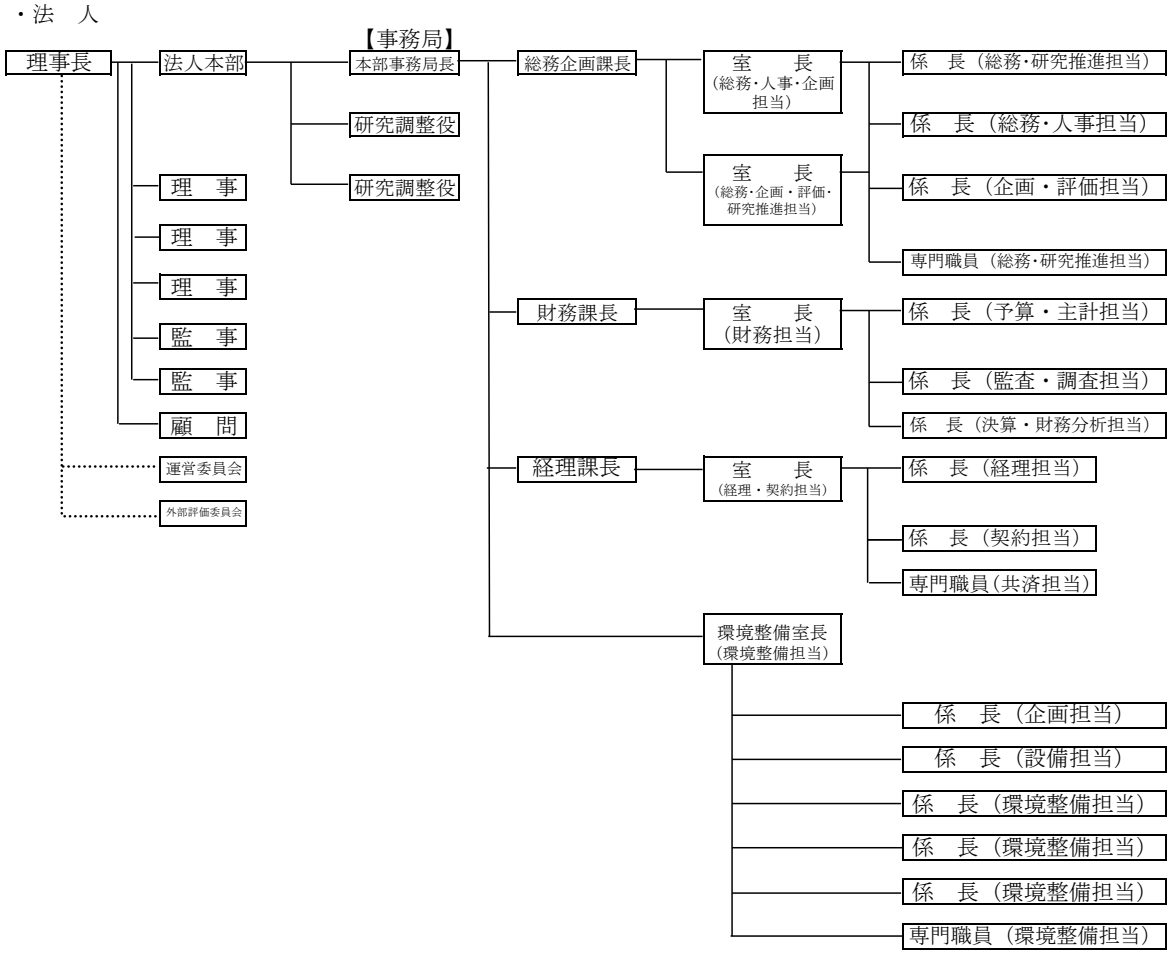
（平成 26 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	部会長
稲　田　　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
柳　林　　修	読売新聞大阪本社記者	

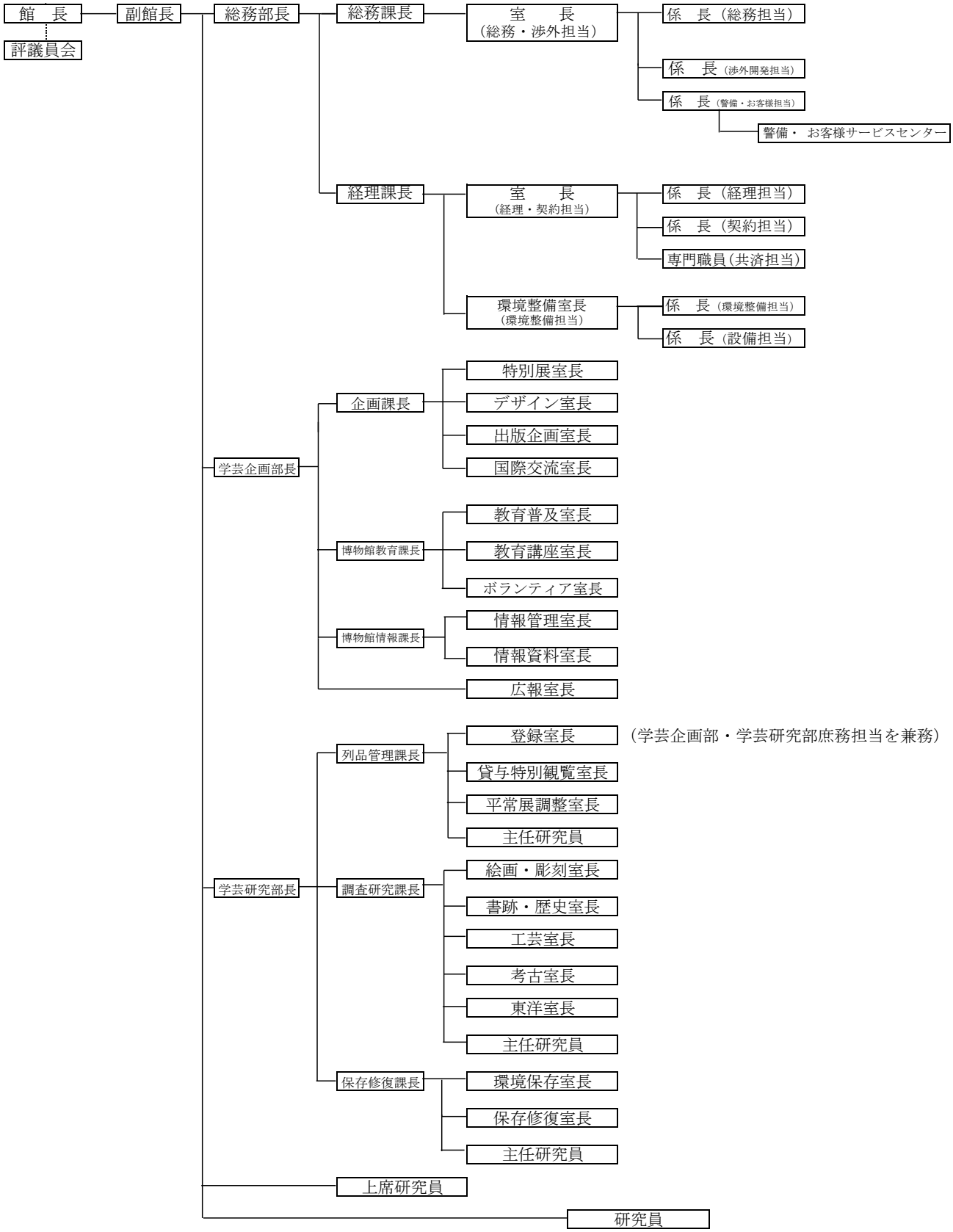
平成26年3月31日現在

◇組　織　図

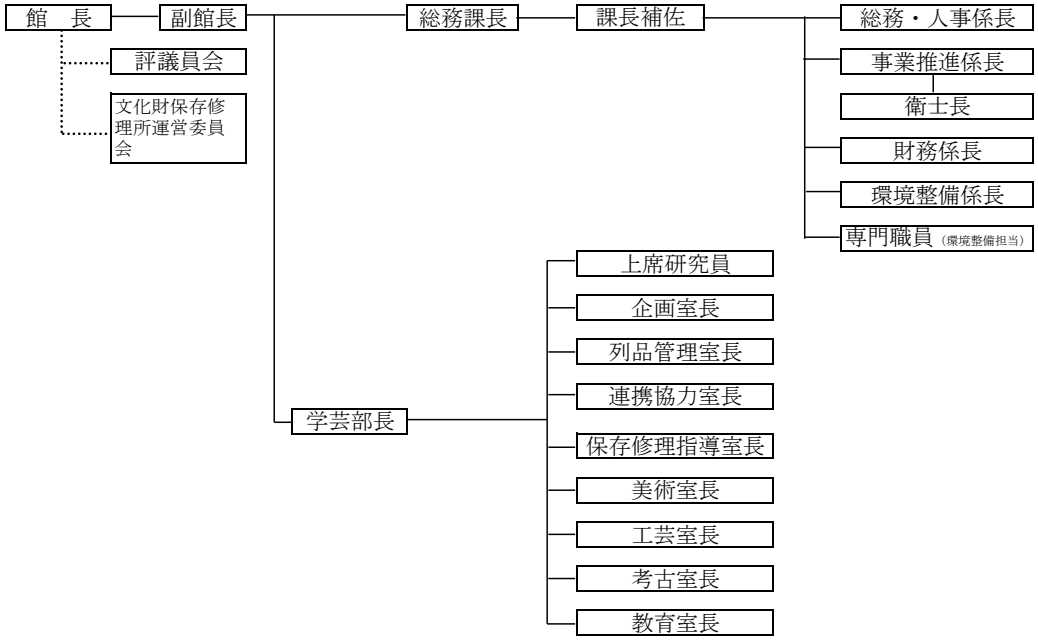
・法　人



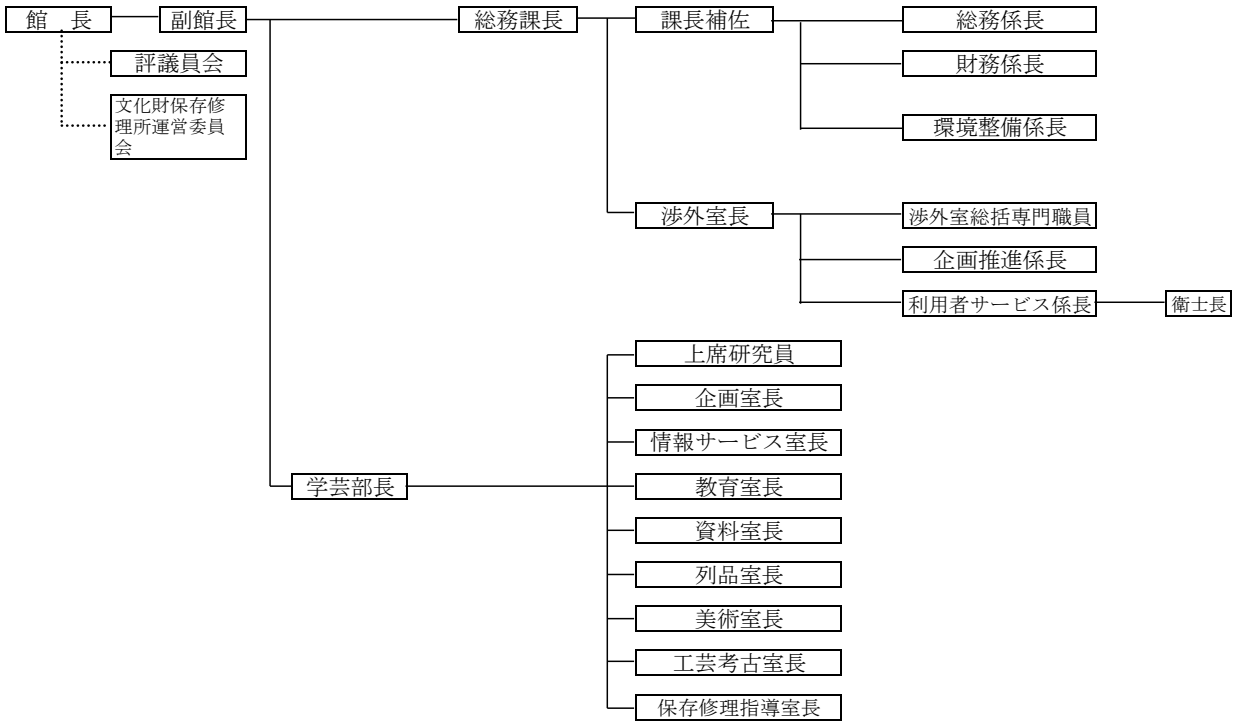
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
室　長
（総務・渉外担当）
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（警備・お客様担当）
警備・ お客様サービスセンター
経理課長
室　長
（経理・契約担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員（共済担当）
環境整備室長
（環境整備担当）
係　長（環境整備担当）
係　長（設備担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
主任研究員
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
主任研究員
上席研究員
研究員

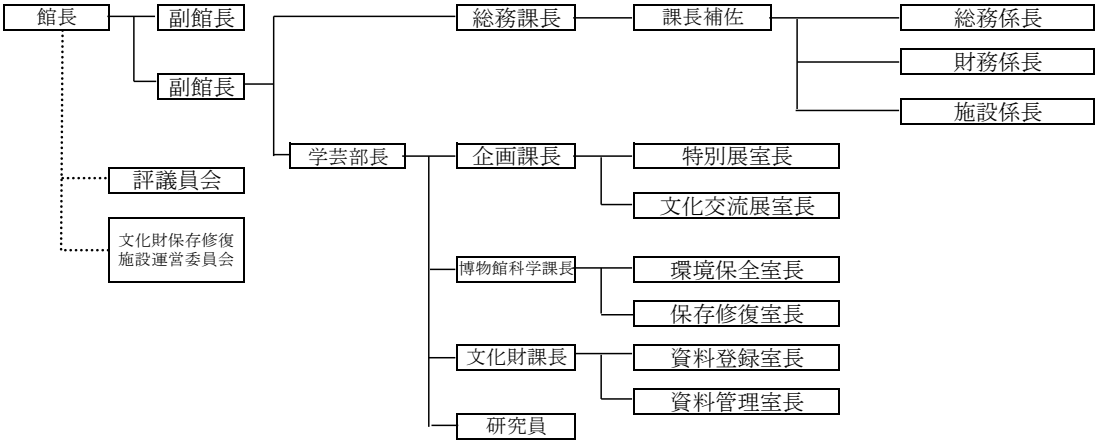
【京都国立博物館】



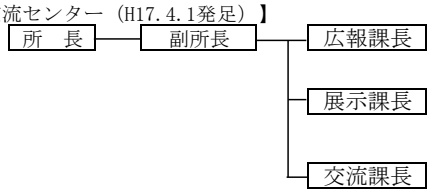
【奈良国立博物館】



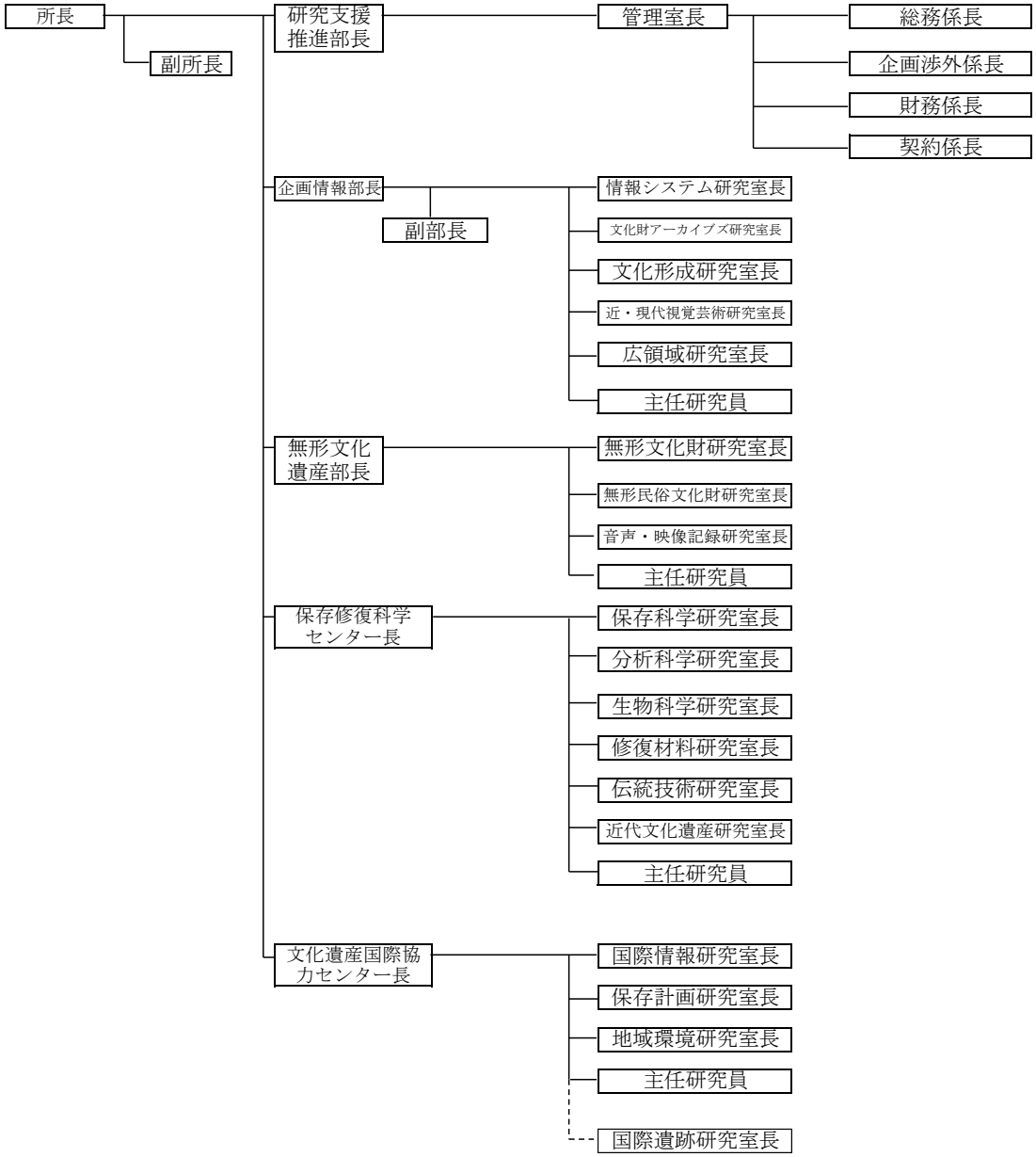
【九州国立博物館】



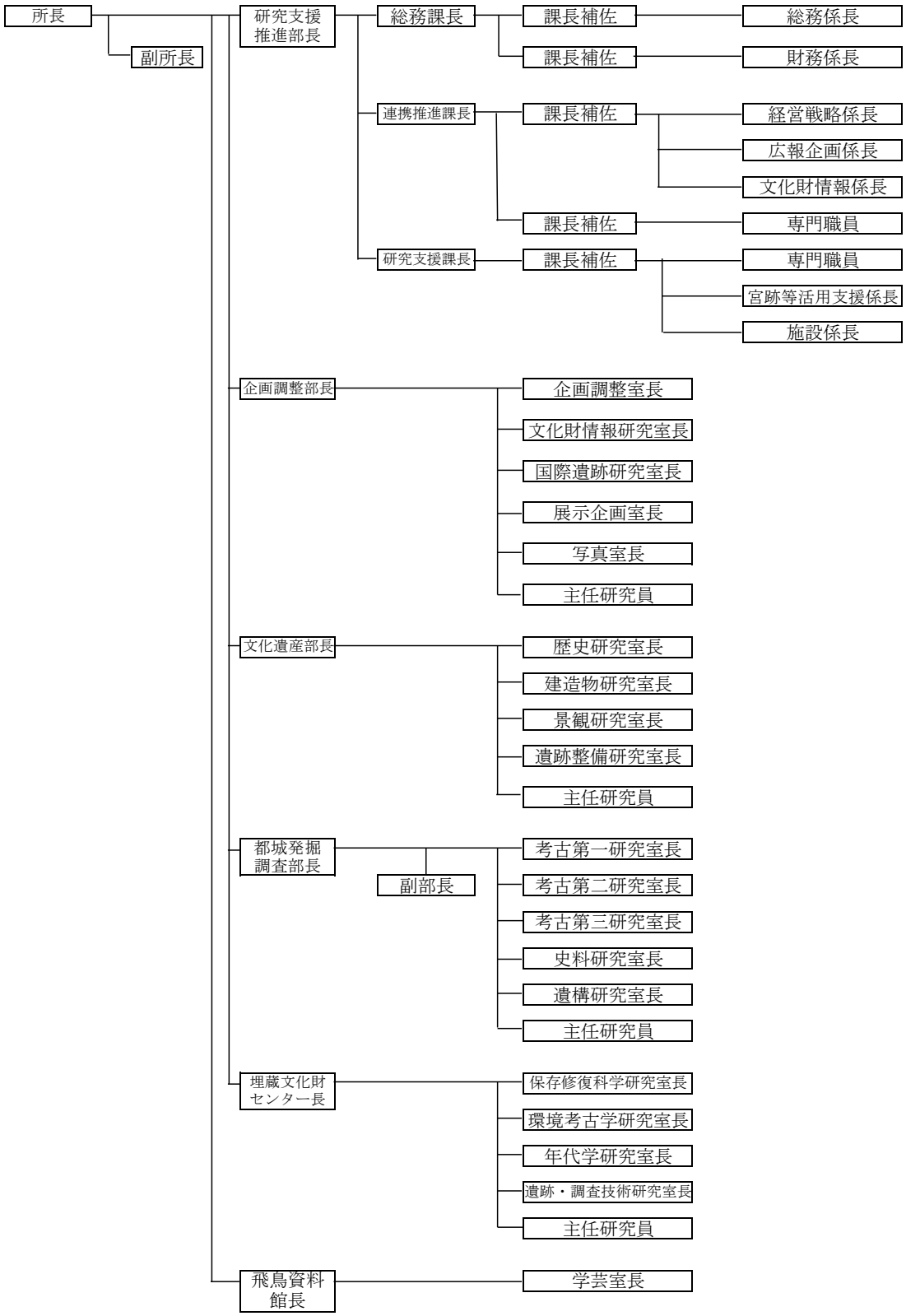
【アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



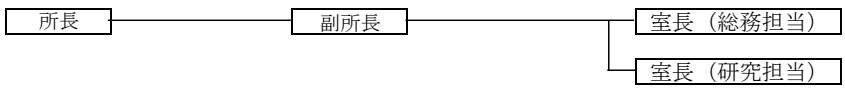
【東京文化財研究所】


所長
副所長
研究支援推進部長
管理室長
総務係長
企画渉外係長
財務係長
契約係長
企画情報部長
副部長
情報システム研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
文化形成研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声・映像記録研究室長
主任研究員
保存修復科学センター長
保存科学研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復材料研究室長
伝統技術研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
地域環境研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】



【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



平成２５年度　自己点検評価報告書統計表

平成２５年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表 …… 1

(参考)収蔵品･寄託品件数合計（過去５ヵ年)…… 3

1-(1)-② 平成 25 年度新収品一覧表 …… 4

1-(1)-③ 平成 25 年度新収品一覧

【東京国立博物館】…… 5

【京都国立博物館】…… 9

【奈良国立博物館】…… 10

【九州国立博物館】…… 14

1-(1)-④ 寄託品一覧表 …… 17

1-(1)-⑤ 寄託品増減表 …… 17

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表 …… 17

1-(2) 収蔵品の管理・保存

1-(2)-① 保存カルテ作成件数 …… 18

1-(2)-② 各収蔵庫､展示場の温湿度…… 19

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数 …… 20

1-(3)-② 修理概況

【東京国立博物館】…… 21

【京都国立博物館】…… 33

【奈良国立博物館】…… 36

【九州国立博物館】…… 37

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数 …… 41

2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展覧事業の充実

2-(1)-① 来館者数推移(入館料別）（過去５ヵ年）　(P.113◎共通資料 a-①)

2-(1)-② 来館者数推移(展覧会別）（過去５ヵ年）　(P.114◎共通資料 a-②)

2-(1)-③ 入場料収入　(P.116◎共通資料 a-③)

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置 …… 42

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展　(P.117◎共通資料 a-④)

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供(過去５ヵ年）…… 43

2-(2)-② キャンパスメンバーズ…… 44

2-(2)-③ 講座･講演会等の開催実績 …… 47

2-(2)-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業 …… 57

2-(2)-⑤ 大学生･大学院生を対象とした教育事業…… 65

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績　(P.133◎共通資料 b)

2-(2)-⑦ 友の会 …… 67

2-(2)-⑧ 賛助会 …… 68

2-(2)-⑨ 渉外活動 …… 69

2-(2)-⑩ 留学生の日 ・・・

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧 (P.183◎共通資料 c-⑤)
4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.199◎共通資料 c-⑥)
4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
4-(4)-① 調査研究テーマ一覧 (P.161◎共通資料 c-②)
4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P.167◎共通資料 c-③)
4-(4)-③ 論文等発表実績一覧 (P.183◎共通資料 c-⑤)
4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.199◎共通資料 c-⑥)
4-(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究
4-(5)-① 調査研究テーマ一覧 (P.161◎共通資料 c-②)
4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P.167◎共通資料 c-③)
4-(5)-③ 論文等発表実績一覧 (P.183◎共通資料 c-⑤)
4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.199◎共通資料 c-⑥)
4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究 (P.202◎共通資料 c-⑦)
4-(5)-⑥ 客員研究員一覧 (P.207◎共通資料 c-⑧)

5. 文化財保護に関する国際協力の推進
5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備
5-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (P.161◎共通資料 c-②)
5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P.167◎共通資料 c-③)
5-(1)-④ 論文等発表実績一覧 (P.183◎共通資料 c-⑤)
5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進
5-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (P.161◎共通資料 c-②)
5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転
5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況・・・・・・・・・ 107
5-(4)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究
5-(4)-① 研究交流実績一覧 (P.136◎共通資料 c-①)
5-(4)-② 調査研究テーマ一覧 (P.161◎共通資料 c-②)
5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P.167◎共通資料 c-③)
5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧 (P.181◎共通資料 c-④)
5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧 (P.183◎共通資料 c-⑤)
5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧 (P.199◎共通資料 c-⑥)
5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数 (P.210◎共通資料 d)

6. 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実
6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
6-(2) 研究所の研究成果の発信
6-(2)-① 公開講演会､現地説明会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

6-(3)-③ 入場料収入 (P.116◎共通資料 a-③)
6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展 (P.117◎共通資料 a-④)
6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力
6-(4)-① ボランティア受入れ実績 (P.133◎共通資料 b)

7. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
7-① 国･地方公共団体等に対する専門的･技術的な協力･助言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果 110

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
Ⅱ-1. 一般管理費の削減
Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表　　（単位：件）　平成26年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		124,729	130	952	115,653	87	633	6,721	27	179	1,862	13	111	493	3	29
絵画		13,510	34	201	11,148	20	101	1,988	9	54	290	4	42	84	1	4
書跡		3,300	35	169	1,799	14	58	1,313	15	77	144	5	28	44	1	6
彫刻		1,414	1	45	1,104	0	22	145	0	1	144	1	16	21	0	6
建築		78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工		16,954	3	54	16,401	1	17	381	2	24	159	0	11	13	0	2
刀剣		3,459	20	57	3,436	19	57				16	0	0	7	1	0
陶磁		3,839	0	18	2,947	0	12	777	0	2	81	0	0	34	0	4
漆工		4,244	6	30	3,791	4	20	197	0	2	99	2	5	157	0	3
染織		4,727	2	26	3,696	0	19	907	1	6	92	1	1	32	0	0
考古		30,095	4	76	28,638	4	55	682	0	11	731	0	8	44	0	2
民族資料		1,307	0	0	1,197	0	0	0	0	0	101	0	0	9	0	0
歴史資料		5,426	0	6	5,102	0	4	282	0	1	0	0	0	42	0	1
和書		17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	685	4	31	685	4	31									
	書跡	1,693	10	12	1,693	10	12									
	彫刻	799	0	20	799	0	20									
	金工	1,032	0	0	1,032	0	0									
	陶磁	3,045	0	10	3,045	0	10									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	588	0	1	588	0	1									
	考古	5,818	0	2	5,818	0	2									
	民族	3,483	0	0	3,483	0	0									
法隆寺献納宝物		321	11	183	321	11	183									
黒田記念館収蔵品		816	0	2	816	0	2									
準歴史資料（含和書）		2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品に編入されていない資料については「準歴史資料（含和書）」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成26年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
［文化遺産部］	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森澑資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
［都城発掘調査部（平城地区）］	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	29,933
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	34,818
平城宮・京出土瓦類	998,450
平城宮・京出土木簡	209,176
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
［都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)］	
軒丸瓦・軒平瓦	約35,575点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,843袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約38,322箱
土器　　整理箱	約16,168箱
土製品	約14,978点
木器・木製品	約33,950点
木簡	約355,155点
建築部材	約2,957点
金属製品	約19,800点
石器・石製品	約14,212点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
［飛鳥資料館］	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点

保管及び所蔵文化財・資料名	数
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
［埋蔵文化センター］	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	
東貝塚	
室浜貝塚	
福浦島貝塚	
里浜貝塚	
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式

1-(1)-① (参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5ヵ年)

(単位:件) 平成26年3月31日現在

		平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	133,415	313	2,128	134,077	315	2,128	134,668	316	2,126	135,044	317	2,136	136,215	323	2,143
	東京国立博物館	115,510	137	885	115,984	137	886	116,586	137	883	116,925	136	884	118,172	140	878
	京都国立博物館	12,483	108	787	12,589	110	789	12,634	110	787	12,622	112	789	12,613	114	801
	奈良国立博物館	3,769	65	427	3,774	65	423	3,776	66	425	3,785	66	431	3,856	66	432
	九州国立博物館	1,653	3	29	1,730	3	30	1,672	3	31	1,712	3	32	1,574	3	32
収蔵品	国立博物館 計	121,511	129	937	122,102	130	943	122,802	130	946	123,378	130	950	124,729	130	952
	東京国立博物館	112,776	87	624	113,258	87	629	113,897	87	631	114,362	87	631	115,653	87	633
	京都国立博物館	6,526	27	176	6,584	27	177	6,621	27	177	6,708	27	179	6,721	27	179
	奈良国立博物館	1,812	12	110	1,827	13	109	1,831	13	109	1,834	13	111	1,862	13	111
	九州国立博物館	397	3	27	433	3	28	453	3	29	474	3	29	493	3	29
寄託品	国立博物館 計	11,904	184	1,191	11,975	185	1,185	11,866	186	1,180	11,666	187	1,186	11,486	193	1,191
	東京国立博物館	2,734	50	261	2,726	50	257	2,689	50	252	2,563	49	253	2,519	53	245
	京都国立博物館	5,957	81	611	6,005	83	612	6,013	83	610	5,914	85	610	5,892	87	622
	奈良国立博物館	1,957	53	317	1,947	52	314	1,945	53	316	1,951	53	320	1,994	53	321
	九州国立博物館	1,256	0	2	1,297	0	2	1,219	0	2	1,238	0	3	1,081	0	3

1-(1)-② 平成25年度新収品一覧表

（単位：件）　平成26年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,351			1,291			13			28			19		
計	23	513	815	5	471	815	0	13	0	3	25	0	15	4	0
絵画	6	11	28	1	5	28	0	5	0	1	0	0	4	1	0
書跡	2	12	1	0	11	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0
彫刻	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	2	417	155	1	414	155	0	3	0	1	0	0	0	0	0
刀剣	0	2	38	0	2	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	1	15	0	0	15	0	0	0	0	0	0	1	1	0
漆工	1	29	33	0	0	33	0	3	0	0	25	0	1	1	0
染織	3	5	65	0	4	65	0	1	0	0	0	0	3	0	0
考古	1	1	109	0	0	109	0	0	0	0	0	0	1	1	0
民族資料	0	0	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	3	1	334	0	1	334	0	0	0	0	0	0	3	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0									
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0									
東洋 彫刻	0	1	0	0	1	0									
東洋 金工	0	29	1	0	29	1									
東洋 陶磁	0	0	4	0	0	4									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	2	1	0	2	1	0									
東洋 考古	0	0	10	0	0	10									
東洋 民族	0	0	15	0	0	15									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	2	0	0	2	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

（単位：件）

	平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	390			591			701			576			1,351		
小計	46	148	196	65	70	456	34	176	491	26	153	397	23	513	815
絵画	14	66	0	12	16	0	11	23	1	9	10	0	6	11	28
書跡	5	11	0	9	12	1	7	33	0	3	36	0	2	12	1
彫刻	2	12	0	1	2	1	2	0	0	1	2	0	2	1	0
建築	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	0	0	13	4	0	1	1	0	0	0	0	2	417	155
刀剣	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	38
陶磁	7	16	0	2	0	0	0	5	0	1	61	0	1	1	15
漆工	8	2	0	5	11	0	0	24	0	1	0	0	1	29	33
染織	0	2	0	13	7	0	5	7	0	1	1	0	3	5	65
考古	3	29	0	3	2	0	1	0	1	4	23	0	1	1	109
民族資料	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
歴史資料	4	0	196	6	2	453	7	0	489	6	1	397	3	1	334
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	1	0	0	0	0
東洋 彫刻	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
東洋 金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	29	1
東洋 陶磁	0	1	0	0	2	0	0	34	0	0	1	0	0	0	4
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
東洋 考古	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
東洋 民族	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0

1-(1)-③ 平成25年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計1291件)

(1) 購入 (5件)

＜絵画＞(1件)

1　○名　　称　文殊菩薩像（もんじゅぼさつぞう）
　　○作 者 等　伝霊彩筆
　　○時　　代　室町時代・15世紀
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦93.1cm 横40.4cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。文殊は頭飾・耳環・胸飾・臂釧をつけ、両手で経を持ち、雲中に立つ半身像に描かれ、頭光が表されている。

＜彫刻＞(1件)

2　○名　　称　如意輪観音菩薩坐像（にょいりんかんのんぼさつざぞう）
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　木造、彩色、玉眼
　　○員　　数　1躯
　　○寸 法 等　像高 52.2cm
　　○作品概要　六臂如意輪観音菩薩に通有の形の像。素地に現状黒色を帯びた色を着け切金文様を施す。針葉樹材の一木造。頭部と体部は別材。頭部は耳後ろを通る線で前後に矧ぎ、内刳りを施して玉眼を嵌入する。体部は両肩、天衣の一部を含み一材から彫出し、像底から約5センチほど刳り上げる。体部に首を挿しこむ穴を穿ち、頭部を接合する。脚部は右脚の大半（膝頭は別材）を含み横木一材で造る。このほか髻、各腕、手首を矧ぐ。銅製透彫りの臂釧、腕釧のほとんど、腹部の輪宝は像と同時のもの。X線透過撮影により、頭部内に小仏像2軀が納入されていることを確認。

＜金工＞(1件)

3　○名　　称　(重要美術品)線刻千手観音鏡像（せんこくせんじゅかんのんきょうぞう）
　　○時　　代　平安時代・12世紀
　　○品　　質　銅製
　　○員　　数　1面
　　○寸 法 等　径24.2cm
　　○作品概要　鏡胎は銅版製、周縁を裏側に折り返し覆輪状とする。鏡面には蓮華座に乗り頭光・身光を負う千手観音坐像を蹴彫で線刻する。画面向かって左に「上宮」、右に「女躰」と刻記する。上部２箇所に円孔を穿つ。

＜東洋染織＞(2件)

4　○名　　称　帯 銀地花卉段文様モール錦（おび ぎんじかきだんもんようもーるにしき）
　　○時　　代　サファヴィー朝時代・17世紀
　　○品　　質　絹製
　　○員　　数　1条
　　○寸 法 等　長390.0cm　幅30.0cm
　　○作品概要　経糸に絹糸、緯糸に銀モール糸を織り入れて、絵緯糸で花卉文様を段状に織り出したペルシャ産の錦。日本では「モール」と称され、茶人たちの間で愛好された。縦に半分に折って帯として腰に巻いて使用した後があることから、サファヴィー朝の貴族、あるいはインド・ムガール朝の貴族が使用したものと考えられる。

5　○名　　称　帯 銀地花卉鱗文様モール錦（おび ぎんじかきうろこもんようもーるにしき）
　　○時　　代　サファヴィー朝時代・17世紀
　　○品　　質　絹製
　　○員　　数　1条
　　○寸 法 等　長　357.0cm　幅36.5cm
　　○作品概要　経糸に絹糸、緯糸に銀モール糸を織り入れて、絵緯糸で縁と両端に花卉文様を、帯部分に鱗文様を織り出したペルシャ産の錦。日本では「モール」と称され、茶人たちの間で愛好された。縦に半分に折って帯として腰に巻いて使用した後があることから、サファヴィー朝の貴族、あるいはインド・ムガール朝の貴族が使用したものと考えられる

(2) 寄贈 (471件)

＜絵画＞ (5件)

1　○名　　称　秋野美人図屏風（あきののびじんずびょうぶ）
　　○作 者 等　筆者不詳
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　6曲1隻
　　○寸 法 等　本紙 縦52.2cm　横225.0cm
　　○作品概要　屏風装。萩・薄・桔梗・女郎花・藤袴などの秋草の茂る野辺に銀色に輝く十三夜月の沈む景色と二人の女房装束の美人を描いた小屏風。

2　○名　　称　紫式部図（むらさきしきぶず）
　　○作 者 等　伝谷文晁（1763～1840）筆
　　○時　　代　江戸時代・19世紀
　　○品　　質　絹本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦128.6cm　横56.3cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。几帳を背にして硯箱と紙の置かれた文机を前にして上畳に座る紫式部を描く。

3　○名　　称　老松図（ろうしょうず）
　　○作 者 等　山本梅逸（1783～1856）筆
　　○時　　代　江戸時代・19世紀
　　○品　　質　絹本墨画
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦132.1cm　横60.1cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。笹の生えた水辺に、立ち上がる石の脇から画面を埋めるように枝を茂らせた松樹の伸びる様子を描いている。

4　○名　　称　金華山真景　（きんかさんしんけい）
　　○作 者 等　柴田是真（1807～91）筆

○時　　代　明治 23 年(1890)
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 152.2cm　横 75.5cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。宮城県石巻市の牡鹿半島東南端にある金華山を描いたもの。金華山は島で、その全体が黄金山神社の神域である。鹿がたたずむなだらかな山丘の下に切り立った花崗岩の崖が立ち上がり、波濤が打ち寄せている。

5　○名　　称　源氏物語図屏風（げんじものがたりずびょうぶ）
○作 者 等　筆者不詳
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本着色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　本紙 各 縦 154.4cm　横 345.4cm
○作品概要　屏風装。『源氏物語』を 1 双に描いたもので、金雲と建物で場面を区切り、右隻には右上から「桐壺」、「花宴」、「初音」、「葵」、「空蝉」、が、左隻には、上段に「澪標」、下段右に「紅葉賀」左に「末摘花」の場面が、右から左に四季の季節が巡るように配されている。

＜書跡＞（11 件）

6　○名　　称　和歌屏風「雪降れば」（わかびょうぶ　ゆきふれば）
○作 者 等　森田竹華（1908～77）筆
○時　　代　昭和 47 年（1972）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 曲 1 隻
○寸 法 等　本紙 縦 135.9cm　横 138.4cm
○作品概要　2 曲屏風に『古今和歌集』巻第六の和歌を書く。

7　○名　　称　万葉歌「夕月夜」（まんようか　ゆうづくよ）
○作 者 等　森田竹華（1908～77）筆
○時　　代　昭和 47 年(1972)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 67.5cm　横 97.5cm
○作品概要　額装。『万葉集』巻八の歌を書する。

8　○名　　称　俳句「柿くへば」（はいく　かきくえば）
○作 者 等　森田竹華（1908～77）筆
○時　　代　昭和 52 年（1977）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 135.5cm　横 34.5cm
○作品概要　条幅に正岡子規の句を書する。

9　○名　　称　俳句「飛石も」（はいく　とびいしも）
○作 者 等　森田竹華（1908～77）筆
○時　　代　昭和 52 年（1977）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 135cm,3cm　横 33.9cm
○作品概要　条幅に与謝蕪村の句を書する。

10　○名　　称　万葉歌「九月の」（まんようか　ながつきの）
○作 者 等　森田竹華（1908～77）筆
○時　　代　昭和 47 年(1972)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 15.8cm　横 13.5cm
○作品概要　色紙に『万葉集』巻十の歌を書する。

11　○名　　称　旅愁（りょしゅう）
○作 者 等　杉岡華邨（1913～2012）筆
○時　　代　平成 16 年(2004)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙　縦 90.0cm　横 167.0cm
○作品概要　額装。『万葉集』巻十五より「かしふえに／鶴鳴きわたる／しかの／うら／に／おきつ白波／たちし／来ら／し／も」を書写する。

12　○名　　称　扇面「一枝に」（せんめん　ひとえだに）
○作 者 等　烏丸光広（1579～1638）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 最大長 24.0cm　横 最大幅 55.0cm
○作品概要　金銀で装飾を施した扇面に、詞書と和歌を墨書する。

13　○名　　称　風炉先屏風 会津八一書状（ふろさきびょうぶ あいづやいちしょじょう）
○作 者 等　会津八一（1881～1956）筆
○時　　代　昭和・20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 曲 1 隻
○寸 法 等　本紙 縦 20.0cm　横 241.9cm　屏風全体 縦 72.6cm　横 172.0cm
○作品概要　堀江知彦宛会津八一書状を貼り込んだ風炉先屏風。東京帝室博物館所蔵の「古今一陽集」を筆写してほしいこと、模写国宝展覧会を開催するため、国宝目録記載の情報を知らせてほしいこと等を記す。

14　○名　　称　扁額「物皆春」（へんがく ものみなはる）
　　○作 者 等　会津八一（1881～1956）筆
　　○時　　代　昭和 9 年(1934)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　本紙 縦 32.0cm 横 100.8cm ； 額全体 縦 45.2cm 横 130.0cm
　　○作品概要　（本文）「物皆春　甲戌正月秋艸道人題」

15　○名　　称　書状 なほなほ不取敢云々（しょじょう なおなおとりあえずうんぬん）
　　○作 者 等　会津八一（1881～1956）筆
　　○時　　代　昭和・20 世紀
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙 縦 38.8cm 横 45.8cm
　　○作品概要　取りあえず金千円を送ったので適宜使ってほしいこと、所持していた国宝目録を焼失してしまったために不便を生じているので、入手に尽力してほしいことを記す。第二次大戦後、新潟から堀江に宛てられたものか。

16　○名　　称　書状 いろいろ御面倒を云々（二月十二日）（しょじょう いろいろごめんどうをうんぬん）
　　○作 者 等　会津八一（1881～1956）筆
　　○時　　代　昭和・20 世紀
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙 縦 22.7cm 横 38.4cm
　　○作品概要　長嶌の追福についてはしばらく中止とすることと自身の土曜日以降の予定について記す。

＜彫刻＞（1 件）

17　○名　　称　天王立像（てんのうりゅうぞう）
　　○時　　代　平安時代・10～11 世紀
　　○品　　質　木造、彩色
　　○員　　数　1 躯
　　○寸 法 等　像高 102.8cm
　　○作品概要　髻を結う。三角形の頭飾、天冠台をいただく。眉を吊り上げ、両眼を強く見開く怒りの表情を示し、口を開いて歯を剥き出す。大袖の衣、鰭袖の衣、袴、裙を着た上に甲を着ける。沓を履く。左に腰を捻り、右脚を側方に踏み出して岩の上に立つ。現状の像全容を一材から彫出する一木造の像で、内刳りはほどこさない。表面は白土下地の上に彩色。髪は墨、天冠台は漆箔。

＜金工・東洋金工＞（443 件）

18　○名　　称　鉄打出涛模様花瓶（てつうちだしなみもようかへい）
　　○作 者 等　山田宗美（1871～1916）作
　　○時　　代　明治時代・19～20 世紀
　　○品　　質　鉄鍛造
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 34.1cm 口径 13.3cm 胴径 28.2cm 重量 1886.0g
　　○作品概要　１枚の鉄板を打ち絞って壺形の花瓶を成型するとともに、器の胴部全体に波濤図を打ち出しで表す。内部には銅板製の受筒を落とし込む。底の中央に「宗美」方印を打印する。

19　○名　　称　水滴（すいてき）
　　○時　　代　平安時代～明治時代、中国・元～清時代、朝鮮・高麗～朝鮮時代など
　　○品　　質　銅鋳造、彫金等
　　○員　　数　442 件
　　○作品概要　動植物、器物、人物故事等の形をした水滴、水注、水盂など。

＜刀剣＞（2 件）

20　○名　　称　萌黄綴威胴丸具足（もえぎだんおどしどうまるぐそく）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○員　　数　1 領
　　○寸 法 等　高 150.0cm　最大幅 57.0cm　奥行き 70.0cm
　　○作品概要　兜は鉄黒漆塗二十間二方白星鉢、頂辺の座は玉縁とも四重。眉庇、吹返は正平韋包み。＝（革+毎（しころ））は本札三段下り、一段白糸、二段萌黄糸威、耳糸亀甲打、畦目小石打、菱縫紅糸二段。吹返に金銅三扇丸紋を打つ。金銅三扇前立付。受張は紅縮緬百重刺、兜の緒は紅地縮緬紮緒。胴は本札仕立、前立挙二段、後立挙三段、衡胴四段、草摺八間五段下り、萌黄綴威。後立挙一段中央に金銅枝菊文透彫の総角付の鐶座を打つ。金具廻正平韋包。杏葉一双、金銅三扇丸紋を打つ。小具足は咽喉輪一懸、広袖一双、五本篠籠手一双、伊予佩盾一腰、五本篠脛当一双。

21　○名　　称　紺糸威胴丸具足（こんいとおどしどうまるぐそく）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○員　　数　1 領
　　○作品概要　兜は革黒漆塗二十八間筋兜鉢、頂辺の座は玉縁とも五重。眉庇、吹返は菱襷に獅子丸文韋包み、小縁菖蒲韋。＝（革+毎（しころ））は本札四段下り、紺糸威、耳糸、畦目小石打、菱縫紅糸二段。吹返に金銅十文字紋を打つ。金銅鍬形、十文字紋前立付。受張は紅縮緬百重刺、兜の緒は丸打。胴は本札仕立、前立挙二段、後立挙三段、衡胴四段、草摺七間五段下り、紺糸威。後立挙二段中央に金銅菊座の総角付の鐶座を打つ。金具廻菱襷に獅子丸文韋包み、小縁菖蒲韋。杏葉一双、金銅十文字紋を打つ。小具足は目の下頬当一面、咽喉輪一懸、大袖一双、筒籠手一双、伊予佩盾一腰、五本篠脛当一双。

＜染織＞（4 件）

22　○名　　称　振袖 鶸色縮緬地桜藤菊尾長鳥模様（ふりそで ひわいろちりめんじさくらふじきくおながどりもよう）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　縮緬地に刺繍・友禅染
　　○員　　数　1 領
　　○寸 法 等　丈 108.9cm　裄 48.0cm
　　○作品概要　小裁（子ども用）の振袖である。袷仕立で裏地には紅絹を用い、中綿が薄く入る。前身頃の腰部分には共裂の帯紐が縫い付けられる。表地は鶸色に染めた縮緬地に桜、藤、菊といった四季折々の花や尾長鳥を丸文に意匠化した模様を刺繍で表わす。一部の草花は白く染め抜いた白上がりである。また、一部に分銅繋ぎ状の模様を所々に銀糸で刺繍する。四季の草花を折り枝状に表わし散らしたデザインは公家女性が江戸時代後期に着用した小袖の様式である。

23 ○名　　称　帷子 紅地鯉模様（かたびら べにじこいもよう）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　麻地に描絵・刺繍
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 113.0cm　裄 50.6cm
○作品概要　上質の麻地である上布を淡い紅地に染めた単仕立の振袖で、小裁であることから、夏に少女が着用した帷子である。白麻地の重ねが付属する。表地には、裾を中心に鯉・水草・葦・波などがデザインされる。鯉は一部は写生風に刺繍で表わされるが、ほとんどは描絵である。また、刺繍にも一部、彩色が加わる。五つ所紋には替わり木瓜紋が白く染め抜かれ、上絵が施される。デザインや帷子の形状から、武家階級の料と考えられる。

24 ○名　　称　単衣 鶸色絽地風景模様（ひとえ ひわいろろじふうけいもよう）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　絽地に刺繍・友禅染
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 163.0cm　裄 58.0cm
○作品概要　三越絽を単仕立にした夏の単衣である。友禅染による白上がりや刺繍で、桜が咲き誇る風景の中に、滝に鼓を組み合わせた模様やひょうたんに杯と柴束を組み合わせた模様を表わす。このような模様を「留守模様」と称し、謡曲や王朝文学を暗示する。留守模様は江戸時代後期における武家女性の衣料のデザイン様式である。尚、本品は腰模様となっており、五つ所紋に替わり木瓜紋が白上がりに上絵でつけられている。

25 ○名　　称　単衣 紫絽地柳鷺模様（ひとえ むらさきろじやなぎさぎもよう）
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　絽地に友禅染・刺繍
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 141.0cm　裄 61.6cm
○作品概要　五越絽を紫地に染め、裾にかけて淡い鼠色にぼかして染めた、いわゆる曙染の単衣である。裾を中心に模様を配した裾模様で、水辺に柳の枝が風に揺れ、その上を鷺が飛び交う景色を描絵友禅で表わしている。また、一部、蛇籠に金糸で駒繍が施される。五つ所紋には三つ巴紋が施される。

＜歴史資料＞（1 件）
26 ○名　　称　会津八一書簡類 堀江知彦宛（あいづやいちしょかんるい ほりえともひこあて）
○作 者 等　会津八一（1881～1956）筆
○時　　代　昭和時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨書・ペン書
○員　　数　21 点
○作品概要　封書・葉書及び名刺。いずれも会津八一から堀江知彦宛。

＜東洋彫刻＞（1 件）
27 ○名　　称　観音菩薩立像（かんのんぼさつりゅうぞう）
○時　　代　北斉時代・天統 4 年（568）
○品　　質　銅製鋳造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 17.0cm　光背幅 6.0cm
○作品概要　両肩から垂下した天衣が正面でＸ字状に交叉し、左右の前膊から外に垂れる。右腕は屈臂して胸前で未敷蓮華を持ち、左腕は垂下して甲を正面に向ける。頭光（中心は蓮華を浮彫り）、身光を表す。周縁部に火炎を陰刻する。台座は反花を刻まない伏鉢形。その下方は四脚台とする。

＜東洋染織＞（1 件）
28 ○名　　称　ダッカ・モスリン ショール
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿･金糸
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　幅 84.0cm　長 1650.0cm
○作品概要　極細い手紡ぎの木綿糸を平織りにして 16ｍもの長さに織り上げた薄地の木綿布で、織始めから織留まで残っている。細い糸を用いながら打ち込みを甘くして透け感を出すという奇跡的な技術によって生まれた軽さから、産地名を冠して「ダッカ・モスリン」と称されて珍重された。本品には、両端に平銀糸で草葉の模様が刺繍されている。ショールとして使用されたものである。

＜黒田記念館収蔵品＞（2 件）
29 ○名　　称　花（はな）
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　大正 9 年（1920）
○品　　質　板・油彩
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 34.7cm 横 26.0cm
○作品概要　黒に近い色を背景に薄紅色のグラジオラスの花の部分を描いている。額に作品を納め、直接釘で止めてあり、作品裏には黒田清輝遺作展の折の出品ラベルが添付されている。『黒田清輝作品全集』（1925 年、審美書院）に「112　花　一九二〇　梅北由加君」として掲載されている作品である。

30 ○名　　称　グレーの原（ぐれーのはら）
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 23 年（1890）頃
○品　　質　カンヴァス・油彩
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 29.2cm　横 54.1cm
○作品概要　パリ郊外の農村グレーに広がる緑野をとらえている。画面中央を水平に分割する線よりもやや上に水平線を設け、上部に薄紅に染まる空を、下部に 2 個の積み藁がある緑野を描く。画面右下に「Ｓ．Ｋ」とサインがあるが、制作年の記載はない。額に作品を納め、木製の留め具で止めている。額裏には隈元謙次郎の名刺が添付されている。1890 年頃の黒田清輝の画風をよくあらわしている。

(3) 編入（815 件）
＜歴史資料＞(334 件)
1　○名　　称　歴史資料（れきししりょう）
○時　　代　江戸時代～昭和時代・18～20 世紀
○品　　質　巻子、掛軸、折仕立等／紙本墨書、紙本著色等

○員　　数　334 件
○作品概要　「歴史資料(P)」と称される分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時の列品から「学芸課資料」として再編成された資料群である。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれ、その内容は多様である。今回編入分の中には寺社の建物や茶室の実測図、金石文の拓本類、画家の黒田清輝や金工家の加納夏雄に関する資料などが含まれる。

＜絵画ほか＞(481 件)

2　○名　　称　雪舟 祇園山図(模本)（せっしゅう　ぎおんやまのずもほん）ほか
○員　　数　481 件
○作品概要　過去に列品として登録されていたが、種々の事由により台帳から削除された作品のうち、平成 21 年度から平成 25 年度にかけて行った列品情報調査により存在が確認された作品で、所蔵品の適正な管理ならびに調査・研究・展示等での活用に資するべく、編入したものである。分野ごとの内訳は、絵画 28 件、書跡 1 件、金工 155 件、刀剣 38 件、陶磁 15 件、漆工 33 件、染織 65 件、考古 109 件、民族 7 件、東洋金工 1 件、東洋陶磁 4 件、東洋考古 10 件、東洋民族 15 件である。

【京都国立博物館】(計 13 件)

(1)購入(0 件)

(2)寄贈(13 件)

＜絵画＞(5 件)

1　○名　　称　福禄寿三星図（ふくろくじゅさんせいず）
○作 者 等　谷文晁筆
○時　　代　江戸時代寛政元年（1789）
○品　　質　紙本墨画著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙　縦 147.8 ㎝ 横 133.6 ㎝
○作品概要　もと衝立の大作。左上に「寛政元年己酉冬十月／谷文晁製」の署名と印があり、江戸後期、関東文人画界の重鎮である谷文晁（1763～1840）の作とみなせる。寛政元年（1789）、文晁は 27 歳。前年に田安家に出仕、５人扶持で仕えていた。最初期の作である。
主題は、道教、とくに中国で明代以降ひろまった民間信仰「三星信仰」に関わる。「三星信仰」において「福禄寿」は、もともと福星・禄星・寿星の三星を、それぞれ神格した三体一組の神とされる。中央奥にいる官服姿が福星、向かって右、巻物を広げ、嬰児ふたりを従えるのが禄星、左の禿げた長い頭と白ひげの老人が寿星とみなせる。
車や寿星の手など、部分的にはまだ未成熟な描写が見られるものの、すでに充分な画技を備えていることが分かる。福星と禄星の姿勢を傾斜させ、三星と嬰児・車により三角形をつくる安定した構図、身体の立体感は見事で、ややうるさいほど肥痩をつけた衣紋線、輪郭線のきびきびした筆遣い、印影をつけた顔の描写が、円環状の動き、運動感を生むとともに、やや気味悪ささえ感じさせる独特の雰囲気を生み出している。
文晁の最初期作品として注目され、大画面作品として展示効果も高い。

2　○名　　称　やすらい祭図屏風（やすらいまつりずびょうぶ）
○作 者 等　横山華山筆
○時　　代　江戸時代後期（19 世紀前半）
○品　　質　紙本着色金泥
○員　　数　2 曲 1 双
○寸 法 等　本紙　縦 167.8 ㎝ 横 183.4 ㎝　総寸　縦 171.3 ㎝ 横 187.4 ㎝
○作品概要　「やすらい祭」は、京都市北区の今宮神社の毎年四月（旧暦の三月十日）に行われる大祭。白丁(はくちょう)による鉦、御幣（ごへい）、子鬼の後に、花傘を先頭に鉦や太鼓をたたく緋色の着物を着た大鬼が、長い髪を振り乱しながら「やすらい花や」の掛け声とともに踊り、練り歩き、さらに世話役ら踊りの一団が続くさまを描く。引手跡があり、元々は襖４面だったと思われる。
横山華山（1781or1784-1837）は、はじめ岸駒に学び、のちに呉春に私淑した絵師で、円山派・四条派・岸派などの画風が混在した独特な画風を確立した。近世の京画壇の名ある絵師による京の祭りを描く作品として、展示での活躍が期待される。

3　○名　　称　帯瓢拾句図　田能村竹田自画賛（たいひょうしゅうくず　たのうむらちくでんじがさん）
○時　　代　不詳
○品　　質　絹本淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙縦８６．５㎝　横３２．６㎝
○作品概要　竹田の自賛によると、朝倉某という人物から手植えの瓢箪を贈られた礼に描いたという。画題は竹林七賢の一人で、大酒家として有名な詩人・劉伶の姿を捉えたもので、画のキー・ワードである瓢箪も添えられている。筆者の竹田は江戸後期の文人画家で、頼山陽・青木木米らとも交友があった。

4　○名　　称　禅宗祖師図押絵貼屏風　海北友松筆（ぜんしゅうそしずおしえばりびょうぶ　）
○時　　代　不詳
○作 者 等　海北友松筆
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　6 曲 1 隻
○寸 法 等　第１・６扇画面（各）縦１１０．６㎝　横５１．８㎝
第２～４扇画面（各）縦１１０．６㎝　横５３．２㎝
○作品概要　近江浅井家の家臣の家に生まれ、のちに桃山画壇の巨匠となった海北友松の手になるもの。画題は「面壁達磨」や「玄沙白紙」、「霊雲観桃」など禅宗の祖師たちの故事を描いたもので、各面に「友松」朱文方印があり、二面だけに「友松図之」の署名が施されている。流麗さの中に力強さを備えた、友松独特の略体人物表現が試みられている。

5　○名　　称　厳島・近江八景図屏風（いつくしま・おうみはっけいずびょうぶ）
○時　　代　不詳
○作 者 等　不詳
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　（各）縦１５５．３㎝　横３６２．４㎝
○作品概要　江戸時代に入ると、わが国の名所を各隻に描き分けた屏風絵が数多く制作された。本図もその一つで、右隻に近江八景、左隻に厳島の威容があらわされている。作期は１７世紀後半頃とみられるが、近江八景を主題としたものとしてはかなり早い時期の作例となる。細部表現も緻密で、保存状態もきわめて良好である。

＜書跡＞(1 件)

6　○名　　称　咏淀川十一景詩屏風（えいよどがわじゅういっけいしびょうぶ）

○時　　代　不詳
○作 者 等　中島棕陰筆
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　6曲1双
○寸 法 等　各縦166.5cm　各横377.4cm　本紙 左右　各縦 134.2cm 横 49.4cm
○作品概要　中島棕隠（1779～1855）は京都の儒者・文人で、名を徳規という。国学を伴蒿渓に学び、江戸に十年間滞在し、文化11年（1814）に京都へ帰った。詩歌にすぐれ、書をよくしたことで知られる。この屏風は、左隻第6扇に「右自伏水到浪華舟中、作十一首、書為大澤君、　天保癸卯仲春棕隠記（印）（印）」とみえる。すなわち、天保14年（1843）に棕隠が伏見から大坂まで舟で下るさい、京都の豪商・大澤氏のため、みずからが目にした名所の風景を七言絶句の漢詩にあらわしたものと判明する。全部で十一首が記される。

＜金工＞(3件)

7　○名　　称　刀　無銘（名物島津正宗）（かたな　むめい（めいぶつしまづまさむね））
○時　　代　鎌倉～南北朝時代（13～14世紀）
○員　　数　1口
○寸 法 等　長さ68.6cm　反り1.5cm
○作品概要　『享保名物帳』所載の名物・島津正宗と伝える磨上無銘の刀。近代以降の所在が不明であったが、このたび再発見され当館に寄贈された。戦後まで近衛家に伝来。

8　○名　　称　三鈷柄剣　無銘（さんこづかけん　むめい）
○時　　代　鎌倉時代（13世紀）
○員　　数　1口
○寸 法 等　長さ17.3cm
○作品概要　室町時代の増補と思われる木製三鈷柄をともなった無銘の剣。いわゆる大和古剣と呼ばれるもので、全体的に研減りがあるものの、地刃共に過不足なく確認できる。京都市内の個人宅に伝わった。

9　○名　　称　薙刀　無銘（なぎなた　むめい）
○時　　代　江戸時代（18～19世紀）
○員　　数　1口
○寸 法 等　長さ33.0cm　反り1.7cm
○作品概要　祭事等に用いたと思われる、極薄い造りの薙刀。当初から儀仗用に製作されたと思われ、焼き刃がほとんど確認できない。祇園祭の橋弁慶山町にも三品派の刀工の手による薄造りの祭事用刀剣が伝わっていることから、本品も同様の目的で製作されたものと考えられる。

＜漆工＞(3件)

10　○名　　称　S.HAYASHI商店蒔絵看板（えす. はやししょうてんまきえかんばん）
○時　　代　明治時代　19世紀
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵
○員　　数　1枚
○寸 法 等　縦65.0cm　横103.5cm　厚4.8cm
○作品概要　明和年間（1764-72）から戦前まで京都で古物商を営んだ林新助家のものと思われる看板。木製、隅丸長方形の板に幅4cm、厚1.8cmの額縁をつけ、全体を黒漆で塗り、額縁の表面には金薄肉高蒔絵で七宝花菱を、看板には平蒔絵で各行異なるフォントを用いて「S。HAYASHI。／LACQUERS／BRONZES,＆CROCKERIES／OF THE／ANCIENT AND MODERN／ART OF JAPAN.／FURUMONZEN KYOTO.」（S.林。漆、銅器、磁器製の食器など日本の新旧美術品。古門前、京都。）の文字を表す。背面中央上部に鉄製鐶を打つ。明治時代に外国人客向けに掲げたものだろう。

11　○名　　称　S.HAYASHI漆器工房真鍮象嵌看板（えす. はやししっきこうぼうしんちゅうぞうがんかんばん）
○時　　代　明治時代　19世紀
○品　　質　木製、漆塗、真鍮象嵌
○員　　数　1枚
○寸 法 等　縦50.2cm　横88.4cm　厚5.8cm
○作品概要　10番と同じく明治時代のおそらく林新助家の看板。三枚の木製板を並べ、左右にはしばみをかませて長方形とし、裏面左右に反り止めの桟を渡して桟の上下を面取とする丁寧な造り。全体を黒漆で塗り、真鍮板を象嵌して研ぎ出す方法で「S. Hayashi’s／FA C (ママ) T RY OF GOLD LACQUER WARE／Inspection／is／Cordiallg (ママ) invited」（S.林の／金の漆器の工場／ご自由にご覧ください）の文字を表す。10番と同じく外国人客向けに掲げたもの。10番とともに近代京都の工芸品輸出の歴史を説明するのに好都合な列品となるだろう。

12　○名　　称　黒漆雲龍螺鈿琵琶（くろずみうんりゅうらせんびわ）
○時　　代　清時代または琉球17世紀
○品　　質　木製、漆塗、螺鈿、象牙
○員　　数　1面
○寸 法 等　長87.5cm　幅31.7cm　奥行20.5cm
○作品概要　木製、四弦の中国系の琵琶。頸部には唐木製半月形の柱を４つ並べ、腹板の上部に象牙製で左右幅の異なる細い柱を１１本設けるが、現存は６本、うち１本は外れている。転手は唐木製、覆手は象牙製。桐材と思われる腹板には小さな半月を穿ち、撥面に獅子唐草文様の金唐革を張る。槽は黒漆地に螺鈿の剥出法で岩に波頭と五爪の龍を表す。徳川美術館蔵、推定琉球製の琵琶と文様が近似する。

＜染織＞(1件)

13　○名　　称　納采踏襲結納儀礼品（のうさいとうしゅうゆいのうぎれいひん）
○時　　代　平成15年（2003）
○品　　質　紙・水引・檜
○員　　数　一式
○寸 法 等　目録台：縦24.0cm　横23.7cm　熨斗台：縦33.9cm　横13.8cm
末広台：縦33.9cm　横13.8cm　御祝三品揃台：縦24.8cm　横49.0cm
○作品概要　目録、熨斗、末広、御祝三品（松魚料・柳樽料・帯地料）揃を、それぞれ片木台に載せた、結納儀礼品。皇室に水引などの儀礼品を奉仕する職家の製作にかかり、宮家の納采に用いられる儀礼品に準じた格式で製作されている。越前和紙、樹齢四百年ほどの国産檜など、最高級の材料を用いるが、一般に儀礼品は清浄なままお焚き上げで処分されるため、保存されない。

【奈良国立博物館】(計28件)

(1)購入(3件)

＜絵画＞**(1件)**

1　○名　　称　絹本著色弥勒菩薩来迎図（みろくぼさつらいごうず）
　　○時　　代　南北朝時代　14 世紀
　　○品　　質　絹本著色　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙　縦 117.9 ㎝　横 41.9 ㎝　表具　縦 207.8 ㎝　横 60.6 ㎝
　　○作品概要　弥勒菩薩が諸聖衆とともに来迎する様を山水の景のなかに描く。阿弥陀来迎図に比べて現存作例の少ない弥勒来迎図の希少な遺例。南都に継承された図像に基づくことが判明しており、中世の南都が生み出した仏教絵画の展開を示す貴重な作品。

＜書跡＞(1 件)
2　○名　　称　延長四年二月十三日民部省符（えんちょうよねんにがつじゅうさんにちみんぶしょうふ）
　　○時　　代　平安時代　延長 4 年（926）
　　○品　　質　紙本墨書　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙　縦 29.6 ㎝　横 45.0 ㎝　表具　縦 112.0 ㎝　横 57.1 ㎝
　　○作品概要　わが国の古代律令政府の中心である太政官の下にある民部省から、大和国に宛てて出された符（上意下達文書）の原本。弘福寺（大和国高市郡）が不当に収公された寺田の返還を求めていたのに対し、それを認可する内容。同種の古文書はかつては多数現存したはずだが、現在に伝わる原本は数少なく、本文書は古文書学・古代史研究上の史料として著名かつ貴重なもの。

＜金工＞(1 件)
3　○名　　称　柄香炉（えごうろ）
　　○時　　代　平安時代　9～12 世紀
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 柄
　　○寸 法 等　長 38.8 ㎝　幅 11.4 ㎝　火炉口径 10.7 ㎝
　　○作品概要　僧侶が手にとって香を焚き、仏を供養するために用いる仏具。通常は銅製であり、鉄製のものは珍しい。火炉が浅く朝顔形に口縁が大きく広がり、脚柱が短い安定感ある形状を示す。このような特徴から、平安時代にさかのぼる遺品と目される。

(2)寄贈(25 件)
＜工芸＞(25 件)
1　○名　　称　澗声印蒔絵肉池　木内喜八作（かんせいいんまきえにくち　きうちきはちさく）
　　○時　　代　明治時代　19～20 世紀
　　○品　　質　木製（コクタン）　銀蒔絵　漆塗
　　○員　　数　１合
　　○寸 法 等　径 8.3 ㎝　高 2.3 ㎝
　　○作品概要　近代木工芸を代表する作家木内喜八の作品で、コクタン製の印籠蓋造の肉池。外面は木目を生かした素地仕上げとし、蓋・身の側面は鑿痕を残す。蓋表にある銀蒔絵による「澗声」の印文は尾形光琳の別号印を模したもの。

2　○名　　称　網代彫硯箱　木内半古作（あじろぼりすずりばこ　きうちはんこさく）
　　○時　　代　明治～昭和時代　19～20 世紀
　　○品　　質　木製（キリ・ケヤキ）　漆塗
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　縦 25.1 ㎝　横 19.8 ㎝　高 4.3 ㎝
　　○作品概要　木内喜八を養父とし、宮内省正倉院御物整理掛に出仕した木内半古の作。逆印籠蓋造、隅丸の長方形の箱。身の側面から合口部にかけて網代文が彫刻されている。

3　○名　　称　和歌色紙象嵌硯箱　木内半古作（わかしきしぞうがんすずりばこ　きうちはんこさく）
　　○時　　代　大正時代　大正 4 年（1915）
　　○品　　質　硯箱：木製（クワ・ツゲ）、水滴：銀製　筆　木製
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　縦 23.3 ㎝　横 17.5 ㎝　高 4.4 ㎝
　　○作品概要　大正 4 年、木内半古の作。硯箱は蓋・身とも錫の置口を用いた被蓋造、長方形隅丸の箱。蓋甲から側面にかけて斜めに色紙形を金線の象嵌で表し、中に本阿弥光悦の書いた前大僧正覚忠の和歌を四分一銀の象嵌で表す。高い木工技術を下敷きとする作品。

4　○名　　称　風月象嵌短冊箱　木内半古作（ふうげつぞうがんたんざくばこ　きうちはんこさく）
　　○時　　代　大正時代　大正 4 年（1915）
　　○品　　質　木製（スギ）
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　縦 39.1 ㎝　横 7.9 ㎝　高 3.8 ㎝
　　○作品概要　大正 4 年、木内半古の作。スギの柾目材を素木のまま使用した、長方形、被蓋造の箱で、太鼓橋のように盛り上がる形状を示す。蓋表の上方に「風月」の二文字を銀象嵌で表す。素木の美しさを追求した作品。

5　○名　　称　初音葦手象嵌裁縫箱試作（はつねあしでぞうがんさいほうばこしさく）
　　○時　　代　大正～昭和時代　大正 13 年（1924）～昭和 3 年（1928）
　　○品　　質　木製（キリ）
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　長 33.3 ㎝　幅 24.2 ㎝　高 10.8 ㎝
　　○作品概要　キリ製の長方形の箱。身の内部に懸子を入れる。宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する『源氏物語』初音の帖の和歌を主題とした桐初音葦手象嵌裁縫箱の試作品。完成品は昭和 3 年に昭和天皇、香淳皇后に献上された「御飾品」の一品で、木工は木内半古が担当した。この試作品もこの経緯から半古が担当している可能性が高い。

6　○名　　称　長花形煙草盆　木内半古作（ちょうはながたたばこぼん　きうちはんこさく）
　　○時　　代　昭和時代　昭和 6 年（1931）
　　○品　　質　盆・合子：木製（ケヤキ）　漆塗、灰入：銀製
　　○員　　数　1 具
　　○寸 法 等　盆　長 32.7 ㎝　幅 21.9 ㎝　高 2.2 ㎝　合子　長 15.2 ㎝　幅 9.0 ㎝　灰入　径 7.4 ㎝　高 7.7 ㎝
　　○作品概要　木内半古の作。六曲盆、十二曲合子、八花形灰入からなる煙草盆のセット。六曲盆、十二曲合子ともに正倉院宝物を模した形状を示し、正倉院御物整理掛に出仕した半古ならではの着想に基づく作品。

7　○名　　称　撥鏤折尺試作（ばちるおりじゃくしさく）
　　○時　　代　大正～昭和時代（20 世紀）
　　○品　　質　象牙製

○員　　数　1枚
○寸 法 等　長14.1㎝　幅0.9～1.2㎝　厚0.5㎝
○作品概要　象牙を赤色や青色に染め、表面を彫り窪めて文様を表す撥鏤作品。一端に支点となる材を嵌めるための孔を設ける構造や、意匠・文様の近似から、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の初音葦手象嵌裁縫箱の中に含まれる撥鏤折尺の試作品と思われる。

8　○名　　称　戴勝文木画合子　木内省古作（やつがしらもんもくがごうす　きうちしょうこさく）
○時　　代　昭和時代　昭和7年（1932）
○品　　質　木製（シタン）
○員　　数　1合
○寸 法 等　径6.95㎝　高2.9㎝
○作品概要　シタン材を用いた円形、印籠蓋造の合子。轆轤挽きによって成形。底裏の刻銘により、木内半古の子、省古の作とわかる。蓋表の木画の意匠は、正倉院宝物の木画紫檀双六局の床脚側面の戴勝文を反転させたもの。木内省古は木画紫檀双六局の模造を三度制作している。

9　○名　　称　花文木画合子　木内省古作（かもんもくがごうす　きうちしょうこさく）
○時　　代　明治～昭和時代　19～20世紀
○品　　質　木製（シタン）
○員　　数　1合
○寸 法 等　径7.2㎝　高2.7㎝
○作品概要　シタン材を用いた扁平な円形合子。印籠蓋造で、轆轤挽きによって成形されている。蓋表中央に花文を木画技法で表す。蓋表の木画の意匠は、正倉院宝物の木画紫檀双六局の盤面に見える花文と同じもの。模造制作の過程で得た技法的知見に基づく作品とみられる。

10　○名　　称　花文木画合子　木内省古作（かもんもくがごうす　きうちしょうこさく）
○時　　代　明治～昭和時代　19～20世紀
○品　　質　木製（ヒノキ）
○員　　数　1合
○寸 法 等　径5.5㎝　高2.7㎝
○作品概要　ヒノキ製の円形合子。蓋甲は甲盛とし、中央に六弁花文を木画で表す。底裏の刻銘により木内省古の作と判明する。蓋表の木画の意匠は、正倉院宝物の木画紫檀双六局の盤面に見える六花文と同じもの。

11　○名　　称　木画筒形合子（もくがつつがたごうす）
○時　　代　明治～昭和時代　19～20世紀
○品　　質　木製（シタン）
○員　　数　1合
○寸 法 等　径3.2㎝　高6.95㎝
○作品概要　筒形の合子で、胴部はシタンを刳りぬいて成形する。木画技法で、蓋表に花文、胴の側面上部に七曜文を表す。銘文はないが、側面に認められる七曜文は、正倉院宝物の木画紫檀双六局の畳摺側面の木画と同意匠であり、本品も木内省古の作である可能性が高い。

12　○名　　称　木画手板（もくがていた）
○時　　代　明治～昭和時代　20世紀
○品　　質　木製（シタン）
○員　　数　1枚
○寸 法 等　縦12.0㎝　横18.2㎝　厚1.86㎝
○作品概要　シタン材の一枚板に、象牙、緑色に染めた鹿角、コクタン、ツゲ、カリン、銀、ヤコウガイなどの小片を組み合わせて象嵌する。正倉院宝物を範として木画の試作を行ったものとみられ、作者は木内省古かと推測される。

13　○名　　称　木画紫檀双六局手板（もくがしたんのすごろくきょくていた）
○時　　代　明治～昭和時代　20世紀
○品　　質　木製（シタン）
○員　　数　1枚
○寸 法 等　縦3.3㎝　横22.7㎝　厚0.73㎝
○作品概要　シタン材の一枚板に、象牙、緑色に染めた鹿角または象牙、コクタン、ツゲなどの小片を組み合わせて象嵌する。正倉院宝物の木画紫檀双六局に範を求めた3種の花唐草文様を表しており、やはり木内省古の作かと推測される。

14　○名　　称　木画手板（もくがていた）
○時　　代　明治～昭和時代　20世紀
○品　　質　木製（シタン）
○員　　数　2枚
○寸 法 等　甲：縦10.6㎝　横6.0㎝　厚0.66㎝、乙：縦10.6㎝　横6.0㎝　厚0.69㎝
○作品概要　シタン材の一枚板に、象牙、緑色に染めた鹿角、コクタン、シタン、ツゲ、カリン、錫、タイマイなどの小片を組み合わせて象嵌する。文様は矢羽根文や鼗文、亀甲文、単花文、複合花文など。様々な幾何学文木画や絵画文木画を試みているもので、元来はさらに複数の手板が存在した可能性が高い。

15　○名　　称　木画手板　木内省古作（もくがていた　きうちしょうこさく）
○時　　代　明治時代　明治38年（1905）
○品　　質　木製（シタン）
○員　　数　1枚
○寸 法 等　縦10.5㎝　横5.8㎝　厚0.72㎝
○作品概要　シタン材に、象牙、染めた鹿角または象牙、タケ、ツゲ、シタンなどの小片を組み合わせて象嵌する。長方形の一枚板に、鳥や蝶、小花文などを絵画文木画の技法で表したもの。背面に「木画試作／明治三十八年十一月省古作」と記される。

16　○名　　称　木画軸試作　木内省古作（もくがじくしさく　きうちしょうこさく）
○時　　代　明治～昭和時代　20世紀
○品　　質　木製（ヒノキ）
○員　　数　1本
○寸 法 等　長19.8㎝　軸首長3.0㎝　軸首最大径1.84㎝
○作品概要　ヒノキ材製の丸棒にツゲ材製の撥形の軸首を枘差しする。軸首の頭に鹿角、コクタン、錫の小片を組み合わせて象嵌する。円柱形の軸の一端に撥形の軸首を取り付け、軸頭に六弁花を木画技法で表す。箱蓋裏に「省古作」の墨書がある。

17　○名　　称　菊桐文象嵌硯箱　木内省古作（きくきりもんぞうがんすずりばこ　きうちしょうこさく）
○時　　代　昭和時代　昭和15年（1940）
○品　　質　硯箱：木製（スギ）、水滴：銀、刀子・錐・筆・筆枕：木製（クワ）

○員　　数　1合
○寸 法 等　硯箱　縦 24.4 cm　横 19.7 cm　高 4.9 cm
○作品概要　硯箱は印籠蓋造で、スギ材製、漆塗り。蓋表は乱れ菊をツゲ、象牙の象嵌で、桐文をクロチョウガイとシロチョウガイの螺鈿で表す。水滴は肩の丸い薄い円筒形。硯は風字硯風。刀子は把が「く」の字形に屈曲する。全体に奈良時代を意識した造形である。硯箱底裏刻銘「省古作」

18　○名　　称　瓜文手箱　木内省古作（うりもんてばこ　きうちしょうこさく）
○時　　代　昭和時代　昭和 22 年（1947）
○品　　質　木製（クワ）　漆塗
○員　　数　1合
○寸 法 等　縦 25.7 cm　横 19.1 cm　高 9.1 cm
○作品概要　長方形、隅丸、印籠蓋造の箱。身底裏に「省古作」の陰刻銘がある。省古の父半古もほぼ同形の作品を作っており、省古はその図様を手本にしてこの手箱を製作したものと思われる。ただし半古の作品では瓜文を象嵌で表すが、本品はこれを浮彫りとしている。

19　○名　　称　撥鏤草花文帯留（ばちるそうかもんおびどめ）
○時　　代　明治～昭和時代　20 世紀
○品　　質　象牙　銀
○員　　数　1箇
○寸 法 等　径 3.0 cm
○作品概要　淡紅色に染めた象牙の表面を彫る撥鏤技法で、甲盛りのある円形の胎に一株の草花を表す。正倉院宝物の献物箱や調度品に類似する文様のものがあり、それらを翻案した作品とみられる。作者は木内省古である可能性が高い。

20　○名　　称　花文象嵌簪　木内省古作（かもんぞうがんかんざし　きうちしょうこさく）
○時　　代　昭和時代　昭和 5 年（1930）
○品　　質　タイマイ
○員　　数　1枚
○寸 法 等　長 12.0 cm　幅 6.6 cm
○作品概要　タイマイの黒い部分を用いて作った簪。脚部に「省古作」の刻銘がある。木内省古は正倉院宝物の修理等を通じて得たタイマイ細工の技法についても造詣が深く、本品の製作につながったものと思われる。

21　○名　　称　蔦文蒔絵櫛・笄（つたもんまきえくし・こうがい）
○時　　代　明治～昭和時代　19～20 世紀
○品　　質　タイマイ
○員　　数　1枚・1本
○寸 法 等　櫛　縦 3.5 cm　横 8.5 cm　笄　長 14.3 cm　径 1.0 cm
○作品概要　櫛はタイマイの一材から 34 歯を作り出し、峰には色漆を塗って竹に擬し、節を表す。表面には金高蒔絵で蔦文を表す。笄は両端が広がる杵形で、両端を色漆を用いて竹に擬している。本品は、明治時代にも流行した黒鼈甲に金高蒔絵の櫛・笄のセット。

22　○名　　称　萩象嵌雲板　木内省古作（はぎぞうがんうんばん　きうちしょうこさく）
○時　　代　昭和時代　昭和 35 年（1960）
○品　　質　木製（キリ）
○員　　数　1面
○寸 法 等　径 39.4 cm　厚 1.8 cm
○作品概要　雲板（雲版）は本来、色紙や短冊などを入れて壁に掛けるための額の一種だが、本品は雲版に見立てた円形の板に象嵌で文様を表した壁掛。キリの丸板一枚に、シタン、ツゲ、象牙、タイマイ、銀等を象嵌して萩文を表す。裏面の刻銘から、木内省古の 78 歳のおりの作とわかる。

23　○名　　称　籬菊薄象嵌火鉢（まがききくすすきぞうがんひばち）
○時　　代　明治～昭和時代　20 世紀
○品　　質　本体　木製（キリ）　落とし　銅製
○員　　数　1口
○寸 法 等　径 33.3 cm　高 21.1 cm　口径 24.7 cm
○作品概要　胴張りのある円筒形の火鉢。側面のやや下寄りの部分に籬を浅く浮彫りする。また一方の面に菊と薄をシロチョウガイとツゲとみられる木材を象嵌して表す。口縁は内側に小さな張り出しを作り、ここに銅製打出しの落としを入れる。木目を文様として生かした巧遅な作りに特徴がある。

24　○名　　称　図案（ずあん）
○時　　代　明治～昭和時代　20 世紀
○品　　質　紙本著色　紙本墨画ほか
○員　　数　16 枚　2 幅
○寸 法 等　－
○作品概要　木内省古作の香炉や雲版、裁縫箱などの図案や、木内省古の筆になる著色画など。

25　○名　　称　玩具図色紙　木内省古筆（がんぐずしきし　きうちしょうこひつ）
○時　　代　昭和時代　20 世紀
○品　　質　紙本著色　色紙
○員　　数　2面
○寸 法 等　犬張子図　縦 27.2 cm　横 24.1 cm　鶯と蘇民将来図　縦 24.1 cm　横 27.2 cm
○作品概要　犬張子をはじめ小さな玩具類を描いた色紙が 1 枚と、鶯の木彫民芸品と「蘇民将来」の木彫護符を描いた色紙 1 枚。

(参考)奈良国立博物館は、新規寄贈品 25 件(上記)のほか、下記 1 件を受入れたが、平成 10 年度に寄贈された「正倉院宝物模造（撥鏤尺）付 制作過程資料　一括(物品番号 1236)」の内訳として追加登録のため、収蔵品の件数としては計上しない。

○名　　称　撥鏤工程見本（ばちるこうていみほん）
○時　　代　平成時代　21 世紀
○品　　質　象牙製
○員　　数　3枚
○寸 法 等　(1) 縦 4.3 cm　横 2.6 cm　厚 0.8 cm (2) 縦 3.6 cm　横 3.25 cm　厚 1.05 cm (3) 縦 3.1 cm　横 2.45 cm　厚 0.65 cm
○作品概要　(1) と (2) は紅牙撥鏤、(3) は紺牙撥鏤の工程見本。(1) は長方形に切り出した象牙をコチニール（コチニールカイガラムシ）で 30 分間染めたもの。(2) は一面に丸みのある方形の象牙片を西洋茜で 60 分間染めたもの。(3) は藍染めの後、文様を彫刻し、さらにラックダイ（ラックカイガラムシの分泌物）で染めたもの。

【九州国立博物館】（計 19 件）

（1）購入（15 件）

＜絵画＞（4 件）

1　○名　　称　紙本著色病草紙断簡（痣のある女）（しほんちゃくしょくやまいのそうしだんかん　あざのあるおんな）
　　○時　　代　平安～鎌倉時代・12 世紀
　　○品　　質　紙本著色
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　縦 25.9cm　横 45.3 cm
　　○作品概要　痣というのは誰しもあるもので、見えない部分にあれば苦しみはないが、顔などにあると人と交わることもできず、不都合であるという。絵を見ると、豪華な衣装を身に着けた女性が痣のある自分の顔を見つめ鬱々とした表情を浮かべている。その顔貌や衣文などは、「地獄草紙」（国宝、東京国立博物館所蔵）や「餓鬼草紙」（国宝、京都国立博物館所蔵）にきわめて近く、画家の卓越した描写力が見てとれる。これらは 12 世紀末に後白河法皇（1127-92）のもとで活躍した宮廷絵師・常盤光長の制作と考えられていることから、本図も同時期に後白河法皇や光長の関与により制作されたものと推測される。平安時代を代表する優品。

2　○名　　称　絹本著色摩尼誕生図（けんぽんちゃくしょくまにたんじょうず）
　　○時　　代　中国　元時代末～明時代初・14 世紀
　　○品　　質　絹本著色
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　縦 35.6cm　横 56.9 cm
　　○作品概要　マニ教の開祖・マニの誕生の様子を描く。３世紀、ペルシアに生まれたマニが創始したマニ教は、ユーラシア大陸全域に広がり、その影響は中国・唐にも及んだ。中国では、仏教や道教に同化しながら布教を行った結果、思想的にも造形的にも仏教と混交した。本図は、仏教の開祖である釈迦の誕生を描いた、釈迦誕生図の図像に近似しており、仏教の影響が明らかに見てとれる。なお、その作風から、寧波周辺で描かれた仏画（寧波仏画）と多くの共通点が認められ、制作年代については元時代末～明時代初と推測される。数少ないマニ教絵画の一作例として、また、当該期の思想的、造形的な文化交流のあとを示す意義深い作例といえる。

3　○名　　称　紙本著色隠元隆琦像　喜多元規筆　隠元隆琦賛　（しほんちゃくしょくいんげんりゅうきぞう　きたげんきひつ　いんげんりゅうきさん）
　　○作 者 等　喜多元規筆　隠元隆琦賛
　　○時　　代　江戸時代・寛文 11 年（1671）賛
　　○品　　質　紙本著色
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　縦 119.3cm　横 48.8cm
　　○作品概要　隠元隆琦(1592-1673)80 歳の姿を描いた、喜多元規(生没年不詳)初期の新出作例である。
　　隠元隆琦は、福建省福州出身の禅僧。興福寺住持・逸然性融(1601-1668)らの招きに応じて承応 3 年(1654)に長崎に来航し、日本における臨済宗黄檗派(現・黄檗宗)の開祖となった。本図は、黄檗宗の肖像画通有の写実性を備えた、典型的な作例である。
　　筆者の喜多元規は、最も名の知れた黄檗肖像画家。200 点余りの現存作例のうち、本作は、像主の生気ある表情を細緻に描いた、画家前期、つまり寛文 10 年頃まで遡る可能性のある、出色の作品である。賛文は、隠元の語録に一致するものはないが、前半部分は『黄檗和尚扶桑語録』「宝蔵院の請」により制作された自賛像賛文と重複する。

4　○名　　称　紙本著色虎図　熊斐筆（しほんちゃくしょくとらず　ゆうひひつ）
　　○作 者 等　熊斐筆
　　○時　　代　江戸時代・宝暦 12 年（1762）
　　○品　　質　紙本著色
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　縦 133.0cm　横 47.6cm
　　○作品概要　力強い筆線で虎の迫力を見事に表した、熊斐(1712-1772)の基準作。熊斐は、長崎に来航した中国人画家・沈南蘋らに師事して、鮮麗な色の写実的な花鳥画を習得した。本作品においても、薄く藍を塗った背景などに南蘋風の表現が看取できるが、その一方で、虎には江戸以前からの伝統的な虎図や朝鮮絵画からの影響を考えるべきであろう。
　　その表現は細部に丁寧な彩色を施しながら、リズミカルで力強い筆線で虎の躍動感を生み出しており、熊斐作品のなかでも優れた出来映えを示す。また、熊斐には年記のある作品が少なく、それも宝暦 4 年前後に集中している。宝暦 12 年に描かれた本作は、画家の後半期の基準作であり、画風変遷を理解する上でも極めて貴重な作例である。

＜書跡＞（1 件）

5　○名　　称　紙本墨書月江正印墨蹟　識語（しほんぼくしょげっこうしょういんぼくせき　しきご）
　　○作 者 等　月江正印筆
　　○時　　代　元時代・至正 3 年（1343）
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　縦 35.5cm　横 74.7 cm
　　○作品概要　中国・元時代の禅僧として名高い月江正印が、北宋の大慧宗杲を筆頭に南宋の癡絶道冲らに至る、今は亡き禅僧たちの遺墨集を拝見して執筆した識語である。高僧の遺墨に接し、仰慕の感慨を抱いたことを記す。その書は、楮紙と推定される素紙に松煙墨を用いて楷書体に近い謹厳な行書体で揮毫される。全 16 行。本紙奥に印章 2 顆（「沙門正印」「松月翁」）を捺す。表装は織部好みの掛幅装で、江戸時代中期に遡ると推考される。なお、重要文化財「雲峰妙高墨蹟　大慧墨蹟跋」（北村文華財団所蔵）は、本作品に遡る 59 年前に、同遺墨集を拝見した禅僧の雲峰妙高が記した識語で、先学により本作品との関連が指摘されている。日本から渡海した多くの禅僧が師と仰いだ月江正印の 77 歳の筆として貴重である。

＜彫刻＞（1 件）

6　○名　　称　女神坐像（にょしんざぞう）
　　○時　　代　平安時代・12 世紀
　　○品　　質　木造　彩色
　　○員　　数　1 躯
　　○寸 法 等　像高 40.7cm
　　後屏：高 60.8cm　幅 36.6cm　厚 1.6cm
　　牀座：幅 39.6cm　奥行 16.8cm　高 4.7cm
　　○作品概要　頭頂で髪束を蝶結びに結い、髪を左右に振り分け、長く背面に垂らす。大袖衣、鰭袖付き★(衣＋蓋）襠衣、裳を着ける。両手は大袖衣の袖内に包み隠して拱手する（持物亡失）。後屏を背にして牀座（後補）上に坐す。ヒノキの一材から彫出し、両膝外側に別材を矧ぐ。胴長で像奥が薄い、膝張が狭いなど 12 世紀頃の神像の特徴が顕著である。面長で下膨れの顔に、目尻が吊り上がった半眼の目や上唇が突き出た口を表しており、神威に満ちている。当初のものと思われる後屏はヒノキの一材製で、屏面には山水が軽快に描かれており、平安後期の絵画資料としても貴重。なお、本像と面貌が近似する重要文化財「男神坐像」（個人蔵、像高 50.9cm）もあり、一具だったと考えられる。

＜陶磁＞（1 件）

7　○名　　称　色絵花鳥文六角壺（柿右衛門様式）（いろえかちょうもんろっかくつぼ　かきえもんようしき）

○作 者 等　有田（伊万里）
○時　　代　江戸時代・17 世紀後半
○品　　質　磁器
○員　　数　1 対
○寸 法 等　1.口径 11.0×9.5cm　身高 31.8cm（総高 36.5cm）　底径 13.0×11.5cm
　　2.口径 11.0×9.5cm　身高 32.0cm（総高 36.5cm）　底径 13.3×11.3cm
○作品概要　17 世紀後半の西欧向け輸出用に伊万里（有田）で作られた柿右衛門様式の色絵磁器を代表する作品である。柿右衛門様式の色絵磁器を多数収集し、欧州におけるその流行の牽引役となったイングランド・スコットランド・アイルランド女王・メアリー2 世(1662-1694、在位 1689-1694)の居城ハンプトン・コート宮殿に類似品が伝来することから「ハンプトン・コート壺」と呼ばれるタイプに属する。このタイプの壺は柿右衛門様式の中でもとりわけ評価が高く、その特徴は、濁手と呼ばれる乳白色の素地、板作り成形、輪郭線に黒と赤を使い分けること、素描の筆致が巧みなことにあり、柿右衛門窯（南川原山）の作品であると考えられる。

＜漆工＞（1 件）

8　○名　　称　春字彫彩漆合子（しゅんじちょうさいしつごうす）
○時　　代　中国　明時代・16 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 合
○寸 法 等　径 35.5cm　高 12.7 ㎝
○作品概要　さまざまな吉祥文を組み合わせて飾った大型の合子である。とりわけ「春」字が大きくあらわされるが、このように吉祥文字や吉祥句を器物にあらわすことが盛んになるのは明時代・嘉靖年間（1522-66）からである。また、多色の漆を塗り重ねて薄めの堅い層をつくり、そこに細緻に文様を彫りあらわすのも嘉靖期彫彩漆にみられる典型的な特色であり、そのすぐれた作行から推して官営工房製の作品と考えてよい。同趣の作品としては「剔彩春壽寶盒」（「大明嘉靖年製」銘、台北・国立故宮博物院所蔵）があげられる。

＜染織＞（3 件）

9　○名　　称　茜地花丸花唐草文更紗（あかねじはなまるはなからくさもんさらさ）
○作 者 等　インド・グジャラート地方
○時　　代　18 世紀
○品　　質　木綿単糸平織。糸密度（経:Z・17 本/cm　緯:Z・16 本/cm）。片面染め、型染め、媒染。
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 259.0 ㎝　横 171.4 ㎝
○作品概要　インド更紗。太い木綿糸を紡いで織った木綿 2 枚を接ぎ合わせた双幅の布一面に、木型捺染で花文様を基調とした幾何学文様と花唐草文様を充填した「鬼手更紗」である。主文は中心に置かれた大輪の多弁花を表した花丸文で、中央部四隅には主文の 4 分の 1 にあたる扇形を配す。縁回しには花唐草文がめぐらされている。裏面の一隅には「VOC」印、もう一隅には「24」の数字が捺されている。双幅の大きな木綿の中心に大輪の花円文、中心区画の四隅に花円文の 4 分の 1 形をそれぞれ配する鬼手更紗は、祇園祭南観音山見送り、祇園祭鯉山胴掛として日本に伝存しており、その用途においても儀礼用という本来のかたちを今に伝えている。

10　○名　　称　格子絣更紗間着（こうしがすりさらさあいぎ）
○作 者 等　日本（仕立て）／インド・コロマンデル海岸（布地）
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀（仕立て）／18 世紀（布地）
○品　　質　木綿双糸斜子織。糸密度（双糸を 1 本として数えた場合。経:Z・18 本/cm　緯:Z・18 本/cm）。両面染め、描き染め、蠟防染。
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 143.9 ㎝　裄 65.5 ㎝　袖丈 53.0 ㎝
○作品概要　間着。現状は単衣だが、もとは袷仕立て。生地は紺糸と白糸の格子文様が中心部となり、周りは唐草文、房飾り様の火焔形花弁文を表した更紗。彦根更紗（東京国立博物館所蔵 TI-392）中にも格子と更紗をあわせた類例が見られ、「絣手更紗」として知られる。格子部分を身頃や袖とし、更紗部分を、袖口、襟先、衽、裾にあてる。裏地が外れた状態で、衿は縫い代が解かれて広衿になっている。袖は袖下に丸みをつけた袂袖で、袖口を比較的広く取り（28 ㎝）袖下を縫い詰める。袂の内側には身八つ口の開口部分をつくらない。両袖の袂の内側には本生地とは異なる方形の更紗裂（茜地鳥獣文更紗）を、襟の中心、腰部には単糸格子織の裂を縫い付けている。

11　○名　　称　紅型・琉球衣裳（びんがた・りゅうきゅういしょう）
○作 者 等　琉球
○時　　代　第二尚氏時代～大正時代・19～20 世紀
○品　　質　苧麻、木綿、絹、平織、経緯絣、紅型（片面／両面）、先染、摺込捺染
○員　　数　一括
○作品概要　本資料は明治 38 年(1905)から昭和 4 年(1929)に収集された琉球資料のうち、染織資料 17 領 2 枚。大きく分けて、①琉球・第二尚氏時代から明治期にかけて作られた紅型衣裳および裂、②琉球の王都・首里の織物衣裳、③明治期以降の八重山、宮古の衣裳から構成される。本資料のうち①紅型衣裳 12 領は、袖付や衿に一部改変や仕立ての変化が見られるが、多くは琉服の特徴を残している。白地両面紅型衣裳は、布地の質、染技術ともに優れ、首里の上級士族が着用した紅型衣裳であったと考えられる。紅型裂 2 枚は一度仕立てたものを解いた布地の一部。②朱地経縞衣裳 1 領は、芭蕉の芯から採取する極細の繊維を精練し染色した煮綛芭蕉で織られ、色糸には絹が用いられる。③宮古、八重山の貢納布（上布）は、主に苧麻を原料とした布で絹糸のように艶やかで美しいことで知られる。男性物の着物 3 領は、宮古、八重山で製作された。琉球は廃藩置県に伴い、日本的な風習が急激に取り入れられる中で、衣裳形態も変化し和装化した。

＜考古＞（ 1 件）

12　○名　　称　（重要美術品）伝三上山下古墳出土　獣帯鏡（でんみかみやましたこふんしゅつど　じゅうたいきょう）
○時　　代　古墳時代・6 世紀
○品　　質　青銅鋳造
○員　　数　2 面
○寸 法 等　1.径 23.2 ㎝　2.径 22.4 ㎝
○作品概要　鏡・銅鐸の収集家として知られる山川七左衛門旧蔵の資料で、明治 23 年近江野洲郡三上山下の古墳から出土したものとされる。主文様区に四葉座付乳を 7 個配置し、それにより分割された各区に半肉彫の獣形を配置する獣帯鏡で、直径約 23 ㎝を測る古墳時代後期の大形鏡である。2 面の鏡は同じ型からつくられた、いわゆる同型鏡で、韓国百済武寧王陵や群馬県綿貫観音山古墳と同型であることが知られており、日本と百済との密接なつながりを物語る資料として重要である。なお、1 面の鏡の鏡面には金銅製双魚佩の残片が付着している。これは国内において出土例が少ないものであり、被葬者像を考える上で貴重な研究資料である。

＜歴史資料＞（3 件）

13　○名　　称　紙本墨刷阿佐井野版医書大全（しほんぼくさつあさいのばんいしょたいぜん）
○作 者 等　熊宗立（均）著、阿佐井野宗瑞出版
○時　　代　室町時代・16 世紀
○品　　質　紙本墨刷
○員　　数　10 冊
○寸 法 等　縦 26.9cm　横 17.4 ㎝
○作品概要　室町時代後期の医学においては、明の医学が尊重された。なかでも熊宗立（均）（1409-82）著『医書大全』は当時最新の中国伝来の医学書の一

つである。病気が明確に分類され、症状に応じた処方薬が記された便利な手引書であった。本書は、堺の商人・医師であった阿佐井野宗瑞（1473-1532）が明・正統 11 年（1446）に出版された原版『医書大全』を復刻出版したもの。日本で最初に印刷出版された医学書として著名である。『阿佐井野版医書大全』の初版発行は大永 8 年（1528）であるが、便利な手引書だったため、以後 200 年余りにわたり版を重ねた。本書は初版ではないが、中世末頃のものと推定される。古典籍収集家として著名なフランク・ホーレー旧蔵。

14 ○名　　称　紙本墨書細川忠興（三斎）書状（しほんぼくしょほそかわただおき（さんさい）しょじょう）
○時　　代　江戸時代・寛永 11 年(1634)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 通
○寸 法 等　縦 15.7cm　横 257.7 cm
○作品概要　肥後熊本藩の旧藩主(隠居)細川忠興(1563-1645、法名宗立・号三斎)が、家臣志水次兵衛・蒲田賢斎(堅斎)に宛てた書状。全 7 条と追而書からなり、江戸幕府が西国大名と長崎来航の唐人との直接取引を禁止したこと（第 1 条）、長崎奉行による大名の監視が強化されていること（第 7 条）などが記される。他の関係史料に照らせば、本書状の年次は寛永 11 年（1634）に比定される。寛永 8 年、幕府の奉書船制度の導入にともない、朱印船貿易を絶たれた西国大名は、長崎の唐人貿易に比重を移した。これに対し、幕府が西国大名と唐人との直接取引を禁止したのが寛永 10 年の第 1 次鎖国令である。本書状は、「鎖国」成立過程における西国大名細川氏の対応を如実に示す好史料である。

15 ○名　　称　東大寺等関係文書（とうだいじとうかんけいもんじょ）
○時　　代　巻子　平安時代・天暦 8 年(954)～長保 4 年(1002)
一紙文書（各）平安時代・久安 4 年(1148)、鎌倉時代・宝治 3 年(1249)、文永 8 年(1271)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 巻 3 通
○寸 法 等　巻子：縦 29.1 cm　横 758.6 cm
久安 4 年文書：縦 32.2 cm　横 52.5 cm
宝治 3 年文書：縦 34.3 cm　横 53.0 cm
文永 8 年文書：縦 30.8 cm　横 52.7 cm
○作品概要　巻子は、大和国添上郡楢中郷五条五里一坪（現在の奈良県天理市楢町に鎮座する楢神社付近）の土地を売買した際の売券 16 通を貼り継いだ手継証文。平安時代以降、土地を売買する際には、土地の権利が移動するたびに作成された証拠文書を貼り継いで、土地の所有権を示す証文とし、これを手継証文と称した。3 通ある一紙文書のうち、久安 4 年（1148）文書は、興福寺東院の建物や荘園を信慶大法師が覚長大法師に譲る際に作成された譲状。宝治 3 年（1249）文書は能登国が納めた封物に対する東寺の受領書。文永 8 年（1271）文書は、比叡社の祭礼の御馬を飼うための米を借り進めるべきことを命じた文書。なお、紙背に聖経を書写する。

寄贈（4 件）

＜絵画＞（1 件）

1 ○名　　称　紙本墨画山水図押絵貼　六曲屏風　福原五岳筆（しほんぼくがさんすいずおしえばり　ろっきょくびょうぶ　ふくはらごがくひつ）
○作 者 等　福原五岳筆
○時　　代　江戸時代・18 世紀（絵画）、19 世紀（着賛）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 隻
○寸 法 等　縦 113.8cm　横 51.9cm(第 1 扇、6 扇)　縦 cm113.8　横 56.3cm(第 2～5 扇)
○作品概要　18 世紀後半の大坂における文人画興隆に寄与し、当時高く評価された画家・福原五岳(1730-1799)の作。五岳は備後尾道に生まれ、上京後は池大雅(1723-1776)に師事した。30 代半ばで大坂に移り師風を広めたことで知られる。本作品は、主題・構図ともに典型的な山水図と位置づけられ、幅広の筆で軽やかに描いた遠山は、五岳の中年以降の様式を示す。
賛文は、佐藤一斎（第 1 扇）、滝松隠（第 2 扇）、赤松翼（第 3 扇）、近藤篤山（第 4 扇）、貫名海屋（第 5 扇）、篠崎小竹（第 6 扇）がそれぞれ着賛する。第 1 扇に「八十八老人」とあり、これが一斎が 88 歳で没する安政 6 年(1859)と考えられること、また第 4 扇に「己丑重陽」とあり、文政 12 年(1829)9 月と推測されることから、作画の時期と、各扇の着賛の年代が異なる可能性が高い。

＜陶磁＞（1 件）

2 ○名　　称　藁灰釉沓形茶碗（わらばいゆうくつがたちゃわん）
○作 者 等　高取・内ヶ磯窯
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　口径 13.0cm　高 7.4cm　底径 5.4 cm
○作品概要　意図的に三方にたわませる器形から、桃山様式の影響を強く受けた内ヶ磯窯の作品といえる。また、「王」字銘を高台内に残し、高台を割高台にする。さらに全体的に藁灰釉を施すことにも内ヶ磯窯の特徴が認められる。王字窯印をもつ類例として、「朝鮮唐津茶碗　銘深山路」（東京国立博物館所蔵、G-5846）や「朝鮮唐津茶碗」（福岡市美術館所蔵）などが知られるほか、京都三条遺跡からも出土しており、畿内での茶の湯の隆盛にあわせて作られた茶碗との位置づけができる。

＜漆工＞（1 件）

3 ○名　　称　布袋堆朱香合（ほていついしゅこうごう）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 合
○寸 法 等　径 5.1cm　横 2.7 cm
○作品概要　円形、印籠蓋造の合子。やや胴を張らせた太鼓形で、合口は浅く、身の立ち上がりも小さい。文様は、蓋表に座した布袋をあらわし、蓋表・身の側面に雷文をめぐらしている。中国製の堆朱合子を模して制作された、いわゆる和物堆朱で、漆が良質なため塗り重ねが木目状に見える。
なお、X 線 CT 撮影および蛍光 X 線分析調査により、蓋と身に鉛の薄片が埋められていることが判明した。

＜考古＞（1 件）

4 ○名　　称　福島県寺脇貝塚出土　石冠（ふくしまけんてらわきかいづかしゅつど　せっかん）
○作 者 等　不明
○時　　代　縄文時代・前 20 世紀-前 4 世紀
○品　　質　石製
○員　　数　1 点
○寸 法 等　高 6.5cm　幅 8.7cm　奥 4.7 cm
○作品概要　石冠は縄文時代を代表する呪術具である。山形を基本として多様な形態を持つものが知られているが、本品のように線刻のあるものは、稀少である。その分布は、岐阜県北部を中心とし、北陸に展開、東日本にも広がっている。数は少ないながらも九州や南西諸島でも出土している。一部の石冠に類似した形態を持つ三角壕形土製品は、主に新潟県南部に分布するものであるが、西日本では鹿児島県市ノ原遺跡で出土した石製のものが唯一である。これら各地に分布する石冠や類似の石製品・土製品の関係性は明らかでは無い部分も多いが、今後、縄文時代の文化交流を考えていくにあたって重要な資料である。

1-(1)-④ 寄託品一覧表

（単位：件）　平成26年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		11,486	193	1,191	2,519	53	245	5,892	87	622	1,994	53	321	1,081	0	3
絵画		3,201	56	414	392	12	62	2,003	29	247	592	15	105	214	0	0
書跡		1,670	66	270	378	11	28	890	42	203	322	13	37	80	0	2
彫刻		799	11	205	147	1	38(*1)	255	1	64	374	9	103	23	0	0
建築		4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		1,026	13	88	168	5(*1)	18	529	1	39	238	7	31	91	0	0
刀剣		246	10	68	210	8	55(*1)				34	2	13	2	0	0
陶磁		1,220	1	6	134	0	2	792	1	3	11	0	0	283	0	1
漆工		701	13	50	84	6(*1)	13(*1)	461	4	15	107	3	22	49	0	0
染織		724	7	36	69	2	4	496	3	31	49	2	1	110	0	0
考古		911	12	31	157	4	12	427	6	10	230	2	9	97	0	0
民族資料		121	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	110	0	0
歴史資料		87	0	10	1	0	0	35	0	10	29	0	0	22	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
東洋	絵画	149	2	11	149	2	11									
	書跡	24	1	0	24	1	0									
	彫刻	11	0	0	11	0	0									
	金工	1	0	1	1	0	1									
	陶磁	70	1	0	70	1	0									
	漆工	25	0	1	25	0	1									
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	485	0	0	485	0	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。
＊(*1)の項目については、件数再確認の結果、件数が変更になった(東博　国宝　金工4→5 漆工3→6　重文　彫刻41→38 刀剣57→55 漆工16→13)。本表の記載は、この修正を踏まえたものである。

1-(1)-⑤ 寄託品増減表

（単位：件）　平成26年3月31日現在

		国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
		24年度	25年度			24年度	25年度			24年度	25年度			24年度	25年度			24年度	25年度		
		計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計		11,666	154	334	11,486	2,563	20	64	2,519	5,914	70	92	5,892	1,951	49	6	1,994	1,238	15	172	1,081
絵画		3,235	45	79	3,201	406	2	16	392	2,013	25	35	2,003	587	7	2	592	229	11	26	214
書跡		1,744	15	89	1,670	394	2	18	378	918	2	30	890	311	11	0	322	121	0	41	80
彫刻		768	36	5	799	138	10	1	147	254	2	1	255	353	24	3	374	23	0	0	23
建築		4	0	0	4	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		1,022	15	11	1,026	169	0	1	168	526	12	9	529	237	2	1	238	90	1	0	91
刀剣		245	1	0	246	210	0	0	210					34	0	0	34	1	1	0	2
陶磁		1,319	22	121	1,220	139	0	5	134	784	20	12	792	11	0	0	11	385	2	104	283
漆工		712	5	16	701	95	3	14	84	463	0	2	461	105	2	0	107	49	0	0	49
染織		719	9	4	724	73	0	4	69	488	8	0	496	48	1	0	49	110	0	0	110
考古		914	1	4	911	157	0	0	157	429	1	3	427	230	0	0	230	98	0	1	97
民族資料		121	0	0	121	5	0	0	5	0	0	0	0	6	0	0	6	110	0	0	110
歴史資料		87	0	0	87	1	0	0	1	35	0	0	35	29	0	0	29	22	0	0	22
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0
東洋	絵画	146	3	0	149	146	3	0	149												
	書跡	24	0	0	24	24	0	0	24												
	彫刻	11	0	0	11	11	0	0	11												
	金工	1	0	0	1	1	0	0	1												
	陶磁	74	0	4	70	74	0	4	70												
	漆工	25	0	0	25	25	0	0	25												
	染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
	考古	486	0	1	485	486	0	1	485												
	民族	0	0	0	0	0	0	0	0												

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表

（単位：件）　平成26年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		23	0	2	23	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
絵画		3	0	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡		16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(2) 収蔵品の管理・保存

1-(2)-① 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　平成26年3月31日現在

合計		1,492		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		786	298	408
絵画		189	10	177
書跡		40	6	0
彫刻		45	3	2
建築		0	0	0
金工		29	0	0
刀剣		29	196	0
陶磁		12	4	0
漆工		30	3	2
染織		19	1	12
考古		205	16	2
歴史資料		17	2	4
民族資料		0	0	0
和書		29	1	4
東洋	絵画	34	3	68
	書跡	33	0	3
	彫刻	7	2	1
	金工	0	0	0
	陶磁	21	2	0
	漆工	0	1	1
	染織	0	1	51
	考古	37	0	3
	民族	0	0	4
法隆寺献納宝物		0	36	0
その他（黒田含）		10	11	74

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	253	120	94
絵画	56	53	17
書跡	34	4	5
彫刻	28	17	1
建築	0	1	0
金工	17	4	1
刀剣		6	2
陶磁	53	0	0
漆工	27	13	0
染織	6	10	5
考古	29	12	0
民族資料	0	0	0
歴史資料	3	0	3
和書	0	0	0
その他	0	0	60

1-(2)-② 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	11～27℃	23～83%
	収蔵庫	09：30～17：00	14～26℃	22～70%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	20～25℃	40～65%
	収蔵庫	09：30～17：00	21～26℃	50～60%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	16～27℃	32～61%
	収蔵庫	09：30～17：00	11～30℃	42～68%
宝物館	展覧会場	24時間運転	22～26℃	51～56%
	収蔵庫	24時間運転	22～23℃	50～56%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館（特別展示館）	展覧会場	09：00～18：00	18～25℃	57～60%
	収蔵庫	09：00～17：30	18～22℃	55～60%
平成知新館（新平常展示館）	展覧会場	——	——	——
	収蔵庫	——	——	——
北収蔵庫		——	——	——
東収蔵庫		09：00～17：30	18～22℃	55～60%
文化財保存修理所		09：00～17：30	22～24℃	57～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	21±2℃	21±2℃	21±2℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	21±2℃	21±2℃	21±2℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:30～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数

平成26年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		133	93 (25)	15	8	17
絵　画		23	11	3	4	5
書　跡		3	0	0	1	2
彫　刻		1	0	1	0	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		8	2	5	0	1
刀　剣		4	2	0	0	2
陶　磁		3	3	0	0	0
漆　工		2	1	1	0	0
染　織		39	29	4	1	5
考　古		31	28 (25)	1	2	0
歴史資料		2	0	0	0	2
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	3	3			
	書　跡	2	2			
	彫　刻	2	2			
	金　工	0	0			
	陶　磁	3	3			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	2	2			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		1	1			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-⑶-② 修理概況

【東京国立博物館】 (93件)

〈絵画〉(11件)

1　○列品番号　A-10
　○名　　称　先徳図像(せんとくずぞう)
　○指　　定　重要文化財
　○時　　代　平安
　○年代世紀　12c
　○品　　質　紙本墨画淡彩
　○員　　数　1巻
　○寸 法 等　31.7×1323.3 cm
　○施工会社　㈱半田九清堂
　○修理内容　1.解体する。 2.裏打ちなど補強を施す。 3.表装裂、軸首を新調し、巻子装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。

2　○列品番号　A-122
　○名　　称　藤・牡丹・楓図(ふじ　ぼたん　かえでず)
　○時　　代　江戸
　○年代世紀　17c
　○品　　質　絹本着色
　○員　　数　3幅
　○寸 法 等　109.0×37.8 cm
　○施工会社　㈱半田九清堂
　○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部の補絹を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首は可能な限り再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)

3　○列品番号　A-1069
　○名　　称　檜図屏風(ひのきずびょうぶ)
　○指　　定　国宝
　○指定年月　昭和32年(1957)2月19日
　○時　　代　安土桃山-江戸
　○年代世紀　16-17c
　○品　　質　紙本金地着色
　○員　　数　8曲1隻
　○寸 法 等　170.3×460.5 cm
　○施工会社　アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
　○修理内容　1.修理前の状態を調査し、記録する。 2.屏風装を解体し、本紙を下地から取り外す。解体の前後に剥落止めを施す。 3.部分表打ちを施して画面を保護し、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 4.補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行う。 5.仮張りをし、補紙に補彩を施す。 6.骨下地を新調し、下張りを施し、蝶番を付ける。本紙を仮張りから外し、新調した下地に貼り込み、裏面には裏張紙を張り込む。 7.新調した表装裂、尾背紙、縁木、金具を取り付け、屏風装に仕立てる。 8.旧裏打紙、旧下地、旧金具などのための保存箱を作成する。

4　○列品番号　A-1459
　○名　　称　花車図屏風(はなぐるまずびょうぶ)
　○時　　代　江戸
　○年代世紀　17c
　○品　　質　紙本金地着色
　○員　　数　6曲1双
　○寸 法 等　各154.5×364.2 cm
　○施工会社　アソシエイトフェロー
　○修理内容　1.修理前の状態を調査し、記録する。 2.屏風装を解体し、本紙を下地から取り外す。解体の前後に剥落止めを施す。 3.ろ過水を表面から噴霧し、下に敷いた吸い取り紙に汚れを吸収させる。 4.表打ちを施して画面を保護し、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 5.補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行う。 6.仮張りをし、補紙に補彩を施す。7.骨下地を新調し、下張りを施し、蝶番を付ける。本紙を仮張りから外し、新調した下地に貼り込み、裏面には裏張紙を張り込む。 8.新調した表装裂、尾背紙、縁木、金具を取り付け、屏風装に仕立てる。 9.旧裏打紙、旧下地、旧金具などのための保存箱を作成する。

5　○列品番号　A-9972
　○名　　称　鷹見泉石像(たかみせんせきぞう)
　○指　　定　国宝
　○指定年月　昭和26年(1951)6月9日
　○時　　代　江戸
　○年代世紀　天保8年(1837)
　○品　　質　絹本着色
　○員　　数　1幅
　○寸 法 等　本紙 縦115.0　横57.2 、表具 縦190.7　横69.2 cm
　○施工会社　㈱半田九清堂
　○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 表装裂、軸首は可能な限り再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。(平成25年度は2まで)

6　○列品番号　A-10933
　○名　　称　四季山水図(しきさんすいず)
　○指　　定　重要文化財
　○指定年月　昭和11年 (1936) 5月6日
　○時　　代　室町
　○年代世紀　15c
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○員　　数　4幅
　○寸 法 等　各149.0×75.8 cm
　○施工会社　㈱半田九清堂
　○修理内容　1.解体する。 2.剥落止めを施し、汚れを除去する。 3.旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部の補絹を行なう。 4.新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5.

補絹に補彩を施す。 6.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 7.現在の保存箱等を使用して収める。

7 ○列品番号 A-12087
○名　称 坪内老大人像画稿(つぼうちろうたいじんぞうがこう)
○時　代 江戸
○年代世紀 文政元年(1818)
○品　質 紙本墨画淡彩
○員　数 1幅
○寸 法 等 本紙 縦82.0 横74.4、表具 縦145.0 横82.5 ㎝
○施工会社 アソシエイトフェロー
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部の補紙を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 補紙に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。 (平成25年度は2まで)

8 ○列品番号 A-12336
○名　称 坪内老大人像(つぼうちろうたいじんぞう)
○時　代 江戸
○年代世紀 19c
○品　質 絹本着色
○員　数 1幅
○寸 法 等 本紙 縦149.7 横73.3、表具 縦196.8 横76.7 ㎝/ 附本紙 縦136.3 横62.4 、附表具 縦191.8 横73.0 ㎝
○施工会社 アソシエイトフェロー
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部の補絹を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。 (平成25年度は2まで)

9 ○列品番号 A-12105
○名　称 釈迦三尊像(しゃかさんぞんぞう)
○時　代 南北朝～室町
○年代世紀 14～15c
○品　質 絹本着色
○員　数 1幅
○寸 法 等 135.7×60.4 ㎝
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、料絹の欠損部に補絹を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。 (平成25年度は2まで)

10 ○列品番号 未決
○名　称 応挙館障壁画のうち竹図壁貼付(一之間違棚中央)(おううきょかんしょうへきがのうちたけずかべはりつけ(いちのまちがいだなちゅうおう))
○時　代 江戸
○年代世紀 天明4年(1784)
○品　質 紙本墨画
○員　数 1面(54面のうち)
○寸 法 等 124.5×214.0 ㎝
○施工会社 ㈱半田九清堂
○修理内容 1.肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。 2.洗浄する。 3.剥落止めを施す。 4.本紙に表打ちを施して保護し、肌裏紙を除去する。 5.裏打ちを行い、欠損部に補彩する。 6.下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用椽木を新調して取り付ける。

11 ○列品番号 未決
○名　称 応挙館障壁画のうち竹図壁貼付(一之間違棚右)(おううきょかんしょうへきがのうちたけずかべはりつけ(いちのまちがいだなみぎ))
○時　代 江戸
○年代世紀 天明4年(1784)
○品　質 紙本墨画
○員　数 1面(54面のうち)
○寸 法 等 167.5×75.7 ㎝
○施工会社 ㈱半田九清堂
○修理内容 1.肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。 2.洗浄する。 3.剥落止めを施す。 4.本紙に表打ちを施して保護し、肌裏紙を除去する。 5.裏打ちを行い、欠損部に補彩する。 6.下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用椽木を新調して取り付ける。

〈東洋絵画〉(3件)

12 ○列品番号 TA-160
○名　称 二菩薩立像(にぼさつりゅうぞう)
○時　代 五代～北宋
○年代世紀 10c
○品　質 麻布着色
○員　数 1面
○寸 法 等 153.0×126.1 ㎝
○施工会社 ㈱テラ
○修理内容 1. 作品を額装から外す。 2. クリーニングを行なう。 3. 変形修正を行なう。 4. アクリル板付の額を新調し「プレッシャーマウント方式」で作品を固定し、額装する。 (平成25年度は4. の途中まで) 1. 作品を額装から外す。 2. クリーニングを行なう。 3. 変形修正を行なう。 4. アクリル板付の額を新調し「プレッシャーマウント方式」で作品を固定し、額装する。 (平成25年度は4の途中まで)

13 ○列品番号 TA-363
○名　称 五龍図巻(ごりゅうずかん)
○指　定 重要文化財
○指定年月 昭和39年(1964)1月28日 絵第1567号
○時　代 南宋
○年代世紀 13c
○品　質 紙本墨画淡彩
○員　数 1巻
○寸 法 等 本紙 縦45.2 横299.5 ㎝
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂等を新調し、巻子装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂等を新調する。

14　○列品番号　TA-642
　　○名　　称　雪景山水図(せっけいさんすいず)
　　○指　　定　国宝
　　○指定年月　平成19年(2007)6月8日
　　○時　　代　南宋～元
　　○年代世紀　13～14c
　　○品　　質　紙本墨画淡彩
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦110.3　横49.7 cm
　　○施工会社　㈱岡墨光堂
　　○修理内容　1. 解体する。 2. 裏打ち等補強を施す。 3. 表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4. 桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。（平成25年度は2の途中まで）

〈東洋書跡〉（2件）

15　○列品番号　TB-1173
　　○名　　称　与無相居士尺牘(むそうこじにあたうせきとく)
　　○指　　定　国宝
　　○指定年月　昭和25年(1950)8月25日　書第2号
　　○時　　代　南宋
　　○年代世紀　12c
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　縦37.9　横65.5 cm
　　○施工会社　㈱松鶴堂
　　○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。

16　○列品番号　TB-1445
　　○名　　称　楷書四字額「丹宸冊府」(かいしょよじがくたんしんさっぷ)
　　○時　　代　清
　　○年代世紀　19c
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1面
　　○寸 法 等　本紙 縦56.3　横159.5 cm
　　○施工会社　㈱岡墨光堂
　　○修理内容　1. 額装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙料絹の欠損部の補絹を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 補絹に補彩を施す。 6. 縁木を新調し、額装に仕立てる。 7. 中性紙保存箱を新調する。（平成25年度は2まで）

〈東洋彫刻〉（2件）

17　○列品番号　TC-391
　　○名　　称　シヴァ半身像（しばはんしんぞう）
　　○時　　代　アンコール
　　○年代世紀　9c
　　○品　　質　砂岩
　　○員　　数　1躯
　　○寸 法 等　総高68.2 cm
　　○施工会社　文化財修復工房明舎
　　○修理内容　1.亀裂部分へ接着剤を含浸させる。 2.心棒を抜き取る。 3.クリーニングする。 4.再接合する。 5.充填及び補彩を施す。 6.安定台を製作する。

18　○列品番号　TC-515
　　○名　　称　塑造破片(そぞうはへん)
　　○年代世紀　7-8c
　　○品　　質　塑造、彩色
　　○員　　数　9個
　　○寸 法 等　右足 長12.5　長16.5　長21.9、合掌手 長12.2　長14.7　長16.0、左下腕 長26.5、腕 長19.0、肉髻 高5.0　幅8.0　奥行8.5 cm
　　○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
　　○修理内容　1. 事前調査(X線CTスキャナーなど)を行う。 2.表面を養生する。 3.表面の養生を除去した後、最小限のクリーニングを行う。 4.彩色層の剥落止めを行う。 5.塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。 6.展示台及び保存箱を作製する。

〈金工〉（2件）

19　○列品番号　E-14970
　　○名　　称　白磁合子（はくじごうす）
　　○時　　代　平安
　　○年代世紀　12c
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1個
　　○寸 法 等　高4.2　口径8.1 cm
　　○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
　　○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

20　○列品番号　E-15159
　　○名　　称　白磁合子蓋(はくじごうすふた)
　　○時　　代　平安
　　○年代世紀　12c
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1個
　　○寸 法 等　高1.7　口径8.3 cm
　　○施工会社　繭山隆司
　　○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

〈刀剣〉(2件)

21 ○列品番号　F-17053
○名　　称　短刀　銘　備州長船住長義　正平十七年十月日（たんとう　めい　）
○時　　代　南北朝
○年代世紀　正平17年(1362)
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長27.6　反り0.2 ㎝
○施工会社　本阿弥道弘
○修理内容　1. 全身を研磨する。 2. 白鞘を製作する。（平成25年度は1の途中まで）

22 ○列品番号　F-20094-2
○名　　称　脇指　銘　筒井越中守藤原輝邦入道紀充　南無妙法蓮華経行年七十七歳(わきざし　めい　なんぶにすまうかなぼうひょうえのじょうまさつぐ)
○時　　代　江戸
○年代世紀　18c
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長43.1　反1.0 ㎝
○施工会社　本阿彌道弘
○修理内容　1. 全身を研磨する。 2. 白鞘の掻き入れを行う。（平成25年度は1の途中まで）

〈陶磁〉(3件)

23 ○列品番号　G-32
○名　　称　錆絵観鷗図角皿(さびえかんおうずかくざら)　尾形光琳・深省合作
○指　　定　重要文化財
○指定年月　昭和58年(1983)6月6日　工第2487号
○時　　代　江戸
○年代世紀　18c
○品　　質　陶製
○員　　数　1枚
○寸 法 等　高2.9　径22.2 ㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. オーバーペイントを除去し、破損箇所を解体する。 2. 破損箇所を接合する。 3. 欠失部分がある場合は補填する。 4. 接合および補填箇所に最低限の色合わせを行なう。（平成25年度は1まで）

24 ○列品番号　G-214
○名　　称　瑠璃地金彩唐草文仙盞瓶(るりじきんさいからくさもんせんさんぴん)　四代高橋道八作
○時　　代　明治
○年代世紀　明治6年(1873)
○品　　質　磁製
○員　　数　2口の内1口
○寸 法 等　高27.9　口径5.8　底径8.6 ㎝
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. オーバーペイントを除去し、折損箇所を解体する。 2. 折損箇所を再接合する。 3. 欠失がある場合は補填する。 4. 接合および補填箇所に最低限の色合わせを行なう。

25 ○列品番号　G-5101
○名　　称　色絵花鳥文大深鉢(いろえかちょうもんおおふかばち)　伊万里(柿右衛門様式)
○指　　定　重要文化財
○指定年月　昭和27年(1952)3月29日　工第517号
○時　　代　江戸
○年代世紀　17c
○品　　質　磁製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高21.4　口径30.3　高台径16.5 ㎝
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1. 全体をクリーニングする。 2. 入を補強し、最小限の色合わせをする。

〈東洋陶磁〉(3件)

26 ○列品番号　TG-959
○名　　称　青花龍文大皿(せいかりゅうもんおおざら)　景徳鎮窯
○時　　代　明
○年代世紀　嘉靖年間(1522～66年)
○品　　質　磁製
○員　　数　1枚
○寸 法 等　高10.5　径52.9　高台径30.9 ㎝
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 破損箇所を接合する。 3. 破損箇所に欠失がある場合は補填する。 4. 接合および補填箇所に最低限の色合わせを行なう。（平成25年度は2の途中まで）

27 ○列品番号　TG-1014
○名　　称　粉彩牡丹文大瓶(ふんさいぼたんもんたいへい)　景徳鎮窯
○時　　代　清
○年代世紀　雍正年間(1723～35年)
○品　　質　磁製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高51.1　口径12.0　底径16.2 ㎝
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1. 旧修理のオーバーペイントを除去する。 2. 解体する。 3. 再接合する。 4. 欠失部分へ状況に応じて補填する。 5. 接合・補填部分に補彩する。（平成25年度は2の途中まで）

28　〇列品番号　TG-2402
　　〇名　　称　青花牡丹唐草文壺(せいかぼたんからくさもんつぼ)　景徳鎮窯
　　〇時　　代　元
　　〇年代世紀　14c
　　〇品　　質　磁製
　　〇員　　数　1口
　　〇寸 法 等　高27.2　口径21.4　底径19.4 ㎝
　　〇施工会社　ますぶち工房
　　〇修理内容　1. オーバーペイントを除去し、破損箇所を解体する。 2. 破損箇所を再接合する。 3. 欠失がある場合は補填する。 4. 破損および補填箇所に最低限の色合わせを行なう。

〈漆工〉(1件)

29　〇列品番号　H-438
　　〇名　　称　蓬莱沈金手箱(ほうらいちんきんてばこ)
　　〇時　　代　室町
　　〇年代世紀　16c
　　〇品　　質　木製漆塗
　　〇員　　数　1合
　　〇寸 法 等　総高24.5　幅34.0　奥行22.8 ㎝
　　〇施工会社　㈱小西美術工藝社
　　〇修理内容　1. クリーニングする。 2. 塗膜の浮きをおさえる。 3. 亀裂箇所に補填、補彩を施す。 (平成25年度は2の途中まで)

〈東洋漆工〉(1件)

30　〇列品番号　TH-439
　　〇名　　称　朱漆化粧箪笥(しゅうるしけしょうだんす)
　　〇時　　代　朝鮮
　　〇年代世紀　19～20c
　　〇品　　質　木製漆塗
　　〇寸 法 等　高27.0　幅23.0　奥行32.5 ㎝
　　〇員　　数　1基
　　〇施工会社　㈱小西美術工藝社
　　〇修理内容　1. クリーニングする。 2. 脚部の欠失部分を木材で復元し、色合わせをする。 3. 虫損、亀裂箇所を補填、補強し、塗膜の浮きをおさえる。 4. 外れた部材を元に戻す。 5. 保存箱、包裂を新調する。 (平成25年度は3まで)

〈染織〉(29件)

31　〇列品番号　I-336-1
　　〇名　　称　赤地鹿文描絵綾天蓋垂飾(あかじしかもんかきえあやてんがいすいしょく)
　　〇時　　代　飛鳥
　　〇年代世紀　7c
　　〇品　　質　絹製、描絵、綾
　　〇員　　数　1枚
　　〇寸 法 等　27.4×15.5 ㎝
　　〇施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
　　〇修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. マット装にする。

32　〇列品番号　I-336-2
　　〇名　　称　淡茶地白虎文描絵綾天蓋垂飾（うすちゃじびゃっこもんかきえあやてんがいすいしょく）
　　〇時　　代　飛鳥
　　〇年代世紀　7c
　　〇品　　質　絹製、描絵、綾
　　〇員　　数　1枚
　　〇寸 法 等　31.0×13.7 ㎝
　　〇施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
　　〇修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする(検討を要する)。 5. マット装にする。

33　〇列品番号　I-336-3a
　　〇名　　称　茶地蝶文摺絵平絹（ちゃじちょうもんすりえへいけん）
　　〇時　　代　奈良
　　〇年代世紀　8c
　　〇品　　質　絹製、摺絵、平絹
　　〇員　　数　1枚
　　〇寸 法 等　38.0×9.5 ㎝
　　〇施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
　　〇修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

34　〇列品番号　I-336-3b
　　〇名　　称　茶地花弁鳥文摺絵平絹（ちゃじかきとりもんすりえへいけん）
　　〇時　　代　奈良
　　〇年代世紀　8c
　　〇品　　質　絹製、摺絵、平絹
　　〇員　　数　1枚
　　〇寸 法 等　38.0×20.0 ㎝
　　〇施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
　　〇修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

35　〇列品番号　I-336-4
　　〇名　　称　黄地小円花文金銀摺絵羅（きじしょうえんかもんきんぎんすりえら）
　　〇時　　代　奈良

○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、摺絵、羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　22.8×18.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

36 ○列品番号　I-336-22
○名　　称　青緑地綾・紫地綾縫い合わせ（あおみどりじあや・むらさきじあやぬいあわせ）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　2枚
○寸 法 等　①27.9×44.0、②27.9×1.3 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

37 ○列品番号　I-336-57
○名　　称　赤地鳥獣連珠円文錦（あかじちょうじゅうれんじゅえんもんにしき）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　33.0×21.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

38 ○列品番号　I-336-64
○名　　称　赤地花入連珠円文錦天蓋垂飾（あかじはないりれんじゅえんもんにしきてんがいすいしょく）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　16.3×8.7 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

39 ○列品番号　I-336-65
○名　　称　赤地鳥入連珠円文錦（あかじとりいりれんじゅえんもんにしき）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　16.5×3.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

40 ○列品番号　I-336-66
○名　　称　赤地花入連珠円文錦（あかじはないりれんじゅえんもんにしき）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.3×4.7 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

41 ○列品番号　I-336-69
○名　　称　淡茶地双鳳連珠円文錦（うすちゃじそうほうれんじゅえんもんにしき　）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　2枚
○寸 法 等　①14.3×20.3、②7.1×12.0 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

42 ○列品番号　I-336-74
○名　　称　赤茶地花獅子連珠文錦（あかちゃじはなししれんじゅもんにしき）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　33.0×15.8 cm

○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

43 ○列品番号　I-336-84
○名　　称　連珠円文綴織（れんじゅえんもんつづれおり）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綴織
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　13.8×15.4 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

44 ○列品番号　I-336-85
○名　　称　連珠円文綴織（れんじゅえんもんつづれおり）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綴織
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　13.0×13.9 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

45 ○列品番号　I-336-89
○名　　称　赤地広東裂（あかじかんとんぎれ）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、経絣、平織
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　25.3×14.5 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

46 ○列品番号　I-336-92
○名　　称　天寿国繍帳（てんじゅこくしゅうちょう）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　推古 30 年(622)
○品　　質　絹製、刺繍
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　7.6×20.4 cm(台裂法量)
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. マット装にする。

47 ○列品番号　I-336-93
○名　　称　縞地竜文刺繍（しまじりゅうもんししゅう）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　30.3×7.2 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

48 ○列品番号　I-336-94
○名　　称　刺繍残片（ししゅうざんぺん）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　14.3×4.2 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

49 ○列品番号　I-336-95
○名　　称　天寿国繍帳（てんじゅこくしゅうちょう）
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建治元年(1275)
○品　　質　絹製、刺繍
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　6.3×26.5 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

50 ○列品番号　I-336-96

○名　　称　刺繍残片（ししゅうざんぺん）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍
○員　　数　2枚
○寸 法 等　①8.3×5.0、②2.1×1.1 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

51 ○列品番号　I-336-97
○名　　称　刺繍残片（ししゅうざんぺん）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍
○員　　数　1枚
○寸 法 等　9.8×5.2 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

52 ○列品番号　I-336-98
○名　　称　繍仏裂 （しゅうぶつぎれ）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍、繻
○員　　数　1枚
○寸 法 等　12.5×5.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

53 ○列品番号　I-336-99
○名　　称　繍仏裂（しゅうぶつぎれ）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍、繻
○員　　数　2枚
○寸 法 等　①15.7×7.0、②8.0×4.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

54 ○列品番号　I-336-100
○名　　称　繍仏裂（しゅうぶつぎれ）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍、繻
○員　　数　1枚
○寸 法 等　6.7×4.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

55 ○列品番号　I-336-101
○名　　称　繍仏裂（しゅうぶつぎれ）
○時　　代　飛鳥
○年代世紀　7c
○品　　質　絹製、刺繍、繻
○員　　数　2枚
○寸 法 等　①9.5×5.3、②8.5×5.5 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

56 ○列品番号　I-336-109
○名　　称　糸総付垂飾残欠（いとふさつきすいしょくざんけつ）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦、糸総
○員　　数　1枚
○寸 法 等　31.0×10.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、糸総部分も形を整える。 4. マット装にする予定であるが、修理方法は要検討。

57 ○列品番号　I-336-110
○名　　称　白茶地繻（しろちゃじしじら）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、繻

○員　　数　1枚
○寸 法 等　8.5×9.2 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

58 ○列品番号　I-336-111
○名　　称　赤地ホラ羅（あかじほらら）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、ホラ羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　9.0×8.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

59 ○列品番号　I-336-112
○名　　称　黄緑地繖（きみどりじししじら）
○時　　代　飛鳥～奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製・繖
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.0×12.2 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 糸目を揃えながら、文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装にする。

〈東洋染織〉（1件）

60 ○列品番号　TI-418-3
○名　　称　コート　金茶色繻子地花唐草文様刺繍(きんちゃいろしゅすじはなからくさもんようししゅう)
○年代世紀　19c
○品　　質　絹、繻子地に絹糸と金銀モール糸で刺繍
○員　　数　1着
○寸 法 等　丈 88.5　肩幅 34.5　袖長 49.5 cm
○施工会社　㈱染技連
○修理内容　1. 部分的に解体する。 2. 損傷箇所に補修裂をあてて縫いとめる。 3. 可能な箇所についてシミ抜きをする。 4. 刺繍のほつれをとめる。 5. しわをのばす。 6. 保存箱、包裂(羽二重)、布団を新調する。（平成25年度は1まで）

〈考古〉（28件）

61 ○列品番号　J-36506
○名　　称　注口土器(ちゅうこうどき)
○時　　代　縄文　晩期
○年代世紀　前1000～前400年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高 12.5　口径 13.0 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（注口部は別個体の可能性があるため、解体後方針を検討する。）

62 ○列品番号　J-36555
○名　　称　香炉形土器（こうろがたどき）
○時　　代　縄文　晩期
○年代世紀　前1000～前400年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高 8.5　幅 14.0 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

63 ○列品番号　J-36531
○名　　称　台付深鉢形土器（だいつきふかばちがたどき）
○時　　代　縄文　晩期
○年代世紀　前1000～前400年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高 13.0　口径 12.5 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

64 ○列品番号　J-21831
○名　　称　壺形土器（つぼがたどき）
○時　　代　続縄文　前期
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高 36.0　口径 11.0 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。
65 ○列品番号　J-14068

○名　　称　須恵器　広口壺（すえき　ひろくちつぼ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　5c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　器高20.9　口径15.4 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

66　○列品番号　J- 20292-2
○名　　称　須恵器　ハソウ（すえき　はそう）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高13.0　口径13.6 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

67　○列品番号　J- 20292-3
○名　　称　須恵器　ハソウ（すえき　はそう）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高13.4　口径13.4 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

68　○列品番号　J-6114
○名　　称　刀子（とうす）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長13.3　幅1.7 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

69　○列品番号　J-6115
○名　　称　鉄鏃（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○員　　数　6本
○寸 法 等　現存長9.4～17.4 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填・復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

70　○列品番号　J-6788
○名　　称　土師器　把手付鉢（はじき　とってつきはち）
○時　　代　古墳
○年代世紀　5c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高13.7　口径15.0 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。

71　○列品番号　J-1540
○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○時　　代　縄文　後期
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1本
○寸 法 等　高21.0　口径13.0 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

72　○列品番号　J-12002
○名　　称　注口付壺形土器（ちゅうこうつきつぼがたどき）
○時　　代　縄文後期
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高24.0 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

73　○列品番号　J-8054
○名　　称　内耳土器（ないじどき）

○年代世紀　14～16c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高10.0　口径17.5×25.0 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. 付着物を保護しながらクリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

74　○列品番号　J-8057
○名　　称　鉢形土器（はちがたどき）
○時　　代　オホーツク文化併行期
○年代世紀　6～8c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高12.5　口径11.0 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. 付着面を保護しながらクリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

75　○列品番号　J-1991
○名　　称　壺形土器（つぼがたどき）
○時　　代　弥生　後期
○年代世紀　1～3c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高17.7　口径11.0 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

76　○列品番号　J-20
○名　　称　須恵器　ハソウ（すえき　はそう）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高21.0　口径17.8 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

77　○列品番号　J-21
○名　　称　須恵器　ハソウ（すえき　はそう）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高14.0　口径12.1 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

78　○列品番号　J-43
○名　　称　須恵器　脚付長頸壺（すえき　きゃくつきちょうけいこ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高25.9　胴径14.0　口径8.8 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

79　○列品番号　J-57
○名　　称　須恵器　平瓶（すえき　ひらべ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高13.1　長15.0　口径5.7 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

80　○列品番号　J-36788
○名　　称　鉄戈（てっか）
○時　　代　弥生　中期
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長23.6　胡幅6.5 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

81　○列品番号　J-4136
○名　　称　鍔（つば）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c

○品　　質　鉄製
○員　　数　2個
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

82 ○列品番号　J-597
○名　　称　刀子（とうす）
○時　　代　古墳
○年代世紀　5～6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長10.7　幅1.6 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.脱塩処理する。 3.強化する。 4.補填、復元する。 5.補填箇所に補彩する。

83 ○列品番号　J-38
○名　　称　須恵器　有蓋脚付長頸壺（すえき　ゆうがいきゃくつきちょうけいこ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高28.5　胴径15.0 cm
○施工会社　藤山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

84 ○列品番号　J-22931
○名　　称　触角式柄頭銅剣（しょっかくしきつかがしらどうけん）
○時　　代　弥生　中期
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　青銅製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長48.6　柄頭幅8.6 cm
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 強化する。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

85 ○列品番号　J-7878-1～4
○名　　称　鉄鉾（てつほこ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　4個
○寸 法 等　長21.0～29.0　幅2.9～4.0 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2.脱塩処理する。3.. 強化する。 4. 接合する。 5. 補填、復元する。 6. 補填箇所に補彩する。

86 ○列品番号　J-7878-5
○名　　称　鉄石突（てついしづき）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長24.0　幅3.5 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所

○修理内容　1. クリーニングする。 2.脱塩処理する。3.. 強化する。 4. 接合する。 5. 補填、復元する。 6. 補填箇所に補彩する。
87 ○列品番号　J-7879-1～3
○名　　称　鉄石突（てついしづき）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長3.7～15.9　幅2.5～3.2 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2.脱塩処理する。3.. 強化する。 4. 接合する。 5. 補填、復元する。 6. 補填箇所に補彩する。

88 ○列品番号　J-7882・7882ヲ
○名　　称　轡残欠（くつわざんけつ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6
○品　　質　鉄製
○員　　数　2個
○寸 法 等　①鏡板 長径6.7、②素環鏡板 長径8.2 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2.強化する。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

〈東洋考古〉（2件）
89 ○列品番号　TJ-2209
○名　　称　鉄鉞戟（てつえつげき）
○時　　代　漢
○年代世紀　前2～後3c
○品　　質　鉄鍛造

○員　　数　1本
○寸 法 等　長43.3　幅15.3 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

90 ○列品番号　TJ-2224
○名　　称　鉄剣(てっけん)
○時　　代　前漢
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　鉄製、格：青銅製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長106.9　幅4.8 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成25年度は2まで）

〈和書〉(2件)

91 ○列品番号　QA-4244
○名　　称　摂津国図(せっつのくにず)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色、折仕立
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　134. 7×129. 8 cm
○施工会社　㈱墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

92 ○列品番号　QA-4261
○名　　称　石見国図(いわみのくにず)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色、折仕立
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　148. 7×137. 5 cm
○施工会社　㈱墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

〈館資〉(1件)

93 ○列品番号　館資678
○名　　称　重要雑録(じゅうようざつろく)
○時　　代　明治
○年代世紀　明治16～17年（1883～84）
○品　　質　紙本墨書・インク・鉛筆
○員　　数　1冊
○施工会社　㈱東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.劣化が著しい箇所には両面より典具帖紙による補強を行う。 4.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 5.表紙は新調し、題簽、ラベルなどは再用する。 6.封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。 7.冊子本に仕立てる。

【京都国立博物館】(15件)

＜絵画＞(3件)

1　○名　　称　病草紙（やまいのそうし）
○指　　定　国宝
○品　　質　紙本著色
○員　　数　10面
○寸 法 等　縦 25.9～26.0cm　横 25.3～49.3cm
○施工会社　株式会社　岡墨光堂
○修理内容　1 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2 台紙貼り装の解体を行う。 3 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。 4 浄化水にて本紙の汚れを除去する。 5 布海苔を用い、養生紙にて表打ちを行う。 6 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。 7 調査に基づいて補修紙を作成し、料紙欠失箇所に補紙を行う。 8 染薄美濃紙にて肌裏打ちを行い、表打ちの養生紙を除去する。 9 軸首を5巻分新調する。 10 美栖紙にて増裏打ちを行う。 11 折れ伏せを入れ、折れを直す。 12 美栖紙にて中裏打ちを行う。 13 混合紙にて総裏打ちを行い、仮張りし乾燥させる。 14 軸首を4巻分新調し、表紙裂、見返し紙を新調する。 15 補紙の箇所に補彩を行う。 16 隔及び軸巻紙を本紙料紙に合わせて作成し、本紙同様の裏打ちを施す。 17 表紙裂及び見返しは、肌裏を打ち、合わせて表紙の形に仕立てる。 18 本紙に、隔、軸巻き紙、表紙を継ぎ、新調した軸首、中軸、紐等を取り付け巻子装に仕上げる。 19 桐製太巻添軸、桐製屋郎箱を新調し、本紙を納入する。(24年度より・4ヶ年事業)

2　○名　　称　若狭国鎮守神人絵系図（わかさのくにちんじゅしんじんえけいず）
○指　　定　重要文化財
○時　　代　鎌倉時代
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦　31.2cm　長 1406.7cm
○施工会社　株式会社　松鶴堂
○修理内容　1 損傷状態について調査し、写真撮影を行う。 2 解体作業に耐えるよう絵の具の剥落箇所に剥落止めを行う。 3 解体し、中軸、表装裂を取り外す。 4 浄化水によって料紙表面の汚れを除去する。 5 剥落止めを充分に施す。 6 養生紙によって表打ちを行う。 7 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。 8 新規補修紙を作成し、料紙欠失箇所に補紙を補填する。 9 新規肌裏を打つ。 10 増裏打ちを行う。 11 折れ伏せを施し、補強する。 12 中裏を打つ。 13 総裏を打つ。 14 全ての裏打ちが完了した料紙を継ぎ合わせる。 15 仮張りに表張りを行い、充分乾燥させる。 16 新規補紙に補彩を行う。 17 表張りを行い、充分乾燥させる。 18 表紙、見返しは新調する。 19 軸首、軸木、八双、紐、軸巻紙を新調し、表紙を取り付け、巻子装に仕立てる。 20 桐製太巻添軸、2 巻入桐製屋郎箱、漆塗桐製外箱を新調し、料紙を包裂に包み収納する。(24年度より・2ヶ年事業)

3　〇名　　称　地蔵菩薩像（じぞうぼさつぞう）
　　〇時　　代　南北朝時代（14世紀）
　　〇品　　質　絹本著色
　　〇員　　数　1幅
　　〇寸 法 等　本紙縦 105.4cm　本紙横 56.6cm　総縦 186.5cm　総横 74.0cm
　　〇施工会社　株式会社　松鶴堂
　　〇修理内容　1 損傷状態について調査・撮影記録を行う。 2 顔料剥落箇所に剥落止めを行う。 3 表装を解装し、表装裂と本紙を外す。 4 クリーニングを行う。 5 折伏・旧肌裏紙の除去を行う。 6 旧補絹を除去する。 7 本紙欠失箇所に補絹を施す。 8 薄美濃紙にて本紙に肌裏打を施す。 9 美栖紙にて増裏打を施す。 10 本紙の折損脆弱箇所に折伏せによる補強補修を施す。 11 美栖紙にて2度目の増裏打を施す。 12 補絹箇所に補彩を行う。 13 表装裂地については相応しいものに新調する。 14 表装裂地に肌裏打、増裏打を施し、一時仮張し乾燥させる。 15 本紙・表装裂地を仮張りから外し、付廻しを行う。 16 美栖紙にて中裏打ち、宇陀紙で総裏打を施し、上巻絹を施す。 17 仮張を行い、十分に乾燥させる。 18 紐・軸木(上下一組)は新調、軸首は清浄にし再用し、軸装に仕立てる。 19 包裂・桐太軸巻(木口詰)・桐屋郎箱・紙帙を新調する。 20 完成後の写真撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。(24年度より・3ヶ年事業)

＜彫刻＞（1件）

4　〇名　　称　伎楽面（ぎがくめん）
　　〇時　　代　奈良時代　8世紀
　　〇員　　数　1面
　　〇寸 法 等　面長　38.2cm　面巾　22.0cm　面高　22.8cm
　　〇施工会社　財団法人　美術院
　　〇修理内容　（本躯）1 表面漆層及び彩色は、適切な素材を用いて剥落止めを行う。 2 各所に見られる朽損あるいは割損による小欠損部は現状のままとし、損傷が進まないよう安定化をはかる。 3 各所の虫蝕孔は、適切な充填材によって虫穴詰めを行う。 4 鶏冠及び左耳後の虫蝕朽損部は材質強化も視野にいれながら、あらたに損傷が進むことのないように留意して充填保護を行う。 5 面裏木芯部付近の木屎の粉状化は、適切な素材を用いて安定化をはかる。 6 後補部分は現状のままとし、当初部分との繋ぎ目は適切な修整を行う。 7 面裏に貼付されている蔵品番号を記した古い紙は、取り外し別保存とする。
（保存箱）8 新たな桐箱を作成し、面の出し入れと保存の安全をはかる。 9 面裏に貼付されている蔵品番号を記した古い紙・面を包んでいたと思われる絹布は、整理し新調保存箱に入れ保存をはかる。 10 以上の修理箇所にはすべて適切な仕上げをほどこし、修理記録を将来にわたって失われない形で残す。(24年度より・2ヶ年事業)

＜金工＞（5件）

5　〇名　　称　刀　銘　帝室技藝員月山貞一七十八歳謹作(花押)大正二年十一月日 以鎌倉古傳 為永田敏夫君守護（かたな　めい　ていしつぎげいいんがっさんさだかずななじゅうはっさいきんさく（かおう）たいしょうにねんじゅういちがつひ　かまくらこでんをもってす　ながたとしおくんしゅごのため）
　　〇時　　代　大正2年（1913）
　　〇品　　質　鉄・鍛造
　　〇員　　数　1口
　　〇寸 法 等　刃長：67.3cm
　　〇施工会社　(有)藤代
　　〇修理内容　・刀身の研磨のみを行う。
・刀身の研磨は古式に則った差込研ぎにて行う。
・差込研ぎは現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるため、これを行える研師は少なく、修理にあたって業者の選定に慎重を要する。
1 研磨作業前に記録写真の撮影を行う。2 下地研磨　3 仕上げ研磨。 4 研磨作業後に記録写真の撮影を行う。

6　〇名　　称　刀　銘　帝室技藝員月山貞一七十八歳謹作(花押) 大正二年十二月日 以備前一文字傳 為永田亀雄君守護（かたな　めい　ていししぎげいいんがっさんさだかずななじゅうはっさいきんさく（かおう）　たいしょうにねんじゅうにがつひ　びぜんいちもんじでんをもってす　ながたかめおくんしゅごのため）
　　〇時　　代　大正2年（1913）
　　〇品　　質　鉄・鍛造
　　〇員　　数　1口
　　〇寸 法 等　刃長：68.2cm
　　〇施工会社　(有)藤代
　　〇修理内容　・刀身の研磨のみを行う。
・刀身の研磨は古式に則った差込研ぎにて行う。
・差込研ぎは現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるため、これを行える研師は少なく、修理にあたって業者の選定に慎重を要する。
1 研磨作業前に記録写真の撮影を行う。 2 下地研磨。 3 仕上げ研磨。 4 研磨作業後に記録写真の撮影を行う。

7　〇名　　称　太刀　銘　助久（たち　めい　すけひさ）
　　〇時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　〇品　　質　鉄・鍛造
　　〇員　　数　1口
　　〇寸 法 等　刃長：71.0cm
　　〇施工会社　(有)藤代
　　〇修理内容　・切先部分に対して部分研磨を施し、全体との調和をはかり、保存のための白鞘を新調する。
・刀身の研磨は現状が江戸時代の差込研ぎであるため、同じく差込研ぎにて行う。差込研ぎは現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるため、これを行える研師は少なく、修理にあたって業者の選定に慎重を要する。
・また、部分研磨は極めて高度な技術が必要とされる研磨技法であるため、この点でも注意が必要である。
1 研磨作業前に記録写真の撮影を行う。 2 白鞘の作製。 3 下地研磨。 4 仕上げ研磨。 5 研磨作業後に記録写真の撮影を行う。

8　〇名　　称　刀　無銘（名物島津正宗）（かたな　むめい（めいぶつしまづまさむね））
　　〇時　　代　鎌倉時代・13～14世紀、相模国
　　〇品　　質　鉄・鍛造
　　〇員　　数　1口
　　〇寸 法 等　刃長　68.7cm
　　〇施工会社　本阿彌道弘
　　〇修理内容　・刀身を研磨し、保存箱の役目を果たす白鞘を新調する。現在の白鞘はツナギをいれて別途保存する。
・研磨作業前と完了後、写真撮影を行う。
・長大な太刀を短くした大磨上の刀だが、製作当初の状態を比較的良好に保っている。地鉄も精良で、肉置きも磨耗していないため、現状の美点を損なわずに表面の錆のみを除去するためには極めて高度な研磨技術を必要とする。
・本作品は古刀期の鎌倉で製作されたものであり、前回の研磨を重要無形文化財保持者の故・本阿弥日洲氏が施しているため、今回の修理でも同門・同系統の研磨技術を主とする工房にて施工したい。具体的には仕上げ研磨に「金肌拭」の技法を用い、国宝・重要文化財の研磨経験豊富な本阿弥系の工房が望ましい。また、保存箱の役目を果たす白鞘も経年劣化が進んでいるため、これを新たに新調する。
1 刀身の状況に応じて、研磨作業の方針を定める。 2　白鞘より解体し、全体を洗浄する。 3　名倉砥で小さな錆を除去し、細名倉砥で、砥石目を一層細かくする。 4　内曇砥（刃砥・地砥）を用い、細名倉砥の砥石目を完全に除去し、地肌と刃文の働きを整え、下地研磨を終える。 5　白鞘作成を鞘師に依頼する。
6　刀工の独自色が発揮される地肌を現すために、柔らかめ地艶砥から始め、順次堅めの地艶砥を用いる。 7　刃艶砥を用い、内曇砥の砥石目を除去する。本修

理の要である「金肌拭い」を施す。 8　この間、刃文部が黒くなるので刃艶砥も用いて、刃文と地肌を整える。鎬地も同様に整える。 9　帽子部分のなるめ作業を行う。竹の定規とヘラを用い、厚めの刃艶砥で横手線を決める。帽子部分を、なるめ台に載せた薄い刃艶砥でなるめ、帽子部分を完成させる。 10　棟と鎬地部分は、磨きヘラと磨き棒を用いて、磨き仕上げを行う。 11　以上の作業を終えた後、全体の様子を確認し、研磨作業を終える。 12　修理前は全身のカット、修理後は全身・部分（刃文）・なかご両面などのカットを撮影する。

9　○名　　称　三鈷柄剣　無銘（さんこづかけん　むめい）
　○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
　○品　　質　鉄・鍛造、木彫
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　刃長　17.3㎝
　○施工会社　真澄庵
　○修理内容　・刀身を研磨し、保存箱の役目を果たす白鞘を新調する。現在の白鞘はツナギをいれて別途保存する。
・研磨作業前と完了後、写真撮影を行う。
・経年による錆が発生しており保存維持のための研磨が必要である。本来の用途が仏具であるため、現状では美術刀剣に用いられる種類の研磨が施されていない。本品の性質を考えると、過剰な美術刀剣向きの研磨を施すことは本意ではなく、保存を目的として錆の進行を食い止めるための研磨を施工する。現状の美点を損なわずに表面の錆のみを除去するためには極めて高度な研磨技術を必要とする。実施工房については、大和鍛冶の作品であることも鑑み、関西圏で大和古剣の研磨実績を持つ工房を選定したい。また、保存箱の役目を果たす白鞘も経年劣化が進んでいるため、これを新たに新調する。
1　刀身の状況に応じて、研磨作業の方針を定める。 2　刀身の錆に応じて改正砥で錆の除去を始め、鎬線を修正し、刀身の姿を整える。 3　名倉砥でより小さな錆を除去し、細名倉砥で、砥石目を一層細かくする。 4　最後に内曇砥を用い、細名倉砥の砥石目を完全に除去し、地肌と刃文がきちんと見えるようにし、下地研磨を終える。 5　なかごの表層の赤錆びは、竹ヘラなどを用いて除去する。 6　健全な状態のため差込仕上げ研ぎで行う。 7　刃艶砥を用い、内曇砥の砥石目を除去する。地肌を現すために、柔らかめ地艶砥から始め、順次堅めの地艶砥を用いる。 8　この間、刃文部が黒くなるので刃艶砥も用いて、刃文と地肌を整える。鎬地も同様に整える。 仏具であることを鑑み、過剰な装飾は控える。 9　帽子部分のなるめ作業を行う。竹の定規とヘラを用い、厚めの刃艶砥で横手線を決める。帽子部分を、なるめ台に載せた薄い刃艶砥でなるめ、帽子部分を完成させる。 10　以上の作業を終えた後、全体の様子を確認し、研磨作業を終える。 11　修理前は全身のカット、修理後は全身・部分（刃文）・なかご両面などのカットを撮影する。

＜漆工＞（1 件）

10　○名　　称　花鳥蒔絵螺鈿書箪笥（かちょうまきえらでんたんす）
　○時　　代　桃山時代・16 世紀
　○品　　質　木造、漆塗、蒔絵、螺鈿、金銅製金具
　○員　　数　1 基
　○寸 法 等　幅 60.8㎝　奥行 34.7㎝　高 43.3㎝
　○施工会社　北村繁
　○修理内容　・クリーニングに先立ち、剥落のおそれのある螺鈿や塗膜を保護する。
・西洋塗料のクリーニングを行い、後世の補彩のうち調和を損ねている部分を可能な範囲で除去する。
・剥離した螺鈿や漆塗膜の細かな隙間に、膠や麦漆を注入してひとつひとつ圧着する。
・漆塗の表面は漆固めで強化し、螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施し、引っ掛かりをなくす。
・漆塗膜の欠失部は刻苧や漆下地で補う。
・別保存されている螺鈿や漆塗膜の剥落片は、元の位置を特定できるかぎり本体に戻す。
・木地の亀裂や釘穴周辺、また前扉の蝶番金具の周辺は、刻苧漆、檜材の埋め木、漆下地を用いて形状を整える。
・前扉の本体側蝶番金具を、所定の位置に打ち込んで扉を固定する。
・以上の工程は、いずれも繊細かつ高度な技術と豊富な経験を必要とし、業者の選定には慎重を期さなければならない。
・他館からの借用希望も多く寄せられる作品であり、蒔絵としての全体の調和を整えて、安全に取り扱えるようにしたい。
1 修理前の写真撮影を行う。 2 作業中に剥落の恐れがある螺鈿や漆塗膜を和紙片で養生する。 3 クリーニングを行う。　4 剥離した螺鈿や漆塗膜を圧着する。 5 漆塗の表面を漆固めで強化する。 6 螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施す。　7 漆塗膜の欠失部は刻苧や漆下地で補う。 8 木地の欠失部は刻苧漆、檜材の埋め木、漆下地で補う。 9 前扉の本体側蝶番金具を、所定の位置に打ち込んで扉を固定する。　10 修理後の写真撮影を行う。(25 年度より 3 ヶ年事業)

＜染織＞（4 件）

11　○名　　称　唐織 紅白濃茶段枝垂桜文様（からおり こうはくこいちゃだんしだれざくらもんよう）
　○時　　代　江戸時代　18～19 世紀
　○品　　質　表地：絹・唐織　裏地：絹・平織
　○員　　数　1 領
　○寸 法 等　身丈 151.0㎝　裄 76.0㎝　袖丈 55.0㎝　袖幅 32.0㎝　衿幅 11.0㎝
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　1 解体前に全体像・各部分を安全な方法で撮影し、寸法・破損箇所などを記録・撮影する。続く作業工程についても適切な記録・撮影を行う。 2 作品に対するなじみなどを考慮して使用材料を選定し、適切な色に染色する。 3 縫い目をはずし解体する。 4 可能な範囲で表地を整える。 5 鉄媒染部分およびそれ以外の部分を適切な方法で補修する。 6 必要な場合には全体の補強を行う。 7 裏地を新調し、適切に仕立てる。 8 保存に適した素材による台紙つきの畳紙あるいは畳裂を新調する。 9 仕立後の全体像を撮影し、すべての作業にわたる修理報告書を作成する。(24 年度より・2 ヶ年事業)

12　○名　　称　萌葱石畳金襴（もえぎいしだたみきんらん）
　○時　　代　中国・明時代　16 世紀
　○品　　質　絹・地絡全通織金襴
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　長 15.6㎝　幅 11.0㎝
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　・乱れた金糸の整形には、高度な技術を必要とする。
・作品はクリーニングを行う。
・本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。
・台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。
1 全体像を安全な方法で撮影し、寸法・破損箇所などを記録・撮影する。続く作業工程についても適切な記録・撮影を行う。　2 作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から取り外す。　3 可能な範囲で裂地のクリーニングを行う。　4 乱れた金糸は布海苔を用いて整形する。　5 保存に適した素材および構造による台紙を新調し、作品と旧畳紙を収納する。　6 保存に適した素材による台紙収納袋を作成し、適切な場所に作品番号を付ける。 7 修理後の全体像を撮影し、すべての作業にわたる修理報告書を作成する。

13　○名　　称　二人静紫地古金襴（ふたりしずかむらさきじこきんらん）
　○時　　代　中国・元～明時代　14～15 世紀
　○品　　質　絹・地絡全通織金襴
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　長 8.0㎝　幅 9.0㎝
　○施工会社　株式会社　染技連

〇修理内容　・乱れた金糸の整形には、高度な技術を必要とする。
・作品はクリーニングを行ってから、右辺に裏から補強裂をあてて繕う。
・本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。
・台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。
1 全体像を安全な方法で撮影し、寸法・破損箇所などを記録・撮影する。続く作業工程についても適切な記録・撮影を行う。 2 作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から取り外す。 3 可能な範囲で裂地のクリーニングを行う。 4 乱れた金糸は布海苔を用いて整形する。 5 裂地にクレプリンを用いて補修糸で繕い、部分補修する。 6 保存に適した素材および構造による台紙を新調し、作品と旧畳紙を収納する。 7 保存に適した素材による台紙収納袋を作成し、適切な場所に作品番号を付ける。 8 修理後の全体像を撮影し、すべての作業にわたる修理報告書を作成する。

14 〇名　称　鶏頭裂金襴（けいとうきれきんらん）
〇時　代　中国・元～明時代　14～15 世紀
〇品　質　絹・地絡全通織金襴
〇員　数　1 裂
〇寸 法 等　m 長 23.2cm　幅 14.7cm
〇施工会社　株式会社　染技連
〇修理内容　・乱れた金糸の整形には、高度な技術を必要とする。
・作品はクリーニングを行う。
・本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。
・台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。
1 全体像を安全な方法で撮影し、寸法・破損箇所などを記録・撮影する。続く作業工程についても適切な記録・撮影を行う。 2 作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から取り外す。 3 可能な範囲で裂地のクリーニングを行う。 4 乱れた金糸は布海苔を用いて整形する。 5 保存に適した素材および構造による台紙を新調し、作品と旧畳紙を収納する。 6 保存に適した素材による台紙収納袋を作成し、適切な場所に作品番号を付ける。 7 修理後の全体像を撮影し、すべての作業にわたる修理報告書を作成する。

＜考古＞（1 件）
15 〇名　称　変形方格規矩鏡（京都府向日市物集女恵美須山古墳出土）（へんけいほうかくきくきょう（きょうとふむこうしもづめえびすこふんしゅつど）
〇時　代　古墳時代
〇品　質　青銅
〇員　数　1 面
〇寸 法 等　面径 24.0ｃｍ
〇施工会社　公益財団法人元興寺文化財研究所
〇修理内容　・本体鏡面に付着した小型獣文鏡を本体鏡から分離する。この２面は昭和初期に一度別々に分かれた経緯が確認されており、現状では２面が接着剤で接合されていることが明らかである。
・２面の分離には、青銅遺物の修理経験と高度な技術が不可欠である。
・この状態の現状変更に関しては平成２５年１月の文化財保護審議委員会で承認を得ている。
1 保存修理前の撮影など、調査記録を作成する。 2 二面を分離し、付着した土、錆等の除去を行う。 3 洗浄および乾燥させる。 4 防錆処置を施す。 5 樹脂を含浸させる。 6 接合・復元作業を行う。 7 樹脂を塗布する。 8 古色に仕上げる。 9 修理後の状態を撮影するなどして記録を残す。

【奈良国立博物館】（8件）

＜絵画＞（4 件）
1 〇名　称　絹本著色十王像　〈陸仲淵筆〉（けんぽんちゃくしょくじゅうおうぞう）
〇指　定　重要文化財
〇員　数　3 幅
〇時　代　元時代（中国）　14 世紀
〇品　質　絹本著色
〇寸 法 等　各　縦 85.8 cm　横 50.6 cm
〇施工会社　（株）文化財保存
〇修理内容　解体修理。多数ある横折れや料絹の欠失に、折れ伏せや剥落止めなど、適切な処置を施し、掛軸装としてのしなやかさを回復させるため、裏打紙を全て取り替える。本品には肌裏紙上への補筆や旧補絹への補筆が見られることから、詳細な損傷地図を作成し、除去及び再使用の検討を行う。旧肌裏紙の取り替えに際しては、裏面の状態を確認しながら作業を行える乾式肌上げ法を採用する。表装裂、軸木はいたみがあるため新調し、軸首は再使用する。各幅に桐材太巻添軸を新調する。箱は三幅入りの二重箱に改め、外側を黒漆塗桐台差箱、中箱は桐印籠蓋箱とする。なお、修理過程では、必要に応じて高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等の光学機器を用いた調査を実施し、当館研究員と密に情報を共有しながら修理方針を決定する。また調査や修理の過程で得られたデータを報告書の形で提出する。（継続 3 か年事業のうちの最終年度）

2 〇名　称　絹本著色普賢延命像（けんぽんちゃくしょくふげんえんめいぞう）
〇指　定　重要文化財
〇員　数　1 幅
〇時　代　鎌倉時代　13 世紀
〇品　質　絹本著色
〇寸 法 等　縦 91.0 cm　横 41.8cm
〇施工会社　（株）文化財保存
〇修理内容　解体修理。修理実施前に光学機器等を用いた材料などの分析調査を当館研究員と共同で行い、その成果を随時当館研究員に報告して修理方針を確認する。濾過水を用いて汚れを除去し、旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。本紙料絹欠失箇所に電子線劣化絹を用いて補絹を施す。表装裂・軸首は再使用し、鐶、上下軸、啄木のみ新調する。桐材太巻添軸、桐材印籠箱、裂貼四方帙を新調する。（継続 2 か年事業のうちの最終年度）

3 〇名　称　絹本著色六字経曼荼羅（けんぽんちゃくしょくろくじきょうまんだら）
〇員　数　1 幅
〇時　代　鎌倉時代　13 世紀
〇品　質　絹本著色
〇寸 法 等　縦 79.5 cm　横 38.6cm
〇施工会社　（株）文化財保存
〇修理内容　解体修理。経年による硬化で失われた掛軸装としてのしなやかさの回復を図り、本品観賞の妨げになっている旧肌裏紙を張り替えるため、表装を解体し裏打紙を全て取り替える。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法採用する。過去の修理で施された伏裏絹や補絹は、折りの組織が異なるため、全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。全面に発生した折れは、それを軽減するために折れ伏せを施す。太巻添軸、表装裂、上下軸、軸首、桐製保存箱、裂貼四方帙は新調する。（継続 2 か年事業のうちの第 1 年目）

4 〇名　称　絹本著色安東円恵像（けんぽんちゃくしょくあんどうえんえぞう）
〇指　定　重要文化財
〇員　数　1 幅
〇時　代　鎌倉時代　14 世紀　　元徳二（1330）年

○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　縦119.5㎝　横57.9㎝
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。経年により画面各所に折れが生じており、更に本紙料絹の剥離・欠失に至っている。それらの構造的な不具合を改善するため、表装を解体し裏打紙を全て取り替える。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法採用する。折り組織が異なる旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。全面に発生した折れは、それを軽減するために折れ伏せを施す。表装については一文字裂、中縁裂、軸首を元使いとし、上下裂、上下軸、啄木を新調。太巻添軸、桐製保存箱、裂貼四方帙を新調する。

＜書跡＞(1件)

5　○名　　称　紙本墨書立川流儀軌残巻（しほんぼくしょたちかわりゅうぎきざんかん）
○員　　数　1巻
○時　　代　鎌倉時代　13世紀　　正応五（1292）年
○品　　質　紙本墨書墨画著色
○寸 法 等　縦31.0㎝　横358.4㎝
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。観賞の妨げになる本紙付着物等汚れを除去し、墨書・彩色等の状態を確認した上で、折れによる浮きなどの必要な箇所に剥落止めを施す。過去の修理でずれた紙継ぎの修整や、折れによる剥離進行を抑えるため、紙継ぎを外した後、濾過水を用いてクリーニングを行い、折れ・皺をプレスにより整える。損傷進行の恐れのある箇所については、本紙の紙質を調査した上で、適した補修紙を作製し、欠落箇所の補填、脆弱な箇所の補強を行う。表紙・巻頭などを欠失しているため、表紙、八双、巻緒、隔て紙、軸巻紙、軸木、軸頭を新調して巻子装に仕立て直す。保管箱を新造する。

＜染織＞(1件)

6　○名　　称　刺繍釈迦如来説法図（ししゅうしゃかにょらいせっぽうず）
○指　　定　国宝
○員　　数　1面
○時　　代　奈良または中国・唐時代　8世紀
○品　　質　絹製　刺繍
○寸 法 等　縦207.0㎝　横157.0㎝
○施工会社　㈱文化財保存
○修理内容　解体修理。過去の修理や経年・構造による損傷の軽減を図るため、装丁を解体する。装丁は全て復元新調するが、床に接する下端には薄い裂縁を付ける。額装扉が刺繍面に直接当たらないように、本紙周囲に厚みを付ける。現行の縁まわしをめくり、刺繍面を全てあらわす。縁まわし裂は現行のものを復元した裂を新調する。剥落の危険がある箇所を接着し、剥落止めを施す。旧補修箇所は表から剥落止めし、オリジナル部分との高低差をなくす処置を施しつつ、現行より刺繍になじむ色となるよう調整する。裂けている部分や画面全体の安定のため裏打ち紙を打ち替える。銘文は現行に準じた箇所に貼り付ける。取り扱い及び収納用の木枠を作製し、木枠ごと収納する箱を作製する。箱は作品を立てて保管する仕様とする。（継続4 か年事業のうちの第2年目）

＜考古＞(2件)

7　○名　　称　陶棺　（奈良市西大寺出土）　（とうかん〔ならしさいだいじしゅつど〕）
○員　　数　1点
○時　　代　古墳時代　6～7世紀
○品　　質　陶製（素焼き）　朱塗り
○施工会社　公益財団法人元興寺文化財研究所
○修理内容　過去補修材の劣化や、自重による損傷移行を抑えるため、旧補修材を除去し、再接合を行う。欠落部分には軽量かつ強度の高い樹脂を充填。必要に応じて自重に耐える補強材を付加する。追補表面に違和感のない着色を施す。既存の框および展示台を移動・保管に適したものに作り替える。（継続 2 ヵ年事業のうちの最終年度）

8　○名　　称　鉄製品　（二塚古墳出土）（てつせいひん〔ふたつかこふんしゅつど〕）
鏃先、鉄鋌、挂甲小札、鉄鏃ほか
○員　　数　一括
○時　　代　古墳時代　6世紀
○品　　質　鉄製
○施工会社　公益財団法人元興寺文化財研究所
○修理内容　鉄錆の進行による脆弱化を軽減するため、過去修理時に樹脂が塗布されているものは、その古い樹脂を除去する。遺存している有機質を損ねないよう、錆などのクリーニングを行い、脱塩処理と樹脂含浸処置を施す。その後、接合及び形状復元の為に樹脂補填する。錆化を止めるための樹脂を塗布して仕上げる。（継続2ヵ年事業のうちの第1年目）

【九州国立博物館】（17件）

＜絵画＞ (5件)

1　○名　　称　絹本著色仏涅槃図　命尊筆（けんぽんちゃくしょくぶつねはんず　みょうそんひつ）　1幅（22年度より継続・4ヶ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　鎌倉時代・元亨3年（1323）
○品　　質　絹本著色、書表装、軸：蓮華唐草文金軸、箱：桧桟蓋箱
○寸 法 等　本紙　縦261.0 ㎝　横212.6 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 絵具層の剥落止めを行う。 3. 表装の解体を行う。4. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを除去する。 5. 絵具層の剥落止めを行う。 6. 本紙表面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。 7. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 8. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 9. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。 10. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 11. 表打の養生紙を除去する。 12. 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 13. 折れ伏せを入れ、折れを直す。14. 本紙両端に金箔押し紙にて覆輪を施す。 15. 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 16. 美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 17. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。 18. 補絹の箇所に補彩をする。19. 新調した軸木、発装、啄木等と軸首・座鐶を取り付け軸装に仕立てる。 20. 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。 平成25年度は10～20を施工

2　○名　　称　扇面画帖（七十二図）（せんめんがちょう）　1帖　（24年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　室町時代・15-16世紀
○品　　質　絹本著色、画帖、表紙：白茶地二重蔓牡丹唐草文金欄
○寸 法 等　本紙　縦30.2 ㎝　横51.0 ㎝　高7.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 現装の解体を行う。 3. 膠などの接着剤を用い剥落止めを施す。4. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを除去する。 5. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 6. 旧肌裏紙および旧補紙を除去する。7. 本紙裏面より料紙欠失箇所に補紙を行う。 8. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 9. 表打の養生紙を除去する。 10. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 11. 和紙を新糊にて

重ね厚みを調整し台紙を作成する。12. 和紙を新糊にて重ね厚みを調整しマットを新調する。13. マット表面、台紙裏面貼付の装飾紙（金砂子・切箔散し）、見返しを作成する。 14. マットを扇面の形にくり抜き、台紙に本紙を貼り、重ねて接着する。15. 本紙を貼り込んだ台紙を 36 帖毎に蝶番紙で繋ぎ、天地に縁紙を取り付ける。 16. 表紙を新調する。 17. 表紙背表紙を、繋いだ台紙に取り付け上下 2 帖の画帖に仕上げる。18. 下足板付桐野郎箱を新調し、包裂に包み納める。平成 25 年度は 7～11 を施工

3 ○名　称　唐人物図屏風（とうじんぶつずびょうぶ）　6 曲 1 双
○所 蔵 者　東京国立博物館
○時　代　江戸時代・17 世紀末-18 世紀初
○品　質　紙本金地著色、屏風装
○寸 法 等　縦 160.8 ㎝　横 352.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2. 屏風装を解体し、本紙の旧裏打紙を、肌裏紙を残して除去する。3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4. 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。 5. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 6. 本紙裏面より料紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。7. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 8. 美濃紙にて 2 回目の裏打ちを行う。 9. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を 12 枚新調する。10. 両面に 8 度下貼りを施し、よく乾燥させる。11. 補紙の箇所に補彩を行う。 12. 下地に本紙及び支給の縁裂を上貼りする。裏には新調の唐紙を貼る。13. 元の金物を洗い調整し、欠失の鋲を新調する。 14. 襲木を新調し、屏風装に仕立てる。

4 ○名　称　紙本墨画布袋図（しほんぼくがほていず）　1 幅（25 年度より継続・2 ヶ年計画）
○指　定　重要文化財
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　代　中国 南宋～元 13 世紀
○品　質　紙本墨画
○寸 法 等　（本紙） 縦 96.5 ㎝ 横 41.3 ㎝ （表具） 縦 191.0 ㎝ 軸張 62.6 ㎝ （外箱） 縦 70.0 ㎝ 横 13.4 ㎝ 高さ 13.5 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 本紙の旧裏打紙を、肌裏紙を残して除去する。3. 詳細な本紙料紙の損傷（欠失）図面を作成する。この調査結果によっては共裏を除去する可能性がある（共裏除去は別途費用が必要）。4. 作業中に移動する恐れのある汚れを出来る限り除去する。5. 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。6. 本紙裏面より欠失箇所に補紙を行う。7. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。8. 表装裂地は元使いし，肌裏を打つ。9. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。10. 折れ伏せを入れ，折れを直す。11. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。12. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。13. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。14. 補紙の箇所に補彩をする。15. 中軸，発装，打込鐶，啄木等を新調し軸装に仕立てる。なお、表装裂、軸首は元の物を使用することを基本方針とするが、修理の過程で裂の再使用に支障があると判断した時は九州国立博物館支給の裂を使用する。風袋の裏裂は後補のものであり、九州国立博物館支給の裂にて新調する。16. 桐太巻添軸・桐印籠箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。平成 25 年度は 1～3 を施工

5 ○名　称　両界曼荼羅（りょうがいまんだら）　2 幅（25 年度より継続・3 ヶ年計画）
○所 蔵 者　奈良国立博物館
○時　代　室町時代・応永 4 年(1397)
○品　質　絹本著色
○寸 法 等　縦 169.0 ㎝　横 134.4 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。6. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。7. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。8. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。9. 表打の養生紙を除去する。10. 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11. 折れ伏せを入れ，折れを直す。12. 九州国立博物館支給の裂に肌裏打ち、増し裏打ちを行い仮張りをする。13. 本紙と裂を表装の形態に付け廻しを行う。14. 美栖紙にて２層の中裏打を行う。15. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。16. 補絹の箇所に補彩をする。17. 軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。18. 桐太巻添軸２本、桐印籠箱１合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。平成 25 年度は 1～5 を施工

＜書跡＞（2 件）

6 ○名　称　栄花物語（えいがものがたり）　17 帖（24 年度より継続・3 ヵ年計画）
○指　定　国宝
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　代　鎌倉時代　13 世紀
○品　質　紙本墨書
○寸 法 等　（大型本） 縦 30.6 ㎝ 横 24.2 ㎝ （小型本） 縦 16.3 ㎝ 横 14.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 必要に応じて冊子を解体する。3. 本紙の汚れをクリーニングする。4. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5. 本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。6. 本紙の折れ・シワを伸ばす。7. 本紙をプレス乾燥する。8. 本紙を元の冊子装に綴じ直す。9. 箱帙を新調して本紙を納め、新調した桐印籠箱２号に納入する。平成 25 年度は冊子番号 5-10 を施工

7 ○名　称　孤峯覺明墨蹟与保樹大姉法語（こほうかくみょうぼくせき ヨホジュダイシホウゴ）　1 幅（25 年度より・2 ヵ年計画）
○指　定　重要文化財
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　代　南北朝時代　14 世紀
○品　質　紙本墨書
○寸 法 等　（本紙） 縦 31.2㎝ 横 87.3㎝ （表装） 縦 120.0㎝ 横 89.0㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影及び赤外線調査を行い、本紙の状態を調査する。各紙ごとに紙質調査を行う。2. 軸装を解体後、本紙の旧裏打紙を除去し、仮裏打ちによるクリーニングを行う。3. 必要に応じて、本紙欠失箇所に、本紙料紙に類似した補修紙を用いて補修を行う。4. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。5. 元の表装裂地に補修調整を行い、肌裏を打つ。6. 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。7. 折れ伏せを入れ、折れを直す。8. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。9. 美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。10. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。11. 補修箇所に補彩をする。12. 軸首、打込鐶は再用し、中軸、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。13. 桐太巻添軸、桐印籠箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。平成 25 年度は 1-5 を施工

＜金工＞（1 件）

8 ○名　称　朱漆花鳥草樹螺鈿二層（しゅうるしかちょうそうじゅらでんにそう）　1 基（25 年度より・2 ヶ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　代　朝鮮　近代・20 世紀前半
○品　質　木製漆塗
○寸 法 等　幅 46.1 ㎝ 横 91.3 ㎝ 高 150.5 ㎝
○施工会社　株式会社　目白漆芸文化財研究所

○修理内容　1. 修理前撮影・記録。2. クリーニング・剥落止め。3. 内貼り紙の除去。国宝修理装潢師連盟施工。4. 隅金具の取り外し。構造安定等の作業に必要な箇所のみ取り外しを行う。5. 構造安定処置。充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈して流し入れる。6. 塗膜接着。亀裂部より塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈し、塗膜下に流し入れ、溶剤が揮発し麦漆が締まった状態で圧着固定する。7. 螺鈿接着。膠で圧着固定をする。8. 刻苧。木地の割れや木地構造接合部の隙間には刻苧を充填する。打損等による欠損部は刻苧で形態を復元する。9. 下地付け。10. 際錆。刻苧の肌面を整え、復元箇所と漆塗膜との段差部に極少量の下地を付ける。11. 支え棒制作。下段扉の開閉を改善するため、箪笥内に上段箪笥の重量を受けるための取り外し可能な支え棒を制作する。12. 台の調整。箪笥と台の間に薄板を入れ安定させる。13. 受け台制作。箪笥の重量を支えるための受け台座を作成する。14. 隅金具、取付け。15. 内貼り新補。内張りの紙は九州国立博物館支給の紙を用いる。16. 修理後撮影 17. 報告書作成　　平成 25 年度は 1～7 の 30%を施工

＜刀剣＞（2 件）

9　○名　　称　刀　銘肥前国住人忠吉作（かたな　めいひぜんのくにじゅうにんただよしさく）　1 振
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鉄
○寸 法 等　刃長 73.6㎝　反 1.6㎝
○施工会社　有限会社　藤代
○修理内容　1. 修理前撮影。2. 下地研磨。3. ハバキと白鞘の作成。4. 仕上げ研磨。差し込み仕上げの研磨を行う。5. 修理後撮影。

10　○名　　称　刀　無銘伝備前光忠（かたな　むめいでんびぜんみつただ）　1 振
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　鎌倉時代・14 世紀
○品　　質　鉄
○寸 法 等　刃長 71.5 ㎝　反 2.1㎝
○施工会社　有限会社　藤代
○修理内容　1. 修理前撮影。2. 下地研磨。3. ハバキと白鞘の作成。4. 仕上げ研磨。差し込み仕上げの研磨を行う。5. 修理後撮影。

＜染織＞（5 件）

11　○名　　称　ショール　縞格子文様金糸紋織（しょーる　しまこうしもんようきんしもんおり）1 枚　（24 年度より 3 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　絹、撚銀糸、平織、銀糸浮紋織
○寸 法 等　幅 56.5㎝　長さ 204.0㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、生地、縁、房の状態を調査する。2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。 4. 旧補修糸の補修効果や性質などの検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先。 5. 生地感や損傷状況を観察すると全体的な補修裂あても考えられるが、今回は裏面も考慮して可能な限り最小限の部分補修とする。生地の欠失箇所の裏面から部分的、あるいは、帯状に補修裂（薄地平絹）をあてて補修糸（極細絹糸）で縫い綴じ、端口の補修をする。 6. 房を可能な限り整える。縁位置から帯状補修裂をあて縫い綴じ、房の付け際と縁の補修補強をする。　　平成 25 度は 3～4 を施工

12　○名　　称　ショール　絣地花文様両面刺繍（しょーる　かすりじはなもんようりょうめんししゅう）1 枚　（24 年度より 3 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　絹、スパンコール、平織、緯絣、刺繍（平繍・サテンステッチ）。
○寸 法 等　幅 93.0㎝　長さ 203.8㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、生地、刺繍、スパンコール、付着物の状態を調査する。 2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。 4. 生地に負荷をかけている場合は生地優先付着物はピンセットで小さくするなどして生地の損傷に繋がらない範囲で除去をする。 5. 生地を整え、裏面から全体的、あるいは、刺繍・スパンコールのある四辺の全体的に補強裂（薄地平絹）をあて補修糸（極細絹糸）で縫い綴じ、欠損端口の補修をする。あてる範囲については生地の状態と見え方とを検討して決定する。 6. 金糸の大きな浮きは補強裂を支えにして補修糸（極細絹糸）で縫い綴じる。 7. スパンコールは欠けたものはそのままとする。留め糸は弱っているので全て補修糸（極細絹糸）を入れ留める。　平成 25 年度は 3～4 を施工

13　○名　　称　ショール　縞絣幾何学文様浮紋織（しょーる　しまかすりきかがくもんよううきもんおり）1 枚　（24 年度より 3 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20 世紀
○品　　質　木綿、平織、経絣、経浮、緯浮、両端カードウィーブ
○寸 法 等　幅 87.0㎝　長さ 265.0㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、生地、房、くすみ、付着物の状態を調査する。 2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。 4. 旧補修糸の補修効果や性質などの検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。 5. 付着物はピンセットで小さくするなどして生地の損傷に繋がらない範囲で除去をする。 6. 生地の折り皺を伸ばす。次のくすみ処置にも連動するので現状では決定ではないが、まずは湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。 7. 生地のくすみの状態を観察の上、その軽減処置の検討をする。水の使用が想定されるが、その使い方、加減については生地の状態と染色との兼ね合いになる。 8. 生地の裏面から部分的に補修裂（薄地綿布）をあて補修糸（極細綿糸）で縫い綴じ、欠損端口の補修をする。耳のほつれは補修糸で留める。 9. 房の絡まりを直し整える。　平成 25 年度は 4～8 を施工

14　○名　　称　装飾布　茜地花葉文様更紗（そうしょくふ　あかねじかようもんようさらさ）1 枚　（24 年度より 3 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿、平織、手描蝋防染、両面染
○寸 法 等　幅 98.0㎝　長さ 324.0㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、生地、旧補修、汚れの状態を調査する。2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。 3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。4. 旧補修糸の補修効果や性質などの検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。 5. 付着物はピンセットで小さくするなどして生地の損傷に繋がらない範囲で除去をする。 6. 生地の折り皺を伸ばす。次のくすみ処置にも連動するので現状では決定ではないが、まずは湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。 7. 生地の汚れの状態を観察の上、その軽減処置の検討をする。水の使用が想定されるが、 その使い方、加減については生地の状態と染色との兼ね合いになる。 8. 生地の裏面から部分的、または、帯状に補修裂（極薄地）をあて補修糸（極細綿糸）で縫い綴じ、欠損端口の補修をする。　平成 25 年度は 4～7 を施工

15　○名　　称　ショール　赤絣地金銀鋸歯文様縫取織（しょーる　あかがすりじきんぎんきょしもんようぬいとりおり）1 枚　（24 年度より 3 ヵ年計画）

○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　20 世紀
○品　　質　絹、平織、綟絣、金糸紋織
○寸 法 等　幅 42.0㎝　長さ 260.0㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、生地、旧補修の状態を調査する。 2. 破損状況や今後の保存活用を検討し、補修裂や補修糸の作製調達をする。3. 補修裂や補修糸を生地の色味に合わせて馴染む色味を検討して染色をする。4. タブリのあるままでは生地に影響するので、旧補修は糸を短く切りながら取り外す。5. 生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。 6. 解体後の生地の状態を観察して脆弱度によって補修の範囲を決める。裂けやすい生地と思われるので、生地の裏面から全体的に補修裂（薄地平絹）をあて補修糸（極細絹糸）で縫い綴じ、補強し、欠損端口の補修を想定する。7. 両端の房を整える。 平成 25 年度は3～5 を施工

＜歴史資料＞（2 件）

16 ○名　　称　対馬宗家関係資料（つしまそうけかんけいしりょう）21 箱 19 巻　（20 年度より継続・6 ヶ年計画）
○指　　定　重要文化財
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 17.6-34.5 ㎝　横 45.7-57.2 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　21箱19巻
1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 巻子装を解体する。3. 本紙の汚れ等を取り去る。 4. 本紙の旧裏打紙を除去し、継ぎを外し、シワ等を伸ばして整形する。 5. 本紙と類似した補修紙を作成する。 6. 本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を施し、上下には足し紙をつける。 7. 旧裏打紙と同様の色調に染色した薄美濃紙にて肌裏打を施す。 8. 将来折れが予想される箇所に折れ伏せを入れる。 9. 混合紙にて総裏打を施す。10. 仮張りし、充分な乾燥期間をおく。11. 各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。12. 表紙、軸首、紐、中軸、八双は元のものを用い、巻子装に仕立てる。13. 羽二重の包み裂に包み納入する。14. 桐太巻添軸を施工巻数分製作する。15. 施工巻数分を納入できる紙箱を新調する。 平成25年度は巻16～19を施工

17 ○名　　称　紙本墨書島津氏等文書集（しほんぼくしょしまづしとうもんじょしゅう） 1巻（10通）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　鎌倉-江戸時代 14-17 世紀
○品　　質　紙本墨書。巻子装。
○寸 法 等　（巻子） 縦 38.9 ㎝ 横 565.7 ㎝ （表紙） 縦 38.9 ㎝ 横 28.7 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2. 巻子装を解体し、本紙の旧裏打紙を除去する。3. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。4. 本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。5. 本紙の色合いに合わせて、薄美濃紙にて肌裏打ちを行う。6. 美栖紙にて増裏打ちを行う。7. 折れ伏せを入れ、折れを直す。8. 混合紙にて総裏打ちを行う。9. 表紙、見返を新調し、薄美濃紙にて裏打ちを行い、それぞれを合わせる。10. 本紙周囲の足紙を新調し、裏打ちを行う。11. 本紙、表紙、見返を仮張りし充分な乾燥期間をおく。12. 必要に応じて補紙箇所に補彩をする。13. 仮張りされた本紙、足紙、および表紙、見返を継ぐ。14. 軸巻紙、軸木、発装、紐等を新調し巻子装に仕立てる（軸首は再使用する）。15. 桐印籠箱１合、桐太巻添軸を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

単位：件　　平成26年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		258	84	101 (4460)	73 (609)
絵　画		80	3	48 (1784)	29 (210)
書　跡		41	2	23 (1009)	16 (144)
彫　刻		44	0	22 (1231)	22 (168)
建　築		0	0	0 (15)	0 (0)
金　工		0	0	0 (1)	0 (1)
刀　剣		2	2	0 (0)	0 (0)
陶　磁		2	2	0 (1)	0 (0)
漆　工		7	2	0 (39)	5 (50)
染　織		42	37	4 (168)	1 (2)
考　古		23	23	0 (13)	0 (0)
歴史資料		5	3	2 (173)	0 (31)
和　書		0	0	0 (0)	0 (0)
民族資料		0	0	0 (3)	0 (2)
その他		2	0	2 (23)	0 (1)
東洋	絵　画	2	2		
	書　跡	3	3		
	彫　刻	1	1		
	金　工	0	0		
	陶　磁	1	1		
	漆　工	2	2		
	染　織	1	1		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の(　)内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、今回より上記に統一した。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展示の充実

2-(1)-① 来館者数推移（入館料別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(1)-② 来館者数推移（展覧会別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(1)-③ 入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成26年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	－%	91%	85%
132件(外国語)	－件(外国語)	43件(外国語)	40件(外国語)
132件(日本語)	－件(日本語)	47件(日本語)	47件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計132件(外国語)/132件(日本語)

・総合文化展（特集陳列を除く）　99件（外国語）／99件（日本語）　含国宝室
・特集陳列　33件（外国語）／33件（日本語）
・黒田記念館は閉館中（平成27年1月開館予定）

※参考　本館2階陳列“日本美術の流れ”案内・解説パンフレットを作成・配布した。

【京都国立博物館】

（平常展示館建替工事に伴い平常展示休止中）

【奈良国立博物館】計43件(外国語)/47件(日本語)

・名品展（なら仏像館）　19件（外国語）／19件（日本語）
・名品展（青銅器館）　12件（外国語）／12件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
・特集展示「新たに修理された文化財」　6件（外国語）／ 6件（日本語）
・特別陳列「お水取り」　2件（外国語）／ 2件（日本語）
・特集展示「いにしえの東北～豊岡遺跡と平泉～」　0件（外国語）／ 2件（日本語）
・特別展示「正倉院宝庫の瓦」　0件（外国語）／ 2件（日本語）
・パネル展示 地下回廊（国宝十一面観音像の光学調査）　1件（外国語）／ 1件（日本語）

【九州国立博物館】計　40 件(外国語)/　47 件(日本語)

・文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　27 件(外国語)/33 件(日本語)
・文化交流展示　音声ガイド　3 件(外国語)/0 件(日本語)
・文化交流展示　トピック展示・特別公開
うち「江戸のモダニズム　古武雄～まぼろしの九州のやきもの～」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「国宝　琉球国王尚家関係資料修理完成記念特別公開」　0 件(外国語)/1 件(日本語)
「視覚革命！異国と出会った江戸絵画－神戸市立博物館名品展－」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「特別公開　国宝・神戸市桜ケ丘出土銅鐸」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「特別公開　国宝「西光寺梵鐘」」　0 件(外国語)/1 件(日本語)
「館蔵名品展―更紗」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「茶の湯を楽しむⅥ　特別編　煎茶の世界」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「山の神々　－九州の霊峰と神祇信仰－」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「特集陳列「江上波夫の眼　ことばとかたち」」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「ロシアが見たアイヌ文化」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
「発掘された日本列島 2013」　0 件(外国語)/1 件(日本語)
「新春特別公開　「天神さまの宝もの」」　0 件(外国語)/1 件(日本語)
「館蔵近世絵画名品展」　1 件(外国語)/1 件(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供（過去5ヵ年）

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	35校	35校	37校	38校	43校
京都国立博物館	30校	29校	30校	30校	29校
奈良国立博物館	27校	28校	28校	27校	26校
九州国立博物館	29校	27校	28校	24校	24校
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	153回	126回	112回	126回	131回
講演会等　参加者数	12,546人	13,319人	12,664人	13,193人	15,777人
①講演会	24回	39回	32回	31回	30回
	5,600人	9,290人	8,224人	6,952人	7,184人
アンケート結果	87%	91%	91%	82%	84%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	11回	13回	12回	12回
	1,887人	1,637	2,457人	1,791人	1,951人
アンケート結果	87%	89%	91%	82%	80%
・記念講演会	11回	12回	15回	12回	11回
	3,516人	3,467人	4,669人	3,682人	3,368人
アンケート結果	85%	91%	89%	85%	88%
・テーマ別講演会	1回	1回	3回	4回	6回
	197人	180人	775人	1,051人	1,709人
アンケート結果	90%	92%	―	77%	84%
・その他講演会	―	15回	1回	3回	1回
	―	4,006人	323人	428人	156人
アンケート結果	―	―	―	78%	83%
②列品解説（ギャラリートーク等）	126回	83回	76回	90回	98回
	6,550人	3,659人	3,963人	5,805人	8,205人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	320人	278人	380人	303人	354人
アンケート結果	82%	81%	89%	75%	95%
④公開講座	2回	3回	3回	4回	2回
	76人	92人	97人	133人	34人
アンケート結果	93%	100%	97%	94%	97%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	21回	17回	15回	19回	21回
講演会等　参加者数	3,002人	2,313人	1,450人	3,150人	2,062人
①土曜講座	19回	15回	13回	16回	10回
	2,791人	2,076人	1,199人	2,682人	1,257人
アンケート結果	80%	81%	77%	84%	87%
②特別展記念講演会	―	―	―	1回	1回
	―	―	―	215人	190人
アンケート結果	―	―	―	89%	88%
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	179人	205人	193人	213人	219人
アンケート結果	94%	92%	78%	92%	91%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	32人	32人	58人	40人	30人
⑤ギャラリートーク	―	―	―	―	8回
	―	―	―	―	366人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	33回	28回	28回	29回	26回
講演会等　参加者数	3,421人	3,349人	3,006人	3,454人	3,219人
①特別展等講座	16回	15回	15回	16回	13回
	2,043人	2,172人	1,839人	2,172人	1,682人
アンケート結果	96%	93%	87%	85%	85%
②夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	391人	556人	522人	438人	587人
アンケート結果	92%	95%	90%	95%	95%
③サンデートーク	11回	12回	12回	12回	12回
	584人	621人	645人	844人	950人
アンケート結果	91%	88%	88%	85%	85%
④大学との合同公開講座	4回	―	―	―	―
	353人	―	―	―	―
アンケート結果	86%	―	―	―	―
⑤世界遺産学習特別勉強会の共同開催	1回	―	―	―	―
	50人	―	―	―	―
アンケート結果	―	―	―	―	―
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	73回	64回	89回	102回	90回
講演会等　参加者数	6,806人	3,996人	7,833人	8,354人	7,276人
①特別展記念講演会	6回	9回	7回	5回	5回
	1,622人	1,410人	1,500人	966人	1,108人
アンケート結果	―	―	―	―	―
②講演及びシンポジウム	25回	11回	39回	45回	38回
	3,899人	1,266人	4,592人	4,918人	4,450人
アンケート結果	―	―	―	―	―
③ミュージアムトーク	42回	44回	43回	52回	47回
	1,285人	1,320人	1,741人	2,470人	1,718人
○大学等との連携事業					
奈良国立博物館					
①放送大学の面接授業	1回	1回	0回	0回	0回
	98人	―	―	―	―
②奈良女子大学との連携講座	3人	7人	7人	10人	9人
③神戸大学との連携講座	10人	10人	10人	7人	8人
九州国立博物館					
①放送大学の面接授業	2回	2回	1回	1回	1回
	50人	50人	50人	50人	50人

2-⑵-② キャンパスメンバーズ

平成26年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
43校	29校（※）	26校（※）	24校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入21校

【東京国立博物館】

①加入校数（43校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,819人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,696人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学，文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化服装学院広島校 , 文化外国語専門学校）	8,356人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,806人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,475人	20年4月1日	
6	東京大学	34,364人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,729人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院）	1,478人	20年4月1日	
9	大正大学	4,911人	20年4月1日	
10	東海大学	33,053人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	24,041人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	835人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,277人	20年4月1日	
14	立教大学	23,594人	20年4月1日	
15	首都大学東京	10,077人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	4,169人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,989人	20年4月1日	
18	法政大学	39,158人	20年4月1日	
19	筑波大学	20,635人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	6,035人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,630人	20年5月1日	
22	東洋大学	33,244人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,155人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部）	4,520人	20年6月1日	
25	文教大学	9,486人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校、聖母大学）	14,814人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,241人	21年4月1日	
28	了徳寺大学	1,212人	21年4月1日	
29	学習院女子大学	1,936人	21年11月1日	
30	獨協大学	9,577人	22年4月1日	
31	学習院大学	9,430人	22年4月1日	
32	東京工業大学	11,788人	22年7月1日	
33	日本女子大学	8,912人	23年4月1日	
34	二松学舎大学	3,357人	23年5月1日	
35	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	6,099人	23年6月1日	
36	神奈川大学	20,168人	24年6月1日	
37	日本工業大学	4,984人	24年7月1日	
38	東京女子大学	4,309人	24年8月1日	
39	尚美学園大学	3,420人	25年4月1日	
40	中央大学	33,312人	25年6月1日	
41	麗澤大学	2,705人	25年6月1日	
42	慶応義塾大学文学部・文学研究科	3,911人	25年8月1日	
43	一橋大学	6,792人	25年11月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　　間	8月13・14日（計5回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	137人
担当研究員数	5人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	8月13～18日（6日間）
開催場所	全館
参加者数	15人
担当研究員数	10人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①　加入校数（29校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	20,331人	19年4月1日	奈良博との2館併用	京博	通信教育部含む
2	奈良教育大学	1,424人	18年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学人文科学部	1,100人	20年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
4	学校法人同志社	38,909人	19年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	4,227人	19年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	通信教育部含む

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
6	学校法人　関西大学	32,959人	23年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
7	実践女子大学・実践女子短期大学	4,438人	20年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
8	学校法人　京都産業大学	14,586人	24年8月1日	京博のみ	京博	
9	帝塚山大学・附属高等学校	4,268人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
10	奈良女子大学	2,765人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
11	京都造形芸術大学	8,730人	18年6月1日	京博のみ	京博	通信教育部含む
12	京都工芸繊維大学	4,022人	19年6月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	910人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
14	京都精華大学	3,867人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
15	龍谷大学・龍谷短期大学	19,841人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
16	京都女子大学・京都女子短期大学	7,364人	18年7月1日	京博のみ	京博	高等学校含む
17	京都橘大学	3,467人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ
18	京都教育大学・附属高等学校	2,500人	20年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
19	成安造形大学	845人	18年8月1日	京博のみ	京博	正規生のみ
20	京都市立芸術大学	1,081人	20年8月1日	京博のみ	京博	正規生及び研究生等
21	京都大学	23,330人	18年9月1日	奈良博との2館併用	京博	京都アメリカ大学コンソーシアムより受入の学生を含む
22	近畿大学文芸学部	2,205人	18年9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
23	花園大学	2,221人	18年11月1日	京博のみ	京博	
24	奈良先端科学技術大学院大学	1,099人	19年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	正規生及び研究生等
25	大谷大学・大谷短期大学	3,878人	18年12月1日	京博のみ	京博	
26	大阪大学	24,713人	20年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
27	京都文教大学	2,902人	21年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
28	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,928人	21年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
29	京都府立大学	2,227人	23年7月1日	京博のみ	京博	

【奈良国立博物館】

①加入校数（26校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良産業大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良文化女子短期大学、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	2,179 人	18 年 10 月 1 日	奈良博のみ	
2	奈良佐保短期大学	352人	18 年 11 月 29 日	同上	
3	天理大学	3,403人	20 年 7 月 1 日	同上	
4	奈良県立大学	679人	21年4月1日	同上	
5	奈良工業高等専門学校	1,118人	23年7月1日	同上	
6	奈良教育大学	1,424人	18年4月4日	京博との2館併用	
7	帝塚山大学	4,268人	18 年 5 月 8 日	同上	
8	奈良女子大学	2,765人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	910人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	3,867人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	3,467人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	19,841人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	23,330人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学　文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科	2,205人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	20,331人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	4,227人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,022人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	38,909人	19年6月1日	同上	
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,099人	19年11月7日	同上	
20	就実大学　人文科学部	1,100人	20年4月1日	同上	
21	実践女子大学　実践女子短期大学	4,438人	20年5月1日	同上	
22	京都教育大学	2,500人	20年7月1日	同上	
23	大阪大学	24,713人	20年12月1日	同上	
24	京都文教大学、京都文教短期大学	2,902人	21年6月1日	同上	
25	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,928人	21年8月1日	同上	
26	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	32,959人	23年6月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

①加入校数（24校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	11,279人	25年4月1日	
2	九州情報大学	644人	25年4月1日	
3	九州大学	19,395人	23年4月1日	
4	久留米大学	7,460人	25年4月1日	
5	西南学院大学	8,209人	25年4月1日	
6	筑紫女学園大学	2,684人	24年4月1日	
7	日本赤十字九州国際看護大学	486人	23年4月1日	
8	福岡教育大学	5,808人	23年6月1日	
9	福岡国際大学	445人	25年4月1日	
10	福岡女子大学	847人	24年4月1日	
11	福岡大学	20,790人	25年4月1日	
12	放送大学福岡学習センター	2,147人	23年4月1日	
13	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	517人	23年4月1日	
14	九州造形短期大学	244人	25年4月1日	
15	筑紫女学園大学短期大学部	402人	24年4月1日	
16	東海大学福岡短期大学	187人	23年10月1日	
17	福岡女子短期大学	391人	25年4月1日	
18	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	152人	25年4月1日	
19	久留米大学附設高等学校	608人	25年4月1日	
20	西南学院高等学校	1,297人	25年4月1日	
21	筑紫女学園高等学校	1,743人	24年4月1日	
22	筑紫台高等学校	1,508人	24年4月1日	
23	福岡大学附属大濠高等学校	1,963人	25年4月1日	
24	福岡大学附属若葉高等学校	1,032人	25年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「体験-ミュージアムで学ぶアジア」	
開 催 日	5月22日、5月29日、6月26日、7月3日（計4日）
開催場所	筑紫女学園大学、九州国立博物館文化交流展示室、体験型展示室「あじっぱ」
出席校	筑紫女学園大学
参加者数	100人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験を実施。

2-(2)-③ 講座・講演会等の開催実績

平成 26 年 3 月 31 日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	**131回・15,777人** 講演会　30回・7,184人 列品解説（ギャラリートーク等） 98回・8,205人 連続講座　1回（3日）・354人 公開講座　2回・34人	**21回・2,062人** 土曜講座10回・1,257人 記念講演会1回・190人 夏期講座1回（3日）・219人 社会科教員のための向上講座 1回・30人 ギャラリートーク　8回　366人	**26回・3,219人** 特別展等講座　13回・1,682人 （公開講座　11回・1,341人、 シンポジウム2回・341人） 夏季講座　1回(3日)・587人 サンデートーク12回・950人	**90回・7,276人** 特別展記念講演会 5回・1,108人 講演及びシンポジウム 38回・4,450人 ミュージアムトーク 47回・1,718人
	その他展示に関連する事業 1回・27人	その他展示に関連する事業 2回・68人	その他展示に関連する事業 15回・3,443人	その他展示に関連する事業 19回・43,199人

【東京国立博物館】

1)　講演会　30回　参加者数　7,184人

①月例講演会　計12回　参加者数1,951人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
4月6日	桜花礼賛―国宝・花下遊楽図屏風の諸相― 講師：小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	118	2	70.8%
5月18日	東洋館の彫刻 講師：小泉惠英（九州国立博物館）	231	2	88.0%
6月8日	和鏡を楽しむ 講師：伊藤信二（教育普及室長）	114	2	82.3%
7月27日	東京国立博物館の西洋画コレクション 講師：土屋裕子（保存修復室主任研究員）	117	2	75.5%
8月24日	絵巻物残欠愛惜の譜 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）	201	2	95.1%
9月14日	縄文時代の人と動物の造形 講師：品川欣也（考古室研究員）	143	2	80.2%
10月12日	中国絵画史の正統と異端－上海博物館の名品から－ 講師：塚本麿充（東洋室研究員）	246	2	86.8%
11月23日	聖徳太子絵伝の世界 講師：沖松健次郎（絵画・彫刻室主任研究員）	190	2	44.4%
12月7日	江戸城築城400年－発掘成果にみる江戸城の姿－ 講師：冨坂賢（九州国立博物館学芸部企画課長） 後藤宏樹（千代田図書・文化館主査）	231	2	89.6%
26年1月18日	美術に見るウマ 講師：勝木言一郎（情報資料室長）	123	2	64.9%
26年2月8日	日本古代彫刻の表現方法 講師：丸山士郎（教育講座室長）	57	2	90.0%
26年3月22日	書の楽しみ 講師：島谷弘幸（副館長）	180	2	95.5%

②記念講演会　計11回　参加者数3,368人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
4月27日	大神社展「神社と日本人」 講師：田中恆清氏（神社本庁総長・石清水八幡宮宮司）	350	2	91.0%
5月11日	大神社展「古神宝の装束と武具」 講師：池田宏（上席研究員）	270	2	74.8%
7月20日	和様の書「和様の書」 講師：島谷弘幸（副館長）	380	2	91.4%
8月10日	和様の書「かなから見た和様の書」 講師：高木厚人(読売書法会常任理事/大東文化大学教授)	354	2	94.7%
10月12日	上海博物館　中国絵画の至宝「唐寅山水画の視覚形成－『春游女几山図』を例に－」 講師：李維琨(上海博物館書画部副主任研究員)	247	2	86.8%
10月19日	京都展　「Forward to the Past-400年前の京都に遊ぶ」 講師：松嶋雅人（特別展室長）	303	2	83.3%
11月3日	京都展　「舟木本洛中洛外図-浮世絵は京都で生まれた」 講師：佐藤康宏（東京大学文学部教授）	341	2	79.9%
1月19日	クリーブランド展「日本絵画のABC－物語世界にあそぶ－」 講師：土屋貴裕(平常展調整室研究員)	237	2	95.8%
26年1月25日	人間国宝展「日本工芸の21世紀を考える」 講師：ドナルド・キーン（コロンビア大学名誉教授） ニコル・クーリジ・ルーマニエル （大英博物館 アジア部日本セクションキュレーター） 深澤直人（デザイナー・日本民藝館 館長） 内田篤呉（MOA美術館 副館長） 室瀬和美（日本工芸会 副理事長 重要無形文化財「蒔絵」保持者）	336	2	88.7%
26年2月1日	人間国宝展「日本の工芸を語る」 講師：中田英寿（一般財団法人TAKE ACTION FOUNDATION 代表理事） 隈研吾（建築家） 金子賢治（茨城県陶芸美術館 館長）	296	2	86.4%
26年2月2日	クリーブランド展「笑う美術館館長　名画を語る」 講師：河野元昭(秋田県立近代美術館館長)	254	2	94.7%

③テーマ別講演会　計6回　参加者数1,709人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
5月17日	大神社展関連講演会「神々のまつり」 第1講「日本の祭りと永遠の未来」 講師：河合真如（神宮司庁広報室室長、神宮禰宜） 第2講「神さまをおもてなしして」 講師：吉田茂穂（神社本庁常務理事、鶴岡八幡宮宮司） 神楽　「宮人の舞」「其駒」 鶴岡八幡宮御神楽	370	2	85.0%
8月27日	和様の書関連講演会「世界記憶遺産　御堂関白記と和様の書」 講師：青柳正規（文化庁長官） 島谷弘幸(東京国立博物館副館長) 栗原祐司（国立文化財機構事務局長・東京国立博物館総務部長）	335	2	90.1%
9月28日	秋の特別公開関連講演会「酒井抱一筆「夏秋草図屏風」の魅力」 講師：本田光子(絵画・彫刻室研究員)	558	2	―%
10月13日	特集陳列「清時代の書」関連講演会「清時代の書－日本と中国の交流－」 講師：富田淳（東京国立博物館列品管理課長） 鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員） 戸張泰子（台東区立朝倉彫塑館研究員）	175	2	80.2%
12月14日	日本考古学会共催講演会 「山口県綾羅木郷遺跡の保存と活用 －弥生時代前期における歴史的意義を巡って－] 講師：伊東照雄（元下関市教育委員会文化課主幹） 金関　恕（大阪府立弥生文化博物館名誉館長）	121	2	85.7%
26年3月29日	桜セミナー「春だ、桜だ、上野公園へ行こう！―動物博士とみる美術のなかの動物たち」 講師：神辺知加（博物館教育課教育講座室主任研究員） 小泉祐里（(公財)東京動物園協会恩賜上野動物園） 川田伸一郎（国立科学博物館動物研究部研究員）	150	2	80.6%

④その他講演会　計1回　参加者数156人

実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	″良い″の割合
11月23日	上野の山文化ゾーンフェスティバル　講演会シリーズ 「増山雪斎の虫豸帖とファーブルの昆虫記」 講師：奥本大三郎 （日本アンリ・ファーブル会理事長、虫の詩人の館館長、フランス文学者、作家）	156	2	82.8%

2)　列品解説（ギャラリートーク等）98回　　参加者総数　8,205人

①列品解説　54回　参加者総数　5,562人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月2日	16世紀　西洋とつながった日本 講師：浅見龍介（東洋室長）・デービッドジェームズミラー（国際交流室研究員）	82	2
4月3日	国宝　花下遊楽図屏風 講師：伊藤信二（教育普及室長）	27	2
4月3日	絵に咲く桜 講師：田沢裕賀（絵画・彫刻室長）	36	2
4月9日	国宝　花下遊楽図屏風 講師：小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	147	2
4月10日	国宝　花下遊楽図屏風 講師：伊藤信二（教育普及室長）	52	2
4月10日	キモノに咲く桜 講師：小山弓弦葉（工芸室主任研究員）	58	2
4月12日	中国の個性的な画家たち－浙派絵画入門－ 講師：富田淳（列品管理課長）	52	2
4月16日	金製首飾―小さな作品に見る古代ペルシア人の神― 講師：後藤健（特認研究員）	63	2
4月23日	屋外展示の文官と羊 講師：白井克也（平常展調整室）	73	2
4月30日	宝慶寺の三尊仏龕 講師：浅見龍介（東洋室長）	75	2
4月30日	生まれ変わった東洋館のデザイン 講師：木下史青（デザイン室長）	45	2
5月14日	花生を愉しむ 講師：横山梓（特別展室研究員）	90	2
5月21日	中国の石刻画芸術 講師：川村佳男（保存修復室研究員）	75	2
5月28日	東京国立博物館の中国陶磁　横河コレクションと広田コレクション 講師：三笠景子（保存修復室研究員）	130	2
6月4日	猿の美術入門 講師：小島有紀子（教育講座室任期付研究員）	62	2
6月11日	よみがえった馬遠「寒江独釣図」と日本絵画 講師：塚本麿充（東洋室研究員）	80	2
7月2日	マテリアルからみる展示デザイン 講師：矢野賀一（デザイン室主任研究員）	41	2
7月19日	高麗の石棺 講師：白井克也（平常展調整室長）	95	2
7月23日	本願寺本三十六人家集と石山切 講師：島谷弘幸（副館長）	166	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
7月30日	縄文土器に飾られた人物と動物 講師：井出浩正（考古室研究員）	132	2
8月6日	日本美術の作り方Ⅳ 講師：伊藤信二(教育普及室長)	32	2
8月20日	近現代の和様の書 講師：恵美千鶴子(書跡・歴史室アソシエイト・フェロー)	103	2
9月3日	宗達派「扇面散屏風」を読み解く 講師：本田光子(絵画・彫刻室研究員)	128	2
9月10日	大谷探検隊－大谷光瑞と西域探検の時代- 講師：佐々木佳美(登録室アソシエイト・フェロー)	107	2
9月18日	秋の特別公開　酒井抱一と夏秋管図屏風 講師：金井裕子(特別展室研究員)	232	2
9月19日	秋の特別公開　インドネシアのワヤン 講師：白井克也(平常展調整室長)	40	2
9月19日	秋の特別公開　西域美術入門 講師：勝木言一郎(出版企画室長)	104	2
9月19日	秋の特別公開　梁山夫妻塚の白樺製冠帽 講師：白井克也(平常展調整室長)	50	2
9月25日	秋の特別公開　酒井抱一と夏秋草図屏風 講師：金井裕子(特別展室研究員)	165	2
10月1日	描かれた考古遺物－日本美術と近代考古学のあいだ－ 講師：鈴木希帆（登録室アソシエイト・フェロー）	78	2
10月8日	近世・近代の描かれた考古遺物－古物・好古と考古学－ 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）	82	2
10月22日	洛中洛外図を味わう 講師：金井裕子（特別展室研究員）	247	2
10月29日	清時代の書－碑学派－ 講師：富田淳（列品管理課長）	103	2
11月1日	古典の日　聖徳太子絵伝について 講師：沖松健次郎（絵画・彫刻室主任研究員）	65	2
11月1日	古典の日　日本陶磁の展開 講師：齊藤孝正（上席研究員）	111	2
11月1日	古典の日　国宝 良源遺告 講師：田良島哲（調査研究課長）	86	2
11月1日	古典の日　法隆寺献納宝物と聖徳太子伝承 講師：三田覚之（工芸室研究員）	120	2
11月12日	浮世絵に描かれた風景 講師：田沢裕賀（絵画・彫刻室長）	107	2
11月15日	運慶と快慶の大日如来坐像 講師：浅見龍介（東洋室長）	252	2
11月26日	国宝・観楓図屏風 講師：遠藤楽子（出版企画室研究員）	168	2
12月3日	列品解説にみる東京国立博物館庭園の歴史 講師：三輪紫都香(登録室アソシエイトフェロー)	118	2
12月10日	古墳時代の装飾大刀 講師：橋本英将(考古室研究員)	71	2
26年1月7日	松林図屏風について 講師：田沢裕賀(絵画・彫刻室長)	240	2
26年1月21日	馬の鞍と漆芸 講師：竹内奈美子(工芸室長)	84	2
26年1月28日	国宝 秋冬山水図 雪舟筆 講師：救仁郷秀明(登録室長)	190	2
26年2月4日	近畿の弥生文化 講師：品川欣也(考古室研究員)	80	2
26年2月18日	東京国立博物館　大日如来坐像について 講師：鷲塚麻季(調査研究課主任研究員)	120	2
26年2月25日	江戸狩野の画風 講師：山下善也(絵画・彫刻室主任研究員)	140	2
26年3月4日	東京国立博物館コレクションの保存と修理 講師：土屋裕子(保存修復室長)	106	2
26年3月11日	東洋書画の修復と保存 講師：鈴木晴彦(保存修復課アソシエイトフェロー)	86	2
26年3月18日	伝藤原光能像と中世の肖像画 講師：土屋貴裕(平常展調整室研究員)	110	2
26年3月25日	展示を支える修復技術－マウント、書見台、保存箱 講師：米倉乙世(保存修復課アソシエイトフェロー)	58	2
26年3月19日	絵画に咲く桜 講師：本田光子(絵画・彫刻室任期付研究員)	100	2
26年3月26日	着物に咲く桜 講師：佐々木佳美(登録室アソシエイトフェロー)	98	2

②特別展関連ギャラリートーク　15回　参加者総数　1694人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
10月11日	上海展リレートーク「上海博物館の中国名画、私の見方①」 講師：湊信幸(東洋室研究員)	153	2
10月25日	上海展リレートーク「上海博物館の中国名画、私の見方②」 講師：宮崎法子(実践女子大学教授)	121	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
11月8日	上海展リレートーク「上海博物館の中国名画、私の見方③」 講師：塚本麿充(東洋室研究員)	173	2
11月22日	上海展リレートーク「上海博物館の中国名画、私の見方④」 講師：板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所教授)	325	2
1月15日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：中島宏(陶芸/重要無形文化財「青磁」保持者)	70	2
1月16日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：増村紀一郎(漆芸/重要無形文化財「蒟漆」保持者)	90	2
1月17日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：鈴木蔵(陶芸/重要無形文化財「志野」保持者)	91	2
1月21日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：佐々木苑子(染織/重要無形文化財「紬織」保持者)	81	2
1月22日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：室瀬和美(漆芸/重要無形文化財「蒔絵」保持者)	120	2
1月23日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：森口邦彦(染織/重要無形文化財「友禅」保持者)	90	2
1月24日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：村山明(木竹工/重要無形文化財「木工芸」保持者)	80	2
1月28日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：奥山峰石(金工/重要無形文化財「鍛金」保持者)	50	2
1月29日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：原清(陶芸/重要無形文化財「鉄釉陶器」保持者)	70	2
1月30日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：林駒夫(人形/重要無形文化財「桐塑人形」保持者)	70	2
1月31日	人間国宝展 現役人間国宝によるギャラリートーク 講師：伊勢崎淳(陶芸/重要無形文化財「備前焼」保持者)	110	2

③東京芸術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク　29回　参加者総数　949人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
12月11日、12月18日、26年1月15日、1月25日、2月2日、2月9日	6	狛犬の世界 - 犬？ライオン―不思議な守護獣―	篠原　英里	210
26年1月8日、1月10日、1月22日、1月26日、2月5日、2月11日	6	「止利派の半跏像―金銅仏鑑賞の楽しみ方―」	任佳英	169
26年1月12日、1月21日、1月24日、1月29日、2月14日	5	「秋篠寺『十一面観音菩薩立像』のみかた―より強い救いを求めるかたち―」	猪狩智子	226
26年1月16日、1月23日、1月28日、1月31日、2月6日、2月12	6	「甲冑の美術―『黒韋肩妻取威胴丸』―」	武田侑子	166
26年1月19日、2月1日、2月4日、2月13日、2月19日、2月23日	6	「『搖錢樹』錢なる樹と大きな羊―古代四川文化の洗練、快活、多様性―」	吉野利幸	178

3)　連続講座「和様の書」　計1回(3日)　参加者総数　354人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
8月2日	第1講「世尊寺流の書」 講師：島谷弘幸(副館長) 第2講「これからの『和様の書』」 講師：土橋靖子(読売書法会常任理事)	354	2	94.8%
8月3日	第3講「和様の書と料紙について」 講師：高橋裕次（博物館情報課長） 第4講　「装丁と修理」 講師：岡泰央（㈱岡墨光堂　代表取締役）			
8月4日	第5講「「和様の書」鑑賞の歴史」 講師：恵美千鶴子（書跡・歴史室アソシエイトフェロー） 第6講「信仰と書」 講師：田良島哲（調査研究課長）			

4)　公開講座　計2回　参加者総数34　人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
26年3月13・14日	見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう 講師：保存修復課長　神庭信幸、保存修復室長　冨坂賢、保存修復室主任研究員　土屋裕子、環境保存室主任研究員 荒木臣紀、環境保存室主任研究員 和田浩、特任研究員 澤田むつ代、保存修復室研究員　三笠景子、保存修復室研究員　川村佳男	34	2	97%

5) その他展示に関連する事業　計1回　参加者総数　27人

実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
5月19日	恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 上野の山でサルめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	27	2

【京都国立博物館】

1)　土曜講座10回　参加者総数 1,257人

全て特別展覧会関連講座

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月6日	山雪の受難、そして「雪汀水禽図」の画想	大阪大学教授　奥平俊六	128
4月13日	山楽・山雪と九条家	兵庫県立歴史博物館学芸員　五十嵐公一	147

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月27日	京都ミュージアムズ・フォー連携講座 山雪からのメッセージーはじめてこれを画くー	連携協力室長　山下善也	157
7月13日	遊びのコレクションー展覧会のみどころー	主任研究員　永島明子	120
7月20日	京都国立博物館の人形	教育室長　山川曉	80
7月27日	こんなにおもしろい近世彫刻	保存修理指導室長　淺湫毅	89
10月26日	清朝陶磁と江戸時代後期の茶道具	根津美術館副館長　西田宏子	178
11月9日	煎茶と清朝陶磁	大阪市立美術館学芸課長　守屋雅史	118
11月30日	出土資料からみた清朝陶磁器の国内需要	東京大学埋蔵文化財調査室准教授　堀内秀樹	88
12月7日	清朝陶磁と日本人	工芸室長　尾野善裕	152

2)　記念講演会　1回　190人

実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月21日	特別展「狩野山楽・山雪」関連 特別講演会「山楽・山雪と京狩野」	京都教育大学名誉教授　脇坂　淳	190

3)　夏期講座　1回（3日）219人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月31日	第1講「大和路の古寺を巡って…わたしの調査遍歴…」	学芸部長　村上隆	219
	第2講「宝物から文化財へ」	列品管理室長　鬼原俊枝	
	第3講「中部イタリアの大聖堂―信仰と美術―」	尚美学園大学総合政策学部准教授　金原由紀子	
8月1日	第1講「流転する文化財―古社寺に伝わる仏具を中心に―」	研究員　末兼俊彦	
	第2講「名古屋七寺阿弥陀三尊像とその周辺」	和歌山県立博物館長　伊東史朗	
	第3講「四川省安岳臥仏院の涅槃大仏と刻経窟」	早稲田大学文学学術院教授　肥田路美	
8月2日	第1講「寺院と障壁画」	連携協力室長　山下善也	
	特別展観「遊び展」見学会	引率:連携協力室長 山下善也、主任研究員 永島明子	

4)　社会科教員のための向上講座　1回　30人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月22日	講演「魅惑の清朝陶磁展にちなんで」 館内実地研修「魅惑の清朝陶磁」展	工芸室長　尾野善裕	30

5)　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」ギャラリートーク　8回　366人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
10月18日	「魅惑の中国七宝」（講師：末兼研究員）	京都国立博物館特別展示館	32
10月25日	「清朝皇帝の愛した蒔絵」（講師：永島主任研究員）	京都国立博物館特別展示館	35
11月8日	「吉祥の図案」（講師：呉研究員）	京都国立博物館特別展示館	47
11月15日	「坂本龍馬と長崎」（講師：宮川室長）	京都国立博物館特別展示館	45
11月22日	「清朝の宮廷衣裳」（講師：山川室長）	京都国立博物館特別展示館	55
11月29日	「清朝陶磁の吉祥文様」（講師：尾野室長）	京都国立博物館特別展示館	59
12月6日	「坂本龍馬と下関」（講師：宮川室長）	京都国立博物館特別展示館	50
12月13日	「江戸時代の唐物趣味」（講師：末兼研究員）	京都国立博物館特別展示館	43

6)　その他展示に関連する事業　2回　68人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
8月6日	小中学生向け鑑賞会「びじゅつで遊ぼう！」（講師：水谷研究員）	京都国立博物館特別展示館	38
8月9日	小中学生向け鑑賞会「びじゅつで遊ぼう！」（講師：水谷研究員）	京都国立博物館特別展示館	30

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　13回　　参加者総数　　1,682人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月20日	「當麻曼荼羅と中将姫説話の諸相」	神戸学院大学人文学部人文学科専任講師　日沖敦子	108
4月27日	「當麻曼荼羅の不思議」	元奈良国立博物館長　濱田隆	149
	「綴織當麻曼荼羅の図像解釈」	佛教大学仏教学部准教授　大西磨希子	
	「浄土信仰史上の當麻曼荼羅」	京都大学人文科学研究所准教授　稲本泰生	
	「綴織當麻曼荼羅の染織技法」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室主任研究官　田中陽子	
	「當麻寺における綴織當麻曼荼羅」	学芸部研究員　北澤菜月	
	パネルディスカッション	濱田隆、大西磨希子、稲本泰生、田中陽子、北澤菜月	
5月4日	「＜寺史＞のなかの役行者　―當麻寺は役行者の旧跡に建つ」	就実大学人文科学部表現文化学科教授　川崎剛志	133
5月18日	「當麻曼荼羅の信仰史」	学芸部研究員　北澤菜月	120
5月25日	「當麻寺の彫像」	学芸部長補佐　岩田茂樹	120
8月3日	「曼荼羅の見方・考え方」	大正大学教授　小峰彌彦	194
9月7日	「かたちにみる仏像の諸相」	学芸部教育室長　岩井共二	194
10月26日	「聖武朝における歌舞の隆盛と和琴」	新潟大学人文学部教授　荻美津夫	112
10月27日	「鑑真和上坐像について―平成お身代わり像制作で得られた新知見―」	美術院国宝修理所研究部長　木下成通	192
	「正倉院宝物の僧衣について」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室主任研究官　田中陽子	
	「唐招提寺金堂と正倉院宝物にみる彩色文様」	奈良教育大学教授　大山明彦	
	「鑑真和上の書状」	学芸部長　西山厚	
	パネルディスカッション	木下成通、田中陽子、大山明彦、西山厚、内藤栄	
11月2日	「慶長櫃が語る正倉院の歴史」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室員　佐々田悠	93
11月3日	「正倉と正倉院宝物ー守る・伝えるー」	宮内庁正倉院事務所保存課長　成瀬正和	114
11月9日	「香印坐と天平の彩り」	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生	108
12月8日	「おん祭と大和士」	天理大学おやさと研究所研究員　幡鎌一弘	45

2) 夏季講座　第42回「仏教美術へのいざない」　1回（3日間）

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月20日	「彫刻史研究の六十年」	公益財団法人美術院国宝修理所理事長　西川杏太郎	587
	「インドから日本まで―半跏思惟像の成立と展開―」	名古屋大学名誉教授　宮治昭	
	「仏像に見る奈良様と和様」	和歌山県立博物館長　伊東史朗	
8月21日	「マンダラと密教の仏たち」	金沢大学人間社会学域教授　森雅秀	
	「仏教説話の美術」	奈良女子大学文学部教授　加須屋誠	
	「仏像の内部に内部に籠められた祈り　―像内納入品の世界―」	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授　佐々木守俊	
	「仏の荘厳」	学芸部研究員　永井洋之	
8月22日	「仏像の心とかたち」	学芸部長　西山厚	
	「仏像に会うー展覧会案内ー」	学芸部教育室長　岩井共二	

3) サンデートーク　12回　参加者総数　950人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者数(人)
4月21日	「飛鳥仏の源流をたどる」	学芸部教育室長　岩井共二	111
5月19日	「幸せの国ブータンの仏教美術」	学芸部研究員　岩戸晶子	78
6月16日	「図像から彫像へ ―宋本図像と二軀の文殊菩薩像―」	学芸部研究員　山口隆介	85
7月21日	「ハコ、いろいろ」	学芸部主任研究員　清水健	61
8月18日	「国語と日本語―近代の国語施策を振り返る―」	副館長　清水功	84
9月15日	「描かれた仏像―霊験仏のかたち」	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生	73
10月20日	「第４回　茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」	学芸部情報サービス室長　吉澤悟	20
11月17日	「怨霊とタタリの歴史学」	学芸部研究員　斎木涼子	108
12月15日	「附属品」	学芸部研究員　原瑛莉子	40
26年1月19日	「文化財を撮る -写真が語り継ぐもの-」	学芸部資料室員　佐々木香輔	63
26年2月16日	「装飾文様のかたち」	学芸部研究員　永井洋之	80
26年3月16日	「女性と仏教」	学芸部長　西山厚	147

4) その他展示に関連するイベント　15回　参加者総数　3,443人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
4月7日	當麻寺による出張イベント@奈良博「中将姫と當麻曼荼羅　絵解き拝礼式とともに」（講話と実演）	講堂	132
4月14日	當麻寺による出張イベント@奈良博「當麻寺聖衆来迎練供養会式と菩薩講」（講話と実演）	仏教美術資料研究センター	180
4月29日	當麻寺による出張イベント@奈良博「極楽浄土へのあこがれ」（講話）	講堂	166
5月3日	當麻寺による出張イベント@奈良博「當麻寺の雑学」（講話）	講堂	163
7月20日 ～9月1日	夏休み　子供企画　「ほとけさまに会おう！ならはくスタンプラリー」	展示室・なら仏像館	2,020
7月27日	夏休み親子企画「ほとけさまの絵をかいてみよう！」	地下回廊	34
7月28日	夏休み子ども教室「香木のフシギ！？」―クイズで学ぶ<みほとけのかおり>！香木の香り体験も！！―	地下回廊	60
8月17日	奈良トライアングルミュージアムズ　ワークショップなら「仏像切り絵体験」	地下回廊	40
8月18日	奈良トライアングルミュージアムズ　ワークショップなら「写仏散華体験」	地下回廊	53
8月25日	トークセッション「仏像模刻にかける青春群像！」	講堂	110
10月26日 ～11月11日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
10月27日	正倉院学術シンポジウム2013「鑑真和上と正倉院宝物」	奈良県新公会堂	194
11月3日	第65回正倉院展　親子鑑賞会	講堂、展示室	182
12月17日	「おん祭と春日信仰の美術」茶会	茶室、庭園、西新館ピロティ	71
2月16日	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂、展示室、茶室控室、東大寺二月堂	38

【九州国立博物館】

1) 特別展記念講演会　5回　参加者総数　1,108人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月21日	特別展「大ベトナム展」関連 特別講演会「日越関係が示す新しい世界史像」 「近現代の日越関係史と今後の展望」	 大阪大学教授　桃木至朗 東京大学教授　古田元夫	123
5月12日	特別展「大ベトナム展」関連 特別講演会「ベトナム・ホイアン日本町跡を発掘する」 「ベトナムの『元寇』を探る～予備調査の結果からわかること」 「安南文書の世界」 「陶磁器から見た海のシルクロードとベトナム」	 昭和女子大学教授　菊池誠一 テキサスA&M大学海事考古学研究所　ランドール・ササキ 前博物館科学課保存修復室長　藤田励夫 展示課研究員　遠藤啓介	190
8月3日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 特別講演会「皇帝たちの中国ーファースト・エンペラーからラスト・エンペラーまでー」	早稲田大学教授　稲畑耕一郎	280
10月12日	特別展「尾張徳川家の至宝」関連 特別講演会「“殿”文化を語る一国宝『源氏物語絵巻』を伝えた系譜」	徳川美術館館長　徳川義崇	260
26年 1月26日	特別展「国宝 大神社展」関連 特別講演会「鎮守の社（もり）と日本人」	神社本庁総長・石清水八幡宮宮司　田中恆清	255

2)　講演及びシンポジウム等　38回　　参加者数　4,450人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月20日	トピック展示「江戸のモダニズム　古武雄」関連 特別講演会「古武雄の美と魅力について」	根津美術館副館長兼学芸部長　西田宏子 重要無形文化財保持者（人間国宝）中島宏 館長　三輪嘉六	220
4月26日	特別展「大ベトナム展」関連 解説講座　しっとこ九博！「大ベトナム展」（筑紫野市）	前博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	41
5月25日	トピック展示「江戸のサイエンス　ー武雄蘭学の軌跡ー」関連 講演会「武雄蘭学の世界」 「蘭学史上の武雄蘭学」 「武雄蘭学資料にみる江戸のモノづくり」 「歴史資料としてみる武雄蘭学資料」 「武雄鍋島家と鍋島茂義」	大分大学教授　鳥井裕美子 国立科学博物館科学技術史研究グループ長　鈴木一義 文化庁主任文化財調査官　岡部幹彦 武雄市図書館・歴史資料館学芸員　川副義敦 司会：九州大学名誉教授・文化功労者　中野三敏	190
6月15日	トピック展示「江戸のサイエンスー武雄蘭学の軌跡」関連 ミュージアム講座「江戸のサイエンス」展の楽しみ方ー武雄蘭学資料の魅力にせまるー	文化財課研究員　荒木和憲	13
7月12日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 解説講座　しっとこ九博！「中国　王朝の至宝　三〇〇〇年にわたる美の興亡、そのダイナミズムを体感する！」（筑紫野市）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	60
7月13日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 リレー講座「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」	学芸部長　谷豊信	150
7月20日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 リレー講座「中国　王朝の至宝を10倍楽しく見る方法」	企画課特別展室主任研究員　市元塁	130
7月28日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 地域講演会「中国 王朝の至宝でよみとく3000年」（岡垣町）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	294
8月4日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 地域講演会「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」（篠栗町）	学芸部長　谷豊信	135
8月4日	トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画」関連 記念講演会「奥行きの発見　18～19世紀の日本の洋風表現」	神戸市立博物館展示企画部長　岡泰正	31
8月17日	特別公開「国宝・神戸市桜ケ丘出土銅鐸」関連 記念講演会『銅鐸絵画から弥生社会に迫る』 「謎の青銅器―銅鐸に迫るー」 「絵画に見る弥生人の精神世界」 「原始絵画からみた九州と近畿」	東京国立博物館　井上洋一 奈良県立橿原考古学研究所　橋本裕行 福岡市文化財部　常松幹雄	100
8月20日	トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画」関連 ミュージアムトーク特別編「舶載蘭書と洋風画」	神戸市立博物館学芸員　勝盛典子	32
8月20日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 特別展セミナー　「中国　王朝の至宝」の魅力に迫る ー学芸員が語る「歴史」と「文化」ー（九州経済調査会）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	15
8月23日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 特別展出張講演　「比べて分かる　中国　王朝の至宝」 （西日本新聞エリアセンター姪浜）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	20
8月25日	特別展「中国　王朝の至宝」関連 地域講演会「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」（柳川市）	学芸部長　谷豊信	115
10月5日	国際シンポジウム 「ベトナムに恋して」 講演1「日越外交関係樹立40周年を迎えて」 講演2「ベトナムでの日本文化紹介」 講演3「ベトナム・ハノイにおける文化庁海外展について」 トークセッション「Let's　talk about Vietnam」 留学生パフォーマンス「Live　Vietnam　from　APU」 スペシャルライブ「The　Winds　from　Vietnam」	在日福岡ベトナム社会主義共和国総領事館副領事　グェン　ヴェト　ドク 国際交流基金ベトナム日本文化交流センター所長　稲見和己 九州国立博物館展示課主任研究員　岸本圭	207
10月10日	文化庁招へい事業　（対象：職員・ボランティア等） 「トプカプ宮殿の至宝とイスタンブールの象徴ブルーモスクについて」	トルコ・トプカプ宮殿美術館主任研究員　オミュル・トゥファン	36

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月12日	公開シンポジウム「市民と共に　ミュージアムIPM」（一橋大学　一橋講堂） 第1部　基調講演：ミュージアムとIPM 「わが国における資料の保存公開施設のIPM－美術館・博物館から文書館・図書館まで－」 「IPMは日常のことに－これまで、いま、そしてこれから－」 第2部　基調報告：ミュージアムIPMと市民活動 「愛知県美術館のIPMプログラムとサポート組織」 「九州国立博物館のIPMと市民による支援活動」 「地元NPO法人でスタートした支援活動」 「ボランティア活動からNPO法人活動へ」 「気付きと見守りのIPMボランティア」 「紙芝居やカルタで伝えるIPM」 第3部　事例報告：ミュージアムIPMの導入と成果 「小規模複合文化施設のIPM－課題と取り組み－」 「ユネスコ世界記憶遺産登録で始まった地方博物館のIPM」 「IPM導入とそれからの4年間―その背景、これまでの取組み、今後の展望―」 「小さな博物館のIPM－考古資料収蔵の★ひなれ！－」	九州国立博物館館長　三輪嘉六 九州国立博物館副館長　森田稔 九州国立博物館特任研究員　本田光子 公益財団法人文化財虫菌害研究所理事長　三浦定俊 愛知県美術館館長　村田眞宏 愛知県美術館　長屋菜津子 九州国立博物館　秋山純子 株式会社タクト　下川可子 第1期ボランティア・NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター　新原茂春 第2期ボランティア　内田祥乃 第3期ボランティア　伊藤幸子・内田成美・楠原圭子・東浦京子 太宰府市文化ふれあい館　井上理香 田川市石炭・歴史博物館　藤本和美・福本寛・中川恭子 熊本市現代美術館　富澤治子・杉谷和泉・蔵座江美・芦田彩葵・岡田直幸 奈良文化財研究所飛鳥資料館　成田聖	116
10月19日	大宰府学講座「太宰府ゆかりの和様の書」（太宰府市）	文化財課資料登録室主任研究員　丸山 猶計	30
10月20日	特別展「尾張徳川家の至宝」関連 アクロス・文化学び塾 特別展「尾張徳川家の至宝」について	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	70
10月26日	トピック展示「山の神々」関連 第34回日本山岳修験学会　太宰府・宝満山学術大会 公開シンポジウム「大宰府をめぐる山々と海彼」 基調講演「東アジアの中の大宰府をめぐる山岳信仰」 「〈海彼〉を望む女神たち－日韓の山岳宗教と女神信仰－」 「背振山系と肥前霊山の諸相」 「山の神仏と海－北部九州と造形遺品に見る－」 「首羅山・油山と東アジア」	九州大学名誉教授　西谷正 司会　福岡県文化財保護審議会委員・博士（人間環境学）・日本山岳修験学会開催地担当理事　森弘子 コメンテーター　慶応義塾大学教授・文学博士・日本山岳修験学会会長　鈴木正崇 元駒沢大学教授・文学博士・日本山岳修験学会顧問　長野覺 パネラー　九州産業大学准教授　須永敬 袋井市歴史文化館主幹　山本義孝 九州歴史資料館学芸員　井形進 山口県立大学准教授　伊藤幸司	267
10月30日	講演　平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館支援事業 「墨魅～忠岡町から墨の魅力を地域・全国・世界に発信！」 ワークショップ「みんなで筆を持とう「国宝を書く！」」 （公益財団法人正木美術館）	文化財課資料登録室主任研究員　丸山 猶計	50
11月1日	特別展「尾張徳川家の至宝」関連 解説講座「御三家筆頭　尾張徳川家の至宝展」（筑紫野市）	展示課展示調整室主任研究員　酒井芳司	32
11月2日	特別展「尾張徳川家の至宝」関連 ここが見どころ！徳川展連続講座 「殿様の教養―尾張徳川家の名筆と典籍―」 「絵になる源氏物語」	展示課主任研究員　酒井芳司 企画課特別展室研究員　鷲頭桂	102
11月9日	特別展「尾張徳川家の至宝」関連 ここが見どころ！徳川展連続講座 「天下人のあかし－信長・秀吉・家康の遺愛品－」 「国宝　初音の調度の魅力」	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲 企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	75
11月9日	歴史講座「誓願寺「盂蘭盆縁起」の魅力」	文化財課資料登録室主任研究員　丸山 猶計	40
11月28日	第2回ふるさとセミナー（春日市奴国の丘歴史資料館）	企画課長　臺信祐爾	30
26年 1月18日	特別展「国宝 大神社展」関連 連続講座「国宝　大神社展」の壺 「神像のみかた」 「神話と『古事記』『日本書紀』」	展示課主任研究員　楠井隆志 展示課主任研究員　酒井芳司	256
26年 1月18日	トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」関連 講演会「アイヌコレクション―遙かなる時空の民族文化」	千葉大学名誉教授、ロシアアイヌ資料調査団団長　萩原眞子	36
26年 1月19日	特別展「国宝 大神社展」関連 地域講演会「国宝　大神社展」への誘い 「日本人はいかに表現したか。」（久留米市）	展示課主任研究員　楠井隆志	186
26年 1月25日	特別展「国宝 大神社展」関連 連続講座「国宝　大神社展」の壺 「古神宝の調度」 「神々のすがた」	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子 企画課特別展室研究員　森實久美子	80
26年1月31日	特別展「国宝 大神社展」関連 解説講座　しっとこ九博！「国宝 大神社展」（筑紫野市）	展示課主任研究員　楠井隆志	80
26年 2月2日	特別展「国宝 大神社展」関連 地域講演会「国宝　大神社展」への誘い 「天の岩戸と神の島～古代人の他界観」（福津市）	企画課文化交流展室長　河野一隆	234

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
26年 2月8日	特別展「国宝 大神社展」関連講演会＆トークショー 式年遷宮について語るタベ 「伊勢神宮と式年遷宮」 トークセッション	伊勢神宮式年遷宮広報本部副本部長、神宮禰宜　広報室長　河合真如 出演　女優　鶴田真由・河合真如 コーディネーター　伊勢神宮式年遷宮広報本部本部長、神社本庁総長、石清水八幡宮宮司　田中恆清	280
26年 2月9日	特別展「国宝 大神社展」関連 地域講演会「国宝　大神社展」への誘い 「よみがえった宮地嶽古墳黄金の太刀」（福岡市）	展示課長　赤司善彦	92
26年 2月9日	トピック展示「発掘された日本列島2013」関連 「陵墓の歴史変遷大要―その変遷を中心に―」	宮内庁書陵部　福尾正彦	80
26年 2月27日	平成25年度　九州国立博物館文化財保存交流セミナー 文化財保存と絵画資料「中国美術における梅について」	中国科学院自然科学史研究所大学資料編纂所協同研究員　黄栄光	25
26年 3月2日	地域講演会「よみがえった宮地嶽古墳黄金の太刀」（福岡市アクロス福岡）	展示課長　赤司善彦	500

3)　ミュージアムトーク　47回　参加者総数　1,718人

・担当研究員数　延べ　47人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後3時より15～30分間）

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
4月2日	涅槃図の見方	企画課特別展室研究員　森實久美子	35
4月9日	年代をはかる(1)	企画課文化交流展室長　河野一隆	30
4月16日	文化財を科学する	文化財課資料登録室主任研究員　鳥越俊行	40
4月19日	江戸のモダニズム　古武雄の魅力(1)	展示課研究員　遠藤啓介	20
4月23日	江戸のサイエンス　武雄蘭学の奇跡(1)	文化財課主任研究員　荒木和憲	50
4月30日	琉球王国尚家関係資料の保存修理	博物館科学課アソシエイトフェロー　渡部史之	30
5月10日	江戸のモダニズム　古武雄の魅力(2)	展示課研究員　遠藤啓介	40
5月14日	年代をはかる(2)　発掘された古代の暦	展示課主任研究員　酒井芳司	35
5月21日	江戸のサイエンス　武雄蘭学の奇跡(2)	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	45
5月28日	伊都王国のアンティーク	企画課特別展室主任研究員　市元塁	30
6月4日	年代をはかる(3)	展示課長　赤司善彦	50
6月11日	江戸のサイエンス　武雄蘭学の奇跡(3)	武雄市歴史資料館　川副義敦	40
6月18日	巴形銅器の話	展示課主任研究員　進村真之	30
6月25日	海の正倉院　沖ノ島	展示課主任研究員　岸本圭	30
7月2日	年代をはかる(4)　年輪年代に挑戦した研究者	博物館科学課長　今津節生	40
7月9日	輸出漆器について	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	25
7月23日	梵鐘の魅力	文化財課アソシエイトフェロー　望月規史	45
7月30日	視覚革命・異国と出会った江戸絵画(1)	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	30
8月6日	視覚革命・異国と出会った江戸絵画(2)	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀	40
8月13日	国宝・桜ケ丘銅鐸	展示課主任研究員　進村真之	75
8月20日	舶載蘭書と洋風画	神戸市立博物館学芸員　勝盛典子	30
9月3日	更紗の魅力	文化財課主任研究員　原田あゆみ	60
9月10日	観世音寺の塑像木心について　不空羂索観音像	展示課主任研究員　楠井隆志	45
9月19日	博物館の環境について	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	20
9月26日	天皇陵のたからもの	企画課文化交流展室長　河野一隆	35
10月4日	煎茶の世界	展示課研究員　遠藤啓介	20
10月17日	考古学の年代を決める	文化財課資料登録室主任研究員　鳥越俊行	20
10月22日	田能村直入煎茶道具にみる縄文土器について	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	40
10月29日	ササン朝ペルシャ銀器について	企画課長　臺信祐爾	55
11月6日	山の神々	展示課主任研究員　酒井芳司	80
11月12日	江戸の喫茶文化	文化財課アソシエイトフェロー　望月規史	25
11月26日	漢王朝と弥生社会	企画課特別展室主任研究員　市元塁	25
12月3日	新収蔵品・マニ誕生図の見方	企画課特別展室研究員　森實久美子	50
12月10日	海の正倉院　沖ノ島	展示課主任研究員　岸本圭	25
12月17日	青銅器の色	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	15
26年1月7日	天神さまの宝もの	展示課長　赤司善彦	25
26年1月16日	ロシアが見たアイヌ文化	交流課主任研究員　池内一誠	48
26年1月21日	発掘された日本列島2013	展示課主任研究員　進村真之	40
26年1月28日	江上波夫の眼	企画課長　臺信祐爾	35
26年2月4日	アイヌのムックリとアジアの口琴	交流課主任研究員　池内一誠	40
26年2月13日	琉球と薩摩・江戸	文化財課長　冨坂賢	20
26年2月18日	異国人から見た日本	博物館科学課アソシエイトフェロー　渡部史之	35
26年2月25日	大分県姫島の黒曜石について	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	25
26年3月4日	南部家ゆかりの婚礼調度について	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	45
26年3月11日	近世絵画名品展①	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	35
26年3月18日	近世絵画名品展②	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀	35
26年3月25日	新羅古墳資料から見た古墳文化	博物館科学課長　今津節生	30

4)　その他展示に関連するイベント　19回　　参加者数　43,199人

展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数(人)
文化交流展	6月4日～ 26年2月2日	世界遺産　高句麗　壁画古墳写真展	文化交流展示室 南側ギャラリー通路	―
	8月11日	特別公開「国宝・神戸市桜ケ丘出土銅鐸」関連 夏休み特別企画ワークショップ「銅鐸を作ろう！」	研修室	11
	10月26日～27日	トピック展示「山の神々」関連 パネル展示	エントランス・研修室	―
	12月14日	トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」関連 アイヌ文様刺しゅう体験ワークショップ	研修室	22
	12月17日～ 26年1月13日	東京オリンピック1964展	エントランスホール	38,571
	26年1月12日	トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」関連 アイヌミュージアムフェアin九博	ミュージアムホール	350
特別展「大ベトナム展」	4月27日～5月6日	ベトナムグルメ天国	屋外	―
	5月19日	ライブベトナム	ミュージアムホール	600
	6月1日	ベトナム民族楽器トルンの演奏によるさわやかなひととき	ミュージアムホール	250
特別展「中国王朝の至宝」	8月10日	こどもイベント「跪射俑（きしゃよう）に変身!!～段ボールで鎧づくり～」	研修室	50
特別展「尾張徳川家の至宝」	11月1日～4日	名古屋めしフェア	屋外	―
	11月3日	ファッションショー「KIMONO夢物語」～源氏物語絵巻への誘い～	ミュージアムホール	350
特別展「大神社展」	26年1月15日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（壱岐神楽・高千穂神楽）	ミュージアムホール	500
	26年1月19日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（白鬚神社の田楽・御嶽神楽）	ミュージアムホール	440
	26年1月22日	「神々と日本伝統文化　狂言と古典落語の世界」	ミュージアムホール	255
	26年2月2日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（竹の曲・高原神舞）	ミュージアムホール	400
	26年2月8日	トークショー「式年遷宮について語る夕べ」	ミュージアムホール	500
	26年2月28日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（石清水八幡宮 御神楽）	ミュージアムホール	400
文化庁主催海外展「日本文化展」	26年1月18日	ワークショップ	ベトナム国立歴史博物館	500

2-⑵-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業

平成26年3月31日現在

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	4月1日～3月31日
開催場所	本館特別4室、本館地下教育普及スペース、東洋館6室オアシス
入場者数	38,009人　（※東洋館6室オアシスで実施した体験型プログラム参加者数を計数）
担当研究員数	7人
事業内容	みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を運営。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラムなどを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。また、総合文化展鑑賞の手引きとして、ワークシート3種を制作し、通年配布した。 本館の教育普及スペース「みどりのライオン」改修工事に伴い、25年12月より体験型プログラムは東洋館6室オアシスにて、体験型プログラム「アジアの占い体験」のみを継続した。

2)「親と子のギャラリー」

「日本美術のつくり方Ⅳ」	
開催期間	7月17日 ～ 8月25日（49日間）
開催場所	本館特別2室
入場者数	61,923人　（※本館入館者数を計数）
担当研究員数	3人
事業内容	家族での来館のきっかけ、および、総合文化展鑑賞の一助となることを目的に、わかりやすいテーマ設定のもと時代やジャンルを超えた作品を展示する教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。本館に展示されている日本の伝統的な工芸作品を「つくり方」という切り口でわかりやすく伝えることを目指した。作者の技術の豊かさに触れ、その技術を生かして作られた「ほんもの」の作品の鑑賞を通して、歴史のなかで培われてきた日本文化のすばらしさを伝える。関連ギャラリートークも実施。
関連事業	・ファミリーワークショップ「きらきら光る唐紙を摺ろう！」　8月11日・24日　（※詳細は　2-⑵-④　3)③ワークショップ　を参照）

3) 体験型プログラムの実施　　参加者数計41,862人、

① 平常展示関連体験型プログラム　　参加者数計　40,293人

ハンズオン 体験型展示	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	
	期　　間	4月1日～12月22日
	開催場所	東洋館6室オアシス
	参加者数	38,009人
アクティビティ	特集陳列「博物館に初もうで」（本館特別1・特別2室）関連「東博ウマ三昧」	
	期　　間	26年1月2日～1月3日
	開催場所	東洋館エントランス
	参加者数	2,284人

② 平常展示関連 ワークショップ及び関連事業　　回数 23回　参加者数計 802人

ワークショップ及び関連事業	総合文化展（東洋館）関連 子どもツアー「トーハク探検ツアー　アジアの動物？？編」	
	期　　間	5月3日　①10時～、②14時～　　5月4日　　③10時～、④14時～
	開催場所	東洋館3・11・12・13室
	参加者数	①20人、②7人、③15人、④5人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展（本館）関連 中高生のためのワークショップ「学芸員に挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	7月28日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	14人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展（本館）関連 おとなのためのワークショップ「学芸員に挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	7月28日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	14人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方」(本館特別2室)関連 ファミリーワークショップ「きらきら光る唐紙を摺ろう！」（事前申込制）	
	期　　間	①8月11日、②8月24日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①26人　②16人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 ファミリーワークショップ「考古学者に挑戦！」（事前申込制）　※小学校低・中学年対象	
	期　　間	10月5日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	19人
	担当研究員数	5人

ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 小中学生のためのワークショップ「考古学者に挑戦！」（事前申込制）　※小学校高学年～中学生対象	
	期　　間	10月5日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	14人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「清時代の書 ―碑学派―」（平成館企画展示室）関連 ファミリーワークショップ「清時代の書に挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	10月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	8人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「屏風体験！」（事前申込制）	
	期　　間	11月2日　①10時～、②14時～
	開催場所	応挙館
	参加者数	①24人　②26人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「日本の仮面　能面　是閑と河内」関連　実演「面打」	
	期　　間	11月24日
	開催場所	平成館大講堂
	参加者数	112人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「日本の仮面　能面　是閑と河内」関連　トークショー「面打」	
	期　　間	11月24日
	開催場所	平成館大講堂
	参加者数	123人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「金工」（本館13室）関連 ファミリーワークショップエビを作ってみよう」	
	期　　間	①1月18日、②1月19日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①23人、②22人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展法隆寺宝物館関連　トーハク探検ツアー法隆寺のたからもの編	
	期　　間	①2月8日、②2月9日
	開催場所	法隆寺宝物館
	参加者数	①14人、②20人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展法隆寺宝物館関連　みんなでみる法隆寺献納宝物入門	
	期　　間	①2月8日、②2月9日
	開催場所	法隆寺宝物館
	参加者数	①3人、②13人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	桜ワークショップ　ぬり絵　日本のデザイン、色づかい	
	期　　間	①3月29日、②3月30日
	開催場所	平成館ラウンジ
	参加者数	①135人、②129人
	担当研究員数	3人

③特別展関連　ワークショップおよび関連事業　　回数 5回　参加者数計　767人

ワークショップ及び関連事業	特別展「和様の書」関連　ワークショップ「唐紙の魅力、料紙の魅力」	
	期　　間	①8月11日　②8月24日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①23人　②23人
ワークショップ及び関連事業	特別展「和様の書」関連　ファミリーワークショップ「親子書道教室　三跡に挑戦！」	
	期　　間	8月17日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	30人
ワークショップ及び関連事業	特別展「和様の書」関連　席上揮毫会	
	期　　間	8月25日
	開催場所	平成館大講堂
	参加者数	①342人　②349人

4）東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校28校1,512人／中学校 112校3,518人／高校56校 1,418人／中高一貫2校27名 計198校6,475人 ※児童・生徒のみを計数。この他引率教員が572人 ※特別支援学校、特別支援学級で「盲学校のスクールプログラム」以外を受講した場合も計数 盲学校のためのスクールプログラム 20校　57名

担当研究員数	3人
事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、ガイダンスや対話形式の伝統文化理解のための鑑賞教育プログラムを児童・生徒に実施した。スクールプログラムのパンフレットは近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。 視覚障害者の鑑賞支援プログラムとして今年度より「盲学校のためのスクールプログラム」の受入実施を開始した。

5）職場体験の受入

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校 18校62人／高校 5校20人、計23校82人
担当研究員数	2名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。生涯学習ボランティアとともに、お客様案内やアクティビティの補助等、お客様サービスに関わる業務の体験をする。要項は近隣学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

6）教員を対象とした事業の実施

① 教員鑑賞会の実施

期　　間	①4月19日（「大神社展」）、②7月26日（特別展「和様の書」）、③8月21日（スクールプログラム）、④10月11日（特別展「京都」・特別展「上海美術館展）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	①81人、②119人、③116人、④117人　　計433人
担当研究員数	5人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム「スクールプログラム」を中心とした博物館利用方法、特別展観覧の手引きとして作成したジュニアガイドの活用方法の説明とともに、展示の解説を行った上で実際に展示を観覧することで、博物館利用についての興味関心、理解を深める。また、指導要領と関連した授業案を提案した。

② 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

期　　間	7月31日～8月2日
開催場所	本館地下教育普及スペース、展示室、会議室／東京芸術大学
参加者数	39人
担当研究員数	3人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象とした研修会。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めることを目指す。今年度は第9回目として「日本の絵巻」をテーマに博物館では歴史に関する講義と鑑賞、大学では実技研修を実施した。

③ 台東区教員10年経験者研修の受入

期　　間	7月23日～8月23日
参加者数	5人
担当研究員数	3人
事業内容	台東区連携事業のひとつとして、10年経験者研修の受入を行った。博物館の立場から、学校対応や教育普及プログラム、展示を見ることで、博物館に対する理解を深め、学校での指導に活かすことを目指す。

④ 教員による研究会の受入

期　　間	4月1日～3月31日
受入回数	3回36名
担当研究員数	3人
事業内容	教科別等で教員が行っている研究会の研修として、展示の解説やスクールプログラムのデモ実施などののち観覧し、指導での活用方法を検討する。文化や博物館に対する理解を深め、学校での指導に活かすことを目指す。

【京都国立博物館】

1）少年少女博物館くらぶ

事業名：小・中学生向け鑑賞会「びじゅつで遊ぼう！」	
実施日	8月6日、9日
対象	小学生から中学生
参加者数	小中学生42人、保護者26人

2）博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行　2回

・発行部数　7,000部
・配 布 先　館内観覧者等

3）特別展観 「遊び」　小中学生の入場料を無料

4）特別展観 「遊び」こども向けワークシート作成

・発行部数　20,000部
・配 布 先　館内観覧者

5）京都市内の小中学校への訪問授業

事業名： 文化財に親しむ授業　「松鷹図」（二条城）	
実施日	6月5日　10:45～11:30
場所	京都市立朱雀第六小学校
対象	京都市立朱雀第六小学校　6年生
参加者数	24名
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館 文化財に親しむ授業講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	7月9日　10:30～11:55
場所	京都市立第三錦林小学校
対象	京都市立第三錦林小学校　6年生
参加者数	47人
事業内容	同上
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「八橋図屏風」尾形光琳筆	
実施日	9月4日　9:40～12:15
場所	京都市立安祥寺中学校
対象	京都市立安祥寺中学校　1年生
参加者数	110人
事業内容	同上
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「八橋図屏風」尾形光琳筆	
実施日	10月30日　9:45～12:25
場所	京都市立納所小学校
対象	京都市立松納所小学校　5年生、6年生
参加者数	105人
事業内容	同上
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	11月8日　9:35～11:25
場所	京都市立美豆小学校
対象	京都市立美豆小学校　6年生
参加者数	62人
事業内容	同上
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	11月22日　10:35～12:00
場所	京都市立松ヶ崎小学校
対象	京都市立松ヶ崎小学校　6年生
参加者数	46人
事業内容	同上
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「八橋図屏風」尾形光琳筆	
実施日	12月4日　10:50～12:25
場所	京都市立南大内小学校
対象	京都市立南大内小学校　5年生、6年生
参加者数	41人
事業内容	同上
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会

6）社会科教員のための向上講座

実施日	10月22日
開催場所	管理棟3階研修室及び特別展示館
参加者数	30人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会との連携事業。研究員による講義のあと、特別展覧会ギャラリートークと質疑応答を実施した。小中学校社会科教員と総合支援学校全教員を対象とする。　（詳細は2⑵③講座・講演会等の開催実績を参照）

【奈良国立博物館】

1）修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間　　事前申し込み制
・場所　　展示会場・講堂等
・学校団体案内数　　28件、計2,251名
・担当職員数　　3人（ボランティア室）
・事業内容　　当館ボランティアによるスライド学習と展示会場での作品の解説

2）世界遺産学習への対応

・期間　　4月～12月　　事前申し込み制
・対応実績　　奈良市内の小学校33校　（5年生の全クラスを対象）　計2,199名
・担当職員数　　3人（ボランティア室）
・事業内容　　奈良市教育委員会との共同で、市内の全小学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
当館ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

3）展示の子ども向け質問対応

・期間　　7月23日～9月1日　　会期中随時
・場所　　展示会場入口
・担当職員数　3人（ボランティア室）
・事業内容　特別展「みほとけのかたち－仏像に会う」の会期中（夏休み期間）、子ども向けに質問デスクを設置した。デスクに常置する当館ボランティアが展示品に関する様々な質問に答え、展示を楽しく見学することを目的とした。

4）子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第65回正倉院展」で制作、計908台の利用があった。

5）子ども向けイベントの実施

実施日	内　容	会　場	参加者数
7月20日 ～9月 1日	夏休み　子供企画　　「ほとけさまに会おう！ならはくスタンプラリー」。展覧会は自由観覧。	西新館 なら仏像館	2,020
7月27日	夏休み親子企画「ほとけさまの絵をかいてみよう！」（体験イベント）	地下回廊 なら仏像館	30
7月28日	特別展「みほとけのかたち」開催記念企画 夏休み子ども教室『香木のフシギ！？』 ―クイズで学ぶ〈みほとけのかおり〉！香木の香り体験も！！―（体験イベント）	地下回廊	58
10月26日 ～11月11日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
11月3日	第65回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：清水　健（奈良国立博物館学芸部主任研究員）	講堂	182

6）職場体験の受入

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校3校9名（2年生）
担当職員数	1名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。券売業務や監視業務、ミュージアムショップや館内レストラン等に関わる業務の体験をする。

【九州国立博物館】

1）博物館における体験型事業の充実

① 教育普及ゾーン（体験型展示室「あじっぱ」）で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムの開発 新規開発キット、プログラム：「銅鐸をつくってみよう」「銅鏡をつくってみよう」「アイヌのボードゲーム　ウコニロシキ」「アイヌのシカ笛をつくってみよう」
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」	
内容	「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。平成25年度は、「花に花を咲かせよう」「BooBooペット」「ウズベキスタンの帽子をつくろう」「まき巻きファッションとぬり絵」「うもれ木くんってなんだろう？」のコンテンツを提供した。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	7月27日（土）、28日（日）
九博子どもフェスタ	
内容	“博物館っておもしろいところ”をテーマに楽しいものづくりや色々な体験ができるイベント
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	九博ボランティア　115名、愛する会　約50名、壱岐市立一支国博物館　6名、参加者のべ　2,230名
実施	26年2月23日
茶道体験（「親子で茶道体験」、「はじめての茶道体験」）	
内容	茶室にて茶道初心者に対して茶道体験を実施
対象	「親子で茶道体験」小・中・高校生とその保護者、「はじめての茶道体験」高校生以上
人数	「親子で茶道体験」30名程度、「はじめての茶道体験」10名程度
実施	各月1回実施

③ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。 「あじっぱ」における特集展示 ①「あじ庵」：「桃の節句」「ベトナム」「中国の吉祥文様」「インドネシアのワヤン」 ②「あじぎゃら」：「はらのなかのはらっぱで」「やきもの動物園」「郷土人形-うそ・天神さま・午」

	③ディスプレイ:「ベトナム」「中国の日常生活」「アジアの午」 ④あじっぱ屋台展示替え:7回（日本3回、中国1回、インドネシア1回、ベトナム1回、ポルトガル1回）
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放

④ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験、なりきり考古学者体験	
内容	①なりきり学芸員体験：作品の扱い方、展示の方法を通して学芸員の仕事を紹介する。 ②なりきり考古学者体験：作品の調書の作成、拓本体験を通して考古学者の仕事を紹介する。
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大6名
実施	9月28日午前・午後、10月19日午前・午後、11月16日午前・午後、12月7日午前・午後（計8回）

2) 学校教育との連携事業の実施

① 職場体験の受け入れ

中学生の職場体験	
内容	中学校・高等学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進する。
人数	1校につき最大6名
実施	17校（のべ38日間）を受け入れ（受け入れ校：太宰府市立太宰府中学校、筑紫野市立筑山中学校、太宰府市立学業院中学校、福岡県立輝翔館中等教育学校、小郡市立三国中学校、福岡雙葉中学校、宇美町立宇美南中学校、飯塚市立筑穂中学校、大野城市立大野東中学校、太宰府市立太宰府東中学校、大野城市立大野中学校、春日市立春日野中学校、筑紫野市立二日市中学校、筑紫野市立筑紫野中学校、宇美町立宇美中学校、春日市立春日南中学校、筑紫野市立筑紫野南中学校）

② ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	高校生を対象に、学芸業務体験を通して博物館に親しむ機会を提供する。博物館の活動を高校生と学校に理解してもらうことで、今後の博学連携に向けての布石とする。今年度は体験型展示室「あじっぱ」における未就学児向けの新規ＢＯＸキットを企画した。
人数	7校23名
実施	11月～3月の日曜日に全7回（参加校：福岡県立筑紫中央高等学校、福岡大学附属若葉高等学校、久留米大学附設高等学校、筑紫台高等学校、西南学院高等学校、筑陽学園高等学校、福岡県立太宰府高等学校） ※今年度から対象にキャンパスメンバー一校を追加し、13校に希望生徒の推薦を依頼した。

③ 教員研修の受け入れ

社会体験研修	
内容	教員を対象に社会貢献等の体験の場を提供し、教員の資質向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進を図る。
人数	9名
実施	8月10日～12日（初任者6名）、8月17日・18日（経験10年経過者3名）

④ 教員を対象としたプログラムの実践

内容	教員を対象に博物館機能や展示内容、学校貸出キットなどについて解説し、博物館活動への理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	105名
実施	8月 1日　大野城市立大野北小学校一般研修「博物館を活用した社会科」（25名） 8月20日　太宰府市立太宰府小学校一般研修「太宰府のことをもっと知ろう!!」（40名） 8月29日　福岡県教育センターキャリアアップ講座「博物館を活用した社会科授業づくり」（40名）

⑤ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し

学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。
対象	学校、社会教育団体等
実施	計72件（小学校32件、中学校24件、高等学校5件、特別支援学校5件、その他6件）

⑥ 出前講座・授業実践支援事業への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いて博物館の機能やアジア各地・日本の歴史・文化についての講義を行う。また、学校貸出キット「きゅうぱっく」を活用した授業に関して、交流課職員がチーム・ティーチングなどで活動のサポートを行う。
対象	研究員による出前講座・授業実践支援事業を希望した学校
実施	計5校 5月28日　春日市立須玖小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 5月29日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座のガイダンス） 6月26日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座の一環として「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 10月30日　大野城市立大利中学校（講義　および　九博のガイダンス） 26年2月27日　嘉麻市立千手小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援）

⑦ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	体験プログラムやバックヤード見学等を提供する。
対象	来館した学校団体のうち、体験や支援等を希望した学校
実施	計20校 4月17日　筑紫野市立原田小学校（「きゅうぱっく」を活用したハンズオン体験）

	4月22日　宇美町立井野小学校（「きゅうぱっく」を活用したハンズオン体験） 5月24日　鹿児島盲学校（展示室観覧支援、展示室における資料触察支援） 5月31日　筑紫野市立筑紫野中学校（九博敷地内でのスケッチ大会 および 展示見学） 6月13日　福岡県立柳河特別支援学校（展示見学・あじっぱ体験の支援） 7月10日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座の一環としてバックヤード見学） 7月11日　北九州視覚障害特別支援学校（展示室観覧支援、展示室における資料触察支援） 7月17日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座の一環として展示見学） 8月 1日　福岡県立小倉高等学校（博物館機能と学芸業務についての講義、見学<文科省スーパーサイエンスハイスクール事業>） 9月11日　太宰府市立太宰府小学校（九州国立博物館のバリアフリー施設に関する調査活動） 10月 5日　福岡県立香椎高等学校（博物館機能と学芸業務についての講義、見学） 10月12日　福岡チャレンジャーズクラブ（「きゅうぱっく」を活用したハンズオン体験） 10月22日　福岡県立古賀特別支援学校（展示見学・あじっぱ体験の支援） 10月23日　筑陽学園中学校（博物館機能と学芸業務についての講義、見学） 10月30日　大野城市立大利中学校（ふるさと学習の一環としての展示見学） 11月 1日　大野城市立大利中学校（ふるさと学習の一環としての展示見学） 11月 5日　福岡県立香椎高等学校（博物館機能と学芸業務についての講義、見学） 11月27日　福岡市適応指導教室（見学を中心とした博物館機能と学芸業務についての紹介） 26年2月26日　福岡県立太宰府高等学校芸術科（博物館実習として博物館機能と学芸業務についての講義、見学） 26年2月27日　佐賀県立中原特別支援学校（学芸体験ワークショップの提供） ※展示解説を希望した学校団体への対応は含まない（別項ボランティアの欄に含む）

3）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業の実施

特別展「大ベトナム展」解説パネル「ゾウと行く　大ベトナム展ツアー」	
内容	一般的にはなじみが薄いと思われるベトナムの歴史について、わかりやすく解説したパネルを設置。
開催場所	特別展示室
実施	4月16日～6月9日
特別展「中国　王朝の至宝」展　解説パネル・体験コーナー（猿ベルト装着体験・玉〔ぎょく〕を触る体験）・ジュニアガイド「夏休みの朋友」	
内容	夏休み期間中であったため、夏休みの宿題冊子風ジュニアガイド「夏休みの朋友」を作成。理科、算数など展示物に関係した問題を出題。また、中国王朝の文化についての理解を深めるため、理科、算数などジュニアガイドと連動した解説パネルを設置し、展示物についてわかりやすく解説した。出品作品である猿形帯鉤（猿形のバックル）の実寸大複製（三次元立体測量データを三次元立体プリンターで出力）を作成し、会場内で猿ベルトの装着できる体験コーナー、及び、玉の原石を触れる体験コーナーを設置した。
開催場所	特別展示室
実施	7月9日～9月16日
特別展「中国　王朝の至宝」展　こどもイベント「跪射俑（きしゃよう）に変身!!～段ボールで鎧づくり～」	
内容	跪射俑の鎧の仕組みを理解し、跪射俑の鎧をダンボールで作るワークショップ。
開催場所	研修室
人数	26組50名（対象：小学5・6年生とその保護者）
実施	8月10日（2回開催）
特別展「尾張　徳川家の至宝」展　解説パネル	
内容	作品の見所や時代背景などについて紹介するパネルを設置。
開催場所	特別展示室
実施	10月12日～12月8日
特別展「大神社展」展　配布物「おみくじ風まめちしき」	
内容	神社に関するまめちしきや作品鑑賞の手助けとなる内容の配布物を作成し、おみくじコーナーを設置した。
開催場所	特別展示室
実施	1月15日～3月9日
特別展「大神社」展　関連企画「狛犬情報募集」	
内容	大神社展を盛り上げ、神社に親しみを持ってもらうため、ホームページで狛犬情報を募集した。情報は、当館ホームページと、館内に掲示した。
開催場所	当館ホームページ、1階エントランス
実施	12月20日～3月9日
トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」展　ワークショップ　「アイヌ文様刺しゅう体験ワークショップ」	
内容	アイヌ文様の刺しゅうに挑戦してコースターをつくる
人数	22名
開催場所	研修室
実施	12月14日午前・午後（計2回実施）
特別公開「国宝・神戸市桜ヶ丘出土銅鐸」　ワークショップ　「銅鐸をつくってみよう」	
内容	砂鋳型を使用して文様を彫り込み、錫を流し込んで自分だけのミニ銅鐸をつくる
開催場所	研修室
人数	27名
実施	8月11日

4）高等教育との連携

① 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップ

内容	筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催 （筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。）
実施期間	5月26日（土）、6月15日（土）、7月6日（土）、11月23日（土）、12月15日（日）、26年2月15日（土）、3月8日（土）
開催場所	1階ミュージアムホール
参加者数	毎回28人

5）館外の文化施設等における体験型ワークショップ

内容	館への理解促進・生涯学習支援の活動として館外の文化施設等において体験型ワークショップを実施した。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした一般の方
実施	計 12件（参加総数 約1,501人）　実施箇所等は以下のとおり(人数は当館担当ブースの体験者数)

	6月8日(土):仙台市農業園芸センター(参加約200人) 6月9日(日):福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館(参加約200人) 6月29(土)～30日(日):岩手県立博物館(参加約300人) 8月3日(土):壱岐市立一支国博物館(参加約50人) 10月5日(土):大宰府政庁まつり(参加約150人) 10月12日(土):熊本市現代美術館(参加約200人) 11月2日(土):兵庫県立考古博物館(参加21人) 11月4日(月):兵庫県立人と自然の博物館(参加約50人) 11月9日(土):福岡県立北九州視覚特別支援学校(参加8人) 11月23日(土):福岡県立玄海少年自然の家(参加約100人) 12月14日(土):柳川市三橋公民館(参加22人) 12月22(日)～23日(月):せんだいミュージアムストリート(参加約200人)

2-⑵-⑤　大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成26年3月31日現在

1)　大学等との連携事業

【京都国立博物館】

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6人
担当研究員数	6人

内　　容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
実施期間	9月6日
開催場所	京都国立博物館
参加者数	18人
担当研究員数	2人

【奈良国立博物館】

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施期間	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	前期　5人、後期　4人
担当研究員数	1人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	8人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

内　　容	放送大学の面接授業　「文化財の保存と修復」
実施期間	12月7日～8日
開催場所	九州国立博物館1階研修室
参加者数	50人

内　　容	筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「ミュージアムで学ぶアジア」 （博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験）
実施期間	5月22日、5月29日、6月26日、7月3日（計4日）
開催場所	筑紫女学園大学、九州国立博物館文化交流展示室、体験型展示室「あじっぱ」
参加者数	100人

内　　容	博物館実習生の受け入れ
実施期間	8月22日～9月2日の間、延べ10日間実施
参加者数	20人（14大学）

内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月26日、5月24日、6月21日、7月19日、7月26日、8月16日、8月23日、10月18日、11月22日、12月13日、26年1月24日、3月6日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）

2)　インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月17日～26年3月31日
受入部署	学芸企画部　デザイン室、教育普及室、教育講座室、情報管理室、情報資料室、広報室 学芸研究部　東洋室、保存修復課
参加者数	17人（12大学）
担当研究員数	のべ20人
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。

【京都国立博物館】

受入期間	8月19日～9月2日、9月9日～20日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	4人（2大学）
担当研究員数	2人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、文化財修復に関わる加盟大学院生4名のインターンを受け入れた。11月8日には事務棟研修室にて4名による報告会を行った。

【奈良国立博物館】　**※25年度は受入なし**

受入期間	
受入部門	総務課
参加者数	0人（0大学）
担当職員数	1人（総務係）

事業概要	※例年、立命館大学から数名の学生をインターンシップとして受け入れているが、25年度は大学側の事情により受入れがなかった。）

【九州国立博物館】

受入期間	8月19日～23日の5日間
受入部署	博物館科学課
参加者数	8人（4大学）
担当研究員数	2人
事業内容	当館の文化財保存修復施設の機能と利点を生かし、西日本地域の大学で装こう技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施した。

3) 学生ボランティア

【東京国立博物館】

実施日	①ギャラリートーク(研究発表)班 12月11日、12月18日、26年1月8日、1月10日、1月12日、1月15日、1月16日、1月19日、1月21日、1月22日、1月23日、1月24日、1月25日、1月26日、1月28日、1月29日、1月31日、2月1日、2月2日、2月4日、2月5日、2月6日、2月9日、2月11日、2月12日、2月13日、2月14日、2月19日、2月23日 ②調査研究班(通年)
開催場所	①本館5室、11室、東洋館5室、法隆寺宝物館第2室 ②東京藝術大学構内、東京国立博物館ボランティア室ほか
参加者数	①インターン5人　聴講者949人 ②インターン12人
担当研究員数	①5人 ②5人
事業内容	①東京芸術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対する総合文化展でのギャラリートークを実施。 ②東京芸術大学大学院インターンシップ調査研究班により「突起装飾坏（TJ-5401）」の調査研究および工程見本の制作を実施。

【京都国立博物館】

実施日	平成25年4月22日、5月20日、5月27日、6月3日、6月17日、7月1日、7月22日、8月5日、9月2日、9月30日、10月7日、10月28日、11月11日、11月18日、12月2日、12月9日、平成26年1月20日、2月24日（計18回）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	13人
担当研究員数	2人
内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。

実施日	平成25年6月5日、7月9日、9月4日、10月30日、11月8日、11月22日、12月4日、（計7回）
開催場所	京都市内の小中学校
参加者数	ボランティア13人、聴講者435人 （小学校6校　聴講者325人、中学校1校　聴講者110人）
担当研究員数	2人
内容	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内で訪問授業等を実施した。

4) 見学対応

【東京国立博物館】

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	18件439人（大学14件、277人／専門学校2件86人／その他2件76人）
担当研究員数	3人
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。

【九州国立博物館】

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	5件（大学4件、79人／短期大学1件、18人　　計97人）
担当研究員数	1人
事業内容	大学生等を対象に、九州国立博物館の概要についての講義、博物館施設・展示室等の見学を実施した。

2-⑵-⑥ ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(2)-⑦ 友の会

1) 会員数

友の会　　平成26年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数 (年会費10,000円)
東京国立博物館	1,586 人
九州国立博物館	141 人

パスポート　　平成26年3月31日現在

区分 / 館名	パスポート会員数	パスポート会員 (一般) (年会費4,000円)	パスポート会員 (一般) (年会費3,000円)	パスポート会員 (学生) (年会費2,500円)	パスポート会員 (学生) (年会費2,000円)	パスポート会員 (家族) (年会費6,000円)
東京国立博物館	16,474 人	15,656 人	－	818 人	－	－
京都国立博物館	2,295 人	－	2,243 人		52 人	－
奈良国立博物館	2,598 人	－	2,504 人	－	73 人	21 人
九州国立博物館	4,633 人	－	2,654 人	－	1,979 人	－

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、入会時の記念品プレゼント。

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-⑧賛助会

1) 会員数

平成26年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		（社団法人清風会）	（ミュージアム・パートナー）	
件数	379件	336人	0件	70件
内訳	特別会員：20団体 維持会員(団体)：44団体 維持会員(個人)：315人	賛助会員：30人 特別会員：58人 普通会員：248人	団体会員：0件	特別支援会員：5団体 特別会員：4団体 一般会員(団体)：20団体 一般会員(個人)：41人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
４月9日（火）　特別展「當麻寺 ―極楽浄土へのあこがれ―」
特別鑑賞会　参加人数36名
７月24日（水）　特別展「みほとけのかたち　―仏像に会う―」
特別鑑賞会　参加人数31名
10月28日（月）　特別展「第65回正倉院展」
特別鑑賞会　参加人数91名

2-(2)-⑨ 渉外活動

平成 26 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1)　会場提供　　9 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数（人）
4 月 2 日	懇談会	「FENDI UN ART,AUTRE」作品展示会レセプションパーティー	平成館ラウンジ	約 80
4 月 14 日	懇談会	Directions Mitre 10 Incentive 2013, Gala Dinner	法隆寺宝物館 平成館ラウンジ	約 80
4 月 15 日	懇談会	米国プルデンシャル保険本社の幹部が集うレセプション	法隆寺宝物館	約 60
9 月 24 日	発表会	クリスタル商品新作発表会	法隆寺宝物館	約 200
10 月 7 日	懇談会	「BREGUET,THE INNOVATOR」作品展示会レセプションパーティー	法隆寺宝物館	約 150
10 月 21 日	講演会	第 7 回資料保存シンポジウム	平成館	約 250
11 月 11 日 ～11 月 18 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	―
11 月 13 日	展示会	MICHAEL KORS in JAPAN	法隆寺宝物館	約 150
11 月 18 日	展示会	FURLA SS14 COLLECTION PRESENTATION	法隆寺宝物館	約 150

2)　館主催・協力イベント　　23 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
4 月 4 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2013「加藤えりな（ヴァイオリン)」」	法隆寺宝物館	216	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 5 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2013「Vive！ サクソフォーン・カルテット」	正門内池前	189	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 5 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2013「東博でバッハ vol.14」川本嘉子	平成館ラウンジ	194	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 9 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2013「東博でバッハ vol.15」寺神戸亮	法隆寺宝物館	120	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 10 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2013「東博でバッハ vol.16」池上英樹	法隆寺宝物館	119	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 13 日	イベント	「スーフルール」パフォーマンス	本館前庭、庭園他	―	東京演劇集団風、レ・スーフルール・コマンド・ポエティック共催
6 月 9 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	246	サロン・ド・ソネット共催
7 月 7 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館ラウンジ	606（2 回）	東京ｸﾗﾘﾈｯﾄ･ｸﾜｲｱｰ共催 上野のれん会、東京国立博物館協力会協賛
7 月 28 日	音楽会	夏休み子ども音楽会 2013	東京文化会館他	244	東京文化会館他主催　当館協力 （総合文化展無料入館の協力）
9 月 22 日	イベント	初秋東博寄席	平成館大講堂	284	当館主催
9 月 28 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2013 まちなかコンサート	表慶館	397（2 回）	東京文化会館他共催
9 月 28 日	音楽会	ジャワガムランと舞踊コンサート	平成館ラウンジ	716（2 回）	当館主催
9 月 29 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	157	サロン・ド・ソネット共催
10 月 30 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	296	東大寺共催
11 月 1 日～ 11 月 3 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2013 に伴うライトアップ	本館前庭	―	「創エネ・あかりパーク 2013」実行委員会共催
11 月 9 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 「増山雪斎の虫豸帖とファーブルの昆虫記」	平成館大講堂	156	上野の山文化ゾーン連絡協議会
12 月 8 日	音楽会	東京国立博物館　クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	232	サロン・ド・ソネット共催
26 年 1 月 13 日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	356	当館主催
26 年 3 月 15 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2014「東博でバッハ vol.17」福田進一	平成館ラウンジ	225	東京・春・音楽祭実行委員会共催
26 年 3 月 18 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2014「Vive！ サクソフォーン・カルテット」	本館エントランス	139	東京・春・音楽祭実行委員会共催
26 年 3 月 19 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2014「東博でバッハ vol.18」三浦文彰	法隆寺宝物館	114	東京・春・音楽祭実行委員会共催
26 年 3 月 25 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2014「加藤えりな（ヴァイオリン)」」	法隆寺宝物館	183	東京・春・音楽祭実行委員会共催
26 年 3 月 26 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2014「東博でバッハ vol.19」山﨑伸子＆小林道夫	法隆寺宝物館	100	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1) 会場提供　　32 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 21 日	茶席	茶会	茶室	50	今井悦子
4 月 28 日	茶席	茶会	茶室	30	河野千恵子
5 月 5 日	茶席	茶会	茶室	8	松浦萌子
5 月 9 日	茶席	茶会	茶室	6	江見司
5 月 19 日	茶席	茶会	茶室	2	小野由起乃
6 月 25 日	庭園等の撮影	授業番組用映像の撮影（放送大学学園）	本館前広場その他構内通路等	10	株式会社 NHK エデュケーショナル
7 月 5 日	試験	資格試験の開催	管理棟研修室	10	国宝修理装こう師連盟

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
7月18日	庭園等の撮影	株式会社ワコール通販カタログ用写真撮影	南門レストラン、本館前広場その他構内通路等	12	小林陽一
7月21日	講演	講演会	管理棟研修室	40	京都歴史回廊協議会
8月22日	茶席	茶会	茶室	10	安藤史緒
9月27日	試験	資格試験の開催	管理棟研修室	20	国宝修理装こう師連盟
10月13日	茶席	茶会	茶室	5	山茶花社　西島真森
10月14日	茶席	茶会	茶室	80	山茶花社　西島真森
10月25日	試験	資格試験の開催	管理棟研修室	20	国宝修理装こう師連盟
10月31日	茶席	茶会	茶室	5	京都府立すばる高等学校
11月1日	茶席	茶会	茶室	39	京都府立すばる高等学校
11月2日	茶席	茶会	茶室	3	洛岌会　山本喜久子
11月3日	茶席	茶会	茶室	80	洛岌会　山本喜久子
11月3日	茶席	撮影会	茶室	3	菊井里沙
11月9日	茶席	作品展	茶室	50	井上さおり
11月10日	茶席	作品展	茶室	50	井上さおり
11月16日	茶席	茶会	茶室	10	多門みどり会　多門宗粒
11月17日	茶席	茶会	茶室	100	多門みどり会　多門宗粒
11月30日	茶席	茶会	茶室	100	多門みどり会　多門宗粒
12月7日	茶席	作品展	茶室	20	今岡三四郎
12月8日	茶席	作品展	茶室	20	今岡三四郎
12月11日	茶席	茶会	茶室	8	吉田市蔵
12月15日	茶席	撮影会	茶室	2	安澤亜恵
26年2月7日	茶席	茶会	茶室	5	五条坂・茶わん坂ネットワーク
26年2月8日	茶席	茶会	茶室	50	五条坂・茶わん坂ネットワーク
26年3月25日	庭園等の撮影	ポカリスウェットテレビCM撮影	噴水前広場、明治古都館前広場	30	(有)ケイズプリュ
26年3月29日	茶席	番組撮影	茶室	7	(株)プロデューシング

2)　館主催・協力イベント　　16件

期間	種類	タイトル	会場	出席者（人）	備考
4月7日	茶会	京博で愉しむ花見	茶室	66	
4月19日	落語	京都・らくご博物館（春） ～新緑寄席～	ハイアット・リージェンシー京都ドローイングルーム	160	米朝事務所共催
6月1日	音楽会	音燈華vol.4 ～DEPAPEPEコンサート～	庭園	481	特別協賛：京阪電気鉄道株式会社 協力：日本香堂
7月19日	映画上映会	野外映画上映会	庭園	20	
7月26日	映画上映会	野外映画上映会	庭園	45	
10月13日	茶会	文化財保護基金チャリティ茶会	茶室	80	
10月13日	音楽会	二胡コンサート	明治古都館中央室	250	
10月18日	落語	京都・らくご博物館（秋） ～紅葉寄席～	ハイアット・リージェンシー京都ドローイングルーム	149	米朝事務所共催
10月20日	茶会	ミュージアム茶会	茶室	151	
10月27日	音楽会	中国琵琶コンサート	明治古都館中央室	280	
11月1日	講演	能のお話と講演 佐々木館長スペシャルトーク	明治古都館中央室	220	
11月3日	音楽会	中国琵琶コンサート	明治古都館中央室	280	
11月24日	音楽会	中国琵琶コンサート	明治古都館中央室	270	
11月29日	茶会	文化財保護基金チャリティ茶会	茶室	39	
12月1日	音楽会	二胡コンサート	明治古都館中央室	427	
12月8日	音楽会	中国琵琶コンサート	明治古都館中央室	420	

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　　51件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月6日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	30	オーシャンフロント
4月20日	公演	「中将姫物語」の公演	仏教美術資料研究センター	107	五穀邦楽
4月21日	茶会	茶会	茶室	40	小林順子
5月12日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	30	オーシャンフロント
5月21日	見学	デザイン・設計の参考	講堂・茶室	2	松井正
5月21日	講義・観覧	特別展鑑賞のための講義・観覧	講堂・展示室	28	読売新聞大阪本社
5月21日	講義・観覧	特別展鑑賞のための講義・観覧	会議室・展示室	15	クラブ関西
5月30日	講談・対談	「中将姫物語」の講談・対談	講堂・会議室	180	NPOなら・きらめきサポート
5月28日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	98	静岡市立美和中学校
6月6日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	97	目黒区立第四中学校
7月11日～14日	上映会	映画上映会・トークショー等	講堂・会議室・応接室	423	NPO法人なら国際映画祭実行委員会
7月14・17～19日	茶会	茶会	茶室	33	佐藤宗圭

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8月2日	実習	博物館学実習	講堂	31	佛教大学
8月3日	講義	小学生を対象にした「奈良の歴史に学ぶ」講演	講堂	60	NPO法人まほろば教育事業団
8月8日	セミナー	世阿弥忌セミナー	講堂・会議室	102	能楽学会
8月10日	コンサート	音燈華 ジュスカ・グランペール（ギター・バイオリンの演奏）	茶室・西新館南側ピロティ	250	寧屋工房
8月11日	コンサート	音燈華 ＡＵＮクラックオーケストラ（三味線、太鼓、尺八、竜笛）	茶室・西新館南側ピロティ	250	寧屋工房
8月26日	説明会	国有品修理説明会	会議室	25	文化庁文化財部美術学芸課
8月27日	研修	奈良市教職員研修講座「世界遺産に学ぶ（6）博物館で学ぶ」	講堂	150	奈良市教育センター
9月11日	特別観覧	夜間貸切鑑賞会	展示室	43	㈱日本香堂
9月14日	講演	美術史学会西支部大会開催	講堂	34	美術史学会西支部
9月24日～25日	見学	建築計画に理解を深める	仏教美術資料研究センター	44	兵庫県立大学
10月2日	茶会	茶会	茶室	30	学校法人　吉川学園
10月4日	講演	奈良公園　奈良の＜本当の魅力＞発見！講演	会議室	10	奈良青年会議所
10月4日 ～10月5日	敷地提供	日本青年会議所第 62 回全国大会奈良大会タクシー乗車用地	なら仏像館東側敷地	—	奈良青年会議所
10月26日 ～11月11日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ庭園	16,395	結の会
10月26日 ～11月11日	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側敷地	—	㈱鶴屋吉信
10月26日 ～11月11日	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	新館西側敷地	—	㈲日本クリーンシステムズ
10月26日 ～11月11日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
10月26日 ～11月11日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
10月26日 ～11月11日	キャンペーン	記念切手の販売	新館西側敷地	—	郵政事業株式会社
10月26日 ～11月11日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	地下回廊	—	奈良県農林部マーケティング課
11月7日	検討会	奈良国立博物館修理所寄託品の修理検討会	会議室	12	愛知県立美術館
11月12日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	62	東海大学山形高等学校
11月14日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	169	秋田県立西目高等学校
11月17日	茶会	茶会	茶室	14	松岡　一生
11月23日	コンサート	TANTANAKYU　フォルクレールコンサート	講堂・応接室	158	稲田　晴久
11月30日	茶会	茶会	茶室	6	小林順子
12月7日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	28	オーシャンフロント
12月8日	敷地提供	奈良マラソン 2013 バス駐車用地	なら仏像館西側敷地	—	奈良マラソン実行委員会
12月11日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	168	東京都立桜修館中等教育学校
12月14日	茶会	茶会	茶室	103	NAIST 茶道会
12月15日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	67	EMC　Compo　2013
12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
26年1月21日	講演	第５回中高校部会世界遺産学習の勉強会	講堂	50	奈良市 PTA 連合会
26年2月13日	茶会	珠光茶会	茶室・ピロティ	95	奈良市
26年2月15日	コンサート	音燈華 ジェスカ・グランペール in Museum	仏教美術資料研究センター	160	寧屋工房
26年2月26日	講演	東大寺の大仏についての講演	講堂	57	奈良教育大学附属幼稚園
26年3月3日	講演	わいず倶楽部　特別陳列鑑賞のための講演	講堂	37	読売新聞大阪本社
26年3月7日	特別観覧	なら仏像館夜間貸切観覧	なら仏像館	220	日本フットケア学会
26年3月9日	講演	わいず倶楽部　特別陳列鑑賞のための講演	講堂	33	読売新聞大阪本社

2）館主催・協力イベント　　53件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月7日	イベント	當麻寺による出張イベント@奈良博「中将姫と當麻曼荼羅　絵解き拝礼式とともに」（講和と実演）	講堂	132	
4月9日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂・展示室	36	
4月10日	観賞会	わいず倶楽部　解説付き小ツアー	なら仏像館	第1回　20 第2回　20 第3回　20 第4回　19	
4月10日 4月11日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	67	
4月14日	イベント	當麻寺による出張イベント@奈良博「當麻寺聖衆来迎練供養会式と菩薩講」（講和と実演）	仏教美術資料研究センター	180	
4月28日	イベント	第2回庭園・茶室案内ツアー	庭園・茶室	第1回　20 第2回　30	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月29日	イベント	當麻寺による出張イベント＠奈良博「極楽浄土へのあこがれ」（講話）	講堂	166	
5月2日	イベント	第2回庭園・茶室案内ツアー	庭園・茶室	第1回　20 第2回　26	
5月3日	イベント	當麻寺による出張イベント＠奈良博「當麻寺の雑学」（講話）	講堂	163	
5月6日	イベント	第2回庭園・茶室案内ツアー	庭園・茶室	第1回　20 第2回　17	
6月15日	コンサート	ムジークフェストなら２０１３ 古都に響く王の舞曲 ～宮廷音楽と宮廷舞踏のひととき～	仏教美術資料研究センター	100	主催：ムジークフェストなら2013実行委員会
6月30日	コンサート	ムジークフェストなら２０１３ フルートの世界 ～国宝のほほえむ回廊で～	地下回廊	1900	主催：ムジークフェストなら2013実行委員会
7月20日 ～9月1日	イベント	夏休み　子供企画 「ほとけさまに会おう！ならはくスタンプラリー」	展示室・なら仏像館	2,020	
7月24日	講演会	賛助会員特別鑑賞会	講堂・展示室	31	
7月25日 7月26日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	76	
7月27日	イベント	夏休み親子企画 「ほとけさまの絵をかいてみよう！」	地下回廊	30	
7月28日	イベント	夏休み子ども教室『香木のフシギ！？』	地下回廊	58	主催：日本香堂 後援：奈良国立博物館
8月5日～14日	観光 イベント	「なら燈花会」ﾊｯﾌﾟ、ｵﾌﾞｼﾞｪ等を配置	新館周辺	―	主催：なら燈花会の会
8月10日	イベント	仏像を10倍楽しく見る方法を教えます！　～ ～親子で奈良の世界遺産と仏像に会う～	講堂	47	主催：奈良市教育委員会
8月17日	体験 イベント	奈良トライアングルミュージアムズ ３館リレーワークショップ 仏像切り絵体験	地下回廊	40	主催：奈良トライアングルミュージアムズ
8月18日	体験 イベント	奈良トライアングルミュージアムズ ３館リレーワークショップ 写仏散華体験	地下回廊	53	主催：奈良トライアングルミュージアムズ
8月24日 ～9月8日	観光 イベント	光のオルゴール in ライトアッププロムナード	仏教美術資料研究センター前	―	主催：ならファンタージア実行委員会
8月25日	イベント	トークセッション「仏像模刻にかける青春群像！」	講堂	110	
9月7日	イベント	仏教美術資料研究センター案内ツアー	仏教美術資料研究センター	第1回 40 第2回 42	
9月21日	イベント	ライトアップコンサート 「言霊と音霊の夜会-第五章-」	仏教美術資料研究センター	150	主催：ライトアッププロムナード・なら実行委員会
9月28日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ 神戸シンポジウム「奈良の仏像の楽しみ方」	兵庫県立美術館	250	主催：奈良トライアングルミュージアムズ
10月14日	体験 イベント	奈良トライアングルミュージアムズ 外国人専用ワークショップなら 「写仏散華体験」	仏教美術資料研究センター	100	主催：奈良トライアングルミュージアムズ
10月25日	観光 イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し「奈良の柿」をPR	新館前広場	―	主催：奈良県農林部 奈良県農業協同組合
10月26日 ～11月11日	観光 イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	正倉院展読売新聞ブース	―	主催：はじまりは正倉院展実行委員会
10月26日 ～11月11日	展示	正倉院展「いけばな展示」 法華寺小池御流のいけばな展示	西新館1階ロビー	―	
10月26日 ～11月11日	展示	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―	主催：奈良国立博物館 読売新聞社
10月26日	セミナー	正倉院展特別セミナー	仏教美術資料研究センター	110	
10月27日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム２０１３ 「鑑真和上と正倉院宝物」	奈良県新公会堂	194	
10月28日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂・展示室	91	
10月29日 10月30日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	283	
11月1日	イベント	古典の日フォーラム「古典の魅力を堪能する」	仏教美術資料研究センター	133	
11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室・なら仏像館	92	
11月3日	鑑賞会	第65回正倉院展　親子鑑賞会	講堂・展示室	182	
11月16日～17日	特別観賞	関西文化の日	なら仏像館	1日目 2,385 2日目 2,488	
11月23日～24日	イベント	第３回庭園・茶室案内ツアー	庭園・茶室	1日目 38 2日目 49	
11月24日	事業報告会	文化財保存修理所事業成果報告 「雄勝法印神楽神楽復興に生きた文化財修理のわざ」	講堂	71	共催：国立民族学博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
12月15日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ 東京セミナー　～また冬の奈良へ行こう～	奈良まほろば館	71	主催：奈良トライアングルミュージアムズ
12月17日	茶会	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園、西新館南側ピロティ	71	主催：裏千家　泉本宗悠
12月26日	特別鑑賞会	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園・仏教美術資料研究センター	26	
26年2月8日～14日	観光 イベント	第5回しあわせ回廊　なら瑠璃絵 ウォーターアートプロジェクション（新館北側の池噴水にプロジェクターによる画像投影）	新館北側の池（噴水）	―	主催：なら瑠璃絵実行委員会
26年2月8日	体験 イベント	奈良トライアングルミュージアムズ ３館リレーワークショップ 仏像切り絵体験	地下回廊	51	主催：奈良トライアングルミュージアムズ
26年2月9日	体験 イベント	奈良トライアングルミュージアムズ ３館リレーワークショップ 写仏散華体験	地下回廊	45	主催：奈良トライアングルミュージアムズ
26年2月10日	講演会	第5回しあわせ回廊　なら瑠璃絵 特別講演会「古都奈良の演劇的空間」	講堂	160	主催：なら瑠璃絵実行委員会
26年2月13日	特別公開	文化財保存修理所特別公開 文化財修理の工程を、具体的作品を通して解説 修理所の工房を見学（ガラス越）	講堂・修理所	第1回　41 第2回　38 第3回　38	
26年2月16日	講演 特別観賞 体験	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂・展示室・茶室控室・東大寺二月堂	38	
26年3月4日	講演 体験	お水取り展鑑賞とお松明	講堂・展示室 東大寺本坊・二月堂	128	主催：結の会
26年3月29日	イベント	春の庭園散策ツアー	庭園・茶室	28	
26年3月29日	イベント	仏教美術資料研究センター建物公開	仏教美術資料研究センター	753	

【九州国立博物館】

1）会場提供　10件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8月7日	貸館	一支国座公演	ミュージアムホール	150	主催：一支国座
8月17日	貸館	エレキット夏休み工作教室 in 太宰府 2013	研修室	39	主催：㈱イーケイジャパン
11月6日～8日	貸館	日本職人會秋の工芸展	ミュージアムホール	―	主催：日本職人會
11月24日	貸館	第4回太宰府市民茶会	茶室・研修室・和室	350	主催：太宰府茶道文化連盟
12月21日	貸館	水城築造1350年プレ記念講演会「水城築造1350年－ここまでわかった水城の構造－」	ミュージアムホール	200	主催：太宰府市／太宰府市教育委員会
26年1月1日～5日	貸館	九州女子大学卒業書作展	ミュージアムホール	3,000	主催：九州女子大学
26年2月11日	貸館	香蘭女子短期大学ファッション総合学科 2014卒業記念ショーテーマ：繋ぐーAINU&KORAN－	ミュージアムホール	820	主催：香蘭女子短期大学
26年3月11日～14日	貸館	京仏師　伝承の世界	ミュージアムホール	―	主催：雅音
26年3月22日	貸館	太宰府市景観・市民遺産会議	ミュージアムホール	50	主催：太宰府市
26年3月22日	貸館	木うそ保存会シンポジウム	ミュージアムホール	80	主催：木うそ保存会

2）館主催・協力イベント　105件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月14日	共催	スプリングコンサート「子供たちとアンサンブルPiuの音楽会」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館振興財団
4月26日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
4月27日	主催	第22回 はじめての茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
4月29日	主催	第107回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	321	主催：九州国立博物館
5月5日	主催	ボランティア企画イベント蒔絵螺鈿	エントランス	74	主催：九州国立博物館
5月6日	主催	ボランティア企画イベント九博かるた大会	エントランス	29	主催：九州国立博物館
5月8日～19日	共催	「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」写真展	エントランス	30,654	主催：NPO法人世界遺産長崎チャーチトラスト
5月18日	主催	第28回 親子で茶道体験	茶室	57	主催：九州国立博物館
5月18日	主催	第108回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	218	主催：九州国立博物館
5月19日	主催	第23回 はじめての茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
5月19日	主催	ライブベトナム	ミュージアムホール	600	主催：九州国立博物館
5月24日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
5月26日	主催	第1回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	30	主催：九州国立博物館
6月1日	共催	ベトナム民俗楽器トルンによる「さわやかなひととき」	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館振興財団
6月4日～9日	共催	北九州市制50周年記念「北九州市PRブース」	エントランス	23,162	主催：北九州市制50周年記念事業実行委員会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
6月8日	主催	第109回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
6月8日	主催	第29回 親子で茶道体験	茶室	43	主催：九州国立博物館
6月15日	主催	第2回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	38	主催：九州国立博物館
6月21日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	20	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
6月22日	主催	第24回 はじめての茶道体験	茶室	19	主催：九州国立博物館
7月6日	主催	第3回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
7月7日	主催	太宰府市民吹奏楽団まほろばコンサート	ミュージアムホール	570	主催：太宰府市民吹奏楽団／九州国立博物館
7月15日	主催	第110回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	240	主催：九州国立博物館
7月15日	主催	第25回 はじめての茶道体験	茶室	3	主催：九州国立博物館
7月19日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
7月23日～28日	共催	『九州国立博物館、北九州市立自然史・歴史博物館連携・交流事業展示』	エントランス	11,873	主催：北九州市立自然史・歴史博物館
7月26日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	40	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
7月27日	主催	講演会「青銅彝器からみた夏王朝と商王朝の興亡」	研修室	80	主催：九州シルクロード協会
7月27日～28日	主催	いこうよ！あじっぱ夏祭り2013	ミュージアムホール	600	主催：九州国立博物館
7月27日	主催	第30回 親子で茶道体験	茶室	31	主催：九州国立博物館
7月28日	主催	第31回 親子で茶道体験	茶室	47	主催：九州国立博物館
8月4日	主催	第111回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
8月9日～11日	主催	ボランティア企画イベント七夕飾り・浴衣体験	エントランス、屋外	400	主催：九州国立博物館
8月11日	共催	ふくおか歴史の散歩道①「博多・太宰府 歴史のこぼれ話」	ミュージアムホール	72	主催：NPO法人 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会
8月11日	主催	第26回 はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
8月16日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
8月23日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
8月24日～25日	共催	吉野ヶ里Days in 九博	ミュージアムホール	512	主催：佐賀県教育委員会／吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体／国営吉野ヶ里歴史公園事務所／吉野ヶ里公園管理センター
8月24日	主催	第32回 親子で茶道体験	茶室	21	主催：九州国立博物館
8月25日	主催	第33回 親子で茶道体験	茶室	25	主催：九州国立博物館
8月27日～30日	共催	京築神楽写真展	エントランス	9,806	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議
9月3日～8日	共催	第8回海外福岡県人会世界大会記念「海外福岡県人会写真展」	エントランス	17,148	主催：第8回海外福岡県人会世界大会実行委員会
9月8日	主催	第27回 はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
9月8日	主催	第112回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	330	主催：九州国立博物館
9月10日～16日	協力	2013年日中青少年書画交流展	エントランス	30,114	主催：九州国立博物館振興財団
9月10日～16日	共催	日中未来の子ども100人の写真展覧会	ミュージアムホール	2,490	主催：「日中未来の子ども １００人の写真展覧会」福岡おとなの会
9月18日～29日	共催	第12回太宰府の香り・風景写真コンテスト入賞作品展	エントランス	16,317	主催：太宰府観光協会
9月25日	後援	『太宰府　古都の光』	屋外	―	主催：太宰府ブランド創造協議会
10月12日	協力	アサヒ緑健スポーツメセナ　第11回ふれあい健康ウォーク	屋外	1,673	主催：西日本新聞社
10月13日	共催	ふくおか歴史の散歩道②「大宰府を結ぶハイウエイを探る～古代官道ロマン」	ミュージアムホール	115	主催：NPO法人 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会
10月13日	主催	ボランティアイベント学生部会 秋の陣 能装束・すごろく・貝合わせ	エントランス／研修室	50	主催：九州国立博物館
10月13日	主催	第28回 はじめての茶道体験	茶室	3	主催：九州国立博物館
10月14日	主催	第34回 親子で茶道体験	茶室	55	主催：九州国立博物館
10月14日	主催	第113回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	260	主催：九州国立博物館
10月16日～20日	協力	日本風景街道九州ルートパネル展	エントランス	800	主催：国土交通省九州地方整備局
10月18日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
10月19日	主催	8周年イベント「日本とタイの伝統人形劇」	ミュージアムホール	444	主催：九州国立博物館
10月27日	協力	「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業	屋外	1,000	主催：(社)筑紫歯科医師会
10月29日～11月10日	共催	神話のふるさとみやざき神楽展（御神屋再現、パネル展示、DVD上映）	エントランス	56,574	主催：宮崎県
11月3日	主催	第29回 はじめての茶道体験(留学生限定)	茶室	25	主催：九州国立博物館
11月3日	主催	国際文化交流ツアーin九博	第一会議室	23	主催：九州国立博物館
11月4日	主催	第35回 親子で茶道体験	茶室	58	主催：九州国立博物館
11月4日	共催	神話のふるさとみやざき神楽展（高千穂神楽公演・講演会）	ミュージアムホール	449	主催：宮崎県
11月10日	主催	第114回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	190	主催：九州国立博物館
11月15日～17日	共催	第8回九州地域ブランドフォーラム	エントランス、屋外	3,000	主催：日本イベントプロデュース協会九州本部
11月22日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	170	主催：九州国立博物館／福岡女子短大

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
11月23日	主催	第４回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	28	主催：九州国立博物館
11月30日	共催	キャンパスフェスタ	エントランス	4,990	主催：太宰府キャンパスネットワーク会議
12月1日	主催	第30回 はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
12月1日	主催	第115回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	210	主催：九州国立博物館
12月7日	共催	日本アートマネジメント学会第 15 回全国大会記念フォーラム	ミュージアムホール	125	主催：日本アートマネジメント学会、テレビ西日本、西日本新聞社
12月8日	共催	ふくおか歴史の散歩道③「黒田如水と福岡城・太宰府」	ミュージアムホール	126	主催：NPO法人 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会
12月13日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	30	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
12月14日	共催	奄美群島21世紀の可能性－復帰60周年記念－	ミュージアムホール	220	主催：筑紫女学園
12月14日	主催	第36回 親子で茶道体験	茶室	32	主催：九州国立博物館
12月15日	主催	第５回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	28	主催：九州国立博物館
26年1月5日	主催	ボランティアイベント書き初め	エントランス	150	主催：九州国立博物館
26年1月11日	主催	第116回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	220	主催：九州国立博物館
26年1月12日	主催	トピック展「ロシアが見たアイヌ文化」関連ミュージアムフェアｉｎ九博	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
26年1月15日～26日	共催	～淡窓に二度会える～国史跡「広瀬淡窓旧宅及び墓」指定記念巡回展『淡窓生家と廣瀬家展』	エントランス	29,756	主催：廣瀬本家／公益財団法人廣瀬資料館／廣瀬淡窓旧宅指定記念展示会実行委員会
26年1月15日～26日	共催	ひなの国九州フェスタ2014	エントランス	29,756	主催：九州ひなまつり広域振興協議会
26年1月19日	主催	第31回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
26年1月24日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
26年1月26日	主催	第37回親子で茶道体験	茶室	51	主催：九州国立博物館
26年1月28日	共催	神楽の故郷　京築神楽展	ミュージアムホール・エントランス	12,812	主催：神楽の里づくり推進協議会
26年2月4日	共催	水城築造1350年パネル展	エントランス	16,848	主催：水城・大野城・基肄城築造1350年実行委員会
26年2月9日	主催	第32回はじめての茶道体験	茶室	7	主催：九州国立博物館
26年2月11日	共催	「宗像・沖ノ島と関連遺産群」展	エントランス	23,807	主催：「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議、「福岡県近代化産業遺産」世界遺産登録連絡会議
26年2月14日	共催	「宗像・沖ノ島と関連遺産群」展公開講座	ミュージアムホール	202	主催：「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議、「福岡県近代化産業遺産」世界遺産登録連絡会議
26年2月15日	主催	第6回ガムランワークショップ	ミュージアムホール	14	主催：九州国立博物館
26年2月16日	共催	ふくおか歴史の散歩道④「太宰府天満宮　曲水の宴に寄せて」	ミュージアムホール	60	主催： NPO法人 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会
26年2月18日	主催	筑紫地区児童画展	エントランス	29,939	主催：九州国立博物館を愛する会
26年2月23日	主催	第38回親子で茶道体験	茶室	58	主催：九州国立博物館
26年2月23日	主催	第117回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	主催：九州国立博物館
26年2月25日～3月1日	共催	第8回福岡県景観大会 「景観文化展作品等展示」	エントランス	22,354	主催：福岡県・福岡県美しいまちづくり協議会
26年3月1日	共催	第8回福岡県景観大会 「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」	ミュージアムホール	150	主催：福岡県・福岡県美しいまちづくり協議会
26年3月2日	主催	第118回きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	320	主催：九州国立博物館
26年3月4日～16日	共催	筑紫地区文化財写真展「古代の筑紫へタイムトリップ」	エントランス	40,012	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
26年3月6日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	130	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
26年3月8日	主催	第7回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	28	主催：九州国立博物館
26年3月18日～23日	共催	太宰府市景観・市民遺産会議パネル展	エントランス	10,743	主催：太宰府市
26年3月21日	主催	第18回九博デー「エコ・環境から見た博物館と地域」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館を愛する会
26年3月21日	主催	第33回 はじめての茶道体験	茶室	18	主催：九州国立博物館
26年3月23日	主催	第39回 親子で茶道体験	茶室	59	主催：九州国立博物館
26年3月29日	共催	博多にわか笑演会 in 九州国立博物館	ミュージアムホール	60	主催：博多仁和加振興会

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 9月21日(土) 9：30～18：00	○参加者数　663人《736人》 留学生　568人《682人》 同伴者　95人《 54人》 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・ボランティアによる茶会 参加者数：36人（2回計） ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：320人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：324人	・留学生アンケート回答者数249人 回収率　38% ・出身国および地域：中国41%、台湾10%、韓国3%、アメリカ5%　他 ・認知経路：ポスター59%(掲示場所：学校134件、その他10件）友人23%、インターネット10%、学校関係者8% ・参加したイベント：観覧のみ50%、お茶会6%、本館ハイライトガイドツアー9%、英語ガイド16%
京都国立博物館 11月1日(金) 9：30～18：30	○参加者数　128人《63人》 留学生　124人《60人》 同伴者　4人《 3人》 ・　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」、 古典の日記念イベント「能のお話と実演」 「佐々木丞平館長によるスペシャルトーク」 無料観覧	・留学生アンケート回答者数30人 （回収率23%） ・初めて来館した人が83% ・40%がポスター･チラシで知り、30%が先生･友達から聞き、12%がウェブサイトを見て来館 ・出身国：回答者のうち77%がアジア出身 ・特別展の満足度　84%
奈良国立博物館 11月1日(金) 9：00～18：00 (正倉院展会期中 のため9：00開館)	○来館者数　15,158人《13,452人》 留学生　92人《　125人》 ・「正倉院展」(特別展)及び名品展の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難）
九州国立博物館 11月3日(日・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　2,528人《2,490人》 留学生　29人《 185人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・国際文化交流ツアーＩＮ九博 ・留学生限定　はじめての茶道体験	・留学生アンケート回答者数　40人 ・出身国：中国47%、台湾24%、インドネシア12%、ドイツ5%　他 ・来館頻度：初めて62%、2回目17%　他 ・認知経路（複数回答）：学校関係者から24人、友達から9人、ウェブサイト7人　他 ・来館理由（複数回答）：日本文化や歴史をもっと知りたいから31人、博物館に来るのが好きだから10人　他 ・参加イベント：国際文化交流ツアー45%、茶道体験67% ・文化交流展満足度：70% ・国際交流文化ツアー参加者　23人 ・留学生限定茶道体験参加者　25人

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成24年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、障がい者等に配慮した設備等

平成26年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障がい者用トイレ	14ヵ所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8ヵ所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1	3ヵ所 （東新館1、地下回廊2）	6ヵ所 （本体建物）
障がい者用エレベータ	11基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	4基 （平成知新館4） 昇降装置1基 （管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	4ヵ所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館）	4ヵ所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	—
ハンディキャップ優先駐車	2台	2台	足の不自由な方に対して有	3台
車椅子	27台 （正門3、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	17台	12台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー　2台 ○ベビーシート　14ヵ所 ○ベビーチェア　11ヵ所	○ベビーカー　6台 ○ベビーシート　10ヵ所 ○ベビーチェア　10ヵ所	○ベビーシート　2ヵ所 ○ベビーキープ　1ヵ所 ○おむつ交換台　1ヵ所	○ベビーカー　9台 ○ベビーシート　15ヵ所 ○ベビーチェア　6ヵ所
25年度整備事項			・多目的トイレにオストメイト用設備を整備した。	・「ほじょ犬」専用トイレを整備した。

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
25年度計：150,214台	25年度計：17,202台	25年度計：46,953台	25年度計：55,611台
「国宝　大神社展」 37,449台 ・特別展 「和様の書」 21,553台 ・特別展 「上海博物館　中国絵画の至宝」 2,709台 ・特別展 「京都　洛中洛外図と障壁画の美」 63,447台 ・特別展 「クリーブランド美術館展 名画でたどる日本の美」 12,797台 ・特別展 「人間国宝展　生み出された美、伝えゆくわざ」 12,259台 （参考） 今年度ダウンロード件数 ・「トーハクなび」 Android版1,775件 iOS版2,928件 ・「法隆寺宝物館30分ナビ」 iOSアプリ1,603件	・特別展 「狩野山楽・山雪」 12,496台 ・特別展観 「遊び」 1,596台 ・特別展 「魅惑の清朝陶磁」 3,110台	・特別展 「當麻寺ー極楽浄土へのあこがれー」 （日本語版・一般向け） 4,697台 ・特別展 「みほとけのかたちー仏像に会うー」 （日本語版・一般向け） 2,919台 ・特別展 「第65回正倉院展」 （日本語版・一般向け） 38,216台 （英語版・一般向け） 213台 （日本語版・子供向け） 908台	・文化交流展示 5,341台 （英語版　1,473台） （中国語版　920台） （韓国語版　2,948台） ・特別展 「大ベトナム」展 7,205台 ・特別展 「中国　王朝の至宝」展 11,385台 ・特別展 「尾張徳川家の至宝」展 18,787台 ・特別展 「国宝 大神社」展 12,893台

2-(4) 文化財情報の発信と広報の充実

2-(4)-① 収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像550,305件	画像 2,682 件 文字 5,323 件	画像 7,615件 文字 9,093件	画像 62件

2-(4)-② 収集した情報資料数（総数）

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		25年度新規	総数	25年度新規	総数	25年度新規	総数	25年度新規	総数
写真原板(フィルム)		22件	321,037件	1,406件	257,124件	87件	361,481件	822件	23,618件
デジタル撮影		9,843件	45,897件	3,119件	3,834件	4,561件	26,088件	690件	7,617件
資料	模造							0	0
	模写							0	0
	その他							0	0
	計							0	0
図書	和書	4,038冊	182,546冊	2,303冊	128,855冊	2,003冊	77,650冊	3,792冊	81,732冊
	漢書	854冊	39,152冊	74冊	21,569冊	85冊	5,101冊	0冊	0冊
	洋書	97冊	12,665冊	126冊	4,382冊	37冊	(*1)1,729冊	103冊	2,366冊
	計	4,989冊	234,363冊	2,503冊	154,806冊	2,125冊	84,480冊	3,895冊	84,098冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	24巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本 0コマ	0本 0コマ	0本 0コマ	26本 2,779コマ	0本 0コマ	21本 2,192コマ	0本 0コマ	0本 12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,657巻	0巻	359巻	0巻	68巻	0巻	515巻

※(*1)の項目については、総数再確認の結果、平成24年度年報に記載の24年度総数が修正となった(<奈良博>洋書1,682冊→1,692冊）。本表の記載は、この修正を踏まえたものである。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数	2,898人	2,796人	3,385人	4,828人	5,661人
閉架図書（閲覧）	7,527件	3,138件	3,032件	3,571件	3,909件
マイクロフィルム(閲覧)	577件	994件	573件	603件	466件
レファレンスサービス	2,973件	3,339件	2,783件	6,249件	6,802件
コピーサービス	22,438枚	26,210枚	19,983枚	25,419枚	23,801枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

2-(4)-③ 特別観覧件数

申請件数

平成26年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	351	13	338	142	3	139	70	5	65	68	2	66	71	3	68
写真撮影	77	1	76	4	0	4	16	1	15	27	0	27	30	0	30
映画撮影	14	11	3	3	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
テレビ撮影							3	3	0		2	0	5	3	2
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	8	0	8	3	0	3	0	0	0	3	0	3	2	0	2
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	252	1	251	132	0	132	51	1	50	36	0	36	33	0	33

点数

平成26年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	1,757	40	1,717	880	12	868	294	10	284	192	10	182	391	8	383
写真撮影	306	1	305	5	0	5	51	1	50	79	0	79	171	0	171
映画撮影	47	38	9	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							8	8	0	10	10	0	11	8	3
ビデオ撮影							0	0	0				6	0	6
模写	18	0	18	4	0	4	0	0	0	7	0	7	7	0	7
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	1,386	1	1,385	859	0	859	235	1	234	96	0	96	196	0	196

2-(4)-④ 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成26年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	6	3	3										6	3	3
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,162	858	304				705	588	117	345	221	124	1	0	1
		カラー													111	49	62
	プリントでの提供	モノクロ	86	72	14				86	72	14	0	0	0			
		カラー	2	1	1				0	0	0	2	1	1			
画像再利用			161	109	52							149	100	49	12	9	3

点数

平成26年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	53	4	49										53	4	49
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,531	3,193	2,338				2,864	2,200	664	2,092	860	1,232	1	0	1
		カラー													574	133	441
	プリントでの提供	モノクロ	935	150	785				935	150	785	0	0	0			
		カラー	27	19	8				0	0	0	27	19	8			
画像再利用			427	213	214							368	192	176	59	21	38

2-(4)-⑤ 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特別企画

「博物館でお花見を」

会期：平成25年3月19日（火）～4月14日(日)

ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客

重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。

特記事項:イベント広報を通じて､まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,239件(博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り(ＪＲ山手シングル　15駅 30面、ＪＲ上野、鶯谷、横浜、大宮4駅 8面、東京メトロ上野、浅草、稲荷町、六本木、竹橋、表参道、東京など16駅 22面、京王電鉄　約10駅 100面、京成電鉄14駅　14面)
新聞・雑誌広告	朝日新聞1回、読売新聞2回、毎日新聞1回、ジャパンタイムズ1回、デイリーヨミウリ1回
テレビ広告	―
新聞掲載	読売新聞、毎日新聞、東京新聞　他
テレビなど	めざましテレビ(フジテレビ)、情報7daysニュースキャスター(テレビ朝日)　他
雑誌掲載	クロワッサン(マガジンハウス)、ノジュール（JTBパブリッシング）、日経おとなのOFF(日経BP)、東京ウオーカー(カドカワマガジンズ)、週刊朝日（朝日新聞出版）　他
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信

「秋の特別公開」

会期：平成25年9月18日（水）～9月29日(日)

ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、国内外からの観光客、留学生

重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項：期間中に留学生の日を開催

リリースの配信(約280件)。

特別夜間開館・コンサートを開催。イベントをきっかけとした露出を図った。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1654件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り(ＪＲベンチ広告〈上海美術館展と各2分の1〉6駅：浜松町、田町、神田、上野、鶯谷、東京メトロ上野・浅草・上野広小路　3駅5面、京王 大学のある駅 20面)
新聞・雑誌広告	朝日新聞1回
テレビ広告	―
新聞掲載	東京新聞　ほか
テレビなど	―
雑誌掲載	―
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・特集陳列「清時代の書」

会期：平成 25 年 10 月 8 日（火）～12 月 1 日(日)

ターゲット：書道愛好家

重点項目：新聞及び書・美術専門雑誌に向けてのプロモート

特記事項：台東区立書道博物館、朝倉彫塑館との連携企画。

リリースを配信(約280件)

2館連携報道内覧会の実施　(10月7日、9人出席)

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	台東区書道博物館から送付
交通広告	駅貼り広告(JR上野、鶯谷、日暮里、秋葉原、品川など11駅22面、東京メトロ 上野、浅草、表参道、六本木、大手町、銀座など11駅22面)
新聞・雑誌広告	朝日半5段 1回
テレビ広告	―
新聞掲載	毎日新聞　ほか
テレビなど	―
雑誌掲載	「月刊書道界」　ほか
博物館ニュース	注目の特集蘭掲載　1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・特別企画

「留学生の日」

会期：平成25年9月21日（土）

ターゲット：留学生

重点項目：学校を通じた広報

特記事項：リリースの配信(約280件)、ポスター・チラシの制作、学校へのＤＭ

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約500件(大学、語学専門学校等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビ・ラジオなど	―
雑誌掲載	―
博物館ニュース	告知2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン･SNSでの情報配信

・特別企画
「博物館に初もうで」
会期：平成26年1月2日（木）～26日(日)
ターゲット：一般の美術愛好家、20～40代女性、家族連れ、国内外からの観光客
重点項目：おめでたい作品イメージによるビジュアル展開。北斎筆「七福神」を使った新聞広告・SNSによる初夢プレゼント企画の展開
リリースの配信（約280件）。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,077件(博物館・美術館・学校・大使館・ギャラリー・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り（JR上野駅8面、ＪＲ鶯谷駅2面、山手単貼セット上野、秋葉原、東京、有楽町、新橋、、恵比寿、渋谷、原宿、新宿、池袋ほか15駅30面、　東京メトロ、上野、六本木、根津、銀座、表参道、竹橋ほか　13駅16面、京王 主要駅50面、京成上野、日暮里、成田ほか5駅10面）
新聞・雑誌広告	朝日新聞夕刊15段カラー１回、読売新聞夕刊15段カラー1回、毎日新聞夕刊15段カラー1回、産経新聞朝刊　5段カラー1回、ジャパンタイムズ1／16　2回、ジャパンニューズ1／16　1回
テレビ広告	―
新聞掲載	朝日新聞、産経新聞、読売新聞、毎日新聞　ほか
テレビ・ラジオなど	―
雑誌掲載	メトロポリス、Time Out Tokyo、フジサンケイビジネスアイ　ほか
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事初もうで1回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・特別企画
「博物館でお花見を」
+会期：平成26年3月18日（火）～4月13日(日)
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。
特記事項:イベント広報を通じて､まだ博物館に来たことのない人の来館を促進｡家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビなど	―
雑誌掲載	Time Out Tokyo　他
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・長期的な交通広告
JR上野駅公園口　ADビジョン　デジタルサイネージ　7面　　15秒枠　平成24年4月～26年3月
羽田空港　京成新国際ターミナル駅　上下線ホームピラー、可動柵広告平成22年12月～26年3月

・プレスリリース「定期情報」の配信　７回

・記者懇談会の開催
11月20日（水）18:00～20:00　懇談会16名、交流会12名参加
対象：新聞各紙文化・美術担当記者ならびに文科省記者クラブメンバー

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：「国宝 大神社展」
会期：平成25年4月9日（火）～6月2日（日）
ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン、神社好き
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：小学館「日本美術全集」とのタイアップしおり設置と、「神社検定」関連の神社神道フェア内でのポップ掲出を全国書店にて展開、博物館近隣神社マップ作成、ブロガー内覧会の実施

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約7,500件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	ＪＲ・私鉄／アルファボード(20駅22面)、山の手ベストボード(19駅25面)、SWボード(35駅39面) ポスター駅貼り・車内吊等（京王、京成、東京メトロ等　多数）、電飾看板（20駅20面）、上野商店街フラッグ
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
新聞掲載	朝日新聞(行幸啓報道)ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館本編（NHK）、新日本風土記（NHK）、ひるまえほっと（NHK）、首都圏ニュース（NHK）、やじうまテレビ（テレビ朝日）、Ｎスタ（ＴＢＳ）、台東かわらばん（J:COM）、ラベンダークルーズ（調布エフエム放送）　ほか
雑誌掲載	家庭画報（世界文化社）、歴史読本（新人物往来社）、きものサロン（世界文化社）、皇室（扶桑社）、Discover Japan（エイ出版社）、クロワッサン（マガジンハウス）、Pen、婦人画報（アシェット婦人画報社）、UOMO（集英社）、マリソル（集英社）、Tokyo Walker（角川書店）、GLOW（宝島社）、月刊美術（実業之日本社）、和楽（小学館）、美術手帳（美術出版ホールディングス）、月刊ギャラリー（ギャラリーステーション）、メトロガイド（日刊工業新聞社）ほか
博物館ニュース	告知1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事11回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 インターネットミュージアム（丹青社）、WEDGE Infinity（ウェッジ）、Yahoo!ニュース（ヤフー）、ＭＳＮ産経ニュース（産経デジタル）　ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　241件、雑誌　161件、テレビ/ラジオ 9件、インターネット　27件
③報道発表会　平成24年11月20日　平成館大講堂にて　(91人出席)
④報道内覧会　平成25年4月23日（110人出席）
⑤教員内見会　平成25年4月19日（81人出席）
⑥ブロガー内覧会　平成25年4月23日（58人出席）

展覧会名：特別展「和様の書」

会期：平成25年7月13日（土）～9月8日（日）
ターゲット：書道愛好者、広く一般の美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項：書団体・書道展を対象にDMやチラシ配布
　　美文字ブームを機に、新規らい感想の獲得を図った
　　親子書道教室、席上揮毫などのイベントをきっかけとした周知

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約7,300件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、書団体、古美術商、ホール、会館、書店、図書館等) ジュニア用ワークシート：1都3県小中学校に送付
交通広告	駅ボード／JR：NT（87駅94面）、山手ステーションボード（17駅20面）、上野駅3×4 ポスター駅貼り・車内吊等（京王、京成　多数） 電飾看板（20駅20面）
新聞・雑誌広告	読売新聞 6回、朝日新聞　4回、日経新聞 2回、毎日新聞 2回、産経新聞 1回
テレビ広告	スポット広告（NHK）26回
新聞掲載	読売新聞(特集記事　行啓記事など　計90件)、日本経済新聞、朝日新聞、毎日新聞　ほか
テレビ/ラジオ	ニュース（NHK）、プレマップ（NHK）、トーハク女子高夏期講習（NHK）、日曜美術館アートシーン（NHK）、皇室アルバム（TBS）、「出光佐知子の美術館探訪　夜の博物館から国宝をニコ生！」（シアターTV・ニコニコ生放送）、シューイチ（日テレ）ほか
雑誌掲載	BRUTUS（マガジンハウス）、和楽（小学館）、日経おとなのOFF（日経BP）ほか
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事19回、メールマガジン・SNSでの情報配信、公式ホームページ、共催者(NHK、NHKプロモーション、読売新聞社)ウェブサイトでの紹介 インターネットミュージアム（丹青社）ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　515件、雑誌　123件、テレビ/ラジオ 12件、インターネット　38件
③報道発表会　平成25年3月12日　平成館大講堂にて　(57人出席)
④報道内覧会　平成25年7月12日(143人出席)
⑤教員内見会　　平成25年7月26日（119人出席）

展覧会名：特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」

会期：平成25年10月1日（火）～11月24日（日）
ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン、中国美術・東洋美術ファン

重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：報道説明会「これぞ中国絵画の楽しみかた！」実施

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約1,787件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：なし
交通広告	JR　SWボード（6駅6面）、秋の特別公開との合同展開（2駅2面）、 ポスター駅貼り等（京王、京成、東京メトロ、東急等　多数）、チラシラック付きポスター掲出　元町・中華街駅・京王線（2駅2面）　ほか
新聞・雑誌広告	毎日新聞（連載、広告各2回）、日経新聞（1回）
テレビ広告	―
新聞掲載	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞　ほか
テレビ/ラジオ	muse Amuse（FMサルース）
雑誌掲載	月刊書道界（藤樹社）、アートナビ（美術出版社）、書２１（匠出版）、中文導報（中文産業株式会社）、美術の窓（生活の友社）美術手帳（美術出版ホールディングス）、朝日新聞マリオン（朝日新聞社）、東京ウォーカー（角川書店）、ちいき新聞（地域新聞社）、いけ花龍生（龍生派）ほか
博物館ニュース	告知1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信 インターネットミュージアム（丹青社）、美術の窓WEB（生活の友社）、マイナビニュース（マイナビ）、CREA WEB（文藝春秋）、Tokyo Art Beat（GADAGO）、レッツエンジョイトーキョー（株式会社ぐるなび）、展覧会へ行こう！（有限会社アルカ）　ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　6件、雑誌　13件、テレビ/ラジオ 1件、インターネット　8件
③報道発表会　平成25年8月20日（火）　東洋館シアターにて　(39人出席)
④報道内覧会　平成25年9月30日 (61人出席)
⑤教員内見会　平成25年10月11日 (117人出席)

展覧会名：特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」
会期：平成25年10月8日（火）～12月1日（日）
ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：洛中洛外図舟木本アプリの配信により、作品への興味喚起と理解促進を図った。
　　日本橋三越の創立340周年祭プロモートとのタイアップ。
　　プロジェクションマッピングなど、話題のイベントや宝探しゲームによる、新規来館者層の獲得
　　EXILE　ATSUSHI＆久石譲によるテーマソング

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約170件(博物館・美術館・書店・学校（大学、専門学校など）、百貨店、ホテルほか)
交通広告	駅ボード／JR：NTII（87駅101面）、JR＋私鉄：SSボード（91駅91面）、東京メトロUボード（13駅21面）私鉄：PLボード（東急、京急、京王、小田急、東武、西武、相模）18駅22面）、京王ニューボード（新宿駅16面） ポスター駅貼り・車内吊等（JR、京王、西武　多数） 東急ドア横、JR品川駅大型フラッグ、西武池袋駅フラッグ
新聞・雑誌広告	朝日新聞　広告2回、パノラマ折込1回、読売新聞　広告6回、パノラマ折込1回、休刊日折込チラシ1回、エクラ特集企画15ページ、ぶらぶら美術・博物館アートブック表4
テレビ・ラジオ広告	日テレ地上派:15秒224本、12秒 88本、3秒 38 本、ＢＳ日テレ／ＣＳ日テレ： 15秒 209本、30秒301本、ラジオ日本・文化放送： 約900本
新聞掲載	読売新聞(特集記事、行啓報道)、ほか
テレビ/ラジオ	東京暇人（日テレ）、すっきり!!京都ッス（日テレ）、PON!（日テレ）、ぶらり途中下車の旅（日テレ）、NEWS ZERO（日テレ））、ぶらぶら美術・博物館（BS日テレ）、めざましテレビ（日テレ）など　日テレ系列総計76件、日曜美術館アートシーン（NHKEテレ）、ひるまえほっと（NHK）、めざしテレビ（フジ）週刊EXILE（TBS）、サンケイエクスプレス（産経新聞）
雑誌掲載	anan（マガジンハウス）、いきいき（いきいき）、おとなの秋ぴあ（ぴあ）、クロワッサン（間は仁ハウス）、月刊オーケストラ（読売新聞）、日経おとなのOFF（日経BP）、ノジュール（JTBパブリッシング）、サライ（小学館）　ほか
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジン/SNSでの情報配信、公式ホームページでの紹介 インターネットミュージアム（丹青社）ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　111件、雑誌　222件、テレビ/ラジオ 93件、インターネット　97件
③報道発表会　平成25年6月13日　日テレホールにて　(201人出席)
④報道内覧会　平成25年10月7日(185人出席)
⑤教員内見会　平成25年10月11日 (117人出席)
⑥各種表彰
　30回ATP賞特別賞　(龍安寺石庭4K映像)

第65回全国カレンダー展　第３部門銀賞　（龍安寺石庭四季カレンダー2014（グッズ））
第55回全国カタログ・ポスター展　カタログ部門　〔E〕図録部門　奨励賞　（展覧会図録）
第2回VFX-JAPAN　アワード2014イベント・LIVE映像部門　優秀賞　（3Dプロジェクションマッピング）

展覧会名：日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」
会期：平成26年1月15日（水）～2月23日（日）
ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：「日本美術の祭典」（東京都美術館と東博で開催する3つの展覧会を結ぶプロジェクト）3展合同の広告展開等実施、「読者鑑賞会」美しいキモノ（ハースト婦人画報社）との広報タイアップイベント

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約8,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	ＪＲ・私鉄／ＮＴボード（64駅64面、内訳は３展合同7、人間国宝28）、池袋ビッグボード（人間国宝）フレコミボード（43駅43面、３展合同）、新宿・渋谷クワトロボード　など、ポスター駅貼り・車内吊等（西武、京王、京成、東京メトロ等　多数）
新聞・雑誌広告	朝日新聞　8回
テレビ広告	ＮＨＫ　など（街頭ビジョン含む）
新聞掲載	朝日新聞　13回）　ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館本編（NHK）、ひるまえほっと（NHK）、首都圏ニュース（NHK）、TOKYO FASHION EXPRESS（NHK WORLD TV））　ほか
雑誌掲載	美しいキモノ（ハースト婦人画報社）、美術手帳（美術出版ホールディングス）、炎芸術（阿部出版）、毎日が発見（角川グループパブリッシング）、秋ぴあ（ぴあ株式会社）、男の隠れ家（朝日新聞出版）、美術の窓（生活の友社）、陶説（日本陶磁協会）、週刊現代（講談社）　ほか
博物館ニュース	告知1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社)ウェブサイトでの紹介）　ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　69件、雑誌　62件、テレビ/ラジオ 8件、インターネット　37件
③日本美術の祭典3展合同報道発表会　平成25年7月17日　東京都美術館講堂にて　(55人出席)
④東京国立博物館開催2展合同報道発表会　平成25年10月15日　東洋館シアターにて　(30人出席)
⑤報道内覧会　平成26年1月14日　(140人出席)

展覧会名：「クリーブランド美術館展ー名画でたどる日本の美」
会期：平成26年1月15日（水）～2月23日（日）
ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：「日本美術の祭典」（東京都美術館と東博で開催する3つの展覧会を結ぶプロジェクト）3展合同の広告展開等実施

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約8,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	駅ボード／JR：NT（88駅98面）、私鉄各線（43駅）、バナー（2駅3面） ポスター駅貼り・車内吊等（京王、京成、東京メトロ　多数） 電飾看板（20駅20面）　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞　など
テレビ広告	ＮＨＫ　など（街頭ビジョン含む）
新聞掲載	朝日新聞「美の履歴書」ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館本編（NHK）、首都圏ニュース（NHK）　ほか
雑誌掲載	和楽（小学館）、美術手帳（美術出版ホールディングス）、秋ぴあ（ぴあ株式会社）　ほか
博物館ニュース	告知1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社)ウェブサイトでの紹介　ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　62件、雑誌　72件、テレビ/ラジオ 7件、インターネット　40件
③日本美術の祭典3展合同報道発表会　平成25年7月17日　東京都美術館講堂にて　(55人出席)
④東京国立博物館開催2展合同報道発表会　平成25年10月15日　東洋館シアターにて　(30人出席)
⑤報道内覧会　平成26年1月14日　(140人出席)

展覧会名：特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」
会期：平成26年2月11日（火･祝）～3月23日（日）
ターゲット：広く一般の歴史及び美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。絵画作品、主に「支倉常長像」をメイン作品として

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ	チラシはリーフレットと兼用とし館内にて3万枚を配布
交通広告	ポスター駅貼り（JR、東京メトロ、京王、京成）
新聞・雑誌広告	朝日新聞1回、朝日新聞1回、日経新聞1回
テレビ広告	―
新聞掲載	毎日新聞・船橋よみうり新聞、信濃毎日新聞ほか
テレビ/ラジオ	―
雑誌掲載	定年時代、サンデー世界日報
博物館ニュース	告知1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事　回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページほか

②パブリシティー情報掲載・放映
新聞　７件、雑誌　２件、テレビ/ラジオ　１件、インターネット　１件

【京都国立博物館】

(1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「狩野山楽・山雪」
会　　期：25年3月30日～5月12日（39日間）
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表会：24年12月5日、25年3月29日に実施

展覧会名：特別展観「遊び」
会　　期：25年7月13日～8月25日（38日間）
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表会：7月12日に実施

展覧会名：特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」
会　　期：25年10月12日～12月15日（56日間）
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表会：10月11日に実施

展覧会名：特別展「いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展」
会　　場：香川県立ミュージアム
会　　期：25年4月20日～5月26日(33日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

広報媒体：博物館だより、新聞、テレビ等

(2)特別展・共催展等

展覧会名：當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」
会期：平成25年4月6日～6月2日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：特別展「みほとけのかたち　－仏像に会う－」
会期：平成25年7月20日～9月16日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：特別展「第65回正倉院展」
会期：平成25年10月26日～11月11日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 430 件（学校・公共施設・旅行会社等）
交通広告	ポスター駅貼り等（西鉄）、チラシの設置（西鉄）、車内窓広告（文化交流展室展示替 300 回以上、年間パス

	ポート）（西鉄）
雑誌掲載	太宰府市の広報誌に博物館コラムを毎月掲載、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載（年 4 回）、九州王国、飛翔（西日本シティ銀行広報誌）、西日本リビング新聞に掲載（年 3 回）
テレビ	CM を制作・放映（トピック展示「山の神々」10 月 23 日～10 月 27 日）
季刊情報誌「アジア―ジュ」	年 4 回発行（4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、26 年 1 月 1 日） 文化交流展室解説、トピック展示特集、博物館ニュース、イベントスケジュール等を掲載。
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	・文化交流展室にてトピック展示のスタンプラリーを開催した。 ・ガイドブック「きゅーはく攻略本」を刊行し、館内等で配付した。またウェブサイトでダウンロードや電子カタログが見られるように整備した。 ・スマートフォンを使った情報発信を行った。文化庁補助事業で福岡県と太宰府市が連携して、若年層をターゲットに文化情報発信サイト「太宰府市イベントガイド」を開設。（11 月 15 日～） ・年末年始の広報 ・文化交流展示室マップのチラシを作成し、館内等で配布 ・福岡近郊のイオンシネマズでシネアドを行った。（12 月 21 日～26 年 1 月 3 日） ・天神、太宰府ほか西鉄電車主要 6 駅にポスター掲示。（1 月 1 日～1 月 7 日） ・シネアドの CM を天神の大型ビジョンで放映。

・トピック展示「江戸のモダニズム　古武雄～まぼろしの九州のやきもの～」
会期：25 年 3 月 19 日(火)～5 月 6 日(月・祝)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 260 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、日経新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング新聞に掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
マスコミ内覧会の開催	11 社出席

・トピック展示「江戸のサイエンス　－武雄蘭学の軌跡－」
会期：25 年 4 月 16 日(火)～7 月 7 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 200 件（友の会）
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、長崎新聞、大分合同新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
マスコミ内覧会の開催	12 社出席
西鉄電車中吊り広告	5 日間、 1 回

・国宝　琉球国王尚家関係資料修理完成記念特別公開
会期：25 年 4 月 23 日(火)～6 月 2 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・世界遺産　高句麗　壁画古墳写真展
会期：25 年 6 月 4 日(火)～26 年 2 月 2 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	朝日新聞、西日本新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画－神戸市立博物館名品展－」
会期：25 年 7 月 17 日(水)～9 月 23 日(月・祝)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 250 件（友の会、太宰府市内公民館）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞、熊本日日新聞、大分合同新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング新聞に掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
マスコミ内覧会の開催	8 社出席
映画館ＣＭ放映	3 館、2 週間

・特別公開　国宝・神戸市桜ケ丘出土銅鐸
会期：25 年 7 月 17 日(水)～9 月 29 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等

新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
マスコミ内覧会の開催	8社出席

・特別公開　国宝「西光寺梵鐘」
会期：25年7月23日(火)～12月8日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「館蔵名品展－更紗」
会期：25年9月3日(火)～10月14日(月・祝)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約50件（太宰府市内公民館）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞、熊本日日新聞、大分合同新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「煎茶の世界　茶の湯を楽しむⅥ」
会期：25年10月1日(火)～12月1日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約50件（太宰府市内公民館）
新聞掲載	西日本新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「山の神々　－九州の霊峰と神祇信仰－」
会期：25年10月22日(火)～12月1日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約200件（友の会、太宰府市内公民館）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、大分合同新聞、佐賀新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング新聞に掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
マスコミ内覧会の開催	11社出席
テレビＣＭ放映	8日間、2社
西鉄電車中吊り広告	5日間、1回

・特集陳列「江上波夫の眼　ことばとかたち」
会期：25年11月14日(木)～26年2月2日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化　ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館のコレクションより」
会期：25年12月10日(火)～26年2月16日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約200件（友の会、太宰府市内公民館）
新聞掲載	西日本新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング新聞に掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
マスコミ内覧会の開催	7社出席

・「東京オリンピック1964展」
会期：12月17日（火）～26年1月13日（月・祝）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	読売新聞、西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
マスコミ内覧会の開催	9社出席（12月16日）

・トピック展示「発掘された日本列島 2013」
会期：26 年 1 月 1 日(水・祝)～2 月 16 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	朝日新聞、毎日新聞、西日本新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング新聞に掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・新春特別公開「天神さまの宝もの」
会期：26 年 1 月 1 日(水)～1 月 26 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	3 件（太宰府天満宮、西鉄太宰府駅、太宰府市観光案内所）
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、リビング新聞に掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「館蔵近世絵画名品展」
会期：前期：26 年 2 月 25 日(火)～4 月 6 日(日)
　　後期：26 年 4 月 8 日（火）～5 月 18 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 200 件（友の会、太宰府市内公民館）
新聞掲載	毎日新聞、西日本新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・長期的な広報
　西鉄太宰府駅　　広告ボードの設置　（平成 21 年～）
　福岡空港　　宣伝用看板（電照広告）の設置　（平成 22 年～）

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「大ベトナム展」
会期：25年4月16日（火）～6月9日（日）（49日間）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載）、西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集 1 回
テレビ	CM 放送（TVQ）
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

②記者発表会　　25 年 2 月 6 日（17 社出席）
③報道内覧会　　4 月 15 日（16 社出席）

展覧会名：特別展「中国　王朝の至宝」
会期：25年7月9日（火）～9月16日（日）（62日間）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,100 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	毎日新聞、西日本新聞（展示解説を連載）、西日本新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集 1 回
テレビ	NHK
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、YouTube で配信、メールマガジンでの情報配信

②記者発表会　　5 月 8 日（12 社出席）
③報道内覧会　　7 月 8 日（11 社出席）

展覧会名：特別展「尾張徳川家の至宝」
会期：25年10月12日（土）～12月8日（日）（50日間）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設、太宰府市内公民館等）

交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞、産経新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	TNC,TVQ にて告知 CM、TNC、TVQ の番組にて随時告知、展覧会告知 CM（TNC,TVQ）
ラジオ	展覧会告知 CM
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、公式 web サイト特別展『徳川家の至宝』展覧会ホームページ、facebook 周知活動
その他	看板等…大丸地下通路電照看板、博多駅地下ビジョン、地下鉄天神駅電照看板、大丸南側看板、西日本ビジョン 書店タイアップ

②記者発表会　　7 月 18 日（9 社出席）
③報道内覧会　　10 月 11 日（12 社出席）

展覧会名：特別展「国宝　大神社展」
会期：26年1月15日（水）～3月9日（日）（47日間）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設、太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞、朝日新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	関連番組　1/17「新日本風土記」

②記者発表会　　10 月 21 日（9 社出席）
③報道内覧会　　26 年 1 月 14 日（17 社出席）

(3)海外展

展覧会名：文化庁主催海外展「日本文化展」
会期：26 年 1 月 16 日（木）～3 月 9 日（日）（51 日間）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、日本経済新聞　記事掲載
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介

(参考)

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城2012」
会　　期：25年3月16日(土)～6月2日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：夏期企画展「平城京どうぶつえん」
会　　期：25年7月13日(土)～9月23日(月・祝)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・ブログ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院　木簡学ことはじめ」
「都城発掘調査部 平城宮・京発掘調査の50年」
会　　期：25年10月19日(土)～12月1日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

・速報展
①「東方官衙北地区の調査」
②「藤原宮朝堂院東第６堂の瓦」
③「石神遺跡の銅製人形」
④「写真でふりかえる発掘調査４０年」

⑤「東日本大震災復興調査における奈文研の取り組み」

【飛鳥資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期特別展「飛鳥寺２０１３」
会　　期：25年4月26日(金)～6月2日(日)
広報媒体：ポスター・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」
会　　期：25年8月1日(木)～9月1日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：写真コンテスト展「飛鳥川の導」
会　　期：25年9月7日(土)～10月6日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等

展覧会名：秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」
会　　期：25年10月18日(金)～12月1日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：「発見30周年記念　ｷﾄﾗ古墳壁画特別公開」
会　　期：26年1月17日(金)～1月26日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学 2013」
会　　期：26年2月14日(金)～3月16日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

2-(4)-⑥ 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース719号～724号	隔月刊年6回　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,049件 寄贈　国内1,255件　海外88件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　356件（キャンパスメンバーズ　43件含） 友の会　1,480件 （26年3月31日現在）
東京国立博物館「案内と地図」	日本語版 25.10　改訂　60,000部 英語版　25.10　改訂　20,000部 韓国語版 25.11　増刷　4,000部 仏語版　25.11　増刷　4,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内2014.4-2015.3	26.3　26年度版 35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付
東京国立博物館資料館利用案内	25.7　10,000部	25年度より館内で来館者に無償配布 都内及び近郊の博物館、美術館等に送付

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
京都国立博物館だより	4、7、10月、26年1月	178号（4・5・6月）　20,000部 179号（7・8・9月）　10,000部 180号（10・11・12月）　15,000部 181号（26年1・2・3月）　5,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Newsletter Vol.118～120　（英文）	4、7、10月	Vol.118-120　各3,000部	観覧者、京都市観光案内所
特別展観「遊び」関連 こども向けワークシート	25年7月	20,000部	観覧者（小学・中学生対象）
博物館Dictionary No.170	25年7月	5,000部	観覧者（小学・中学生対象）
博物館Dictionary No.171	25年11月	2,000部	
平成25年度年間スケジュール（増刷）	5月	10,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
留学生の日ポスター・チラシ	10月	ポスター500部、チラシ10,000部	観覧者（関西圏の大学、専門学校へ送付）
京都国立博物館案内リーフレット（展示案内改訂版）	25年5月	（日本語・改訂版）5,000部	観覧者、京都市観光案内所
平成26年度年間スケジュール	26年3月	10,000部	観覧者、パスポート会員、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
文化財に親しむ授業ガイドブック	25年12月	1000部	市内の小中学校・教育機関などへ無償配布

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号　25,000部 夏号　20,000部 秋号　30,000部 冬号　15,000部	美術館・博物館・大学・研究所等　約120件
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　15,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布
仏像を観る	日本語版　2,000部	館内で寄附いただいた来館者に配布
仏教美術資料研究センター利用案内	4,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　96,000部 中国語版　9,000部 韓国語版　16,000部 英語版　9,000部 ドイツ語版　5,000部 フランス語版　5,000部 スペイン語版　5,000部 合計　145,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　25,000部 中国語版　6,000部 韓国語版　6,000部 英語版　6,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　3,000部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　500部	・視察者等に配布
季刊情報誌「アジアージュ」	春(28)号　50,000部 夏(29)号　50,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
	秋(30)号　50,000部 冬(31)号　50,000部	近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	各号　13,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、病院、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　展示スケジュールのご案内	20,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館　わくわく通信	年5回毎回　136,000枚	・福岡市を含む博物館近隣14市町
九州国立博物館　きゅーはく攻略本	20,000部	・館内で来館者に配布

2-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料 d

3 我が国における博物館の中核としての機能の強化

3-(1)調査研究の成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

3-(1)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

3-(1)-③ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

3-(1)-④ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

3-(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施

3-(2)-① 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①

3-(4) 収蔵品の貸与

3-(4)-① 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成26年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		272	264	8	123	117	6	82	81	1	35	35	0	32	31	1
合　計		2,041	1,961	80	1,137	1,086	51	626	623	3	135	135	0	143	117	26
絵画		461	456	5	213	212	1	168	165	3	66	66	0	14	13	1
書跡		101	100	1	10	10	0	67	67	0	8	8	0	16	15	1
彫刻		183	179	4	131	127	4	35	35	0	14	14	0	3	3	0
建築		4	4	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	2	0
金工		63	54	9	23	14	9	28	28	0	9	9	0	3	3	0
刀剣		46	39	7	39	39	0				0	0	0	7	0	7
陶磁		250	239	11	25	15	10	220	220	0	0	0	0	5	4	1
漆工		121	120	1	48	48	0	52	52	0	18	18	0	3	2	1
染織		47	47	0	19	19	0	18	18	0	9	9	0	1	1	0
考古		324	311	13	238	236	2	33	33	0	9	9	0	44	33	11
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		68	64	4	18	18	0	5	5	0	0	0	0	45	41	4
和書		13	13	0	12	12	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
東洋	絵画	13	10	3	13	10	3									
	書跡	13	13	0	13	13	0									
	彫刻	9	7	2	9	7	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	37	37	0	37	37	0									
	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	1	0	1	1	0	1									
	考古	47	28	19	47	28	19									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		240	240	0	240	240	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
貸与先件数		249	301	266	311	272
合　計		1,729	1,936	1,571	1,814	2,041
絵画		436	395	376	436	461
書跡		78	89	75	91	101
彫刻		124	198	146	224	183
建築		3	2	3	5	4
金工		98	100	61	84	63
刀剣		121	24	42	13	46
陶磁		103	117	98	99	250
漆工		92	92	66	57	121
染織		102	63	152	98	47
考古		414	350	203	327	324
民族資料		13	9	12	2	0
歴史資料		11	95	24	44	68
和書		12	4	21	14	13
東洋	絵画	23	27	15	12	13
	書跡	4	23	9	6	13
	彫刻	8	9	9	27	9
	金工	0	0	1	0	0
	陶磁	44	91	9	29	37
	漆工	0	2	6	3	0
	染織	0	2	0	0	1
	考古	21	53	30	49	47
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	8	2	0	0
黒田記念館収蔵品		22	183	211	194	240

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(4)-② 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成26年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	204	1,451	113	1,030	49	296	22	58	20	67
国・国立	26	167	12	79	9	81	3	4	2	3
地方・公立	134	1,046	76	801	28	151	15	35	15	59
私立団体	44	238	25	150	12	64	4	19	3	5
海外	8	79	6	51	1	2	0	0	1	26

○寄託品

平成26年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	107	510	20	56	48	327	22	77	17	50
国・国立	19	115	4	12	9	83	2	3	4	17
地方・公立	58	202	11	33	25	102	10	35	12	32
私立団体	30	193	5	11	14	142	10	39	1	1
海外	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0

3-(4)-③ 海外への列品貸与

【東京国立博物館】　海外貸与先 6件　　海外貸与文化財 51件[うち寄託品 0件]　　平成26年3月31日現在

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
「THE INVITED WORK. JAPAN-SPAIN YEAR」	プラド美術館【プラド美術館（スペイン)】	25年6月11日 ～ 25年7月7日	絵画1
「開館展」	梁山市遺物展示館【梁山市遺物展示館(大韓民国)】	25年10月7日～26年1月5日	東洋考古19
「Masterpieces of Chinese Painting 700-1900」	ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館【ヴィクトリア&アルバート美術館（イギリス)】	25年10月28日～26年1月19日	東洋絵画3、東洋染織1
常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	14年1月1日～25年12月31日	東洋彫刻2
日本美術室常設展示（長期貸与）	ヒューストン美術館【ヒューストン美術館日本美術室（アメリカ合衆国)】	24年2月17日～26年2月16日	19件 彫刻2、金工5、陶磁10、考古2
文化庁主催海外展「日本文化」展	文化庁【ベトナム国立歴史博物館（ベトナム社会主義共和国)】	26年1月18日～26年3月9日	6件 彫刻2、金工4

【京都国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 3件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
中国絵画名品展 700－1900	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館【ヴィクトリア&アルバート美術館（イギリス)】	25年10月26日～26年1月19日	絵画3

【奈良国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 26件[うち寄託品 0件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
文化庁主催海外展「日本文化」展	文化庁【ベトナム国立歴史博物館（ベトナム社会主義共和国)】	25年12月16日～26年3月21日	絵画1、書跡1、刀剣7、陶磁1、漆工1，考古11、歴史資料4

3-(4)-④ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
大阪府立弥生文化博物館	19	76
下関市立考古博物館	10	77

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
岩手県立博物館	1	20
平泉町（平泉文化遺産センター）	1	15

（参考）

その他(収蔵品・寄託品以外)の貸与

【東京国立博物館】

区分	貸与件数（件）	貸与先件数(件)
館史資料	1	1
図書	5	1
古写真	4	2

3-(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

3-(5)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

平成26年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
292件	114件	43件	71件	64件

【東京国立博物館】114件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	筆の里工房	筆の里工房 20 周年特別展の展示に関わる助言	5 月 21 日、26 年 1 月 29 日	副館長　島谷弘幸、調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー　恵美千鶴子
2	高知県	高知県新資料館建設会議	6 月 5 日	副館長　島谷弘幸
3	高梁市成羽美術館	特別展の展示に関わる助言	11 月 16 日	副館長　島谷弘幸
4	大阪市立美術館	日本書芸院と共催の書道展に関わる助言	12 月 6 日	副館長　島谷弘幸
5	さいたま歴史と民族の博物館	収蔵品に関わる助言	26 年 3 月 7 日	副館長　島谷弘幸
6	公益財団法人・陽明文庫	文庫運営に関わる助言	26 年 3 月 13 日	副館長　島谷弘幸
7	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会（美術・工芸部会）	6 月 28 日	学芸企画部長　松本伸之
8	九州国立博物館	国宝・神戸市桜ヶ丘出土銅鐸に関する意見交換	8 月 17 日	企画課長　井上洋一
9	野洲市歴史民俗博物館	開館 25 周年記念展「銅鐸－日本最大銅鐸の里帰り－」に関する援助・助言	10 月 5 日～11 月 24 日	企画課長　井上洋一
10	文化庁	美術工芸品買取評価員	8月2日	企画課特別展室長　松嶋雅人
11	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言	25 年 1 月～12 月	企画課出版企画室　遠藤楽子
12	渋谷区立松濤美術館	改修計画に係る照明等の技術指導	8 月～26 年 1 月	企画課デザイン室長　木下史青
13	那覇市立壺谷焼物博物館	展示照明のＬＥＤ照明への変更等改修についての電話問合せおよび東博での助言	8 月	企画課デザイン室長　木下史青
14	国立新美術館	特別展「バレエ・リュス」展の展示･照明デザインにかかわる指導･助言	11 月～12 月	企画課デザイン室長　木下史青
15	スペイン・プラド美術館	特別展の展示ケース製作、設置、照明等に関る協議･助言	4 月 16 日～4 月 19 日	企画課デザイン室長　木下史青、保存修復課保存修復室長　土屋裕子
16	愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館常設展示室改修にかかわる助言	9 月 13 日	企画課デザイン室主任研究員　矢野 賀一
17	福岡市美術館	寄贈候補作品の審査	12 月 13 日	博物館教育課長　小泉惠英
18	龍谷ミュージアム	購入候補作品の審査、評価	26 年 2 月 9 日	博物館教育課長　小泉惠英
19	九州国立博物館	ボランティア活動と運営についての助言､教育普及活動についての助言	5 月 29 日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
20	小郡市立図書館	ボランティア活動と運営についての助言	7 月 5 日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
21	横浜美術館	触知図と障害者対応についての助言	11 月 10 日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
22	日本博物館協会	ドイツ国立博物館学芸員への博物館教育の助言	11 月 12 日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
23	福岡市美術館	盲学校用貸し出しツールと盲学校のスクールプログラムの助言	11 月 14 日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
24	鹿児島水族館	触知図と障害者対応についての助言	12 月 14 日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
25	国立新美術館	教育普及国際シンポジウムの開催についての助言	26 年 2 月 8 日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
26	成都市博物館	資料のデジタル化､データベース化および外部への画像提供に関わる助言	12 月 3 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
27	武蔵野美術大学美術資料図書館	文化財の三次元計測およびデータベース連携に関わる助言	12 月 10 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
28	東京大学附属図書館	特別授業「未来の本の未来」講師	26 年 1 月 10 日	博物館情報課長　高橋裕次、博物館情報課情報管理室長　村田良二
29	リュブリャナ大学（スロベニア）	デジタルアーカイブとデータベースに関する助言	26 年 2 月 12 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
30	内閣官房　知的財産戦略本部	アーカイブに関するタスクフォース（第 1 回）参考人	26 年 2 月 26 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
31	江戸東京博物館	周年事業に伴う広報活動についての助言	9 月 11 日	広報室長　小林牧
32	文化庁	美術工芸品買取鑑査会議委員	7 月 29 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
33	東京都	東京都文化財保護審議会	12 月 20 日、26 年 1 月 27 日、26 年 2 月 14 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
34	福島県	福島県被災文化財等救援本部 第４回幹事会	11 月 28 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
35	可児市	可児市大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会	6 月 23 日、9 月 20 日、12 月 23 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
36	日本工芸会西部支部	西部工芸展審査	4 月 10 日～11 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
37	町田市	(仮称)町田市立国際工芸美術館整備基本計画検討委員会	9 月 25 日、12 月 9 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
38	台北･故宮博物院	買取鑑査委員	4 月 14 日～15 日	学芸研究部長　伊藤嘉章

	機　関	内　容	期　間	担当者
39	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	26 年 2 月 27、28 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
40	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	26 年 2 月 17、18 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
41	文化庁	伝統文化課　買取鑑査会議委員	26 年 3 月 15 日	学芸研究部長　伊藤嘉章
42	一宮市博物館	仁王胴具足の調査	8 月 22 日、10 月 22 日	上席研究員　池田　宏
43	牛伏寺	頭形兜鉢、刀剣の調査、保存の助言	8 月 28、29 日	上席研究員　池田　宏
44	國學院高等学校	文化史資料館の展示品の展示替、保存の助言	9 月 6 日	上席研究員　池田　宏
45	文化庁、春日大社	春日大社所蔵古神宝類復元模造事業	11 月 11 日	上席研究員　池田　宏
46	茨城県立歴史館	平成 25 年度特別展「はにわの世界－茨城の形象埴輪とその周辺－」展における当館列品展示への助言･指導	10 月 9 日	列品管理課主任研究員　古谷毅
47	伊勢崎市教育委員会	平成 25 年度伊勢崎市教育委員会 鉄器保存処理事業へのへの助言･指導	26 年 2 月 12 日	列品管理課主任研究員　古谷毅
48	日本銀行金融研究所 貨幣博物館	海外への作品貸与の実務に関する助言	26 年 2 月 19 日	列品管理課登録室長　救仁郷秀明
49	国立ハンセン病資料館	収蔵庫増設に関する助言	4 月 12 日	列品管理課登録室長　救仁郷秀明
50	古代オリエント博物館	同館の特別展「ユーフラテス―文明を育んだ河と古代オリエント博物館の発掘調査―」開催に関する意見交換	4 月 10 日	列品管理課平常展調整室長白井克也、特任研究員　後藤健
51	梁山市遺物展示館	同館の開館記念展に関し、助言と意見交換	7 月 24 日	列品管理課平常展調整室長白井克也
52	ブルックリン美術館	同館スーザン・ベニンソン氏による，同館元職員スチュワート・キューリンの業績調査に協力し、キューリンから東博への寄贈資料に関し情報交換	11 月 13 日	列品管理課平常展調整室長白井克也
53	ライプツィヒ民族学博物館	OAG ドイツ東洋文化研究協会より 1878 年に同館に寄贈された日本の考古資料に関し品に関し、その年代等を助言	11 月 21 日～26 年 2 月 19 日	列品管理課平常展調整室長白井克也、調査研究課考古室品川欣也、橋本英将
54	大阪狭山市教育委員会	指定品等列品管理の体制等に関する助言	26 年 3 月 7 日	列品管理課平常展調整室長白井克也、列品管理課登録室長　救仁郷秀明、保存修復課主任研究員　荒木臣紀
55	静嘉堂文庫美術館	「静嘉堂蔵　松浦武四郎コレクション」の展示に関わる助言	9 月 5 日	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男
56	常盤山文庫	展示に関わる助言	12 月 10 日	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男
57	（公社）日本写真家協会	同協会が文化庁の委託を受けて運営する日本写真保存センターでの写真の保存についての助言	4 月～26 年 3 月	調査研究課長　田良島哲
58	ISO/TC 46（国際標準化機構第 46 専門委員会：情報とドキュメンテーション）　国内委員会	図書館・博物館等における情報管理の標準化について、日本博物館協会推薦による委員として検討に参画	4 月～26 年 3 月	調査研究課長　田良島哲
59	文京区立森鴎外記念館	同館運営協議会の委員として、館運営について指導・助言	4 月～26 年 3 月	調査研究課長　田良島哲
60	文化庁	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会専門部会委員として､意見を述べる	10 月～26 年 3 月	調査研究課長　田良島哲
61	スペイン・プラド美術館	特別展の作品展示指導・記者発表出席	6 月 3 日～6 月 13 日、7 月 6 日～7 月 13 日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
62	福島県立美術館	「プライスコレクションにみる江戸絵画の楽しみ」対談	7 月 27 日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
63	文化庁	美術工芸品買取鑑査会議委員	7 月 29 日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
64	（公財）新宿未来創造財団 新宿歴史博物館	「栄西と建仁寺」特別展関連文化講演会講師	26 年 3 月 23 日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
65	第 36 回日本の象牙彫刻展組織委員会	第 36 回日本の象牙彫刻展審査委員	7 月 7 日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
66	第 60 回日本伝統工芸展運営委員会	第 60 回日本伝統工芸展第 1 次鑑査委員	8 月 6 日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
67	文化庁	無形文化財工芸技術資料の買取協議員	9 月 11 日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
68	東京都生活文化局	東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会（資料評価部会）臨時委員	10 月 30 日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
69	国立歴史民俗博物館	平成 25 年度第 9 回鑑査委員会鑑査委員	26 年 2 月 21 日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
70	貝桶制作実行委員会	第 11 回貝桶制作研究会における制作指導	26 年 3 月 25 日～26 日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
71	新潟県立歴史博物館	特別展「黄金の国々」における展示指導	4 月 18 日	調査研究課工芸室主任研究員小山弓弦葉
72	新潟県立歴史博物館	特別展「黄金の国々」における展示指導	5 月 13 日	調査研究課工芸室主任研究員小山弓弦葉
73	文化庁	文化庁文化財部調査委員として重要無形文化財保持者の現状調査	8 月 7 日	調査研究課工芸室主任研究員小山弓弦葉
74	静岡県教育委員会	静岡県文化財保護審議会員として県指定文化財の新指定協議	26 年 2 月 21 日	調査研究課工芸室主任研究員小山弓弦葉
75	公益社団法人　日本工芸会	第 48 回日本伝統工芸染織展における鑑査委員	26 年 3 月 27 日	調査研究課工芸室主任研究員小山弓弦葉

	機　関	内　容	期　間	担当者
76	福井県立歴史博物館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	25 年 1 月 10 日～7 月 2 日	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩
77	練馬区立美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	25 年 1 月 11 日～7 月 2 日	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩
78	北九州市立小倉城庭園	作品の展示・保存環境についての調査・指導	4 月 10 日～10 月 24 日	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩
79	五島美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	5 月 22 日～7 月 25 日	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩
80	岐阜県美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	7 月 1 日～8 月 8 日	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩
81	三の丸尚三館	保存修復材料について、材質や購入先についての助言	12 月 16 日～26 年 1 月 17 日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
82	福岡県野田宇太郎文学資料館	写真資料の保存についての助言	7 月 19 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
83	横浜市歴史博物館	生物対策についての助言	11 月 18 日	調査研究課課長　田良島哲、保存修復課主任研究員　荒木臣紀
84	学習院大学資料館	文化財収蔵施設環境についての助言	9 月 20 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
85	国立科学博物館	温湿度データ所得に関する助言	26 年 1 月 5 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
86	佐倉市教育委員会	生物対策についての助言	7 月 25 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
87	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー　レベル２・A 講義「生物対策」講師	8 月 19 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
88	NPO 法人文化財保存支援機構	平成 24 年度文化財保存修復専門家養成実践セミナー　＜レベル 1・Bコース＞講義「光学調査」講師	8月29日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
89	中国成都博物院	文化財収蔵施設環境についての助言	12 月 3 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
90	奈良国立博物館	エックス線撮影システム構築に関する助言	10 月 30 日	保存修復課課長　神庭信幸、保存修復課主任研究員　荒木臣紀
91	国立科学博物館	染織品の展示に関する助言	9 月 3 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀、調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉、調査研究課工芸室　三田覚之
92	大阪狭山市教育委員会	指定品等列品管理の体制等（温湿度管理記録、修理・貸出などの記録台帳の整備、日常管理システムに関する助言	26 年 3 月 7 日	保存修復課主任研究員　荒木臣紀、列品管理課平常展室長　白井克也、列品管理課貸与特別観覧室長　救仁郷秀明
93	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー　レベル２・A　陸前高田学校　講義「掛軸の安定化処理」講師	7 月 31 日～8 月 1 日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦
94	NPO 法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー　レベル 1・A　講義「対症修理」講師	8 月 23 日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦
95	双葉町歴史民俗資料館	レスキュー活動	9 月 5 日～6 日、9 月 26 日～27 日、10 月 3 日～4 日、10 月 30 日～31 日、	副館長　島谷弘幸、学芸研究部長　伊藤嘉章、総務部長　栗原祐司、総務企画課長　池野浩幸、調査研究課長　田良島哲、調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀、保存修復課保存修復室長　冨坂賢、経理課長　菅原康宏、総務課長　竹之内勝典、保存修復課主任研究員　荒木 臣紀、企画課デザイン室主任研究員矢野賀一、博物館教育課教育講座室長　丸山士郎、広報室長　小林牧、調査研究課工芸室長　竹内奈美子、調査研究課考古室　品川欣也、橋本英将、総務課室長　斉藤直樹、総務企画課主任（総務・人事担当）　武田卓、財務課室長　日高信二、企画課デザイン室長　木下史青、列品管理課登録室　安川政和、財務課監査・調査担当　安孫子卓史、経理課環境整備室長　大江信浩、総務課警備・お客様担当　石坪直紀、

	機　関	内　容	期　間	担当者
96	富岡町歴史民俗資料館	レスキュー活動	10 月 30 日～31 日、	副館長　島谷弘幸、学芸研究部長　伊藤嘉章、調査研究課長　田良島哲、調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀、保存修復課保存修復室長　冨坂賢、経理課長　菅原康宏、総務課長　竹之内勝典、保存修復課主任研究員　荒木 臣紀、企画課デザイン室長　木下史青、列品管理課登録室　安川政和、財務課監査・調査担当安孫子卓史
97	陸前高田市博物館	被災文化財の点検、安定化処置および保管方法について助言、指導、監修。	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩、保存修復課保存修復室長冨坂賢、保存修復課保存修復室長　土屋裕子、保存修復課主任研究員　荒木臣紀、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦、米倉乙世、平河智恵、保存修復課有期雇用職員　實井香那子、佐多麻美、井上素子、加藤広樹
98	陸前高田市博物館	被災文化財の調査および修理見積りにあたっての調書作成	4 月 1 日～12 月 31 日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦、米倉乙世、平河智恵
99	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	6 月 28 日、26 年 2 月 13 日	総務部長　栗原　祐司
100	文化庁	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会委員・同組織運営専門部会委員	11 月 1 日	総務部長　栗原　祐司
101	文化庁	米教育文化交流会議（カルコン）美術対話委員会公開シンポジウム出席	10 月 21、22 日	総務部長　栗原　祐司
102	観光庁	ユニークベニュー利用促進協議会委員	11 月 20 日、12 月 11 日、12 月 16 日	総務部長　栗原　祐司
103	独立行政法人日本スポーツ振興センター	秩父宮記念スポーツ博物館・図書館在り方検討委員会委員	9 月 19 日、10 月 23 日	総務部長　栗原　祐司
104	滋賀県	アール・ブリュットネットワーク企画委員（滋賀県）	7 月 9 日、10 月 26 日	総務部長　栗原　祐司
105	札幌市	次世代型博物館計画検討委員会オブザーバー（札幌市）	7 月 23 日、11 月 27 日、26 年 3 月 26 日	総務部長　栗原　祐司
106	舞鶴市	舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議副会長	5 月 24 日、7 月 29 日、26 年 1 月 25 日、26 年 2 月 16 日	総務部長　栗原　祐司
107	南九州市	知覧特攻平和会館世界記憶遺産登録準備会委員（南九州市）	7 月 25 日	総務部長　栗原　祐司
108	田川市	田川市石炭･歴史博物館組織の整理に関する検討委員会委員	26 年 2 月 14 日、26 年 2 月 26 日、26 年 3 月 6 日	総務部長　栗原　祐司
109	千代田区	千代田区ミュージアム協議会講演	26 年 3 月 5 日	総務部長　栗原　祐司
110	上野の山文化ゾーン連絡協議会	上野の山文化ゾーン連絡協議会幹事	5 月 31 日、8 月 30 日	総務部長　栗原　祐司
111	公益財団法人日本博物館協会	諸外国における博物館政策に関する調査研究委員会委員･同作業部会委員（日本博物館協会）	10 月 2 日、26 年 2 月 3 日	総務部長　栗原　祐司
112	公益財団法人日本博物館協会	イコム大会招致準備委員会委員	8 月 1 日､26 年 1 月 15 日、26 年 3 月 27 日	総務部長　栗原　祐司
113	一般財団法人デジタル文化財創出機構	「国立デジタル文化財文化情報保存センター（仮称）」設立構想具体化に向けた設立基本計画検討委員会委員･同「保存と公開」基盤検討委員会委員	26 年 2 月 5 日、2 月 7 日、3 月 4 日、3 月 11 日、3 月 19 日、3 月 25 日	総務部長　栗原　祐司
114	公益財団法人かながわ国際交流財団	第６回ミュージアム・サミット　ファシリテータ	26 年 2 月 8、9 日	総務部長　栗原　祐司

【京都国立博物館】　43　件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	香川県立ミュージアム	名品展展示作業の指導	4 月 16 日	教育室長　山川 暁
2	香川県立ミュージアム	名品展展示作業の指導	4 月 15 日～18 日	上席研究員　赤尾栄慶
3	野崎家塩業歴史館	所蔵品調査の指導	4 月 16 日～17 日	工芸室長　尾野善裕
4	香川県立ミュージアム	展示作業の指導	4 月 17 日～18 日	連携協力室長　山下善也
5	島根県立古代出雲歴史博物館	出雲大社展の作品調査の指導	4 月 26 日	保存修理指導室長　淺湫 毅 企画室研究員　羽田 聡 企画室研究員　末兼俊彦
6	香川県立ミュージアム	名品展展示替えの指導	5 月 6 日	上席研究員　赤尾栄慶
7	国際仏教学大学院大学	公開研究会に参加	5 月 18 日	上席研究員　赤尾栄慶
8	香川県立ミュージアム	名品展撤収作業の指導	5 月 26 日～29 日	上席研究員　赤尾栄慶
9	香川県立ミュージアム	名品展撤収作業の指導	5 月 27 日	教育室長　山川 暁
10	仏光大学	シンポジウムに参加し研究発表	5 月 28 日～30 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
11	国立台湾美術館	作品資料調査の指導	5 月 31 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
12	大田市	石見銀山遺跡調査活用委員会に出席し助言	7 月 9 日	学芸部長　村上 隆

	機　関	内　容	期　間	担当者
13	故宮博物院	関西中国書画コレクション研究会に参加し助言	7 月 22 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
14	大津市教育委員会	大津曳山祭総合調査の指導	7 月 23 日	企画室研究員　末兼俊彦
15	一宮市博物館	所蔵の甲冑の染織部分調査の指導	7 月 29 日	教育室長　山川 暁
16	愛知県美術館	所蔵の仮面の調査の指導	7 月 30 日～31 日	保存修理指導室長　浅湫 毅
17	大津市教育委員会	大津曳山祭総合調査の指導	8 月 21 日	企画室研究員　末兼俊彦
18	佐渡市	佐渡金銀山調査指導委員会に出席し助言	8 月 25 日～27 日	学芸部長　村上 隆
19	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会に出席し助言	9 月 2 日	教育室長　山川 暁
20	島根県立古代出雲歴史博物館	島根県文化財指定の調査の指導	9 月 9 日	教育室長　山川 暁
21	ヴィクトリア＆アルバート博物館	設営の指導	10 月 15 日～18 日	列品管理室長　鬼原俊枝
22	中国絲綢博物館	国際シンポジウムに参加し研究発表	10 月 25 日～29 日	教育室長　山川 暁
23	ギメ東洋美術館	日本文化財保存センター構想海外実態調査の指導	11 月 2 日～6 日	学芸部長　村上 隆
24	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会現地調査の指導	11 月 5 日	教育室長　山川 暁
25	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会で点検・梱包の指導	11 月 6 日	教育室長　山川 暁
26	国際仏教学大学院大学	第２回公開研究会に出席し助言	11 月 9 日	上席研究員　赤尾栄慶
27	兵庫陶芸美術館	収蔵予定作品の評価	11 月 13 日	工芸室長　尾野善裕
28	全国美術館会議	第 42 回教育普及研究部会へ出席し助言	11 月 14 日～15 日	教育室研究員　水谷亜希
29	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会に出席し助言	11 月 19 日	教育室長　山川 暁
30	国際仏教学大学院大学	古写経の調査の指導	11 月 21 日	上席研究員　赤尾栄慶
31	大田市	第 17 回石見銀山遺跡整備検討委員会に出席し助言	11 月 27 日	学芸部長　村上 隆
32	高知市浦戸城山坂本龍馬記念館	坂本龍馬記念館リニューアル基本構想検討委員会に出席し助言	12 月 3 日	企画室長　宮川禎一
33	ヴィクトリア＆アルバート博物館	展示換えの指導とシンポジウムで発表	12 月 4 日～6 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
34	福井市愛宕坂茶道美術館	所蔵品調査の指導	12 月 9 日	工芸室長　尾野善裕
35	大津市教育委員会	大津曳山祭総合調査の指導	12 月 10 日	企画室研究員　末兼俊彦
36	日本博物館協会	「博物館とボランティアの新しい地平」へ出席し助言	26 年 1 月 16～17 日	教育室研究員　水谷亜希
37	国立台湾文学館	ワークショップに参加し研究発表	26 年 1 月 18 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
38	大阪府教育委員会	文化財保護審議会へ出席し助言	26 年 1 月 20 日	上席研究員　赤尾栄慶
39	ヴィクトリア＆アルバート博物館	作品撤収の指導	26 年 1 月 22 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
40	岡山シティミュージアム	足守コレクションの調査の指導	26 年 1 月 27～28 日	企画室研究員　末兼俊彦 列品管理室主任研究員　永島明子
41	大津市教育委員会	大津曳山祭総合調査の指導	26 年 2 月 14 日	企画室研究員　末兼俊彦
42	福井市愛宕坂茶道美術館	収蔵品調査の指導	26 年 2 月 19～20 日	美術室長　山本英男 企画室主任研究員　羽田 聡
43	兵庫県立人と自然の博物館	全美連教育普及研究部会関西会合へ出席し助言	26 年 3 月 14 日	教育室研究員　水谷亜希

【奈良国立博物館】71件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	国宝薬師寺展金沢展実行委員会・薬師寺・北國新聞社・石川県立美術館	学術協力「国宝　薬師寺展」出陳品点検・梱包作業	4 月 10 日～12 日	学芸部長補佐　岩田 茂樹 企画室長　野尻 忠 保存修理指導室長　谷口 耕生
2	葛城市	市民講座において「當麻寺展」に関する講演	4 月 13 日	研究員　北澤 菜月
3	国宝薬師寺展金沢展実行委員会・薬師寺・北國新聞社・石川県立美術館	学術協力「国宝　薬師寺展」出陳品集荷・輸送作業	4 月 15 日～17 日	部長補佐　岩田 茂樹 研究員　岩戸 晶子
4	国宝薬師寺展金沢展実行委員会・薬師寺・北國新聞社・石川県立美術館	学術協力「国宝　薬師寺展」展示作業	4 月 20 日～25 日	学芸部長補佐　岩田 茂樹 企画室長　野尻 忠 保存修理指導室長　谷口 耕生 研究員　岩戸 晶子 研究員　北澤 菜月
5	橿原考古学研究所附属博物館	長期貸与中館蔵品に関して助言・指導	4 月 25 日	研究員　岩戸 晶子
6	東京文化財研究所	保存修復科学センターPT 会議に出席し助言	4 月 25 日、6 月 24 日	保存修理指導室長　谷口 耕生
7	けいはんな情報通信フェア 2013 実行委員会・情報通信研究機構、公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構・（株）交際電気通信基礎技術研究所、公益社団法人 関西経済連合会	海龍王寺所蔵彫刻作品の写真撮影・３Ｄ計測作業立会	5 月 16 日～18 日	学芸部長補佐 岩田 茂樹 研究員　山口 隆介
8	読売新聞社	読売新聞「あおによし賞」選考委員会委員として表彰式出席	5 月 26 日	館長　湯山 賢一
9	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫	冷泉家時雨亭文庫評議員選定委員会に出席し助言	6 月 3 日	館長　湯山 賢一
10	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」における出陳交渉	6 月 21 日	学芸部長補佐　岩田 茂樹
11	国宝薬師寺展金沢展実行委員会・薬師寺・北國新聞社・石川県立美術館	学術協力「国宝　薬師寺展」展示撤収作業	6 月 24 日～28 日	学芸部長補佐　岩田 茂樹 企画室長　野尻 忠 保存修理指導室長　谷口 耕生 研究員　岩戸 晶子
12	東大寺図書館	東大寺経巻聖教目録刊行に係る調査	6 月 28 日	館長　湯山 賢一
13	国宝薬師寺展金沢展実行委員会・薬師寺・北國新聞社・石川県立美術館	学術協力「国宝　薬師寺展」出陳品返却作業	7 月 1 日～5 日	学芸部長補佐　岩田 茂樹 企画室長　野尻 忠 保存修理指導室　谷口 耕生 研究員　岩戸 晶子

	機　関	内　容	期　間	担当者
14	伝香寺	国指定文化財の移動作業における指導	7月22日、24日	学芸部長補佐 岩田 茂樹 研究員　山口 隆介
15	法隆寺	法隆寺夏季大学にて講演	7月27日	館長　湯山 賢一
16	土佐山内家宝物資料館	山内家文書料紙の調査	8月6日～9日	館長　湯山 賢一
17	京都大学人文科学研究所	「カラホト文物展（仮）」に関する助言	8月6日	企画室長　野尻 忠
18	九州国立博物館	長期貸与中館蔵品の修理監督	8月29日～30日	保存修理指導室長　谷口 耕生 研究員　北澤 菜月
19	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」に関して指導・助言	9月2日	学芸部長補佐　岩田 茂樹
20	最上義光歴史館	貸与作品の展示について指導・助言	9月12日～14日	保存修理指導室長　谷口 耕生
21	読売新聞社、NHK大阪放送局	「正倉院フォーラム2013大阪」にて講演	9月16日	館長　湯山 賢一
22	奈良トライアングルミュージアムズ	神戸シンポジウムにて講演	9月28日	学芸部長　西山 厚
23	読売新聞大阪本社	京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業実施	10月1日	学芸部長補佐　内藤 栄
24	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」に関する文化財撮影作業	10月3日～4日	学芸部長補佐 岩田 茂樹 研究員　北澤 菜月 資料室員　佐々木 香輔
25	読売新聞社	「正倉院展の楽しみ方～まほろばの集い IN 福岡～」にて講演	10月5日	学芸部長補佐　内藤 栄
26	岩手県立博物館	考古資料相互活用促進事業に関する打合せ及び文化財調査	9月18日～19日	研究員　岩戸 晶子
27	読売新聞大阪本社	奈良育英中学校にて正倉院展に関する出前授業実施	11月1日	主任研究員　清水　健
28	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」に関する文化財調査	11月5日～6日	企画室長　野尻 忠 保存修理指導室長　谷口 耕生 研究員　北澤 菜月
29	サントリー美術館	貸与作品の展示について指導・助言	11月17日	学芸部長補佐　内藤 栄
30	平泉町	考古資料相互活用促進事業に関する打合せ及び文化財調査	11月27日～29日	研究員　岩戸 晶子
31	読売新聞大阪本社	正倉院展作文コンクール審査会に審査員として出席	12月4日	館長　湯山 賢一 学芸部長　西山 厚
32	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」」に関して指導・助言	12月5日～6日	学芸部長補佐 岩田 茂樹 研究員　北澤 菜月
33	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」出陳品借用作業	12月9日	学芸部長補佐　内藤 栄 企画室長　野尻 忠 研究員　北澤 菜月
34	奈良トライアングルミュージアムズ	東京セミナーにて講演	12月15日	学芸部長　西山 厚
35	岩手県立博物館・平泉町(平泉文化遺産センター)	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財輸送	26年1月20日～25日	研究員　岩戸 晶子
36	サントリー美術館	貸与作品の撤収について指導・助言	26年1月14日	学芸部長補佐 内藤 栄
37	サントリー美術館	貸与作品の返却立会	26年1月20日	学芸部長補佐 内藤 栄
38	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」に関する文化財撮影作業	26年1月22日	学芸部長補佐 岩田 茂樹 教育室長 岩井 共二 研究員　北澤 菜月 研究員 山口 隆介 資料室員 佐々木　香輔
39	福岡市美術館・静岡市美術館・岡崎市美術博物館・読売新聞大阪本社	学術協力「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り-」出陳品点検・梱包作業	26年3月10日～13日	学芸部長補佐 岩田 茂樹 学芸部長補佐　内藤 栄 研究員 岩戸 晶子 研究員 北澤 菜月
40	一般社団法人 国宝修理装潢師連盟	顧問として国宝修理装潢師連盟の事業の円滑な推進に協力	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
41	公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター	文化遺産保護協力事業運営審議会委員としてアジア太平洋地域の文化遺産保護協力を推進するための事業に関して協議及び助言	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
42	公益財団法人 元興寺文化財研究所	評議員として同研究所が行う仏教民俗文化財等の文化財の保存・調査等の事業に関して助言	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
43	公益社団法人 日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員として日本伝統工芸展の運営に関して助言	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
44	奈良フェスティバル実行委員会	委員として奈良フェスティバル実施に係る諸課題に関し審議	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
45	公益財団法人 仏教美術協会	評議員として事業計画及び収支事項等について助言	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
46	公益財団法人 松伯美術館	理事として法人の運営に関し助言	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
47	公益財団法人 大和文華館	理事として法人の運営に関し助言	6月13日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
48	公益財団法人 仏教美術研究上野記念財団	理事として法人の運営に関し助言	6月24日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
49	奈良女子大学	経営協議会委員として経営に関する重要事項について審議・助言	4月1日～26年3月31日	館長　湯山 賢一
50	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）として文化財の保存及び活用に関する重要事項を調査審議	4月1日～26年3月18日	館長　湯山 賢一

	機　関	内　容	期　間	担当者
51	春日大社境内整備委員会	春日大社境内整備委員会委員として境内の諸施設等の整備に関して助言	5 月 1 日～26 年 3 月 31 日	館長　湯山 賢一
52	米沢市教育委員会	米沢市上杉博物館資料収集委員会委員として資料の収集等に関し調査審議	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	館長　湯山 賢一
53	公益財団法人 日本博物館協会	参与として博物館振興のための調査及び研究開発等に関し助言	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	館長　湯山 賢一
54	文化庁文化財部伝統文化課	工芸技術記録映画製作委員会委員として製作者選定にあたり助言	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	館長　湯山 賢一
55	文化庁文化財部	国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議の協力者として事業の実施運営等について助言	11 月～26 年 3 月 31 日	館長　湯山 賢一 学芸部長補佐 岩田 茂樹 保存修理指導室長　谷口 耕生
56	巡る奈良実行委員会	委員として実行委員会が行う事業について審議	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	副館長　清水 功
57	公益財団法人 大和文華館	理事として法人の運営に関し助言	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長　西山 厚
58	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員として文化財保存修復施設の管理運営に関する重要事項について審議・助言	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長　西山 厚
59	奈良文化財研究所飛鳥資料館	飛鳥資料館運営に関する懇談会委員として飛鳥資料館の管理運営に関する重要事項について審議・助言	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長　西山 厚
60	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員として文化財保存修理所の管理運営に関する重要事項について審議・助言	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長　西山 厚
61	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所飛鳥資料館ミュージアムショップ運営業務選定委員会委員として運営業務提案者を選定	26 年 2 月 7 日	総務課長　中村 恵
62	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立曽爾青少年自然の家	平成 25 年度「ジャパン・マレーシア交流プロジェクト 2013～見つける・ひろがる 世界と未来」に係る企画委員会委員として事業内容について協議及び成果を検証	6 月～26 年 3 月 31 日	総務課長　中村 恵
63	香芝市教育委員会	香芝市文化財保護審議会委員として文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議	4 月 1 日～7 月 31 日	学芸部長補佐 岩田 茂樹
64	河合町教育委員会	河合町文化財保護審議会委員として文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長補佐 岩田 茂樹
65	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会委員として文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議	7 月 15 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長補佐 岩田 茂樹
66	奈良県教育委員会	奈良県文化財保護審議会委員として文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議	7 月 1 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長補佐 内藤 栄
67	奈良県	奈良県伝統的工芸品指定委員会委員として、指定に関する事項等について審議・助言	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	学芸部長補佐 内藤 栄
68	文化財保存修復学会	理事として学会の運営に協力	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	保存修理指導室長　谷口 耕生
69	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 35 回大会実行委員として仙台市で行われる同学会年次大会ついて助言	4 月 1 日～7 月 21 日	保存修理指導室長　谷口 耕生
70	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会委員として文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議	11 月 1 日～26 年 3 月 31 日	保存修理指導室長　谷口 耕生
71	徳島県教育委員会	徳島県文化財保護審議会として文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日	研究員　北澤 菜月

【九州国立博物館】64件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	国立歴史民俗博物館	採用・昇任選考委員会	4 月 5 日	博物館科学課長　今津節生
2	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	公益財団法人文化財保護･芸術研究助成財団第 11 回事業委員会	4 月 16 日	館長　三輪嘉六
3	明治大学	虎塚古墳壁画公開に伴う点検・調査への助言	5 月 7 日	学芸部特任研究員　本田光子
4	公益社団法人日本工芸会	第 60 回日本伝統工芸展運営委員会	4 月 25 日	館長　三輪嘉六
5	太宰府市	大野城・基肄城・水城 1350 年記念事業実行委員会での助言	5月1日	展示課長　赤司善彦
6	唐津市教育委員会	唐津焼美術館（仮称）構想検討委員会での助言	5月15日・10月31日	展示課長　赤司善彦
7	島根県教育庁文化財課	石見銀山遺跡間歩調査指導会	5 月 23 日	文化財課資料登録室主任研究員 鳥越俊行
8	公益財団法人文化財虫害研究所	平成 25 年度第 1 回評議委員会	5 月 16 日	館長　三輪嘉六
9	熊本市現代美術館	現代東南アジアにおける生活文化の実態および体験プログラムの可能性について助言	5月21日	交流課主任研究員　池内一誠
10	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会	5 月 23 日～24 日	学芸部特任研究員　本田光子
11	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会平成 25 年度第 1 回理事会	5 月 31 日	学芸部特任研究員　本田光子
12	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　装飾古墳ワーキンググループ（第 4 回）	5 月 30 日	博物館科学課長　今津節生
13	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会平成 25 年度第 1 回理事会	5 月 31 日	博物館科学課長　今津節生
14	秩父宮記念スポーツ博物館	博物館実習の実施方法について助言	6月13日	交流課主任研究員　池内一誠
15	公益財団法人文化財虫害研究所	第 35 回文化財の虫菌害・保存対策研修会講演	6 月 20 日	学芸部特任研究員　本田光子
16	佐賀県庁	これからのまなびの場のビジョン第 1 回検討懇話会	6 月 26 日	館長　三輪嘉六
17	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　装飾古墳ワーキンググループ（第 5 回）	6 月 27 日	博物館科学課長　今津節生
18	宮内庁	第 37 回宮内庁陵墓管理委員会	6 月 28 日	館長　三輪嘉六
19	公益財団法人文化財虫菌害研究所	平成 25 年度文化財 IPM コーディネータ委員会	7 月 4 日	学芸部特任研究員　本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
20	独立行政法人日本芸術文化振興会	日本芸術文化振興会運営委員会	7 月 16 日	館長　三輪嘉六
21	日本科学未来館	体験型展示室のあり方について助言	7月17日	交流課主任研究員　池内一誠
22	文化庁	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会	7 月 9 日	副館長　森田稔
23	松浦市教育委員会	第 1 回鷹島神崎遺跡保存管理計画策定委員会	7 月 12 日	博物館科学課長　今津節生
24	臼杵市立図書館、中国陶瓷美術館	臼杵市所蔵文化財の保存についての指導・助言	7 月 11 日～12 日	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫
25	文化庁	水中遺跡調査検討委員会（第 2 回）	7 月 16 日～17 日	博物館科学課長　今津節生
26	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ（第 7 回）	7 月 24 日	博物館科学課長　今津節生
27	壱岐市役所	壱岐市立一支国博物館の指定管理者選定委員会	7 月 24 日	館長　三輪嘉六
28	文化庁	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（第 9 回）	8 月 22 日	副館長　森田稔
29	唐津市教育委員会	平成 25 年度第 1 回鵜殿石仏群保存対策調査委員会	8 月 19 日	博物館科学課長　今津節生
30	佐賀県庁	これからのまなびの場のビジョン第 2 回検討懇話会	8 月 29 日	館長　三輪嘉六
31	東京文化財研究所	文化財の放射線対策に関する調査研究ワーキンググループⅡ	8 月 28 日	博物館科学課長　今津節生
32	高松市	屋嶋城調査整備会議での指導・助言	9月3日	展示課長　赤司善彦
33	大野城市	新博物館構想についての講義と助言	9月10日	展示課長　赤司善彦
34	大和文華館	特別企画展『水墨画名品展』特別講演	9月15日	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀
35	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会 装飾古墳ワーキンググループ（第 8 回）	9 月 26 日	博物館科学課長　今津節生
36	東京藝術大学	鳥取県立博物館所蔵の絵画の調査への助言	9 月 26 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
37	瑞浪市教育委員会	第 1 回瑞浪市櫻堂薬師調査指導委員会	10 月 3 日	館長　三輪嘉六
38	東京文化財研究所	文化財の放射線対策に関する調査研究－ワーキンググループⅡ	10 月 23 日	博物館科学課長　今津節生
39	独立行政法人日本スポーツ振興センター	第 5 回秩父宮記念スポーツ博物館・図書館在り方検討委員会	10 月 23 日	館長　三輪嘉六
40	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会	10 月 24 日～25 日	学芸部特任研究員　本田光子
41	文化庁	文化財レスキュー	10 月 29 日～31 日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
42	国立科学博物館	体験型展示室のあり方について助言	10月31日	交流課主任研究員　池内一誠
43	白石町教育委員会	佐賀県史跡龍王崎古墳群石室内環境調査における指導・助言	11 月 5 日	博物館科学課長　今津節生
44	宮内庁書陵部	平成 25 年度宮内庁陵墓管理委員現地視察、工法検討会議	11 月 20 日～21 日	館長　三輪嘉六
45	松浦市	平成 25 年度第 2 回鷹島神崎遺跡保存管理計画策定委員会	11 月 30 日	博物館科学課長　今津節生
46	南九州市	第 1 回知覧特攻平和会館保存検討委員会	12 月 12 日	学芸部特任研究員　本田光子
47	日本学術会議	史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会（第 22 期・第 8 回）	12 月 26 日	学芸部特任研究員　本田光子
48	佐賀県庁	これからのまなびの場のビジョン第 3 回検討懇話会	12 月 19 日	館長　三輪嘉六
49	松浦市教育委員会	海底出土遺物の形状調査への助言、平成 25 年度第 1 回松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会合同会議	12 月 27 日	博物館科学課長　今津節生
50	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	体験型展示室のあり方、博物館ボランティアのあり方について助言	26年1月15日	交流課主任研究員　池内一誠
51	国立民族学博物館	被災文化財の取り扱いについての指導・助言	26年1月18日～19日	学芸部特任研究員　本田光子
52	文化庁	水中遺跡調査検討委員会（第 3 回）	26年1月23日	博物館科学課長　今津節生
53	国立歴史民俗博物館	博物館ボランティアのあり方について助言	26年1月26日	交流課主任研究員　八尋智之
54	松浦市	平成25年度第3回松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会合同会議	26年1月27日	博物館科学課長　今津節生
55	公益財団法人文化財虫菌害研究所	平成 25 年度第 2 回評議員会	26年1月28日	館長　三輪嘉六
56	島根県教育庁	石見銀山遺跡間歩調査に伴う調査指導	26年1月29日～30日	文化財課資料登録室主任研究員　鳥越俊行
57	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会埋蔵文化財委員会の現地視察	26年1月29日～30日	学芸部特任研究員　本田光子
58	東京国立博物館	漆塗籠棺研究会	26年1月30日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
59	佐賀県庁	これからのまなびの場のビジョン第 4 回検討懇話会	26年2月5日	館長　三輪嘉六
60	奈良文化財研究所	保存科学研究集会 2013	26年2月21日	博物館科学課長　今津節生
61	独立行政法人日本芸術文化振興会	平成 26 年度芸術文化振興基金運営委員会第 1 回文化財部会	26年3月7日	館長　三輪嘉六
62	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 36 回大会プログラム作成委員会	26年3月7日	博物館科学課長　今津節生
63	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ（第 12 回）	26年3月10日	博物館科学課長　今津節生
64	文化庁	水中遺跡調査検討委員会（第 4 回）	26年3月14日	博物館科学課長　今津節生

4 文化財に関する調査及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

4-(1)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(1)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

4-(2)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(2)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

4-(3)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

4-(4)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(4)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

4-(5)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(5)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑦

4-(5)-⑥ 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑧

5 文化財保護に関する国際協力の推進

5-(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究

5-(1)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】

	研修・ワークショップ	実施時期	回数	適用
1	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力：タネイ遺跡における建築遺構の実測研修 第1回（通算第3回）「遺跡の発掘」、「出土遺物の保存修復」、「史跡整備」 第2回（通算第4回）「考古遺物の保存修復」	 7月22日～8月2日 26年1月17日～24日	2	
2	キルギズ共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力・ワークショップ	8月27日～9月12日 26年2月10日～2月15日	2	一部受託
3	タジキスタン、ウズベキスタンにおける文化遺産のドキュメンテーションに関するワークショップ： 考古遺跡のドキュメンテーションにかかる技術移転と人材育成「フルブック遺跡」（タジキスタン） 「文化遺産の写真測量」（ウズベキスタン）	 11月７日～14日（タジキスタン） 12月1日～3日（ウズベキスタン）	2	一部受託
4	コーカサス：アルメニア共和国歴史博物館との考古青銅遺物の保存修復に関する協力・ワークショップ	6月12日～25日 26年1月	2	一部受託
5	国際研修「紙の保存と修復」（日本国内研修）	8月26日～9月13日	1	
6	国際研修「紙の保存と修復」（メキシコ研修） ICCROM-LATAMプログラムにおけるInternational Course on Paper Conservation in Latin America	10月6日～22日	1	
7	Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk 会場：ベルリン国立博物館連合・アジア美術館（ベルリン・ドイツ）	7月3日～5日 7月8日～12日	1	
8	Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Lacquer ware) 会場：ケルン市博物館連合・ケルン東洋美術館（ケルン・ドイツ）	11月14～15日、16日 11月19～22日 11月26～29日	1	
9	ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業：ワークショップ	10月19日～28日	1	受託
10	「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」ユネスコ日本信託基金事業： ワークショップ	5月15日～18日 9月9日～11日	2	受託
11	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：遺物調査研究法に関する研修及び技術移転	26年1月19日～26日	1	受託
12	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：第1回木造建造物保存研修	26年2月2日～13日	1	受託
13	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：壁画の保存修復に関する研修	26年2月3日～7日	1	受託
14	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：考古遺跡の保存管理と考古遺物の記録法に関する研修	26年2月2日～8日	1	受託
15	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務： ＜現地研修（計7回）＞ 「第2回染織品研修」 「第3回労働安全衛生研修」 「文化財の診断技術・分析法研修」 「第6回所内移動・梱包研修」 「国外視察研修（含むBUMA8奈良大会）」 「第7回所内移動・梱包研修」 「第2回彩色文化財研修」 ＜本邦研修（計4回）＞ 「第4回収蔵品管理研修」 「第3回染織品研修」 「第3回微生物管理研修」 「木材研修」	 4月 4～5月 5月 6月 9月 26年2月 26年2月 6月 9月 26年1月～2月 26年2月	11	受託

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(1)-④ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【東京文化財研究所】

※5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧にまとめて記載

【奈良文化財研究所】　4件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2013（個人研修）	8月1日～8月26日	26日	キリバス人専門家	2人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2013（集団研修）	9月3日～10月3日	31日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの。	16人
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（スリランカで開催）	10月16日～10月28日	13日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの。	15人
4	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2013（個人研修）	11月5日～11月28日	24日	バングラデシュ人専門家	3人

5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

5-(4)-① 研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①

5-(4)-② 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

6 情報発信機能の強化

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	25年度受入件数	総件数	25年度受入件数	総件数
図　　書	5,876冊	250,830冊	7,799冊	336,492冊

6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信

6-(2)-① 公開講演会、現地説明会

【東京文化財研究所】

公開講演会　1件（2日）

○公開講演会「第47回企画情報部　オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
- ・開 催 日：10月4日（金）
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：117人
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「平安仏画の表現―虚空蔵菩薩と千手観音像―」
  「高麗仏画の表現―凝縮された美―」

- ・開 催 日：10月5日（土）
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：90人
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「螺鈿を訪ねて西へ東へ―5000年の世界史を探る―」
  「世界遺産―現状と問題、将来像―」

【奈良文化財研究所】

公開講演会　5件

○公開講演会「飛鳥資料館春期特別展『飛鳥寺２０１３』記念講演会」
- ・開 催 日：5月18日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：71人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「最近の東アジアの研究成果から見た飛鳥寺」

○公開講演会「第112回公開講演会」
- ・開 催 日：6月29日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：250人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「貨幣とは何かー最古の貨幣をめぐる議論」
  「日本らしさのはじまり」
  「海を越えてきたもの、こなかったもの」

○公開講演会「特別講演会(東京会場)『歴史の証人　木簡を究める』」
- ・開 催 日：9月22日
- ・開催場所：有楽町朝日ホール
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：408人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「木簡を掘る　資料としての木簡、木簡の出土と整理」
  「木簡を探る　木簡が明らかにした歴史の諸相」
  「木簡を読む　木簡の情報を読み取り記録する」
  「木簡を広げる　古代以外の、さまざまな地域の木簡」
  「木簡と文字　データベース、木簡の文字」
  「木簡を伝える　木簡の科学的な分析、保存処理と伝来環境」
  「木簡研究の過去・現在・未来　質疑応答・自由討論」

○公開講演会「第113回公開講演会」
- ・開 催 日：10月26日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：176人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「富本銭と藤原京－貨幣の発行と都城造営」
  「東日本大震災文化財レスキュー事業における奈文研の取り組み」
  「－籾形埴輪－造形美に隠された世界」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展『飛鳥・藤原京への道』記念講演会」
- ・開 催 日：11月16日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：112人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「飛鳥へ続く道」

現地説明会　5件

○現地見学会「飛鳥藤原第177次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」
・開 催 日：9月7日
・開催場所：高市郡明日香村大字川原地先(国営飛鳥歴史公園甘樫丘地区内)
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,122人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城第516次（興福寺西室）発掘調査」
・開 催 日：9月28日
・開催場所：奈良市登大路町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：885人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第179次(藤原宮朝堂院朝庭)発掘調査」
・開 催 日：12月21日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：337人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城519次（薬師寺十字廊）発掘調査」
・開 催 日：26年2月15日
・開催場所：奈良市西ノ京町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：350人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「平城第520次（平城宮第一次大極殿院）発掘調査」
・開 催 日：26年3月8日
・開催場所：奈良市佐紀町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：715人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

6-(2)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

6-(2)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

6-(2)-④ ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

6-(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

6-(3)-① 入館者数推移（入館料別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

6-(3)-② 入館者数推移（展覧会別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展
（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力

6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

平成26年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
839件	465件	374件

【東京文化財研究所】465件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保存、展示に関する指導助言	25件
2	無形文化遺産に関する助言	9件
3	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	44件
4	文化財の虫菌害に関する調査・助言	33件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	13件
6	美術館・博物館等の環境に関する調査・助言	341件

【奈良文化財研究所】374件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	345件
2	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	7件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	10件
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	12件

(参考)その他、文化庁の要請を受け、機構本部に福島県内被災文化財等救援事務局を設置し、福島県文化財レスキュー事業として、2施設を対象に、機構職員を現地派遣した。(のべ75人日)

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

平成26年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
12件	3件	9件

【東京文化財研究所】 3件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月8日～7月19日	9日	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	30人	97%
2	第18回資料保存地域研修	12月11日～12日	2日	博物館・美術館等の文化施設に勤務する者	文化財の保存環境に関する基礎的な知識について、それぞれの地域に出向いて講義を行う（会場：山梨県立博物館）	41人	82%
3	第19回資料保存地域研修	26年2月6日～7日	2日	博物館・美術館等の文化施設に勤務する者	文化財の保存環境に関する基礎的な知識について、それぞれの地域に出向いて講義を行う（会場：アイネス（大分県消費生活・男女共同参画プラザ））	83人	86%

【奈良文化財研究所】 9件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	建築遺構調査課程	6月10日～6月14日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	発掘調査にかかる建築遺構や出土建築部材に関して必要な、上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修	10人	100%
2	中近世城郭調査整備課程	6月17日～6月21日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	中近世城郭の調査研究と整備に関して必要な専門的知識の研修	25人	100%
3	建造物保存活用基礎課程	6月24日～6月28日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財建造物の保護行政をおこなうための、文化財建造物に関する基礎、および文化財建造物の保存・活用に関する基礎の習得を目指す研修	16人	100%
4	報告書作成課程	7月11日～7月19日	7日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	見やすく読みやすい報告書の作り方と、図録・学術誌編集の基礎に関する研修	27人	100%
5	災害痕跡調査課程	9月9日～9月13日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地震、洪水、火山などの災害痕跡を理解するための専門的知識と調査方法を取得することを目的とする研修	12人	100%
6	三次元計測課程	9月30日～10月4日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	三次元計測の利用に関して必要な専門的知識と技術の研修	8人	100%
7	保存科学基礎Ⅰ(金属製遺物)課程	10月8日～10月17日	8日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	金属製遺物の材質および劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、金属製遺物の材質、劣化状態および保存処理に関する基礎知識を習得することを目的とする研修	11人	100%
8	保存科学基礎Ⅱ(木製遺物)課程	10月17日～10月25日	7日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員	木製遺物の樹種、木取りおよび劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作	15人	100%

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
				若しくはこれに準ずる者	成をおこなうことができるよう、木製遺物の劣化状態および保存処理に関する基礎知識を取得することを目的とする研修		
9	古代・中近世瓦調査課程	10月28日 ～11月1日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	古代・中近世遺跡出土瓦の調査研究に関して必要な専門的知識と技術の研修	14人	100%

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
Ⅱ-1　一般管理費の削減

Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

平成26年3月31日現在

○件数

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	2,436	1,117	676	28	144	269	1,319	177	1,142
	うち有償	643	583	393	25	43	122	60	23	37
	うち無償	1,793	534	283	3	101	147	1,259	154	1,105
茶室	総件数	189	189	109	22	17	41			
	うち有償	103	103	55	22	9	17			
	うち無償	86	86	54	0	8	24			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,807	517	309	4	39	165	1,290	169	1,121
	うち有償	229	191	80	1	10	100	38	15	23
	うち無償	1,578	326	229	3	29	65	1,252	154	1,098
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	166	137	9	0	81	47	29	8	21
	うち有償	57	35	9	0	24	2	22	8	14
	うち無償	109	102	0	0	57	45	7	0	7
撮影利用	総件数	274	274	249	2	7	16	0	0	0
	うち有償	254	254	249	2	0	3	0	0	0
	うち無償	20	20	0	0	7	13	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	68,965	62,818	58,887	323	2,278	1,330	6,147	2,100	4,047
茶室	4,064	4,064	3,458	254	221	131			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	6,896	6,518	5,105	10	244	1,159	378	200	178
その他（左記以外の建物、敷地）	19,709	13,940	12,099	0	1,813	28	5,769	1,900	3,869
撮影利用	38,296	38,296	38,225	59	0	12	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）

平成26年3月31日現在

年度				21	22	23	24	25
国立文化財機構	総来館者数			5,156,358	3,392,243	3,356,159	3,520,384	2,818,511
	平常展	計		1,080,509	947,439	913,409	1,109,550	1,011,274
		有料	一般	320,974	344,070	293,323	355,419	373,417
			大学生	33,061	34,579	27,778	34,218	36,886
			小・中・高生	—	—	—	—	546
			友の会	73,872	67,151	53,383	86,938	89,509
		無料	一般(黒田含む)	49,813	212,611	96,561	74,968	47,371
			小・中・高生	163,663	156,236	173,323	173,386	166,233
		招待者等		439,126	132,792	269,041	384,621	297,312
	特別展	計		4,075,849	2,444,804	2,442,750	2,410,834	1,807,237
		有料	一般	2,885,476	1,459,486	1,585,799	1,535,741	1,132,319
			高・大生	156,452	88,515	89,985	82,665	66,814
			小・中生	69,774	48,563	24,501	30,770	23,243
			友の会	53,074	47,012	40,845	47,758	44,592
		無料	小・中生・一般	56,155	198,991	95,130	88,927	99,764
		招待者等		854,918	602,237	606,490	624,973	440,505
東京国立博物館	総来館者数			2,416,281	1,082,269	1,756,590	1,555,694	1,322,288
	平常展	計(24年度：黒田含む)		330,536	373,068	324,597	416,430	484,429
		有料	一般	162,674	196,312	143,017	201,988	250,330
			大学生	20,437	24,140	16,073	22,155	26,117
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	64,816	58,496	44,388	76,333	77,771
		無料	高校生	13,499	17,570	13,861	14,773	18,844
			小・中生	25,890	33,585	33,401	36,660	41,197
		招待者等		43,220	42,965	60,620	63,381	70,170
		黒田記念館(無料)				13,237	1,140	—
	特別展	計		2,085,745	709,201	1,431,993	1,139,264	837,859
		有料	一般	1,505,088	424,337	972,328	729,470	561,236
			高・大生	78,355	24,169	52,296	36,874	29,955
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	16,680	9,867	12,072	11,448	9,585
		無料	小・中生	42,065	15,301	31,888	20,368	14,715
		招待者等		443,557	235,527	363,409	341,104	222,368
京都国立博物館	総来館者数			452,920	331,131	239,767	234,540	148,429
	平常展	計		—	—	—	—	—
		有料	一般	—	—	—	—	—
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	—	—	—
		無料	高校生	—	—	—	—	—
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	—	—	—
	特別展	計		452,920	331,131	239,767	234,540	148,429
		有料	一般	276,754	205,194	140,395	124,569	76,358
			高・大生	28,127	18,386	13,912	13,570	10,734
			小・中生	7,297	3,856	2,375	5,022	3,224
			友の会	11,529	10,953	10,719	13,228	9,174
		無料	小・中生	1,103	862	3,007	386	1,471
		招待者等		128,110	91,880	69,359	77,765	47,468
奈良国立博物館	総来館者数			560,293	649,878	469,463	450,235	461,690
	平常展	計		136,672	71,566	130,839	145,914	122,075
		有料	一般	53,033	36,436	56,747	56,997	44,307
			大学生	5,391	2,417	4,578	4,754	3,967
			小・中・高生	—	—	—	—	546
			友の会	3,168	2,891	3,765	3,843	2,703
		無料	小・中・高生	38,825	15,293	40,864	48,183	39,249
		招待者等		36,255	14,529	24,885	32,137	31,303
	特別展	計		423,621	578,312	338,624	304,321	339,615
		有料	一般	315,128	428,121	243,704	227,929	258,597
			高・大生	15,411	24,411	12,508	12,304	13,756
			小・中生	13,824	19,106	9,380	8,143	7,622
			友の会	11,131	15,358	9,417	10,291	11,206
		無料	小・中生	—	6,107	—	—	3,067
		招待者等		68,127	85,209	63,615	45,654	45,367
九州国立博物館	総来館者数			1,599,704	818,034	712,594	1,107,036	727,603
	平常展	計		544,661	274,545	358,366	460,525	349,848
		有料	一般	98,600	105,638	86,974	91,786	75,827
			大学生	6,737	7,560	6,561	6,831	6,571
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	5,888	5,764	5,230	6,762	9,035
		無料	高校生	27,907	35,990	28,625	26,193	26,305
			小・中生	52,658	50,295	51,740	43,351	38,785
		招待者等		352,871	69,298	179,236	285,602	193,325
	特別展	計		1,055,043	543,489	354,228	646,511	377,755
		有料	一般	757,650	343,079	219,615	443,965	224,247
			高・大生	32,892	19,068	10,570	19,108	11,482
			小・中生	48,653	25,601	12,746	17,605	12,397
			友の会	13,734	10,834	8,637	12,791	14,627
		招待者等		202,114	144,907	102,660	153,042	115,002
黒田記念館	総来館者数			20,345	18,458	（東京国立博物館平常展に含む）	（東京国立博物館平常展に含む）	（東京国立博物館平常展に含む）
	平常展	計		20,345	18,458			
		無料	一般	20,345	18,458			
平城宮跡資料館	総来館者数			25,127	354,346	132,295	124,515	108,896
	平常展	無料	一般	25,127	189,338	80,353	64,318	39,502
	特別展	無料	一般	—	165,008	51,942	60,197	69,394
藤原宮跡資料室	総来館者数			4,341	4,815	2,971	9,510	7,869
	平常展	計		4,341	4,815	2,971	9,510	7,869
		無料	一般	4,341	4,815	2,971	9,510	7,869
飛鳥資料館	総来館者数			77,347	133,312	42,479	38,854	41,736
	平常展	計		18,827	15,649	16,283	12,853	7,551
		有料	一般	6,667	5,684	6,585	4,648	2,953
			大学生	496	462	566	478	231
		無料	小・中・高生	4,884	3,503	4,832	4,226	1,853
		招待者等		6,780	6,000	4,300	3,501	2,514
	特別展	計		58,520	117,663	26,196	26,001	34,185
		有料	一般	30,856	58,755	9,757	9,808	11,881
			大学生	1,667	2,481	699	809	887
		無料	小・中・高生	12,987	11,713	8,293	7,976	11,117
		招待者等		13,010	44,714	7,447	7,408	10,300

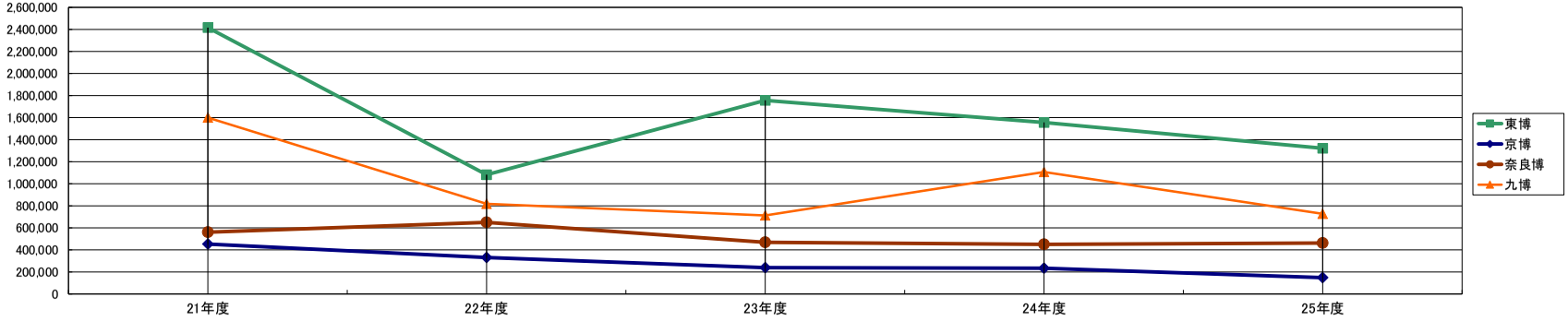
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、春期特別展(21,22)及びｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（21～25年度）

国立文化財機構　合計

	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
合計	総　合　計	5,156,358	総　合　計	3,392,243	総　合　計	3,356,159	総　合　計	3,520,384	総　合　計	2,818,511
	平常展のみの来館者	1,080,509	平常展のみの来館者	947,439	平常展のみの来館者	913,409	平常展のみの来館者	1,109,550	平常展のみの来館者	1,011,274
	特別（共催）展計	4,075,849	特別（共催）展計	2,444,804	特別（共催）展計	2,442,750	特別（共催）展計	2,410,834	特別（共催）展計	1,807,237

1）国立博物館



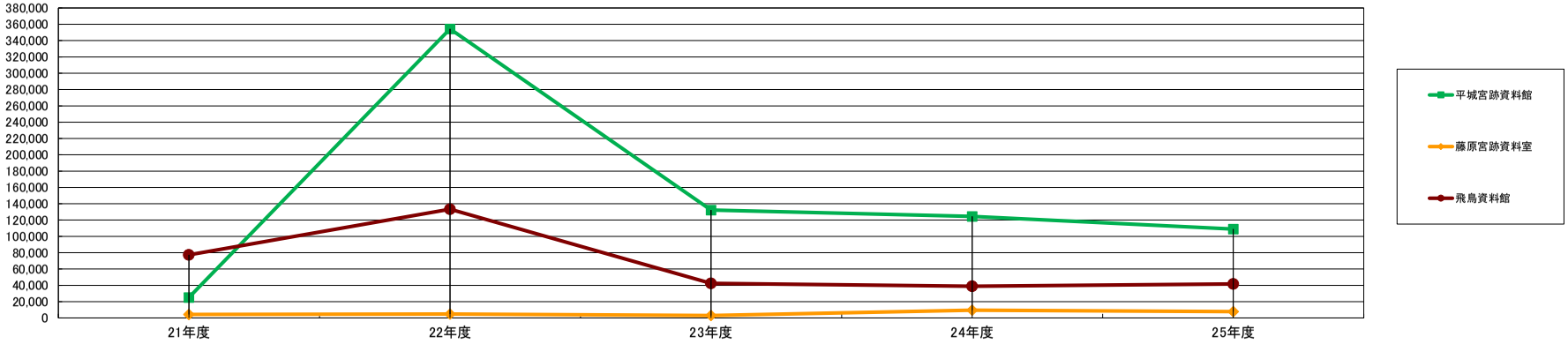
	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
計	総　合　計	5,029,198	総　計	2,881,312	総　計	3,178,414	総　合　計	3,347,505	総　合　計	2,660,010
	平常展のみの来館者	1,011,869	平常展のみの来館者	719,179	平常展のみの来館者	813,802	平常展のみの来館者	1,022,869	平常展のみの来館者	956,352
	特別（共催）展計	4,017,329	特別（共催）展計	2,162,133	特別（共催）展計	2,364,612	特別（共催）展計	2,324,636	特別（共催）展計	1,703,658
東博	総　計	2,416,281	総　計	1,082,269	総計(黒田記念館含む)	1,756,590	総　計	1,555,694	総　計	1,322,288
	平常展のみの来館者	330,536	平常展のみの来館者	373,068	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	324,597	平常展のみの来館者	416,430	平常展のみの来館者	484,429
	特別（共催）展計	2,085,745	特別（共催）展計	709,201	特別（共催）展計	1,431,993	特別（共催）展計	1,139,264	特別（共催）展計	837,859
	特別展「STORY OF…」	115,568	特別展「細川家の至宝」	182,470	特別展「手塚治虫のブッダ展」	99,088	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	486,683	特別展「飛騨の円空」	20,544
	特別展「国宝　阿修羅展」	933,895	特別展「誕生！中国文明」	105,538	特別展「写楽」	229,625	特別展「中国山水画の20世紀」	※1(18,415)	特別展「国宝　大神社展」	193,990
	特別展「染付－藍が彩るアジアの器」	52,731	特別展「東大寺大仏−天平の至宝−」	232,791	特別展「空海と密教美術」展	550,399	特別展「青山杉雨の眼と書」	51,327	特別展「和様の書」	104,577
	特別展「伊勢神宮と神々の美術」	114,796	特別展「仏教伝来の道　平山郁夫と文化財保護」	188,402	特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」	28,780	特別展「出雲―聖地の至宝―」	137,646	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」	※1(62,378)
	特別展「皇室の名宝―日本美の華」	447,944			特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」	212,150	特別展「中国　王朝の至宝」	141,507	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278,801
	特別展「国宝　土偶展」	128,285			特別展「北京故宮博物院200選」	258,252	特別展「飛騨の円空」	169,578	特別展「グリーブランド美術館展 ―名画でたどる日本の美」	104,865
	特別展「長谷川等伯展」	292,526			特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	53,699	特別展「書聖　王羲之」	152,523	特別展「人間国宝展 ―生み出された美、伝えゆくわざ―」	112,960
									特別展「支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－」	※2　－
									特別展「栄西と建仁寺」	22,122
黒田記念館					総　計	13,237	総　計	1,140		
					平常展のみの来館者	13,237	平常展のみの来館者	1,140		
					特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0		
京博	総　計	452,920	総　計	331,131	総　計	239,767	総　計	234,540	総　計	148,429
	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0
	特別（共催）展計	452,920	特別（共催）展計	331,131	特別（共催）展計	239,767	特別（共催）展計	234,540	特別（共催）展計	148,429
	特別展「開山無相大師650 年遠諱記念 妙心寺」	92,144	特別展「没後400年　長谷川等伯」	244,347	特別展「法然－生涯と美術－」	84,682	特別展「王朝文化の華　－陽明文庫名宝展－」	101,006	特別展「狩野山楽・山雪」	85,841
	特別展「シルクロード 文字を辿って」	25,511	特別展観「没後200年記念　上田秋成」	21,705	特別展「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」	35,259	特別展「大出雲展」	79,218	特別展観「遊び」	23,659
	特別展「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」	88,187	特別展「高僧と袈裟−こころを伝え　こころを繋ぐ−」	19,297	特別展「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション」	106,536	特別展「宸翰　天皇の書」	24,699	特別展「魅惑の清朝陶磁」	38,929
	特別展「THE ハプスブルク」	247,078	特別展「筆墨精神　中国書画の世界」	37,535	特別展「中国近代絵画と日本」	13,290	特別展「国宝 十二天像と密教法会の世界」/特別展「成立800年記念　方丈記	25,216		
			特別展「法然−生涯と美術−」	8,247			特別展「狩野山楽・山雪」	4,401		
奈良博	総　計	560,293	総　計	649,878	総　計	469,463	総　計	450,235	総　計	461,690
	平常展のみの来館者	136,672	平常展のみの来館者	71,566	平常展のみの来館者	130,839	平常展のみの来館者	145,914	平常展のみの来館者	122,075
	特別（共催）展計	423,621	特別（共催）展計	578,312	特別（共催）展計	338,624	特別（共催）展計	304,321	特別（共催）展計	339,615
	特別展「国宝 鑑真和上展」	93,779	特別展「大遣唐使展」	202,166	特別展「誕生！中国文明」	35,679	特別展「解脱上人貞慶　－鎌倉仏教の本流－」	24,317	特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」	54,114
	特別展「聖地寧波」	30,548	特別展「仏像修理100年」「至宝の仏像 東大寺法華堂金剛力士像特別公開」	81,342	特別展「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」	63,364	特別展「頼朝と重源」	41,985	特別展「みほとけのかたち～仏像に会う」	39,232
	特別展「第61回正倉院展」	299,294	特別展「第62回正倉院展」	294,804	特別展「第63回正倉院展」	239,581	特別展「第64回正倉院展」	238,019	特別展「第65回正倉院展」	246,269
九博	総　計	1,599,704	総　計	818,034	総　計	712,594	総　計	1,107,036	総　計	727,603
	平常展のみの来館者	544,661	平常展のみの来館者	274,545	平常展のみの来館者	358,366	平常展のみの来館者	460,525	平常展のみの来館者	349,848
	特別（共催）展計	1,055,043	特別（共催）展計	543,489	特別（共催）展計	354,228	特別（共催）展計	646,511	特別（共催）展計	377,755
	特別展「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」	140,917	特別展「パリに咲いた古伊万里の華」	84,738	特別展「黄檗－OBAKU」	46,530	特別展「平山郁夫　シルクロードの軌跡」	110,047	特別展「大ベトナム展」	71,192
	特別展「国宝 阿修羅展」	711,154	特別展「馬　アジアを駆けた二千年」	42,022	特別展「よみがえる国宝−守り伝える日本の美」	118,528	特別展「美のワンダーランド　十五人の京絵師」	75,415	特別展「中国　王朝の至宝」	77,554
	特別展「古代九州の国宝」展	72,741	特別展「誕生！中国文明」	53,409	特別展「草原の王朝　契丹 － 美しき3人のプリンセス」	75,880	特別展「ベルリン国立美術館展」	224,324	特別展「尾張徳川家の至宝」	139,448
	特別展「京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球」	130,231	特別展「没後120年　ゴッホ展」	354,311	特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」	113,290	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」	236,725	特別展「国宝　大神社展」	89,561
			特別展「黄檗－OBAKU」	9,009						

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上

※2　この特別展は会場が平常展の一部で、別途カウントを行っていない

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（21～25年度）

2）研究成果公開施設



	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
計	**総　合　計**	**127,160**	**総　合　計**	**510,931**	**総　合　計**	**177,745**	**総　合　計**	**172,879**	**総　合　計**	**158,501**
	平常展のみの来館者	**68,640**	**平常展のみの来館者**	**228,260**	**平常展のみの来館者**	**99,607**	**平常展のみの来館者**	**86,681**	**平常展のみの来館者**	**54,922**
	特別（共催）展計	**58,520**	**特別（共催）展計**	**282,671**	**特別（共催）展計**	**78,138**	**特別（共催）展計**	**86,198**	**特別（共催）展計**	**103,579**
黒田記念館	総　　計	20,345	総　　計	18,458	（23年度より東京国立博物館に含めて記載）		（23年度より東京国立博物館に含めて記載）		（23年度より東京国立博物館に含めて記載）	
	平常展のみの来館者	20,345	平常展のみの来館者	18,458						
	特別（共催）展計		特別（共催）展計							
平城宮跡資料館	総　　計	25,127	総　　計	354,346	総　　計	132,295	総　　計	124,515	総　　計	108,896
	平常展のみの来館者	25,127	平常展のみの来館者	189,338	平常展のみの来館者	80,353	平常展のみの来館者	64,318	平常展のみの来館者	39,502
	特別（共催）展計		特別（共催）展計	165,008	特別（共催）展計	51,942	特別（共催）展計	60,197	特別（共催）展計	69,394
			企画展「平城宮跡 今・昔－岡田庄三写真展－」	38,443	企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」	24,238	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	34,687	春期企画展「発掘速報展　平城2012」	34,025
			特別展「天平びとの声をきく-地下の正倉院・平城宮木簡のすべて-」	92,394	企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」	20,120	特別展「地下の正倉院・第一次大極殿院のすべて」	20,356	夏期企画展「平城京どうぶつえん」	18,616
			企画展「測る、知る、伝える　－平城京と文化財－」	20,282	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	7,584	春期企画展「発掘速報展　平城2012 」	5,154	秋期特別展「地下の正倉院展 －木簡学ことはじめ-」/「平城宮跡発掘調査部設立50周年記念展」	16,753
			企画展「発掘速報展2009・2010」	13,889					ロビー展示「震災復興調査とその支援」	(※1　4206)
藤原宮跡資料室	総　　計	4,341	総　　計	4,815	総　　計	2,971	総　　計	9,510	総　　計	7,869
	平常展のみの来館者	4,341	平常展のみの来館者	4,815	平常展のみの来館者	2,971	平常展のみの来館者	9,510	平常展のみの来館者	7,869
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　　計	77,347	総　　計	133,312	総　　計	42,479	総　　計	38,854	総　　計	41,736
	平常展のみの来館者	18,827	平常展のみの来館者	15,649	平常展のみの来館者	16,283	平常展のみの来館者	12,853	平常展のみの来館者	7,551
	特別（共催）展計	58,520	特別（共催）展計	117,663	特別（共催）展計	26,196	特別（共催）展計	26,001	特別（共催）展計	34,185
	特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍・白虎－」	41,242	特別展「キトラ古墳壁画四神」	100,307	特別展「星々と日月の考古学」	10,679	特別展「比羅夫がゆく-飛鳥時代の武器と武具・いくさ-」	11,425	第3回写真コンテスト「神々の山　大和三山のある風景」	1,148
	企画展「甦るクメール文明」	3,824	企画展「小さな石器の大きな物語」	5,435	企画展「鋳造技術の考古学」	3,047	第2回飛鳥資料館写真コンテスト展「遙かなる華の都」	5,385	春期企画展「飛鳥寺2013」	9,406
	特別展「三燕文化の考古新発見」	11,006	特別展「木簡黎明―飛鳥に集ういにしえの文字たち」	10,140	特別展「飛鳥遺珍」	10,454	特別展「花開く都城文化」	5,743	5月～6月ロビーミニ展示※2	2,648
	企画展「飛鳥の考古学2009」	2,448	企画展「飛鳥の考古学2010」	1,781	企画展「飛鳥の考古学2011」	2,016	冬期企画展示「飛鳥の考古学2012」	1,537	夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」	2,633
							第３回飛鳥資料館写真コンテスト展「神々の山―大和三山のある風景―」	1,911	第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」※3	2,313
									ミニ企画展「日光男体山のかがやき-山岳信仰奉賽鏡の世界-」	1,046
									秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」	9,132
									発見30周年記念　キトラ古墳壁画特別公開	4,008
									冬期企画展示「飛鳥の考古学2013」	1,851

※1　平常展来館者数に計上

※2　「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた全期間の来館者数は10,473人

※3「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 入場料収入

（単位：円）

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
国立文化財機構　計	1,323,819,776	891,598,757	808,397,161	814,309,524	673,986,101
東京国立博物館	662,347,500	268,900,600	428,268,290	375,602,560	315,141,843
京都国立博物館	111,512,790	93,829,670	71,429,440	67,028,455	39,724,945
奈良国立博物館	267,397,290	355,735,620	213,777,640	207,961,850	225,693,950
九州国立博物館	262,889,871	131,683,367	90,862,831	160,398,639	89,050,933
飛鳥資料館	18,006,130	41,449,500	4,058,960	3,318,020	4,374,430
東京文化財研究所 黒田作品共催展	1,666,195	0	0	0	0

a-④ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

1)開館期間　4月2日～26年3月30日(306日間)　　平常展のみの開館日数　87日間

2)会　　場

①本　館　1階、2階
②東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
③表慶館　休館中
④法隆寺宝物館　1階、2階
⑤平成館　1階
⑥黒田記念館　休館中

3)陳列品総件数　8,824件(うち国宝139件、重要文化財867件)

①本館・平成館企画展示室　4,276件(うち国宝 77件、重要文化財456件)
②東洋館　1,932件(うち国宝　0件、重要文化財 53件)
③表慶館　0件(うち国宝　0件、重要文化財　0件)
④法隆寺宝物館　425件(うち国宝 13件、重要文化財210件)
⑤平成館考古展示室　2,191件(うち国宝 49件、重要文化財148件)
⑥黒田記念館　0件(うち国宝　0件、重要文化財　0件)

4)陳列替件数　5,708件　・　陳列替回数　延べ332回

5)入場料金

黒田記念館以外　　一般600円、大学生400円
黒田記念館　無料

6)特集陳列　全33件

●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館2階 特別2室	天下人の実像	25年2月13日（火）～4月7日（日）	21(0.0)
	＜主な作品＞書状、○消息		
	日本人に著名な天下人となった武将、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康にかかわる肖像画模本や自筆書状、実際の戦いや政治に関して出した古文書等や、所縁のある工芸品を展示し、とかくテレビ時代劇や小説などイメージ先行で語られることが多い三人の実際の姿にアプローチした。肖像画模本はその原本が歴史の教科書に掲載される様なおなじみの作品を選び、自筆書状は家族に宛てたものを中心に私生活の一端を垣間見れる様なものとしたい。古文書は歴史的な大事件に関わるや支配のあり方を示す内容の物を中心に展示する。本展示を通じて来館者に三武将の具体的なイメージ形成を促すことを最終的な目的とする。本特集陳列に関連して、同時期に本館5・6室「日本美術の流れ 武士の装い―平安～江戸」においても、豊臣秀吉所用の朱塗金蛭巻大小、榊原康政が徳川家康より拝領した南蛮胴具足など安土桃山時代の武器・武具を展示した。		
平成館1階 考古展示室	須恵器の展開	25年3月12日（火）～6月9日（日）	31(1.0)
	＜主な作品＞●蓋坏、装飾付脚付壺、子持装飾付脚付壺、角坏、革袋形提瓶		
	5世紀に朝鮮半島から新しい窯業技術が伝えられ、日本列島で須恵器生産が始まった。5世紀から7世紀までの須恵器を展示することで須恵器生産の技術展開を示し、造形的要素の加わった装飾付須恵器や革袋形須恵器なども展示した。		
平成館1階 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	25年3月12日（火）～4月21日（日）	15(0.4)
	＜主な作品＞阿弥陀如来像、◎小袖 白練緯地松皮菱竹模様、広寒宮螺鈿合子、◎片口付深鉢形土器		
	東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、平成22年度から24年度までに修理が完了した作品のうち、絵画、書跡、工芸、考古などさまざまな分野、形態、技法の作品を展示し、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルなどで掲示して、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただくことを目指した。		
本館1階 14室	花生	25年3月19日（火）～6月2日（日）	22(0.1)
	＜主な作品＞古銅象耳花生 銘 秋月、竹花生　銘一曲、◎青磁琮形花生、古染付高砂手花生		
	陶磁器を中心に、中国・日本のさまざまの花生の器を紹介した。器の種類や形の変遷を追うだけでなく、パネルを用いて、実際に床の間に掛けて花を生けた様子を紹介したり、それぞれの作品の由来や見どころを説明した。		
本館1階 16室	キリシタン関係の遺品　イエズス会の布教と禁制 下の信仰	25年3月19日（火）～5月6日（日）	72(0.44)
	＜主な作品＞◎聖母子像、◎キリスト像、◎天正遣欧使節記、◎聖母像（親指のマリア）、◎板踏絵　キリスト像〈ピエタ〉、◎マリア観音像		
	日本のキリシタン信仰は、天文18年(1549)イエズス会宣教師ザビエルの渡来に始まり、およそ50年ほどの間に西日本を中心に浸透し、最盛期には40万人の信徒を得た。しかし、豊臣秀吉、次いで江戸幕府はその信仰を禁じたため、江戸時代には信徒のごく一部が長崎に潜伏するのみとなった。しかし潜伏したキリシタンは厳しい監視を乗り越えて信仰を守り続けた。この展示では、主に長崎奉行所が信徒から押収した遺品を通して、禁制以前のイエズス会を中心とした布教の状況、禁制下の信仰の一面と日本と西洋の交渉の歴史を示した。		
本館2階 特別1・2室	平成25年新指定国宝・重要文化財	25年4月16日（火）～5月6日（日）	49(2.47)

	＜主な作品＞●木造不動明王及二童子立像、●醍醐寺文書聖教、◎紙本金地著色四季松図、◎嘉元記、◎北海道船泊遺跡出土品		
	平成25年に新たに指定された国宝3件、重要文化財50件のうち、2件の国宝と47件の重要文化財を展示した。		
平成館1階 企画展示室	猿	25年5月8日（水）～6月16日（日）	27(0.2)
	＜主な作品＞◎十二神将立像 申神、◎埴輪 猿、三猿蒔絵印籠、猿曳図、猿猴（橋本雅邦筆）		
	動物をテーマに国立科学博物館と恩賜上野動物園と当館を1日でめぐるイベント「三館園動物めぐり」に関連した実施した。猿は日本列島にも生息し、群れで生息する姿、親子の姿、食料採取の姿などの様々な場面から、人間は多岐にわたる猿のイメージを作り出してきた。それはことわざ・絵画・道具などに見られ、古くから日本人の生活に深くかかわっている。本特集陳列では、「道具に描かれた猿」「絵画の中の猿」に焦点を当て、なぜその作品のモチーフとなったか、猿が日本の中でどのような意味をもっているかについて、美術品を通じて解説した。		
本館2階 特別1・2室	江戸時代が見た中国絵画	25年5月14日（火）～6月16日（日）	48(0.4)
	＜主な作品＞◎寒江独釣図　伝馬遠筆、寒江独釣図（模写）　狩野晴川院〈養信〉模、清書画名人小伝		
	日本人は奈良、平安時代から中国書画を愛好して収集・研究につとめ、その結果日本には、多くの優品が伝世することとなった。室町時代には東山御物や宋元画の権威が確立し、江戸時代にはより新しいテイストを求めて、新来の明清画や元代文人画への渇望が巻き起こった。東洋館のリニューアルオープンを記念して開催する本特集陳列では、館蔵の名品と付属の箱書きや鑑定書、模写や、江戸時代に出版された中国関係の画史、印譜、画学書などを一緒に並べることで、中国絵画が日本でどのように受容されていたのかを考え、あわせて、江戸時代の人々がどのように中国絵画を鑑賞し、理解しようとしていたのかを展示した。		
本館1階 14室	日本の仮面　舞楽面と行道面	25年6月4日（火）～8月25日（日）	27(0.14)
	＜主な作品＞◎舞楽面　地久、◎行道面　菩薩		
	平安時代以降、寺社で行なわれた法会に際して舞楽面、行道面が用いられた。奈良・手向山八幡宮、愛知・熱田神宮、愛知・真清田神社所蔵の舞楽面、高野山天野社伝来の行道面などを展示した。		
本館2階 特別1・2室	平成24年度新収品	25年6月25日（火）～7月7日（日）	25(0.0)
	＜主な作品＞◎葡萄図　没倫紹等筆、孟東野詩　日下部鳴鶴筆、赤壁賦　本阿弥光悦筆、中国史跡写真、詩書屏風「千條弱柳」池大雅筆、無地刷毛目茶碗 銘　冬頭、通俗水滸伝豪傑百八人之壹人・入雲龍公孫勝　歌川国芳筆		
	平成24年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、25件を公開した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただこうとしたものである。同時期に本館10室「日本美術の流れ 浮世絵と衣装－江戸(浮世絵)」、東洋館8室「中国の絵画」でも平成24年度のご寄贈品を生かした展示を開催した。		
本館1階 16室	古文書に親しむ	25年7月2日（火）～8月25日（日）	20(1.1)
	＜主な作品＞●宝簡集 巻第二、◎申文		
	日本では、古くから書状や文書のやりとりにおいて、書面上での儀礼が重んじられ、差出人と受取人との関係や、その内容などによって、文書の様式、使用する紙、封の仕方にいたるまで、さまざまな決まりがあった。こうした古文書の研究では、その様式をはじめ、形態や機能、相互の文書の関連、伝来の経緯などが主な研究テーマとなっている。 本特集陳列では、著名な人物に関わる内容や、各時代の特色を示す典型的な文書を取り上げ、解説もできるだけわかりやすくすることで、古文書に親しんでいただくことを目標とした。		
平成館1階 考古展示室	縄文土器に飾られた人物と動物	25年7月9日（火）～10月27日（日）	57(0.13)
	＜主な作品＞◎人形装飾付異形注口土器、◎人形装飾付壺形土器、顔面把手付深鉢形土器		
	縄文土器に施された人や動物の装飾に注目して、容器としての役割をもつ土器とこれに施された人や動物装飾との関わりについて紹介した。また弥生時代の例も取り上げ、縄文時代との違いを比べ、土器に施された文様や装飾から器に込められた当時の人びとの思いに迫った。なお本特集陳列では、近年豊富な資料が報告されている山梨県北杜市教育委員会から資料を特別に借用し、あわせて展示した。		
平成館1階 企画展示室	和様の書―近現代篇―	25年7月13日（土）～9月8日（日）	16(0.1)
	＜主な作品＞◎手鑑「月台」奥書		
	特別展「和様の書」の開催に合わせた特集陳列。特別展では、平安時代の「和様」の誕生から江戸時代までの作品を展示したが、「和様」は明治時代以降も展開し続け、当館にも関連作品が多数収蔵されているので、普段展示する機会の少ない近現代の書跡を紹介した。		
本館2階 特別1室	断簡―掛軸になった絵巻―	25年7月17日（水）～8月25日（日）	19(0.8)
	＜主な作品＞男衾三郎絵巻断簡、源氏物語絵巻断簡、◎紫式部日記絵巻断簡、〇住吉物語絵巻断簡、◎狭衣物語絵巻断簡		
	当館所蔵品を中心とした絵巻物断簡のうち、特に物語絵巻の断簡を、「絵巻物残欠愛惜の譜―二つの物語絵巻断簡―」、「再会する絵巻―男衾三郎絵巻断簡―」、「断簡を見比べる―住吉物語絵巻断簡―」、「絵巻を写す―狭衣物語絵巻断簡―」「絵巻が断簡になるとき―紫式部日記絵巻断簡―」という5つのテーマから紹介した。		
本館2階 特別2室	親と子のギャラリー　日本美術のつくり方Ⅳ	25年7月17日（水）～8月25日（日）	18(0.1)
	＜主な作品＞◎法華経無量義経徳行品（久能寺経）、七宝山水楼閣文香炉　並河靖之作、撫子散双鳥鏡、五月人形 鍾馗		
	美術作品や制作技法に興味を持ってもらうことを目的とした、小学校高学年以上の学生から一般の来館者までを対象とする教育普及的展示である。 「技法」を知ることは、作品理解の重要な手がかりとなる。伝統的な日本美術の制作技法は日常では目にする機会も少なく、作品を一見したところでは想像すらつかないものが多い。そこで、専門家の制作した工程見本や技法サンプルを展示し、また画像やイラストを盛り込んだパネル類を掲示した。こうした各種の伝統的技法、およびそれらを駆使して作られた実作品の鑑賞を通し、歴史のなかで培われてきた日本美術の技術と美しさをわかりやすく伝えた。		

東洋館4階 8室	市河米庵コレクション・中国書画文房展	25年8月6日（火）～9月23日（月）	61(0.0)
	＜主な作品＞小山林堂書画文房図録　市河米庵編、墨梅図　陳録筆、竹菊図　睦坦筆、草書五言律詩軸　王建中筆、行書七言絶句軸　酒道人筆、楷書妙沙経冊　明神宗筆		
	東洋館のリニューアルオープンを記念して、市河米庵コレクションを展示した。市河米庵(1779～1858)は「幕末の三筆」と称され、多くの門弟を擁した書家・学者で、学問の一方で書画や骨董を熱心に収集し、その収蔵品は、日本や中国の書画・拓本・古器物・文房具など広範な分野に及んだが、歿後に散佚してしまった。しかしまず、明治9年（1876）米庵旧蔵の書画・拓本類が、ご令孫の市河三鼎氏によって当館に寄贈され、またご令息の市河三兼氏が再収集された散逸した作品が、明治33年（1900)、東京帝室博物館に寄贈された。これらは当館の中国書画収集の始まりとなる重要なコレクションとなった。当館所蔵の米庵旧蔵品のなかには『小山林堂書画文房図録』所載の作品も多く、江戸時代の文人コレクションの具体的な様相を知る、まさにタイムカプセルのような貴重な資料となっている。これらを一挙に公開することで、米庵コレクションの重要性と独特の世界観を紹介した。		
本館1階 14室	運慶・快慶周辺とその後の彫刻	25年8月27日（火）～11月17日（日）	13(0.8)
	＜主な作品＞◎大日如来坐像（真如苑蔵）、◎大日如来坐像（光得寺蔵）、◎行道面　菩薩		
	運慶作の可能性が高い栃木・光得寺と真如苑の大日如来坐像と、運慶の作風に近い仏像、快慶作の東京芸術大学大学美術館の大日如来坐像、兵庫・浄土寺の菩薩面と安阿弥様の阿弥陀如来像のほか定慶など慶派仏師の作品を展示した。		
本館2階 特別2室	うつす・つくる・のこす―日本近代における考古資料の記録―	25年9月10日（火）～10月20日（日）	46(0.1)
	＜主な作品＞貝塚図　長原孝太郎筆、出雲国塩冶村古墳石槨石棺図、群集横穴図　二世五姓田芳柳筆、上古時代男子図、復元模造 冠		
	明治期から昭和初期にかけて制作(製作)された模造品や絵画などの考古学に関する資料と、そのモデルとなった原品（実物資料：列品・写真）を比較展示し、現代とは異なる、あるいは現代にまで続く、日本の近代における考古資料の受容過程を紹介した。列品の当時の制作目的を検証し、その今日的な学問(考古・美術)の資料としての評価につなげた。また、考古学史および美術史における展望を提示することも目標とした。		
平成館1階 企画展示室	清時代の書―碑学派―	25年10月8日（火）～12月1日（日）	23(0.0)
	＜主な作品＞癭鶴銘、篆書白氏草堂記六屏、行書七言律詩軸、楷書嬌舞倚床図便面賦軸、篆書八言聯、楷書斉民要術八屏		
	清時代の中国では考証学の盛行を背景に、書においても金石資料が注目され、従来の法帖に代わって、青銅器の金文や石刻の書が尊ばれるようになった。清時代の初めに行われていた帖学派に対して、これを碑学派と称している。本特集陳列では、碑学派前期の嘉慶年間(1796～1820)から、後期の道光以後(1821～1912)にかけて活躍した主な書人の代表作を紹介し、碑学派の流れを概観した。台東区立書道博物館、台東区立朝倉彫塑館との連携企画。		
本館1階 16室	江戸城	25年10月22日（火）～12月23日（日）	19(0.3)
	＜主な作品＞江戸城御殿向総図並櫓多門地図、◎江戸城御本丸天守百分ノ壱建地割、◎旧江戸城写真帖		
	江戸城に用いられた意匠や、普請の様子、また構造を語る歴史資料を展示し、映像に再現されたように壮大な規模を誇った江戸城の威容の一端を紹介した。		
本館2階 特別1室・2室	描かれた風景―憧れの真景・実景への関心―	25年10月29日（火）～12月8日（日）	38(0.6)
	＜主な作品＞◎陸奥奇勝図巻　池大雅筆、浅間山真景図　池大雅筆、◎兎道朝暾図　青木木米筆、◎公余探勝図巻　巻上　谷文晁筆 江戸		
	江戸時代、特に18世紀の日本では、歌枕としての名所だけではなく、今まで絵画化されることのなかった身近な風景が新たに発掘・選択され、描かれるようになった。絵画表現においても、中国への憧憬、西洋絵画の影響による遠近法や陰影法、新しい画材や技法を駆使した作品など、多様な風景表現が生まれた。本特集陳列では、当館所蔵の近世風景画を中心に、版本・浮世絵、さらには中国・朝鮮絵画もあわせて展示することにより、日本のみならず、広く東アジアにおいて起きた風景画の様相を、画家の体験と感動に基づく真景表現による作品を中国・朝鮮絵画との比較を加えて提示する第1部と、実景や新しい画材・表現に対する関心の高まりを示す作品を提示する第2部とで展示した。		
平成館1階 考古展示室	本州最西端の弥生文化―響灘と山口・綾羅木郷遺跡―	25年10月29日（火）～26年3月9日（日）	77(0.0)
	＜主な作品＞土笛、石剣、磨製石鏃、壺、炭化米、アワビおこし、マダイの上顎骨、玉砥石		
	北東部九州地方から山口県に面する響灘沿岸は支石墓や大陸製青銅器の主要な分布域の東限で、弥生時代前期末頃に特色ある遺跡が形成されることで知られる。本特集陳列は下関市立考古博物館が所蔵する綾羅木郷遺跡から出土したさまざまな土器・石器・装身具や食料関係遺物をはじめ、信仰関係遺物および日本海側の弥生文化に特徴的な土笛などで、本州最西端の特色ある弥生文化を紹介した。平成25年度考古相互貸借事業として実施した。		
本館1階 14室	日本の仮面　能面　是閑と河内	25年11月19日（火）～26年2月16日（日）	27(0.5)
	＜主な作品＞能面　十六、能面　若男、能面　孫次郎、能面　猩々		
	近世の能面作家の３大家系は越前出目家、大野出目家、近江井関家である。このうち近世前期の名手として名高いのが大野出目家初代の是閑（？～1616）と近江井関家四代の河内（？～1645）である。当館が所蔵する2人の作と見られる面28面のうち27面を展示した。		
東洋館4階 8室	顔真卿と蔡襄	25年12月3日（火）～26年2月2日（日）	12(0.0)
	＜主な作品＞楷書自書告身帖、祭姪文稿、楷書謝賜御書詩表巻、万安橋記		
	唐の四大家の一人にあげられる顔真卿(709-785)は、伝統的な書法に立脚しながらもその範疇を超え、顔法と称される雄壮な書風を創出し、後世に大きな影響を与えた。宋の四大家の一人として知られる蔡襄(1012-1067)は晋唐の書法を継承し、楷書においては顔真卿の影響を強く受けながら格調高い書風を伝えた。唐時代の顔真卿と宋時代の蔡襄を取り上げ、両者の書の魅力をご紹介した。		
東洋館地階 13室	憧れの毛織物　カシミヤ・ショールの歴史	25年12月3日（火）～26年3月9日（日）	15(0.0)

	＜主な作品＞カシミヤ・ショール 緑地額入り花卉文様綴織、カシミヤ・ショール 白地花卉文様綴織、カシミヤ・ショール 赤地果樹孔雀ペイズリー文様綴織刺繍縫合わせ		
	東京国立博物館には20件あまりのカシミヤ・ショールが所蔵されているが、18世紀末から19世紀にかけてのもので、ヨーロッパ向け輸出用のデザインが大半である。今回は、平山コレクション（鎌倉・シルクロード研究所）に含まれる17世紀に制作されインド王侯が用いたと考えられる初期カシミヤ・ショールや、東京国立博物館には所蔵されていない19世紀前半の色鮮やかなデザインをもつ優品をあわせて展示し、カシミヤ・ショールの歴史とそのデザインの変遷を紹介した。		
本館2階 特別1・2室	博物館に初もうで―午年によせて―	26年1月2日（木）～1月26日（日）	73(3.11)
	＜主な作品＞●十六羅漢像（第五尊者）、◎牧馬図屏風　長谷川等伯筆、●素環鏡板付轡　江田船山古墳出土		
	平成26年は干支で甲午（きのえうま）、午年にあたるため、馬を表わした美術工芸品や鞍鐙を主体とする馬具の名品を展示した。農耕や運搬、交通など人間の歴史は馬と共にあったといっても過言ではなく、人にとって身近な存在であった馬の姿は、古今東西の美術工芸品の中に見ることができる。当館列品においても馬の造形には名品が多く、馬具の優品も数多く含まれている。午年に因んで、これらを一堂にご覧いただき、人間と馬の深い絆についてふり返る機会とした。		
平成館1階 企画展示室	日本伝統工芸展60回記念　人間国宝の現在	26年1月15日（水）～2月23日（日）	54(0.0)
	＜主な作品＞無名異練上花文鉢、有職二陪織物小袿 小葵ニ唐花丸文、籃胎蒟醤文箱「双鳥」、銀打込象嵌花器「若芽」		
	日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」において物故の人間国宝を紹介することにあわせ、現在日本工芸の最前線で創作活動や後継者養成にご活躍中の56名の方々の作品を紹介した。特別展と本特集陳列をとおして過去から現在、未来へと続く伝統工芸の世界を鑑賞していただくものとした。		
本館2階 特別1室	弥生時代の近畿―華麗なる土器と青銅器の展開―	26年2月4日（火）～2月14日（金）	108(0.4)
	＜主な作品＞◎銅鐸　兵庫県豊岡市気比字溝谷出土、細頸壺、水差、線刻絵画付土器残片、打製石剣、中細形銅戈（大阪湾型）		
	大阪府立弥生文化博物館が所蔵する船橋遺跡と池上曽根遺跡出土資料に、当館所蔵資料を加えて展示した。近畿地方の弥生文化に特徴的な櫛描文土器や打製石剣、銅鐸や大阪湾型銅戈と呼ばれる青銅器を紹介し、また「龍」や「建物」が描かれた絵画付土器や「シカ」や「魚」そして「ヒト」などが描かれた絵画銅鐸から当時の人びとの祈りや世界観に迫った。なお本特集陳列は平成25年度考古相互貸借事業として行ったものであるが、豪雪のため展示環境の点検を要することとなったため、3月までの展示予定を2月14日（金）で打ち切り、関連作品の一部は平成館考古展示室において公開した。		
東洋館4階 8室	中村不折と高島菊次郎	26年2月4日（火）～5月6日（日）	20(0.1)
	＜主な作品＞石鼓文、泰山刻石―一六五字本―、仏説菩薩蔵経巻第一残巻、漢婁寿碑、行書五律北方俚作詩軸		
	大正から昭和にかけて世界的なコレクションを形成した中村不折と高島菊次郎の収集した書の名品を展示し、両人の業績を紹介した。中村不折(1866-1943)は画家として活躍するかたわら書にも造詣が深く、書に関する広範な文化財を収蔵して、昭和11年(1936)に財団法人・書道博物館を設立した。一方、高島菊次郎(1875-1969)は王子製紙の社長として実業界に身を置きながら、書画の収集に努め、宋元から明清に至る優品を収集し、その収蔵品の多くを当館に寄贈した。		
本館1階 14室	おひなさまと雛（ひいな）の世界	26年2月18日（火）～3月23日（日）	52(0.0)
	＜主な作品＞紫檀象牙細工蒔絵雛道具 紫檀製重箪笥、古今雛、立雛（次郎左衛門頭）、女官服雛形		
	三月三日の桃の節句にちなんで毎年恒例となった雛飾りの特集陳列。今回は雛化粧道具や雛楽器などの他、女官服雛形のような服飾雛形も展示し、日本のミニチュアをテーマに展示した。また、例年通り、紙雛、室町雛、古今雛といった江戸時代の雛人形、近代における雛御殿のついた雛人形といった町雛の歴史、大名家や公家に伝わった雛道具などを、赤い毛氈を敷いた華やかな雛壇でお披露目し、日本の人形文化に親しんでいただいた。		
平成館1階 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	26年3月4日（火）～3月30日（日）	25(0.2)
	＜主な作品＞◎登承天万仏閣偈、観音三十三応身図、黄緑地山形文綾幡足、雑色変り甕花文錦、◎太刀、青磁鳳凰耳花入		
	東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に本格的な修理を終えた絵画、書跡、工芸、考古などさまざまな分野の作品に加え、これまで紹介されることが少なかった応急修理を施された作品も併せて展示した。 さまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報を、パネルなどを用いることにより、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただくことを目指した。		
平成館1階 考古展示室	須恵器の展開―吉備の古墳時代―	26年3月11日（火）～6月29日（日）	49(0.0)
	＜主な作品＞鐙　岡山県赤磐市東軽部出土、子持高坏　岡山県岡山市北区下足守 冠山古墳出土、子持装飾付脚付壺　岡山県瀬戸内市長船町小笠山出土、革袋形提瓶　岡山県久米郡美咲町錦織松ヶ峪出土、平瓶　岡山県新見市唐松出土		
	吉備地方は古墳時代における中心的な須恵器生産地のひとつであり、特色ある製品も生産している。馬をはじめとする動物・人物装飾を施した須恵器はその作例のひとつである。本特集陳列では、午年にちなみ、馬の刻文や馬形の装飾を持つ作品を含めた陳列を通じて、吉備地方の須恵器の実体を描出した。あわせて、当該地域の古墳時代研究において、編年上重要な一括資料等を紹介した。上記を組み合わせた通時的な展示によって、当該地域における６世紀を中心とする須恵器の変遷も紹介した。		
本館1階 14室	日本の仮面　舞楽面と行道面	26年3月25日（火）～6月8日（日）	27(0.9)
	＜主な作品＞舞楽面　崑崙八仙、舞楽面　貴徳、舞楽面　納曽利、行道面　菩薩、行道面　菩薩		
	平安時代以降、寺社で行なわれた法会に際して舞楽面、行道面が用いられた。本展では奈良・手向山八幡宮、愛知・熱田神宮、愛知・真清田神社所蔵の舞楽面、高野山天野社伝来の行道面などを展示し、古代、中世の芸能の多様性と彫刻的魅力に触れていただいた。		

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：国宝　大神社展

・会　　期　平成25年4月9日（火）～6月2日（日）（49日間）
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室

・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
・特別協力　神社本庁
・協　　力　千年の森フォーラム
・協　　賛　あいおいニッセイ同和損保、大日本印刷、トヨタ自動車 、三菱商事
・作品件数　215件（うち、国宝77件、重要文化財90件）
・来館者数　193,990人（目標250,000人・達成率77.6%）
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　　中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度72%
担当研究員数：5人

展覧会の内容：
祀りのはじまりから、神社をとりあげて、日本各地に伝来する神宝を一堂に展観した。

講演会等：「神社と日本人」講師：神社本庁総長・石清水八幡宮宮司　田中恆清、平成館大講堂　4月27日（土）
「古神宝の装束と武具」講師:上席研究員 池田宏、平成館大講堂　5月11日（土）
特別講演会「神々のまつり」平成館大講堂　5月17日（金）
第1講　「日本の祭りと永遠の未来」講師：神宮司庁広報室室長、神宮禰宜 河合真如
第2講　「神さまをおもてなしして」講師：神社本庁常務理事、鶴岡八幡宮宮司 吉田茂穂
神楽　「宮人の舞」「其駒」鶴岡八幡宮御神楽

展覧会名：特別展「和様の書」
・会　　期　平成25年7月13日（土）～9月8日（日）（51日間）
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
・後　　援　文化庁
・特別協力　読売書法会
・協　　賛　光村印刷
・協　　力　あいおいニッセイ同和損保
・作品件数　156件（うち、国宝51件、重要文化財35件、重要美術品10件）
・来館者数　104,577人(目標130,000人・達成率 80.4%)
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　　中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 72%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
平安から安土桃山時代にかけての和様の書の展開を通じて、書の魅力を紹介した。

講演会等：「和様の書」講師：副館長　島谷弘幸、平成館大講堂　7月20日（土）
「かなから見た和様の書」講師：読売書法会常任理事・大東文化大学教授　高木厚人、平成館大講堂　8月10日（土）
平成25年度連続講座　「和様の書」平成館大講堂　8月2日(金)～8月4日(日)
第1講　「世尊寺流の書」講師：副館長　島谷弘幸
第2講　「これからの『和様の書』」講師：読売書法会常任理事、日展会員、水穂会副会長　土橋靖子
第3講　「和様の書と料紙について」講師：博物館情報課長　高橋裕次
第4講　「装丁と修理」講師：㈱岡墨光堂　代表取締役　岡泰央
第5講　「「和様の書」鑑賞の歴史」講師：書跡・歴史室アソシエイトフェロー　恵美千鶴子
第6講　「信仰と書」講師：調査研究課長　田良島哲
関連講演会 「ユネスコ記憶遺産　御堂関白記と和様の書」講師：文化庁長官　青柳正規、副館長　島谷弘幸、
コーディネーター：国立文化財機構本部事務局長・東京国立博物館総務部長　栗原祐司、平成館大講堂　8月27日（火）

展覧会名：日本テレビ開局60年　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」
・会　　期　平成25年10月8日（火）～12月1日（日）（48日間）
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、日本テレビ放送網、読売新聞社
・特別協賛　タマホーム
・協　　賛　光村印刷、日本興亜損保
・協　　力　全日本空輸、日本貨物航空、日本通運、JR東日本、BS日テレ、シーエス日本、ラジオ日本、
　　J-WAVE、文化放送、テレビ神奈川、楽天トラベル、京都市
・技術協力　キヤノン、キヤノンマーケティングジャパン、JVCケンウッド、凸版印刷
・作品件数　20件（うち、国宝1件、重要文化財11件）
・来館者数　278,801人(目標250,000人・達成率111.5%)
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　　中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　72%
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
洛中洛外図屏風とともに二条城など京都を象徴する各所の障壁画を展示し、その空間装飾を紹介した。

講演会等：「400年前の京都に遊ぶーForward to the Past（フォワード・トゥ・ザ・パースト）」講師：特別展室長　松嶋雅人、
平成館大講堂　10月19日（土）
「舟木本洛中洛外図ー浮世絵は京都で生まれた」講師：東京大学文学部教授　佐藤康宏、平成館大講堂　11月3日（日）
スペシャルトークイベント 細田守 meets「洛中洛外図　舟木本」アニメーション映画監督　細田守が見た家族の肖像今昔
講師：細田守、特別展室長　松嶋雅人、平成館大講堂　11月7日（木）

展覧会名：東洋館リニューアルオープン記念　特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」

・会　　期　平成25年10月1日（火）～ 11月24日（日）（48日間）
・会　　場　東洋館8室
・主　　催　東京国立博物館、上海博物館、日本経済新聞社、毎日新聞社
・協　　力　全日本空輸株式会社
・作品件数　40件（うち一級文物18件）
・来館者数　62,378人(目標45,000人・達成率138.6%)
・入場料金　一般600円（500円）、大学生400円（300円）総合文化展観覧料　＊（ ）内は20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　91%
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
中国五代・北宋から明清にいたる中国絵画の流れを、時代と流派を代表する名品によって辿った。

講演会等：「中国絵画史の正統と異端ー上海博物館の名品からー」講師：東洋室研究員　塚本麿充
「唐寅山水画の視覚形式―『春游女几山図』を例に―」講師：上海博物館書画部副主任研究員　李維琨、平成館大講堂　10月12日（土）
「上海展」リレートーク 上海博物館の中国名画、私の見方（1）講師：東京国立博物館客員研究員　湊信幸、東洋館第8室　10月11日（金）
「上海展」リレートーク 上海博物館の中国名画、私の見方（2）講師：実践女子大学教授　宮崎法子、東洋館第8室　10月25日（金）
「上海展」リレートーク 上海博物館の中国名画、私の見方（3）講師：東洋室研究員　塚本麿充、東洋館第8室　11月8日（金）
「上海展」リレートーク 上海博物館の中国名画、私の見方（4）講師：東京大学東洋文化研究所教授　板倉聖哲、東洋館第8室　11月22日（金）

展覧会名：「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」

・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1･2室
・主　　催　東京国立博物館、クリーブランド美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社
・協　　賛　住友ナコ　マテリアル　ハンドリング、日本写真印刷、ハイスター＝エール・マテリアル・ハンドリング
・協　　力　国際交流基金、全日本空輸、日本貨物航空
・作品件数　51件
・来館者数　104,865人(目標120,000人・達成率87.4%)
・入場料金　一般1,000円(800円)、大学生800円(600円)、高校生600円(400円)＊（ ）内は20名以上の団体料金
「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」との2展共通観覧料金
一般1,600円(1400円)、大学生1,400円(1200円)、高校生1,000円(800円)　中学生以下無料
＊（ ）内は前売り・20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　57%
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
アメリカ・クリーブランド美術館の日本美術コレクションの粋とともに中国、韓国などの優品を展示した。

講演会等：「日本絵画のABCー物語世界にあそぶー」講師：平常展調整室研究員　土屋貴裕、平成館大講堂　平成26年1月19日（日）
「笑う美術館館長 名画を語る」講師：秋田県立近代美術館 館長　河野元昭、平成館大講堂　平成26年2月2日（日）

展覧会名：日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」

・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第3･4室
・主　　催　東京国立博物館、文化庁、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社、日本工芸会
・協　　賛　花王、日本写真印刷
・作品件数　145件（うち、国宝6件、重要文化財13件、重要美術品3件）
・来館者数　112,960人(目標120,000人・達成率　94.1%)
・入場料金　一般1,000円(800円)、大学生800円(600円)、高校生600円(400円)＊（ ）内は20名以上の団体料金
「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」との2展共通観覧料金
一般1,600円(1400円)、大学生1,400円(1200円)、高校生1,000円(800円)
中学生以下無料　＊（ ）内は前売り・20名以上の団体料金.
・アンケート結果　満足度　69%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
重要無形文化財指定制度施行60周年、「日本伝統工芸展」の第60回を記念し、人間国宝が生み出した伝統工芸の清華を展望した。

講演会等：シンポジウム「日本工芸の21世紀を考える」基調講演　講師：コロンビア大学名誉教授　ドナルド・キーン
パネルディスカッション　パネリスト：大英博物館 アジア部日本セクションキュレーター　ニコル・クーリジ・ルーマニエル
デザイナー・日本民藝館 館長　深澤直人、MOA美術館 副館長　内田篤呉、日本工芸会 副理事長 重要無形文化財「蒔絵」保持者

室瀬和美、司会進行：工芸室主任研究員　小山弓弦葉、平成館大講堂　平成26年1月25日（土）
トークイベント「日本の工芸を語る」パネルディスカッション
パネリスト：一般財団法人TAKE ACTION FOUNDATION 代表理事　中田英寿、建築家　隈研吾、茨城県陶芸美術館 館長　金子賢治、
司会進行：学芸研究部長　伊藤嘉章、平成館大講堂　平成26年2月1日（土）

展覧会名　海外展「青山杉雨のコレクションと書」
・会　　期　平成25年4月20日（土）～7月2日（火）（73日間）
・会　　場　上海博物館（中華人民共和国）　第二展庁
・主　　催　上海博物館、東京国立博物館、読売新聞社
・特別協力　謙慎書道会
・作品件数　80件
・来館者数　364,298人
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の生誕100年を記念して、その足跡を回顧した。

展覧会名　特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」
・会　　期　平成26年2月11日（火）～3月23日（日）（36日間）
・会　　場　本館7室
・主　　催　東京国立博物館
・特別協力　文化庁、イタリア大使館
・協　　力　仙台市博物館
・作品件数　3件（うち重要文化財2件）
・来館者数　この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。
参考値：56,342人(開催期間中の平常展来館者数)
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
「支倉常長像」（イタリア個人蔵）を特別公開し、「南蛮人渡来図屏風」などと共に展示して400年前の日欧交流の軌跡を示した。

【京都立博物館】

(1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「狩野山楽・山雪」
・会　　期　平成25年3月30日～5月12日（39日間）
・会　　場　明治古都館（特別展示館）全室
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、京都新聞社
・作品件数　83件（うち重要文化財13件）
・来館者数　90,242人（目標来館者数100,000人・達成率90.24%）
・入場料金　一般1,400円、大高生900円、中小生500円
・アンケート結果　満足度　95%
講 演 会：4回　　参加者数合計 622人
・関連記念講演会
4月21日（日）山楽・山雪と京狩野
京都教育大学名誉教授　脇坂　淳氏
190人参加

・関連土曜講座
4月6日　山雪の受難、そして「雪汀水禽図」の画想
大阪大学教授　奥平俊六氏
128人参加
4月13日　山楽・山雪と九条家
兵庫県立歴史博物館学芸員　五十嵐公一氏
147人参加
4月27日　京都ミュージアムズフォー連携講座　山雪からのメッセージーはじめてこれを画くー
京都国立博物館連携協力室長　山下善也
157人参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展観「遊び」
・開催期間　平成25年7月13日～8月25日（38日間）
・会　　場　明治古都館（特別展示館）全室
・主　　催　京都国立博物館
・作品件数　128件（うち国宝1件、重要文化財6件）
・来館者数　23,659人（目標来館者数35,000人・達成率67.60%）

・入場料金　一般1,000円、大高生700円、中小生無料
・アンケート結果　満足度　84%
講 演 会：4回　　参加者数合計 357人
・関連土曜講座
7月13日　遊びのコレクション－展覧会のみどころ－
京都国立博物館主任研究員　永島明子
120人参加
7月20日　京都国立博物館の人形
京都国立博物館教育室長　山川　暁
80人参加
7月27日　こんなにおもしろい近世彫刻
京都国立博物館保存修理指導室長　淺湫　毅
89人参加

鑑 賞 会：2回　　参加者数合計 68人
・関連少年少女博物館くらぶ
8月6日,9日　小中学生向け鑑賞会「びじゅつで遊ぼう！」

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」
・会　　期　平成25年10月12日～12月15日（55日間）
・会　　場　明治古都館（特別展示館）全室
・主　　催　京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ
・協　　力　史跡料亭花月、日本香堂
・作品件数　212件（うち国宝0件、重要文化財0件）
・来館者数　38,929人（目標来館者数35,000人・達成率111.23%）
・入場料金　一般1,300円、大高生900円、中小生400円
・アンケート結果　満足度　87%
講 演 会：13回　　参加者数合計932人
・社会科教員のための向上講座
10月22日　講演「魅惑の清朝陶磁展にちなんで」館内実地研修
京都国立博物館工芸室長　尾野善裕
30人参加
・関連土曜講座
10月26日　清朝陶磁と江戸時代後期の茶道具
根津美術館副館長　西田宏子氏
178人参加
11月9日　煎茶と清朝陶磁
大阪市立美術館学芸課長　守屋雅史氏
118人参加
11月30日　出土資料からみた清朝陶磁器の国内需要
東京大学埋蔵文化財調査室准教授　堀内秀樹氏
88人参加
12月7日　清朝陶磁と日本人
京都国立博物館工芸室長　尾野善裕
152人参加
・ギャラリートーク
10月18日　魅惑の中国七宝
京都国立博物館企画室　末兼俊彦
32人参加
10月25日　清朝皇帝の愛した蒔絵
京都国立博物館列品管理室主任研究員　永島明子
35人参加
11月8日　吉祥の図案
京都国立博物館列品管理室研究員　呉孟晋
47人参加
11月15日　坂本龍馬と長崎
京都国立博物館企画室長　宮川禎一
45人参加
11月22日　清朝の宮廷衣裳
京都国立博物館教育室長　山川　暁
55人参加
11月29日　清朝陶磁の吉祥文様
京都国立博物館工芸室長　尾野善裕
59人参加
12月6日　坂本龍馬と下関
京都国立博物館企画室長　宮川禎一
50人参加
12月13日　江戸時代の唐物趣味
京都国立博物館企画室　末兼俊彦

43 人参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：319日(名品展のみの開館日数：199日)
②陳列件数：632件
名品展
珠玉の仏像（なら仏像館）　213件
珠玉の仏教美術（西新館）　0件
中国古代青銅器（青銅器館）　237件
特別陳列等

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術	12月7日～26年1月19日	63件(重要文化財7件)
特別陳列	お水取り	26年2月8日～3月16日	62件(重要文化財16件)
特別展示	正倉院宝庫の瓦	10月26日～11月11日 12月25日～26年1月19日 26年2月8日～3月16日	18件
特集展示	模造にみる飛鳥時代の宝冠	9月20日～	3件※
特集展示	複製にみる頭塔	9月20日～	1件※
特集展示	模造にみる伎楽面	9月20日～	2件※
特集展示	新たに修理された文化財	12月25日～26年1月19日	8件(重要文化財4件)
考古資料相互活用促進事業展示	いにしえの東北 ～豊岡遺跡と平泉～	26年2月8日～3月16日	31件
特別公開	金剛寺　降三世明王坐像	23年10月4日～	1件(重要文化財1件) ※
特別公開	定朝様の丈六阿弥陀像	24年6月26日～	1件※

※「名品展　珠玉の仏像（なら仏像館）」の陳列件数（213件）に含む。

③陳列替件数：130　　件

(2)特別展・共催展等

展覧会名：當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺 －極楽浄土へのあこがれ－」

・会　　期　平成25年4月6日(土)～6月2日(日)（51日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社
・後　　援　文化庁、奈良県、葛城市、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送
・協　　力　葛城市商工会、シーシーエス、ＪＲ東海、千房、日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　159件（うち国宝7件、重要文化財43件）
・来館者数　54,114人(目標40,000人)
・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度　79.4%

公開講座：4回　参加者数合計　481人
當麻寺による出張イベント@奈良博：4回　参加者数合計　641人
シンポジウム：1回　参加者数　149人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
4月20日(土)	「當麻曼荼羅と中将姫説話の諸相」	日沖敦子（神戸学院大学専任講師）	108人
5月 4日(土･祝)	「〈寺史〉のなかの役行者 ―當麻寺は役行者の旧跡に建つ」	川崎剛志（就実大学教授）	133人
5月18日(土)	「當麻曼荼羅の信仰史」	北澤菜月（学芸部研究員）	120人
5月25日(土)	「當麻寺の彫像」	岩田茂樹（学芸部長補佐）	120人

當麻寺による出張イベント@奈良博

期日	内容	講師(所属)	参加者数
4月 7日(日)	「中将姫と當麻曼荼羅 絵解き拝礼式とともに」（講話と実演）	松村實昭(當麻寺中之坊院主)	132人
4月14日(日)	「當麻寺聖衆来迎練供養会式と菩薩講」（講話と実演）	葛本雅崇(當麻寺護念院住職)、菩薩講中	180人
4月29日(月･祝)	「極楽浄土へのあこがれ」（講話）	川中光教(當麻寺奥院住職)	166人
5月 3日(金･祝)	「當麻寺の雑学」（講話）	山下真弘(當麻寺西南院住職)	163人

シンポジウム

期日	内容	講師・研究発表者	参加者数
4月27日(土)	学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」		149人
	〈基調講演〉「當麻曼荼羅の不思議」	濱田 隆(元奈良国立博物館長)	
	〈研究発表〉「綴織當麻曼荼羅の図像解釈」	大西磨希子(仏教大学仏教学部准教授)	
	「浄土信仰史上の當麻曼荼羅」	稲本泰生(京都大学人文科学研究所准教授)	

「綴織當麻曼荼羅の染織技法」　田中陽子(宮内庁正倉院事務所保存課整理室主任研究官)
「當麻寺における綴織當麻曼荼羅」　北澤菜月(学芸部研究員)
〈パネルディスカッション〉　上記 5名

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ番組等

展覧会名：特別展「みほとけのかたち —仏像に会う—」

・会　　期　平成25年7月20日（土）～9月16日（月・祝）(52日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・後　　援　文化庁、奈良県、奈良市、奈良市教育委員会、ＮＨＫ奈良放送局
・特別協力　読売新聞社
・協　　力　ＪＲ東海、奈良県ビジターズビューロー、奈良交通、日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　91件（うち国宝5件、重要文化財42件）
・来館者数　39,232人(目標50,000人)
・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、中学生以下 無料
・アンケート結果　満足度　93%
公開講座：2回　　参加者数合計　388人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
8月 3日(土)	「曼荼羅の見方・考え方」	小峰彌彦（大正大学教授）	194人
9月 7日(土)	「かたちから見た仏像の諸相」	岩井共二（学芸部教育室長）	194人

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ番組等

展覧会名：特別展「第65回正倉院展」

・会　　期　平成25年10月26日(土)～11月11日(月)(17日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　岩谷産業、ＮＴＴ、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
・協　　力　ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房
・作品件数　66件
・来館者数　246,269人(目標180,000人)
・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
・アンケート結果　満足度　70%
公開講座：4回　　参加者数合計　427人
シンポジウム：1回　参加者数　192人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
10月26日(土)	「聖武朝における歌舞の隆盛と和琴」	荻美津夫（新潟大学人文学部人文学科教授）	112人
11月 2日(土)	「慶長櫃が語る正倉院の歴史」	佐々田悠（宮内庁正倉院事務所保存課整理室員）	93人
11月 3日(日･祝)	「正倉と正倉院宝物—守る・伝える—」	成瀬正和（宮内庁正倉院事務所保存課長）	114人
11月 9日(土)	「香印坐と天平の彩り」	谷口耕生（学芸部保存修理指導室長）	108人

シンポジウム

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
10月27日(日)	正倉院学術シンポジウム2013「鑑真和上と正倉院宝物」		192人
	〈研究発表〉「鑑真和上坐像について —平成お身代わり像制作で得られた新知見—」	木下成通（公益財団法人美術院国宝修理所研究部長）	
	「正倉院宝物の僧衣について」	田中陽子（宮内庁正倉院事務所保存課整理室主任研究官）	
	「唐招提寺金堂と正倉院宝物にみる彩色文様」	大山明彦（奈良教育大学教授）	
	「鑑真和上の書状」	西山　厚（学芸部長）	
	〈パネルディスカッション〉	上記 4名及び内藤　栄（学芸部長補佐）	

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：　308 日(うち平常展のみ開館日数　100 日)
②陳列替件数：　1,157 件
③陳列総件数：　2,750 件(うち国宝 29 件　重要文化財 27 件)
④入場料金：　一般 420 円、大学生 130 円
⑤トピック展示・特別公開：全 14 件

展示名称	江戸のモダニズム　古武雄～まぼろしの九州のやきもの～				
開催期間	25 年 3 月 19 日(火)～ 5 月 26 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 9・10 室	陳列件数（うち指定品件数）	65 件

内容	佐賀県西部の武雄を中心として、江戸時代に独創的なデザインでその名を馳せた「古武雄」。本展では、今まで十分な評価が与えられてこなかったこの陶器の魅力を広く伝え、九州陶磁史の中でも再検討を提言した。

展示名称	江戸のサイエンス　－武雄蘭学の軌跡－				
開催期間	25年4月16日(火)～ 7月7日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室11室	陳列件数（うち指定品件数）	74件（うち重文20件）
内容	佐賀藩武雄鍋島家伝来の西洋科学遺産を一挙公開し、幕末日本の近代化事業に迫った。				

展示名称	国宝　琉球国王尚家関係資料修理完成記念特別公開				
開催期間	25年4月23日(火)～ 6月2日(日)	開催場所	文化交流展示室 第Ⅴテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	7件（うち国宝7件）
内容	毎年度行なっている琉球国王尚家関係資料の修理成果をお披露目する特別公開企画。				

展示名称	視覚革命！異国と出会った江戸絵画－神戸市立博物館名品展－				
開催期間	25年7月17日(水)～ 9月23日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室11室	陳列件数（うち指定品件数）	54件（うち重文1件）
内容	神戸市立博物館が誇る名品を通して、創造力あふれる江戸の絵画世界を紹介した。				

展示名称	特別公開　国宝・神戸市桜ケ丘出土銅鐸				
開催期間	25年7月17日(水)～ 9月29日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室	陳列件数（うち指定品件数）	20件（うち国宝20件）
内容	国宝・神戸市桜ケ丘出土銅鐸13個と銅戈7本を紹介した。あわせて３Ｄデジタル計測を行い、新たに発見された紋様についても展示・紹介を行った。				

展示名称	特別公開　国宝「西光寺梵鐘」				
開催期間	25年7月23日(火)～ 12月8日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本Ⅲテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	1件（うち国宝1件）
内容	承和6年（839年）に制作された、狐峯山西光寺（福岡市早良区）が所蔵する梵鐘を紹介した。				

展示名称	館蔵名品展ー更紗				
開催期間	25年9月3日(火)～ 10月14日(月･祝)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室9室	陳列件数（うち指定品件数）	33件（うち重文3件）
内容	更紗の多くの人を魅了した鮮やかな茜染めと生き生きとした文様の美を紹介した。				

展示名称	茶の湯を楽しむⅥ　　特別編　煎茶の世界				
開催期間	25年10月1日(火)～ 12月1日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室11室	陳列件数（うち指定品件数）	41件
内容	秋の恒例企画、「茶の湯を楽しむ」の第6弾。今年は、さまざまな喫茶文化のなかでもとりわけ九州と縁が深い煎茶に注目し、その世界を紹介した。				

展示名称	山の神々　－九州の霊峰と神祇信仰－				
開催期間	25年10月22日(火)～ 12月1日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室9室	陳列件数（うち指定品件数）	15件（うち重文2件）
内容	九州各地の霊山の信仰遺品を紹介することによって、山岳信仰の歴史を振り返る。				

展示名称	特集陳列「江上波夫の眼　ことばとかたち」				
開催期間	25年11月14日(木)～ 26年2月2日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室8室・エントランス	陳列件数（うち指定品件数）	93件
内容	ユーラシア全域を研究対象とした考古学者江上波夫氏旧蔵コレクションから文字資料や美術品を紹介した。				

展示名称	ロシアが見たアイヌ文化　ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館のコレクションより				
開催期間	25年12月10日(火)～ 26年2月16日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室9・10・11室	陳列件数（うち指定品件数）	141件
内容	ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館の所蔵する、18世紀から20世紀初頭にかけてロシア人によって収集されたアイヌ民族の生活文化を語る資料を紹介した。				

展示名称	発掘された日本列島2013				
開催期間	26年1月1日(水・祝)～ 2月16日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室1・3室	陳列件数（うち指定品件数）	208件
内容	年間8千件近い発掘調査の中から、全国的に注目された発掘調査の成果を紹介した。				

展示名称	新春特別公開「天神さまの宝もの」				
開催期間	26年1月1日(水)～ 1月26日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室	陳列件数（うち指定品件数）	3件（うち国宝1件）
内容	太宰府天満宮所蔵の名品、中国・唐時代に編纂された百科事典「翰苑」写本や北野天満宮縁起絵巻など3点を紹介した。				

展示名称	館蔵近世絵画名品展				
開催期間	前期：26年2月25日(火)～4月6日(日)	開催場所	文化交流展示室	陳列件数（うち	18件（うち重文1件）

	後期：26年4月8日（火）～5月18日（日）		関連展示室11室	指定品件数）	
内容	17世紀から19世紀の絵画を中心に、当館がこれまで収集してきた作品を紹介した。				

(2)特別展・共催展等

展覧会名　大ベトナム展

・会　　期　平成25年4月16日(火)～6月9日(日)　(49日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館、在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館、TVQ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社、九州ベトナム友好協会
・作品件数　165件(重要文化財15件)
・来館者数　71,192人(目標来館者数30,000人)
・入場料金　一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度82%
・講演会等：　3回　参加者合計 354人
・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
4月21日	特別講演会「日越関係が示す新しい世界史像」 「近現代の日越関係史と今後の展望」	大阪大学教授　桃木至朗 東京大学教授　古田元夫	123人
5月12日	特別講演会「ベトナム・ホイアン日本町を発掘する」 「ベトナムの『元寇』を探る～予備調査の結果からわかること」 「安南文書の世界」 「陶磁器から見た海のシルクロードとベトナム」	昭和女子大学教授　菊池誠一 テキサスA&M大学海事考古学研究所　ランドール・ササキ 博物館科学課保存修復室長　藤田励夫 展示課研究員　遠藤啓介	190人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
4月26日	解説講座　しっとこ九博！ 「大ベトナム展」（筑紫野市）	前博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	41人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
4月27日～5月6日	ベトナムグルメ天国	―
5月19日	ライブベトナム	600人
6月1日	ベトナム民族楽器トルンの演奏によるさわやかなひととき	250人

展覧会名　中国　王朝の至宝

・会　　期　平成25年7月9日(火)～9月16日(月・祝)　(62日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、毎日新聞社、西日本新聞社
・特別協力　太宰府天満宮
・作品件数　167件(1級文物100件)
・来館者数　77,554人(目標来館者数50,000人)
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度87%
・講演会等：　9回　参加者合計 1,199人
・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
8月3日	特別講演会「皇帝たちの中国－ファースト・エンペラーからラスト・エンペラーまで－」	早稲田大学教授　稲畑耕一郎	280人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
7月12日	解説講座　しっとこ九博！ 「中国　王朝の至宝　三〇〇〇年にわたる美の興亡、そのダイナミズムを体感する！」（筑紫野市）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	60人
7月13日	リレー講座「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」	学芸部長　谷豊信	150人
7月20日	リレー講座「中国　王朝の至宝を10倍楽しく見る方法」	企画課特別展室主任研究員　市元塁	130人
7月28日	地域講演会「中国 王朝の至宝でよみとく3000年」（岡垣町）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	294人
8月4日	地域講演会「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」（篠栗町）	学芸部長　谷豊信	135人
8月20日	特別展セミナー　「中国　王朝の至宝」の魅力に迫る －学芸員が語る「歴史」と「文化」－（九州経済調査会）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	15人
8月23日	特別展出張講演　「比べて分かる　中国　王朝の至宝」 （西日本新聞エリアセンター姪浜）	企画課特別展室主任研究員　市元塁	20人
8月25日	地域講演会「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」（柳川市）	学芸部長　谷豊信	115人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
8月10日	こどもイベント「跪射俑（きしゃよう）に変身!!～段ボールで鎧づくり～」	50人

展覧会名　尾張徳川家の至宝

・会　　期　平成25年10月12日(土)～12月8日(日)　(50日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室

・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、テレビ西日本、TVQ九州放送、徳川美術館
・作品件数　226件(国宝5件、重要文化財12件、重要美術品6件)
・来館者数　139,448人（目標来館者数50,000人）
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度　85%
・講演会等：　5回　参加者合計　539人
・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月12日	特別講演会「“殿”文化を語る一国宝『源氏物語絵巻』を伝えた系譜」	徳川美術館館長　徳川義崇	260人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月20日	アクロス・文化学び塾 特別展「尾張徳川家の至宝」について	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	70人
11月1日	解説講座「御三家筆頭　尾張徳川家の至宝展」（筑紫野市）	展示課主任研究員　酒井芳司	32人
11月2日	連続講座「殿様の教養―尾張徳川家の名筆と典籍―」 「絵になる源氏物語」	展示課主任研究員　酒井芳司 企画課特別展室研究員　鷲頭桂	102人
11月9日	連続講座「天下人のあかし―信長・秀吉・家康の遺愛品」 「国宝　初音の調度の魅力」	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲 企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	75人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
11月1日～4日	名古屋めしフェア	―
11月3日	ファッションショー「KIMONO夢物語」～源氏物語絵巻への誘い～	350人

展覧会名　国宝　大神社展

・会　　期　平成26年1月15日(水)～3月9日(日)　(47日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社
・作品件数　165件(国宝57件、重要文化財65件)
・来館者数　89,561人(目標来館者数70,000人)
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度　87%
・講演会等：8 回　参加者合計 1,463人
・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
26年1月26日	特別講演会「鎮守の杜（もり）と日本人」	神社本庁総長・石清水八幡宮宮司　田中恆清	255人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
26年1月18日	連続講座「国宝　大神社展」の壺 「神像のみかた」 「神話と『古事記』『日本書紀』」	 展示課主任研究員　楠井隆志 展示課主任研究員　酒井芳司	256人
26年1月19日	地域講演会「国宝　大神社展」への誘い 「日本人はいかに表現したか。」（久留米市）	展示課主任研究員　楠井隆志	186人
26年1月25日	連続講座「国宝　大神社展」の壺 「古神宝の調度」 「神々のすがた」	 企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子 企画課特別展室研究員　森實久美子	80人
26年1月31日	解説講座　しっとこ九博！「国宝 大神社展」	展示課主任研究員　楠井隆志	80人
26年2月2日	地域講演会「国宝　大神社展」への誘い 「天の岩戸と神の島～古代人の他界観」（福津市）	企画課文化交流展室長　河野一隆	234人
26年2月8日	講演会「伊勢神宮と式年遷宮」	神宮禰宜　広報室長	280人
26年2月9日	地域講演会「国宝　大神社展」への誘い 「よみがえった宮地嶽古墳黄金の太刀」（福岡市）	展示課長　赤司善彦	92人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
26年1月15日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（壱岐神楽・高千穂神楽）	500人
26年1月19日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（白鬚神社の田楽・御嶽神楽）	440人
26年1月22日	「神々と日本伝統文化　狂言と古典落語の世界」	255人
26年2月2日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（竹の曲・高原神舞）	400人
26年2月28日	「国宝 大神社展」神いざなう 歌と舞　（石清水八幡宮 御神楽）	400人

(3)海外展

・展覧会名　文化庁主催海外展「日本文化展」
・会期：　平成26年1月16日（木）～3月9日（日）（51日間）
・会場：　ベトナム国立歴史博物館
・主催：　文化庁、九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館
・陳列品総件数：　69 件（うち重文　7 件）
・来館者数：　約 30,000 人
・入場料金：　40,000 ドン（約 200 円）

・イベント等

期日	イベント名	参加者
26年1月18日	ワークショップ	500人

(参考)

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

開館日数：308日（平常展のみの開館日数：172日）　陳列件数：656件　陳列替回数：1回
平常展のみの来館者数：39,502人
入場料金：無料

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城2012」
会　期：25年3月16日(土)～6月2日(日)　(68日間。うち25年度：54日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：77件（0件）
来館者数：39,179人　（うち25年度：34,025人）
入場料金：無料
アンケート結果：満足度94%（無回答を除く）
講演会等：ギャラリートーク7回・参加者数合計109人(うち25年度：6回・93人)
クイズ大会3回・参加者数合計66人(うち25年度：2回・36人)

展覧会名：夏期企画展「平城京どうぶつえんー天平びとのアニマルアート」
会　期：25年7月13日(土)～9月23日(月・祝)　(43日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：171件（0件）
来館者数：18,616人
入場料金：無料
講演会等：博士のおもしろどうぶつ講座4回・参加者数合計110人
おやこワークショップ2回・参加者数合計81人

展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院ー木簡学ことはじめ」
「都城発掘調査部 平城宮・京発掘調査の50年」
会　期：25年10月19日(土)～12月1日(日)　(39日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：106件（63件）
来館者数：16,753人
入場料金：無料
講演会等：ギャラリートーク3回・参加者数合計121人

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：356日　陳列件数：114件　陳列替回数：1回
②特集陳列等　7件

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】 藤原宮東面内濠SD2300の土器（『紀要2012』より研究成果の展示）	24年 5月 7日～25年 7月31日	土器69（土師器35・須恵器34）
藤原宮東面中門・東面大垣の調査（飛鳥藤原168-2次）	24年 5月15日～25年 7月31日	土器3、瓦1
石神遺跡出土の銅製人形	25年 8月 1日～25年10月 9日	銅製人形10
藤原宮朝堂院東第六堂の瓦	25年 8月 1日～25年10月 9日	瓦5
東方官衙北地区（飛鳥藤原175次）	25年 8月 1日～	土器26
奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部４０周年記念 「写真でふりかえる発掘調査40年」	25年10月15日～25年12月27日	パネル展示、映像展示
震災復興調査とその支援	26年 1月23日～	パネル展示

入場料金：無料
来館者数：7,869人

【飛鳥資料館】

(1)平常展

開館日数：316日（平常展のみの開館日数：106日）　陳列件数：350件　陳列替回数：1回
ｷﾄﾗ公開準備･復旧のため 12月25日～1月31日 第一展示常設は閉鎖、ｷﾄﾗ公開中も含み地階特展室で常設展示
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（ ）は20名以上の団体
平常展のみの来館者数：7,551人

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：第3回写真コンテスト「神々の山-大和三山のある風景-」応募作品展
会　期：25年3月9日(土)～4月14日(日)　（32日間。うち25年度：12日間）
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
応募点数：210点
来館者数：3,059人（うち25年度：1,148人）※25年度評価にて実績報告を行う。
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（ ）は20名以上の団体

展覧会名：春期特別展「飛鳥寺２０１３」
会　期：25年4月26日(金)～6月2日(日)　（38日間）
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：200件（0件）
来館者数：9,406人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（ ）は20名以上の団体
講演会：1回　参加者数合計　71人

期日	講演会名	講師(所属)
5月18日	「最近の東アジアの研究成果から見た飛鳥寺」	佐川正敏（東北学院大学教授）

展覧会名：ロビーミニ イラスト展　坂田武嗣「風景の記憶」
会　期：25年5月1日(水)～6月30日(日)　（57日間）ただし、春期特別展と同時開催で単独開催は24日間
会　場：飛鳥資料館　ロビー
主　催：奈良文化財研究所
陳列点数：23点
来館者数：10,473人(ただし、春期特別展来館者数にカウント、6月3日～6月30日の単独開催期間は2,648人)
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（ ）は20名以上の団体

展覧会名：夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」
会　期：25年8月1日(木)～9月1日(日)　（28日間）
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：77件（0件）
来館者数：2,633人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（ ）は20名以上の団体

展覧会名：第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」応募作品展
会　期：25年9月7日(土)～10月6日(日)　（26日間）
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
応募点数：162点
来館者数：3,359人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（ ）は20名以上の団体

展覧会名：ミニ企画展「日光男体山のかがやき- 山岳信仰奉賽鏡の世界- 」
会　期：25年9月10日(木)～9月16日(日)（7日間）ただし、第4回写真コンテスト展ど同時開催
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：178件（154件）
来館者数：1,046人（ただし、第4回写真コンテスト展来館者数にカウント）
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（ ）は20名以上の団体

展覧会名：秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」
会　期：25年10月18日(金)～12月1日(日)　（45日間）
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所

陳列件数（うち指定品数）：200件（0件）
来館者数：9,132人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：1回　参加者数合計　112人

期日	講演会名	講師(所属)
11月16日	「飛鳥へ続く道」	近江俊秀（文化庁文化財部記念物課文化財調査官）

展覧会名：ﾈﾄﾗ特別公開
会　期：26年1月17日(金)～1月26日(日)　(10日間)
会　場：飛鳥資料館　第一展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：75点（1件）
来館者数：4,008人
入場料金：一般500円（400円）　高・大学生300円(200円)　中学生以下は無料
※（　）は20名以上の団体

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学２０１３」
会　期：26年2月14日(金)～3月16日(日)　(27日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：160点（0件）
来館者数：1,851人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体

b ボランティア受入れ実績

1　受入人数

平成26年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
770人	169人	45人	114人	287人	155人

2　活動内容

【東京国立博物館】　計　169人

種別　（登録人数）	概　　要
生涯学習ボランティア （152人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・制作工程模型展示鑑賞補助　（通年） ・列品解説、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、20室(通年実施) ・本館特別4室みどりのライオン紹介コーナー、17室（～平成25年12月22日） ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・パンフレット「日本美術の流れ」日本語版の印刷（通年） ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：23校　生徒数：82人　（中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（25人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(12冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー（隔月1回、6回実施） ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用（通年） ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） 【各種連携事業】 ・「留学生の日」(9月21日)内プログラム　ボランティアによる茶会、たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、浮世絵ガイド、樹木ツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、本館ハイライトツアー、英語ガイドの実施、館内案内 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動見学ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施（12月7・8日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施　422回　10,511人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー　31回　776人参加 ・浮世絵ガイド　42回 1,335人 ・本館ハイライトツアー　56回 2,405人 ・法隆寺宝物館ガイド　37回 1,017人 ・考古展示室ガイド　12回　410人 ・陶磁ガイド　27回　750人 ・庭園茶室ツアー　24回　466人 ・お茶会　20回　339人 ・彫刻ガイド　31回　873人 ・英語ガイド　27回　752人(留学生の日の定点ガイド含む) ・こどもたちのアートスタジオ　9回　178人 ・たてもの散歩ツアー　33回　828人 ・近代美術ガイド　4回　169人 ・東洋館ツアー　1回　90人 ・基本活動紹介ツアー　67回　73人 ・たんけんマップ&ハイライトコラボ　1回　50人
東京芸術大学大学院インターンシップ （17人）	当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。

種別 （登録人数）	概　要
	【ギャラリートーク（研究発表）班】5名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計29回、949人】 「狛犬の世界―犬？ライオン？ふしぎな守護獣―」6回、210人 「止利派の半跏像―金銅仏鑑賞の楽しみ方―」6回、169人 「秋篠寺『十一面観音菩薩立像』のみかた―より強い救いを求めるかたち―」5回、226人 「甲冑の美術―『黒韋肩妻取威胴丸』―」6回、166人 「『揺銭樹』銭なる樹と大きな羊―古代四川文化の洗練、快活、多様性―」6回、178人 【調査研究班】12名 平成25･26年度の2ヵ年で活動。今年度は学芸研究部調査研究課の協力の下、当館所蔵品「突起装飾坏（TJ-5401）」の調査研究及び工程見本制作を行った。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計29回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・防災訓練　1回
- ・バリアフリー班研修　3回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　　8回
- ・スクールプログラム班研修　5回
- ・各種自主企画グループ研修　8回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】（以下の展示等につき実施）　計6回
- ・特別展「国宝　大神社展」1回
- ・特別展「和様の書」1回
- ・特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」1回
- ・特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」1回
- ・特別展「クリーブランド美術館展」1回
- ・特別展「人間国宝展」1回

【京都国立博物館】　　計45人

種　別 （登録人数）	概　要
調査・研究支援ボランティア(25人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(13人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。 6月5日（朱雀第六小学校）、7月9日（第三錦林小学校）、9月4日（安祥寺中学校）、10月30日（納所小学校）、11月8日（美豆小学校）、11月22日（松ヶ崎小学校）、12月4日（南大内小学校）
京都・らくご博物館学生ボランティア(7人)	年2回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計114人

種　別 （登録人数）	概　要
世界遺産グループ（41人）	【世界遺産学習】（奈良市教育委員会との連携で、奈良市の公立小学校5年生の受け入れ） ・6月～7月、及び10月～12月にかけて　（33校）2,199名 【学校団体案内】 ・小学生、中学生、高校生（外国人含む）（28校）2,251名 【展示案内】 ・特別展「みほとけのかたち―仏像に会う」の質問対応（7月23日～9月1日）37日　85名 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
解説グループ(39人)	【通年の活動】 ・なら仏像館のデスクでの質問対応と解説　　310日 【展示案内】 ・特別展「當麻寺」の質問対応（4月23日～5月6日）　14日　48名 ・特別展「みほとけのかたち―仏像に会う」の質問対応（7月23日～9月16日）　50日　100名 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の質問対応（12月7日～１月19日）　32日　64名 ・特別陳列「お水取り」質問対応　35日　67名 ・特別陳列「お水取り」ミニツアー解説　14日　40名 【その他、予約による解説実施】　42件 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
サポートグループ（34人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　　13回 ・サンデートークの受付　12回 ・学術シンポジウムの受付　1回 ・親子鑑賞会の受付　1回 ・展示会関連事業受付　　4回 ・夏季講座の受付　　3回 【イベントの補助】 ・親と子のワークショップ「仏さまの絵をかいてみよう！」受付と補助　1回 ・トークセッション「仏像模刻にかける青春群像！」受付と補助　1回 ・奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「写仏散華体験」受付と補助　1回

	・古展の日フォーラム「古展の魅力を堪能する」受付と補助　1回 ・奈良市教育委員会連携「仏像を10倍楽しくみる方法を教えます!」受付と補助　1回 ・ワークショップ「写仏散華体験」受付と補助　1回 ・ワークショップ「仏像切り絵体験」受付と補助　1回 ・「文化財保存修理所特別公開」受付と補助　1回 ・お水取り「講話」と「粥」の会　受付と補助　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・夏季講座の配布資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　23回 【掃除】 ・スタッフルーム　　3回 ・庭園等　　4回 【交流チームの活動】 ・親睦会の立案と実施　1回 ・社寺旧跡の見学会の実施　2回　69名 ・他施設ボランティアとの交流会　2回 【企画チームの活動】 ・茶室庭園ツアーの立案と実施　6回 ・仏教美術資料研究センター見学ツアーの立案と実施　2回 ・総務課来客（アメックス）の見学ツアー　1回 【通信誌チームの活動】 ・ボランティア通信誌「ぶりっじ」発行　6回

【ボランティアに対する研修の実施】　計24回
- ・名品展研修　2回
- ・特別展、特別陳列、特集展示の研修　21回
- ・仏教美術資料研究センター　1回

【グループ別の勉強会の実施】計40回
- ・世界遺産グループ　11回
- ・解説グループ　　18回
- ・サポートグループ　11回

【各グループ共通】
- ・正倉院展講堂ボランティア解説　17日　92回

【九州国立博物館】　計　287人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (75人)	文化交流展示室での案内、及び？ボックスや展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (39人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア (26人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア (63人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内、及び 文化交流展示室での展示物解説を行う。
環境ボランティア (29人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (6人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (19人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (22人)	ボランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (8人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ31人が障がい者対応として、また博物館周辺の環境整備活動グループとして35人が活動。
(研修)全体研修　3回、部会別研修　34回、グループ研修　31回
(対応来館者数)展示解説(8,684人)、館内案内(4,663人)、バックヤードツアー(2,578人)

【奈良文化財研究所】　計155人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア（155人）	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
- 平城宮跡資料館夏期企画展示研修　1回
- 〃　　秋期企画展示研修　3回
- 講演形式専門研修　1回
- 臨地ガイド研修　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成26年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
218 人	46 人	21 人	0 人	9 人	16 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	132 人	32 人		100 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	40 人				

【東京国立博物館】２１人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	陳克倫	中国	上海博物館副館長	上海博物館中国絵画名品展(仮称)にかかる調査のため	6月8日～11日
2	千　周 鉉	韓国	韓国国立中央博物館学芸研究員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館の学術交流および研究推進のため	8月19日～31日
3	孫　峰	中国	上海博物館副研究館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品点検・陳列、開会式に出席のため	9月25日～10月2日
4	黄　瑛	中国	上海博物館館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品点検・陳列、開会式に出席のため	9月25日～10月2日
5	黄 朋	中国	上海博物館副研究館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品点検・陳列、開会式に出席のため	9月25日～10月2日
6	李 仲謀	中国	上海博物館副館長	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の開会式に出席のため	9月28日～10月1日
7	凌 利忠	中国	上海博物館研究館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の開会式に出席のため	9月28日～10月1日
8	孫 慰祖	中国	上海博物館研究館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の開会式に出席のため	9月28日～10月1日
9	李　維琨	中国	上海博物館副主任	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の講演会に出席のため	10月11日～15日
10	金　靖之	中国	上海博物館館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品展示替えのため	10月27日～30日
11	邵　真	中国	上海博物館助理館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品展示替えのため	10月27日～30日
12	葉　倩	中国	上海博物館館員	東京国立博物館・上海博物館間の学術調査および研究推進のため	11月6日～12日
13	陳　潔	中国	上海博物館館員	東京国立博物館・上海博物館間の学術調査および研究推進のため	11月6日～12日
14	申　紹然	韓国	韓国国立中央博物館学芸研究員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館の学術交流および研究推進のため	11月18日～12月1日
15	李　蘭	中国	上海博物館館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品点検・撤収作業のため	11月23日～28日
16	汪　詩琪	中国	上海博物館助理館員	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品点検・撤収作業のため	11月23日～28日
17	張　中興	中国	上海博物館政工師	特別展「上海博物館―中国絵画の至宝」展の作品点検・撤収作業のため	11月23日～28日
18	ニコル・クリージ・ルーマニエル	英国	セインズベリー日本文化研究所所長	特別展「人間国宝展」にかかるシンポジウム「日本工芸の21世紀を考える」に参加等のため	H26.1.22～2.1
19	孫　峰	中国	上海博物館　副研究館員	東京国立博物館・上海博物館の学術交流および研究推進のため	H26.2.16～3.1
20	シネード・ヴィルバー	米国	クリーブランド美術館　日本美術担当学芸員	日本・米国間の学術交流および協力関係の推進のため	H26.1.11～1.17
21	アンナラウラ・ヴァルツッチ	米国	コーディネーター	支倉展に関する打合せおよび関係施設視察のため	H26.2.10～2.17

【京都国立博物館】　0人

【奈良国立博物館】　延べ　9人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	劉　玉珍	中国	河南博物院	当館との協定に基づく学術交流	4月15日～5月14日
2	牛　愛紅	同上	同上	同上	同上
3	柳　廷翰	韓国	慶州博物館	同上	5月8日～6月6日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
4	徐　汝聡	中国	上海博物館	同上	10月28日～11月6日
5	凌　瑞蓉	同上	同上	同上	同上
6	薛　浩冰	同上	同上	同上	同上
7	申　大坤	韓国	慶州博物館	正倉院展視察並びに当館研究員との意見交換のため	10月30日～11月1日
8	朴　　志	同上	同上	同上	同上
9	李　眞旼	同上	同上	当館との協定に基づく学術交流	26年2月3日～2月28日

【九州国立博物館】　延べ　16人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
1	アマラー・スリスチャート	タイ	タイ王国文化省芸術局国立博物館事務局　調査研究部長	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月4日～6月14日	他機関負担
2	ウサー・ヌワンピエンパーク	タイ	タイ王国文化省芸術局調査研究部上席学芸員	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月4日～6月12日	他機関負担
3	ドゥワンチャイ・ピチッタナロンチャイ	タイ	タイ王国文化省芸術局調査研究部学芸員	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月4日～6月12日	他機関負担
4	カマラート・ペンチャウム	タイ	タイ王国文化省芸術局振興促進部学芸員	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月4日～6月12日	他機関負担
5	ティーラサック・ペーンロット	タイ	タイ王国文化省芸術局博物館デザイン室職員	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月4日～6月12日	他機関負担
6	Mr.　SAHAWAT Naenna	タイ	タイ王国文化省　芸術局長	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月11日～6月14日	他機関負担
7	Mrs.　JARUNEE Incherdchai	タイ	タイ王国カンチャナピセーク国立博物館長	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月11日～6月14日	他機関負担
8	Mrs.　KANCHANA Oatyimprai	タイ	タイ王国ロイヤルエレファント国立博物館課長	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月11日～6月14日	他機関負担
9	Ms.　NICHANAN Klangwichai	タイ	タイ王国カンチャナピセーク国立博物館学芸員	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	6月11日～6月14日	他機関負担
10	金美京	韓国	国立公州博物館 学芸研究士	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	7月29日～8月11日	他機関負担
11	張元子	韓国	国立公州博物館 行政主事	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	7月29日～8月4日	他機関負担
12	金聖慶	韓国	国立公州博物館 一般契約職	学術文化交流協定に基づく研究者の交流	7月29日～8月4日	他機関負担
13	オミュル・トゥファン	トルコ	トプカプ宮殿美術館 主任研究員	文化庁招聘事業　平成25年度博物館・美術館相互交流事業	10月7日～10月13日	他機関負担
14	ブー・マイン・ハ	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館　副館長	文化庁招聘事業　平成25年度外国人芸術家・文化財専門家招聘事業	10月15日～10月19日	他機関負担
15	グエン・コック・ビン	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館　展示部長	学術文化交流協定館との交流 文化庁主催海外展事前協議等	10月15日～10月19日	他機関負担
16	黄栄光	中国	中国科学院自然科学史研究所大学資料編纂所協同研究員	文化財保存交流セミナー	26年2月24日～28日	科研費

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　32人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Patricia De La Garza Cabrera	メキシコ	国立人類学歴史学研究所・紙保存修復技術者補	ICCROM-LATAMプログラムのための打合せ及び国際研修「紙の保存と修復」参加	6月28日～10月15日
2	Andrea Gabriela Via Rico	ボリビア	コチャバンバ市文化局・紙保存修復技術者補	国際研修「紙の保存と修復」参加	8月25日～9月14日
3	Siti Nur Hayaty Binti Mohd Syahrir	マレーシア	マレーシア国立公文書館・保存修復技術補佐	同上	同上
4	Amanda Diane Gould	カナダ	カナダ文明博物館・紙保存修復技術者	同上	同上
5	Dirk Ferlmann	ドイツ	紙修復工房・代表	同上	同上
6	Emma Louise Margaret Le Cornu	イギリス	キュー王立植物園・絵図事業保存修復技術者	同上	同上
7	John-Haimes Duffy	アラブ首長国連邦	シャルジャ博物館・主任保存修復技術者	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
8	Lisa Jeong-Reuss	オーストラリア	オーストラリア国立図書館・維持業務研究室長代行	同上	同上
9	Marisol Zuniga Lau	グアテマラ	ルートヴィヒ・フォン・ミーゼス図書館・保存研究室デジタル化事業責任者	同上	同上
10	Tuija Katriina Toivanen	スイス	チューリッヒ造形美術館・紙保存修復技術者／修復家	同上	同上
11	Victoria Anne Binder	アメリカ	サンフランシスコ美術館・準紙保存修復技術者	同上	同上
12	程博	中国	敦煌研究院保護研究所・研究員	中国壁画の保護に関する日中共同研究	9月22日～10月12日
13	鄭于澤	韓国	東国大学校大学院・教授	文化財の資科学的研究	10月3日～10月7日
14	Kishore Rao	フランス	ユネスコ世界遺産センター・センター長	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力」での講演	10月24日～10月30日
15	張 暁彤	中国	中国文化遺産研究院・副研究員	日本の文化財保存修復技術及び保護理念に関する調査研究	11月4日～11月23日
16	Marion Kite	イギリス	ビクトリア・アンド・アルバート美術館・家具・ﾃｷｽﾀｲﾙ・ﾌｧｯｼｮﾝ保存修復部門責任者	研究会「近代テキスタイルの保存と修復」の講演ほか	11月16日～11月24日
17	Chris Paulocik	カナダ	フリーランス	同上	同上
18	Simon Keinar	イギリス	セインズベリー日本藝術研究所・考古学センター長	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会の参加及び共同研究打合せ	26年1月7日～1月14日
19	Yukio Lippit	アメリカ	ハーバード大学・准教授	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会の参加及び討論	26年1月9日～1月14日
20	崔公鎬	韓国	韓国伝統文化大学校・教授	同上	同上
21	稲葉真以	韓国	光云大学・助教授	同上	同上
22	池村玲子	ドイツ	美術家	同上	同上
23	Melanie Trade	ドイツ	ハイデルベルク大学・教授	同上	同上
24	Kyi Lin	ミャンマー	ミャンマー国立博物館考古局・職員	壁画修復技術の研修	26年2月3日～2月7日
25	Myint Myint Oo	ミャンマー	ミャンマー国立博物館考古局・職員	同上	同上
26	Khin Zaw	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局・課長補佐	研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」への参加及び意見交換、関連文化遺産視察	26年2月17日～2月22日
27	Naing Win	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局・職員	同上	同上
28	Kyaw Myo Win	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局・課長補佐	同上	同上
29	蘇伯民	中国	敦煌研究院保護研究所・所長	研究報告会「敦煌芸術の科学的復原研究－壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ」への参加及び共同研究打合せ	26年2月17日～2月23日
30	王小偉	中国	敦煌研究院保護研究所・副研究員	同上	同上
31	Dorota Roz Mielecka	ポーランド	ブロツワフ国立博物館・キュレーター	在外日本古美術品保存修復事業における作品の輸送及びクーリエ	26年2月18日～2月23日
32	Tania Estrada Valadez	メキシコ	国立人類学民族博物館・保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」準備及び和紙の応用研究	26年3月3日～6月20日

【奈良文化財研究所】延べ100人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	エリザベス・ムーア	イギリス	ロンドン大学東洋アフリカ研究所・教授	ミャンマー考古学に関する情報交換	4月5日
2	Jesse Latting	アメリカ	ゲティ保存修復研究所	視察	4月10日
3	耿鳳英　他１５名	台湾	台南国立芸術大学博物館学研究所	博物館学に関する調査	4月22日
4	Trisha Logan	アメリカ合衆国	コロンビア大学建築・計画・保存大学院　アシスタントディレクター	コロンビア大学との共同研究によるインターンの受入	5月27日～6月7日
5	Tianchi YANG	アメリカ合衆国	コロンビア大学建築・計画・保存大学院生	コロンビア大学との共同研究によるインターンの受入	5月27日～6月7日
6	Jee Eun Ahn	アメリカ合衆国	コロンビア大学建築・計画・保存大学院生	コロンビア大学との共同研究によるインターンの受入	5月27日～6月7日
7	カール・ゲラート	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学バークレー校	視察	5月30日
8	Jose L. Contreras Victal	アメリカ合衆国	University of Houston	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
9	Jinsung Wang	アメリカ合衆国	University of Wisconsin-Milwaukee	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
10	Arend Van Gemmert　他１名	アメリカ合衆国	Louisiana State University	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
11	Eric Anqueh'P　他2名	フランス	INSA Rennes / IRISA	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
12	Antonio Parｚiale 他2名	イタリア	university of Salerno	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
13	Anna Barnett　他3名	イギリス	Oxford Brooks University	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
14	Jda Bosga 他3名	オランダ	Nymeger University	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
15	Phan Van Truyen　他1名	ベトナム社会主義共和国	TUAT	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
16	Nauyen Tuan Cuong	ベトナム社会主義共和国	Tokyo University of Agricalture and Technology	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
17	Arie Shangs	イスラエル	Tel Aviv University	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
18	Wenjie Cai	中華人民共和国	Kyushu University	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
19	Andreas Dengel　他2名	ドイツ	DFKI	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
20	Nauyen Tuan Cuong	ベトナム社会主義共和国	Tokyo University of Agricalture and Technology	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
21	Rejean Palamondon 他1名	カナダ	Ecole Polytechnique de Montreal	16th International Graphonomics Society Conference エクスカーション	6月10日
22	クロエ・カンポ・ドウ・モントゾン	フランス	フランス世界遺産協会　事務局長	世界遺産ロワール渓谷協議会からの視察	7月10日
23	Natan Itonga	キリバス共和国	Ministry of Internal & Social Affairs, Culture and Museum Divisin / Cultural Officer	ユネスコ・アジア文化センターが実施する研究への協力	8月1日～8月26日
24	Tiaontin Enari	キリバス共和国	Ministry of Environment, Land and Agricultural Developments, Land Management Division / Senior Cartographer	ユネスコ・アジア文化センターが実施する研究への協力	8月1日～8月26日
25	Anna puntigam	ドイツ	ベルリン応用科学大学　学生	金属遺物の保存修復について研修	8月1日～11月25日
26	金美京	大韓民国	公州国立博物館	視察	8月8日
27	エリザベス・ムーア	イギリス	ロンドン大学東洋アフリカ研究所・教授	所内研究会にて講演（ミャンマーの文化遺産）	8月22日
28	Mohammad Mohidul Islam	バングラディッシュ	Department of Archaeology / Custodian	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
29	Sangay Kinga	ブータン王国	Ministry of Home and Cultural Affairs, Royal Government of Bhutan / Assistant Architect	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
30	Siti Northayatty binit Haji Morni	ブルネイ　ダルサラーム国	Ministry of Culture, Youth and Sport / Scientific officer	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
31	Rully Andriadi	インドネシア	Cultural Service Office of Yogyakarta Special Region / Staff of Cultural Heritage Protection	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
32	Gulnaz Kulmaganbetova	カザフスタン共和国	Kazarchaeology LLP / Research engineer	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
33	Abdykanova Aida Kalydaevna	キルギス共和国	American University of Central Asia / Associate Professor	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
34	Thammavong Sivieng ham Vieng	ラオス人民民主共和国	Vientiane Capital Department of Information Cultural and Tourism / Technical Staff	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
35	Ismaiel Nasru	モルディブ共和国	Department of Heritage Ministry of Tourism, Arts and Culture / Assistant Research Officer	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
36	Titiml Stevens R.	マーシャル諸島共和国	Ministry of Internal Affairs / Historian	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
37	Enkh-Amgalan Ariunnyam	モンゴル国	Ministry of Construction and Urban Dvelopment / Officer in charge of Urban redevelopment	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
38	Blyss Wagstaff	ニュージーランド	New Zealand Historic Plaes Trust / Heritage Advisor	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
39	Muhammad Imran Zahid	パキスタン	Directorate General of Archaeology / Sub-Divisional Officer Archaeology Jhelum	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
40	Crisanto B. Lustre Ⅱ	フィリピン	National Historical Commission of the Philippines / Architect Ⅱ/Restoration Architect	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
41	Singappulige Nayana Dharshani Hewa	スリランカ	Ministry of National Heritage / Assistant Secretary	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
42	Thanaphattarapornchai Montri	タイ	The 12th Reginal Office of Fine Arts Department aaaanakorn Ratchasima / Archaeologist (Professional level)	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
43	Do Thi Thu Van	ベトナム社会主義共和国	Viet Nam Institute of Architecture, Urban and rural planning-Ministry of Construction / Manager	ACCU集団研修-木造建造物の保存と修復	9月3日～10月3日
44	Emam Abd El-Allah	エジプト	大エジプト博物館保存修復センター 無機物修復研究室長	文化財保存修復関連機関への視察研修	9月9日
45	Mahmoud Anis	エジプト	大エジプト博物館保存修復センター 無機物修復研究室員	文化財保存修復関連機関への視察研修	9月9日
46	Anwer Rashed	エジプト	大エジプト博物館保存修復センター 無機物修復研究室員	文化財保存修復関連機関への視察研修	9月9日
47	カール・ゲラート	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学バークレー校	国際交流基金による研究受入	9月17日～9月16日
48	Yahaya Ahmad	マレーシア	マラヤ大学	視察	10月28日
49	Helena Aman Hashim	マレーシア	マラヤ大学	視察	10月28日
50	Khandokar Mahfuz Alam	バングラディッシュ	Ministry of Cultural Affairs, Department of Archaeology / Assistant Architect	ACCU個人研修	11月5日～11月28日
51	Md. Ataur Rahman	バングラディッシュ	Ministry of Cultural Affairs, Department of Archaeology / Regional Director	ACCU個人研修	11月5日～11月28日
52	Mohammad Golam Fardaush	バングラディッシュ	Ministry of Cultural Affairs, Department of Archaeology / Field Officer	ACCU個人研修	11月5日～11月28日
53	梁　華綸	台湾	台湾国立文化部文化資産局古物遺址組　　組長	視察	11月8日
54	李　明俊	台湾	台湾国立文化部文化市民局	視察	11月8日
55	薛　銀樹	台湾	台湾中日經濟文化代表處	視察	11月8日
56	クリスチャン・クリスチャンセン	スウェーデン	ヨーテボリ大学　教授	視察	11月13日
57	柴　曉明	中華人民共和国	中国文化遺産研究院　副院長	日本における大型遺跡の保存活用に関する研究調査	11月21日～11月22日
58	杜　曉帆	中華人民共和国	中国文化遺産研究院文物研究所　副所長	日本における大型遺跡の保存活用に関する研究調査	11月21日～11月22日
59	余　建立	中華人民共和国	中国文化遺産研究院　館員	日本における大型遺跡の保存活用に関する研究調査	11月21日～11月22日
60	于　冰	中華人民共和国	中国文化遺産研究院　研究員	日本における大型遺跡の保存活用に関する研究調査	11月21日～11月22日
61	趙　夏	中華人民共和国	中国文化遺産研究院　副研究員	日本における大型遺跡の保存活用に関する研究調査	11月21日～11月22日
62	蘇　楊	中華人民共和国	国務院発展研究中心社会発展研究部　研究室主任	日本における大型遺跡の保存活用に関する研究調査	11月21日～11月22日
63	Damian Evans	オーストラリア	Director, University of Sydney Robert Chrstie Research Center, Siem Reap,Cambodia	アンコール遺跡研究に関する講演会	12月14日
64	Martin Polkinghorne	オーストラリア	Australian Research Council Postdoctoral Fellow	アンコール遺跡研究に関する講演会	12月14日
65	水鳥真美	英国	セインズベリー日本芸術研究所所長	視察	26年1月8日
66	サイモン・ケイナー	英国	セインズベリー日本芸術研究所副所長	視察	26年1月8日
67	ウェルナー・シュタインハウス	英国	セインズベリー日本芸術研究所研究員	視察	26年1月8日
68	Nguyen Quang THUAN	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院副院長	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日
69	Lu'u Thi Anh TUYET	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院国際協力部副部長	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
70	Nguyen Giang HAI	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院国際協力部部長	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日
71	Bui Duy TRI	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院帝都研究センター長	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日
72	Quach Van ACH	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院国際協力部副部長	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日
73	Tong Trung TIN	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院考古研究所長	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日
74	Nguyen Van ANH	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院帝都研究センター建造物装飾調査部長	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日
75	Le Thi Minh TRA	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院帝都研究センター国際協力室研究員	「タンロン皇城遺跡保存に関する協力事業」による、日本における遺構展示の事例研究のため	5月24日～5月31日
76	南浩鉉	大韓民国	国立慶州文化財研究所	古代文化関連遺跡の共同研究	8月1日～9月27日
77	Tran Van Chu	ベトナム社会主義共和国	Rector Vietnam Forestry University	ベトナム林業大学との拠点交流事業	8月24日～9月1日
78	Le Xuan Phuong	ベトナム社会主義共和国	Senior Lecture Vice-Head of Science Technology and International Divisin Vietnam Forestry University	ベトナム林業大学との拠点交流事業	8月24日～9月1日
79	Do Thi Ngoc Bich	ベトナム社会主義共和国	Lecture Director of Testing Center for Forest Products Vietnam Forestry University	ベトナム林業大学との拠点交流事業	8月24日～9月1日
80	李恩碩	大韓民国	韓国文化財庁　学芸研究士	「日韓古代文化の形成と発展過程」に関する共同研究	9月9日～9月15日
81	韓　志仙	大韓民国	韓国国立文化財研究所　学芸研究士	「日韓古代文化の形成と発展過程」に関する共同研究	9月14日～9月20日
82	Rufino Mauricio	ミクロネシア連邦	ミクロネシア教育大臣	文化庁平成25年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	10月12日～10月20日
83	孫新民	中華人民共和国	河南省文物考古研究員　研究館員	「河南省鞏義市黄治・白河当三彩窯跡の考古学研究と調査」共同研究	11月18日～11月27日
84	白宜鄭	中華人民共和国	河南省文物考古研究員　研究館員	「河南省鞏義市黄治・白河当三彩窯跡の考古学研究と調査」共同研究	11月18日～11月27日
85	李勝利	中華人民共和国	河南省文物考古研究員　館員	「河南省鞏義市黄治・白河当三彩窯跡の考古学研究と調査」共同研究	11月18日～11月27日
86	邢穎	中華人民共和国	河南省文物考古研究員　館員	「河南省鞏義市黄治・白河当三彩窯跡の考古学研究と調査」共同研究	11月18日～11月27日
87	梁法偉	中華人民共和国	河南省文物考古研究員　館員	「河南省鞏義市黄治・白河当三彩窯跡の考古学研究と調査」共同研究	11月18日～11月27日
88	沈陽	中華人民共和国	中国文化遺産研究院　総工程師弁公室　副総工程師	「建築文化遺産保存国際学術会議」出席	11月12日～11月16日
89	削東	中華人民共和国	中国文化遺産研究院　文物保護工程・規画所　副研究館員	「建築文化遺産保存国際学術会議」出席	11月12日～11月16日
90	党志剛	中華人民共和国	中国文化遺産研究院　科研・総合業務処　館員	「建築文化遺産保存国際学術会議」出席	11月12日～11月16日
91	崔柄壇	大韓民国	韓国国立文化財研究所	「建築文化遺産保存国際学術会議」出席	11月12日～11月16日
92	池成眞	大韓民国	韓国国立文化財研究所	「建築文化遺産保存国際学術会議」出席	11月12日～11月16日
93	朴贊珉	大韓民国	韓国国立文化財研究所	「建築文化遺産保存国際学術会議」出席	11月12日～11月16日
94	Feng　Wang	中華人民共和国	南京林業大学　大学院生	「中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義」共同研究	26年1月26日～2月15日
95	U Ko Ko Aung	ミャンマー	文化省　考古博物館部　副部長	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業	26年2月2日～2月8日
96	U Kyaw Nyi Htet	ミャンマー	文化省　考古フィールドスクール（ピイ）助教	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業	26年2月2日～2月8日
97	U Maung Maung Nan New	ミャンマー	文化省　考古フィールドスクール（ピイ）副手	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業	26年2月2日～2月8日
98	Nguyen Duc Thanh	ベトナム社会主義共和国	Wood Processing Departmenr Forest Industries Reasch Institute Vietnamese Academy of Forest Sciences 研究員	ベトナム出土木製品保存に関する拠点交流事業	26年2月17日～3月1日
99	権　宅章	大韓民国	国立羅州文化財研究所　学芸研究士	日韓共同研究	26年3月3日～3月7日
100	Nhoem Sophorn	カンボジア国	王立芸術大学卒業生	共同研究	26年3月15日～3月21日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ40人

※用務先が海外である場合を含む。また国内研究者を海外に派遣したもの延べ6名を含む(用務欄に用務先を記載)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Abhimanyu Singh	中華人民共和国	ユネスコ北京事務所長	「無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム」でのパネリスト出席 文化庁受託	8月2日～8月4日 (8月3日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
2	Ritu Sethi	インド共和国	クラフト リバイバル トラスト(NGO)代表	「無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム」でのパネリスト出席 京都の有形無形文化財の視察及び打ち合わせ 文化庁受託	8月2日～8月4日 (8月3日開催)
3	Buppha Devi Norodom	カンボジア王国	王女	「無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム」でのパネリスト出席 文化庁受託	8月2日～8月4日 (8月3日開催)
4	小塩　さとみ	日本	宮城教育大学教授	「無形文化遺産と博物館に関する研修会」への講師派遣 用務先：タイ（スリン） 文部科学省補助金	8月5日～8月10日 (8月6日～18日開催)
5	Timothy Curtis	タイ王国	ユネスコバンコク事務所文化ユニット・チーフ	「IRCI第2回運営理事会」出席 文化庁受託	10月20日～22日 (10月21日開催)
6	Bing Liang	中華人民共和国	文化部対外文化連絡局国際処長	「IRCI第2回運営理事会」出席 文化庁受託	10月20日～22日 (10月21日開催)
7	Sang-bum Nam	大韓民国	文化財庁国際協力課長補佐	「IRCI第2回運営理事会」出席 文化庁受託	10月20日～22日 (10月21日開催)
8	Cecilia Maria Belo de Assis	東ティモール民主共和国	観光省芸術文化局長	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
9	Irene Gonçalves dos Reis	東ティモール民主共和国	観光省文化遺産部研究広報課長	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
10	Diamantina Mendonça de Araújo	東ティモール民主共和国	観光省文化遺産部テクニカルアシスタントプロフェッショナル	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
11	Elísio Emiliano do Carmo	東ティモール民主共和国	観光省文化遺産部テクニカルプロフェッショナル	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
12	Paulo da Costa Maher	東ティモール民主共和国	観光省文化遺産部技術補助管理員	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
13	Maria Julieta da Costa	東ティモール民主共和国	オエクシ県文化課長	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
14	Rui Amaral Suri Seran	東ティモール民主共和国	コバリマ県文化課長	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
15	Celestino da Silva Mendes Sarmento	東ティモール民主共和国	マヌファヒ県文化課長	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
16	Nuno Vasco da Silva Miranda de Oliveira	東ティモール民主共和国	観光省芸術文化局文化遺産行政管理アドバイザー	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
17	長岡 正哲	インドネシア共和国	ユネスコジャカルタ事務所文化事業企画専門官	「東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー」参加 ユネスコ受託	10月21日～27日 (10月22日～26日開催)
18	Metje Postma	オランダ王国	ライデン大学講師	無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップへの参加 文化庁受託	26年2月2日～7日 (2月4日～6日開催)
19	Chindanai Jowalu	タイ王国	パケリャウ演者	無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップへの参加 文化庁受託	26年2月2日～7日 (2月4日～6日開催)
20	Kapila Venu	インド共和国	クーディヤッタム演者	無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップへの参加 文化庁受託	26年2月3日～7日 (2月4日～6日開催)
21	Celestino da Silva Mendes Sarmento	東ティモール民主共和国	マヌファヒ県文化課長	無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップへの参加 文化庁受託	26年2月2日～8日 (2月4日～6日開催)
22	Huong Thi My Doan	ベトナム社会主義共和国	観光文化省文化芸術研究院研究者	無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップへの参加及び金沢市内無形文化遺産関連施設視察 文部科学省補助金	26年2月2日～9日 (2月4日～6日開催)
23	Tam Dang Nguyen	ベトナム社会主義共和国	バクニン省ドンホー工芸継承者	無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップへの参加及び金沢市内無形文化遺産関連施設視察 文部科学省補助金	26年2月2日～9日 (2月4日～6日開催)
24	Phong Van Nguyen	ベトナム社会主義共和国	バクニン省観光文化局長	無形文化遺産の記録と活用に関するワークショップへの参加及び金沢市内無形文化遺産関連施設視察 文部科学省補助金	26年2月2日～9日 (2月4日～6日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
25	Steven Jos Van Uytsel	日本	九州大学法学研究院准教授	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」現地調査 用務先：ラオス（ビエンチャン） 文部科学省補助金	26年1月19日～1月25日
26	Branislav Hazucha	日本	北海道大学法学研究科准教授	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」現地調査 用務先：ラオス（ビエンチャン） 文部科学省補助金	26年1月19日～1月24日
27	羽賀　由利子	日本	金沢大学人間社会研究域法学系准教授	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」現地調査 用務先：ラオス（ビエンチャン） 文部科学省補助金	26年1月19日～1月25日
28	Steven Jos Van Uytsel	日本	九州大学法学研究院准教授	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」現地調査 用務先：カンボジア（プノンペン） 文部科学省補助金	26年2月11日～18日
29	羽賀　由利子	日本	金沢大学人間社会研究域法学系准教授	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」現地調査 用務先：カンボジア（プノンペン） 文部科学省補助金	26年2月11日～17日
30	Gejin Chao	中華人民共和国	Director, Professor, Institute of Ethnic Literature, Chinise Academy of Social Sciences	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月18日～21日 （2月19日～20日開催）
31	Maryam Memat Tavousi	イラン・イスラム共和国	Assistant Professor at the Research Center of ICHHT	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月18日～21日 （2月19日～20日開催）
32	Hien Thi Nguyen	ベトナム社会主義共和国	Director for the Center of Cultural Heritage Data	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月18日～21日 （2月19日～20日開催）
33	Evfrat Mambekov	カザフスタン共和国	Assistant Professor, Kazakh National Academy named after Zhurgenov	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月18日～21日 （2月19日～20日開催）
34	Janet Elizabeth Blake	イラン・イスラム共和国	Assistant Professor of International Law, University of Shahid Beheshti	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月17 日～21日 （2月19日～20日開催）
35	Hanafi bin Hussin	マレーシア	Lecturer, Department of Southeast Asian Studies, University of Malaya	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月18日～21日 （2月19日～20日開催）
36	Sipiriano Nemani Ranuku	フィジー共和国	Principal Policy and Conventions Officer, Department of National Heritage, Culture and Arts	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月10日～23日 （2月19日～20日開催）
37	Noriko Aikawa-Faure	フランス共和国	アジア太平洋無形文化遺産研究センター助言組織構成員	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月17 日～21日 （2月19日～20日開催）
38	Weonmo Park	大韓民国	Chief, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia and Pacific Region	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席 用務先：タイ（バンコク） 文化庁受託	26年2月18日～21日 （2月19日～20日開催）
39	Lian Kheng Koh	シンガポール	Emeritus Professor of the Law Faculty, National University of Singapore	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」報告会 文部科学省補助金	26年2月25日～2月28日
40	Irene Calboli	シンガポール	Visiting Professor of the Law Faculty, National University of SIngapore	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」報告会 文部科学省補助金	26年2月25日～2月28日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成26年3月31日現在

<table>
<tr><th rowspan="2">国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td>62 人</td><td>29人</td><td>11人</td><td>10人</td><td>12人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">111人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>49 人</td><td colspan="2">21人</td><td colspan="2">28人</td></tr>
<tr><td colspan="5">アジア太平洋無形文化遺産研究センター
0 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ 29人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	法政大学	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信	クライナー・ヨーゼフ	副館長　島谷弘幸
2	大正大学	仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究	文学部教授　加島勝	学芸企画部長　松本伸之
3	東京藝術大学	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開（科学研究補助金）	大学院助教　宮永美知代	企画課デザイン室長　木下史青
4	九州国立博物館	タイにおける異文化の受容と変容	主任研究員　原田あゆみ	博物館教育課長　小泉惠英
5	東京芸術大学	文化財管理における美術品用辞典の作成	河内晋平	博物館情報課情報管理室長　村田良二
6	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築―語彙と理論にまたがる総合的研究	美術工芸学部　山崎　剛	学芸研究部長　伊藤嘉章
7	国立歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費　基盤研究（B））	研究部准教授　上野祥史	列品管理課主任研究員　古谷 毅、他6名
8	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費　基盤研究（B））	調査課総括研究員　水野敏典	列品管理課主任研究員　古谷 毅、他3名
9	島根大学	山陰地方における既掘考古資料の再検討と歴史文化遺産の持続的活用（法文学部山陰研究プロジェクト）	文学部准教授　岩本崇	列品管理課主任研究員　古谷 毅
10	九州国立博物館	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究（科学研究費　基盤研究（B））	学芸部長　谷豊信	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男
11	京都大学人文科学研究所	中国典籍日本古写本の研究（科学研究費　基盤研究（A））	高田時雄	調査研究課長　田良島哲
12	実践女子大学	描いた女性たちに関する研究　-桃山時代から明治・大正期まで	仲町啓子	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
13	実践女子大学	描いた女性たちに関する研究　-桃山時代から明治・大正期まで-	仲町啓子	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
14	九州大学	南宋絵画史における仏画の位相―都と地域、中国と周縁―	井手誠之輔	調査研究課東洋室　塚本麿充
15	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究	学芸課長　今尾文昭	調査研究課考古室　品川欣也
16	岩手大学	考古資料の三次元計測とそのデータを基にした展開図作成に関する共同研究	工学部教授　今野晃市	調査研究課考古室　品川欣也
17	島根大学	長野県諏訪市曽根採集黒曜石製石器の蛍光X線分析による産地同定	法文学部准教授　及川穣	調査研究課考古室　品川欣也
18	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	三次元形状計測装置を用いた奈良・飛鳥時代の墓誌等の測定とその比較検討および展示に関する共同研究（平成25年度）	学芸課長　今尾文昭	調査研究課考古室　品川欣也
19	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	三次元形状計測装置を用いた奈良・飛鳥時代の墓誌等の測定とその比較検討および展示に関する共同研究（平成25年度）	学芸課長　今尾文昭	調査研究課考古室　井出浩正
20	立教大学	古代イスラエルの墓制と他界観に関する綜合的研究	月本昭男	調査研究課考古室　橋本英将
21	国立歴史民俗博物館	学際的研究による漆文化史の新構築	教授　日高薫	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
22	木更津市郷土博物館金のすず、国立歴史民俗博物館	金鈴塚古墳研究（仏教関連資料担当）	稲葉昭智、上野祥史	調査研究課工芸室　三田覚之
23	大正大学	仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究	文学部教授　加島勝	保存修復課環境保存室長　和田浩
24	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	教授　岩佐光晴	保存修復課環境保存室長　和田浩
25	森林総合研究所	木彫像の樹種識別技術の高度化	主任研究員　安部久	保存修復課環境保存室長　和田浩
26	人間文化研究機構国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田 直子	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
27	島根大学	長野県諏訪市曽根採集黒曜石製石器の蛍光X線分析による産地同定	法文学部准教授　及川穣	保存修復課主任研究員　荒木臣紀
28	九州国立博物館	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発 ―興福寺 国宝阿修羅像を中心に―	博物館科学課長　今津節生	楠井 隆史、鳥越 俊行、博物館教育課教育講座室長　丸山士郎、調査研究課東洋室長　浅見龍介、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩、岩佐 光晴
29	国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田直子	保存修復課長　神庭 信幸、保存修復課環主任研究員　荒木 臣紀、保存修復課環境保存室環境保存室長　和田 浩

【京都国立博物館】延べ11人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	成城大学	金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究－聖教の形成と伝播把握を基軸として	元教授　後藤昭雄	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
2	北海道大学	漢字文化圏における典籍の集積、国際伝播及びその伝承に関する実証的研究	名誉教授　石塚晴通	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
3	東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する調査研究	副館長　島谷弘幸	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
4	東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する調査研究	副館長　島谷弘幸	学芸部企画室主任研究員　羽田聡
5	大阪大谷大学	根来寺聖教の基礎的研究－智積院聖教を中心に－	教授　宇都宮啓吾	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
6	大阪大谷大学	根来寺聖教の基礎的研究－智積院聖教を中心に－	教授　宇都宮啓吾	学芸部企画室主任研究員　羽田聡
7	九州国立博物館	タイにおける異文化の受容と変容-１３世紀から１８世紀の対外交易品を中心として-	学芸部文化財課主任研究員　原田あゆみ	学芸部企画室研究員　末兼俊彦
8	日本女子大学	蝋管等初期録音資料群の音源保存、音声復元、内容分析、情報共有に関する横断的研究	教授　清水康行	学芸部長　村上　隆
9	法政大学	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信	客席所員　クライナー・ヨーゼフ	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
10	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡　穣	学芸部保存修理指導室長　淺湫毅
11	国際日本文化研究センター	海賊史観から交易を検討する：国際法と密貿易－海賊商品流通の学術的・文明史的研究	教授　稲賀繁美	学芸部列品管理室研究員　呉孟晋

【奈良国立博物館】延べ10人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	福山市立大学	「ＥＳＤ」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	教授　田渕　五十生	学芸部長　西山　厚
2	福山市立大学	「ＥＳＤ」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	教授　田渕　五十生	学芸部教育室長　吉澤　悟
3	九州大学	南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－	教授　井手　誠之輔	学芸部保存修理指導室長 谷口　耕生
4	東京文化財研究所	近江の古代中世彫像の基礎的調査・研究－基礎データと画像貯蓄のために－	文化形成研究室長　津田徹英	学芸部美術室長　岩田　茂樹
5	京都国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	保存修理指導室長　淺湫　毅	学芸部美術室長　岩田　茂樹
6	京都国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	保存修理指導室長　淺湫　毅	学芸部美術室研究員 山口　隆介
7	大阪市立大学	東大寺史の総合的再構成－『東大寺要録』を中心に－	名誉教授　栄原永遠男	学芸部美術室研究員 山口　隆介
8	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡　穣	学芸部美術室長　岩田　茂樹
9	種智院大学	東インド新発掘の仏教遺跡と出土遺品に関する研究	講師　頼富　本宏	学芸部工芸考古室長　内藤　栄
10	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授　稲本　泰生	学芸部保存修理指導室長 谷口　耕生

【九州国立博物館】延べ 12件

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費助成事業　基盤研究（Ａ））	学芸課長　今尾文昭	博物館科学課長　今津節生
2	京都大学	木製文化財の非破壊材質評価とデジタルアーカイブ作成	生存圏研究所教授　杉山淳司	博物館科学課長　今津節生
3	明治大学	茨城県ひたちなか市虎塚壁画古墳の保存に関する総合的研究（科学研究費助成事業　基盤研究（Ｂ））	文学部専任教授　矢島國雄	学芸部特任研究員　本田光子
4	桃山学院大学	東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7-10世紀を中心に（科学研究費助成事業　基盤研究（Ｂ））	国際教養学部教授　深見純生	企画課特別展室主任研究員　原田あゆみ
5	岡山大学	副葬品の構造・材質・色彩からみた古墳葬送空間の再現的研究（科学研究費助成事業　基盤研究（Ｂ））	社会文化科学研究科教授　松木武彦	博物館科学課長　今津節生 文化財課資料登録室主任研究員　鳥越俊行
6	東京国立博物館	極薄青銅器の製作技術解明-中国金属工芸史を再構築するための基盤研究-（科学研究費助成事業　基盤研究（Ｂ））	学芸研究部列品管理課平常展室研究員　川村佳男	学芸部長　谷豊信
7	高岡法科大学	近世文書料紙の形態・紙質に関する系譜論的研究（科学研究費助成事業　基盤研究（Ｂ））	法学部准教授　本多俊彦	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫
8	北九州市立自然史・歴史博物館	考古学からみた中世鋳物師の総合的研究	歴史課長 松井和幸	文化財課資料登録室主任研究員　鳥越俊行
9	東京大学史料編纂所	宗家史料の目録化（東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点事業特定共同研究）	教授　鶴田啓	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲
10	東京国立博物館	塚廻古墳出土漆籠棺残片研究会	保存修復課長　神庭信幸	企画課特別展室主任研究員 市元塁
11	日本博物館協会	「博物館における青少年教育」　ドイツにおける博物館教育	日本博物館協会会長　銭谷眞美	交流課主任研究員　池内一誠
12	こどもひかりプロジェクト	ミュージアムが提供する体験プログラムを通じての東日本大震災被災児童への支援	清水文美（兵庫県立人と自然の博物館run♪run♪plaza）	交流課主任研究員　池内一誠 交流課　土屋和美 交流課　徳永あずさ

【東京文化財研究所】延べ21人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	筑波大学	中近東･北アフリカにおけるビザンティン建築遺産の記録､保存､公開に関する研究	筑波大学芸術系 教授　日高　健一郎	東京文化財研究所　副所長 石崎　武志
2	弘前大学	中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究	弘前大学人文学部 教授　関根　達人	保存修復科学センター 伝統技術研究室長　北野　信彦
3	東北大学	生身と霊験―宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究	東北大学文学研究科 名誉教授　有賀　祥隆	企画情報部 文化形成研究室長 津田　徹英
4	東京藝術大学	迎賓館赤坂離宮天井絵画修復事業に関わる損傷と劣化原因の解明	東京藝術大学大学院美術研究科 教授　木島　隆康	企画情報部　副部長 山梨　絵美子
5	東京大学	観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル･アーカイブを活用した新しい能楽史の構築	東京大学大学院総合文化研究科 教授　松岡　心平	無形文化遺産部 無形文化財研究室長 高桑　いづみ
6	明治大学	茨城県ひたちなか市虎塚古墳の保存に関する総合的研究	明治大学文学部 教授　矢島　國雄	保存修復科学センター 主任研究員　犬塚　将英
7	大谷大学	新出土仏教遺物と文献史料の統合による13～17世紀北アジアの再構築	大谷大学文学部 教授　松川　節	企画情報部 情報システム研究室長 二神　葉子
8	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	東京国立博物館学芸企画部企画課 主任研究員　沖松　健次郎	企画情報部 主任研究員　小林　達朗
9	金沢文庫	中世都市鎌倉を中心とする宗教的ネットワークの研究	金沢文庫学芸課 課長　西岡　芳文	企画情報部 文化形成研究室長 津田　徹英
10	東京大学	文化資産としてのマイクロフィルム保存に関する基礎研究:実態調査からの実証的分析	東京大学大学院経済学研究科 講師　小島　浩之	保存修復科学センター 保存科学研究室長　佐野　千絵
11	早稲田大学	享保以降義太夫節浄瑠璃作品のデジタル･アーカイブ化に向けての研究	早稲田大学演劇博物館 名誉教授　鳥越　文蔵	無形文化遺産部 音声・映像記録研究室長 飯島　満
12	九州大学	未解読楽譜のデータベース化に関する総合的研究	九州大学芸術工学研究院 准教授　矢向　正人	無形文化遺産部 無形文化財研究室長 高桑　いづみ
13	鹿児島大学	住吉派の事例にみる古典受容の在り方の解明―画像パターンの分析を中心に―	鹿児島大学教育学部 教授　下原　美保	文化遺産国際協力センター 主任研究員　江村　知子
14	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	大阪大学文学研究科 教授　藤岡　穣	企画情報部 研究員　皿井　舞
15	奈良文化財研究所	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	奈良文化財研究所企画調整部 国際遺跡研究室長　森本 晋	文化遺産国際協力センター センター長　川野邊　渉
16	桃山学院大学	東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7-10世紀を中心に	桃山学院大学国際教養学部 教授　深見 純生	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 佐藤　桂
17	国士舘大学	ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学	国士舘大学イラク古代文化研究所 教授　大沼 克彦	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 久米　正吾
18	京都工芸繊維大学	蛍光寿命測定の文化財材料への応用に関する基礎研究	京都工芸繊維大学美術工芸資料館 研究員　佐々木 良子	保存修復科学センター 主任研究員　吉田　直人
19	茨城大学	内生細菌を利用した糸状菌形質転移体作出技術の開発	茨城大学農学部 教授　太田　寛行	保存修復科学センター 研究員　佐藤　嘉則
20	茨城大学	糸状菌エンドファイトー内生バクテリア間相互作用の解明とその利用	茨城大学農学部 教授　成澤　才彦	保存修復科学センター 研究員　佐藤　嘉則
21	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築－語彙と理論にまたがる総合的研究	金沢美術工芸大学美術工芸学部 教授　山崎　剛	企画情報部　副部長 山梨　絵美子

【奈良文化財研究所】延べ28人

○科学研究費補助金　延べ23人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 ―天皇家・公家文庫を中心に―	教授　田島　公	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
2	奈良大学	東アジア木簡学の確立	教授　角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
3	東京大学	ボーンデジタル画像管理システムの確立に基づく歴史史料情報の高度化と構造転換の研究	教授　山家　浩樹	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
4	東京大学	正倉院文書の多元的解析支援と広領域研究資源化	准教授　山口　英男	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
5	東京大学	ボーンデジタル画像管理システムの確立に基づく歴史史料情報の高度化と構造転換の研究	教授　山家　浩樹	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
6	立命館大学	古代中世東アジアの関所と交通政策	教授　鷹取　祐司	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
7	鳴門教育大学	年輪年代学の総合的研究-文化財科学における応用的展開をめざして-	教授　米延　仁志	埋蔵文化財センター年代学研究室　研究員　星野　安治

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
8	東京大学	植物・土器・人骨の研究を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究	教授　設楽　博己	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
9	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授　石田　潤一郎	都城発掘調査部遺構究室 研究員　松下　迪生
10	山梨県立博物館	日韓内陸地域における雑穀農耕の起源に関する科学的研究	学芸課長　中山　誠二	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
11	神戸女子大学	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究	教授　大谷 節子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
12	京都大学	淀川流域における古墳群形成過程の再検討	教授　上原　真人	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　諫早　直人
13	東京文化財研究所	西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究	所長　亀井　伸雄	企画調整部国際遺跡研究室特別研究員（AF）　田代　亜紀子
14	九州国立博物館	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究	学芸部長　谷　豊信	企画調整部展示企画室 研究員　丹羽　崇史
15	大阪市立大学	東大寺史の再構成-『東大寺要録』を中心に-	特任教授　栄原　永遠男	文化遺産部歴史研究室長 吉川　聡
16	慶應義塾大学	本州最北部における更新世人類集団の学際的調査・研究	教授　佐藤　孝雄	都城発掘調査部主任研究員 渡辺　丈彦
17	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第三研究室 研究員　川畑　純
18	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　諫早　直人
19	東北大学	年輪幅・年輪同位体比・DNAマーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室　研究員　星野　安治
20	関西外国語大学	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	教授　片岡　修	企画調整部国際遺跡研究室 研究員　石村　智
21	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎 健
22	大阪市立大学	密林に覆われた古代水利都市アンコール遺跡群の実像解明・保全・修復研究	准教授　原口　強	企画調整部長 杉山　洋
23	奈良産業大学	正倉院文書による日本語表記成立過程の解明	准教授　桑原　祐子	都城発掘調査部歴史研究室長 渡邉 晃宏

○学術研究助成基金助成金　延べ5人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	新潟県立看護大学	韓国出土古人骨への自然人類学的総合アプローチ	准教授　藤田　尚	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
2	関西外国語大学	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	教授　片岡　修	企画調整部国際遺跡研究室 研究員　石村　智
3	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原 信生
4	北海道大学	ヘリテージツーリズムによる地域の文化遺産マネジメントに関する研究	特任助教　池ノ上　真一	企画調整部国際遺跡研究室特別研究員（AF）　田代　亜紀子
5	立命館大学	異宗教の相剋により生じた社会現象の比較史的研究-古代仏教説話に見る伝統と革新	教授　本郷　真紹	都城発掘調査部主任研究員 山本 崇

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成26年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
474人	155 人	41人	19人	8人	87人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	301 人	157人		144人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	18 人				

【東京国立博物館】延べ　41人(科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を除く)

(参考：科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を含む合計人数は71人)

○海外交流展経費・招へい共通事業費　２６人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	富田　淳	台湾	4月9日～11日	特別展「台北故宮博物院精華展(仮称)」作品交渉のため	海外交流展経費
2	木下　史青	スペイン	4月15日～19日	プラド美術館開催「THE INVITED WORK. JAPAN-SPAIN YEAR」にかかる打ち合わせのため	海外交流展経費
3	土屋　裕子	スペイン	4月15日～19日	プラド美術館開催「THE INVITED WORK. JAPAN-SPAIN YEAR」にかかる打ち合わせのため	海外交流展経費
4	鬼頭　智美	英国	4月16日～23日	国際展覧会オーガナイザー会議出席のため	招へい共通事業費
5	伊藤　信二	米国	9月18日～23日	クリーブランド展開催準備に伴う作品調査のため	海外交流展経費
6	土屋　貴裕	米国	9月18日～23日	クリーブランド展開催準備に伴う作品調査のため	海外交流展経費
7	井上　洋一	ベトナム	10月7日～12日	第4回ANMA定期大会に参加のため	海外交流展経費
8	鬼頭　智美	ベトナム	10月7日～12日	第4回ANMA定期大会に参加のため	海外交流展経費
9	楊　鋭	中国	10月15日～17日	「台北國立故宮博物院」展にかかる調印式に出席のため	海外交流展経費
10	田良島　哲	中国	10月16日～17日	「台北國立故宮博物院」展にかかる調印式に出席のため	海外交流展経費
11	井出　浩正	韓国	11月4日～17日	東京国立博物館・韓国国立中央博物館の学術交流のため	海外交流展経費
12	白井　克也	韓国	11月4日～15日	国際シンポジウム（第15回ワークショップ「近代美術」）に参加のため（韓国）	海外交流展経費
13	金井　裕子	韓国	11月22日～30日	東京国立博物館・韓国国立中央博物館の学術交流のため	招へい共通事業費
14	島谷　弘幸	中国	12月3日～5日	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」展にかかる出品御礼および作品返却のため	海外交流展経費
15	松嶋　雅人	米国	26年2月9日～17日	海外展事前調査、クリーブランド美術館開催「伝統の再創造―東京国立博物館所蔵　日本の近代美術」展の開会式出席のため	海外交流展経費
16	齊藤　孝正	韓国	26年2月11日～14日	日中韓共催展の作品調査および協議のため	海外交流展経費
17	横山　梓	韓国	26年2月11日～14日	日中韓共催展の作品調査および協議のため	海外交流展経費
18	島谷　弘幸	米国	26年2月12日～17日	クリーブランド美術館開催「伝統の再創造―東京国立博物館所蔵　日本の近代美術」展の開会式出席のため	海外交流展経費
19	鬼頭　智美	米国	26年2月12日～17日	クリーブランド美術館開催「伝統の再創造―東京国立博物館所蔵　日本の近代美術」展の開会式出席のため	海外交流展経費
20	橋本　英将	ドイツ・オーストリア	26年2月15日～23日	平成館考古展示室改修に向けたドイツ等視察のため	海外交流展経費
21	品川　欣也	ドイツ・オーストリア	26年2月15日～23日	平成館考古展示室改修に向けたドイツ等視察のため	海外交流展経費
22	楊　鋭	中国	26年3月1日～8日	中国甘粛省出土品の調査のため	海外交流展経費
23	井出　浩正	中国	26年3月1日～8日	中国甘粛省出土品の調査のため	海外交流展経費
24	川村　佳男	中国	26年3月1日～8日	中国甘粛省出土品の調査のため	海外交流展経費
25	鬼頭　智美	中国	26年3月10日～14日	東京国立博物館・上海博物館の学術交流のため	招へい共通事業費
26	横山　梓	中国	26年3月12日～20日	東京国立博物館・上海博物館の学術交流のため	招へい共通事業費

○職員旅費（その他）：延べ１５人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	島谷　弘幸	台湾	4月9日～11日	特別展「台北故宮博物院精華展(仮称)」作品交渉のため	総務課運営費
2	楊　鋭	中国	4月18日～21日	上海博物館における「青山杉雨の眼と書」展の準備ならびに館長随行のため	館長裁量経費
3	島谷　弘幸	ブラジル	8月10日～19日	第23回　ICOM国際会議出席のため	館長裁量経費
4	神庭　信幸	ブラジル	8月10日～19日	第23回　ICOM国際会議出席のため	館長裁量経費
5	和田　浩	韓国	9月4日～10日	国際学術シンポジウム（東アジア文化遺産の保存について）出席、情報収集・交換、講演のため	研究奨励費
6	富田　淳	中国	9月10日～10月15日	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」展にかかる作品調査のため	宋元絵画名品展
7	塚本　麿充	中国	9月10日～10月15日	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」展にかかる作品調査のため	宋元絵画名品展
8	富田　淳	中国	9月24日～25日	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」展にかかる作品借用のため	宋元絵画名品展
9	沖松健次郎	中国	9月24日～26日	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」展にかかる作品借用のため	宋元絵画名品展
10	島谷　弘幸	ベトナム	10月7日～12日	第4回ANMA定期大会に参加のため	館長裁量経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
11	富田　淳	中国	12月2日～8日	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」展にかかる作品返却のため	宋元絵画名品展
12	塚本　麿充	中国	12月2日～8日	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」展にかかる作品返却のため	宋元絵画名品展
13	荒木　臣紀	ドイツ・英国	12月15日～20日	大型CTの検品作業及び大英博物館修理施設視察のため	研究奨励費
14	小泉　惠英	スリランカ	26年2月16日～27日	国際交流基金助成金「スリランカ北部ジャフナにおける内戦後の博物館および文化遺産の現状調査」	国際交流基金
15	小泉　惠英	イタリア	26年3月25日～30日	支倉展にかかる作品返却のため	支倉展経費

○科学研究費補助金：延べ２８人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	古谷　毅	韓国	6月14日～18日	平成２５年度科学研究費補助金（基盤研究（C）） 家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究にかかる調査・研究会のため	科学研究費補助金
2	浅見　龍介	韓国	7月12日～17日	平成２５年度科学研究費補助金（基盤研究（Ａ）） 5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究にかかる韓国調査のため	科学研究費補助金
3	伊藤　信二	米国	8月9日～16日	平成２５年度科学研究費補助金（基盤研究（A）） 中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究の調査のため	科学研究費補助金
4	高木　結美	米国	8月9日～16日	平成２５年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 東アジアにおける繍仏の基礎的研究の調査のため	科学研究費補助金
5	塚本　麿充	米国	8月9日～16日	平成２５年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 東アジアにおける繍仏の基礎的研究の調査のため	科学研究費補助金
6	土屋　貴裕	米国	8月9日～16日	平成２５年度科学研究費補助金(若手研究（A)) 絵巻の<伝来>をめぐる総合的研究の調査のため	科学研究費補助金
7	沖松　健次郎	米国	8月12日～16日	平成２５年度科学研究費補助金（基盤研究（A）） 中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究の調査のため	科学研究費補助金
8	遠藤 楽子	スイス	10月13日～18日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） ウィーン万国博覧会関係資料等調査	科学研究費補助金
9	島谷　弘幸	フランス・ドイツ	10月21日～26日	「現代日本の書代表作家パリ展（SHO2）」開催に伴う派遣	科学研究費補助金
10	丸山　士郎	中国	10月28日～31日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究のため	科学研究費補助金
11	和田浩	中国	10月28日～31日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究のため	科学研究費補助金
12	川岸　瀬里	韓国	12月20日～23日	平成25年度科学研究費補助金（若手研究（B）） 聴覚障害を持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築にかかる調査のため	科学研究費補助金
13	小山　弓弦葉	米国	12月28日～26年1月8日	平成25年度科学研究費補助金（若手研究（A）） 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究のため	科学研究費補助金
14	佐々木　佳美	米国	12月28日～26年1月8日	平成25年度科学研究費補助金（若手研究（A）） 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究のため	科学研究費補助金
15	高木　結美	フランス	26年2月3日～9日	平成25年度科学研究費補助金（若手研究（A）） 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究	科学研究費補助金
16	小山弓弦葉	フランス	26年2月3日～9日	平成25年度科学研究費補助金（若手研究（A）） 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究	科学研究費補助金
17	佐々木佳美	フランス	26年2月3日～9日	平成25年度科学研究費補助金（若手研究（B）） 「近世武家女性の衣生活に関する基礎的研究」の調査のため	科学研究費補助金
18	塚本　麿充	米国	26年2月11日～20日	College Art Association学会参加、プリンストン大学美術館調査のため	科学研究費補助金
19	白井　克也	ドイツ・オーストリア	26年2月15日～23日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	科学研究費補助金
20	丸山　士郎	韓国	26年2月18日～20日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究	科学研究費補助金
21	沖松健次郎	韓国	26年2月18日～20日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究	科学研究費補助金
22	伊藤　信二	韓国	26年2月19日～21日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究	科学研究費補助金
23	遠藤 楽子	オーストリア	26年2月19日～23日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	科学研究費補助金
24	和田　浩	韓国	26年2月22日～23日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）） 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究	科学研究費補助金
25	島谷　弘幸	米国	26年2月24日～3月1日	イェール大学講演会並びに島谷科研メトロポリタン美術館調査	科学研究費補助金
26	島谷　弘幸	中国	26年3月10日～12日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ａ）） 「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」にかかる調査のため	科学研究費補助金
27	富田　淳	中国	26年3月10日～12日	平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（Ａ）） 「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」にかかる調査のため	科学研究費補助金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
28	鈴木希帆	スウェーデン	26年3月12日～17日	平成25年度科学研究費補助金（研究活動スタート支援） 視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究のため	科学研究費補助金

○その他助成金：延べ２人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	木下　史青	ドイツ	11月20日～24日	本館1階展示室改修工事（施設整備費）にかかる展示ケースガラス等検査のため	施設整備費補助金
2	白井　克也	ドイツ	11月19日～24日	本館1階展示室改修工事（施設整備費）にかかる展示ケースガラス等検査のため	施設整備費補助金

【京都国立博物館】延べ19人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	呉　孟晋	アメリカ合衆国	5月16日～22日	「狩野山楽・山雪展」出品作品の返却	毎日新聞社
2	呉　孟晋	台湾	5月27日～6月1日	国際シンポジウム参加、作品調査	仏光大学
3	呉　孟晋	台湾	7月20日～23日	作品・資料調査	関西中国書画コレクション研究会
4	赤尾　栄慶	中国	8月30日～9月8日	西域出土文献の調査と史跡調査	科研費
5	淺湫　毅	韓国	9月9日～12日	彫刻作品の調査	科研費
6	永島　明子	オランダ、スペイン	9月23～30日	漆器調査（アムステルダム国立美術館）、南蛮漆器展（スペイン国立工芸美術館）見学	科研費
7	鬼原　俊枝	イギリス	10月13日～19日	収蔵品貸与に係るクーリエとして随伴、設営に従事	ヴィクトリア&アルバート博物館
8	山川　暁	中国	10月25日～29日	国際シンポジウムMaritime Silk Road: Cross Culture Exchange and Legacy in Asiaに発表者として参加	China National Silk Museum
9	村上　隆	フランス	11月1日～8日	日本文化財保存修復センター構想策定に係る海外実態調査	京都府
10	末兼　俊彦	タイ	11月5日～11日	科研費(基盤B)「タイにおける異文化の受容と変容」(研究代表者：九博・原田あゆみ)に係る現地調査	科研費
11	永島　明子	イギリス、フランス	11月24日～12月11日	漆器の調査	科研費
12	呉　孟晋	イギリス	12月3日～8日	出陳作品の展示替えおよびシンポジウム参加・発表	ヴィクトリア&アルバート博物館
13	呉　孟晋	中国	12月10日～15日	シンポジウム参加・発表	嶺南画派紀年館
14	呉　孟晋	台湾	26年1月17日～19日	ワークショップ「陳澄波専題研究」・専題講座で発表	台南市政府文化局
15	呉　孟晋	イギリス	26年1月20日～24日	出陳作品の撤収・運搬	ヴィクトリア&アルバート博物館
16	淺湫　毅	韓国	26年1月25日～28日	彫刻作品および仏教遺跡調査	科研費
17	赤尾　栄慶	イギリス	26年1月30日～2月8日	中国及び日本の仏教関係の写本・版本の調査研究	科研費
18	淺湫　毅	韓国	26年2月8日～11日	金銅仏の調査	科研費
19	村上　隆	スリランカ・フランス	26年2月17日～3月1日	「クールジャパン 日本人の智慧」inスリランカ、パリに参加	「クールジャパン 日本人の智慧」実行委員会

【奈良国立博物館】延べ8人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	谷口　耕生	中国	7月24日～8月18日	中国河南博物院との協定に基づく学術交流	中国河南博物院
2	岩戸　晶子	同上	7月24日～8月22日	同上	同上
3	永井　洋之	同上	8月5日～8月14日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	中国上海博物館
4	岩井　共二	韓国	12月11日～26年1月10日	韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	韓国国立慶州博物館

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	備考
5	清水　功	韓国	9月15日～9月17日	国立慶州博物館からの招聘による学術交流と特別展開幕式への列席	韓国国立慶州博物館
6	岩戸　晶子	同上	同上	同上	同上
7	岩田　茂樹	同上	26年1月25日～28日	科研費による遠願寺址・浄恵寺址他（韓国）の調査	遠願寺址・浄恵寺址（韓国）
8	山口　隆介	同上	同上	同上	同上

【九州国立博物館】延べ 87人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	原田あゆみ	タイ	4月22日～26日	タイ王国文化省芸術局との学術文化交流事業に係る会議、保存修復事業に係る会議、東南アジア美術・災害文化財調査	職員旅費
2	小泉惠英	タイ	4月22日～26日	タイ王国文化省芸術局との学術文化交流事業に係る会議、保存修復事業に係る会議、東南アジア美術・災害文化財調査	職員旅費
3	藤田励夫	タイ	4月22日～26日	タイ王国文化省芸術局との学術文化交流事業に係る会議、保存修復事業に係る会議、東南アジア美術・災害文化財調査	職員旅費
4	志賀智史	タイ	4月23日～26日	タイ王国文化省芸術局との学術文化交流事業に係る会議、保存修復事業に係る会議、東南アジア美術・災害文化財調査	職員旅費
5	今津節生	トルコ	5月11日～18日	WOAM2013（The 12th ICOM-CC Wet Organic Archaeological Materials）出席	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
6	市元塁	台湾	5月13日～15日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」の開催に係る協議	職員旅費
7	小泉惠英	台湾	5月13日～15日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」の開催に係る協議	職員旅費
8	三輪嘉六	台湾	5月13日～15日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」の開催に係る協議	職員旅費
9	川畑憲子	イギリス、フランス	5月27日～6月1日	購入に関わる作品調査	職員旅費
10	藤田励夫	中国	5月28日～6月2日	漢訳大般若経成立に関する調査	科学研究費
11	森實久美子	中国	5月28日～6月2日	漢訳大般若経成立に関する調査	科学研究費
12	小泉惠英	イギリス	6月2日～7日	特別展「大英博物館展（仮称）」の開催にかかる作品調査、所蔵者との協議	先方負担
13	望月規史	インドネシア	6月12日～17日	特別展「大ベトナム展」借用作品の返却	職員旅費
14	小泉惠英	インドネシア	6月12日～17日	特別展「大ベトナム展」借用作品の返却	職員旅費
15	藤田励夫	ベトナム	6月16日～22日	特別展「大ベトナム展」借用作品の返却、ハノイ展会議出席、文化交流展に関する調査	職員旅費
16	川畑憲子	ベトナム	6月16日～22日	特別展「大ベトナム展」借用作品の返却、ハノイ展会議出席、文化交流展に関する調査	職員旅費
17	原田あゆみ	ベトナム	6月18日～22日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る協議	職員旅費
18	岸本 圭	ベトナム	6月19日～22日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る協議	県費
19	三輪嘉六	韓国	7月3日～6日	「百済展（仮称）」に係る会議出席	職員旅費
20	赤司善彦	韓国	7月3日～6日	「百済展（仮称）」に係る会議出席	県費
21	畑靖紀	メキシコ	7月20日～28日	特別展「大航海時代の南蛮美術（仮称）」に係る調査	職員旅費
22	鷲頭桂	メキシコ	7月20日～28日	特別展「大航海時代の南蛮美術（仮称）」に係る調査	職員旅費
23	川畑憲子	メキシコ	7月20日～28日	特別展「大航海時代の南蛮美術（仮称）」に係る調査	職員旅費
24	藤田励夫	アメリカ	7月21日～29日	崇永版版本大般若経調査用務	科学研究費
25	小泉惠英	台湾	8月1日～2日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に係る会議	職員旅費
26	谷豊信	台湾	8月1日～2日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に係る会議	職員旅費
27	三輪嘉六	台湾	8月1日～2日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に係る会議	職員旅費
28	三輪嘉六	中国	9月1日～6日	文化財保存修復調査	職員旅費
29	市元塁	中国	9月1日～7日	科学研究費助成事業「契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－」に係る調査	科学研究費
30	今津節生	中国、韓国	9月1日～7日	文化財保存修復調査、「2013東アジア文化遺産保存国際シンポジウム」出席	職員旅費、科学研究費
31	臺信祐爾	中国	9月3日～7日	科学研究費助成事業「契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－」に係る調査	科学研究費
32	志賀智史	ベトナム	9月3日～7日	ベトナム国立歴史博物館所蔵漆絵の修理に係る調査	職員旅費
33	秋山純子	韓国	9月4日～8日	科学研究費助成事業「赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究」に係る学会参加及び調査	科学研究費
34	岸本 圭	ベトナム	9月4日～7日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る協議	職員旅費
35	池内一誠	ドイツ	9月10日～23日	平成25年度日独青少年指導者セミナー派遣事業 「博物館における青少年教育」に係るドイツ派遣事業	その他
36	西島亜木子	アメリカ	9月18日～23日	特別展「クリーブランド美術館展」に係る調査及び協議	職員旅費
37	畑靖紀	アメリカ	9月18日～23日	特別展「クリーブランド美術館展」に係る調査及び協議	職員旅費
38	鷲頭桂	アメリカ	9月18日～23日	特別展「クリーブランド美術館展」に係る調査及び協議	職員旅費
39	臺信祐爾	オーストラリア	9月29日～10月3日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究に係る調査及び情報収集	その他
40	赤司善彦	オーストラリア	9月29日～10月3日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究に係る調査及び情報収集	その他
41	今津節生	オーストラリア	9月29日～10月6日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究に係る調査及び情報収集	その他
42	秋山純子	アメリカ	10月14日～21日	科学研究費助成事業「赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究」に係る調査	科学研究費
43	森實久美子	アメリカ	10月14日～21日	科学研究費助成事業「赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究」に係る調査	科学研究費
44	三輪嘉六	台湾	10月16日～17日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」の開催調印式出席	職員旅費
45	谷豊信	台湾	10月16日～17日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」の開催調印式出席	職員旅費
46	川畑憲子	アメリカ	10月28日～11月5日	科学研究費助成事業に関わる漆器調査	科学研究費
47	谷豊信	台湾	11月5日～8日	「南京博物院第二期拡張工事竣工・建院80周年記念式典」出席	先方負担
48	望月規史	タイ	11月5日～11日	科学研究費助成事業「タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－」に係る調査及び情報収集	職員旅費
49	原田あゆみ	タイ、ベトナム	11月5日～12日	科学研究費助成事業「タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－」に係る情報収集及び学会参加、海外交流展「日タイ修好130周年記念特別展タイ展（仮称）」に係る協議及び調査、平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展調印式出席	職員旅費、科学研究費
50	鷲頭桂	ドイツ、イギリス	11月6日～15日	科学研究費助成事業「赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究」に係る調査	職員旅費、科学研究費
51	三輪嘉六	タイ、ベトナム	11月8日～12日	（公財）住友財団修復事業に係る協議、平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展調印式出席	職員旅費
52	志賀智史	タイ、ベトナム	11月8日～15日	バンコク国立博物館所蔵「大扉」の保存修理に係る調査及び打合せ、ベトナム国立博物館所蔵漆絵の修理に係る調査及び打合せ	職員旅費
53	岸本　圭	ベトナム	11月9日～12日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る協議	職員旅費
54	今津節生	中国	11月9日～17日	西夏文書の保存と環境整備、科学研究費助成事業に係る打合せ	職員旅費、科学研究費
55	市元塁	中国	11月10日～16日	科学研究費助成事業「契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－」に係る協議及び調査	科学研究費
56	河野一隆	中国	11月11日～13日	科学研究費助成事業「三次元デジタル計測技術を活用した中国古古代青銅	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
				器の製法技法の研究」に係る調査及び協議	
57	臺信祐爾	中国	11月14日～16日	科学研究費助成事業「契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－」に係る協議	科学研究費
58	秋山純子	韓国	11月25日～12月7日	学術文化交流協定に基づく研究者交流及び調査	職員旅費、先方負担
59	岸本　圭	韓国	11月25日～12月7日	韓国公州国立博物館との学術文化交流事業の一環での学術情報の交換、交流協力関係の強化を図るための韓国の保存科学の現状の調査	県費
60	原田あゆみ	台湾	11月27日～29日	特別展「国宝 大神社展」に係る作品借用、特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に係る作品調査	先方負担
61	赤司善彦	韓国	12月1日～4日	特別展借用協議	県費
62	畑靖紀	台湾	12月15日～18日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に係る作品調査	先方負担
63	丸山猶計	台湾	12月17日～20日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に係る作品調査、特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」に係る作品調査	職員旅費、先方負担
64	原田あゆみ	カンボジア	12月24日～30日	科学研究費助成事業「東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7-10世紀を中心に」に係る調査	科学研究費
65	岸本　圭	ベトナム	26年1月6日～19日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示作業	職員旅費
66	原田あゆみ	ベトナム	26年1月11日～19日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示作業および開会式への出席	職員旅費
67	秋山純子	ベトナム	26年1月11日～19日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示作業および開会式への出席	職員旅費
68	望月規史	ベトナム	26年1月11日～24日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示作業および開会式への出席	職員旅費
69	今津節生	韓国	26年1月13日～17日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究に係る調査	その他
70	赤司善彦	韓国	26年1月13日～17日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究に係る調査及び情報収集	その他
71	三輪嘉六	ベトナム	26年1月14日～19日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る開会式への出席	職員旅費
72	遠藤啓介	台湾	26年1月19日～22日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に関する調査	先方負担
73	市元塁	台湾	26年1月19日～24日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に関する調査	先方負担
74	川畑憲子	台湾	26年1月19日～24日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に関する調査	先方負担
75	渡部史之	ベトナム	26年1月22日～29日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示・作品点検作業	職員旅費
76	森實久美子	ベトナム	26年1月26日～2月6日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示・作品点検作業	職員旅費
77	原田あゆみ	タイ	26年1月30日～2月6日	科学研究費助成事業「タイにおける異文化との受容と変容-13世紀から18世紀の対外交易品を中心として-」に係る調査	科学研究費
78	進村真之	ベトナム	26年2月4日～15日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示・作品点検作業	職員旅費
79	楠井隆志	台湾	26年2月8日～9日	特別展「台北　國立故宮博物院-神品至宝-」に関する調査・表敬	その他
80	赤司善彦	イギリス、オランダ	26年2月10日～17日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究に係る調査及び情報収集	その他
81	今津節生	イギリス、オランダ	26年2月10日～17日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究に係る調査	その他
82	臺信祐爾	ベトナム	26年2月14日～18日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示・作品点検作業	職員旅費
83	釜瀬進一郎	ベトナム	26年2月15日～22日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示・作品点検作業	職員旅費
84	西島亜木子	ベトナム	26年2月20日～28日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示・作品点検作業	職員旅費
85	鷲頭桂	ベトナム	26年2月26日～3月6日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る展示・作品点検作業	職員旅費
86	岸本　圭	ベトナム	26年3月4日～15日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る作品点検・梱包作業	職員旅費
87	原田あゆみ	ベトナム	26年3月8日～10日	平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展に係る作品梱包作業	職員旅費

【東京文化財研究所】延べ157人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	安倍雅史	キルギス	8月21日～9月15日	拠点交流事業（キルギス）にかかる人材育成ワークショップ実施	受託経費
2	安倍雅史	ウズベキスタン	11月29日～12月6日	シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業にかかるワークショップ実施及び会議	受託経費
3	安倍雅史	キルギス	26年2月7日～2月18日	文化庁拠点交流事業（キルギス）のワークショップ開催	受託経費
4	井内千紗	スリランカ	26年2月16日～2月27日	内戦後の博物館及び文化遺産の現状調査	受託経費
5	石﨑武志	ドイツ	4月10日～4月14日	博物館の省エネ化に関する国際ワークショップ出席	他機関負担
6	石﨑武志	ベトナム	8月7日～8月10日	タンロン遺跡保存科学調査	受託経費
7	石﨑武志	韓国	9月4日～9月8日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム参加	科学研究費
8	石﨑武志	トルコ	9月11日～9月19日	ハギア・ソフィアの環境調査	科学研究費
9	石﨑武志	ドイツ	12月10日～12月17日	石造文化財劣化調査法に関する研究打合せ	科学研究費
10	犬塚将英	中国	8月31日～9月8日	敦煌壁画に関する日中共同研究	運営費交付金
11	犬塚将英	中国	10月20日～10月24日	壁画芸術及び保護修復技術に関する国際会議出席及び古墳壁画表面における含有水量の非接触測定システムの開発	他機関負担科学研究費
12	犬塚将英	アルメニア	26年1月13日～1月20日	考古金属資料保存修復ワークショップ実施及び実習	受託経費
13	今石みぎわ	韓国	4月10日～4月15日	国際シンポジウム「Traditional Tug-of War in East Asia」参加	他機関負担 運営費交付金
14	今石みぎわ	韓国	6月16日～6月30日	韓国の無形文化財保護制度調査	他機関負担 運営費交付金
15	江村知子	アメリカ	6月26日～7月2日	日本美術作品調査及び所蔵品管理調査	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
16	江村知子	イギリス	11月14日～11月19日	日本美術作品及び所蔵管理体制調査	運営費交付金
17	江村知子	アルメニア、フランス	26年1月14日～1月23日	アルメニア：アルメニア国立美術館所蔵名所絵版画及び関連資料調査 フランス：ギメ東洋美術館所蔵日本絵画作品調査及び研究協議	助成金 運営費交付金
18	江村知子	アメリカ	26年2月9日～2月14日	アメリカの動産文化財保護制度の調査	運営費交付金
19	岡田健	中国	8月27日～9月8日	陝西省の壁画保護に関する日中共同研究及び敦煌壁画保護に関する日中共同研究	運営費交付金
20	岡田健	中国	9月14日～9月18日	宗教遺跡の保存修復に関する国際シンポジウムでの発表	他機関負担 運営費交付金
21	岡田健	中国	10月19日～10月26日	古代壁画の発掘保護に関する日中共同研究	他機関負担 助成金
22	岡田健	中国	26年2月23日～2月28日	中国壁画の保護に関する日中共同研究	運営費交付金
23	加藤雅人	グルジア	5月19日～5月24日	在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる調査及び協議	運営費交付金
24	加藤雅人	ドイツ	6月30日～7月15日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ実施	運営費交付金
25	加藤雅人	イギリス	7月23日～7月27日	ワークショップ「Early Chinese Silk Painting」での講演及び検討会参加	他機関負担 運営費交付金
26	加藤雅人	韓国	9月26日～9月28日	シンポジウム「2013 The First Symposium on Conservation of Rare Books and Manuscripts at The Jangseogak Archives」での講演	他機関負担
27	加藤雅人	メキシコ	11月3日～11月18日	イクロム・ラタンプログラム「ラテンアメリカにおける紙の保存に関する国際研修」実施	運営飛行h金
28	加藤雅人	韓国	12月12日～12月15日	国際シンポジウム「海外所在の韓国文化財をいかに活用するか」での講演、参加	他機関負担
29	加藤雅人	バーレーン、ドバイ	26年1月23日～1月29日	紙の修復調査	受託経費
30	加藤雅人	スペイン	26年3月17日～3月22日	ワークショップ開催にかかる会議及び視察	運営費交付金
31	亀井伸雄	ドイツ、ポーランド	5月24日～6月4日	ヨーロッパにおける近代文化遺産の現地調査	運営費交付金
32	亀井伸雄	カンボジア	6月15日～6月18日	第37回世界遺産委員会出席	運営費交付金
33	亀井伸雄	イギリス	7月22日～7月29日	セインズベリー日本藝術研究所との協定書調印式及び大英博物館でのワークショップ「Early Chinese Silk Painting」出席	運営費交付金
34	亀井伸雄	インドネシア、ベトナム	9月2日～9月13日	インドネシア：パダン歴史地区建造物及び町並み調査 ベトナム：ユネスコ日本信託基金タンロン遺跡保存事業総括シンポジウム出席	科学研究費 受託経費
35	亀井伸雄	ドイツ、イタリア	11月23日～12月1日	ドイツ：ケルン東洋美術館長表敬訪問 イタリア：ICCROM総会出席	運営費交付金
36	亀井伸雄	ベトナム	12月17日～12月19日	ユネスコ日本信託基金タンロン遺跡保存事業終了ワークショップ出席	他機関負担
37	亀井伸雄	ミャンマー	26年2月2日～2月10日	第1回ミャンマー木造建造物保存研修の実施	受託経費
38	川野邊渉	ドイツ、ポーランド	5月28日～6月4日	壁画の修復技術及び保存活用に関する調査	運営費交付金
39	川野邊渉	ミャンマー	6月9日～6月14日	ミャンマーにおける文化遺産保護にかかる人材育成打合せ及び現地調査	受託経費
40	川野邊渉	カンボジア	6月15日～6月18日	第37回世界遺産委員会出席	運営費交付金
41	川野邊渉	ミャンマー	10月23日～10月29日	煉瓦造遺跡内壁画保存の人材育成研修にむけた現地調査及び漆芸品保存のための技法材料調査	受託経費
42	川野邊渉	メキシコ	11月5日～11月8日	イクロム・ラタンプログラム「ラテンアメリカにおける紙の保存に関する国際研修」実施	運営費交付金
43	川野邊渉	イタリア	11月23日～12月2日	ICCROM理事会及び総会出席	運営費交付金
44	川野邊渉	フランス	26年1月20日～1月24日	情報整理状況調査	科学研究費
45	川野邊渉	フィジー	26年2月26日～3月2日	気候変動により影響を被る可能性の高い文化遺産の現状調査	受託経費
46	川野邊渉	オーストリア、ドイツ	26年3月16日～3月21日	オーストリア：ウィーン応用美術大学とのMoUに基づく調査協力 ドイツ：ドレスデン陶磁器博物館での調査及び協議	運営費交付金
47	川端冴子	ドイツ	11月12日～11月24日	在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる漆工芸品修復ワークショップの実施	運営費交付金
48	木川りか	オーストリア、ドイツ	6月3日～6月11日	オーストリア：国際会議「IPM conference vienna 2013」での発表 ドイツ：研究協議	運営費交付金
49	楠京子	グルジア	5月19日～5月24日	在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる調査及び協議	運営費交付金
50	楠京子	ミャンマー	6月9日～6月14日	文化遺産保護にかかる現地調査	受託経費
51	楠京子	ドイツ	6月30日～7月15日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ実施	運営費交付金
52	楠京子	ミャンマー	10月23日～10月29日	煉瓦造遺跡内壁画保存の人材育成研修にむけた現地調査及び漆芸品保存のための技法材料調査	受託経費
53	楠京子	メキシコ	11月3日～11月18日	イクロム・ラタンプログラム「ラテンアメリカにおける紙の保存に関する国際研修」実施	運営費交付金
54	楠京子	バーレーン、ドバイ	26年1月23日～1月29日	紙の修復調査	受託経費
55	楠京子	スペイン	26年3月17日～3月22日	ワークショップ開催にかかる会議及び視察	運営費交付金
56	朽津信明	台湾	9月2日～9月5日	伝統的建造物の塩類風化に関する国際シンポジウムでの発表	他機関負担
57	朽津信明	ベルギー	26年3月3日～3月7日	屋外石造文化財の凍結被害及び対策に関する調査	運営費交付金
58	久保田裕道	アゼルバイジャン	11月30日～12月10日	第8回無形遺産の保護に関する政府間委員会出席	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
59	久保田裕道	フィジー、キリバス、ツバル	26年2月18日～3月1日	気候変動により影響を被る可能性の高い文化遺産の現状調査	受託経費
60	久米正吾	キルギス	7月2日～7月18日	考古学調査及び研究打合せ	他機関負担
61	久米正吾	アフガニスタン	9月27日～10月6日	ユネスコ・バーミヤーン遺跡保護事業第11次ミッション	受託経費
62	久米正吾	タジキスタン	11月3日～11月19日	ユネスコ・シルクロード世界遺産登録支援事業にかかるワークショップ実施	受託経費
63	久米正吾	イタリア	12月8日～12月13日	第12回バーミヤーン専門家会議出席	受託経費
64	小林公治	アメリカ	5月19日～5月27日	シンポジウム「Asian Lacquer Symposium 2013」での発表及び螺鈿器調査	科学研究費
65	小林公治	スペイン、ポルトガル、オランダ	9月11日～9月24日	海外に所在する螺鈿器の調査	科学研究費
66	小林公治	中国	10月12日～10月19日	螺鈿技術調査及び螺鈿器調査	科学研究費
67	小林公治	台湾	11月22日～11月25日	東アジアの螺鈿調査	科学研究費
68	小林公治	トルコ	26年2月5日～2月19日	トルコ国内螺鈿器及び螺鈿技術の調査	科学研究費
69	境野飛鳥	カンボジア	6月15日～6月28日	第37回世界遺産委員会出席及び調査	運営費交付金
70	境野飛鳥	イタリア、アゼルバイジャン	11月23日～12月11日	イタリア：ICCROM理事会及び総会出席 アゼルバイジャン：第8回無形遺産の保護に関する政府間委員会出席	運営費交付金
71	境野飛鳥	アメリカ	26年1月14日～1月23日	GHQ/SCAPによる文化財保護に関する調査	科学研究費
72	境野飛鳥	アメリカ	26年2月9日～2月14日	アメリカの動産文化財保護制度の調査	運営費交付金
73	境野飛鳥	フィジー	26年2月26日～3月2日	気候変動により影響を被る可能性の高い文化遺産の現状調査	受託経費
74	佐藤桂	ベトナム	5月14日～5月19日	タンロン遺跡に関するGIS研修実施	受託経費
75	佐藤桂	ミャンマー	6月9日～6月14日	文化遺産保護にかかる現地調査	受託経費
76	佐藤桂	ブータン	6月24日～7月3日	伝統的建造物保存に関する現地調査	受託経費
77	佐藤桂	カンボジア	7月23日～8月3日	タネイ遺跡速聴研修実施	運営費交付金
78	佐藤桂	ベトナム	8月7日～8月10日	タンロン遺跡保存科学調査	受託経費
79	佐藤桂	インドネシア、ベトナム	9月2日～9月13日	インドネシア：パダン歴史地区建造物及び町並み調査 ベトナム:ユネスコ日本信託基金タンロン遺跡保存事業第3回GIS研修実施及び総括シンポジウム出席	科学研究費 受託経費
80	佐藤桂	ブータン	10月19日～10月28日	伝統的建造物調査	受託経費
81	佐藤桂	ミャンマー	11月24日～11月30日	文化遺産保護にかかる現地調査	受託経費
82	佐藤桂	カンボジア	12月26日～12月30日	クメール遺跡調査	科学研究費
83	佐藤桂	カンボジア、フランス	26年1月15日～1月25日	カンボジア：タネイ測量研修の実施 フランス：カンボジア遺跡資料収集	科学研究費 運営費交付金
84	佐藤桂	ミャンマー	26年2月2日～2月10日	第1回ミャンマー木造建造物保存研修の実施	受託経費
85	佐藤嘉則	イタリア	10月14日～10月22日	国際会議「ICCROM Forum on Science in Conservation」参加及びアジャンター石窟壁画研究に関する打合せ	他機関負担
86	塩谷純	韓国	6月20日～6月22日	近現代美術に関する交流史的研究及び調査打合せ	運営費交付金
87	城野誠治	ミャンマー	10月23日～10月29日	煉瓦造遺跡内壁画保存の人材育成研修にむけた現地調査及び漆芸品保存のための技法材料調査	受託経費
88	城野誠治	フィジー、キリバス、ツバル	26年2月18日～3月2日	気候変動により影響を被る可能性の高い文化遺産の現状調査	受託経費
89	鈴木環	ブルガリア	5月13日～5月27日	中世組積造教会建築のドキュメンテーション	科学研究費
90	高桑いづみ	韓国	9月12日～9月16日	2013慶州世界伝統管楽器フェスティバルでの研究会、演奏会参加及び研究発表	他機関負担
91	高桑いづみ	韓国	11月20日～11月24日	東亜細亜民俗音楽祝祭第5回東アジア音楽考古学会学位術大会での講演	他機関負担 運営費交付金
92	田中淳	韓国	6月20日～6月22日	国際シンポジウムでの発表	他機関負担
93	田中淳	イギリス	7月22日～7月28日	セインズベリー日本藝術研究所との協定書調印式及び協議	運営費交付金
94	田中淳	台湾	12月5日～12月8日	国際シンポジウムでの発表	他機関負担
95	友田正彦	ベトナム	5月19日～5月25日	タンロン遺跡フランス植民地期建築調査	受託経費
96	友田正彦	ミャンマー	6月9日～6月14日	文化遺産保護にかかる現地調査	受託経費
97	友田正彦	ブータン	6月21日～6月30日	伝統的建造物保存に関する現地調査	受託経費
98	友田正彦	カンボジア	7月19日～7月27日	タネイ遺跡速聴研修実施	運営費交付金
99	友田正彦	ベトナム	8月5日～8月15日	ベトナム北部地域における考古遺物、歴史的建造物等調査	科学研究費
100	友田正彦	インドネシア、ベトナム	9月2日～9月15日	インドネシア：パダン歴史地区建造物及び町並み調査 ベトナム:ユネスコ日本信託基金タンロン遺跡保存事業総括シンポジウム開催及び社会科学院主催タンロン遺跡調査に関するシンポジウム出席	科学研究費 受託経費
101	友田正彦	ブータン	10月19日～10月28日	伝統的建造物調査	受託経費
102	友田正彦	ミャンマー	11月24日～11月30日	文化遺産保護にかかる現地調査	受託経費
103	友田正彦	カンボジア	12月2日～12月6日	アンコール遺跡国際調整委員会及び第3回アンコール遺跡救済政府間会議出席	運営費交付金
104	友田正彦	ベトナム	12月17日～12月19日	ユネスコ日本信託基金タンロン遺跡保存事業終了ワークショップ出席	他機関負担
105	友田正彦	カンボジア	26年1月18日～1月25日	タネイ測量研修の実施	運営費交付金
106	友田正彦	ミャンマー	26年2月7日～2月13日	第1回ミャンマー木造建造物保存研修の実施	受託経費
107	友田正彦	中国	26年2月21日～3月2日	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究にかかる現地調査	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
108	中山俊介	ドイツ、ポーランド	5月24日～6月4日	ヨーロッパにおける近代文化遺産の現地調査	運営費交付金
109	中山俊介	イギリス、ドイツ、スイス、フランス	6月18日～7月2日	テキスタイルを中心とする近代文化遺産の保存状態及び修復手法の現地調査及び情報収集	運営費交付金
110	早川典子	ミャンマー	6月9日～6月14日	文化遺産保護にかかる現地調査	受託経費
111	早川典子	ドイツ	11月14日～11月18日	在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる漆工芸品修復ワークショップでの講義	運営費交付金
112	早川典子	ベトナム	26年3月3日～3月7日	漆工品の伝統的技法材料の調査	運営費交付金
113	林美木子	オーストリア	6月3日～6月10日	国際会議「IPM conference vienna 2013」での発表	運営費交付金
114	原田玲	ヨルダン	9月7日～9月20日	ペトラ博物館整備計画のための準備調査	他機関負担
115	原田玲	インドネシア	11月23日～11月28日	世界文化フォーラムへの参加	受託経費
116	原田玲	バーレーン、ドバイ	26年1月23日～1月29日	バーレーン：考古遺産の保護状況聞き取り、紙の修復調査 ドバイ：紙の修復調査	受託経費
117	原本知実	ドイツ、ポーランド	5月28日～6月4日	戦後遺産活用の現状調査	科学研究費
118	原本知実	カンボジア	6月15日～6月28日	第37回世界遺産委員会出席	受託経費
119	深井啓	オーストリア、ドイツ	26年3月16日～3月21日	オーストリア：ウィーン応用美術大学とのMoUに基づく調査協力 ドイツ：ドレスデン陶磁器博物館での調査及び協議	運営費交付金
120	藤澤明	タジキスタン	9月18日～10月15日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復作業	運営費交付金
121	藤澤明	アルメニア	26年1月8日～1月26日	考古金属資料保存修復ワークショップ実施及び今後の打合せ	受託経費
122	藤澤明	ロシア	26年2月3～2月8日	打合せ及び収蔵品の調査	運営費交付金
123	二神葉子	タイ	5月6日～5月11日	ラチャプラディット寺院螺鈿扉の輸送準備及び関連調査	運営費交付金
124	二神葉子	カンボジア	6月15日～6月29日	第37回世界遺産委員会出席	受託経費
125	二神葉子	アゼルバイジャン	11月30日～12月10日	第8回無形遺産の保護に関する政府間委員会出席	運営費交付金
126	邊牟木尚美	アルメニア	6月8日～6月24日	考古金属史料の保存修復人材育成ワークショップ実施	受託経費
127	森井順之	ペルー	8月9日～8月20日	マチュピチュ遺跡遺構の保存修復調査	他機関負担
128	森井順之	韓国	9月3日～9月7日	瑞山磨崖三尊立像に関する日韓共同研究及び2013年東アジア文化遺産保存国際シンポジウムでの発表	運営費交付金
129	森井順之	ドイツ、ベルギー	26年2月28日～3月7日	屋外石造文化財の凍結被害及び対策に関する調査	運営費交付金
130	山内和也	ドイツ	4月16日～4月20日	バーミヤン遺跡保護事業に関する打合せ	他機関負担
131	山内和也	ヨルダン	6月5日～6月12日	ペトラ博物館整備計画にかかる協力準備調査	他機関負担
132	山内和也	キルギス	8月30日～9月14日	拠点交流事業（キルギス）にかかる人材育成ワークショップ実施	運営費交付金
133	山内和也	アフガニスタン	9月27日～10月6日	ユネスコ・バーミヤーン遺跡保護事業第11次ミッション	運営費交付金
134	山内和也	中国	10月10日～10月22日	世界遺産評価ミッション参加	他機関負担
135	山内和也	ウズベキスタン	12月1日～12月6日	シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業にかかるワークショップ実施及び会議	受託経費
136	山内和也	イタリア	12月8日～12月13日	第12回バーミヤーン専門家会議出席	運営費交付金
137	山内和也	ヨルダン、エジプト	26年1月5日～1月10日	ヨルダン：ペトラ博物館整備計画にかかるドラフト説明Ⅰ エジプト：大エジプト博物館保存修復センタープロジェクトにかかるJCCへの参加	他機関負担
138	山内和也	アルメニア	26年1月14日～1月23日	考古金属資料保存修復ワークショップ実施及び今後の打合せ	運営費交付金
139	山内和也	ロシア	26年2月3日～2月8日	打合せ及び収蔵品の調査	運営費交付金
140	山内和也	キルギス、カザフスタン	26年2月14日～2月17日	キルギス：文化庁拠点交流事業（キルギス）のワークショップ開催 カザフスタン：来年度計画打合せ	運営費交付金
141	山内和也	中国	26年2月23日～2月25日	壁画研究の共同研究に関する打合せ及び壁画展示館、修理室の視察	運営費交付金
142	山下好彦	タイ	5月6日～5月11日	ラチャプラディット寺院螺鈿扉の輸送準備及び関連調査	運営費交付金
143	山下好彦	アメリカ	5月20日～5月26日	シンポジウム「Asian Lacquer Symposium 2013」での発表	運営費交付金
144	山下好彦	ミャンマー	6月9日～6月14日	文化遺産保護にかかる現地調査	受託経費
145	山下好彦	オーストリア	7月2日～7月8日	ワークショップ「The Conservation of East Asian Cabinets in Imperial Residences(1700-1900)」での講師及び参加	他機関負担
146	山下好彦	スペイン	9月1日～9月12日	漆ワークショップの実施及び在外日本古美術品保存修復協力事業に関する調査	他機関負担 運営費交付金
147	山下好彦	オランダ	9月18日～9月22日	新規所蔵品の調査及びミーティング参加	運営費交付金
148	山下好彦	台湾	10月17日～10月19日	シンポジウム「2013 Technology and Application Conference-Artifact Replicas」での講演	運営費交付金
149	山下好彦	ミャンマー	10月23日～11月1日	煉瓦造遺跡内壁画保存の人材育成研修にむけた現地調査及び漆芸品保存のための技法材料調査	受託経費
150	山下好彦	ドイツ	11月11日～12月4日	在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる漆工芸品修復ワークショップの実施	運営費交付金
151	山下好彦	ベトナム	26年3月3日～3月8日	ベトナムにおける漆工品の伝統的材料に関わる現地調査	運営費交付金
152	山下好彦	オーストリア、ドイツ	26年3月12日～3月22日	オーストリア：ウィーン応用美術大学とのMoUに基づく調査協力 ドイツ：ドレスデン陶磁器博物館での調査及び協議	他機関負担 運営費交付金
153	山田大樹	タジキスタン	11月3日～11月19日	ユネスコ・シルクロード世界遺産登録支援事業にかかるワークショップ実施	受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
154	山田祐子	ドイツ	6月30日～7月15日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ実施	運営費交付金
155	山梨絵美子	韓国	6月20日～6月23日	近現代美術に関する交流史的研究及び調査打合せ	運営費交付金
156	山之上理加	ドイツ	6月30日～7月15日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ実施	運営費交付金
157	綿田稔	イギリス	7月22日～7月28日	セインズベリー日本藝術研究所との協定書調印式及び協議	運営費交付金

【奈良文化財研究所】延べ144人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	児島　大輔	アメリカ合衆国	4月3日～4月13日	ミルウオーキーArt　Asia Gallery　及びシカゴ美術館所蔵木彫像等の資料調査のため	科学研究費
2	森先　一貴	ロシア連邦	4月10日～4月13日	ロシア沿海州における遺跡出土資料の調査	科学研究費
3	森本　晋	フランス	4月14日～4月19日	アンコール地域における調査情報の共有に関する協議	運営費交付金
4	杉山　洋	カンボジア王国	4月19日～4月24日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
5	佐藤　由似	カンボジア王国	4月19日～5月5日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
6	佐藤　由似	タイ	5月6日～5月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
7	石田　由紀子	大韓民国	5月13日～6月27日	国立慶州文化財研究所との発掘調査交流に参加するため	運営費交付金・先方負担
8	庄田　慎矢	大韓民国	5月21日～5月23日	釜山大学申敬澈寄贈図書の実態調査のため	運営費交付金
9	佐藤　由似	カンボジア王国	5月27日～8月10日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
10	加藤　真二	中華人民共和国	6月1日～6月8日	科学研究費による儀征市博物館所蔵漢墓木材の年輪調査	科学研究費
11	杉山　洋	カンボジア王国	6月4日～6月9日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
12	玉田　芳英	大韓民国	6月12日～6月14日	日韓共同研究および発掘調査交流に関する打ち合わせ	運営費交付金
13	清野　孝之	大韓民国	6月12日～6月14日	日韓共同研究および発掘調査交流に関する打ち合わせ	運営費交付金
14	松村　恵司	大韓民国	6月12日～6月14日	日韓共同研究および発掘調査交流に関する打ち合わせ	運営費交付金
15	諫早　直人	大韓民国	6月12日～6月16日	日韓共同研究および発掘調査交流に関する打ち合わせ、国立中央博物館における匈奴墓出土馬具に関する調査助言	運営費交付金・先方負担
16	杉山　洋	カンボジア王国	6月14日～6月30日	西トップ遺跡の調査研究、世界遺産委員会への参加	運営費交付金
17	森本　晋	カンボジア王国	6月15日～6月30日	第３７回世界遺産委員会出席	運営費交付金
18	菊地　淑人	カンボジア王国	6月15日～6月30日	第３７回世界遺産委員会出席	運営費交付金
19	石村　智	カンボジア王国	6月17日～6月24日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
20	丹羽　崇史	中華人民共和国	6月19日～6月22日	河南省文物考古研究所との共同研究に関する協議	運営費交付金
21	玉田　芳英	中華人民共和国	6月19日～6月22日	河南省文物考古研究所との共同研究に関する協議	運営費交付金
22	加藤　真二	中華人民共和国	6月28日～7月2日	科学研究費による中国細石刀文化の基礎的研究のための資料調査･学会発表	科学研究費
23	庄田　慎矢	大韓民国	7月6日～7月15日	日韓共同研究及び科学研究補遺とかかわる調査研究のため	運営費交付金・先方負担・科学研究費
24	杉山　洋	カンボジア王国	7月17日～7月18日	西トップ事業	運営費交付金
25	石村　智	ミャンマー	7月19日～7月24日	受託　平成25年度ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業の考古分野における協議と調査	運営費交付金
26	森本　晋	ミャンマー	7月19日～7月28日	受託　平成25年度ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業の考古分野における協議と調査	運営費交付金
27	杉山　洋	ミャンマー	7月19日～8月2日	受託　平成25年度ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業の考古分野における協議と調査	運営費交付金
28	脇谷　草一郎	カンボジア王国	7月29日～8月2日	西トップ遺跡修復事業における保存科学調査	運営費交付金
29	田村　朋美	カンボジア王国	7月29日～8月2日	西トップ遺跡修復事業における保存科学調査	運営費交付金
30	高妻　洋成	カンボジア王国	7月29日～8月2日	西トップ遺跡修復事業における保存科学調査	運営費交付金
31	脇谷　草一郎	ベトナム社会主義共和国	8月7日～8月10日	タンロン皇城遺跡保存にかかる現地調査に参加	東京文化財研究所
32	杉山　洋	カンボジア王国	8月9日～8月21日	科研による西トップ遺跡における発掘調査	科学研究費（大阪市立大学　原口）
33	諫早　直人	イギリス	8月14日～8月23日	科学研究費補助金「ゴーランドの古墳研究の総合的検証と古墳文化に対する国際的理解への活用」にかかる調査	先方負担
34	川畑　純	中華人民共和国	8月14日～8月25日	洛陽宮城出土瓦の調査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
35	今井　晃樹	中華人民共和国	8月14日～8月25日	洛陽宮城出土瓦の調査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
36	森先　一貴	中華人民共和国	8月14日～8月25日	洛陽宮城出土瓦の調査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
37	栗山　雅夫	中華人民共和国	8月14日～8月25日	洛陽宮城出土瓦の調査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
38	小田　裕樹	大韓民国	8月18日～8月22日	東アジアにおける食器構成と食事作法の変化に関する比較研究の一環として、扶余地域出土土器の調査	科学研究費
39	石村　智	カンボジア王国	8月26日～9月6日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
40	森本　晋	フランス	9月1日～9月14日	CIPA2013　（文化遺産記録国際委員会）出席ならびにデータベースに関する調査	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
41	田代　亜紀子	インドネシア	9月2日～9月14日	科研（B)「西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究」社会調査	科学研究費
42	佐藤　由似	カンボジア王国	9月2日～9月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
43	高妻　洋成	大韓民国	9月4日～9月7日	2013東アジア文化遺産保存国際シンポジウムに出席	運営費交付金
44	田村　朋美	大韓民国	9月4日～9月8日	2013東アジア文化遺産保存国際シンポジウムに出席、発表	科学研究費
45	杉山　洋	カンボジア王国	9月8日～9月9日	西トップ遺跡の調査研究	文化財保護振興財団
46	高妻　洋成	ベトナム社会主義共和国	9月10日～9月12日	タンロン皇城i遺跡保存に係る現地調査	東京文化財研究所
47	杉山　洋	ベトナム社会主義共和国	9月10日～9月15日	タンロン皇城シンポジウムへの出席	ユネスコ委託事業
48	惠谷　浩子	フランス共和国	9月11日～9月19日	文化的景観に関する諸外国との比較研究（現地調査/フランス）	運営費交付金
49	今井　晃樹	ベトナム社会主義共和国	9月12日～9月15日	文化庁受託拠点交流事業調査および講演	拠点交流事業
50	小野　健吉	トルコ	9月13日～9月16日	庭園等現地調査	京都大学研究経費
51	菊地　淑人	アメリカ合衆国	9月15日～9月20日	コロンビア大学との研究協力および交流	運営費交付金
52	中島　義晴	アメリカ合衆国	9月15日～9月20日	コロンビア大学との研究協力および交流	運営費交付金
53	海野　聡	アメリカ合衆国	9月15日～9月20日	コロンビア大学との研究協力および交流	運営費交付金
54	小野　健吉	キルギス共和国	9月18日～9月12日	拠点交流事業ワークショップ（講師）	拠点交流事業費（東文研）
55	諫早　直人	中華人民共和国	9月21日～9月24日	渤海、遼金代都城の踏査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
56	今井　晃樹	中華人民共和国	9月21日～9月29日	渤海、遼金代都城の踏査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
57	和田　一之輔	中華人民共和国	9月21日～9月29日	渤海、遼金代都城の踏査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
58	小澤　毅	中華人民共和国	9月21日～9月29日	渤海、遼金代都城の踏査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
59	荒田　敬介	中華人民共和国	9月21日～9月29日	渤海、遼金代都城の踏査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
60	栗山　雅夫	中華人民共和国	9月21日～9月29日	渤海、遼金代都城の踏査および関連遺跡・遺物の調査	運営費交付金
61	小田　裕樹	中華人民共和国	9月24日～9月29日	河南省・四川省における唐三彩と関連資料の現地調査	運営費交付金
62	丹羽　崇史	中華人民共和国	9月24日～9月29日	河南省・四川省における唐三彩と関連資料の現地調査	運営費交付金
63	難波　洋三	中華人民共和国	9月24日～9月29日	河南省・四川省における唐三彩と関連資料の現地調査	運営費交付金
64	森先　一貴	ロシア連邦	9月25日～10月2日	ロシア連邦サハリン州スラブナヤ遺跡の調査	科学研究費 東京大学　大貫静夫
65	菊地　淑人	大韓民国	10月11日～10月17日	国際会議出席及び名勝地調査等	科学研究費　（平澤）
66	惠谷　浩子	大韓民国	10月11日～10月17日	国際会議出席及び名勝地調査等	科学研究費　（平澤）
67	平澤　毅	大韓民国	10月11日～10月20日	国際会議出席及び名勝地調査等	科学研究費　（平澤）
68	佐藤　由似	カンボジア王国	10月14日～11月1日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
69	林　良彦	スリランカ民主社会主義共和国	10月16日～10月28日	ACCU主催文化遺産ワークショップ2013-スリランカ民主社会主義共和国・キャンディにおける現地研修-の講師	先方負担（ACCU）
70	桑田　訓也	大韓民国	10月17日～10月20日	第7回　新羅學國際學術大會への参加	先方負担（新羅文化遺産研究院）
71	杉山　洋	カンボジア王国	10月23日～10月31日	西トップ遺跡の調査研究	朝日文化財団
72	井上　幸	大韓民国	10月25日～10月27日	学会発表のため	科学研究費
73	大林　潤	カンボジア王国	10月27日～10月31日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金
74	海野　聡	カンボジア王国	10月27日～10月31日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金
75	成田　聖	カンボジア王国	10月27日～10月31日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金
76	丹羽　崇史	中華人民共和国	10月30日～11月4日	中国古陶瓷年会への参加	運営費交付金
77	小田　裕樹	大韓民国	11月8日～11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間盛夏発表会への出席、発表のため	運営費交付金
78	清野　孝之	大韓民国	11月8日～11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間盛夏発表会への出席、発表のため	運営費交付金
79	廣瀬　覚	大韓民国	11月8日～11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間盛夏発表会への出席、発表のため	運営費交付金
80	諫早　直人	大韓民国	11月8日～11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間盛夏発表会への出席、発表のため	運営費交付金
81	馬場　基	大韓民国	11月8日～11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間盛夏発表会への出席、発表のため	運営費交付金
82	加藤　真二	中華人民共和国	11月16日～11月24日	科学研究費による中国細石刃文化の基礎的研究のための資料調査・霊井遺跡出土細石器報告書の原稿納品	科学研究費
83	吉川　聡	インドネシア	11月18日～11月22日	インドネシア文字文化財に関する国際シンポジウムでの講演	先方負担（東京外国語大学）
84	佐藤　由似	カンボジア王国	11月18日～12月12日	アンコール遺跡群西トップ遺跡建築装飾群の研究と復元	運営費交付金
85	田代　亜紀子	インドネシア	11月19日～11月26日	科研（B)「西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究」社会調査	科学研究費
86	杉山　洋	カンボジア王国	11月20日～11月30日	西トップ遺跡の調査研究	科学研究費（原口）

	氏名	用務先	期間	用務	備考
87	小池　伸彦	中華人民共和国	11月23日～11月30日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25･26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査	運営費交付金
88	川畑　純	中華人民共和国	11月23日～11月30日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25･26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査	運営費交付金
89	諫早　直人	中華人民共和国	11月23日～11月30日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25･26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査	運営費交付金
90	栗山　雅夫	中華人民共和国	11月23日～11月30日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25･26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査	運営費交付金
91	田村　朋美	大韓民国	11月28日～12月3日	日中韓共同研究「三国時代の国家の成長と物質文化」2014年度国際シンポジウムに出席、発表及び金海国立博物館所蔵ガラス製遺物の調査	先方負担（韓国學中央研究院）・科学研究費
92	森本　晋	ウズベキスタン	11月29日～12月6日	文化財データベースに関するユネスコ主催ワークショップで講義	東京文化財研究所
93	石村　智	カンボジア王国	12月1日～12月6日	アンコール遺跡国際調整委員か出席及び西トップ遺跡の調査研究	西トップ寄付金
94	田代　亜紀子	イタリア	12月8日～12月15日	バーミヤン専門家会議出席・西アジア文化遺産調査	運営費交付金
95	森本　晋	イタリア	12月8日～12月15日	バーミヤン専門家会議出席・西アジア文化遺産調査	運営費交付金
96	中川　あや	大韓民国	12月10日～12月13日	大韓民国における都城遺跡展示の手法の調査研究	受託
97	渡邉　淳子	大韓民国	12月10日～12月13日	大韓民国における都城遺跡展示の手法の調査研究	受託
98	高妻　洋成	中華人民共和国	12月10日～12月14日	2013出土木漆器保護国際学術検討会	木漆器保護国家文物局重点科研基地
99	杉山　洋	カンボジア王国	12月11日～12月14日	西トップ遺跡の調査研究	寄付金
100	諫早　直人	大韓民国	12月15日～12月20日	日韓共同研究「日本列島における金工生産と新羅」に基づく調査研究	運営費交付金・先方負担（韓国国立文化財研究所）
101	青木　敬	大韓民国	12月17日～12月19日	蓮山洞古墳群関連国際学術会議での発表のため	先方負担（釜山大学校博物館）
102	佐藤　由似	カンボジア王国	12月18日～1月4日	アンコール遺跡群西トップ遺跡南祠堂と北祠堂の調査修復	助成金　朝日新聞文化財団
103	森先　一貴	ロシア連邦	12月21日～12月25日	ロシア連邦サハリン州スラブナヤ5遺跡の調査	科学研究費 東京大学　大貫静夫
104	杉山　洋	カンボジア王国	12月25日～12月31日	西トップ遺跡の調査研究	助成金
105	丹羽　崇史	中華人民共和国	12月27日～1月4日	隋州葉家山西周墓地国際学術検討会への参加	先方負担
106	井上　幸	中華人民共和国	12月28日～12月31日	資料収集	科学研究費　（井上）
107	森本　晋	カンボジア王国	26年1月12日～1月18日	アンコールデータベース調査	科学研究費（森本）・受託
108	石村　智	カンボジア王国	26年1月12日～1月18日	アンコールデータベース調査	科学研究費（森本）・受託
109	田村　朋美	カンボジア王国	26年1月13日～1月18日	the 20th Congress of the Indo-Pacific Prehistory Association に出席、研究発表	科学研究費　（田村朋美）
110	田代　亜紀子	ベトナム社会主義共和国	26年1月14日～1月19日	文化庁受託事業ベトナム出土木材に関する調査・研修	運営費交付金
111	高妻　洋成	ベトナム社会主義共和国	26年1月14日～1月19日	文化庁受託事業ベトナム出土木材に関する調査・研修	運営費交付金
112	脇谷　草一郎	ベトナム社会主義共和国	26年1月14日～1月19日	文化庁受託事業ベトナム出土木材に関する調査・研修	運営費交付金
113	廣瀬　覚	ベトナム社会主義共和国	26年1月14日～1月19日	文化庁受託事業ベトナム出土木材に関する調査・研修	運営費交付金
114	森本　晋	ミャンマー	26年1月19日～1月26日	拠点交流事業ワークショップ開催のため	科学研究費（森本）・受託
115	石村　智	ミャンマー	26年1月19日～1月26日	受託平成２５年度ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業の考古分野におけるワークショップでの講義	科学研究費（森本）・受託
116	小田　裕樹	ミャンマー	26年1月19日～1月26日	受託平成２５年度ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業の考古分野におけるワークショップでの講義	受託
117	杉山　洋	ミャンマー	26年1月19日～1月24日	シュリクケトラ遺跡の調査	委託
118	杉山　洋	カンボジア王国	26年1月25日～1月30日	西トップ遺跡の調査と修復	科学研究費（森本晋）
119	石村　智	サモア	26年1月30日～2月11日	平成25年度文化庁博物館･美術館相互交流事業によるサモア国立博物館改修にかかる助言	文化庁
120	杉山　洋	カンボジア王国	26年2月14日～2月18日	カンボジアにおける中世都城の調査研究	奈良女子大学研究費
121	加藤　真二	中華人民共和国	26年2月17日～2月23日	科学研究費のよる中国細石刃文化の基礎的研究のため資料収集	科学研究費
122	芝　康次郎	中華人民共和国	26年2月17日～2月23日	科学研究費のよる中国細石刃文化の基礎的研究のため資料収集	科学研究費
123	玉田　芳英	連合王国	26年2月17日～2月24日	京大大学院講義のための資料調査	京都大学研究経費
124	平澤　毅	大韓民国	26年2月18日～2月21日	韓国の世界文化遺産登録資産に関する調査研究事業関係調査等	筑波大学による文化庁受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
125	石村　智	キリバス	26年2月18日～2月22日	平成25年度文化庁専門家派遣事業による、温暖化により危機に瀕する文化遺産の調査	文化庁
126	石村　智	フィージー	26年2月23日～2月24日	平成25年度文化庁専門家派遣事業による、温暖化により危機に瀕する文化遺産の調査	文化庁
127	杉山　洋	カンボジア王国	26年2月23日～2月28日	カンボジア・プレアビヒア遺跡の調査	科学研究費（名城大学溝口）
128	石村　智	ツバル	26年2月25日～3月2日	平成25年度文化庁専門家派遣事業による、温暖化により危機に瀕する文化遺産の調査	文化庁
129	平澤　毅	台湾	26年3月8日～3月11日	台湾の名勝地に関する現地調査等	科学研究費（平澤）
130	前川　歩	台湾	26年3月8日～3月11日	台湾の名勝地に関する現地調査等	科学研究費（平澤）
131	杉山　洋	カンボジア王国	26年3月8日～3月13日	カンボジア・西トップ遺跡の調査	科学研究費（大阪市立大学原口）
132	今居　晃樹	中華人民共和国	26年3月10日～3月14日	第一次大極殿院復元研究に関する資料の調査	受託　大極殿事業
133	森川　実	中華人民共和国	26年3月10日～3月14日	第一次大極殿院復元研究に関する資料の調査	受託　大極殿事業
134	川畑　純	中華人民共和国	26年3月18日～3月25日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25・26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査）	運営費交付金
135	小池　伸彦	中華人民共和国	26年3月18日～3月25日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25・26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査）	運営費交付金
136	廣瀬　覚	中華人民共和国	26年3月18日～3月25日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25・26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査）	運営費交付金
137	栗山　雅夫	中華人民共和国	26年3月18日～3月25日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」（平成25･26年度共同研究・研究計画の協議、金嶺寺遺跡他出土瓦・金属製品等の調査	運営費交付金
138	平澤　毅	大韓民国	26年3月21日～3月23日	韓国の名勝地に関する現地調査	科学研究費（平澤）
139	森先　一貴	大韓民国	3月21日～3月23日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究に係る調査	運営費交付金
140	若杉　智宏	大韓民国	3月21日～3月23日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究に係る調査	運営費交付金
141	諫早　直人	大韓民国	3月21日～3月23日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究に係る調査	運営費交付金
142	荒田　敬介	大韓民国	3月21日～3月23日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究に係る調査	運営費交付金
143	小野　健吉	ベトナム社会主義共和国	26年3月21日～3月27日	世界遺産に登録されたベトナムの遺跡等の調査	京都大学経費
144	田村　朋美	イタリア	3月29日～4月4日	日伊文化財協力事業への出席	文化庁

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ18人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	荒田　明夫	中華人民共和国（成都）	6月13日～18日	ユネスコ条約締結10周年記念国際会議及び中国C2センター(CRIHAP)の第2回運営理事会出席	文化庁受託経費
2	荒田　明夫	ブルガリア（ソゾポル）	7月23日～28日	無形文化遺産分野C2センター第1回総会出席	文化庁受託経費
3	荒田　明夫	大韓民国（大田）	9月29日～10月1日	韓国C2センター(ICHCAP)の第3運営理事会出席	文化庁受託経費
4	荒田明夫	アゼルバイジャン（バクー）	11月30日～12月10日	第8回無形文化遺産部政府間委員会出席	文化庁受託経費
5	大貫美佐子	タイ王国（バンコク）・ベトナム社会主義共和国（ハノイ・バクニン）	4月21日～26日	ユネスコ・バンコク事務所との打ち合わせ ハノイにおいてVICASとの打ち合わせ バクニン省にてプランニング調査	文部科学省補助金
6	井内　千紗	タイ王国（バンコク）	4月21日～25日	ユネスコ・バンコク事務所との打ち合わせ	文部科学省補助金
7	大貫美佐子	タイ王国（バンコク）	6月2日～6日	ユネスコ・バンコク事務所との打ち合わせ	文部科学省補助金
8	井内　千紗	タイ王国（バンコク）	6月2日～6日	ユネスコ・バンコク事務所との打ち合わせ	文部科学省補助金
9	大貫美佐子	タイ王国（バンコク）	7月8日～12日	ユネスコ・バンコク事務所との打ち合わせ	文化庁受託経費
10	井内　千紗	タイ王国（バンコク）	7月9日～13日	ユネスコ・バンコク事務所との打ち合わせ	文化庁受託経費
11	辻　修次	カンボジア王国（プノンペン）・ラオス人民民主共和国（ヴィエンチャン）	26年1月12日～17日	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」実施に係る研究協力者との打ち合わせ	文部科学省補助金
12	荒田　明夫	タイ王国（バンコク）	26年2月18日～22日	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席	文化庁受託経費
13	児玉　茂昭	タイ王国（バンコク）	26年2月17日～22日	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席	文化庁受託経費
14	辻　修次	タイ王国（バンコク）	26年2月18日～22日	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の把握と検討」出席	文化庁受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
15	辻　修次	ラオス人民民主共和国（ヴィエンチャン）	26年2月23日～26日	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」実施に係るラオス政府との協議	文部科学省補助金
16	荒田　明夫	ラオス人民民主共和国（ヴィエンチャン）	26年2月23日～26日	「大メコン圏における無形遺産に関する法制度研究」実施に係るラオス政府との協議	文部科学省補助金
17	辻　修次	ラオス人民民主共和国（ヴィエンチャン）	26年3月23日～27日	ラオスにおける学術研究体制に関する情報収集	文化庁受託経費
18	児玉　茂昭	タイ王国（スリン県）	26年3月27日～30日	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」に係るシリンドローン文化人類学研究センターとの協議	文化庁受託経費

c-② 調査研究テーマ一覧

平成26年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
198 件	138 件	67 件	15 件	17 件	39 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	59 件	26 件	33 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　計67件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
2	特別調査法隆寺献納宝物（第35次）「金工品」	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
3	特別調査「書跡」第１１回	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
4	特別調査「工芸」第５回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
5	特別調査「彫刻」第３回	学芸研究部	調査研究課東洋室長　浅見龍介
6	特別調査　屏風の箔地についての光学的調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
7	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
8	漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
9	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
10	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
11	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課保存修復室主任研究員　沖松健次郎
12	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸企画部長　松本伸之
13	古筆切紙背の史料学的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
14	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
15	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕
16	刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員　酒井元樹
17	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉
18	寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動に関する研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課アソシエイトフェロー三輪紫都香
19	武家女性の衣生活に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課アソシエイトフェロー佐々木佳美
20	縄文時代における浅鉢形土器の研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	調査研究課考古室研究員　井出浩正
21	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
22	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
23	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長　白井克也
24	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	学芸企画部企画課特別展室長　松嶋雅人
25	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	調査研究課アソシエイトフェロー恵美千鶴子
26	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課特別観覧室小野真由美
27	神像表現における物語性の研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課講座室長　丸山士郎
28	視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆
29	日本における「美術」概念の再構築－語彙と理論にまたがる総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	部長　伊藤嘉章
30	描いた女性たちに関する研究－桃山時代から明治・大正期まで(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
31	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
32	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
33	木彫像の樹種識別技術の高度化(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
34	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信(科学研究費補助金)	学芸研究部	副館長　島谷弘幸
35	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	学芸企画部博物館情報課長　高橋裕次
36	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男
37	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	副館長　島谷弘幸
38	東アジアにおける繍仏の基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課教育普及室長　伊藤信二
39	極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男
40	仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
41	中国典籍日本古写本の研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
42	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課東洋室長　浅見龍介
43	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課東洋室長　浅見龍介
44	古代イスラエルの墓制と他界観に関する綜合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課考古室研究員　橋本英将
45	南宋絵画史における仏画の位相―都と地域、中国と周縁―(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸研究部調査研究課東洋室研究員　塚本麿充
46	海外展「青山杉雨のコレクションと書」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課長　富田　淳
47	特別展「和様の書」に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　高橋　裕次
48	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課長　富田　淳
49	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　松嶋雅人

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
50	特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　松嶋雅人
51	海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　松嶋雅人
52	特別展「人間国宝展－生み出された美、伝えゆくわざ－」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉
53	特別展「支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕
54	特別展「栄西と建仁寺」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
55	特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査研究	学芸企画部	上席研究員　齊藤孝正
56	特別展「台北　國立故宮博物院―神品至宝―」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課長　富田　淳
57	特別展「日本国宝展」に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課教育普及室　伊藤信二
58	特別展「みちのく仏像」に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課教育講座室長　丸山　士郎
59	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
60	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
61	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　小泉惠英
62	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
63	凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する	学芸企画部	企画課長　井上洋一 学芸研究部調査研究課長　田良島哲
64	聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー　川岸瀬里
65	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸企画部	学芸研究部調査研究課考古室研究員　品川欣也
66	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開(科学研究費補助金)	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
67	文化財管理における美術品用語辞典の作成(科学研究費補助金)	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二

【京都国立博物館】　計15件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
2	彫刻に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸部	保存修理指導室長　淺湫 毅
3	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室長　尾野善裕
4	特別展観「遊び」に関する調査研究	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
5	特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)	学芸部	工芸室長　尾野善裕
6	特別展覧会「南山城の古寺巡礼」に関する調査研究	学芸部	企画室長　宮川禎一
7	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	部長　村上隆
8	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)	学芸部	企画室長　宮川禎一
9	近世絵画に関する調査研究	学芸部	前連携協力室長　山下善也
10	漆工芸に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
11	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　淺湫 毅
12	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	学芸部長　村上 隆
13	文化財情報に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
14	新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究	学芸部	教育室研究員　水谷亜紀
15	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究	学芸部	教育室研究員　水谷亜紀

【奈良国立博物館】　計17件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる。	学芸部	部長　西山　厚
2	館蔵品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する。	学芸部	部長　西山　厚
3	平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての資源化を進める。(学術研究助成基金助成金)	学芸部	企画室長　野尻忠
4	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究	学芸部	部長　西山　厚
5	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究	学芸部	部長　西山　厚
6	特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像 －迫真とエキゾチシズム」に関する調査研究	学芸部	美術室長　岩田 茂樹 情報サービス室員　山口 隆介
7	特別陳列「お水取り」に関する調査研究	学芸部	教育室員　斎木 涼子
8	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究	学芸部	情報サービス室長　吉澤　悟
9	當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」に関する調査研究	学芸部	美術室員　北澤 菜月
10	特別展「みほとけのかたち－仏像に会う－」に関する調査研究	学芸部	教育室長　岩井 共二
11	特別展「正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室室長　内藤　栄
12	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	学芸部	部長　西山　厚
13	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	学芸部	保存修理指導室長　谷口 耕生
14	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長　谷口 耕生
15	館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長　谷口 耕生
16	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	学芸部	部長　西山　厚
17	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。（学術研究助成基金助成金）	学芸部	資料室長　宮崎 幹子

【九州国立博物館】　計 39件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析	博物館科学課	博物館科学課長　今津節生
2	平成20年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究	学芸部	学芸部長　谷豊信
3	日本中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	展示課	展示調整室研究員　遠藤啓介
4	中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	保存修復室長　藤田励夫
5	九州南島の先史時代の資料に関する調査研究	展示課	展示課長　赤司善彦
6	和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究	博物館科学課	博物館科学課長　今津節生
7	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長　谷豊信
8	西光寺梵鐘の総合調査	文化財課	アソシエイトフェロー　望月規史
9	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課	展示課長　赤司善彦
10	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）	博物館科学課	博物館科学課長　今津節生
11	武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究	文化財課	資料登録室主任研究員　荒木和憲
12	神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関連する作品の調査研究	企画課	特別展室研究員　鷲頭桂
13	中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）	企画課	文化交流展室主任研究員　川畑憲子
14	タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	企画課	特別展室主任研究員　原田あゆみ
15	ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流についての調査研究	展示課	情報サービス室主任研究員　岸本圭
16	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	文化財課	資料登録室主任研究員　荒木和憲
17	契丹壁画墓の集成と公開　－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	企画課	企画課長　臺信祐爾
18	水中遺跡の保存活用に関する調査研究(文化庁受託事業)	展示課	展示課長　赤司善彦
19	特別公開「江上波夫の眼　ことばとかたち」に関する調査研究	企画課	企画課長　臺信祐爾
20	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	企画課長　臺信祐爾
21	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	企画課	特別展室主任研究員　市元塁
22	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究	展示課	展示調整室主任研究員　酒井芳司
23	特別展「国宝 大神社展」に関する調査研究	展示課	展示調整室主任研究員　楠井隆志
24	特別展「華麗なる宮廷文化　近えい近衛家の国宝展」に関する調査研究	展示課	展示調整室主任研究員　酒井芳司
25	特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究	企画課	特別展室研究員　鷲頭桂
26	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」展に関する調査研究	文化財課	資料管理室主任研究員　畑靖紀
27	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課	博物館科学課長　今津節生
28	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
29	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	学芸部	特任研究員　本田光子
30	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCOとの共同）	博物館科学課	前保存修復室長　藤田励夫
31	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究(学術研究助成基金助成金)	博物館科学課	環境保全室研究員　秋山純子
32	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発　―興福寺 国宝阿修羅像を中心に―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	博物館科学課長　今津節生
33	三次元デジタル継続技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	学芸部	学芸部長　谷豊信
34	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
35	NHKと協同で高精細画像を活用したシアター4000での映像公開に向けた研究	展示課	展示課長　赤司善彦
36	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	企画課	企画課長　臺信祐爾
37	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	交流課	教育普及室主任研究員　釜瀬進一郎
38	平成27年度に迎える開館10周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討	展示課	展示課長　赤司善彦
39	高等学校所蔵考古資料の調査研究	企画課	特別展室主任研究員　市元塁

【東京文化財研究所】計26件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　綿田　稔
2	文化財の資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　津田徹英
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純
4	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部	広領域研究室長　小林公治
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	副所長（無形文化遺産部長兼務）石崎武志
6	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	副所長（無形文化遺産部長兼務）石崎武志
7	無形文化遺産分野の国際研究交流事業	無形文化遺産部	副所長（無形文化遺産部長兼務）石崎武志

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部	広領域研究室長　小林公治

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（10件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター	生物科学研究室長　木川りか
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存科学研究室長　佐野千絵
3	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター	分析化学研究室長　早川泰弘
4	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
5	文化財の防災計画に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
6	文化財の放射線対策に関する研究	保存修復科学センター	副所長　石﨑　武志

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
7	文化財における伝統技術及び材料に関する関する調査研究	保存修復科学センター	伝統技術研究室長　北野信彦
8	文化財修復材料の適用に関する調査研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
9	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長　中山俊介
10	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　岡田　健

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	主任研究員　江村知子

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健 地域環境研究室長　山内和也
2	韓国および日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
3	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
4	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	地域環境研究室長　山内和也
5	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健 地域環境研究室長　山内和也
6	国際研修「紙の保存と修復」	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉
7	在外日本古美術保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【奈良文化財研究所】計33件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（20件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川聡
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部	文化遺産部長　林良彦
3	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	文化遺産部	文化遺産部長　林良彦
4	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	文化遺産部	文化遺産部長　林良彦
5	我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）	文化遺産部	文化遺産部長　林良彦
6	平城宮跡第一次大極殿院の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
7	平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
8	平城京右京一条二坊四坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
9	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
10	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
11	藤原宮跡の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査副部長　玉田芳英
12	飛鳥地域発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査副部長　玉田芳英
13	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
14	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査副部長　玉田芳英
15	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登
16	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
17	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　平澤毅
18	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅
19	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
20	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（3件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の測量･探査等に関する研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　難波洋三
3	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　難波洋三

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査副部長　玉田芳英
2	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査副部長　玉田芳英
3	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査副部長　玉田芳英
4	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力	都城発掘調査部　平城地区	副所長　小野健吉
5	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	飛鳥資料館	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登
6	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	企画調整部長　杉山洋
7	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査副部長　玉田芳英

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	企画調整部長　杉山洋
2	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　森本　晋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　荒田明夫

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
67 件	24 件	41 件	2 件

【東京文化財研究所】計24件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	水浸した日本画の修復方法に関する調査研究（受託）	保存修復科学センター
2	文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業（受託）	保存修復科学センター
3	絵金屏風の保存修理に関する調査研究（受託）	保存修復科学センター
4	松平定信≪細写 物語歌書『源氏物語』≫の収蔵箱の保存に関する調査研究(受託)	保存修復科学センター
5	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）	保存修復科学センター
6	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）	保存修復科学センター
7	装飾古墳の保存に関する調査研究事業（受託）	保存修復科学センター
8	関西大学博物館及び考古学研究室保管奈良県高市郡明日香村牽牛子塚古墳出土夾紵棺一括の修理（受託）	保存修復科学センター
9	小石川後楽園得仁堂収蔵物の保存修復科学的な調査委託（受託）	保存修復科学センター
10	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）	文化遺産国際協力センター
11	第37回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成（受託）	文化遺産国際協力センター
12	第37回世界遺産委員会審議調査研究事業（受託）	文化遺産国際協力センター
13	第38回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成(受託)	文化遺産国際協力センター
14	ラチャプラディット寺院螺鈿扉修復計画策定のための調査研究（受託）	文化遺産国際協力センター
15	文化遺産国際協力拠点交流事業（ブータン）（受託）	文化遺産国際協力センター
16	「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」ユネスコ日本信託基金事業（受託）	文化遺産国際協力センター
17	文化遺産保護国際協力拠点交流事業（ミャンマー）（受託）	文化遺産国際協力センター
18	文化遺産国際協力拠点交流事業（アルメニア及びコーカサス諸国等）（受託）	文化遺産国際協力センター
19	文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス及び中央アジア諸国等）（受託）	文化遺産国際協力センター
20	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「ツバル・キリバス・フィジーの文化遺産保護に関する技術的調査」（受託）	文化遺産国際協力センター
21	ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業（ウズベキスタン）（受託）	文化遺産国際協力センター
22	ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業（タジキスタン）（受託）	文化遺産国際協力センター
23	ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金　バーミヤン遺跡保存事業（受託）	文化遺産国際協力センター
24	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務(受託)	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】計41件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成25年度文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業・考古分野）（受託）	企画調整部
2	平城宮跡展示館詳覧ゾーン展示内容調査業務（受託）	企画調整部
3	比叡山延暦寺建造物の普及・啓発に関する業務（受託）	文化遺産部
4	兵庫県近代和風建築総合調査（受託）	文化遺産部
5	平成25年度平出地区伝統的建造物群保存対策調査（受託）	文化遺産部
6	長谷川家建造物・庭園現況調査業務委託（受託）	文化遺産部
7	京都岡崎の文化的景観保存計画策定調査（受託）	文化遺産部
8	相川地区文化的景観保存計画策定調査(受託)	文化遺産部
9	平成25年度長良川流域の文化的景観における普及啓発事業支援業務委託(受託)	文化遺産部
10	西大寺旧境内(薬師金堂西方)の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
11	興福寺西室跡の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
12	薬師寺十字廊跡の発掘調査(受託)	都城発掘調査部　平城地区
13	西大寺旧境内(弥勒金堂東方)の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
14	平城宮跡歴史公園および朱雀大路緑地等の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
15	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査(受託)	都城発掘調査部　平城地区
16	朱雀大路緑地の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
17	法華寺旧境内の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
18	海龍王寺の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
19	藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査(受託)	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
20	鳥取県鳥取市良田平田遺跡他２遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究(受託)	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
21	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
22	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
23	装飾古墳の保存に関する調査研究事業－考古学的見地にもとづく調査研究－（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
24	甘樫丘地区遺跡発掘調査業務(受託)	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
25	キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
26	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
27	本薬師寺跡、藤原京跡（右京八条三坊）発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区

28	元町石仏が彫刻された凝灰岩の不飽和水分移動特性に関する研究（受託）	埋蔵文化財センター
29	国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う環境調査(受託)	埋蔵文化財センター
30	建中寺における文化財建造物の彩色塗装材料の調査研究（受託）	埋蔵文化財センター
31	史跡ガランドヤ古墳１号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究(受託)	埋蔵文化財センター
32	ネットワーク型遺跡調査システムの開発（受託）	埋蔵文化財センター
33	鬼ノ岩屋古墳総合的探査委託業務（受託）	埋蔵文化財センター
34	宝城坊本堂の年輪年代調査（受託）	埋蔵文化財センター
35	国宝薬師寺東塔木材年代測定業務（第１回）（受託）	埋蔵文化財センター
36	平成25年度小竹貝塚出土動物遺存体同定調査業務（受託）	埋蔵文化財センター
37	陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務（受託）	埋蔵文化財センター
38	陸前高田市立博物館所蔵骨角器抜本修復業務（受託）	埋蔵文化財センター
39	東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）	埋蔵文化財センター
40	大阪府安満宮山古墳出土品保存修理事業（受託）	埋蔵文化財センター
41	平成25年度文化遺産国際協力拠点交流事業　ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業(受託)	埋蔵文化財センター

アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成２５年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
2	東ティモール無形文化遺産専門家向けスタディツアー（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成26年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
270件	142件	76件	10件	21件	35件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	127件	56件	71件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1件				

【東京国立博物館】76　件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「中国文明の謎」	学芸企画部長　松本伸之	4月27日	名古屋市博物館
2	同上	「謎の青銅器 － 銅鐸に迫る － 」	企画課長　井上洋一	8月17日	「国宝・神戸市桜ヶ丘出土銅鐸」記念講演会（九州国立博物館）
3	同上	「大岩山銅鐸と銅鐸研究のあゆみ」	企画課長　井上洋一	10月6日	第７０回銅鐸研究会（野洲市歴史民俗博物館）
4	同上	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」－４００年前の京都観光ナビゲート	企画課特別展室長　松嶋雅人	10月23日	朝日カルチャーセンター　朝日JTB・交流文化塾・新宿教室
5	同上	日本の美術品国家補償制度の改定と現状について（Updates on Japanese Government Indemnity Program and the current status）	企画課国際交流室長　鬼頭智美	4月19日	国際展覧会オーガナイザー会議（ International Exhibition Organizers）
6	同上	国宝 大神社展	上席研究員　池田　宏	4月16日	全国神社総代会
7	同上	「和歌と美術をもっとよく知る∞のコトバ」	列品管理課平常展調整室　土屋貴裕	4月29日	島根県立石見美術館特別展「和歌と美術」関連トークショー
8	同上	「四天王寺所蔵六幅本聖徳太子絵伝をめぐる諸問題」	列品管理課平常展調整室　土屋貴裕	5月28日	東京文化財研究所企画情報部研究会
9	同上	「嘉元本聖徳太子絵伝を絵解く」	列品管理課平常展調整室　土屋貴裕	11月4日	斑鳩町いかるがホール「法隆寺の聖徳太子絵伝を絵解く」
10	同上	東京国立博物館所蔵の≪群集横穴図≫と≪埴輪 短甲の武人≫について	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	12月1日	根岸友山・武香顕彰会
11	同上	日朝の墨戯の交わり	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	11月9日	高麗美術館「朝鮮通信使と京都」展講演
12	同上	伝雪舟「富士三保清見寺図」の波及	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	11月23日	雪舟研究会公開講座基調講演（山口県立美術館）
13	同上	描かれた富士山	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	12月7日	横浜市民ギャラリーあざみ野　あざみ野カレッジ講演
14	同上	「矢代幸雄とシックマン―20 世紀における中国絵画観の変容」	調査研究課東洋室　塚本麿充	6月13日	「美術と宝物の相関性についての比較美術史的研究」分科ワークショップ（東京大学）
15	同上	「江戸時代的中國書畫收藏」	調査研究課東洋室　塚本麿充	6月25日	台湾師範大学藝術史研究所講演会（台湾師範大学）
16	同上	「中国絵画史における「人格」と「かたち」―呉彬「山陰道上図巻」と価値評価の構造」	調査研究課東洋室　塚本麿充	26年1月11日	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　「かたち」再考―開かれた語りのために―（東京文化財研究所）
17	同上	Remodeling Chinese Paintings in Edo Japan: Chan Yue's Arhats and Their Restructuring as Triptychs	調査研究課東洋室　塚本麿充	26年2月14日	College Art Association 102nd Annual Conference, Chicago
18	同上	縄文土器に飾られた人物と動物	調査研究課考古室　井出浩正	11月7日	韓国国立中央博物館学術交流発表会
19	同上	「三次元形状計測を用いた同笵銅鐸の検討	奈良県立橿原考古学研究所　奥山誠義、水野敏典、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　北井利幸、調査研究課考古室　品川欣也、（公財）辰馬考古資料館　青木政幸、神戸市立博物館　橋詰清孝	7月6～7日	『日本文化財科学会第 30 回大会要旨集』弘前大学(日本文化財科学会)、250・251頁
20	同上	忠清南道 公州 水村里古墳群出土金銅製装身具についての韓日製作技術の比較	列品管理課主任研究員　古谷 毅	9月27日	韓国·忠南歴史文化研究院・公州水村里遺跡発掘10周年記念 国際学術シンポジウム
21	同上	奈良県三輪山祭祀遺跡群と古墳時代の神マツリ	列品管理課主任研究員　古谷 毅	11月10日	奈良県立橿原考古学研究所・平成25年秋季特別展 研究講座
22	同上	家形埴輪研究史と研究成果および課題 -機能と性格-	列品管理課主任研究員　古谷 毅	6月15日	韓国·嶺南文化財研究院・韓日家形土器埴輪の比較と歴史的意義（韓日家形土器·埴輪(하니와) 共同研究會）
23	同上	南九州における古墳文化の特質	列品管理課主任研究員　古谷 毅	26年1月23日	明治大学大学院文学研究科 「複眼的日本古代学研究の人材育成プ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
					ログラム」 南西日本プログラム特別講義
24	同上	大型古墳と中小古墳 －再整理から見た七観古墳の意義－	列品管理課主任研究員 古谷 毅	26年2月2日	(大阪府)堺市 第４回百舌鳥古墳群講演会「巨大古墳あらわる－履中天皇陵古墳を考える－」
25	同上	日本原始･古代の武具と馬具	列品管理課主任研究員 古谷 毅	26年2月22日	(千葉県)千葉市埋蔵文化財調査センター 平成25年度 千葉市遺跡発表会 特別講演
26	同上	特別展『人間国宝展』の見どころ	企画課特別展室 横山梓	26年1月17日	青梅市文化センター（ＮＨＫ講演会）
27	同上	特別展『人間国宝展』の見どころ	企画課特別展室 横山梓	26年1月22日	東京国立博物館（花王特別内覧会）
28	同上	異なる文化を受け入れる	博物館教育課長 小泉惠英	26年2月13日	日本通運2013年度美術品営業研修
29	同上	「描かれた女性の姿」	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀	4月21日	大和文華館「人物画名品展」特別講演会
30	同上	「Dos Biombos Japoneses de la Escuela Rimpa」	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀	6月12日	スペイン・プラド美術館 特別展講演会
31	同上	「文化財としての絵画」	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀	10月26日	新宿区立新宿歴史博物館歴史講座
32	同上	The popularity of sarasa for Thai market in Japan During the 17th and 18th century	調査研究課工芸室主任研究員 小山弓弦葉	11月8日	“Textiles and Dress at the Thai Court and Beyond” （ Queen Sirikit Museum of Textiles）
33	同上	特別展『人間国宝展』の魅力	調査研究課工芸室主任研究員 小山弓弦葉	12月11日	板橋区立文化会館（ＮＨＫ講演会）
34	同上	染織作家に見る『人間国宝展』の魅力	調査研究課工芸室主任研究員 小山弓弦葉	26年1月24日	東京国立博物館、（雑誌「美しいキモノ」主催）
35	同上	特別展『人間国宝展』シンポジウム「伝統工芸の21世紀を考える」	調査研究課工芸室主任研究員 小山弓弦葉	26年1月25日	東京国立博物館
36	同上	特別展『人間国宝展』の魅力	調査研究課工芸室主任研究員 小山弓弦葉	26年1月30日	五日市地域交流センター（ＮＨＫ講演会）
37	同上	博物館資料の臨床保存学	保存修復課長 神庭信幸	26年2月21日	平成25年度保存科学研究集会「文化財の収蔵・展示環境」
38	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	被災文化財等救援活動における人材養成－『陸前高田学校』（文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ）－	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課主任研究員 荒木臣紀、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、本陸前高田市立博物館長 本多文人、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
39	同上	陸前高田市立博物館における一時保管環境の改善過程	保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課長 神庭信幸、陸前高田市立博物館長 本多文人、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
40	同上	津波で被災した資料の一時保管環境の改善過程	保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課長 神庭信幸、陸前高田市立博物館長 本多文人、陸前高田市立博物館副主幹 熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長 赤沼英男	9月5日	2013東アジア文化遺産保存シンポジウム
41	同上	被災文化財等救援活動における保存修理―東京国立博物館修理室での油彩画等保存修理活動―	保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦、米倉乙世 平河智恵、保存修復課保存修復室有期雇用職員 小川絢子、保存修復課保存修復室有期雇用職員 三浦知佳、東京芸術大学 池上久美、東洋画修復技術者 宋亨蘭	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
42	同上	特別展示場の湿度環境安定化を目指した運用方法の考案	保存修復課主任研究員 荒木臣紀、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課長 神庭信幸	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
43	同上	文化財の断層撮影に適した大型エックス線CTスキャナーの開発	保存修復課主任研究員 荒木臣紀、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課長 神庭信幸	9月4日～7日	2013東アジア文化遺産保存シンポジウム
44	同上	名物裂を用いた表装裂の復元に関する共同	保存修復課保存修復室ア	7月21日	文化財保存修復学会第35回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
		研究	ソシエイトフェロー　鈴木晴彦、米倉乙世、平河智恵、保存修復課長 神庭信幸、特任研究員 澤田むつ代、調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉、調査員 小笠原小枝、国宝修理装こう師連盟　岡興造、坂田雅之、加藤章男、半田昌規、大菅 直、沖本明子、廣瀬織物有限会社 廣瀬賢治、株式会社鳥原商店 鳥原雄治		
45	同上	花車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理事例 ～ 修理におけるクリーニング効果に着目して ～	保存修復室アソシエイトフェロー　平河智恵、鈴木晴彦、米倉乙世、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長　土屋裕子、国宝修理装こう師連盟 沖本明子	7月21日	文化財保存修復学会第35回大会
46	同上	作品に安全な展示方法の新案②- ミニアチュール展示の工夫を例として-	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、鈴木晴彦、平河智恵、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、バレリー・リー（東洋画修復技術者）	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
47	同上	被災文化財等救援事業における資料保存処置トリアージの重要性	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
48	同上	Stabilization Treatment of Cultural Asset Damaged by Tsunami on March 11th, 2011	保存修復課長　神庭信幸、赤沼秀男、熊谷賢、保存修復課環境保存室長　和田浩、保存修復課主任研究員 荒木臣紀、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復課保存修復室長　土屋裕子	12月6日	1995年の阪神淡路大震災から続く、自然災害が引き起こす文化財被害への対応
49	同上	岩手県陸前高田市立博物館と共に歩んだ３３カ月	保存修復課長　神庭信幸	26年2月28日	君津地方公立博物館協議会第2回研修会
50	同上	東京国立博物館の取り組みと課題	保存修復課長　神庭信幸	26年3月7日	日本博物館協会研究協議会　東日本大震災から３年～復興への道のりを検証する～
51	博物館の環境保存に関する研究	博物館における包括的保存システムの構築に関する研究（V）	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課主任研究員　荒木臣紀、保存修復課保存修復室長　土屋裕子、佐藤香子	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
52	同上	低酸素環境維持機能をもつミイラ展示用ケースの開発	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、吉川辰巳、久保知、佐藤孝典	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
53	同上	低酸素環境維持機能をもつミイラ展示用ケースの開発	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、吉川辰巳、久保知、佐藤孝典	9月6日	2013東アジア文化遺産保存シンポジウム
54	同上	東京国立博物館所蔵コプト裂―プレッシャーマウント法等による安全な固定・保管・公開―	保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉、東京文化財研究所　石井美恵、染織品修理技術者 山崎真紀子、（株）テラ 星肖江	7月20日	文化財保存修復学会第35回大会
55	博物館環境デザインに関する調査研究	講座. 工作坊『特展的展示設計』『展示與照明II』（ワークショップ《展示と照明》）	企画課デザイン室長　木下史青	5月27～29日	國立臺南藝術大學 博物館學與古物維護研究所(会場･國立自然科學博物館、國立臺灣美術館)
56	同上	レクチャーシリーズ「エコロジー空間」2013「茶室のエコロジー」『茶室と光』	企画課デザイン室長　木下史青	6月6日	総合地球環境学研究所「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト」プロジェクト（会場･京都精華大学）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
57	同上	『展示構成と会場デザイン』	企画課デザイン室長　木下史青	9月11日	文化庁 第8回指定文化財(美術工芸品)企画･展示セミナー（会場･九州国立博物館研修室）
58	同上	展示論講座 ～博物館の展示～ 『展示と照明』	企画課デザイン室長　木下史青	9月13日	日本展示学会（会場･東京国立博物館 黒田記念館セミナー室）
59	同上	魅力ある博物館への誘い－展示デザインの妙－『魅力ある展示－アイデア・実践－』	企画課デザイン室長　木下史青	11月5日	青森県博物館等協議会平成25年度青森県博物館大会（会場・青森県立郷土館小ホール）
60	同上	美術館･博物館において必要な展示照明とは	企画課デザイン室長　木下史青	26年3月13日	応用色彩光学勉強会（会場・東芝ﾗｲﾃｯｸ川崎事務所 川崎ｽﾏｰﾄｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ）
61	博物館教育に関する調査研究	東京国立博物館の生涯学習ボランティアについて	ボランティア室長　鈴木みどり	7月4日	文化庁「第二回企画展示セミナー」
62	同上	東京国立博物館におけるボランティア制度の現状と課題	ボランティア室長　鈴木みどり	26年1月16日	平成25年度研究協議会「博物館とボランティアの新しい地平」（日本博物館協会）
63	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	Digitization and Database in Tokyo National Museum	博物館情報課情報管理室長　村田良二	10月22日	The 2nd Yeongwol International Museum Forum (Korea)
64	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	「日本の書法」	副館長　島谷弘幸	4月20日	上海博物館
65	同上	「書の普遍性と時代による進展」	副館長　島谷弘幸	5月6日	君津地方書道協会
66	同上	「博物館の現状と課題・書の魅力と見方」	副館長　島谷弘幸	7月29日	一般社団法人ディレクトフォース
67	同上	「陽明文庫所蔵の宸翰について」	副館長　島谷弘幸	9月21日	陽明文庫講座
68	同上	「東京国立博物館の歴史と書の魅力」	副館長　島谷弘幸	11月13日	国際医療福祉大学　総合講座(市民開放授業)
69	同上	「浦上玉堂の書」	副館長　島谷弘幸	11月16日	シンポジウム浦上玉堂(浦上家史編纂委員会主催)
70	同上	「茶の湯と書」	副館長　島谷弘幸	11月24日	畠山記念館　特別展「書の美」関連講演会
71	同上	「『和様の書』鑑賞の手引き」	調査研究課書跡･歴史室アソシエイトフェロー　恵美千鶴子	7月22日	NHK主催文化講演会
72	同上	「古筆にみる伝統と創造－平安時代の世尊寺家」	副館長　島谷弘幸	26年1月25日	大東文化大学
73	同上	「日本文化と屏風の鑑賞」	副館長　島谷弘幸	26年2月25日	Yale University Art Gallery’s exhibition
74	在欧日本仏教美術の基礎的調査･研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信	「展覧会による日本美術の情報発信」	副館長　島谷弘幸	26年2月8日	第6回21世紀ミュージアム・サミット
75	極薄青銅器の製作技術解明　－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究－	漢代青銅器の工人集団類別－温酒尊を例にして－	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	12月14日～15日	日本中国考古学会
76	視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究（科研費）	トークセッション「線を遊ぶ、語る ～縄文から現代まで～」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	11月23日	信州大学人文学部芸術コミュニケーション分野、茅野市美術館　主催

【京都国立博物館】10件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	京都から見た〈山茶碗〉編年	工芸室長　尾野善裕	7月13日	東海土器研究会プレシンポジウム
2	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	京都から見た〈山茶碗〉編年～空白の14･15世紀をめぐって～	工芸室長　尾野善裕	11月2日	第２回東海土器研究会
3	特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究	清朝陶磁と日本人	工芸室長　尾野善裕	26年1月18日	長崎歴史文化博物館講演会
4	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	人形と京都	教育室長　山川 暁	4月27日	日本家政学会　関西支部講演会
5	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	宋元時期仏教交流中的絲綢伝播	教育室長　山川 暁	10月26日	海上絲綢之路―亜洲的跨文化交流和文化遺産検討会
6	近世絵画に関する調査研究	王済遠的油画、水彩画和水墨画―有関中国近現代油画家的創作意識―	列品管理室研究員　呉 孟晋	5月28日	万象更新―現代性、視覚文化与二十世紀中国― 国際学術研討会（台湾・仏光大学歴史学系）
7	近世絵画に関する調査研究	Yuan Jiang’s Screen and its Function in Eighteenth-century Yangzhou	列品管理室研究員　呉 孟晋	12月6日	The Making of Chinese Painting: 700 to the present (Victoria and Albert Museum, London)
8	近世絵画に関する調査研究	従須磨収蔵看嶺南画派画現実生活的表現―以容大塊所画的作品為中心―	列品管理室研究員　呉 孟晋	12月12日	国画復活運動与広東中国画国際学術研討会（中国・嶺南画派紀念館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
9	近世絵画に関する調査研究	陳澄波与一九二〇年代日本的油画	列品管理室研究員　呉 孟晋	26年1月18日	陳澄波専題研究２０１４工作坊（台湾・台南市政府文化局）
10	近世絵画に関する調査研究	筆墨による代理戦争―日中戦争における中国の絵画―	列品管理室研究員　呉 孟晋	26年2月18日	科研研究会「社会主義と戦争のメモリースケープ」（科学研究費基盤B「社会主義文化における戦争のメモリースケープ研究―旧 ソ連・中国・ベトナム」、会場：亜細亜大学）

【奈良国立博物館】　21件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる	當麻寺の彫像	学芸部長補佐 岩田茂樹	5月25日	奈良国立博物館公開講座
2	同上	明王像の諸相と魅力	同上	9月22日	奈良学セミナー（於:奈良市中部公民館）
3	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	重源―大仏再興にこめた祈り	学芸部長補佐 内藤 栄	7月18日	エル・おおさか歴史セミナー『救済に携わるすばらしい僧侶たち』（於:エル・おおさか）
4	同上	叡尊―菩薩と呼ばれた聖	同上	8月30日	エル・おおさか歴史セミナー『救済に携わるすばらしい僧侶たち』（於:エル・おおさか）
5	同上	光明皇后の想いを感じる正倉院展	同上	9月7日	奈良女子大学社会連携センター地域公開講座（於:奈良女子大学）
6	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる	小学生と鑑賞する正倉院展	同上	9月24日	奈良市教育委員会学校教育課　教育事業（於:奈良市教育センター）
7	同上	正倉院宝物の鑑賞入門	同上	10月5日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集いＩＮ福岡（於:よみうりプラザ）
8	同上	正倉院学術シンポジウムパネルディスカッション	同上	10月27日	正倉院学術シンポジウム「鑑真和上と正倉院宝物」（於：奈良県新公会堂）
9	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	実範と金亀舎利塔	同上	11月24日	第十二回ザ・グレイトブッダ・シンポジウム「中世東大寺の華厳世界―戒律・禅・浄土―」（於:東大寺総合文化センター）
10	同上	正倉院宝物と百済文化	同上	11月30日	第二回国際シンポジウム「高麗時代　蒲柳雑樹水禽文螺鈿描金香箱」研究（於:韓国国立中央博物館）
11	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる	第４回　茶室・八窓庵をのぞいてみませんか	情報ｻｰﾋﾞｽ室長 吉澤 悟	10月21日	奈良国立博物館サンデートーク
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	飛鳥仏の源流をたどる	教育室長 岩井共二	4月21日	奈良国立博物館サンデートーク
13	同上	仏像を10倍楽しく見る方法を教えます　第二幕　仏像はどうしてこんな姿をしているの？	同上	8月10日	奈良国立博物館ワークショップ
14	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる	仏像に会う－展覧会案内－	同上	8月22日	夏季講座「仏教美術へのいざない」（於:奈良県文化ホール）
15	同上	形から見た仏像の諸相	同上	9月7日	奈良国立博物館公開講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	ハコ、いろいろ	主任研究員 清水 健	7月21日	奈良国立博物館サンデートーク
17	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる	読売新聞・正倉院展出前授業	同上	11月1日	奈良育英中学校
18	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	怨霊とタタリの歴史学	研究員 斎木涼子	11月17日	奈良国立博物館サンデートーク
19	同上	真言密教と天皇―摂関期から院政期へ―	同上	11月30日	日本史研究会
20	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	国宝　子島曼荼羅の銀泥表現	研究員 原 瑛莉子	9月14日	美術史學会
21	同上	附属品	同上	12月15日	奈良国立博物館サンデートーク

【九州国立博物館】　35件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	特別展「大ベトナム展」に関する調査研究	「安南文書の世界」	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	5月12日	特別展「大ベトナム展」特別講演会
2	高等学校所蔵考古資料の調査研究	高等学校の考古資料が抱える諸問題	企画課特別展室主任研究員 市元塁	5月22日	福岡県高等学校歴史研究会報告
3	蘭学関係資料の調査研究	「江戸のサイエンス」展の楽しみ方－武雄蘭学資料の魅力にせまる－	文化財課研究員　荒木和憲	6月15日	トピック展示「江戸のサイエンス―武雄蘭学の軌跡」ミュージアム講座
4	文化財の材質・構造等に関する共同研究	Ｘ線ＣＴを活用した勝負砂古墳出土有機質製品の調査	博物館科学課長　今津節生	7月6日	日本文化財科学会
5	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「中国　王朝の至宝　三〇〇〇年にわたる美の興亡、そのダイナミズムを体感する！」	企画課特別展室主任研究員 市元塁	7月12日	特別展「中国　王朝の至宝」解説講座（筑紫野市）
6	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」	学芸部長　谷豊信	7月13日	特別展「中国　王朝の至宝」リレー講座
7	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「中国　王朝の至宝を10倍楽しく見る方法」	企画課特別展室主任研究員 市元塁	7月20日	特別展「中国　王朝の至宝」関連リレー講座
8	文化財の保存環境に関する調査研究	博物館での飲食を伴う場所におけるＩＰＭ活動について	博物館科学課研究員　秋山純子	7月20日	文化財保存修復学会　第35回大会（東北大学）
9	文化財の材質・構造に関する調査研究	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究１	博物館科学課研究員　秋山純子	7月21日	文化財保存修復学会　第35回大会（東北大学）
10	文化財の保存環境に関する調査研究	ミュージアムＩＰＭの実践と課題	学芸部特任研究員　本田光子	7月20日	文化財保存修復学会　第35回大会（東北大学）
11	文化財の保存環境に関する調査研究	市民ボランティアによる文化財ＩＰＭの発信について	学芸部特任研究員　本田光子	7月21日	文化財保存修復学会　第35回大会（東北大学）
12	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「中国 王朝の至宝でよみとく3000年」	企画課特別展室主任研究員 市元塁	7月28日	特別展「中国　王朝の至宝」地域講演会（岡垣町）
13	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」	学芸部長　谷豊信	8月4日	特別展「中国　王朝の至宝」地域講演会（篠栗町）
14	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「中国　王朝の至宝」の魅力に迫る―学芸員が語る「歴史」と「文化」―	企画課特別展室主任研究員 市元塁	8月20日	特別展「中国　王朝の至宝」特別展セミナー（九州経済調査会）
15	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「比べて分かる　中国 王朝の至宝」	企画課特別展室主任研究員 市元塁	8月23日	特別展「中国　王朝の至宝」特別展出張講演（西日本新聞エリアセンター姪浜）
16	特別展「中国　王朝の至宝」に関する調査研究	「中国王朝　栄華を極めたのは誰だ」	学芸部長　谷豊信	8月25日	特別展「中国　王朝の至宝」地域講演会（柳川市）
17	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析	Ｘ線ＣＴ（３Ｄ－ＣＴ）を用いた文化財の状態調査	博物館科学課長　今津節生	9月4日	東アジア文化遺産学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
18	海外展「日本文化展」に関する調査研究	「ベトナム・ハノイにおける文化庁海外展について」	展示課主任研究員　岸本圭	10月5日	国際シンポジウム「ベトナムに恋して」
19	日本書道史における三蹟の研究	「太宰府ゆかりの和様の書」	文化財課資料登録室主任研究員　丸山猶計	10月19日	大宰府学講座（太宰府市）
20	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究	特別展「尾張徳川家の至宝」について	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	10月20日	特別展「尾張徳川家の至宝」アクロス・文化学び塾
21	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究	「御三家筆頭　尾張徳川家の至宝展」	展示課展示調整室主任研究員　酒井芳司	11月1日	特別展「尾張徳川家の至宝」解説講座（筑紫野市）
22	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究	「殿様の教養―尾張徳川家の名筆と典籍―」	展示課展示調整室主任研究員　酒井芳司	11月2日	特別展「尾張徳川家の至宝」連続講座
23	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究	「絵になる源氏物語」	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	11月2日	特別展「尾張徳川家の至宝」連続講座
24	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究	「天下人のあかし―信長・秀吉・家康の遺愛品」	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	11月9日	特別展「尾張徳川家の至宝」連続講座
25	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究	「国宝　初音の調度の魅力」	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	11月9日	特別展「尾張徳川家の至宝」連続講座
26	特別公開「江上波夫の眼　ことばとかたち」に関する研究	江上波夫旧蔵作品紹介	企画課長　臺信祐爾	11月28日	第2回ふるさとセミナー（春日市奴国の丘歴史資料館）
27	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	「九州の中の百済及び渡来人の文化」	展示課長　赤司善彦	12月5日	駐福岡韓国総領事館主催「九州の中の韓国文化」
28	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「神像のみかた」	展示課主任研究員　楠井隆志	26年1月18日	特別展「国宝 大神社展」連続講座「国宝　大神社展」の壺
29	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「神話と『古事記』『日本書紀』」	展示課主任研究員　酒井芳司	26年1月18日	特別展「国宝 大神社展」連続講座「国宝　大神社展」の壺
30	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「日本人はいかに表現したか。」	展示課主任研究員　楠井隆志	26年1月19日	特別展「国宝 大神社展」地域講演会「国宝　大神社展」への誘い（久留米市）
31	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「古神宝の調度」	企画課文化交流展室主任研究員　川畑憲子	26年1月25日	特別展「国宝 大神社展」連続講座「国宝　大神社展」の壺
32	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「神々のすがた」	企画課特別展室研究員　森實久美子	26年1月25日	特別展「国宝 大神社展」連続講座「国宝　大神社展」の壺
33	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「天の岩戸と神の島～古代人の他界観」	企画課文化交流展室長　河野一隆	26年2月2日	特別展「国宝 大神社展」地域講演会「国宝　大神社展」への誘い（福津市）
34	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「よみがえった宮地嶽古墳黄金の太刀」	展示課長　赤司善彦	26年2月9日	特別展「国宝 大神社展」地域講演会「国宝　大神社展」への誘い（福岡市）
35	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	「よみがえった宮地嶽古墳黄金の太刀」	展示課長　赤司善彦	26年3月2日	特別展「国宝 大神社展」イベント「宮地嶽黄金伝説」（福岡市）

【東京文化財研究所】計56件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（21件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の資料学的研究	華族たちの写真同人誌『華影』と黒田清輝宛小川一真書簡	企画情報部長　田中　淳	4月30日	企画情報部研究会
2	同上	平安後期の飛天光背の展開をめぐって―滋賀・浄厳院像、同・西教寺像の実査を踏まえて―	企画情報部文化形成研究室長　津田徹英	11月16日	美術史学会東部例会
3	近現代美術に関する交流史的研究	モダニズムのなかの文人画－画家中川一政の「文人」像	企画情報部長　田中　淳	6月21日	第48回国際学術シンポジウム「美術文化から見る韓日」　東國大学校日本学研究所
4	同上	時代を拓いた人－ 黒田清輝に迫る	企画情報部副部長　山梨絵美子	7月13日	長野県信濃美術館
5	同上	徳川慶喜の油絵を読む―幕府開成所と近代洋画	企画情報部副部長　山梨絵美子	11月16日	静岡市美術館
6	同上	移動する画家たち―1920年代の日本の岩手県の画家たち	企画情報部長　田中淳	12月6～7日	国際学術研討会「異郷與家郷　東亜美術史的伏流與激盪　1920-40」国立台湾大学芸術史研究所
7	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	東京国立博物館蔵国宝本・千手観音像の表現	企画情報部主任研究員　小林　達朗	7月30日	2013年度第4回企画情報部研究会
8	同上	平安仏画の表現―虚空蔵菩薩と千手観音像―	企画情報部主任研究員　小林　達朗	10月4日	第47回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
9	同上	螺鈿を訪ねて西へ東へ－5000年の世界史を探る－	企画情報部広領域研究室長　小林　公治	10月5日	第47回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
10	同上	美麗の術―国宝千手観音像の場合	企画情報部主任研究員　小林　達朗	26年1月11日	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会発表

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	世阿弥作《四季祝言》《敷島》の復元	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	5月26日	能楽学会第12回大会
12	同上	［上ゲ歌］形成試論	同上	7月14日	楽劇学会第21回大会
13	同上	実践としての謡―音楽としてのおもしろさはどこにあるのか	同上	11月27日	京都市立芸術大学伝音講座
14	同上	くり返すということ	同上	26年1月10日	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会発表
15	同上	東京文化財研究所所蔵「特殊再生装置を要する音盤」	無形文化遺産部音声・映像記録研究室長　飯島　満	10月8日	第8回公開学術講座
16	同上	染織技術を守るということ―文化財保護という立場から―	無形文化遺産部研究員　菊池理予	12月13日	大妻女子大学創成工房
17	同上	無形文化遺産情報ネットワークの活動報告	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	6月11日	連携研究会：文化遺産の復興に向けたミュージアムの活用のための基礎的研究－大学共同利用機関の視点から　国立民族学博物館
18	同上	アイヌと本州以南の祭祀具―イナウと削りかけ	同上	7月4日	特別講義もう一つの日本と出会う：アイヌ文化　東京造形大学
19	同上	無形文化遺産情報ネットワーク	無形文化遺産部主任研究員　久保田裕道	26年1月14日	総合研究会
20	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	現存する一節切―正倉院から17世紀初頭まで	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	9月14日	韓日国際管楽器フェスティバル
21	同上	日本における出土鼓胴と古制の鼓胴について	同上	11月23日	第五回東亜細亜国際音楽考古学学会

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	人物の細部表現から見た「群れとしてのかたち」	文化遺産国際協力センター主任研究員　江村知子	26年1月11日	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会発表

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（23件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	津波被災した紙質文化財等から分離した微生物の諸性質	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、研究員　佐藤嘉則	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
2	同上	キトラ古墳石室における微生物制御:石室から分離された微生物の紫外線（UV）耐性試験結果について	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、研究員　佐藤嘉則	同上	同上
3	文化財の保存環境の研究	展示ケース内有機酸量の季節変化と吸着シートによる対策の事例	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　呂　俊民、研究補佐員　古田嶋智子	同上	同上
4	同上	文化財展示収蔵施設に用いられる内装材料の空気質への影響　その3―コーキング材からの放散ガス	同上	同上	同上
5	同上	展示ケース内の有機酸濃度の解析	同上	同上	同上
6	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	ハンドヘルド蛍光Ｘ線分析装置によるウズベキスタン国立歴史博物館所蔵資料の材料調査	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘	7月6日～7日	日本文化財科学会第30回大会
7	同上	国宝平等院鳳凰堂内西面扉絵日想観の下地層について	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
8	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵市・下藤キリシタン墓地における遺構の凍結防止策	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、主任研究員　森井順之	同上	同上
9	同上	中世石造物に見られる彩色顔料の特徴について	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	7月6日～7日	日本文化財科学会第30回大会
10	同上	磨崖和霊石地蔵の修復	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、主任研究員　森井順之	9月5日～6日	第3回東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
11	同上	大分・臼杵磨崖仏における次期保存修理に向けた調査研究―磨崖仏の劣化とその対策―	保存修復科学センター主任研究員　森井順之	26年2月4日	地盤遺産シンポジウム
12	文化財の防災計画に関する研究	石巻文化センター被災文化財一時保管場所の温湿度環境について	保存修復科学センター長　岡田　健、主任研究員　犬塚将英、主任研究員　森井順之	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
13	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	桃山文化期における輸入漆の調達と使用に関する調査（Ⅲ）	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	7月6日～7日	日本文化財科学会第30回大会
14	同上	桃山文化期欄間彩色の保存と資料活用に関する基礎的調査	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦、主任研究員　吉田直人	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
15	文化財修復材料の適用に関する調査研究	Structural Characterization of MaFunori Extracted from Red Seaweed through NMR Spectroscopy	保存修復科学センター主任研究員　早川典子	5月17日	NMR研究会 東京工業大学

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	同上	老化を利用した小麦デンプン糊の接着力調整に関する研究	保存修復科学センター主任研究員　早川典子	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
17	同上	絵画修理に用いる膠に関する考察	保存修復科学センター主任研究員　早川典子	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
18	同上	壁画修復処置に用いる接着材料への酵素の影響	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、研究員　佐藤嘉則、客員研究員　大河原典子、生物科学研究室長　木川りか、文化遺産国際協力センター長　川野邊渉	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
19	同上	剥落止めに用いる膠の処理方法について	保存修復科学センター主任研究員　早川典子	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
20	同上	絹本文化財の修復材料としての劣化絹の研究　－電子線照射と紫外線照射の併用-	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　山田祐子、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター長　川野邊渉	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
21	同上	Characterization of Fukuro-Funori and Ma-Funori through NMR spectroscopy	保存修復科学センター主任研究員　早川典子	9月11日	高分子討論会 金沢大学
22	近代の文化遺産に関する調査研究	近代木製家具の修復技法及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
23	同上	近代テキスタイルの保存と修復	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	11月22日	近代的スタイルの保存と修復に関しての研究会

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（4件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	世界遺産－現状と問題、将来像	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	10月5日	東京文化財研究所第47回オープンレクチャー
2	同上	アメリカの動産文化財保護制度	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　境野飛鳥	26年2月4日	東京文化財研究所第４回総合研究会
3	同上	文化財の国際情報の活用- 日本美術作品を中心に	文化遺産国際協力センター主任研究員　江村知子	26年2月4日	東京文化財研究所第４回総合研究会
4	同上	ユネスコ無形文化遺産保護条約第8回政府間委員会	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	26年3月7日	第14回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向」

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（7件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	朱が使用された壁画彩色の劣化―敦煌莫高窟第285窟の天井に描かれた雲気文の保存状態―	保存修復科学センター客員研究員　高林弘実、主任研究員　犬塚将英、客員研究員　渡辺真樹子、センター長　岡田健	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
2	同上	敦煌莫高窟第285窟壁画の保存状態Ⅲ―天井壁画における劣化の定量的解析―	保存修復科学センター客員研究員　高林弘実、客員研究員　渡辺真樹子、主任研究員　犬塚将英、客員研究員　津村宏臣、センター長岡田健	同上	同上
3	同上	敦煌莫高窟第285窟北天井に描かれた禅定比丘像の彩色技法	企画情報部主任研究員　皿井舞	7月6日	日本文化財科学会第30回大会
4		敦煌莫高窟第285 窟壁画の劣化に及ぼす太陽光の影響	保存修復科学センター　岡田健、客員研究員　渡辺真樹子	8月30日	2013日本建築学会大会
5	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復－壁画断片群の状態と安定化のための処置－	文化遺産国際協力センター客員研究員　杉原朱美、地域環境研究室長　山内和也	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会
6	在外日本古美術品保存修復協力事業	Pressurizing and supporting techniques for damaged lacquer objects	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉、任期付研究員　山下好彦	5月20日～26日	Asian Lacquer Symposium 2013、バッファロー州立大学
7	同上	裏打ち紙除去に使用した酵素の除去確認方法について	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　楠京子、アソシエイトフェロー　山田祐子、主任研究員　加藤雅人	7月20日～21日	文化財保存修復学会第35回大会

【奈良文化財研究所】計71件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（45件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	日本における古文書の調査と文化財指定	歴史研究室長　吉川聡	11月21日	「インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的記録文書等の保存修復のための拠点交流事業」主催のジャカルタでのシンポジウム
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	日本における木造建造物の類型と調査	文化遺産部長　林良彦	10月21日	ユネスコアジア文化センター主催のスリランカキャンディーにおける木造文化遺産保存セミナー
3	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	日本における集落町並み保存の制度と実務	文化遺産部長　林良彦	11月13日	日・中・韓建築文化遺産保存国際学術会議
4	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	日本における集落町並みの調査と研究	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　松下迪生	11月13日	日・中・韓建築文化遺産保存国際学術会議
5	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	近代奈良の庭園 －近年の調査報告から	文化遺産部主任研究員　中島義晴	10月12日	大乗院庭園文化館 庭園研究講座
6	我が国の記念物に関する調査・研究(国際研究交流)	Research on Large Diameter and Long Logs Used to Maintain Important Cultural Buildings in Japan	都城発掘調査部研究員　海野聡	9月17日	Inquiry HP (Columbia University, U.S.A.)
7	我が国の記念物に関する調査・研究(国際研究交流)	*Matsuri* in Japan’s Historic Districts: Using Traditional Festivals as a Driver in Local Communities	文化遺産部アソシエイトフェロー　菊地淑人	9月17日	Inquiry HP (Columbia University(U.S.A.))
8	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	平城宮の6225-6663型式軒瓦	都城発掘調査部研究員　石田由紀子	26年2月8日	第14回古代瓦研究会シンポジウム
9	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	東アジア文字文化研究の深化を目指して	都城発掘調査部主任研究員 馬場 基	11月8日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
10	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	新羅における初期金工品の生産と流通に関する一試論	都城発掘調査部研究員　諫早直人	11月8日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
11	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	古代日韓における有蓋台付椀の製作と展開について	都城発掘調査部研究員　小田裕樹	11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
12	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	日韓壁画古墳および王陵級古墳の比較研究	都城発掘調査部研究員　廣瀬 覚	11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
13	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	食器と調理器具にもとづく韓日古代都城における飲食文化の復元研究	都城発掘調査部研究員　庄田慎矢 ※大韓民国国立文化財研究所学芸研究士 韓志仙との共同発表。口頭発表は韓志仙が行った。	11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
14	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	河南省鞏義窯の考古発掘の主要成果	河南省文物考古研究院　前所長 孫 新民	11月19日	河南省文物考古研究院講演会
15	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	淅川県龍山崗仰韶時代城址の考古発見	河南省文物考古研究院　館員 梁 法偉	11月19日	河南省文物考古研究院講演会
16	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	東アジア文字文化研究の深化を目指して	都城発掘調査部主任研究員 馬場 基	11月8日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	新羅における初期金工品の生産と流通に関する一試論	都城発掘調査部研究員　諫早直人	11月8日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
18	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	古代日韓における有蓋台付椀の製作と展開について	都城発掘調査部研究員　小田裕樹	11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
19	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	日韓壁画古墳および王陵級古墳の比較研究	都城発掘調査部研究員　廣瀬 覚	11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
20	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	食器と調理器具にもとづく韓日古代都城における飲食文化の復元研究	都城発掘調査部研究員　庄田慎矢 ※大韓民国国立文化財研究所学芸研究士 韓志仙との共同発表。口頭発表は韓志仙が行った。	11月9日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会
21	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	日本古墳の墳丘築造技術とその系統	都城発掘調査部研究員　青木 敬	12月18日	国際学術シンポジウム蓮山洞古墳群の意義と評価
22	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的資産としての名勝地	景観研究室長　平澤毅	5月16日	京都造園懇談会
23	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	佐渡相川の文化的景観　その価値とこれからを見つめて	文化遺産部研究員　惠谷浩子	6月30日	第２回世界遺産連続講座　金を中心とする佐渡鉱山の遺産群
24	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	Organic Interrelations and Inherited Systems on Cultural Landscapes in Japan	文化遺産部研究員　惠谷浩子	9月13日	Conference Balancing untouched nature with local cultures
25	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	京都岡崎の文化的景観×重要文化的景観	文化遺産部研究員　惠谷浩子	9月27日	第１回白川を創る会ワークショップ
26	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的資産としての名勝―東アジアに固有な遺産類型の包括的な研究と保護に向けて―	景観研究室長　平澤毅	10月18日	韓國傳統造景學會秋季学術論文發表會
27	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	名勝としてのジオパーク	景観研究室長　平澤毅	11月2日	山陰海岸ジオパークのマネジメント　～海と山の景勝地を結ぶ～（第30回全国都市緑化とっとりフェア記念フォーラム）
28	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的景観の「受け継ぎ方」 － 文化的景観の可能性と限界	文化遺産部アソシエイトフェロー　菊地淑人	12月11日	佐渡市世界遺産推進課 課内勉強会
29	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	遺跡・文化的景観における「計画」について	景観研究室長　平澤毅	26年1月24日	平成25年度遺跡整備・景観合同研究集会「～計画は何のために策定し、どのように実施するのか？～」
30	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的景観における建築保全	文化遺産部研究員　惠谷浩子	26年3月16日	京都市文化財マネージャースキルアップ講座
31	遺跡データベースの作成と公開	若草伽藍について	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅、平田政彦、甲斐弓子	7月26日	第63回法隆寺夏季大学
32	遺跡データベースの作成と公開	大極殿の移築はどのようにしてわかったのか	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅	11月17日	放送大学奈良学習センター公開シンポジウム
33	遺跡データベースの作成と公開	ぐんが建物を復元する①発掘された建物跡から	客員研究員　山中敏史	26年3月1日	藤枝市ぐんが古代史講座
34	遺跡データベースの作成と公開	ぐんが建物を復元する②復元された志太ぐんが	客員研究員　山中敏史	26年3月8日	藤枝市ぐんが古代史講座
35	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	日本出土インド・パシフィックビーズの化学組成の時期変化に関する研究	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	7月6－7日	日本文化財科学会
36	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	塩化鉄(Ⅱ)が付着した鉄製遺物の大気腐食に及ぼす湿度の影響	保存修復科学研究室長　高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎	7月6－7日	日本文化財科学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
37	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線元素分析法による下地漆喰に関する調査(5)－	保存修復科学研究室長　高妻洋成、都城発掘調査部主任研究員　降幡順子、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎、田村朋美、　埋蔵文化財センター特別研究員　辻本与志一、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　赤田昌倫	7月6－7日	日本文化財科学会
38	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	平城宮出土土器付着物の材料分析	保存修復科学研究室長　高妻洋成、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　赤田昌倫	7月6－7日	日本文化財科学会
39	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	キトラ古墳壁画の材料調査2－玄武像の可視分光分析－	保存修復科学研究室長　高妻洋成、都城発掘調査部主任研究員　降幡順子、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎、田村朋美、埋蔵文化財センター　特別研究員　辻本与志一、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　赤田昌倫	7月6－7日	日本文化財科学会
40	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	海洋堆積物における埋蔵環境の鉛直変化が鉄製遺物の腐食に及ぼす影響	保存修復科学研究室長　高妻洋成	7月6－7日	日本文化財科学会
41	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	田熊石畑遺跡における青銅器埋蔵環境の変遷に関する研究	保存修復科学研究室長　高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎	7月6－7日	日本文化財科学会
42	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	韓国と日本において出土した鋳造ガラス玉の考古科学的考察	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美	9月5－6日	3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
43	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎	6月15－16日	日本建築学会近畿支部
44	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎	8月30－9月1日	日本建築学会
45	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	ハノイ、タンロン皇城遺跡の土遺構の保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎	12月21日	土壌水分ワークショップ

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（17件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の測量･探査等に関する研究	震災復興に伴う遺跡調査への計測技術の利用にむけて	埋蔵文化財センター主任研究員　金田明大	4月17日	日本測量協会イブニングセミナー
2	文化財の測量･探査等に関する研究	アレイ式探査機による遺跡探査迅速化の試行	埋蔵文化財センター主任研究員　金田明大	7月7日	日本文化財科学会
3	年輪年代学研究	下北半島産ブナ標準年輪曲線を用いた夏気温復元の可能性	埋蔵文化財センター研究員　星野安治、米延仁志、安江恒、野掘嘉裕、客員研究員　光谷拓実	5月23日	日本地球惑星連合2013年大会
4	年輪年代学研究	秋田県森吉家ノ前A遺跡出土材を用いた年輪考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員　星野安治、大山幹成、米延仁志	5月23日	日本地球惑星連合2013年大会
5	年輪年代学研究	深見池年縞堆積物のクロスデーティング	埋蔵文化財センター研究員　星野安治	11月10日	深見の池調査研究発表会
6	動植物遺存体による環境考古学的研究	Horse Sacrifice in Pre-Qin Age, China	客員研究員　菊地大樹	4月3-7日	Society for American Archaeology 78th Annual Meeting
7	動植物遺存体による環境考古学的研究	Domesticating sacrifice	客員研究員　丸山真史、客員研究員　菊地大樹	4月3-7日	Society for American Archaeology 78th Annual Meeting
8	動植物遺存体による環境考古学的研究	自然科学分析を実施する際に現場では何が求められているのか	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	6月29日	近江貝塚研究会第236回例会
9	動植物遺存体による環境考古学的研究	生業研究からみた晩期前半の社会	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	7月20日	東海縄文研究会シンポジウム「東海地方における縄文時代前期前半の社会」
10	動植物遺存体による環境考古学的研究	東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査に対する支援の現状報告	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	11月16-17日	日本動物考古学会第１回大会
11	動植物遺存体による環境考古学的研究	中世大友府内遺跡出土の動物遺存体	客員研究員　松井章、客員研究員　丸山真史ほか	11月16-17日	日本動物考古学会第１回大会
12	動植物遺存体による環境考古学的研究	大坂城下町跡における双六の駒の製作	客員研究員　丸山真史	11月16-17日	日本動物考古学会第１回大会
13	動植物遺存体による環境考古学的研究	3Dレーザースキャンによる動物考古学の新手法	客員研究員　菊地大樹、客員研究員　松井章ほか	11月16-17日	日本動物考古学会第１回大会
14	動植物遺存体による環境考古学的研究	復興事業に伴う発掘調査で出土した動物遺存体の概要	京都大学大学院　松崎哲也、客員研究員　丸山真史、埋蔵文化財センター研究員　山崎健	11月16-17日	日本動物考古学会第１回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
15	動植物遺存体による環境考古学的研究	動物考古学における現生標本の管理と公開	埋蔵文化財センター研究員 山崎健、 客員研究員　松井章	11月30日	第28回日本植生史学会大会
16	動植物遺存体による環境考古学的研究	中国西周王朝における馬飼養管理の実態	客員研究員　菊地大樹ほか	12月2-3日	日本ウマ科学会第26回学術集会
17	動植物遺存体による環境考古学的研究	古墳時代に飼育されたウマ	客員研究員　丸山真史	12月21日	古代学研究会2013年度拡大例会シンポジウム「古墳時代中期の馬生産と鉄生産」

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（3件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	Application of Terahertz Wave Imaging Technique to Structural Survey of a Historical Painting on Silk	保存修復科学研究室長　高妻洋成	4月22－24日	Asia-Pacific Microwave Photonics Conference 2013
2	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査	保存修復科学研究室長　高妻洋成	7月20－21日	文化財保存修復学会
3	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	文化財の材料調査へのテラヘルツ波イメージングの応用	保存修復科学研究室長　高妻洋成	9月5－6日	3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（3件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	高松塚古墳壁画の材料調査-蛍光X線分析法による下地漆喰に関する調査(5)-	保存修復科学研究室長　高妻洋成、都城発掘調査部主任研究員　降幡順子、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎・田村朋美、埋蔵文化財センター特別研究員　辻本与志一、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー赤田昌倫、 早川泰弘・肥塚隆保・吉田直人・朽津信明・早川典子・江村知子・佐野千絵・岡田健・三浦定俊・宇田川滋正・建石徹	7月7日	日本文化財科学会第30回大会
2	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	キトラ古墳壁画の材料調査2-玄武像の可視分光分析調査-	保存修復科学研究室長　高妻洋成、都城発掘調査部主任研究員　降幡順子、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎・田村朋美 埋蔵文化財センター特別研究員　辻本与志一、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー赤田昌倫、 吉田直人・岡田健・朽津信明・江村知子・早川典子・宇田川滋正・建石徹	7月7日	日本文化財科学会第30回大会
3	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査	保存修復科学研究室長　高妻洋成 福永香・W.Zia・T.Meldrum・B.Bluemich	7月21日	文化財保存修復学会第35回大会

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	Progressive report of the conservation for Prasat Top West (Monument 486), Angkor (2013)	企画調整部研究員　石村智	12月3日	アンコール遺跡群国際調整会議（ICC-Angkor）第22回技術委員会
2	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	Archaeological research at Western Prasat Top, Angkor	企画調整部長　杉山洋、 企画調整部研究員　石村智	平成26年1月14日	The 20th Congress of Indo-Pacific Prehistory Association

○情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	遺構情報モデルにおける不確かな時間属性の取り扱いについて	文化財情報研究室長　森本晋 他、所外6名	10月27日	日本地理情報システム学会第22会研究発表大会

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究	無形文化遺産の復興とコミュニティの活性化の事例について	副所長・大貫美佐子	7月6日	International Expert Meeting on Intangible Cultural Heritage and Economy

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成26年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
10件	8 件	1件	2件	2件	3件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1 件	1件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】

○特別展人間国宝展シンポジウム『日本工芸の21世紀を考える』
- 開 催 日　26年1月25日
- 開催場所　東京国立博物館
- 主　　催　東京国立博物館、文化庁、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社、日本工芸会
- 参加人数　336人
- 事業内容　国宝・重要文化財などの古典的な工芸と、現代の人間国宝の作品を見ながら、今後日本の工芸が歩むべき未来について語るシンポジウムを開催。

【京都国立博物館】

○特別シンポジウム『京博がやってきた』
- 開 催 日　10月12日
- 開催場所　有楽町朝日ホール
- 主　　催　京都国立博物館、
- 参加人数　560人
- 事業内容　平成26年に新平常展示館「平成知新館」がオープンを迎えるのに先立ち、京都国立博物館の活動や魅力を紹介するシンポジウムを開催。これまでの京都国立博物館の活動を振り返るとともに、各研究員による研究紹介や、文化大使の井浦新氏も参加する対談を行った。

○特別シンポジウム『京博が新しくなります』
- 開 催 日　26年1月25日
- 開催場所　京都テルサホール
- 主　　催　京都国立博物館
- 後　　援　朝日新聞社
- 参加人数　435人
- 事業内容　平成26年に新平常展示館「平成知新館」がオープンを迎えるのに先立ち、京都国立博物館の活動や魅力を紹介するシンポジウムを開催。これまでの京都国立博物館の活動を振り返るとともに、各研究員による研究紹介や、文化大使の井浦新氏も参加する対談を行った。

【奈良国立博物館】

○當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」関連イベント　学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」
- 開 催 日　4月27日
- 開催場所　奈良国立博物館　講堂
- 主　　催　奈良国立博物館、読売新聞社
- 参加人数　149名
- 事業内容　當麻曼荼羅完成１２５０年記念特別展「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」の開催と３０年ぶりに公開される綴織當麻曼荼羅を記念し、４名の講師を迎え、パネルディスカッションを行い、日本における極楽浄土イメージの根本となった綴織當麻曼荼羅について議論を深めた。

○正倉院学術シンポジウム2013「鑑真和上と正倉院宝物」
- 開 催 日　10月27日
- 開催場所　奈良県新公会堂　レセプションホール
- 主　　催　奈良国立博物館
- 後　　援　読売新聞社
- 参加人数　192名
- 事業内容　鑑真和上示寂１２５０年を記念して、鑑真和上と正倉院宝物との関連について理解を深めることを目的とし、４名の講師による講演と、パネルディスカッションをおこなった。

【九州国立博物館】

○国際シンポジウム　「ベトナムに恋して」
- 開 催 日　10月5日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 後　　援　在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館、九州ベトナム友好協会、九州国立博物館振興財団、福岡県教育委員会、太宰府市、太宰府市教育委員会、九州文化財国際交流基金、
- 参加者数　207人
- 事業内容　在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館グェン・ヴェト・ドク副領事、国際交流基金ベトナム日本文化交流センター稲見和己所長、当館研究員による講演会とトークセッション、留学生パフォーマンス、スペシャルライブを実施した。

○公開シンポジウム　「市民と共に　ミュージアムIPM」
- 開 催 日　10月12日
- 開催場所　一橋大学　一橋講堂
- 主　　催　市民と共に　ミュージアムIPM実行委員会（九州国立博物館、九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会、福岡県教育委員会、大野城市教育委員会、春日市教育委員会、太宰府市教育委員会、筑紫野市教育委員会、那珂川町教育委員会）、九州国立博物館
- 連携協力機関　公益財団法人太宰府顕彰会、愛知県美術館、大分県立歴史博物館、九州歴史資料館、熊本市現代美術館、高知県立美術館、長崎歴史文化博物館、福岡県立美術館、福岡市美術館、太宰府市文化ふれあい館、筑紫野市歴史博物館、奴国の丘歴史資料館、九州産業大学美術館、九州大学総合研究博物館、久留米大学比較文化研究所、西南学院大学博物館、田川市石炭・歴史博物館、NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター
- 後　　援　九州文化財国際交流基金、公益財団法人文化財虫菌害研究所、一般社団法人文化財保存修復学会、一般社団法人国宝修理装こう師連盟、一般社団法人ミュージアム支援者協会、NPO法人文化財保存支援機構
- 参加者数　116人
- 事業内容　第1部 基調講演：ミュージアムとIPM、第2部 基調報告：ミュージアムIPMと市民活動、第3部 事例報告：ミュージアムIPMの導入と成果　が行われた。

○公開シンポジウム　第34回日本山岳修験学会 太宰府・宝満山学術大会「大宰府をめぐる山々と海彼」（トピック展示「山の神々」関連）
- 開 催 日　10月26日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　267人
- 事業内容　「東アジアの中の大宰府をめぐる山岳信仰」、「〈海彼〉を望む女神たち－日韓の山岳宗教と女神信仰－」、「背振山系と肥前霊山の諸相」、「山の神仏と海－北部九州と造形遺品に見る－」、「首羅山・油山と東アジア」の講演が行われた。

【東京文化財研究所】

○国際シンポジウム　第37回 文化財の保存と修復に関する国際研究集会「「かたち」再考―開かれた語りのために―」

・開 催 日　　26年1月10～12日
・開催場所　　東京文化財研究所セミナー室
・主　　催　　東京文化財研究所
・参加人数　　260人
・事業内容　　本国際研究集会では、人々の営みのなかで生み出される「かたち」をテーマとし、美術史学、考古学、建築史、芸能史など、「かたち」をあつかう諸分野の方法論を集めて討議することを試みた。海外の研究者と積極的な研究交流を行った。

【奈良文化財研究所】

該当なし

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○「無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム」

・開 催 日　　25年8月3日
・開催場所　　ホテル・アゴーラリージェンシー堺
・主　　催　　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、文化庁、堺市
・後　　援　　外務省、日本ユネスコ国内委員会
・協　　力　　独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場
・参加人数　　291人
・事業内容　　2003年のユネスコ総会で「無形文化遺産の保護に関する条約（無形遺産保護条約）」が採択されてから10周年となることを記念し、広く一般の方に、条約に関心を持ってもらうとともに、その意義を理解いただくためにシンポジウムを開催した。本シンポジウムでは、第一部において二本の基調講演とパネルディスカッションを行い、第二部では日本とカンボジアの無形文化遺産の公演を行った。また、大阪府や堺に関わりの深い文化遺産を紹介する展示コーナーも設けた。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 26 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
343 件	207 件	134 件	30 件	22 件	21 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	135 件	28 件	107 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】134件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸企画部長　松本伸之	「世界に一つだけの東洋館-東京国立博物館東洋館リニューアルをめぐって」	『歴史と地理』 №666	山川出版社	8月	無
2	同上	企画課長　井上洋一	「祀りのはじまり」	『国宝　大神社展』	NHK・NHK プロモーション	4月9日	無
3	同上	企画課特別展室長　松嶋雅人	紀楳亭筆　鹿図	『國華』1411 号	國華社	5月20日	無
4	同上	同上	総論　日本の絵は、時空を超える	「京都-洛中洛外図と障壁画の美」展図録	東京国立博物館	10月8日	無
5	同上	同上	特論　舟木本に秘められたドラマと時の流れ	同上	同上	同上	無
6	同上	同上	総論　日本絵画の奥義	「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」展図録	東京国立博物館	26年1月15日	無
7	同上	同上	渡辺崋山と写真鏡	同上	同上	同上	無
8	同上	同上	Japan's Dream of Modern Art	Remaking Tradition ; Modern Art of Japan from the Tokyo National Museum	Yale University Press	26年2月16日	無
9	同上	企画課特別展室　横山梓	東京国立博物館「特集陳列　人間国宝の現在」作家インタビュー（吉田美統）	「陶説」第 729 号	公益社団法人日本陶磁協会	12月	無
10	同上	同上	東京国立博物館「特集陳列　人間国宝の現在」作家インタビュー（井上萬二、原清、中島宏）	「陶説」第 730 号	同上	26年1月	無
11	同上	同上	東京国立博物館「特集陳列　人間国宝の現在」作家インタビュー（鈴木藏、加藤孝造）	「陶説」第 731 号	同上	26年2月	無
12	同上	企画課特別展室　横山梓（共訳）	OKA Yoshiko「The Kyoto-ware Potter Ninsei and chanoyu」	「第 2 回 お茶三昧:茶の湯と茶文化に関するサンフランシスコ国際カンファレンス」報告書	サンフランシスコ州立大学	26年3月	無
13	同上	企画課出版企画室長　勝木言一郎	「仙界」「桃源郷」「浄土」および東アジア作品解説「銀製方鏡」ほか 14 項目	『古代の楽園-神話、来世、桃源郷…-』	古代オリエント博物館	10月5日	無
14	同上	同上	玄奘が見た高昌、亀茲、于闐 -唐代の都人が憧れた西域壁画の源流をたずねる-	『遣唐使は見た！ -憧れの国際都市　長安-』	横浜ユーラシア文化館	11月30日	無
15	同上	同上	楽の音が聴こえるシルクロードの美術	『東洋美術をめぐる旅　東京国立博物館　東洋館』	平凡社	12月25日	無
16	同上	同上	クチャ音楽の伝播	同上	同上	同上	無
17	同上	同上	大谷探検隊ものがたり-中央アジア探検に燃えた僧侶	同上	同上	同上	無
18	同上	同上	「寺観壁画」ほか 22 項目	『中国文化史大事典』	大修館書店	5月10日	無
19	同上	同上	《表紙解説》二菩薩立像	『MUSEUM』646 号	東京国立博物館	10月15日	無
20	同上	同上	敦煌の美術	『pen』352 号	阪急コミュニケーションズ	26年1月15日	無
21	同上	企画課出版企画室　遠藤楽子	《館史研究》グラスゴー博物館との物品交換事業について―資料と寄贈品にみる博物館草創期の国際交流の諸相―	『MUSEUM』647	東京国立博物館・中央公論事業出版	12月15日	有
22	同上	企画課国際交流室長　鬼頭智美	国際展覧会オーガナイザー（ＩＥＯ）会議について	『博物館研究』９月号「国際動向」	公益財団法人日本博物館協会	8月25日	無
23	同上	博物館教育課長　小泉惠英	ガンダーラ美術にみるカーシャパ三兄弟の帰仏	てら　ゆき　めぐれ　大橋一章博士古稀記念美術史論集	中央公論美術出版	4月28日	無
24	同上	同上	中央アジアの美術　先史～クシャーナ朝	アジアの芸術史　造形篇 II 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド	藝術学舎	10月1日	無
25	同上	同上	ガンダーラの仏教美術　仏像の成立と展開	同上	同上	同上	無
26	同上	同上	西域美術　シルクロードの美術と仏教遺跡	同上	同上	同上	無
27	同上	広報室長　小林　牧	東京国立博物館の SNS	ZENBI（全国美術館会議機関誌）	全国美術館会議	26年1月号	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
28	同上	上席研究員　池田　宏	神社の宝物と神道の美術	『国宝 大神社展』	NHK・NHK プロモーション	4月9日	無
29	同上	同上	国宝　黒韋矢筈札胴丸の修理	『春日』　第 90 号	春日大社	8月1日	無
30	同上	同上	頭形兜鉢、牛伏寺の刀剣	『牛伏寺誌』	牛伏寺誌刊行会	12月15日	無
31	同上	列品管理課長　富田淳	徽宗皇帝の宣和装と７つの璽印	『上海博物館 中国絵画の至宝』図録	東京国立博物館	10月	無
32	同上	同上	乾隆帝の題詩-銭選の《浮玉山居図巻》-	同上	同上	同上	無
33	同上	同上	清朝における王冕《墨梅図》の伝来	同上	同上	同上	無
34	同上	同上	康熙帝を欺いた？男-高士奇の『江村書画目』-	同上	同上	同上	無
35	同上	同上	中村不折旧蔵《瘞鶴銘》の伝来について	『清時代の書-碑学派-』図録	東京国立博物館・公益財団法人台東区芸術文化財団	10月	無
36	同上	同上	青山杉雨的生涯	『MUSEUM 博物館之友』「日本書道之美、漢韻和風」	上海博物館編、鳳凰出版伝媒股份有限公司	5月	無
37	同上	列品管理課主任研究員 古谷 毅	江田船山古墳の出土品と百済	ビジュアル版　楽しくわかる韓国の歴史VOL.2　百済の美を求めて	キネマ旬報社	6月28日	無
38	同上	同上	忠清南道 公州 水村里古墳群出土金洞製装身具についての韓日製作技術の比較	公州 水村里遺跡発掘 10 周年記念 国際学術シンポジウム 発表要旨集	韓国・忠南歴史文化研究院	9月25日	無
39	同上	列品管理課主任研究員 古谷 毅、(奈良県立橿原考古学研究所・水野敏典、同奥山誠義)	三次元計測による三角縁神獣鏡『同笵鏡』の立体的差違の研究	『日本考古学協会 第 79 回総会 研究発表 要旨』	日本考古学協会	5月25日	無
40	同上	列品管理課主任研究員 古谷 毅	家形埴輪研究史と研究成果および課題　-機能と性格-	韓日家形土器・埴輪の比較と歴史的意義(韓日家形土器・埴輪(하니와) 共同研究會)要旨集	韓国・嶺南文化財研究院・東京国立博物館科学研究費(基盤 C)研究会	6月15日	無
41	同上	同上	大型古墳と中小古墳 －再整理から見た七観古墳の意義－	第４回百舌鳥古墳群講演会「巨大古墳あらわる－履中天皇陵古墳を考える－」発表要旨集	大阪府・堺市	2月2日	無
42	同上	列品管理課主任研究員 古谷 毅	日本原始・古代の武具と馬具	平成 25 年度 千葉市遺跡発表会 要旨	千葉市教育委員会　埋蔵文化財調査センター	26年2月22日	無
43	同上	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	近衛家と典薬頭・錦小路頼庸―その日記にみえる絵事について―	『ＭＵＳＥＵＭ』646	東京国立博物館、中央公論事業出版	10月	有
44	同上	列品管理課平常展調整室長　白井克也	The Toyokan’s New Galleries of Korean Art	Orientations	Orientations Magazine Ltd	6月	無
45	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	‘CULTURE OF HAN AND PRE-HAN DYNASTIES’ : Remembering the First Exhibition of Chinese Archaeology in Japan	ORIENTATIONS, vol.44, no.5	Orientations Magazine Ltd,	6月	無
46	同上	同上	「犠尊」	『國華』第 1418 号	國華社	12月	無
47	同上	同上	「中国の青銅器」	『東京国立博物館　東洋館東洋美術をめぐる旅』	平凡社	12月	無
48	同上	同上	「玉器」ほか 13 項目	『中国文化史大事典』	大修館書店	5月	無
49	同上	同上	東周から漢時代にかけての黒陶着色技法	『中華文明の考古学』	同成社	26年3月	無
50	同上	列品管理課平常展調整室土屋貴裕（共著）	「『国宝帖』を読む」	『岡倉天心　近代美術の師(別冊太陽 209)』	平凡社	7月25日	無
51	同上	列品管理課平常展調整室土屋貴裕	「約束された救済の情景―二河白道図―」	「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」展図録	東京国立博物館	26年1月15日	無
52	同上	同上	「蔦の紅葉のなぞ－深江蘆舟の「蔦の細道図」－」	同上	同上	同上	無
53	同上	同上	『支倉常長像と南蛮美術』	東京国立博物館特別展リーフレット	東京国立博物館	26年2月11日	無
54	同上	同上	「聖徳太子絵伝（四幅本）と法隆寺」	『法隆寺献納宝物特別調査概報 34　聖徳太子絵伝（四幅本）2』	東京国立博物館	26年3月31日	無
55	同上	列品管理課平常展調整室土屋貴裕（綿田稔他と共著）	国立ギメ東洋美術館蔵　大政威徳天縁起絵巻―詞書公刊ならびに影印―（上）（中）（下）	『美術研究』410,411,412 号	東京文化財研究所	9月、26年2月、3月	無
56	同上	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀	栄西と建仁寺	『うえの』659 号	上野のれん会	26年3月1日	無
57	同上	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀	栄西と建仁寺の品々	特別展「栄西と建仁寺」図録	読売新聞社・NHK・NHK プロモーション	26年3月25日	無
58	同上	同上	海北友松の伝記と作風―建仁寺の友松筆障壁画の位置付け	同上	同上	同上	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
59	同上	同上	正伝院に伝来した二つの肖像画をめぐって	同上	同上	同上	無
60	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	海を渡った海北友松の墨龍図	『特別展　朝鮮通信使と京都「誠信の交わり」への道－松雲大師と雨森芳洲－』図録	高麗美術館	10月19日	無
61	同上	同上	富士三保松原図の図様伝播―狩野派を中心に―	島尾新　彬子女王　亀田和子編『写しの力　創造と継承のマトリクス』	思文閣出版	12月20日	無
62	同上	同上	華麗なる二条城の障壁画	『新発見！　日本の歴史』29号	朝日新聞出版	26年1月26日	無
63	同上	同上	正伝院障壁画（狩野山楽筆）を復元する	特別展『栄西と建仁寺』	東京国立博物館	26年3月25日	無
64	同上	調査研究課絵画・彫刻室本田光子	俵屋の扇絵―旧原家本「扇面散屏風」を見る―	聚美 7 号	青月社	4月1日	無
65	同上	同上	《作品紹介》土佐光起筆「源氏物語図屏風」について	MUSEUM 645 号	東京国立博物館	8月15日	有
66	同上	調査研究課工芸室長　竹内奈美子	彫嵌の系譜	『彫嵌 美しき匠の技』	ギャラリー竹柳堂	10月8日	無
67	同上	同上	朱漆輪花盤	『國華』1421 号	國華社	26年3月20日	無
68	同上	調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉	「日本人と麻」	『中川政七商店』	宝島社	5月	無
69	同上	同上	Woven Riches: Asian Twxtiles at the Toyokan	ORIENTATIONS, vol.44, no.5	Orientations Magazine Ltd,	6月	無
70	同上	同上	「森口華弘が語った『東博伝説』のゆくえ」	『現代の眼　No.602』	東京国立近代美術館	10月	無
71	同上	同上	「日本工芸会 60 年のあゆみ」	『美しいキモノ』No.246	㈱ハースト婦人画報社	11月	無
72	同上	同上	「名物裂とインド更紗」	『東京国立博物館　東洋館　東洋美術をめぐる旅』	平凡社	12月	無
73	同上	同上	「人間国宝展　―生み出された美、伝えゆくわざ」	『月刊うえの』No.657 1 月号	上野のれんの会	26年1月	無
74	同上	同上	「人間国宝展」への祈り	特別展「人間国宝展　―生み出された美、伝えゆくわざ」図録	東京国立博物館、文化庁、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社、日本工芸会	26年1月	無
75	同上	調査研究課東洋室　塚本麿充	「江戸時代所見之中國繪畫―狩野畫派的摹本製作與中國畫史研究」	『典藏古美術』第 248 期	典藏雜誌社	4月9日	無
76	同上	同上	「郭熙」ほか 25 項目	『中国文化史大事典』	大修館書店	5月	無
77	同上	同上	Frictions in Universal Contexts and Individual Values: Chinese Paintings at the Toyokan ”, June 2013, pp.40-47.	Orientations, Volume 44, Number 5	Orientations Magazine	6月	無
78	同上	同上	「中国絵画の至宝をめぐる旅」、「日本と中国の中国絵画観の差異―元代文人画の評価をめぐって」	『上海博物館 中国絵画の至宝』図録	東京国立博物館	10月	無
79	同上	同上	「李公麟」ほか 32 項目	『岩波世界人名大辞典』	岩波書店	12月	無
80	同上	同上	「奇跡の中国絵画展－特別展「上海博物館中国絵画の至宝」へのご招待－」	『うえの』2013 年 10、11 月号	上野のれん会	10月	無
81	同上	同上	「クリーブランド美術館の中国絵画コレクションと日本」	『クリーブランド美術館名画でたどる日本の美』	東京国立博物館	26年1月	無
82	同上	同上	「中国宮廷コレクションと目録―「舎利感応記」から「龍図閣瑞物目録」へ―」	『仏教美術論 第 5 巻 機能論』	竹林舎	26年2月	無
83	同上	同上	「矢代幸雄とシックマン―20 世紀における中国絵画観の変容」	『ＢＩ』Vol.7	東京大学	26年3月	無
84	同上	同上	「栄西の入宋―南宋社会からのまなざし―」	『栄西と建仁寺』	東京国立博物館	26年3月	無
85	同上	企画課長　井上洋一、調査研究課考古室　品川欣也、井出浩正	「縄文土器に飾られた人物と動物」	『縄文土器に飾られた人物と動物』	東京国立博物館	7月9日	無
86	同上	調査研究課考古室　橋本英将	装飾大刀	古墳時代の考古学　4　副葬品の型式と編年	同成社	5月31日	無
87	同上	企画課長　井上洋一、調査研究課考古室　品川欣也、井出浩正	縄文土器に飾られた人物と動物	東京国立博物館特集陳列リーフレット	東京国立博物館	7月9日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
88	同上	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、米倉乙世、平河智恵、保存修復課長　神庭信幸、特任研究員　澤田むつ代、調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉、調査員　小笠原小枝、国宝修理装こう師連盟、岡興造、坂田雅之、加藤章男、半田昌規、大菅 直、　沖本明子、廣瀬織物有限会社　廣瀬賢治、株式会社鳥原商店　鳥原雄治	名物裂を用いた表装裂の復元に関する共同研究	文化財保存修復学会第 35 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	7月20日	有
89	同上	保存修復課保存修復室長　土屋裕子（次の研究者との共著　東京藝術大学教授　佐藤一郎、木島隆康、桐野文良、非常勤講師　作間美智子（元）、中右恵美子（元）、金　鐘旭（現）	「小寺健吉（明治 44 年 3 月卒業）自画像　東京藝術大学大学美術館　学生制作品-1300」	『東京藝術大学美術学部紀要』　第 51 号	東京藝術大学美術学部	12月	有
90	同上	保存修復課長　神庭信幸ほか	平成 24 年度東京国立博物館文化財修理報告	平成 24 年度東京国立博物館文化財修理報告書	東京国立博物館	26年3月31日	無
91	創立 150 周年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査	調査研究課長　田良島 哲	《資料紹介》森鷗外自筆手稿〈上野公園ノ法律上ノ性質〉	『MUSEUM』 645	東京国立博物館	8月	有
92	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	保存修復課環境保存室長　和田浩、保存修復課長　神庭信幸、陸前高田市立博物館長　本多文人、陸前高田市立博物館副主幹　熊谷賢、岩手県立博物館学芸第二課長　赤沼英男	陸前高田市立博物館における一時保管環境の改善過程	文化財保存修復学会第 35 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	7月20日	有
93	同上	同上	津波で被災した資料の一時保管環境の改善過程	2013 東アジア文化遺産保存シンポジウム要旨集	2013 東アジア文化遺産保存シンポジウム事務局	9月5日	有
94	同上	保存修復課長　神庭信幸	岩手県における被災文化財等救援活動の成果と課題	岩手県立博物館調査研究報告書第 30 冊	岩手県立博物館	26年3月3日	無
95	同上	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室長　和田浩	被災文化財等救援事業における資料保存処置トリアージの重要性	文化財保存修復学会第 35 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	7月20日	有
96	博物館環境デザインに関する調査研究	企画課デザイン室長　木下史青	色を持たない歴史への視点と、僕のミュージアム巡礼	日本歴史学会編集「日本歴史」第 788 号	吉川弘文館	26年1月号	無
97	同上	同上	特集資料 照明デザインの新しい地平　2 章.2 項「博物館照明の秘密」	照明学会誌 第 97 巻 第 10 号 2013 年 10 月	照明学会	10月	無
98	同上	同上	東京国立博物館 東洋館の環境·展示·照明·情報のデザイン	日本展示学会 展示論講座～博物館の展示～ 講義資料集	日本展示学会	9月11日	無
99	同上	同上	LED を用いた博物館照明の今後―東京国立博物館 東洋館の展示リニューアル―	照明学会誌 第 97 巻 第 6 号 2013 年 6 月	照明学会	6月	無
100	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課教育普及室任期付研究員　永田香織	社会教育・生涯学習の施設・行政とボランティア活動	現代の社会教育と生涯学習	九州大学出版会	4月10日	無
101	博物館資料·業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室長　村田良二	Digitization and Database in Tokyo National Museum	The 2nd Yeongwol International Museum Forum, Section 04, Museum and Design	The 2nd Yeongwol International Museum Forum (Korea)	10月22日	無
102	同上	調査研究課長　田良島 哲	デジタル時代における博物館コレクションの表現―歴史的な視角から	楊暁捷・小松和彦・荒木浩編『デジタル人文学のすすめ』	勉誠出版	8月	無
103	同上	同上	文化財としての写真原板の保護	平成 25 年度文化庁「文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究」報告書	日本写真家協会日本写真保存センター	26年3月	無
104	特別展「和様の書」に関する調査研究	同上	王朝貴族の書と信仰―藤原行成を中心に	特別展図録『和様の書』	読売新聞社·ＮＨＫ·ＮＨＫプロモーション	7月	無
105	特別展「日本伝統工芸展 60 回記念「人間国宝」に関する調査研究	学芸研究部長　伊藤嘉章	東京国立博物館「特集陳列 人間国宝の現在」作家インタビュー②前田昭博	『陶説』第 729 号	日本陶磁協会	12月1日	無
106	同上	同上	東京国立博物館「特集陳列 人間国宝の現在」作家インタビュー②前田昭博、⑦伊藤赤水、⑧伊勢崎淳	『陶説』第 731 号	日本陶磁協会	2月1日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
107	絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究	列品管理課平常展調整室　土屋貴裕	「歌仙絵がうまれたとき」	「和歌と美術」展図録	島根県立石見美術館	4月20日	無
108	同上	同上	「祖師のおもかげ―「華厳宗祖師絵伝」元暁絵 試論―」	加須屋誠編『図像解釈学―権力と他者―（仏教美術論集4)』	竹林舎	4月25日	無
109	同上	同上	『断簡―掛軸になった絵巻―』	東京国立博物館特集陳列リーフレット	東京国立博物館	7月17日	無
110	同上	同上	「失われた絵巻を求めて―絵巻模本の底力―」	「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」展図録	東京国立博物館	26年1月15日	無
111	縄文時代における浅鉢形土器の研究	調査研究課考古室　井出浩正	縄文時代中期中葉における浅鉢形土器―阿玉台式土器に伴う浅鉢の様相―	史観（第168冊）	早稲田大学史学会	26年3月25日	有
112	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	副館長　島谷弘幸	「和様の書の魅力」	『聚美』8号	青月社	6月	無
113	同上	同上	「聖鶴の書―日本人の心と美」	『高木聖鶴作品集』	山陽新聞社	6月	無
114	同上	同上	「和様の書」	『特別展　和様の書』図録	読売新聞社・NHK・NHK プロモーション	7月	無
115	同上	同上	『美しいかなが書ける本』	『美しいかなが書ける本』	枻出版社	7月	無
116	同上	同上	『東京国立博物館の名品でたどる　書の美』	『東京国立博物館の名品でたどる　書の美』	毎日新聞社	7月	無
117	同上	同上	「矢萩春恵の世界」	『矢萩春恵「お・ん・な」』	矢萩春恵展実行委員会	10月	無
118	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー　恵美千鶴子	「和様の書　小野道風『諡号勅書』」	『BIO CITY』55号	ブックエンド	6月	無
119	同上	同上	「特別展　和様の書」	『うえの』651号	上野のれん会	7月	無
120	同上	同上	「和様の書　藤原行成『陣定定文案』」	『BIO CITY』56号	ブックエンド	10月	無
121	同上	副館長　島谷弘幸	「古筆における伝統と創造」	島谷弘幸編『料紙と書　東アジア書道史の世界』	思文閣出版	26年3月	無
122	同上	同上	「下絵装飾と書」	同上	同上	同上	無
123	同上	列品管理課長　富田淳	「中国書法史における料紙加工紙について」	同上	同上	同上	無
124	同上	博物館情報課長　高橋裕次	「日本の料紙装飾の技法における受容と発展について」	同上	同上	同上	無
125	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー　恵美千鶴子	「料紙を中心とした『平家納経』鑑賞の記録」	同上	同上	同上	無
126	同上	同上	「後西天皇と書　『喪乱帖』」	『BIO CITY』57号	ブックエンド	26年1月	無
127	同上	同上	「後西天皇と書『高野切』」	『BIO CITY』58号	ブックエンド	26年3月	無
128	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究	貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	近衛家と典薬頭・錦小路頼庸―その日記にみえる絵事について―	『ＭＵＳＥＵＭ』646	東京国立博物館、中央公論事業出版	10月	有
129	同上	同上	狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」の制作背景―所収写生図の年代順の動向と被写体の提供者について―	『東京国立博物館紀要』49	東京国立博物館	26年3月	無
130	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー　恵美千鶴子	「日本における王羲之『蘭亭序』の受容」	『MUSEUM』第643号	東京国立博物館	6月	有
131	同上	同上	「和様の祖『小野道風』受容史」	『聚美』8号	青月社	6月	無
132	同上	同上	「『和様の書』鑑賞の歴史」	『特別展　和様の書』図録	読売新聞社・NHK・NHK プロモーション	7月	無
133	視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	ギメ東洋美術館所蔵の縄文土器―フォリー神父蒐集品の調査報告を兼ねて	武蔵野美術大学研究紀要 第44号	武蔵野美術大学	26年3月1日	有
134	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信	副館長　島谷弘幸	「Characteristics of the Japanese Buddhist Art: With a Focus on Calligraphy」	Josef Kreiner etc『Japanese Collections in European Museums, Vol.Ⅳ: Buddhist Art』	Bier ' sche Verlagsastalt(Bonn、ドイツ)	10月	無

【京都国立博物館】30件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	彫刻に関する調査研究	保存修理指導室長 淺湫　毅	夢違観音の伝来について	てら　ゆき　めぐれ　大橋一章博士古希記念美術史論文集	中央公論美術出版	4月28日	無
2	同上	同上	理由ありて日蓮宗寺院の尊像となれり	【図説】日蓮聖人と法華の至宝　第四巻　彫刻	同朋舎メディアプラン	11月20日	無
3	同上	同上	日蓮宗寺院における肖像彫刻の重要性	同上	同上	同上	無
4	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	列品管理室主任研究員　永島明子	作品解説	特別展観図録『いとうるわし。日本の美―京都国立博物館名品展―』	香川県立ミュージアム	4月	無
5	同上	同上	ゴータ・フリーデンシュタイン城美術館蔵画帖―明治政府よりエヂンバラ公アルフレッドへの贈答品（共著）	『学叢』３５号	京都国立博物館	5月	無
6	同上	同上	18世紀フランスの蒔絵熱―蒔絵層の剥ぎ取りと高度な模造の実例集―	同上	同上	同上	無
7	同上	同上	作品解説	Lacas Namban: Huellas de Japón en España (IV Centenario de la Embajada Keichô).	Ministerio de Educación, Cultura y Deporte, Museo Nacional de Artes Decorativas, Fundación Japón, Madrid.	5月	無
8	特別展観「遊び」に関する調査研究	同上	遊びの領分	『遊び』特別展観図録	京都国立博物館	7月13日	無
9	同上	同上	章解説・作品解説・編集	同上	同上	同上	無
10	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	工芸室長　尾野善裕	古代尾張における施釉陶器生産と歴史的背景	新修名古屋市史　資料編　考古２	名古屋市	4月	無
11	同上	同上	初期仁清の基準作「三島写水指」	いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展	香川県立ミュージアム	4月	無
12	同上	同上	京都から見た〈山茶碗〉編年	東海土器研究会プレシンポジウム資料集「渥美窯編年の問題点」	東海土器研究会	7月13日	無
13	同上	同上	織部焼はいつ流行したのか	特別展：国宝「卯花墻」と桃山の名陶―志野・黄瀬戸／瀬戸黒・織部―	三井記念美術館	9月10日	無
14	特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究	同上	清朝陶磁と日本	特別展覧会図録　魅惑の清朝陶磁	読売新聞社	10月12日	無
15	同上	同上	清朝官窯と近世日本	『陶説』第 728 号	日本陶磁協会	11月1日	無
16	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	同上	京都から見た〈山茶碗〉編年～空白の 14･15 世紀をめぐって～	第２回東海土器研究会　渥美窯編年の再構築	東海土器研究会	11月2日	無
17	近世絵画に関する調査研究	教育室研究員　水谷亜希	ゴータ・フリーデンシュタイン城美術館蔵画帖―明治政府よりエディンバラ公アルフレッドへの贈答品（共著）	『学叢』３５号	京都国立博物館	5月	無
18	同上	同上	擬人化表現がはたす役割―御伽草子《弥兵衛鼠》と《玉ものまへ》を中心に―	石川透編『中世の物語と絵画』（中世文学と隣接諸学第９巻）（分担執筆）	竹林舎	6月	無
19	新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究	同上	〈こども☆ひかりフェスティバル〉での出会い	『ミュゼ』第１０４号	アム・プロモーション	7月	無
20	同上	同上	「文化財に親しむ授業」について（企画・執筆）	『文化財に親しむ授業ガイドブック』	京都国立博物館	12月	無
21	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	企画室主任研究員 羽田 聡	書道史からみた天皇の書	『歴博』178	国立歴史民俗博物館	5月	有
22	同上	同上	京都日蓮宗寺院における古文書	『日蓮聖人と法華の至宝　第三巻　典籍・古文書』	同朋社メディアプラン	5月	無
23	同上	同上	作品解説	同上	同上	同上	無
24	特別展観「遊び」に関する調査研究	同上	作品解説	『特別展観　遊び』図録	京都国立博物館	7月13日	無
25	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	同上	吉田本日本書紀　書誌解題	『国宝　吉田本日本書紀』	勉誠出版	26年2月	無
26	同上	同上	作品解説	『日本美術全集第５巻　王朝絵巻と貴族のいとなみ』	小学館	26年2月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
27	同上	教育室長　山川 暁	宋元時期仏教交流中的絲綢伝播	『海上絲綢之路―亜洲的跨文化交流和文化遺産検討会　発言提要』	北京大学中国考古研究中心ほか	10月25日	無
28	同上	同上	牛伏寺の法衣	『牛伏寺誌 歴史編』	牛伏寺誌刊行会	12月15日	無
29	同上	同上	作品解説	『新修豊田市史　別編美術工芸』	新修豊田市史編さん委員会	26年3月31日	無
30	同上	同上	刺繍懸装品と京都	『祇園祭山鉾懸装品調査報告書 国内染織品の部』	祇園祭山鉾連合会	26年3月31日	無

【奈良国立博物館】22件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して、宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、展覧会等に反映させる	学芸部長補佐 岩田 茂樹	「當麻寺金堂の弥勒仏像と四天王像について」	『當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－』	奈良国立博物館	4月6日	無
2	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後生への継承に資する	同上	キンベル美術館・快慶作木造釈迦如来立像について	『MUSEUM』６４６号	東京国立博物館	10月15日	有
3	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して、宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、展覧会等に反映させる	同上	海住山寺の彫刻－近年の調査の成果から、平安時代を中心に－	『海住山寺の美術』	海住山寺	10月26日	無
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	学芸部長補佐 内藤 栄	古密教の法具について	『初期密教　思想・信仰・文化』	春秋社	７月	無
5	同上	同上	當麻寺の工芸	『當麻寺―極楽浄土へのあこがれ』	奈良国立博物館	4月6日	無
6	同上	同上	華籠を持った飛天	『薬師寺』第一七六号	法相宗大本山薬師寺	6月	無
7	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる	同上	白瑠璃碗をめぐって	『Drinking Glass―酒器のある情景』	サントリー美術館	9月	無
8	同上	同上	鳳凰堂と金色堂―雲中供養菩薩の有無をめぐって―	平等院鳳凰堂平成修理完成記念『天上の舞　飛天の美』	サントリー美術館	11月	無
9	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後生への継承に資する	企画室長 野尻 忠	金光明最勝王経（百済豊虫願経）書誌解題	『国宝 西大寺本 金光明最勝王経 天平宝字六年百済豊虫願経』	勉誠出版	9月4日	無
10	同上	同上	計帳手実を読む～但波吉備麻呂、四十年の歩み	『第六十五回正倉院展目録』	奈良国立博物館	10月25日	無
11	同上	同上	万昆嶋主解（天平宝字二年七月二十八日）（紙背　写千巻経所食物用帳断簡）	『正倉院文書研究』	吉川弘文館	11月10日	有
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	情報サービス室長 吉澤 悟	古代火葬墓の変遷	『事典　墓の考古学』	吉川弘文館	5月30日	無
13	同上	同上	墓塔の成立と変遷	同上	同上	同上	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
14	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる	教育室長 岩井 共二	総論　聖なるもののかたちとしての仏像	『みほとけのかたち―仏像に会う―』	奈良国立博物館	7月	無
15	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	主任研究員 清水 健	「特別講演　『那智瀧図』に迫る」	『第５回熊野学フォーラム―熊野を描く神品をめぐって―国宝『那智瀧図』の聖性！！報告書』	新宮市教育委員会	26年3月	無
16	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して、宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、展覧会等に反映させる	同上	『おん祭と春日信仰の美術』展奮戦記	『第８７８回　国指定重要無形民俗文化財　春日若宮おん祭』第２９集	一般財団法人春日若宮おん祭保存会	11月	無
17	同上	同上	おん祭と春日信仰の美術　総論	『特別陳列　おん祭と春日信仰の美術』	一般財団法人仏教美術協会	12月	無
18	同上	研究員 斎木 涼子	『称讃浄土経』書写と「中将姫願経」の展開	『當麻寺―極楽浄土へのあこがれ』	奈良国立博物館	4月	無
19	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する	同上	「平安時代の護国法会」	『年中行事・神事・仏事　生活と文化の歴史学２』	竹林舎	4月	無
20	同上	同上	「中世的天皇像の形成―仏教・神祇と金輪聖王―」	『歴史の理論と教育』一三九	名古屋歴史科学研究会	7月	有
21	同上	同上	「後七日御修法」	『週刊　新発見！日本の歴史』平安時代２	朝日新聞出版	9月	無
22	同上	研究員 原 瑛莉子	「玄奘三蔵法師のすがた―法相曼荼羅・釈迦十六善神像から」	『薬師寺』１７６号	薬師寺	9月	無

【九州国立博物館】　21件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	展示課主任研究員　酒井芳司	神話と『古事記』『日本書紀』	特別展「国宝　大神社展」図録	NHK NHK プロモーション	4月9日	無
2	ベトナムにおける 16～17 世紀の海外交易に関する調査研究	前博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	外交文書にみる 16～17 世紀の日越交流	特別展『大ベトナム展』図録（大ベトナム展公式カタログ ベトナム物語）	TVQ 九州放送 西日本新聞社	4月16日	無
3	同上	企画課資料管理室主任研究員　原田あゆみ	チャンパー	同上	同上	同上	無
4	日本書道史における墨蹟の研究	文化財課資料登録室主任研究員　丸山猶計	「蘭渓道隆墨蹟「法語・規則」（建長寺蔵）」	『季刊　禅文化』228 号	公益財団法人禅文化研究所	4月25日	無
5	中世日朝交流史に関する研究	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	中世対馬・松浦地域の海民の比較	韓日関係史学会・韓日文化交流基金編『朝鮮時代の韓国と日本』	韓国・景仁文化社	4月	無
6	神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関連する作品の調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	海をこえる、海がつなぐ、一八世紀日本と異国の絵画	トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画」図録	九州国立博物館	7月17日	無
7	同上	文化財課特別展室主任研究員　畑靖紀	江戸文化の新しい風―黄檗の美術	同上	同上	同上	無
8	中世日朝交流史に関する研究	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	対馬宗氏の日朝外交戦術	荒野泰典・石井正敏・村井章介編『地球的世界の成立』(日本の対外関係 5)	吉川弘文館	9月	無
9	トピック展「ロシアが見たアイヌ文化」に関する調査研究	展示課長　赤司善彦	アイヌ文様と九州の壁画古墳文様	トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」図録	九州国立博物館	10月11日	無
10	大宰府学研究	展示課主任研究員　酒井芳司	宝満山の歴史	トピック展示「山の神々―九州の霊峰と神祇信仰―」図録	九州国立博物館	10月22日	無
11	九州霊山信仰関連資料の調査	文化財課アソシエイトフェロー　望月規史	霊山への信仰がもたらしたもう一つの実り　～古典文学の世界から	同上	同上	同上	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
12	中世日朝交流史に関する研究	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	中世日朝通交貿易の基本構造をめぐって	『朝鮮史研究会論文集』51	朝鮮史研究会	10月	有
13	特別展「国宝　大神社展」に関する調査研究	展示課主任研究員　楠井隆志	『国宝大神社展』福岡展へのいざなひ	『月刊若木』第774号	神社本庁	12月1日	無
14	収蔵品・寄託品および関連品に関する調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	九州国立博物館の近世絵画コレクション	トピック展示「館蔵近世絵画名品展」図録	九州国立博物館	26年 2月25日	無
15	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	企画課文化交流展室長　河野一隆	ダンワラ古墳出土金銀錯嵌龍文鉄鏡の基礎的研究―製作技法と文様構成を中心として―	『東アジア古文化論攷』	中国書店	26年3月21日	無
16	同上	展示課長　赤司善彦	古代山城の倉庫群の形成について―大野城を中心に―	同上	同上	同上	無
17	ベトナムにおける16～17世紀の海外交易に関する調査研究	前博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	安南日越外交文書集成	「東風西声」九州国立博物館紀要　第9号	九州国立博物館	26年3月31日	無
18	国宝桜ケ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用	展示課主任研究員　進村真之 交流課教育普及室　土屋和美 交流課主任研究員　池内一誠	国宝桜ケ丘銅鐸を中心とした共同研究および活用への取り組み	同上	同上	同上	無
19	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設	展示課長　赤司善彦	加唐島武寧王伝説の調査について	同上	同上	同上	無
20	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子 企画課研究補佐員　山下久美子 企画課研究補佐員　鮫島由佳	特別展における教育普及解説ツールに関する実践的考察 ―読まれるパネル　読まれないパネル―	同上	同上	同上	無
21	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析	博物館科学課長　今津節生 文化財課主任研究員　鳥越俊行 博物館科学課研究補佐員　和田慧	博物館研究におけるＸ線ＣＴ活用の可能性	同上	同上	同上	無

【東京文化財研究所】28件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（11件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財の資料学的研究	企画情報部文化財アーカイブズ研究室長　綿田稔	研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻― 解題	『美術研究』410	東京文化財研究所	9月	無
2	同上	同上	研究資料　国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻― 詞書公刊・影印（上・中・下）	『美術研究』410～412	同上	9月～26年3月	無
3	同上	企画情報部長　田中　淳	研究資料　黒田清輝宛小川一真書簡の翻刻と黒田清輝の写真観	『美術研究』412号	同上	26年3月	無
4	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純	歴史を学ぶ・楽しむ―幕末明治期の視覚表現から	『日本美術全集　第16巻　幕末から明治時代前期　激動期の美術』	小学館	12月	無
5	同上	企画情報部長　田中　淳	序論：萬鉄五郎　七変化－「口髭のある自画像」を中心に	『萬鉄五郎　七変化』展図録	萬鉄五郎記念美術館	11月	無
6	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部主任研究員　小林達朗	美麗の術―国宝千手観音像の場合	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会プレ・プリント	東京文化財研究所	26年1月	無
7	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部主任研究員　久保田裕道	日本民俗学の研究動向（2009-2011）民俗芸能	『日本民俗学』276	日本民俗学会	26年2月	無
8	同上	同上	被災地における無形伝承の復興と情報ネットワーク	『共存学２　災害後の人と文化、ゆらぐ世界』弘文堂　pp. 49-66	弘文堂	26年2月	無
9	同上	無形文化遺産部研究員　菊池理予	染織技法の分業に関する研究（一）	『無形文化遺産研究報告』第8号　東京文化財研究所無形文化遺産部	東京文化財研究所	26年3月	無
10	同上	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	出会いのトポス―描かれた山と人間	『遠野物語　遭遇と鎮魂』	岩波書店	26年3月	無
11	同上	無形文化遺産部主任研究員　久保田裕道	鎮魂の解釈をめぐって―タマフリとタマシズメと―	『宗教民俗研究』23	日本宗教民俗学会	26年3月	有

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（0件）

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（１４件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、生物科学研究室長　木川りか	Microbial deterioration of tsunami-affected paper-based objects: A case study	International Biodeterioration & Biodegradation 88, pp.142-149	International Biodeterioration & Biodegradation society	26年3月	有
2	同上	保存修復科学センター研究補佐員　小野寺裕子、研究補佐員　古田嶋智子、研究員　佐藤嘉則、生物科学研究室長　木川りか	津波等海水に浸水した紙資料のスクウェルチ・ドライイング法―処理後の塩分残留量の調査結果について―	『保存科学』53	東京文化財研究所	26年3月	有
3	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、研究補佐員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民	展示ケース内有機酸の低減対策の評価法	同上	同上	同上	有
4	同上	保存修復科学センター客員研究員　呂　俊民、研究補佐員　古田嶋智子、保存科学研究室長　佐野千絵	展示ケース内有機酸濃度のギ酸/酢酸比	同上	同上	同上	有
5	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、企画情報部専門職員城野誠治	蛍光エックス線分析装置による伊藤若冲　菜蟲譜の彩色材料調査	同上	同上	同上	有
6	同上	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘	平等院鳳凰堂の装飾金具および梵鐘の材料調査	鳳翔学叢 10	平等院	同上	無
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	Deterioration of stone monuments by epiphytes in relation with environmental factors	第 36 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会報告書	東京文化財研究所	26年2月	無
8	同上	保存修復科学センター主任研究員　森井順之	Method for cleaning epiphytes on stone monuments	同上	同上	同上	無
9	同上	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	日本における岩刻画の保存―フゴッペ洞窟の例を中心にして―	日韓共同研究報告書	同上	5月	無
10	同上	保存修復科学センター主任研究員　森井順之	九州装飾古墳の保存環境調査	日韓共同研究報告書	同上	5月	無
11	文化財の防災計画に関する調査研究	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	活動支援班報告	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成 24 年度報告書	同上	5月	無
12	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	文化財建造物における伝統的な塗装材料と施工上の問題点	塗装工学 第 48 巻 11 号	日本塗装技術協会	11月	有
13	同上	同上	仁王胴具足にみられる桃山文化期の一塗装技術	『保存科学』53	東京文化財研究所	26年3月	有
14	同上	同上	桃山文化期における輸入漆の調達と使用に関する調査（Ⅲ）-日本国内の出土漆器における輸入漆塗料の使用事例-	同上	同上	同上	有

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター主任研究員　江村知子	Rinpa Artists and Samurai class	Bulletin of the Detroit Institute of Arts, Vol. 88 nos.1/4	Detroit Institute of Arts	26 年 3 月	無

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（1件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	文化遺産国際協力センター客員研究員　杉原朱美、アソシエイトフェロー　藤澤明、地域環境研究室長　山内和也	タジキスタン国立古代博物館が所蔵するフルブック都城址出土壁画断片の保存修復	『保存科学』53	東京文化財研究所	26 年 3 月	有

○研究所の研究成果の発信（1件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	被災文化財関連情報に関するデータの蓄積･分析及び情報発信	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	Rescue Efforts for Cultural Properties Affected by the Great East Japan Earthquake Disasters	東京文化財研究所 WEB	東京文化財研究所	26 年 1 月	無

【奈良文化財研究所】107件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（67件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	歴史研究室長　吉川聡、建造物研究室研究員鈴木智大、遺構研究室研究員　海野聡、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　赤田昌倫、児島大輔	内山永久寺の扁額	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6月28日	無
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	遺構研究室長　箱崎和久	建築遺跡の整備と問題点	同上	同上	同上	無
3	同上	文化遺産部長　林良彦	旧高梁尋常高等小学校校舎の建築調査	同上	同上	同上	無
4	同上	都城発掘調査部研究員　海野聡	比叡山延暦寺の近世・近代における伽藍の新陳代謝	同上	同上	同上	無
5	同上	文化遺産部研究員　鈴木智大	近代兵庫の公共建築にみる和風意匠と伝統理解	同上	同上	同上	無
6	同上	都城発掘調査部研究員　番光	松阪市・長谷川家住宅の調査	同上	同上	同上	無
7	同上	都城発掘調査部研究員　大林潤	佐脇家図面の調査	同上	同上	同上	無
8	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　松下迪生	近代兵庫の和風別荘と邸宅	同上	同上	同上	無
9	同上	文化遺産部長　林良彦	日本における集落町並み保存の制度と実務	第 5 回日中韓建築文化遺産保存国際学術会議予稿集	奈良文化財研究所	11月13日	無
10	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　松下迪生	同上	同上	同上	同上	無
11	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	景観研究室長　平澤毅	パブリックな存在としての遺跡・遺産	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6月28日	無
12	同上	景観研究室長　平澤毅	日本遺跡学会の 10 年―設立／大会／『遺跡学研究』―	遺跡学研究　第 10 号	日本遺跡学会	9月30日	無
13	同上	景観研究室長　平澤毅	遺跡を現在に活かし、未来に伝える―平城宮跡の保存と整備	奈良文化財研究所創立 60 周年記念『遺跡をさぐり、しらべ、いかす―奈文研 60 年の軌跡と展望―』	奈良文化財研究所	9月30日	無
14	同上	同上	遺跡・遺産の経験と意味	パブリックな存在としての遺跡・遺産　―平成 24 年度遺跡等マネジメント研究集会（第２回）報告書―	同上	12月21日	無
15	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー　菊池淑人	パブリックな存在としての遺跡・遺産と関連条約・憲章・勧告・宣言	同上	同上	同上	無
16	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	前・文化遺産部主任研究員　青木達司	禅宗寺院と庭園	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6月28日	無
17	同上	副所長　小野健吉	シギリヤ遺跡の庭園遺構	同上	同上	6月28日	無
18	同上	客員研究員　マレス・E・ベルナール	日本庭園史と森蘊の業績－毛越寺庭園の復元・整備を通して	同上	同上	6月28日	無
19	同上	前・文化遺産部アソシエイトフェロー　大平和弘	荒磯模した庭園、荒野のような人工磯～石材をめぐるこぼれ話～	遺跡学研究　第 10 号	日本遺跡学会	9月30日	無
20	同上	文化遺産部主任研究員　中島義晴	平成 23・24 年度の「庭園の歴史に関する研究会」における論点	平成 25 年度庭園の歴史に関する研究会　室町時代の	奈良文化財研究所	11月2日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
				将軍の庭園　資料集			
21	平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査	都城発掘調査部主任研究員　神野 恵	法華寺旧境内の調査（平城第 514 次）	奈文研ニュース No.50	奈良文化財研究所	6月	無
22	興福寺西室の発掘調査	都城発掘調査部研究員　番　光	興福寺西室の調査（平城 516 次）	奈文研ニュース No.51	同上	12月	無
23	薬師寺十字廊跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　庄田慎矢ほか	薬師寺十字廊の調査（平城 519 次）	薬師寺　旧境内保存整備に伴う発掘調査概報Ⅱ	薬師寺	26年3月	無
24	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部研究員　青木 敬ほか	塩の生産・流通と官衙・集落	奈良文化財研究所研究報告第 12 冊　塩の生産・流通と官衙・集落	奈良文化財研究所	12月13日	無
25	同上	都城発掘調査部主任研究員　馬場 基	文献資料からみた古代の塩	同上	同上	同上	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員　神野 恵	都城の製塩土器	同上	同上	同上	無
27	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部主任研究員　渡辺丈彦ほか	平城宮の重圏文系軒瓦	古代瓦研究Ⅵ　－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－	奈良文化財研究所	12月	無
28	同上	考古第三研究室長　清野孝之	大官大寺の出土軒瓦	同上	同上	同上	無
29	同上	都城発掘調査部主任研究員　今井晃樹	興福寺出土の興福寺式軒瓦	同上	同上	同上	無
30	同上	都城発掘調査部研究員　石田由紀子	平城宮内出土の興福寺式軒瓦	同上	同上	同上	無
31	同上	都城発掘調査部主任研究員　渡辺丈彦	平城宮の重圏文系軒瓦	同上	同上	同上	無
32	藤原宮跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　和田一之輔	藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 179 次）	奈文研ニュース No.50	奈良文化財研究所	9月	無
33	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　南部裕樹	左京三条三坊の調査-第 178-7 次	奈文研ニュース No.52	同上	26年3月	無
34	飛鳥地域発掘調査	都城発掘調査部研究員　大林潤	甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第 177 次）	奈文研ニュース No.51	同上	12月	無
35	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等	都城発掘調査部研究員　青木 敬	版築と礫	奈良文化財研究所紀要 2013	同上	6月	無
36	同上	客員研究員　深澤芳樹ほか	７，８世紀の灯明油に関する覚え書き	同上	同上	同上	無
37	同上	考古第一研究室長　小池伸彦	平城宮南東隅（第 32 次補足調査）出土の鉛等非鉄金属冶金遺構について	同上	同上	同上	無
38	同上	都城発掘調査部研究員　諫早直人	平城宮若犬飼門付近出土の小札甲	同上	同上	同上	無
39	同上	都城発掘調査部研究員　芝 康次郎ほか	平城宮東方官衙地区 SK19198 の自然科学分析　－第 440 次	同上	同上	同上	無
40	同上	都城発掘調査部研究員　海野 聡	建築部材を転用した井戸部材の調査－第 486 次	同上	同上	同上	無
41	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー井上 幸ほか	地下の正倉院展　－木簡学ことはじめー	平城宮跡資料館秋期特別展「地下の正倉院展－木簡学ことはじめー」リーフレット	同上	10月	無
42	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	近年の木簡調査研究の動向	考古学ジャーナル 649	ニューサイエンス社	12月	無
43	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	都城発掘調査部主任研究員　今井晃樹	漢魏洛陽城―北魏宮城西南隅の調査成果―	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6月28日	無
44	同上	都城発掘調査部主任研究員　今井晃樹	中国社会科学院考古研究所との共同研究	同上	同上	同上	無
45	同上	考古第一研究室長　小池伸彦	同上	同上	同上	同上	無
46	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	同上	同上	同上	同上	無
47	同上	考古第三研究室長　清野孝之	韓国国立文化財研究所との共同研究	同上	同上	同上	無
48	同上	都城発掘調査部研究員	日本古墳の墳丘築造技術とその系統	蓮山洞古墳群の意	釜山広域市蓮堤	12月17日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		青木 敬		義と評価	区・釜山大学校博物館		
49	同上	考古第一研究室長 小池伸彦	遼寧省文物考古研究所との共同研究	奈文研ニュース NO.52	奈良文化財研究所	26年3月	無
50	同上	考古第三研究室長 清野孝之	日韓共同研究中間成果発表会	同上	同上	同上	無
51	遺跡データベースの作成と公開	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅	日本初の計画都市、藤原京の全貌が見えた！	週刊朝日百科『新発見！日本の歴史』10	朝日新聞出版	8月27日	無
52	同上	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅	飛鳥から藤原京そして平城京へ	日中韓古代都城文化の潮流－名文研60 年都城の発掘と国際共同研究－	奈良文化財研究所	12月10日	無
53	同上	客員研究員　山中敏史	郡衙の正倉院―各地の発掘調査成果から―	平成 25 年度文化財シンポジウム「北関東における郡衙の正倉」予稿集	太田市	26年2月16日	無
54	遺跡データベースの作成と公開	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅	飛鳥の都と古墳の終末	岩波講座日本歴史第２巻	岩波書店	26年3月19日	無
55	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部研究員　惠谷浩子	人と自然の共同作品	読売新聞	読売新聞社	8月4日	無
56	同上	同上	文化的景観保全のキーストーンとしての古民家再生－京都岡崎の文化的景観を事例として	農村計画学会誌	農村計画学会	9月30日	無
57	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー菊地淑人	農業に関する文化的景観保護の脅威と将来像 －世界遺産登録地域における国際機関と締約国の認識－	遺跡学研究　第10号	日本遺跡学会	同上	有
58	同上	同上	第 37 回世界遺産委員会（プノンペン）報告－条約採択 50 年に向けた新たな一歩－	同上	同上	同上	無
59	同上	同上	探検・奈文研　奈良と世界遺産	読売新聞	読売新聞社	12月8日	無
60	同上	文化遺産部	地域の環境を整える手段としての文化的景観	奈良文化財研究所研究報告第 13 冊文化的景観研究集会（第 5 回）報告書	奈良文化財研究所	26年1月20日	無
61	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー菊地淑人	文化財の価値調査から文化資源保護・活用への広がりと将来の模索-京都岡崎における近代の記憶の発掘・継承とその資源化	文化資源学 11	文化資源学会	7月31日	無
62	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美	松ヶ迫矢谷遺跡出土ガラス小玉の考古科学的研究	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6月28日	無
63	同上	同上	キトラ古墳出土赤色塗膜片の調査	同上	同上	同上	無
64	同上	都城発掘調査部主任研究員　降幡順子	同位体化学分析を実施するための事前調査－破壊分析における事前調査の有効性－	同上	同上	同上	無
65	同上	保存修復科学研究室長高妻洋成、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　赤田昌倫	出土有機質付着物の材料分析	同上	同上	同上	無
66	同上	保存修復科学研究室長高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎、田村朋美、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　赤田昌倫	法隆寺所蔵古材調査３－金堂古材の塗装分析調査－	同上	同上	同上	無
67	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	保存修復科学研究室長高妻洋成、埋蔵文化財センター研究員　脇谷草一郎	史跡ガランドヤ古墳の保存に関する研究－石室保護施設の設置による結露性状変化の検討－	同上	同上	同上	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（14 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財の測量･探査等に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員　金田明大	アレイ式探査機による遺跡探査迅速化の試行	日本文化財科学学会第 30 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7 月 7 日	無
2	文化財の測量･探査等に関する研究	主埋蔵文化財センター任研究員　金田明大	掘らずに土の中をみるー遺跡探査の応用と成果ー	遺跡をさぐり、しらべ、いかす	クバプロ	9 月 30 日	無
3	年輪年代学研究	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 児島大輔	福寿寺から大養徳国金光明寺へ - 東大寺前身寺院に関する二三の問題 -	『てら　ゆき　めぐれ　大橋一章博士古稀記念美術史論集』	中央公論美術出版	4 月 28 日	無
4	同上	歴史研究室長　吉川聡、都城発掘調査部研究員鈴木智大、海野聡、埋蔵文化財センターアソシエイトフェローー赤田昌倫、児島大輔	内山永久寺の扁額	『奈良文化財研究所紀要』2013	奈良文化財研究所	6 月 28 日	無
5	同上	Junko Kitagawa, Toshiyoshi Fujiki, Kazuyoshi Yamada, 埋蔵文化財センター研究員　Yasuharu Hoshino, Hitoshi Yonenobu, Yoshinori Yasuda	Human impact on the Kiso-hinoki cypress woodland in Japan: a history of exploitation and regeneration	Vegetation History and Archaeobotany	Springer	12 月 18 日	無
6	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター研究員　山崎健、東京大学大学院　覚張隆史ほか	同位体化学分析を実施するための事前調査ー破壊分析における事前調査の有効性ー	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6 月 28 日	無
7	同上	都城発掘調査部研究員廣瀬覚、埋蔵文化財センター研究員　山崎健ほか	藤原宮朝堂院朝庭の自然科学分析ー第 169 次	同上	同上	同上	無
8	同上	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	動物遺存体	雲宮遺跡・長岡京左京六条二坊跡発掘調査報告書	古代学協会	8 月 31 日	無
9	同上	客員研究員　丸山真史	難波宮跡・大坂城跡発掘調査（NW12-4）から出土した動物遺存体	難波宮址の研究 19	大阪文化財研究所	10 月	無
10	同上	客員研究員　菊地大樹	馬牲の境界	中華文明の考古学	同成社	26 年 2 月	無
11	同上	埋蔵文化財センター研究員　山崎健、客員研究員　丸山真史、客員研究員　菊地大樹ほか	脊椎動物遺存体	小竹貝塚発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	26 年 3 月	無
12	同上	同上	鯛の歯が象嵌された籃胎漆器	同上	同上	同上	無
13	同上	客員研究員　丸山真史	膳所城跡遺跡から出土した動物遺存体	膳所城跡遺跡	滋賀県教育委員会･滋賀県文化財保護協会	同上	無
14	同上	埋蔵文化財センター研究員　山崎健ほか	内田貝塚から出土した貝類・魚類・両棲類・爬虫類	内田貝塚（Ⅲ）･若宮遺跡（Ⅶ）	豊橋市教育委員会	同上	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（3 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	保存修復科学研究室長　高妻洋成	Application of Terahertz Wave Imaging Technique to Structural Survey of a Historical Painting on Silk	Proceedings of Asia-Pacific Microwave Photonics Conference 2013	Asia-Pacific Microwave Photonics Conference	25年4月	無
2	同上	同上	テラヘルツ波および核磁気共鳴法による壁画の構造調査	文化財保存修復学会第 35 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	25年6月	無
3	同上	同上	文化財の材料調査へのテラヘルツ波イメージングの応用	3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia	Society of Conservation for Cultural Heritage in East Asia	25年9月	無

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（13 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部研究員 若杉智宏	キトラ古墳の調査	『奈文研ニュース』No.49	奈良文化財研究所	6月	無
2	同上	都城調査部副部長 玉田芳英	キトラ古墳との 30 年	『奈文研ニュース』No.51	同上	12月	無
3	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部研究員 若杉智宏	藤原京右京七条一坊の調査（飛鳥藤原第 178-2 次）	同上	同上	同上	無
4	平城宮跡歴史公園および朱雀大路緑地遺跡発掘調査	都城発掘調査部研究員 川畑 純	平城京左京三条一坊一・二坪の調査（平城第 515 次）	奈文研ニュース No.50	奈良文化財研究所	6月	無
5	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査	都城発掘調査部研究員 高橋知奈津	回廊基壇際の地形の検討　－第一次大極殿院の復原研究８－	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6月	無
6	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　井上麻香	南門の基壇高の検討　－第一次大極殿院の復原研究９－	同上	同上	同上	無
7	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　中島咲紀	南門の構造形式と屋根形式の検討　－第一次大極殿院の復原研究 10－	同上	同上	同上	無
8	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　中川二美	瓦割を利用した垂木間隔の推定　－第一次大極殿院の復原研究 11－	同上	同上	同上	無
9	朱雀大路緑地等の発掘調査	都城発掘調査部研究員 諫早直人ほか	左京三条一坊一・二坪の調査　－第 488・491・495 次	同上	同上	同上	無
10	平城宮跡歴史公園および朱雀大路緑地遺跡発掘調査	都城発掘調査部研究員 川畑 純	平城京左京三条一坊一・二坪	大和を掘る 31	橿原考古学研究所附属博物館	7月13日	無
11	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　井上麻香ほか	第一次大極殿院の復原検討	『第一次大極殿院復原検討会記録７』、『同８』	内部資料	26年3月	無
12	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力	遺構研究室長　箱崎和久	平城宮跡の整備	奈良文化財研究所概要 2013	奈良文化財研究所	7月31日	無
13	同上	都城調査部副部長 玉田芳英	キトラ古墳との 30 年	『奈文研ニュース』No.51	同上	12月	無

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（1 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部長　杉山洋、企画調整部研究補佐員　佐藤由以	西トップ遺跡の調査と修復	奈良文化財研究所紀要 2013	奈良文化財研究所	6 月 28 日	無

○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館における調査・研究成果（9 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	平城宮跡資料館における展示公開	企画展示室長　加藤真二、企画調整部研究員 中川あや、企画調整部アソシエイトフェロー 渡邉淳子	夏期企画展「平城京どうぶつえん」	『平城京どうぶつえん』リーフレット	奈良文化財研究所	25 年 7 月 13日	無
2	同上	同上	同上	『平城京どうぶつえん』図録	同上	同上	無
3	同上	都城発掘調査部研究員 山本祥隆、企画展示室長　加藤真二、企画調整部研究員　中川あや、企画調整部アソシエイトフェロー　渡邉淳子	秋期特別展「地下の正倉院展－木簡学ことはじめ」	『地下の正倉院展－木簡学ことはじめ』リーフレット	同上	25年10月19日	無
4	飛鳥資料館における展示公開	飛鳥資料館館長　松村恵司、学芸室長　石橋茂登、飛鳥資料館研究	春期特別展「飛鳥寺２０１３」	飛鳥資料館図録第 58 冊『飛鳥寺 2013』	飛鳥資料館	4月26日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
		員　丹羽崇史、前・飛鳥資料館任期付研究員成田聖					
5	同上	飛鳥資料館館長　松村恵司、学芸室長　石橋茂登、飛鳥資料館研究員　丹羽崇史、前・飛鳥資料館任期付研究員成田聖ほか８名	夏期企画展「飛鳥・藤原を考古科学する」	飛鳥資料館カタログ第 28 冊『飛鳥・藤原を考古科学する』	同上	8月1日	無
6	同上	飛鳥資料館館長　松村恵司、学芸室長　石橋茂登、飛鳥資料館研究員　丹羽崇史、前・飛鳥資料館任期付研究員成田聖ほか７名	秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」	飛鳥資料館図録第 59 冊『飛鳥・藤原京への道』	同上	10月18日	無
7	同上	飛鳥資料館館長　松村恵司、学芸室長　石橋茂登、飛鳥資料館研究員　丹羽崇史、前・飛鳥資料館任期付研究員成田聖ほか８名	冬期企画展「飛鳥の考古学２０１３」	飛鳥資料館カタログ第 30 冊『飛鳥の考古学 2013』	同上	26 年 2 月 14日	無
8	同上	飛鳥資料館館長　松村恵司、学芸室長　石橋茂登、飛鳥資料館研究員　丹羽崇史、前・飛鳥資料館任期付研究員成田聖	第 4 回写真コンテスト「飛鳥川の導」	飛鳥資料館写真集	同上	26年3月	無
9	藤原宮跡資料室における展示公開	都城調査部副部長　玉田芳英	飛鳥・藤原 40 年の春秋	奈文研ニュース No.50	奈良文化財研究所	9月	無

〇地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（0 件）

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】0 件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査･研究の推進	副所長　大貫美佐子	Proceedings and Analysis of Discussion	2013 Study Tour Report：Toward Safeguarding the Intangible Cultural Heritage for the Promotion of Cultural Identity and Community Resilience in Timor-Leste	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	26 年 3 月	無

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成26年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
「ＭＵＳＥＵＭ」６４３～６４８号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,760件 (各460件×6)
「東京国立博物館紀要」４９号	700	美術館・博物館・大学・研究所等　340件
「東京国立博物館文化財修理報告」ＸＩＶ	700	美術館・博物館・大学・研究所等　365件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸＸＩＶ　聖徳太子絵伝(四幅本)２	600	美術館・博物館・大学・研究所等　180件
「東京国立博物館図版目録　中世古文書篇」	800	美術館・博物館・大学・研究所等　164件

○展覧会図録等

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	『国宝　大神社展』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『和様の書』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『東洋館リニューアルオープン記念　上海博物館　中国絵画の至宝』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『上海博物館　中国絵画の至宝　―釈文・印章編―』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『京都―洛中洛外図と障壁画の美』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『クリーブランド美術館名品展―名画でたどる日本の美』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『日本伝統工芸展60回記念　人間国宝展　生みだされた美、伝えゆくわざ』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『開山・栄西禅師八〇〇年遠忌　栄西と建仁寺』	―	美術館・博物館・大学等　111件
特別展印刷物（リーフレット）	「支倉常長像と南蛮美術　400年前の日欧交流」	30,000	
特集陳列図録	『描かれた風景―憧れの真景・実景への関心―』	2,000	
特集陳列印刷物（リーフレット）	「古文書に親しむ」	5,000	
	「縄文土器に飾られた人物と動物」	7,000	
	「断簡　掛軸になった絵巻」	4,000	
	「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	8,000	
その他	東京国立博物館編『東洋美術をめぐる旅　東京国立博物館　東洋館』（平凡社コロナブックス）	―	
	東京国立博物館監修『井浦新の美術探検　東京国立博物館の巻』（東京美術）	―	

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第35号	820	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書10	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
文化財保存修理所　修理報告書11	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
重要文化財旧帝国京都博物館建築資料調査報告書	400	美術館・博物館・大学等

○展覧会図録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展観「遊び」	3,500	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」	―	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」 第14号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺 ―極楽浄土へのあこがれ―」	6,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
	特別展「みほとけのかたち ―仏像に会う―」	10,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
	第65回正倉院展	4,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
	The 65th Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」	1,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
その他	なら仏像館 名品図録2013	4,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館紀要「東風西声」　第9号	1,020	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（研修編）2012［増刷］	500	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（報告会・施設見学調査編）2012[増刷]	500	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（研修編）2013	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（報告会・施設見学調査編）2013	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（シンポジウム編）2013	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
「第5回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」報告書	1,500	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録

		発行部数	配　布　先
特別展	「大ベトナム展　公式カタログ　ベトナム物語」	1,464	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「中国　王朝の至宝」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「徳川美術館展　尾張徳川家の至宝」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「国宝 大神社展」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
海外展	「日本文化展」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
トピック展示	「江戸のサイエンス　ー武雄蘭学の軌跡ー」	1,650	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「視覚革命！異国と出会った江戸絵画」	1,900	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「山の神々　ー九州の霊峰と神祇信仰―」	1,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「ロシアが見たアイヌ文化」	1,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「発掘された日本列島2013」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「館蔵　近世絵画名品展」	1,500	美術館・博物館・大学・研究機関等

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配布先
『東京文化財研究所年報』2012 年度版	800	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東京文化財研究所概要』2013 年度版	3,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東文研ニュース』53、54 号	53号 1,000 54号 2,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東文研ニュースダイジェスト』（英語版）第 13 号	3,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平成 24 年版　日本美術年鑑』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『美術研究』410 号～412 号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『無形文化遺産研究報告』第 8 号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
第８回無形民俗文化財研究協議会報告書	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
保存科学 53 号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
伊藤若冲「菜蟲譜」光学的調査報告書	300	博物館・美術館・大学・研究機関等
平等院鳳凰堂西面扉絵「日想観図」光学的調査報告書	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
日韓共同研究報告書2013	100	関係機関等
東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成25年度成果報告書	30	関係機関等
Study on the Biodeterioration of Stone Monuments in Angkor- Results of the Joint Research Project at Ta Nei Temple -　(英語)	50	関係機関等
『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書2013年度』	300	関係機関等
『御料車の保存と修復及び活用』	500	関係機関等
国際資料室蔵書目録	100	関係機関等
『Conservation of the Mural Paintings of the Bamiyan Buddhist Caves』	120	関係機関等
『Structure, Design and Technique of the Bamiyan Buddhist Caves』	250	関係機関等
『Architectural Survey of the Bamiyan Buddhist Caves』	250	関係機関等
『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究』	250	関係機関等
『Scientific Examinations of the Paintings of Ajanta Cave 2』	250	関係機関等
『アルメニア歴史博物館所蔵考古金属資料の保存修復と自然科学的調査 2011・2012 年度』	60	関係機関等
第 37 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「「かたち」再考―開かれた語りのために」（予稿集）	400	関係機関等
コーカサスに渡った日本美術作品-アルメニア国立美術館所蔵『名区小景』調査報告書	300	関係機関等
『第 36 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　「文化財の微生物劣化とその対策―屋外・屋内環境、及び被災文化財の微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピック―」Microbial Biodeterioration of Cultural Property:Recent Topics on the Investigation of and Countermeasures for Biodeterioration of Outdoor / Indoor Properties and Disaster-affected Cultural Objects プロシーディング	700	参加者、大学、研究機関、博物館・美術館等
インドネシア法/各国の文化財保護法令シリーズ	300	関係機関等
装飾古墳の保存に関する調査研究事業報告書	100	関係機関等
『平成24年度協力相手国調査　フィリピン調査報告書　日本語』	300	関係機関等
『ブルーシールドと文化財緊急活動- 国内委員会の役割　研究会報告書』	190	関係機関等
世界遺産シンポジウム　世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力　シンポジウム報告書	500	関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介 2013 年度	2500	関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介 2013 年度　英語	2500	関係機関等
海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針	3000	関係機関等
平成 25 年度文化庁委託　第 37 回世界遺産委員会審議調査研究事業報告書	300	関係機関等
『ユネスコ日本信託基金事業「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」成果報告書』（越日英語）	300	関係機関等
『Architectural Drawings of the Buildings from French Colonial Period in the World Heritage Site “Central Sector of the Imperial Citadel of Thang Long - Hanoi”』	70	関係機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　布　先
奈良文化財研究所概要2013	2,700	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所紀要2013	3,000	大学、研究機関、図書館等

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈文研ニュースNo.49～52	各3,000	大学、研究機関等
埋蔵文化財ニュースNo.154～157	154：2,500 155：2,500 156：2,500 157：2,200	教育委員会、図書館、博物館等
奈良文化財研究所創立六〇周年記念講演『遺跡をさぐり、しらべ、いかす－奈文研六〇年の軌跡と展望』講演録	200	関係機関、協力機関等
奈良文化財研究所創立六〇周年記念日中韓国際講演会『日中韓古代都城文化の潮流－奈文研六〇年都城の発掘と国際共同研究』講演録	200	関係機関、協力機関等
『飛鳥寺２０１３』飛鳥資料館図録第58冊	1,800	関係機関、協力機関等
『飛鳥・藤原京への道』飛鳥資料館図録第59冊	1,600	関係機関、協力機関等
『飛鳥・藤原京を考古科学する』飛鳥資料館カタログ第28冊	1,600	関係機関、協力機関等
『日光二荒山神社中宮祠宝物館蔵鏡』飛鳥資料館研究図録第17冊	550	関係機関、協力機関等
『キトラ古墳壁画発見三〇周年記念 白虎・玄武・朱雀・青龍』飛鳥資料館カタログ第29冊	2,000	関係機関、協力機関等
『飛鳥の考古学２０１３』飛鳥資料館カタログ第30冊	1,600	関係機関、協力機関等
『平城京どうぶつえん』リーフレット	5,000	館内観覧者
『平城京どうぶつえん』図録	2,500	館内観覧者
『地下の正倉院展－木簡学ことはじめ』リーフレット	8,500	館内観覧者
『唐招提寺授戒帳』	600	大学、研究機関等
『大宮家文書調査報告書』奈良文化財研究所史料第80冊	600	大学、研究機関等
『第5回日中韓建築文化遺産保存国際学術会議予稿集』	300	大学、研究機関等
『国宝・重要文化財建造物写真乾板目録　Ⅵ』	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『重要文化財建造物現状変更説明1931～1949』	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究』	150	関係機関・協力機関等
『パブリックな存在としての遺跡・遺産』平成24年度遺跡等マネジメント研究集会（第2回）報告書	1,000	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『室町時代の将軍の庭園』平成25年度庭園の歴史に関する研究会報告書	300	大学、研究機関等
『文化的景観研究集会（第５回）報告書　文化的景観のつかい方』	1,000	大学、研究機関等
『８世紀の瓦づくりⅢ－平城宮式軒瓦の展開1　6225-6663系』第14回シンポジウム予稿集	300	関係者・協力者等
『古代瓦研究Ⅵ　－大官大寺式・興福寺式・鴻臚館式軒瓦の展開－、－重圏文系軒瓦の展開－』	850	関係機関・協力機関等
『長舎と官衙の建物配置』第17回　古代官衙・集落研究会研究報告資料	250	関係者・協力者等
『奈良文化財研究所研究報告第12冊　塩の生産・流通と官衙・集落』	600	関係機関・協力機関等
『第一次大極殿院復原検討会記録』７（内部資料）	200	関係機関・協力機関等
『第一次大極殿院復原検討会記録』８（内部資料）	200	関係機関・協力機関等
『西トップ遺跡調査修復中間報告南祠堂解体編』	500	関係機関・協力機関等
『Annual Report on the Research and Restoration Work of the Western Prasat Top Dismantling Process of the Southern Sanctuary』	300	関係機関・協力機関等
『第一次大極殿院復原検討会記録』８（内部資料）	200	関係機関・協力機関等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
2013 Study Tour Report : Toward Safeguarding the Intangible Cultural Heritage for the Promotion of Cultural Identity and Community Resilience in Timor-Leste	200	ユネスコ関係、会合出席者、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成26年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	95	38	22	4	2	10	57	20	37	0
科学研究費補助金のみ	26	11	8	2	0	1	15	5	10	0
学術研究助成基金助成金のみ	50	17	9	1	2	5	33	12	21	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	19	10	5	1	0	4	9	3	6	0

※平成 22 年度までの科学研究費補助金事業は、平成 23 年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなった。

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（特別研究員奨励費、奨励研究を除く）

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	島谷　弘幸	副館長	基盤研究（A）	6,370
2	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	田沢　裕賀	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究（A）	3,770
3	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	基盤研究（A）	5,460
4	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究	松本　伸之	学芸企画部長	基盤研究（B）	4,160
5	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究	神辺　知加	学芸企画部博物館教育課教育講座室主任研究員	基盤研究（C）	※　0
6	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員	若手研究（A）	2,600
7	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究	土屋　貴裕	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	若手研究（A）	4,420
8	視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究	鈴木　希帆	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,430

※　研究員の育休等により、平成24年度より中断している。平成26年度再開予定である。

2）学術研究助成基金助成金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	古筆切紙背の史料学的研究	田良島　哲	学芸研究部調査研究課長	基盤研究（C）	1,170	5,070 〈平成23～25年度〉
2	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究	古谷　毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究（C）	1,820	※2　4,680 〈当初：平成23～25年度〉 〈変更後：平成23～26年度〉
3	寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動	三輪紫都香 （河上紫都香）	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	520	1,170 〈平成24～25年度〉
4	武家女性の衣生活に関する基礎的研究―染織史研究に資する歴史資料の開拓を基に―	佐々木佳美	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,040	※1　3,120 〈当初：平成24～26年度〉 2,340 〈変更後：平成24～25年度〉
5	浅鉢形土器の型式学的検討を通じた縄文社会構造の研究	井出　浩正	学芸研究部調査研究課考古室研究員	若手研究（B）	650	※2　2,340 〈当初：平成24～25年度〉 〈変更後：平成24～26年度〉
6	神像表現における物語性の研究	丸山　士郎	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究（C）	1,820	4,810 〈平成25～28年度〉
7	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究	恵美　千鶴子	学芸研究部調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,820	4,550 〈平成25～27年度〉
8	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究（C）	2,080	4,290 〈平成25～27年度〉
9	聴力障害を持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築	川岸　瀬里	学芸企画部博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,040	4,160 〈平成25～27年度〉

※1　当初の予定では平成24年～26年度の研究期間であったが、研究員の異動に伴い平成25年度末で廃止となった。

※2　補助事業の延長により、当初の研究期間に変更があったものである。

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察	酒井　元樹	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究（Ａ）	130	1,430	6,500〈平成24～27年度〉
2	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察	松嶋　雅人	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究（Ｂ）	4,940	6,500	6,500〈平成25～27年度〉
3	東アジアにおける繍仏の基礎的研究	伊藤　信二	学芸企画部博物館教育課教育普及室長	基盤研究（Ｂ）	2,340	3,770	6,500〈平成25～28年度〉
4	極薄青銅器の製作技術解明ー中国金属工芸史を再構築するための基盤研究ー	川村　佳男	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究（Ｂ）	1,820	2,860	6,500〈平成25～27年度〉
5	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	白井　克也	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究（Ｂ）	2,210	3,510	6,500〈平成25～27年度〉

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（Ｂ）	6,370
2	内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究	永島　明子	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（Ａ）	1,690

2）学術研究助成基金助成金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	「鎖国」下の日本における清朝陶磁の受容とその影響に関する調査研究	尾野　善裕	学芸部工芸室長	基盤研究（Ｃ）	1,040	4,160〈平成23～26年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究ー図像的典拠と分担製作の視点からー	淺湫　毅	学芸部保存修理指導室長	基盤研究（Ｂ）	2,080	1,560	6,500〈平成24～27年度〉

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	文化財アーカイブズの形成に関する研究ー近代文化財修理記録のメタデータ分析を中心に	宮崎　幹子	学芸部資料室長	若手研究（Ｂ）	1,300	4,160〈平成23～25年度〉
2	平安時代の「大般若波羅蜜多経」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化	野尻　忠	学芸部企画室長	基盤研究（Ｃ）	2,080	5.070〈平成25～27年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設	伊藤　嘉章	学芸部付	基盤研究（A）	11,570

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究	藤田　励夫	学芸部博物館科学課 保存修復室長（H25.8.1転出）	基盤研究（C）	1,170	5,200 〈平成23～25年度〉
2	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究	秋山　純子	学芸部博物館科学課研究員	基盤研究（C）	910	5,200 〈平成24～26年度〉
3	中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究	川畑　憲子	学芸部企画課文化交流展室 主任研究員	若手研究（B）	1,950	4,550 〈平成24～26年度〉
4	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	志賀　智史	学芸部博物館科学課 主任研究員	基盤研究（C）	1,300	5,200 〈平成25～28年度〉
5	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	荒木　和憲	学芸部文化財課主任研究員	若手研究（B）	910	2,730 〈平成25～27年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究	谷　豊信	学芸部長	基盤研究（B）	2,600	1,950	6,500 〈平成24～26年度〉
2	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発ー興福寺　国宝阿修羅像を中心にー	今津　節生	学芸部博物館科学課長	基盤研究（B）	3,250	1,040	6,500 〈平成24～26年度〉
3	タイにおける異文化の受容と変容ー13世紀から18世紀の対外交易品を中心としてー	原田　あゆみ	学芸部企画課特別展室 主任研究員	基盤研究（B） 海外学術調査	4,290	1,690	6,500 〈平成24～26年度〉
4	契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-	臺信　祐爾	学芸部企画課長	基盤研究（B） 海外学術調査	1,560	2,340	6,500 〈平成25～27年度〉

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	文化財修復材料の劣化と文化財に及ぼす影響に関する基礎的研究	早川　典子	保存修復科学センター 主任研究員	基盤研究（B）	1,300
2	敦煌芸術の科学的復原研究―壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ	岡田　　健	保存修復科学センター センター長	基盤研究（B）	2,860
3	文化財展示収蔵施設の実状に即したカビ調査技術と制御に関する研究	木川　りか	保存修復科学センター 生物科学研究室長	基盤研究（B）	4,420
4	染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究－技法書・絵画資料・実作品の分析を通して	菊池　理予	無形文化遺産部 研究員	若手研究（B）	1,170
5	寺院造営組織からみた平安前期彫刻の研究	皿井　舞	企画情報部 研究員	若手研究（B）	780

2）学術研究助成基金助成金のみ　12件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	建築文化財における伝統的な塗装彩色材料の再評価と劣化防止に関する研究	北野　信彦	保存修復科学センター 伝統技術研究室長	基盤研究（C）	1,170	5,330 〈平成23～26年度〉
2	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用－国際政治・公共政策研究の貢献	原本　知実	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,170	※　5,330 〈当初：平成23～25年度〉 〈変更後：平成23～27年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
3	インド・アジャンター石窟壁画消失メカニズムの解明に向けた微生物生態学的調査	佐藤　嘉則	保存修復科学センター 研究員	基盤研究（C）	1,300	5,200 〈平成24～26年度〉
4	中世・近世日本絵画における白色顔料の利用に関する科学的調査研究	早川　泰弘	保存修復科学センター 分析科学研究室長	基盤研究（C）	1,560	5,070 〈平成24～26年度〉
5	螺鈿のアジア史―技術史と交流史を中心に―	小林　公治	企画情報部 広領域研究室長	基盤研究（C）	1,430	5,070 〈平成24～26年度〉
6	古墳壁画表面における含水量の非接触測定システムの開発	犬塚　将英	保存修復科学センター 主任研究員	挑戦的萌芽研究	1,300	3,510 〈平成24～25年度〉
7	自然共生型博物館における野外由来微生物の浮遊真菌濃度予測に関する研究	間渕　創	保存修復科学センター 客員研究員	若手研究（B）	2,080	4,420 〈平成24～26年度〉
8	文化財保護法の成立過程に関する研究―日本における文化財概念と史跡名勝天然記念物―	境野　飛鳥	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,300	4,160 〈平成24～26年度〉
9	絵画修復と絵画制作に使用される膠の物性に関する基礎的研究	楠　京子	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究（B）	650	2,210 〈平成24～26年度〉
10	黒海周辺地域における中世組積造建築遺産の系譜と保存継承に関する研究	鈴木　環	文化遺産国際協力センター 特別研究員	若手研究（B）	1,430	3,510 〈平成24～26年度〉
11	GISを用いた古代クメール都市発展史の復原的研究	佐藤　桂	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,430	4,550 〈平成24～26年度〉
12	古代メソポタミアの葬送儀礼に関する多角的研究	久米　正吾	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究（B）	910	2,210 （平成25～26年度）

※　研究員の育休等による中断があったため、復帰後の研究期間を延長したものである。

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	近江の古代中世彫像の基礎的調査・研究―基礎データと画像蓄積のために―	津田　徹英	企画情報部 文化形成研究室長	基盤研究（B）	3,900	2,340	6,500 〈平成24～26年度〉
2	西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究	亀井　伸雄	東京文化財研究所 所長	基盤研究（B） 海外学術調査	4,290	2,080	6,500 〈平成24～26年度〉
3	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究	友田　正彦	文化遺産国際協力センター 保存計画研究室長	基盤研究（B） 海外学術調査	1,950	2,990	6,800 （平成25～27年度）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集	渡邉　晃宏	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（S）	32,500
2	東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究	松井　章	埋蔵文化財センター長	基盤研究（A）	8,580
3	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（A）	10,270
4	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本　晋	企画調整部国際遺跡研究室長	基盤研究（A）	9,100
5	南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	3,900
6	中国細石刃文化の基礎的研究-河南省霊井遺跡石器群の分析を中心として-	加藤　真二	企画調整部展示企画室長	基盤研究（B） 海外学術調査	2,990
7	古代律令国家の官衙と寺院の占地に関する比較研究	小澤　毅	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	基盤研究（C）	1,040
8	東北アジアにおける金属器の拡散と在地社会の変化に関する考古学的研究	庄田　慎矢	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（A）	1,300
9	奈良時代の中央と地方における建築技術の研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（B）	650
10	近世における石材生産と運搬に関する広領域史的情報の資源化と実証的研究	高田　祐一	研究支援推進部連携推進課アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,040

2）学術研究助成基金助成金のみ　21件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中国における木質文化財の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	780	5,200〈平成23～25年度〉
2	木彫仏像を中心とした日本彫刻史研究における年代決定法の調査・研究	児島　大輔	埋蔵文化財センター年代学研究室特別研究員（AF）	若手研究（B）	650	4,420〈平成23～26年度〉
3	GT-Map等時空間解析システムを利用した木簡等出土文字資料分析の基礎的研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	650	2,340〈平成23～25年度〉
4	三次元計測による飛鳥時代の石工技術の復元的研究	廣瀬　覚	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	910	3,770〈平成23～26年度〉
5	古代における骨角製品の動物考古学的研究	丸山　真史	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	910	4,290〈平成23～25年度〉
6	古代東アジアにおける土木技術系譜の復元的研究	青木　敬	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	基盤研究（C）	1,170	5,200〈平成24～27年度〉
7	中世日本と東アジアの木造建築における架構システムに関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	基盤研究（C）	1,300	5,460〈平成24～27年度〉
8	南洋群島の戦争遺跡の保存と活用：特に水中文化遺産に重点をおいて	石村　智	企画調整部国際遺跡研究室研究員	若手研究（B）	1,820	4,550〈平成24～26年度〉
9	弥生時代の地域間関係と青銅器の受容	石橋　茂登	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	780	2,730〈平成24～26年度〉
10	甲冑編年の再構築に基づくモノの履歴と扱いの研究	川畑　純	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（B）	650	2,600〈平成24～27年度〉
11	茅葺屋根の多様性とその成立過程に関する研究	黒坂　貴裕	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	1,170	3,510〈平成24～26年度〉
12	東アジアにおける鉛釉陶器の原料とその時間的・地域的特徴に関する研究	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,430	4,030〈平成25～27年度〉
13	平安時代出土文字資料の動態的歴史分析-＜荷札の終焉＞にみえる木簡の機能	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,560	4,160〈平成25～27年度〉
14	日本列島後期更新世洞穴遺跡の立地と利用に関する考古学的研究	渡辺　丈彦	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,690	4,940〈平成25～27年度〉
15	ツガ年輪による近世以降の建造物の年代測定および用材産地推定手法の確立	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,690	3,120〈平成25～27年度〉
16	装飾古墳を安定に保存するための環境制御法の開発に関する研究	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	1,040	2,210〈平成25～27年度〉
17	古代東アジアにおける食器構成と食事作法の変化に関する比較研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	1,430	3,640〈平成25～28年度〉
18	古代日本の宮都、寺院出土磚の基礎的研究	中川　二美	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,430	3,380〈平成25～28年度〉
19	中国殷周王朝における馬匹生産体制の動物考古学的研究	菊地　大樹	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	1,300	4,030〈平成25～28年度〉
20	大工道具とその加工痕跡から見た建築技術史の研究	番　光	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（B）	1,040	3,380〈平成25～27年度〉
21	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究（B）	1,560	3,770〈平成25～28年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　6件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（B）	2,470	1,690	6,500〈平成24～27年度〉
2	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	2,340	3,640	6,500〈平成25～29年度〉
3	弥生時代における青銅器生産の総合的研究	難波　洋三	埋蔵文化財センター長	基盤研究（B）	1,560	2,470	6,500〈平成25～29年度〉
4	文化財および美術工芸材料のナノ構造と物性・機能の解明	北田　正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	1,560	2,340	6,500〈平成25～27年度〉
5	東アジアを中心とした名勝地の保護に関する研究	平澤　毅	文化遺産部景観研究室長	基盤研究（B）	1,950	3,120	6,500〈平成25～28年度〉
6	東アジアにおける「西のガラス」の流通からみた古代の物流に関する考古科学的研究	田村　朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（A）	910	1,950	6,500〈平成25～28年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成26年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
113人	36 人	26人	5人	5人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	77 人	45人		32人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　26人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（たばこと塩の博物館主席学芸員）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	松田　清（京都外国語大学教授）	当館所蔵の江戸幕府旧蔵の洋書、シーボルト献納本などの古洋書に関する研究
4	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
5	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
6	田辺　龍太（財団法人切手の博物館主任）	当館所蔵の切手に関する調査研究
7	水上　嘉代子（財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
8	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
9	大脇　　潔（近畿大学文芸学部教授）	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
10	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
11	宮下　佐江子（古代オリエント博物館学芸部長）	西アジア古代ガラスの研究
12	丸山　清志（城西国際大学物質文化研究センター研究員・助手）	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
13	湊　信幸（元副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
14	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
15	西岡　康宏（元副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
16	小野　博（美術刀剣研磨技師）	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
17	大橋　美織（静嘉堂文庫美術館学芸員）	当館所蔵の近世絵画に関する研究
18	若杉　準治（前京都国立博物館）	法隆寺献納宝物を中心とした館蔵中世絵画の研究
19	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
20	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
21	佐々木　利和（北海道大学アイヌ・先住民研究センター特任教授）	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
22	望月　幹夫（元東京国立博物館）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
23	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	東京国立博物館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
24	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	考古出土遺物に関する保存科学的研究
25	稲本　泰生（京都大学人文科学研究所准教授）	東洋彫刻及び大谷探検隊将来西域美術の調査研究
26	澤田　むつ代（元東京国立博物館）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上一稔（同志社大学文学部教授）	南山城の彫刻に関する調査研究
2	宇都宮啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	奥平俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	京狩野に関する調査研究
4	狩野博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	後藤　真（花園大学文学部講師）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水　昭博（帝塚山大学人文学部准教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】　45人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師）	近代美術資料群の調査・研究
2	三上　豊（和光大学表現学部教授）	現代美術に関する調査研究
3	中村佳史（国立情報学研究所研究員）	デジタル資料学の調査研究
4	丸川雄三（国立民族学博物館准教授）	近代美術に関する調査研究
5	中野照男（大東文化大学非常勤講師）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
6	津村宏臣（同志社大学文化情報学部文化情報学科准教授）	東京文化財研究所アーカイブズ構築に関する調査研究
7	吉崎真弓（国立情報学研究所特任研究員）	文化財情報の発信に関する調査研究
8	近松鴻二（国士舘大学非常勤講師ほか）	黒田清輝宛書簡ならびに記事珠等の明治期文書資料に基づく調査研究
9	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
10	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
11	齋藤裕嗣	無形民俗文化財の調査研究
12	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財工芸技術（金工分野）の調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
13	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財工芸技術（陶芸分野）の調査研究
14	山崎　剛（金沢美術工芸大学准教授）	無形文化財工芸技術（漆工分野）の調査研究
15	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形民俗文化財の調査研究
16	星野厚子（東京藝術大学助手）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
17	大西秀樹(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師)	音声映像記録に関する調査研究
18	松山直子	アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護活動の調査研究
19	三浦定俊（公益財団法人文化財虫害研究所理事長）	X線透過画像調査データ等に関する整理およびアーカイブ業務等
20	藤井義久（京都大学農学部准教授）	文化財の生物劣化対策の研究
21	呂　俊民	文化財の保存環境の研究
22	小峰幸夫（公益財団法人文化財虫害研究所研究員）	文化財の生物劣化対策の研究
23	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	環境制御および環境解析に関する研究
24	間渕　創（三重県立博物館）	文化財保存収蔵環境におけるカビの付着菌、浮遊菌の調査
25	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
26	長島宏行（一般財団法人日本航空協会）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
27	小堀信幸（公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
28	本多貴之（明治大学理工学部専任講師）	伝統的修復材料に関する調査研究
29	高林弘実（京都市立芸術大学）	中国壁画の保護に関する調査研究
30	渡邉真樹子（絵画修復家）	中国壁画の保護に関する調査研究
31	酒井清文	伝統的修復材料に関する調査研究
32	堤　一郎（中央大学理工学部非常勤講師）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
33	谷口陽子（筑波大学准教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
34	松田泰典（JICA大エジプト博物館保存修復センター専門家）	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」人材育成と技術移転事業
35	山藤正敏（金沢大学国際文化資源学研究センター客員研究員）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
36	大河原典子（日本画家）	古墳壁画の修復に関する調査研究
37	有村　誠（金沢大学准教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
38	石井美恵（染織品修復家）	在外日本文化財保存修復協力事業に関する調査研究
39	前川佳文（壁画保存修復士）	古墳壁画の修復に関する調査研究
40	成田朱美（東京藝術大学大学院専門研究員）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
41	間舎裕生（慶応大学非常勤講師）	キルギス等文化遺産国際協力拠点交流に係る調査研究
42	後藤多聞（公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館理事）	文化遺産文化遺産国際協コンソーシアム事業に伴う調査研究
43	邊牟木尚美（ローマ・ゲルマン中央博物館研修員）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
44	鈴木　環（JICA専門家）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
45	釘屋奈都子（東京藝術大学大学院専門研究員）	アルメニア及びコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する調査研究

【奈良文化財研究所】　32人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	小原　嘉記（中京大学国際教養学部准教授）	日本古代・中世の地方支配制度及び中性寺院の研究
2	小浦　久子(大阪大学大学院工学研究科准教授)	都市計画、環境デザインの研究
3	廣田　純一（岩手大学農学部教授）	農業土木学及び農村計画学
4	EDWARDS Walter Drew(元天理大学国際文化学部教授)	考古学、文化人類学の研究
5	巽　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	歴史考古学の研究
6	肥塚　隆保（元奈良文化財研究所副所長）	文化財科学、保存修復科学の研究
7	山中　敏史（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	遺跡及びその調査技術の研究
8	松井　章（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）	動物考古学の研究
9	丸山　真史	動物考古学の研究
10	水野　裕史（熊本大学教育学部講師）	文化財情報学・美術史学の研究
11	小林　謙一（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修事業部長）	遺物及びその調査技術、文化財情報に関する研究
12	Carl Gellert（ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ大学ﾊﾞｰｸﾚｰ校博士後期課程）	日本美術史の研究
13	登谷　伸宏（京都橘大学文学部助教）	日本建築・都市史の研究
14	窪寺　茂（建築装飾技術史研究所）	第一次大極殿院復原のための建築塗装・彩色の研究
15	深澤　芳樹（元奈良文化財研究所副所長）	歴史考古学の研究
16	佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学名誉教授）	文化財科学、分析化学の研究
17	北田　正弘（元（独）物質・材料研究機構特別研究員）	金属材料工学、文化財科学の研究
18	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	保存修復科学、精密工学の研究
19	澤田　正昭(国士舘大学アジア･日本研究センター客員研究員)	保存修復科学の研究
20	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科准教授）	建築環境工学、保存科学の研究
21	大賀　克彦	古代における玉類の生産と流通についての研究
22	芹原　信生（元京都大学霊長類研究所教授）	自然人類学、動物考古学の研究
23	渡辺　伸行（神戸市立上野児童館長）	日本考古学（弥生時代～古代）及び自然災害と考古学の研究
24	大江　文雄（愛知県環境審議会専門調査委員）	古生物学（魚類系統進化）の研究
25	菊地　大樹（元奈良文化財研究所任期付研究員）	中国考古学、動物考古学の研究
26	光谷　拓実(大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究推進戦略センター特別客員教授)	年輪年代学及び木材解剖学の研究
27	伊東　隆夫（南京林業大学（中国）特別招聘教授）	木材組織学の研究
28	藤井　裕之	年輪年代学の研究
29	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の研究
30	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門員）	遺跡探査の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
31	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所研究部長）	遺跡及びその調査技術の研究
32	MARES　Emmanuel Bernard	国際交流基金外国人研究員

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成26年3月31日現在

	H21	H22	H23	H24	H25
国立博物館計	―	9,202,862	6,480,930	7,743,323	6,564,190
東京国立博物館	5,687,673	4,971,306	2,772,633	2,982,729	2,898,885
京都国立博物館	― (参考:848,486)	2,077,562 (参考:805,935)	1,835,640	1,837,113	1,562,480
奈良国立博物館	639,030 (参考:2,630,035)	769,293 (参考:3,121,270)	722,249	845,202	893,553
九州国立博物館	1,956,287	1,384,701	1,150,408	2,078,279	1,209,272
文化財研究所計	1,988,486	2,130,786	1,771,695	1,655,762	1,857,638
東京文化財研究所	1,417,203	1,489,091	1,314,541	(*1)1,230,718	1,410,075
奈良文化財研究所	571,283 (参考:1,030,905)	641,695 (参考:4,977,076)	457,154	425,044	447,563
アジア太平洋無形文化遺産研究センター			1,838 (H23.12.16サイト開設)	5,289	5,454
機構本部	293,317	270,913	208,982	260,558	283,412
e国宝	630,399	659,056	1,139,318	1,420,662	1,676,762

※アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
※過去の実績においてユーザーセッション数未集計の場合、”－”を記している。その際の括弧内の参考値は、当時の実績評価で使用していた単位でのアクセス件数（京都国立博物館：トップページビュー数、奈良国立博物館・奈良文化財研究所：ページビュー数）である。

＊1 参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24年10月～25年2月のアクセスログが消失したことから、年間アクセス件数は不明である。ログが保存されている7ヵ月間のアクセス件数717,919件の月平均を12倍した値を、参考値として記載している。

e 平成 25 年度平常展・特別展アンケート結果

＜平常展＞
東京国立博物館総合文化展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 212
奈良国立博物館名品展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
九州国立博物館文化交流展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214

＜特別展＞
東京国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
特別展「国宝　大神社展」
特別展「和様の書」
特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」
特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」
特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」
特別展「人間国宝展生み出された美、伝えゆくわざ－」
特別展「支倉常長像と南蛮美術－400 年前の日欧交流－」

京都国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
特別展覧会「狩野山楽・山雪」
特別展観「遊び」
特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」

奈良国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」
特別展「みほとけのかたち―仏像に会う―」
特別展「第 65 回正倉院展」

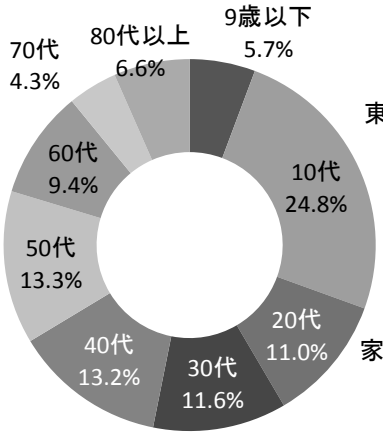
九州国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228
特別展「大ベトナム展」
特別展「中国　王朝の至宝」
特別展「尾張徳川家の至宝」
特別展「国宝　大神社展」

東京国立博物館

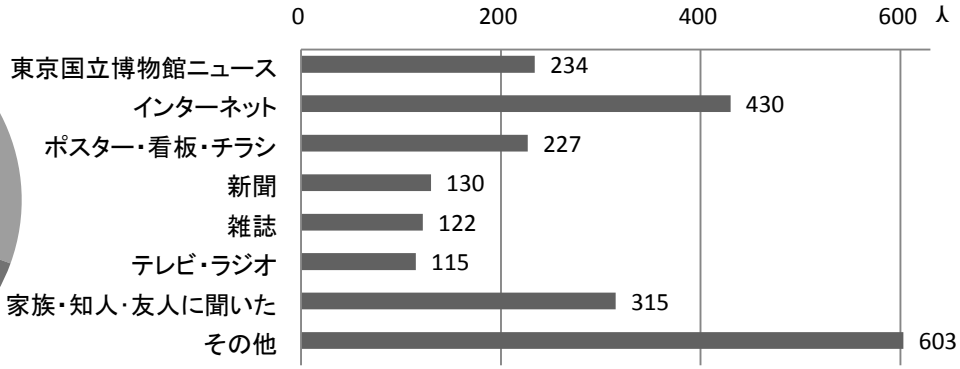
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：平成25年4月1日（月）～平成26年3月31日（月）　開館日数：306日間
回答者数：2,990人 （うちタッチパネルアンケート2,642人＜88.4%＞）
来館者数：484,174人
アンケート回収率：0．62%

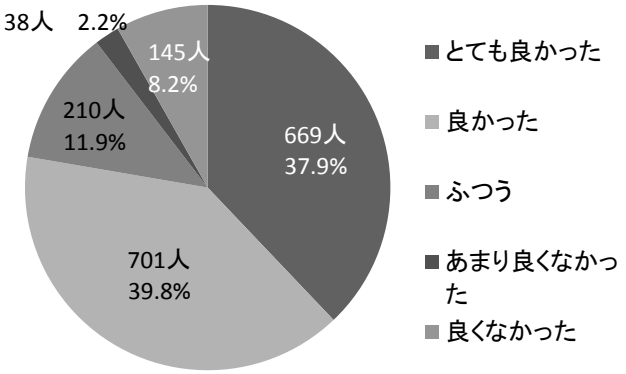
①アンケート回答年齢層



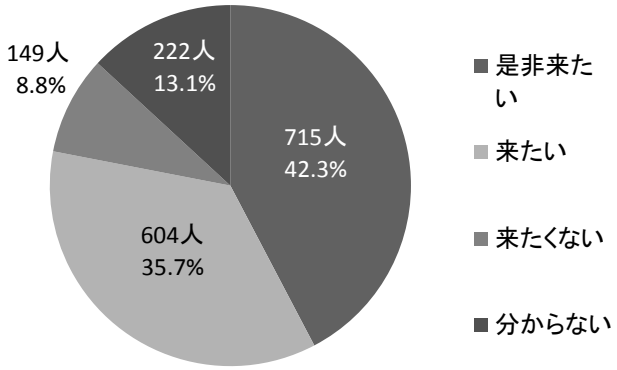
②認知経路 （複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

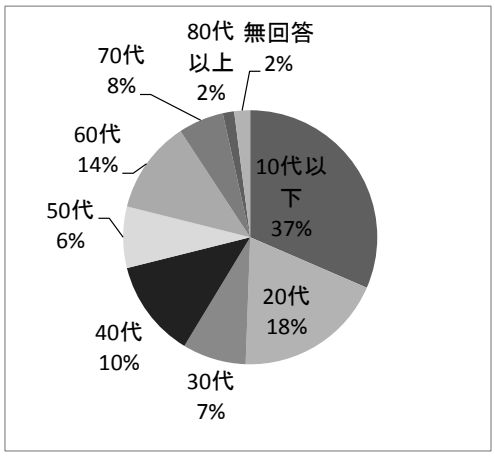
・良かった、素晴らしかった。
・～の展示が良かった。
・イベントが楽しかった。（「博物館に初もうで」、「博物館でお花見を」）
・展示の仕方が良くない、見えにくい。
・詳しい解説がほしい。
・リニューアル工事で不便だった、鑑賞できずに残念。
・写真撮影を止めてほしい。

奈良国立博物館

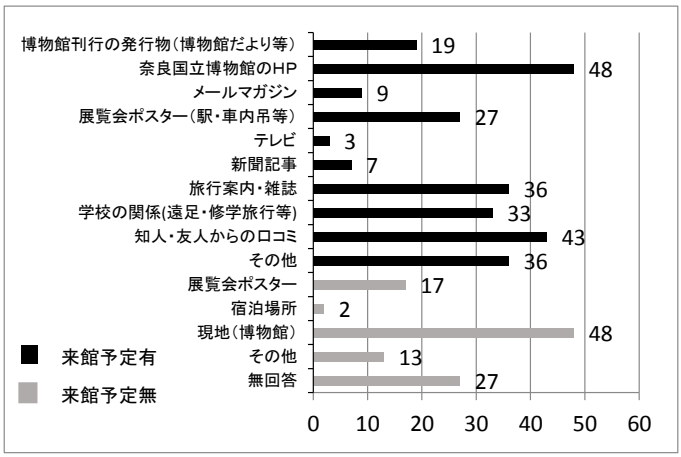
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成２５年４月１日（月）～平成２６年３月３１日（月）　開館日数：３１７日間
回答者数：３４６人（総来館者数：１２２，０７５人　アンケート回収率：０．２８%）

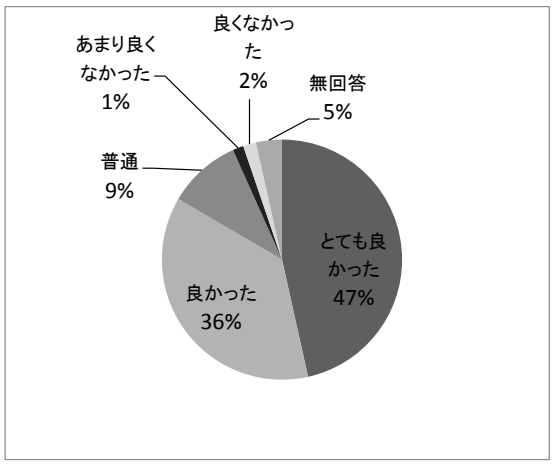
①年齢層



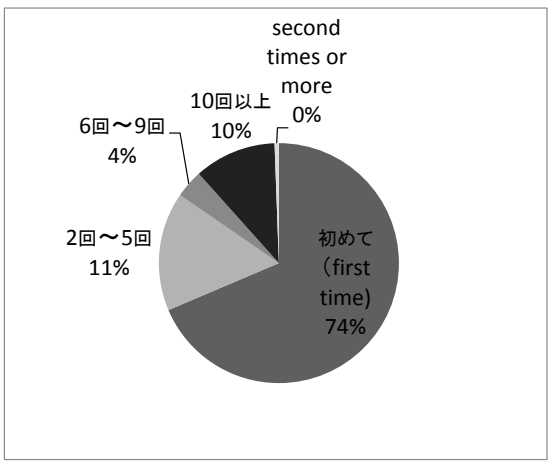
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



④主な意見・感想

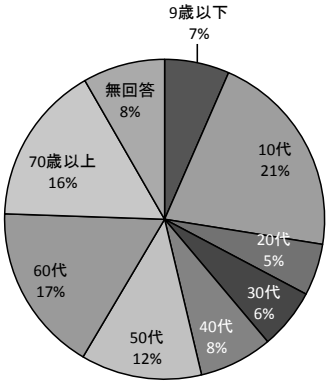
・これほどまでに国宝・重文級の仏像を一度に見られるところはない。素晴らしかった。
・教科書で見たことのあるものがたくさん見られて感動した。
・照明の当て方がすばらしく、仏像の神秘性が増して、仏像が美術品でなく信仰の対象とされていることを感じた。
・分類ごとに分けられているので、観覧しやすかった。
・ケースなしで、ごく間近で見られる仏像が多く、ありがたい。
・英語の解説が丁寧で解りやすく、うれしかった。

九州国立博物館

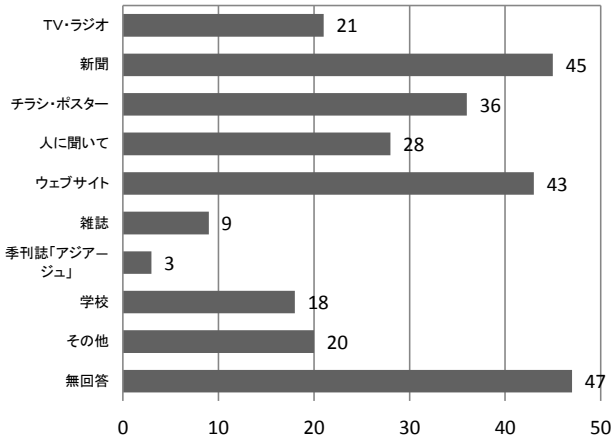
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成25年4月1日(月)～平成26年3月31日(月)　　開館日数：308日間
総回答者数：229人（総来館者数：349,848人　アンケート回収率：0.07%）

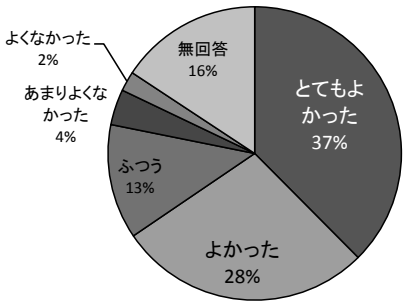
①年齢層



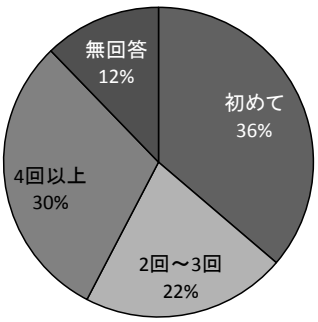
②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④再来館率



④主な意見・感想
・もっと九州の展示をして欲しい。・順路があった方がよい。・展示物の裏も見たい。
・マナーの悪い観覧者を注意してほしい。・展覧会の図録以外に冊子があるといい。
・たくさんの展示物(絵・仏像・土器・鏡)を見れてとても勉強になりました。・講演会等が良かった。
・博物館へのアクセス道が暗い。・休憩所を増やしてほしい。椅子が少ない。・空調がよくなかった。
・分かりやすい解説にして欲しい。・解説にふりがなを振ってほしい。
・展示物が多く楽しめました。さわったり出来るのも良いと思います。

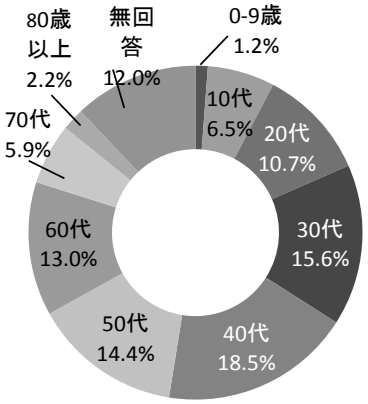
東京国立博物館

特別展「国宝 大神社展」
アンケート集計結果

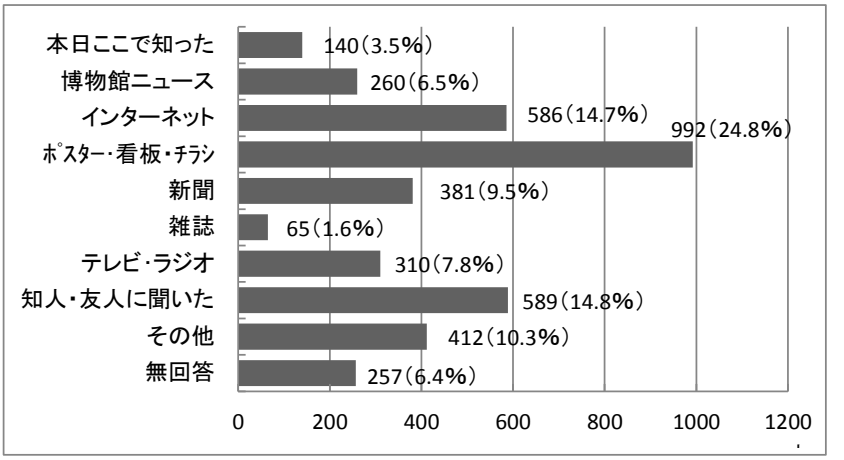
開催期間：平成２５年４月９日（火）～ ６月２日（日）（４９日間）
回答者数：３，２８７人（総来館者数：１９３，９９０人　アンケート回収率：１．７３％）

アンケート内訳:タッチパネル式　2,860人
アンケート用紙　427人

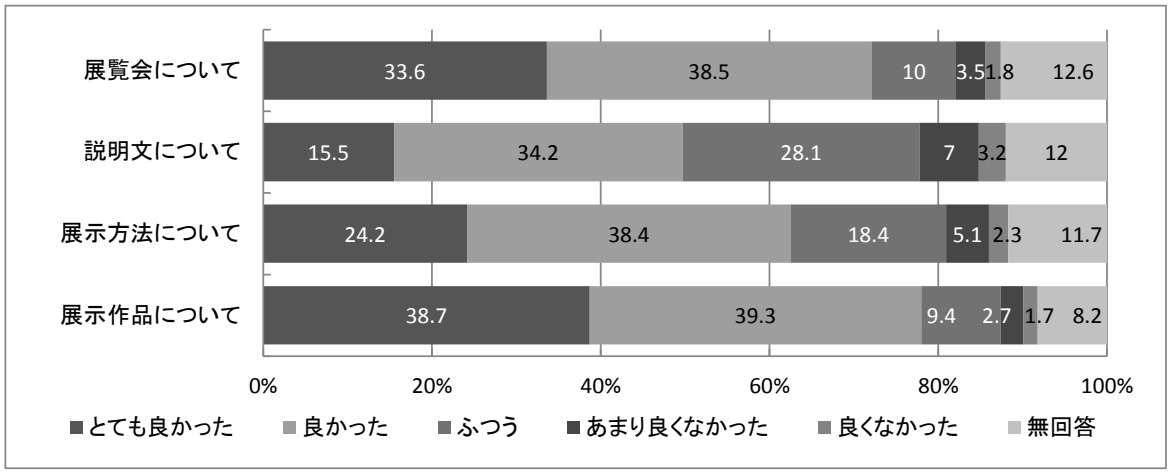
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・ 国宝など貴重な品が多く、見応えがあった。
・七支刀・春日新鹿御正体が良かった。
・日本の信仰の歴史や、神社・神道の勉強になった。
・ 会期中に入れ替えはしないでほしい。
・ 英文での展覧会カタログの対応をしてほしい。

本展覧会は、伊勢神宮の第62回式年遷宮を機に、神社本庁をはじめ、日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的にご覧いただく、大変貴重な機会となりました。

今回集められた国宝・重要文化財の数、160件。神像はこれまで秘されてきたものなど約40体がお目見えし、過去最大規模の神道美術展、全国の神社パワー大集結となった本展には、１９万人を超えるお客様にご来場いただきました。

展覧会については、７２．１%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「説明が足りない。展示品の材質・年表・地図などもっと詳しい説明がほしい」「音声ガイド有の案内表示が分かりにくい」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見もいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

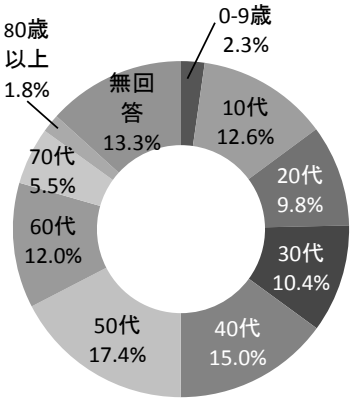
東京国立博物館

特別展「和様の書」
アンケート集計結果

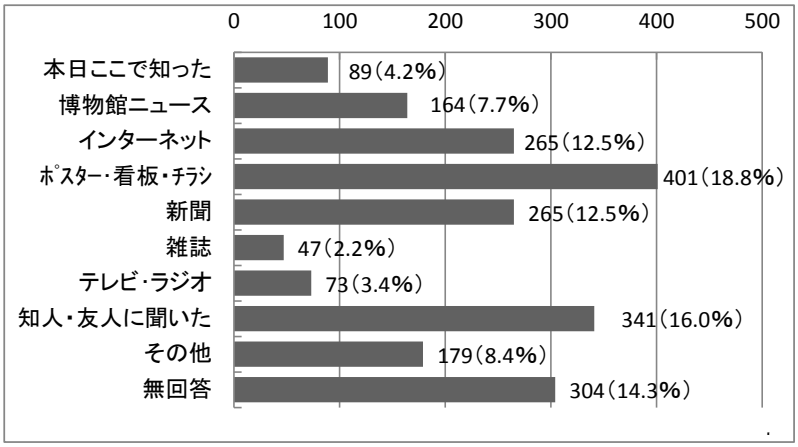
開催期間：平成２５年７月１３日（土）～ ９月８日（日）（５１日間）
回答者数：１，６３５人（総来館者数：１０４，５７７人　アンケート回収率：１．５６％）

アンケート内訳:タッチパネル式　1,395人
アンケート用紙　240人

①アンケート回答年齢

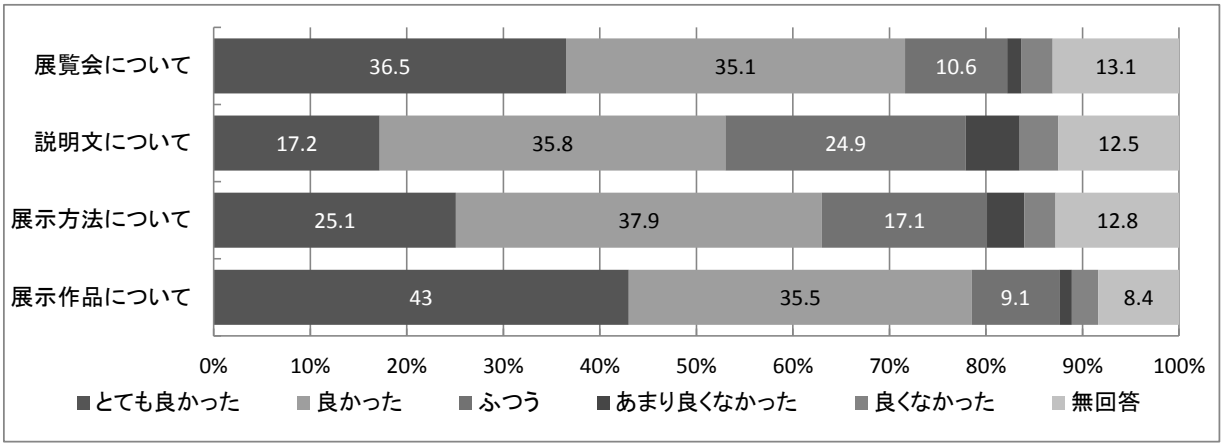


②認知経路（複数回答）



人

③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・「古今和歌集」や「檜原図屏風」などを見られて嬉しかった。
・ 書の展示はあまりないので、どんどんやってほしい。
・ ジュニアガイドが分かりやすかった。
・ 展示替が多く、見られない作品があった。
・ 読み仮名や書き下し文がほしい。

注:上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	1.5	3.2
説明文	5.6	4.0
展示方法	3.9	3.2
展示作品	1.3	2.7

（%）

本展覧会では、日本の文化の中で独自に発展した日本風の書「和様の書」の展開を通して、書の魅力を広く紹介しました。

三跡（さんせき）をはじめ日本を代表する能書（のうしょ）の作品や四大手鑑など至高の名筆が集まり、日本文化が育んだ文字の美しさや心を感じていただく機会となった本展には、10万人を超えるお客様にご来場いただきました。

展覧会については、71．6%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な意見をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「展示替が多く、見られない作品があった」「読み仮名や書き下し文がほしい」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見をいただきました。

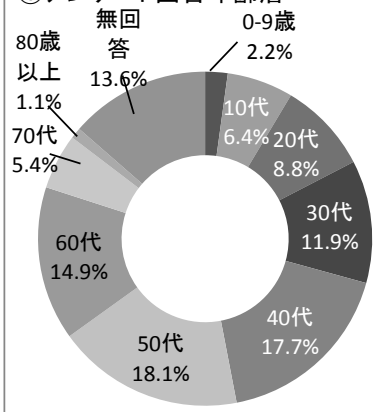
今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

東京国立博物館

特別展「京都ー洛中洛外図と障壁画の美」
アンケート集計結果

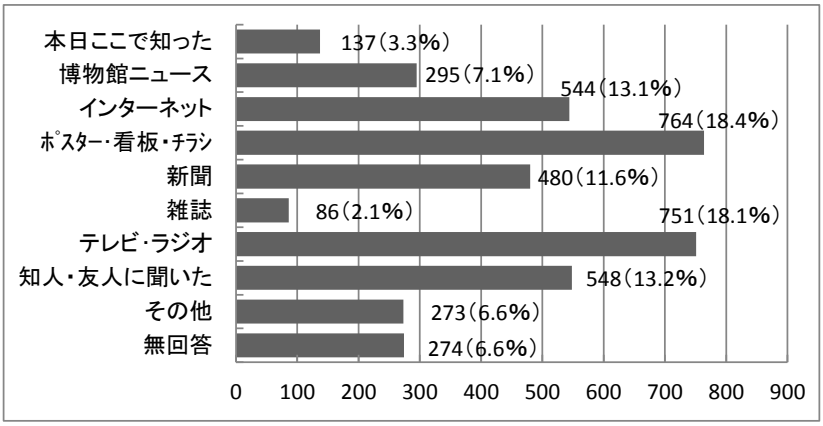
開催期間：平成２５年１０月８日（火）～ １２月１日（日）（４８日間）
回答者数：３，４０２人（総来館者数：２７８，８０１人　アンケート回収率：１．２２％）

①アンケート回答年齢層

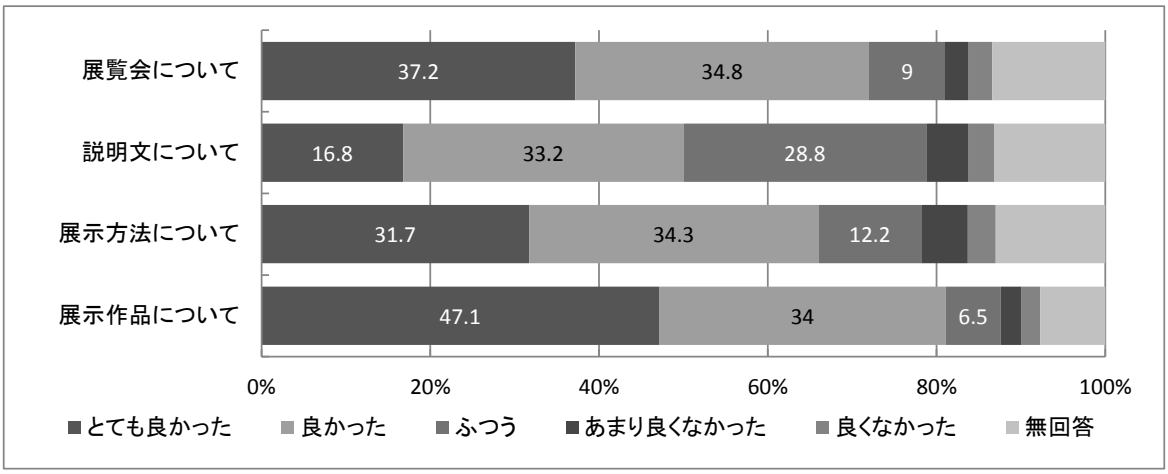


アンケート内訳：タッチパネル式　2,985人
アンケート用紙　417人

②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展覧会	2.8	2.8	13.4
説明文	5.0	3.0	13.2
展示方法	5.5	3.8	13.0
展示作品	2.5	2.2	7.7

（%）

④主な意見・感想
- 洛中洛外図・松鷹図・龍安寺4K映像がよかった。
- 国宝など貴重な名品が多く、見応えがあった。
- 詳しい説明文・地図などで、理解の助けになった。
- 会期中には入れ替えしないでほしい。
- 混雑時には誘導・入場制限を積極的にしてほしい。

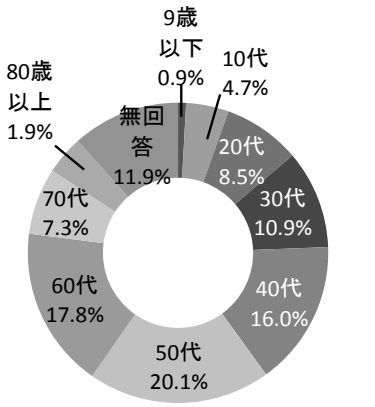
本展覧会は、日本テレビ開局60年を記念して、古来より多くの武士や貴族、庶民などに愛された京都を象徴する3つの場所、京都御所、二条城、龍安寺を飾った障壁画を通して、京都ならではの伝統美を体感していただく展覧会となりました。
今回は「上杉本」「舟木本」をはじめとする国宝・重文に指定された『洛中洛外図』7件すべてを紹介しました。また、修復を終えたばかりの障壁画で二条城の空間を再現するなど、大変貴重な機会となった本展には、27万人を超えるお客様にご来場いただきました。
展覧会については、７２．０%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「説明が足りない」「混雑時には誘導・入場制限を積極的にしてほしい」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見もいただきました。
今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

東京国立博物館

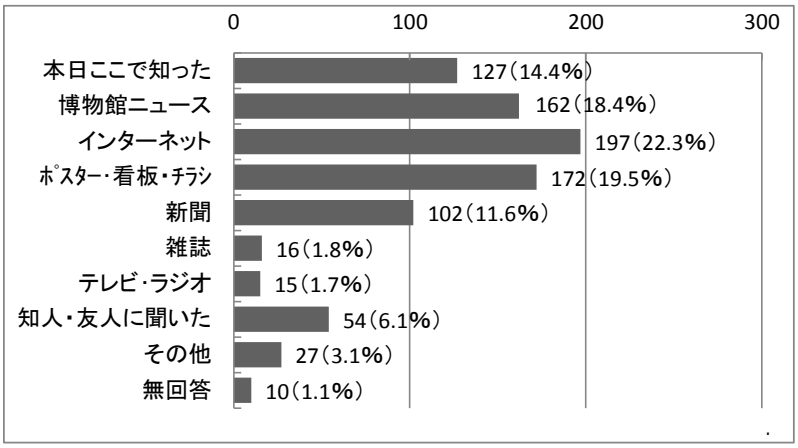
特別展「上海博物館 中国絵画の至宝」
アンケート集計結果

開催期間：平成２５年１０月１日（火）～ １１月２４日（日）（４８日間）
回答者数：６８１人（総来館者数：６２，３７８人　アンケート回収率：１．１４％）

①アンケート回答年齢

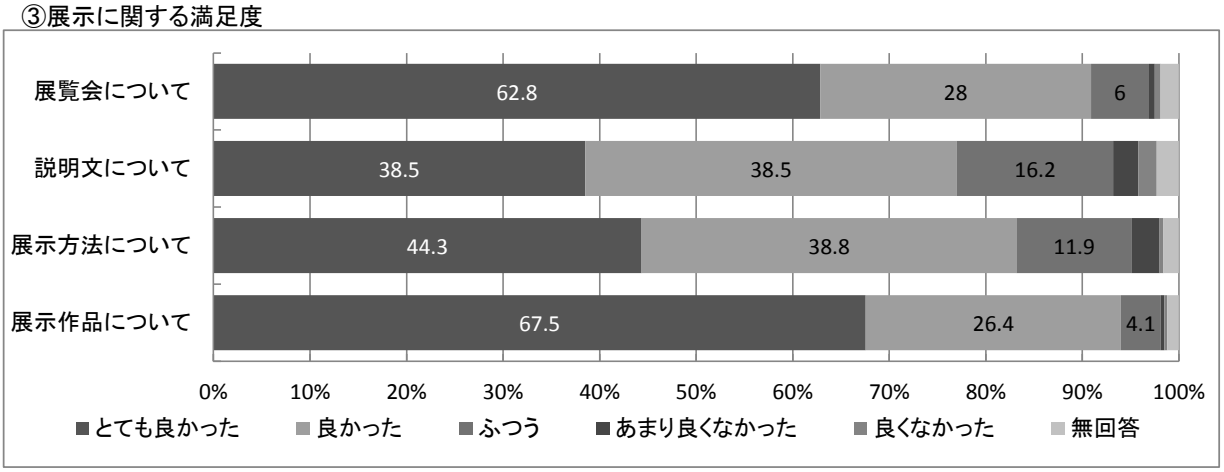


②認知経路（複数回答）



人

③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 「花卉図」や「山陰道上図巻」などが見られて嬉しかった。
- 解説のコラムが面白かった。良かった。
- 通常料金で見られたのが嬉しかった。
- 展示作品の数が少なくて物足りない。
- 音声ガイドに専門用語が多くて分かりにくかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展覧会	0.6	0.6	1.9
説明文	2.6	1.9	2.3
展示方法	2.9	0.4	1.6
展示作品	0.4	0.3	1.2

（%）

本展覧会には中国で最大規模の収蔵を誇る上海博物館より、一級文物を含む名品を一堂に展示し、五代・北宋から明清にいたる中国絵画の流れを辿るまたとない機会となりました。本展には、6万2千人を超えるお客様にご来場いただきました。

展覧会については、90．9%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な意見をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好意的な意見が寄せられました。一方で「展示作品の数が少なくて物足りない」「音声ガイドに専門用語が多くて分かりにくい」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見をいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

東京国立博物館

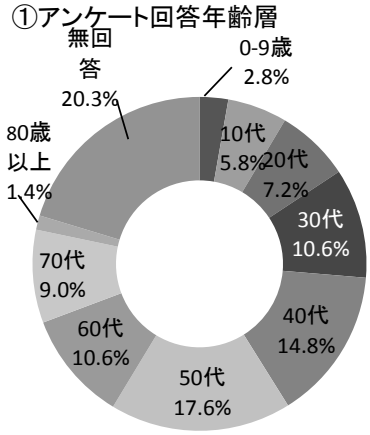
特別展「クリーブランド美術館展–名画でたどる日本の美」アンケート集計結果

開催期間：平成２６年１月１５日（水）～ ２月２３日（日）（３５日間）

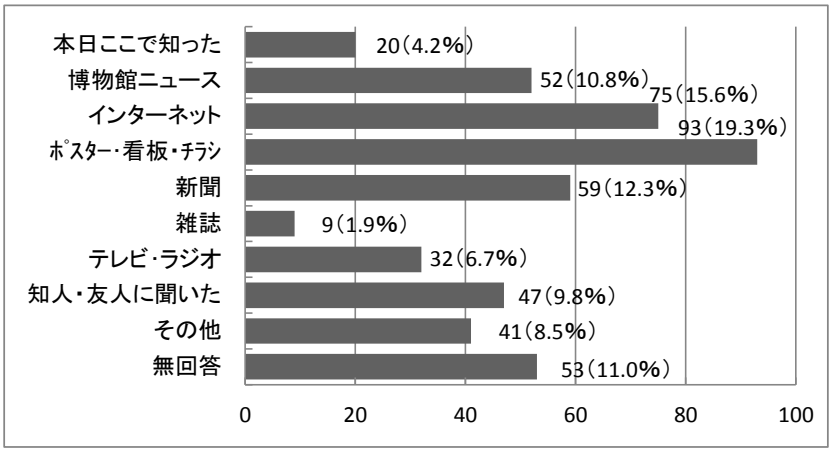
回答者数：４３３人（総来館者数：１０４，８６５人　アンケート回収率：０．４１%）

アンケート内訳:タッチパネル式　320人
アンケート用紙　113人

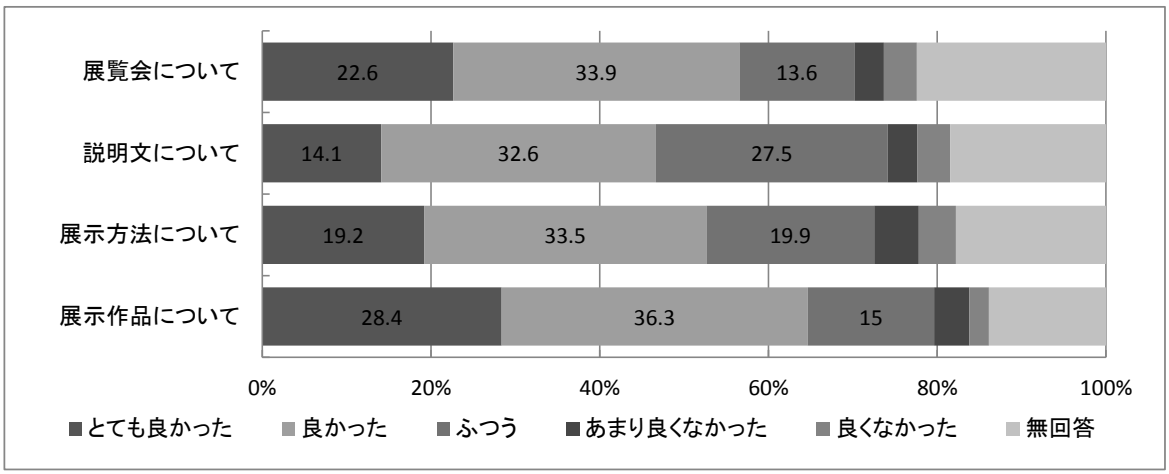
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ピカソ、雷神図屏風、地獄太夫図、琴棋書画図屏風がよかった。
- 海外の目を通して日本絵画に触れ、大変勉強になった。
- 説明文が分かりやすく、作品の特徴をよく理解できた。
- 音声ガイドの内容が物足りない。もっと作品解説をしてほしい。
- 難しい字には振り仮名・現代語訳をつけてほしい。

注:上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展覧会	3.5	3.9	22.4
説明文	3.5	3.9	18.5
展示方法	5.3	4.4	17.8
展示作品	4.2	2.3	13.9

（%）

本展覧会は、東京国立博物館と東京都美術館とのコラボレーション企画「日本美術の祭典」のひとつとして開催されました（※当館は「人間国宝展」と同時開催）。

全米屈指の規模と質を誇るクリーブランド美術館の日本美術コレクションより、仏画や肖像画、花鳥画、山水画など、平安時代から明治に至る選りすぐりの日本絵画40件余と、中国や西洋絵画の優品を加えた総数約50件をご紹介する大変貴重な機会となり、10万人を超えるお客様にご来場いただきました。

アンケートの結果、５６．５%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「開館時間を早くしてほしい。夜間開館を増やしてほしい」「通常の半分の広さなら、一回分の料金で二展見せてほしかった」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見もいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

東京国立博物館

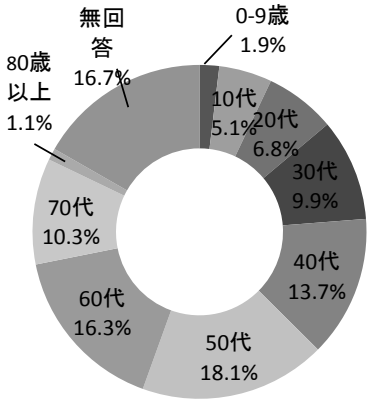
特別展「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」アンケート集計結果

開催期間：平成２６年１月１５日（水）～ ２月２３日（日）（３５日間）

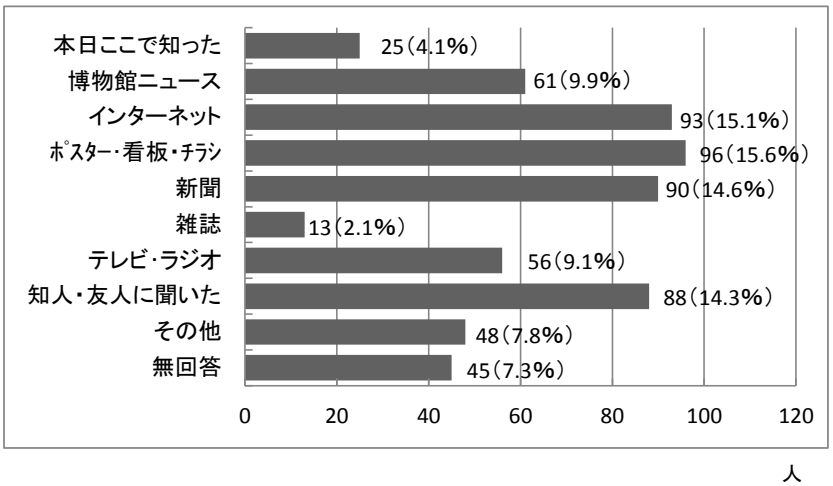
回答者数：５２６人（総来館者数：１１２，９６０人　アンケート回収率：０．４７%）

アンケート内訳:タッチパネル式　362人
アンケート用紙　164人

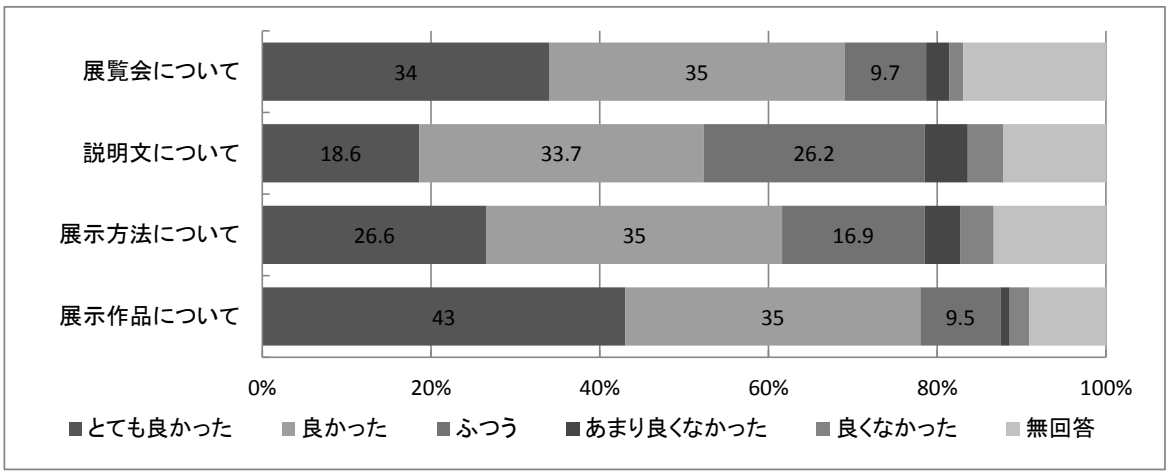
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 恒河、抱擁、白釉黒流掛大鉢がよかった。
- 日本の伝統工芸について理解を深められた。勉強になった。
- 解説・構成が入念でよかった。
- ギャラリートークで、人間国宝の方のお話が伺えて嬉しかった。
- 夕方の閉館時間を遅くしてほしい。夜間開館を増やしてほしい。

注:上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展覧会	2.7	1.7	16.9
説明文	5.1	4.2	12.2
展示方法	4.2	4.0	13.3
展示作品	1.1	2.3	9.1

（%）

本展覧会は、東京国立博物館と東京都美術館とのコラボレーション企画「日本美術の祭典」のひとつとして開催されました（※当館は「クリーブランド美術館展」と同時開催）。

今回は、国宝・重要文化財など歴史的に評価されてきた古典的な工芸と、現代の人間国宝の作品を一堂に集め、日本が誇る工芸の「わざ」をご覧いただく貴重な機会となりました。また「人間国宝」（重要無形文化財の保持者）たちの日本工芸史に残る作品を紹介した本展には、11万人を超えるお客様にご来場いただきました。

アンケートの結果、６９．０%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「小休憩できる場所、椅子が少ないと感じた」「作品の素材表記をしてほしかった」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見もいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

東京国立博物館

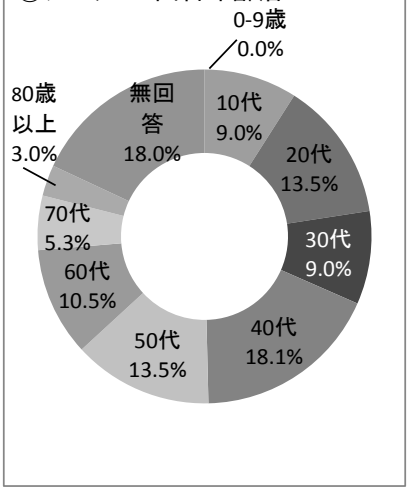
特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」アンケート集計結果

開催期間：平成２６年２月１１日（火・祝）～ ３月２３日（日）（３６日間）

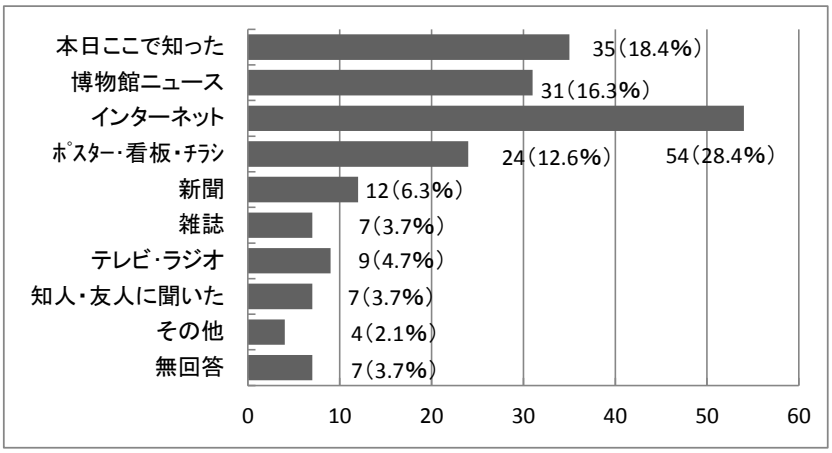
回答者数：１３３人（総来館者数：５６，３４２人　アンケート回収率：０．２４％）

アンケート内訳：アンケート用紙　133人
※タッチパネル式はなし

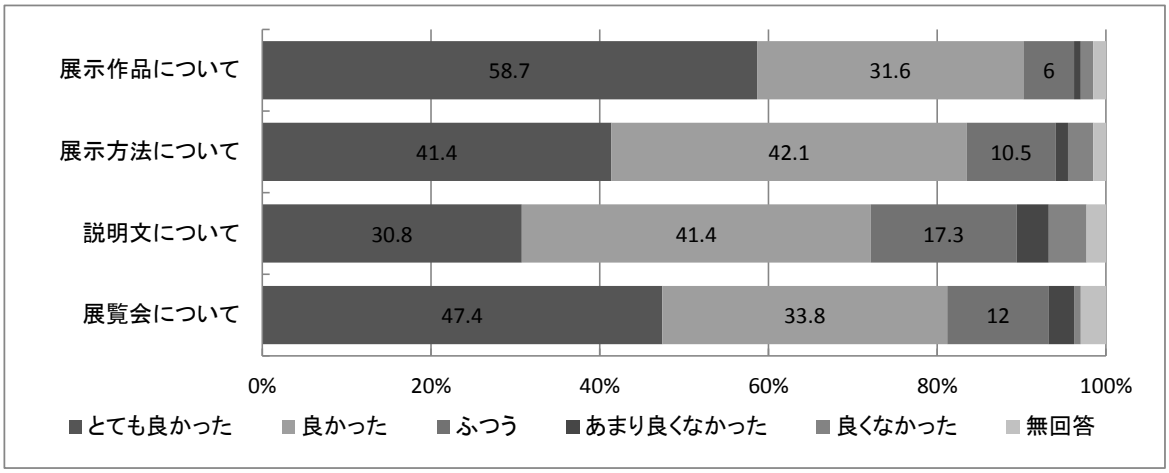
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 本物の「支倉常長像」が見られて感動した。
- リーフレットの内容が充実していてよかった。
- 総合文化展料金のみで特別展が鑑賞できてうれしかった。
- 展示数が少なく残念。もっと関係資料を展示してほしかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展示作品	0.8	1.5	1.5
展示方法	1.5	3.0	1.5
説明文	3.8	4.5	2.3
展覧会	3.0	0.8	3.0

（%）

本展覧会では、およそ400年前の慶長18年（1613）、仙台藩主伊達政宗の命を受け、「慶長遣欧使節（けいちょうけんおうしせつ）」としてヨーロッパに渡航した支倉常長がローマ教皇パウロ5世に謁見するため、ローマに入市した際の姿を描いたとされる肖像画を本館7室にて特別公開しました。400年前の日本とヨーロッパ、それぞれが見た「異国」の姿を留めた美術作品を通じ、日本とヨーロッパの文化交流の歴史を紹介する大変貴重な機会となり、5万人を超えるお客様にご来場いただきました。

アンケートの結果、８１．２%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「本館改装中なのに、館内の案内掲示が少ない」「展示作品についての解説が乏しい。もっと詳細な説明がほしい」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見もいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

注）本特別展の総入館者数は総合文化展入館者数を使用しています。

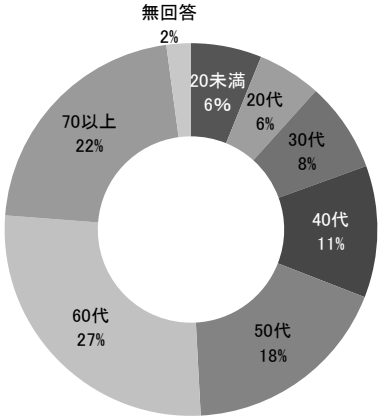
京都国立博物館

特別展覧会「狩野山楽・山雪」

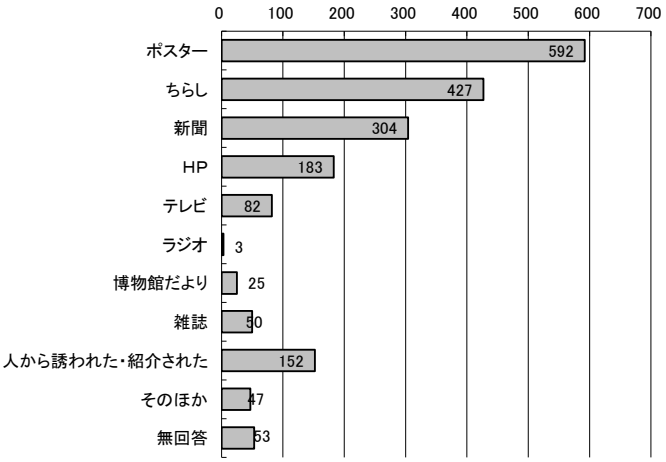
アンケート集計結果

開催期間：平成25年3月30日（土）～ 5月12日（日）（39日間）
回答者数：1,320人（総来館者数　90,242人　アンケート回収率1.5%）

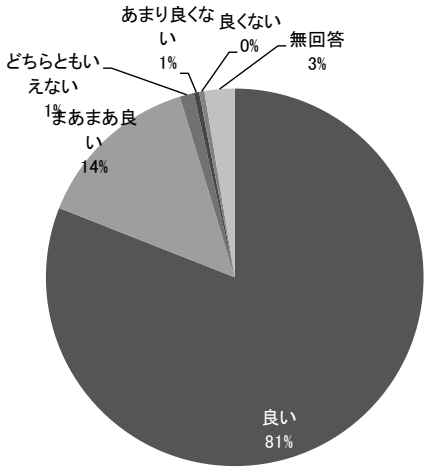
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、面白かった、素晴らしかった、感動した。(同様102件)
・今後も充実した展覧会を期待している(同様41件)
・見ごたえがあった、充実した内容だった(同様32件)
・里帰り作品など、貴重な作品を見ることができてよかった(同様15件)

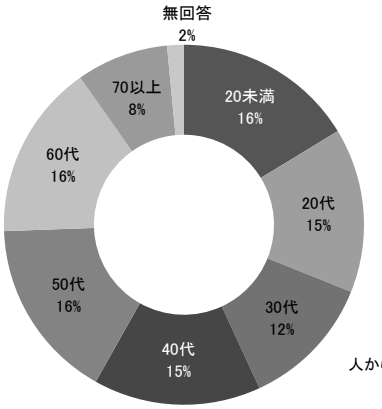
京都国立博物館

特別展観「遊び」

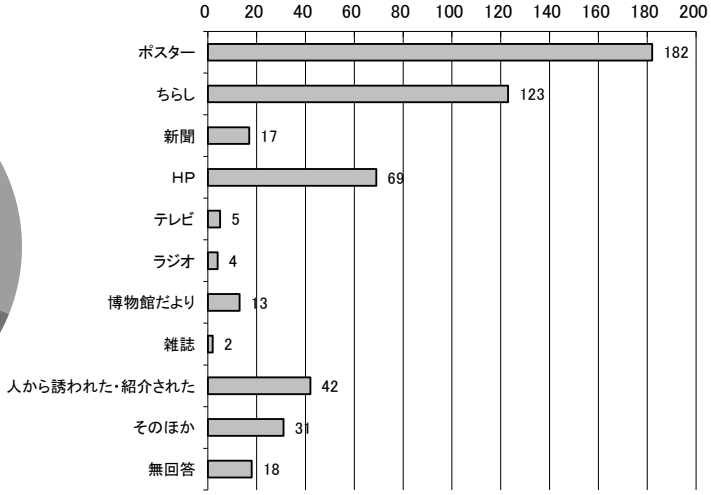
アンケート集計結果

開催期間：平成25年7月13日（土）～ 8月25日（日）（38日間）
回答者数：399人（総来館者数 23,659人　アンケート回収率 1.7%）

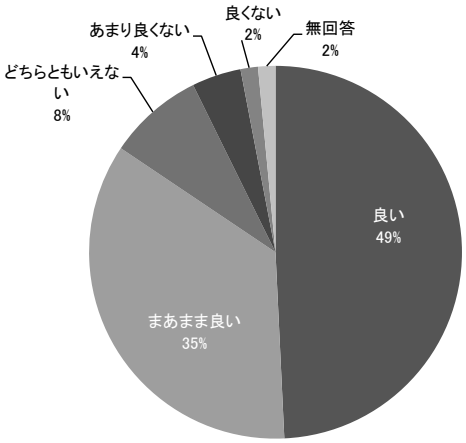
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、面白かった、素晴らしかった、感動した。(同様42件)
・見ごたえがあった、充実した内容だった。(同様11件)
・見やすい、わかりやすい展示だった。(同様9件)
・床の装飾が楽しい(同様8件)

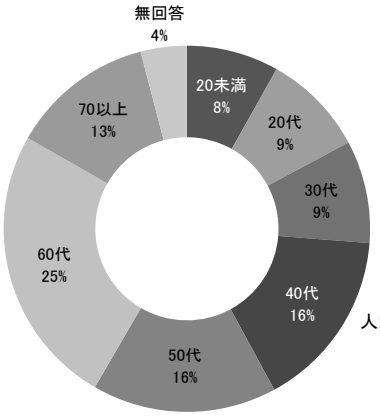
京都国立博物館

特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」

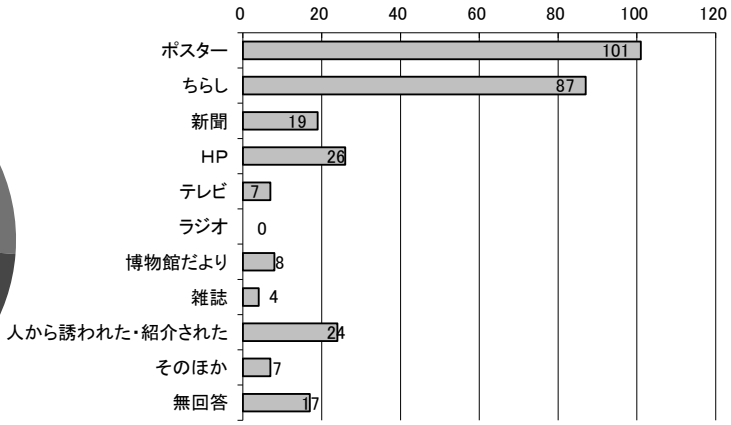
アンケート集計結果

開催期間：平成25年10月12日（土）～ 12月15日（日）（56日間）
回答者数：221人（総来館者数　38,929人　アンケート回収率 0.6%）

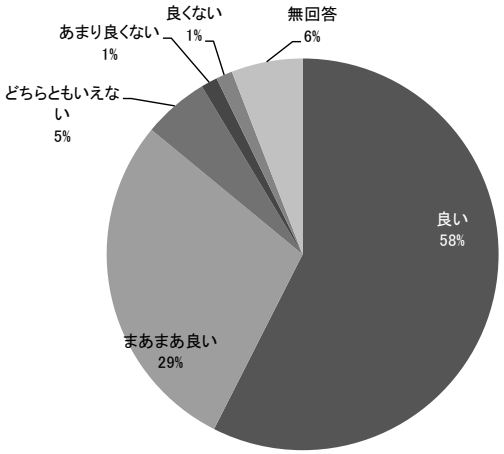
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

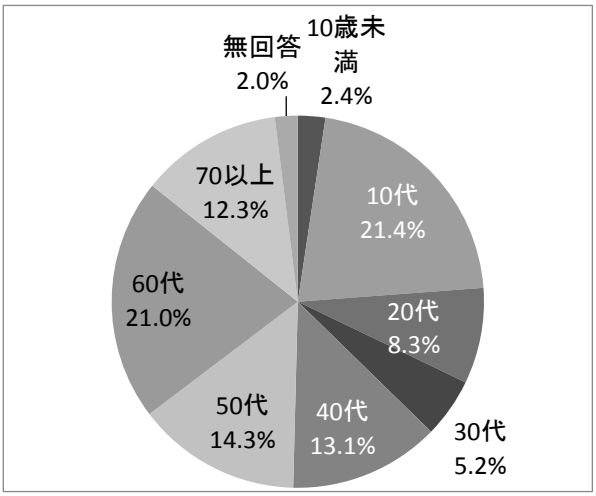
・良かった、素晴らしかった、感動した、面白かった(同様20件)
・見ごたえがあった、充実した内容だった(同様16件)
・比較物が隣に並べてあるなど見やすい、わかりやすい展示だった(同様15件)
・テーマ、取り上げ方がいい(同様13件)

奈良国立博物館　特別展「當麻寺−極楽浄土へのあこがれ−」

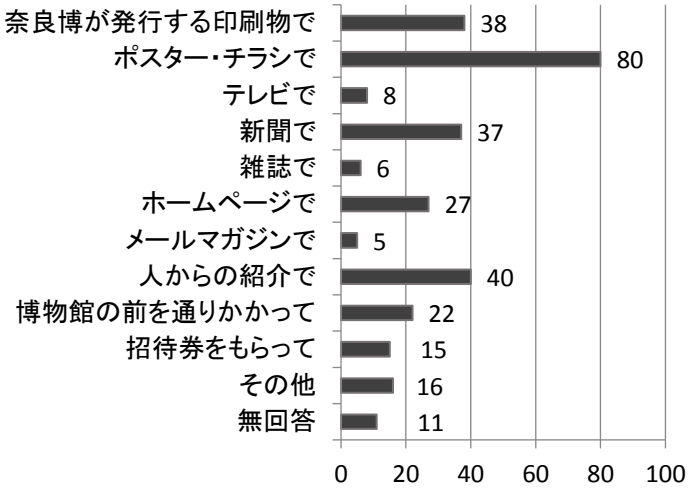
アンケート集計結果

開催期間：平成25年4月6日～6月2日(51日間)
回答者数：252人　総来館者数54,114人　回収率 0.47%

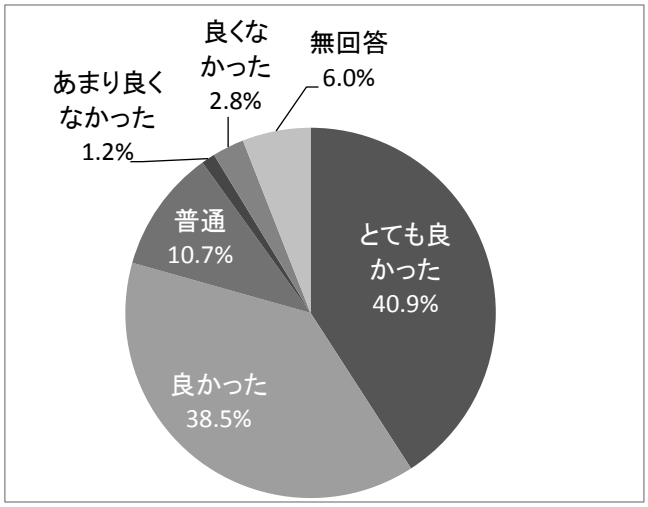
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



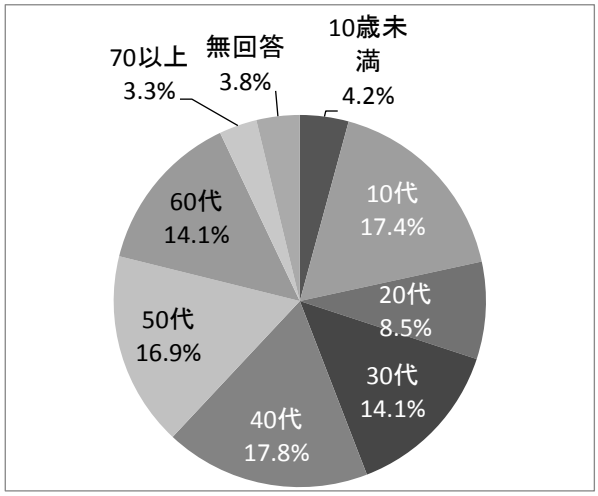
④主な意見・感想
- 當麻寺のこと、中将姫のこと、當麻寺の歴史がよくわかった。訪れたくなった。
- 當麻寺でも通常見ることのできない當麻曼荼羅や非公開品に感動した。
- 展示品の充実ぶりがすごかった。期待以上の内容の濃さだった。
- パソコン画面で根本曼荼羅と二つの模写曼荼羅を詳細に見比べることができたのがとてもよかった。
- 曼荼羅が同寸大パネルや映像で詳しく説明されていてよく理解できた。
- ゆったりと余裕を持った配置の展示がとても鑑賞しやすかった。
- 展示物に近づいて間近に見られる、またガラスケースを通さず見られる展示方法がよかった。

奈良国立博物館　**特別展「みほとけのかたち –仏像に会う–」**

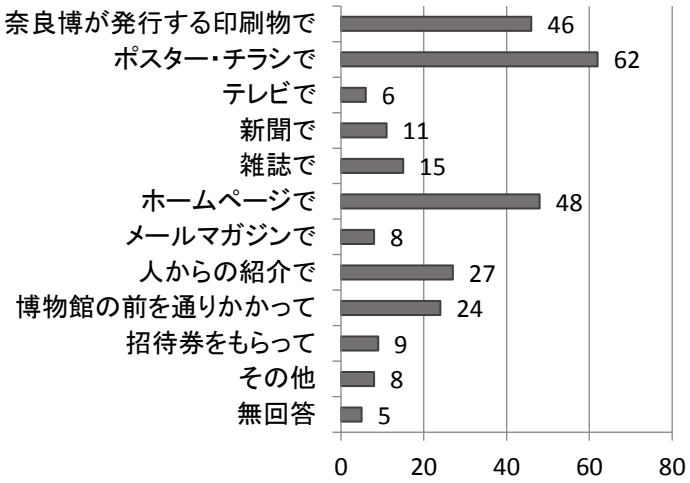
アンケート集計結果

開催期間：平成25年7月20日～9月16日(52日間)
回答者数：213人　総来館者数39,232人　回収率 0.54%

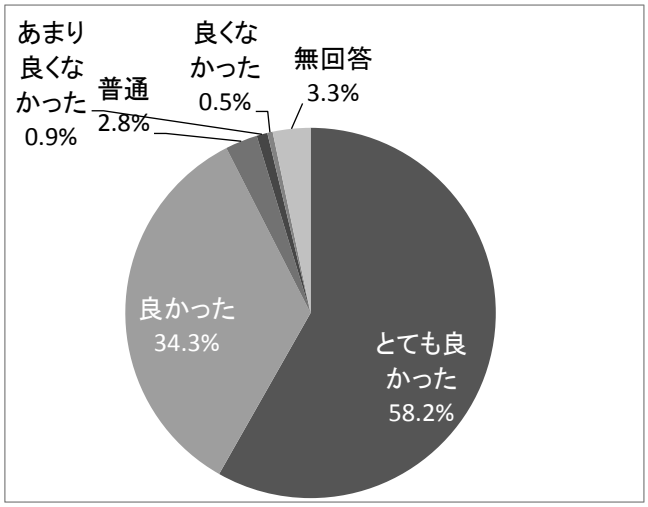
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ふだんなかなか見ることができない様々な仏像・仏画を一堂に見られた。
- 構成がわかりやすく、テーマごとに仏像を見るポイントが示されていて、仏像に詳しくない人にも注目すべきところが分かった。
- 仏像の種類などばかりに注目していたが、ふだんと視点を変えてみることができた。
- 初心者にも分かりやすい解説で、別途図示されている説明や映像が効果的だった。
- 直接間近で、仏像の背面や側面も見ることができる展示方法がよかった。
- 照明の当て方がすばらしい。
- 小中学生用のスタンプラリーが楽しかった。

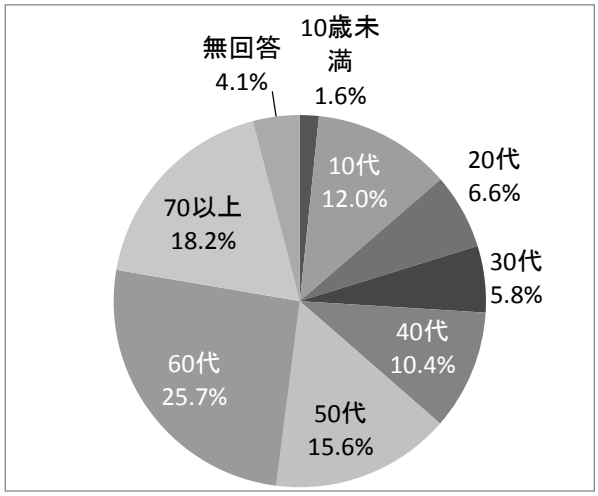
奈良国立博物館

特別展「第65回正倉院展」

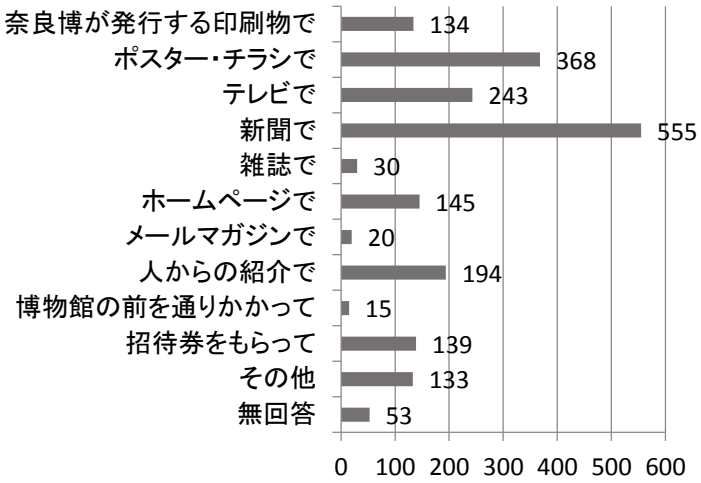
アンケート集計結果

開催期間：平成25年10月26日～11月11日(17日間)
回答者数：1,524人　総来館者数246,269人　回収率 0.62%

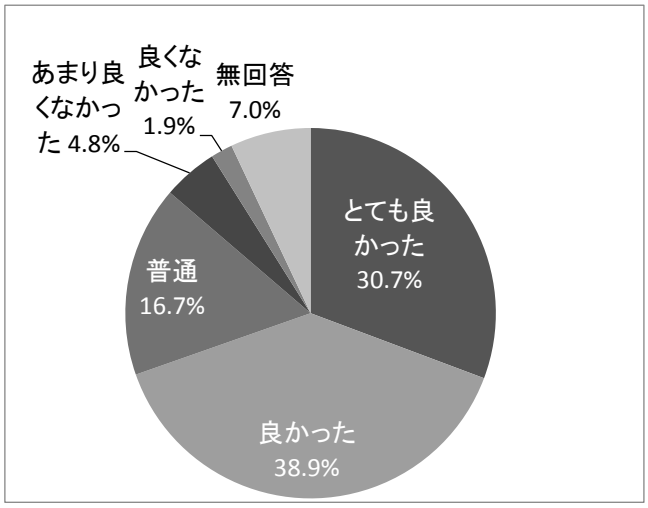
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

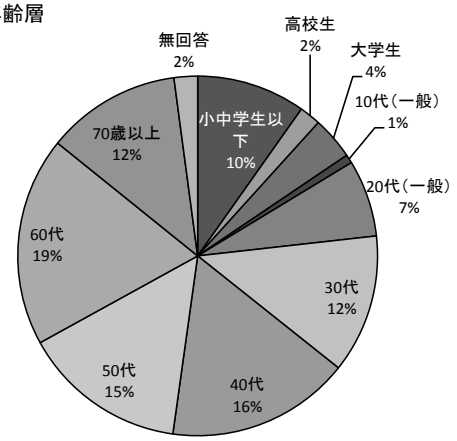
・宝物の美しさ、技巧の素晴らしさ、保存状態のよさに感嘆した。
・細かい文様、装飾等が拡大写真パネルや拡大鏡でとても確認しやすくなっている。
・具体的な使用法を示したり展示楽器の音色を流すなど、イメージが湧くよう工夫されている。
・解説が丁寧でわかりやすく、あらゆる方向から読めるように高所に複数掲示されているのがよかった。
・人の集まる展示品を前列と後列に分けた選べる観覧方法がよかった。
・ボランティア解説で、見るポイントがわかり観覧時の理解が深まった。

九州国立博物館

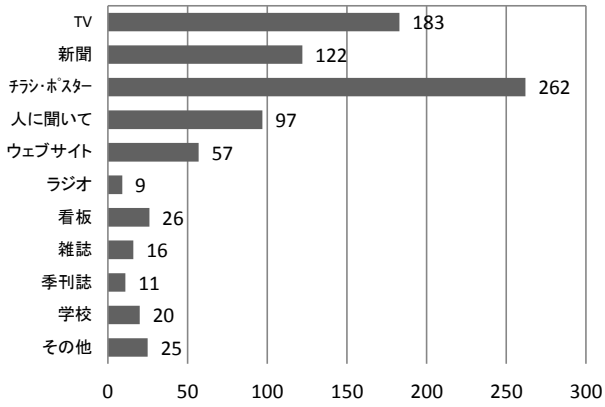
特別展「大ベトナム展」
アンケート集計結果

開催期間：平成25年4月16日(火)～6月9日(日)（49日間）
総回答者数：521人（総来館者数：71,192人　アンケート回収率：0.7%）

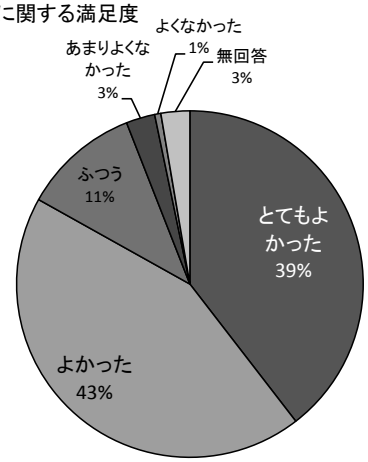
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

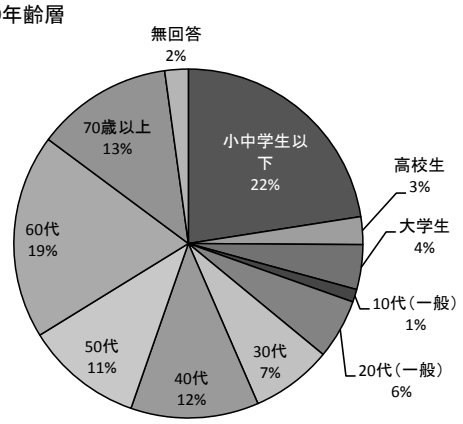
・ベトナムが古くから日本とかかわりがあった事に改めて驚きました。・わかりやすくてよかったです。
・銅鼓を上から見られるようにしてほしい、写真ではがっかりだった。展示をもっと低くしてほしい。・もう少し展示品が多い方が良い。
・少し解説の字が小さくて、読みづらかったです。・年表がなかったのが残念です。・説明をもう少し詳しくしてほしい。
・照明が暗くて、見にくいし、疲れる。・図録をもっとコンパクトにしてほしい。
・解説パネルが特によかったです。・ベトナム料理がよかった。・講座、講演会がよかった。

九州国立博物館

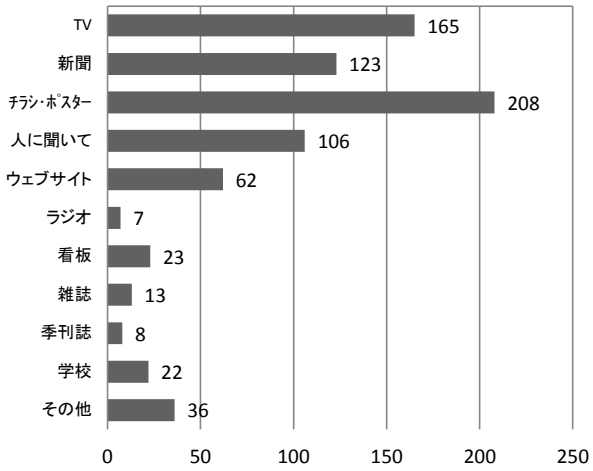
特別展「中国　王朝の至宝」
アンケート集計結果

開催期間：平成25年7月9日(火)～9月16日(月・祝)（62日間）
総回答者数：506人（総来館者数：77,554人　アンケート回収率：0.65%）

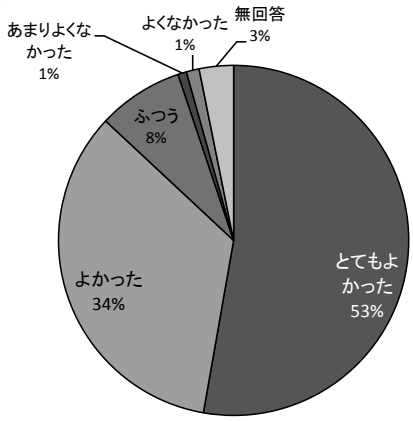
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・中国の歴史が分かった。・見やすいレイアウトで、映像もあり分かりやすかったです。・音声ガイドでとてもわかり易かった。
・順序がわかりにくく、見えにくい展示があった。・陶器類は裏も見られるようにしてほしい。
・今回は会場の設定が変わってると思いました。カベで仕切らず、次の会場とのつながりが見えて良かったです。
・漢字にフリガナをして欲しい。・耳の聞こえない人のために映像等は字幕をつけてほしい。・中国語での説明があれば良かった。
・会場の空調が悪かった。・休憩所が少なく、疲れた。・椅子を増やしてほしい。
・「夏休みの朋友」がおもしろかった。体験できるコーナーがあり楽しめました。・講演会等が良かった。・説明の文字が大きくてよかった。

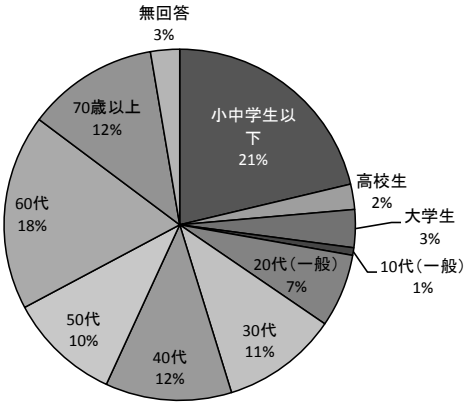
九州国立博物館

特別展「尾張徳川家の至宝」
アンケート集計結果

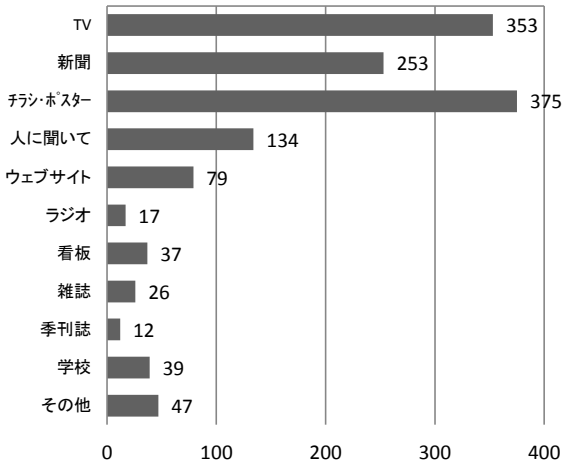
開催期間：平成25年10月12日(土)～12月8日(日)（50日間）

総回答者数：860人（総来館者数：139,448人　アンケート回収率：0.62%）

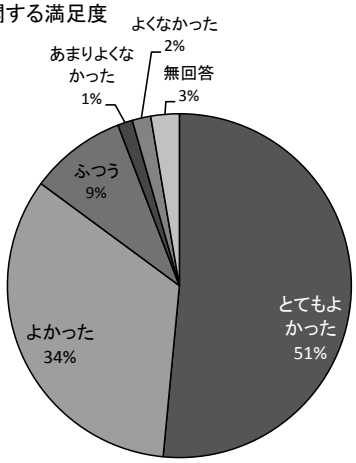
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

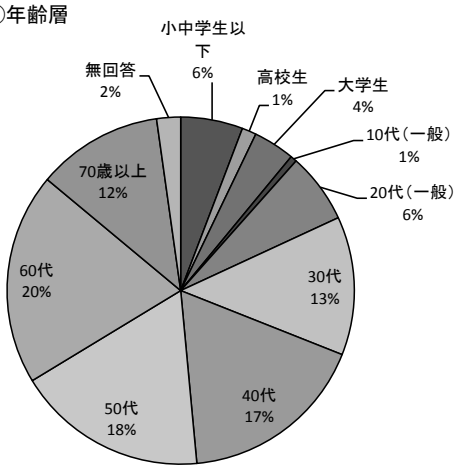
・とても充実した展示会で満足いたしました。見応えのある展覧会でした。・パネルがわかりやすかったです。
・順路がわかりにくい。・刀の銘、羽おりの裏地等は写真、鏡などを使って見せて欲しい。期間が決まっている展示が見れなくて残念だった。
・解説の文字が小さい。・もっと詳しい説明や現代語訳をつけてほしい。・子どもにも分かりやすいように、ふり仮名をしてほしい。
・とても素晴らしい展示物。金、銀、蒔絵の調度品の現物を見せて頂き感激いたします。・音声ガイドがとても分かり易くてとても良かったです。
・音声ガイド利用の人が立ち止まってしまって歩きずらかった。・人が多く、スタッフの声かけがうるさかった。
・徳川家の宝などについて詳しくなれたので良かった。・日本の歴史が良くわかった。

九州国立博物館

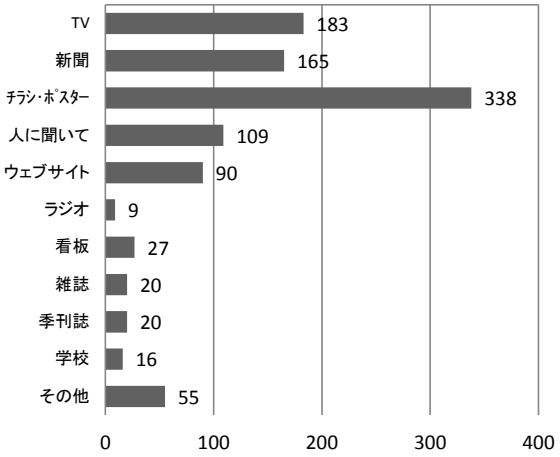
特別展「国宝 大神社展」
アンケート集計結果

開催期間：平成26年1月15日(水)～3月9日(日)（47日間）
総回答者数：674人（総来館者数：89,561人　アンケート回収率：0.75%）

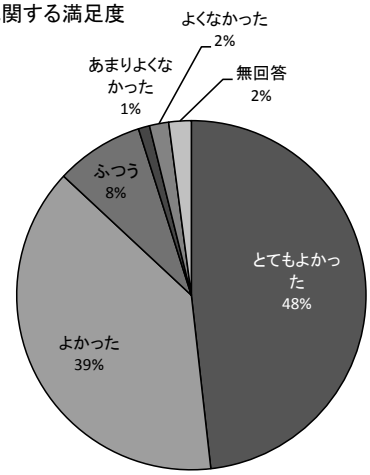
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・神社に関連した様々な展示が楽しめました。配置や展示の工夫でゆっくり見ることができた。たくさんの神社からの展示素晴らしかったです。
・順路をもっとわかりやすく表示してほしい。もう少し神社に関する宝物が見たかった。映像は最初に観たい。
・説明の文字をもう少し大きく、手前に置いてほしい。作品の材質等を表示してほしい。
・映像説明を増やしてほしい。もう少し詳しい解説がほしい。
・おみくじ風まめちしきが、楽しかったです。神楽・講演会等が良かった。神像を背後から鑑賞できたのが良かった。